

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第723集

ま き ぶ
間木戸 I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

(第1分冊 本文・遺構図版・自然科学分析・総括編)

2021

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財) 岩手県文化振興事業団

間木戸 I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

(第1分冊 本文・遺構図版・自然科学分析・総括編)



間木戸 I 遺跡から山田湾を臨む（北から）



建設中の三陸沿岸自動車道と間木戸 I 遺跡（南から）



平成 27 年度調査区全景（直上）



調査風景（平成 26 年度）



A 19号竪穴建物全景（北西から）



縄文時代竪穴建物群（A 218～221号竪穴建物）（南から）



竪穴建物（A 44号竪穴建物）と土坑（47号土坑）の重複（南東から）



竪穴建物（A 46・51号竪穴建物）と土坑（47号土坑）の重複（南西から）



A 211 号竪穴建物（北西から）



A 211 号竪穴建物理設土器（西から）



A 140 号竪穴建物床面遺物出土状況（南から）



II B22m ~ I グリッド遺物出土状況（北東から）



群集する貯蔵穴（76～80号土坑）（北西から）



貯蔵穴内の堆積状況（106・108号土坑）（西から）



B 8号竪穴建物炭化材検出状況（南から）



B 8号竪穴建物遺物出土状況（北東から）



B 8号竪穴建物銚帯金具出土状況（南から）



B 9号竪穴建物カマド2（南東から）



縄文時代中期中～後葉の土器



縄文土器前期後葉～中期前葉の土器



縄文時代中期後～末葉の土器



a381 (A 116号竪穴建物出土)



a1808 (II A9y グリッド出土)



巻頭写真図版 13 縄文時代の遺物 (4)



石製垂飾具



三角壙形土製品・石製品、翡翠製石斧・垂飾具



板状土偶 (e1)



ミニチュア土器



土師器・須恵器



金属製品

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設に関連して平成25～27年度の延べ3箇年に発掘調査を実施した間木戸Ⅰ遺跡の成果をまとめたものです。調査の結果、縄文時代前期～中期の竪穴建物や土坑、古代の竪穴建物や鉄生産関連炉といった遺構、それに伴う土器・石器・金属製品・製鉄関連など多岐にわたる遺物が出土しており、本遺跡が縄文時代と古代の生活の痕跡を留めた遺跡であることが判明しました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、山田町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和3年3月

公益財団法人岩手県文化振興事業団

理事長 高橋 嘉行

例 言

- 1 本報告書は、岩手県下閉伊郡山田町山田第3地割ほかに所在する間木戸I遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は三陸沿岸道路建設事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会の調整を経て国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所の委託を受けた（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡コード・遺跡略号は次のとおりである。
遺跡コード：L G 94 - 0005 遺跡略号：M G I - 13・M G I - 14・M G I - 15
- 4 発掘調査期間・調査面積・担当者は次のとおりである。
【平成25年度】 調査期間：平成25年11月5日～11月28日 面積：1,600㎡
担 当 者：村上 拓
【平成26年度】 調査期間：平成26年4月8日～12月19日 面積：7,660㎡
担 当 者：村上 拓・阿部勝則・伊藤 武・北村忠昭・北田 勲・村田 淳
・河本純一・佐藤あゆみ・松政里奈・中村隼人・高橋静歩
・佐々木あゆみ・佐藤奈津季・森 裕樹・酒井野々子
【平成27年度】 調査期間：平成27年4月17日～8月7日 面積：2,140㎡
担 当 者：村田 淳・川又 晋・中村隼人・高橋静歩・酒井野々子
- 5 室内整理期間・担当者は次のとおりである。
【平成26年度】 整理期間：平成26年11月1日～平成27年3月31日
担 当 者：村上 拓・高橋静歩・佐藤奈津季・森 裕樹・酒井野々子
【平成27年度】 整理期間：平成27年8月1日～平成28年3月31日
担 当 者：村田 淳・中村隼人・高橋静歩・酒井野々子・宇部めぐみ
・近藤行仁
【平成28年度】 整理期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日
担 当 者：丸山直美
【平成29年度】 整理期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日
担 当 者：村田 淳
【平成30年度】 整理期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日
担 当 者：村田 淳
【平成31・令和元年度】 整理期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日
担 当 者：村田 淳
【令和2年度】 整理期間：令和2年9月1日～令和2年12月31日
令和3年1月1日～3月31日
担 当 者：村田 淳

- 6 本報告書の執筆分担は次のとおりである。
Ⅰ：国土交通省三陸国道事務所 Ⅱ：佐藤・村田 Ⅲ・Ⅴ・Ⅶ：村田 Ⅳ：担当で分担
- 7 各種委託業務は次の機関等に依頼した（順不同）
基準点測量：(株)スカイ測量設計（平成26年度）・釜石測量設計株式会社（平成27年度）
航空写真撮影：東邦航空(株)
遺構写真解析図化：(株)リッケイ
石器石材鑑定：花崗岩研究会
石器実測：(株)ラング
放射性炭素年代測定（Ⅵ-1）：(株)加速器分析研究所
火山灰分析（Ⅵ-2）：(株)火山灰考古学研究所
炭化材樹種同定（Ⅵ-3）：古代の森研究舎
動物遺存体分析（Ⅵ-4）：パリノ・サーヴェイ株式会社
黒曜石・水晶分析（Ⅵ-5）：(株)第四紀地質研究所
琥珀分析（Ⅵ-6）：(株)第四紀地質研究所
翡翠分析（Ⅵ-7）：(株)第四紀地質研究所
鉄滓分析（Ⅵ-8）：パリノ・サーヴェイ株式会社
金属製品保存処理（Ⅵ-9）：(公財) 大阪市博物館協会大阪文化財研究所
- 8 野外調査及び室内整理にあたり、以下の機関等から御協力いただいた（敬称略）
金子昭彦、菊池賢、八木光則、花巻市教育委員会、宮古市教育委員会、山田町教育委員会
- 9 本遺跡の出土遺物及び諸記録類は岩手県立埋蔵文化財センターで保管している。
- 10 これまでに、調査成果の一部を現地説明会資料、調査概報等において公表しているが、本書の記載内容を正式なものとする。
- 11 本書は3分冊であるため、第1分冊中では各分冊図版の記載表現を以下の通りとした。
・第1分冊第○図 → 第1-○図
・第2分冊第○図 → 第2-○図
・第3分冊写真図版○ → 写真図版○

目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地と周辺環境	
1	地理的環境	2
2	歴史的環境	2
III	調査の方法	
1	野外調査の方法	7
2	調査経過	8
3	室内整理の方法	9
IV	検出遺構	
1	調査概要	13
2	竪穴建物（縄文時代）	24
3	竪穴建物（古代）	277
4	土坑	300
5	炉・焼土	335
6	鉄生産関連炉	339
7	溝	339
8	配石遺構	343
9	土器埋設遺構	343
10	遺物包含層	346
11	整地	350
12	性格不明遺構	350
13	柱穴	352
V	出土遺物	
1	縄文土器	368
2	土師器・須恵器	374
3	石器	386
4	石製品	388
5	土製品	390
6	台形土器	391

7	土器片円盤	391
8	土製支脚	392
9	金属製品	392
10	鉄生産関連遺物	392
11	陶磁器・ガラス製品	393
12	動物遺存体	393

VI 自然科学分析

1	放射性炭素年代測定	394
2	火山灰分析	398
3	炭化材樹種同定	404
4	動物遺存体分析	407
5	黒曜石分析	428
6	琥珀分析	437
7	翡翠分析	443
8	鉄滓分析	447
9	金属製品保存処理	454

VII 調査のまとめ

1	検出遺構	460
2	出土遺物	465
3	総括	473

報告書抄録	563
-------	-----

図版目次

第1図	遺跡の位置	1	第11図	遺構配置図(5)	22
第2図	地形分類図	3	第12図	トレンチ・遺物包含層位置図	23
第3図	周辺の遺跡	6	第13図	A1・2号竪穴建物	122
第4図	グリッド・等高線図	14	第14図	A3・4・15～20号竪穴建物(1)	123
第5図	遺物取り上げ地点・基本層序図	15	第15図	A3・4・15～20号竪穴建物(2)	124
第6図	遺構配置図(全体)	16・17	第16図	A3・4・15～20号竪穴建物(3)	125
第7図	遺構配置図(1)	18			
第8図	遺構配置図(2)	19			
第9図	遺構配置図(3)	20			
第10図	遺構配置図(4)	21			

第 17 图	A 3 · 4 · 15 ~ 20 号竖穴建物 (4)	第 42 图	A 67 · 68 · 70 · 73 · 74 号竖穴建物 (2)
 126	 151
第 18 图	A 5 · 8 号竖穴建物	第 43 图	A 67 · 68 · 70 · 73 · 74 号竖穴建物 (3)
 127	 152
第 19 图	A 6 · 7 · 22 ~ 24 号竖穴建物 (1)	第 44 图	A 69 · 71 · 72 · 75 ~ 81 号竖穴建物 (1)
 128	 153
第 20 图	A 6 · 7 · 22 ~ 24 号竖穴建物 (2)	第 45 图	A 69 · 71 · 72 · 75 ~ 81 号竖穴建物 (2)
 129	 154
第 21 图	A 9 ~ 11 · 21 · 25 号竖穴建物 (1)	第 46 图	A 69 · 71 · 72 · 75 ~ 81 号竖穴建物 (3)
 130	 155
第 22 图	A 9 ~ 11 · 21 · 25 号竖穴建物 (2)	第 47 图	A 82 · 85 · 90 · 99 · 102 · 104 号竖穴建物
 131		(1) 156
第 23 图	A 9 ~ 11 · 21 · 25 号竖穴建物 (3)	第 48 图	A 82 · 85 · 90 · 99 · 102 · 104 号竖穴建物
 132		(2)、A 98 号竖穴建物 157
第 24 图	A 12 · 14 号竖穴建物 (1)	第 49 图	A 83 · 84 · 86 ~ 89 · 94 号竖穴建物 (1)
 133	 158
第 25 图	A 12 · 14 号竖穴建物 (2)、	第 50 图	A 83 · 84 · 86 ~ 89 · 94 号竖穴建物 (2)
	A 13 号竖穴建物 134	 159
第 26 图	A 26 ~ 29 · 33 号竖穴建物 (1) 135	第 51 图	A 91 · 95 · 97 号竖穴建物、
第 27 图	A 26 ~ 29 · 33 号竖穴建物 (2) 136		A 92 号竖穴建物 160
第 28 图	A 30 · 31 号竖穴建物 137	第 52 图	A 93 · 96 号竖穴建物 161
第 29 图	A 32 · 38 · 39 号竖穴建物、	第 53 图	A 100 · 101 · 103 号竖穴建物、
	A 34 号竖穴建物 138		A 102 号竖穴建物 162
第 30 图	A 35 · 48 · 64 号竖穴建物 (1) 139	第 54 图	A 105 · 106 · 133 号竖穴建物 (1) 163
第 31 图	A 35 · 48 · 64 号竖穴建物 (2)、	第 55 图	A 105 · 106 · 133 号竖穴建物 (2)、
	A 36 号竖穴建物 140		A 107 号竖穴建物 164
第 32 图	A 37 · 40 ~ 47 · 58 · 59 · 62 · 63 号竖穴	第 56 图	A 108 · 117 · 123 · 124 · 128 号竖穴建物
	建物 (1) 141		(1) 165
第 33 图	A 37 · 40 ~ 47 · 58 · 59 · 62 · 63 号竖穴	第 57 图	A 108 · 117 · 123 · 124 · 128 号竖穴建物
	建物 (2) 142		(2) 166
第 34 图	A 37 · 40 ~ 47 · 58 · 59 · 62 · 63 号竖穴	第 58 图	A 108 · 117 · 123 · 124 · 128 号竖穴建物
	建物 (3) 143		(3) 167
第 35 图	A 37 · 40 ~ 47 · 58 · 59 · 62 · 63 号竖穴	第 59 图	A 109 号竖穴建物 168
	建物 (4) 144	第 60 图	A 110 ~ 112 号竖穴建物 169
第 36 图	A 37 · 40 ~ 47 · 58 · 59 · 62 · 63 号竖穴	第 61 图	A 113 · 114 · 154 · 161 · 170 · 180 号竖穴
	建物 (5) 145		建物 (1) 170
第 37 图	A 49 · 50 号竖穴建物、A 61 号竖穴建物	第 62 图	A 113 · 114 · 154 · 161 · 170 · 180 号竖穴
 146		建物 (2) 171
第 38 图	A 51 ~ 53 · 56 · 57 · 65 · 66 号竖穴建物	第 63 图	A 115 号竖穴建物、A 116 号竖穴建物
	(1) 147	 172
第 39 图	A 51 ~ 53 · 56 · 57 · 65 · 66 号竖穴建物	第 64 图	A 118 · 119 号竖穴建物 173
	(2) 148	第 65 图	A 120 · 121 · 126 · 127 · 132 · 139 · 144
第 40 图	A 54 · 55 · 60 号竖穴建物 149		· 148 · 152 · 153 · 159 · 173 · 174 · 177
第 41 图	A 67 · 68 · 70 · 73 · 74 号竖穴建物 (1)		· 178 号竖穴建物 (1) 174
 150		

第 66 图	A 120 · 121 · 126 · 127 · 132 · 139 · 144 · 148 · 152 · 153 · 159 · 173 · 174 · 177 · 178 号竖穴建物 (2) ····· 175	第 86 图	A151 · 157 ~ 159 · 161 · 166 · 167 · 170 · 171 · 179 · 190 号竖穴建物 (4) ····· 195
第 67 图	A 120 · 121 · 126 · 127 · 132 · 139 · 144 · 148 · 152 · 153 · 159 · 173 · 174 · 177 · 178 号竖穴建物 (3) ····· 176	第 87 图	A 156 · 165 号竖穴建物 ····· 196
第 68 图	A 120 · 121 · 126 · 127 · 132 · 139 · 144 · 148 · 152 · 153 · 159 · 173 · 174 · 177 · 178 号竖穴建物 (4) ····· 177	第 88 图	A 160 号竖穴建物、A 168 号竖穴建物 ····· 197
第 69 图	A 120 · 121 · 126 · 127 · 132 · 139 · 144 · 148 · 152 · 153 · 159 · 173 · 174 · 177 · 178 号竖穴建物 (5) ····· 178	第 89 图	A 163 · 164 · 170 · 176 · 181 · 183 · 185 号竖穴建物 (1) ····· 198
第 70 图	A 120 · 121 · 126 · 127 · 132 · 139 · 144 · 148 · 152 · 153 · 159 · 173 · 174 · 177 · 178 号竖穴建物 (6) ····· 179	第 90 图	A 163 · 164 · 170 · 176 · 181 · 183 · 185 号竖穴建物 (2) ····· 199
第 71 图	A 122 号竖穴建物、A 134 号竖穴建物 ····· 180	第 91 图	A 163 · 164 · 170 · 176 · 181 · 183 · 185 号 竖穴建物 (3)、A 172 · 186 · 193 号竖穴 建物 (1) ····· 200
第 72 图	A 125 · 145 · 146 · 149 · 162 · 175 · 187 ~ 189 · 191 号竖穴建物 (1) ····· 181	第 92 图	A 172 · 186 · 193 号竖穴建物 (2) ····· 201
第 73 图	A 125 · 145 · 146 · 149 · 162 · 175 · 187 ~ 189 · 191 号竖穴建物 (2) ····· 182	第 93 图	A 182 · 184 号竖穴建物 ····· 202
第 74 图	A 125 · 145 · 146 · 149 · 162 · 175 · 187 ~ 189 · 191 号竖穴建物 (3) ····· 183	第 94 图	A 194 号竖穴建物、A 195 号竖穴建物、 A 196 号竖穴建物、A 197 · 198 号竖穴建物 ····· 203
第 75 图	A 129 · 131 · 136 ~ 138 · 145 · 192 号 竖穴建物 (1) ····· 184	第 95 图	A 199 号竖穴建物、A 201 号竖穴建物 ····· 204
第 76 图	A 129 · 131 · 136 ~ 138 · 145 · 192 号 竖穴建物 (2) ····· 185	第 96 图	A 200 号竖穴建物 ····· 205
第 77 图	A 129 · 131 · 136 ~ 138 · 145 · 192 号 竖穴建物 (3) ····· 186	第 97 图	A 202 号竖穴建物 ····· 206
第 78 图	A 130 号竖穴建物、A 143 号竖穴建物、 A 147 号竖穴建物 ····· 187	第 98 图	A 203 ~ 205 · 208 · 212 · 215 · 222 · 224 号竖穴建物 (1) ····· 207
第 79 图	A 135 · 150 · 155 号竖穴建物 ····· 188	第 99 图	A 203 ~ 205 · 208 · 212 · 215 · 222 · 224 号竖穴建物 (2) ····· 208
第 80 图	A 140 ~ 142 · 169 号竖穴建物 (1) ····· 189	第 100 图	A 206 · 207 · 211 · 227 ~ 230 号竖穴建物 (1) ····· 209
第 81 图	A 140 ~ 142 · 169 号竖穴建物 (2)、 A 149 · 175 号竖穴建物 ····· 190	第 101 图	A 206 · 207 · 211 · 227 ~ 230 号竖穴建物 (2) ····· 210
第 82 图	A 146 号竖穴建物 ····· 191	第 102 图	A 209 · 210 · 213 · 214 号竖穴建物 ··· 211
第 83 图	A151 · 157 ~ 159 · 161 · 166 · 167 · 170 · 171 · 179 · 190 号竖穴建物 (1) ····· 192	第 103 图	A 216 号竖穴建物、A 217 号竖穴建物、 A 225 号竖穴建物 ····· 212
第 84 图	A151 · 157 ~ 159 · 161 · 166 · 167 · 170 · 171 · 179 · 190 号竖穴建物 (2) ····· 193	第 104 图	A 218 ~ 221 · 223 · 226 号竖穴建物 (1) ····· 213
第 85 图	A151 · 157 ~ 159 · 161 · 166 · 167 · 170 · 171 · 179 · 190 号竖穴建物 (3) ····· 194	第 105 图	A 218 ~ 221 · 223 · 226 号竖穴建物 (2) ····· 214
		第 106 图	A 218 ~ 221 · 223 · 226 号竖穴建物 (3) ····· 215
		第 107 图	A 231 ~ 234 · 239 · 240 号竖穴建物 (1) ····· 216
		第 108 图	A 231 ~ 234 · 239 · 240 号竖穴建物 (2) ····· 217
		第 109 图	A 231 ~ 234 · 239 · 240 号竖穴建物 (3) ····· 218

第 110 图	A 235 ~ 238 · 251 · 252 号竖穴建物 (1)	第 151 图	竖穴建物出土土器集成图 (35)	260
 219	第 152 图	竖穴建物出土土器集成图 (36)	261
第 111 图	A 235 ~ 238 · 251 · 252 号竖穴建物 (2)	第 153 图	竖穴建物出土土器集成图 (37)	262
 220	第 154 图	竖穴建物出土土器集成图 (38)	263
第 112 图	A 235 ~ 238 · 251 · 252 号竖穴建物 (3)	第 155 图	竖穴建物出土土器集成图 (39)	264
 221	第 156 图	竖穴建物出土土器集成图 (40)	265
第 113 图	A 239 号竖穴建物、	第 157 图	竖穴建物出土土器集成图 (41)	266
	A 241 · 253 号竖穴建物	第 158 图	竖穴建物出土土器集成图 (42)	267
 222	第 159 图	竖穴建物出土土器集成图 (43)	268
第 114 图	A 242 · 243 号竖穴建物	第 160 图	竖穴建物出土土器集成图 (44)	269
 223	第 161 图	竖穴建物出土土器集成图 (45)	270
第 115 图	A 244 ~ 247 号竖穴建物	第 162 图	竖穴建物出土土器集成图 (46)	271
 224	第 163 图	竖穴建物出土土器集成图 (47)	272
第 116 图	A 248 ~ 250 号竖穴建物	第 164 图	竖穴建物出土土器集成图 (48)	273
 225	第 165 图	竖穴建物出土土器集成图 (49)	274
第 117 图	竖穴建物出土土器集成图 (1)	第 166 图	竖穴建物出土土器集成图 (50)	275
 226	第 167 图	竖穴建物出土土器集成图 (51)	276
第 118 图	竖穴建物出土土器集成图 (2)	第 168 图	B 1 · 2 号竖穴建物	281
 227	第 169 图	B 3 号竖穴建物	282
第 119 图	竖穴建物出土土器集成图 (3)	第 170 图	B 4 号竖穴建物	283
 228	第 171 图	B 5 · 6 号竖穴建物	284
第 120 图	竖穴建物出土土器集成图 (4)	第 172 图	B 7 号竖穴建物	285
 229	第 173 图	B 8 号竖穴建物	289
第 121 图	竖穴建物出土土器集成图 (5)	第 174 图	B 9 号竖穴建物	290
 230	第 175 图	B 10 · 11 号竖穴建物	291
第 122 图	竖穴建物出土土器集成图 (6)	第 176 图	B 12 · 13 号竖穴建物	292
 231	第 177 图	B 14 · 15 号竖穴建物	296
第 123 图	竖穴建物出土土器集成图 (7)	第 178 图	B 16 · 17 号竖穴建物	297
 232	第 179 图	B 18 ~ 21 号竖穴建物	298
第 124 图	竖穴建物出土土器集成图 (8)	第 180 图	B 22 · 23 号竖穴建物	299
 233	第 181 图	1 ~ 12 号土坑	307
第 125 图	竖穴建物出土土器集成图 (9)	第 182 图	13 ~ 24 号土坑	308
 234	第 183 图	25 ~ 30 · 33 号土坑	309
第 126 图	竖穴建物出土土器集成图 (10)	第 184 图	31 · 32 · 34 ~ 40 · 43 号土坑	310
 235	第 185 图	41 · 42 · 44 ~ 49 号土坑	311
第 127 图	竖穴建物出土土器集成图 (11)	第 186 图	50 ~ 59 号土坑	312
 236	第 187 图	60 ~ 67 · 71 · 72 号土坑	313
第 128 图	竖穴建物出土土器集成图 (12)	第 188 图	68 ~ 70 · 73 ~ 75 · 78 号土坑	314
 237	第 189 图	76 · 77 · 79 · 80 ~ 86 号土坑	315
第 129 图	竖穴建物出土土器集成图 (13)	第 190 图	87 ~ 95 号土坑	316
 238	第 191 图	96 ~ 109 号土坑	317
第 130 图	竖穴建物出土土器集成图 (14)	第 192 图	110 ~ 118 · 121 ~ 123 号土坑	318
 239	第 193 图	119 · 120 · 124 ~ 131 · 133 · 134 · 144	
第 131 图	竖穴建物出土土器集成图 (15)		· 152 号土坑	319
 240	第 194 图	132 · 135 ~ 143 · 145 号土坑	320
第 132 图	竖穴建物出土土器集成图 (16)			
 241			
第 133 图	竖穴建物出土土器集成图 (17)			
 242			
第 134 图	竖穴建物出土土器集成图 (18)			
 243			
第 135 图	竖穴建物出土土器集成图 (19)			
 244			
第 136 图	竖穴建物出土土器集成图 (20)			
 245			
第 137 图	竖穴建物出土土器集成图 (21)			
 246			
第 138 图	竖穴建物出土土器集成图 (22)			
 247			
第 139 图	竖穴建物出土土器集成图 (23)			
 248			
第 140 图	竖穴建物出土土器集成图 (24)			
 249			
第 141 图	竖穴建物出土土器集成图 (25)			
 250			
第 142 图	竖穴建物出土土器集成图 (26)			
 251			
第 143 图	竖穴建物出土土器集成图 (27)			
 252			
第 144 图	竖穴建物出土土器集成图 (28)			
 253			
第 145 图	竖穴建物出土土器集成图 (29)			
 254			
第 146 图	竖穴建物出土土器集成图 (30)			
 255			
第 147 图	竖穴建物出土土器集成图 (31)			
 256			
第 148 图	竖穴建物出土土器集成图 (32)			
 257			
第 149 图	竖穴建物出土土器集成图 (33)			
 258			
第 150 图	竖穴建物出土土器集成图 (34)			
 259			

第195 図	146～151・153～158号土坑	321	第218 図	遺物包含層(2)	349
第196 図	159～167号土坑	322	第219 図	1・2号切土整地、1号盛土整地、 1号性格不明遺構	351
第197 図	168～174・176・181号土坑	323	第220 図	柱穴分布位置図	352
第198 図	175・177～180・182～187号土坑	324	第221 図	柱穴分布図(1)	353
第199 図	188～196号土坑	325	第222 図	柱穴分布図(2)	354
第200 図	197～210号土坑	326	第223 図	柱穴分布図(3)	355
第201 図	211～218号土坑	327	第224 図	柱穴分布図(4)	356
第202 図	219～227・235号土坑	328	第225 図	柱穴分布図(5)	357
第203 図	228～234・236～243号土坑	329	第226 図	縄文土器分類図(1)	375
第204 図	244～257号土坑	330	第227 図	縄文土器分類図(2)	376
第205 図	258～274号土坑	331	第228 図	縄文土器分類図(3)	377
第206 図	275～288号土坑	332	第229 図	縄文土器分類図(4)	378
第207 図	289～303号土坑	333	第230 図	縄文土器分類図(5)	379
第208 図	304～312号土坑	334	第231 図	縄文土器分類図(6)	380
第209 図	1～15号炉	336	第232 図	縄文土器分類図(7)	381
第210 図	16～22号炉、1～8号焼土	337	第233 図	縄文土器分類図(8)	382
第211 図	9～19号焼土、1号鍛冶炉	338	第234 図	縄文土器分類図(9)	383
第212 図	1・2・5～7号溝	340	第235 図	縄文土器分類図(10)	384
第213 図	3・4・8～10・12号溝	341	第236 図	時期別縄文時代竪穴建物分布図	462
第214 図	11・13～19号溝	342	第237 図	遺構外出土土器重量分布図	466
第215 図	1号配石遺構、1～3号土器埋設遺構 ……………	344	第238 図	板状土偶の諸例	468
第216 図	4～7号土器埋設遺構	345	第239 図	台形土器の諸例	470
第217 図	遺物包含層(1)	348	第240 図	轡・鏡吊金具・鈎帯金具の諸例	472

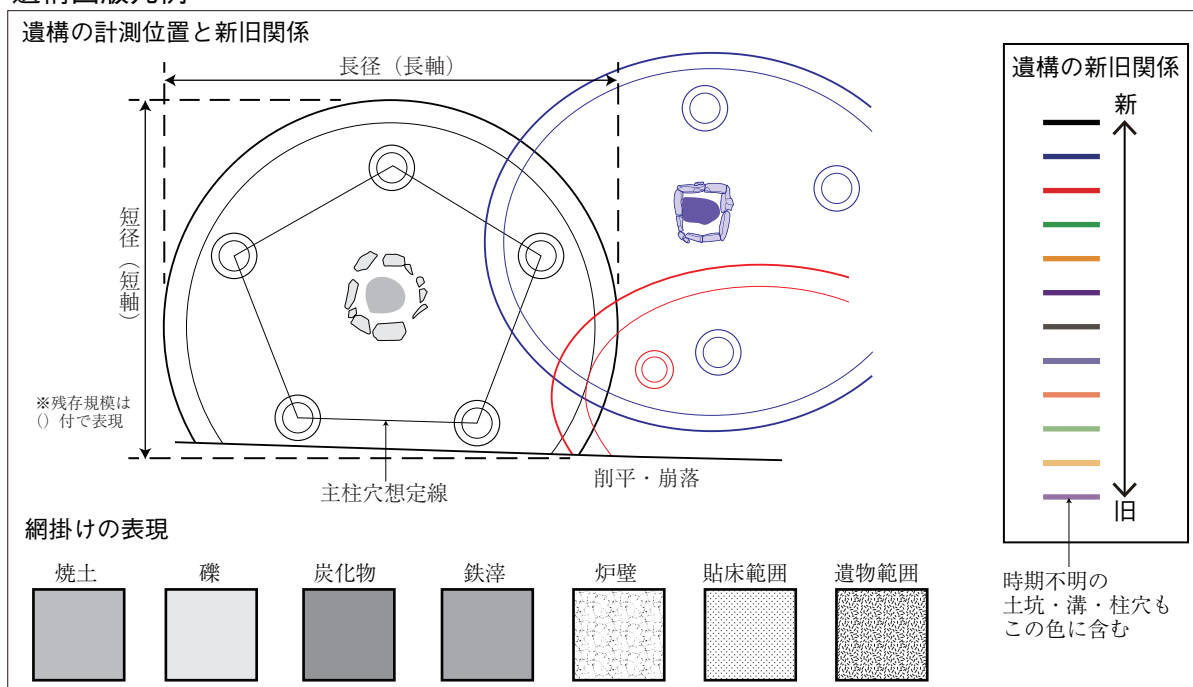
表 目 次

第1表	周辺の遺跡	5	第17表	削器観察表	541
第2表	基準点一覧	7	第18表	異形石器観察表	541
第3表	遺構名変更一覧	10	第19表	石核観察表	541
第4表	竪穴建物(縄文時代)一覧	114	第20表	細部加工剥片観察表	542
第5表	竪穴建物(古代)一覧	276	第21表	石斧観察表	543
第6表	土坑一覧	301	第22表	石皿・台石類観察表	544
第7表	炉・焼土一覧	335	第23表	敲磨器類観察表	546
第8表	溝一覧	339	第24表	円盤状石器観察表	550
第9表	柱穴一覧	358	第25表	石製品観察表	550
第10表	縄文土器観察表	477	第26表	土製品観察表	553
第11表	縄文土器(赤彩)観察表	531	第27表	土器片円盤観察表	556
第12表	土師器・須恵器観察表	532	第28表	台形土器観察表	560
第13表	石鏃・尖頭器観察表	534	第29表	金属製品観察表	560
第14表	石錐観察表	539	第30表	鉄生産関連遺物観察表	561
第15表	石匙観察表	539	第31表	土製支脚観察表	561
第16表	筥状石器観察表	541	第32表	陶磁器・ガラス製品観察表	562

巻頭写真図版目次

巻頭写真図版 1	遺跡遠景	巻頭写真図版 9	古代の遺構 (2)
巻頭写真図版 2	調査区の様況	巻頭写真図版 10	縄文時代の遺物 (1)
巻頭写真図版 3	縄文時代の遺構 (1)	巻頭写真図版 11	縄文時代の遺物 (2)
巻頭写真図版 4	縄文時代の遺構 (2)	巻頭写真図版 12	縄文時代の遺物 (3)
巻頭写真図版 5	縄文時代の遺構 (3)	巻頭写真図版 13	縄文時代の遺物 (4)
巻頭写真図版 6	縄文時代の遺構 (4)	巻頭写真図版 14	縄文時代の遺物 (5)
巻頭写真図版 7	縄文時代の遺構 (5)	巻頭写真図版 15	縄文時代の遺物 (6)
巻頭写真図版 8	古代の遺構 (1)	巻頭写真図版 16	古代の遺物

遺構図版凡例



I 調査に至る経過

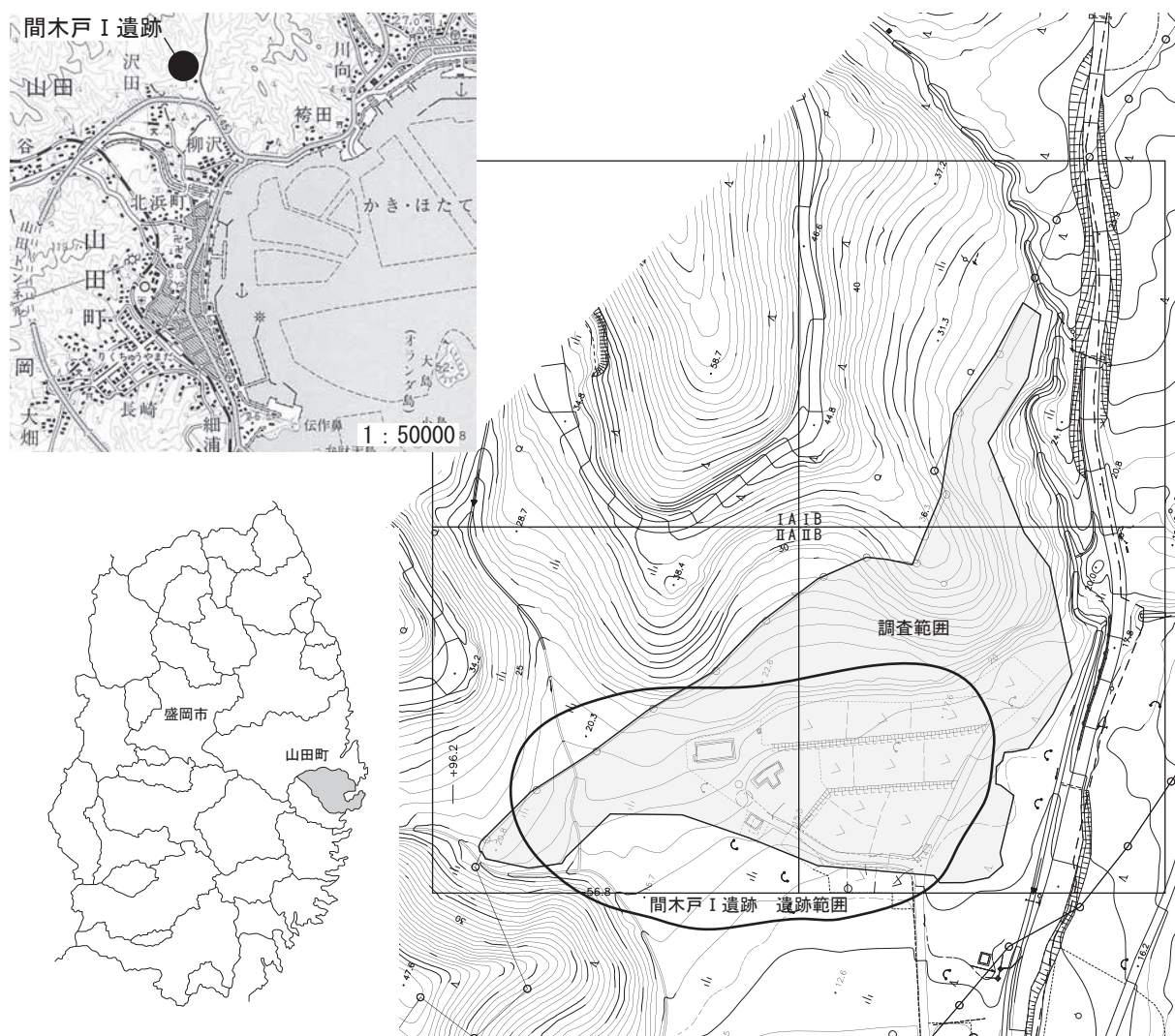
間木戸 I 遺跡は、一般国道 45 号三陸沿岸道路事業（山田～宮古）の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することになったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長 359km の自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成 23 年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成 24 年 11 月 9 日付け国東整陸一調第 1005 号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成 25 年 1 月 8 日～9 日にわたり試掘調査を行い、平成 25 年 2 月 18 日付け教生第 1619 号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成 27 年 4 月 10 日付けで財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)



第 1 図 遺跡の位置

II 遺跡の立地と周辺環境

1 地理的環境

(1) 遺跡の位置(第1-1図)

間木戸Ⅰ遺跡は、岩手県の沿岸部、岩手県下閉伊郡山田町山田に所在する。山田町に隣接するのは、北が宮古市、西から南に上閉伊郡大槌町である。山田町は三陸海岸のほぼ中央に位置し、山田湾と船越湾を有する。遺跡が位置する山田町山田地区は、カキ・ホタテなどの養殖が盛んな山田湾に面しており、湾に注ぐ関口川周辺は、宅地や農地として利用されている。また、関口川河口付近は東日本大震災による大津波で甚大なる被害を受けた地域でもある。遺跡は山田町役場から北へ約1.5kmの山林にある。緯度は、39度29分00秒・経度141度57分11秒付近である。調査前は田畑地・宅地として利用され、一部で杉が植生されていた。遺跡の北東側には間木戸一里塚が盛土保存されている。東側には間木戸川が南流し、町道が併走している。町道部分は、かつて江戸時代に主要道路として使用されており、これに付随する間木戸一里塚は寛永20年(1643)に、宮古大槌間で完成した9対の一里塚のひとつである。遺跡内からは遺物を地表面でも採取できるため、かつての住民が耕作時に縄文土器や石器・鉄滓等を多量に見つけている。

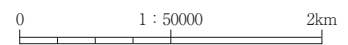
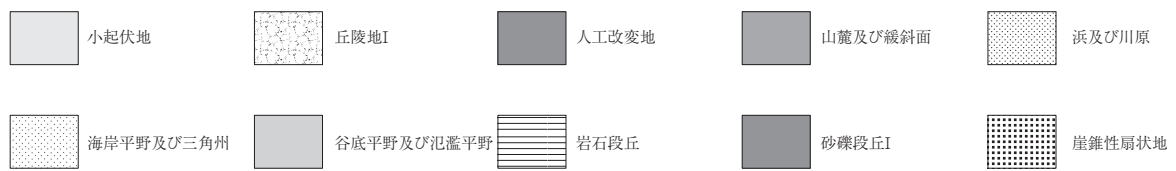
(2) 遺跡周辺の地形と地質(第1-2図)

山田町の総面積263.45km²のうち、山林は236.04km²を占める。西側に北上高地、そこからは丘陵地が連なり、リアス式海岸が太平洋に面している。山田湾に面する低地は、北上高地に連なる標高807mの山母森に水源をもつ関口川により形成された沖積平野である。河口付近で合流する間木戸川は、関口川の左支川で、この間木戸川により開析された谷部に遺跡は所在する。周辺は、風化花崗岩層で構成された標高150m以下の小起伏山地で、関口川周辺の平野部より北側に入り込むため、遺跡は山田湾を望むことはできない場所にある。遺跡周辺には、複数の沢筋が確認でき、調査区外北側では間木戸川と合流していた沢の存在が地形図から読み取れる。これらにより谷底平野状に形成された緩斜面地に本遺跡を含む間木戸遺跡群が立地している。

調査区内の地形は、東側から南側にかけて、間木戸川によって形成された段丘状の緩斜面が縁取られ、中央部には段丘面と考えられる平坦な部分を確認できる。そこから段丘崖状の斜面地が一部で現れる。北側には台地状の張り出しを持つ尾根と、そこから連なる斜面地が北東や南西に展開される。その斜面地南西側では、縄文時代以降に形成された馬蹄形状の地形が確認されている。中央部下、南側の段丘状斜面地は、当初田畑の存在から改変された地形とも考えたが、竪穴住居跡等の遺構が多く検出されており、近代には自然地形を活かし田畑として利用していたものであろう。また、標高が低くなる南端部では湧水が著しい。調査区内の標高は、14～35mである。

2 歴史的環境(第1-3図)

山田町では、平成30年12月時点で525の遺跡が岩手県遺跡台帳に登録されている。遺跡は低地に確認されることは少なく、小起伏山地もしくはその縁辺に確認されているものが多い。ここでは、



第2図 地形分類図

第 1-3 図に示した遺跡のうち縄文時代・古代・鉄生産関連の遺跡について簡単に触れておく。

縄文時代の遺跡としては、間木戸Ⅱ遺跡（2）・沢田Ⅰ遺跡（36）・沢田Ⅲ遺跡（38）・大畑Ⅰ遺跡（67）等がある。沢田Ⅰ遺跡は、縄文時代から平安時代の遺構が重複する複合遺跡である。沢田Ⅰ遺跡からは現在のところ山田町内で最も古い時代に相当する縄文時代早期の土器片が出土しており、山田湾付近ではこの時期になり人々の生活が始まったものと考えられる。遺跡の主体となる時期は縄文時代前期と中期で、前期の遺構の埋土に十和田中掘テフラ（To-Cu）が堆積する大木 2a 式以前の竪穴建物や、ロングハウスなどの大形建物が複数検出され、中期末葉までの竪穴建物がみられ、この時期まで集落の継続が確認されている。大畑Ⅰ遺跡では、大木 10 式を主体とした集落が確認され、石囲炉・土器埋設炉・複式炉等様々な形態の炉をもつ竪穴建物や多数の土坑が検出されている。

古代の遺跡としては、間木戸Ⅱ遺跡・房の沢Ⅳ遺跡（45）、大畑Ⅱ遺跡（68）等がある。房の沢Ⅳ遺跡は本遺跡から西側約 600m の丘陵上に立地しており、平成 8・9 年度（第 1～3 次）調査で 7～8 世紀の古墳 35 基が検出され、当該期の群集墳であったことが判明している。古墳は山田湾を望める尾根の斜面地に築造され、主体部からは蕨手刀・刀装具・鉄鏃・馬具等をはじめ、錫製釧や黒曜石等他地域との交流を示す遺物が出土している。本遺跡に隣接する間木戸Ⅱ遺跡では 7～8 世紀前半の竪穴建物が 5 軒検出されており、房の沢古墳群に関わりのあった集落と考えられる。大畑Ⅱ遺跡は、10 世紀前半の竪穴建物 5 軒が重複せずに検出されている。竪穴建物には近接して鉄生産関連炉や工房があり、鉄生産に従事した人々の集落と考えられる。

鉄生産関連の遺跡としては、間木戸Ⅴ遺跡（5）・沢田Ⅲ遺跡・後山Ⅰ遺跡（103）・上村遺跡（100）等があり、各遺跡とも鉄生産関連の遺構は丘陵地の南向き斜面に構築される傾向がある。このうち、間木戸Ⅴ遺跡と上村遺跡では奈良時代（8 世紀後半）の可能性のある鉄生産関連炉が検出されており、山田町域における製鉄関連遺跡の最古例の可能性がある。しかし、出土遺物から想定される年代観と自然科学分析の測定結果が一致しておらず検討の余地がある。後山Ⅰ遺跡では平安時代後半の製鉄関連遺構が多数検出され、時期差が認められる 7 棟の工房跡、製鉄炉を含む鉄生産炉が 29 基、15 基の炭窯も検出されている。また、鍛冶工房を再利用したと考えられる竪穴建物のカマド芯材に鉄滓が使用されている事例もある。上村遺跡では、製鉄炉 8 基、鍛冶炉 2 基、竪穴建物 1 軒が検出されている。鉗子など鍛冶工程で使われていた道具類のほか、約 2.5 t の鉄滓が出土している。沢田Ⅲ遺跡では、古代の製鉄炉 18 基や炭窯 13 基等が検出されている。

この他、図幅に含まれない遺跡のうち、当センターが東日本大震災の復興関連調査を実施した遺跡について簡単に触れておきたい。まず、大沢地区にある浜川目沢田Ⅰ遺跡は、標高 2～7 m の沖積低地上に立地し、縄文時代中期と晩期の複合遺跡であることが判明した（岩文振第 689 集）。遺構は竪穴建物が中期のものを中心として 24 軒、貯蔵穴は晩期のものが多数検出されている。また、中期と晩期の遺物包含層が形成されており、前期前葉から晩期中葉までの膨大な量の遺物が出土した。

豊間根地区にある石峠Ⅱ遺跡では、縄文時代の遺構として早期の竪穴建物 3 軒や前期の竪穴建物約 30 軒、陥し穴状遺構約 300 基等が検出されている（岩文振第 709 集）。また、中世の製鉄炉 3 基が検出されており、鉄滓をはじめとした鉄生産関連遺物も多量に出土している。船越地区にある焼山遺跡では、古代～中世の鉄生産関連炉が多数検出されている（岩文振第 651 集）。鉄生産関連炉のほか、炭窯や鍛冶工房、炉壁構築用年度の採掘坑等が検出されており、遺跡内で製鉄から鍛冶という一連の鉄生産工程を行っていた事が判明した。

（佐藤・村田）

第1表 周辺の遺跡

No	遺跡名	住所	種別	主な遺構・遺物	No	遺跡名	住所	種別	主な遺構・遺物
1	間木戸Ⅰ	山田第3地割	散	縄文土器	69	大畑Ⅲ	飯岡第6地割	鉄	鉄滓
2	間木戸Ⅱ	山田第3地割	散	縄文土器	70	大畑Ⅳ	飯岡第6地割	鉄	鉄滓
3	間木戸Ⅲ	山田第3地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓	71	大畑Ⅴ	飯岡第6地割	鉄	鉄滓
4	間木戸Ⅳ	山田第3地割	集・一里塚	縄文土器	72	大畑Ⅵ	飯岡第6地割	鉄	鉄滓
5	間木戸Ⅴ	山田第3地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓・羽口	73	長野Ⅰ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓
6	間木戸Ⅵ	山田第3地割	鉄	鉄滓	74	長野Ⅱ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓
7	山谷	大沢山谷	散	縄文土器	75	長野Ⅲ	飯岡第2地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓
8	山谷Ⅰ	大沢第13地割	鉄	造成平場、鉄滓	76	長野Ⅳ	飯岡第2地割	鉄	鉄滓
9	川向Ⅰ	大沢川向	散	縄文土器	77	長野Ⅴ	飯岡第2地割	鉄	鉄滓
10	川向Ⅱ	大沢川向	散	縄文土器	78	長野Ⅵ	飯岡第2地割	鉄	鉄滓
11	川向Ⅲ	大沢川向	散	縄文土器	79	長野Ⅶ	飯岡第2地割	鉄	鉄滓
12	新開地	大沢新開地	散	縄文土器・石鏃	80	長野Ⅷ	飯岡第2地割	鉄	鉄滓
13	新開地Ⅰ	大沢新開地	散	縄文土器	81	飯岡Ⅰ	飯岡第6地割	城	主郭・腰郭
14	新開地Ⅱ	大沢新開地	散	縄文土器	82	飯岡Ⅱ	飯岡第6地割	城	主郭・帯郭・空堀・砦
15	紅山A	大沢紅山	散	縄文土器(前・中・後・晩期)、石器(鏃・槍・斧)	83	飯岡Ⅲ	飯岡第2地割	散	不明
16	紅山B	大沢紅山	集	縄文土器	84	飯岡Ⅳ	飯岡第6地割	散	不明
17	大沢館	大沢7地割	城	主郭・腰郭・空堀	85	赤松Ⅰ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓・羽口
18	袴田Ⅰ	大沢袴田	散	縄文土器	86	赤松Ⅱ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓
19	袴田Ⅱ	大沢袴田	散	縄文土器	87	赤松Ⅲ	飯岡第6地割	鉄	鉄滓・羽口
20	天井間木戸	山田第3地割	鉄	鉄滓	88	赤松Ⅳ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器・剥片・鉄滓・羽口
21	天井間木戸Ⅰ	山田第3地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓	89	赤松Ⅴ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓
22	天井間木戸Ⅱ	山田第3地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓	90	赤松Ⅵ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓
23	天井間木戸Ⅲ	山田第3地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓	91	赤松Ⅶ	飯岡第6地割	散	縄文土器
24	天井間木戸Ⅳ	山田第3地割	鉄	鉄滓・羽口	92	細浦Ⅰ	織笠第14地割	散・鉄	縄文土器・弥生土器・鉄滓
25	天井間木戸Ⅴ	山田第3地割	散・鉄	縄文土器・剥片・鉄滓・羽口	93	細浦Ⅱ	織笠第14地割	散	縄文土器
26	天井間木戸Ⅵ	山田第3地割	鉄	鉄滓	94	細浦Ⅲ	織笠第14地割	散	縄文土器
27	天井間木戸Ⅶ	山田第3地割	鉄	鉄滓・羽口	95	細浦Ⅳ	織笠第12地割	散	縄文土器
28	天井間木戸Ⅷ	山田第3地割	鉄	鉄滓	96	細浦Ⅴ	織笠第12地割	散・城	主郭・腰郭・縄文土器
29	天井間木戸Ⅸ	山田第3地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓・羽口	97	細浦Ⅵ	織笠第12地割	散・鉄	縄文土器・土師器・鉄滓
30	山の神	山田第3地割	鉄	鉄滓	98	細浦Ⅶ	織笠第14地割	鉄	鉄滓
31	山の神Ⅰ	山田第3地割	散	縄文土器	99	上	織笠第10地割	集	縄文土器・弥生土器
32	柳沢Ⅰ	山田第1地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓	100	上村	織笠第9地割	散・鉄	製鉄炉、縄文土器
33	柳沢Ⅱ	山田第1地割	散・鉄・城	縄文土器・剥片・鉄滓	101	跡浜Ⅰ	織笠第12地割	散	縄文土器
34	柳沢Ⅲ	山田第1地割	散	縄文土器・土師器	102	跡浜Ⅱ	織笠第12地割	散	縄文土器
35	柳沢Ⅳ	山田第1地割	散	縄文土器・剥片	103	後山Ⅰ	織笠第14地割	散・鉄	製鉄炉、縄文土器・石斧・土師器・鉄滓・羽口
36	沢田Ⅰ	山田第14地割	集	縄文土器・土師器・須恵器	104	後山Ⅱ	織笠第15地割	散	縄文土器
37	沢田Ⅱ	山田第4地割	散・鉄・城	主郭・腰郭・空堀、縄文土器・鉄滓	105	後山Ⅲ	織笠第14地割	集、鉄	縄文土器・剥片・弥生土器・土師器・鉄滓
38	沢田Ⅲ	山田第4地割	散	縄文土器・剥片	106	礼堂一里塚	織笠第15地割	一里塚	
39	沢田Ⅳ	山田第4地割	散・鉄・城	主郭・副郭・砦・帯郭・空堀、縄文土器・鉄滓	107	礼堂	織笠第15地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓
40	沢田Ⅴ	山田第14地割	鉄	鉄滓					
41	沢田Ⅵ	山田第14地割	散	縄文土器					
42	房の沢Ⅰ	山田第14地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
43	房の沢Ⅱ	山田第14地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
44	房の沢Ⅲ	山田第14地割	散	縄文土器					
45	房の沢Ⅳ	山田第14地割	古墳	縄文土器・土師器・須恵器・鉄製品					
46	房の沢Ⅴ	山田第15地割	散・鉄	縄文土器・剥片・鉄滓					
47	房の沢Ⅵ	山田第15地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
48	房の沢Ⅶ	山田第15地割	散・鉄	石鏃・鉄滓					
49	房の沢館	山田第14地割	城	主郭・砦・特殊空堀・経石					
50	関谷Ⅰ	山田第15地割	散・鉄	縄文土器・石匙・鉄滓					
51	関谷Ⅱ	山田第17地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
52	関谷Ⅲ	山田第9地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
53	関谷Ⅳ	山田第9地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
54	関谷Ⅴ	飯岡第13地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
55	八幡館	八幡町第7地割	城	主郭・腰郭・空堀					
56	長崎Ⅰ	飯岡第10地割	散・城	主郭・腰郭・縄文土器					
57	長崎Ⅱ	飯岡第9地割	散・城	主郭・腰郭・縄文土器					
58	長崎Ⅲ	飯岡第8地割	城	主郭・二の郭・空堀・砦					
59	長崎Ⅳ	飯岡第8地割	城	平場・空堀					
60	小沢Ⅰ	飯岡第7地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
61	小沢Ⅱ	飯岡第7地割	散	縄文土器					
62	小沢Ⅲ	飯岡第7地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
63	小沢Ⅳ	飯岡第7地割	鉄	鉄滓					
64	小沢Ⅴ	飯岡第7地割	鉄	鉄滓					
65	小沢Ⅵ	飯岡第7地割	鉄	鉄滓					
66	小沢Ⅶ	飯岡第7地割	鉄	鉄滓					
67	大畑Ⅰ	飯岡第6地割	散	縄文土器					
68	大畑Ⅱ	飯岡第6地割	散・城	空堀、縄文土器・須恵器					

※遺跡種別 散布地=「散」、製鉄関連=「鉄」、城館=「城」、集落=「集」



第3図 周辺の遺跡

Ⅲ 調査の方法

1 野外調査の方法

(1) グリッドの設定 (第1-4図)

調査区の設定は、遺跡の全範囲を網羅するように調査区内に平面直角座標系第X系（世界測地系）に従って基準点の設置を行った。具体的には、 $X = -56,600,000$ 、 $Y = 96,200,000$ の座標を基点として一辺100×100mの正方形グリッド（大グリッド）を設定、さらに各辺を10等分して4×4mの小グリッドを設定した。グリッドの呼称は、北西隅を基点として大グリッドは北から南へⅠ～Ⅱ、西から東へA～C、小グリッドは北から南へ1～25、西から東へa～yとし、小グリッドは「ⅠA5b」などと呼称している。

調査区には平成26・27年度ともに業務委託によって基準点各2点と補点各4点を打設しており、それをもとにグリッドを設定した。また、調査の進行に応じて遺構実測用の補点を調査員が追加で打設している。基準点の座標は第2表の通りである。

第2表 基準点一覧

平成26年度					平成27年度				
点名	グリッド	X	Y	標高(m)	点名	グリッド	X	Y	標高(m)
K-1	-	-56,804.571	96,231.987	24.717	No.1	ⅡA13q	-56,749.030	96,267.442	22.423
K-2	ⅡB2h	-56,706.370	96,327.930	35.463	No.2	ⅡB4j	-56,712.097	96,338.004	33.889
基-1	ⅡA16u	-56,760.004	96,280.020	18.769	基-11	ⅡB7d	-56,724.000	96,316.000	25.250
基-2	ⅡB16j	-56,759.965	96,336.004	16.191	基-12	ⅡB4j	-56,712.000	96,336.000	34.281
補-1	ⅡB4j	-56,712.000	96,336.000	34.156	補-11	ⅡB4h	-56,712.000	96,328.000	34.461
補-2	ⅡA21f	-56,780.012	96,220.034	20.915	補-12	ⅡB9f	-56,732.000	96,320.000	23.323
補-3	ⅡA21u	-56,780.000	96,280.000	16.737	補-13	ⅡA12t	-56,744.000	96,276.000	22.886
補-4	ⅡB21j	-56,779.950	96,336.026	13.358	補-14	ⅡA13t	-56,748.000	96,276.000	22.347
補-5	ⅡB13j	-56,748.000	96,336.000	17.629	補-15	ⅡA6w	-56,720.832	96,294.996	24.332
補-6	ⅡA13u	-56,747.987	96,280.011	21.610	補-16	ⅡB5d	-56,719.422	96,313.068	26.472
補-7	ⅡB13o	-56,748.000	96,356.000	16.298	補-17	ⅡB9f	-56,733.758	96,320.898	22.840
補-8	ⅡB10o	-56,736.000	96,356.000	17.019	補-18	ⅡB9c	-56,733.862	96,310.044	22.132
CBM-1	ⅡB22a	-56,784.026	96,300.040	13.862	CBM-4	ⅡB11a	-56,742.862	96,300.320	20.288
CBM-2	ⅡB21a	-56,780.023	96,300.018	14.110	CBM-5	ⅡB11c	-56,740.390	96,309.383	20.949
CBM-3	ⅡA15u	-56,755.629	96,283.532	19.045	※K-1は調査区外に打設した3級基準点				
SBM-1	ⅡB17a	-56,764.181	96,300.666	15.657					
SBM-2	ⅡB17d	-56,767.168	96,338.111	14.563					
SBM-3	ⅡB16j	-56,760.792	96,338.954	15.188					
SBM-4	ⅡA20s	-56,777.876	96,271.933	16.212					
WBM-1	ⅡA22f	-56,785.706	96,222.370	19.574					
G-7	ⅡA10u	-56,735.972	96,279.986	23.767					
G-8	ⅡB13e	-56,747.943	96,316.000	18.205					
北端区A	ⅠB11p	-56,640.000	96,360.000	25.816					
北端区B	ⅠB17m	-56,664.000	96,532.000	24.170					

(2) 精査の方法および遺構の記録

調査に先立って調査区内の雑物撤去を行い、続いて遺構の有無を確認するために数箇所にトレンチを設定して人力で試掘を行った。試掘の結果をうけ、遺構検出面及び遺物包含層上面までは調査の迅速化と人力掘削量の軽減を図るため、調査員監督の下、重機（バックホー）によって表土（I層）を掘削し、その後人力で遺構検出を行った。

検出した遺構には釘やスプレーを使ってマーキングし、さらに一部の遺構については検出状況の写真撮影を行った。遺構名は、平成26年度の調査では9月以降複数の調査班に分かれたため、明確な調査区の区分はしていないが、班毎に遺構略号の後ろにアルファベット（A・B・C・K等）を付した略号と使用した。また、平成27年度は前年度から継続して精査を行っている遺構を除いては略号の後ろに「D」を付したものを使用した。なお、これらの遺構名は、最終的に室内整理の段階で第3表のように変更している。

遺構の掘り下げは4分法と2分法を使い分け、土層観察を行いながら進めた。掘り下げには主に移植篋を使用し、遺物の集中する地点などでは竹篋なども使用している。遺構のプランや新旧関係が不明な場合は適宜サブトレンチを設定して層位確認を行っている。

遺構については、完掘、土層断面、遺物出土など状況に応じて写真撮影と実測図の作成を行っている。遺構の平面図は、実測用ソフト「遺構くん」（株Cubic社製）を用いて収集した数値データをもとにパソコン上で図化した。断面図は、簡易遣り方測量とデジタルカメラ画像を用いた写真解析図化作業（業務委託）、「遺構くん」による計測で作成した。

遺構の写真撮影には、6×7cm判カメラ（モノクロ）とデジタルカメラ（キャノン社製一眼レフタイプ、2020万画素）を使用した。6×7cm判は記録保存、デジタルカメラは報告書作成及び広報・普及を目的として撮影しているが、基本的に6×7cm判で撮影したものについてはデジタルカメラでも同一カットの撮影を行っている。

(3) 広報・普及啓発活動

平成27年6月20日 現地説明会開催（約135名参加）

平成27年6月23日 遺跡見学（山田町立山田北小学校6年生12名）

平成29年9月28～30日 『復興発掘調査展 in 山田町』での遺物展示及びスライド報告

2 調査経過

平成25年度は、尾根頂部を中心とする1,600㎡について重機による表土除去作業を行った。掘削は11月5日から開始し、11月28日に終了した。

平成26年度は、4月8日に調査用資材を搬入、調査の進捗に合わせて三陸国道事務所・県生涯学習文化課・当センターで現地協議や部分終了確認を複数回行いながら進行し、7,660㎡分の調査を終了し、残る2,140㎡の養生を行って12月19日に当該年度分の野外調査を終了した。

平成27年度は、4月17日から野外調査を再開し、前年度と同じく現地協議や部分終了確認を行いながら進行し、8月7日に資材を撤収して野外調査の一切を終了した。

3 室内整理の方法

(1) 遺 構

今回の調査では一部の遺構について写真解析図化作業を業務委託しており、遺構図面は①「遺構くん」で作成したデジタルデータ、②簡易遣り方測量による断面図、③写真解析によるデジタルデータの3者が作成されている。平面図は原則として全て①のデータであるため、図面の合成作業（修正図の作成）については断面図のデータ種別に応じて以下の通り整理を行った。

①簡易遣り方測量の場合

断面図は実測図を等倍でスキャニング（解像度 200～300dpi）して Adobe Illustrator CS4・6 でトレースを行う。「遺構くん」データは EPS 形式に変換し、トレースした断面図と同縮尺で同じ画面上に貼り付ける。両者のセクションポイントの位置を揃えて調整を行い、修正図を作成する。

②写真解析によるデジタルデータの場合

委託先に「遺構くん」で作成したデジタルデータを DXF 形式で送付し、一枚の画像の中に①と同じく平面図と断面図が含まれている図面の作成を依頼する。作成された図面は紙ベースに打ち出し、原稿の校正と同じ要領で指示書きをして調整を行う。

なお、修正図完成後は土層注記のテキストデータをファイルに貼り付け、さらに当センターの版面（縦 24.0 × 横 16.0cm）に収まるように Illustrator のデータ上でレイアウト、網掛け処理、キャプションの記入を行い、AI または EPS 形式のファイルを完成品として印刷業者に納入した。

遺構写真図版については、野外調査時にデジタル一眼レフカメラで撮影した画像（RAW データ）を JPEG 形式に変換し、一部画像のトリミングを行った後に Adobe In Design CS6 を用いて割付を行った。印刷時には In Design で作成した割付データと画像の JPEG データを印刷業者に納入し、色調整は校正時に行っている。

(2) 遺 物

遺物の処理は、平成 26・27 年とも土器類の洗浄から開始した。土器類は水洗・乾燥後に土器（縄文土器・土師器・須恵器）、土製品、石器・石製品、金属製品、陶磁器、鉄生産関連遺物（鉄滓・羽口・炉壁）、動物遺存体に選別した。各種別の遺物の処理状況は以下の通りである。

土器・土製品 洗浄後、重量を計測しながら遺構・グリッド毎に仕分けを行った。総量が膨大であったため全点の注記は行わず、接合の際に必要な分のみ行った。接合をしながら遺構内出土のもので器形の復元が可能なものを選別、続いて遺構外出土のものは器形及び文様に特徴があるものを中心に登録を行った。登録を行った後に重量計測を行い、必要なものについては復元作業を行った。これらの行程を経て、報告書掲載遺物については実測・拓本を行った。

石器・石製品 洗浄後、加工・使用の有無を確認しながら剥片石器・礫石器・石製品に分類した。分類した後にさらに細分類を行い（細分類は第 V 章参照）、登録作業を行った。実測については石製品の一部を除いて業務委託を実施している。

金属製品 点数が少ないため、錆落としをしながら形状を確認し、代表的なものについては登録・実測を行った。銭貨も点数が少ないため、拓本が可能なものについて登録・拓本を行った。また、一部のものについては破損防止のために保存処理作業を委託している（第 VI 章第 9 節）。

陶磁器 出土量が少ないため、代表的なものについて登録を行い、実測及び写真撮影を行った。

第3表 遺構名変更一覧

堅穴建物(縄文)		堅穴建物(縄文)		堅穴建物(縄文)		堅穴建物(縄文)	
新	← 旧	新	← 旧	新	← 旧	新	← 旧
A 1号堅穴建物	← SI01a	A61号堅穴建物	← SI67	A121号堅穴建物	← SID23	A181号堅穴建物	← SID96
A 2号堅穴建物	← SI01b	A62号堅穴建物	← SI68a	A122号堅穴建物	← SID24	A182号堅穴建物	← SID97
A 3号堅穴建物	← SI02	A63号堅穴建物	← SI68b	A123号堅穴建物	← SID25	A183号堅穴建物	← SID98
A 4号堅穴建物	← SI03	A64号堅穴建物	← SK69	A124号堅穴建物	← SID26	A184号堅穴建物	← SID67
A 5号堅穴建物	← SI04	A65号堅穴建物	← SI70	A125号堅穴建物	← SID27	A185号堅穴建物	← SID101
A 6号堅穴建物	← SI05	A66号堅穴建物	← SI71	A126号堅穴建物	← SID28a	A186号堅穴建物	← SID104
A 7号堅穴建物	← SI06	A67号堅穴建物	← SIK01	A127号堅穴建物	← SID28b	A187号堅穴建物	← SID105
A 8号堅穴建物	← SI09	A68号堅穴建物	← SIK02	A128号堅穴建物	← SID29	A188号堅穴建物	← SID106
A 9号堅穴建物	← SI10	A69号堅穴建物	← SIK03	A129号堅穴建物	← SID30	A189号堅穴建物	← SID110
A10号堅穴建物	← SI11	A70号堅穴建物	← SIK04	A130号堅穴建物	← SID32	A190号堅穴建物	← SID111
A11号堅穴建物	← SI15	A71号堅穴建物	← SIK05	A131号堅穴建物	← SID33	A191号堅穴建物	← SID112
A12号堅穴建物	← SI16	A72号堅穴建物	← SIK06	A132号堅穴建物	← SID34	A192号堅穴建物	← SID113
A13号堅穴建物	← SI17	A73号堅穴建物	← SIK07	A133号堅穴建物	← SID35	A193号堅穴建物	← SID114
A14号堅穴建物	← SI19	A74号堅穴建物	← SIK08	A134号堅穴建物	← SID36	A194号堅穴建物	← SKD52
A15号堅穴建物	← SI20	A75号堅穴建物	← SIK09	A135号堅穴建物	← SID37	A195号堅穴建物	← SKD04
A16号堅穴建物	← SI21	A76号堅穴建物	← SIK10	A136号堅穴建物	← SID38	A196号堅穴建物	← Aトレンチに跨る住居
A17号堅穴建物	← SI22	A77号堅穴建物	← SIK11	A137号堅穴建物	← SID39	A197号堅穴建物	← SIB01
A18号堅穴建物	← SI25b	A78号堅穴建物	← SIK12	A138号堅穴建物	← SID40	A198号堅穴建物	← SIB03
A19号堅穴建物	← SI25a	A79号堅穴建物	← SIK13	A139号堅穴建物	← SID41	A199号堅穴建物	← SIB02
A20号堅穴建物	← SI24	A80号堅穴建物	← SIK14	A140号堅穴建物	← SID42	A200号堅穴建物	← SIB04
A21号堅穴建物	← SI26	A81号堅穴建物	← SIK15	A141号堅穴建物	← SID43a	A201号堅穴建物	← SIB05
A22号堅穴建物	← SI27	A82号堅穴建物	← SIC05	A142号堅穴建物	← SID43b	A202号堅穴建物	← SIB06
A23号堅穴建物	← SI28	A83号堅穴建物	← SIC06	A143号堅穴建物	← SID44	A203号堅穴建物	← SIB09
A24号堅穴建物	← SI29	A84号堅穴建物	← SIC08	A144号堅穴建物	← SID48	A204号堅穴建物	← SIB10
A25号堅穴建物	← SI30・31	A85号堅穴建物	← SIC09	A146号堅穴建物	← SID49	A205号堅穴建物	← SIB11
A26号堅穴建物	← SI32	A86号堅穴建物	← SIC11	A147号堅穴建物	← SID50	A206号堅穴建物	← SIB13
A27号堅穴建物	← SI33	A87号堅穴建物	← SIC12④	A148号堅穴建物	← SID52	A207号堅穴建物	← SIB14
A28号堅穴建物	← SI34	A88号堅穴建物	← SIC12①・②	A149号堅穴建物	← SID53	A208号堅穴建物	← SIB15
A29号堅穴建物	← SI35	A89号堅穴建物	← SIC12③	A150号堅穴建物	← SID54	A209号堅穴建物	← SIB16
A30号堅穴建物	← SI36	A90号堅穴建物	← SIC14	A151号堅穴建物	← SID55	A210号堅穴建物	← SIB17
A31号堅穴建物	← SI37	A91号堅穴建物	← SIC16	A152号堅穴建物	← SID56	A211号堅穴建物	← SIB21
A32号堅穴建物	← SI38	A92号堅穴建物	← SIC17	A153号堅穴建物	← SID57	A212号堅穴建物	← SIB22
A33号堅穴建物	← SI39	A93号堅穴建物	← SIC18	A154号堅穴建物	← SID58	A213号堅穴建物	← SIB23
A34号堅穴建物	← SI40	A94号堅穴建物	← SIC21	A155号堅穴建物	← SID59	A214号堅穴建物	← SIB24
A35号堅穴建物	← SI47	A95号堅穴建物	← SIC23	A156号堅穴建物	← SID60	A215号堅穴建物	← SIB26
A36号堅穴建物	← SI42	A96号堅穴建物	← SIC24	A157号堅穴建物	← SID61	A216号堅穴建物	← SIB27
A37号堅穴建物	← SI43	A97号堅穴建物	← SIC25	A158号堅穴建物	← SID64	A217号堅穴建物	← SIB28・SKD94
A38号堅穴建物	← SI44	A98号堅穴建物	← SIC26	A159号堅穴建物	← SID65	A218号堅穴建物	← SIB29
A39号堅穴建物	← SI44下層	A99号堅穴建物	← SIC22	A160号堅穴建物	← SID66	A219号堅穴建物	← SIB30
A40号堅穴建物	← SI45	A100号堅穴建物	← SIC28	A161号堅穴建物	← SID99	A220号堅穴建物	← SIB31
A41号堅穴建物	← SI48	A101号堅穴建物	← SIC29	A162号堅穴建物	← SID68	A221号堅穴建物	← SIB32
A42号堅穴建物	← SI49a	A102号堅穴建物	← SIC30	A163号堅穴建物	← SID69	A222号堅穴建物	← SIB33
A43号堅穴建物	← SI49b	A103号堅穴建物	← SIC31	A164号堅穴建物	← SID72	A223号堅穴建物	← SIB34
A44号堅穴建物	← SI50・51	A104号堅穴建物	← SIC20	A165号堅穴建物	← SID73	A224号堅穴建物	← SIB35
A45号堅穴建物	← SI33周溝	A105号堅穴建物	← SID04	A166号堅穴建物	← SID74	A225号堅穴建物	← SIB36
A46号堅穴建物	← SK36	A106号堅穴建物	← SID05	A167号堅穴建物	← SID75	A226号堅穴建物	← SIB37
A47号堅穴建物	← SI56	A107号堅穴建物	← SID06	A168号堅穴建物	← SID76	A227号堅穴建物	← SIB39
A48号堅穴建物	← SI54	A108号堅穴建物	← SID07	A169号堅穴建物	← SID77	A228号堅穴建物	← SIB40
A49号堅穴建物	← SI55	A109号堅穴建物	← SID08	A170号堅穴建物	← SID78	A229号堅穴建物	← SIB41
A50号堅穴建物	← SK43	A110号堅穴建物	← SID11	A171号堅穴建物	← SID80a	A230号堅穴建物	← SIB42
A51号堅穴建物	← SI57	A111号堅穴建物	← SID12	A172号堅穴建物	← SID80b	A231号堅穴建物	← SI-A01-1
A52号堅穴建物	← SI58	A112号堅穴建物	← SID13	A173号堅穴建物	← SID81	A232号堅穴建物	← SI-A01-2
A53号堅穴建物	← SI59	A113号堅穴建物	← SID14E	A174号堅穴建物	← SID86	A233号堅穴建物	← SI-A01-3
A54号堅穴建物	← SI60	A114号堅穴建物	← SID14W	A175号堅穴建物	← SID87	A234号堅穴建物	← SI-A01-4
A55号堅穴建物	← SI61	A115号堅穴建物	← SID15	A176号堅穴建物	← SID88	A235号堅穴建物	← SI-A02
A56号堅穴建物	← SI62	A116号堅穴建物	← SID18	A177号堅穴建物	← SID90	A236号堅穴建物	← SI-A03
A57号堅穴建物	← SI63	A117号堅穴建物	← SID19	A178号堅穴建物	← SID92	A237号堅穴建物	← SI-A04a
A58号堅穴建物	← SI64	A118号堅穴建物	← SID20	A179号堅穴建物	← SID93	A238号堅穴建物	← SI-A04b
A59号堅穴建物	← SI65	A119号堅穴建物	← SID21	A180号堅穴建物	← SID94	A239号堅穴建物	← SI-A05
A60号堅穴建物	← SI66	A120号堅穴建物	← SID22				

堅穴建物(縄文)			土 坑			土 坑			土 坑		
新	←	旧	新	←	旧	新	←	旧	新	←	旧
A240号堅穴建物	←	SI-A06	18号土坑	←	SK18	78号土坑	←	SKK14	138号土坑	←	SKD25
A241号堅穴建物	←	SI-A07	19号土坑	←	SK20	79号土坑	←	SKK15	139号土坑	←	SKD26
A242号堅穴建物	←	SI-A09	20号土坑	←	SK21	80号土坑	←	SKK16	140号土坑	←	SKD27
A243号堅穴建物	←	SI-A08	21号土坑	←	SK22	81号土坑	←	SKN01	141号土坑	←	SKD28
A244号堅穴建物	←	SI-A13	22号土坑	←	SK23	82号土坑	←	SKN02	142号土坑	←	SKD29
A245号堅穴建物	←	SI-A12	23号土坑	←	SK24	83号土坑	←	SKN03	143号土坑	←	SKD30
A246号堅穴建物	←	SI-A11	24号土坑	←	SK25	84号土坑	←	SKN04	144号土坑	←	SKD31
A247号堅穴建物	←	SI-A10	25号土坑	←	SK26	85号土坑	←	SKN05	145号土坑	←	SKD32
A248号堅穴建物	←	SI-A14	26号土坑	←	SK27	86号土坑	←	SKN06	146号土坑	←	SKD33
A249号堅穴建物	←	SI-A15	27号土坑	←	SK29	87号土坑	←	SKN07	147号土坑	←	SKD34
A250号堅穴建物	←	SI-A16	28号土坑	←	SK30	88号土坑	←	SKN08	148号土坑	←	SKD35
A251号堅穴建物	←	SI-A17	29号土坑	←	SK31	89号土坑	←	SKN09	149号土坑	←	SKD36
A252号堅穴建物	←	SI-A18	30号土坑	←	SK32	90号土坑	←	SKN10	150号土坑	←	SKD38
A253号堅穴建物	←	SI-A19	31号土坑	←	SK33	91号土坑	←	SKN11	151号土坑	←	SKD39
			32号土坑	←	SK34	92号土坑	←	SKC01	152号土坑	←	SKD40
			33号土坑	←	SK35	93号土坑	←	SKC02	153号土坑	←	SKD41
			34号土坑	←	SI62P11	94号土坑	←	SKC03	154号土坑	←	SKD42
			35号土坑	←	SK37	95号土坑	←	SKC04	155号土坑	←	SKD43
			36号土坑	←	SK38	96号土坑	←	SKC05	156号土坑	←	SKD44
			37号土坑	←	SK39	97号土坑	←	SKC06	157号土坑	←	SXD02
			38号土坑	←	SK40	98号土坑	←	SKC07	158号土坑	←	SKD46
			39号土坑	←	SK41	99号土坑	←	SKC08	159号土坑	←	SKD47
			40号土坑	←	SK42	100号土坑	←	SKC09	160号土坑	←	SKD48
			41号土坑	←	SK44	101号土坑	←	SKC10	161号土坑	←	SKD49
			42号土坑	←	SK45	102号土坑	←	SKC12	162号土坑	←	SKD50
			43号土坑	←	SK46	103号土坑	←	SKC13	163号土坑	←	SKD51
			44号土坑	←	SK47	104号土坑	←	SKC15	164号土坑	←	SKD53
			45号土坑	←	SK48	105号土坑	←	SKC18	165号土坑	←	SKD54
			46号土坑	←	SK49	106号土坑	←	SKC19	166号土坑	←	SKD55
			47号土坑	←	SK50	107号土坑	←	SKC20	167号土坑	←	SKD56
			48号土坑	←	SK51	108号土坑	←	SKC21	168号土坑	←	SKD57
			49号土坑	←	SK52	109号土坑	←	SKC22	169号土坑	←	SKD58
			50号土坑	←	SK53	110号土坑	←	SKC23	170号土坑	←	SKD59
			51号土坑	←	SK54	111号土坑	←	SKC24	171号土坑	←	SKD60
			52号土坑	←	SK55	112号土坑	←	SKC25	172号土坑	←	SKD61
			53号土坑	←	SK56	113号土坑	←	SKD01	173号土坑	←	SKD62
			54号土坑	←	SK57	114号土坑	←	SKD02	174号土坑	←	SKD63
			55号土坑	←	SK59	115号土坑	←	SKD03	175号土坑	←	SKD64
			56号土坑	←	SK61	116号土坑	←	SKD05	176号土坑	←	SKD65
			57号土坑	←	SK62	117号土坑	←	SKD05b	177号土坑	←	SKD66
			58号土坑	←	SK63	118号土坑	←	SKD06	178号土坑	←	SKD67
			59号土坑	←	SK64	119号土坑	←	SKD07	179号土坑	←	SKD68
			60号土坑	←	SK65	120号土坑	←	SIB25	180号土坑	←	SKD69
			61号土坑	←	SK66	121号土坑	←	SKD08	181号土坑	←	SKD70
			62号土坑	←	SK67	122号土坑	←	SKD09	182号土坑	←	SKD71
			63号土坑	←	SK68	123号土坑	←	SKD10	183号土坑	←	SKD72
			64号土坑	←	SI49SK01	124号土坑	←	SKD11	184号土坑	←	SKD73
			65号土坑	←	SK70	125号土坑	←	SKD12	185号土坑	←	SKD74
			66号土坑	←	SKK01	126号土坑	←	SKD13	186号土坑	←	SKD75
			67号土坑	←	SKK02	127号土坑	←	SKD14	187号土坑	←	SKD76
			68号土坑	←	SKK04	128号土坑	←	SKD15	188号土坑	←	SKD77
			69号土坑	←	SKK06	129号土坑	←	SKD16	189号土坑	←	SKD78
			70号土坑	←	SKK05	130号土坑	←	SKD17	190号土坑	←	SKD79
			71号土坑	←	SKK07	131号土坑	←	SKD18	191号土坑	←	SKD80a
			72号土坑	←	SKK08	132号土坑	←	SKD20	192号土坑	←	SKD80b
			73号土坑	←	SKK09	133号土坑	←	SKD21a	193号土坑	←	SKD81
			74号土坑	←	SKK10	134号土坑	←	SKD21b	194号土坑	←	SKD82
			75号土坑	←	SKK11	135号土坑	←	SKD22	195号土坑	←	SKD83
			76号土坑	←	SKK12	136号土坑	←	SKD23	196号土坑	←	SKD84
			77号土坑	←	SKK13	137号土坑	←	SKD24	197号土坑	←	SKD85

堅穴建物(古代)		
新	←	旧
B1号堅穴建物	←	SI07
B2号堅穴建物	←	SI12
B3号堅穴建物	←	SI13
B4号堅穴建物	←	SI14
B5号堅穴建物	←	SI18
B6号堅穴建物	←	SIN01
B7号堅穴建物	←	SIC01
B8号堅穴建物	←	SIC02
B9号堅穴建物	←	SIC10
B10号堅穴建物	←	SID01
B11号堅穴建物	←	SID02
B12号堅穴建物	←	SID09
B13号堅穴建物	←	SID10
B14号堅穴建物	←	SIC13
B15号堅穴建物	←	SIC15
B16号堅穴建物	←	SID47
B17号堅穴建物	←	SIB08
B18号堅穴建物	←	SIB12
B19号堅穴建物	←	SIB18
B20号堅穴建物	←	SIB19
B21号堅穴建物	←	SIB20
B22号堅穴建物	←	SIB38
B23号堅穴建物	←	SI08

土 坑		
新	←	旧
1号土坑	←	SK01
2号土坑	←	SK02
3号土坑	←	SK03
4号土坑	←	SK04
5号土坑	←	SK05
6号土坑	←	SK06
7号土坑	←	SK07
8号土坑	←	SK08
9号土坑	←	SK09
10号土坑	←	SK10
11号土坑	←	SK11
12号土坑	←	SK12
13号土坑	←	SK13
14号土坑	←	SK14
15号土坑	←	SK15
16号土坑	←	SK16
17号土坑	←	SK17

3 室内整理の方法

土 坑			土 坑			土 坑			炉・焼土・鍛冶炉		
新	←	旧	新	←	旧	新	←	旧	新	←	旧
198号土坑	←	SKD86	241号土坑	←	SKB19	284号土坑	←	SKA34	1号炉	←	SN05
199号土坑	←	SKD87	242号土坑	←	SKB20	285号土坑	←	SKA35	2号炉	←	SN10
200号土坑	←	SKD88	243号土坑	←	SKB21	286号土坑	←	SKA36	3号炉	←	SN11
201号土坑	←	SKD89	244号土坑	←	SKB22	287号土坑	←	SKA37	4号炉	←	SN12
202号土坑	←	SKD90	245号土坑	←	SKB23	288号土坑	←	SKA38	5号炉	←	SN13
203号土坑	←	SKD92	246号土坑	←	SKB24	289号土坑	←	SKA39	6号炉	←	SN14
204号土坑	←	SKD93	247号土坑	←	SKB25	290号土坑	←	SKA40	7号炉	←	SN15
205号土坑	←	SKD95	248号土坑	←	SKB26	291号土坑	←	SKA41	8号炉	←	SN16
206号土坑	←	SDB04	249号土坑	←	SKB27	292号土坑	←	SKA42	9号炉	←	SN17
207号土坑	←	SKD96	250号土坑	←	SKB28	293号土坑	←	SKA43	10号炉	←	SN18
208号土坑	←	SKD97	251号土坑	←	SKB29	294号土坑	←	SKA44	11号炉	←	SN19
209号土坑	←	SKD98	252号土坑	←	SKB30	295号土坑	←	SKA45	12号炉	←	SN21
210号土坑	←	SKD99	253号土坑	←	SKB31	296号土坑	←	SKA46	13号炉	←	SN22
211号土坑	←	SKD100	254号土坑	←	SKA01	297号土坑	←	SKA47	14号炉	←	SND01
212号土坑	←	SKD101	255号土坑	←	SKA02	298号土坑	←	SKA48	15号炉	←	SND06
213号土坑	←	SKD102	256号土坑	←	SKA03	299号土坑	←	SKA49	16号炉	←	SND07
214号土坑	←	SKD103	257号土坑	←	SKA04	300号土坑	←	SKA50	17号炉	←	SND10
215号土坑	←	SKD104	258号土坑	←	SKA05	301号土坑	←	SKA51	18号炉	←	SND11
216号土坑	←	SKD105	259号土坑	←	SKA06	302号土坑	←	SKA52	19号炉	←	SND12
217号土坑	←	SKD106	260号土坑	←	SKA07	303号土坑	←	SKA53	20号炉	←	SND14
218号土坑	←	SKD107	261号土坑	←	SKA08	304号土坑	←	SKA54	21号炉	←	SNB02
219号土坑	←	SKD108	262号土坑	←	SKA09	305号土坑	←	SKA55	22号炉	←	SNB05
220号土坑	←	SKD109	263号土坑	←	SKA10	306号土坑	←	SKA57	1号焼土	←	SN20
221号土坑	←	SKD110	264号土坑	←	SKA11	307号土坑	←	SKA59	2号焼土	←	SND02
222号土坑	←	SKD111	265号土坑	←	SKA13	308号土坑	←	SKA61	3号焼土	←	SFD02
223号土坑	←	SKD112	266号土坑	←	SKA14	309号土坑	←	SKA62	4号焼土	←	SFD11
224号土坑	←	SKD113	267号土坑	←	SKA15	310号土坑	←	SKA63	5号焼土	←	SFD13
225号土坑	←	SKB01	268号土坑	←	SKA16	311号土坑	←	SKB201	6号焼土	←	SFD19
226号土坑	←	SKB02	269号土坑	←	SKA17	312号土坑	←	SFD28	7号焼土	←	SFD20
227号土坑	←	SKB03	270号土坑	←	SKA18				8号焼土	←	SFD21
228号土坑	←	SKB04	271号土坑	←	SKA19				9号焼土	←	SFD22a
229号土坑	←	SKB05	272号土坑	←	SKA20				10号焼土	←	SFD22b
230号土坑	←	SKB06	273号土坑	←	SKA21				11号焼土	←	SFD23
231号土坑	←	SKB08	274号土坑	←	SKA22				12号焼土	←	SFD24
232号土坑	←	SKB09	275号土坑	←	SKA23				13号焼土	←	SFD25
233号土坑	←	SKB10	276号土坑	←	SKA24				14号焼土	←	SFD29
234号土坑	←	SKB11	277号土坑	←	SKA26				15号焼土	←	SNB01
235号土坑	←	SKB13	278号土坑	←	SKA28				16号焼土	←	SNB03
236号土坑	←	SKB14	279号土坑	←	SKA29				17号焼土	←	SFD08
237号土坑	←	SKB15	280号土坑	←	SKA30				18号焼土	←	SXD08SF02
238号土坑	←	SKB16	281号土坑	←	SKA31				19号焼土	←	SXD08SF01
239号土坑	←	SKB17	282号土坑	←	SKA32				1号鍛冶炉	←	SFD04
240号土坑	←	SKB18	283号土坑	←	SKA33						

土器埋設遺構			溝		
新	←	旧	新	←	旧
1号土器埋設	←	SI59伏甕	1号溝	←	SD01
2号土器埋設	←	SXD04	2号溝	←	SD02
3号土器埋設	←	SXD06	3号溝	←	SDK01
4号土器埋設	←	SXD07	4号溝	←	SDK02
5号土器埋設	←	SXD09	5号溝	←	SDD01
6号土器埋設	←	SXB04	6号溝	←	SDD02
7号土器埋設	←	SXB06	7号溝	←	SDD03
			8号溝	←	SDD04
			9号溝	←	SDD05
			10号溝	←	SDB01
			11号溝	←	SDB02
			12号溝	←	SDB03
			13号溝	←	SDB05
			14号溝	←	SDA04
			15号溝	←	SDA05
			16号溝	←	SDA06
			17号溝	←	SDA07
			18号溝	←	SDA08
			19号溝	←	SDA09

土器埋設遺構			その他		
新	←	旧	新	←	旧
1号土器埋設	←	SI59伏甕	1号配石遺構	←	SX05
2号土器埋設	←	SXD04	1号切土整地	←	SXB02
3号土器埋設	←	SXD06	2号切土整地	←	SXB05
4号土器埋設	←	SXD07	1号盛土整地	←	SXB01
5号土器埋設	←	SXD09	1号不明遺構	←	SX01
6号土器埋設	←	SXB04			
7号土器埋設	←	SXB06			

鉄生産関連遺物 種別ごとに重量を計測したのち、鉄滓については形状をもとに分類を行った。分類基準については第V章に記載している。

動物遺存体 獣骨・貝類等の大分類を行い、代表的なものについては種別同定を業務委託した（第VII章第4節）。

なお、実測を行った遺物については全てIllustratorでトレースを行い、版下を組んで遺物図版を作成した。（村田）

IV 検出遺構

1 調査概要

(1) 遺構

間木戸1遺跡は、山田湾に向かって南東方向に張り出した丘陵尾根の南側斜面部約8,500㎡を遺跡範囲とし(第1-1図)、山田町教育委員会による分布調査で縄文土器片が出土している(山田町教委2002)。遺跡範囲の東側には沢が流れており、沢を挟んで東側には間木戸Ⅱ・Ⅴ遺跡及び間木戸一里塚(間木戸Ⅳ遺跡)が位置している。なお、今回の三陸沿岸道路建設に伴い岩手県教育委員会生涯学習文化課が遺跡範囲の北側隣接地の試掘調査を行ったところ、そこでも遺構・遺物が確認されたことから遺跡範囲が広がっており、発掘調査は旧来の遺跡範囲である尾根の南側斜面に尾根の頂部及び尾根の北側斜面部を加えた9,800㎡を対象として実施した。

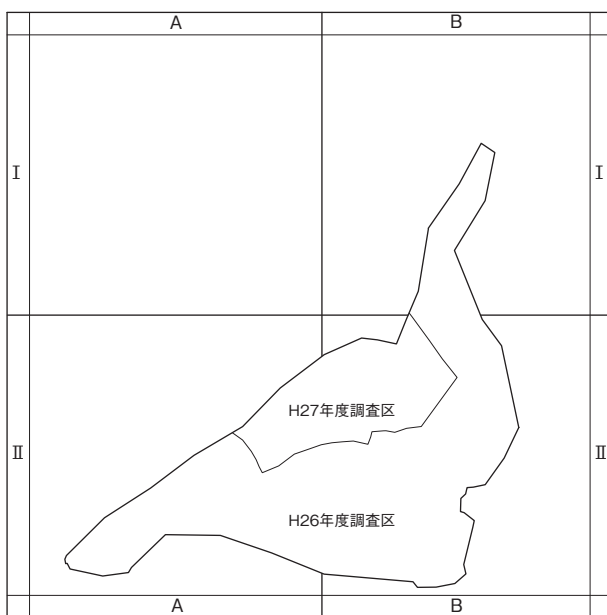
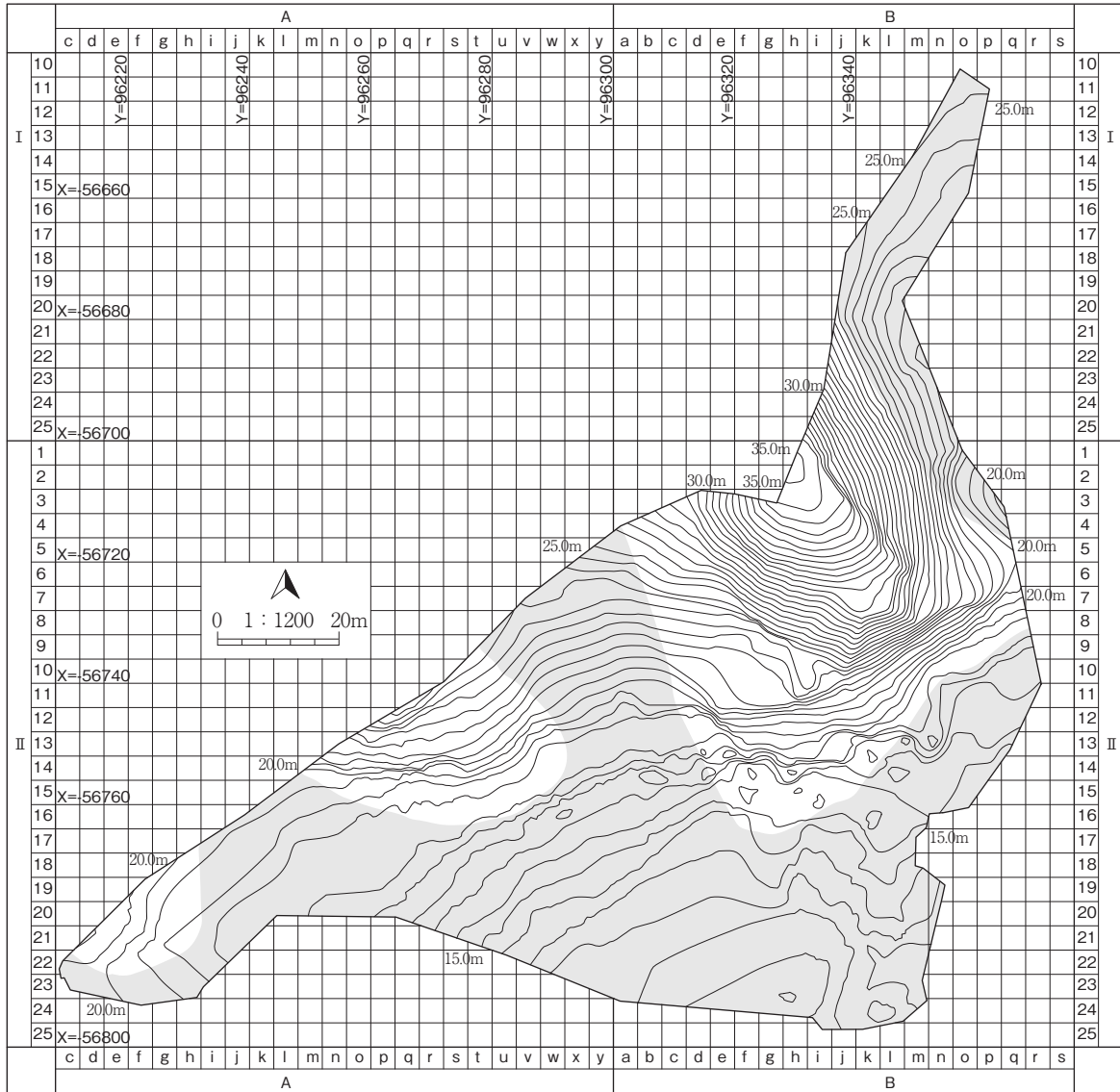
調査区内の地形は、南東方向に張り出した複数の尾根先とその東側に広がる黒～黒褐色土が厚く堆積する沢状地形から成り(第1-4図)、沢状地形の低位部では現在でも湧水が著しい。遺構・遺物の第一検出面は12～34mであるが、後述するように調査区内では複数の検出面が確認されている。なお、調査前の現況は畑地及び水田であり、グリッド設定以前の遺構・遺物の検出地点については第5図のように名称を付した。

検出した遺構は、縄文時代(前期後葉～後期初頭)の竪穴建物253軒、古代(平安時代)の竪穴建物23軒、土坑312基(縄文時代・古代・近世・時期不明)、炉23基(縄文時代)、焼土19基(縄文時代・古代)、鉄生産関連炉1基(古代)、溝19条(縄文時代・古代・近世以降)、配石遺構1箇所(縄文時代)、土器埋設遺構7基(縄文時代)、遺物包含層2箇所(縄文時代)、整地3箇所(近世以降)、性格不明溝1基(時期不明)、柱穴2805個である。時代的には大きく縄文時代・古代・近世(以降)に分けられ、時代ごとに分布傾向は異なる(第1-6～11図)。縄文時代の遺構は、北端区を除いたほとんどの範囲で検出されているが、竪穴建物・炉・焼土・土器埋設遺構は沢状地形の縁辺から内部、貯蔵穴を主体とする土坑類は尾根頂部から沢状地形縁辺部に集中しており、沢状地形縁辺部では両者が重複して検出されている。また、竪穴建物はほとんどが他の竪穴建物と重複関係にあり、同一の範囲内で地点を少しずつ移動しながら構築・使用を繰り返していたものと考えられる。古代の遺構は竪穴建物が主体で、北端区で検出されたものを除いて基本的には沢状地形を避けて尾根上に構築されており、縄文時代の遺構とは立地が大きく異なる。また、近世以降の遺構に付いても古代の遺構と同じく沢状地形を避けて構築されるものが多い。

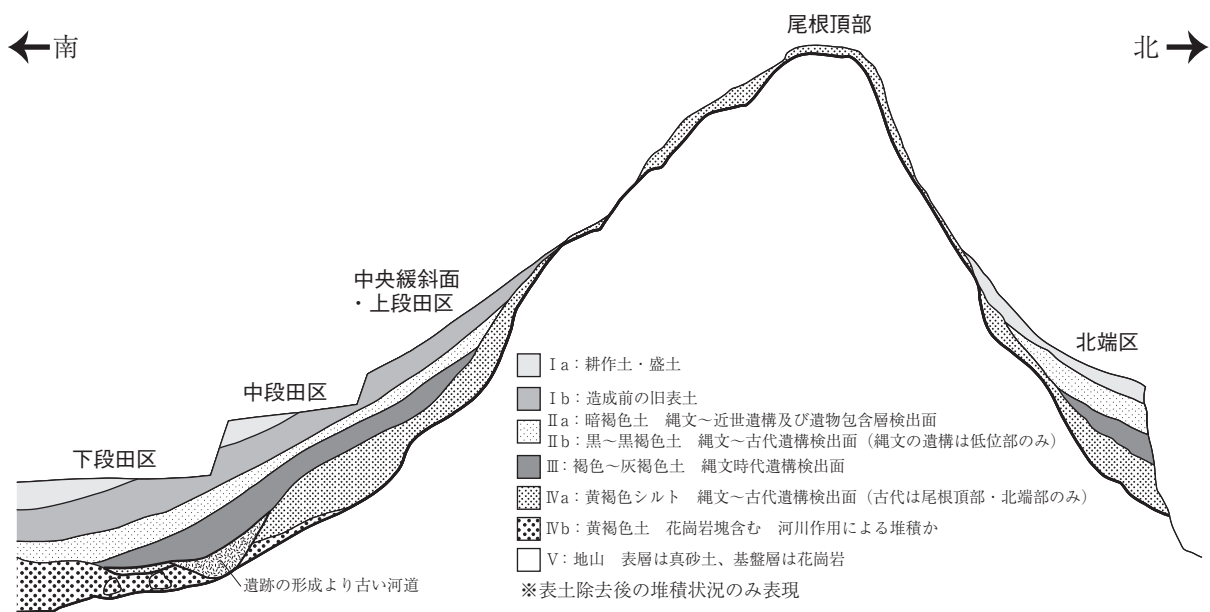
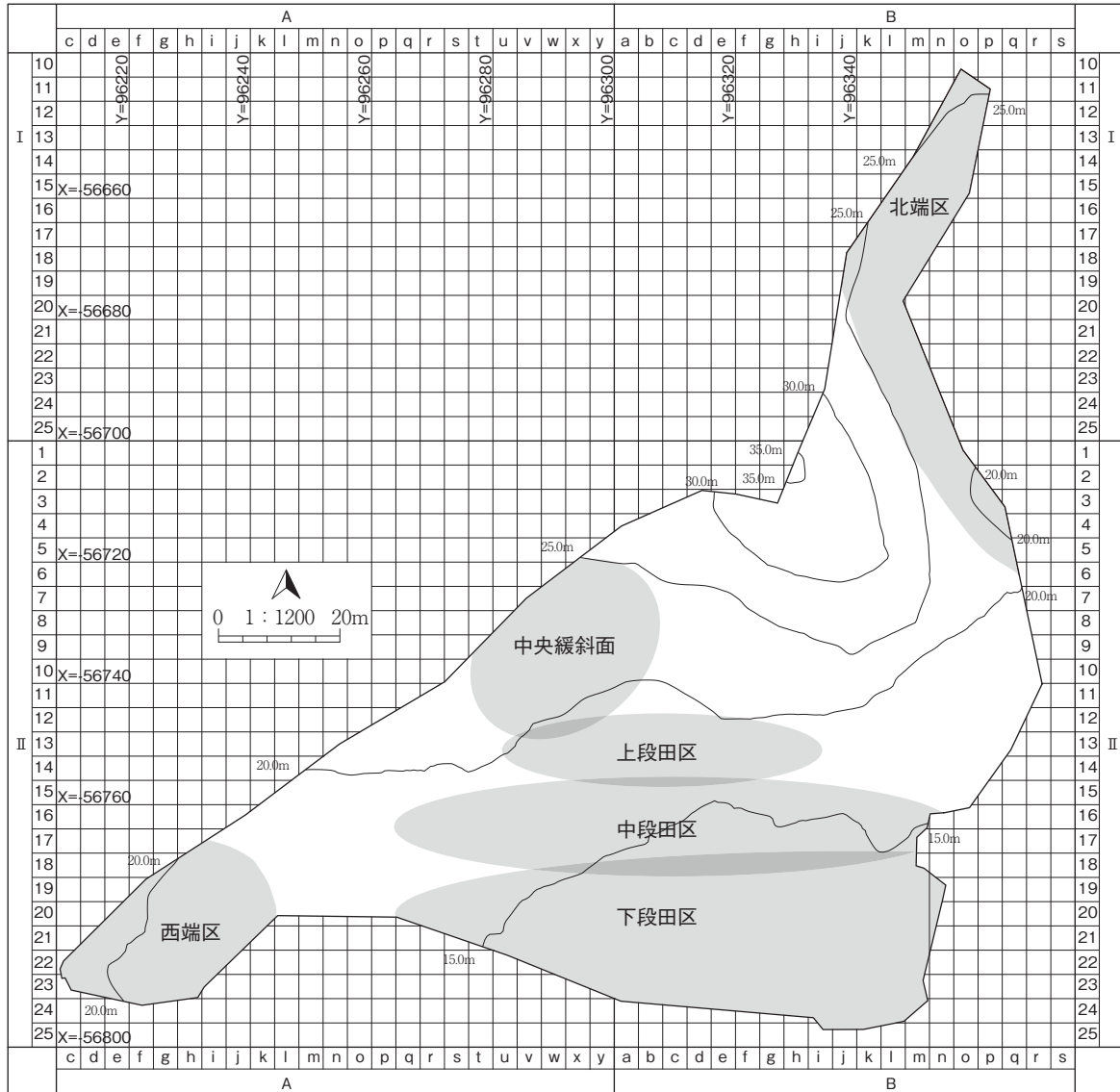
(2) 層序

調査区壁面及び調査区内の土層確認トレンチ(A～Cトレンチ)で確認しており(第1-12図)、調査範囲の層序は第5図のようになる。堆積状況は尾根頂部と斜面部で異なり、尾根頂部では表土直下で地山であるⅤ層が変成した真砂土層であるⅣa層が薄く堆積するのみである。斜面部は尾根頂部と異なりⅤ層直上に堆積するⅣa・b層が厚く、この面が遺構の最終検出面となる。Ⅳ層の上位に堆積するⅢ層は基本的には沢状地形内に堆積した水成堆積層で、縄文時代の遺構の多くがこの面で検出されている。なお、調査範囲内ではⅢ層より新しいと考えられる細い沢跡も確認されているが、これら

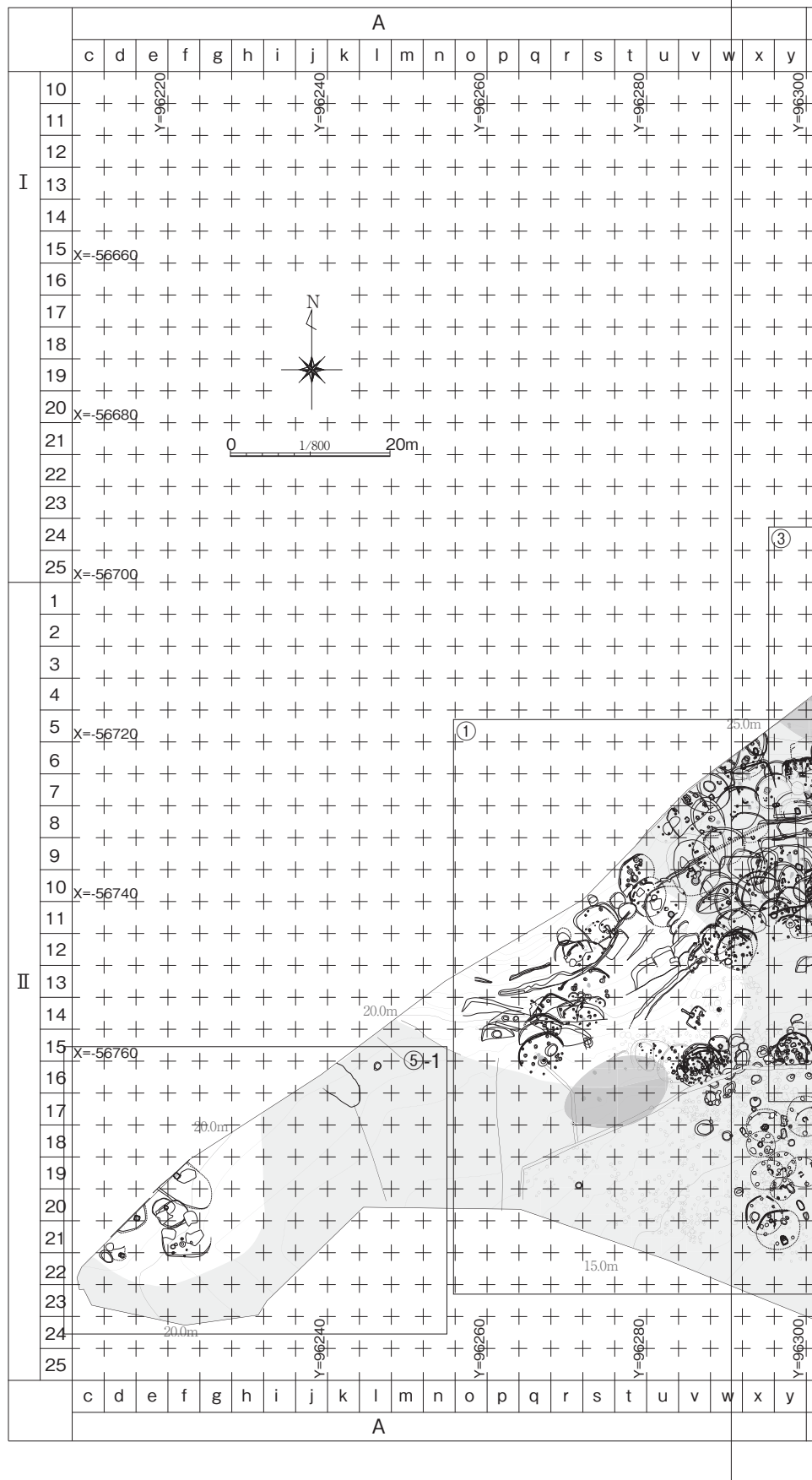
1 調査概要



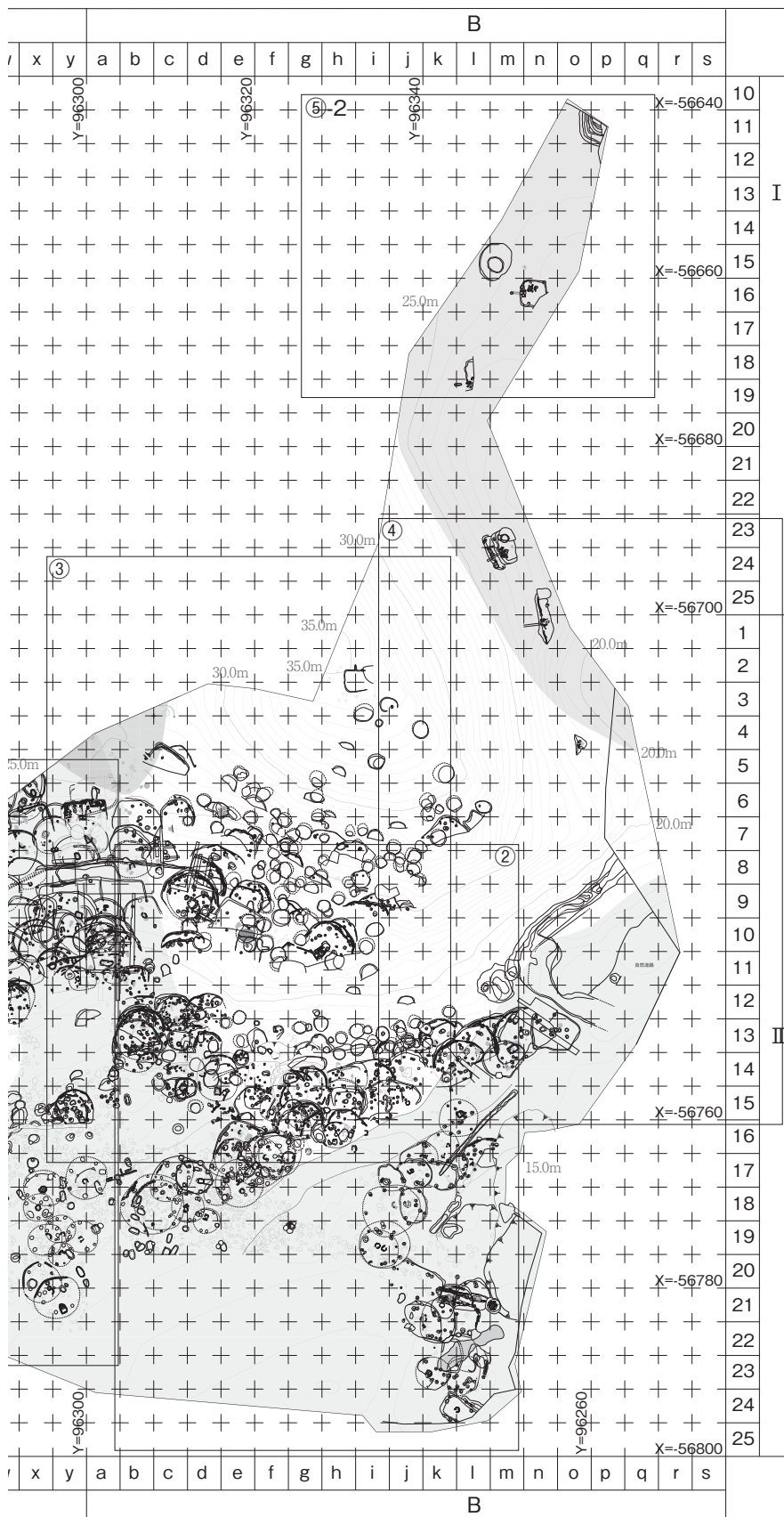
第4図 グリッド・等高線図



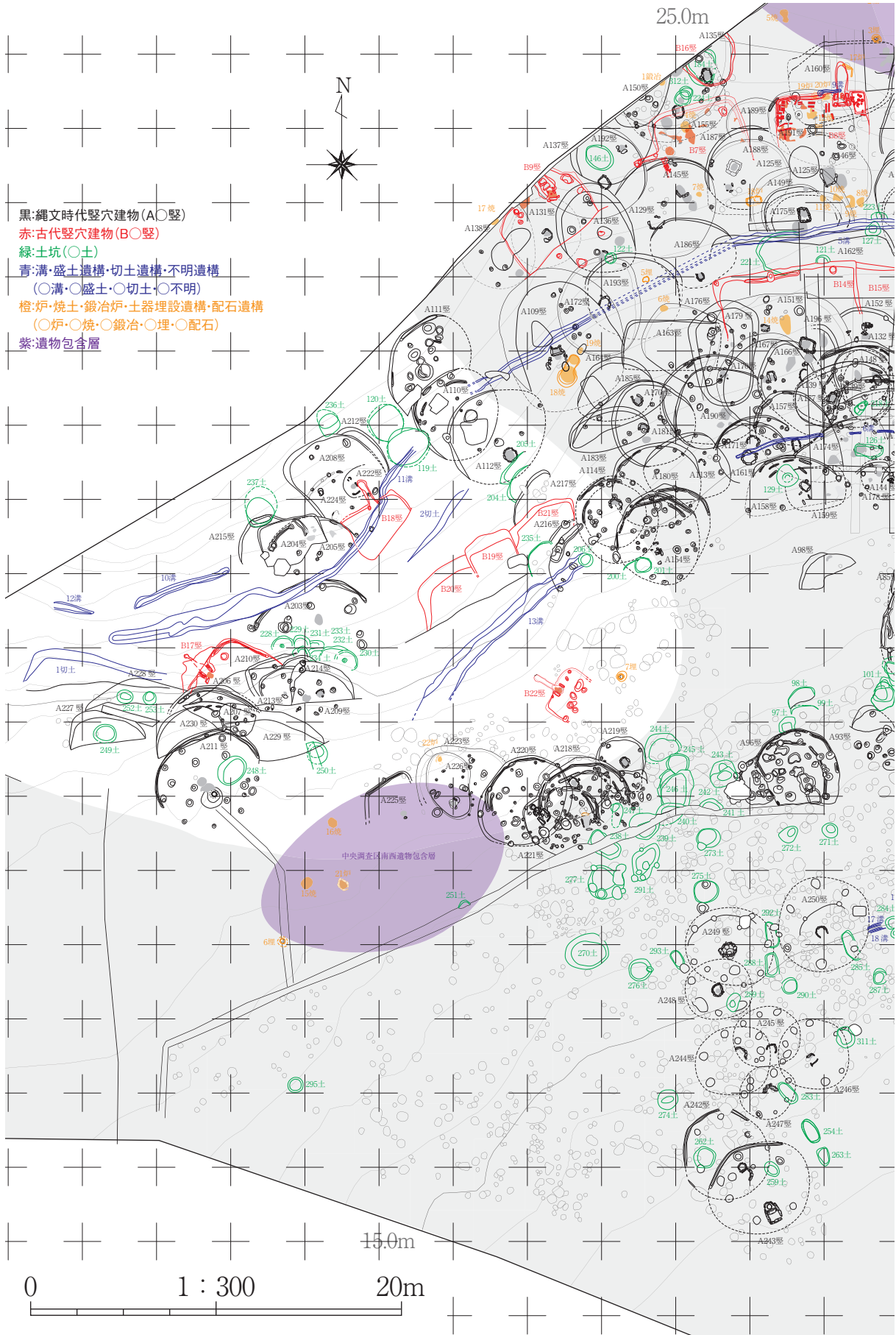
第5図 遺物取り上げ地点・基本層序図



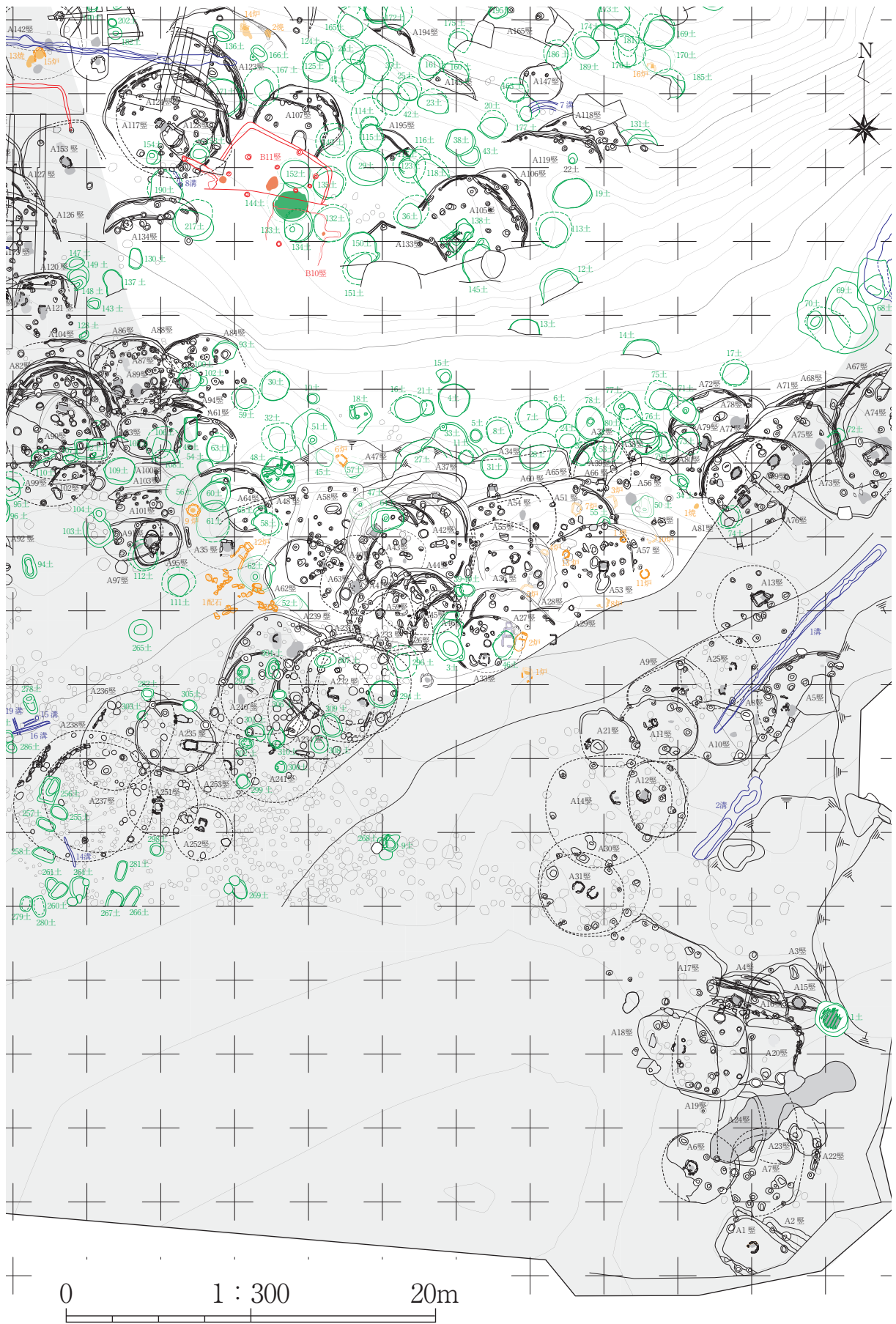
第6図 遺構配置図 (全体)



1 調査概要

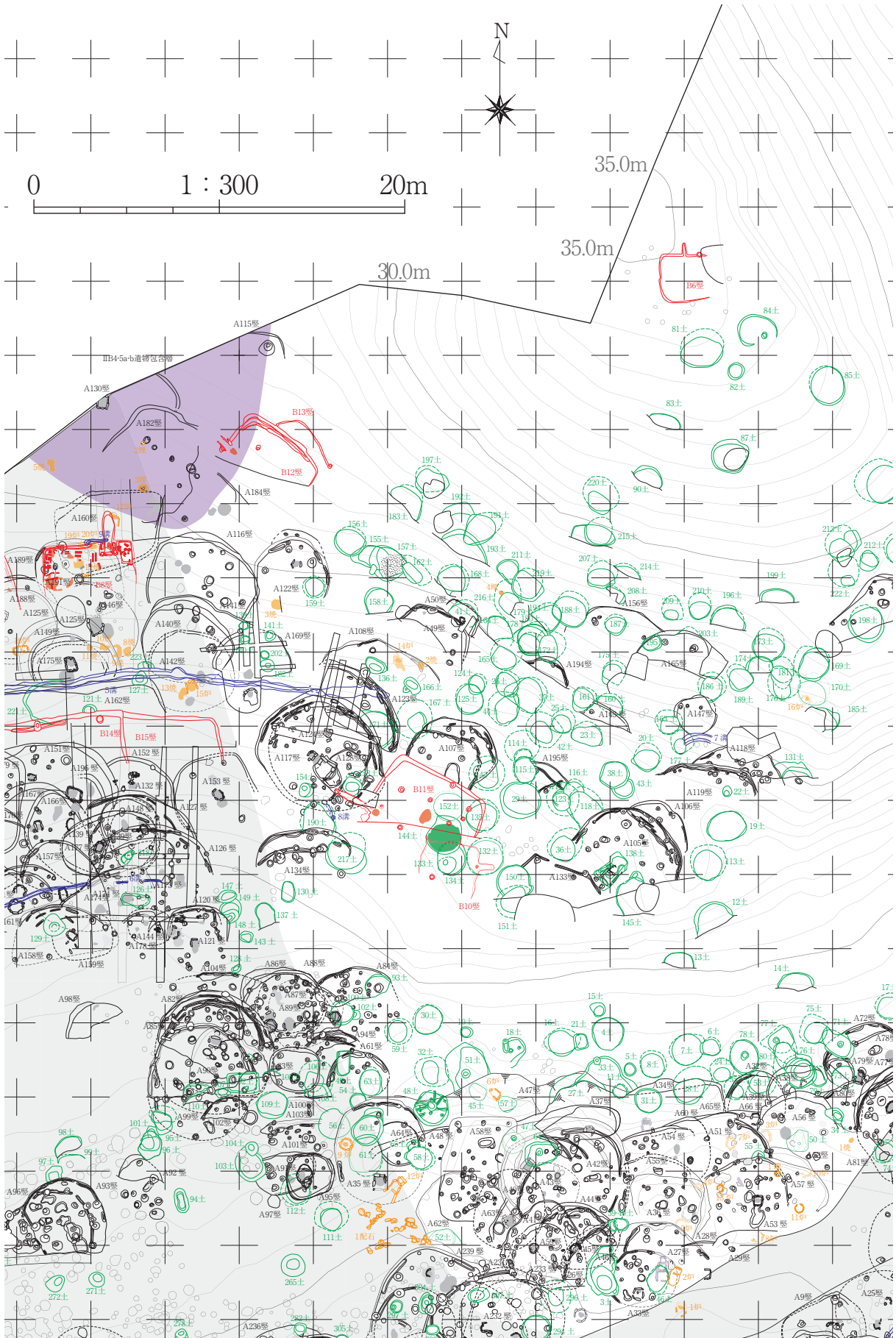


第7図 遺構配置図(1)

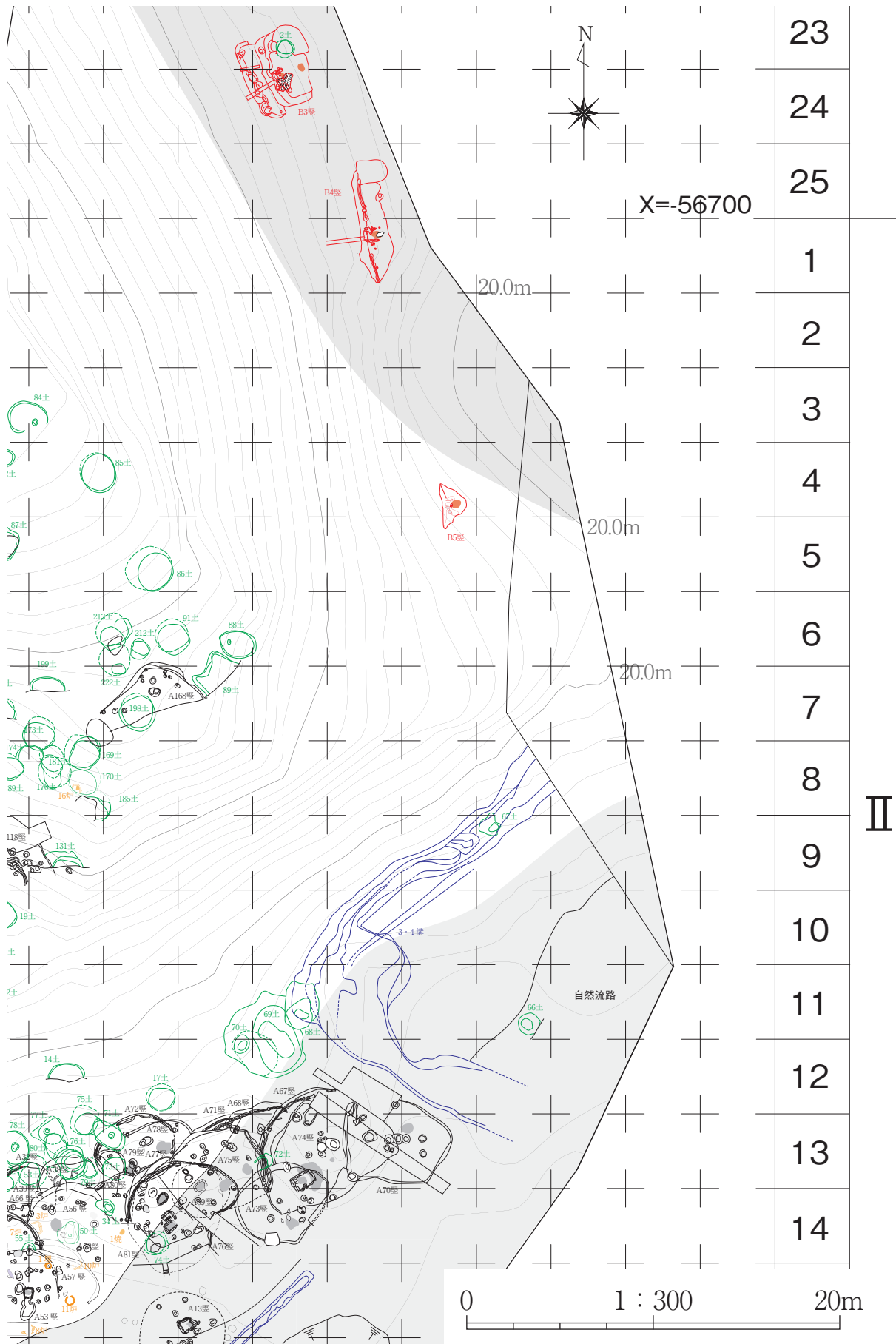


第8図 遺構配置図(2)

1 調査概要

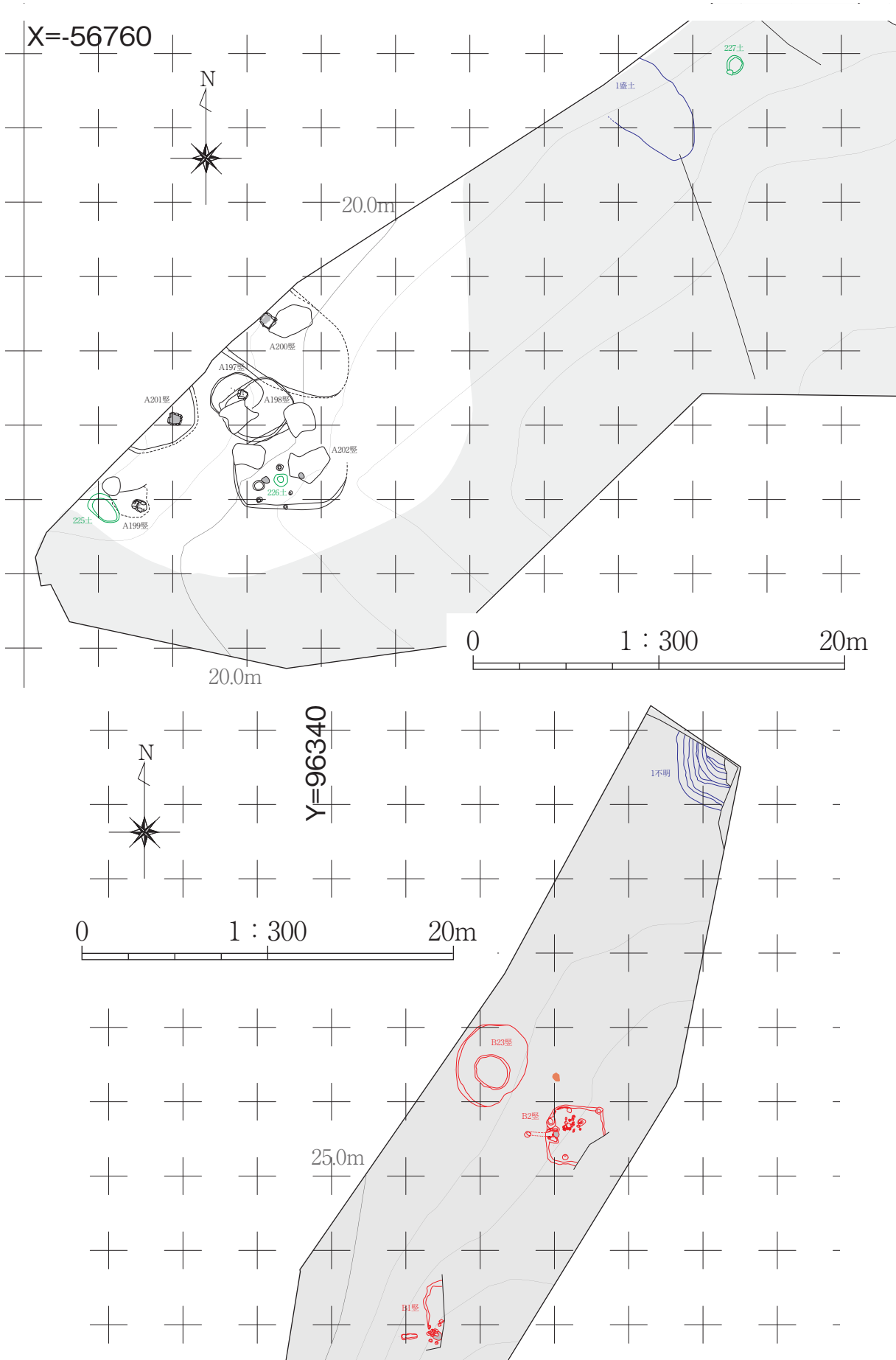


第9図 遺構配置図(3)

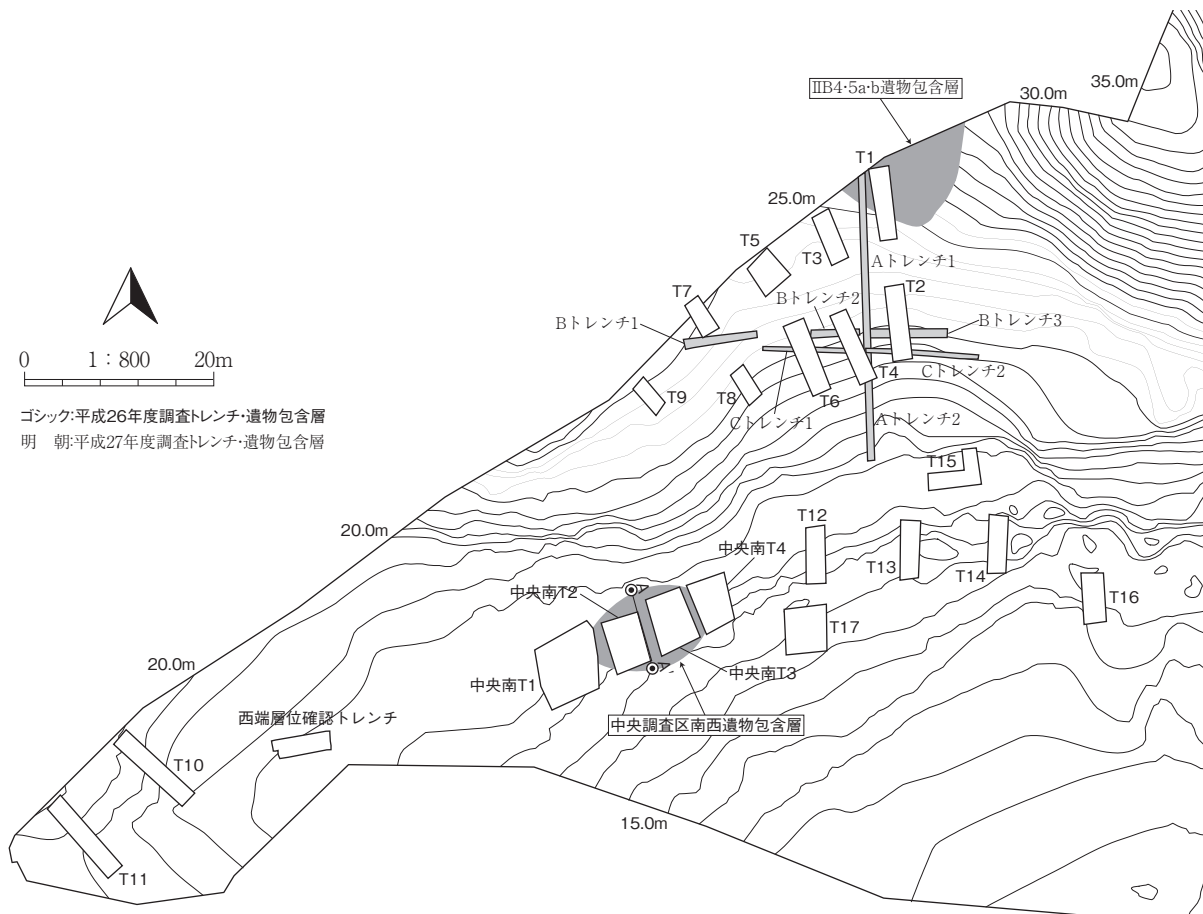


第10図 遺構配置図(4)

1 調査概要



第 11 図 遺構配置図 (5)



第12図 トレンチ・遺物包含層位置図

の堆積土とⅢ層の判別は困難であることから、遺構の記載では「Ⅲ層に類似する沢状地形堆積土」という表現を用いている。また、Ⅲ層中には火山灰も若干含まれており、ⅡA7・8xグリッドで採取した試料を分析したところ十和田中振火山灰 (To-Cu テフラ) であるとの分析結果が得られている (第VI章第3節)。Ⅱ層は沢状地形埋没後に斜面上方から流れ込んだ自然堆積層で、縄文時代の遺物を多量に含む。縄文時代～近世までの遺構検出面であり、縄文時代には既に堆積していたと考えられる。また、Ⅱ層の分布範囲のうち特に遺物の出土量が多い地点については遺物包含層とみなして精査を行っている (第12図)。

(3) 遺物

土器大コンテナ 750 箱 (縄文土器・土師器・須恵器)、石器大コンテナ 90 箱 (主に縄文時代)、土製品・石製品約 300 点 (主に縄文時代)、金属製品約 30 点 (古代・近世)、鉄生産関連遺物大コンテナ 10 箱 (古代・近世)、陶磁器・ガラス類約 50 点 (古代～近代)、動物遺存体 (縄文時代・古代・近世) が出土している。最も出土量が多いのは大木式土器を主体とする縄文土器で、時期的には早期後葉～後期

初頭のものまで確認されているが、特に前期末～中期後葉（大木6～9式）の出土量が多い。縄文土器については遺構内出土も多いが、遺構同士の重複が激しいことに加えてⅡ～Ⅲ層からの出土量も多く、接合関係も多様であることから出土地点の帰属を決定することが困難であった。したがって本報告では床面直上や遺構内堆積土と判断できた土層から出土したもののみを遺構内出土遺物として掲載したが、同一グリッドから出土した遺構外出土遺物の中にも遺構に帰属するものが多数含まれていると考えられる。石器・石製品・土製品は古代以降と考えられるものが極少量含まれるが、基本的には縄文時代に属するものであり、出土傾向は縄文土器と同様である。古代以降の遺物は遺構内及びⅠ層から出土している。鉄生産関連遺物は大半が3・4号溝からの出土である。

（4） 図面の表現方法

遺構図版は平・断面図とも同一遺構については同縮尺を基本としているが、遺構の規模に応じて両者の縮尺を変えているものもある。遺構図版の網掛処理については目次下凡例図の通りである。なお、縄文時代の豎穴建物及び土坑のうち、重複が激しいものについては多色刷りで掲載している。線の色と重複の順序についても凡例図の通りである。

2 豎 穴 建 物（縄文時代）

253軒検出した。規模・出土遺物重量・遺構の重複関係等は第4表の通りであり、以下では検出状況、堆積土、床面施設、掲載遺物、年代について記載する。

縄文時代の豎穴建物は遺構同士の重複が激しく、単独あるいは2～3軒で精査を行ったものは少ない。また、Ⅱ層中で検出されるものはⅡ層由来の黒褐色土、Ⅲ層中で検出されるものはⅢ層由来の黒褐～暗褐色土が堆積していることがほとんどであり、平面プランの確認が困難であった。その為、遺物や焼土・炭化物の集中があり遺構が重複すると考えられる地点に対しては、下記のいずれかの方法でベルトを設定して掘り下げを行った。

1. 範囲がある程度把握できるものはその範囲の長軸方向及びそれに直交する方向
2. 範囲が不明瞭な地点ではグリッドラインに沿って南北・東西方向

この方法で第一にベルトに沿って層位確認用トレンチを設定し、炉や床面施設が検出された場合はその面まで、それらが検出されない場合は最終検出面であるⅣ層まで掘り下げを行い、断面観察によって壁面の立ち上がりや遺構の切り合いを確認した。また、縄文時代の豎穴建物は垂直方向・水平方向いずれにも重複が激しく全形が判明するものが少ない為、床面施設の検出面及び硬化が確認された面を床面とみなして1軒の建物と認定した。なお、この方法で掘り下げた豎穴建物は断面ラインが建物の中心を通っていないものが多く、掲載した断面図の横幅が最大長、深さが最大深度を必ずしも表現していないことを断っておきたい。

上記の方法で精査を行ったことから、断面図の作成及び写真撮影等の記録は複数の豎穴建物についてまとめて行っている。以下に提示する各図版が精査における一つのまとまりであり、本文の記載はそのまとまり毎に行っている。新旧関係は「旧遺構→新遺構」の順で記載しており、右に行くほど時期の新しい遺構となる。なお、調査は複数の調査員で複数の地点に分かれて行っており、各地点で遺構が認識できた順番に遺構番号を付していることから、遺構番号が連番とならず大きく離れているものも多い。本来であれば連番に修正して提示すれば理解しやすいが、並べ替えを行うと併行して行っていた遺物の整理作業（注記・接合等）に混乱が生じることから大部分は現場で付した番号順を踏襲

した。また、先述の通り縄文土器については遺構の重複が激しく帰属の判断が難しいものも多いことから、竪穴建物についてはまとまり毎に土器集成図を作成して提示した（第117～167図）。なお、集成図では本来の縮尺より小さく掲載している為、詳細は第二分冊を参照して頂きたい。

年代は出土土器の型式と重複関係から推定しており、時期幅は前期末葉から後期初頭までと考えられる。土器型式と建物時期の対応関係は、大木5式を前期後葉、大木6式を前期末葉、大木7 a・b式を中期前葉、大木8 a・b式を中期中葉、大木9式を中期後葉、大木10式を中期末葉とし、大木8 b～9式のように二つの型式に跨るものは中期中～後葉等とした。

A 1・2号竪穴建物

（第1-13・117図、第2-1・2・267・284・358・381図、写真図版8・274・469・477・509・524）

ⅡB 24 1 グリッドに位置する。下段田区東端部の遺物包含層状に堆積するⅡ層中で遺物が集中する隅丸長方形のプランを検出した。新旧関係は、A 2号竪穴建物→A 1号竪穴建物である。

A 1号竪穴建物は南東部が調査区外に延びるため全体形状は明らかでないが、平面形は隅丸方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は湧水のため全体に軟弱だが、上面は緻密で平坦に整っている。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積が基本となるが、土器の集中廃棄がみられる5層は人為堆積の可能性はある。

床面施設として中央やや北西寄りで石囲炉1基を検出した。石組は、外径65×60cmの円形である。燃焼部焼土は30×10cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。燃焼部焼土上面は、床面より5cmほど低い。その他に柱穴7個を検出した。いずれも壁際で検出しているが、配置は不規則である。

遺物は5層を中心に出土しており、縄文土器12点、石器4点、土器片円盤10点を掲載した（a 1～12、c278・1001・1002・1366・g 1～10）。土器片円盤の出土量は本遺構が最も多い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、大木9式新段階の土器が主体となることから中期後葉頃の構築・使用と考えられる。

A 2号竪穴建物は、A 1号竪穴建物に大部分を削平されており全形は不明だが、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面は崩落が著しく大きく外傾して立ち上がる。床面は壁際の僅かな部分しか残存していないが、構築土と考えられる地山由来の砂質土（16層）が確認されている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として北壁付近で柱穴1個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、A 1号竪穴建物との境界付近から出土した縄文土器1点と石器1点を掲載した（a 13、c279）。

本遺構は炉は確認されていないがA 1号竪穴建物と同様の形態と考えられることから住居として使用された竪穴建物であり、A 1号竪穴建物に先行する中期中～後葉のものと考えられる。

A 3・4・15～20号竪穴建物

（第1-14～17・117～119図、第2-2・3・5～7・253・319・320・376・381図、写真図版9～15・275・277・278・462・493・494・520・524）

ⅡB 20 j～22 mグリッドに位置する。検出面は遺物包含層状に堆積するⅡ層～Ⅳ層で、黒～暗褐色の半円形・方形プランが複数重複する形で検出した。この範囲では上面でのプラン把握が困難であったことからグリッドラインに沿って東西・南北方向に複数のベルトを設定して掘り下げを行い、断面観察から遺構の認定を行った。新旧関係は、A 15号竪穴建物→A 16号竪穴建物→A 17号竪穴建物

→A 20号竪穴建物→A 19号竪穴建物→A 18号竪穴建物→A 4号竪穴建物→A 3号竪穴建物→1号土坑である。

A 3号竪穴建物は、断面観察で確認した壁面の立ち上がりから平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層及び下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として床面中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は、外径75×65cmの円形である。燃烧部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、50×46cmの円形で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面よりも10cm程度低く、石組と同規模の掘り方を掘削した後にさらに炉石を設置する部分を掘り込んでいゝる。その他に柱穴2個を検出した。

遺物は炉内や堆積土中から出土しており、縄文土器9点を掲載した（a 14～22）。このうちa 21・22はA 4号竪穴建物との重複部分から出土している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器に大木9式が含まれることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 4号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されているが、床面残存範囲から平面形は円形と考えられる。壁面は下位が緩く内弯し、上部は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層及び下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央西寄りで石囲炉1基を検出した。石組は、外径65×50cmの方形である。燃烧部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、35×31cmの不整円形で、被熱深度は約4cmである。その他に周溝1条と柱穴1個を検出した。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器3点、土製品1点を掲載した（a 21～26、c 1・1158・1159、e 60）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることと他遺構との重複関係から中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 15号竪穴建物は、A 3号竪穴建物の床面精査時に炉の周辺で床面と異なる黒褐色土の広がりを確認し、掘り下げたところ床面施設を検出したことから竪穴建物と認定した。大部分を新期の竪穴建物の壊されており、平面形は不明である。壁面は直立し、床面はIV層を平坦に整えている。堆積土は黒～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴1個を検出した。

遺物は堆積土中から少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物が乏しく詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から前期の構築・使用と考えられる。

A 16号竪穴建物は、A 3号竪穴建物の床面精査時に床面と異なる黒褐色土の広がりを確認し、掘り下げたところ床面施設を検出したことから竪穴建物と認定した。大部分を新期の竪穴建物の壊されているが、平面形は方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝2条と柱穴6個を検出した。周溝は壁面に沿って2条並行しており、建て替え・拡張が行われていた可能性がある。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器8点と石器1点を掲載した（a 44～51、c 1160）。縄文土器のうちa 44はA 19号竪穴建物との重複部分から出土しており、型的には明らかに帰属する可能性がある。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木5～6式主体であることから前期後～末葉の構築・使用と考えられる。

A 17号竪穴建物は、黒褐色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、礫の露出が多く凹凸が著しい。また、部分的ににぶい黄褐色土を充填している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴10個を検出した。柱配置はP 01～06を使用する六角形とP 01・02・07～10を使用する六角形の2案が考えられ、建て替えが行われていた可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しているが、縄文土器は地文の破片が多く図示していない。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から前期末～中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 18号竪穴建物は、遺物包含層状のII層中で石囲炉を検出したことから、竪穴建物と想定して精査を行った。当初はA 19号竪穴建物を含めて1軒と認識していたが、床面に段差があり、その段差に合わせて堆積土も異なることが判明したことから2軒に分離した。その為、堆積土中の遺物のほとんどはA 19号竪穴建物と一括して取り上げている。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形で、壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、湧水のためやや軟弱で凹凸が認められる。堆積土は黒～黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。石組は外径80×60cmの円形と考えられるが、南北壁の炉石は失われている。燃烧部焼土は54×54cmの円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴7個を検出した。柱配置はP 01～04を使用する四角形とP 01～03・05～07を使用する六角形の2案が考えられ、建て替えが行われていた可能性がある。

遺物は堆積土中から出土している。縄文土器の大半はA 19号竪穴建物と一括で取り上げており、3点を掲載した(a 52～54)。また、本遺構に帰属するものとして石器2点を掲載した(c 1161・1162)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 19号竪穴建物は、先述の通りA 18号竪穴建物の床面精査時に認識した竪穴建物である。平面形は隅丸方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、湧水のためやや軟弱で凹凸が認められる。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴10個を検出した。北西側の柱穴が確認されていないが、柱配置はP 01～07を使用する八角形とP 01～04・06～09を使用する九角形の2案が考えられ、建て替えが行われていた可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、本遺構に帰属するものとして石器2点と土器片円盤1点を掲載した(c 1163・1164、g 12)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 20号竪穴建物は、遺物包含層状のII層中で直線的に並ぶ石列を含む黒褐色の長方形プランとして検出した。西側をA 19号竪穴建物に壊されているが、平面形は長方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。北壁及び東壁際付近で連続する直立した板状の石列を検出した。石の長径は25cm程度で、

多少の異同はあるものの直近の壁面に沿うように並べられている。床面はⅣ層を削り出しているが湧水の影響により全体に脆弱で、部分的に薄く黄褐色土を敷き均し平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として地床炉2基を検出した。直接的な重複関係が無い為、新旧関係は不明である。炉1は東側に位置する地床炉で、P 265に大部分を壊されており平面形と規模は不明である。被熱深度は約2cmである。炉2は中央に位置する地床炉で、燃焼部焼土は68×61cmの楕円形、被熱深度は約2cmである。炉1は床面と同じ高さであるが、炉2は床面を若干掘り込んでいる。その他に柱穴12個を検出した。柱配置はP 01～06を使用する六角形とP 01・03・04・07～12を使用する九角形の2案が考えられ、建て替えが行われていた可能性がある。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器15点を掲載した（a 55～69）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、床面直上から出土した土器が大木8 a～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 5・8号竪穴建物

（第1-18・119図、第2-3・4図、写真図版16・275・276）

ⅡB 16・17 1グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、自然流路の付近で黒褐色の半円形プランとして検出した。A 10号竪穴建物、1号溝とも重複関係にあり、新旧関係はA 8号竪穴建物→A 5号竪穴建物→A 10号竪穴建物、1号溝である。

A 5号竪穴建物は、東側は自然流路に削平されているが、残存する壁面及び炉・柱穴の配置から平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層を平坦に整え、窪みに褐色土を充填することで構築しているが、凹凸が著しい。堆積土にはぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。建物南側の床面付近には炉から流出したと考えられる二次堆積の焼土が堆積している。

床面施設として南側で複式炉の可能性がある石組1基を検出した。現地性焼土が残存する部分が前室、それに隣接する北側の石の集中部分が後室であったと考えられる。ただし、炉石は散逸し元位置を留めていないことから本来の形状や構築方法は不明である。燃焼部焼土は65×40cmの不整楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さである。その他に周溝2条と柱穴9個を検出した。柱穴はP 01～04が主柱穴になると考えられ、東側の床面は消失しているが八角形の柱配置であった可能性がある。

遺物は床面直上と堆積土中から出土しており、縄文土器7点を掲載した（a 27～33）。このうちa 33はA 8号竪穴建物との重複部分から出土しており、形式的にはA 8号竪穴建物に帰属すると考えられる。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 8号竪穴建物は、大部分をA 5・10号竪穴建物と1号溝に壊されており、北東隅コーナー部と床面の一部が残存するのみである。コーナー部の形状から推定される平面形は方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層を平坦に整えているが、若干凹凸が認められる。堆積土は灰黄褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として地床炉の可能性のある現地性焼土1基を検出した。大部分を新期の竪穴建物に壊されており、60×20cmの範囲のみ残存している。被熱深度は約2cmである。その他に柱穴3個を検出した。いずれも壁面際に位置しており、壁柱穴になる可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 37）。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物及びA 5・10号竪穴建物との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 6・7・22～24号竪穴建物

（第1-19・20・119・120図、第2-4・7図、写真図版17・18・275・276・278）

ⅡB 22 k～23 lグリッドに位置する。検出面はⅡ層下位で、遺物を多量に含む黒褐色の不整形プランとして検出した。また、この範囲では一部遺構上面にⅢ層より新しい沢状地形堆積土が被覆しておりプランの把握が困難であった為、グリッドラインに沿って東西・南北方向に複数のベルトを設定して掘り下げを行い、断面観察から遺構の認定を行った。現地で確認できた新旧関係は、A 22号竪穴建物→A 23号竪穴建物→A 7号竪穴建物→A 24号竪穴建物→A 6号竪穴建物である。ただし、出土土器はいずれも中期中葉に属するが、A 6・7・24号竪穴建物が大木8 a式であるのに対し、それより古いA 23号竪穴建物が大木8 b式であることから新旧関係は前後する可能性もある。

A 6号竪穴建物は、堆積土下位で石囲炉を検出したことから竪穴建物と判断した。大部分が削平されているが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を削り出しているが、湧水のため軟弱で凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。石組は、径90cmの円形である。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、27×27cmの円形で、被熱深度は約2cmである。炉内と床面は同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴7個を検出した。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 34・35）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、炉内出土土器が大木8 a式新段階であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 7号竪穴建物は、Ⅳ層まで掘り下げた時点で断面観察を行ったところ、壁面と考えられる立ち上がりを検出したことから竪穴建物と認定した。堆積土の大部分を掘り上げた時点で認識した為残存部分は少ないが、平面形は円形または隅丸方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は黒～黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴14個を検出した。このうちP 01～06が支柱穴と考えられ、床面北西側にも柱穴が存在したと仮定すれば七または八角形の柱配置となる可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 36）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 a式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 22号竪穴建物は、A 7号竪穴建物の範囲外で周溝と柱穴を検出したことから竪穴建物と認定した。周溝と柱穴のみを検出した為、平面形・壁面形状・床面の状況は不明である。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積と考えられる。

床面施設として周溝1条と柱穴5個を検出した。

本遺構に伴う堆積土からは遺物は出土していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物の可能性はあるが詳細は不明である。また、出土遺物が無い為年代も不明である。

A 23号竪穴建物は、A 7号竪穴建物床面精査中にそれより若干低い位置にある床面を検出し、断面観察でそれに対応する壁面を確認したことから竪穴建物と認定した。大部分を新期の竪穴建物に壊

されており、平面形・壁面形状は不明である。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 70）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物の可能性はあるが、詳細は不明である。年代は、出土土器が大木8b式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 24号竪穴建物は、断面観察で壁面の立ち上がりを確認できたことから竪穴建物と認定した。大部分が後世の沢の流入により壊されているが、平面形は長方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 71）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物の可能性はあるが、詳細は不明である。年代は、出土土器が大木8a式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

（村上・村田）

A 9～11・21・25号竪穴建物

（第1-21～23・120図、第2-4・7・381図、写真図版19～22・276～278・524）

ⅡB 16j～18kグリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層で、遺構と考えられるプランを断片的に確認したが、大部分がⅡ層由来の黒褐色流入土に被覆されており、プラン把握が困難であった為、グリッドラインに沿って東西・南北方向に複数のベルトを設定して掘り下げを行い、断面観察から遺構の認定を行った。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係はA 8号竪穴建物→A 25号竪穴建物→A 9号竪穴建物→A 10号竪穴建物→A 11号竪穴建物→A 21号竪穴建物→1号溝である。

A 9号竪穴建物は、黒褐色の半円形プランとして検出した。南側をA 10・11号建物に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を削り出しているが、凹凸が著しく平坦ではない。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。炉石はほとんどが元位置を留めておらず、形状・規模は不明である。燃焼部焼土は42×22cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。その他に柱穴3個を検出した。

遺物はA 10号竪穴建物と一括して取り上げており、いずれかに帰属するものとして縄文土器1点（a 38）、本遺構に帰属するものとして土器片円盤1点を掲載した（g 11）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 10号竪穴建物は、黒褐色の方形プランとして検出した。西側はA 11号竪穴建物に壊されているが、平面形は長方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として東側で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は38×28cmの楕円形で、被熱深度は約1.5cmである。なお、焼土より若干離れた位置で抜き取り痕の可能性のある窪みが複数検出されており、本来は石囲炉であった可能性もある。その他に、六角形の柱配置となる柱穴6個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 39・40）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 11号竪穴建物は、流入土の下位でにぶい黄褐色土の広がりを検出し、断面観察を行ったところ

それに対応する壁面が確認されたことから竪穴建物と認定した。西側はA 21号竪穴建物に壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、凹凸が著しく平坦ではない。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で複式炉1基を検出した。二室構成の複式炉で、長方形の石組内を区切る形で構築されている。西側が前室にあたり、前室は外径50×45cm、後室は外径40×45cmである。前室の北壁は炉石が失われている。燃焼部焼土は前室南壁付近に位置し、17×12cmの楕円形で、被熱深度は約1cmである。掘り方は石組とほぼ同じ大きさの土坑状で、壁面に炉石を立て並べている。その他に柱穴6個を検出した。

遺物は炉内や堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 41)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木10式であることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 21号竪穴建物は、流入土を除去したところ黒褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられる。上面が削平されており、壁面形状は不明である。床面はIV層を削り出しているが、凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土が確認できるが、堆積が薄く様相は不明である。

床面施設として西端で複式炉と考えられる石組を検出した。ほとんどの炉石が元位置を留めておらず、平面形と規模は不明である。その他に柱穴3個を検出した。

遺物は堆積土中から少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが他遺構との重複関係から中期末葉以降の構築・使用と考えられる。

A 25号竪穴建物は、II B 16 k グリッド内の黒褐色土を掘り下げたところIV層で炉を検出し、それを囲むように柱穴が検出されたことから竪穴建物と認定した。炉が2基検出された為2軒の建物が重複している可能性も考えられたが、炉の検出面が同じであることと堆積土の区別ができなかったことから1軒と判断した。堆積土の大部分を掘り下げた時点で認識した為、壁面形状は不明である。柱穴の配置から平面形は円形と考えられる。床面はIV層を削り出しているが、凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土が主体であるが、様相は不明である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は南東側に位置する石囲炉であるが、炉石の大部分は失われており形状と規模は不明である。燃焼部焼土は45×37cmの楕円形で、被熱深度は約1.5cmである。炉2は北東側に位置する石囲炉で、北壁と西壁の炉石は失われているが、外径45×40cmの方形と考えられる。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。その他に、六角形の柱配置となる柱穴6個を検出した。

遺物は柱穴内や堆積土中から出土しており、縄文土器3点を掲載した(a 72～74)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 12・14号竪穴建物

(第1-24・25・120図、第2-5・274図、写真図版23・24・277・473)

II B 18 i～19 j グリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～IV層で、当初はA 12号竪穴建物のみを黒褐色の楕円形プランとして検出したが、東壁以外のプランが不明瞭であった為、II B 18 j グリッド内全体を掘り下げ、わずかに残る西壁面と炉の位置から1軒の竪穴建物と認定した。また、A 12

号竪穴建物のプラン外に炉が検出された為、隣接するⅡB 18 i グリッド内にも竪穴建物が存在することが判明した。ただし、この時点でベルト以外の堆積土をほとんど掘り下げてしまっていた為、炉と柱穴の配置から範囲を推定し、A 14号竪穴建物とした。A 14号竪穴建物はA 30・31号竪穴建物とも重複関係にあり、それらを含めた新旧関係はA 31号竪穴建物→A 14号竪穴建物→A 12号竪穴建物→A 30号竪穴建物である。

A 12号竪穴建物は、平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を削り出し、窪みに黒褐～褐色土を充填して構築しているが、Ⅳ層に礫が多量に含まれている為凹凸が著しい。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として石囲炉1基を検出した。石組は80×70cmの円形で、北側の炉石が1個抜けておりC字状となる。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、52×40cmの不整楕円形で、被熱深度は約3cmである。掘り方は石組より一回り大きめのドーナツ状で、炉内中央部が若干盛り上がっている。その他に柱穴5個を検出した。このうちP 01～04は壁際に位置するが、支柱穴であり四角形の柱配置になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した（a 42・43、c 337）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8a式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 14号竪穴建物は、炉と柱穴の配置から平面形は楕円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状は不明である。床面はA 12号竪穴建物と同じくⅣ層を削り出し、窪みに暗褐色土を充填して構築しているが、Ⅳ層に礫が多量に含まれている為凹凸が著しい。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として西側で石囲炉1基を検出した。石組は長軸80cmの方形プランと考えられるが、東側の炉石が無い為不明である。燃焼部焼土は炉内中央に位置している。炉内底面はⅣ層の礫が露出しており、熱変成が確認できるのは26×13cmの楕円形の範囲のみで、被熱深度は約1.5cmである。掘り方は石組より一回り大きめのドーナツ状であるが、礫が多く不定形である。炉内中央部は若干盛り上がっている。また、竪穴建物の範囲内では多数の柱穴が検出されているが、その中から八角形の柱配置となる柱穴8個を本建物に伴う柱穴と判断した。

遺物は、本遺構に伴う堆積土中からは出土していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は無いがA 12・30号竪穴建物との重複関係から中期中葉以前の構築・使用と考えられる。

A 13号竪穴建物

（第1-25図、写真図版24）

ⅡB 15 k グリッドに位置する。検出面はⅢ層下位で、ⅢB 15 k～16 l グリッドのⅢ層を平面的に掘り下げたところ、炉及びその周辺に床面と考えられる平坦面を検出した。炉を検出した時点で堆積土の大部分を掘り下げてしまっていた為、炉と周辺の柱穴配置から本建物の範囲を推定した。床面推定範囲の南東側が1号溝とわずかに接する。炉と柱穴の配置から平面形は円形と考えられるが、壁面が残存していない為壁面形状と堆積の様相は不明である。床面は、残存範囲をみる限りⅢ層下位～Ⅳ層上面を平坦に整えている。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は東壁の炉石が北西－南東方向に設置されており、外径96×73cmの台形となる。燃焼部焼土は炉内東壁付近に位置し、33×26cmの不整円形で、

被熱深度は約3cmである。炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみを掘り込んでいる。また、竪穴建物の範囲内では多数の柱穴が検出されているが、その中から六角形の柱配置となる柱穴6個を本建物に伴う柱穴と判断した。

遺物は、本遺構に伴う堆積土中からは出土していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であるが、出土遺物が無く、他遺構との重複もほとんど無い為年代は不明である。

A 26～29・33号竪穴建物

(第1-26・27・120・121図、第2-7～9・320・373・381図、写真図版25～28・278・279・494・524)

ⅡB 15 h～16 j グリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層で、斜面上方で黒褐～灰黄褐色の不整形プランを検出したことから南北方向に複数のベルトを設定して掘り下げを行った。また、斜面下方では炉を複数検出しており、これらが斜面上方のプランに伴う炉であると確認できたことから複数の竪穴建物が重複しているものと判断し、断面観察から5軒の竪穴建物と認定した。他遺構とも重複関係にあり、新旧関係はA 26号竪穴建物→A 28号竪穴建物→A 29号竪穴建物→A 33号竪穴建物→A 27号竪穴建物、3号土坑、2号炉である。

A 26号竪穴建物は、北壁の一部と炉が検出されたのみで平面形は不明である。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を平坦に整えることで構築しているが、礫が露出しており凹凸が著しい。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として石囲炉1基を検出した。石組は外径70×65cmの円形である。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、30×26cmの円形で、被熱深度は約1.5cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は堆積土中から出土しており、石器1点を掲載した(c 1165)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが、他遺構との重複関係から中期中葉以前の構築・使用と考えられる。

A 27号竪穴建物は、斜面下方である南側が削平されているが、平面形は不整形円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層及びA 33号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉2基を検出した。2基は重複関係にあり、炉1が炉2を壊している。炉1は二室構成の複式炉で、南側が前室になる。石組は、前室が外径45×50cm、後室が外径37×36cmで、平面形は前室側が広い台形である。前室・後室とも炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面より低い位置にあり、後室よりも前室のほうが低い。掘り方は石組と同規模の範囲を方形に掘り込み、その壁面に礫を立て並べている。炉2は単室の石囲炉で、外径は65×65cmの方形であるが、東側の炉石は無く開口している。炉内では北壁寄りに焼土塊の集積が認められるが、明瞭な燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝3条と柱穴6個を検出した。柱穴のうちP 01・05・06は壁柱穴になる可能性があるが、床面南側が残存していない為柱配置は不明である。

遺物は床面直上や炉内堆積土から出土しており、縄文土器6点と土製品1点、土器片円盤2点を掲載した(a 75～80、e 8、g 13・14)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物が大木10式古～中段階主体であること

から中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 28号竪穴建物は、A 27・29号竪穴建物堆積土を掘り込んで構築されており、かつ南側が沢状地形堆積土と重なっていることからプランの判別ができず大部分を掘り下げてしまった。その為、北壁の一部と炉を検出できたのみであり、平面形は不明である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層及びA 27号竪穴建物堆積土を平坦に整え、さらにIV層まで掘削した部分では明黄褐色土を充填して構築している。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として石囲炉1基を検出した。石組は外径56×40cmの方形であるが、西壁の炉石は失われており残存していない。炉内に明瞭な燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と土器片円盤2点を掲載した（a 81、g 15・16）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいがA 27・29号竪穴建物との重複関係から中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 29号竪穴建物は、大部分が沢状地形と重複しており北壁付近が確認できたのみである。残存する北壁面が東西方向に直線的に延びることから平面形は方形と考えられる。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面は、沢状地形堆積土を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が確認できるが、大部分をA 28号竪穴建物に壊されており堆積の様相は不明である。

床面施設として柱穴2個を検出したが、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 82）。

本遺構は床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式土器であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 33号竪穴建物は、A 27号竪穴建物の床面精査中に床面より一段低い位置でにぶい黄褐色の円形プランとして検出した。上面はA 27号竪穴建物に壊され、南側は沢状地形と重複している為壁面はほとんど残存していない。床面施設の配置から平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で石囲炉1基を検出した。石組は外径68×57cmの方形で、東西壁は若干膨らんでいる。焼土は炉内北壁付近に位置し、29×19cmの楕円形で、被熱深度は約1cmである。炉内は床面より低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝2条と柱穴13個を検出した。柱穴は規模の大きいP 09～11が主柱穴になると考えられるが、東側がA 27号竪穴建物により壊されている為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と土器片円盤1点を掲載した（a 87、e 17）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木10式であることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 30・31号竪穴建物

（第1-28・121図、第2-8図、写真図版29・279）

II B 19 i～20 j グリッドに位置する。検出面はIV層で、III層除去後に炉石が露出する黒褐色の円形プランとして検出したが、検出時点で堆積土はほとんど残存していなかった為、炉と柱穴の配置から竪穴建物と認定した。隣接して炉が2基検出されており、同一建物の建て替えの可能性も考えられたが、検出レベルが異なることからそれぞれ1軒の竪穴建物に伴う炉と判断した。A 14号竪穴建物

とも重複関係にあり、新旧関係はA 31号竪穴建物→A 14号竪穴建物→A 30号竪穴建物である。

A 30号竪穴建物は、堆積土の残存範囲と柱穴の配置から平面形は円形と考えられるが、壁面が残存していない為壁面形状は不明である。床面はIV層を削り出しているが、礫が露出しており凹凸が著しい。堆積土は黒褐色土が主体であるが、堆積が薄く様相は不明である。また、A 31号竪穴建物に伴う可能性もあるが、凹凸部分に床面構築土と考えられる黒褐色土も確認されている。

床面施設として石囲炉1基を検出した。石組は68×60cmの円形で、北東側の炉石が無く開口している。燃焼部焼土は検出されなかった。炉内には石組と同規模の土坑状の掘り込みがあるが、炉石を設置する前に黒褐色土で充填されており、炉石は掘り込みの外側に設置されている。また、竪穴建物の範囲内では多数の柱穴が検出されているが、その中から八角形の柱配置となる柱穴8個を本建物に伴う柱穴と判断した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 83)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 31号竪穴建物は、炉と柱穴の配置から平面形は円形と考えられるが、壁面が残存していない為壁面形状は不明である。床面はIV層を平坦に整えることで構築しているが、凹凸が著しい。堆積土は炉の周辺に残存するのみで、堆積の様相は不明である。

床面施設として石囲炉1基を検出した。石組は外径63×60cmの円形で、南東側の炉石が無く開口している。燃焼部焼土は検出されなかった。炉内には石組と同規模の土坑状の掘り込みがあるが、炉石を設置する前に黒褐色土で充填されており、炉石は掘り込みの外側に設置されている。また、竪穴建物の範囲内では多数の柱穴が検出されているが、その中から八角形の柱配置となる柱穴8個を本建物に伴う柱穴と判断した。

遺物は炉内堆積土から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 84)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいがA 30号竪穴建物との重複関係から中期中葉以前の構築・使用と考えられる。

A 32・38・39号竪穴建物

(第1-29・121図、第2-9・11・274・362・381図、写真図版30・31・279～281・473・512・524)

II B13 i～14 j グリッドに位置する。検出面はIII層下位～IV層で、黒褐色の長楕円形プランとして検出した。当初は1軒の竪穴建物と考えていたが、北壁が直線的ではなく連弧状になることから壁面が確認できた時点で2軒の竪穴建物に変更した(A 32・38号竪穴建物)。また、A 32号床面精査中に床面より若干低い位置で周溝が検出されたことからさらに1軒の竪穴建物を認定した(A 39号竪穴建物)。他遺構とも重複関係にあり、新旧関係はA 56・65・80号竪穴建物、35・53号土坑→A 39号竪穴建物→A 38号竪穴建物→A 32号竪穴建物である。

A 32号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されているが、残存する北壁と炉の配置から平面形は円形と考えられる。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面は、北側はIV層の再堆積土であるA 39号竪穴建物堆積土、南側はA 56・65号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で石囲炉1基を検出した。石組は、外径65×55cmの長方形であるが、南東側の炉石が1個失われている。燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 2 点と石器 2 点を掲載した（a 85・86、c 338・339）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 10 式古段階であることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 38 号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、北側はⅣ層、南側は A 56・80 号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐～褐灰色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として南西側で石囲炉 1 基を検出した。石組は長軸 60cm の楕円形と考えられるが、東側は攪乱により炉石が失われている。燃烧部焼土は検出されなかった。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。また、中央東寄りで礫の集中範囲を 1 箇所検出した。石囲炉の可能性もあるが礫は倒れており断定はできなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 3 点と石製品 1 点、土器片円盤 1 点を掲載した（a 108～110、d 43、g 21）。縄文土器のうち a 110 は A 45 号竪穴建物との重複部分から出土しており、そちらに帰属する可能性もある。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 9 式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 39 号竪穴建物は、A 32 号竪穴建物床面で土坑を検出した為精査後に床面全体を掘り下げたところ、北西壁際で周溝を検出したことから 1 軒の竪穴建物と認定した。大部分が他遺構に壊されているが、平面形は円形と考えられる。壁面は残存していない為、壁面形状は不明である。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土はⅣ層の再堆積土が確認できるが、堆積が薄く様相は不明である。

床面施設として周溝 2 条を検出した。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器が無い為詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。平面プランが A 32 号竪穴建物とほぼ同じであり、建て替え前のプランであった可能性もある。

A 34 号竪穴建物

（第 1-29・121 図、第 2-9・292・374 図、写真図版 32・279・280・481・519）

Ⅱ B 13 h～14 i グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、灰黄褐色の方形プランとして検出した。多数の竪穴建物や土坑と重複関係にあり、新旧関係は A 54・60・65 号竪穴建物、28・31 号土坑→A 34 号竪穴建物→11 号土坑である。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は長方形と考えられる。壁面は、下位はほぼ垂直に立ち上がるが中位より上は崩落により外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層及び A 54・60・65 号竪穴建物堆積土を平坦に整えることで構築しているが、先行する土坑の堆積土が落ち込んでいる為、本遺構の床面もその部分は窪んでいる。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南西側で石囲炉 1 基を検出した。石組は、外径 76 × 53cm の長方形である。燃烧部焼土は炉内北壁に位置し、32 × 24cm の楕円形で、被熱深度は約 2.5cm である。炉内は床面より若干低い位置にあり、掘り方は石組より一回り大きな皿状で、南壁以外は掘り込みの壁面に沿って炉石を立て並べている。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器 6 点と石器 2 点、土製品 1 点を掲載した（a

88～93、c 1049・1050、e 15)。なお、土製品（斧形土製品）はA 44号竪穴建物堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階～10式古段階であることから中期後～末葉の構築・使用と考えられる。

A 35・48・64号竪穴建物

(第1-30・31・122図、第2-9・10・14図、写真図版33・34・280・283)

II B 14 d～15 e グリッドに位置する。検出面はIV層で、最初にA 35号竪穴建物を黒褐色～灰黄褐色の円形プランとして検出した。また、東側に位置するA 58号竪穴建物を同時に精査していたところ、A 35号竪穴建物との間に黒褐色土の方形プランを検出し、A 35号竪穴建物の断面観察用ベルトにもそのプランの断面が確認できたことからこれをA 48号竪穴建物と認定した。この地点では多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係は54・56・65号土坑→A 64号竪穴建物→61号土坑→58・60号土坑→A 35号竪穴建物→A 48号竪穴建物→A 58号竪穴建物、9号炉、1号配石遺構である。

A 35号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられる。壁面は外傾しながら立ち上がるが、崩落や抉れによりIV層の礫が張り出している部分がある。床面はIV層を削り出し、炉の周辺は灰黄褐色を充填して構築しており、中央から南側に向かって傾斜している。堆積土はにぶい黄褐色～灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で石囲炉1基を検出した。石組は、外径88×72cmの方形である。燃焼部焼土は炉内中央～北側に位置し、50×50cmの円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面と同じ傾斜で南側に向かって下っており、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝4条と柱穴3個を検出した。

遺物は堆積土下位を中心に出土しており、縄文土器6点を掲載した(a 94～99)。このうち、a 99はA 40号竪穴建物堆積土下位出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 48号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平、東側はA 58号竪穴建物に壊されているが、平面形は長方形と考えられる。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層とA 35号竪穴建物堆積土を削り出しているが、A 35号竪穴建物堆積土の範囲は凹凸が著しい。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として柱穴4個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器5点を掲載した(a 149～153)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 64号竪穴建物はA 35号竪穴建物床面精査中に他の土坑と共に円形プランとして検出した。平面形は円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は、断面図の記録を忘れてしまった為不明である。

床面施設として柱穴4個を検出した。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物が無く詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中期中葉以前の構築・使用と考えられる。

A 36 号竪穴建物

（第 1-31・122 図、第 2-10・253・377・381 図、写真図版 35・280・281・462・520・524）

II B 15 h グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色の方形プランとして検出した。A 27・55 号竪穴建物と重複関係にあり、新旧関係は A 55 号竪穴建物→A 36 号竪穴建物→A 27 号竪穴建物である。南側を A 27 号竪穴建物に壊されているが、平面形は方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南東側で石囲炉 1 基を検出した。石組は、外径 86 × 78cm の円形である。燃焼部焼土は炉内東壁付近に位置し、43 × 18cm の楕円形で、被熱深度は約 1 cm である。炉内には石組より小規模な土坑状の掘り込みがあるが、炉石を設置する前に灰黄褐色土で充填されており、炉石は掘り込みの外側に設置されている。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 4 点と石器 1 点、土製品 1 点、土器片円盤 2 点を掲載した（a 100～103、c 2、e 87、g 18・19）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 9 式新段階主体であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 37・40～47・58・59・62・63 号竪穴建物

（第 1-32～36・122～124 図、第 2-11～16・238・258・284・292～295・320～323・362・365・373・374・377・381 図、写真図版 36～43・281～285・465・481～483・494～496・512～514・517～520・524）

II B 14 e～16 h グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、広範囲に遺物を含む包含層状の堆積があり、斜面上方である北側で壁面を考えられる弧状または直線状のプランを検出したことから複数の遺構が重複しているものと判断した。ただし、上面ではプランの把握が困難であったことから最初にグリッドラインに沿って東西・南北方向に複数のベルトを設定し、その脇にⅣ層まで到達するトレンチを掘削して断面観察で床面と考えられる平坦面を確認することで遺構の認定を行った。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係は A 63 号竪穴建物→A 62 号竪穴建物、57 号土坑→A 58 号竪穴建物、64 号土坑→47 号土坑→A 43・45・47 号竪穴建物→A 42 号竪穴建物→A 44 号竪穴建物→A 41 号竪穴建物→A 40 号竪穴建物→A 37・59 号竪穴建物→A 46 号竪穴建物、3・39・40 号土坑である。

A 37 号竪穴建物は、II B 13～15 g グリッド内の南北方向に設定したベルト脇のトレンチで確認された平坦面のうち最も北側に位置する。ベルトを残しながら上位の堆積土を除去したところ、灰褐色の楕円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層及び下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は灰褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で石囲炉 1 基を検出した。南壁をトレンチ掘削時に壊してしまったが、石組は外径 57 × 50cm の方形である。燃焼部焼土は炉内北側に位置し、24 × 24cm の円形で、被熱深度は約 2 cm である。炉内は床面より若干低い位置にあり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は炉内や堆積土中から出土しており、縄文土器 4 点と土製品 1 点、土器片円盤 1 点を掲載した（a 104～107、e 88、g 20）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器に大木 10 式古段階が含まれることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 40 号竪穴建物は、A 42 号竪穴建物掘り下げ中にプラン外で炉を検出し、それを囲むように柱穴が検出されたことから竪穴建物と認定した。堆積土の大部分を掘り下げた時点で認識した為、壁面形状は不明である。柱穴の配置から平面形は円形と考えられる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉 1 基を検出した。石組は外径 70 × 65cm の方形であるが、北壁と南壁の炉石が無く開口している。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、62 × 45cm の楕円形で、被熱深度は約 2cm である。その他に柱穴 12 個を検出した。このうち P 01 ~ 03・05・08 ~ 12 が壁柱穴になると考えられる。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器 8 点と石器 2 点、石製品 1 点、土製品 1 点を掲載した (a 111 ~ 118、c 151・1051、d 64、e 89)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b ~ 9 式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 41 号竪穴建物は、A 40 号竪穴建物の床面精査中ににぶい黄褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は三角形に近い楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ層及び下位の遺構堆積土を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央東寄りで石囲炉 1 基を検出した。炉石の大部分が失われており、平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は 14 × 10cm の楕円形で、被熱深度は約 1cm である。掘り方は石組と同規模の浅い土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。その他に柱穴 14 個を検出した。このうち P 01・03 ~ 05・07・09・11・13・14 が壁柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 4 点を掲載した (a 119 ~ 122)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 9 式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 42 号竪穴建物は、Ⅱ B 13 ~ 15 g グリッド内の南北方向に設定したベルト脇のトレンチで確認された平坦面のうち中央に位置し、このベルトで認識した竪穴建物の中で最も規模が大きい。ベルトを残しながら上位の堆積土を除去したところ、にぶい黄橙色の円形プランとして検出した。後述するように周溝と柱穴の配置から複数の建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。斜面下方である南側は新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は隅丸方形に近い円形で、壁面は西 ~ 北西壁はほぼ垂直に立ち上がるが、北 ~ 東壁は外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を削り出しているが、凹凸や段差が複数認められる。堆積土はにぶい黄橙色土や褐灰色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉 2 基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉 1 は北西側に位置する石囲炉で、石組は 72 × 64cm の方形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、50 × 37cm の範囲で、被熱深度は約 1.5cm である。掘り方は石組と同規模の浅い土坑状で、壁面に沿って設置する部分を掘り込んで炉石を立て並べている。炉 2 は中央に位置する石囲炉で、石組は直径 40cm 程度の円形である。ただし、平・断面図の作成を怠ってしまった為、詳細図を作成できなかった。明瞭な燃焼部焼土は確認されていないが、炉内中央では礫が検出されている。その他に周溝 10 条と柱穴 29 個を検出した。周溝の重複関係から少なくとも 3 回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。想定される段階として、構築段階である第一段階は円形プランで溝 2・6 が巡るが、それに伴う柱穴は確認できない。第二段階は円形プランで溝 1・7 が巡り、P 15・19・21・27・29 が主柱穴になるもの、第三段階は隅丸方形プランで溝 1・3・5 が巡り、P 02・07・11・21・26 が主柱穴になるもの、

第四段階は隅丸方形プランで溝1・4・9・10が巡り、P 03・08・10・13・27・28が支柱穴になるものという変遷が考えられる。なお、位置関係から炉2が第一段階、炉1が第二～四段階のいずれかに伴うものと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、A 43号竪穴建物と一括して取り上げているものが多い。特に縄文土器はA 43号竪穴建物に帰属するものも含まれると考えられるが、ここでは18点を掲載した(a 123～140)。この他、本遺構に帰属するものとして石器8点を掲載した(c 1052～1056・1166～1168)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 43号竪穴建物は、A 42号竪穴建物床面で検出した。当初はA 42号竪穴建物と同一の竪穴建物と考えていたが、周溝の巡る方向が異なり、その内側で炉を検出したことから別の竪穴建物と認定した。周溝と柱穴の配置から平面形は円形と考えられる。床面精査の段階で認識した為、壁面形状は不明である。床面はIV層を整えており、A 42号竪穴建物とほぼ同じ高さである。堆積土はA 42号竪穴建物として掘り上げてしまったが、別遺構と考えられる土質の変化は確認できなかった。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は中央に位置する地床炉で、燃焼部焼土は38×22cmの楕円形、被熱深度は約3cmである。炉2は中央東寄りに位置する地床炉で、燃焼部焼土は22×20cmの円形、被熱深度は約2cmである。その他に周溝3条と柱穴7個を検出した。柱穴のうちP 01・04～06が支柱穴になると考えられる。

遺物は先述の通りA 42号竪穴建物と一括して取り上げているものが多いが、本遺構に帰属するものとして赤彩が付着した縄文土器2点と土器片円盤1点を掲載した(r 1・2、g 22)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 44号竪穴建物は、A 41号竪穴建物の東側に広がるにぶい黄褐色の円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係は無く、新旧関係は不明である。炉1は中央南寄りに位置する石囲炉で、平面形は方形または楕円形と考えられるが南壁の炉石が失われている。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、32×10cmの不整形で、被熱深度は約3cmである。炉2は南側に位置する石囲炉であるが、炉石の大部分が失われており平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、13×10cmの不整形で、被熱深度は約1cmである。その他に周溝3条と柱穴10個を検出した。柱穴は北側に集中しており、柱配置は不明である。

遺物は本遺構の堆積土の他にA 42・43号竪穴建物との重複部分からも出土しており、縄文土器4点と石器13点、石製品8点、土製品1点、土器片円盤1点を掲載した(a 141～144、c 1003・1057～1061・1169～1175、d 42・44・46・47・56・57・65・116、e 15、g 23)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式古段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 45号竪穴建物は、A 41・44号竪穴建物床面精査時にこれらとは異なる方向に巡る周溝を検出したことから1軒の竪穴建物と認定した。周溝4条を検出したのみで、平面形・壁面形状・床面の状況・堆積状況は不明である。

遺物は床面直上から少量出土しており、石器1点を掲載した(c 1176)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物の可能性はあるが、詳細は不明である。出土遺物は無いが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 46号竪穴建物は、灰黄褐色の円形プランとして検出した。当初は土坑と考えていたが、床面で周溝を検出したことから小型ではあるが竪穴建物と認定した。平面形は円形と考えられるが、南側を他遺構の精査中に壊してしまっている。壁面は丸みをもって立ち上がり、床面はIV層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条を検出した。

遺物は堆積土中から少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は小型の土坑の可能性もあるが住居として使用された竪穴建物と判断した。出土遺物は乏しいが、他遺構との重複関係から中期末葉以降の構築・使用と考えられる。

A 47号竪穴建物は、A 42号竪穴建物の北側で床面と考えられる平坦面を検出したことから竪穴建物と認定した。北東コーナー部分のみしか残存していない為、平面形は不明である。壁面は内弯気味に立ち上がり、床面はIV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄橙色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器2点、土製品1点、土器片円盤1点を掲載した（a 145～148、c 1062・1177、e 9、g 24）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物の可能性はあるが、詳細は不明である。年代は、出土土器が大木8 a式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 58号竪穴建物は、A 42号竪穴建物の西側でにぶい黄褐色の方形プランとして検出した。平面形は長方形で、壁面は下位が丸みをもって立ち上がるが、上位は外傾する。床面はIV層を削り出しているが、南側に向かって傾斜しており細かい凹凸も認められる。堆積土はにぶい黄褐色土と黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で石囲炉1基を検出した。炉石はほとんどが失われており、平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は、40×28cmの楕円形である。断面図の作成を怠ってしまった為、被熱深度及び構築方法は不明である。その他に土坑1基と柱穴20個を検出した。土坑1は南東側が張り出す長方形で、上面規模は86×50cm、深さは26cmである。柱穴のうちP 01・03・04・07・19が壁柱穴になると考えられ、さらにA 62号竪穴建物P 01が仮に本建物に帰属すると仮定すれば長方形の柱配置になる可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点と赤彩が付着した縄文土器1点を掲載した（a 168～170、r 5）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 a式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 59号竪穴建物は、床面が同じ高さであることからA 44号竪穴建物の一部と考えていたが、北西壁が連弧状になり、断面観察でもA 41号竪穴建物より新しいことが確認されたことから1軒の竪穴建物と認定した。A 41・44号竪穴建物より新しい建物であるが、このような経緯で認識した為これらより新しい遺構番号を付している。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形で、壁面は丸みを持って立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は南側に位置する石囲炉であるが、炉石は抜き取られており平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は23

× 18cmの楕円形で、被熱深度は約 1.5cmである。炉 2 は中央に位置する地床炉で、床面を若干掘り窪めてその内部を炉としている。燃焼部焼土は 25 × 23cmの円形で、被熱深度は約 2 cmである。その他に柱穴 14 個を検出した。このうち P 02・03・05・10 が主柱穴と考えられ、床面北東及び南側に柱穴が存在したと仮定すれば六～八角形の柱配置となる可能性がある。

遺物は周溝や堆積土中から出土しており、縄文土器 1 点と石器 2 点、石製品 1 点を掲載した（a 171、c 1066・1067、d 117）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 10 式古段階であることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 62 号竪穴建物は、A 58 号竪穴建物精査中に南西壁が外方に屈曲し、この部分から床面が一段低くなることが確認されたことから、この部分を 1 軒の竪穴建物と認定した。広範囲が新期の遺構に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は褐色土と暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴 15 個を検出したが、いずれも北側に集中しており柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 2 点を掲載した（a 175・176）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 6 式であることから前期末葉の構築・使用と考えられる。

A 63 号竪穴建物は、A 62 号竪穴建物床面精査中に床面より一段下がる暗褐色のプランとして検出した。西壁面が検出されたのみで、平面形は不明である。壁面は外傾しながら立ち上がり、床面は IV層を平坦に整えている。

床面施設として土坑 1 基を検出した。平面形は 68 × 64cmの円形で、深さは 40cmである。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物の可能性はあるが、詳細は不明である。年代についても出土遺物が無い為、他遺構との重複関係から前期末葉以前と推定されるのみである。

A 49・50 号竪穴建物

（第 1-37・124 図、第 2-14・293・294 図、写真図版 44～46・283・284・482）

II B 7 e・f グリッドに位置する。検出面は IV層で、大きさの異なるの灰黄色の方形プランが連結する形で検出した。41 号土坑とも重複関係にあり、新旧関係は 41 号土坑→A 49 号竪穴建物→A 50 号竪穴建物である。

A 49 号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平及び攪乱により失われているが、平面形は方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は IV層を削り出しているが、礫が露出し凹凸が認められる。堆積土は灰黄色砂が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝 1 条と柱穴 6 個を検出した。規模の大きな P 01・02 が主柱穴になる可能性はあるが、床面南側が残存していない為柱配置は不明である。また、北西壁付近で焼土の集中を確認したが、範囲が不明瞭で現地性が否か判断できなかった。

遺物は柱穴や堆積土中から出土しており、縄文土器 1 点と石器 2 点を掲載した（a 154、c 1063・1064）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b～9 式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 50 号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形で、壁面は内傾しな

が立ち上がる。床面は、IV層及び41号土坑堆積土を削り出しているが、凹凸が認められる。堆積土は灰黄色砂が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。石組は、外径40×32cmの方形である。燃焼部焼土は検出されなかった。炉内には石組より小規模な土坑状の掘り込みがあるが、炉石を設置する前に黒褐色土で充填されており、炉石は掘り込みの外側に設置されている。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 155)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器に後期初頭のものが含まれていることからこの時期の構築・使用と考えられる。

A 61号竪穴建物

(第1-37・124図、第2-16図、写真図版46・285)

II B 13 d グリッドに位置する。検出面はIV層で、灰黄褐色の半円形プランとして検出した。多数の土坑と重複関係にあり、新旧関係は63号土坑→A 61号竪穴建物→49・106・108号土坑である。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、礫が露出しており凹凸が著しい。堆積土は灰黄褐色土の単層で、堆積が薄く様相は不明である。

床面施設として周溝3条と柱穴7個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した(a 173・174)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(村田)

A 51～53・56・57・65・66号竪穴建物

(第1-38・39・125図、第2-15・323・362・377図、写真図版47～50・283・284・496・512・520)

II B 14 i～15 j グリッドに位置する。検出面はIV層で、後述するA 54・55・60号竪穴建物と共に遺物を含む黒褐～灰黄褐色土の広がりとして検出した。遺物が出土することから複数の竪穴建物が重複していると考えられたが、個別のプラン把握が困難であったことから土層観察用ベルトを設定して掘り下げを行い、壁面や床面が確認できた時点で遺構名を付した。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係はA 52・66号竪穴建物、50号土坑→A 56号竪穴建物→A 65号竪穴建物、34号土坑→A 60号竪穴建物→A 51号竪穴建物→A 55・57号竪穴建物→55号土坑→A 53号竪穴建物→A 29・36・38号竪穴建物、11・13号炉、1号土器埋設遺構である。

A 51号竪穴建物は、II B 14～16 j グリッドに沿って設定したトレンチの断面観察によってIV層を床面とすることを確認し、上位の黒褐色土(B断面1層)を除去した段階で暗灰黄色の半円形プランとして検出した。遺構の南～西側は新期の竪穴建物により壊されており、平面形は不明である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は暗灰黄色が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴10個を検出した。柱穴のうちP 02・05は壁柱穴になる可能性があるが、床面南～西側が残存していない為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点と石製品1点を掲載した(a 156～158、d 47)。縄文土器のうち、a 157・158はA 53号竪穴建物との重複部分から出土している。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式古段

階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 52号竪穴建物は、トレンチの断面観察によって床面と考えられる平坦面を検出し、A 56号竪穴建物の精査中に灰褐色の扇形プランとして検出した。大部分が新期の竪穴建物に壊されており、北壁が残存するのみである。残存範囲が少ない為、平面・床面・壁面形状は不明である。堆積土はにぶい黄褐色土であり、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物と考えられるが、残存部分が少なく詳細は不明である。年代についてもA 56号竪穴建物との重複関係から中期後葉以前と推定されるのみである。

A 53号竪穴建物は、グリッドに沿って設定したトレンチの断面観察によってA 51号竪穴建物より一段低い位置で床面を確認し、上位の黒褐色土（B断面1層）を除去した段階で暗灰黄色の半円形プランとして検出した。遺構の南～西側は新期の竪穴建物により壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土と黒～黒褐色土が主体で、自然堆積であるが床面付近の堆積土には炭化物を多量に含む。

床面施設として中央東寄りで複式炉1基を検出した。石囲炉と前庭部で構成される複式炉で、石組は外径60×59cmの方形である。燃烧部焼土は炉内北側に位置し、38×26cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。前庭部は112×75cmの不整楕円形で、床面からの深さは10cmである。石組部の炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に土坑1基と柱穴27個を検出した。土坑1は床面北西側に位置し、平面規模は99×55cmの楕円形で、床面からの深さは32cmである。柱穴のうちP 02・03・09・14・23は支柱穴で、A 29号竪穴建物に削平された部分に柱穴があったと仮定すれば六角形の柱配置となる。また、P 06・13・17・19は壁柱穴になる可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点を掲載した（a 159～162）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 56号竪穴建物は、グリッドに沿って設定したトレンチの断面観察によってIV層を床面とすることを確認し、A 38号竪穴建物の床面精査中に暗褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は中央西寄りに位置する地床炉で、燃烧部焼土は65×50cmの円形で、被熱深度は約4cmである。炉2は東側に位置する地床炉で、燃烧部焼土は56×37cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。その他に柱穴14個を検出した。このうちP 01・04・06・07・11が支柱穴で、五角形の柱配置となると考えられる。また、P 05・09・12・13は壁柱穴になる可能性がある。

遺物は柱穴や堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 165・166）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 57号竪穴建物は、A 53号竪穴建物東壁より外側で石囲炉を検出し、その周辺にA 53号竪穴建物堆積土と若干色調が異なる黒褐色の半円形プランが確認されたことから竪穴建物と認定した。ただし、床面の高さがA 53号竪穴建物と同じであることから同一建物の建て替え・拡張の可能性もある。斜面下方である南側は削平、西側はA 53号竪穴建物に壊されており平面形は不明である。壁面は、

床面付近はほぼ垂直に立ち上がるが、中位より上は外傾しながら立ち上がる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴4個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器1点、土製品1点を掲載した（a 167、c 1180、e 90）。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器は大木6式が多く含まれるが、他の竪穴建物との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 65号竪穴建物は、東西方向に設定したトレンチの断面観察で他の竪穴建物より低い位置にある床面を検出したことから竪穴建物と認定した。大部分がA 51・60号竪穴建物に壊されており、北壁が残存するのみで平面形は不明である。壁面は垂直に立ち上がるが、内傾気味になる部分もある。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物と考えられるが、残存部分が少なく詳細は不明である。年代についてもA 51・60号竪穴建物との重複関係から中期中葉以前と推定されるのみである。

A 66号竪穴建物は、A 56・65号竪穴建物の間で両者と異なるプランとして検出した。大部分がA 51・56・65号竪穴建物に壊されており、平面形は不明である。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土で、自然堆積である。

床面施設として柱穴1個を検出した。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物と考えられるが、残存部分が少なく詳細は不明である。年代についてもA 56・65号竪穴建物との重複関係から中期中葉以前と推定されるのみである。

(高橋・村田)

A 54・55・60号竪穴建物

(第1-40・125図、第2-15・16・238・295・323図、写真図版50～52・284・285・482・495・496)

II B 14 h～15 i グリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～IV層で、灰黄褐色の不整形な広がりとして検出した。多数の竪穴建物と重複関係にあり、新旧関係はA 65号竪穴建物→A 60号竪穴建物→A 54号竪穴建物→A 51号竪穴建物→A 55号竪穴建物→A 36・42・53号竪穴建物である。

A 54号竪穴建物は、大部分をA 42・55号竪穴建物に壊されており北壁と床面の一部が残存するのみである。平面形は方形と考えられ、壁面は内傾気味に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として東側で地床炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は20×20cmの円形で、被熱深度は約3cmである。炉2は54×33cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。その他に西側で柱穴9個を検出した。

遺物は炉の直上や堆積土から出土しており、縄文土器1点とA 55号竪穴建物との重複部分から出土した赤彩が付着した縄文土器1点を掲載した（a 164、r 3）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式新段階であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 55号竪穴建物は、西側をA 42号竪穴建物、東側をA 27号竪穴建物に壊されているが、平面形は方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を平坦に整え、南側ではⅢ・IV層由来の充填土

を用いて構築している。堆積土は灰黄褐～褐灰色が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央東寄りで石囲炉 1 基を検出した。石組は直径 50cm の円形と考えられるが、北側の炉石は失われている。燃焼部焼土は検出されなかった。掘り方は石組と同規模の土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。炉内は床面より若干低い位置にある。その他に周溝 3 条と柱穴 16 個を検出した。周溝は壁面と離れていることから、旧壁面が周溝際にあったとすれば拡張を行っていた可能性がある。柱穴は、P 01・10・14 等が主柱穴になる可能性があるが、床面南側が残存していない為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、A 54 号竪穴建物との重複部分から出土した縄文土器 1 点と赤彩が付着した縄文土器 1 点、石器 3 点を掲載した（a 163、r 4、c 1065・1178・1179）。石器のうち、c 1179 は炉石として転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b 式新段階であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 60 号竪穴建物は、当初は A 54 号竪穴建物の一部と考えていたが、北壁の向きが異なることと埋設土器の位置する床面が若干低いことから別の竪穴建物と認定した。大部分を A 51・54・55 号竪穴建物に壊されており、北壁と埋設土器が残存するのみである。平面形は不明で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を平坦に整えている。断面図の作成を行っていないが、堆積土は A 54 号竪穴建物と同じく灰黄褐色土が主体で、自然堆積と考えられる。

床面施設として南側で埋設土器 1 基を検出した。床面を土器の直径とほぼ同じ大きさに掘り込み、その中に深鉢を逆位に設置して外側に黄褐色土を充填している。意図的なものかは不明であるが、底部は欠損している。

遺物は埋設土器の他に堆積土中からも出土しており、埋設土器に使用された縄文土器 1 点と石器 1 点を掲載した（a 172、c 1181）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、埋設土器が大木 9 式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

（村田）

A 67・68・70・73・74 号竪穴建物

（第 1-41～43・125 図、第 2-16～18・253・258・261・262・271・365 図、写真図版 53～56・285・286・462・465～467・471・514）

Ⅱ B 13 l～14 n グリッドに位置する。検出面はⅢ層及びそれに類似する沢状地形堆積土で、表土除去の段階で石囲炉の頂部が露出したりトレンチでの断面観察で床面と考えられる平坦面が確認される等、複数の竪穴建物が重複していると想定される暗褐～灰黄褐色土の広がりとして検出した。新旧関係は、A 68 号竪穴建物→A 69 号竪穴建物→A 74 号竪穴建物→A 70 号竪穴建物→A 73 号竪穴建物→A 67 号竪穴建物である。

A 67 号竪穴建物は、斜面下方である東～南側が削平されているが平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南西側で炉 2 基を検出した。2 基は重複関係にあり、炉 1 のほうが新しい。炉 1 は石囲炉で、石組は外径 138 × 89cm の長方形である。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、45 × 42cm の円形で、被熱深度は約 3cm である。炉内は床面より若干低い位置にあり、石組より一回り大きな掘り方を掘って炉石を据え付けている。炉 2 は地床炉で、西側は炉 1 を設置する際に壊されている。燃焼部焼土は 154 × 70cm の不整形円形、被熱深度は約 7cm である。その他に周溝 5 条と土坑 1 基、柱穴 14 個

を検出した。土坑1は床面北側に位置し、上面規模は110×65cmの長楕円形で、深さは26cmである。柱穴はP 04・05・07・08が主柱穴で、四角形の柱配置となる。また、P 02・03・10が壁柱穴になる可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器1点、石製品1点を掲載した（a 177～180、c 152、d 66）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 68号竪穴建物は、重複するA 67号竪穴建物精査時にそれとは異なる灰黄褐色の弧状プランとして検出した。大部分をA 67・69号竪穴建物に壊されており、北壁付近が残存するのみである。平面形は不明で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を平坦に整えており、硬く締まっている。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴2個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した（a 181・182、c 233）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 70号竪穴建物は、A 67号竪穴建物の東側で黒褐色の隅丸方形プランとして検出した。平面形は東壁が張り出す不整形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を平坦に整えているが、床面西側では大型の礫が露出している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央北寄りで地床炉1基を検出した。燃烧部焼土は72×56cmの楕円形で、被熱深度は約6cmである。その他に周溝1条と土坑1基、柱穴7個を検出した。土坑1は床面西側に位置し、上面規模は71×56cmの楕円形で、深さは33cmである。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器4点を掲載した（a 193・194、c 3～5・220）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 73号竪穴建物は、A 67号竪穴建物床面精査時に南西側で褐色の楕円形プランとして検出した。平面形は楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIII層を平坦に整えており、中央付近は硬く締まっている。堆積土は黒褐～灰黄褐色土で、自然堆積である。

床面施設として柱穴9個を検出した。このうちP 01・04・06・07が主柱穴で、四角形の柱配置となる。なお、床面南側で焼土範囲が確認されたが、流れ込みによる二次堆積の焼土であった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器1点を掲載した（a 200、c 316）。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。掲載した土器は大木7a式であるが、他の竪穴建物との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 74号竪穴建物は、A 67号竪穴建物床面精査時に床面より一回り小さい褐色の方形プランとして検出した。大部分をA 67・73号竪穴建物に壊されているが、平面形は方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を平坦に整えており、硬く締まっている。堆積土は褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として中央で柱穴4個を検出した。また、床面を掘り込んで設置されたものではないが、床面中央部では逆位に置かれた深鉢の口縁部が出土している。なお、床面南東側で焼土範囲が確認されたが、流れ込みによる二次堆積の焼土であった。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 201）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 b 式新段階であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 69・71・72・75～81号竪穴建物

（第1-44～46・126・127図、第2-17～20・261・262・274・284・323・324・377・381図、写真図版57～62・285～288・466・467・473・477・496・521・524）

II B13 k～14 mグリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層で、前述のA67・68号竪穴建物等と同じく複数の竪穴建物が重複していると想定される灰黄褐色土の広がりとして検出した。新旧関係は、A80号竪穴建物→A79号竪穴建物→A72号竪穴建物→A78号竪穴建物、72号土坑→A73号竪穴建物→A81号竪穴建物→A71号竪穴建物、74号土坑→A68号竪穴建物→A69号竪穴建物→A75号竪穴建物→A76号竪穴建物→A67・77号竪穴建物、71・75号土坑である。

A69号竪穴建物は、灰黄褐の円形プランとして検出した。南側は新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は隅丸方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅲ～Ⅳ層を平坦に整えており、硬く締まっている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として東側で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は64×52cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。その他に周溝1条と柱穴10個を検出した。柱穴のうちP01・06～08は主柱穴と考えられるが、床面南側が残存していない為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器10点と石器1点を掲載した（a 183～192、c 1182）。縄文土器のうちa 184はA75号竪穴建物との重複部分から出土している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 b 新段階～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A71号竪穴建物は、A69号竪穴建物北壁の外側で異なる方向に走る周溝が確認されたことから竪穴建物と認定した。大部分をA68・69号竪穴建物に壊されており、北壁が残存するのみである。平面形は不明で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。検出範囲が狭い為床面の状況は不明である。断面図の記録を行っていないが、堆積土は灰黄褐色土の単層で自然堆積である。

床面施設として周溝2条を検出した。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土したのみで、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物と考えられるが、詳細は不明である。出土遺物も乏しく年代についても他遺構との重複関係から中期中～後葉と推定されるのみである。

A72号竪穴建物は、A78号竪穴建物と共に褐色の楕円形プランとして検出した。当初は同一遺構と考えていたが、北壁が連弧状になることと床面施設に切り合い関係が認められたことから2軒の竪穴建物に分離した。南側は新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。断面図の作成は行っていないが、堆積土は灰黄褐色土の単層で自然堆積と考えられる。

床面施設として周溝5条と柱穴8個を検出した。

遺物はA78号竪穴建物との重複部分から出土しており、縄文土器5点と石器1点、土器片円盤1点を掲載した（a 195～199、c 340、g 25）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 75 号竪穴建物は、A 76 号竪穴建物精査中に北東壁付近で床面より一段低い位置で炉を検出したことから、A 76 号竪穴建物と異なる建物として認定した。大部分を A 76 号竪穴建物に壊されているが、平面形は楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐～褐灰色土で、自然堆積である。

床面施設として炉 2 基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉 1 は床面中央に位置する石囲炉で、石組は外径 73 × 56cm の楕円形である。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、52 × 38cm の楕円形で、被熱深度は約 5 cm である。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉 2 は東壁付近に位置する地床炉で、燃焼部焼土は 70 × 55cm の楕円形で、被熱深度は約 2 cm である。その他に周溝 1 条と柱穴 6 個を検出した。柱穴のうち P 01 ～ 05 が主柱穴で、五角形の柱配置となる。

遺物は柱穴や堆積土中から出土しており、縄文土器 3 点と石器 2 点、土製品 1 点を掲載した (a 202 ～ 204、c 221・1004、e 91)。縄文土器のうち、a 204 は A 77 号竪穴建物堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木 8 b 式新段階主体であるが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 76 号竪穴建物は、黄褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は不整形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、III～IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色～明褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉 1 基を検出した。石組は、外径 76 × 63cm の方形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、51 × 30cm の範囲で、被熱深度は約 4 cm である。掘り方は石組より若干大きい土坑状で、壁面のやや内側に炉石を立て並べ、裏込めとして灰黄褐色土を充填している。その他に周溝 5 条と柱穴 10 個を検出した。柱穴のうち P 01 ～ 03・07・08 が主柱穴と考えられ、溝 2・3 及び削平されている床面南側に柱穴があると仮定すれば八角形の柱配置になると考えられる。

遺物は柱穴や床面直上から出土しており、縄文土器 7 点と石器 1 点を掲載した (a 205 ～ 211、c 1183)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b ～ 9 式古段階であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 77 号竪穴建物は、A 76 号竪穴建物掘り下げ中に床面より高い位置で石囲炉を検出したことから、別の竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は A 76 号竪穴建物堆積土を平坦に整えており、全体に硬化している。堆積土は灰黄褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉 1 基を検出した。石組は、外径 76 × 51cm の楕円形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、被熱深度は約 2 cm である。断面図の作成を怠ってしまった為、炉の構築方法は確認していない。その他に柱穴 2 個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 3 点を掲載した (a 212 ～ 214)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器と他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 78 号竪穴建物は、褐色の弧状プランとして検出した。南側は新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は褐色～にぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として西寄りで石囲炉1基を検出した。石組は外径76×55cmの長方形であるが、西壁北側の炉石は失われている。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、被熱深度は約2cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴3個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器8点を掲載した（a 215～222）。このうちa 219～222はA 79・80号竪穴建物との重複部分から出土している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 79号竪穴建物は、にぶい黄褐色の円形プランとして検出した。南側をA 78号竪穴建物精査時に壊してしまったが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した（a 223・224、c 234）。

本遺構は床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7b式主体であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 80号竪穴建物は、A 76・77号竪穴建物精査中に壁面西側でこれらとは異なるプランとして検出した。南側は新期の竪穴建物に壊されており、平面形は不明である。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴7個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 225・226）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7b式主体であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 81号竪穴建物は、A 76号竪穴建物の炉の断面観察のために設定したトレンチ内でこれより下位に位置する石囲炉を検出したことから、別の竪穴建物と認定した。大部分をA 76号竪穴建物に壊されているが、残存する北壁と柱穴の配置から平面形は楕円形と考えられる。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ～Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は外径88×56cmの長方形であるが、南側の炉石は失われている。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。その他に柱穴11個を検出した。このうちP 01・02・04・07～11が主柱穴で、八角形の柱配置となる。

遺物は炉や柱穴内から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 227・228）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

（佐藤・村田）

A 82・85・90・99・102・104号竪穴建物

（第1-47・48・127・128図、第2-20～24・238・260・294・358・376・377図、写真図版63～65・288～290・466・483・509・520・521）

Ⅱ B12 b～14 c グリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層で、黒褐～暗褐色土の大型円形プランとして検出した。当初は1軒の竪穴建物と考えていたが、掘り下げ途中で炉や周溝・柱穴が検出され、床面と考えられる平坦面にも段差が認められたことから、炉や床面施設が確認できる面を床面として分離を行った。その結果、プラン内では6軒の竪穴建物が重複していることが判明した。北東側でA 86・88号竪穴建物、東側でA 83号竪穴建物、南側で92・102・110号土坑とも重複関係にあり、これらを含めた新旧関係は110号土坑→A 88号竪穴建物→A 86号竪穴建物→A 104号竪穴建物

→A 99号竪穴建物→A 90号竪穴建物→A 85号竪穴建物→A 82号竪穴建物→A 83・102号竪穴建物、92・107号土坑である。なお、A 102号竪穴建物については第1-53図に個別図を掲載しており、それに合わせて記載は57頁で行っている。

A 82号竪穴建物は、堆積土の掘り下げ中に複式炉を検出した為、竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は若干外傾しながら立ち上がる。床面は、A 85号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として南側で複式炉1基を検出した。埋設土器と石囲炉で構成される複式炉で、石組部の南側では前庭部の可能性がある浅い皿状の窪みを検出した。石組は外径72×64cmの方形であるが、南側の炉石は抜き取られており残存していない。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、50×35cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面より低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみ掘り込んである。埋設土器は石組部の北側に位置し、掘り方は土器よりも大きく土坑状（A断面5層）に掘り込んで深鉢の胴部を正位に設置し、設置後に暗褐色土を再充填している。その他に柱穴10個を検出した。ただし、これらはA 85号竪穴建物に伴う柱穴と一緒に検出しており、そちらに帰属する可能性もある。規模の小さい柱穴が多いことと床面南側が削平されている為、柱配置は不明である。

遺物は埋設土器の他に堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点、土製品1点を掲載した（a 229・230、c 194、e 92）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、埋設土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 85号竪穴建物は、A 82号竪穴建物床面精査時に暗褐色の不整形プランとして検出した。上面ではプランが不明瞭であった為、IV層まで到達するトレンチを設定し、下部の確認を行った。その結果、トレンチ断面で2面の平坦面を確認したことから、A 82号竪穴建物と分離して1軒の竪穴建物と認定した。後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。斜面下方である南側は削平されているが、床面の残存範囲及び柱穴の配置から平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層及びA 90・99号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝8条と柱穴19個を検出した。周溝は北壁に沿って3～4列併行しており、少なくとも2回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。建物規模を拡張していったと考えると、構築段階にあたる第一段階は溝3・4・7が巡り、P 01・03・13・14が主柱穴となるもの、第二段階は溝2が巡り、P 04・08・09・12・15が主柱穴となるもの、第三段階は溝1・5・6が部分的に巡り、P 06・11・15・16・19が壁柱穴として配置されるものと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器6点と赤彩が付着した縄文土器1点、石器1点、土製品2点を掲載した（a 239～244、r 6、c 1367、e 44・45）。縄文土器のうち、a 244はA 90号竪穴建物出土の破片と接合している。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式古段階主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 90号竪穴建物は、A 82・85号竪穴建物精査後に暗褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、床面残存範囲と柱穴配置から平面形は不整円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、A 99号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土の単層で、部分的に廃棄したと考えられる焼土が含まれることから人為堆積の可能性はある。

床面施設として柱穴14個を検出した。重複している柱穴も多数あるが、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した（a 254・255、c 1069）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 99号竪穴建物は、A 85号竪穴建物床面精査後に南側で暗褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平及び他遺構に壊されているが、床面残存範囲と柱穴の配置から平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、黄褐色土を斑状・層状に含むことから人為堆積と考えられる。

床面施設として周溝5条と柱穴34個を検出した。周溝は一部併行している部分があることから建て替え・拡張を行っていた可能性がある。柱穴はP 01～03・05・09・33・36が支柱穴であり、七角形の柱配置になると考えられる。また、P 06・10・34・35等は壁柱穴になる可能性がある。

遺物は周溝や柱穴及び堆積土中から出土しており、縄文土器5点を掲載した（a 264～268）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式古段階主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 104号竪穴建物は、A 82号竪穴建物の北側で弧状に巡る黒褐色の溝状プランとして検出した。当初はA 82号竪穴建物の拡張部分の可能性も考えたが、本建物とA 82号竪穴建物の床面の比高差が10～15cmあることから、別の竪穴建物と認定した。A 82号竪穴建物とは直接的な重複関係は無いが、出土土器の年代から本遺構のほうが古いと判断した。大部分が削平されている為、平面形、壁面・床面形状、堆積の様相は不明である。

床面施設として周溝1条と柱穴6個を検出した。北壁付近に分布するが、柱配置は不明である。

遺物は柱穴及び堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 272）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 98号竪穴建物

（第1-48図、写真図版65）

II A12 yグリッドに位置する。検出面はIV層で、暗褐色の半円形プランとして検出した。他遺構との重複関係は無い。斜面下方である南側及び東側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として北壁付近で焼土1基を検出した。40×15cmの不整形な褐色焼土で、被熱深度は約1cmである。本遺構に伴う地床炉の可能性もあるが、熱変成が弱く断定はできない。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物と考えられるが、詳細は不明である。年代についても出土遺物及び他遺構との重複関係も無い為不明である。

A 83・84・86～89・94号竪穴建物

（第1-49・50・128・129図、第2-20～22・258・275・279・296・323・324・373・377図、写真図版66～69・288・289・465・473・475・482・495・496・518・521）

II B 12 c～14 dグリッドに位置する。検出面はIII層下位～IV層で、黒褐色～にぶい黄褐色土が堆積する円形プランを複数検出した。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係は93・100・102号土坑

→A 94号竪穴建物→A 89号竪穴建物→A 88号竪穴建物→A 87号竪穴建物→A 84号竪穴建物→A 86号竪穴建物→A 85号竪穴建物→A 83号竪穴建物である。

A 83号竪穴建物は、黒褐色～にぶい黄褐色の円形プランとして検出した。平面形は円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層及び下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土の主体は黒褐色土で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉1基を検出した。石組は、外径45×42cmの方形である。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。掘り方は石組よりも一回り大きな土坑状で、壁面に炉石を立て並べ、裏込めとしてにぶい黄褐色土を充填している。その他に柱穴5個を検出した。このうちP 01～04が支柱穴で、四角形の柱配置となる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した(a 231・232)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新～10式古段階であることから中期後～末葉の構築・使用と考えられる。

A 84号竪穴建物は、にぶい黄褐色の円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されており、炉や柱穴の配置から範囲を推定した。平面形は不明であるが、壁面は外傾しながら立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として西側で石囲炉1基を検出した。石組は、外径70×60cmの円形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、被熱深度は約1.5cmである。また、石組の南側では1.0×0.73mの範囲で褐色の被熱層が確認されている。炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝1条と柱穴30個を検出した。柱穴のうちP 01・12・14・24・25が支柱穴と考えられ、削平されている南側に柱穴があると仮定すれば八角形の柱配置となる可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器6点を掲載した(a 233～238)。このうちa 238はA 86号竪穴建物堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 86号竪穴建物は、上面ではプランの把握が困難であったことから地山面まで到達するトレンチを設定し、下部の確認を行った。断面観察の結果、炉を伴い床面と考えられる平坦面が複数確認でき、最上位に位置するものを本遺構の床面と判断した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は隅丸方形または楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉1基を検出した。炉石の多くは失われており、一部しか残存していない。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がっていたと考えられ、80×71cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴8個を検出した。このうちP 01・02・07・08が壁柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器6点を掲載した(a 245～250)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 87号竪穴建物は、A 88・89号竪穴建物の床面で円形に配置される小形の柱穴が確認されたことから、これらとは別の竪穴建物と認定した。柱穴の重複関係からA 88・89号竪穴建物より新しいと考えられるが、堆積土を全て掘り上げた後に認識した為、平面形・規模・壁面形状は確認できなかった。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴 15 個を検出した。このうち P 02・04～08・10・12・13 が壁柱穴になる可能性がある。また、中央北寄りで二次堆積焼土の集中範囲を確認した。

遺物は A 88・89 号竪穴建物と一括して取り上げており、3 軒分合わせて縄文土器 3 点と石器 7 点を掲載した（a 251～253、c 153・154・346・380・1068・1184・1185）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 88 号竪穴建物は、A 86 号竪穴建物精査時に設定したトレンチ内で IV 層を床面とする平坦面を確認し、平面的に掘り下げたところ南西側で炉を検出したことから A 86 号竪穴建物より古い竪穴建物と認定した。なお、本建物では炉が 2 基検出されており、柱配置も 2 案が想定されることから少なくとも 1 回の建て替え・拡張が行われていたと考えられる。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV 層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南西側で石囲炉 2 基を検出した。2 基は重複関係にあり、炉 1 のほうが新しい。炉 1 の石組は外径 73 × 72cm の円形だが、西壁は A 85 号竪穴建物構築時に壊されている。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、56 × 50cm の範囲で、被熱深度は約 2cm である。掘り方は石組よりも一回り大きな土坑状で、壁面に炉石を立て並べている。炉 2 は炉 1 構築時に南側を壊されている為、石組の形状と規模は不明である。燃焼部焼土は 54 × 41cm の楕円形で、被熱深度は約 2cm である。掘り方は石組よりも一回り大きな土坑状で、壁面に炉石を立て並べている。その他に柱穴 27 個を検出した。本建物では建て替え・拡張が行われたと考えられ、第一段階は P 03・08・10～12・21・22 で炉 2 が伴い、第二段階として P 06・07・09・11・13・17・26・27 に炉 1 が伴うものと考えられる。

遺物は、先述の通り A 87・89 号竪穴建物と一括して取り上げている。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 89 号竪穴建物は、A 88 号竪穴建物と同じく A 86 号竪穴建物に設定したトレンチ内で検出した。A 88 号竪穴建物と床面が同じ高さであり同一遺構の可能性もあるが、北壁面が連弧状になることから別の建物として認定した。大部分が削平されており、平面形は楕円形と考えられるが壁面形状は不明である。堆積土はほとんど残存しておらず、堆積の様相は不明である。

床面施設として東側で地床炉 1 基を検出した。床面を 80 × 80cm の円形に掘り込み、内部で燃焼行為を行ったと考えられる。燃焼部焼土は掘り方西側に位置し、46 × 40cm の不整円形で、被熱深度は約 1cm である。その他に柱穴 10 個を検出した。

遺物は、先述の通り A 87・88 号竪穴建物と一括して取り上げているが、それ以外に土製品 2 点を本遺構に帰属するものとして掲載した（e 10・93）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 94 号竪穴建物は、IV 層で弧状に巡る周溝と柱穴を複数確認したことから竪穴建物と認定した。周溝に重複関係が認められることから本建物では建て替え・拡張が行われた可能性がある。斜面下方である南側は削平及び新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられる。ただし、床面付近で本遺構を認定したこともあり、壁面形状と堆積の様相は不明である。

床面施設として周溝 3 条と柱穴 6 個を検出した。最も外側に位置する溝 1 は弧状で、内側に位置する溝 2・3 は直線的である。

遺物は柱穴内や堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 258）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6式であることから前期末葉の構築・使用と考えられる。

（北村・村田）

A 91・95・97号竪穴建物

（第1-51・129図、第2-22・23・295・296・376・381図、写真図版70～72・289・290・483・520・524）

II B 14 c～15 d グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、土坑類と共に暗褐色の円形プランが重複する形で検出した。新旧関係は、112号土坑→A 97号竪穴建物→A 95号竪穴建物→A 91号竪穴建物→103・104号土坑である。

A 91号竪穴建物は、暗褐色の楕円形プランとして検出した。平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、A 95号竪穴建物堆積土を削り出しているが、南側に向かって傾斜している。堆積土は褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南東寄りで地床炉の可能性のある焼土範囲を検出した。46×28cmの不整円形で、被熱深度は約2cmである。熱変成は弱く、上面も硬化していない。その他に柱穴7個を検出した。遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 256）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木7b式であるが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 95号竪穴建物は、A 91号竪穴建物床面精査時に暗褐色の円形プランとして検出した。平面形は円形で、壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はA 97号竪穴建物堆積土を削り出しているが、南側に向かって傾斜している。堆積土にはぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央西寄りで石囲炉1基を検出した。石組は80×80cmの円形であるが、炉石の間に空間がある。掘り方は石組よりも一回り大きな土坑状で、壁面より内側に炉石を立て並べている。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 259・260）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 97号竪穴建物は、A 95号竪穴建物の直下でほぼ同一のプランとして検出した。平面形は円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は褐色～ぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央西寄りで石囲炉1基を検出した。石組は50×38cmの楕円形であるが、北壁の炉石は失われている。炉内には燃焼部焼土は検出されなかった。掘り方は石組より大きな土坑状で、壁面より若干内側に炉石を立て並べている。その他に柱穴3個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点と石器2点、土製品1点、土器片円盤1点を掲載した（a 261～263、c 1070・1071、e 75、g 27）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 92号竪穴建物

（第1-51・129図、第2-22図、写真図版72・289）

II B 14 a グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、若干硬化した平坦面と壁面の立ち上がりを検出した。また北壁から1.5m程南東の位置（P 07直上）で焼土と土器底部片を検出したことから、遺

存状況は悪いが竪穴建物と判断して精査を行った。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形または楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面検出段階で遺構と認定した為、堆積土の観察はできなかった。

床面施設として柱穴 10 個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 1 点を掲載した（a257）。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器は地文の破片が多く詳細な年代は不明であるが、中期の構築・使用と考えられる。

A 93・96 号竪穴建物

（第 1-52 図、第 2-269・324・364・381 図、写真図版 73・470・496・514・524）

Ⅱ A 15 y～Ⅱ B 16 a グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、暗褐色の半円形プランとして検出した。当初は 1 軒の竪穴建物と考えて精査を行ったが、床面で検出した周溝・柱穴の配置と重複関係から 2 軒が重複しているものと判断した。97 号土坑とも重複関係にあり、新旧関係は 97 号土坑→A 96 号竪穴建物→A 93 号竪穴建物である。

A 93 号竪穴建物は、斜面下方にあたる南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で複式炉 1 基を検出した。炉石の散逸が著しく遺存状態は悪いが、二組の石組によって構成される複式炉であったと考えられる。北側の掘り方は 160cm×90cm の不整形で、底面は凹凸が著しい。南側の掘り方は 83×72cm の方形で、底面は平坦に整えられている。掘り方内では燃焼部焼土は検出されなかった。その他に周溝 6 条と柱穴 16 個を検出した。柱穴のうち P 01～03・08・11・13 が支柱穴と考えられ、削平された床面南側にも柱穴が存在したと仮定すれば七角形の柱配置であったと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、石器 2 点と土器片円盤 1 点を掲載した（c 1186・1187、g 26）。縄文土器も一定量出土しているが、地文の破片がほとんどであり図示していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、詳細な年代は不明であるが中期の構築・使用と考えられる。

A 96 号竪穴建物は床面精査の段階で認定した為、堆積土の観察はできなかった。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面はやや外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を平坦に整えており、A 93 号竪穴建物床面と同レベルである。断面図の作成を行っていないが、堆積土は A 93 号竪穴建物と同じ黒褐～暗褐色土で、自然堆積と考えられる。

床面施設として中央で地床炉と考えられる現地性焼土を検出した。大部分を A 93 号竪穴建物の柱穴に壊されており平面形と規模は不明である。被熱深度は約 1.5cm である。その他に周溝 8 条と柱穴 15 個を検出した。柱穴は西側に集中しており、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、石器 1 点と石製品 1 点を掲載した（c 301、d 67）。縄文土器も少量出土しているが、地文の破片がほとんどであり図示していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、詳細な年代は不明であるが中期の構築・使用と考えられる。

A 100・101・103 号竪穴建物

(第 1-53・129 図、第 2-23・24 図、写真図版 74・290)

II B 14 c・d グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、暗褐色の半円形プランとして検出した。当初は 1 軒の竪穴建物と認識していたが、掘り下げの結果床面に段差が確認されたことから、3 軒の竪穴建物が重複していることが判明した。59・109 号土坑とも重複関係にあり、新旧関係は A 103 号竪穴建物→A 101 号竪穴建物→A 100 号竪穴建物→59・109 号土坑である。なお、南側に A 91 号竪穴建物が位置するが、直接的な重複関係が無く新旧関係は不明である。

A 100 号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されており、東西側も土坑に壊されている為平面形は不明である。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を削り出しているが、南側に向かって傾斜しており凹凸も認められる。堆積土は暗褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として柱穴 2 個を検出した。北壁付近に分布するが、床面の大部分が削平されている為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 1 点を掲載した (a 269)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b 式新段階であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 101 号竪穴建物は、大部分が削平されており、北壁付近が残存するのみで平面形は不明である。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を削り出しているが、南側に向かって傾斜しており凹凸も認められる。堆積土は暗褐色土と褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として周溝 2 条と柱穴 12 個を検出した。柱穴は規模の大きい P 01・07・10 等が主柱穴になる可能性があるが、床面の大部分が削平されている為柱配置は不明である。

遺物は柱穴及び堆積土中から出土しており、縄文土器 1 点を掲載した (a 270)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 9 式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 103 号竪穴建物は、本遺構の上部に位置する A 100・101 号竪穴建物の断面観察時に両遺構とは異なる平坦面を確認した為、竪穴建物と認定した。大部分を A 100・101 号竪穴建物に壊されており、北壁の一部が残存しているのみで平面形・壁面・床面形状は不明である。堆積土は褐色土であるが、堆積が薄く様相は不明である。

床面施設として柱穴 1 個を検出した。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は、住居として使用された竪穴建物と考えられるが、詳細は不明である。出土遺物は無いが、年代は A 100・101 号竪穴建物との重複関係から中期中葉以前の構築・使用と考えておきたい。

A 102 号竪穴建物

(第 1-53・129 図、第 2-23・324・325 図、写真図版 65・290・496)

II B 14 b グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、暗褐色の半円形プランとして検出した。A 99 号竪穴建物と 107 号土坑と重複関係にあり、本遺構のほうが新しい。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ層を削り出しているが、南側に向かって傾斜しており凹凸も認められる。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝 2 条と柱穴 7 個を検出した。柱穴は P 01・05・06 が壁柱穴になる可能性があるが、床面の大部分が削平されている為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 1 点と石器 3 点を掲載した (a 271、c 1188～)

1190)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 105・106・133号竪穴建物

(第1-54・55・129図、第2-24・269・296・324・325・381図、写真図版75・76・290・470・483・496・524)

II B 10 g・hグリッドに位置する。検出面はIV層で、にぶい黄褐色の円形プランとして検出した。周辺の土坑とも多数重複関係にあり、新旧関係はA 138・150号土坑→A 133号竪穴建物、118号土坑→A 145号土坑→A 106号竪穴建物→A 105号竪穴建物である。

A 105号竪穴建物は、当初は1軒の竪穴建物として考えていたが、北東側のテラス状の部分が別の竪穴建物であることがわかり、こちらをA 106号竪穴建物とした。なお、A 105号竪穴建物は後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形で、壁面は部分的に崩落しているがほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄橙色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南西側で複式炉1基を検出した。二室構造の複式炉で、壁面に近い南東側が前室になる。石組は、前室が外径65×65cm、後室が外径40×57cmで、台形に近い長方形と考えられるが、前室の南東壁及び後室の北東・南東壁は炉石が確認できなかった。前室・後室とも炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。なお、当初炉と重複している138号土坑を炉の掘り方と考えていたが、炉と土坑の中軸線が異なることと炉石が全て土坑堆積土中に設置されていたことから別の遺構と判断した。本炉の掘り方は138号土坑堆積土中に掘り込まれた方形の土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。また、炉内は床面より低い位置にある。その他に周溝9条と柱穴20個を検出した。北東側の周溝が壁面に沿って二列併行することから、床面北東側で少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。周溝は溝2～4・6が内側、溝1・8・9が外側の一連のものになると考えられ、拡張されたとすれば内側の周溝が第一段階、外側の周溝が第二段階に伴うものと考えられる。柱穴は、P 01・02・07・16・17・19・20を主柱穴とすると、南側の柱穴が検出されていないが八角形の柱配置になると考えられる。また、P 03・05・06・11・12が壁柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器3点、土器片円盤1点を掲載した(a 273・274、c 1072・1191・1192、g 28)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木10式古段階であることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 106号竪穴建物は、南西側の大部分をA 105号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はわずかに外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄橙色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴4個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、石器1点を掲載した(c 302)。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物は乏しいが、年代はA 105号竪穴建物の重複関係から中期末葉以前と考えられる。

A 133号竪穴建物は、A 105号竪穴建物精査後にプラン外で溝と柱穴を検出し、壁面は残存していないが位置関係から竪穴建物と認定した。上面は削平されている為、平面形・壁面形状・堆積の様

相は不明である。

床面施設として周溝2条と柱穴3個を検出した。溝1・2はいずれも中央付近で鋭角に屈曲しており、壁面に沿って掘削されたものとすれば本建物の平面形は多角形プランであった可能性がある。

遺物は、本遺構に伴う床面施設からは出土していない。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物が無く、年代はA 105号竪穴建物との重複関係から中期末葉以前と推定されるのみである。

A 107号竪穴建物

(第1-55・129・130図、第2-24図、写真図版77・290・291)

ⅡB 9eグリッドに位置する。検出面はⅣ層で、黒褐色の半円形プランとして検出した。B 11号竪穴建物、142・167号土坑と重複関係にあり、新旧関係は142・167号土坑→A 107号竪穴建物→B 11号竪穴建物である。南側はB 11号竪穴建物に大部分を壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝7条と土坑1基、柱穴10個を検出した。周溝の位置関係から床面北側で少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。構築段階である第一段階に伴う周溝は溝1・4・5で、この時点では平面形は方形であったと考えられる。P 01・02・04・07が主柱穴と考えられ、床面南側に柱穴が存在したと仮定すれば六～八角形の柱配置であった可能性がある。第二段階に伴う周溝は溝2・6・7で、平面形は楕円形となる。柱穴は、P 02・05～07・10が壁柱穴であった可能性がある。なお、土坑1は床面南側に位置しており、柱穴との位置関係から第二段階に伴うものと考えられる。

遺物は床面直上を中心に出土しており、縄文土器3点を掲載した(a 275～277)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、床面直上出土土器が大木10式古段階であることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 108・117・123・124・128号竪穴建物

(第1-56～58・130図、第2-24・35・36・39・40・42・253・290・296・298・327・382図、写真図版78～81・290・291・299・301・303・305・462・479・483・484・497・524)

ⅡB 8c～10dグリッド付近に位置する。検出面は北側と南側はⅣ層、中央はⅢ層で、当初はA 117・124号竪穴建物を黒～黒褐色の円形プラン、A 108号竪穴建物をにぶい黄橙色土の不整形プランとして検出した。A 108号竪穴建物の検出面では炉や焼土を検出したが、いずれもA 108号竪穴建物堆積土中に構築されたもので埋没後の遺構と判断した。新旧関係は、171号土坑→A 128号竪穴建物→A 117号竪穴建物→A 124号竪穴建物→A 123号竪穴建物→A 108号竪穴建物→136・153・154・166号土坑、14号炉、2号焼土、B 11号竪穴建物である。

A 108号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されており、平面形は不明である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ層とA 123号竪穴建物堆積土を削り出しているが、南側に向かって傾斜しており、Ⅳ層の範囲では凹凸が認められる。堆積土はにぶい黄橙～黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝3条と柱穴2個を検出した。周溝は途切れているが、溝1～3は一連のものと考えられる。柱穴は2個のみの検出であり、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した（a 278・279、c 1073）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 117号竪穴建物は、ベルトを残して床面まで掘り下げたところ、多数の周溝と柱穴、さらに3室構造に見える複式炉を検出したが、この時点では1軒の竪穴建物と考えていた。しかし、石囲炉の精査を行ったところ1基の複式炉ではなく新旧関係のある2基の石囲炉であることが判明し、さらに堆積土の断面観察を行って高さの異なる床面が存在することを確認したことから、同一建物内の建て替え・拡張ではなく、同一プラン内に一回り小型の竪穴建物が構築されているものとしてA 124号竪穴建物を認識した。このような経緯で認識した為、本来小さい遺構番号が新期の遺構に付されるべきであるが、この2軒では逆になっている。なお、A 117号竪穴建物については周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形で、壁面は東西壁はほぼ垂直であるが北壁は外傾しながら立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、堆積土の大部分がA 124号竪穴建物の壊されているが、自然堆積と考えられる。

床面施設として中央やや南寄りで複式炉1基を検出した。二室構造の複式炉で、壁面に近い南東側が前室になる。後室はA 124号竪穴建物炉に壊されており、燃焼部のみ残存している。残存する石組は前室が外径85×90cmで、台形に近い長方形であったと考えられるが、前室も南壁の炉石は残存していない。燃焼部焼土は後室で確認されており、石組の内側ほぼ全域に広がっていたと考えられる。53×27cmの方形で、被熱深度は約3cmである。前室では楕円形の掘り方が確認されており、石組はその壁面に炉石を立て並べて構築されている。一方、後室には掘り方は無く、設置する部分のみ掘り込んで炉石を据え付けている。炉内は床面より低い位置にあり、後室よりも前室のほうがさらに低い。その他に周溝13条と柱穴23個を検出した。周溝が壁面に沿って二列に併行することから、北側に向かって少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。構築段階である第一段階に伴う周溝は溝3～5・10・11・12で、床面をほぼ全周していたと考えられるが、北東側はA 124号竪穴建物の壊されており残存していない。柱穴はP 03・07・14～16・19・23が主柱穴であり、不整形な七角形の柱配置になると考えられる。ただし、床面北東側にA 124号竪穴建物の壊された柱穴があったと仮定すれば八角形の柱配置になると考えられる。第二段階に伴う周溝は溝1・2・06～09・13で、削平の為不明確であるが全周はしていなかったと考えられる。この段階の柱配置は不明であるが、床面南東側に柱穴が集中することからこの部分ではP 07と08に、P 03を04にといった柱の立て直しが行われた可能性もある。

遺物は床面直上を中心に出土しており縄文土器4点と石器1点、土器片円盤1点を掲載した（a 392～395、c 1079、g 36）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7b～8b式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 123号竪穴建物は、Ⅲ層を掘り込んでいるA 117号竪穴建物の北東壁の立ち上がりが不明瞭であり、それを確認するためにトレンチを設定して断ち割ったところ、北側で床面と考えられる平坦面を確認したことから竪穴建物と認定した。後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。A 117号竪穴建物堆積土を壊して床面が構築されていることから本遺構のほうが古く、本来小さい遺構番号が新期の遺構に付されるべきであるが、この2軒では逆になっている。平面形は円または楕円形と考えられるが、西壁がⅢ層との判別が困難であることと南側をA 117号竪穴建物精査時に壊してしまった為不明である。床面はⅢ層及びA 117・124号竪穴建物堆積土を

削り出しているが、南側に向かって傾斜しており凹凸も著しい。堆積土は東側はにぶい黄褐色土、西側は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝6条と柱穴3個を検出した。周溝は壁面に沿って二列が併行しており、少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。第一段階に伴う周溝は溝3～5で溝5の西側には周溝の残存と考えられる浅い段差も確認されている。第二段階に伴う周溝は溝1・2で、溝3～5と非常に近接していることから建物規模の変化はほとんど変わっていない。柱穴は検出数が少なく、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器1点、土器片円盤1点を掲載した（a 421、c 1202、g 37）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式古段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 124号竪穴建物は、先述の通りA 117号竪穴建物の同一プラン内で検出された竪穴建物である。A 117号竪穴建物精査中に壁面の大半を壊してしまった為断面観察からの推定になるが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ～Ⅳ層及びA 117号竪穴建物堆積土を平坦に整えているが、中央北側は斜面上方に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土とにぶい黄褐色土が交互に堆積しており、自然堆積である。

床面施設として周溝9条と柱穴3個を検出した。周溝は溝2・3は併行するが、その他は一連のものであったと考えられる。柱穴は西壁付近にのみ分布しており柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器5点を掲載した（a 422、c 16・17・1044・1080・1081）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は地文のみの破片が多いが、A 117・128号竪穴建物との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 128号竪穴建物は、A 117号竪穴建物の床面精査中に黒褐色土やにぶい黄橙色土が斑状に堆積する円形プランとして検出した。大部分を他遺構に壊されているが、平面形は円形と考えられる。壁面がほとんど残存していない為、壁面形状は不明である。堆積土は黒褐色土とにぶい黄橙色土で構成されるが、堆積が薄いため様相は不明である。本遺構に伴う床面施設は検出されなかった。

遺物は床面直上から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 451）。

本遺構は、床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土土器に大木7a式と考えられるものが含まれていることとA 117・124号竪穴建物との重複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えられる。

(村田)

A 109号竪穴建物

(第1-59・130～132図、第2-24～27・253・258・269・284・325図、写真図版82・83・291～293・462・465・471・477・496)

ⅡA 9v～10wグリッドに位置する。検出面はⅡ層で、暗褐色の円形プランとして検出した。A 172号竪穴建物、18・19号焼土、5号溝と重複関係にあり、新旧関係は18・19号焼土→A 172号竪穴建物→A 109号竪穴建物→5号溝である。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅡ層下位～Ⅲ層を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土と暗褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで複式炉1基を検出した。二室構成の複式炉で、斜面下方にあたる南側

が前室となる。石組は前室が外径 70 × 70cm、後室が外径 40 × 60cmで、台形に近い長方形であるが、前室の西壁は炉石が全体的に大きく動いている。前室の燃焼部焼土は仕切り石付近に位置し、36 × 17cmの楕円形で、被熱深度は約 4cmである。後室の燃焼部焼土は炉内全域に広がり、26 × 44cmの範囲で、被熱深度は約 3cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴 8 個を検出した。北東側に列状に分布するが、柱配置は不明である。

遺物は炉の周辺、床面直上、堆積土中から出土しており、縄文土器 40 点と石器 6 点を掲載した（a 280～319、c 9・155・303・1005・1193・1194）。縄文土器のうち a 281・287 は円筒土器で、a 281 は円筒上層 c 式、287 は円筒上層 a 式と考えられる。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器に大木 8 b 式や円筒上層 c 式が含まれ、炉の形態が複式炉であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 110～112 号竪穴建物

（第 1-60・132・133 図、第 2-27～29・253・297・326・382 図、写真図版 84・85・293・294・462・483・497・524）

II A 9 t～11 v グリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層で、黒褐色の半円形プランが連なる形で検出した。東側の検出面がⅢ層下位であり、この部分ではプランが不明瞭であった為、南北のグリッドラインに沿って層位確認トレンチを設定して断面観察を行い新旧関係を確認した。119 号土坑、5・11 号溝とも重複関係にあり、新旧関係は A 112 号竪穴建物→A 111 号竪穴建物→A 110 号竪穴建物→119 号土坑、5・11 号溝である。

A 110 号竪穴建物は、黒褐色土の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平、東側はⅢ層との判断が難しく、プランは推定となる。残存部分から推定される平面形は円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層及び A 112 号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南東側で複式炉 1 基を検出した。三室構造の複式炉で、壁面に近い南東側が前室と考えられる。なお、北西側にあたる後室北壁は残存しておらず、さらに炉の上面に重なっている木根が炉石に絡まっており、これを除去すると炉全体が壊れてしまうことから可能な限り根を除去した段階で写真測量により断面図の作成を行った。また、このような状況であったことから平面図の作成はできなかった。断面図から計測できる規模は、前室の外径が 72cm、中央室の外径が 50cm、後室の外径が 50cm である。燃焼部焼土は前室と後室で検出した。いずれも仕切り石付近に位置しており、前室の燃焼部焼土は被熱深度が約 2cm、後室の燃焼部焼土は被熱深度が約 4cm である。炉内は後室は床面と同じ高さであるが、前室と中央室は床面より低い位置にある。後室は炉石を設置する部分のみ掘り込んでいるが、前室と中央室は石組と同規模の土坑状の掘り方を持ち、壁面に沿って炉石を立て並べている。その他に周溝 4 条と柱穴 8 個を検出した。周溝は部分的なものであるが、北壁面に二列併行していることから、建て替え・拡張が行われた可能性がある。柱穴は壁面付近に分布するが、柱配置は不明である。

遺物は炉付近の堆積土を中心に出土しており、縄文土器 7 点と石器 2 点、土器片円盤 1 点を掲載した（a 320～326、c 1074・1195、g 29）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b 式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 111 号竪穴建物は、暗褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は A 110 号竪

穴建物に壊され、東側はⅢ層との判別が難しく、プランは推定となる。残存部分から推定される平面形は楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅲ～Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄り土坑状の掘り込みを検出した。堆積土から炉石と考えられる板状礫が出土しており、炉の設置痕跡と考えられる。平面形は円形の土坑を連続させる形状で、長軸は1.36 m、南側の土坑部分の短軸は0.95 mである。断面形は半円形で、深さは約18cmである。なお、南側の土坑部分の底面西側では炉石の据え付け穴の可能性がある浅い長方形の窪みを確認している。その他に周溝3条と柱穴10個を検出した。柱穴は規模の大きいP 01・03・10が主柱穴になる可能性があるが、床面南側が削平されている為柱配置は不明である。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器7点と石器3点、土器片円盤2点を掲載した(a 327～333、c 10・1075・1196、g 30・31)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7 b～8 a式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 112号竪穴建物は、暗褐色土の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、残存する壁面及び炉・柱穴の配置から平面形は楕円形と考えられ、壁面は若干外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は暗～黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南東側で石囲炉1基を検出した。石組は、外径78×68cmの楕円形である。燃焼部焼土は炉内のほぼ全域に広がり、56×50cmの円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に土坑1基と柱穴6個を検出した。土坑1は床面北側に位置する円形の土坑で、外径は80×70cm、深さは16cmである。柱穴は小型のものが多く、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器6点と石器2点を掲載した(a 334～339、c 11・1076)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 a式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 113・114・154・161・170・180号竪穴建物

(第1-61・62・133・134図、第2-29・30・58・59・258・270・273・284・297・298・302・325・329・376・381図、写真図版86～89・294・295・317・465・471・472・477・484・485・497・498・520・524)

Ⅱ A 10 w～13 xグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、遺物を含む暗褐色の不整形プランとして検出した。上面では新旧関係が不明瞭であった為、斜面の傾斜方向にあたる北西－南東方向に複数のトレンチを設定して掘り下げ、断面観察によって新旧関係を確認した。なお、北～東側でA 161・170・171・181・190号竪穴建物と重複しているが、A 161・170・171・190号竪穴建物は第1-84～86図に、A 181号竪穴建物は第1-89～91図に個別図を掲載しており、前者は82頁、後者は88頁で記載を行っている。これらの竪穴建物を含めた新旧関係は、A 190号竪穴建物→A 171号竪穴建物・201号土坑→A 170号竪穴建物・200号土坑→A 114号竪穴建物→A 154号竪穴建物→A 180号竪穴建物→A 181号竪穴建物→A 113号竪穴建物→A 161号竪穴建物である。

A 113号竪穴建物は、当初はA 114・180号竪穴建物のプランと合わせて黒～暗褐色の長方形プランとして検出したが、精査によりプランの異なる2軒の建物であることが判明したことから本遺構を

A 113号竪穴建物とした。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は隅丸方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層及びA 171・180号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として東側で石囲炉1基を検出した。石組は外径約40cmの円形と考えられるが、南側は削平のためか炉石が抜けて散逸していた。燃焼部焼土と考えられる褐色の焼土（1層）を検出したが、熱変成は非常に弱い。炉内は床面より低い位置にあり、炉石を設置する範囲を掘り窪めて掘り込みに沿って炉石を設置していたと考えられる。その他に柱穴4個を検出した。北東壁付近に分布しているが、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器6点と石器3点、土製品1点、土器片円盤1点を掲載した（a 340～345、c 304・327・1004、e81、g 32）。縄文土器のうちa 340はA 114号竪穴建物堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階主体であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 114号竪穴建物は、先述の通り当初はA 113号竪穴建物と同一と考えていたが、上面プランと異なる方向に周溝が確認された為、別の竪穴建物と認定した。ただし、この時点ではA 180号竪穴建物と合わせて1軒の竪穴建物と考えていたが、周溝や柱穴に切り合いが認められたことから後に2軒に分離した。なお、新旧関係ではA 180号竪穴建物のほうが新しく、本来小さい遺構番号が新期の遺構に付されるべきであるが、この2軒では逆になっている。後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。上面を大幅に削平されているが、平面形は円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がると考えられる。床面はⅢ層を削り出しているが、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央北寄りで石囲炉1基を検出した。石組は外径65×65cmの六角形で、南側の炉石が無く開口している。燃焼部焼土は炉内北側に位置し、40×25cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝3条と柱穴23個を検出した。周溝は北壁面に沿って二列併行しており、少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。柱穴は西側と南東側に集中するが、このうちP 02・10・13・19・23が主柱穴で、五角形の柱配置になると考えられる。また、拡張後にはP 01・11・14・17・22等も壁柱穴として使用された可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器8点と石器4点、土器片円盤2点を掲載した（a 346～353、c 156・1077・1078・1197、g 33・34）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式新段階主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 154号竪穴建物は、A 114・180号竪穴建物精査中に、層位確認トレンチ（B断面）でA 180号竪穴建物より一段低い位置にある竪穴建物として認識した。後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。斜面下方である南壁は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ層を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央やや南寄りで複式炉1基を検出した。二室構成の複式炉であるが、炉石の抜き取りや崩落が著しく平面形は不明である。後室と考えられる北側の石組内で燃焼部焼土を検出した。燃焼部焼土は17×11cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面と同じく南側に向かって

傾斜しているが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝8条と柱穴13個、埋設土器1基を検出した。周溝は北壁に沿って併行するものや切り合うものがあり、少なくとも2回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。構築段階である第一段階に伴う周溝は溝1～3・6で、当初は円形プランであったと考えられる。第二段階として溝6を切るように溝8が掘削され、第三段階として溝4・5が掘削されて楕円形プランへと変化したと考えられる。柱穴は中央から東側に分布しているが、柱配置は不明である。埋設土器は北壁付近で検出した。溝3の壁面を若干壊して設置されていることと溝8との位置関係から第三段階に伴うものと考えられる。掘り方は土器の直径と同じ大きさに掘り込み、深鉢を正位に設置している。

遺物は埋設土器の他に堆積土中から出土しており、縄文土器3点と石器2点を掲載した(a 628～630、c 1091・1216)。縄文土器のうちa 628が埋設土器の本体、その他は埋設土器内堆積土から出土したものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 180号竪穴建物は、前述の通りA 114号竪穴建物から分離した竪穴建物である。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、南側に向かって傾斜しており凹凸も認められる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝5条と柱穴11個を検出した。周溝は途切れているが一連のもので、壁面に沿って巡っていたと考えられる。柱穴は全域に分布しているが、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しているが、縄文土器は摩耗した破片が多く図示できたものは無いが、大木8b～9式土器の破片が含まれている。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(中村・村田)

A 115号竪穴建物

(第1-63図、写真図版90)

II B 3 c グリッドに位置する。検出面はIV層で、II B 4・5 a・b 遺物包含層精査後に黒褐色の方形プランとして検出した。他遺構との重複関係は無い。大部分が調査区外であり、斜面下方である南側も削平されている為平面形は不明である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として土坑1基を検出した。85×73cmの円形で、深さは20cmである。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているのみで、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物の可能性があるが、詳細は不明である。年代についても出土遺物が乏しく詳細は不明であるが、II B 4・5 a・b 遺物包含層との重複関係から中期後葉以前の構築・使用と考えられる。

A 116号竪穴建物

(第1-63・134～137図、第2-30～36・253・260・262・325・326・363・366・368・379・382図、写真図版90・295～300・462・466・467・497・513・151・516・523・524)

II B 6 b グリッドに位置する。検出面はIII層下位～IV層で、にぶい黄褐色～暗褐色の円形プランと

して検出した。A 141 号竪穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが古い。南側を A 141 号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられる。壁面は東西壁はほぼ垂直に立ち上がるが、北壁は中位付近まではほぼ垂直に、それより上位は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は真砂土を含むにぶい黄褐色～褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として地床炉 2 基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉 1 は中央やや西寄りに位置し、36 × 36cm の円形で、被熱深度は約 3 cm である。炉 2 は炉 1 の東側に隣接し、50 × 46cm の円形で、被熱深度は約 3 cm である。その他に柱穴 9 個を検出した。中央から東側に分布しており、P 03・05・09 等が主柱穴になる可能性があるが、南側が削平されている為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から多量に出土しており、縄文土器 39 点と石器 7 点、石製品 3 点、台形土器 1 点、土器片円盤 1 点を掲載した（a 354～391、c 12・13・204・235・1198～1200、d 60・75・82、f 3、g 35）。縄文土器のうち、a 354 は A 122 号竪穴建物堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物が大木 8 b～9 式古段階主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 118・119 号竪穴建物

（第 1-64・137 図、第 2-37 図、写真図版 91・299）

II B 9 h～j グリッドに位置する。検出面は IV 層で、にぶい黄褐色の不整形プランとして検出した。上面では新旧関係が不明瞭であった為、層位確認トレンチを設定して掘り下げを行ったところ、床面の高さが異なる 2 軒の竪穴建物が重複していることを確認した。22・131 号土坑とも重複関係にあり、新旧関係は 22・131 号土坑→A 119 号竪穴建物→A 118 号竪穴建物である。

A 118 号竪穴建物は、斜面上方に位置する竪穴建物である。大部分が削平されており、平面形は不明である。壁面は、わずかに外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として周溝 1 条と柱穴 9 個を検出した。床面の大部分が失われてしまっている為、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 1 点を掲載した（a 396）。a 396 は本遺構の斜面下位に位置する A 105 号竪穴建物出土破片と接合しているが、本遺構に帰属するものと判断した。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土土器に大木 10 式古段階のものが含まれることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 119 号竪穴建物は、斜面下方に位置する竪穴建物である。大部分が削平によって失われており、平面形は不明である。壁面は、わずかに外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝 1 条と柱穴 9 個を検出した。柱穴は北壁面付近に集中しており、P 04・05・07・08 は壁柱穴になる可能性があるが、床面の大部分が失われている為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は炉は確認されていないが A 118 号竪穴建物と同様の特徴を有することから住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は出土遺物が乏しく、A 118 号竪穴建物との重複関係から中期末葉以前に構築・使用されたものと考えておきたい。

（村田）

A 120・121・126・127・132・139・144・148・152・153・159・173・174・177
 ・178号竪穴建物

(第1-65～70・137～139図、第2-37・41～44・49・52・55・58・60・73・74・238・253・254・256・258・260・262・263・271・272・282・284・299・300・327・329・331・363・364・376・379・382図、写真図版92～103・299～301・304～307・310・311・313・314・317・318・327・328・385・462・464～468・471・472・475・477・484～486・498・499・513・514・520・523・524)

II B 9 a～12 b グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、遺物が多量に出土する暗褐色土の広がりとして検出した。土層確認の為にグリッドラインに沿って南北方向に複数のトレンチ設定して掘り下げたところ、炉や壁面の立ち上がりを確認されたことから複数の竪穴建物が重複していることが判明した。ただし、上面でのプラン把握が困難であったことから、東西方向にも複数のベルトを設定して掘り下げ、床面施設の検出及び断面観察から遺構の認定を行った。なお、この範囲では竪穴建物と判断できたものから遺構番号を付している為、新旧関係と遺構番号の順序は一致していない。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係はA 159号竪穴建物→A 174号竪穴建物→A 178号竪穴建物→A 153号竪穴建物→A 152号竪穴建物→A 121号竪穴建物→A 120号竪穴建物→A 173号竪穴建物→A 144・178・196号竪穴建物→A 127号竪穴建物、218号土坑→A 126号竪穴建物→A 139・158号竪穴建物→A 148号竪穴建物、129号土坑→A 132・151号竪穴建物、126号土坑である。なお、A 159号竪穴建物については第1-83図で個別図を掲載しており、記載は82頁で行っている。

A 120号竪穴建物は、II B11 a～b グリッドの東西トレンチで土器が多量に出土する暗褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面は外傾ながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層及びA 121号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。床面直上からは炭化物が多量に出土しており、焼失家屋の可能性がある。

床面施設として北壁付近で複式炉1基を検出した。石囲炉と地床炉で構成される複式炉で、石囲炉は北壁と西壁の炉石は残存していないが、石組は外径69×65cmの方形と考えられる。燃烧部焼土は炉内北西側に位置し、48×41cmの円形で、被熱深度は約6cmである。地床炉は石囲炉の南側に位置し、110×80cmの範囲に不整形に広がり、被熱深度は約3cmである。炉内はいずれも床面と同じ高さであり、石囲炉の炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝1条と柱穴10個を検出した。柱穴のうち、P 01～07は壁柱穴になる可能性がある。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器1点、石製品1点を掲載した(a 397～400、c 386、d 61)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 a式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 121号竪穴建物は、II B11 a～b グリッドの東西トレンチ断面で壁面と考えられる立ち上がりを確認し、A 120号竪穴建物床面精査時にその立ち上がりに対応する暗褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は中央に位置する石囲炉で、炉石は大半が失われており平面形と規模は不明である。燃烧部焼土は72×45cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面と同じ傾斜であり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は北側に位置する地床炉で、燃烧部焼土は35×20cmの楕円形で、被熱深度は約

2cmである。その他に、六角形の柱配置となる柱穴6個を検出した。

遺物は柱穴内や堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 401）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7 a式であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 126号竪穴建物は、II B10 a・bグリッド内の掘り下げ中に焼土や炭化物を含む暗褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形または楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体であるが、上位には焼土と炭化物が多量に含まれており人為堆積の可能性がある。

床面施設として炉4基を検出した。別の竪穴建物に伴う可能性も考えたが、同一面上にあることから本遺構に帰属するものとした。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は南東側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は77×50cmの楕円形で、被熱深度は約8cmである。炉2は北西側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は18×18cmの円形で、被熱深度は約3cmである。炉3は南西側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は33×26cmの円形で、被熱深度は約3cmである。炉4は北東側に位置する地床炉で、燃焼部焼土33×21cmの楕円形である。断面図の作成を忘れてしまったが、被熱深度は約2cmである。その他に周溝3条と柱穴19個を検出した。柱穴のうち、P 02・05・06・09・11・16・18が主柱穴または壁柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器5点と赤彩が付着した縄文土器2点、石器7点、土製品2点を掲載した（a 438・439・441～443、r 7・8、c 15・18・19・110・111・157・1082、e 49・50）。縄文土器のうち、a 438はA 148号竪穴建物堆積土出土の破片と接合し、a 442・443はA 127号竪穴建物との重複部分から出土している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木8 b式新段階が主体であるが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 127号竪穴建物は、A 126号竪穴建物の北側で暗褐色の半円形プランとして検出した。後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、III層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土と黒褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として炉3基を検出したが、いずれもA 126号竪穴建物に一部を壊されている。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は南西側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は67×25cmの楕円形、被熱深度は約3cmである。炉2は炉1東側に隣接する地床炉で、燃焼部焼土は31×12cmの円形、被熱深度は約1.5cmである。炉3は中央北寄りに位置する地床炉で、燃焼部焼土は64×21cmの楕円形、被熱深度は約2cmである。その他に周溝6条と柱穴12個を検出した。周溝は途切れているが二列が壁面に併行しており、少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。構築段階にあたる第一段階は溝2・5・6が巡る円形プランで、柱穴はP 03・05が伴い、第二段階は溝1・3・4が巡る円形プランで、柱穴はP 01・06・09・11が主柱穴になると考えられる。また第二段階では壁面に斜めに掘削された柱穴（P 07・10・12）があり、これらは主柱穴を支える支持柱であった可能性がある。炉は位置関係から炉2が第一段階、炉1・3が第二段階に伴うと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器7点と石器4点を掲載した（a 444～450、c 20・205・1007・1203）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木7 a～8 b式であるが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 132 号竪穴建物は、Ⅱ A 9～12 a グリッド中央の南北トレンチで壁面と考えられる立ち上がりを確認し、Ⅱ B10 a グリッド内を掘り下げたところ炉を伴う床面を検出したことから竪穴建物と認定した。なお、本遺構の堆積土とⅢ層との判別は困難であり、壁面はベルト部分でのみしか確認できなかった。平面形は楕円形で、壁面は大きく外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層と下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土や黒褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として中央北寄りで地床炉 1 基を検出した。燃烧部焼土は 55 × 33cm の楕円形で、被熱深度は約 2cm である。

遺物は堆積土 2 層を中心に出土しており、縄文土器 10 点と赤彩が付着した縄文土器 1 点、台形土器 1 点を掲載した (a 465～474、r 9、f 4)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b～9 式新段階が主体であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 139 号竪穴建物は、複数の南北トレンチでの断面観察で壁面と考えられる立ち上がりを確認し、Ⅱ B 9・10 a グリッド内を掘り下げたところ炉を伴う床面を検出したことから竪穴建物と認定した。なお、本遺構の堆積土とⅢ層との判別は困難であり、壁面はベルト部分でのみしか確認できなかった。平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層と下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。堆積土下位～床面直上から焼土と炭化物が多量に出土しており、焼失家屋の可能性はある。

床面施設として中央で石囲炉 1 基を検出した。石組は、外径 68 × 47cm の長方形である。燃烧部焼土は炉内中央に位置し、75 × 65cm の円形で、被熱深度は約 2cm である。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 4 点と石器 3 点、石製品 1 点、土製品 1 点を掲載した (a 528～531、c 23・159・1085、d 68、e 74)。石器のうち c 1085 は炉石として転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b～9 式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 144 号竪穴建物は、Ⅱ B11 a～b グリッドのトレンチ掘削時に炉を検出し、断面観察で床面と考えられる平坦面と壁面の立ち上がりを確認したことから竪穴建物と認定した。上面の大部分が削平されているが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として中央で地床炉 1 基を検出した。燃烧部焼土は 68 × 41cm の楕円形で、被熱深度は約 2.5 cm である。なお、焼土西端に直立した礫が 1 個あることから石囲炉であった可能性もある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 1 点と石器 1 点を掲載した (a 555、c 26)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b～9 式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 148 号竪穴建物は、Ⅱ A 9～12 a グリッド中央の南北トレンチで A 132 号竪穴建物の下位に壁面と考えられる立ち上がりを確認し、Ⅱ B10 a グリッド内を掘り下げたところ炉を伴う床面を検出したことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は A 132 号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南東側で石囲炉 1 基を検出した。石組は、外径 56 × 44cm の楕円形である。炉内では燃烧部焼土は検出されなかった。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は炉内や床面直上から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した（a 440・572、c 1088）。石器のうちc 1088は炉石として転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木8b式新段階が主体であるが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 152号竪穴建物は、A 127号竪穴建物精査後に北側で暗褐色の半円形プランとして検出した。西～南側はA 127・151号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は49×37cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器4点を掲載した（a 620～623、c 161・237・252・1215）。石器のうち、c 161・252はA 151号竪穴建物との横断トレンチで出土している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6～7a式主体であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 153号竪穴建物は、ⅡB 9bグリッド内の掘り下げ中に暗褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方にあたる南側は削平されているが、平面形は隅丸方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉3基を検出した。重複関係から炉3より炉2が新しいが、炉1とは直接的な重複関係が無く新旧関係は不明である。炉1は中央に位置する複式炉で、石囲炉と地床炉で構成される。石囲炉の石組は74×51cmの楕円形で、一部に土器片を用いて隙間を充填している。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、60×40cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。地床炉の燃焼部焼土は55×44cmの円形で、被熱深度は約4.5cmである。炉内はいずれも床面と同じ高さであり、石組の炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は北側に位置し、燃焼部焼土は48×34cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。炉3は南側を炉2に壊されているが、燃焼部焼土は直径40cmの円形で、被熱深度は約1.5cmである。その他に支柱穴になると考えられる柱穴3個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器6点、土器片円盤1点を掲載した（a 624～627、c 28・207・253・318・319・1090、g 42）。石器のうち、c 1090は炉石として転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7a式主体であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 173号竪穴建物は、A 126号竪穴建物精査後にA 177号竪穴建物と共に黒褐色の方形プランとして検出した。当初はA 177号竪穴建物と合わせて1軒と考えていたが、断面観察により床面の高さが異なることが判明したことから2軒に分離した。A 177号竪穴建物より古いのが、先に炉を確認したこちらに小さい遺構番号を付した。西～南側は削平及び新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は方形または楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層と下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は19×15cmの円形で、被熱深度は約3cmである。その他に、熱変成は弱いが現地性焼土の可能性のある焼土範囲を2箇所検出した。炉の付近に位置する焼土範囲は50×35cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。南側に位置する焼土範囲は直径43cmの円形で、被熱深度は約2cmである。その他に柱穴8個を検出した。いずれも北壁付近

に位置しており、このうちP 01・03・04・07が壁柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点を掲載した(a 767～769)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 174号竪穴建物は、ⅡB 9～12 aグリッド中央の南北トレンチでの断面観察でA 173号竪穴建物の下位で床面と考えられる平坦面を確認し、ⅡB 11 aグリッド内を掘り下げたところ平坦面と同じ高さで炉を検出したことから竪穴建物と認定した。後述するように炉と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。南側は新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は長方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層を削り出しているが、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉3基を検出した。重複関係から炉1が炉2より新しいが、炉3とは直接的な重複関係が無い為新旧関係は不明である。炉1は中央東寄りに位置する石囲炉で、南壁は炉石が抜き取られた可能性があり残存していないが、石組は外径は64cmの円形と考えられる。燃焼部焼土は炉内北東側に位置し、50×35cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は炉1南西側に隣接する地床炉で、燃焼部焼土は35×34cmの円形で、被熱深度は約3cmである。炉3は南西側に位置する石囲炉であるが、炉石の大半が失われており平面形と規模、構築方法は不明である。燃焼部焼土は87×64cmの不整形で、被熱深度は約2cmである。その他に周溝2条と柱穴10個を検出した。炉と柱穴の位置関係から、少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。構築段階にあたる第一段階は周溝を持たない長方形プランで、柱穴はP 01・03・06が伴い、第二段階は溝1・2が巡る長方形プランで、柱穴はP 02・05・09が伴うと考えられる。炉は炉2が第一段階、炉1・3が第二段階に伴うと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 770)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は地文のものが多いが、前期に属するものが含まれることと他遺構との重複関係から前期末葉の構築・使用と考えられる。

A 177号竪穴建物は、A 126号竪穴建物精査後にA 173号竪穴建物と共に黒褐色の方形プランとして検出した。当初はA 173号竪穴建物と合わせて1軒と考えていたが、断面観察により床面の高さが異なることが判明したことから2軒に分離した。A 173号竪穴建物より新しいが、炉の検出が遅かった為大きい遺構番号を付した。大部分が新期の竪穴建物に壊されており、平面形は不明である。壁面は外傾しながら立ち上がり、床面はⅢ層と下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土と黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴9個を検出した。配置に規則性が無く、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物の可能性はあるが、詳細は不明である。出土遺物も乏しいが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 178号竪穴建物は、ⅡB 9～12 aグリッド東側の南北トレンチで壁面を確認し、ⅡB 11 aグリッド内を掘り下げたところ黒褐色の楕円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を削り出しているが、若干凹凸が認められる。堆積土はにぶい黄褐色土を含む黒褐色土が主体で、自然堆積である。床面直上から炭化物が多量に出土していることから、焼失家屋の可能性はある。

床面施設として中央北寄りで地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は22×21cmの円形で、被熱深度

は約2cmである。その他に柱穴6個を検出した。このうちP 01・05は壁柱穴、P 02・04は主柱穴になる可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器1点を掲載した（a 786、c 1227）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6式であることから前期末葉の構築・使用と考えられる。

（高橋・村田）

A 122号竪穴建物

（第1-71・139・140図、第2-37～39・253・271・327・375図、写真図版104・301～303・462・471・497・520）

ⅡB 6 c グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、褐～黄褐色の円形プランとして検出した。西側壁面でA 116号竪穴建物とわずかに重複関係にあり、本遺構のほうが新しいと判断した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられる。壁面は外方に開きながら立ち上がり、北東壁では中位付近でテラス状の平坦面を形成する。平坦面は幅約35cmで、内側に向かって若干傾斜している。床面はⅣ層を平坦に整えており、さらに中央より南東側では床面構築土の可能性があり、黄褐色土を確認している。堆積土は褐～黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央やや西寄りで石囲炉1基を検出した。南北壁の炉石が確認できなかった為平面形は不明であるが、長軸60cm程度の円または楕円形であったと考えられる。燃烧部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、42×32cmの範囲で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝3条と柱穴7個を検出した。床面南側で柱穴が検出されていない為柱配置は不明であるが、P 01～03が主柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器19点と石器3点、土製品2点を掲載した（a 402～420、c 15・317・1201、e 49・50）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 a・b式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 134号竪穴建物

（第1-71・140図、第2-44図、写真図版105・306）

ⅡB 10 c グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、黒褐色の円形プランが連結する範囲として検出した。南北の長軸方向にトレンチを設定して掘り下げた結果、1軒の竪穴建物と2基の土坑が重複していることが判明した。8号溝とも重複関係にあり、新旧関係は8号溝→190・217号土坑→A 134号竪穴建物である。後述するように周溝の配置から建て替え・拡張が行われた可能性がある。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形または隅丸方形と考えられる。壁面は北～西壁は直立気味に立ち上がるが、東壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を削り出しているが、若干の凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝6条と柱穴13個を検出した。周溝は、溝1・3・4・6が一連のものであり、溝2と併行している。両者は重複していない為同時存在の可能性もあるが、柱穴も重複するものが多いことから少なくとも1回の建て替え・拡張が行われた可能性がある。柱穴との重複関係から内側の溝2が古く、溝1・3・4・6が新しいと考えられる。ただし、床面南側の柱穴が検出されていない為柱配置は不明である。

出土遺物は217号土坑との重複部分から多く出土している。217号土坑に帰属する可能性もあるが、

本遺構に伴うものとして縄文土器1点を掲載した(a 475)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木6式が多いが、中期前葉に属する土坑を壊していることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

(村田)

A 125・145・146・149・162・175・187～189・191号竪穴建物

(第1-72～74・141～146図、第2-40・41・62～66・78～83・254・258・260～262・267・268・274・275・304・329・330・372・382・図、写真図版106～109・303・304・319～322・332～334・462・465～467・469・470・473・486・498・518・524)

II A 6 x～II B 8 a グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、遺物が集中する黒褐～暗褐色土の広がりとして認識した。周辺の状況から竪穴建物が重複しているものと想定されたが、上面ではプランの把握が困難であったことからグリッドラインに沿って東西・南北方向に複数のベルトを設定し、断面観察を行いながら掘り下げ、炉や硬化範囲等床面と判断できる平坦面が確認された時点で竪穴建物と認定した。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係はA 149・191号竪穴建物→A 188号竪穴建物→A 175号竪穴建物→A 162号竪穴建物→A 129・146・186号竪穴建物→A 189号竪穴建物→A 187号竪穴建物→A 145号竪穴建物→A 125号竪穴建物である。なお、A 145号竪穴建物は第1-75～77図、A 149・175号竪穴建物は第1-81図、A 146号竪穴建物は第1-82図で個別図を掲載しており、それぞれ75・81・82頁で記載を行っている。

A 125号竪穴建物は、暗褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は中央に位置する石囲炉で、石組は外径81×64cmの長方形である。燃焼部焼土は北壁付近に位置し、48×43cmの円形で、被熱深度は約3cmである。掘り方は石組と同規模の土坑状で、さらに炉石を設置する部分を深く掘り込んでいる。炉2は北側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は28×26cmの円形で、被熱深度は約2cmである。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器15点と石器1点を掲載した(a 423～437、c 341)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、床面直上の出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 162号竪穴建物は、遺物を多量に含む暗褐色の広がりとして検出した。当初は沢状地形堆積土であるⅢ層が遺物包含層状になっているものと考えていたが、トレンチを設定して掘り下げたところ壁面と考えられる立ち上がりを検出したことから竪穴建物と認定した。南側は古代以降の遺構及びトレンチ掘削により失われているが、平面形は長方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は砂を含む暗褐～にぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器45点と石器11点、土製品1点、土器片円盤1点を掲載した(a 655～699、c 33・34・164・165・196・281～283・1217～1219、e 1、g 45)。

本遺構は、長軸規模が9mを超えることから大型住居に属する建物と考えられる。出土土器は大木6～7b式が主体であり、前期末葉～中期前葉の構築・使用と考えられる。床面施設は確認されていないが大型住居であるとすれば数回の建て替え・拡張が行われた可能性がある。

A 187 号竪穴建物は、II A 7 x グリッド内掘り下げ中に炉を検出し、断面観察で壁面の立ち上がりを確認したことから竪穴建物と認定した。東～南側は削平及び A 125 号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層及び A 188 号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央西寄りで石囲炉 1 基を検出した。石組は、外径 75 × 68cm の長方形である。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、40 × 33cm の楕円形で、被熱深度は約 2.5cm である。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴 3 個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 20 点と石器 2 点、土製品 1 点を掲載した（a 827 ～ 846、c 41・1099、e 96）。石器のうち c 1099 は炉石として転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木 8 b ～ 9 式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 188 号竪穴建物は、A 187 号竪穴建物精査後にⅢ層を掘り下げたところ、円形の黒褐色プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層を削り出しているが、部分的に凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南西側で石囲炉 1 基を検出したが、炉石の大半が失われており平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は 38 × 30cm の円形で、被熱深度は約 3cm である。その他に柱穴 2 個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 17 点と石器 13 点、土製品 1 点を掲載した（a 847 ～ 863、c 42 ～ 47・168・223・239・284・285・345・1100）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 5 ～ 7 a 式であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 189 号竪穴建物は、A 187 号竪穴建物の北壁より北側で壁面の立ち上がり確認されたことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平及び A 187 号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 4 点を掲載した（a 864 ～ 867）。

本遺構は床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられ、出土土器は大木 8 b 式新段階が主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 191 号竪穴建物は、A 146・189 号竪穴建物精査後にそれより下位でにぶい黄褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平及び新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝 1 条と柱穴 13 個を検出した。柱穴のうち P 01・04・07・11 が支柱穴で四角形の柱配置となり、中央の支持柱として P 13 も使用されていた可能性がある。

遺物は柱穴や堆積土中から出土しており、縄文土器 5 点を掲載した（a 870・871・1213・1215・1216）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 6 式であることから前期末葉の構築・使用と考えられる。

A 129・131・136～138・145・192 号竪穴建物

(第 1-75～77・147～149 図、第 2-42・43・46～49・52・53・253・258・261～263・369・376 図、写真図版 110～113・305・306・308～310・313・314・462・463・465・466～468・477・516・520)

II A 7 v～8 x グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、古代の遺構である B 9 号竪穴建物精査後に調査区壁面に沿って設定した土層確認トレンチ (F 断面) で竪穴建物と考えられるプランを複数検出した。ただし、上面でのプラン把握が困難であったことから、グリッドラインに沿って複数のベルトを設定して掘り下げ、床面施設の検出及び断面観察から遺構の認定を行った。なお、この範囲では竪穴建物と判断できたものから遺構番号を付している為、新旧関係と遺構番号の順序は一致していない。多数の竪穴建物が重複関係にあり、新旧関係は A 131・188 号竪穴建物→A 138・186 号竪穴建物→A 172 号竪穴建物→A 129 号竪穴建物→A 136 号竪穴建物→A 193 号竪穴建物→A 145 号竪穴建物→A 192 号竪穴建物→A 155 号竪穴建物→A 109・150・187 号竪穴建物→A 137 号竪穴建物→146 号土坑→B 9 号竪穴建物である。

A 129 号竪穴建物は、B 9 号竪穴建物西側で暗褐色の円形プランとして検出した。当初は A 137 号竪穴建物と合わせて 1 軒の竪穴建物と考えていたが、断面観察の結果、A 192 号竪穴建物を挟んで上下に分離することが判明した。A 137・192 号竪穴建物より古いのが、先に炉を確認したこちらに小さい遺構番号を付した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉 1 基を検出した。炉石の一部は失われているが、石組は外径 80×80cm の方形である。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、43×38cm の円形で、被熱深度は約 2cm である。掘り方は石組より一回り大きい土坑状で、壁面より内側に炉石を立て並べている。

遺物は炉内や堆積土中から出土しており、縄文土器 5 点と石器 1 点を掲載した (a 452～456、c 251)。なお、本遺構は A 137・192 号竪穴建物と同時に掘削していることから、遺物の中にはこれらの竪穴建物に帰属するものが含まれている可能性がある。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b 式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 131 号竪穴建物は、II A 8 v グリッド内掘り下げ中に炉を検出し、断面観察では壁面は確認できなかったが、炉と同一面上で遺物の集中が認められたことから竪穴建物と認定した。堆積土の大部分を掘り下げた時点で認識した為、壁面形状・堆積の様相は不明である。遺物の分布状況から、平面形は円形と考えられる。床面はⅢ層を削り出しており、南側に向かって傾斜している。

床面施設として中央で石囲炉 1 基を検出した。石組は外径 57×45cm の方形であるが、北西側の炉石が失われている。燃焼部焼土は炉内北側に位置し、40×30cm の楕円形で、被熱深度は約 2.5cm である。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は床面直上から出土しており、縄文土器 4 点を掲載した (a 461～464)。また、床面直上から琥珀片が出土しており、分析を行ったが産地は特定できなかった (第 VI 章第 6 節)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 6～7 a 式主体であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 136 号竪穴建物は、A 137 号竪穴建物の直下で黒褐色の円形プランとして検出した。先述の通り A 137 号竪穴建物は当初 A 129 号竪穴建物と同一と捉えており、両者が分離することが判明する前に本建物を確認したことから、新旧関係と遺構番号が逆になっている。斜面下方である南側は削平さ

れているが、平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は南側に位置する石囲炉で、A 193号竪穴建物構築時に南側が壊されており、北側の炉石も失われていることから平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は54×34cmの不整楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は北側が高くなっており、浅い土坑状の掘り方を掘った後に炉石を設置し、さらに炉内北側は暗褐色土を充填して床面より高くしている。炉2は南東側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は59×50cmの円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴6個を検出した。

遺物は柱穴内や堆積土中から出土しており、縄文土器10点と石器4点、土製品1点を掲載した（a 497～506、c 22・158・222・1009、e 55）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 137号竪穴建物は、先述の通り当初はA 129号竪穴建物と同一と考えていたが、断面観察の結果2軒に分離できることが判明し、A 129号竪穴建物より新しいが炉の検出が遅かった為遺構番号は大きいものを付している。斜面下方である南側は削平、北側は調査区外へと至るが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層及び下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉1基を検出した。石組は、外径73×53cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、50×45cmの範囲で、被熱深度は約3cmである。掘り方は石組と同規模の土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器19点と石器4点、石製品1点を掲載した（a 507～525、c 206・1010・1084・1206、d 83）。縄文土器のうち、a 525は146号土坑堆積土出土の破片と接合している。また、石器のうちc 1084は炉石に転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木5～9式新段階まで確認できることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 138号竪穴建物は、調査区壁面トレンチ（F断面）の西側でプランを確認し、同一面上で床面施設を検出したことから竪穴建物と認定した。調査区壁面付近の堆積は厚いが、それ以外の部分は大幅に削平されており、床面施設の配置から平面形は楕円形と推定した。壁面は外傾しながら立ち上がり、床面はⅢ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土と暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は40×40cmの円形で、被熱深度は約2cmである。その他に柱穴4個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 526・527）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6～7a式であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 145号竪穴建物は、ⅡA 7w・xグリッド南側の掘り下げ中に炉を検出し、断面観察でそれに対応する床面と壁面の立ち上がりを確認できたことから竪穴建物と認定した。A 129号竪穴建物より新しいが、炉の検出が遅かった為遺構番号は大きいものを付している。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層及び下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央東寄りで炉2基を検出した。2基は隣接するが直接的な重複関係が無く、新旧

関係は不明である。炉1は石囲炉と地床炉で構成される複式炉であるが、石囲炉は北壁と東壁の炉石が失われており平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は60×43cmの楕円形で、被熱深度は約2.5cmである。炉内はいずれも床面と同じ高さであるが、石囲炉部分の掘り方は石組と同規模の浅い土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。地床炉は石囲炉の南東側に位置し、燃焼部焼土は50×38cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴3個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器6点と石器2点を掲載した（a 556～561、c 27・236）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7a～8a式であることと他遺構との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 192号竪穴建物は、A 129・137号竪穴建物堆積土と考えていた黒褐色土中位で炉を検出し、断面観察を行ったところ両者の間に床面と考えられる平坦面を確認したことから竪穴建物と認定した。炉を確認した時点で認識した為、堆積土の大部分を掘り下げてしまい床面と西壁の一部を検出したのみである。北側が調査区外に至るが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉1基を検出した。石組は外径56×55cmの方形であるが、北壁の炉石は失われている。燃焼部焼土は38×34cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴2個を検出した。

遺物は、確実に本遺構に帰属するといえるものは無い。ただし、A 129・137号竪穴建物から出土した遺物の中に本遺構に帰属するものが含まれていると考えられる。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(中村・村田)

A 130号竪穴建物

(第1-78・146図、第2-42・327、写真図版114・305・497)

ⅡB 4 a グリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層で、ⅡB 4・5 a・b 遺物包含層の底面付近で炉を検出したことから竪穴建物と認定した。A 182号竪穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが古い。また、ⅡB 4・5 a・b 遺物包含層に上面全体が被覆されている。炉と北東壁が検出されているのみであり、平面形は不明である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅢ層下位～Ⅳ層を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土の記録を怠ってしまったが、遺物包含層と類似した黒褐色土が主体で、自然堆積と考えられる。

床面施設として調査区壁際で石囲炉1基を検出した。北西側が調査区外に至るため全体を検出することはできなかったが、石組は外径75×68cmの長方形と考えられる。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、54×49cmの範囲で、被熱深度は約3cmである。炉内と床面は同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器1点を掲載した（a 457～460、c 1204）。縄文土器のうちa 457はⅡB 4・5 a・b 遺物包含層出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8a式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 143 号竪穴建物

（第 1-78 図、写真図版 114）

Ⅱ B 8 g グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、にぶい黄褐色の半円形プランとして検出した。160・161 号土坑と重複関係にあり、本遺構のほうが古い。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は長方形または楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。検出範囲は狭いが、床面はⅣ層を平坦に整えていると考えられる。堆積土はにぶい黄褐色～褐色土で構成され、自然堆積である。床面施設として柱穴 1 個を検出した。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物の可能性もあるが、詳細は不明である。年代も出土遺物が乏しく、重複する遺構も年代推定のできる遺物が乏しいことから不明である。

A 147 号竪穴建物

（第 1-78・149 図、第 2-54 図、写真図版 114・314）

Ⅱ B 8 h グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、にぶい黄色の半円形プランとして検出した。複数の土坑と重複関係にあり、新旧関係は 186 号土坑→A 147 号竪穴建物→163 号土坑→177 号土坑、7 号溝である。斜面下方である南側は削平と他遺構に壊されているが、平面形は円形である。壁面は東西壁はほぼ直立するが、北壁は内傾しながら立ち上がる。当初は壁面形状から貯蔵穴（フラスコ状土坑）と考えていたが、平面規模が大きいことと床面が平坦であることから竪穴建物と判断した。なお、北壁面の内傾角度は一定ではなく、西側に行くほど鋭角となる。床面はⅣ層を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土はにぶい黄色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴 3 個を検出した。北西側に分布するが、配置に規則性は無い。

出土遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 1 点を掲載した（a 571）。

本遺構は形態はフラスコ状土坑に類似するが、住居として使用された竪穴建物と考えられ、出土土器が大木 8 b 式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

（村田）

A 135・150・155 号竪穴建物

（第 1-80・149・150 図、第 2-44～46・54・55・59・253・285・299・327・328・367 図、写真図版 114・115・306～309・314・315・318・462・477・484・497・498・515）

Ⅱ B 6・7 x・7 w グリッドの調査区際に位置する。検出面はⅡ層下位～Ⅳ層で、古代の遺構である B 16 号竪穴建物や 1 号鍛冶炉の精査終了後にⅡ層を掘り下げたところ遺物を含む黒～暗褐色の不整形プランとして検出した。プランが不明確であった為、最初に調査区壁面に沿ってトレンチを設定して掘り下げ、断面観察を行ったところ複数の竪穴建物が重複していることが判明した。その後平面的に掘り下げを行い、炉や柱穴が検出された面を床面とみなして最終的に 3 軒の竪穴建物が重複していることを確認した。多数の土坑や柱穴と重複関係にあり、新旧関係は 312 号土坑→A 192 号竪穴建物、224 号土坑→A 155 号竪穴建物→A 150 号竪穴建物→A 135 号竪穴建物→184 号土坑である。

A 135 号竪穴建物は、暗褐色の不整形プランとして検出した。上面では範囲の把握が困難であったが、調査区際トレンチの断面観察で壁面の立ち上がり及び焼土を確認し、平面的に掘り下げたところ焼土と同じ高さで炉を検出したことから竪穴建物と認定した。北側は調査区外に至るが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層及び A 150・155 号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、北東側から流れ込んだ自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、炉の新旧関係は不明である。炉1は床面東寄りに位置する石囲炉で、石組は外径77×47cmの長方形である。燃烧部焼土は炉内中央に位置し、50×33cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は床面中央に位置する地床炉で、北側は調査区外に至る。検出した燃烧部焼土は長軸74cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴3個を検出した。P 02・03は壁面上に位置しており、壁柱穴の可能性はある。

遺物は炉の周辺及び堆積土中から出土しており、縄文土器20点と石器4点、石製品1点を掲載した(a 477～496、c 21・1008・1083・1201、d 76)。縄文土器のうちa 476はA 150号竪穴建物堆積土出土の破片と接合しているが、出土層位からA 150号竪穴建物に帰属するものと判断した。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は大木8b式主体であるが、8b～9式も含まれることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 150号竪穴建物は、A 135号竪穴建物床面精査中に西側で暗褐色の楕円形プランとして検出した。炉は検出されなかったが、調査区際トレンチの断面観察で明瞭な壁面の立ち上がりを確認した為、竪穴建物と認定した。北側は調査区外に至るが、平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層下位～Ⅳ層を平坦に整えているが、壁面付近には若干の凹凸が認められる。堆積土は黒～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央付近で柱穴1個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器5点と石器2点を掲載した(a 476・574～578、c 1209・1210)。縄文土器のうちa 476はA 135号竪穴建物13層から出土した破片と接合しているが、出土層位から本遺構に帰属するものと判断した。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物が大木8b式新段階主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 155号竪穴建物は、A 135号竪穴建物床面精査中に床面より低い位置で石囲炉と焼土を検出し、調査区際トレンチでも同じ高さで黒色土の水平堆積を確認したことから竪穴建物と認定した。大部分がA 135・150号竪穴建物に壊されており、床面付近のみ残存している。炉と柱穴の配置から平面形は円形と考えられるが、壁面が残存していない為壁面形状は不明である。堆積土は黒色土の水平堆積のみが確認されており、堆積が薄く様相は不明である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は床面中央南寄りに位置する石囲炉で、石組は外径75×65cmの楕円形である。燃烧部焼土は炉内北寄りに位置し、58×45cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。燃烧部焼土の北側は若干窪んでおり、遺構内堆積土が流れ込んでいる。炉2は炉1の南西側に位置する地床炉で、燃烧部焼土は65×60cmの円形で、被熱深度は約4cmである。その他に柱穴14個を検出した。このうちP 01～05が壁柱穴と考えられるが、北側が調査区外である為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 631)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(中村・村田)

A 140～142・169号竪穴建物

(第1-81・82・151・152図、第2-49～52・69・253・267・275・327・328・359図、写真図版80・81・311～313・324・462・469・473・497・510)

Ⅱ B 7 a～8 c グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、当初 A 140 号竪穴建物のみを検出して精査を開始した。しかし、精査中に A 140 号竪穴建物の外側に黒褐～暗褐色の不整形プランが広がり、加えて南側では炉と焼土が検出された為、竪穴建物が重複している可能性を考えてトレンチを設定して掘り下げを行ったところさらに 3 軒の竪穴建物を確認した。他の遺構とも重複関係にあり、新旧関係は 223 号土坑、13 号焼土→A 142 号竪穴建物→A 169 号竪穴建物→A 141 号竪穴建物→A 140 号竪穴建物→139・140・141・182・20 号土坑、15 号炉、5 号溝である。

A 140 号竪穴建物は、Ⅲ層下位で黒褐色の円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平及び 5 号溝に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層及び A 140 号竪穴建物堆積土を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として東側で石囲炉 1 基を検出した。石組は外径 56 × 56cm の方形であるが、南壁の炉石は動いており、炉内に落ち込んでいた。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴 1 個を検出した。

遺物は床面直上及び堆積土中から出土しており、縄文土器 14 点と石器 3 点を掲載した（a 532～545、c 24・1207・1208）。縄文土器のうち a 532～534・545 は A 141 号竪穴建物堆積土上位の破片と接合しているが、いずれも本遺構の床面との境界付近（B 断面 3・6 層上面）から出土しており、床面直上出土の破片と接合することから本遺構出土のものとして掲載した。また、a 533 はⅡ B 4・5 a・b 遺物包含層出土の破片とも接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器には大木 6～9 式土器があるが、大木 8 b～9 式古段階が主体であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 141 号竪穴建物は、当初 A 140 号竪穴建物の床面及び北壁面でⅢ層と考えていた層に遺物が含まれていたことから、遺構の存在を想定して A 140 号竪穴建物の断面ラインに沿って層位確認トレンチを設定して掘り下げを行ったところ、遺物の集中や柱穴を検出したことから竪穴建物と認定した。なお、本遺構認定の時点では A 142 号竪穴建物も同一建物と認識していた。南～東側は削平及び A 140 号竪穴建物に壊されており、平面形は不明である。壁面も北壁のみ残存しているが、この範囲ではほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅲ層及び A 142 号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。なお、トレンチ掘削時には A 142 号竪穴建物の床面を本建物の一段低い床面と認識していたが、東側で 6 層を除去したところⅢ層に設置された炉が検出されたことから、その面と同じ高さを本遺構の床面と判断した。堆積土は暗褐色～にぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央やや東寄りで地床炉 1 基を検出した。柱穴状に掘り込まれた地床炉で、北西側を A 140 号竪穴建物 P 01 に壊されている。掘り込みは直径 32cm の円形で、深さは約 7 cm である。掘り込み内は壁面が被熱により変色している。その他に柱穴 4 個を検出した。いずれも北壁付近に位置しているが、床面南側で柱穴が検出されていない為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 9 点と石器 2 点、石製品 1 点を掲載した（a 546～554、c 195・280、d 21）。ただし、層位確認トレンチ掘削時には A 142 号竪穴建物堆積土との区別ができておらず、遺物は堆積土として一括で取り上げている。従って厳密な分離は難しいが、縄文土器のうち a 549・552・554 等は本遺構床面付近出土のものより時期が古いことから A 142 号竪穴建物に帰属する可能性もある。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器には大木 6～9 式土器があるが、大木 8 b 式新段階が主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 142 号竪穴建物は、当初 A 141 号竪穴建物の一段低い床面と認識していた面で炉と焼土が検出されたことから、別の竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平され、北側は A 141・169 号竪穴建物に壊されており、壁面と炉の位置から平面形は円形と推定した。壁面はほとんど残存しておらず、形状は不明である。床面はⅢ層を削り出しているが、凹凸が認められる。堆積土にはぶい黄褐色土が主体で、自然堆積と考えられる。

床面施設として南側で地床炉 1 基を検出した。燃焼部焼土は 56 × 43cm の楕円形で、被熱深度は約 3cm である。ただし、根の侵食の影響で断面形は不整形である。なお、炉の東側でも焼土の集中を確認しているが、斜面上方から流れ込んだ二次堆積の焼土である。

遺物は堆積土中から出土しており、石器 1 点を掲載した (c 342)。先述の通り A 141 号竪穴建物と一括で取り上げており、A 141 号竪穴建物で掲載したものに本遺構に帰属するものも含まれていると考えられる。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、A 141 号竪穴建物出土土器のうち古い時期のものが本遺構に帰属するとすれば中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 169 号竪穴建物は、A 141 号竪穴建物の床面東側で一段低くなる不整形な範囲を検出し、層位確認トレンチを設定して掘り下げたところ、壁面の立ち上がりを確認でき、さらに南側で炉と焼土が検出された為これらを含めた範囲を 1 軒の竪穴建物と認定した。壁面は北壁のみ残存しており、床面は炉を含めた一部が残存している。平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層及び A 142 号竪穴建物堆積土を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐～ぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉 2 基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉 1 は床面南側に位置する石囲炉で、石組は円形または楕円形と考えられるが南側の炉石の大半が失われており、規模は不明である。燃焼部焼土は炉内北側に位置し、35 × 28cm の楕円形で、被熱深度は約 2cm である。炉内は若干掘り窪められているが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉 2 は炉 1 の北側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は 55 × 53cm の不整形で、被熱深度は約 3cm である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 2 点を掲載した (a 729・730)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 149・175 号竪穴建物

(第 1-81・152 図、第 2-55・73・74・254・262 図、写真図版 119・314・328・462・467)

Ⅱ A 7 y～Ⅱ B 8 a グリッドに位置する。検出面はⅡ～Ⅲ層で、A 125 号竪穴建物精査後にⅡ層を平面的に掘り下げていったところ遺物が集中する範囲を確認した。プランが不明瞭であった為東西方向にトレンチを設定して断面観察を行ったところ、壁面の立ち上がりを確認できたことから竪穴建物と判断して精査を行った。当初は A 175 号竪穴建物と合わせて 1 軒と認識していたが、掘り下げを進めたところ堆積土の中位で遺物が平面的に分布して出土する面 (A 断面 5・6 層下位) を検出し、この面が水平に広がって A 149 号竪穴建物とは異なる地点で壁面が立ち上がることを確認したことから 2 軒に分離した。このような経緯による検出であった為、本来遺構番号は小さいものが上位の遺構に付されるべきであるが、この 2 軒では逆になっている。また、第 1-81 図では図示していないが上下に他の竪穴建物も重複関係にあり、新旧関係は A 149 号竪穴建物→A 175 号竪穴建物→A 162 号竪穴建物→A 125 号竪穴建物である。

A 149 号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平及びトレンチ掘削、東側は A 175 号竪穴建物に壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～灰黄褐色土で構成され、北西側から流れ込んだ自然堆積である。

床面施設として地床炉 1 基を検出した。燃焼部焼土は 90 × 85cm の円形で、被熱深度は約 3 cm である。遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 1 点を掲載した（a 573）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 6 式であることから前期末葉の構築・使用と考えられる。

A 175 号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平、上面は大部分を A 125 号竪穴建物に壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅱ～Ⅲ層の漸移層と考えられる黒褐色土（A 断面 8 層等）及び A 149 号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は床面直上から堆積土下位を中心に出土しており、縄文土器 6 点と石器 2 点を掲載した（a 771～776、c 36・238）。

本遺構は、床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器には大木 4～8 a 式土器があるが、大木 8 a 式は堆積土上層からの出土であり、床面付近出土の土器が大木 6～7 a 式主体であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 146 号竪穴建物

（第 1-82・153 図、第 2-53・54・254・300・301 図、写真図版 120・313・314・462・485）

Ⅱ B 7 a グリッドに位置する。検出面はⅢ層であるが、プランは不明瞭であり炉を検出するまで竪穴建物として認識することができなかった。その為、炉の周辺の床面と北壁の一部しか検出できていない。A 125 号竪穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが古い。なお、A 149 号竪穴建物とは直接的な重複関係を確認できなかったが、出土土器の年代から本遺構のほうが新しいと考えられる。北壁と炉の位置から平面形は円または楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で炉 2 基を検出した。炉 1 の南東側と炉 2 の北西側が重複関係にあり、炉 1 のほうが新しい。炉 1 は石囲炉で、石組は外径 102 × 80cm の長方形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、84 × 64cm の範囲で、被熱深度は約 4 cm である。炉内と床面はほぼ同じ高さであるが、石組と同規模の浅い掘り方があり、炉石はその壁面に沿って立て並べられている。炉 2 は地床炉で、燃焼部焼土は 75 × 60cm の楕円形で、被熱深度は約 3 cm である。

遺物は床面直上と堆積土下位を中心に出土しており、縄文土器 9 点と石器 6 点を掲載した（a 562～570、c 29～32・1086・1087）。縄文土器のうち a 563 は A 140 号竪穴建物出土の破片と接合しているが、出土層位を考慮して本遺構の帰属とした。また、石器のうち c 1086・1087 は炉 1 の炉石として転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器には大木 4～6・8～9 式土器があるが、大木 8 b～9 式が主体となることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

（村田）

A 151・157～159・161・166・167・170・171・179・190 号竪穴建物

（第 1-83～86・153～158 図、第 2-55～60・62・63・68～72・82・238・258・263・264・301～304・328～331・359・360・374・376・377・382 図、写真図版 315～326・333・465・468・485～

487・497～499・510・520・524)

ⅡA 9 x～ⅡB 12 a グリッドに位置する。検出面はⅢ～Ⅳ層で、土層確認用に設定したAトレンチの周辺で遺物が多量に出土する黒～暗褐色土の広がりとして検出した。斜面上方である北側で壁面を考えられる弧状または直線状のプランを検出したことから複数の遺構が重複していることは確認できたが、上面ではプランの把握が困難であったことからAトレンチ及びグリッドラインに沿って設定した複数のベルトでの断面観察で床面と考えられる平坦面を確認することで遺構の認定を行った。多数の遺構が重複関係にあり、把握できた新旧関係は、A 174号竪穴建物→A 159号竪穴建物→A 190号竪穴建物→A 181号竪穴建物→A 170号竪穴建物→A 171号竪穴建物→A 158号竪穴建物→A 179号竪穴建物→A 179号竪穴建物→A 161・166号竪穴建物→A 157・196号竪穴建物→A 167・176号竪穴建物、129号土坑→A 139・163号竪穴建物→A 113・151号竪穴建物である。

A 151号竪穴建物は、範囲の北側で遺物を多量に含む黒褐～暗褐色の円形プランとして検出した。ベルトを残しながら掘り下げたところ同一面上で炉を2基検出したことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土と暗褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は東側に位置する石囲炉で、石組は外径87×69cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内中央～西側に位置し、48×47cmの円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面より低い位置にあり、炉内にあたる範囲を若干掘り窪めた後に炉石を設置する部分をさらに深く掘り込んでいる。炉2は中央西寄りに位置する石囲炉で、石組は外径51×36cmの長方形で西側の炉石が無く開口している。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、40×28cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉1の南側にも地床炉の可能性のある焼土を検出した。52×42cmの円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴9個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器41点と赤彩が付着した縄文土器1点、石器7点、石製品1点、土製品1点、土器片円盤2点を掲載した（a 579～619、r 10、c 161・252・1089・1211～1214、d 18、e 56、g 40・41）。縄文土器のうちa 579はA 157号竪穴建物堆積土出土の破片と接合し、石器のうちc 161・252はA 152号竪穴建物との横断トレンチで出土している。また、堆積土下位から琥珀片が出土しており、分析を行ったが産地は特定できなかった（第Ⅵ章第6節）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は多量であるが大木9式新段階のものが含まれることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 157号竪穴建物は、A 151号竪穴建物の床面に達する前に炉が複数検出され、断面観察でも炉に対応する床面が3面確認された為、炉を検出した順にA 157・166・167号竪穴建物と命名した。このような経緯で検出した為、本来遺構番号は小さいものが上位の遺構に付されるべきであるが、この3軒では逆になっている。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。石組は外径75×50cmの長方形で、南東側の炉石が無く開口している。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、52×32cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝2条と柱穴2個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器6点と赤彩が付着した縄文土器1点、石器2点、土器

片円盤 1 点を掲載した（a 632～637、r 11、c 162・1092、g 43）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b 式新段階～9 式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 158 号竪穴建物は、暗褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、床面残存範囲及び柱穴の配置から平面形は円形と考えられる。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV 層及び A 159 号竪穴建物堆積土を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土は褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉 2 基を検出した。炉 1 は中央西寄りに位置する石囲炉で、石組は外径 62 × 42cm の長方形である。燃焼部焼土は炉内北寄りに位置し、28 × 28cm の円形で、被熱深度は約 2cm である。炉 2 は東壁付近くに位置する地床炉で、燃焼部焼土は 52 × 42cm の楕円形で、被熱深度は約 1.5cm である。その他に周溝 7 条と柱穴 5 個を検出した。周溝は壁面に沿って同じ曲線で複数並行しており、建て替え・拡張が行われた可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 3 点と石器 4 点、石製品 1 点、土器片円盤 1 点を掲載した（a 638～640、c 163・254・1093・1094、d 17、g 44）。縄文土器のうち a 640 は 129 号土坑堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b～9 式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 159 号竪穴建物は、A 158 号竪穴建物床面精査時に床面とは異なる褐色の楕円形プランとして検出した。大部分を A 158 号竪穴建物に壊されているが、残存する北壁と床面の範囲から平面形は楕円形または隅丸方形と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、床面は IV 層を平坦に整えている。堆積土は褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南東側で地床炉 1 基を検出した。燃焼部焼土は 24 × 13cm の楕円形で、被熱深度は約 2cm である。その他に柱穴 1 個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 2 点を掲載した（a 641・642）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 5～6 式であることから前期末葉の構築・使用と考えられる。

A 161 号竪穴建物は、黒～黒褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒～黒褐色土が主体で自然堆積である。

床面施設として南側で石囲炉 1 基を検出した。石組は、外径 84 × 80cm の円形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、65 × 62cm の範囲で、被熱深度は約 4cm である。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴 7 個を検出した。このうち P 01～04・06 が壁柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 2 点と石器 2 点、土製品 1 点を掲載した（a 653・654、c 210・1095、e 76）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木 4 式をはじめ前期に属するものが多いが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 166 号竪穴建物は、先述した A 157 号竪穴建物の北側のプラン外で炉と考えられる焼土を検出し、それに対応する床面と壁面の立ち上がりを確認できたことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平、東側は新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直

に立ち上がる。床面はⅢ層及び下位の遺構堆積土を削り出しているが、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として北側で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は93×50cmの長楕円形で、被熱深度は約2.5cmである。その他に柱穴9個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点、石製品1点を掲載した（a 717・718、c 1222、d 27）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木8b式新段階が主体であるが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 167号竪穴建物は、先述したA 157号竪穴建物の北側のプラン外で炉を2基検出し、それに対応する床面と壁面の立ち上がりが確認できたことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ～Ⅳ層及び下位の遺構堆積土を削り出しており、中央より北側は平坦であるが南側は傾斜している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は東壁付近に位置する石囲炉で、東壁付近はA 139号竪穴建物により壊されているが、石組は長軸72cmの楕円形と考えられる。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、長軸58cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は中央に位置する複式炉で、石囲炉と地床炉で構成される。石囲炉の石組は、外径60×44cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、46×24cmの範囲で、被熱深度は約2cmである。地床炉は石囲炉の西側に位置し、燃焼部焼土は35×25cmの円形で、被熱深度は約1.5cmである。石囲炉の炉内は床面より若干低い位置にあり、炉内にあたる範囲を若干掘り窪めた後に炉石を設置する部分をさらに深く掘り込んでいる。その他に壁柱穴になると考えられる柱穴5個を検出した。

遺物は炉内や堆積土中から出土しており、縄文土器10点と赤彩が付着した縄文土器1点、石器4点、土器片円盤1点を掲載した（a 719～728、r 12、c 255・256・1096・1223、g 46）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 170号竪穴建物は、ⅡA 9～11 y グリッドに設定したトレンチの南側でA 167号竪穴建物床面より一段低い床面を確認し、同一レベルで焼土が検出されたことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平及びA 151号竪穴建物に壊されているが、残存する北壁と炉・柱穴の位置から平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、A 190号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は床面南側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は32×27cmの楕円形で、被熱深度は約1.5cmである。炉2は炉1の北側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は69×66cmの円形で、被熱深度は約2cmである。その他に周溝5条と柱穴2個を検出した。周溝は、溝2～5が一連のものと考えられる。柱穴は検出されなかった部分が多く、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器9点と赤彩が付着した縄文土器1点、石器5点、土製品3点を掲載した（a 731～733・735～738・745、r 13、c 166・1097・1098・1224・1225、e 16・83・85）。縄文土器のうちa 735～737・745はA 171号竪穴建物との重複部分から出土している。また、石器のうちc 1097・1098は炉石として転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 171号竪穴建物は、A 161号竪穴建物精査後にその直下で暗褐色の半円形プランとして検出した。2軒は同一地点に造られており建て替えの可能性も考慮したが、床面の高さが異なることから別の竪穴建物とした。上面からの遺構範囲の把握が困難であったため、適宜トレンチを入れ、土層断面の観察を行い、本遺構を検出した。斜面下方である南側は削平及び新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で複式炉1基を検出した。石囲炉と地床炉で構成され、石囲炉の南壁はA 161号竪穴建物により壊されているが、石組は74×50cmの長方形である。燃焼部焼土は西壁付近に位置し、39×32cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。地床炉は石囲炉の南側に位置し、燃焼部焼土は45×35cmの楕円形で、被熱深度は約1cmである。炉内は床面と同じ高さであり、石囲炉の炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴5個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器8点を掲載した（a 734・739～744・746）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式新段階であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 179号竪穴建物は、当初B断面9～11層下面をA 167号竪穴建物の床面と考えていたが、平面的に掘り下げたところ北西側が楕円形に大きく膨らむことがわかり、再度断面観察を行ったところ10層と11層の境界で本来のA 167号竪穴建物の立ち上がりを確認したことから別の竪穴建物と認定した。なお、本遺構を認識する前にA 170号竪穴建物の精査を行っていた為、本来小さい遺構番号が新期の遺構に付されるべきであるが、この2軒では逆になっている。平面形は方形に近い楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIII層及び下位の遺構堆積土を平坦に整えており、A 167号竪穴建物とほぼ同じ高さである。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は南寄りに位置する石囲炉で、石組は外径75×75cmの方形と考えられるが、炉石はほとんど残存していない。燃焼部焼土は47×38cmの不整形円で、被熱深度は約2cmである。構築方法は不明である。炉2は中央に位置する地床炉で、燃焼部焼土は26×22cmの隅丸方形に近い円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴10個を検出した。北側に集中しているが、規則的ではなく柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器15点と赤彩が付着した縄文土器1点、石器5点を掲載した（a 787～801、r 14、c 37～40・1228）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木5・7・8b式が主体であることと他の竪穴建物との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 190号竪穴建物は、A 170号竪穴建物精査後に南側に広がる黒褐色の不整形プランとして検出した。大部分をA 170号竪穴建物に壊されているが、残存する北～西壁面と炉の位置から平面形は方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIII～IV層を削り出しているが、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は南側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は30×25cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。炉2は炉1の北側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は69×65cmの円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴7個を検出した。北側に分布しているが、規則性は無く柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 2 点と土製品 1 点を掲載した (a 868・869、e97)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b 式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

(中村・高橋・村田)

A 156・165 号竪穴建物

(第 1-87 図、写真図版 129)

II B 7 g～8i グリッドに位置する。検出面は IV 層で、斜面の傾斜に併行するにぶい黄色の長楕円形プランとして検出した。周辺の土坑とも重複関係にあり、新旧関係は 187 号土坑→A 156 号竪穴建物→195・203 号土坑→A 165 号竪穴建物→186・188 号土坑である。

A 156 号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられる。壁面は、下位はほぼ垂直だが中位で屈曲して外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV 層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄色～灰黄色で、自然堆積である。

床面施設として柱穴 4 個を検出した。P 01・03 が主柱穴になる可能性があるが、床面南側の状況が不明であることから柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は出土遺物が乏しく、重複する遺構も年代推定のできる遺物が乏しいことから不明である。

A 165 号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平、東側は木根により失われているが、平面形は円または楕円形と考えられる。壁面は、下位はほぼ垂直だが中位で屈曲して外方に開きながら立ち上がる。ただし、203 号土坑と重複する部分 (B 断面) は内傾しながら立ち上がる。床面は IV 層を削り出しているが、細かい凹凸が認められる。堆積土はにぶい黄色～黄灰色で、自然堆積である。

床面施設として柱穴 2 個を検出した。P 01・02 は主柱穴になる可能性があるが、床面南側の状況が不明であることから柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は出土遺物が乏しく、重複する遺構も年代推定のできる遺物が乏しいことから不明である。

A 160 号竪穴建物

(第 1-88・158 図、第 2-60～62・275・290・480・377 図、写真図版 130・318・319・473・480・520)

II B 6 a グリッドに位置する。II B 4・5 a・b 遺物包含層精査後に南側の II 層下位～III 層を掘り下げたところ炉 (17 号炉) を検出した為、竪穴建物が存在すると想定して精査を開始した。炉の西側にトレンチを設定して掘り下げを行ったところ、床面と考えられる III 層面を検出した。ただし、この面は炉よりも低い位置にあることから、17 号炉は本遺構の床面施設ではなく埋没後に設置された炉と判断した。本遺構としては 17 号炉よりも下位の床面付近で遺物の集中が見られ、部分的ではあるが壁面の立ち上がりも確認できたことから、その時点で竪穴建物と認定した。平面形は長方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は III 層を削り出しており、中央付近で一段低くなって南側に向かって傾斜している。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

先述の通り 17 号炉を別遺構とした為、本遺構に伴う床面施設は検出されていない。

遺物は堆積土中～下位から出土しており、縄文土器 10 点と石器 2 点、土製品 1 点を掲載した (a

643～652、c 344・1045、e 94）。縄文土器のうち a 643 はⅡ B 4・5 a・b 遺物包含層出土の破片と接合している。

本遺構は床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 7 a～8 b 式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 168 号竪穴建物

（第 1-88 図、写真図版 134）

Ⅱ B 7 k グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、にぶい黄橙色の半円形プランとして検出した。198 号土坑と重複しているが、本遺構のほうが古い。斜面下方である南側は削平されており、平面形は不明である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。本遺構周辺のⅣ層は基盤である岩盤層（Ⅴ層）に近く、床面はその面を削り出している為凹凸が著しい。堆積土はにぶい黄橙色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴 12 個を検出した。規模の比較的大きい P 01・05・09 は主柱穴になる可能性があるが、床面南側が検出されていないことから柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は出土遺物が乏しく、重複する遺構も年代推定のできる遺物が乏しいことから不明である。

A 163・164・170・176・181・183・185・190 号竪穴建物

（第 1-89～91・159・160 図、第 2-66～68・74・76・77・254・273・274・330～332 図、写真図版 131～133・322・323・328～330・462・472・473・498・499）

Ⅱ A 9 w～11 y グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、遺物が出土する黒褐～暗褐色土の広がりとして検出した。上面ではプランが不明瞭であった為、グリッドラインに沿って層位確認トレンチを設定して掘り下げを行い、断面観察によって竪穴建物の範囲と重複関係を確認しながら精査を行った。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係は A 190 号竪穴建物→A 170 号竪穴建物→A 181 号竪穴建物→A 183 号竪穴建物→A 185 号竪穴建物→A 164 号竪穴建物→A 179 号竪穴建物→A 176 号竪穴建物→A 163 号竪穴建物である。なお、A 170・179・190 号竪穴建物は南東側でも多数の竪穴建物と重複しているが、それらは第 1-83～86 図で個別図を掲載しており、記載は 82 頁で行っている。

A 163 号竪穴建物は、暗褐色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平、東側は A 151 号竪穴建物に壊されているが、平面形は長方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層及び A 176 号竪穴建物等の堆積土を削り出しているが、若干の凹凸が認められる。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として北東隅で柱穴 1 個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 13 点と石器 2 点を掲載した（a 700～712、c 1220・1221）。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器は大木 7 b～8 a 式が主体であるが、先行する A 170・179 号竪穴建物との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 164 号竪穴建物は、暗褐色の円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平や攪乱により失われているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層及び A 185 号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。床面施

設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器1点を掲載した(a 713～716、c 35)。縄文土器のうちa 713は、A 113・114号竪穴建物堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は、床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 176号竪穴建物は、A 163号竪穴建物精査後に床面より下位で黒褐色の円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は不整形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層(相当する層も含む)及びA 179号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴3個を検出した。P 01・03は壁柱穴になる可能性があるが、その他の地点で柱穴が検出されていないことから柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器9点と石器1点を掲載した(a 777～785、c 343)。なお、本遺構出土石器として掲載したc 1226は鑑定の結果鉄生産関連遺物と判断されており、侵食の作用等で本遺構の堆積土に混入したものと考えられる。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器は大木7～8a式が主体であるが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 181号竪穴建物は、A 164号竪穴建物精査後にA 185号竪穴建物とともに暗褐色の不整形プランとして検出した。B断面の観察から当初はA 185号竪穴建物と合わせて1軒の建物と考えて掘り下げたが、堆積土の中位で炉が検出され、壁面も階段状に二段の平坦面が確認できたことからこの時点で2軒に分離した。このような経緯による検出であった為、本来小さい遺構番号が新期の遺構に付されるべきであるが、この2軒では逆になっている。南側がA 113号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層を削り出しているが、部分的に凹凸や窪みが認められる。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は中央やや西寄りに位置する石囲炉で、石組は外径60×39cmの長方形であるが南側がA 183号竪穴建物の柱穴によって壊されており、炉石は残存していない。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、39×27cmの範囲で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は炉1の南側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は49×40cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴6個を検出した。炉の周辺に分布しているが、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点と石器2点を掲載した(a 802～804、c 328・1229)。縄文土器のうち、a 802はA 113号竪穴建物出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 183号竪穴建物は、A 181・185号竪穴建物精査中に両建物の間に別の掘り込みを確認し、その底面が平坦となることから別の竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層及びA 113号竪穴建物堆積土を平坦に整えているが、若干の凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴2個を検出した。P 01・02は壁柱穴になる可能性があるが、床面南側が削平されている為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点を掲載した(a 809～812)。縄文土器のうち、

a 809 は A 164 号竪穴建物出土の破片と接合している。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器は大木 7 式が主体であるが、A 181 号竪穴建物との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 185 号竪穴建物は、先述の通り当初は A 181 号竪穴建物と合わせて 1 軒と考えていたが、掘り下げ途中で炉を検出し、炉の検出面が床面であることを確認したことから別の竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、A 181・183 号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央付近で石囲炉 1 基を検出した。石組は外径 55 × 43cm の長方形であるが、北壁は炉石が無く開口している。燃焼部焼土は炉内のほぼ全域に広がり、38 × 30cm の楕円形で、被熱深度は約 3cm である。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴 2 個を検出した。P 01・02 は壁面付近に位置することから壁柱穴の可能性があるが、床面南側が削平されている為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 2 点と石器 1 点を掲載した（a 813・814、c 1230）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 172・186・193 号竪穴建物

（第 1-91・92・160～162 図、第 2-72・73・77・78・332・377 図、写真図版 129・130・326・327・330・331・499・520）

II A 8 v～9 x グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐～暗褐色土の不整形プランとして検出した。上面では範囲が不明瞭であった為、層位確認トレンチを設定して掘り下げ、断面観察を行ったところ床面と考えられる平坦面と壁面の立ち上がりを複数確認した。また、平面的に掘り下げたところ平坦面では炉や焼土が検出されたことから、竪穴建物が重複しているものと判断して精査を行った。当初は A 172 号竪穴建物を A 193 号竪穴建物を含めて 1 軒と認識していたが、掘り下げを進めたところ堆積土の中位で平坦面が確認され、東側では A 172 号竪穴建物とは異なる地点で壁面が確認されたことから別の建物として A 193 号竪穴建物を認識した。このような経緯による検出であった為、本来遺構番号は小さいものが上位の遺構に付されるべきであるがこの 2 軒では逆になっている。なお、堆積土の掘削中に 5 号土器埋設遺構が検出されているが、A 172・193 号竪穴建物のいずれの床面にも掘削が及んでいなかったことから単独の遺構と判断した。その他の遺構とも重複関係にあり、新旧関係は A 186 号竪穴建物→A 172 号竪穴建物→A 136 号竪穴建物→A 193 号竪穴建物→A 163・176 号竪穴建物、5 号土器埋設遺構である。なお、A 172 号竪穴建物と A 186 号竪穴建物は直接的な重複関係は無いが、出土土器の年代から A 186 号竪穴建物のほうが古いと判断した。

A 172 号竪穴建物は、東側を A 193 号竪穴建物に壊されているが、壁面は全周する。平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉 2 基を検出した。直接的な重複関係が無く、炉の新旧関係は不明である。炉 1 は中央に位置する石囲炉で、石組は外径 70 × 65cm の楕円形と考えられるが、南壁の炉石は無く開口している。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、41 × 41cm の円形で、被熱深度は約 3cm である。炉内は床面より若干低い位置にあり、炉内にあたる範囲を若干掘り窪めた後に炉石を設置する部分をさらに深

く掘り込んでいる。炉2は炉1の南西側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は52×32cmの不整形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴2個を検出した。南西側でのみ検出されており、柱配置は不明である。

遺物は堆積土(10層)中から多量に出土しており、縄文土器20点と土製品1点を掲載した(a 747～766、e 86)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7b～8a式主体であることから中期前～中葉の構築・使用と考えられる。

A 186号竪穴建物は、A 172号竪穴建物の東側でトレンチ掘削中に炉を検出し、さらに北側に設定したトレンチで壁面の立ち上がりを確認したことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平及びA 193号竪穴建物によって壊されているが、残存する北壁及び炉の位置から平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層に相当する黒褐色土(A断面14層)を平坦に整えており、中央が若干窪んでいる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で石囲炉1基を検出した。石組は、外径50×43cmの長方形である。北壁は検出されていないが、この部分が若干窪んでおり抜き取りが行われた可能性がある。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、38×26cmの範囲で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面より若干低い位置にあり、炉内にあたる範囲を若干掘り窪めた後に炉石を設置する部分をさらに深く掘り込んでいる。

遺物は堆積土上～中位から出土しており、縄文土器12点と石器1点を掲載した(a 815～826、c 1231)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6～7b式主体であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 193号竪穴建物は、先述の通りA 172号竪穴建物のプラン内と考えていた堆積土の中位で床面と考えられる水平堆積を確認したことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層に相当する黒褐色土(A断面14層)及びA 172号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は、床面施設は少ないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物は乏しいが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(中村・村田)

A 182・184号竪穴建物

(第1-93・162図、第2-76図、写真図版134・135・330)

ⅡB 4a～6bグリッドに位置する。A 182号竪穴建物は、ⅡB 4・5a・b遺物包含層の底面付近で焼土と柱穴を検出したことから1軒の竪穴建物と認定した。A 184号竪穴建物は、遺物包含層の南東側に設定した層位確認トレンチ(Dトレンチ)で遺物包含層とは異なりプラン外に広がる黒褐色の不整形プランと焼土を検出したことから1軒の竪穴建物と認定した。新旧関係は、A 184号竪穴建物→A 182号竪穴建物→ⅡB 4・5a・b遺物包含層である。

A 182号竪穴建物は、全体がⅡB 4・5a・b遺物包含層の下位に位置しており、遺物包含層形成時の斜面上方からの流れ込みによって北～西壁と床面の一部以外は壊されており、平面形は不明である。壁面は、緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を平坦に整えており、南側に向かって若干傾斜している。堆積土はにぶい黄褐色土と灰黄褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として南東側で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は38×36cmの隅丸方形で、被熱深度は約4cmである。また、炉の東側には125×45cmの不整形プランの焼土が検出されているが、熱変成が弱く二次堆積と考えられる。その他に柱穴7個を検出した。南西側で検出されていないため柱配置は不明であるが、P 01・04・07は支柱穴になると考えられる。また、P 01・04では立った状態で使用痕の無い角礫が出土している。

遺物は、本遺構を切るⅡB 4・5 a・b 遺物包含層下層の出土遺物の中にも本遺構に帰属するものがあると思われるが、ここでは堆積土中から出土した縄文土器4点を掲載した（a 805～808）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6～8 a式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 184号竪穴建物は、ⅡB 4・5 a・b 遺物包含層3層が落ち込む部分で大部分が壊されており、さらに斜面下方である南側が削平されている為平面形は不明である。壁面は、緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として東側で炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1の燃焼部焼土は50×35cmの不整形円形で、被熱深度は約3cmである。炉2の燃焼部焼土は70×70cmの円形で、被熱深度は約3cmである。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが他遺構との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 194号竪穴建物

（第1-94図、写真図版136）

ⅡB 8 g グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、黒褐色の半円形プランとして検出した。172号土坑と重複関係にあり、本遺構のほうが古い。斜面下方である南西側は削平されており、平面形は不明である。壁面は床面からほぼ垂直に立ち上がるが、中位でテラス状の平坦面を形成している。平坦面の幅は約20cmである。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土とにぶい黄褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として周溝2条と柱穴1個を検出した。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物は乏しいが、中期中～後葉に属する172号土坑との重複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えられる。

A 195号竪穴建物

（第1-94図、写真図版136）

ⅡB 9 g グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、土坑と重なり合いにぶい黄橙色の不整形プランとして検出した。多数の土坑と重複関係にあり、新旧関係はA 195号竪穴建物→116号土坑→115・118号土坑→114・123号土坑→29・117号土坑である。西・東・南側は土坑により壊されている為平面形は不明である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として周溝2条と柱穴3個を検出した。周溝は北壁面に併行する溝1と直交する溝2があり、溝2のほうが古い。残存範囲が少ないため断定はできないが、溝の重複関係から建物の建て替え・

拡張が行われていた可能性がある。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物は乏しいが、他遺構との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 196 号竪穴建物

(第 1-94 図、第 2-258 図、写真図版 136・465)

II B 9 a グリッドに位置する。層序確認用トレンチである A トレンチ掘削中に A 151 号竪穴建物の堆積土より下位で焼土を検出し、断面観察により壁面の立ち上がりを確認できたため竪穴建物と認定した。A 127・148・151 号竪穴建物と重複関係にあり、いずれよりも古い。南側は新しい遺構に壊され、西側は A トレンチ掘削の際に壊してしまったので平面形は不明である。壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面は、III 層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土の単層であるが、堆積が薄く様相は不明である。

床面施設として中央で地床炉 1 基を検出した。燃焼部焼土は 75 × 45cm の楕円形で、被熱深度は約 9 cm である。

本遺構に伴う遺物として焼土直上から出土した石器 1 点を掲載した (c 169)。II B 9 a グリッド II 層として取り上げた遺物の中に本遺構に帰属するものがあると思われるが、そのみを抽出することができなかった為、ここでは掲載していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが他遺構との重複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えられる。

A 197・198 号竪穴建物

(第 1-94・162 図、第 2-83 図、写真図版 136～138・334)

II A 21 f グリッド付近に位置する。検出面は II 層下位～IV 層上面で、黒褐色の不整円形プランとして検出した。新旧関係は、A 198 号竪穴建物→A 197 号竪穴建物である。

A 197 号竪穴建物は、南西側を木根によって壊されているが平面形は円形と考えられ、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV 層及び A 198 号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。床面中央付近には炭化物の集中があり、その周辺に比較的大型の炭化物が分布していたことから焼失家屋の可能性はある。炭化材のうち 1 点の樹種同定を行ったところ、クリという結果を得ている (第 VI 章第 3 節)。堆積土は黒褐色土が主体で、焼失後の流れ込みによる自然堆積である。

床面施設として中央付近で石囲炉を 1 基検出した。石組は、外径 60 × 45cm の方形である。燃焼部焼土は炉内北寄りに位置し、16 × 16cm の円形で、被熱深度は約 2 cm である。燃焼部焼土上面は床面より 2 cm 程度低く、上面に炭化物層が堆積していた。

遺物は炉の周辺から出土しており、縄文土器 1 点を掲載した (a 872)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b 式主体であることと炉内出土の炭化材年代測定結果 (第 VI 章第 1 節) から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 198 号竪穴建物は、北西側を A 197 号竪穴建物と木根により壊されているが、平面形は隅丸方形と考えられ、壁面は床面裾から丸みをもって立ち上がる。床面は、IV 層を平坦に整えている。堆積土は上面に二次堆積焼土もみられるが、ほぼ黒褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から土器の細片が出土しているが、図示できるものは無い。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物は乏しいが、A 197 号竪穴建物との重複関係から中期中葉以前の構築・使用と考えられる。

A 199 号竪穴建物

（第 1-95・162 図、第 2-83 図、写真図版 138・139・334）

II A 22 d グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、石囲炉の石組が露出した不整円形プランとして検出した。225 号土坑と近接するが、直接的な重複関係は無い。石囲炉及びその周辺に残存する床面を確認したのみで、平面形は不明である。床面直上には遺構内堆積土も残存していたが、南側は斜面下方により流出、北側は木根や攪乱によって壁面は残存していないため形状は不明である。床面はⅣ層を平坦に整えており、周辺のⅣ層より硬化した範囲を床面とした。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。また、1・2 層の境界に二次堆積の火山灰が確認されている。

床面施設として複式炉を 1 基検出した。建物の全形が不明な為、構築位置は不明である。石組による二室構成の複式炉であり、外形は 70 × 55cm の方形で南東側が開口している。燃烧部焼土は前室仕切り石付近に位置し、18 × 10cm の楕円形で、被熱深度は約 5 cm である。掘り方は石組より若干広めの楕円形で、炉内は床面より若干低い位置に構築されている。

遺物は、床面残存範囲内で出土しており、縄文土器 1 点を掲載した（a 873）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、炉の形態から中期の構築・使用と考えられる。

（村田）

A 201 号竪穴建物

（第 1-95・162・163 図、第 2-83・84・382 図、写真図版 140・334・335・524）

II A 21 e グリッドに位置する。検出面はⅡ層上面で、黒褐色の楕円形プランとして検出した。他遺構との重複関係は無い。斜面下方である東～南側は削平にされており、さらに西側は調査区外となっているが、平面形は楕円形と考えられる。攪乱が多いため壁面の遺存状況は悪いが、若干外方に開きながら立ち上がると考えられる。床面はⅣ層を平坦に整え、炉の周辺には地山由来の黄褐色土を充填している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南東側で石囲炉 1 基を検出した。石組は、外径 74 × 66cm の長方形である。燃烧部焼土は炉内全域に広がり、58 × 52cm の範囲で、被熱深度は約 8 cm である。炉内は床面より低い位置にあり、掘り方は石組と同規模の長方形の土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。

遺物は堆積土下位（3 層）を中心に出土しており、縄文土器 8 点と土器片円盤 1 点を掲載した（a 875～882、g 47）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b～9 式新段階主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 200 号竪穴建物

（第 1-96・162 図、第 2-83 図、写真図版 138・139・334）

II A 19 f グリッドに位置する。検出面はⅡ層で、黒褐色の楕円形プランとして検出した。A 198 号竪穴建物と重複関係にあり、新旧関係は A 200 号竪穴建物→A 198 号竪穴建物である。北～東側は削平、さらに西側は調査区外となっているが平面形は楕円形と考えられる。壁面は残存する立ち上がりが高く、壁面形状は不明である。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土と浅黄色砂

で構成され、自然堆積である。

床面施設として西壁調査区際で石囲炉1基を検出した。石組は、外径80×66cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内西壁付近に位置し、46×38cmの不整楕円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面より低い位置にあり、掘り方は石組と同規模の長方形の土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 874)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期後葉頃の構築・使用と考えられる。

A 202号竪穴建物

(第1-97・163図、第2-84図、写真図版141・335)

II A 21 f グリッドに位置する。検出面はIV層上面で、黒褐色の楕円形プランとして検出した。226号土坑と重複関係にあり、新旧関係はA 202号竪穴建物→226号土坑である。斜面下方である東壁は削平、北壁も木根により一部失われている。平面形は楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は西寄りに位置する地床炉で、燃焼部焼土は44×36cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉2は中央に位置する地床炉で、燃焼部焼土は34×27cmの楕円形で、被熱深度約3cmである。その他に土坑1基と柱穴4個を検出した。土坑1は平面形が61×54cmの円形で、深さは15cmである。柱穴は床面中央から南西側に位置しているが、配置に規則性はみられない。

遺物は1層からまとめて出土しており、縄文土器3点を掲載した(a 883～885)。このうちa 883はA 201号竪穴建物堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式新段階主体であることから中期後葉頃の構築・使用と考えられる。

(中村・村田)

A 203～205・208・212・215・222・224号竪穴建物

(第1-98・99・163図、第2-84・85・89・285図、写真図版142～145・335～338・477)

II A 11 r～13 s グリッドに位置する。検出面はIV層上面で、黒～暗褐色土の円形・不整形プランが重複する範囲として検出した。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係は236・237号土坑→A 224号竪穴建物→A 212号竪穴建物→A 208号竪穴建物→A 203号竪穴建物→A 205号竪穴建物→A 204号竪穴建物→A 215号竪穴建物→B 18号竪穴建物→11号溝である。

A 203号竪穴建物は、IV層上面で暗褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として床面北寄り地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は64×44cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。その他に周溝1条と柱穴13個を検出した。柱穴は、P 05・07・09・10・12の5個が主柱穴であり、五角形の柱配置になると考えられる。また、周溝付近に位置するP 01～03は壁板等を支える壁柱穴の可能性がある。

遺物は1層から出土しており、縄文土器2点を掲載した(a 886・887)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器に大木3式も含まれるが、他遺構との重

複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えられる。

A 204 号竪穴建物は、IV層上面で黒色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を平坦に整え、さらに断面図には反映されていないが中央から西側の範囲では厚さ約5cmの黄褐色土を充填している。堆積土は黒褐色土及び暗褐色土で、自然堆積である。

床面施設として西～南側の範囲で柱穴を5個検出した。このうちP 01・03・05が支柱穴になり、他遺構に壊されている北東側に柱穴があったとすれば四角形の柱配置であったと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器1点を掲載した（a 888、c1011）。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器に前期のものも含まれるが、他遺構との重複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えられる。

A 205 号竪穴建物は、IV層上面で暗褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平、北西側もA 204・215号竪穴建物により壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を平坦に整えており、床面直上には焼土塊及び炭化物が疎らに分布していた。堆積土は灰黄褐色砂質土と黒色土で構成され、人為堆積と考えられる。

床面施設として周溝2条と柱穴2個を検出した。

遺物は、本遺構に伴う堆積土中からは出土していない。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物が無いため詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えておきたい。なお、炭化材は顕著ではないが、床面直上から焼土や炭化物が検出されており、人為堆積により埋められていることから焼失家屋の可能性もある。

A 208 号竪穴建物は、明灰褐色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、中央から南東側は5cm程度低くなっている。堆積土は黄橙色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴6個を検出した。このうちP 01・02・04～06が支柱穴であり、柱配置は五角形になると考えられる。ただし、床面北西側に既に消失した柱穴があったと仮定すれば六角形の配置になる可能性もある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した（a 894・895、c 1012）。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器には大木4式も含まれるが、中期の土器片が多いことから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 212 号竪穴建物は、当初A 208号竪穴建物と同じ建物と考えていたが、A 208号竪穴建物の北壁面が屈曲して北東側に延びていくことが確認されたことから別の竪穴建物と判断した。大部分がA 208号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は若干外方に開きながら立ち上がる。床面残存範囲は少ないが、確認できる範囲ではIV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～褐色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物はA 208号竪穴建物との境界付近から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 912）。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。地文のみの土器が多く詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中期前～中葉に構築・使用されたものと考えておきたい。

A 215 号竪穴建物は、A 204号竪穴建物精査時に重複する暗褐色の不整形プランとして検出した。本遺構のほうが新しいが、A 204号竪穴建物を先行して精査した為A 204号竪穴建物堆積土中に形成

されていた壁面及び床面の一部は本遺構精査以前に掘削してしまっている。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ層及びA 204号 堅穴建物堆積土を平坦に整えていたと考えられるが、上記の理由により堆積土部分は確認することができなかった。堆積土は暗褐色土及び褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として土坑1基と周溝1条を検出した。土坑1は北壁際に位置し、平面形は楕円形で上面規模は125×50cm、深さは約15cmである。住居内と同じ堆積土であり、同時に埋没したと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 914)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木8a式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 222号 堅穴建物は、A 208号 堅穴建物の床面精査時に床面より低い位置で炉を検出したことから堅穴建物と認定した。A 208号 堅穴建物にほとんどを壊されており、炉及び周辺の床面のみ残存していた。削平が著しく平面形・壁面形状・深さは不明である。堆積土はにぶい黄褐色土が若干残存しているが、堆積の様相は不明である。

床面施設として複式炉1基を検出した。埋設土器と石囲炉で構成される複式炉で、石組部の南側では前庭部と想定される浅い皿状の窪みを検出した。石組は、外径75×57cmの長方形と考えられるが、北側と西側の石は失われている。燃焼部焼土は石組内中央東寄りに位置し、35×35cmの円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面より低い位置にあり、石組部の掘り方は長方形の土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。埋設土器は石組部の北側の一段高い位置に設置されていたが、削平によりほとんど失われており設置方法は不明である。

遺物は埋設土器を含め炉周辺から出土しているが、縄文土器は摩耗しており図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土遺物は乏しいが炉の形態から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 224号 堅穴建物は、A 208号 堅穴建物の床面精査時に建物外へ延びる溝を検出したため堅穴建物と認定した。大部分をA 208号 堅穴建物に壊されており、床面施設が検出されたのみである。周溝と柱穴の配置から平面形は円形と考えられるが、壁面形状・深さは不明である。床面は炉の周辺で構築土と考えられる黄褐色粘質土が確認されているが、その他の範囲はA 208号 堅穴建物に壊されており不明である。堆積土は残存しておらず、堆積の様相は不明である。

床面施設として中央やや南寄りで炉を1基検出したが、削平により炉石1個と炉石据え付け穴2個が残存するのみであった。燃焼部焼土は検出されていない。楕円形の掘り込み内に炉石を設置したものと考えられるが、構築方法は不明である。その他に周溝1条と柱穴8個を検出した。周溝は一連のものであったと考えられるが、途切れていたため2条とした。柱穴はP 04～06・08が主柱穴であり、他遺構に壊されている北西側に柱穴があったとすれば五角形の柱配置であったと考えられる。

遺物は炉の周辺から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 940)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中葉頃構築・使用されたと考えられる。

(中村・村田)

A 206・207・211・227～230号 堅穴建物

(第1-100・101・163・164 図、第2-85・87・90・238・254・262・333・369 図、写真図版146～149・335・337～339・462・467・499・500・516)

Ⅱ A 14 p～16 q グリッドに位置する。検出面はⅢ～Ⅳ層上面で、黒褐～灰黄褐色の円形・不整形

プランが重複する範囲として検出した。多数の土坑とも重複関係にあり、新旧関係は 249 号土坑→A 227 号竪穴建物→A 229 号竪穴建物→A 211 号竪穴建物→A 230 号竪穴建物→A 228 号竪穴建物→248・252・253 号土坑→A 206 号竪穴建物→A 207 号竪穴建物である。

A 206 号竪穴建物は、灰黄褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層及び下位の竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土と褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝 1 条と柱穴 6 個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 1 点と石器 1 点を掲載した（a 889、c 1232）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 8 b 式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 207 号竪穴建物は、当初 A 206 号竪穴建物の堆積土と考えていた炭化物粒を多く含む暗褐色土の不整形プランについて、断面観察及び周溝などの検出状況から 1 軒の竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は大幅に失われており平面形は不明である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として周溝 3 条と柱穴 8 個を検出した。周溝は本来は一連のものであったと考えられるが、途切れていたため 2 条とした。柱穴は不規則に位置しており、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土 4 点と赤彩が付着した縄文土器 1 点、石器 4 点を掲載した（a 890～893、r 15、c 48・1233～1235）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木 8 a 式が主体であるが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 211 号竪穴建物は、A 206・230 号竪穴建物精査中にこれらの建物より南側に広がる炭化物を多く含む暗褐色の円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、柱穴の検出状況から平面形は楕円形と判断できる。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、洪水堆積による自然堆積であり全体的に砂質で締りは弱い。

床面施設として中央南寄りの位置で並列する地床炉 2 基を検出した。2 基重なっているが、断面観察でも新旧関係を明確にすることはできなかった。炉 1 の燃焼部焼土は 51 × 45cm の円形で、被熱深度は約 5 cm である。炉 2 の燃焼部焼土は 84 × 48cm の不整円形で、被熱深度は約 3 cm である。その他に埋設土器 1 基、周溝 1 条、柱穴 19 個を検出した。埋設土器は床面中央部に位置しており、据え方が焼土の下部に入り込んでいることから住居構築直後に設置されたものと考えられる。床面を土器の直径より約 3 倍の広さで掘り込み、その中に深鉢を逆位に設置して外側に黒褐色土を充填している。意図的なものかは不明であるが、底部は欠損している。柱穴は、P 02・05・07・13・16・19 が主柱穴であり、六角形の柱配置になると考えられる。また、主柱穴配置の外周に位置する P 01・03・04・08～10・12・15・17・18 は壁柱穴になると考えられる。

遺物は埋設土器の他に堆積土中（6 層）からも出土しており、縄文土器 1 点と石製品 1 点を掲載した（a 911、d84）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、埋設土器が大木 8 b 式新段階のものであることから中期中葉～後葉の構築・使用と考えられる。

A 227 号竪穴建物は、Ⅲ層中で土質の異なる黒褐色の楕円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土と暗赤褐色土の互層で、自然堆積である。床面施設は検

出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 945・946）。

本遺構は床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器に大木7b式を含むことから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 228号竪穴建物は、Ⅲ層上面で暗褐色の不整楕円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は長楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。北壁付近のみ残存している為、床面の状況は不明である。堆積土は暗褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、石器1点を掲載した（c 240）。

本遺構は壁面付近しか残存していないため性格は不明である。出土遺物も乏しく詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えておきたい。

A 229号竪穴建物は、Ⅲ層で暗褐色の不整楕円形プランとして検出した。斜面下方である南東側は削平、南西側はA 211・230号竪穴建物により壊されている為平面形は不明である。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ～Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は、本遺構に伴う堆積土中からは出土していない。

本遺構は、床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物が無いため詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えておきたい。

A 230号竪穴建物は、A 206・207号竪穴建物精査後にⅢ層中で土質の異なる黒褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層及びA 211号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物が無いため詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えておきたい。

(中村・北田・村田)

A 209・210・213・214号竪穴建物

(第1-102・164図、第2-85・86・285・304・333・375図、写真図版150・151・336・337・477・487・499・500・519)

ⅡA 14 r・sグリッドに位置する。検出面はⅣ層で、暗褐色の不整形プランとして検出した。プランの輪郭がはっきりしなかった為、最初に断面観察用にトレンチ（断面A・B）を設定して掘り下げを行い、その結果複数の竪穴建物が重複していることを確認した。新旧関係は、234号土坑→A 210号竪穴建物→A 214号竪穴建物→A 213号竪穴建物→A 209号竪穴建物である。

A 209号竪穴建物は、Ⅳ層で暗褐色の楕円形プランとして検出し、当初はA 213・214号竪穴建物を合わせた1軒と考えていたが、断面観察により床面の高さに違いがあることから、3軒の竪穴建物と認定した。斜面下方にあたる南側は削平されているが、柱穴が残存していたことからここまでを竪穴建物の床面範囲とした。平面形は南北に長い楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を削り出しており、北壁付近は南側に向かって若干傾斜している。堆積土はオリーブ褐色

土や暗灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は床面中央に位置する石囲炉で、石組は外径48×44cmの円形である。南西側は抜き取り痕が確認できないことから石が設置されていなかった可能性がある。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、36×32cmの範囲で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は南西側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は48×41cmの不整円形で、被熱深度は約4cmである。その他に柱穴を8個検出した。このうちP 01～04・06・07が主柱穴であり、六角形の柱配置になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器5点と石器3点を掲載した（a 896～900、c 1101・1236・1237）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器に大木8b式を含むことから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 210号竪穴建物は、A 209号竪穴建物の検出プランの西側で暗褐色の不整形プランとして検出し、断面観察によりA 213号竪穴建物より古い竪穴建物と判断した。なお、A 213・214号竪穴建物のほうが新しい建物であるが、先述の通り当初は両建物をA 209号竪穴建物に含めており、本遺構の命名後に3軒に分離できることが判明した為、遺構名の順序が入れ替わっている。斜面下方である南側は削平、中央から東側は本遺構よりも新しい遺構により壊されているが、平面形は長方形と考えられ、壁面は若干外方に開きながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土は暗灰黄色土とオリーブ褐色土の互層堆積で、自然堆積である。

床面施設として北壁付近で柱穴を3個検出した。いずれも壁面と並行しており、主柱穴になると考えられる。

遺物は西側の堆積土を中心に出土しており、縄文土器8点と石器1点を掲載した（a 902～906・908～910、c 1013）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 213号竪穴建物は、当初A 209号竪穴建物の一部として検出したが、床面の高さが異なることから別の竪穴建物として分離した。斜面下方である南側は削平、東側はA 209号竪穴建物により壊されており平面形は不明である。壁面は、やや外傾して立ち上がる。床面はIV層を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土は暗灰黄色土とオリーブ褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央付近で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は20×19cmの楕円形で、被熱深度は約5cmである。その他に柱穴7個を検出した。不規則に位置しており、柱配置は不明である。

遺物は堆積土下位から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 901・907）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式新段階のものであることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 214号竪穴建物は、当初はA 209号竪穴建物の一部として検出したが、床面の高さに違いが認められた為分離して1軒の竪穴建物とした。北壁以外はA 209・213号竪穴建物により失われており、平面形は不明である。壁面は、外傾して立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、南側に向かって傾斜している。堆積土は床面付近にオリーブ褐色土が確認されているのみであり、堆積の様相は不明である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と土製品1点を掲載した（a 913、e 38）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式新段階であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(高橋・村田)

A 216 号竪穴建物

(第1-103・165図、第2-86図、写真図版152・337)

II A 12v グリッドに位置する。235号土坑精査中に土坑の東側で暗褐色の不整形プランとして検出した。周辺遺構との新旧関係は、A 114号竪穴建物→A 216号竪穴建物→206・235号土坑、13号溝である。斜面下方である南～東側は削平により失われており平面形は不明である。壁面は、周溝壁面から外傾しながら立ち上がり、中位付近で一度テラス状の平坦面を形成する。平坦面の幅は約40cmである。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴6個を検出した。柱穴は西壁付近に不規則に分布しており、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 915)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 217 号竪穴建物

(第1-103図、写真図版152)

II A 12 v グリッドに位置する。検出面はIV層で、204・205号土坑を含め黒色の不整形プランとして検出した。周辺遺構との新旧関係は、205号土坑→204号土坑→A 217号竪穴建物→B 21号竪穴建物、P 3129～3134である。南側をB 21号竪穴建物に壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は、床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土遺物が乏しく他遺構との重複関係も無い為不明である。

(中村・村田)

A 225 号竪穴建物

(第1-103・166図、第2-89・306・334・377図、写真図版152・339・487・500・521)

II A 15 s グリッドに位置する。検出面はIV層上面で、黒褐色の不整形プランとして検出した。A 223号竪穴建物と重複関係にあるが、本遺構の方が古い。斜面下方である南側は削平及び土層確認用トレンチの掘削により失われているが、平面形は方形と考えられ、壁面は周溝壁面から直線的に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えており、若干南側に向かって傾斜している。断面図の作成を怠ってしまったが、堆積土は黒褐色土を主体とする自然堆積であった。

床面施設として中央付近で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は34×31cmの円形で、被熱深度は約4cmである。焼土の南側には円形の礫が1個据え付けてあった。その他に周溝1条と柱穴1個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点と石器2点、土製品1点を掲載した(a 941～943、c 1107・1241、e 98)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中

期中～後葉の構築・使用と考えられる。

（高橋・村田）

A 218～221・223・226号竪穴建物

（第1-104～106・165・166図、第2-86～89・305・306・334・376・382図、写真図版153～157・337・338・487・500・520・524）

ⅡA 15 t～16 wグリッドに位置する。検出面はⅢ～Ⅳ層で、黒褐色の円形プランが複数重なるように検出した。検出時点でも3軒以上の建物が重複していることは把握できたが、上面では新旧関係が不明であった為プランの長軸に合わせてベルト（断面Aライン）を設定して掘り下げを行い、断面観察から新旧関係を確認した。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係はA 221号竪穴建物→A 223号竪穴建物→A 226号竪穴建物→A 219号竪穴建物→A 218号竪穴建物→238・239・247号土坑、22号炉、P 4243→A 220号竪穴建物である。また、A 220・221・223号竪穴建物の西～南側には中央調査区南西遺物包含層があり、これら3軒の建物は遺物包含層と重複関係にある。新旧関係は、A 221号竪穴建物→遺物包含層→A 220・223号竪穴建物である。

A 218号竪穴建物は、Ⅲ～Ⅳ層上面で黒褐色の楕円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形で、壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はA 221号竪穴建物堆積土を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は外径62×53cmの長方形であるが、南西側の石はA 220号竪穴建物構築の際に抜き取られており残存していない。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、35×30cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面より若干低くなっているが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器3点、土製品1点を掲載した（a 916、c 1102・1103・1238、e 77）。このうちc 1102・1103は炉石に転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 219号竪穴建物は、A 218号竪穴建物の北東側で黒褐色の円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ層及びA 221号竪穴建物堆積土を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は、外径56×51cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、40×31cmの範囲で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面より若干低くなっているが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴5個を検出した。壁際に位置するものが多く、A 221号竪穴建物に伴うとした柱穴に本遺構に伴うものがあると仮定すると、P 01・03とA 221号竪穴建物P 04・44を組み合わせた四角形の柱配置も想定できる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器1点を掲載した（a 917、c 1104）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器の年代は不明であるが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 220号竪穴建物は、Ⅲ層で黒褐色の楕円形プランとして検出した。後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。平面形は円形で、壁面は周溝壁面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ層及びA 221号竪穴建物堆積土を削り出しており、南側に向かって傾斜

している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南東側で複式炉を1基検出した。東西方向に長軸方向を取る複式炉で、石囲炉と土器埋設炉で構成される。石囲炉は2つの石組で日の字形に構成されており、土器埋設炉に隣接する西側が後室と考えられる。前室の石組は外径70×70cmの方形、後室の石組は外径48×30cmの長方形である。燃焼部焼土は後室内全域に広がり、36×16cmの範囲で、被熱深度は約6cmである。後室の西側に土器埋設炉があり、燃焼部焼土は32×30cmの円形で、被熱深度は約4cmである。埋設土器は焼土の西寄りに位置し、2個体の深鉢のうち1個体を切断し、三重の入れ子状にして逆位で設置している。埋設土器の外径は24×23cmである。炉は床面より低い位置にあるが、炉内でも段差があり土器埋設炉より石囲炉のほうが低い。前室と後室では底面の差は認められない。石組部は、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。土器埋設炉の掘り方は、土器の直径より若干広い土坑状で、その内側に土器を設置している。その他に周溝2条と柱穴29個を検出した。溝1の西端部と溝2が並行していることから、床面西側では少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。柱穴は、P 02・08・11・15・18・19が主柱穴であり、六角形の柱配置になると考えられる。また、P 01・04・13・16・20・22が壁柱穴になると考えられる。西側に拡張を行っているとすれば、P 12・21は拡張前の壁柱穴になる可能性もある。

遺物は炉内埋設土器の他、北東側堆積土中から多量に出土しており、縄文土器9点と石器1点を掲載した(a 919～927、c 1105)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階が主体であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 221号竪穴建物は、本遺構の上部に位置するA 218・219・220号竪穴建物の精査時に設定した土層確認トレンチで床面を確認したことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平及び排水作業用の水路により失われているが、平面形は東西が張り出す不整な楕円形である。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。後述するように多数の周溝と柱穴を検出しており、壁面が張り出すなどの状況から複数の竪穴建物が重複している可能性も考えたが、堆積土に分層できるほどの大きな相違が無かったことから同一建物内での拡張・建て替えの結果によるものと判断した。

床面施設として南東部で石囲炉1基を検出した。石組の外径は96×47cmの長方形と考えられるが、石の抜き取りが多く遺存状況は不良である。燃焼部焼土は炉内全体に広がっていたと考えられ、範囲は70×33cm、被熱深度は約3cmである。石組は、北側の炉石のみ半分以上が埋まる程の掘り方を持つが、他の炉石の抜き取り痕跡をみる限り設置する部分のみ若干掘り込んで石を設置していたようである。その他に周溝11条と柱穴84個を検出した。周溝及び柱穴の配置から、本遺構は少なくとも4回の建て替え・拡張が行われていたと考えられる。想定される段階として、構築段階である第一段階は円形プランで溝3・8・10・11が巡り、P 12・14・30・38・47・57が主柱穴で柱配置が六角形となるもの、第二段階は円形プランで溝3・8・9が巡り、P 25・30・63・64・67・70が壁柱穴として配置されるもの、第三段階は楕円形プランで溝3～7が巡り、P 02・14・20・30・56・78・82が主柱穴で柱配置が六または八角形となるもの、第四段階は長楕円形プランで溝4・5が巡り、P 03・27・33・43・44・48・74・77が壁面に沿って配置され、さらに棟持柱としてP 22・37・39・57・64・76が直線的に配置されるもの、第五段階が円形プランで溝1・2が巡り、P 02・14・21・30・55・65・81・84が主柱穴で柱配置が八角形となり、さらにP 01・19・29・32・34・42・72・79が壁柱穴として配置されるものという変遷が考えられる(第1-106図)。なお、炉石の残存状況から検出

された炉は次段階の拡張時に廃絶された可能性があることと床面施設の配置及び重複関係から第三・四段階のいずれかに伴うと考えられる。

遺物は建物の拡張の中心となる床面西側の堆積土中から多量に出土しており、縄文土器9点と石器3点、土器片円盤1点を掲載した（a 918・928～935、c 1106・1239・1240、g 48）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 223号竪穴建物は、Ⅲ層で暗褐色の楕円形プランとして検出した。西側でA 225号竪穴建物及び中央調査区南西遺物包含層と重複関係にあり、両者より本遺構のほうが新しい。斜面下方である南側は削平、東側はA 220号竪穴建物によって壊されているが、平面形は隅丸方形または楕円形と考えられ、壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層及び遺物包含層を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土は暗褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として柱穴20個を検出した。床面の広範囲で検出されているが、規模・配置が不規則であり柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点を掲載した（a 936～939）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることと他遺構との重複関係から中期中後葉の構築・使用と考えられる。

A 226号竪穴建物は、A 223号竪穴建物精査中に堆積土中位で石囲炉を検出し、断面観察によりA 223号竪穴建物堆積土と土質の異なる範囲を確認した為1軒の竪穴建物と認定した。全体がA 223号竪穴建物内に位置しており、平面形は楕円形である。堆積が浅いため壁面の立ち上がりは不明瞭である。床面はA 223号竪穴建物堆積土を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として南側で石囲炉1基を検出した。石組は59×45cmの長方形で、南壁には石が無く開口している。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、27×26cmの円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面と同じ高さに位置し、設置する部分のみ掘り込んで角礫を据え付けている。周溝や柱穴は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 944）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木8b式主体であるが他遺構との重複関係から中期中後葉の構築・使用と考えられる。

（北田・高橋・村田）

A 231～234・239・240号竪穴建物

（第1-107～109・166・167図、第2-90・91・254・382図、写真図版158～160・339・340・463・524）

ⅡB 16e～18fグリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層で、黒褐色の円形及び方形プランを複数検出した。このうちA 231～234号竪穴建物は、床面精査の段階まで1軒の竪穴建物として認識していた為、堆積土中での遺物取り上げは全てA 231号竪穴建物として行っている。したがって遺物は4軒の竪穴建物それぞれに帰属するものがあると考えられるが、柱穴内等確実なもの以外はA 231号竪穴建物の出土遺物として掲載した。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係は310号土坑→A 241号竪穴建物→A 240号竪穴建物→294・304号土坑→A 234号竪穴建物→A 239号竪穴建物→A 233号竪穴建物→296・306号土坑→A 232号竪穴建物→A 231号竪穴建物→307号土坑である。この他、297・302・308・309号土坑とも重複しているが、これらとの新旧関係は不明である。なお、

A 241 号竪穴建物は第 1-107・109 図では一部の柱穴のみ図示しており、全体図は第 1-113 図に掲載している。なお、A 231～253 号竪穴建物が分布する範囲（後述する柱穴 P5001 以降が分布）では、調査期間の制約もあり柱穴については、ほとんどのものを下端図面の作成をせず最下点の記録のみにとどめている。

A 231 号竪穴建物は、黒褐色の円形プランとして検出した。先述の通り A 232～234 号竪穴建物と合わせて 1 軒の竪穴建物と認識しており、床面精査の際に床面の高さが異なることと周溝・柱穴の配置から 4 軒の竪穴建物が重複していることが判明した。壁面は北側しか残存していないが、周溝と柱穴の位置から平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ層及び A 232 号竪穴建物堆積土を削り出しているが、床面には若干の凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南西寄りで石囲炉 1 基を検出した。石組は外形 65 × 55cm の長方形と考えられるが、北壁と東壁の炉石は確認できなかった。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に埋設土器 1 基と周溝 1 条、柱穴 15 個を検出した。埋設土器は床面中央やや北寄りに位置し、床面を土器の直径より若干広く掘り込み、その中に深鉢を正位に設置して外側にはぶい黄褐色土を充填している。深鉢は器高の約 2/3 が埋められており、口縁部は欠損している。柱穴は、P 01～06 が支柱穴で六角形の柱配置となると考えられる。また、P 07～15 が壁面付近を巡る壁柱穴になると考えられる。

遺物は埋設土器の他、堆積土中から出土しており、縄文土器 3 点と石器 1 点、土器片円盤 2 点を掲載した（a 947～949、c 49、g 49・50）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、埋設土器を含め出土土器が大木 8 b 式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 232 号竪穴建物は、A 231 号竪穴建物床面精査中に高さの異なる床面を検出し、その面で石囲炉が検出されたことから 1 軒の竪穴建物と認定した。壁面は北側しか残存していないが、周溝と柱穴の位置から平面形は円形と考えられ、壁面は周溝壁面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は炉の周辺には薄い暗褐色土を充填しているが、基本的にはⅣ層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として中央付近で石囲炉 1 基を検出した。石組は 65 × 65cm の方形と考えられるが、南・東側の炉石は確認できなかった。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、34 × 34cm の円形で、被熱深度は約 2cm である。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝 1 条と柱穴 7 個を検出した。柱穴は、P 01～07 が支柱穴で七角形の柱配置になると考えられる。

遺物は、先述の通り堆積土中のものは A 231 号竪穴建物出土として一括で取り上げている。本遺構の柱穴から出土した土器は小破片であるが、A 231 号竪穴建物と同時期のものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 233 号竪穴建物は、A 232 号竪穴建物精査中に石囲炉を検出し、周溝の東側に A 232 号竪穴建物とは異なるプランの壁面が確認された為 1 軒の竪穴建物と認定した。壁面は北側しか残存していないが、周溝と柱穴の位置から平面形は円形と考えられ、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土の記録を行っていない為、堆積の様相は不明である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉 1 基を検出した。石組は外形 65 × 50cm の楕円形と考えられるが、南側の炉石は確認できなかった。燃焼部焼土は炉内西側に位置し、40 × 30cm の円形で、被熱深

度は約3cmである。燃焼面は床面より若干低い位置にあり、炉内にあたる範囲を若干掘り窪めた後に炉石を設置する部分をさらに深く掘り込んでいる。その他に柱穴8個を検出した。P 01～08は主柱穴であり、八角形の柱配置となると考えられる。

遺物は、先述の通り堆積土中のものはA 231号竪穴建物出土として一括で取り上げている。本遺構の柱穴から出土した土器は小破片であるが、A 231号竪穴建物と同時期のものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 234号竪穴建物は、A 232号竪穴建物床面精査中にプランの南西側で石囲炉と前庭部となる土坑と周溝を検出したことから1軒の竪穴建物と認定した。後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。壁面は北西側しか残存していないが、周溝と柱穴の位置から平面形は円形と考えられ、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土の記録を行っていない為、堆積の様相は不明である。

床面施設として南西側で複式炉を1基を検出した。前庭部を有する複式炉で、石組は外形100×70cmの長方形であるが、南東壁は中央の炉石以外確認できなかった。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。前庭部は石組の掘り方と一連で掘削されており、平面形は150×95cmの楕円形で、深さは約15cmである。石組の構築方法は、前庭部と合わせて浅い土坑状の掘り込みを掘削した後に炉石を設置する部分をさらに深く掘り込んでいる。炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉内と前庭部の底面はほぼ同じ高さである。その他に周溝3条と柱穴19個を検出した。周溝のうち溝1は北側は壁面に沿って巡るが、途中で屈曲して炉の前庭部に壊されている。本建物で建て替え・拡張が行われていたとすれば、炉と溝の重複関係から溝1は旧段階、炉は新段階の床面に伴うものと考えられる。柱穴は、P 01～06が主柱穴で六角形の柱配置になると考えられる。また、P 07～12もP 01～06より外側で六角形の柱配置となる。壁面から遠いことと両者の柱間隔が近いことから、同時存在ではなく建て替え・拡張により柱配置を変更した可能性がある。

遺物は、先述の通り堆積土中のものはA 231号竪穴建物出土として一括で取り上げている。この他、炉の前庭部や周溝から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 950・951）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 239号竪穴建物は、A 231号竪穴建物の西側で黒褐色の方形プランとして検出した。北・西壁しか残存していないが、周溝と柱穴の配置から平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として北壁付近で石囲炉1基を検出した。石組は、東側の炉石が検出されていない為平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は炉内南側から若干外側に出ており、34×30cmの円形で、被熱深度は約2cmである。炉の全体を覆うように焼土が堆積していたが、周辺から流れ込んだ二次堆積の焼土である。また、炉の東側にも同様の焼土が確認されている。その他に周溝3条と柱穴18個を検出した。周溝は、溝1・2は壁面に沿って巡るが、溝3は床面中央南寄りに位置しており、間仕切り状のものと考えられる。柱穴は、P 01～09が壁柱穴として配置される。また、P 11・12が床面中央に設置された支持柱と考えられる。

遺物は周溝や柱穴及び堆積土中から出土しており、縄文土器5点と土器片円盤1点を掲載した（a 961～965、g 55）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中

期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 240 号竪穴建物は、A 239 号竪穴建物床面精査中に A 239 号竪穴建物の周溝とは異なる方向に巡る周溝と炉の可能性のある焼土を検出したことから竪穴建物と認定した。周溝と柱穴の配置から平面形は円形と考えられるが、壁面が残存していない為壁面形状・堆積の様相は不明である。床面はIV層を平坦に整えており、A 239 号竪穴建物とほぼ同じ高さである。

床面施設として周溝1条と柱穴6個を検出した。柱穴は、P 01～06が主柱穴で六角形の柱配置になると考えられる。なお、床面南西側で検出された焼土は、地床炉の可能性もあるが熱変成が非常に弱いため断定はできなかった。

遺物は周溝内から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 966・967）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 235～238・251・252 号竪穴建物

（第1-110～112・166・167図、第2-90・91・379・382図、写真図版161～163・339・340・523・524）

II B 17 c～19 d グリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層で、II B 17 c・18 b グリッド西側で石列を検出した為、配石もしくは竪穴建物の可能性を想定して精査を行った。また、その東側についてはA 235 号竪穴建物以外は壁面は確認できなかったが、複数の炉が検出された為、竪穴建物が重複しているものと想定して精査を行った。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係はA 252 号竪穴建物→A 251 号竪穴建物→A 235 号竪穴建物→302・305 号土坑→A 236 号竪穴建物→A 237 号竪穴建物→A 238 号竪穴建物、282 号土坑である。その他、A 237・238 号竪穴建物は255～258 号土坑とも重複しているが、これらとの新旧関係は不明である。

A 235 号竪穴建物は、Ⅲ層下位～Ⅳ層で黒褐色の円形プランとして検出した。平面形は円形で、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として西壁付近で複式炉1基を検出した。前庭部を有する複式炉で、石組の外径は75×55cmの長方形である。炉内には燃焼部焼土は検出されなかった。前庭部は石組の掘り方と一連で掘削されており、東壁は若干壁面より外側に出ている。前庭部は平面形が110×65cmの長方形で、深さは約24cmである。石組の構築方法は、前庭部と合わせて浅い土坑状の掘り込みを掘削した後に壁面より若干内側に炉石を立て並べている。炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉内と前庭部の底面はほぼ同じ高さである。その他に周溝3条と柱穴5個を検出した。周溝のうち溝3は壁面から床面中央に向かって伸びており、間仕切り状となっている。柱穴は、P 01～05が主柱穴で五角形の柱配置になると考えられる。

遺物は床面直上、柱穴、堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器2点、台形土器1点、土器片円盤4点を掲載した（a 952～955、c 1242・1243、f 5、g 51～54）。なお、床面直上北側で大型の板石が出土しているが、使用痕は無く用途については不明である。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階～10式古段階主体であることから、中期後～末葉の構築・使用と考えられる。

A 236 号竪穴建物は、A 235 号竪穴建物の西側で石列を検出し、周辺を精査した結果石列を有する竪穴建物と認定した。石列周辺の壁面が若干残存しているのみであるが、柱穴の配置から平面形は

楕円形と考えられ、後述するように複数の柱配置が考えられることから建て替え・拡張を行っていた可能性がある。壁面は、石列の背面では緩やかに外傾しながら立ち上がる。石列周辺に残る堆積土は黒褐色土であるが、堆積の様相は不明である。

床面施設として柱穴 19 個を検出した。柱配置は 3 案が想定されることから少なくとも 2 回の建て替え・拡張が行われていた可能性がある。南西方向に規模を拡張していったと考え、構築段階である第一段階は最も規模が小さい P 01～05 で、五角形の柱配置となる。第二段階は P 06～12 で、七角形の柱配置となる。第三段階は P 02・09・10・12～16 で壁面付近を巡る八角形の柱配置になると考えられる。その他に石列 1 列を検出した。壁面に沿って 6 個の板状礫・角礫が北東－南西方向に直線的に並べられており、石は直立あるいは内側に傾斜している。石列は位置関係から第二段階または第三段階の柱配置に伴うものであり、壁面を保護する目的で設置されたと考えられる。使用された石材は、花崗岩と頁岩である。

遺物は柱穴と堆積土中から出土しており、縄文土器 2 点を掲載した（a 956・957）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木 8 b 式新段階を主体とするが、先行して構築されている A 235 号竪穴建物との重複関係から中期後～末葉の構築・使用と考えられる。

A 237 号竪穴建物は、Ⅲ層下位～Ⅳ層で 2 列の石列が併行した状態で検出された為、その周辺の精査を行った結果石列を有する竪穴建物であると判断した。精査中は A 238 号竪穴建物の石列も本遺構に伴うと考えていたが、室内整理の段階で接地面の高さが異なることと柱配置から 2 軒に分離した。壁面が存在したと考えられる石列の北西側も堆積土と同時に掘り下げてしまった為、石列と柱穴配置からの推定になるが、平面形は円形と考えられる。壁面は残存していないが、石列の背面の状況から外方に開きながら立ち上がっていたと考えられる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体であるが、堆積の様相は不明である。

床面施設として柱穴 6 個を検出した。P 01～06 は主柱穴で、六角形の柱配置になると考えられる。その他に石列 1 列を検出した。壁面に沿って 8 個の大型の板状礫・角礫が北東－南西方向にわずかに弧状に並べられており、石は直立あるいは壁面側に傾斜している。礫の隙間には裏込めと考えられる小型の礫も検出されている。A 236 号竪穴建物の石列と同じく、壁面を保護する目的で設置されたと考えられる。使用された石材は、花崗岩と頁岩である。

遺物は柱穴と堆積土中から出土しており、縄文土器 3 点を掲載した（a 958～960）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木 8 b 式を主体とするが、先行する竪穴建物との重複関係から中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 238 号竪穴建物は、大部分が A 237 号竪穴建물에壊されており、壁面が存在したと考えられる石列の北西側も堆積土と同時に掘り下げてしまった為、石列と柱穴配置からの推定になるが、平面形は円形と考えられる。壁面は残存していない為、壁面形状は不明である。床面はⅣ層を平坦に整えており、A 237 号竪穴建物よりも本遺構のほうが若干高い位置にある。石列付近に残存していた堆積土は黒褐色土であるが、堆積の様相は不明である。

床面施設として柱穴 12 個を検出した。このうち P 01～03・05～08・10～12 が壁面際を巡る壁柱穴になると考えられる。なお、P 03・04、P 09・10 が隣接しており、この部分では柱の取り換えを行っていた可能性がある。その他に石列 1 列を検出した。壁面に沿って 9 個の大型の板状礫・角礫が北東－南西方向に直線的に並べられており、石は直立あるいは内側に傾斜している。礫の隙間には裏込めと考えられる小型の礫も検出されている。A 236・237 号竪穴建物の石列と同じく壁面を保護

する目的で設置されたと考えられるが、石は床面より浮いた位置で検出されていることから設置方法は不明である。使用された石材は、花崗岩と頁岩である。

遺物は柱穴と堆積土中から出土しており、石器1点を掲載した(c 1244)。出土土器は縄文土器の小破片のみであるが、A 237号竪穴建物とほぼ同時期のものである。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが、先行するA 237号竪穴建物との重複関係から中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 251号竪穴建物は、A 235～237号竪穴建物の精査中に炉を検出し、柱穴の検出状況から竪穴建物と認定した。炉を中心とした柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は、IV層を平坦に整えている。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。石組は外径95×60cmの長方形と考えられるが、東壁は小型の礫のみであり、西壁では炉石は確認できなかった。炉内中央で柱穴を1個検出したが、炉との新旧関係は不明である。また、炉内で燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴13個を検出した。このうちP 01～05・08・11が支柱穴で、七角形の柱配置になると考えられる。なお、P 08とP 11にはそれぞれ3個の柱穴が重複関係にあり、この部分では柱の取り換えが行われていた可能性がある。

遺物は炉周辺の堆積土中から出土しており、縄文土器1点と土器片円盤1点を掲載した(a 970、g 56)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後～末葉の構築・使用と考えられる。

A 252号竪穴建物は、A 251号竪穴建物の東側で炉を検出し、柱穴の分布状況から竪穴建物と認定した。炉を中心とした柱穴配置から平面形は円形と考えられる。北壁面がわずかに残存しているのみで、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は、IV層を平坦に整えている。

床面施設として中央やや北寄りでは石囲炉1基を検出した。石組は外径70×45cmの長方形であるが、南壁は炉内に倒れ込んでおり、南西・南東側の炉石は確認できなかった。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉の周辺には黒褐色土等を充填しており、炉内は床面より若干高い位置にある。その他に柱穴を6個検出した。P 01～06は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが支柱穴で六角形の柱配置になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した(a 973・974)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 241・253号竪穴建物

(第1-113図、写真図版165)

II B 17 d～18 f グリッドに位置する。検出面はIV層で、周辺の竪穴建物の精査中に石囲炉を検出し、柱穴の検出状況から竪穴建物と認定した。複数の土坑と重複関係にあり、新旧関係はA 253号竪穴建物→A 235号竪穴建物、310号土坑→A 240号竪穴建物→A 234号竪穴建物、299・301号土坑である。この他、302・308号土坑とも重複しているが、これらとの新旧関係は不明である。

A 241号竪穴建物は、A 234号竪穴建物南西側で検出された炉を中心とし、柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は、IV層を平坦に整えている。

床面施設として中央付近で石囲炉 1 基を検出した。石組は外径 53 × 40cm の長方形であるが、南・北壁は炉内に倒れ込んでおり、西壁の炉石は確認できなかった。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉の周辺には暗褐～にぶい黄褐色土を充填しており、炉内は床面より若干高い位置にある。その他に柱穴を 11 個検出した。P 01・02・04～06・08～10 を主柱穴とする八角形と、P 02・03・06・07・10・11 を主柱穴とする六角形の柱配置が考えられ、建て替え・拡張が行われた可能性がある。ただし、いずれの柱配置でも規模がほとんど変わらない為先後関係は不明である。

遺物は柱穴や炉周辺の堆積土中から少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 253 号竪穴建物は、A 235 号竪穴建物南東側で検出された炉を中心とし、柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は、IV 層を平坦に整えている。

床面施設として中央やや東寄りで石囲炉 1 基を検出したが、石組の西側は A 241 号竪穴建物構築時に壊されており遺存状況は悪い。石組は、長軸 70cm の楕円形と考えられる。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。その他に柱穴 6 個を検出した。P 01～06 は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが主柱穴で六角形の柱配置になると考えられる。

遺物は柱穴から少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 242・243 号竪穴建物

（第 1-114・167 図、第 2-91 図、写真図版 165・166・340）

II A 20 x～21 y グリッドに位置する。検出面は II～III 層で、石囲炉と周溝を検出したことから竪穴建物として認定した。この範囲は II 層が厚く、両建物とも II 層を掘り込んで構築されていたと考えられる。ただし、明瞭な壁面が確認できなかったことから周辺の II 層とともに堆積土を床面付近まで掘り下げてしまった為、堆積土の記録ができなかった。新旧関係は A 243 号竪穴建物→A 242 号竪穴建物である。この他、259・262 号土坑とも重複しているが、これらとの新旧関係は不明である。

A 242 号竪穴建物は、炉と周溝・柱穴の配置から平面形は円形と考えられる。壁面は西壁がわずかに残存しているのみで、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は IV 層を平坦に整えており、南東側に向かって若干傾斜している。なお、A 243 号竪穴建物の床面と高低差はほとんど無い。

床面施設として南東側で複式炉 1 基を検出した。二室構造の複式炉で、壁面に近い南東側が前室になる。石組は前室が外径 65 × 50cm、後室が外径 45 × 45cm で、数字の 8 の字に近い形状の長方形であるが、前室の南東壁は炉石が確認できなかった。前室・後室とも燃焼部焼土は検出されなかった。前室の掘り方は浅い楕円形で、壁面に炉石を立て並べている。一方、後室には掘り方は無いが、設置する部分を掘り込んで炉石を設置した後に内部に黒褐色土を充填して床面と同じ高さになっている。その他に周溝 1 条と柱穴 6 個を検出した。柱穴のうち P 01～06 は主柱穴で、六角形の柱配置になると考えられる。

遺物は炉の周辺と柱穴から出土しており、縄文土器 1 点を掲載した（a 968）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 9 式新段階であることから中期後～末葉の構築・使用と考えられる。

A 243 号竪穴建物は、炉と周溝・柱穴の配置から平面形は東西に長い楕円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面はⅣ層を平坦に整えており、南東側に向かって若干傾斜している。

床面施設として南東側で複式炉 1 基を検出した。二室構造の複式炉で、壁面に近い南東側が前室になる。石組は前室が外径 70 × 83cm の長方形、後室が外径 50 × 70cm で北壁側が弧状となる。中央の仕切り石は後室に向かって傾いていた。炉内では燃焼部焼土は検出されていないが、後室では中央で埋設土器 1 基を検出した。掘り方は楕円形の土坑状プランとして確認したが、前室では先に南壁を設置する部分を深く掘り込み、その後で後室にかけて掘り込んでいる。後室は前室より一段深く掘り込まれており、底部を切断した深鉢を正位で設置している。炉内は底面に段差があり、前室は建物床面と同じ高さであるが後室は一段高くなっている。なお、北壁の炉石は掘り方の上面に設置されていることから、後室は当初土器埋設炉であったものを後に石囲炉に作り替えた可能性がある。

遺物は複式炉の後室と柱穴から出土しており、縄文土器 1 点を掲載した (a 969)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが A 242 号竪穴建物との重複関係から中期後～末葉の構築・使用と考えられる。

A 244 ～ 247 号竪穴建物

(第 1-115・167 図、第 2-91 図、写真図版 166・167・340)

Ⅱ A 19 x ～ Ⅱ B 19 a グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、石囲炉を複数検出したことから竪穴建物が重複していると想定して精査を行った。この範囲はⅡ層が厚く、いずれの建物もⅡ層を掘り込んで構築されていたと考えられる。ただし、明瞭な壁面が確認できなかったことからⅡ層とともに堆積土を床面付近まで掘り下げてしまった為、堆積土の記録ができなかった。複数の土坑と重複関係にあり、新旧関係は 283 号土坑 → A 247 号竪穴建物 → A 246 号竪穴建物 → A 245 号竪穴建物 → A 244 号竪穴建物、311 号土坑である。

A 244 号竪穴建物は、Ⅱ A 19 x グリッドで検出した炉を中心とし、柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。

床面施設として中央北東寄り石囲炉 1 基を検出した。石組は長軸 75cm の楕円形と考えられるが、南半部の炉石は確認できなかった。また、炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉の周辺には暗褐色～ぶい黄褐色土を充填しているが、明確な掘り方は無い。その他に柱穴 6 個を検出した。P 01 ～ 06 は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが主柱穴で六角形の柱配置になると考えられる。

遺物は炉の周辺と柱穴から出土しており、縄文土器 1 点を掲載した (a 970)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 9 式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 245 号竪穴建物は、Ⅱ A 19 y グリッド西側で検出した炉を中心とし、柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。

床面施設として中央南寄りで石囲炉 1 基を検出した。石組は外径 55 × 55cm の方形と考えられるが、南・西側の炉石は確認できなかった。また、炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。なお、炉石の確認できなかった部分は不整形に掘り込まれており、抜き取りが行われた可能性もある。その他に柱

穴7個を検出した。P 01～07は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが支柱穴で七角形の柱配置になると考えられる。

遺物は柱穴から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 246号竪穴建物は、ⅡA 19 y グリッド東側で検出した炉を中心とし、柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面はⅣ層を削り出し、炉の周辺は黒褐色土を15cm程度充填して構築している。なお、炉の南東側は緩やかに傾斜している。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は外径58×55cmの方形と考えられるが、西・東側の炉石は確認できなかった。燃焼部焼土は炉内北壁付近に位置し、19×12cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。その他に柱穴6個を検出した。P 01～06は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが支柱穴で六角形の柱配置になると考えられる。

遺物は柱穴から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 247号竪穴建物は、ⅡA 19 y グリッド南側で検出した炉を中心とし、柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は大型の石材が使用されているが、炉内に倒れ込んでおり平面形と規模は不明である。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。石の直下には不整形な掘り込みが確認されているが、これが掘り方になるかは不明である。その他に柱穴7個を検出した。P 01～07は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが支柱穴で七角形の柱配置になると考えられる。

遺物は柱穴から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが、大木7b式土器が出土した283号土坑を切り、大木9式新段階の土器が出土したA 244号竪穴建物に切られることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 248～250号竪穴建物

(第1-116・167図、第2-91図、写真図版168・169・340)

ⅡA 17 x～ⅡB 18 a グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、石囲炉を複数検出したことから竪穴建物が重複していると想定して精査を行った。この範囲はⅡ層が厚く、いずれの建物もⅡ層を掘り込んで構築されていたと考えられる。ただし、明瞭な壁面が確認できなかったことからⅡ層とともに堆積土を床面付近まで掘り下げてしまった為、堆積土の記録ができなかった。多数の土坑や柱穴と重複関係にあり、新旧関係は285・288・292号土坑、P 5371・5372・5432・5433→A 250号竪穴建物→A 249号竪穴建物→A 248号竪穴建物→289号土坑、P 5318・6495・6520・6526である。このうちA 249号竪穴建物とA 250号竪穴建物は直接的な重複関係が無い為、時期は同時あるいは逆になる可能性もある。なお、A 250号竪穴建物は17・18号溝と重複関係にあるが、これらとの新旧関係は不明である。

A 248 号竪穴建物は、Ⅱ A 18 x グリッド南側で検出した炉を中心とし、柱穴配置から平面形は楕円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面はⅣ層を平坦に整えており、南東側に向かって若干傾斜している。

床面施設として中央付近で石囲炉 1 基を検出した。石組は、外径 70 × 63cm の不整長方形である。燃焼部焼土は炉内中央やや南寄りに位置し、26 × 26cm の円形で、被熱深度は約 2cm である。ただし、熱変成は弱く焼土の色調は暗い。掘り方は炉石の設置部分を深く掘り込んでいるが、平面・断面形とも不整形である。炉石は掘り方底面より若干高い位置に据えられ、地山由来のにぶい黄褐色土を充填している。その他に柱穴 7 個を検出した。P 01 ～ 07 は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが支柱穴で七角形の柱配置になると考えられる。

遺物は炉や柱穴から出土しており、縄文土器 2 点を掲載した (a 971・972)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木 8 b 式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 249 号竪穴建物は、Ⅱ A 18 x グリッド北側で検出した炉を中心とし、柱穴配置から平面形は楕円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面はⅣ層を平坦に整えているが、北側の柱穴付近では微弱な段差が確認されている。

床面施設として中央付近で石囲炉 1 基を検出した。石組は、外径 95 × 77cm の楕円形である。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴 7 個を検出した。P 01 ～ 07 は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが支柱穴で七角形の柱配置になると考えられる。

遺物は、柱穴や炉内堆積土から縄文土器の破片が出土している。図示できたものは無いが、A 248 号竪穴建物と同じく大木 8 b 式の破片が確認できる。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが、大木 8 a 式土器が出土した 288 号土坑を切り、大木 8 b 式土器が出土した A 248 号竪穴建物に切られることから、中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 250 号竪穴建物は、Ⅱ A 17 y グリッド南東側で検出した炉を中心とし、柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面はⅣ層を平坦に整えているが、床面中央付近では微弱な段差がある。

床面施設として中央付近で石囲炉 1 基を検出した。石組は外径 62 × 60cm の楕円形であるが、南東側の炉石が無く開口している。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。掘り方は炉石の設置部分を深く掘り込んでいるが、平面・断面形とも不整形である。南東側開口部付近では掘り方底面付近で水平に設置された礫が検出されているが、炉に直接伴うものかは不明である。その他に柱穴 7 個を検出した。P 01 ～ 07 は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが支柱穴で七角形の柱配置になると考えられる。

遺物は炉や柱穴から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(村田)

2 竪穴建物（縄文時代）

第4表 竪穴建物（縄文時代）一覧（1）

遺構名	グリッド	時期	規模(m)			炉・焼土	出土遺物重量(g)					
			長軸	短軸	深さ		土器	石器	石製品	土製品	台形	円盤
A1号竪穴建物	II B24k	中期後葉	(4.0)	2.7	0.65	石囲炉×1	49,369.6	1,833.2	0.0	0.0	0.0	145.5
A2号竪穴建物	II B24l	中期中～後	(2.6)	(0.8)	0.35	(無し)			0.0	0.0	0.0	0.0
A3号竪穴建物	II B20l	中期後葉	(4.6)	4.0	0.30	石囲炉×1	1,715.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A4号竪穴建物	II B20k	中期後葉	(4.5)	(4.0)	0.40	石囲炉×1	2,524.6	3.4	0.0	4.4	0.0	0.0
A5号竪穴建物	II B16l	中期中～後	(5.8)	(2.6)	0.25	石囲炉×1	18,778.5	2,812.7	0.0	0.0	0.0	0.0
A6号竪穴建物	II B23k	中期中葉	(4.1)	4.0	0.45	石囲炉×1	6,434.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A7号竪穴建物	II B23l	中期中葉	(4.7)	(3.9)	0.25	(無し)	417.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A8号竪穴建物	II B17l	中期中葉	(2.4)	(2.0)	0.25	(無し)	1,411.5	158.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A9号竪穴建物	II B16j	中期後葉	(4.5)	(2.5)	0.25	石囲炉×1	371.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.2
A10号竪穴建物	II B17k	中期後葉	(5.0)	3.4	0.40	地床炉×1(石囲炉か)	4,384.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A11号竪穴建物	II B17j	中期末	(4.3)	(3.5)	0.30	複式炉(石組)×1	138.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A12号竪穴建物	II B18j	中期中葉	4.2	3.2	0.20	石囲炉×1	369.5	986.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A13号竪穴建物	II B15k	不明	(4.5)	(4.4)	-	石囲炉×1	1,852.1	32.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A14号竪穴建物	II B18j	中期中以前	(6.8)	(6.2)	0.20	石囲炉×1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A15号竪穴建物	II B21l	前期	(2.1)	(1.6)	0.25	(無し)	146.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A16号竪穴建物	II B21k	前期末	(4.5)	(1.6)	0.30	(無し)	1,113.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A17号竪穴建物	II B20j	前期末～中期中	(6.7)	(4.0)	0.25	(無し)	2,943.6	1,135.7	0.0	0.0	0.0	0.0
A18号竪穴建物	II B21j	中期中～後	(5.6)	(4.0)	0.30	石囲炉×1	991.8	4,216.7	0.0	0.0	0.0	0.0
A19号竪穴建物	II B21k	中期中～後	5.1	(4.1)	0.30	(無し)			0.0	0.0	0.0	7.7
A20号竪穴建物	II B21k	中期中～後	(5.5)	4.2	0.40	地床炉×2	3,497.2	3,206.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A21号竪穴建物	II B17i	中期末以降	(3.3)	(2.9)	0.20	石囲炉×1(複式炉か)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A22号竪穴建物	II B22l	不明	(3.4)	(0.7)	0.10	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A23号竪穴建物	II B23l	中期中葉	(1.4)	(1.0)	0.13	(無し)	200.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A24号竪穴建物	II B23k	中期中葉	4.0	(2.6)	0.25	(無し)	296.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A25号竪穴建物	II B16k	中期後葉	(4.2)	(3.9)	0.15	石囲炉×2	1,532.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A26号竪穴建物	II B16g	中期中以前	(2.5)	(2.2)	0.20	石囲炉×1	339.1	827.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A27号竪穴建物	II B15h	中期末	(5.0)	(3.7)	0.50	複式炉(石組)×1 石囲炉×1	8,680.4	0.8	0.0	15.4	0.0	26.6
A28号竪穴建物	II B15i	中期末	(2.1)	(1.9)	0.15	石囲炉×1	4,168.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.5
A29号竪穴建物	II B15i	中期中葉	(3.5)	(2.9)	0.40	(無し)	296.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A30号竪穴建物	II B19i	中期後葉	(6.0)	(5.6)	0.15	石囲炉×1	801.3	833.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A31号竪穴建物	II B19i	中期中以前	(4.5)	(4.4)	0.18	石囲炉×1	39.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A32号竪穴建物	II B13i	中期末	(3.3)	(3.1)	0.50	石囲炉×1	9,189.6	16.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A33号竪穴建物	II B16h	中期末	(3.2)	(3.2)	0.15	石囲炉×1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.8
A34号竪穴建物	II B13h	中期後～末	(5.2)	(3.2)	0.90	石囲炉×1	14,287.4	10,397.0	0.0	52.3	0.0	0.0
A35号竪穴建物	II B14d	中期中～後	(5.7)	4.9	1.20	石囲炉×1	16,367.4	31,265.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A36号竪穴建物	II B15h	中期後葉	4.2	(3.0)	0.40	石囲炉×1	24,462.1	404.1	0.0	0.5	0.0	15.2
A37号竪穴建物	II B14g	中期末	(4.6)	(2.8)	0.55	石囲炉×1	14,362.2	3,886.2	0.0	0.5	0.0	13.4
A38号竪穴建物	II B13j	中期後葉	(3.2)	(3.0)	0.35	石囲炉×1	4,272.9	0.0	0.0	0.0	0.0	17.0
A39号竪穴建物	II B13j	中期中～後	(3.1)	(1.9)	0.15	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A40号竪穴建物	II B15f	中期後葉	(4.3)	(3.7)	0.25	石囲炉×1	2,581.6	2,956.8	0.0	39.7	0.0	0.0
A41号竪穴建物	II B15f	中期後葉	(4.7)	(4.5)	0.40	石囲炉×1	5,107.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A42号竪穴建物	II B14g	中期中～後	(7.0)	(6.0)	0.75	石囲炉×2	55,440.2	70,927.6	41.8	0.0	0.0	0.0
A43号竪穴建物	II B15g	中期中葉	(3.0)	(3.0)	-	地床炉×2			0.0	0.0	0.0	13.8
A44号竪穴建物	II B15g	中期後葉	(4.4)	(3.6)	0.45	石囲炉×2	4,718.2	5,042.2	13,409.4	52.3	183.7	6.0
A45号竪穴建物	II B15g	中期中～後	(4.0)	(0.7)	-	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A46号竪穴建物	II B15 g	中期末以降	(1.7)	(1.2)	0.23	(無し)	9,192.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A47号竪穴建物	II B14 f	中期中葉	(1.2)	(1.0)	0.45	(無し)	1,131.6	963.0	0.0	21.6	0.0	10.6
A48号竪穴建物	II B14e	中期後葉	(4.4)	(3.2)	0.45	(無し)	3,826.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A49号竪穴建物	II B7e	中期中～後	(4.0)	(2.0)	0.60	(無し)	239.5	2,545.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A50号竪穴建物	II B7f	後期初頭	2.1	(1.7)	0.75	石囲炉×1	2,302.1	473.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A51号竪穴建物	II B14i	中期後葉	(3.6)	(2.2)	0.50	(無し)	3,178.9	4,722.0	792.0	0.0	0.0	0.0
A52号竪穴建物	II B14j	中期後以前	(2.7)	(0.7)	0.28	(無し)	1,257.3	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0
A53号竪穴建物	II B15i	中期後葉	(4.2)	(3.9)	0.32	石囲炉×1	17,808.0	3,380.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A54号竪穴建物	II B14h	中期中葉	(3.9)	(2.4)	0.45	地床炉×1	3,721.1	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0
A55号竪穴建物	II B14h	中期後葉	(5.1)	(3.6)	0.65	石囲炉×1	1,552.7	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A56号竪穴建物	II B14j	中期中～後	(3.9)	(3.7)	0.83	地床炉×2	3,383.9	351.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A57号竪穴建物	II B15j	中期後葉	(3.3)	(2.5)	0.40	石囲炉×1	187.7	0.0	0.0	94.6	0.0	0.0
A58号竪穴建物	II B14f	中期中葉	5.6	3.8	0.45	石囲炉×1	5,173.3	43,829.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A59号竪穴建物	II B15f	中期末	(3.4)	(3.3)	0.40	石囲炉×1 地床炉×1	640.3	228.4	4.0	0.0	0.0	0.0
A60号竪穴建物	II B14h	中期中葉	(3.4)	(2.5)	0.30	(無し)	3,093.4	142.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A61号竪穴建物	II B13d	中期中～後	(3.2)	(1.8)	0.25	(無し)	533.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A62号竪穴建物	II B15e	前期末	(4.5)	(3.0)	0.30	(無し)	784.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A63号竪穴建物	II B15f	前期末以前	(2.5)	(0.8)	0.40	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A64号竪穴建物	II B14e	中期中以前	2.4	(2.2)	0.41	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A65号竪穴建物	II B14i	中期中以前	(2.5)	(0.7)	0.33	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

他遺構との重複関係(右側が新しい)	備考	本文 頁	平面 No.
A2号竪穴建物→◎	一部調査区外へ延びる	25	13
◎→A1号竪穴建物	一部調査区外へ延びる	25	13
A4・15・16・20号竪穴建物→◎→1号土坑		25	14
A15・16・17・19・20号竪穴建物→◎→A3号竪穴建物		25	14
A8号竪穴建物→◎		28	18
A7・24号竪穴建物→◎		29	19
◎→A6・24号竪穴建物	A22・23号竪穴建物の新旧関係は不明	29	19
◎→A5・10号竪穴建物、1号溝	A10号竪穴建物との新旧関係は不明	28	18
A10号竪穴建物→◎→A11号竪穴建物		30	21
A8・25号竪穴建物→◎→A9号竪穴建物	焼土両脇の炉石抜き取り痕の可能性ある穴あり	30	21
A9・10号竪穴建物→◎→A21号竪穴建物	A12号竪穴建物との新旧関係は不明	30	21
A14・31号竪穴建物→◎→A12号竪穴建物	A11号竪穴建物との新旧関係は不明	31	24
A25号竪穴建物→◎→1号溝		32	25
A31号竪穴建物→◎→A12・30号竪穴建物	A11・21号竪穴建物との新旧関係は不明	31	24
◎→A3・4・16・20号竪穴建物、1号土坑	建て替え・拡張の可能性有	25	14
A15号竪穴建物→◎→A3・17・20号竪穴建物	建て替え・拡張の可能性有	25	14
A16号竪穴建物→◎→A4・20号竪穴建物	建て替え・拡張の可能性有	25	14
A19・20号竪穴建物→◎	建て替え・拡張の可能性有	25	14
A20号竪穴建物→◎→A18号竪穴建物		25	14
A16・17号竪穴建物→◎→A3・4・18・19号竪穴建物	北壁と西壁に石列、建て替え・拡張の可能性有	25	14
A11号竪穴建物→◎	A14号竪穴建物との新旧関係は不明	30	21
A7・23号竪穴建物と重複するが新旧関係は不明		29	19
A7・22・24号竪穴建物と重複するが新旧関係は不明		29	19
A7号竪穴建物→◎→A6号竪穴建物	A23号竪穴建物との新旧関係は不明	29	19
◎→A9・10・13号竪穴建物、1号溝		30	21
◎→3号土坑		33	26
A28・33号竪穴建物→◎		33	26
A27・29号竪穴建物→◎		33	26
◎→A28号竪穴建物		33	26
A14・31号竪穴建物→◎		34	28
◎→A14・30号竪穴建物		34	28
A39・65号竪穴建物、35・53号土坑→◎→A38号竪穴建物		35	29
◎→A27号竪穴建物、3号土坑、2号炉		33	26
A54・60・65号竪穴建物、28・31号土坑→◎→11号土坑		36	29
54・56・58・60～62・64・65号土坑→◎→A48号竪穴建物、12号炉		37	30
◎→A27号竪穴建物		38	31
A42号竪穴建物→◎		38	32
A39・56・80号竪穴建物→◎→A32号竪穴建物		35	29
35・53号土坑→◎→A32・38号竪穴建物	A65号竪穴建物との新旧関係は不明	35	29
A41・42・58・59・62・63号竪穴建物→◎		38	32
A42・43・44・45・63・232号竪穴建物→◎→A26・40・59・232号竪穴建物		38	32
A43・58・62号竪穴建物、47・64号土坑→◎→A37・40・41・44号竪穴建物		38	32
◎→A41・42・44号竪穴建物		38	32
A42・43・45号竪穴建物→◎→A41・59号竪穴建物、3・34・39・40号土坑		38	32
◎→A26・41・44・59号竪穴建物、34・39・40号土坑		38	32
A44・45号竪穴建物→◎		38	32
57号土坑→◎		38	32
A35号竪穴建物→◎→A58号竪穴建物		37	30
41号土坑→◎→A50号竪穴建物		42	37
A49号竪穴建物、41号土坑→◎		42	37
A52・56・65・66号竪穴建物→◎→A53・57・60号竪穴建物、55号土坑		43	38
◎→A51・53・56・57号竪穴建物		43	38
A51・55・57号竪穴建物、55号土坑→◎→A29・36号竪穴建物、13号炉、1号土器埋設遺構		43	38
A42・55号竪穴建物→◎→A60号竪穴建物		45	40
A54号竪穴建物→◎→A36号竪穴建物	A42号竪穴建物の新旧関係は不明	45	40
A52・66号竪穴建物、50号土坑→◎→A38・51号竪穴建物、34号土坑		43	38
A51・527号竪穴建物→◎→A53号竪穴建物、55号土坑		43	38
A62号竪穴建物→◎→A40・42号竪穴建物、47号土坑		38	32
A41・44・45・232号竪穴建物→◎→A26・40・232号竪穴建物		38	32
A65号竪穴建物→◎→A54・55号竪穴建物	埋設土器×1	45	40
63号土坑→◎→49・106・108号土坑		43	37
A63号竪穴建物→◎→A40・42・58号竪穴建物、52号土坑		38	32
◎→A42・62号竪穴建物		38	32
65号土坑→◎→58号土坑		37	30
A66号竪穴建物→◎→A51・54号竪穴建物		43	38

2 竪穴建物（縄文時代）

第4表 竪穴建物（縄文時代）一覧（2）

遺構名	グリッド	時期	規模(m)			炉・焼土	出土遺物重量(g)					
			長軸	短軸	深さ		土器	石器	石製品	土製品	台形	円盤
A66号竪穴建物	II B14i	中期中以前	(1.8)	(0.9)	0.42	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A67号竪穴建物	II B13m	中期中～後	(7.5)	(5.5)	0.41	石囲炉×1	7,353.3	31.5	75.1	0.0	0.0	0.0
A68号竪穴建物	II B13l	中期中～後	(3.5)	(2.1)	0.50	(無し)	6,070.4	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A69号竪穴建物	II B13 l	中期中～後	5.5	(4.5)	0.45	地床炉×1	22,078.6	530.4	11.1	0.0	0.0	0.0
A70号竪穴建物	II B13n	中期中～後	5.9	4.9	0.53	地床炉×1	9,135.1	1,068.7	0.0	0.0	0.0	0.0
A71号竪穴建物	II B13l	中期中～後	(2.4)	(0.7)	0.63	(無し)	575.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A72号竪穴建物	II B13k	中期中～後	(4.4)	(3.0)	0.38	(無し)	15,007.2	1,750.8	0.0	0.0	0.0	8.1
A73号竪穴建物	II B13m	中期中～後	5.2	4.4	0.63	地床炉×1	1,213.9	85.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A74号竪穴建物	II B13m	中期中業	(3.9)	(3.4)	0.44	地床炉?×1	2,437.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A75号竪穴建物	II B13l	中期中～後	2.9	2.8	0.46	石囲炉×1 地床炉×1	6,857.4	891.3	0.0	19.4	0.0	0.0
A76号竪穴建物	II B13k	中期中～後	(6.1)	(5.1)	0.49	石囲炉×1	11,787.7	1,314.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A77号竪穴建物	II B13k	中期中～後	(4.2)	(2.6)	0.21	石囲炉×1	6,375.9	0.0	16.5	0.0	0.0	0.0
A78号竪穴建物	II B13k	中期中～後	(5.2)	(2.8)	0.37	石囲炉×1	7,938.5	322.2	29.0	0.0	0.0	0.0
A79号竪穴建物	II B13k	中期前業	(1.8)	(1.5)	0.27	(無し)	2,205.7	318.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A80号竪穴建物	II B13k	中期前業	(4.2)	(2.3)	0.29	(無し)	1,575.2	316.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A81号竪穴建物	II B13k	中期中～後	(4.6)	(3.6)	0.16	石囲炉×1	776.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A82号竪穴建物	II B12b	中期後業	(4.5)	(3.2)	0.20	複式炉(石組・土器)×1	811.3	1,877.5	0.0	0.5	0.0	0.0
A83号竪穴建物	II B13c	中期後～末	2.7	2.6	0.63	石囲炉×1	4,458.1	1,386.5	0.0	35.9	0.0	0.0
A84号竪穴建物	II B12d	中期中～後	(4.4)	(3.6)	0.60	石囲炉×1	5,248.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A85号竪穴建物	II B12b	中期中～後	(6.5)	5.8	0.61	(無し)	28,252.8	3,621.1	0.0	16.7	0.0	0.0
A86号竪穴建物	II B12c	中期中～後	(4.6)	(3.6)	0.45	石囲炉×1	9,212.5	0.0	589.6	0.0	0.0	0.0
A87号竪穴建物	II B12c	中期中～後	(3.7)	(3.2)	0.25	地床炉?×1	8,815.9	12,264.0	41.7	0.0	0.0	0.0
A88号竪穴建物	II B12c	中期中～後	(5.4)	(4.3)	0.37	石囲炉×2			0.0	0.0	0.0	0.0
A89号竪穴建物	II B12c	中期中～後	(3.8)	(3.6)	-	地床炉×1			0.0	7.8	0.0	0.0
A90号竪穴建物	II B13b	中期中～後	(6.3)	(4.7)	0.25	(無し)	11,861.2	207.2	0.0	6.7	0.0	0.0
A91号竪穴建物	II B14c	中期中業	(3.1)	(2.2)	0.29	地床炉×1	3,017.7	1,479.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A92号竪穴建物	II B14a	中期	(3.5)	(2.8)	0.32	(無し)	447.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A93号竪穴建物	II A15y	中期	(4.5)	(4.1)	0.62	石囲炉×1	2,484.3	14,267.9	0.0	0.0	0.0	9.5
A94号竪穴建物	II B13d	前期末	(3.2)	(2.0)	-	(無し)	610.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A95号竪穴建物	II B14c	中期中業	2.6	2.5	0.38	石囲炉×1	3,671.0	883.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A96号竪穴建物	II A15y	中期	(4.5)	(3.3)	0.28	地床炉?×1	456.0	0.0	101.9	0.0	0.0	0.0
A97号竪穴建物	II B14c	中期中業	2.5	2.5	0.26	石囲炉×1	2,679.6	1,972.4	0.0	13.2	0.0	8.8
A98号竪穴建物	II A12y	不明	(3.3)	(1.7)	0.15	地床炉?×1	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A99号竪穴建物	II B13b	中期中～後	(6.3)	(5.8)	0.35	(無し)	1,616.3	3,286.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A100号竪穴建物	II B14c	中期中業	(2.5)	(1.4)	0.43	(無し)	3,587.2	5,246.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A101号竪穴建物	II B14c	中期後業	(3.6)	(1.7)	0.18	(無し)	2,637.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A102号竪穴建物	II B14b	中期後業	(2.5)	(1.3)	0.17	(無し)	1,156.1	4,408.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A103号竪穴建物	II B14c	中期中以前	(3.1)	(0.6)	0.16	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A104号竪穴建物	II B12b	中期中業	(3.9)	(1.4)	0.16	(無し)	355.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A105号竪穴建物	II B10h	中期末	5.6	(5.0)	0.63	複式炉(石組)×1	6,339.3	8,220.2	0.0	0.0	0.0	17.9
A106号竪穴建物	II B10h	中期末以前	(3.7)	(1.0)	0.30	(無し)	2,764.9	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0
A107号竪穴建物	II B9e	中期末	4.5	(3.4)	0.50	(無し)	5,010.1	3,549.0	2.6	2.1	0.0	0.0
A108号竪穴建物	II B8d	中期末	(6.2)	(2.3)	0.55	(無し)	2,689.1	17,876.1	0.0	0.0	0.0	3.9
A109号竪穴建物	II A9v	中期中～後	(7.7)	6.5	0.70	複式炉(石組)×1	59,183.9	6,200.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A110号竪穴建物	II A10t	中期中業	(4.8)	4.5	0.50	複式炉(石組)×1	13,015.9	5,859.8	0.0	0.0	0.0	16.3
A111号竪穴建物	II A9t	中期中業	(4.9)	(3.2)	0.60	不明×1	36,605.8	5,089.4	0.0	0.0	0.0	45.2
A112号竪穴建物	II A10u	中期中業	(5.7)	(5.0)	0.35	石囲炉×1	17,119.5	5,784.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A113号竪穴建物	II A11w	中期後業	(4.4)	(3.7)	0.25	石囲炉×1	70,154.0	11,230.5	0.0	6.4	0.0	15.4
A114号竪穴建物	II A12w	中期中業	(4.8)	(4.3)	0.20	石囲炉×1	61,362.1	27,317.9	53.6	0.0	0.0	23.4
A115号竪穴建物	II B3c	中期後以前	(2.2)	(1.5)	0.18	(無し)	318.1	323.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A116号竪穴建物	II B6b	中期中～後	(6.0)	4.5	0.68	地床炉×2	105,518.9	3,986.5	1,587.1	0.0	114.5	53.9
A117号竪穴建物	II B8c	中期中～後	7.1	(6.3)	0.55	複式炉(石組・土坑)×1	19,890.8	4,325.6	0.0	0.0	0.0	17.4
A118号竪穴建物	II B8j	中期末	(5.0)	(1.5)	0.50	(無し)	4,877.7	888.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A119号竪穴建物	II B8j	中期末以前	(5.1)	(1.4)	0.30	(無し)	336.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A120号竪穴建物	II B12b	中期中業	(3.9)	(3.3)	0.35	複式炉(石組・地床)×1	6,578.6	4,395.9	1,983.6	0.0	0.0	0.0
A121号竪穴建物	II B12b	中期前業	(3.5)	3.3	0.56	石囲炉×1 地床炉×1	845.3	663.6	0.0	0.0	0.0	0.0
A122号竪穴建物	II B6c	中期中業	(4.4)	(4.0)	0.60	石囲炉×1	67,391.0	2,061.1	32.1	38.4	0.0	0.0
A123号竪穴建物	II B8d	中期後業	(6.0)	(3.0)	0.38	(無し)	5,396.4	174.1	0.6	0.0	0.0	6.6
A124号竪穴建物	II B8c	中期中～後	(5.5)	(5.4)	0.70	石囲炉×1	8,878.0	1,806.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A125号竪穴建物	II A7y	中期中～後	(5.3)	(3.8)	0.57	石囲炉×1 地床炉×1	26,051.1	18,720.4	0.0	0.0	0.0	27.2
A126号竪穴建物	II B10b	中期中～後	(6.2)	(4.5)	0.52	地床炉×4	22,221.1	1,847.7	25.7	2.3	0.0	0.0
A127号竪穴建物	II B10b	中期中～後	(6.2)	(3.9)	0.78	地床炉×3	37,912.5	4,086.7	11.1	10.6	0.0	0.0
A128号竪穴建物	II B9d	中期前～中	2.5	2.3	0.06	(無し)	1,117.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A129号竪穴建物	II A7w	中期中業	5.5	(5.0)	0.40	石囲炉×1	7,062.9	1,768.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A130号竪穴建物	II B4a	中期中業	(5.2)	(2.0)	0.46	石囲炉×1	2,042.1	91.1	0.0	0.0	0.0	0.0

他遺構との重複関係(右側が新しい)	備考	本文 頁	平面 No.
◎→A32・51・56・65号竪穴建物		43	38
A68・69・70・73・74号竪穴建物→◎		46	41
A71号竪穴建物→◎→A67・69号竪穴建物		46	41
A68・71・73・75号竪穴建物→◎→A67・76・77号竪穴建物		48	44
◎→A67号竪穴建物		46	41
A78号竪穴建物→◎→A68・69号竪穴建物		48	44
A79号竪穴建物、71号土坑→◎→A78号竪穴建物		48	44
A74号竪穴建物→◎→A67号竪穴建物	A75号竪穴建物との新旧関係は不明	46	41
◎→A67・74号竪穴建物		46	41
A81号竪穴建物→◎→A75・76・77号竪穴建物	A81号竪穴建物の造り替え後か	48	44
A69・75・80・81号竪穴建物→◎→A77号竪穴建物		48	44
A76・80・81号竪穴建物→◎		48	44
A72・79・80号竪穴建物、73号土坑→◎→A71号竪穴建物、71号土坑		48	44
A80号竪穴建物→◎→A72・78号竪穴建物、73号土坑		48	44
◎→A57・76・77・78・79号竪穴建物		48	44
74号土坑→◎→A75・76・77号竪穴建物	A75号竪穴建物の造り替え前か	48	44
A85・90・99・104号竪穴建物→◎		50	47
A85・88・94号竪穴建物→◎		52	49
A87・88・94号竪穴建物、93・100・102号土坑→◎→A86号竪穴建物		52	49
A86・88・90・99号竪穴建物→◎→A82号竪穴建物		50	47
A84・87・88・89号竪穴建物→◎→A83・85号竪穴建物		52	49
A88・89号竪穴建物→◎→A86号竪穴建物		52	49
A94号竪穴建物→◎→A83・84・85・86・87号竪穴建物	同一地点での造り替え	52	49
A94号竪穴建物、100号土坑→◎→A83・84・86・87号竪穴建物	A88号竪穴建物との新旧関係は不明	52	49
A99号竪穴建物→◎→A82・85号竪穴建物、92号土坑		50	47
A95・97号竪穴建物、P2071→◎→103号土坑		55	51
◎→96号土坑、P2038		55	51
A96号竪穴建物、97号土坑→◎		56	52
◎→A83・84・88・89号竪穴建物		52	49
A97号竪穴建物→◎→A91号竪穴建物、P2041・2042・2052・2053		55	51
◎→A93号竪穴建物、P4053・6169・6171		56	52
112号土坑→◎→A90・95号竪穴建物、P2041・2042・2052・2053		55	51
(無し)		52	48
110号土坑→◎→A82・85・90・102号竪穴建物、92・107号土坑		50	47
A101・103号竪穴建物→◎→56・109号土坑、P2076・2077・2078		57	53
A100・103号竪穴建物→◎→56号土坑、P2076・2077		57	53
A99号竪穴建物→◎		57	53
◎→A100・101号竪穴建物、56号土坑、P2078		57	53
◎→A82号竪穴建物		50	47
A106号竪穴建物、118・138・145号土坑→◎→36号土坑		58	54
◎→A105号竪穴建物		58	54
142・167号土坑→◎		59	55
A123号竪穴建物→◎→136・166号土坑、14号炉、2号焼土		59	56
18・19号焼土、A172号竪穴建物→◎→5号溝		61	59
A111・112号竪穴建物→◎→119号土坑、5・11号溝		62	60
◎→A110号竪穴建物		62	60
◎→A110号竪穴建物		62	60
A170・171・180・181・190号竪穴建物→◎→A161号竪穴建物		63	61
◎→A154・180号竪穴建物		63	61
(無し)		65	63
◎→A122号竪穴建物		65	63
A128号竪穴建物、171号土坑→◎→A124号竪穴建物、B11号竪穴建物、153・154号土坑		58	56
A119号竪穴建物、131号土坑→◎		66	64
22号土坑→◎→A118号竪穴建物		66	64
A121・178号竪穴建物→◎→A144号竪穴建物	焼失家屋か	67	65
◎→A120・144号竪穴建物		67	65
A116号竪穴建物、159号土坑→◎		72	71
A117・124号竪穴建物、171号土坑→◎→A108号竪穴建物		58	56
A117号竪穴建物→◎		58	56
A146・149・162・175・188号竪穴建物→◎		73	72
A127・173・174・177号竪穴建物→◎→A132・139・148号竪穴建物		67	65
A127・152・153・173・177・196号竪穴建物→◎→A126・132・139・148号竪穴建物	建て替え・拡張	67	65
◎→A117号竪穴建物		58	56
A188号竪穴建物→◎→A136・137・145・187・192号竪穴建物		75	75
◎→A182号竪穴建物		77	78

2 竪穴建物（縄文時代）

第4表 竪穴建物（縄文時代）一覧（3）

遺構名	グリッド	時期	規模(m)			炉・焼土	出土遺物重量(g)					
			長軸	短軸	深さ		土器	石器	石製品	土製品	台形	円盤
A131号竪穴建物	II A8v	中期前葉	(3.8)	(3.8)	0.18	石囲炉×1	5,530.2	483.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A132号竪穴建物	II B10a	中期後葉	(3.8)	(2.8)	0.68	地床炉×1	34,801.5	6,256.1	0.0	0.0	803.3	17.8
A133号竪穴建物	II B10g	中期末以前	(4.3)	(1.0)	-	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A134号竪穴建物	II B10d	前期末	5.1	(2.6)	0.30	(無し)	3,077.4	666.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A135号竪穴建物	II A6x	中期中～後	7.1	(2.7)	0.50	石囲炉×1	27,323.9	35,796.7	51.0	0.0	0.0	0.0
A136号竪穴建物	II A7v	中期中葉	(5.0)	4.0	0.30	地床炉×2	19,612.3	1,593.6	0.0	1.2	0.0	0.0
A137号竪穴建物	II A7v	中期後葉	(5.4)	(4.3)	0.50	石囲炉×1	20,855.2	21,821.2	67.3	0.0	0.0	0.0
A138号竪穴建物	II A8u	中期前葉	(4.5)	(3.2)	0.50	地床炉×1	1,134.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A139号竪穴建物	II B10a	中期中～後	(5.4)	3.6	0.20	石囲炉×1	15,387.5	7,694.5	417.4	13.6	0.0	0.0
A140号竪穴建物	II B7b	中期後葉	5.0	(4.5)	0.35	地床炉?×1	25,292.3	1,288.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A141号竪穴建物	II B8b	中期中～後	(5.0)	(3.6)	0.50	(無し)	24,829.7	2,414.7	8.2	0.0	0.0	0.0
A142号竪穴建物	II B8b	中期前葉	4.5	(4.4)	0.18	地床炉×2		73.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A143号竪穴建物	II B8g	不明	(2.9)	(1.0)	0.30	(無し)	43.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A144号竪穴建物	II B11a	中期中～後	(2.4)	(2.0)	0.14	地床炉×1	1,359.4	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A145号竪穴建物	II A7w	中期中葉	(3.6)	(3.0)	0.20	複式炉(石組・地床)×1 地床炉×1	21,936.3	528.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A146号竪穴建物	II B7a	中期中～後	(4.2)	(3.5)	0.35	石囲炉×1	11,915.7	7,532.6	0.0	0.0	0.0	0.0
A147号竪穴建物	II B8i	中期中～後	2.3	2.2	0.55	(無し)	2,947.6	1,461.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A148号竪穴建物	II B10a	中期中～後	(3.2)	(3.1)	0.44	石囲炉×1	10,312.6	2,410.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A149号竪穴建物	II A7y	前期末	(4.2)	(2.9)	0.40	地床炉×1	726.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A150号竪穴建物	II A5x	中期中～後	(3.7)	(1.4)	0.67	(無し)	7,459.5	2,575.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A151号竪穴建物	II A9x	中期後葉	(7.5)	(5.5)	0.60	石囲炉×2	108,283.5	21,116.2	9.5	4.3	0.0	71.1
A152号竪穴建物	II B9a	中期前葉	(4.6)	(2.2)	0.43	地床炉×1	10,458.1	618.8	0.0	6.6	0.0	0.0
A153号竪穴建物	II B9b	中期前葉	(4.5)	(4.2)	0.42	複式炉(石組・地床)×1 地床炉×2	5,574.4	4,644.1	0.0	0.0	0.0	21.8
A154号竪穴建物	II A12w	中期中葉	(5.3)	(4.7)	0.48	複式炉(石組・土器)×1	6,401.9	3,939.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A155号竪穴建物	II A5x	中期中～後	(5.7)	(3.6)	0.20	石囲炉×1、地床炉×1	851.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A156号竪穴建物	II B7g	不明	(4.1)	(1.5)	0.80	(無し)	641.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A157号竪穴建物	II A10y	中期中～後	(5.5)	(3.5)	0.35	石囲炉×1	22,119.6	5,527.4	0.0	0.0	0.0	7.3
A158号竪穴建物	II A11y	中期中～後	(5.8)	(3.0)	0.32	石囲炉×1、地床炉×1	13,075.0	3,636.7	8.2	0.0	0.0	16.4
A159号竪穴建物	II A11y	前期末	(3.2)	(2.4)	0.18	地床炉×1	1,549.7	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A160号竪穴建物	II B6a	中期中～後	5.8	4.4	0.45	石囲炉×1?	21,562.2	552.2	0.0	41.1	0.0	0.0
A161号竪穴建物	II A10x	中期中～後	(3.9)	(2.6)	0.20	石囲炉×1	6,552.1	7,444.2	0.0	188.4	0.0	0.0
A162号竪穴建物	II A8y	前期末～中 期前	(9.5)	(2.0)	0.60	(無し)	56,554.9	4,273.9	0.0	863.5	0.0	14.5
A163号竪穴建物	II A9w	中期中～後	(5.7)	(2.3)	0.60	(無し)	26,593.2	1,409.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A164号竪穴建物	II A10v	中期中～後	(3.9)	(3.4)	0.50	(無し)	14,034.7	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A165号竪穴建物	II B7h	不明	(3.3)	(2.1)	0.90	(無し)	3,333.7	408.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A166号竪穴建物	II A10y	中期中～後	(5.2)	(3.6)	0.45	地床炉×1	5,188.8	1,440.1	189.2	0.0	0.0	0.0
A167号竪穴建物	II A9x	中期中～後	(6.5)	5.2	0.35	複式炉(石組・地床)×1 石囲炉×1	32,082.9	3,658.1	0.0	0.0	0.0	17.5
A168号竪穴建物	II B7m	不明	(4.8)	(3.4)	0.65	(無し)	77.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A169号竪穴建物	II B7b	中期中～後	(4.5)	(4.3)	0.35	石囲炉×1	8,103.0	5,440.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A170号竪穴建物	II A10x	中期中葉	(5.5)	(4.9)	0.50	地床炉×2	61,232.8	11,300.2	2.5	127.1	0.0	0.0
A171号竪穴建物	II A10x	中期中葉	(4.1)	(2.4)	0.10	複式炉(石組・地床)×1		2,574.0	0.0	3.7	0.0	0.0
A172号竪穴建物	II A8w	中期前～中	5.4	4.5	0.45	石囲炉×1、地床炉×1	12,932.1	5,247.3	0.0	28.9	0.0	0.0
A173号竪穴建物	II B10a	中期中～後	(4.3)	(3.3)	0.20	地床炉×1	7,642.7	108.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A174号竪穴建物	II B11a	前期末	(5.0)	(3.0)	0.20	石囲炉×2、地床炉×1	2,472.8	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A175号竪穴建物	II A7y	中期前葉	(4.5)	(2.1)	0.45	(無し)	9,299.0	626.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A176号竪穴建物	II A9w	中期中～後	(5.0)	(3.8)	0.30	(無し)	9,541.4	1,296.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A177号竪穴建物	II B10a	中期中～後	(1.7)	(0.8)	0.15	(無し)	1,671.5	18.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A178号竪穴建物	II B11a	前期末	(2.6)	(2.5)	0.37	地床炉×1	1,382.3	1,311.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A179号竪穴建物	II A10x	中期中～後	5.7	3.8	0.60	地床炉×2	37,037.0	8,192.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A180号竪穴建物	II A11w	中期中～後	(4.8)	(4.5)	0.55	(無し)	4,011.6	396.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A181号竪穴建物	II A10w	中期中葉	4.6	(4.5)	0.40	石囲炉×1、地床炉×1	7,576.4	3,214.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A182号竪穴建物	II B4a	中期中葉	(6.2)	(5.2)	0.20	地床炉×1	3,852.5	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A183号竪穴建物	II A10v	中期中葉	4.4	(2.3)	0.45	(無し)	4,597.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A184号竪穴建物	II B5b	中期中葉	(2.4)	(2.0)	0.35	地床炉×2	350.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A185号竪穴建物	II A10v	中期中葉	(5.9)	(2.0)	0.25	石囲炉×1	3,962.0	3,309.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A186号竪穴建物	II A8w	中期前葉	(4.5)	(3.7)	0.55	石囲炉×1	12,466.6	581.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A187号竪穴建物	II A6x	中期中～後	(4.4)	(4.0)	0.24	石囲炉×1	26,084.0	10,070.3	0.0	25.5	0.0	0.0
A188号竪穴建物	II A6x	中期前葉	(4.5)	4.1	0.25	石囲炉×1	43,100.2	7,055.2	0.0	1.0	0.0	0.0
A189号竪穴建物	II A6x	中期中葉	3.4	(2.4)	0.30	(無し)	5,779.6	222.7	0.0	0.0	0.0	0.0
A190号竪穴建物	II A10x	中期中葉	(4.8)	(4.2)	0.22	地床炉×2	5,562.8	2,397.3	0.0	50.6	0.0	0.0
A191号竪穴建物	II A6y	前期末	4.5	(4.1)	0.23	(無し)	2,501.1	312.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A192号竪穴建物	II A7v	中期中～後	(4.9)	(3.2)	0.45	石囲炉×1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A193号竪穴建物	II A8x	中期中～後	(5.2)	(4.7)	0.35	(無し)	15,771.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A194号竪穴建物	II B8g	中期前～中	(2.6)	(1.0)	0.50	(無し)	336.5	625.3	0.0	0.0	0.0	0.0

他遺構との重複関係(右側が新しい)	備考	本文 頁	平面 No.
A136・138号堅穴建物→◎	琥珀出土(第VI章第6節)	75	75
A139・148号堅穴建物→◎		67	65
◎→150号土坑		58	54
190・217号土坑→◎	建て替え・拡張の可能性有	72	71
A150号堅穴建物、184号土坑→◎→B16号堅穴建物、1号鍛冶炉		78	79
A129・131・172号堅穴建物→◎→A137・193号堅穴建物		75	75
A129・136・192号堅穴建物→◎→B9号堅穴建物、146号土坑、17号焼土		75	75
◎→B9号堅穴建物、17号焼土		75	75
A126・127・157・173・177号堅穴建物→◎→A132・148号堅穴建物	焼失家屋か	67	65
A141・142・169号堅穴建物、223号土坑→◎→15号炉、5号溝	炉は土器埋設炉の抜き取り後のものか	79	80
A142・169号堅穴建物→◎→A140号堅穴建物、139～141号土坑		79	80
223号土坑、13号焼土→◎→A140・141・169号堅穴建物、15号炉、5号溝		79	80
◎→160・161号土坑		78	78
A120・121・173・178号堅穴建物→◎	完掘写真無し	67	65
A129号堅穴建物→◎→A187・188号堅穴建物		75	75
◎→A125号堅穴建物、8・9・10号焼土		82	82
186号土坑→◎→163・177号土坑、7号溝		78	78
A126・127・139号堅穴建物→◎→A132号堅穴建物		67	65
◎→A125・162・175号堅穴建物		81	81
224・312号土坑→◎→A135号堅穴建物、B16号堅穴建物、1号鍛冶炉		78	79
A127・139・157・166・167・179号堅穴建物→◎	琥珀出土(第VI章第6節)	82	83
A153号堅穴建物→◎→A127・151号堅穴建物		67	65
◎→A127・152号堅穴建物		67	65
A114号堅穴建物、200・201号土坑→◎→A180号堅穴建物		63	61
A194号堅穴建物、4号焼土→◎→A135・150号堅穴建物		78	79
187号土坑→◎→A165号堅穴建物、188号土坑		87	87
A166・167・170・171号堅穴建物→◎→A151・161号堅穴建物		82	83
A159号堅穴建物→◎→A157号堅穴建物		82	83
◎→A158号堅穴建物		82	65
◎→A189号堅穴建物	17号炉は堆積土中に設置された屋外炉	87	88
A157・171号堅穴建物→◎		82	61
221号土坑→◎→A149号堅穴建物、5号溝	大型住居の可能性有	73	72
A164・170・176・179号堅穴建物→◎		88	89
A181・183・185号堅穴建物→◎→A163号堅穴建物		88	89
A156号堅穴建物、195・203号土坑→◎→186号土坑		87	87
A190号堅穴建物→◎→A151・157・167号堅穴建物		82	83
A157・166・170・190号堅穴建物→◎→A151号堅穴建物		82	83
198号土坑→◎		88	88
A142号堅穴建物→◎→A140・141号堅穴建物、139～141・182・202号土坑、5号溝		79	80
A171・180・190号堅穴建物→◎→A113・161号堅穴建物		82	89
A181・190号堅穴建物→◎→A157・161・179号堅穴建物		82	83
◎→A109・136・193号堅穴建物		90	92
A174号堅穴建物→◎→A126・177号堅穴建物		67	65
◎→A173号堅穴建物		67	65
A149号堅穴建物→◎→A125・162号堅穴建物		81	81
A170・171・190号堅穴建物→◎→A163号堅穴建物		88	89
A173号堅穴建物→◎→A126・139号堅穴建物		67	65
◎→A120・144・173号堅穴建物	焼失家屋か	67	65
A170・171・190号堅穴建物→◎→A151・167号堅穴建物		82	83
A114・154号堅穴建物→◎→A113・181号堅穴建物		63	61
◎→A170・171・190号堅穴建物		88	89
A184号堅穴建物→◎		91	93
A181号堅穴建物→◎→A164号堅穴建物		88	89
◎→A182号堅穴建物		91	93
A181号堅穴建物→◎		88	89
◎→A109・193号堅穴建物		90	92
A129・188・189号堅穴建物→◎→A145号堅穴建物		73	72
◎→A129・188号堅穴建物		73	72
A191号堅穴建物→◎→A187号堅穴建物		73	72
◎→A170・171・179号堅穴建物		82	83
◎→B8号堅穴建物		73	72
A129号堅穴建物→◎→A137・150号堅穴建物、B9号堅穴建物		75	75
A136・172・186号堅穴建物→◎→A163・176号堅穴建物、5号土器埋設遺構		90	92
◎→172号土坑		92	94

2 竪穴建物（縄文時代）

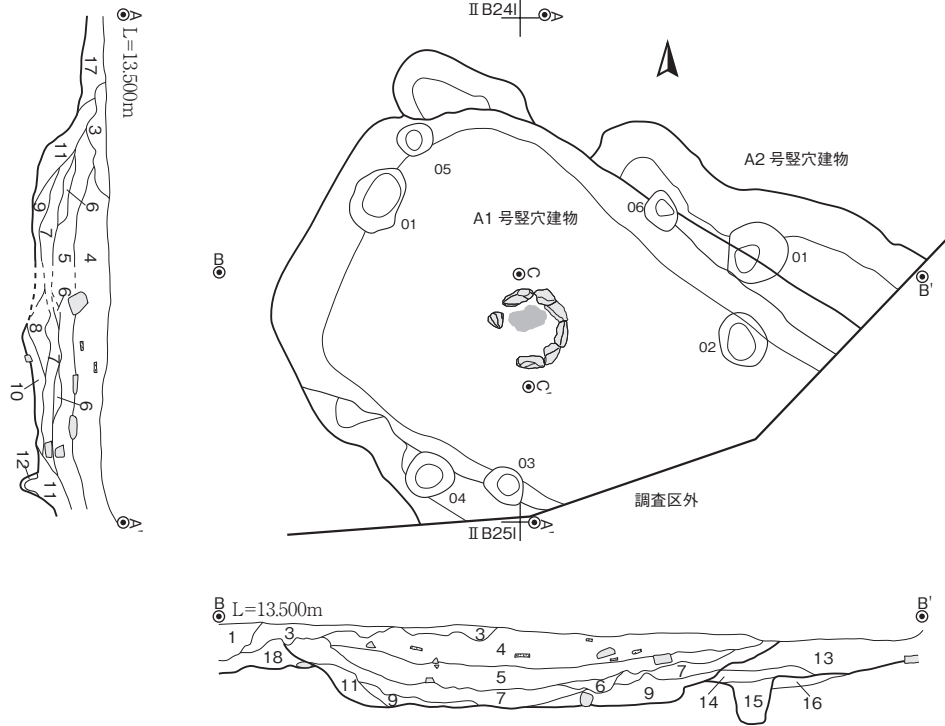
第4表 竪穴建物（縄文時代）一覧（4）

遺構名	グリッド	時期	規模(m)			炉・焼土	出土遺物重量(g)					
			長軸	短軸	深さ		土器	石器	石製品	土製品	台形	円盤
A195号竪穴建物	II B9g	中期	(2.3)	(1.6)	0.12	(無し)	426	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A196号竪穴建物	II B9a	中期中～後	(1.4)	(1.1)	0.12	地床炉×1	0.0	7.6	0.0	0.0	0.0	0.0
A197号竪穴建物	II A20e	中期中～後	2.6	2.2	0.10	石囲炉×1	1,374.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A198号竪穴建物	II A20e	中期中葉	3.2	3.2	0.30	(無し)	212.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0
A199号竪穴建物	II A21d	中期	(1.9)	(1.9)	0.08	複式炉(石組)×1	383.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A200号竪穴建物	II A19f	中期中葉	(5.9)	5.0	0.12	石囲炉×1	89.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A201号竪穴建物	II A20d	中期中～後	4.6	4.4	0.30	石囲炉×1	14,033.3	0.0	0.0	0.0	0.0	7.3
A202号竪穴建物	II A21e	中期後葉	6.2	4.7	0.41	地床炉×2	2,116.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A203号竪穴建物	II A13r	中期前～中	(6.4)	(3.4)	0.41	地床炉×1	237.2	434.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A204号竪穴建物	II A12r	中期前～中	3.5	(2.5)	0.35	(無し)	4,888.0	218.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A205号竪穴建物	II A12r	中期前～中	(4.5)	(2.0)	0.25	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A206号竪穴建物	II A14q	中期中～後	(4.5)	1.7	0.45	(無し)	3,997.9	1,481.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A207号竪穴建物	II A14q	中期中～後	(3.9)	(0.9)	0.20	(無し)	20,409.4	6,947.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A208号竪穴建物	II A12s	中期中葉	(4.3)	(3.1)	0.55	(無し)	5,749.8	240.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A209号竪穴建物	II A14s	中期中～後	3.4	(2.2)	0.80	石囲炉×1、地床炉×1	14,830.7	2,882.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A210号竪穴建物	II A14r	中期中～後	(3.5)	(1.7)	0.70	(無し)	7,441.2	89.7	0.0	0.0	0.0	0.0
A211号竪穴建物	II A15q	中期中～後	5.9	(5.0)	0.56	地床炉×2	15,090.4	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0
A212号竪穴建物	II A12s	中期前～中	(3.5)	(0.6)	0.45	(無し)	712.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A213号竪穴建物	II A14r	中期中～後	(2.2)	(2.1)	0.70	地床炉×1	28.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A214号竪穴建物	II A14r	中期中～後	(1.9)	(0.5)	0.64	(無し)	1,322.4	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0
A215号竪穴建物	II A12r	中期中葉	(3.3)	(2.5)	0.55	(無し)	1,273.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A216号竪穴建物	II A12v	中期後葉	(3.5)	(2.1)	0.60	(無し)	1,943.7	11,663.7	0.0	0.0	0.0	0.0
A217号竪穴建物	II A11u	不明	(3.4)	(1.0)	0.40	(無し)	103.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A218号竪穴建物	II A15u	中期中～後	4.0	3.5	0.20	石囲炉×1	7,193.8	8,368.2	0.0	47.3	0.0	0.0
A219号竪穴建物	II A15w	中期中～後	(4.0)	3.8	0.30	石囲炉×1	3,399.1	3,068.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A220号竪穴建物	II A16u	中期後葉	5.7	4.2	0.60	複式炉(石組・土器)×1	35,638.6	11,922.4	17.9	0.0	0.0	0.0
A221号竪穴建物	II A16v	中期中～後	6.3	(4.3)	0.60	石囲炉×1	22,480.5	5,316.4	0.0	0.0	0.0	14.5
A222号竪穴建物	II A12s	中期中葉	(1.6)	(1.3)	-	複式炉(石組・土器)×1	300.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A223号竪穴建物	II A15u	中期後葉	(5.0)	(4.2)	0.20	(無し)	6,477.0	918.7	0.0	0.0	0.0	0.0
A224号竪穴建物	II A12s	中期前～中	(4.1)	(3.0)	-	石囲炉?×1	552.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A225号竪穴建物	II A16t	中期中～後	(3.1)	2.9	0.20	(無し)	13,110.7	843.0	0.0	0.4	0.0	0.0
A226号竪穴建物	II A15u	中期中～後	3.6	2.4	0.10	石囲炉×1	477.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A227号竪穴建物	II A15p	中期前葉	4.1	(1.8)	0.82	(無し)	344.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A228号竪穴建物	II A14p	中期前～中	(5.6)	(2.0)	0.97	(無し)	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A229号竪穴建物	II A14r	中期前～中	(5.9)	(2.7)	0.92	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A230号竪穴建物	II A14q	中期中～後	3.8	(1.5)	0.65	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A231号竪穴建物	II B16f	中期中～後	(5.8)	(5.8)	0.25	石囲炉×1	18,272.7	4,804.2	0.0	0.0	0.0	14.5
A232号竪穴建物	II B16f	中期中～後	(4.9)	(4.3)	0.10	石囲炉×1		1,284.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A233号竪穴建物	II B16f	中期中～後	(5.1)	(4.8)	0.22	石囲炉×1		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A234号竪穴建物	II B16e	中期中～後	(6.2)	(5.7)	0.26	石囲炉×1		2,229.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A235号竪穴建物	II B17d	中期後～末	4.3	3.8	0.30	複式炉(石組・土坑)×1	23,865.9	2,723.8	0.0	0.0	136.2	54.9
A236号竪穴建物	II B17c	中期後～末	(5.9)	(4.4)	0.20	(無し)	790.0	4,989.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A237号竪穴建物	II B18b	中期末	(6.3)	(6.0)	0.20	(無し)	1,524.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A238号竪穴建物	II B18b	中期末	(7.2)	(6.5)	-	(無し)		1,706.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A239号竪穴建物	II B16e	中期中～後	(7.0)	(4.9)	0.43	石囲炉×1	2,090.9	337.4	0.0	0.0	0.0	10.7
A240号竪穴建物	II B16e	中期中～後	(4.7)	(4.4)	-	地床炉×1?	2,500.3	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A241号竪穴建物	II B17e	中期中～後	(5.7)	(5.7)	-	石囲炉×1	832.3	189.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A242号竪穴建物	II A20x	中期後～末	(4.9)	(4.7)	0.09	複式炉(石組)×1	497.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A243号竪穴建物	II A20x	中期後～末	(5.7)	(5.0)	-	複式炉(石組)×1	1,880.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A244号竪穴建物	II A19x	中期後葉	(4.0)	(3.7)	-	石囲炉×1	804.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A245号竪穴建物	II A19y	中期中～後	(3.6)	(3.2)	-	石囲炉×1	141.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A246号竪穴建物	II A19y	中期中～後	(3.8)	(3.8)	-	石囲炉×1	524.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A247号竪穴建物	II A19y	中期中～後	(3.4)	(2.9)	-	石囲炉×1	228.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A248号竪穴建物	II A18x	中期中～後	(3.6)	(3.2)	-	石囲炉×1	1,966.8	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A249号竪穴建物	II A17x	中期中～後	(4.8)	(4.2)	-	石囲炉×1	1,292.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A250号竪穴建物	II A17y	中期中～後	(5.2)	(4.9)	-	石囲炉×1	355.4	876.6	0.0	0.0	0.0	0.0
A251号竪穴建物	II B18c	中期後～末	(3.9)	(3.6)	-	石囲炉×1	1,147.6	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5
A252号竪穴建物	II B18d	中期中～後	(3.2)	(3.2)	-	石囲炉×1	990.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A253号竪穴建物	II B17d	中期中～後	(3.2)	(3.2)	-	石囲炉×1	182.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

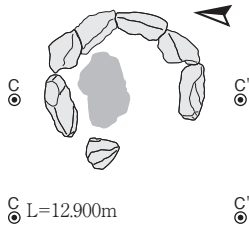
他遺構との重複関係(右側が新しい)	備考	本文 頁	平面 No.
◎→29・114・116・117号土坑	建て替え・拡張の可能性有	92	94
A158号堅穴建物→◎→A127・151・167号堅穴建物		93	94
A198号堅穴建物→◎	焼失家屋か、炭化材年代測定・樹種同定(第VI章第1・3節)	93	94
◎→A197号堅穴建物		93	94
(無し)		94	95
◎→A198号堅穴建物		94	96
(無し)		94	95
◎→226号土坑		95	97
◎→11号溝		95	98
A205号堅穴建物、237号土坑→◎→A215号堅穴建物	A203号堅穴建物との新旧関係は不明	95	98
A208・224号堅穴建物→◎→A204・215号堅穴建物、B18号堅穴建物、11号溝	A215号堅穴建物との新旧関係は不明	95	98
A228・229号堅穴建物→◎→A207号堅穴建物		97	100
A206・211・229・230号堅穴建物→◎		97	100
A212・222・224号堅穴建物、236号土坑→◎→A205号堅穴建物、B18号堅穴建物、11号溝		95	98
A213・214号堅穴建物→◎		99	102
◎→A213・214号堅穴建物、234号土坑		99	102
A229号堅穴建物→◎→A230号堅穴建物、248号土坑	埋設土器×1(炉使用以前に埋め込み)	97	100
◎→A208号堅穴建物、11号溝		95	98
A214号堅穴建物→◎→A209号堅穴建物		99	102
A210号堅穴建物→◎→A209・213号堅穴建物、234号土坑		99	102
A204・205号堅穴建物、237号土坑→◎		95	98
◎→206号土坑、13号溝	A114号堅穴建物との新旧関係は不明	101	103
204号土坑→◎→B21号堅穴建物		101	103
A219号堅穴建物→◎→A220号堅穴建物		102	104
A221号堅穴建物→◎→A218号堅穴建物		102	104
A218号堅穴建物→◎	建て替え・拡張	102	104
◎→A218・219・220号堅穴建物、238・247号土坑、P4090	建て替え・拡張	102	104
A224号堅穴建物→◎→A208号堅穴建物、B18号堅穴建物		95	98
◎→A220・226号堅穴建物	A226号堅穴建物の柱穴との判別困難なもの多く一括で計測	102	104
◎→A205・208・222号堅穴建物	炉と溝周辺のみ検出、炉石抜き取り	95	98
◎→A223号堅穴建物		101	103
A223号堅穴建物→◎→22号炉		102	104
249号土坑→◎	A228号堅穴建物との新旧関係は不明	97	100
◎→A206号堅穴建物、252・253号土坑	A227号堅穴建物との新旧関係は不明	97	100
◎→A206・207・211・230号堅穴建物		97	100
A211・229号堅穴建物→A206・207号堅穴建物		97	100
A232・233・234・239号堅穴建物、294・296・309号土坑→◎→307号土坑	308号土坑との新旧関係は不明、床面施設出土土器886.0g	104	107
A233・234・239号堅穴建物、294・296・309号土坑→◎→A231号堅穴建物、307号土坑	床面施設出土土器389.8g	104	107
A234号堅穴建物、294・296・309号土坑→◎→A231・232号堅穴建物、307号土坑	床面施設出土土器106.5g	104	107
A240号堅穴建物、294・304号土坑→◎→A231～233・239号堅穴建物、306・307・309号土坑	308・310号土坑との新旧関係は不明、建て替え・拡張、床面施設出土土器163.7g	104	107
◎→A236号堅穴建物、282・302・305号土坑	A251・253号堅穴建物との新旧関係は不明	107	110
A235号堅穴建物、302号土坑→◎→A237・238号堅穴建物、282号土坑	北西壁に石列、建て替え・拡張、A251号堅穴建物との新旧関係は不明	107	110
A236・251号堅穴建物→◎→A238号堅穴建物	北西壁に石列、255・256・257号土坑と14号溝との新旧関係は不明	107	110
A236・237・251号堅穴建物→◎	北西壁に石列、A237号堅穴建物の造り替えか	107	110
A234・240号堅穴建物、304号土坑→◎→A231・232号堅穴建物、301・306・307号土坑	A233号堅穴建物と297・310号土坑との新旧関係は不明	104	107
◎→A231・234・239号堅穴建物、301・304・306号土坑	297・310号土坑との新旧関係は不明	104	107
310号土坑→◎→A234号堅穴建物	A240号堅穴建物・310号土坑との新旧関係は不明	109	113
A243号堅穴建物→◎	259・262号土坑との新旧関係は不明	110	114
◎→A242号堅穴建物	259・262号土坑との新旧関係は不明	110	114
A245・247号堅穴建物→◎		111	115
A246号堅穴建物→◎→A244号堅穴建物	A247号堅穴建物との新旧関係は不明	111	115
A247号堅穴建物→◎→A245号堅穴建物、311号土坑		111	115
283号土坑→◎→A244・246号堅穴建物		111	115
A249号堅穴建物→◎→289号土坑		112	116
288・292号土坑→◎→A248号堅穴建物		112	116
285号土坑→◎	17・18号溝との新旧関係は不明	112	116
◎→A236・237・238号堅穴建物	A235・252号堅穴建物との新旧関係は不明	107	110
◎→A251号堅穴建物		107	110
◎→A235号堅穴建物、299号土坑	A241号堅穴建物との新旧関係は不明	109	113

2 竪穴建物（縄文時代）

A1・2号竪穴建物



A1号竪穴建物炉



L=12.900m

A1・2号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1. 10YR2/1 黒色シルト しまりやや密、粘性やや強 混和物ほとんど無し
 2. 10YR3/3 暗褐色粘質シルト 粘性やや強 湧水地点に近い低位部に堆積
 3. 10YR2/1-2/2 黒～黒褐色シルト しまりやや密、炭・真砂土微量、土器細片出土 4層より黒い
 4. 10YR3/3 暗褐色シルト しまりやや強 炭・真砂土微量、褐色ブロック少量、土器細片出土
 5. 10YR3/1-2/2 黒褐色シルト 粘性やや強 炭・焼土微量、真砂土極微量 本層上面に土器等集中廃棄 焼土生成（南東部に顕著）
 6. 7.5YR3/2-3/3 黒褐～暗褐色粘質シルト 粘性強 炭微量、焼土やや多い
 7. 10YR3/1-2/2 黒褐色シルト 粘性やや強 5層に類似
 8. 10YR3/2-4/2 黒褐～灰黄褐色砂質シルト しまりやや疎、粘性やや強 炭極微量
 9. 10YR3/3 暗褐色粘質シルト 地山砂含む
 10. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや強 9層より黒い
 11. 10YR3/3-4/3 暗褐～にぶい黄褐色砂 壁面崩落土
 12. 10YR4/4-5/6 褐～黄褐色砂 地山土を使用した掘り方埋土
 13. 10YR3/3 暗褐色シルト
 14. 10YR2/2-3/2 黒褐色シルト 炭微量 13層より黒い
 15. 10YR3/3 暗褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強 A2号竪穴建物P01堆積土
 16. 7.5YR3/3-3/4 暗褐色砂 しまりやや疎、粘性弱 地山土を使用した床面構築土
 17. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり密 11層に似るが真砂土多い
 18. 10YR2/2 黒褐色シルト しまり密 真砂土少量 地山砂礫層の上位に堆積する層
- ※4～12層がA1号竪穴建物、13～16層がA2号竪穴建物堆積土

A1号竪穴建物炉 (C-C')

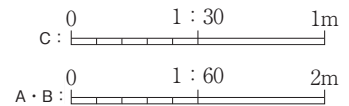
1. 10YR2/3 黒褐色粘質シルト しまりやや密、粘性強
2. 7.5YR3/4-4/3 暗褐～褐色粘質シルト しまりやや密、粘性強 現地性焼土だが熟変成弱い
3. 10YR2/2-3/3 黒褐～暗褐色粘質シルト 粘性やや強 炉石掘り方埋土

A1号竪穴建物

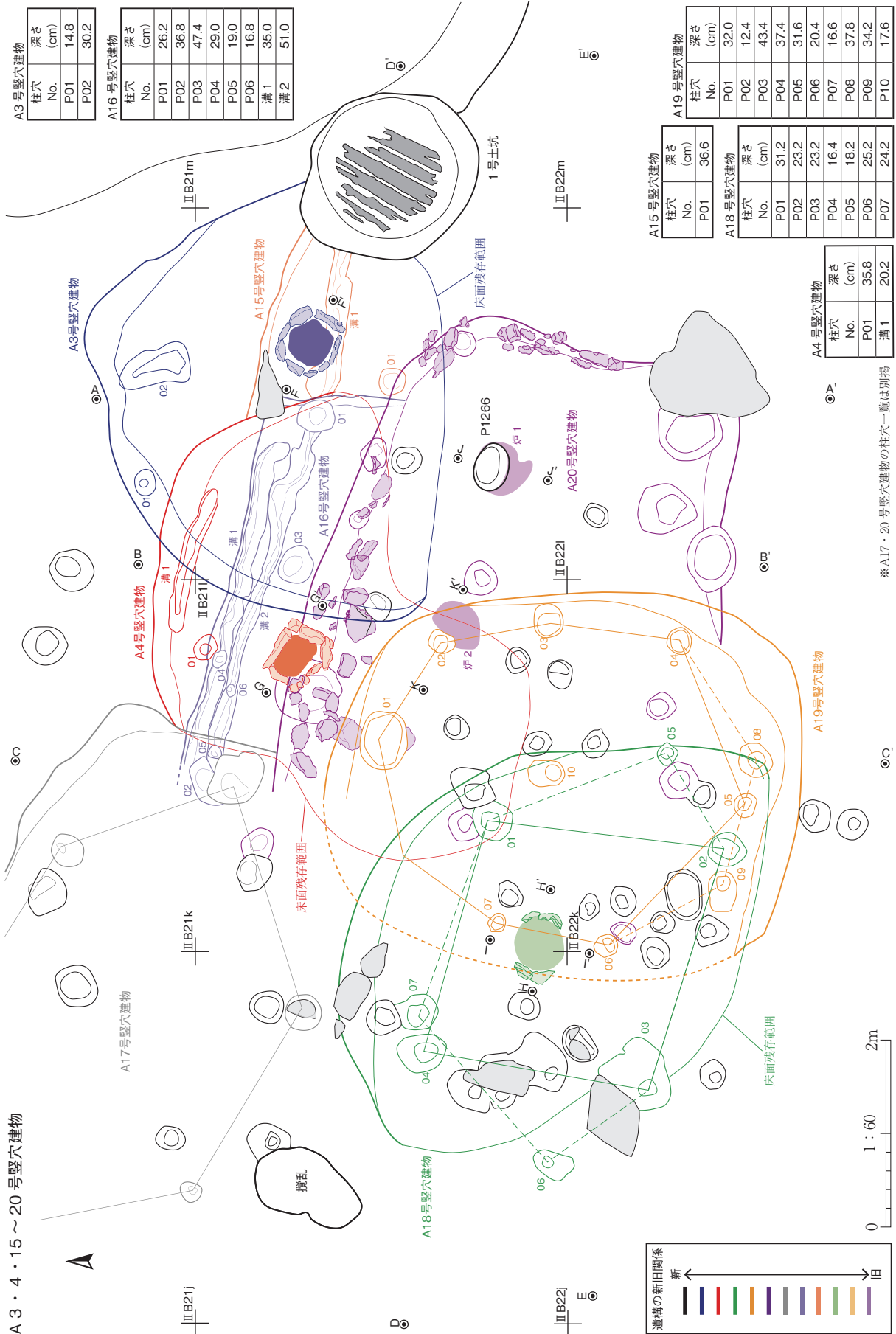
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	36.8
P02	18.7
P03	19.9
P04	32.0
P05	20.6
P06	49.0

A2号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	74.4

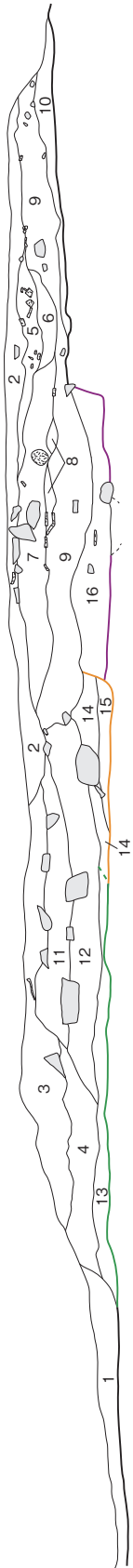


第13図 A1・2号竪穴建物

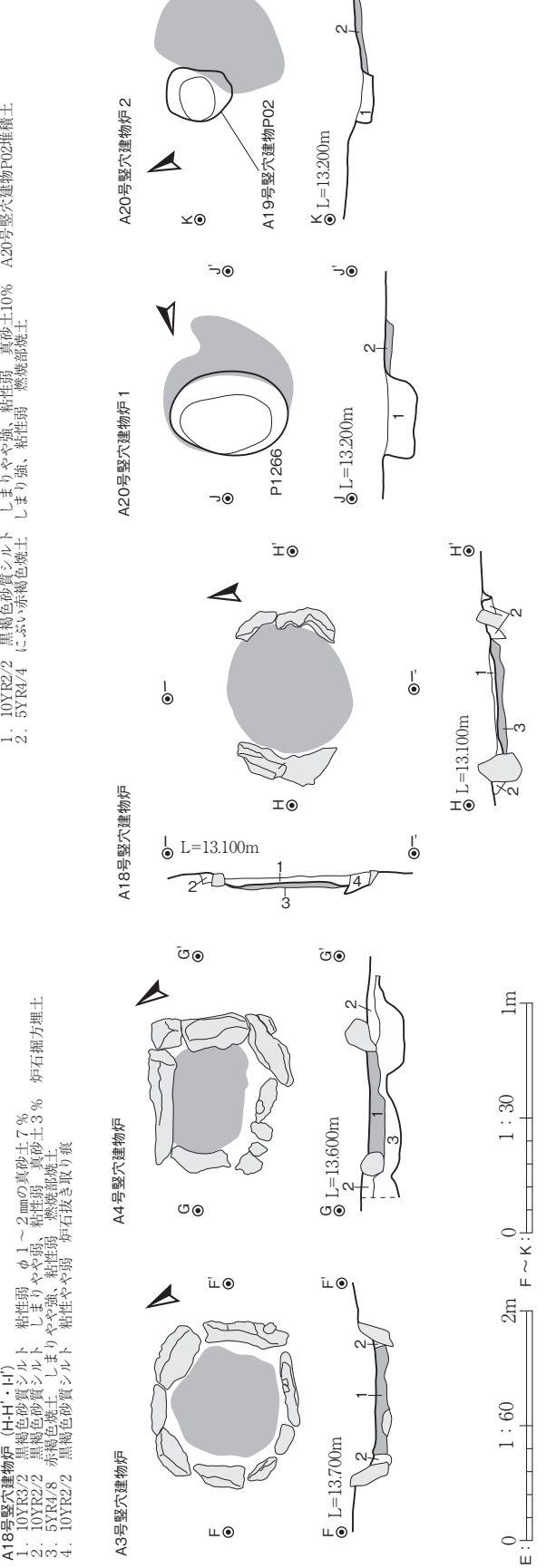


第14図 A3・4・15～20号竪穴建物(1)

E' ⑥ L=14,200m



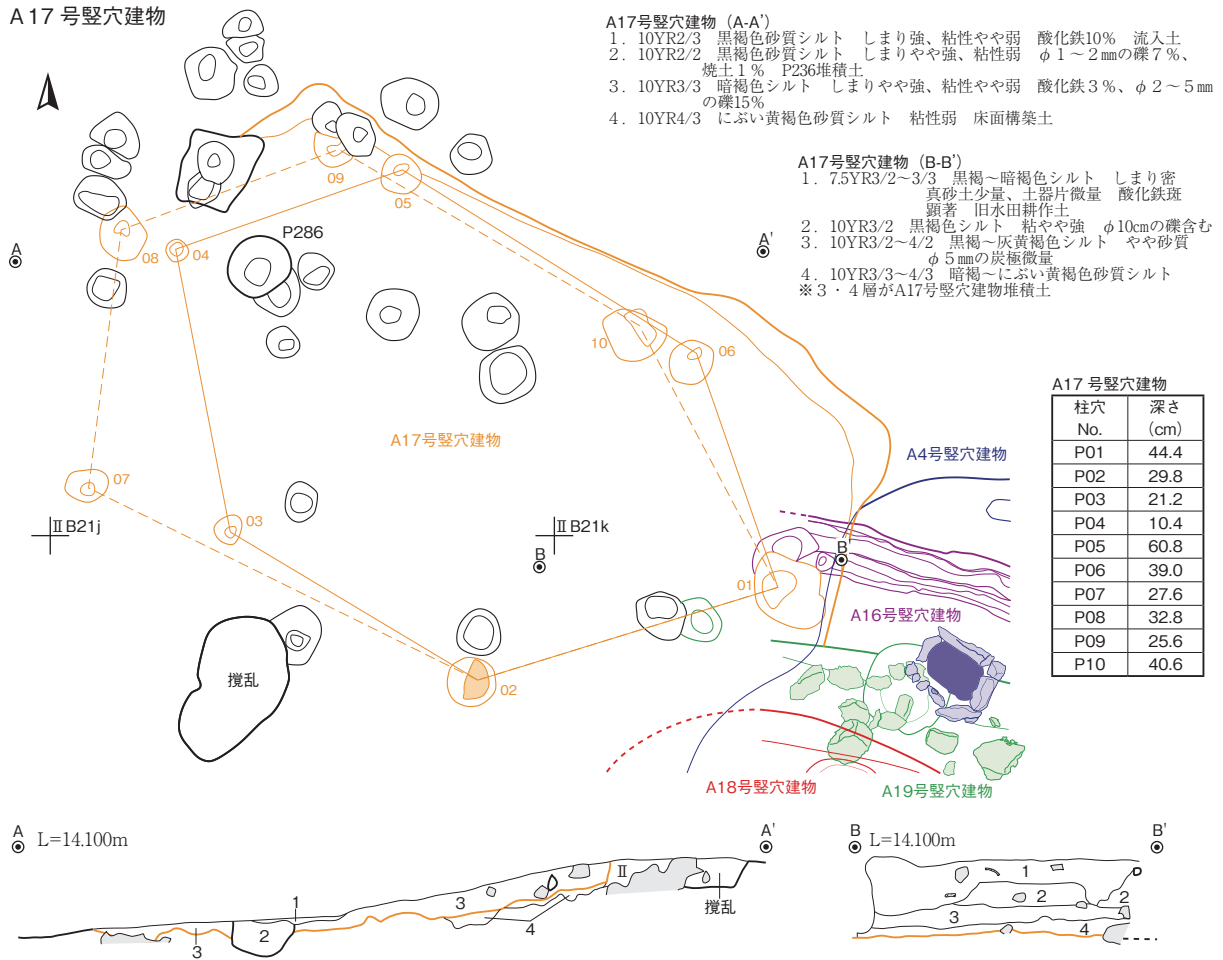
- A3・4・18・19・20号竪穴建物 (D-D')**
- 73YR3/3 暗褐色シルト = A断面4層、B・C断面1層、E断面7層
 - 10YR2/4~3/2 黒~黒褐色粘質シルト 3層に似る粘土器片等遺物少ない、わずかに酸化斑みられる
 - 10YR2/1~2/2 黒~黒褐色粘質シルト 粘性強、小礫少量、7層に類似
 - 10YR3/2 黒褐色シルト = A断面5層、E断面8層、粘性強、小礫少量、7層に類似
 - 10YR2/2~3/3 黒褐色粘質シルト = A断面6層、B断面5層
 - 10YR2/2 黒褐色粘質シルト = C断面4層
 - 10YR3/3~4/3 暗褐色粘質シルト = C断面5層
 - 10YR3/3~4/3 暗褐色粘質シルト 粘性やや強、地山砂、粘土含み全体重味
 - 10YR3/3~4/3 暗褐色粘質シルト = C断面10層
 - 10YR3/3~4/3 暗褐色粘質シルト 真砂土、小礫少量、炭燻微量
 - 10YR3/3~4/3 暗褐色粘質シルト = A断面10層、B断面7層、C断面13層、E断面16層
 - 10YR3/2~4/3 黒褐色粘質シルト = A断面10層、B断面7層、C断面13層、E断面16層
- ※5層がA3号竪穴建物、7層がA4号竪穴建物、8層がA18号竪穴建物、9・10層がA19号竪穴建物、11層がA20号竪穴建物堆積土
- A3号竪穴建物 (F-F')**
- 5YR3/4 暗赤褐色シルト、粘性やや強、真砂土微量、炭燻部焼土、上部弱く赤変
 - 10YR2/3 黒褐色シルト、しまりやや密、真砂土微量、好石掘方埋土
- A4号竪穴建物 (G-G')**
- 5YR4/3~4/4 暗赤褐色シルト 焼土、粘性やや強、上面硬化認められない、赤変強い
 - 10YR3/3 暗褐色粘質シルト、しまりやや密、上面床面、床面に褐色斑状に分布
 - 10YR2/3~3/3 暗褐色粘質シルト、粘性やや強、炭化物点在し、黒味強い、A16号竪穴建物堆積土
- A18号竪穴建物 (H-H')**
- 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 粘性弱、φ1~2mmの真砂土7%
 - 10YR2/2 黒褐色粘質シルト、しまりやや弱、粘性弱、炭燻部焼土
 - 5YR4/8 赤褐色粘土、しまりやや強、粘性弱
 - 10YR2/2 黒褐色粘質シルト、粘性やや弱、好石抜き取り裏
- A18号竪穴建物 (J-J')**
- 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、しまりやや強、粘性やや弱、炭燻部焼土
 - 5YR4/6 赤褐色粘土、しまりやや強、粘性弱
- A20号竪穴建物 (K-K')**
- 10YR2/2 黒褐色粘質シルト、しまりやや強、粘性弱、真砂土10%
 - 5YR4/4 赤褐色粘土、しまり強、粘性弱、炭燻部焼土
- ※13層がA18号竪穴建物、14・15層がA19号竪穴建物、16層がA20号竪穴建物堆積土



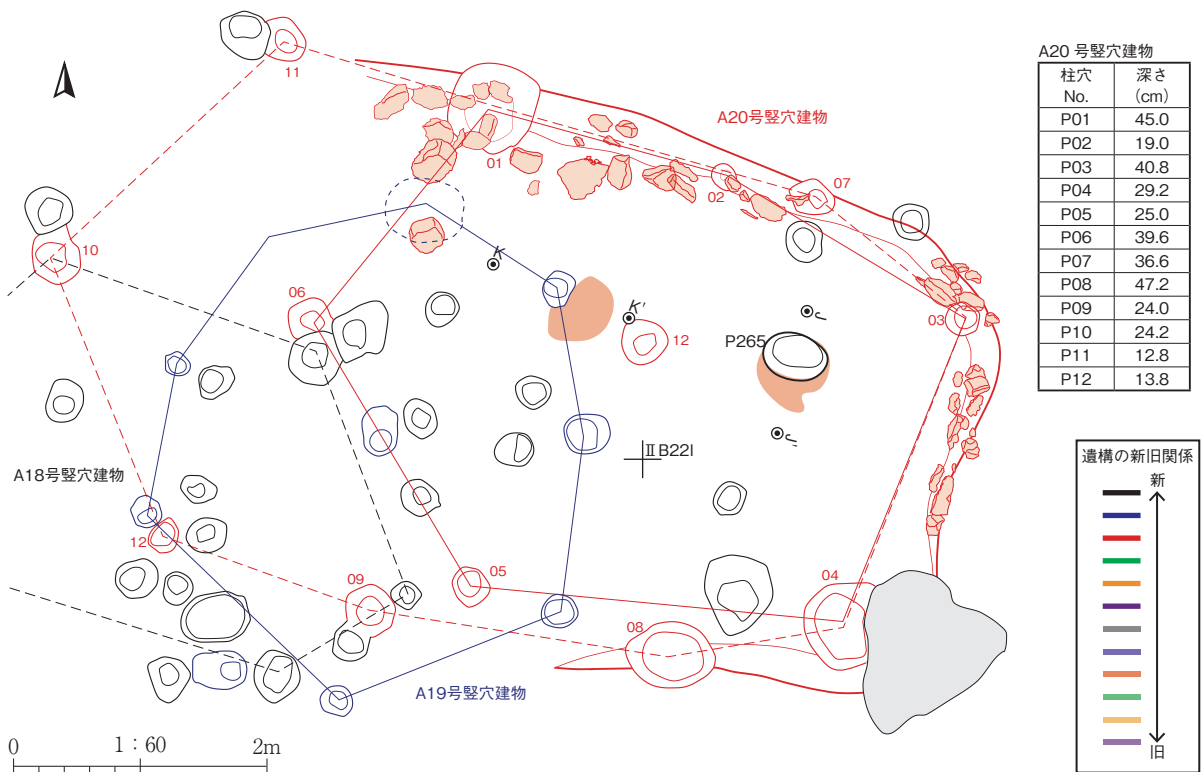
第16図 A3・4・15~20号竪穴建物(3)

2 竪穴建物（縄文時代）

A17号竪穴建物

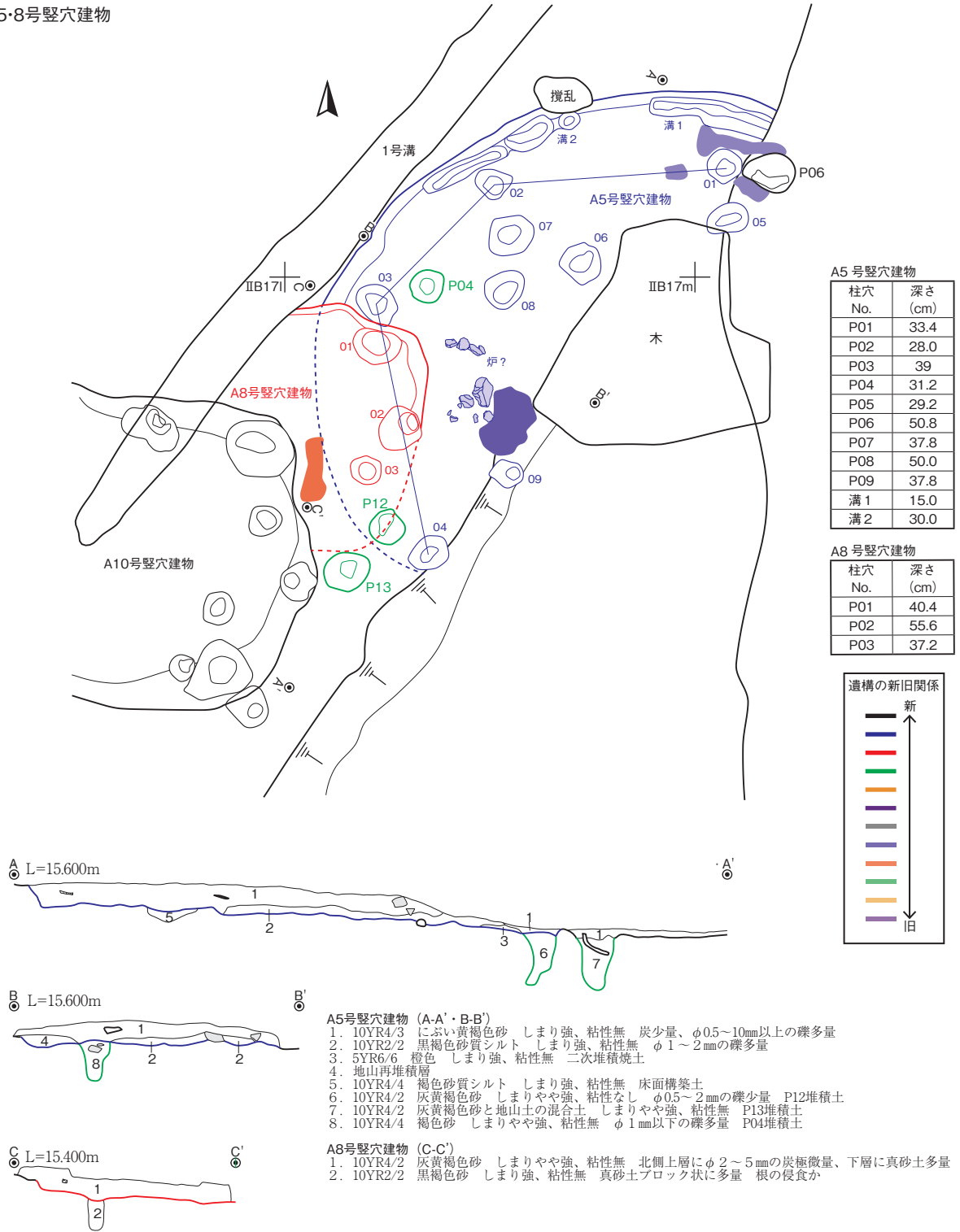


A20号竪穴建物

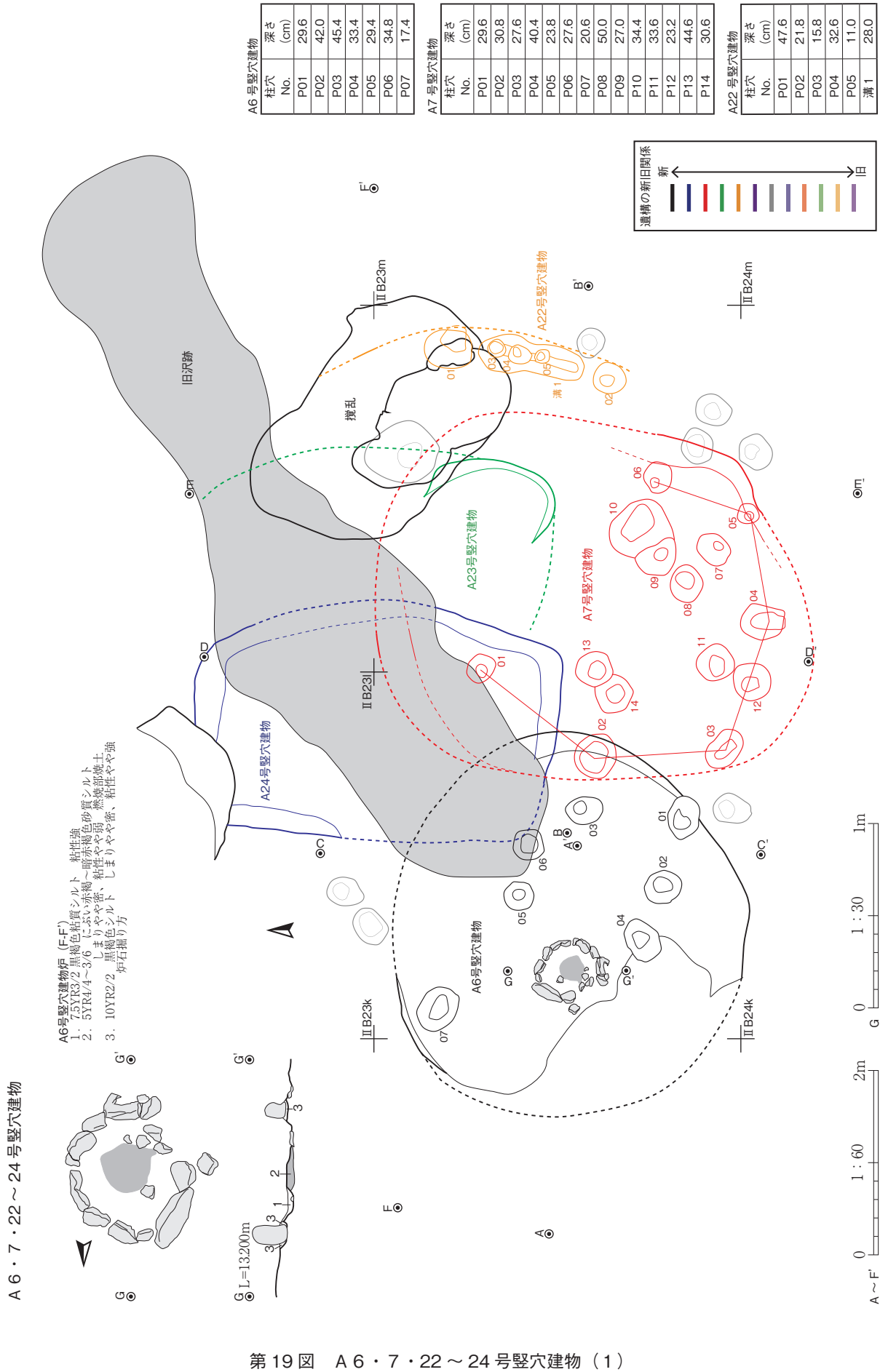


第17図 A3・4・15~20号竪穴建物(4)

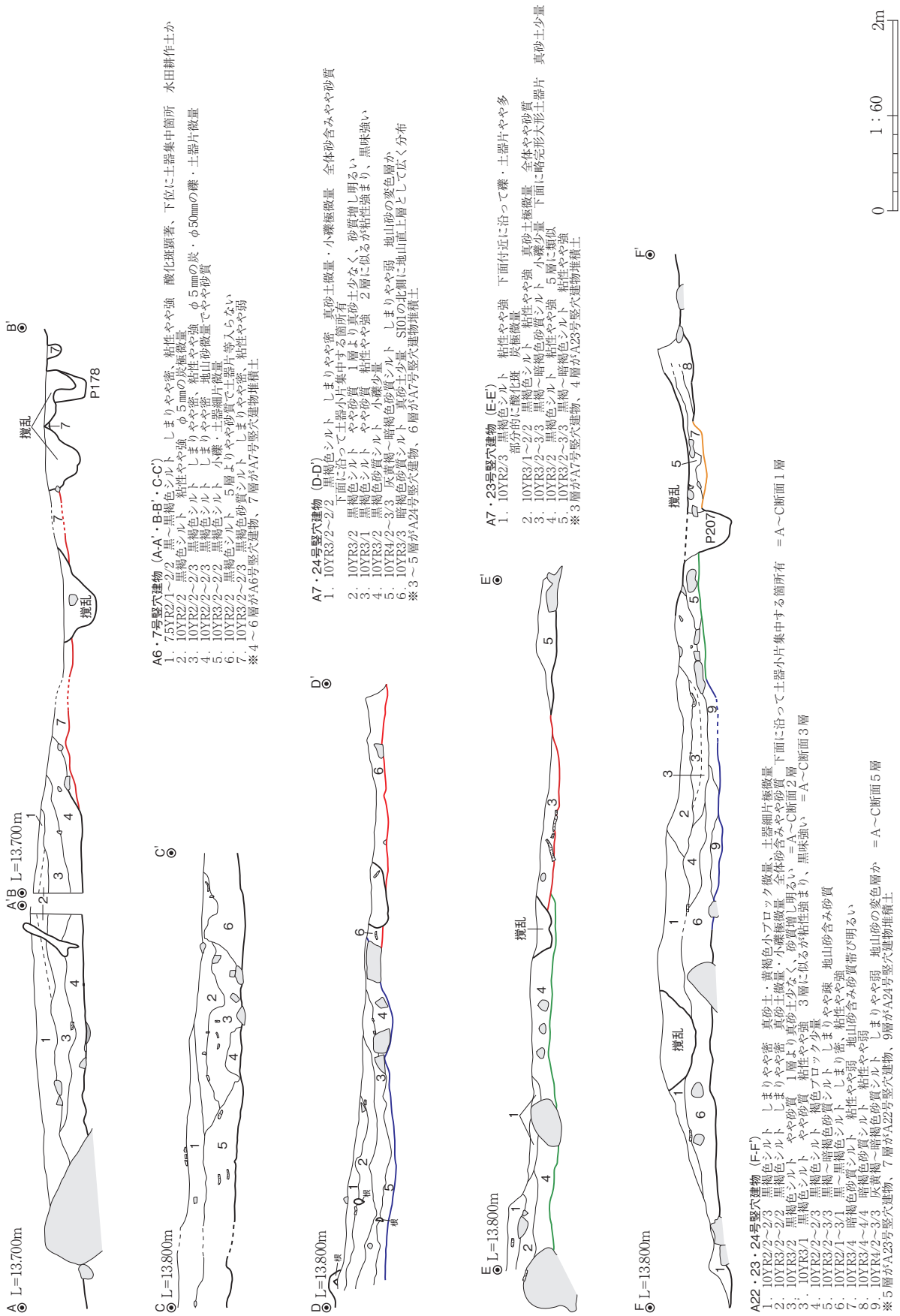
A5・8号竪穴建物



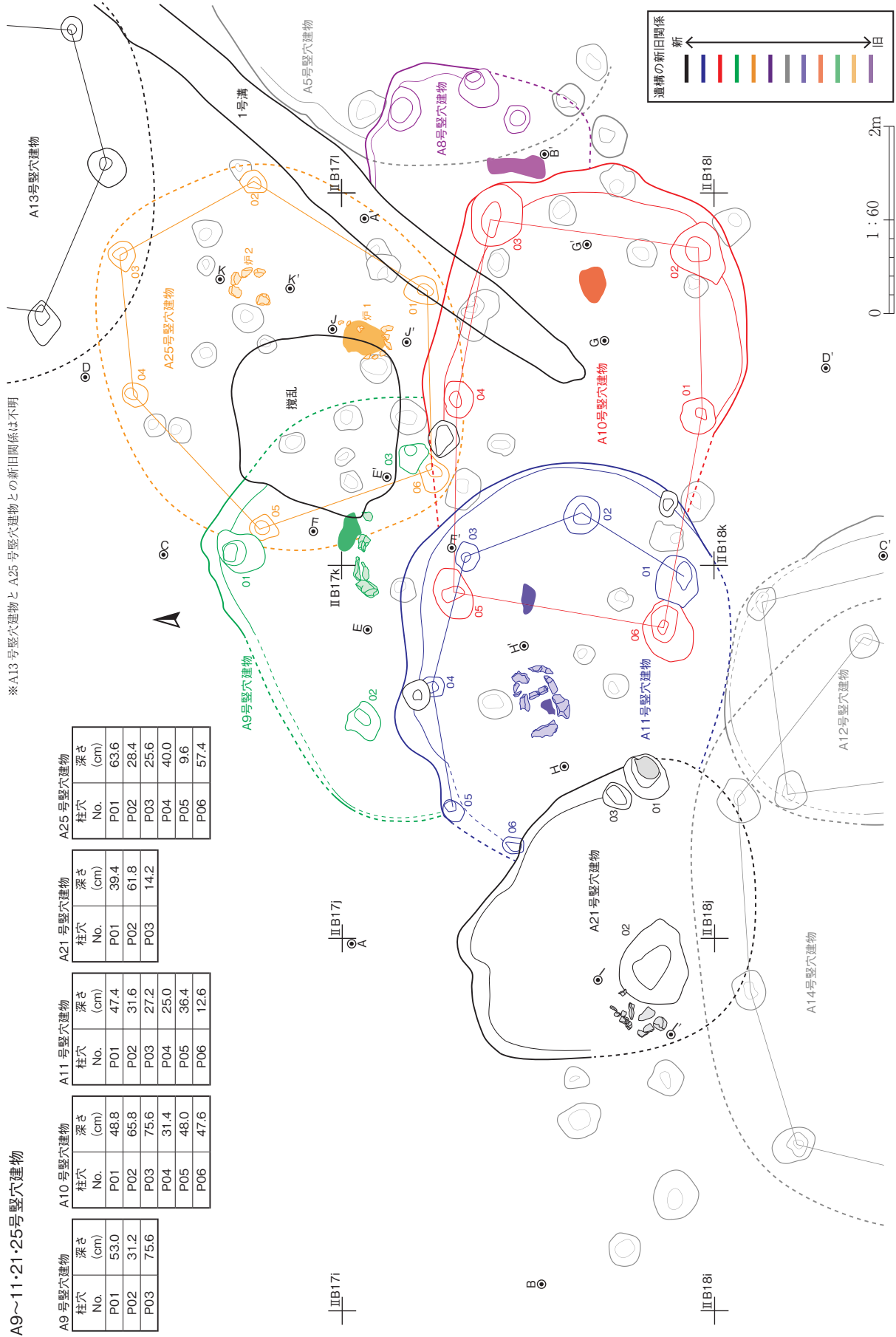
第 18 図 A5・8号竪穴建物



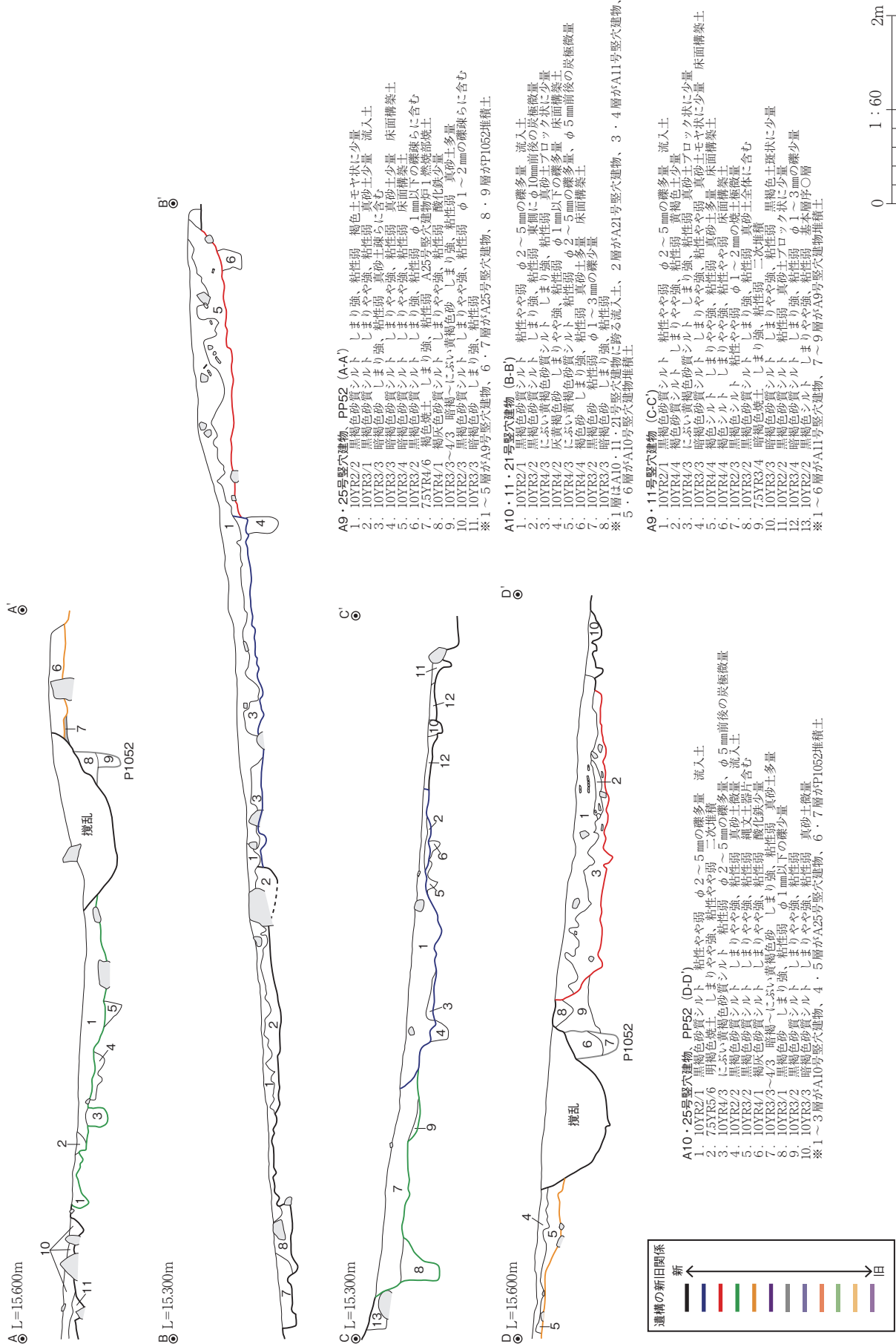
第19図 A 6・7・22 ~ 24号竖穴建物 (1)



第20図 A6・7・22~24号竪穴建物(2)

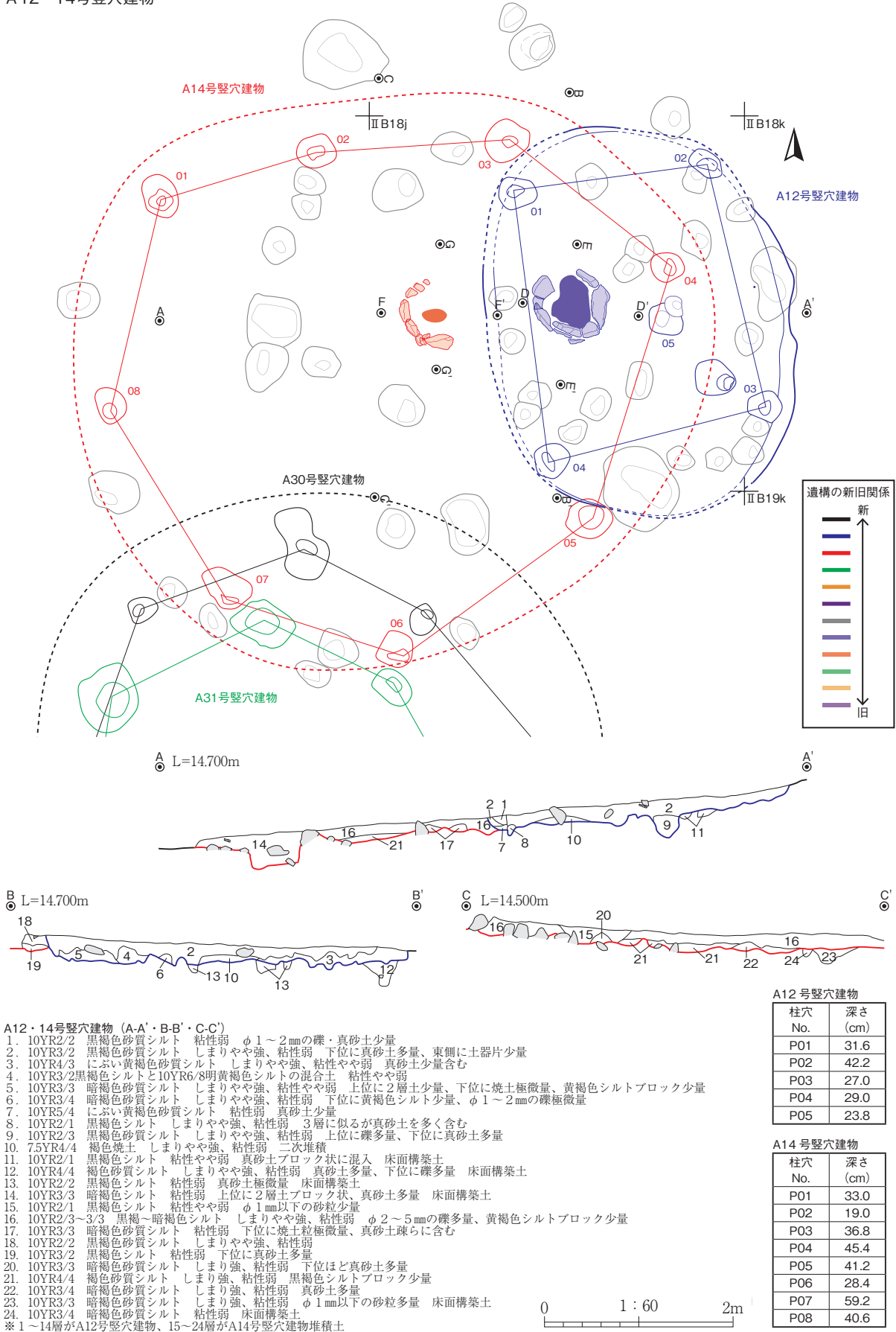


第21図 A9～11・21・25号竖穴建物（1）



第22図 A9~11・21・25号竪穴建物(2)

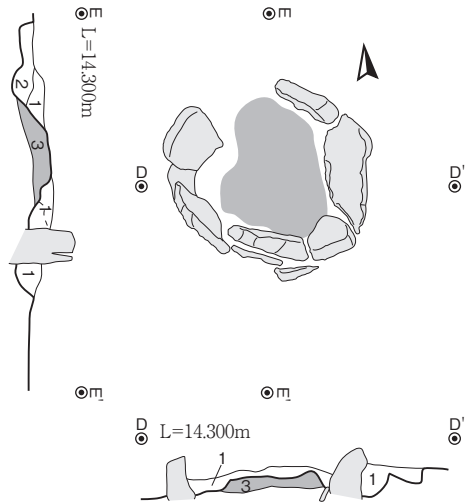
A12・14号竪穴建物



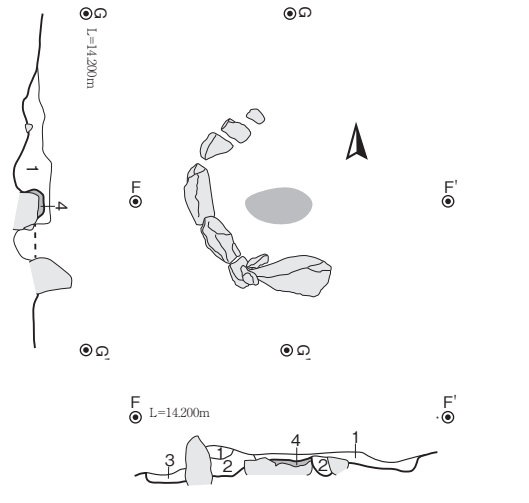
第24図 A12・14号竪穴建物(1)

2 竪穴建物（縄文時代）

A12号竪穴建物炉



A14号竪穴建物炉

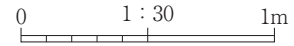


A12号竪穴建物炉 (D-D'・E-E')

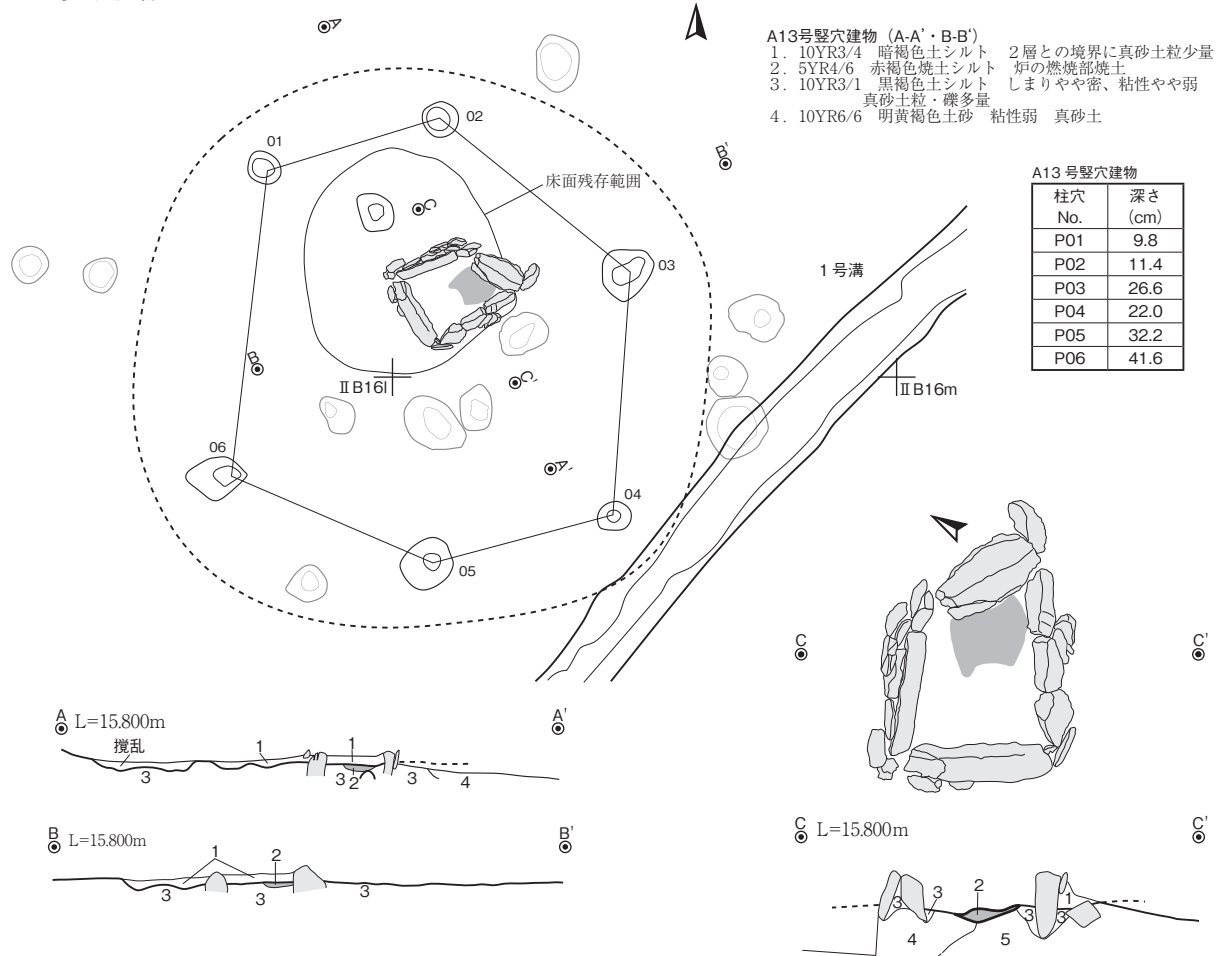
1. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト しまりやや強、粘性やや弱 φ5~10mmの黄褐色シルト1%、φ1mmの真砂土粒10%
2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 φ1mm以下の真砂土粒5%
3. 7.5YR4/4 褐色焼土 しまりやや強、粘性弱 焼土部焼土 被熱弱い 1層土を斑状に5%

A14号竪穴建物炉 (F-F'・G-G')

1. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性やや弱 φ2~5mmの真砂土粒30%
2. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまりやや強、粘性やや弱 φ1~2mmの礫15%、φ1mm以下の真砂土粒25%
3. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱 φ1mm以下の真砂土粒15%
4. 5YR3/4 暗赤褐色焼土 しまりやや強、粘性弱 焼土部焼土だが遺存状況不良



A13号竪穴建物

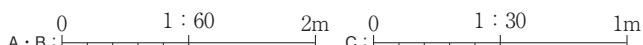


A13号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1. 10YR3/4 暗褐色土シルト 2層との境界に真砂土粒少量
2. 5YR4/6 赤褐色焼土シルト 炬の焼土部焼土
3. 10YR3/1 黒褐色土シルト しまりやや密、粘性やや弱 真砂土粒・礫多量
4. 10YR6/6 明黄褐色土砂 粘性弱 真砂土

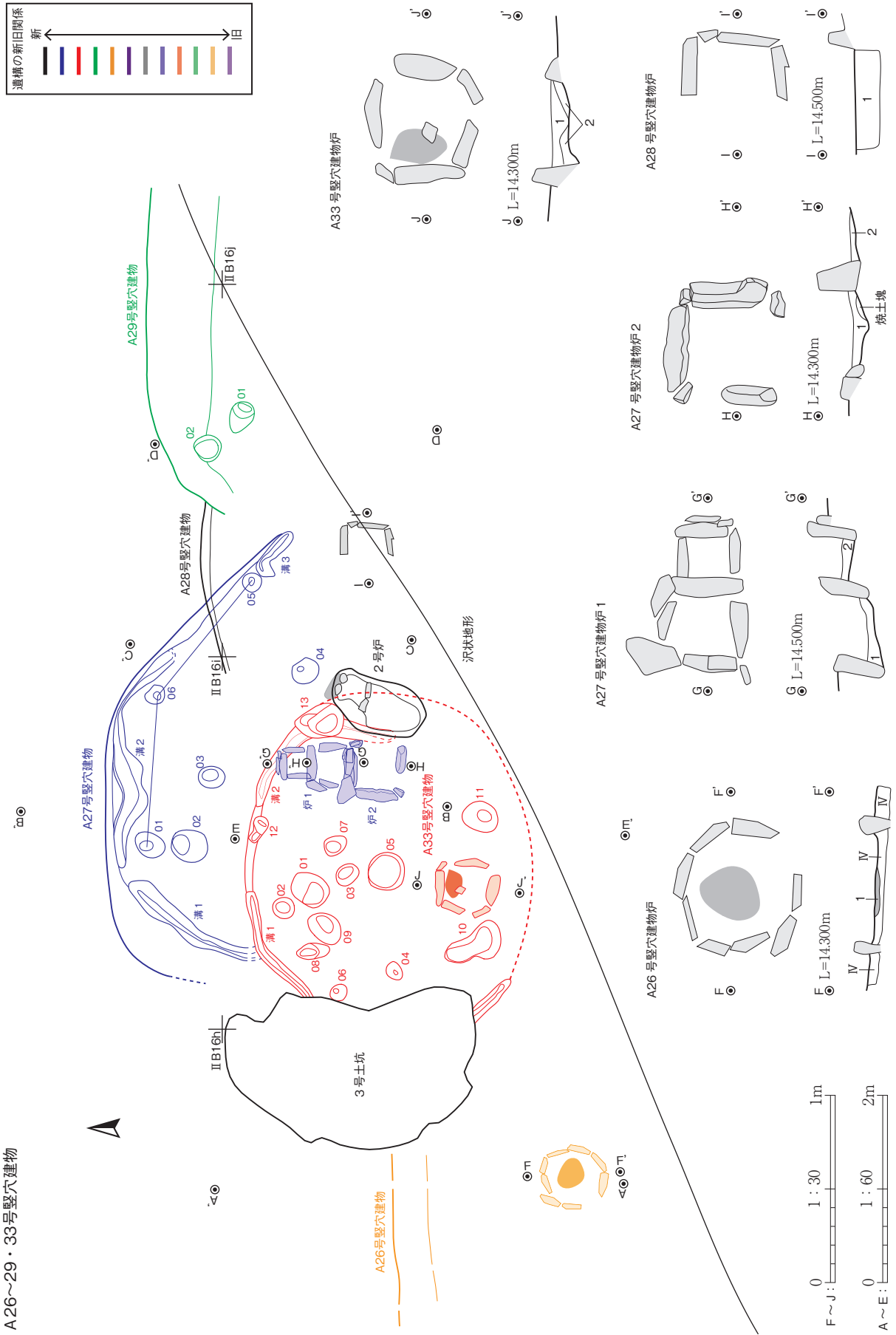
A13号竪穴建物炉 (C-C')

1. 10YR2/2~2/3 黒褐色シルト
2. 5YR4/6 赤褐色シルト焼土 焼土部焼土
3. 10YR2/3 黒褐色砂質シルト しまりやや密 炬石の掘り方
4. 10YR2/1 黒色シルト しまりやや密 真砂土少量含む雨状の古い沢
5. 10YR4/6~5/4 褐~黄褐色粗砂 真砂土層 地山



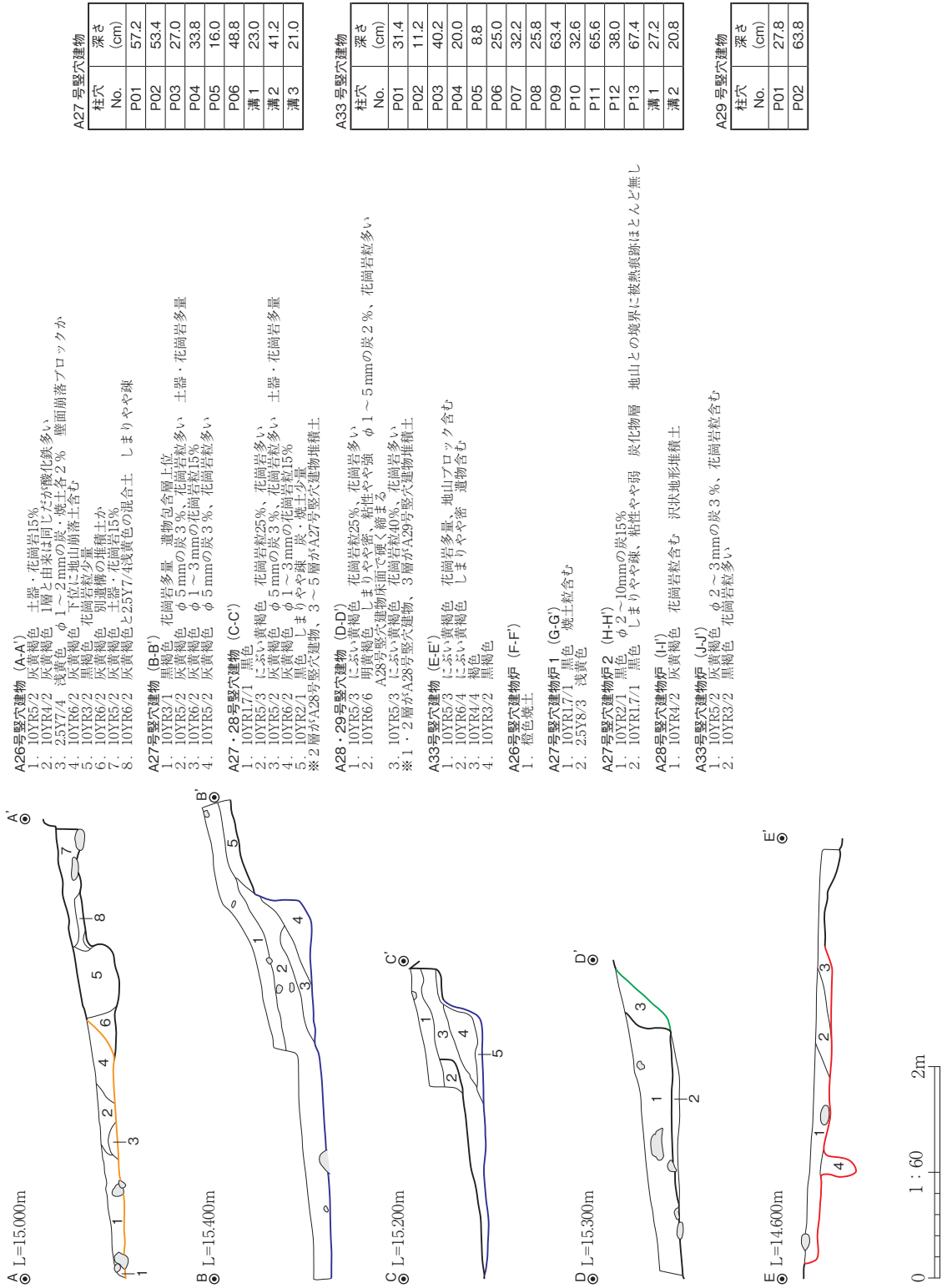
第25図 A12・14号竪穴建物(2)、A13号竪穴建物

A26~29・33号竪穴建物



第26図 A26~29・33号竪穴建物(1)

2 竖穴建物（縄文時代）



- A26号竖穴建物 (A-A')**
1. 10YR5/2 灰黄褐色 土器・花崗岩15%
 2. 10YR4/2 灰黄褐色 1層と由来は同じだが酸化鉄多い
 3. 25Y7/4 浅黄色 φ1~2mmの炭・焼土各2% 壁面崩落ブロックか
 4. 10YR6/2 灰黄褐色 下位に崩山前落土含む
 5. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒少量
 6. 10YR6/2 灰黄褐色 別遺構の堆積土か
 7. 10YR5/2 灰黄褐色 土器・花崗岩15%
 8. 10YR6/2 灰黄褐色と25Y7/4浅黄色の混合土 しまりやや疎
- A27号竖穴建物 (B-B')**
1. 10YR3/1 黒褐色 花崗岩多量 遺物包含層上位
 2. 10YR5/2 灰黄褐色 φ5mmの炭3% 花崗岩粒多い
 3. 10YR6/2 灰黄褐色 φ1~3mmの花崗岩粒15%
 4. 10YR5/2 灰黄褐色 φ5mmの炭3%、花崗岩粒多い
- A27・28号竖穴建物 (C-C')**
1. 10YR1/1 黒色 花崗岩粒25%、花崗岩多い
 2. 10YR5/3 に近い黄褐色 φ5mmの炭3%、花崗岩粒多い
 3. 10YR6/2 灰黄褐色 φ1~3mmの花崗岩粒15%
 4. 10YR2/1 黒色 しまりやや疎 炭・焼土少量
- ※2層がA28号竖穴建物、3~5層がA27号竖穴建物堆積土。
- A28・29号竖穴建物 (D-D')**
1. 10YR5/3 に近い黄褐色 花崗岩粒25%、花崗岩多い
 2. 10YR6/6 明黄褐色 しまりやや密 粘性やや強 φ1~5mmの炭2%、花崗岩粒多い
 3. 10YR5/3 に近い黄褐色 花崗岩粒40% 花崗岩多い
- ※1・2層がA28号竖穴建物、3層がA29号竖穴建物堆積土。
- A33号竖穴建物 (E-E')**
1. 10YR5/3 に近い黄褐色 花崗岩多量、地山ブロック含む
 2. 10YR6/4 に近い黄褐色 しまりやや密 遺物含む
 3. 10YR3/4 緑色
 4. 10YR3/2 黒褐色
- A26号竖穴建物炉 (F-F')**
1. 褐色焼土
- A27号竖穴建物炉1 (G-G')**
1. 10YR1/1 黒色 焼土粒含む
 2. 25Y8/3 浅黄色
- A27号竖穴建物炉2 (H-H')**
1. 10YR2/1 黒色 φ2~10mmの炭15%
 2. 10YR1/1 黒色 しまりやや疎、粘性やや弱 炭化物層 地山との境界に被熱痕跡ほとんど無し
- A28号竖穴建物炉 (I-I')**
1. 10YR4/2 灰黄褐色 花崗岩粒含む 沢状地形堆積土
- A33号竖穴建物炉 (J-J')**
1. 10YR5/2 灰黄褐色 φ2~3mmの炭3%、花崗岩粒含む
 2. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒多い

A27号竖穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	57.2
P02	53.4
P03	27.0
P04	33.8
P05	16.0
P06	48.8
溝1	23.0
溝2	41.2
溝3	21.0

A33号竖穴建物

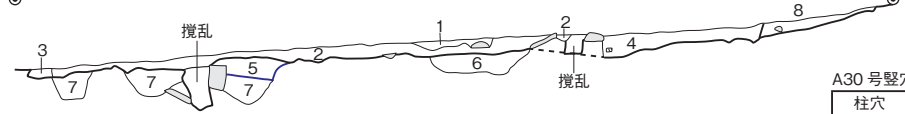
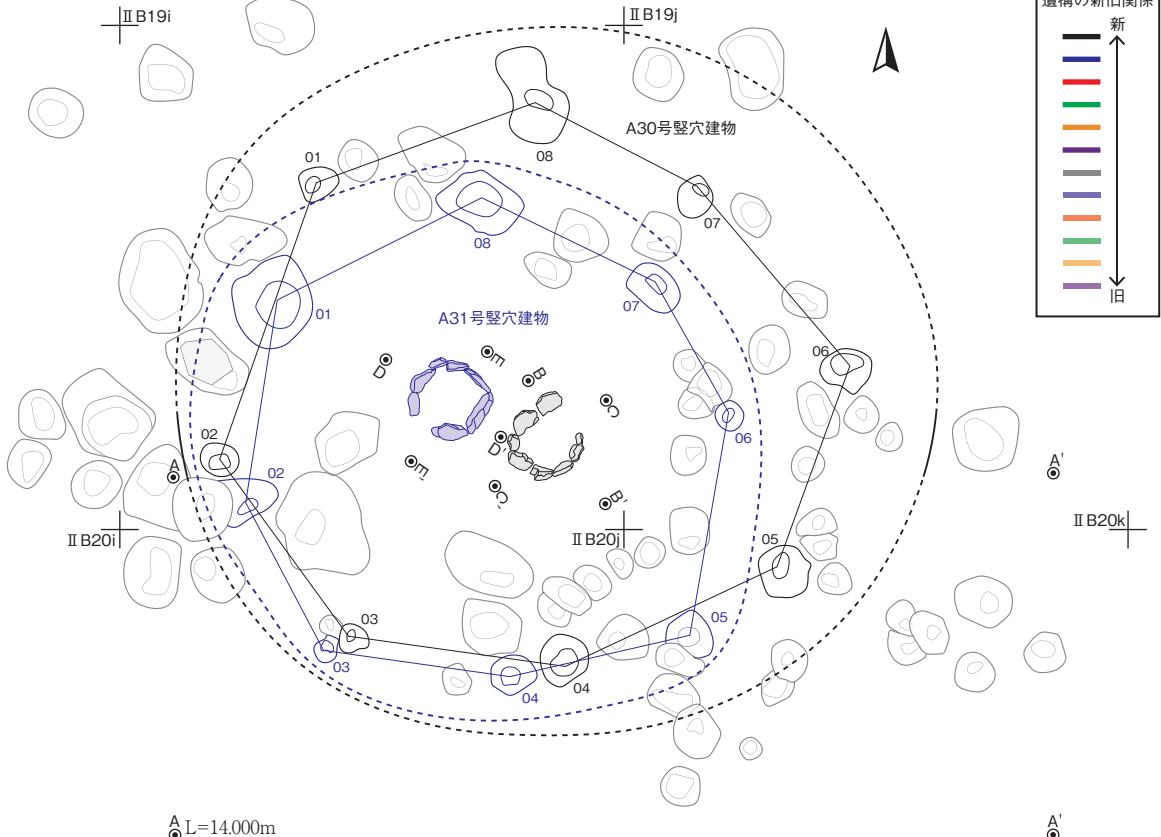
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	31.4
P02	11.2
P03	40.2
P04	20.0
P05	8.8
P06	25.0
P07	32.2
P08	25.8
P09	63.4
P10	32.6
P11	65.6
P12	38.0
P13	67.4
溝1	27.2
溝2	20.8

A29号竖穴建物

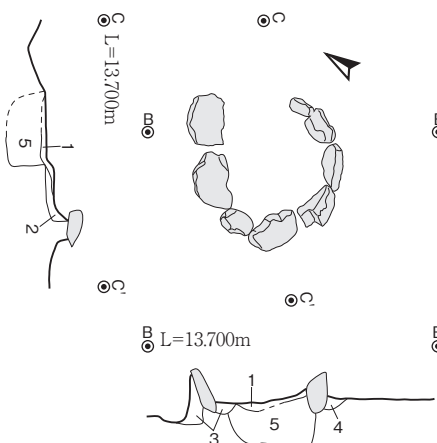
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	27.8
P02	63.8

第27図 A26~29・33号竖穴建物(2)

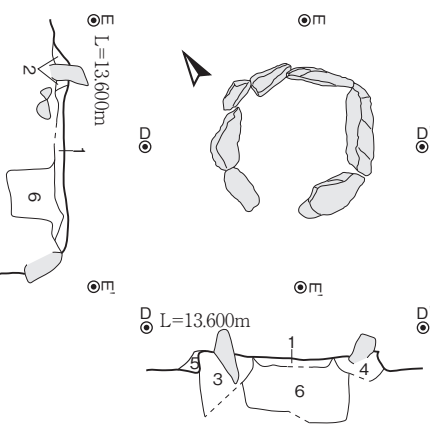
A30・31号竪穴建物



A30号竪穴建物炉



A31号竪穴建物炉



A30号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	24.0
P02	29.8
P03	26.4
P04	39.0
P05	38.6
P06	68.0
P07	31.6
P08	58.0

A31号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	56.2
P02	31.4
P03	26.8
P04	39.8
P05	40.8
P06	28.4
P07	36.4
P08	71.8

A30・31号竪穴建物 (A-A')

- 10YR2/2 黒褐色 しまりやや弱、粘性弱 φ2~5mmの真砂土粒3%
- 10YR3/1 黒褐色 しまりやや強、粘性弱 φ2~5mmの炭1%、φ1~2mmの焼土3%、φ1~2mmの礫7%
- 10YR3/2 黒褐色 しまり強、粘性弱 φ1mm以下の礫5%
- 10YR3/2 黒褐色 しまり強、粘性弱 φ1~2mmの真砂土粒3%
- 10YR3/3 暗褐色 シルトと5YR3/4暗赤褐色シルトの混合土 しまりやや強、粘性やや弱 φ2~5mmの礫5%
- 10YR2/1 黒褐色 しまりやや強、粘性やや弱 φ1~2mmの焼土1%、φ1~2mmの礫3%
- 10YR3/2 黒褐色 粘性やや弱 φ2~5mmの炭1%
- 10YR3/3 暗褐色 しまりやや強、粘性弱 φ2~5mmの黄褐色シルト3%

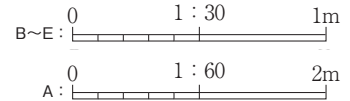
A31号竪穴建物炉 (D-D'・E-E')

- 7.5YR3/2 黒褐色 しまりやや強、粘性弱 φ1~2mmの焼土5%
- 7.5YR3/4 暗褐色 しまりやや強、粘性弱 φ1mm以下の焼土3% 炉石据え方埋土
- 7.5YR3/2 黒褐色 しまり強、粘性弱 φ1mm以下の真砂土粒1% 炉石据え方埋土
- 10YR3/4 暗褐色 しまりやや強、粘性やや弱 φ1~2mmの真砂土粒3% 炉石据え方埋土
- 10YR2/3 黒褐色 しまり強、粘性弱 φ1mm以下の礫1%
- 10YR2/2 黒褐色 しまり強、粘性弱

※1~4層がA30号竪穴建物、5層がA31号竪穴建物堆積土、6・7層はいずれかの建物の床面構築土

A30号竪穴建物炉 (B-B'・C-C')

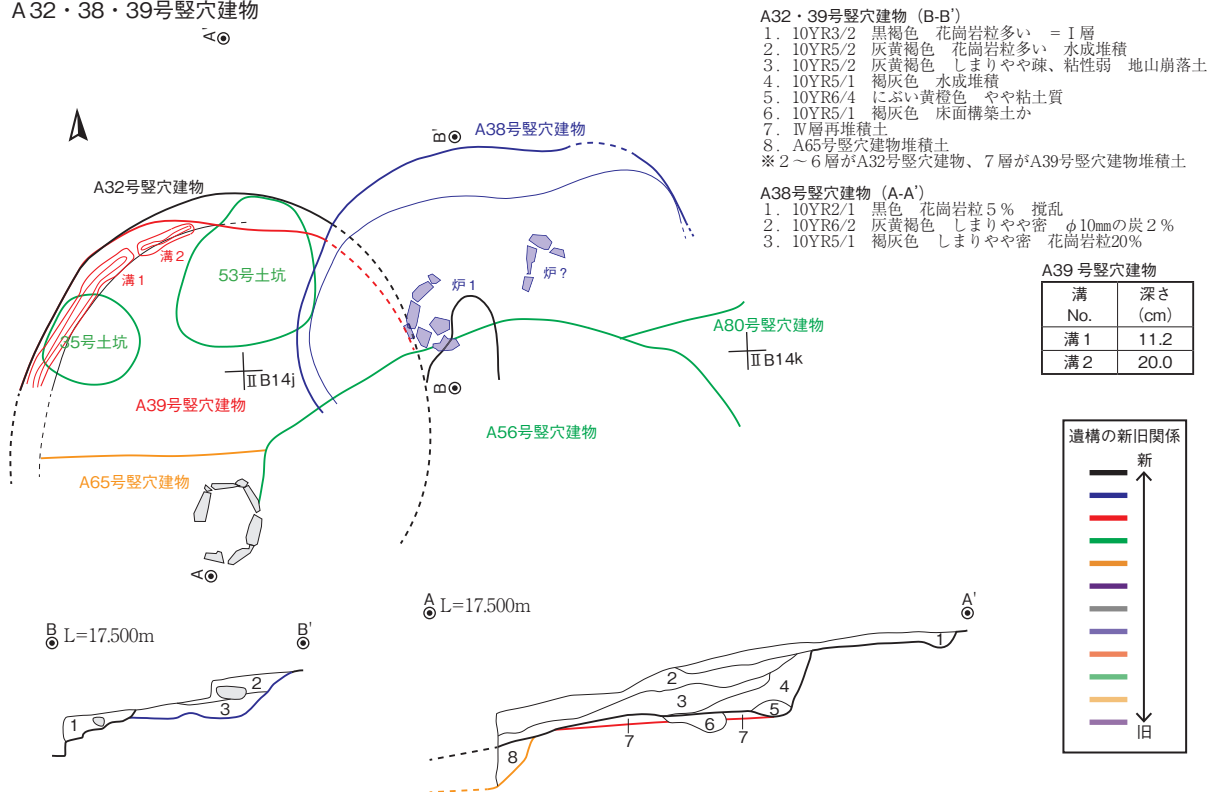
- 10YR2/2 黒褐色 砂 しまり強、粘性弱 φ1~2mmの焼土5%、φ1mm以下の真砂土粒7%
- 10YR2/3 黒褐色 しまりやや強、粘性やや弱 φ1mm以下の真砂土粒1%
- 7.5YR2/2 黒褐色 しまりやや強、粘性弱 φ1mm以下の焼土3%
- 7.5YR3/2 黒褐色 しまり強、粘性弱 φ2~5mmの焼土5% 炉石据え方埋土
- 10YR3/2 黒褐色 しまりやや強、粘性弱 真砂土粒3%



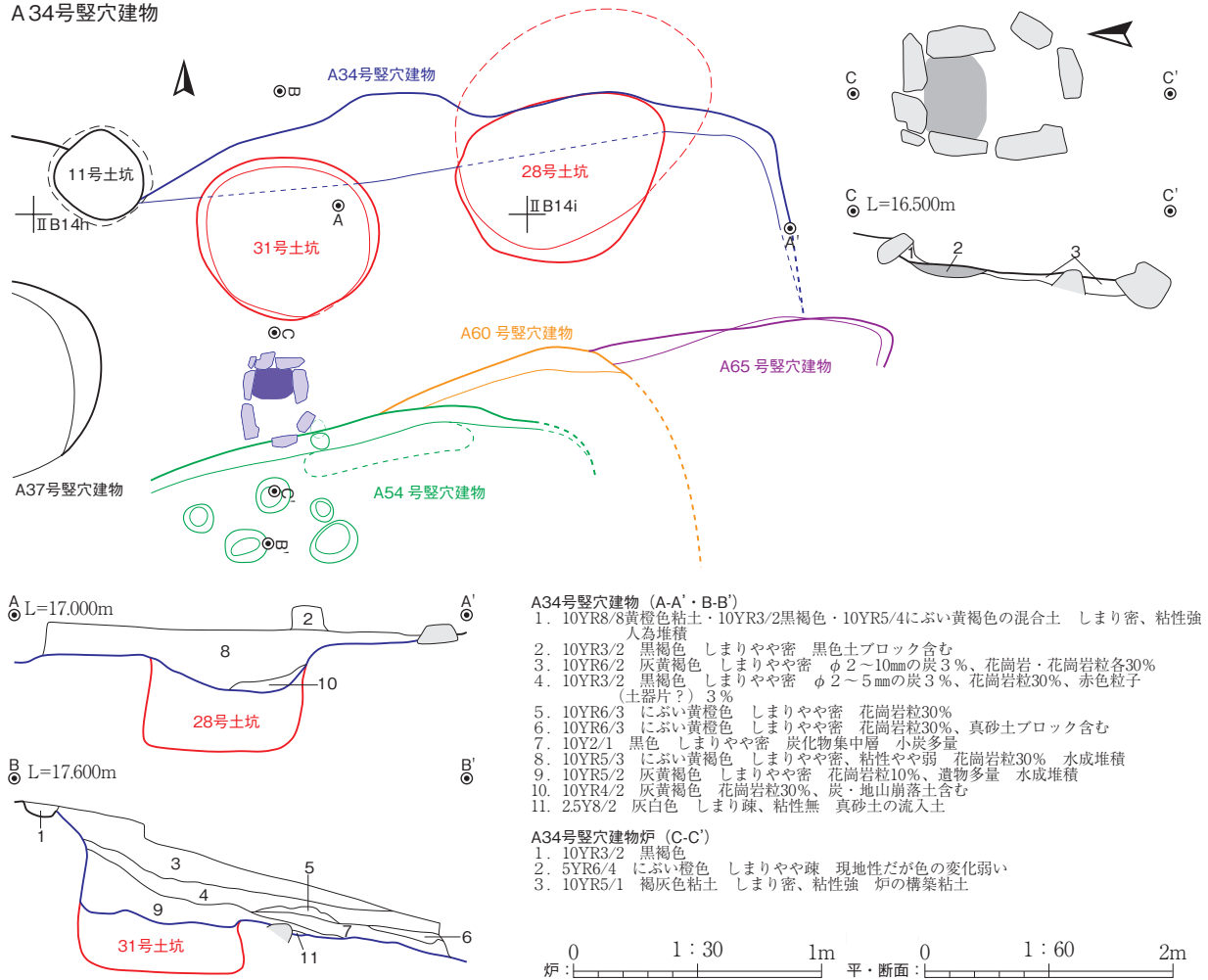
第28図 A30・31号竪穴建物

2 竪穴建物（縄文時代）

A32・38・39号竪穴建物

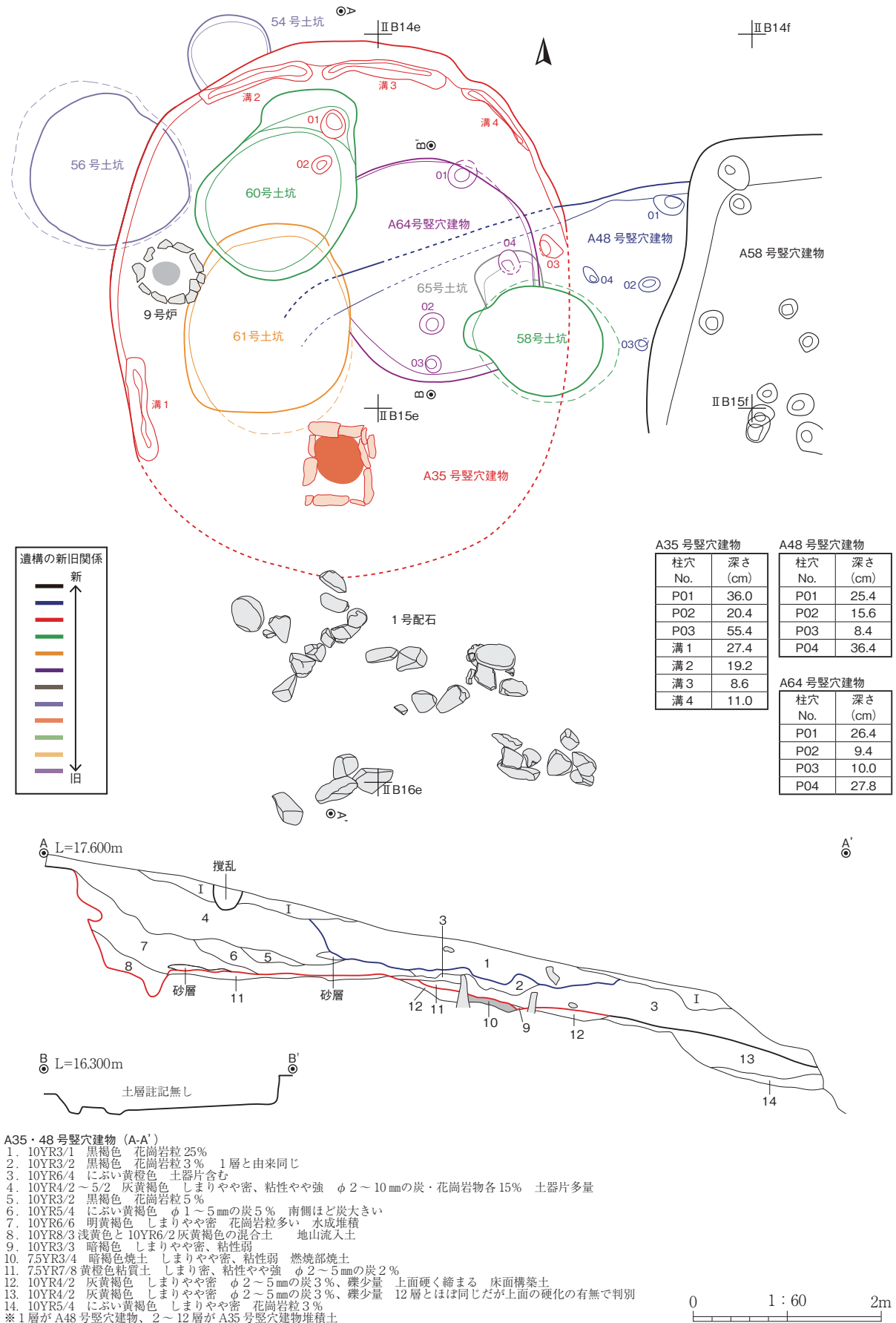


A34号竪穴建物



第29図 A32・38・39号竪穴建物、A34号竪穴建物

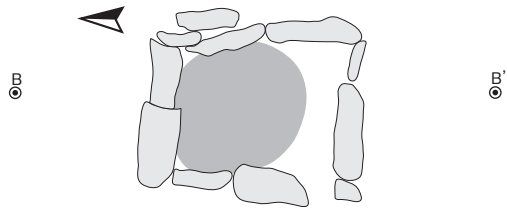
A35・48・64号竪穴建物



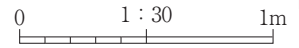
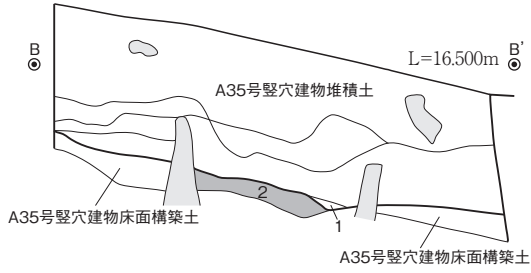
第30図 A35・48・64号竪穴建物(1)

2 竪穴建物（縄文時代）

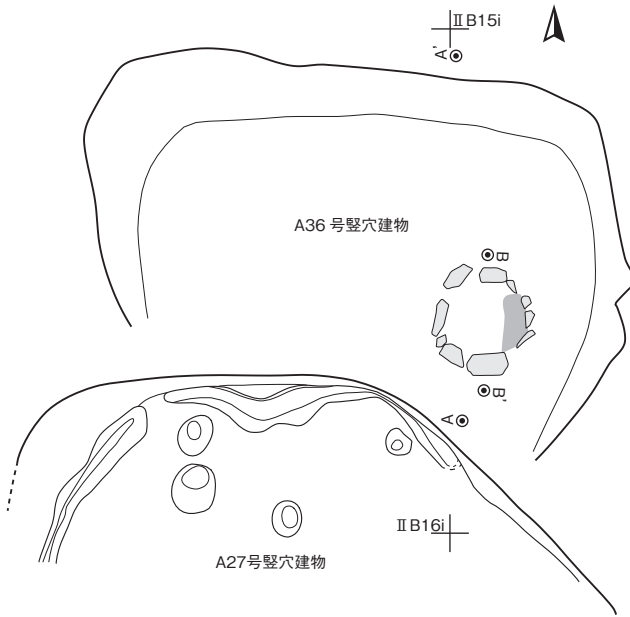
A35号竪穴建物炉



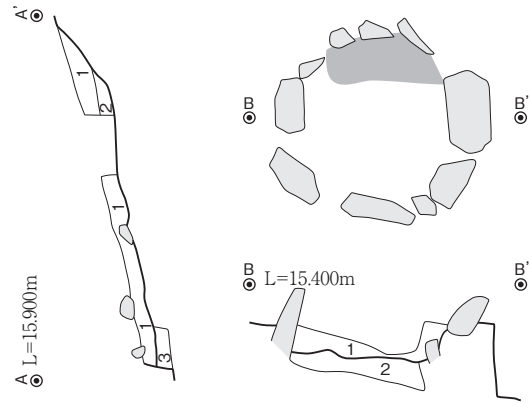
A35号竪穴建物炉
 1. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密 粘性弱。
 2. 2.75YR3/4 暗褐色焼土 しまりやや密 粘性弱 燃烧部焼土



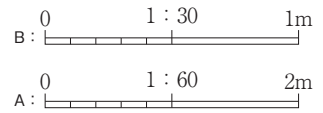
A 36号竪穴建物



A36号竪穴建物炉

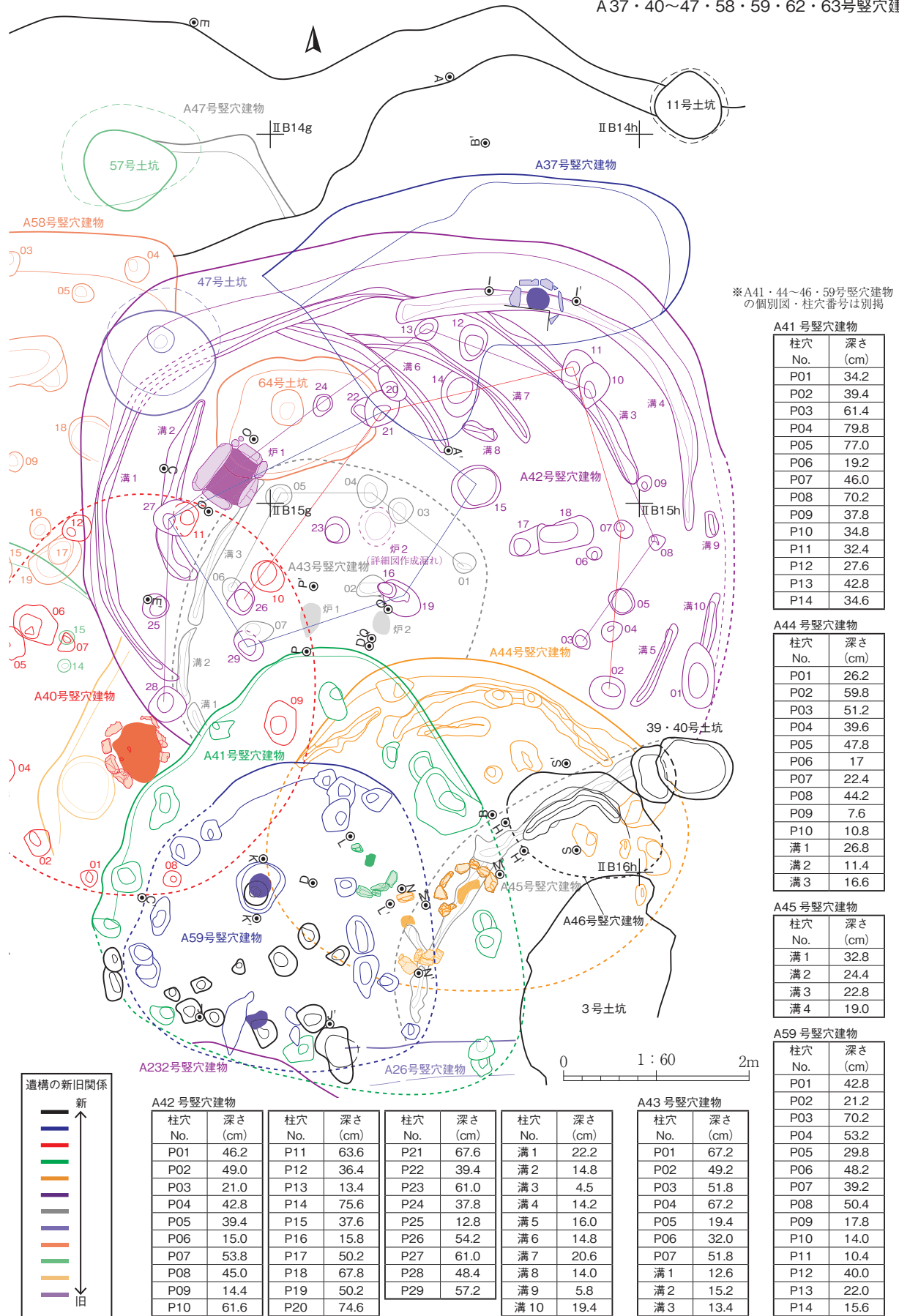


A36号竪穴建物 (A-A')
 1. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密 φ 2~5mmの炭3%、花崗岩粒15%
 2. 10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや密 1層と由来は同じ
 3. 10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや密
 炉 (B-B')
 1. 10YR3/2 黒褐色 竪穴内堆積土上位と同じ
 2. 10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや密 堆積土3層と同じ



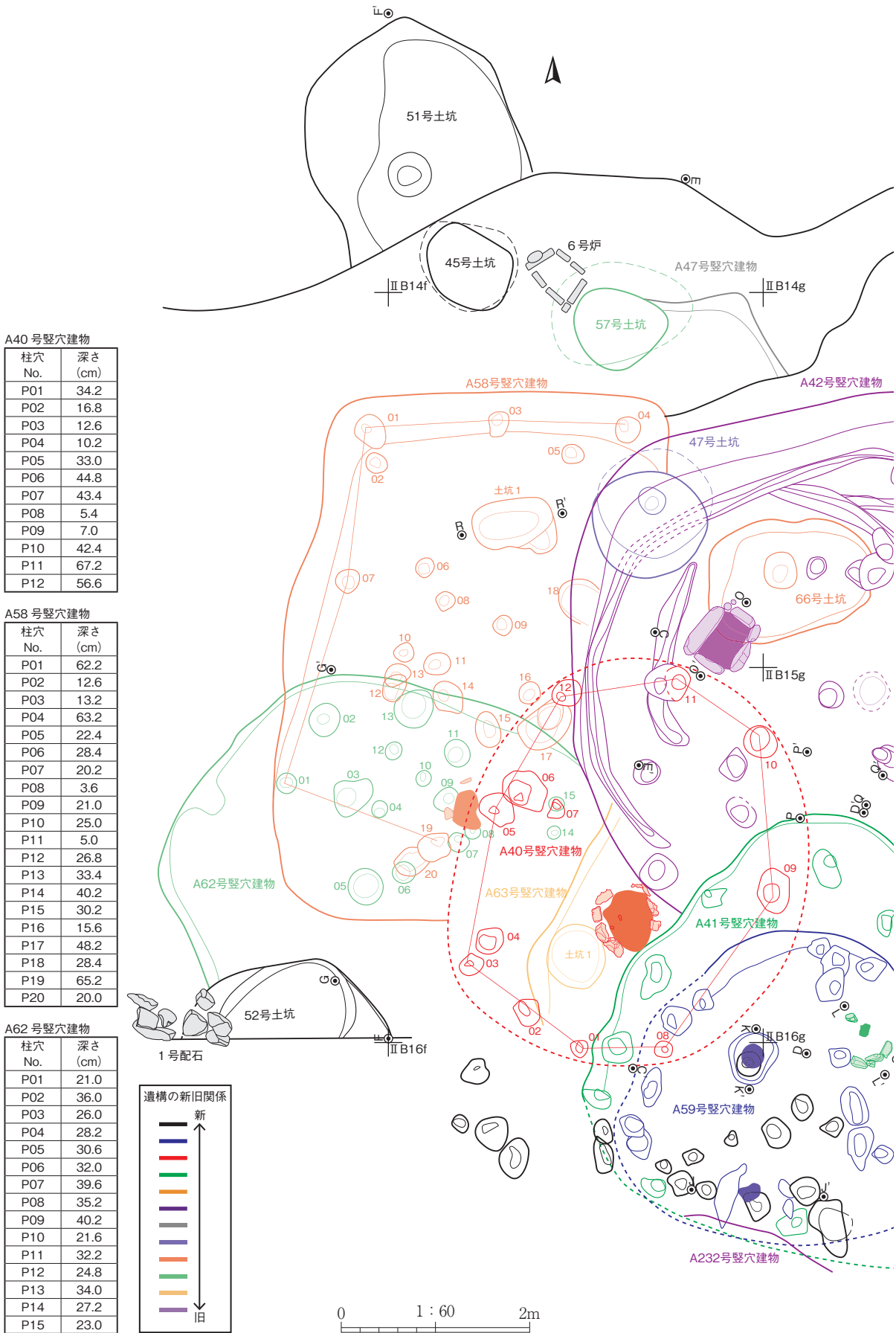
第 31 図 A 35・48・64 号竪穴建物 (2)、A 36 号竪穴建物

A37・40～47・58・59・62・63号竪穴建物

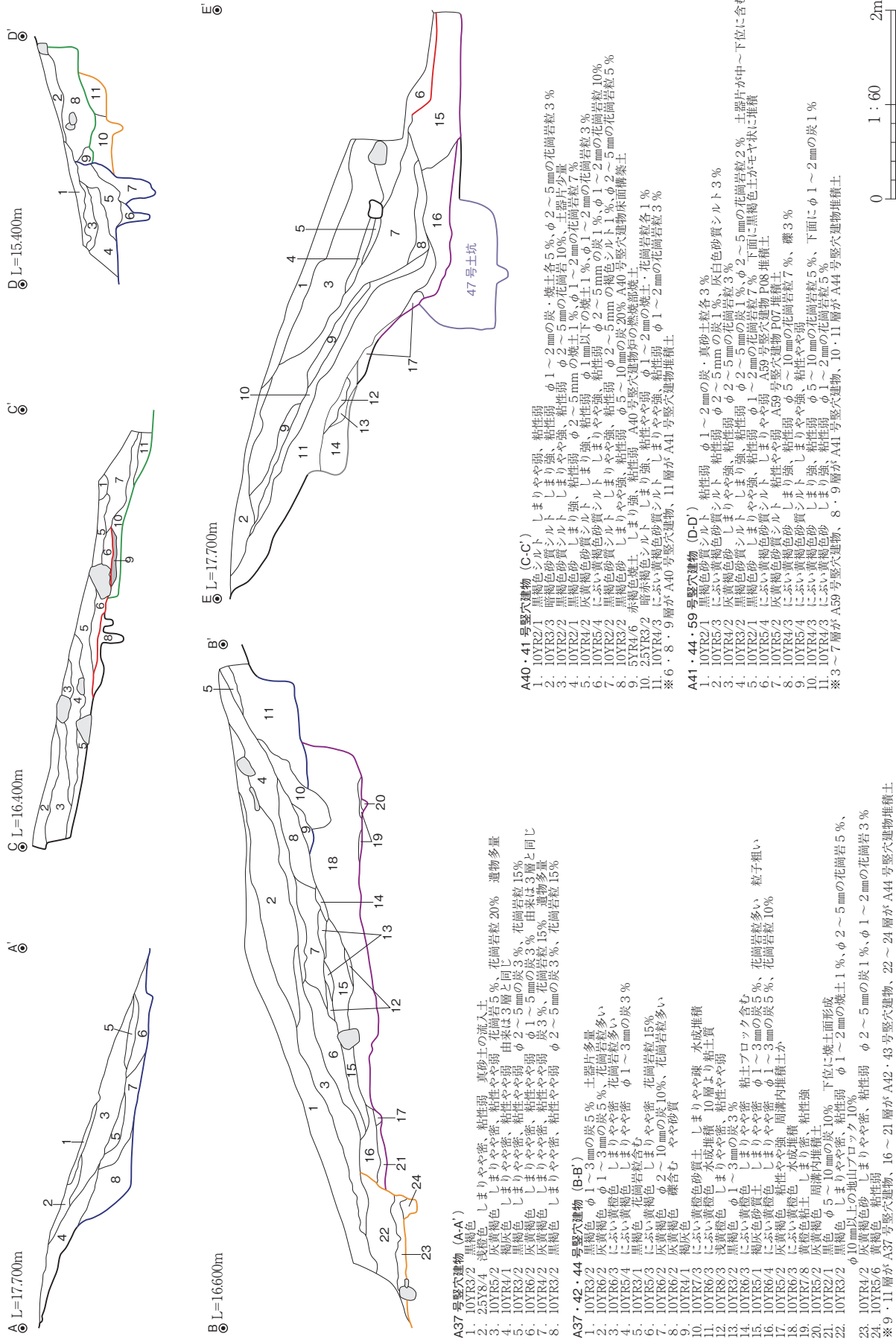


第32図 A37・40～47・58・59・62・63号竪穴建物(1)

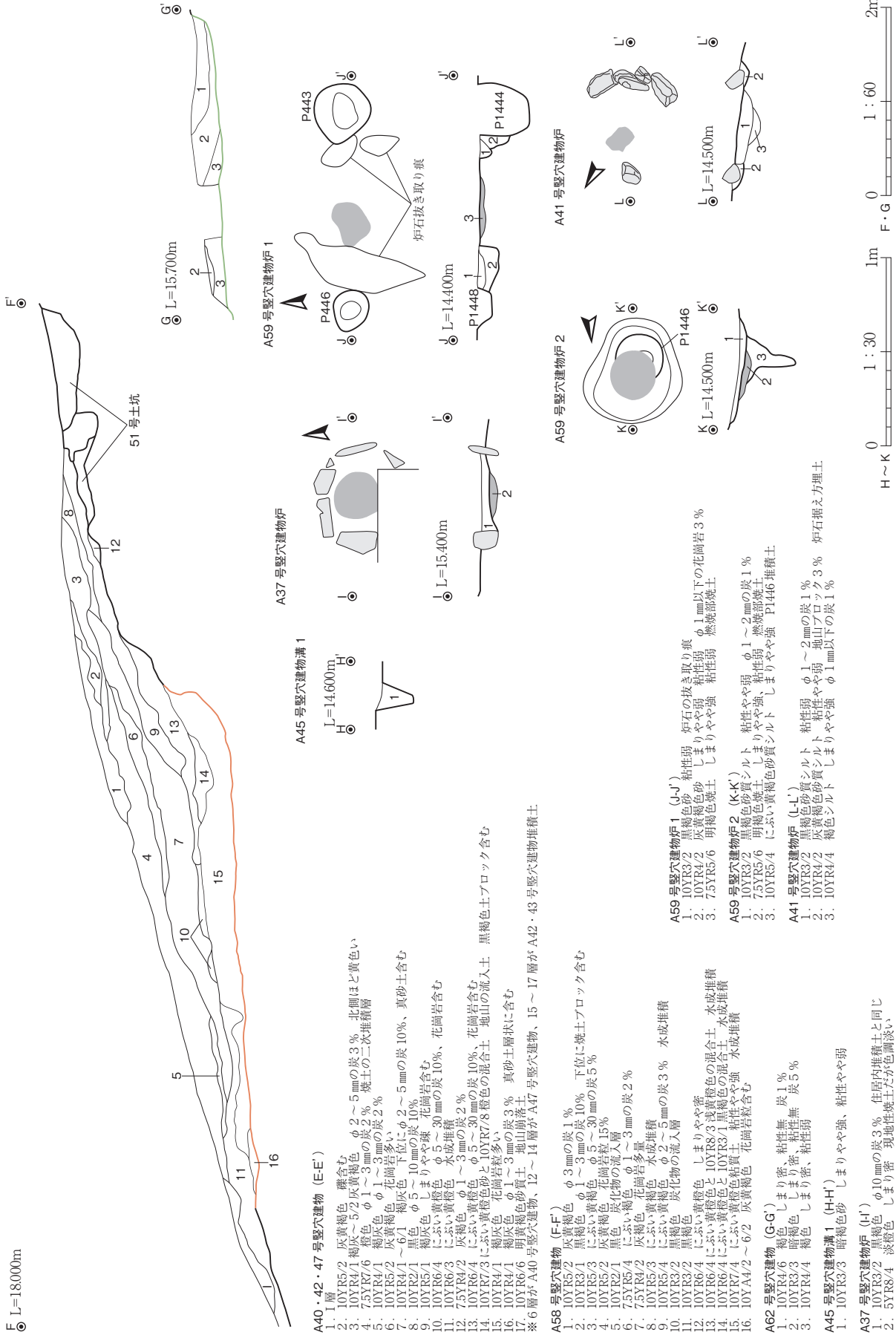
2 竖穴建物（縄文時代）



第33図 A 37・40～47・58・59・62・63号竖穴建物（2）

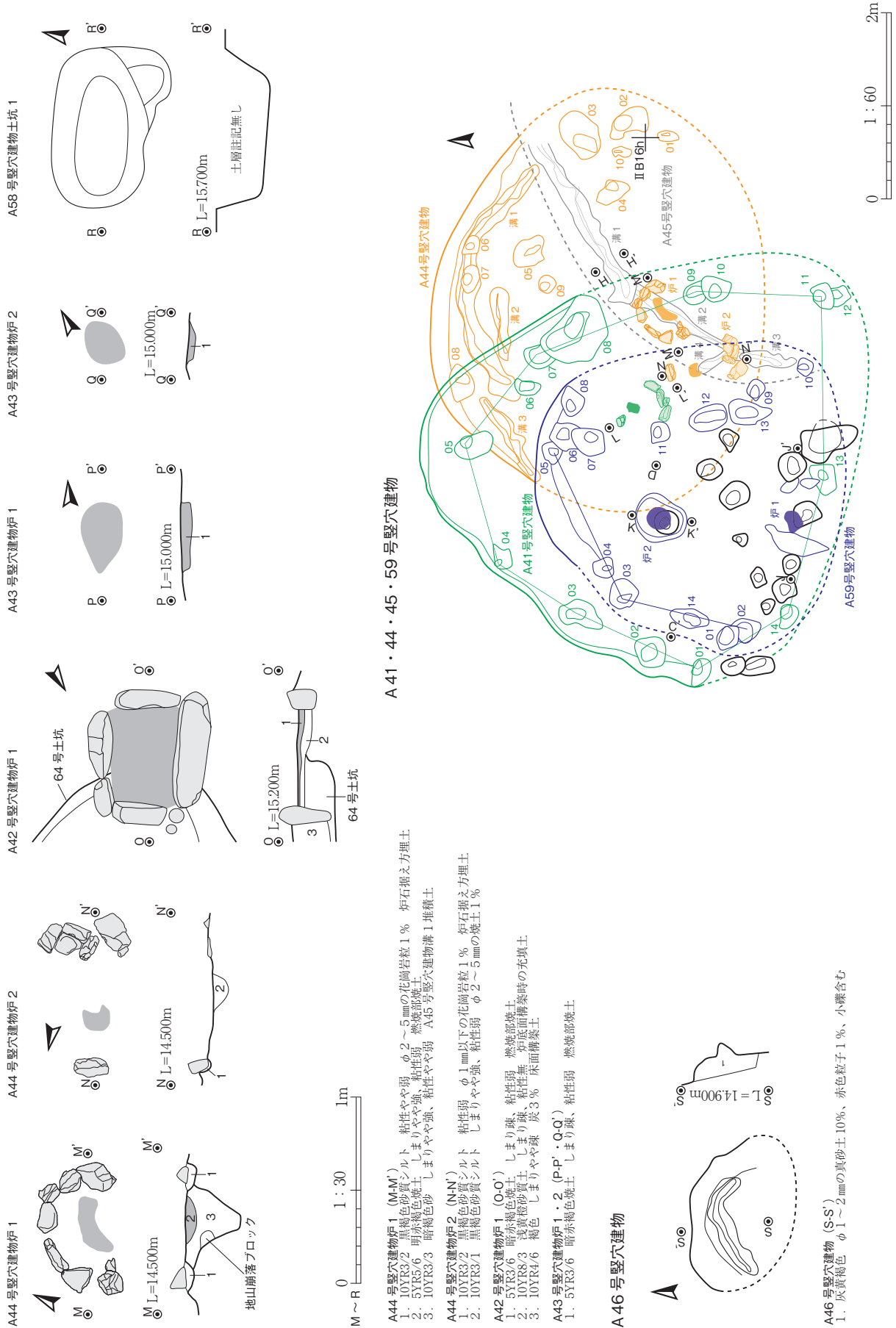


第34図 A 37・40～47・58・59・62・63号竪穴建物 (3)



- A40・42・47号竖穴建物 (EE)**
1. 1層
 2. 10YR5/2 灰黄褐色 礫含む
 3. 10YR4/1 褐色 φ2~5mmの炭3%、北側ほど黄色い
 4. 7.5YR7/6 褐色 φ1~3mmの炭2%、黄土の二次堆積層
 5. 10YR4/1 褐色 φ1~3mmの炭2%
 6. 10YR5/2 灰黄褐色 φ花崗岩多い
 7. 10YR4/1 褐色 φ5~10mmの炭10%、真砂土含む
 8. 10YR2/1 黒色 φ1~3mmの炭10%、花崗岩含む
 9. 10YR5/1 褐色 φ5~10mmの炭10%、花崗岩含む
 10. 10YR6/4 にぶい黄褐色 φ5~30mmの炭10%、花崗岩含む
 11. 10YR6/3 褐色 φ5~30mmの炭10%、花崗岩含む
 12. 10YR6/2 灰褐色 φ1~3mmの炭2%
 13. 10YR4/2 灰褐色 花崗岩含む
 14. 10YR7/3 にぶい黄褐色と10YR7/8 褐色の混入土 地山の流入土
 15. 10YR4/1 褐色 花崗岩が多い
 16. 10YR7/4 にぶい黄褐色 砂質土
 17. 10YR6/6 明黄褐色 砂質土 地形山崩落土
- ※6層がA40号竖穴建物、12~14層がA47号竖穴建物、15~17層がA42・43号竖穴建物堆積土
- A58号竖穴建物 (FF)**
1. 10YR5/2 灰黄褐色 φ3mmの炭1%
 2. 10YR6/2 灰褐色 φ1~3mmの炭10%、下側に焼土ブロック含む
 3. 10YR5/3 灰褐色 黄褐色 花崗岩 φ30mmの炭5%
 4. 10YR5/2 にぶい黄褐色 花崗岩 φ15%
 5. 10YR2/1 黒色 花崗岩多量
 6. 7.5YR5/1 にぶい黄褐色 φ2~5mmの炭2%
 7. 10YR4/2 灰褐色 黄褐色 φ2~5mmの炭3% 水成堆積
 8. 10YR5/3 灰褐色 黄褐色 φ2~5mmの炭3%
 9. 10YR3/2 黒色 炭花崗岩の流入層
 10. 10YR3/2 黒色 炭花崗岩の流入層
 11. 10YR6/4 にぶい黄褐色 しまりやや強
 12. 10YR6/4 にぶい黄褐色と10YR8/3 黄褐色の混入土 水成堆積
 13. 10YR6/4 にぶい黄褐色と10YR3/1 黒色の混入土 水成堆積
 14. 10YR7/4 にぶい黄褐色 粘りやや強
 15. 10YR7/4 にぶい黄褐色 粘りやや強
 16. 10YR4/2 灰黄褐色 花崗岩粘りやや強
- A62号竖穴建物 (GG)**
1. 10YR4/6 褐色 しまりやや強 粘性無 炭1%
 2. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや強 粘性無 炭5%
 3. 10YR4/4 褐色 しまりやや強 粘性弱
- A45号竖穴建物溝1 (HH)**
1. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや強、粘性やや弱
- A37号竖穴建物 (H)**
1. 10YR3/2 黒褐色 φ10mmの炭3% 住居内堆積土と同じ
 2. 5YR8/4 淡褐色 しまりやや強 現地性焼土たが色調深い
- A59号竖穴建物1 (JJ)**
1. 10YR3/2 黒褐色 砂質土
 2. 10YR4/2 暗褐色 砂質土
 3. 7.5YR5/6 明褐色 粘りやや強 粘性弱 炭燻部残土
- A59号竖穴建物2 (KK)**
1. 10YR3/2 黒褐色 砂質土
 2. 7.5YR5/6 明褐色 粘りやや強、粘性弱
 3. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂質土 しまりやや強 P1446 堆積土
- A41号竖穴建物 (LL)**
1. 10YR3/2 黒褐色 砂質土
 2. 10YR4/2 暗褐色 砂質土
 3. 10YR4/4 褐色 砂質土
- A59号竖穴建物1 (JJ')**
1. 10YR3/2 黒褐色 砂質土
 2. 10YR4/2 暗褐色 砂質土
 3. 7.5YR5/6 明褐色 粘りやや強 粘性弱 炭燻部残土
- A59号竖穴建物2 (KK')**
1. 10YR3/2 黒褐色 砂質土
 2. 7.5YR5/6 明褐色 粘りやや強、粘性弱
 3. 10YR5/4 にぶい黄褐色 砂質土 しまりやや強 P1446 堆積土
- A41号竖穴建物 (LL')**
1. 10YR3/2 黒褐色 砂質土
 2. 10YR4/2 暗褐色 砂質土
 3. 10YR4/4 褐色 砂質土

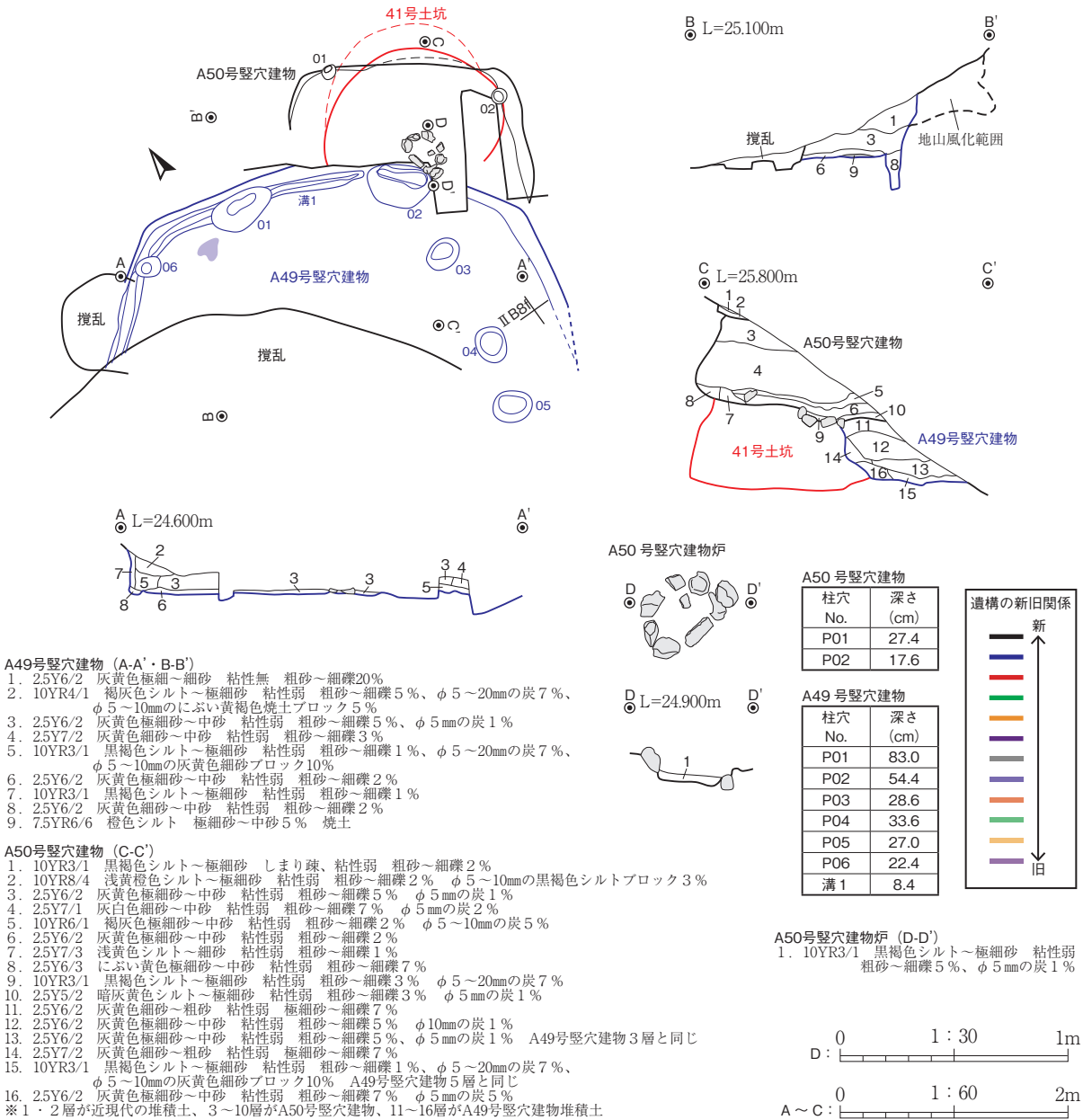
第35図 A37・40~47・58・59・62・63号竖穴建物(4)



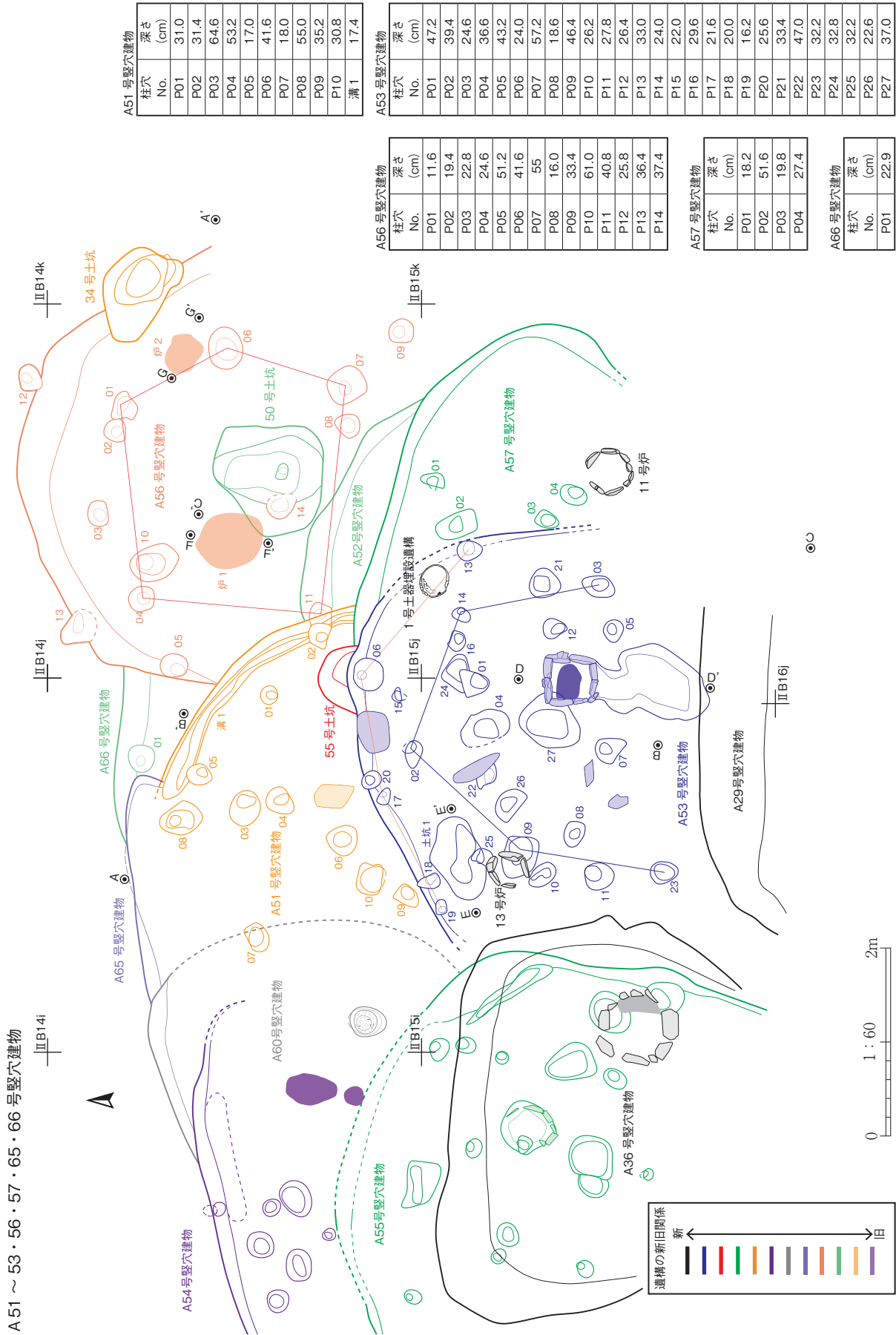
第36図 A 37・40~47・58・59・62・63号竪穴建物(5)

2 竪穴建物（縄文時代）

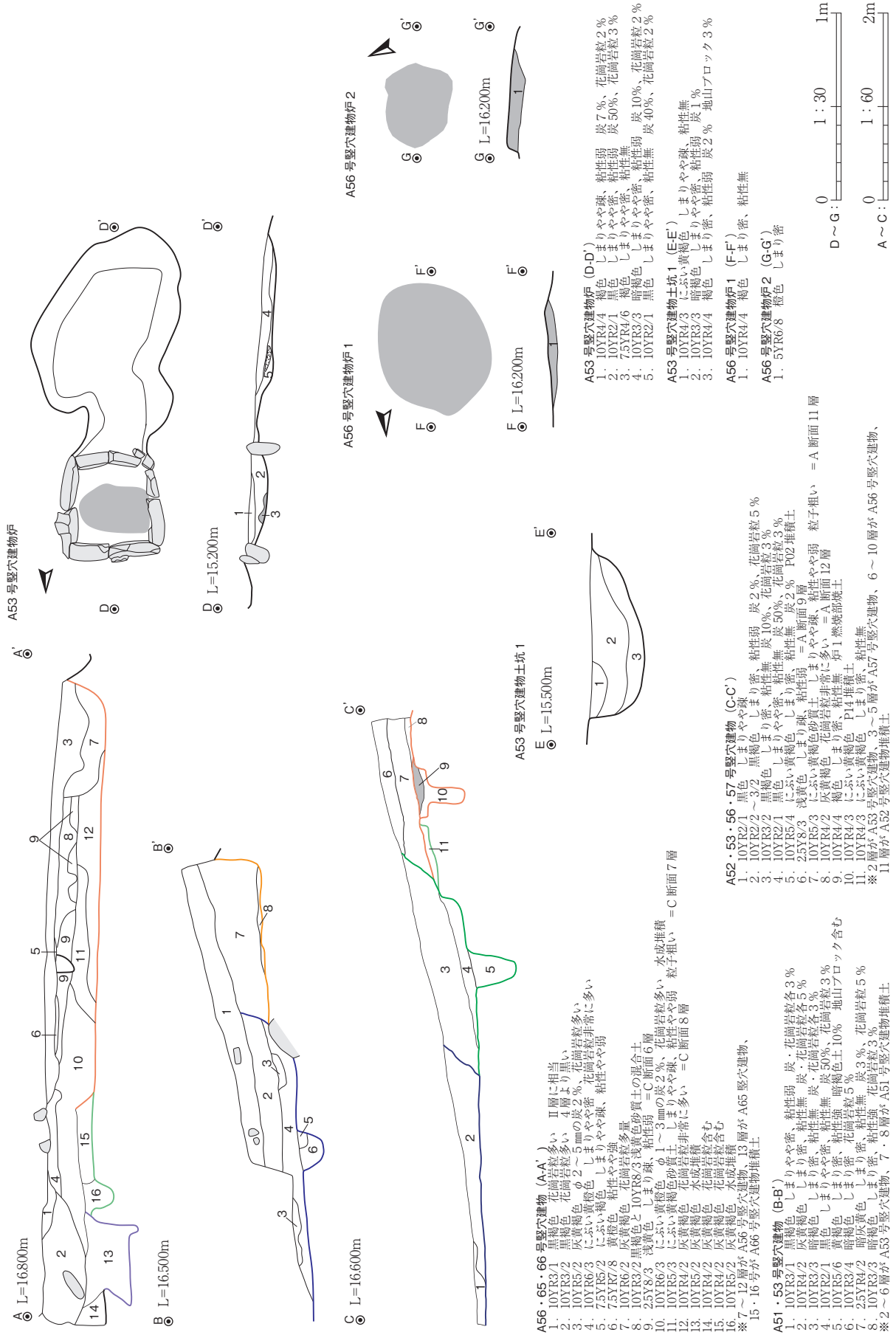
A 49・50号竪穴建物



第37図 A 49・50号竪穴建物、A 61号竪穴建物

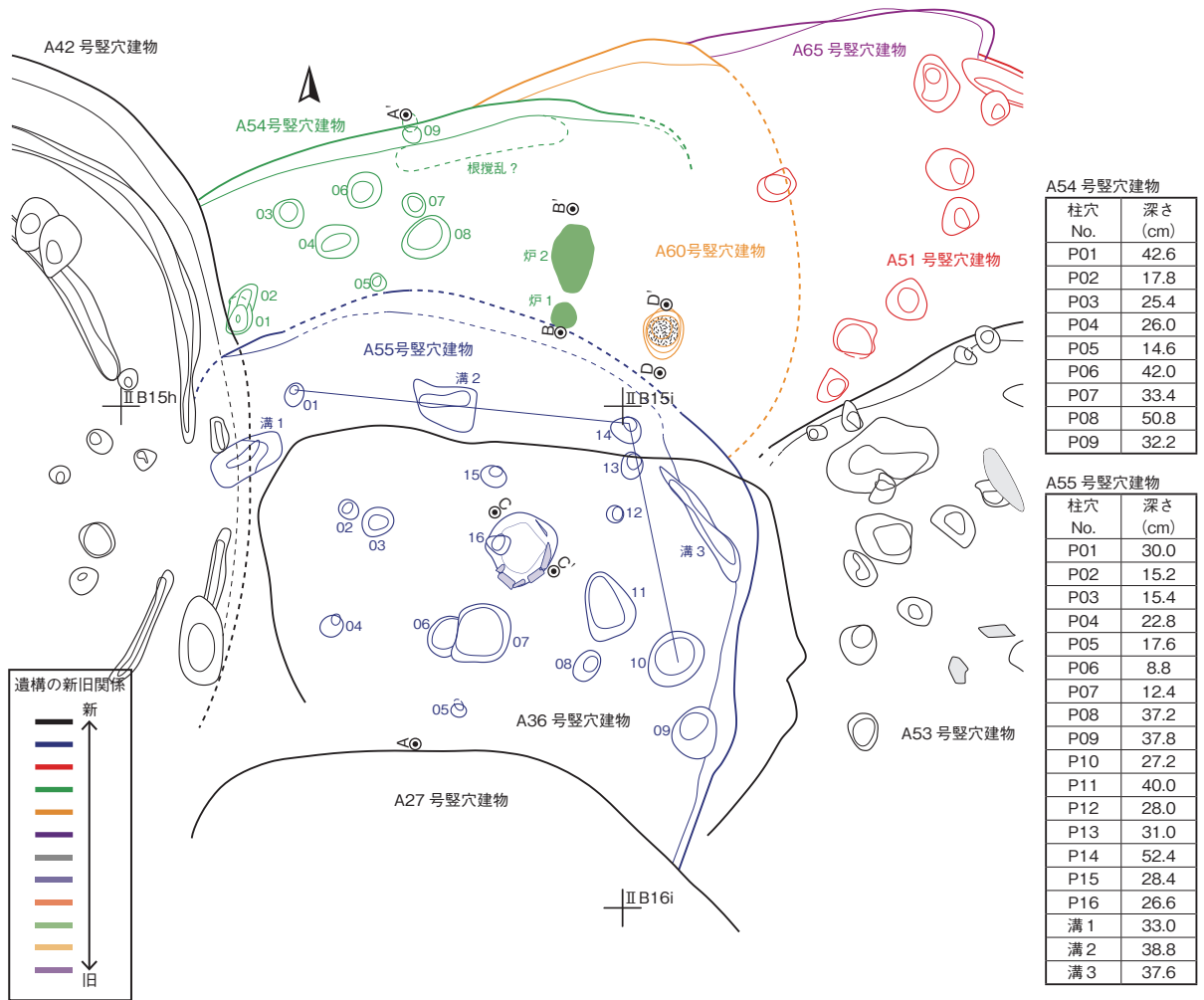


第38図 A 51 ~ 53・56・57・65・66号竪穴建物 (1)

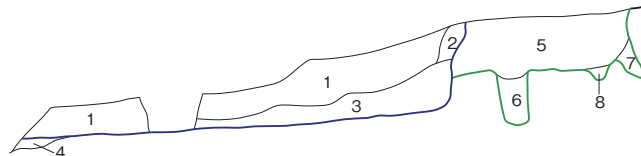


第39図 A 51 ~ 53・56・57・65・66号竪穴建物(2)

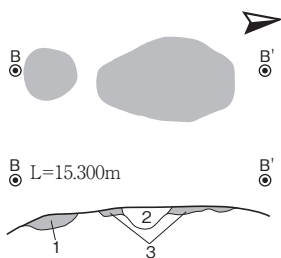
A54・55・60号竪穴建物



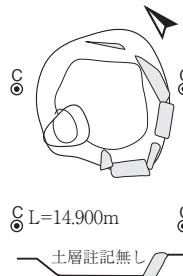
⊙ L=16.100m



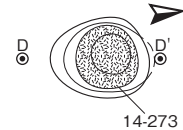
A54号竪穴建物炉1・2



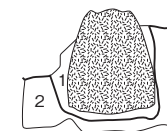
A55号竪穴建物炉



A60号竪穴建物埋設土器



⊙ L=15.500m



B~D: 0 1:30 1m

A: 0 1:60 2m

A54・55号竪穴建物 (A-A')

- 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 φ10mmの炭3%、花崗岩粒10%
 - 10YR5/1 褐灰色
 - 10YR6/1 褐灰色 φ10mmの炭5%、花崗岩・真砂土含む
 - 10YR5/2 灰黄褐色と10YR7/6 明黄褐色の混合土。床面構築土
 - 10YR5/2 灰黄褐色 φ2~10mmの炭3%、真砂土含む
 - 10YR7/2 におい黄褐色 P08堆積土
 - 10YR7/2 におい黄褐色 しまりやや疎、粘性弱
 - 10YR7/2 におい黄褐色 しまりやや疎、粘性弱 7層と類似するが根攪乱か
 - 10YR7/2 におい黄褐色 しまりやや疎、粘性弱 7層と類似するが根攪乱か
- ※ 1~3層がA55号竪穴建物、5~7層がA54号竪穴建物堆積土

A54号竪穴建物炉1・2 (B-B')

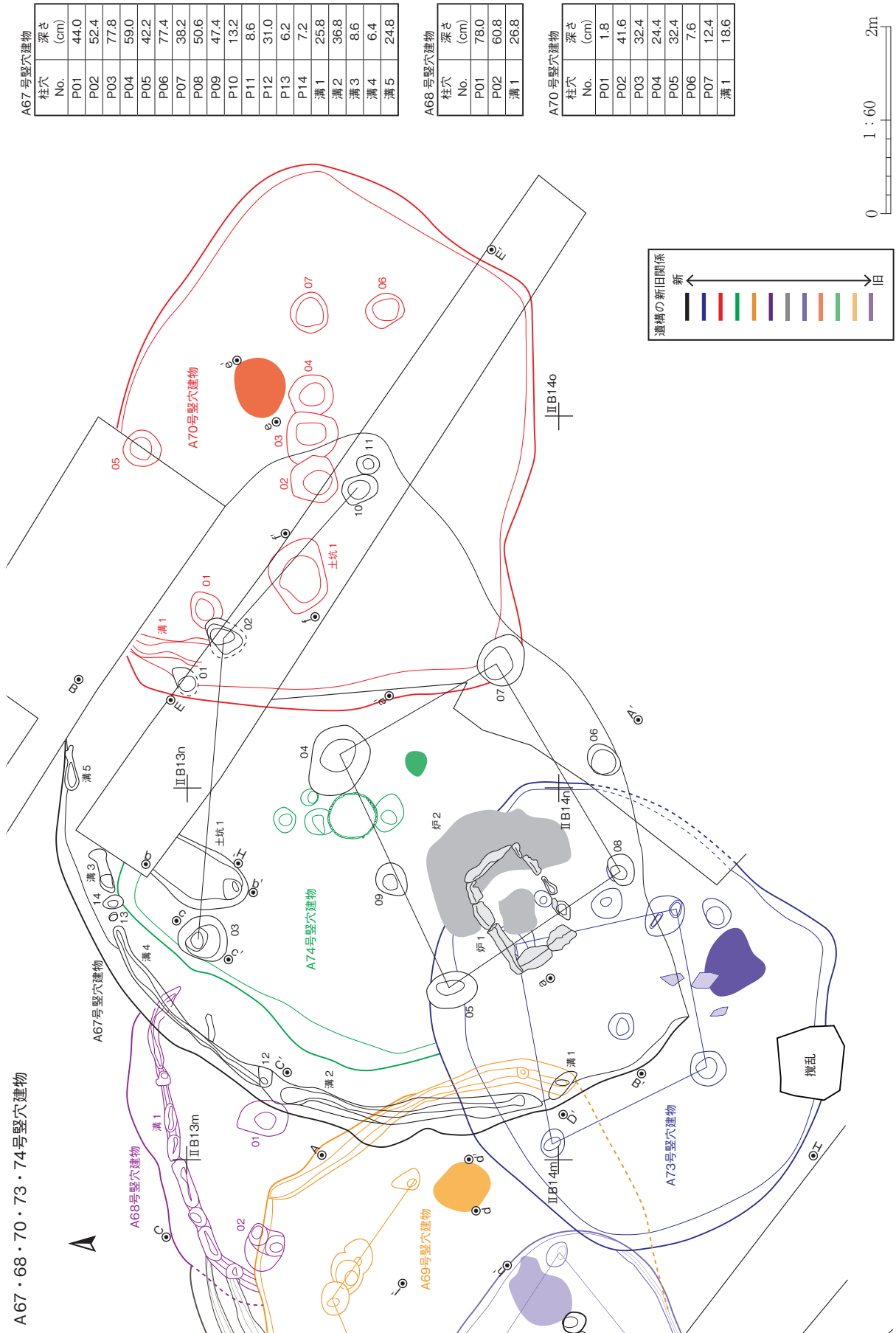
- 5YR3/4 暗赤褐色焼土 しまりやや疎、粘性無 炉1 燃烧部焼土
- 10YR3/4 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱
- 5YR4/6 赤褐色焼土 しまりやや疎、粘性無 炉2 燃烧部焼土

A60号竪穴建物埋設土器 (D-D')

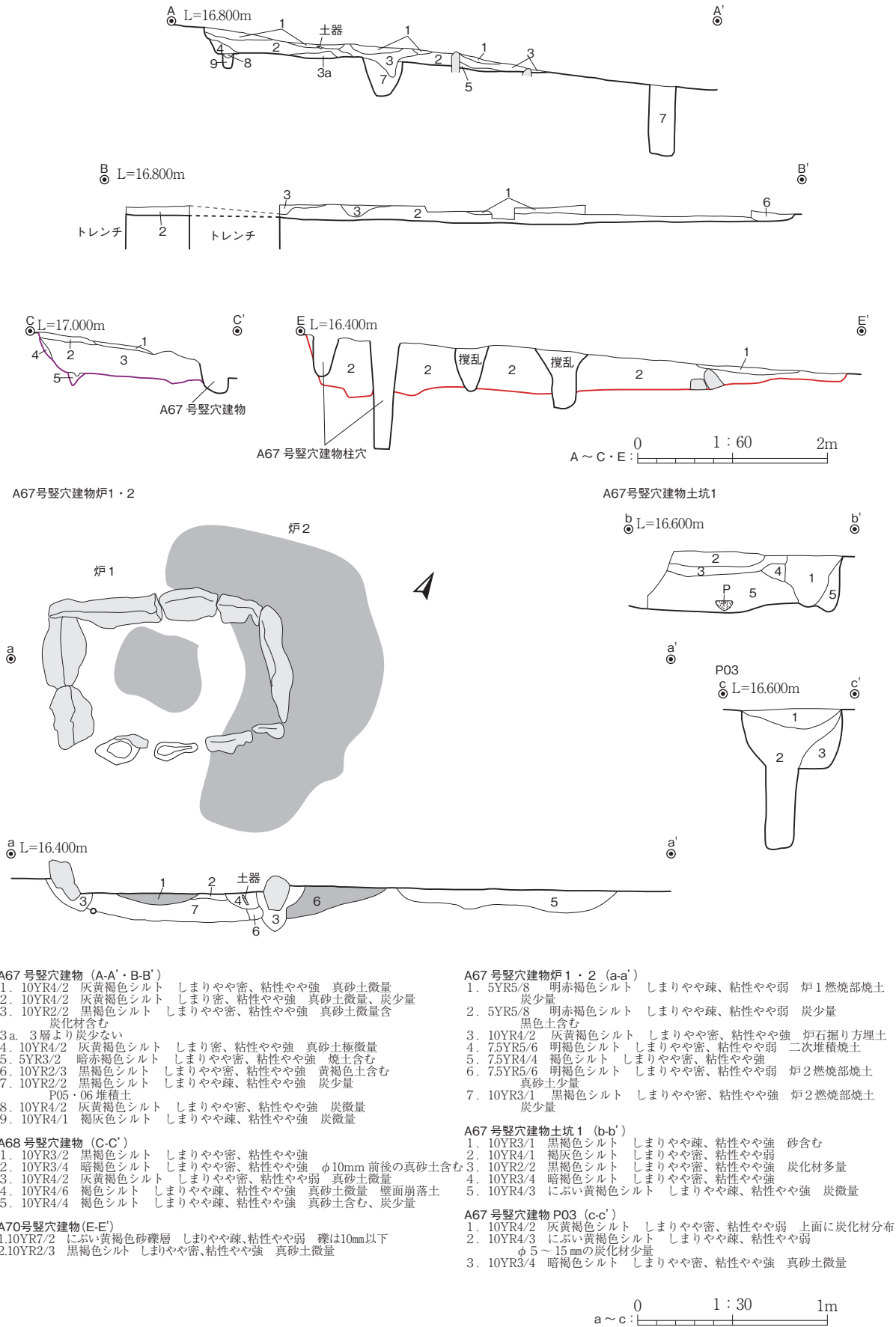
- 10YR5/8 黄褐色 しまりやや密、粘性弱 褐色土15% 掘り方埋土
- 10YR6/8 明黄褐色砂質土 しまりやや密、粘性弱

第40図 A54・55・60号竪穴建物

2 竖穴建物（縄文時代）

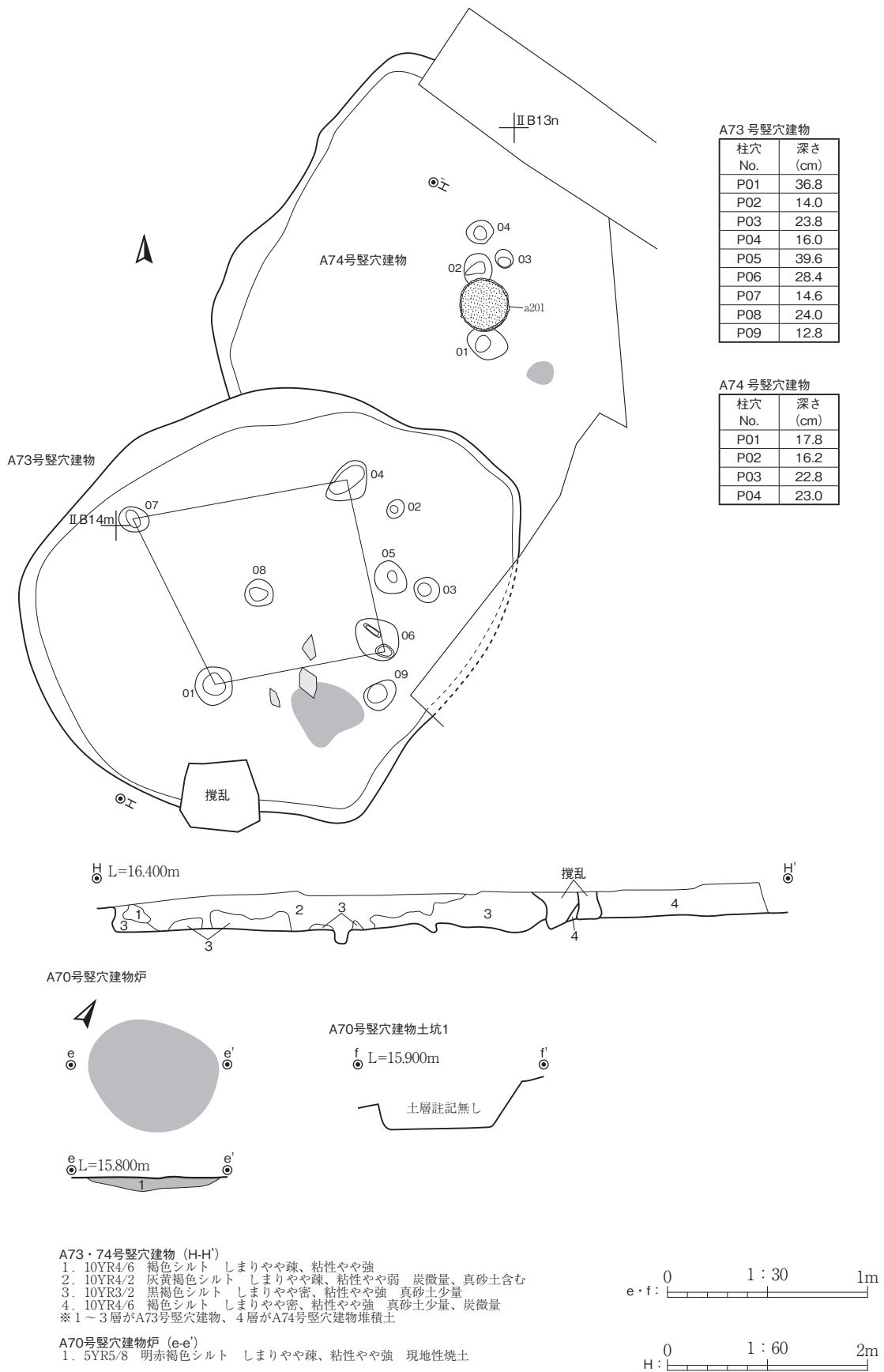


第41図 A 67・68・70・73・74号竖穴建物（1）



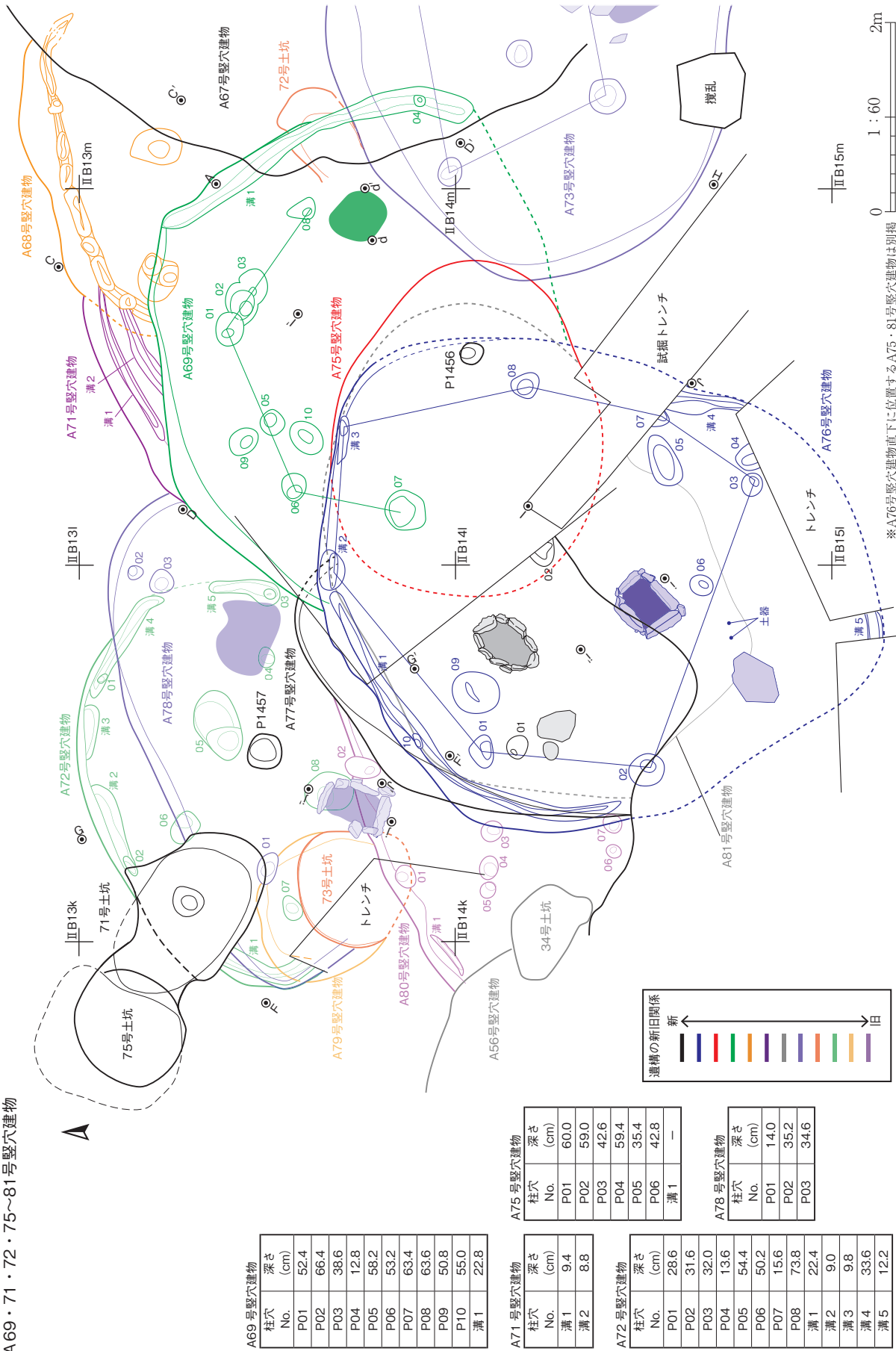
第42図 A67・68・70・73・74号竪穴建物(2)

2 竪穴建物（縄文時代）



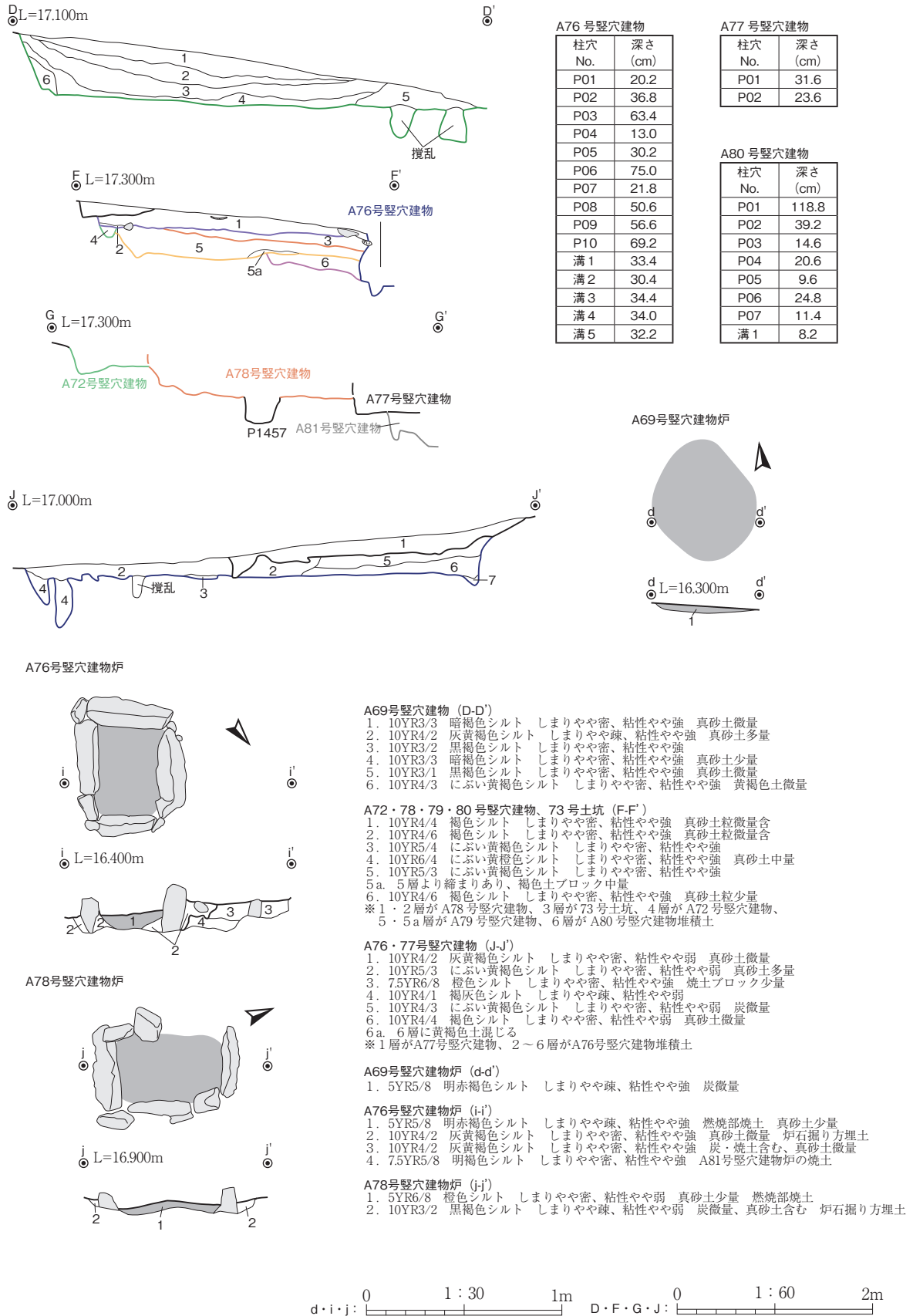
第43図 A 67・68・70・73・74号竪穴建物 (3)

A69・71・72・75～81号竪穴建物

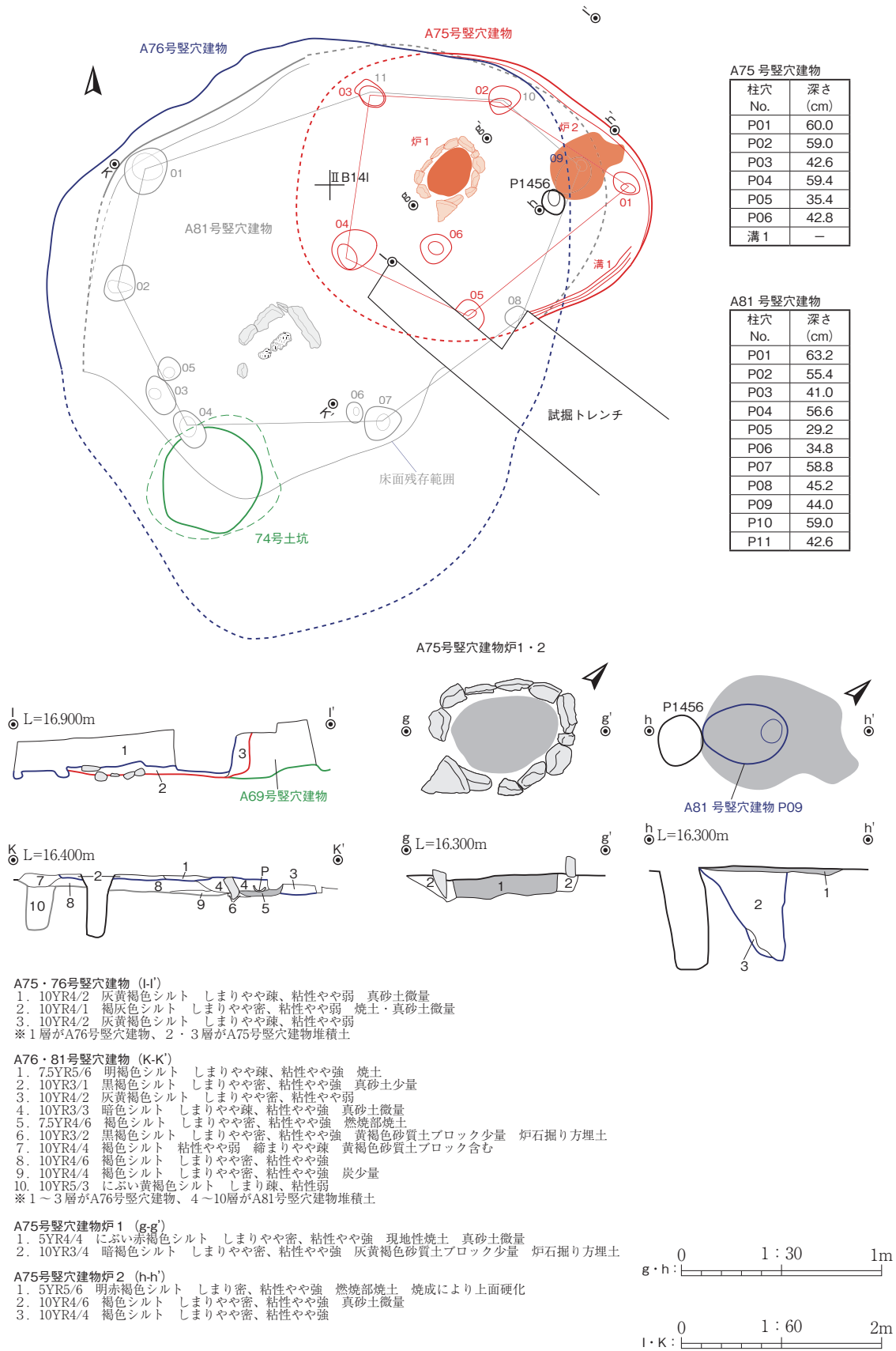


第44図 A69・71・72・75～81号竪穴建物(1)

2 竪穴建物（縄文時代）



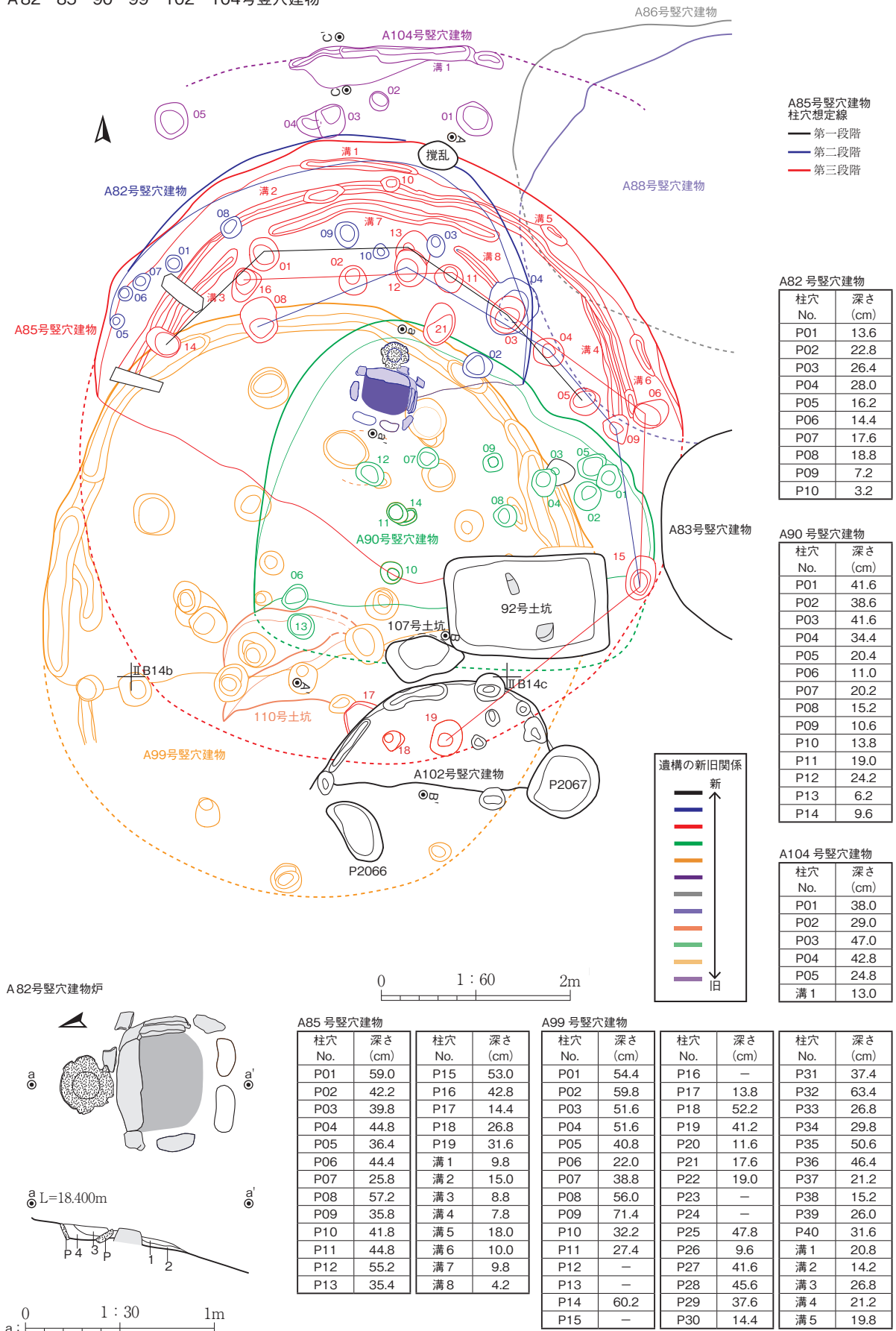
第45図 A 69・71・72・75～81号竪穴建物（2）



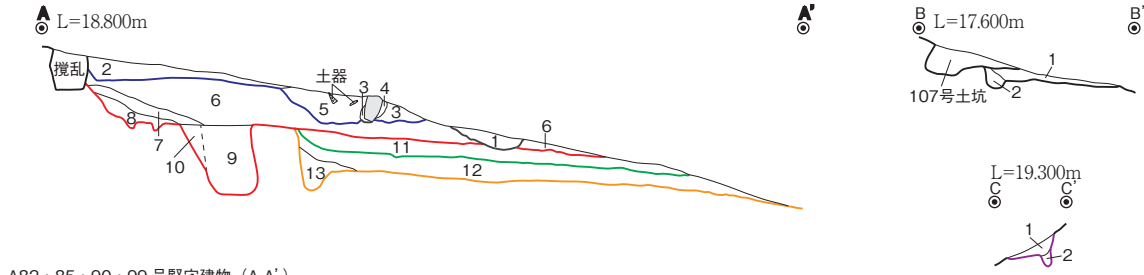
第46図 A 69・71・72・75～81号竪穴建物(3)

2 竪穴建物（縄文時代）

A82・85・90・99・102・104号竪穴建物



第47図 A82・85・90・99・102・104号竪穴建物（1）



A82・85・90・99号竪穴建物 (A-A')

1. 10YR2/3 黒褐色真砂質シルト 粘性無 花崗岩粒含む
 2. 10YR2/3 黒褐色シルト しまりやや無、粘性無 炭1~2%
 3. 5YR3/3 暗赤褐色焼土 粘性無 A82号竪穴建物炉の燃焼部焼土
 4. 7.5YR3/4 暗褐色真砂土 粘性無 A82号竪穴建物炉石振り方埋土の被熱層
 5. 10YR3/3 暗褐色真砂土 粘性無 炭1~2%、花崗岩粒含む A82号竪穴建物埋設土器振り方埋土
 6. 10YR3/4 暗褐色真砂質シルト 粘性無 炭2~3%、花崗岩粒多量
 7. 10YR4/3 にぶい黄褐色真砂質シルト 粘性無 炭1~2%、花崗岩粒含む
 8. 10YR4/6 褐色真砂質シルト しまりやや無、粘性無 黄褐色真砂粒・花崗岩粒含む
 9. 10YR3/3 暗褐色土 A85号竪穴建物P24堆積土
 10. 10YR4/4 褐色土 炭・にぶい黄褐色土含む A85号竪穴建物P26堆積土
 11. 10YR3/4 暗褐色真砂質シルト 粘性無 炭2~3%、花崗岩粒多量 最下層に黄褐色真砂土が層状に含む 西側に廃棄焼土含む
 12. 10YR3/25 黒褐色~暗褐色真砂質シルト 粘性無 炭3~5%、花崗岩粒多量
 13. 10YR3/3 暗褐色~5/3にぶい黄褐色真砂質シルト 粘性無 黄褐色土層状に含む
- ※2~5層がA82号竪穴建物、6~10層がA85号竪穴建物、11層がA90号竪穴建物、12・13層がA99号竪穴建物堆積土

A102号竪穴建物 (B-B')

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 花崗岩粒10%
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 花崗岩粒5%、周溝内堆積土

A82号竪穴建物炉 (a-a')

1. 10YR3/3 暗褐色シルト しまりやや有、粘性無 花崗岩粒多量
2. 7.5YR3/3 暗褐色シルト しまりやや有、粘性無 炭1~2%、花崗岩粒含む
3. 7.5YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 炭1%、花崗岩粒含む
4. 2.5Y3/2 黒褐色シルト 粘性無 炭2~3%、礫1%、花崗岩粒含む

A104号竪穴建物 (C-C')

1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 炭1~2%、花崗岩粒含む
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや無 黄褐色土粒2~3%

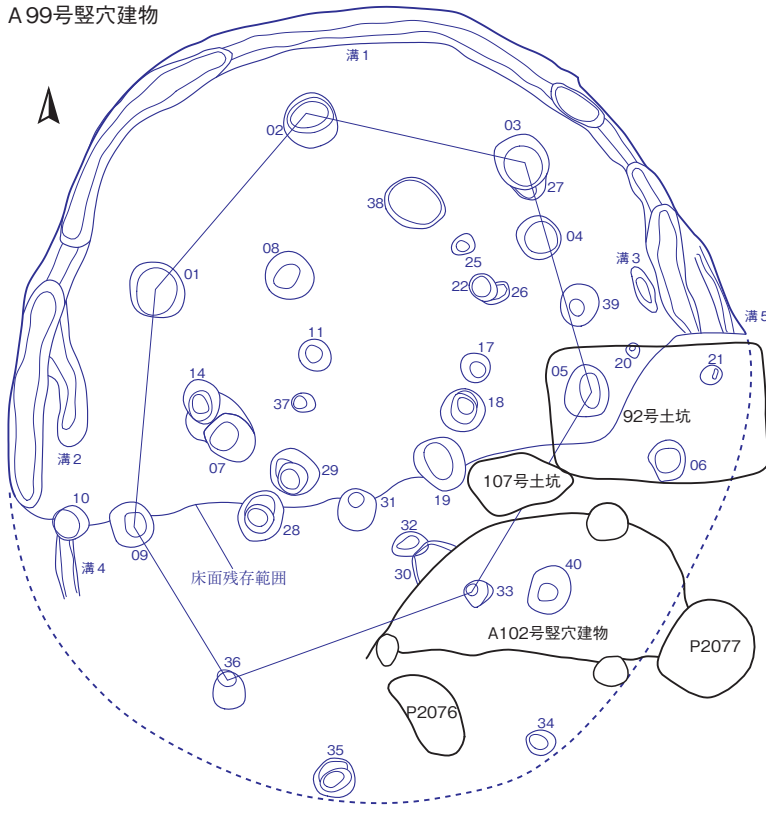
A102号竪穴建物P01

1. 10YR3/4 暗褐色シルト 暗褐色土・花崗岩粒各5%

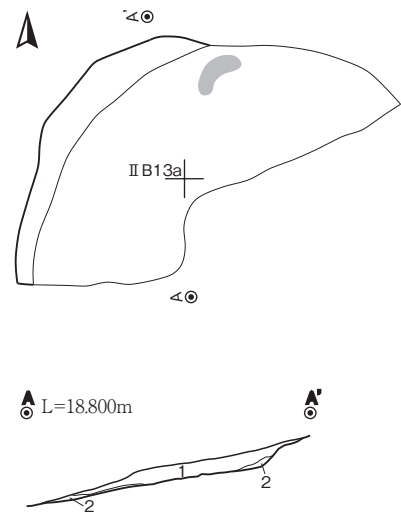
A102号竪穴建物P02・03・04

1. 10YR3/4 暗褐色シルト 花崗岩粒2%

A99号竪穴建物

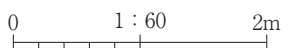


A98号竪穴建物



A98号竪穴建物

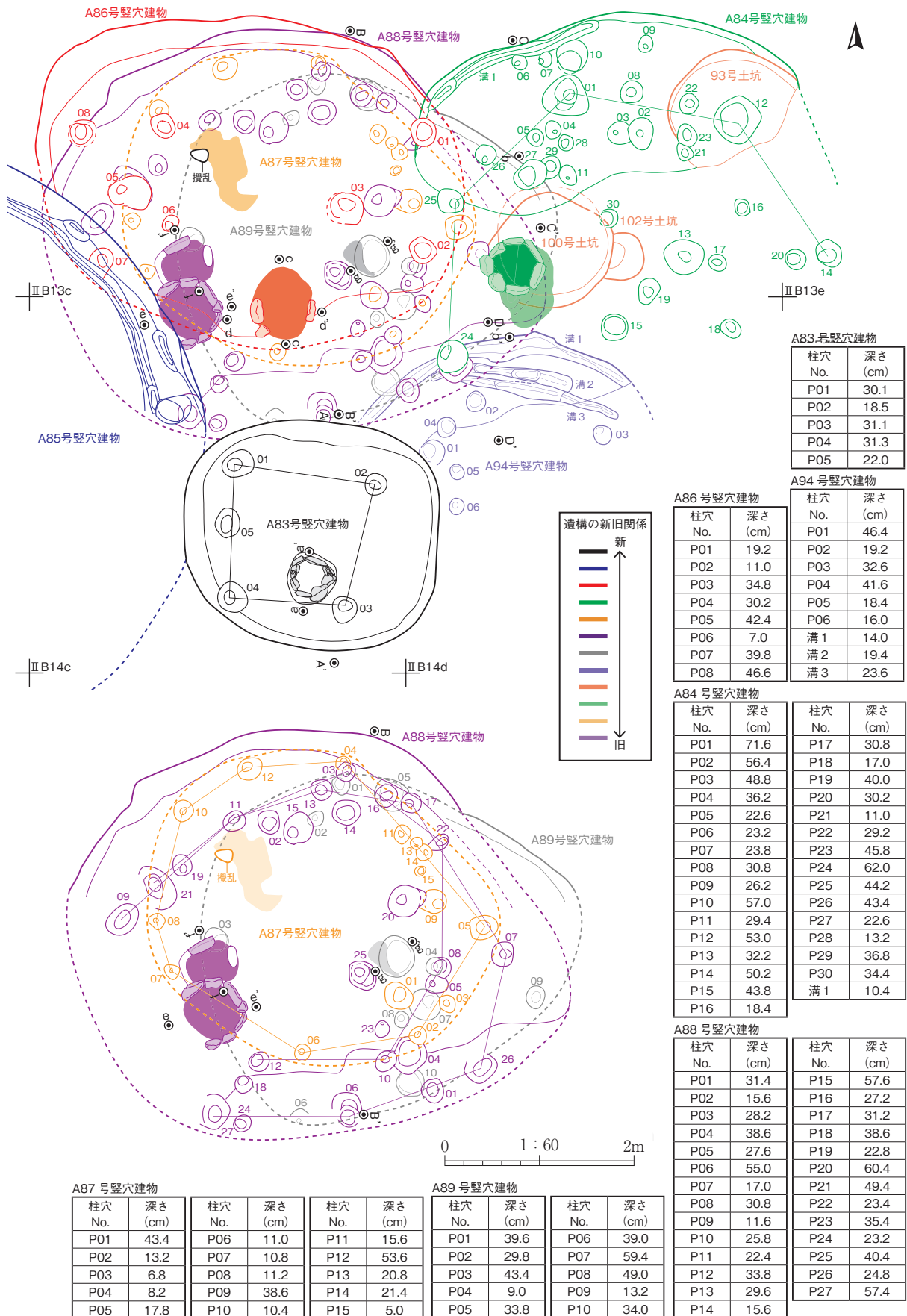
1. 10YR3/4 暗褐色真砂質シルト 粘性やや無 橙色粒2~3%、炭1~2%、花崗岩粒多量
2. 10YR4/6 ~ 5/6 褐色~黄褐色真砂土 粘性やや無 橙色粒1%、花崗岩粒多量



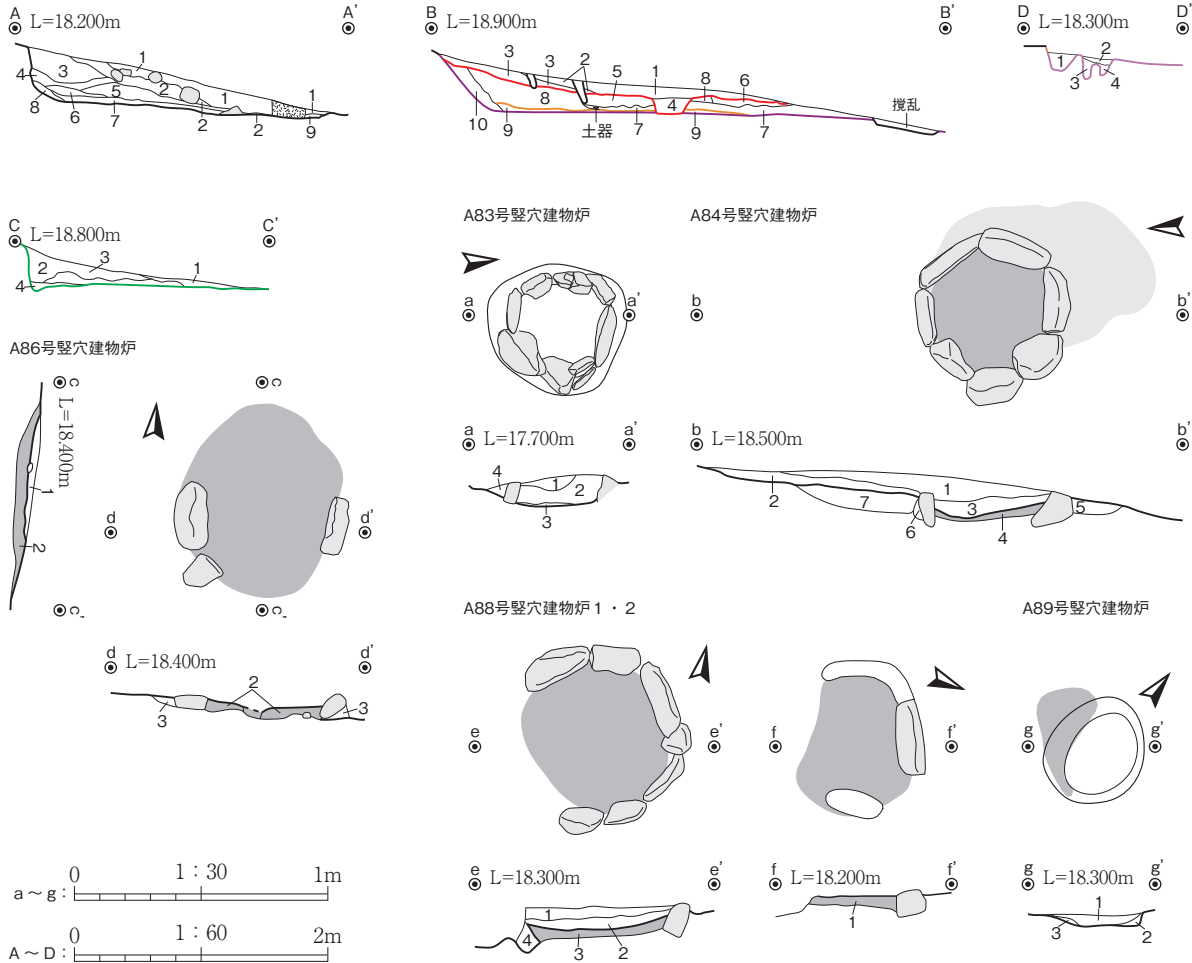
第48図 A82・85・90・99・102・104号竪穴建物(2)、A98号竪穴建物

2 竪穴建物（縄文時代）

A83・84・86～89・94号竪穴建物



第49図 A 83・84・86～89・94号竪穴建物（1）



A83号竪穴建物 (A-A')

- 10YR4/3 におい黄褐色真砂土 しまりやや有、粘性無 炭1~2%、花崗岩粒含む
- 10YR3/2 黒褐色シルト しまりやや有、粘性無 炭1~2%、花崗岩粒含む
- 10YR4/3 におい黄褐色真砂土 しまりやや有、粘性無 におい黄褐色土斑状に含む、花崗岩粒含む
- 10YR4/3 におい黄褐色真砂土 しまりやや有、粘性無
- 10YR6/3 におい黄褐色真砂土 しまりやや無、粘性無 におい黄褐色真砂土小塊5~7% マウンド状に堆積
- 10YR4/3 におい黄褐色真砂土 しまりやや有、粘性無 におい黄褐色土斑状に含む、花崗岩粒含む
- 10YR4/2 灰黄褐色真砂土 粘性無 におい黄褐色真砂土との混合層 水成堆積
- 10YR4/3 におい黄褐色真砂土 粘性無 花崗岩粒含む
- 10YR5/4 におい黄褐色真砂土 しまりやや無、粘性無 灰黄褐色土塊7~10%

A83号竪穴建物炉 (a-a')

- 10YR5/3 におい黄褐色真砂土 しまり・粘性共に無
- 7.5YR3/1 黒褐色シルト 粘性無 褐色土小塊7~10%、花崗岩粒含む
- 10YR6/3 におい黄褐色真砂土 しまり・粘性共に無 におい黄褐色真砂土小塊10~15%
- 10YR4/3 におい黄褐色真砂土 しまりやや無、粘性無 花崗岩粒含む 炉石の掘り方埋土

A86・87・88号竪穴建物 (B-B')

- 10YR5/4 におい黄褐色シルト しまりやや有、粘性無 におい黄褐色真砂土小塊15~20%、炭3~5%、真砂土1~2%、黒褐色土7%
- 10YR2/1 黒色シルト しまり・粘性共に無 炭とにおい黄褐色土との混合層
- 10YR4/3 におい黄褐色真砂土 粘性無 におい黄褐色真砂土小塊15~20%、炭・真砂土各1~2%
- 10YR5/2 灰黄褐色真砂土 しまりやや無、粘性無 炭5~7%、黒褐色シルトとの混合層 PO3堆積土
- 10YR4/2 灰黄褐色真砂土 粘性無 炭7~10%、黒褐色土塊10%
- 10YR5/4 におい黄褐色真砂土 しまりやや有、粘性無 におい黄褐色真砂土塊5~7%、炭1~2%含 7層との境に灰白色真砂土を層状に含む
- 10YR4/3 におい黄褐色真砂土 しまりやや無、粘性無 におい黄褐色真砂土小塊7~10%、炭・灰白色真砂土各2~3%
- 10YR5/4 におい黄褐色真砂土 しまりやや無、粘性無 におい黄褐色真砂土小塊15~20%、炭1~2%、灰白色真砂土2~3%
- 7.5YR5/4 におい褐色シルト 粘性無 におい黄褐色真砂土小塊7~10%、炭1~2%、灰白色真砂土小塊2~3%
- 10YR5/3 におい黄褐色真砂土 粘性無 灰白色真砂土塊3~5%、炭2~3%、におい黄褐色真砂土小塊5~7%

A86号竪穴建物炉 (c-c'・d-d')

- 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 黒褐色土小塊2~3%、花崗岩粒10%
- 5YR4/3 におい赤褐色焼土 粘性無 炭1% 燃焼部焼土
- A88号竪穴建物堆積土

A84号竪穴建物炉 (b-b')

- 10YR4/4 褐色真砂土 粘性無 炭1~2%、花崗岩粒含む
- 10YR6/4 におい黄褐色真砂土 しまりやや有、粘性無
- 10YR5/4 におい黄褐色真砂土 しまり・粘性共に無 炭1%、花崗岩粒含む
- 5YR3/3 暗赤褐色焼土 粘性無 燃焼部焼土
- 7.5YR4/4 褐色 しまりやや有、粘性無 床面が被熱により変色
- 10YR3/4 暗褐色真砂土 粘性無 におい黄褐色土との混合層 炉石掘り方埋土
- 10YR4/3 におい黄褐色真砂土 しまりやや無、粘性無

A88号竪穴建物炉1 (e-e')

- 10YR3/3 暗褐色真砂土 粘性無 炭1%、花崗岩粒含む
- 10YR4/3 におい黄褐色真砂土 粘性無 におい黄褐色土小塊10~15%、焼土小塊5~7%
- 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性無 燃焼部焼土
- 10YR3/4 暗褐色真砂土 しまりやや有、粘性無 花崗岩粒含む 炉石抜き取り痕

A88号竪穴建物炉2 (f-f')

- 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性無 燃焼部焼土

A89号竪穴建物炉 (g-g')

- 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性やや無 焼土小塊2~3%、花崗岩粒含む
- 10YR2/2 黒褐色シルト しまり・粘性共にやや無 焼土小塊1%
- 10YR5/4 におい黄褐色 しまり・粘性共に無 焼土塊との混合層

A84号竪穴建物 (C-C')

- 10YR5/3 におい黄褐色真砂土 しまりやや無、粘性無 におい黄褐色真砂土含む
- 10YR4/4 褐色真砂土 粘性無 炭・花崗岩粒各3~5%、におい黄褐色真砂土塊7%
- 10YR4/3 におい黄褐色真砂土 しまりやや有、粘性無 褐色土との互層 炭2~3%、花崗岩粒含む
- 10YR7/3 におい黄褐色真砂土 しまり・粘性共に無 におい黄褐色真砂土塊15~20%

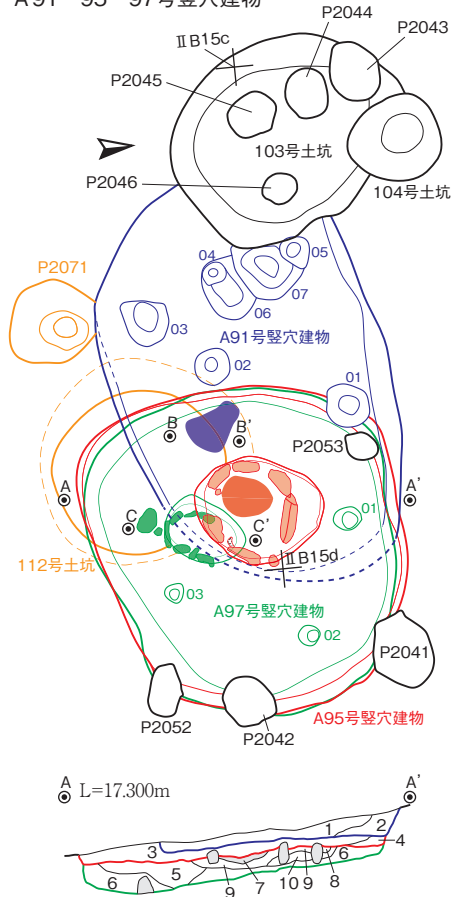
A84号竪穴建物 (D-D')

- 10YR5/3 におい黄褐色真砂土 粘性無 灰白色小塊2~3%
- 7.5YR4/4 褐色真砂土 粘性無
- 10YR5/3 におい黄褐色真砂土 しまりやや無、粘性無 灰白色粒1~2%
- 10YR5/3 におい黄褐色真砂土 しまり・粘性共に無 灰白色小塊7~10%

第50図 A83・84・86~89・94号竪穴建物(2)

2 竪穴建物（縄文時代）

A91・95・97号竪穴建物



A91・95・97号竪穴建物 (A-A')

1. 10YR4/4 褐色シルト φ2～5mmの炭2%、花崗岩粒7%、上部に赤褐色土と暗褐色土各5%
 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 花崗岩粒7%
 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまりやや強 花崗岩粒7%、黒褐色土10%
 4. 10YR4/4 褐色シルト 花崗岩粒10%、にぶい黄褐色土20%
 5. 10YR4/4 褐色シルト しまりやや強 花崗岩粒5%、褐色土10%、黄褐色土2%
 6. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 花崗岩粒10%
 7. 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性やや弱 花崗岩粒2%、褐色土30% 焼部焼土
 8. 10YR4/4 褐色シルト しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩粒・黄褐色土各10%
 9. 10YR4/4 褐色シルト 花崗岩粒20%
 10. 10YR4/3 褐色シルト 花崗岩粒・褐色土10%
- ※1・2層がA91号竪穴建物、3・4層がA95号竪穴建物、5～10層がA97号竪穴建物

A91号竪穴建物炉 (B-B')

1. 10YR4/3にぶい 黄褐色シルト 花崗岩粒5%、褐色土10%

A97号竪穴建物炉 (C-C')

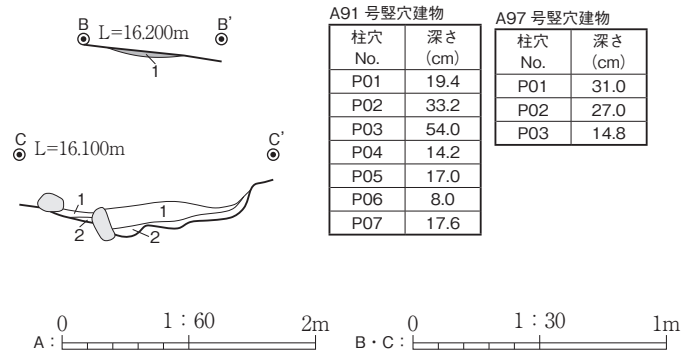
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 花崗岩粒・黒褐色土各5%
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 花崗岩粒・にぶい黄褐色土各20%、暗褐色土10%

A91号竪穴建物P01～07

1. 10YR4/4 褐色シルト 花崗岩粒5%

A97号竪穴建物P01～03

1. 10YR5/4 にぶい黄褐シルト しまり疎、粘性弱 花崗岩粒20%、にぶい黄褐色・橙色土各10%



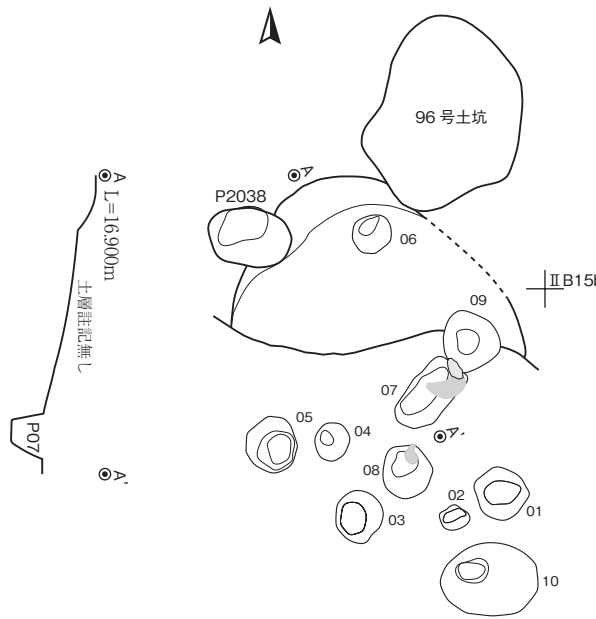
A91号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	19.4
P02	33.2
P03	54.0
P04	14.2
P05	17.0
P06	8.0
P07	17.6

A97号竪穴建物

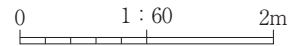
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	31.0
P02	27.0
P03	14.8

A92号竪穴建物



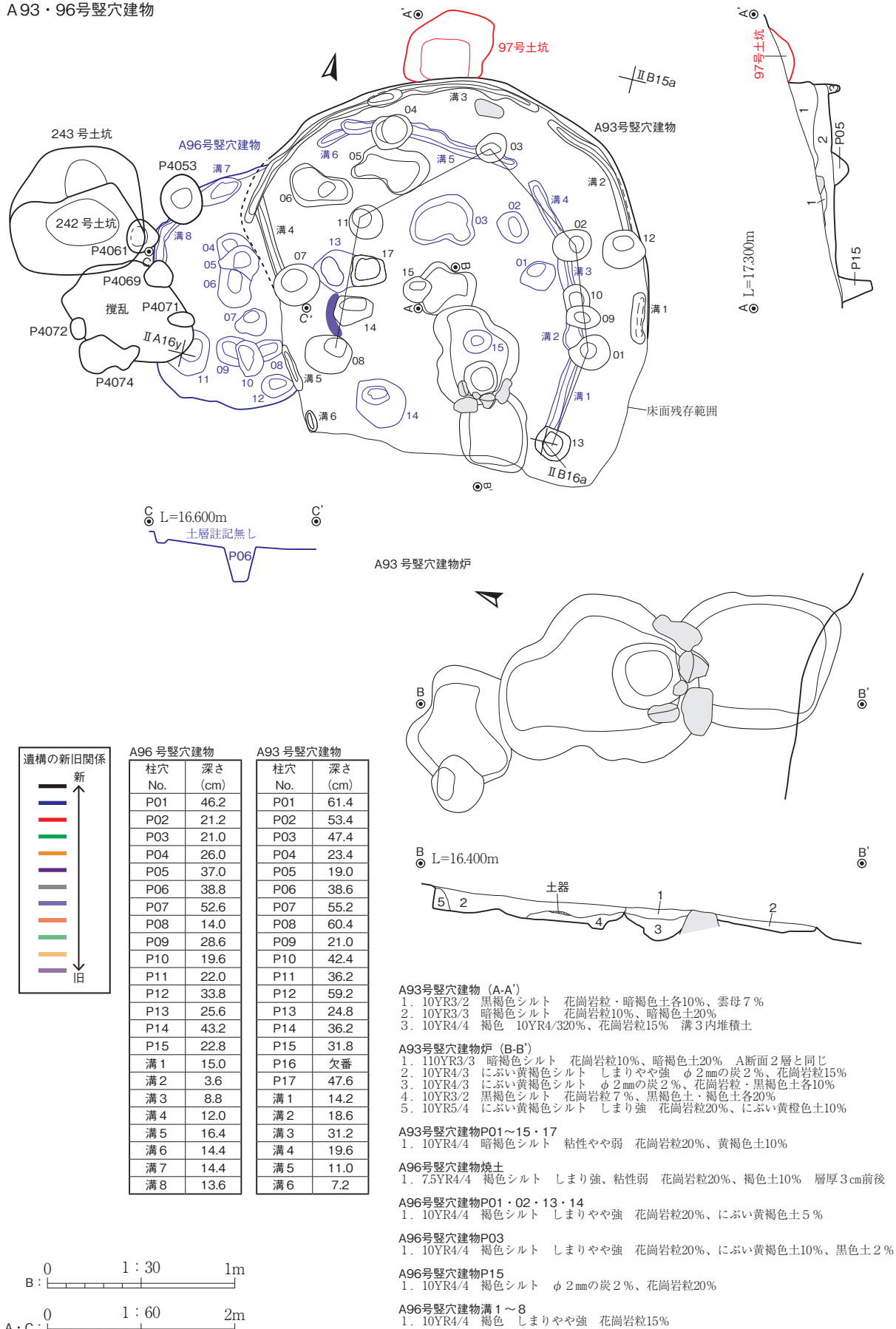
A92号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	28.8
P02	18.6
P03	24.8
P04	25.6
P05	23.8
P06	22.6
P07	31.6
P08	31.2
P09	54.8
P10	32.2



第51図 A91・95・97号竪穴建物、A92号竪穴建物

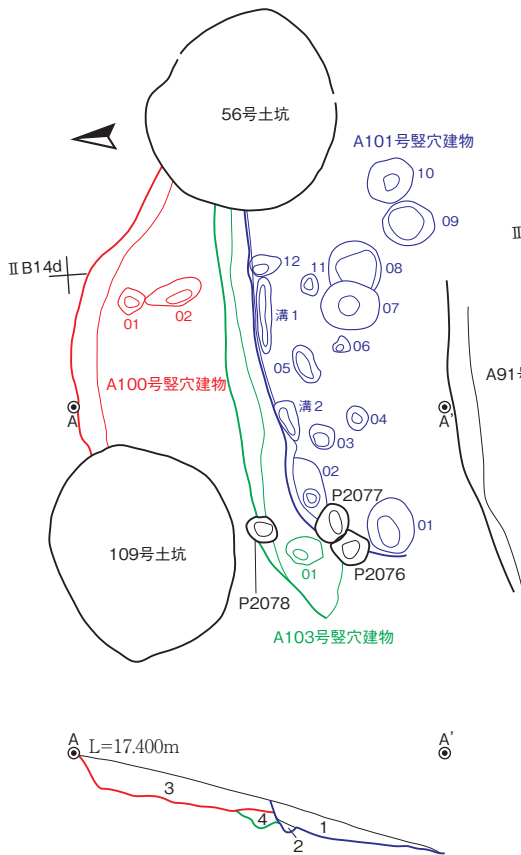
A 93・96号竪穴建物



第 52 図 A 93・96 号竪穴建物

2 竪穴建物（縄文時代）

A 100・101・103号竪穴建物



A100号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	15.6
P02	31.8

A101号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	55.4
P02	23.2
P03	15.4
P04	20
P05	17.2
P06	15.8
P07	36.8
P08	20.6
P09	18.6
P10	27.4
P11	11.6
P12	25.8
溝 1	7.8
溝 2	8.2

A103号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	49.0

A100・101・103号竪穴建物 (A-A')

- 10YR3/3 暗褐色シルト 花崗岩粒 5%
 - 10YR4/4 褐色シルト 花崗岩粒 2%
 - 10YR3/3 暗褐色シルト φ 2~3mmの炭 2%、黒褐色土・花崗岩粒各 5%
 - 10YR4/4 褐色シルト 粘性弱 暗褐色土 20%
- ※ 1・2層がA101号竪穴建物、3層がA100号竪穴建物、4層がA103号竪穴建物堆積土

A100号竪穴建物P01・02

- 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 花崗岩粒 2%

A101号竪穴建物P01・07・09

- 10YR3/2 黒褐色シルト 暗褐色土 20%、花崗岩粒 2%

A101号竪穴建物P02~06・08・10

- 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 花崗岩粒 5%

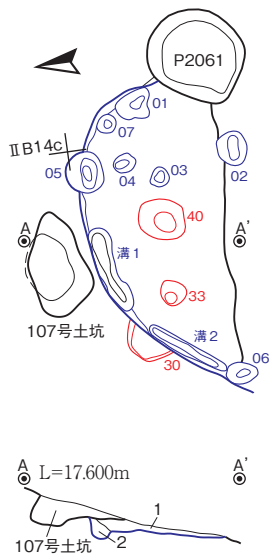
A101号竪穴建物溝 1・2

- 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 暗褐色土 10%、にぶい黄褐色土 20%

A103号竪穴建物P01

- 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 花崗岩粒 5%

A 102号竪穴建物



A102号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	12.6
P02	32.0
P03	14.4
P04	16.8
P05	16.4
P06	17.6
P07	10.0
溝 1	22.2
溝 2	12.4



A102号竪穴建物 (A-A')

- 10YR3/3 暗褐色シルト 花崗岩粒 10%
- 10YR3/4 暗褐色シルト 花崗岩粒 5%、周溝内堆積土

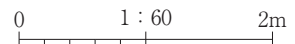
A102号竪穴建物P01

- 10YR3/4 暗褐色シルト 暗褐色土・花崗岩粒各 5%

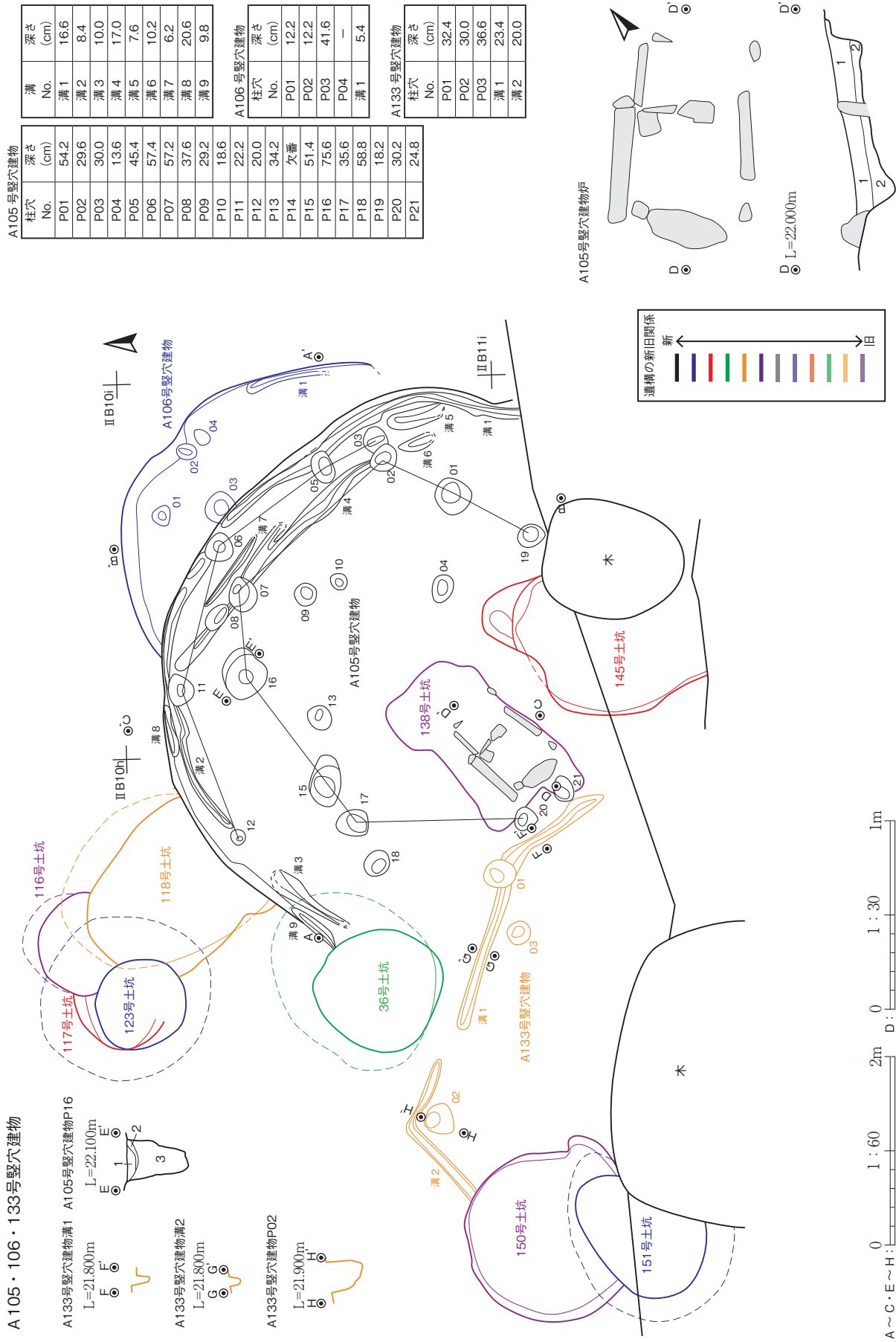
A102号竪穴建物P02・03・04

- 10YR3/4 暗褐色シルト 花崗岩粒 2%

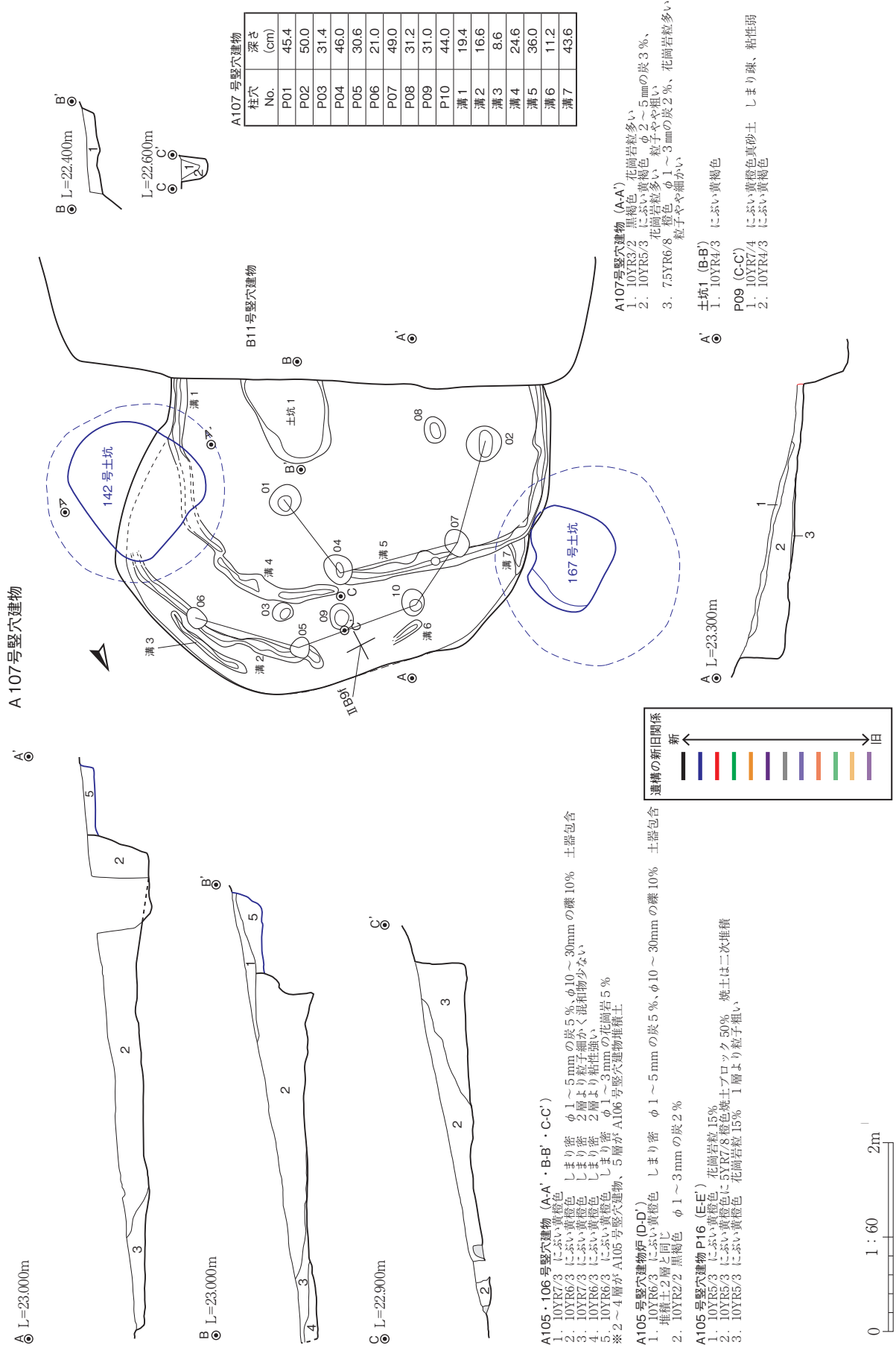
※ 赤字はA99号竪穴建物の柱穴番号



第 53 図 A 100・101・103号竪穴建物、A 102号竪穴建物

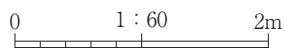
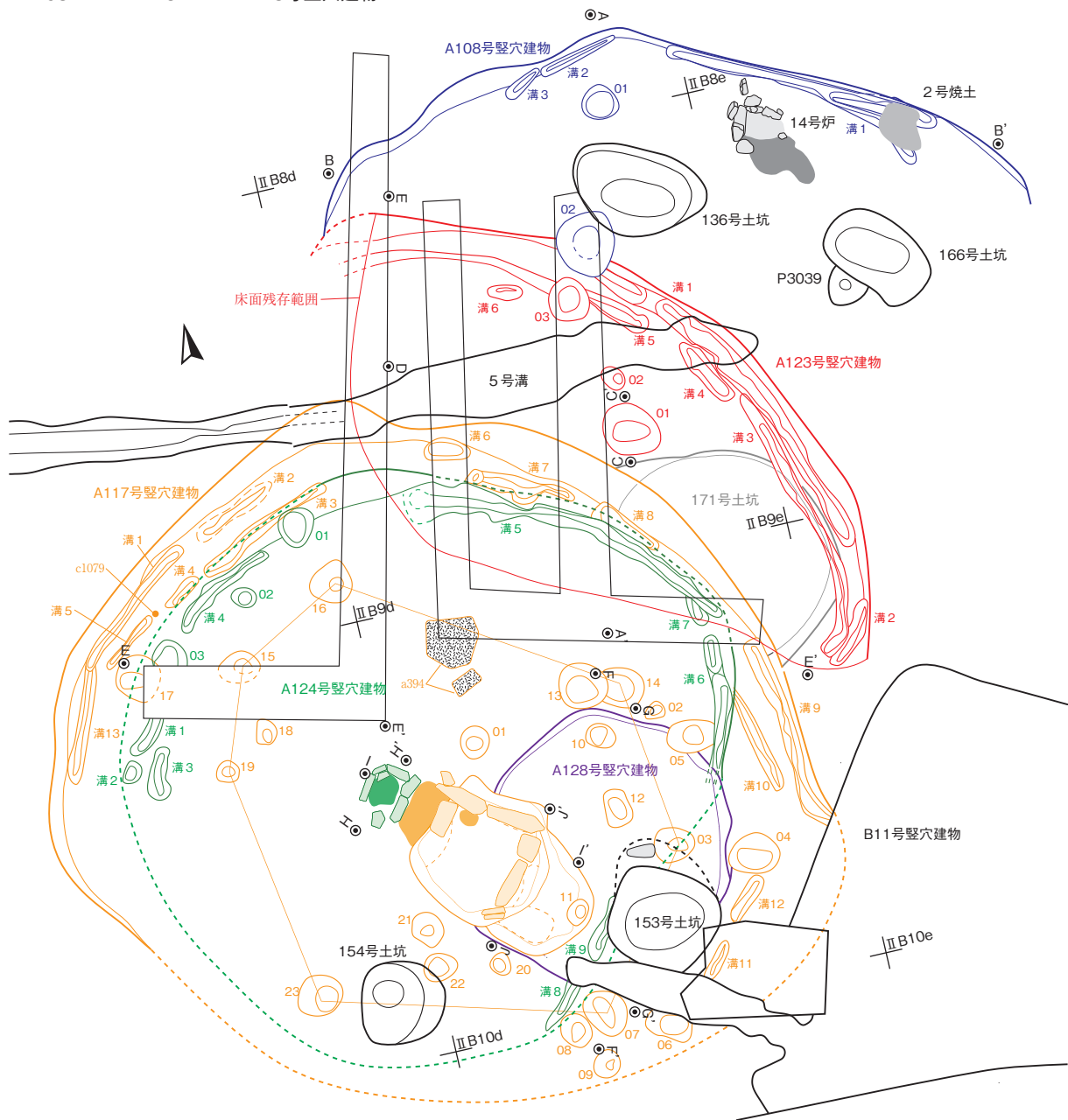


第54図 A105・106・133号竪穴建物(1)



第55図 A 105・106・133号竖穴建物（2）、A 107号竖穴建物

A 108・117・123・124・128号竪穴建物



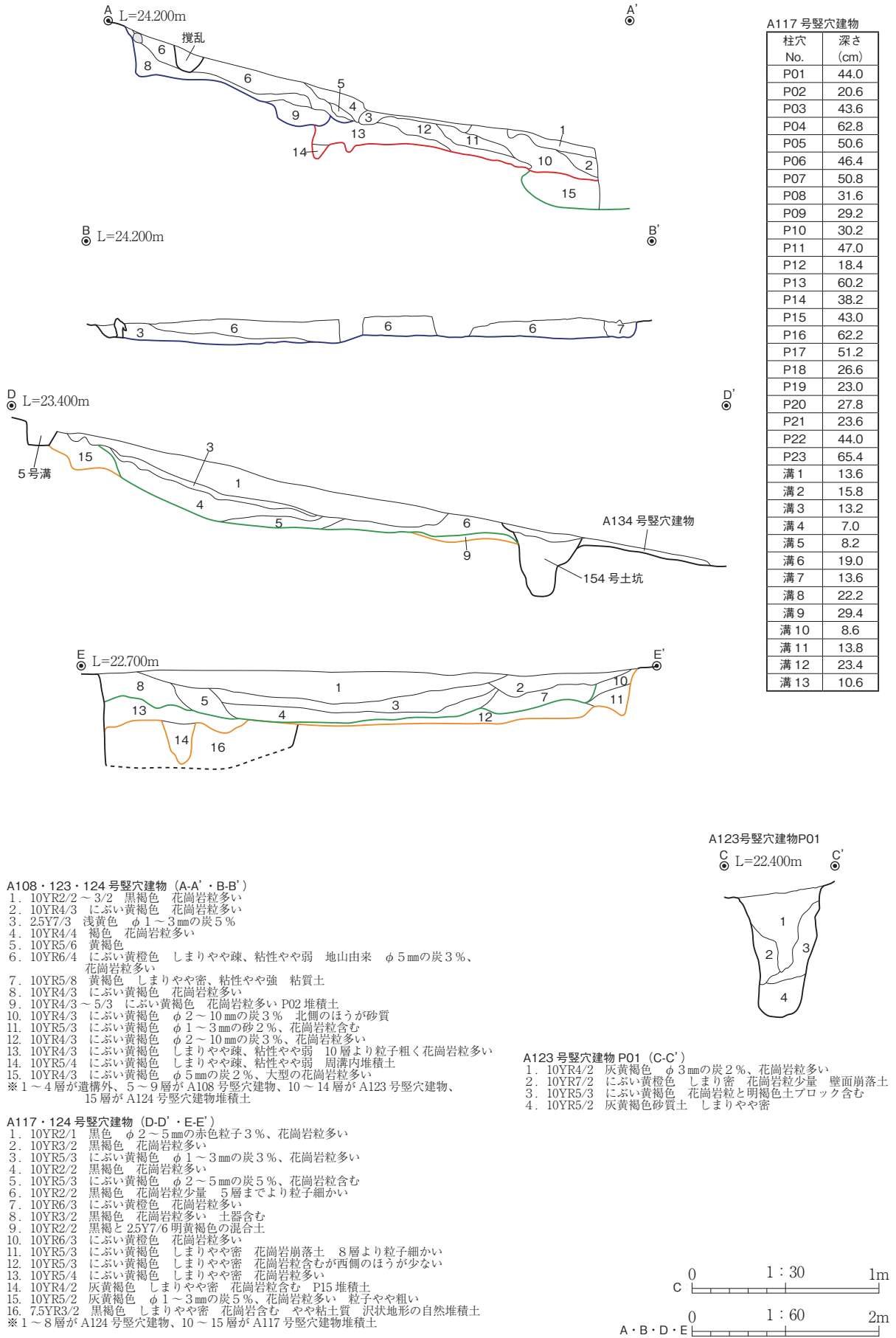
A108号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	13.6
P02	42.2
溝 1	24.0
溝 2	20.2
溝 3	13.0

A123号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	72.0
P02	28.6
P03	31.8
溝 1	46.6
溝 2	29.6
溝 3	26.8
溝 4	10.2
溝 5	19.6
溝 6	18.0

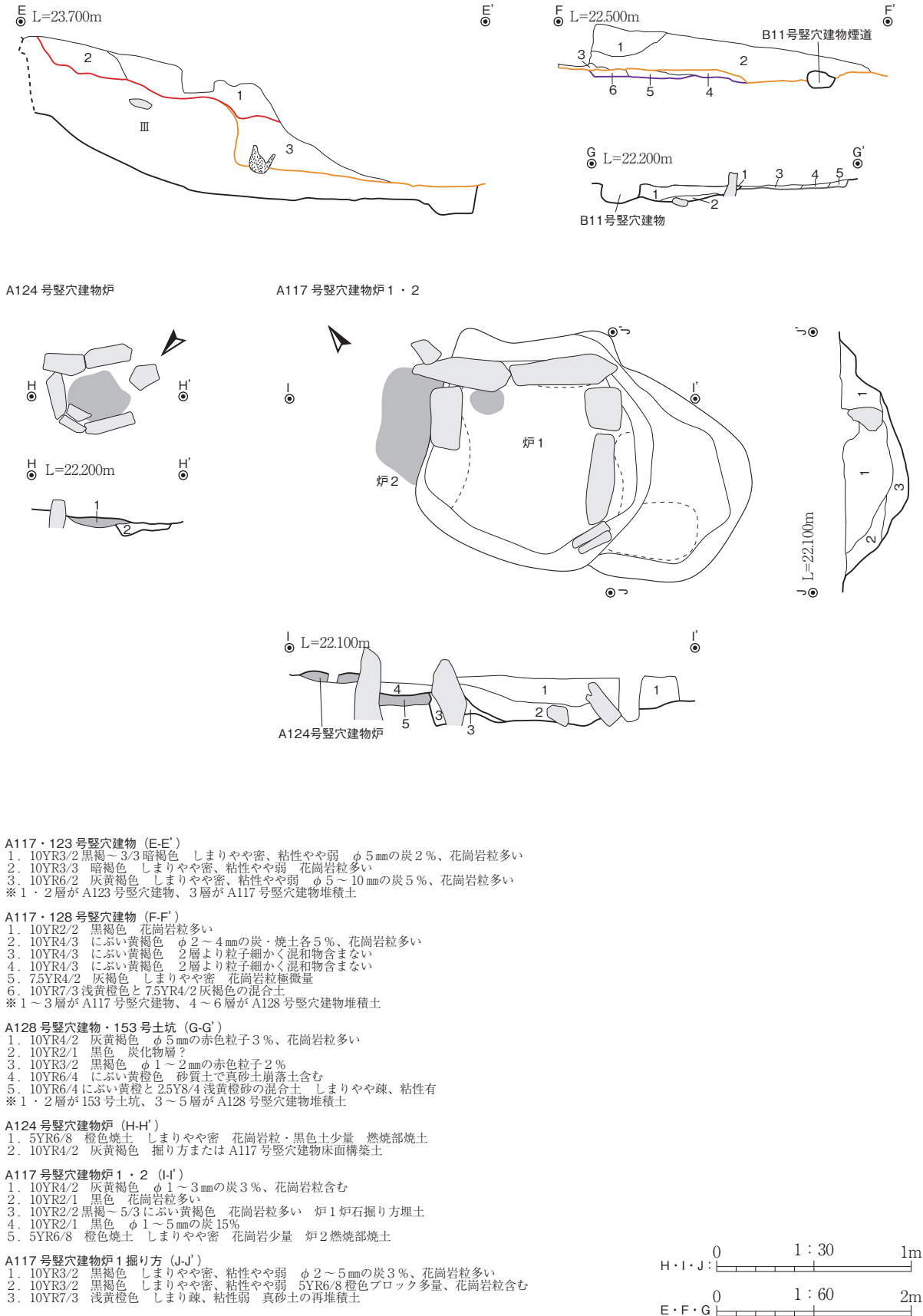
A124号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	8.6
P02	4.6
P03	4.4
溝 1	7.4
溝 2	5.6
溝 3	7
溝 4	8.6
溝 5	30.8
溝 6	18.2
溝 7	10.2
溝 8	13.0
溝 9	22.8

第 56 図 A 108・117・123・124・128号竪穴建物 (1)

2 竖穴建物（縄文時代）



第57図 A 108・117・123・124・128号竖穴建物（2）



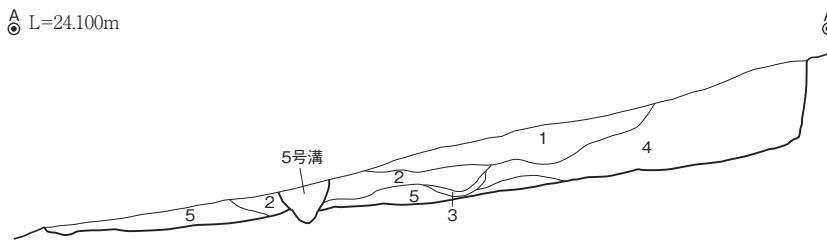
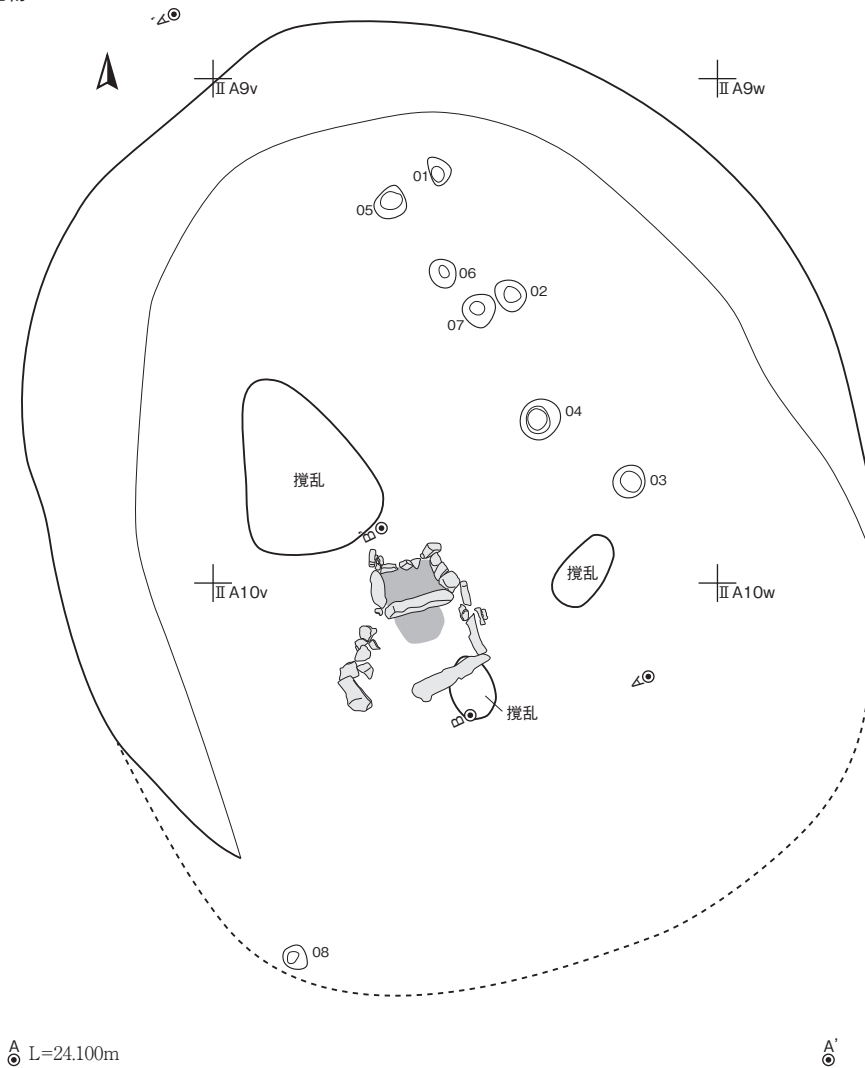
第58図 A 108・117・123・124・128号竪穴建物(3)

2 竪穴建物（縄文時代）

A109号竪穴建物

A109号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	48.2
P02	25.4
P03	28.8
P04	57.8
P05	37.6
P06	21.6
P07	24.0
P08	54.6

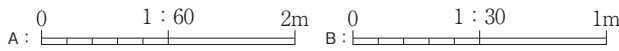
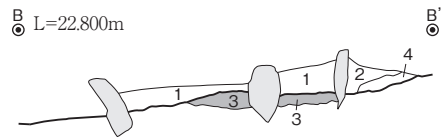
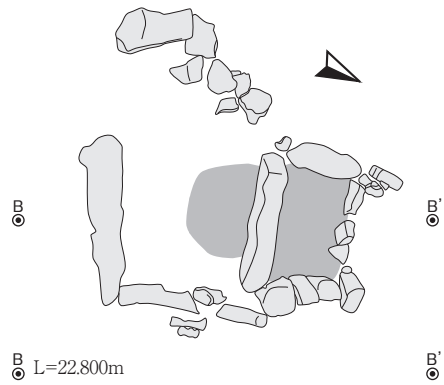


A109号竪穴建物 (A-A')

- 10YR3/3 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 におい黄褐色土10%、花崗岩粒5%
- 10YR2/3 黒褐色 しまりやや密、粘性無 花崗岩粒3%
- 7.5YR3/4暗褐色焼土と10YR2/3黒褐色土の混合土 炭1%
- 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 花崗岩粒3%
- 10YR3/4 暗褐色 しまりやや密、粘性弱 花崗岩粒3%

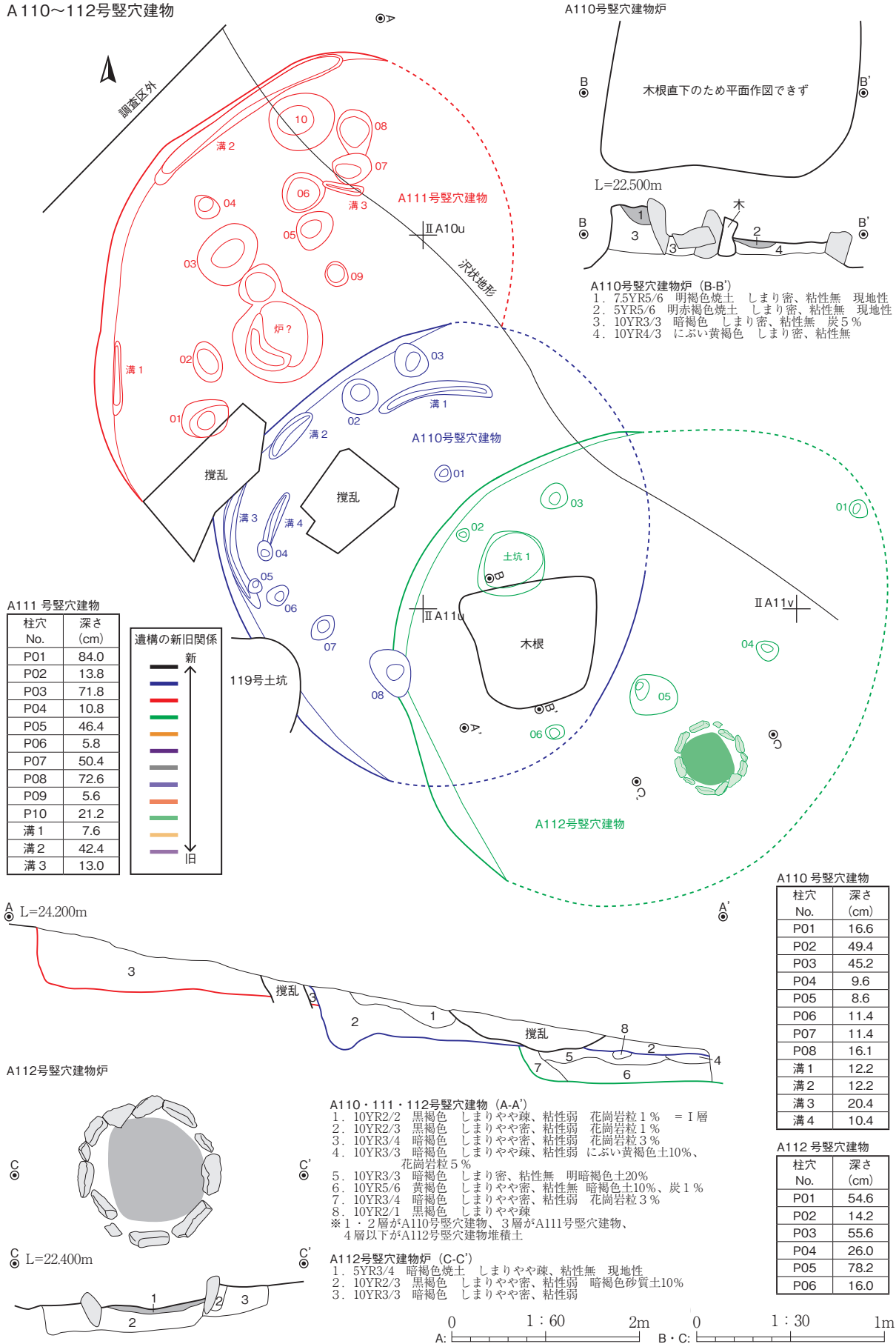
A109号竪穴建物炉 (B-B')

- 10YR2/1 黒色 しまりやや疎、粘性無
- 10YR4/6 褐色 しまりやや疎、粘性無
- 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまりやや密、粘性無 現地性
- 10YR2/3 黒褐色 しまりやや疎、粘性無



第 59 図 A 109 号竪穴建物

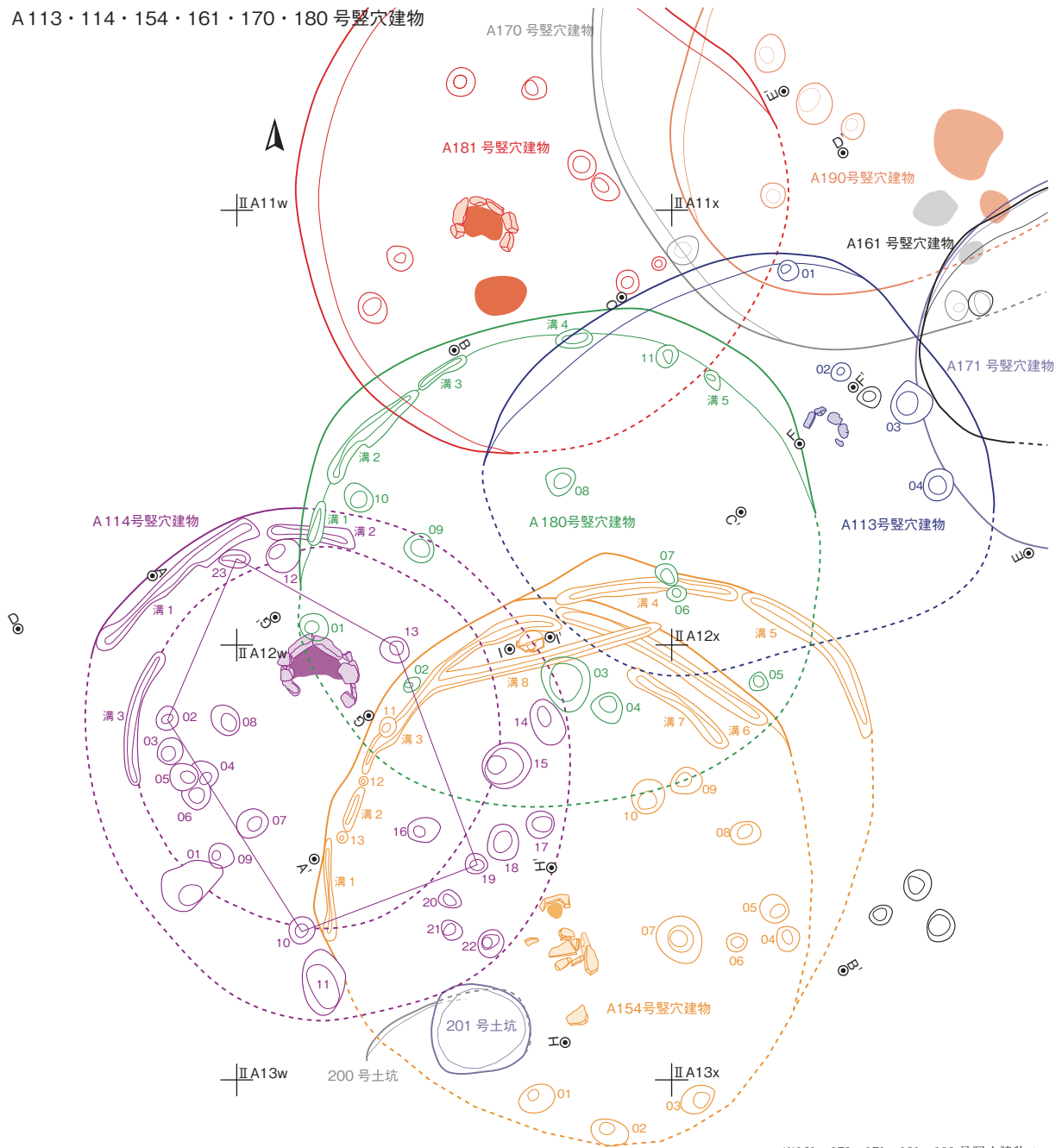
A110~112号竪穴建物



第60図 A110~112号竪穴建物

2 竪穴建物（縄文時代）

A113・114・154・161・170・180号竪穴建物



※161・170・171・181・190号竪穴建物の個別図、柱穴一覧は別図面



A113号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	36.6
P02	22.6
P03	38.0
P04	47.4

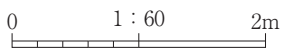
A114号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	58.4
P02	22.2
P03	20.2
P04	35.2
P05	44.0
P06	32.6
P07	33.4
P08	46.6
P09	33.6
P10	15.8
P11	82.0
P12	25.6
P13	26.6

A154号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P14	42.0
P15	33.0
P16	40.8
P17	27.2
P18	32.2
P19	22.8
P20	33.0
P21	32.8
P22	44.0
P23	10.2
溝1	49.0
溝2	27.2
溝3	12.0

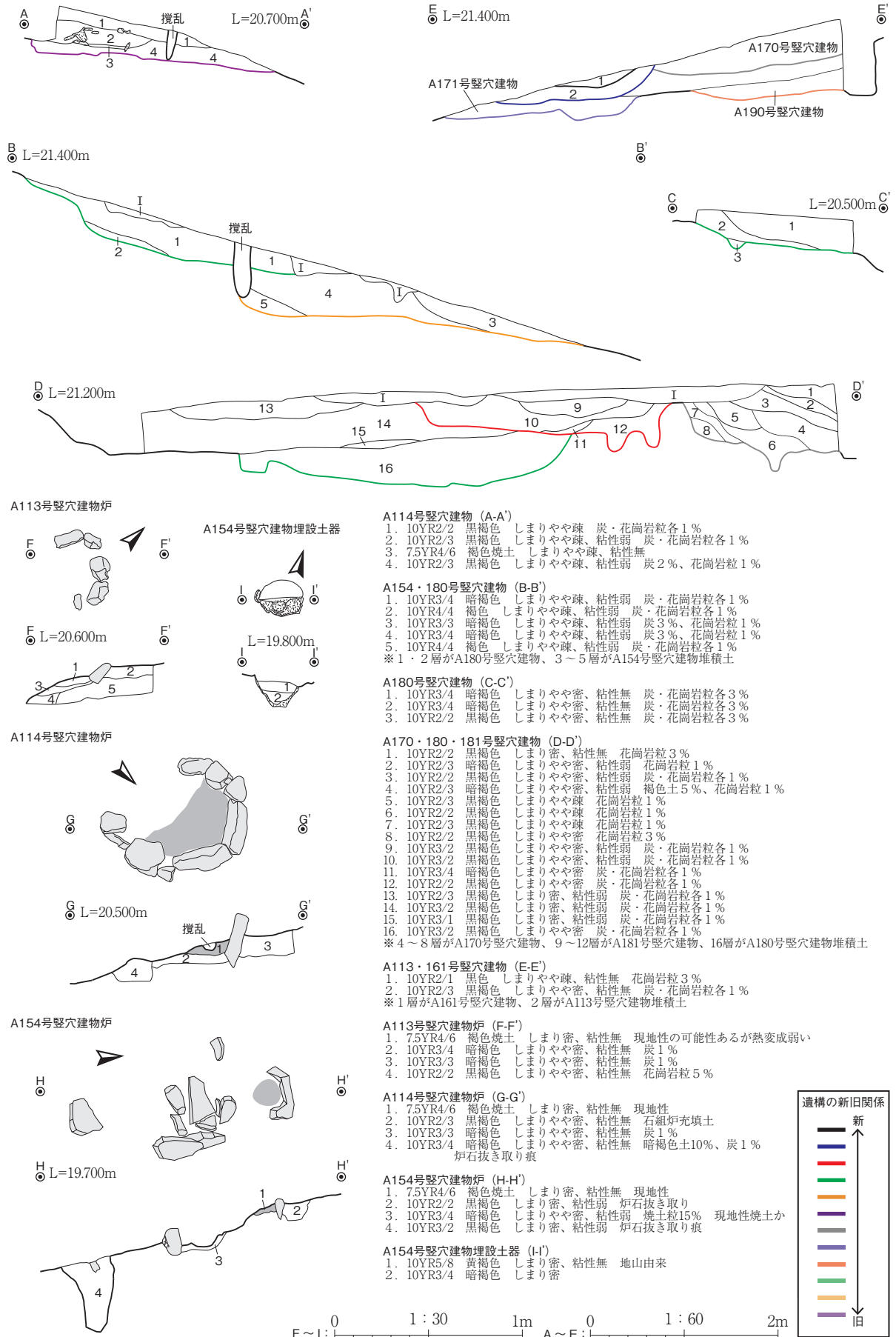
A180号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	18.4
P02	29.0
P03	11.0
P04	20.4
P05	13.4
P06	12.4
P07	46.4
P08	26.4
P09	53.6
P10	44.4
P11	21.6
P12	5.4
P13	12.8

A180号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
溝1	4.2
溝2	5.2
溝3	27.4
溝4	11.2
溝5	20.4
溝6	13.4
溝7	17.8
溝8	19.6

A180号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	55.6
P02	14.4
P03	20.8
P04	38.6
P05	11.2
P06	19.4
P07	32.4
P08	40.8
P09	28.6
P10	34.4
P11	13.0
溝1	11.8
溝2	21.4
溝3	16.8
溝4	7.2
溝5	4.8



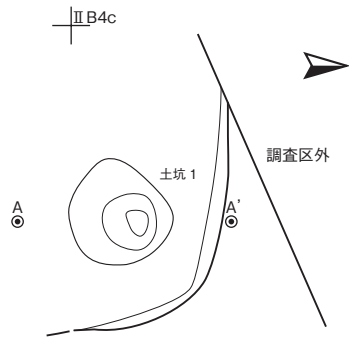
第61図 A113・114・154・161・170・180号竪穴建物（1）



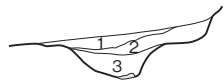
第62図 A113・114・154・161・170・180号竪穴建物(2)

2 竪穴建物（縄文時代）

A 115号竪穴建物

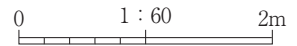


A L=27.800m

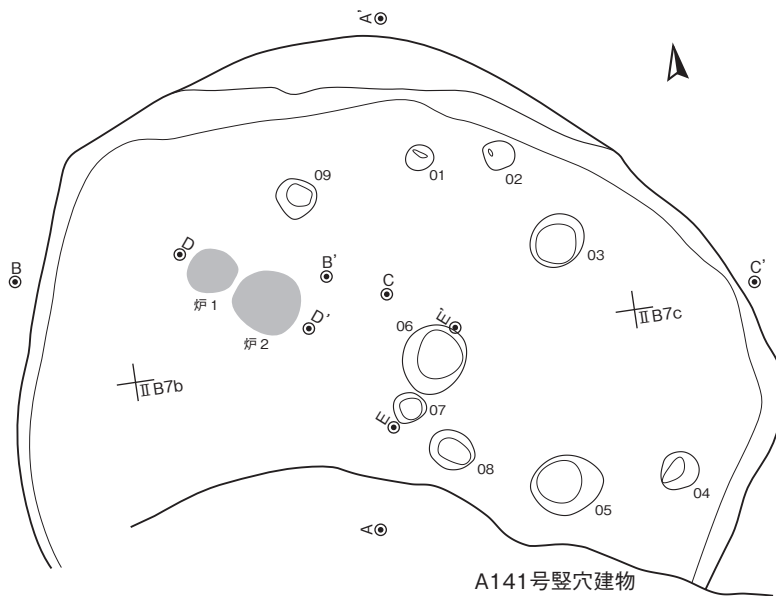


A115号竪穴建物

- 1. 10YR2/3 黒褐色 しまり密、粘性弱 全体に真砂土粒、下位に褐色土ブロック多量
- 2. 10YR2/3 黒褐色 しまり密、粘性弱 全体に真砂土粒
- 3. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性弱 全体に真砂土粒（1・2層より少量）、中位に褐色土ブロック



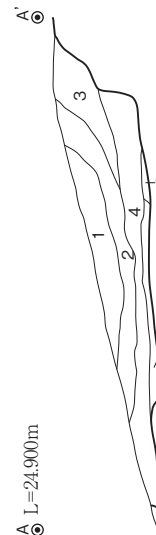
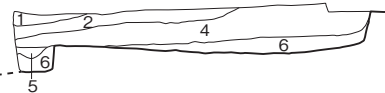
A 116号竪穴建物



B L=24.500m

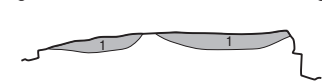


C L=24.500m

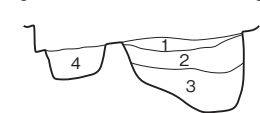


A L=24.900m

D L=24.000m



E L=24.100m



柱穴 No.	深さ (cm)
P01	45.0
P02	64.6
P03	67.6
P04	60.2
P05	51.0
P06	33.5
P07	11.5
P08	11.6
P09	60.2

A116号竪穴建物 (A-A'・B-B'・C-C')

- 1. 10YR5/3 におい黄褐色砂質土 しまり密、粘性無 全体に白色粒子含む
- 2. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性無 全体に白色粒子含む 斜面上方に土器多い、炭多量
- 3. 10YR4/4 褐色 しまり密、粘性無 斜面上方に黄褐色砂質土、全体に白色粒子含む
- 4. 10YR4/4 褐色 しまり密、粘性無 全体に白色粒子含む 炭少量
- 5. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性無 全体に白色粒子含む
- 6. 10YR2/1 黒色 しまり密、粘性無 炭多量 床面構築土か

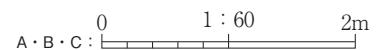
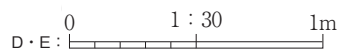
炉1・2 (D-D')

- 1. 7.5YR4/4 褐色 しまり疎、粘性無 現地性焼土

P06・07 (E-E')

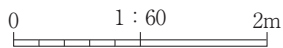
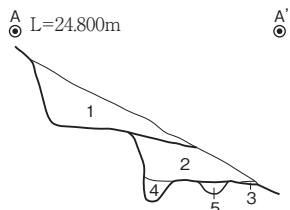
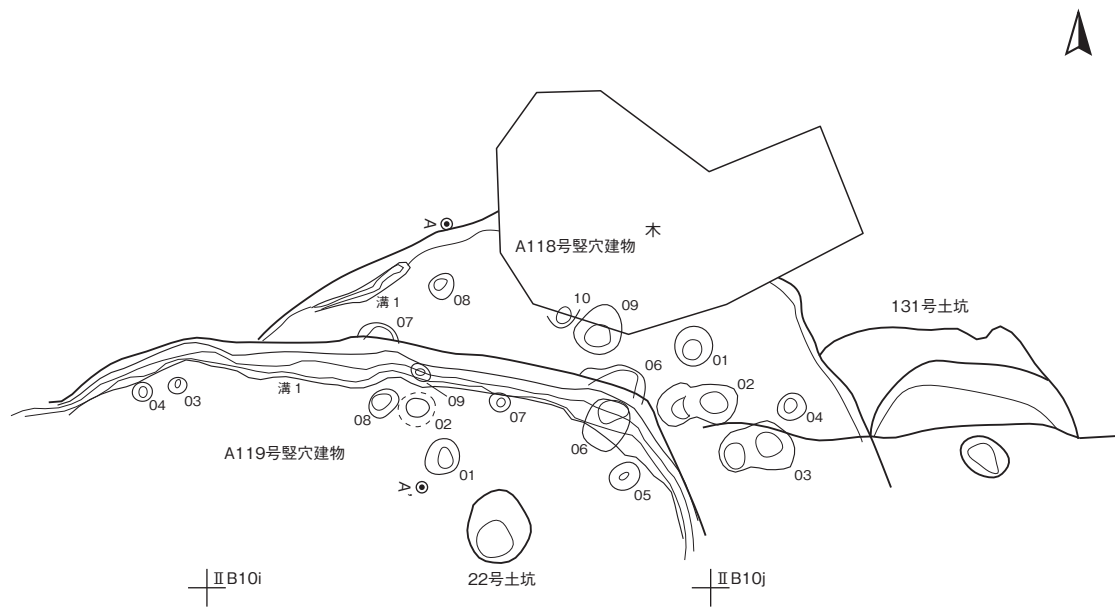
- 1. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性無 全体に白色粒子含む
- 2. 10YR4/4 褐色 しまりやや疎、粘性無 炭少量
- 3. 10YR2/3 黒褐色 しまり疎、粘性無 白色粒子含む
- 4. 10YR3/3 暗褐色 しまり疎、粘性無 炭少量

※ 1～3層がP06、4層がP07堆積土



第 63 図 A 115 号竪穴建物、A 116 号竪穴建物

A118・119号竪穴建物



A118・119号竪穴建物 (A-A')

1. 10YR6/4 にぶい黄橙色 しまりやや密 粘性やや弱 花崗岩粒多い
 2. 10YR6/4 にぶい黄橙色 しまりやや密 粘性やや弱 ϕ 1~3mmの炭5%、花崗岩粒含む
 3. 5YR6/6 橙色 しまり密 二次堆積焼土 花崗岩粒含む
 4. 10YR6/3 にぶい黄橙色 しまりやや密 粘性やや弱 周溝内堆積土
- ※1層がA118号竪穴建物、2~4層がA119号竪穴建物堆積土

A118号竪穴建物 P01

1. 10YR5/3 にぶい黄褐色 ϕ 1~3mmの炭3%

A118号竪穴建物 P02

1. 10YR6/3 にぶい黄褐色 花崗岩含む
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色 花崗岩含む

A118号竪穴建物 P05・06

1. 10YR5/3 にぶい黄褐色 花崗岩粒多い

A118号竪穴建物 P09・10

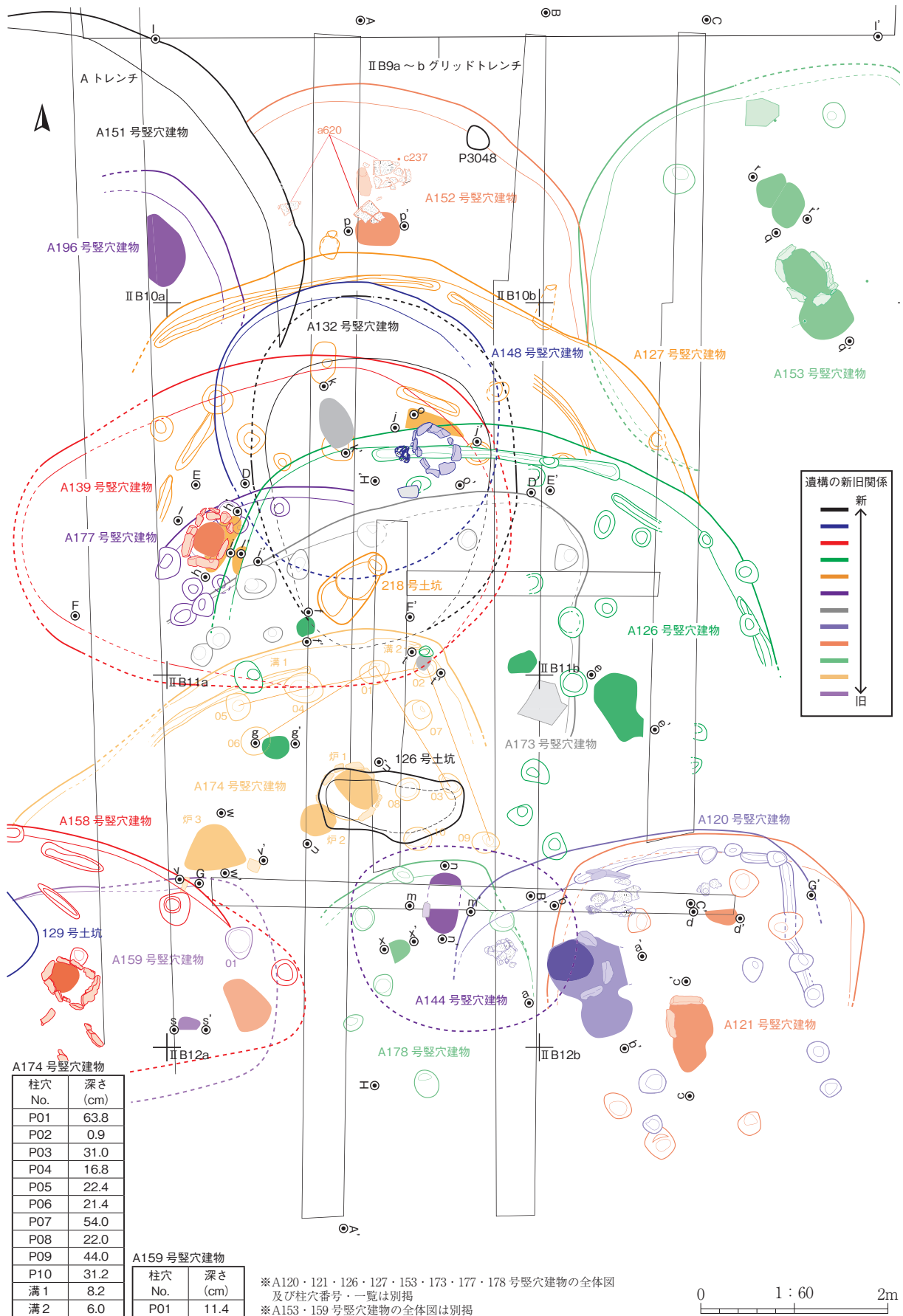
1. 10YR6/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎 粘性やや弱 ϕ 1~3mmの炭2%

A118号竪穴建物		A119号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)
P01	55.2	P01	13.8
P02	48.6	P02	17.2
P03	45.0	P03	15
P04	18.2	P04	27.6
P05	欠番	P05	21.8
P06	28.2	P06	39.8
P07	19.0	P07	21.6
P08	13.0	P08	10.4
P09	48.6	P09	18.8
P10	43.0	溝1	31.0
溝1	17.8		

第64図 A118・119号竪穴建物

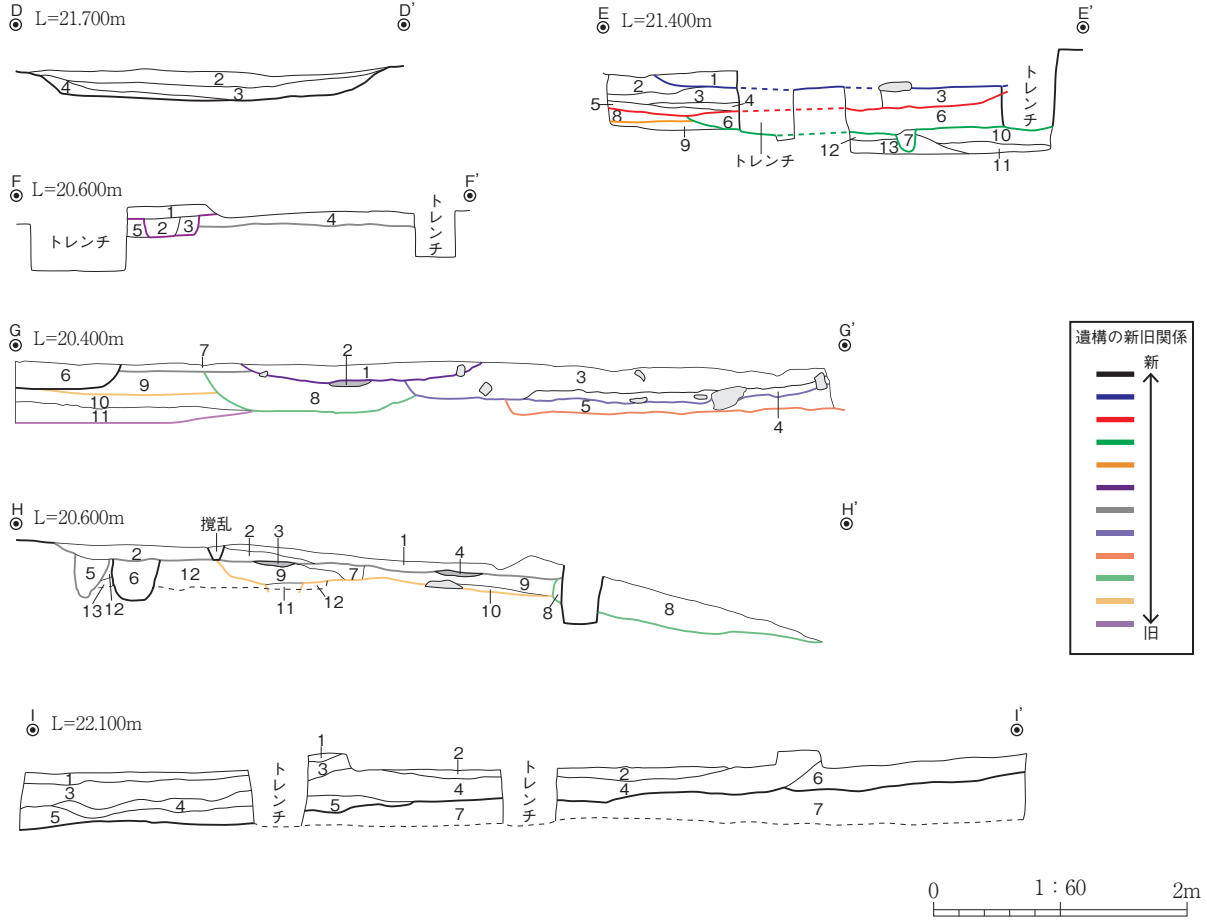
2 竪穴建物（縄文時代）

A120・121・126・127・132・139・144・148・152・153・159・173・174・177・178号竪穴建物



第 65 図 A 120・121・126・127・132・139・144・148・152
 ・153・159・173・174・177・178号竪穴建物（1）

2 竪穴建物（縄文時代）



A120・121・126・153号竪穴建物 (C-C')

1. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性弱 炭・花崗岩粒各3%
 2. 10YR2/2 暗褐色 しまり密、粘性弱 明黄褐色土15%、炭3%、花崗岩粒1%
 3. 10YR3/4 暗褐色 しまりやや密、粘性弱 炭2%、焼土20%、花崗岩粒1%
 4. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまり密、粘性弱 炭3%、花崗岩粒5%
 5. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性弱
 6. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性弱 炭3%、花崗岩粒5%
 7. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、粘性弱 炭5%、花崗岩粒1%
 8. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性弱
 9. 10YR4/3 にぶい黄褐色 =G断面3層
 10. 10YR2/2 黒褐色 =G断面4層
 11. 10YR3/3 暗褐色 =G断面5層
 12. 10YR2/2 暗褐色 しまり密、炭5%、焼土1%、花崗岩粒3%
 13. 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性弱 炭2%、花崗岩粒7%
 14. =I断面4層
- *1~5層がA153号竪穴建物、6・7層がA126号竪穴建物、9・10層がA120号竪穴建物、11層がA121号竪穴建物堆積土

A126・127・139・148号竪穴建物 (E-E')

1. 10YR3/3 暗褐色 =A断面8層
 2. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性弱 炭5%、花崗岩粒3%
 3. 10YR3/3 暗褐色 =A断面11層
 4. 10YR3/3 暗褐色 =A断面12層
 5. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性弱 炭25%、花崗岩粒3%
 6. 10YR3/2 黒褐色 =A断面15層
 7. 10YR2/3 黒褐色 しまり密、花崗岩粒1% P18堆積土
 8. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性弱 炭・花崗岩粒各3%
 9. 10YR2/1 黒色 しまり密、粘性弱 にぶい黄褐色土(火山灰?)2%
- 1断面5層と類似
10. 10YR2/1 黒色 =B断面29層
11. 10YR3/2 黒褐色 =B断面28層
12. 10YR2/3 黒褐色 しまり密、炭1%、花崗岩粒2%
13. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性弱 花崗岩粒・酸化鉄各3%
- 1断面4層と類似
*1層がA148号竪穴建物、2~5層がA139号竪穴建物、6・7層がA126号竪穴建物、8層がA127号竪穴建物堆積土

A173・177号竪穴建物 (F-F')

1. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性弱 炭1%、花崗岩粒3%
 2. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性弱 炭1%、花崗岩粒2%
- P09堆積土
3. 2層と同じ P08堆積土
4. 10YR2/3 黒褐色 =H断面2層
5. 10YR2/3 黒褐色 しまり密、粘性弱 炭2%、花崗岩粒3%

*1~3層がA177号竪穴建物、4層がA173号竪穴建物堆積土

A120・121・144・157・173・174・178号竪穴建物 (G-G')

1. 10YR4/2 灰黄褐色 しまり密、炭7%、花崗岩粒1%
 2. 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまりやや密、粘性無
 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまり密、炭5%、花崗岩粒3%
 4. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性強 炭50%、花崗岩粒2%
 5. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性強 炭2%、花崗岩粒3%
 6. A157号竪穴建物堆積土
 7. 10YR3/2 黒褐色 =H断面1層
 8. 10YR3/2 黒褐色 =H断面8層
 9. 10YR3/3 暗褐色 =H断面9層
 10. A158号竪穴建物堆積土
 11. A159号竪穴建物堆積土
- *1・2層がA144号竪穴建物、3・4層がA120号竪穴建物、5層がA121号竪穴建物、6層がA157号竪穴建物、7層がA173号竪穴建物、8層がA178号竪穴建物、9層がA174号竪穴建物、10・11層がA159号竪穴建物堆積土

A173・174・A178号竪穴建物 (H-H')

1. 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性弱 炭・花崗岩粒各2%
 2. 10YR2/3 黒褐色 しまり密、粘性弱 炭・花崗岩粒各2%
 3. 7.5YR3/4 暗褐色 しまりやや疎 炭1% 如2燃焼部
 4. 7.5YR4/6 褐色 しまりやや密、粘性弱 炭1% 如1燃焼部
 5. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 炭2%、花崗岩粒1% P01堆積土
 6. 218号土坑堆積土
 7. 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性弱 炭・花崗岩粒各1%
 8. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性無 にぶい黄褐色土20%、炭3%、花崗岩粒1%
 9. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性弱 炭・花崗岩粒各1%
 10. 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性無 炭・花崗岩粒各1%
 11. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 P01堆積土
 12. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、炭2%、花崗岩粒1%
 13. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、炭・花崗岩粒各1%
- *1~5層がA173号竪穴建物、8層がA178号竪穴建物、9~11層がA174号竪穴建物堆積土

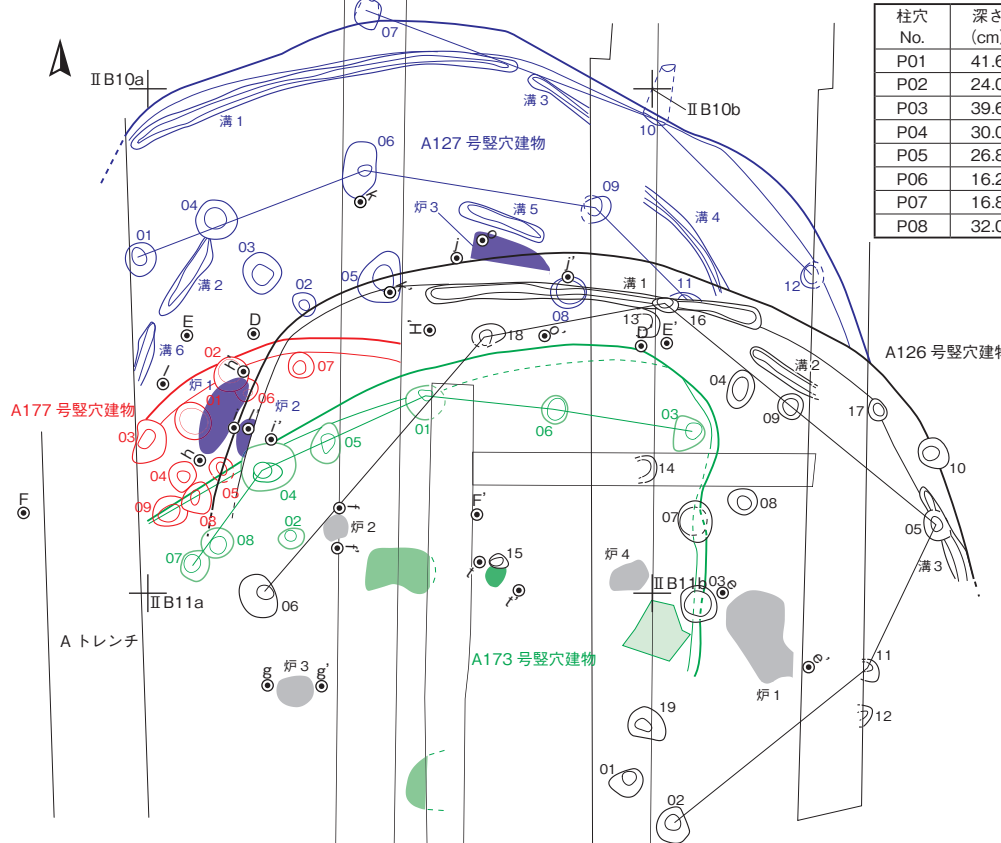
II B9a~bグリッドトレンチ (I-I')

1. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、粘性無 炭3%
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性無 炭5%、褐色土10%
3. 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性弱 炭3%
4. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性弱 炭2% 酸化鉄斑状に含み、西側ほど顕著
5. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、白色土ブロック (To-Cu テフラ) 3%
6. 10YR2/3 黒褐色 しまり密、粘性弱 炭2%
7. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性強 花崗岩粒10% (地山)

第67図 A 120・121・126・127・132・139・144・148・152

・153・159・173・174・177・178号竪穴建物(3)

A126・127・173・177号竪穴建物



A173号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	41.6
P02	24.0
P03	39.6
P04	30.0
P05	26.8
P06	16.2
P07	16.8
P08	32.0

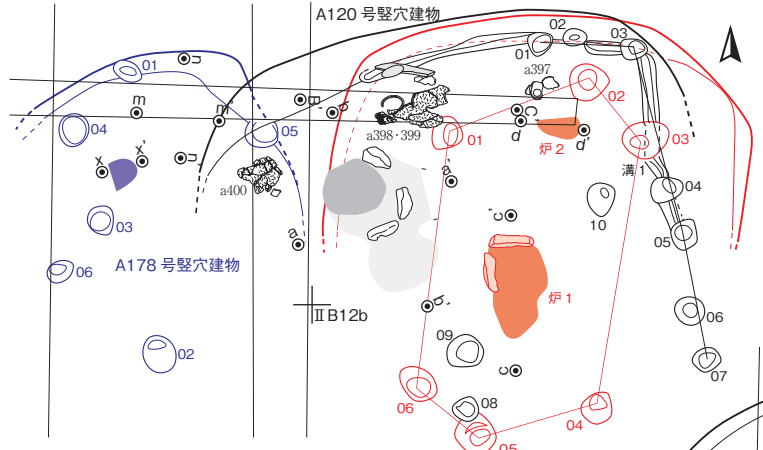
A126号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	25.0
P02	29.2
P03	34.6
P04	26.8
P05	41.6
P06	42.2
P07	31.0
P08	20.8
P09	14.6
P10	29.0
P11	32.4
P12	27.2
P13	16.6
P14	23.4
P15	19.6
P16	16.0
P17	14.4
P18	16.0
P19	59.0
溝 1	22.6
溝 2	13.6
溝 3	20.2

A127号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	21.0
P02	25.0
P03	24.3
P04	22.2
P05	25.8
P06	57.6
P07	20.3
P08	21.0
P09	28.8
P10	37.2
P11	9.0
P12	10.8
溝 1	16.0
溝 2	9.8
溝 3	8.0
溝 4	3.4
溝 5	9.2
溝 6	11.2

A120・121・178号竪穴建物



A177号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	20.2
P02	23.4
P03	32.6
P04	16.2
P05	10.0
P06	13.4
P07	10.0
P08	48.2
P09	26.2

A153号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	25.4
P02	61.6
P03	35.0

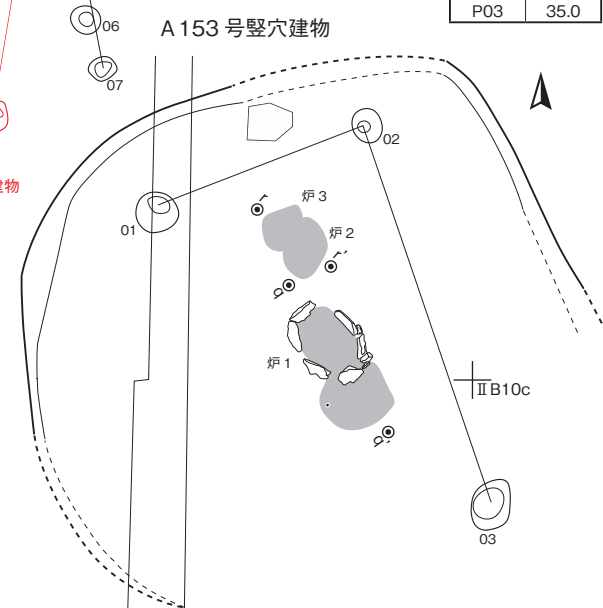
遺構の新旧関係

新 ↑
旧 ↓

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	46.0
P02	54.4
P03	40.2
P04	41.8
P05	13.4
P06	25.4
P07	16.0
P08	22.0
P09	30.8
P10	57.8
溝 1	22.8

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	43.8
P02	24.6
P03	43.8
P04	13.6
P05	46.0
P06	28.4

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	41.0
P02	30.5
P03	22.0
P04	11.0
P05	10.0
P06	27.2

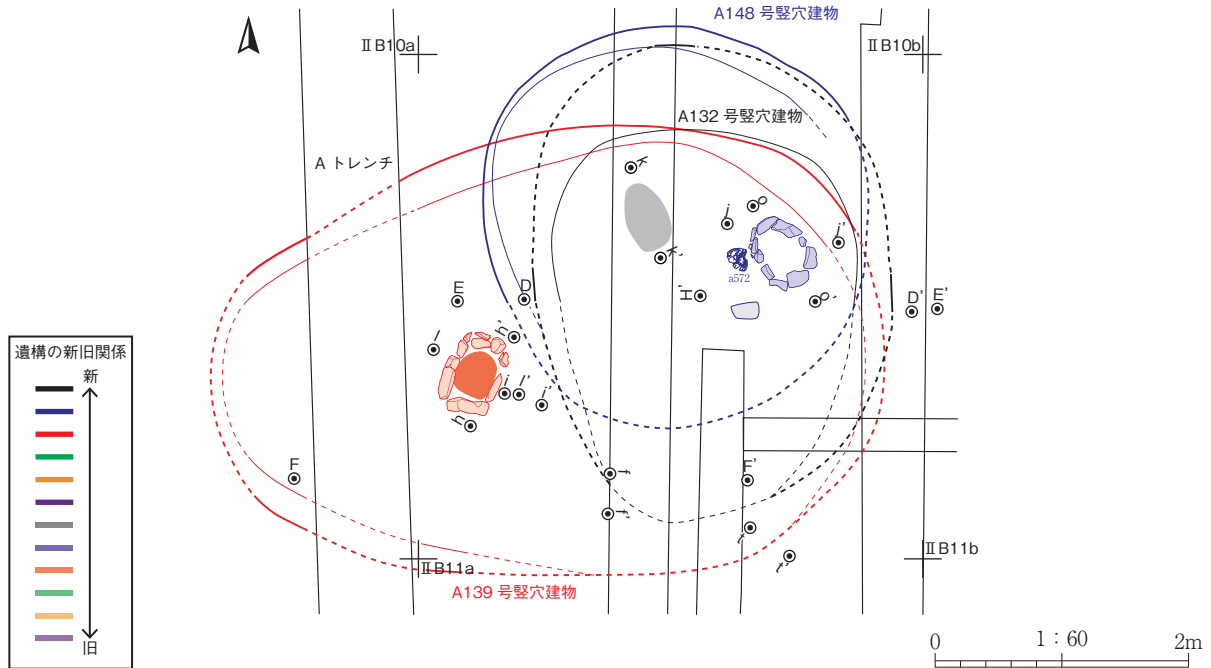


0 1:60 2m

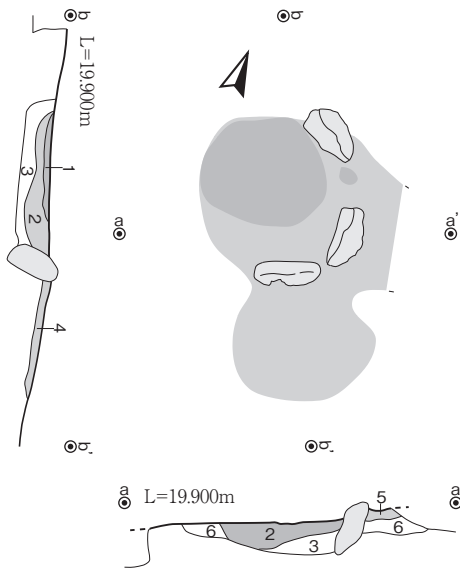
第 68 図 A 120・121・126・127・132・139・144・148・152
・153・159・173・174・177・178号竪穴建物 (4)

2 竪穴建物（縄文時代）

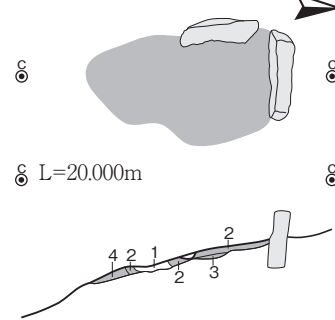
A 132・139・148 号竪穴建物



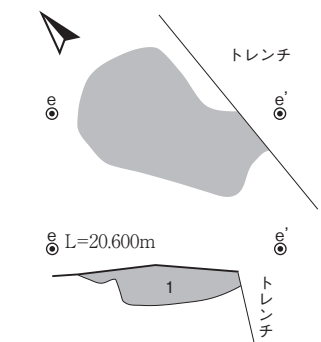
A120 号竪穴建物



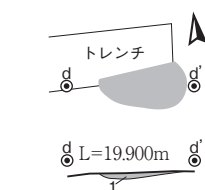
A121 号竪穴建物炉 1



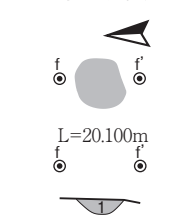
A126 号竪穴建物炉 1



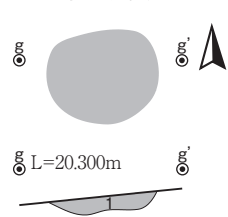
A121 号竪穴建物炉 2



A126 号竪穴建物炉 2



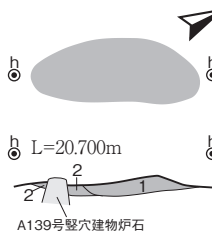
A126 号竪穴建物炉 3



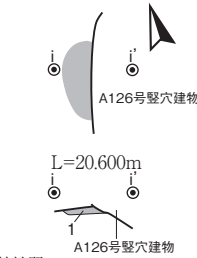
A120 号竪穴建物炉 (a-a'・b-b')

- 10YR2/3 黒褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭 10%
- 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまりやや密、花崗岩粒 2%、黒褐色土 3%
- 10YR3/3 暗褐色 しまりやや疎、粘性無 炭 1%、焼土 2%、花崗岩粒 1%
- 7.5YR4/6 褐色焼土 しまり密、粘性無 炭 1%
- 7.5YR4/4 褐色焼土 しまりやや疎、粘性無
- 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性弱 炭 1%、花崗岩粒 3%

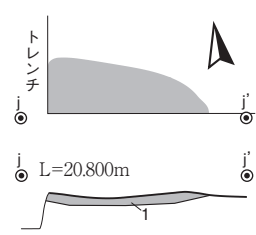
A127 号竪穴建物炉 1



A127 号竪穴建物炉 2



A127 号竪穴建物炉 3



A121 号竪穴建物炉 2 (d-d')

- 7.5YR4/4 褐色焼土 しまり密、粘性無

A126 号竪穴建物炉 1 (e-e')

- 5YR6/8 橙色焼土 しまりやや密、粘性無

A126 号竪穴建物炉 2 (f-f')

- 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまり密、粘性無 炭 1%

A126 号竪穴建物炉 3 (g-g')

- 7.5YR2/3 極暗褐色焼土 しまり密 炭 1%

A127 号竪穴建物炉 1 (h-h')

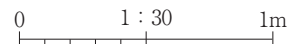
- 7.5YR4/6 褐色焼土 しまりやや密、粘性弱
- 7.5YR4/4 褐色焼土 しまり密、粘性弱

A127 号竪穴建物炉 2 (i-i')

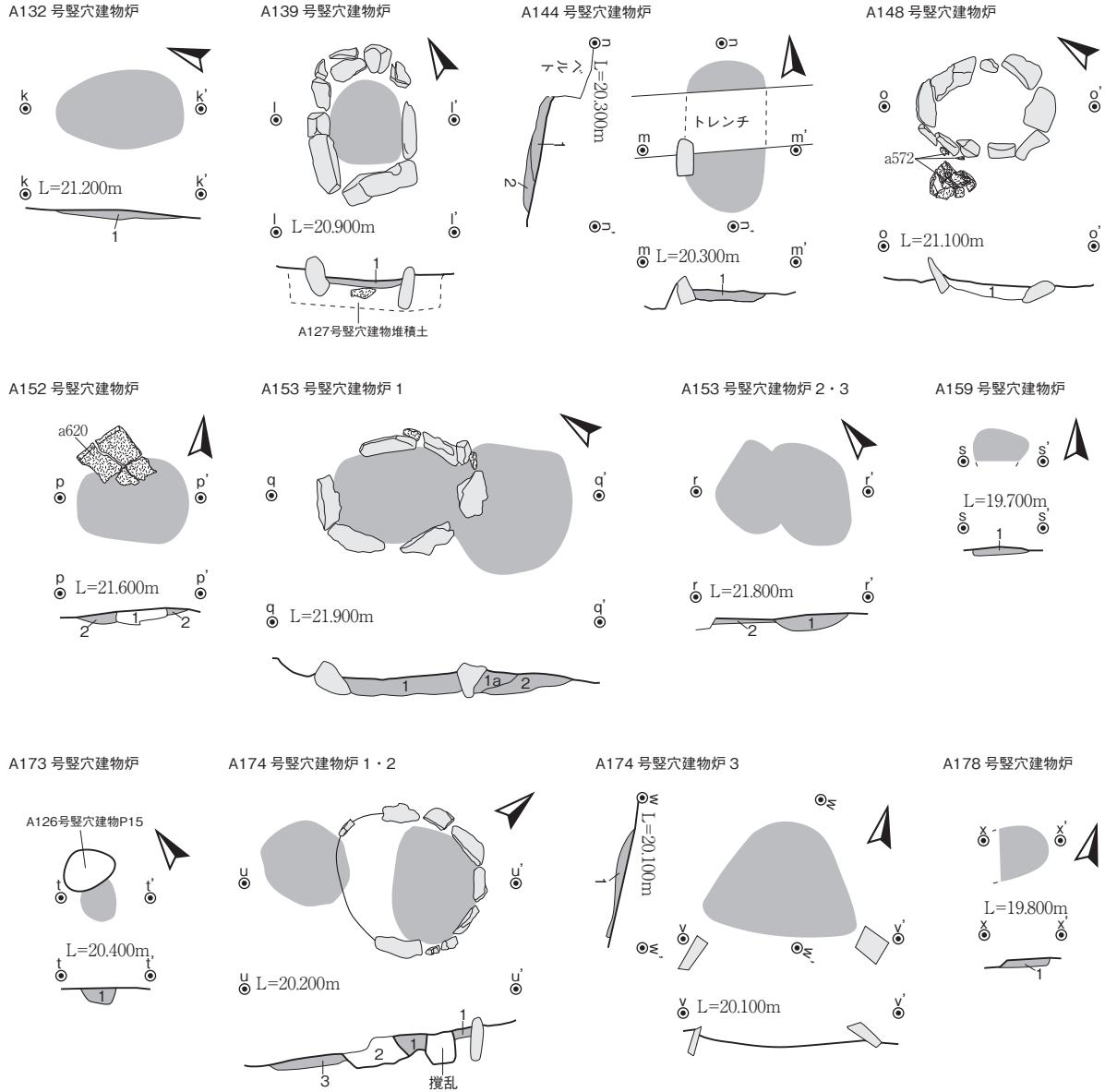
- 7.5YR4/4 褐色焼土 しまりやや密、粘性無

A127 号竪穴建物炉 3 (j-j')

- 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまりやや密、粘性無



第 69 図 A 120・121・126・127・132・139・144・148・152



A132 号竪穴建物炉 (k-k')

1. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまりやや密、粘性無

A139 号竪穴建物炉 (l-l')

1. 10YR3/3 暗褐色焼土 しまり密、粘性無 炭 1%

A144 号竪穴建物炉 (m-m' · n-n')

1. 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまりやや密、粘性無

A148 号竪穴建物炉 (o-o')

1. 7.5YR3/4 暗褐色 しまり密、粘性弱 炭 2%、花崗岩粒 1%

A152 号竪穴建物炉 (p-p')

1. 7.5YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 炭 2%
2. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまりやや密、粘性弱

A153 号竪穴建物炉 1 (q-q')

1. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまりやや密、粘性弱 炭 3%
- 1a. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまりやや密、粘性弱 炭 3%
2. 7.5YR5/6 黄褐色焼土 しまり密、粘性無 炭 2%

A153 号竪穴建物炉 2・3 (r-r')

1. 7.5YR5/8 明褐色焼土 しまり密、粘性無
 2. 7.5YR5/4 にぶい褐色焼土 しまり密、粘性無
- ※1層が炉2、2層が炉3の燃焼部焼土

A159 号竪穴建物炉 (s-s')

1. 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまり密、粘性無

A173 号竪穴建物炉 (t-t')

1. 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまり密、粘性無 炭 1%

A174 号竪穴建物炉 1・2 (u-u')

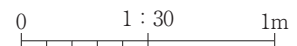
1. 7.5YR4/4 褐色焼土 しまりやや密、粘性無 炭 1%
 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまり密、粘性無 炭 1% 弱変成、炉石抜き取り痕か
 3. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまり密、粘性無 炭 1%
- ※1層が炉1、3層が炉2の燃焼部焼土

A174 号竪穴建物炉 3 (v-v' · w-w')

1. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまり密、粘性弱 炭 1%

A178 号竪穴建物炉 (x-x')

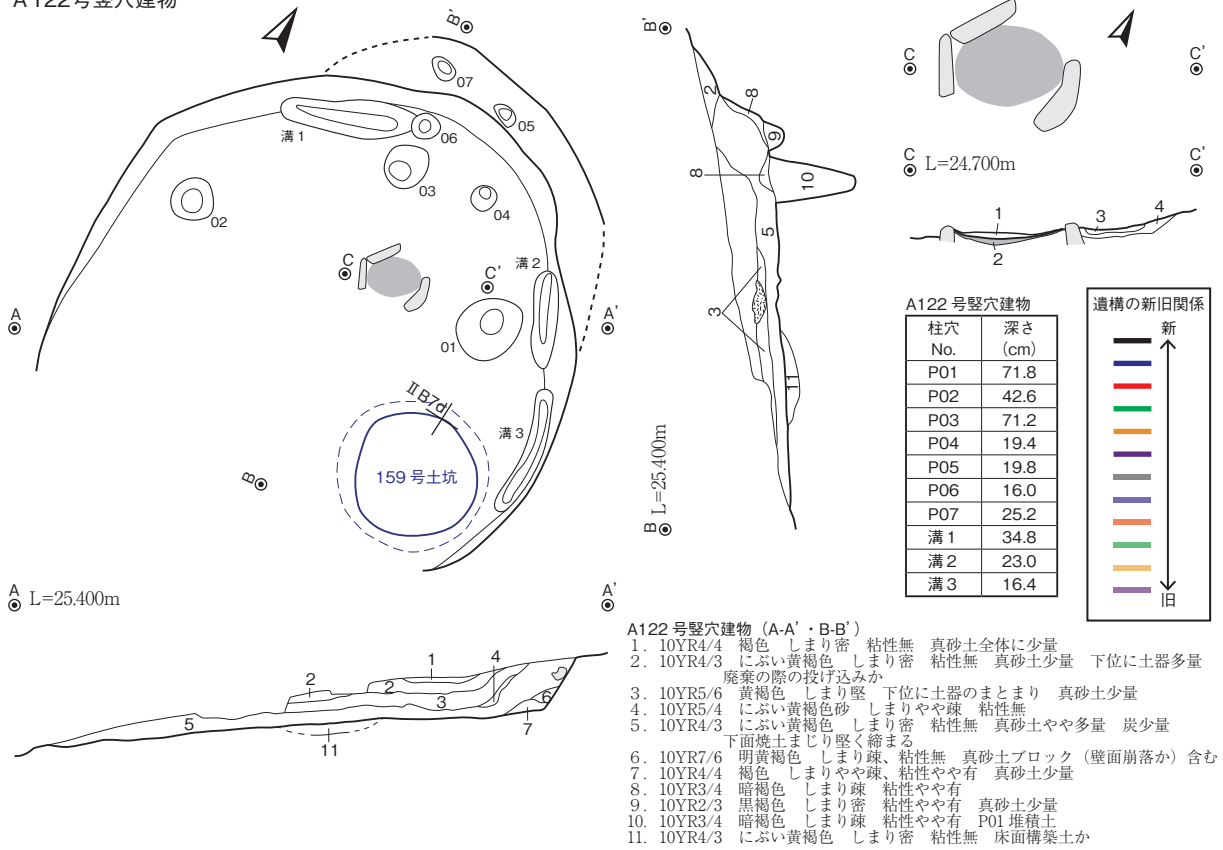
1. 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまりやや密、粘性無 炭 2%



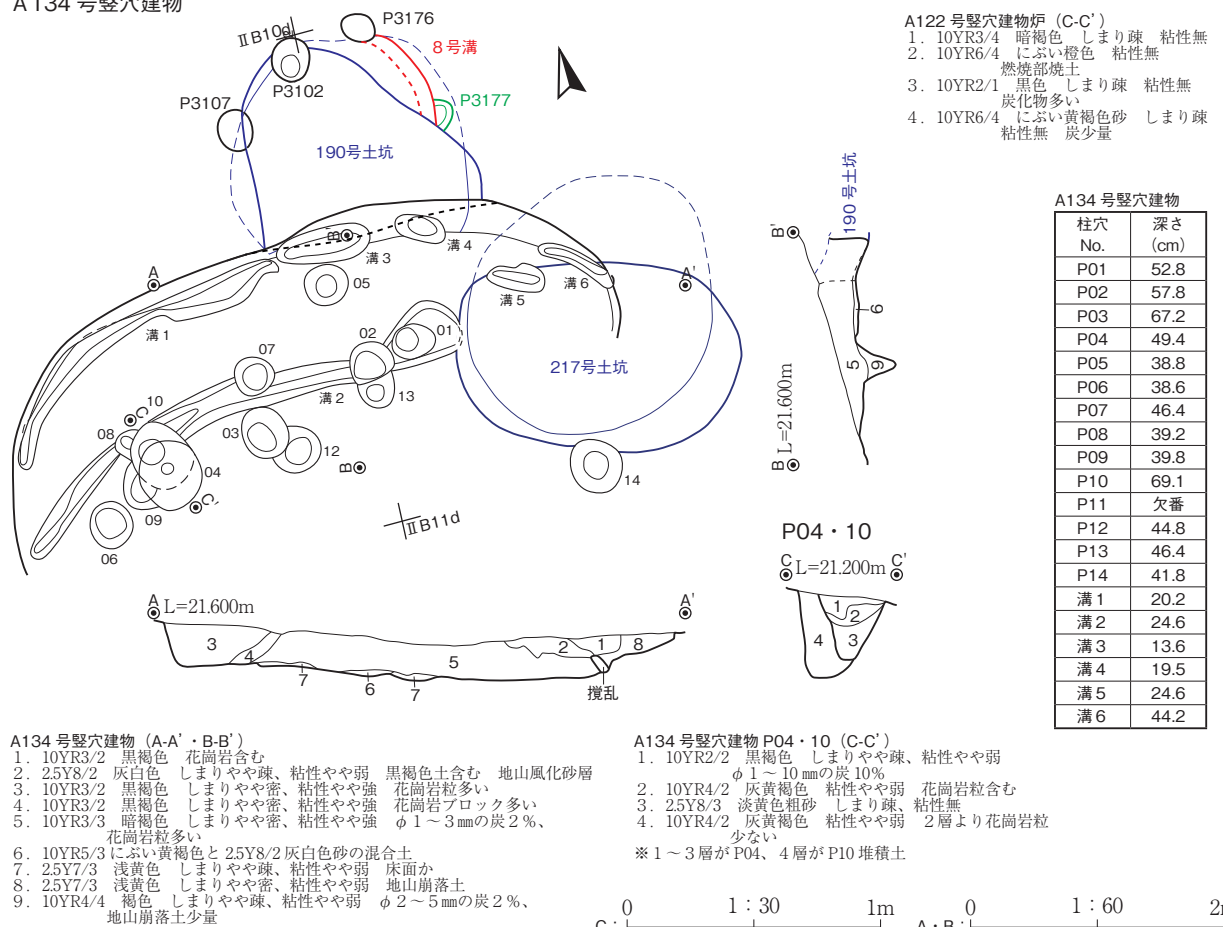
第70図 A 120・121・126・127・132・139・144・148・152
・153・159・173・174・177・178 号竪穴建物 (6)

2 竪穴建物（縄文時代）

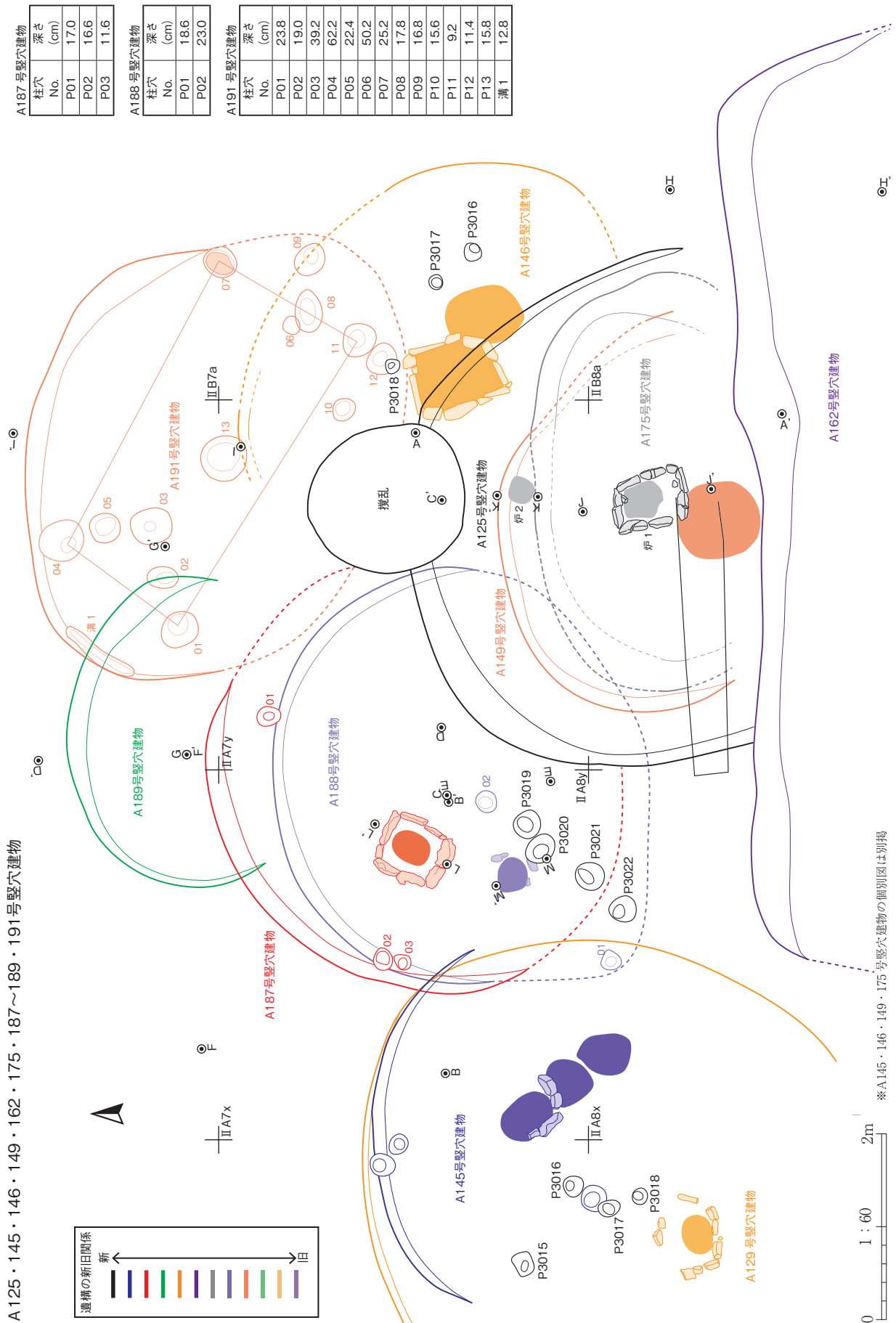
A 122号竪穴建物



A 134号竪穴建物

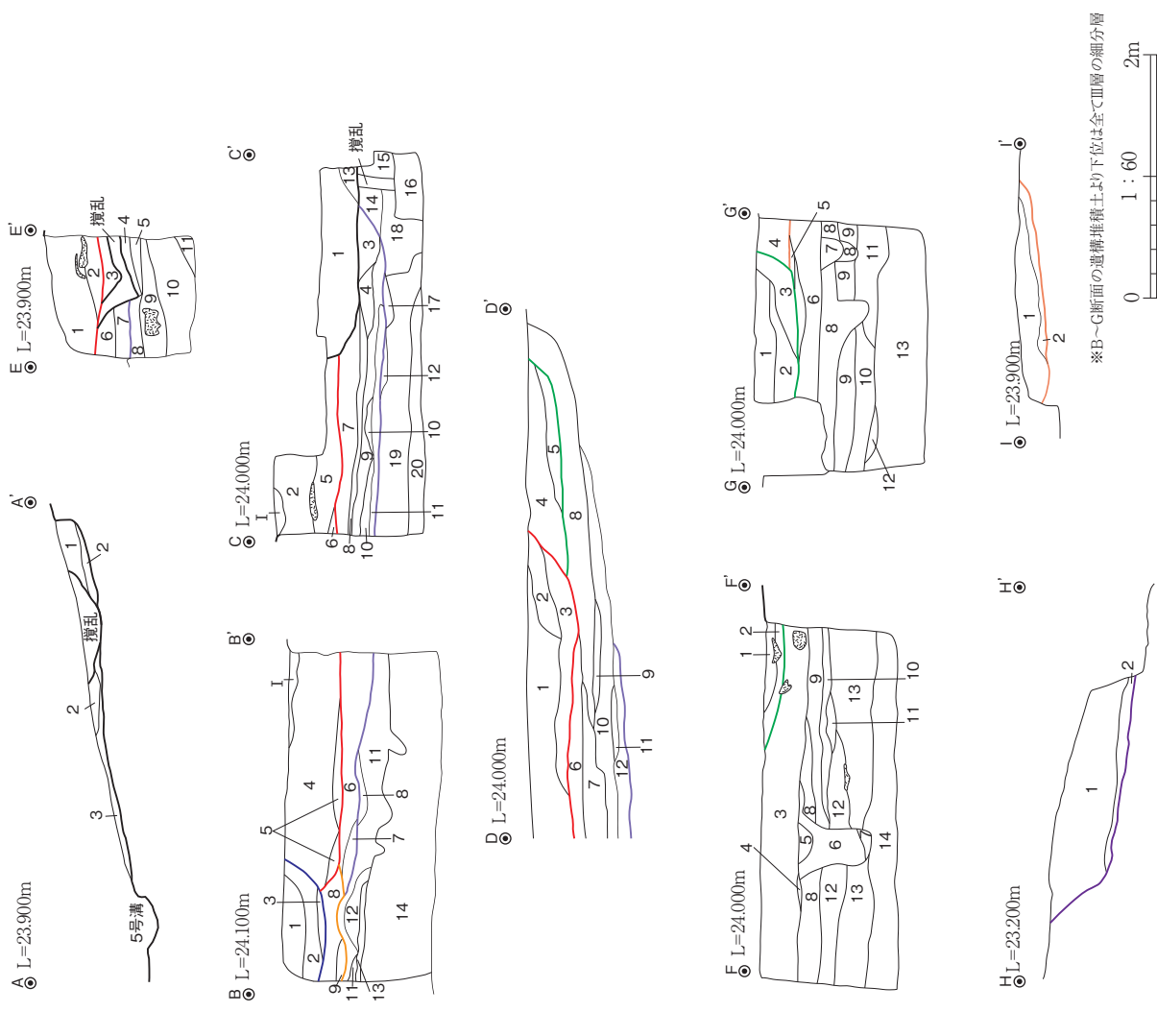


第 71 図 A 122号竪穴建物、A 134号竪穴建物

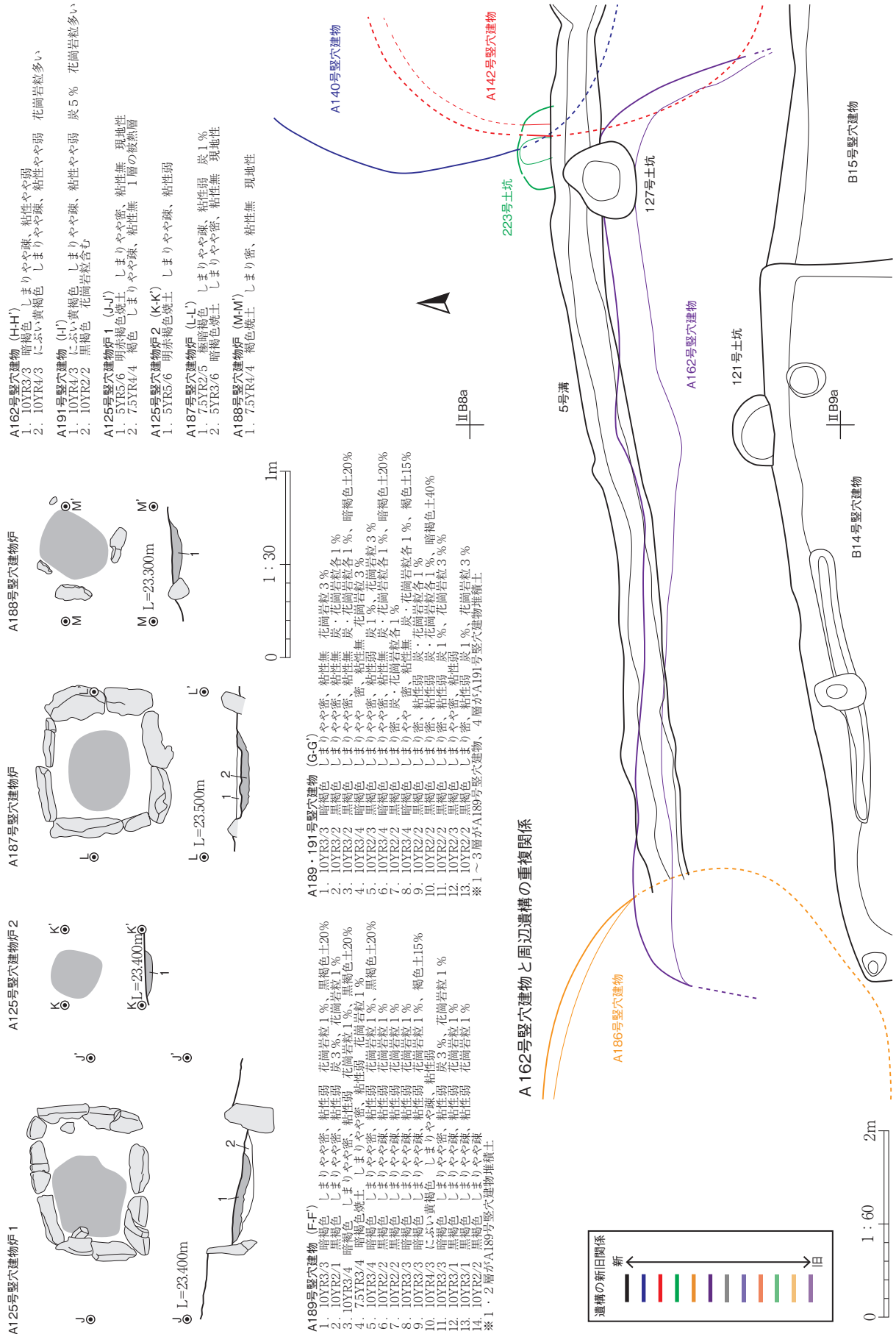


第72図 A 125・145・146・149・162・175・187～189・191号竪穴建物（1）

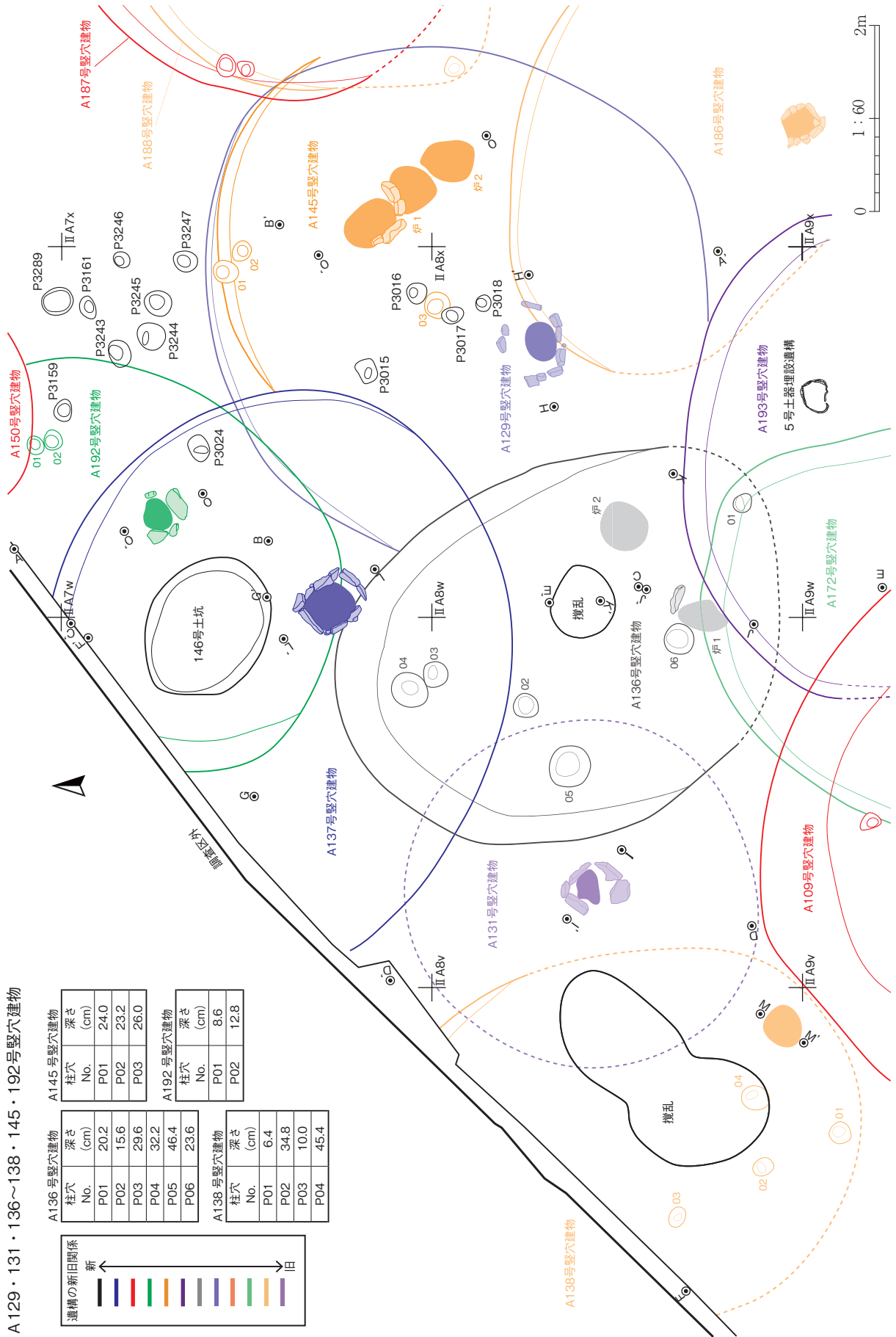
- A125号堅穴建物(A-A)**
 1.10YR2/1 黒色 炭1%
 2.10YR4/4 暗褐色
 3.10YR3/3 暗褐色
- A145・187・188号堅穴建物(B-B')**
 1.10YR3/3 暗褐色 粘性弱
 2.10YR2/3 黒褐色 粘性弱
 3.10YR7/4 黒褐色 粘性弱
 4.10YR2/2 黒褐色 粘性弱
 5.10YR2/2 黒褐色 粘性弱
 6.10YR2/3 黒褐色 粘性弱
 7.10YR2/3 黒褐色 粘性弱
 8.10YR2/3 黒褐色 粘性弱
 9.10YR2/3 黒褐色 粘性弱
 10.10YR4/4 暗褐色 粘性弱
 11.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 12.10YR4/3 褐色 粘性弱
 13.10YR4/4 褐色 粘性弱
 14.10YR2/1 黒色 粘性弱
 ※1～3層がA145号堅穴建物、4・5層がA187号堅穴建物、6・7層がA188号堅穴建物、8～9層がA129号堅穴建物堆積土
- A188号堅穴建物(C-C')**
 1.10YR2/3 黒褐色 粘性弱
 2.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 3.10YR2/2 暗褐色 粘性弱
 4.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 5.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 6.10YR2/3 暗褐色 粘性弱
 7.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 8.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 9.10YR3/3 暗褐色 粘性弱
 10.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 11.10YR2/2 暗褐色 粘性弱
 12.10YR2/3 暗褐色 粘性弱
 13.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 14.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 15.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 16.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 17.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 18.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 19.10YR3/3 暗褐色 粘性弱
 ※1・2層がA125号堅穴建物、3～5層がA187号堅穴建物、6～12層がA188号堅穴建物堆積土
- A187・188号堅穴建物(D-D')**
 1.10YR2/3 黒褐色 粘性弱
 2.10YR2/2 暗褐色 粘性弱
 3.10YR2/2 暗褐色 粘性弱
 4.10YR3/3 暗褐色 粘性弱
 5.10YR2/3 暗褐色 粘性弱
 6.10YR2/3 暗褐色 粘性弱
 7.10YR2/3 暗褐色 粘性弱
 8.10YR2/3 暗褐色 粘性弱
 9.10YR3/2 暗褐色 粘性弱
 10.10YR3/3 暗褐色 粘性弱
 11.10YR3/1 暗褐色 粘性弱
 12.10YR2/3 暗褐色 粘性弱
 ※1～3層がA187号堅穴建物、4・5層がA188号堅穴建物、11・12層がA188号堅穴建物堆積土
- A187・188号堅穴建物(E-E')**
 1.10YR2/2 暗褐色 粘性弱
 2.10YR2/3 暗褐色 粘性弱
 3.10YR2/3 暗褐色 粘性弱
 4.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 5.10YR3/4 暗褐色 粘性弱
 6.10YR3/2 暗褐色 粘性弱
 7.10YR3/2 暗褐色 粘性弱
 8.10YR2/2 暗褐色 粘性弱
 9.10YR3/1 暗褐色 粘性弱
 10.10YR3/1 暗褐色 粘性弱
 11.10YR3/1 暗褐色 粘性弱
 ※1・2層がA187号堅穴建物、3・6・7層がA188号堅穴建物堆積土



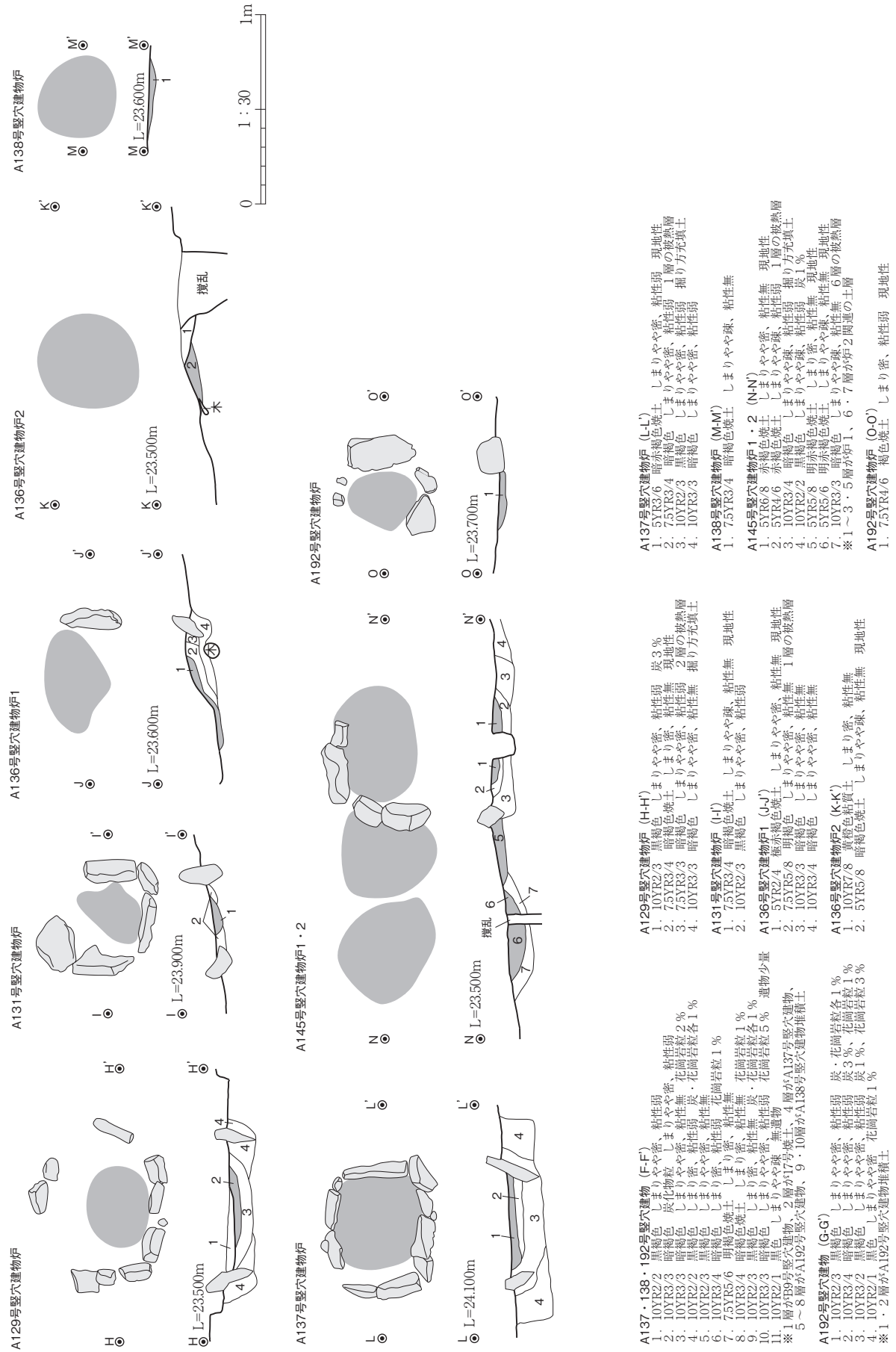
第73図 A 125・145・146・149・162・175・187～189・191号堅穴建物(2)



第74図 A 125・145・146・149・162・175・187～189・191号竪穴建物(3)

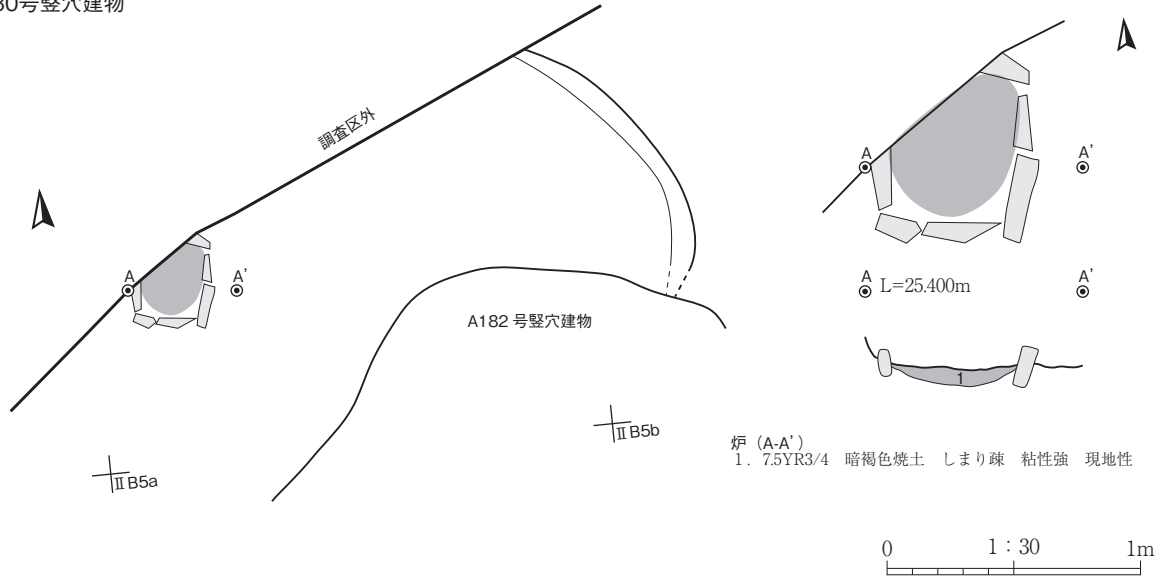


第75図 A 129・131・136～138・145・192号竪穴建物（1）

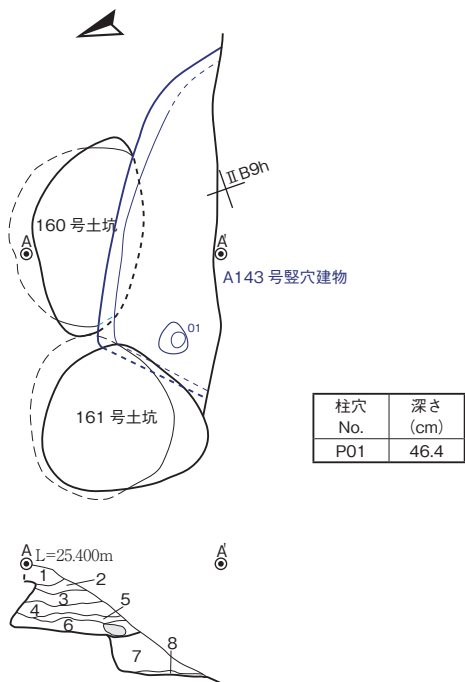


第77図 A 129・131・136～138・145・192号竪穴建物（3）

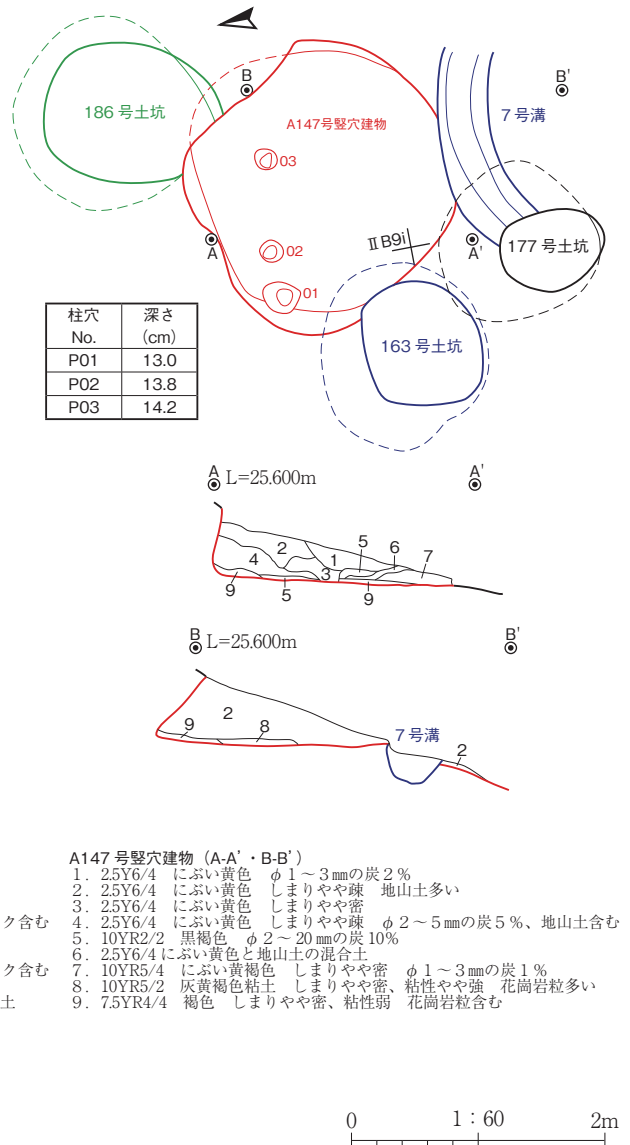
A 130号竪穴建物



A 143号竪穴建物



A 147号竪穴建物



A143号竪穴建物・160号土坑 (A-A')

1. 10YR6/4 にぶい黄橙色
 2. 10YR7/2 にぶい黄橙色 地山ブロック多い
 3. 10YR7/2 にぶい黄橙色 φ1~3mmの炭2%
 4. 10YR7/2 にぶい黄橙色 φ5mmの炭3%、地山ブロック含む
 5. 10YR7/2 にぶい黄橙色と 10YR2/1 黒色の混合土
 6. 10YR7/2 にぶい黄橙色 φ1~3mmの炭2%
 7. 10YR7/2 にぶい黄橙色 φ5mmの炭3%、地山ブロック含む
 8. 7.5YR5/4 にぶい褐色 しまりやや密
- ※ 1~6層が160号土坑、7・8層がA143号竪穴建物堆積土

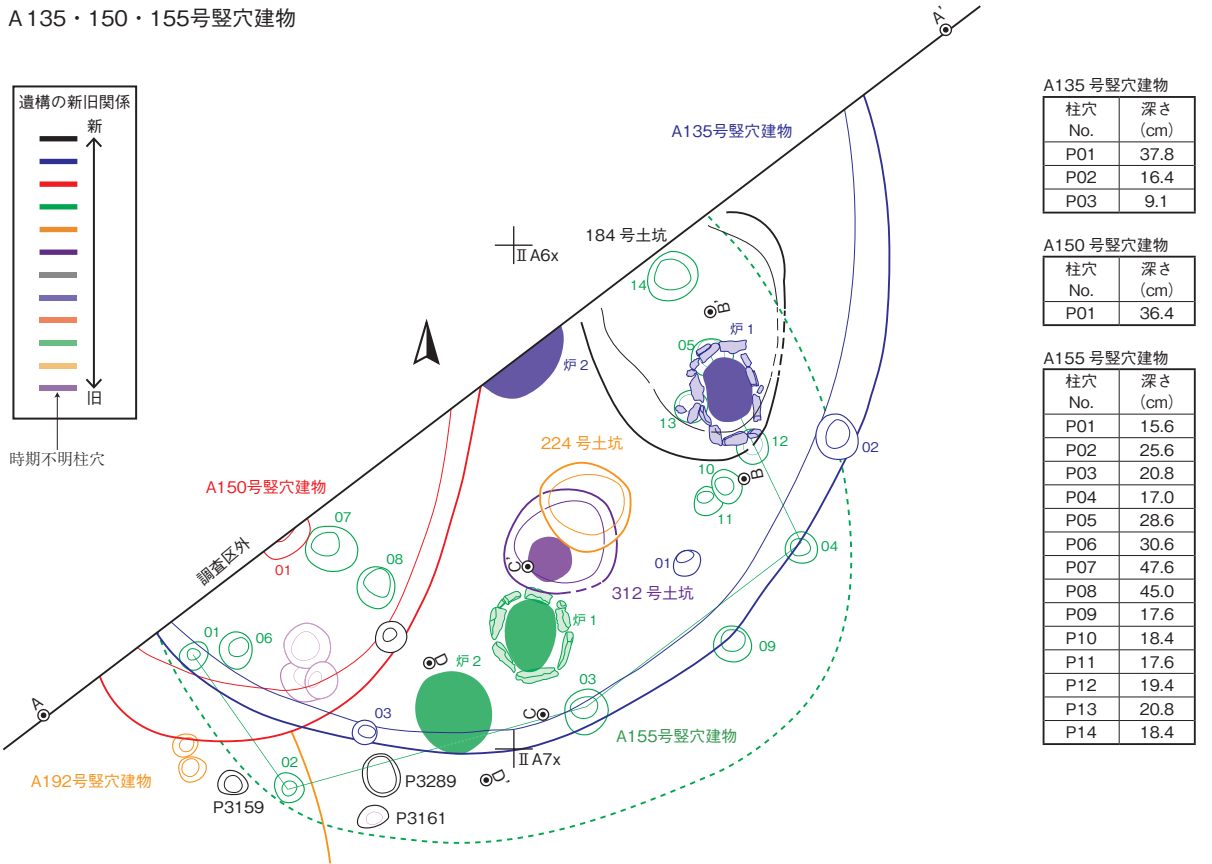
A147号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1. 2.5Y6/4 にぶい黄色 φ1~3mmの炭2%
2. 2.5Y6/4 にぶい黄色 しまりやや疎 地山土多い
3. 2.5Y6/4 にぶい黄色 しまりやや密
4. 2.5Y6/4 にぶい黄色 しまりやや疎 φ2~5mmの炭5%、地山土含む
5. 10YR2/2 黒褐色 φ2~20mmの炭10%
6. 2.5Y6/4 にぶい黄色と地山土の混合土
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色 しまりやや密 φ1~3mmの炭1%
8. 10YR5/2 灰黄褐色粘土 しまりやや密、粘性やや強 花崗岩粒多い
9. 7.5YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性弱 花崗岩粒含む

第 78 図 A 130号竪穴建物、A 143号竪穴建物、A 147号竪穴建物

2 竪穴建物（縄文時代）

A 135・150・155号竪穴建物



A135号竪穴建物

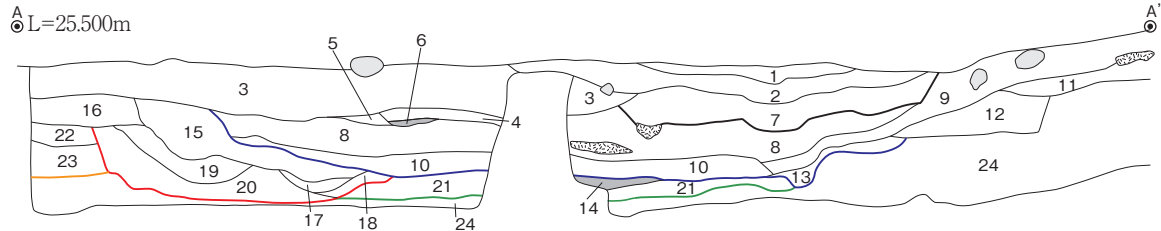
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	37.8
P02	16.4
P03	9.1

A150号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	36.4

A155号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	15.6
P02	25.6
P03	20.8
P04	17.0
P05	28.6
P06	30.6
P07	47.6
P08	45.0
P09	17.6
P10	18.4
P11	17.6
P12	19.4
P13	20.8
P14	18.4



A135・150・155号竪穴建物 (A-A')

- 10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性無 花崗岩粒1%
 - 10YR2/3 黒褐色 炭・花崗岩粒各1%、黄褐色土15%
 - 10YR3/4 暗褐色 しまりやや密、粘性弱 花崗岩粒1%
 - 10YR3/4 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 におい黄褐色砂質土30%、炭・花崗岩粒各1%
 - 10YR3/3 暗褐色 しまりやや疎、粘性無 焼土10% 11層の流出土
 - 5YR6/8 橙色焼土 しまりやや疎、粘性無 現地性
 - 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、花崗岩粒1% 遺物集中
 - 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、炭3%、花崗岩粒1%、暗褐色土15%
 - 10YR4/3 におい黄褐色 しまりやや密、炭3%、花崗岩粒1%
 - 10YR2/3 黒褐色 しまりやや密、炭3%、花崗岩粒1%
 - 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 炭・花崗岩粒各1%
 - 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、炭3%、花崗岩粒1%
 - 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、炭3%、花崗岩粒1%、黒褐色土20%
 - 5YR3/4 暗褐色焼土 しまりやや密、粘性無 現地性 A135号竪穴建物炉
 - 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、炭3%、花崗岩粒1%
 - 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密
 - 10YR4/4 褐色粘質土 しまり密、粘性無
 - 10YR2/1 黒色 しまりやや密、粘性弱 炭1%
 - 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、炭3%、花崗岩粒1%、褐色土15%
 - 10YR2/3 黒褐色 しまりやや密、炭3%、花崗岩粒1%
 - 10YR2/1 黒色 しまりやや密、花崗岩粒1%
 - 10YR3/4 暗褐色 しまりやや密、粘性無 炭3%、明黄褐色砂質土15%
 - 10YR2/3 黄褐色 しまりやや密、粘性無 炭1%
 - 10YR2/1 黒色 しまりやや密、粘性弱 花崗岩粒1%
- ※6層が1号竪穴、7層がB16号竪穴建物、8~10・13・14層がA135号竪穴建物、17~20層がA150号竪穴建物、21層がA155号竪穴建物、22・23層がA192号竪穴建物堆積土

A135号竪穴建物炉 (B-B')

- 5YR3/6 暗褐色焼土 しまりやや疎、粘性弱 現地性
- 10YR4/6 褐色粘質土 しまり密、粘性弱 炉石周辺に薄く分布している

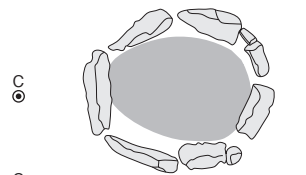
A155号竪穴建物炉1 (C-C')

- 10YR2/3 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 炭3% 遺物堆積土
- 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまり密、粘性無 現地性
- 7.5YR3/3 暗褐色 しまりやや密、粘性弱

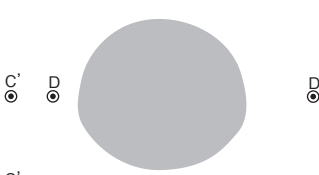
A155号竪穴建物炉2 (D-D')

- 7.5YR4/4 赤褐色焼土 しまりやや密、粘性無 現地性

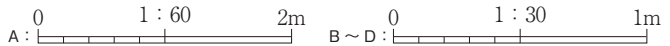
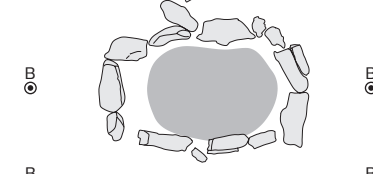
A155号竪穴建物炉1



A155号竪穴建物炉2

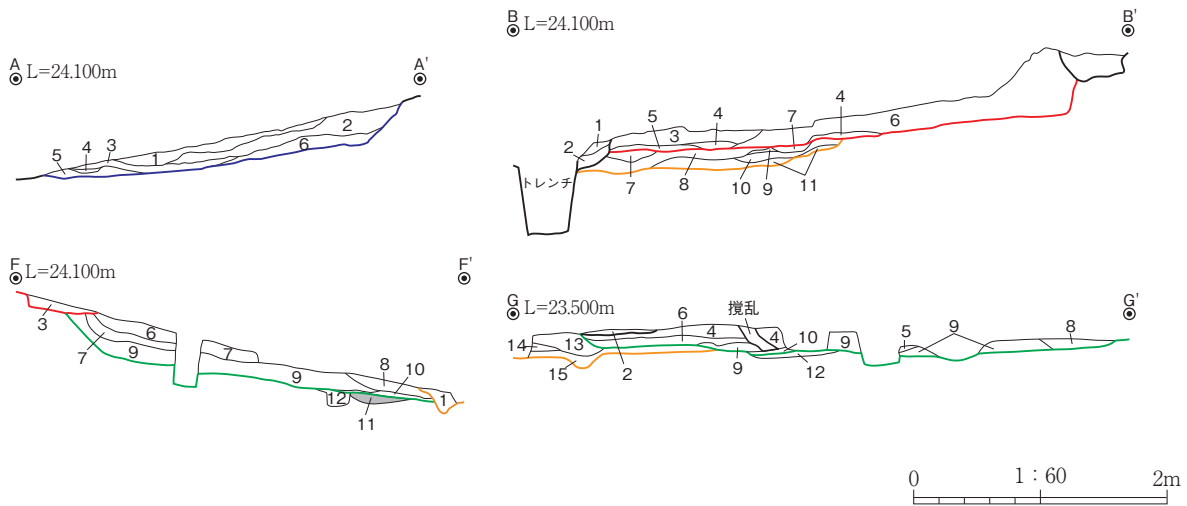
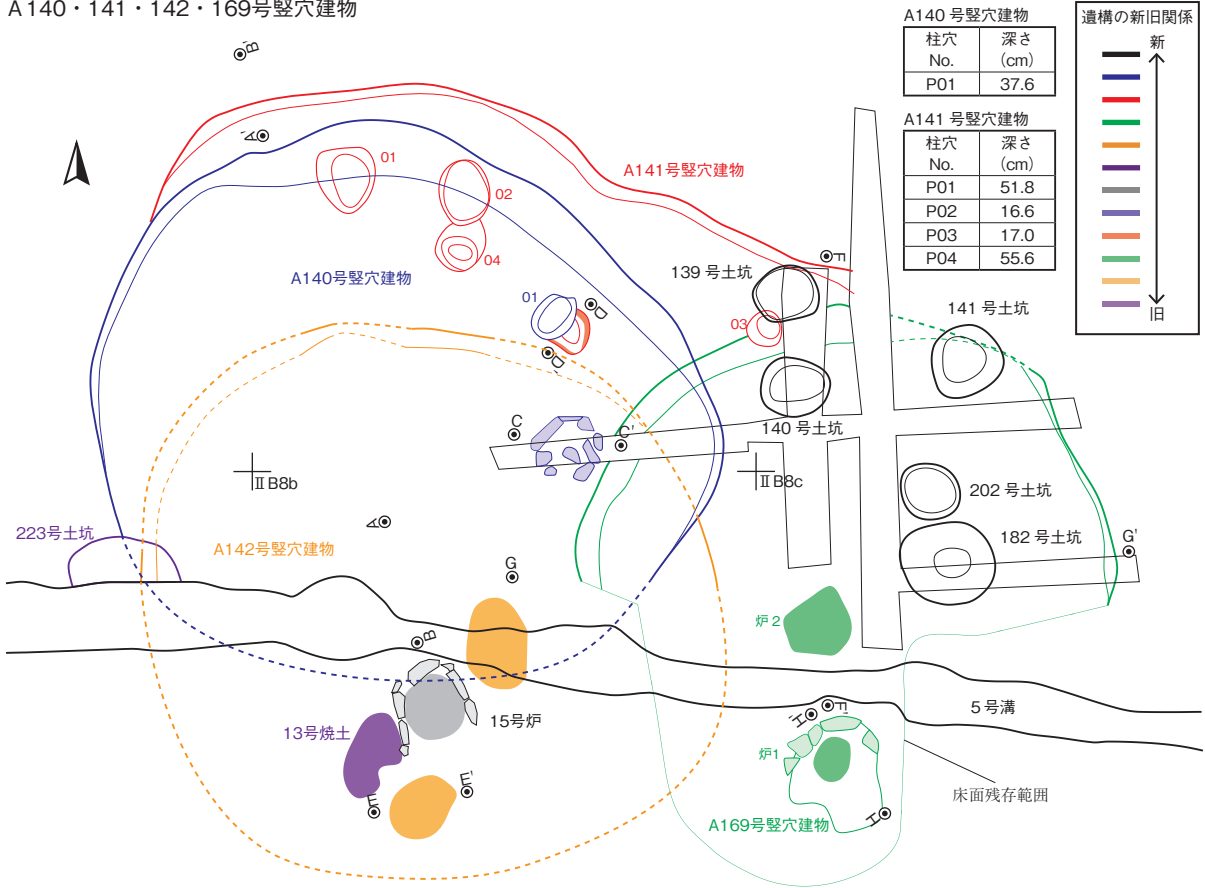


A135号竪穴建物炉



第79図 A 135・150・155号竪穴建物

A140・141・142・169号竪穴建物



A140号竪穴建物 (A-A')

- 10YR3/1 黒褐色 φ2~30mmの炭10%、土器多量 人為堆積
- 10YR3/2 黒褐色~5/3にぶい黄褐色 しまりやや密 花崗岩粒多い 人為堆積
- 7.5YR4/3 褐色 しまりやや密 φ2~5mmの炭少量 人為堆積
- 10YR8/6 黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱 地山流入土
- 10YR3/2 黒褐色~4/2灰黄褐色 しまりやや密 φ2~5mmの炭3%
- 10YR4/3 にぶい黄褐色 花崗岩粒少量

A141・142号竪穴建物 (B-B')

- 10YR3/3 暗褐色 粘性やや弱
- 2.5Y7/3 浅黄色 しまりやや密、粘性やや弱
- 10YR3/2 黒褐色 φ2~10mmの炭3%
- 7.5YR5/4 にぶい褐色
- 10YR3/2 黒褐色
- 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱 花崗岩粒多い
- 7.5YR5/4 にぶい褐色
- 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱
- 砂層
- 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 花崗岩粒少量
- 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや弱
- *1・2層が近世以降の堆積土、3~6層がA141号竪穴建物、7~11層がA142号竪穴建物堆積土

A169号竪穴建物 (F-F'・G-G')

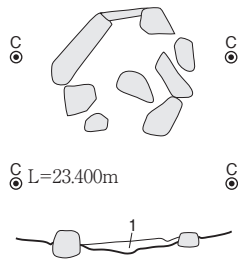
- 10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性やや弱
- 10YR3/1 黒褐色 φ2~30mmの炭10% 人為堆積
- 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱 花崗岩粒多い
- 10YR3/1 黒褐色 しまりやや密 φ1~3mmの炭・焼土粒各5%
- 2.5Y8/4 淡黄砂 しまりやや密
- 10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密 花崗岩粒多い
- 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密 φ1~3mmの炭3%、花崗岩粒多い
- 10YR3/1 黒褐色 しまりやや密 φ1~3mmの炭・焼土粒各5%
- 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性やや強 花崗岩粒多い
- 5YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性やや強
- 5YR6/6 橙色焼土 しまり密、粘性強 炉2の燃焼部焼土
- 10YR6/4 にぶい黄褐色 床面構築土か
- 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密 φ1~3mmの炭3%、花崗岩粒多い
- 10YR2/2 黒褐色
- 10YR5/3 にぶい黄褐色~7/4にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性やや強 花崗岩粒多い

*1層が5号溝、2層がA140号竪穴建物、3層がA141号竪穴建物、4~12層がA169号竪穴建物、13~15層がA142号竪穴建物堆積土

第80図 A140~142・169号竪穴建物(1)

2 竪穴建物（縄文時代）

A140号竪穴建物炉



A140号竪穴建物炉 (C-C')

- 7.5YR3/4 暗褐色 しまり密 真砂土少量

A141号竪穴建物炉 (D-D')

- 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 花崗岩粒多い
- 橙色焼土

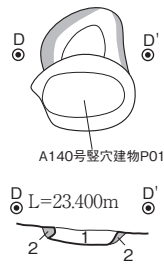
A142号竪穴建物炉 (E-E')

- 橙色焼土

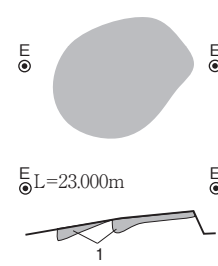
A169号竪穴建物炉1 (H-H')

- 5YR4/2 灰褐色 しまり密 橙色焼土ブロック含む 被熱により変化した炉の構築土
- 7.5YR6/4 にふい橙色 しまりやや密 被熱による変成範囲
- 赤褐色焼土

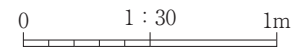
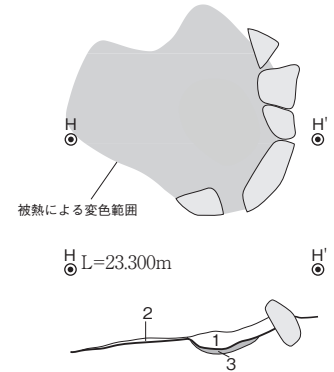
A141号竪穴建物炉



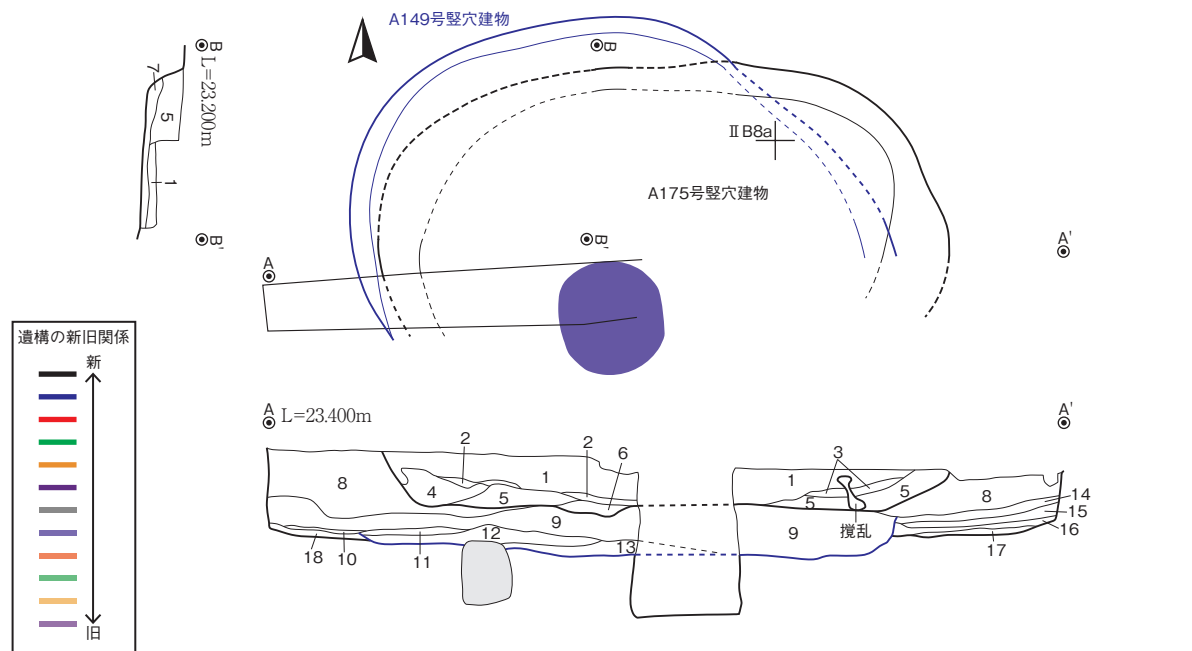
A142号竪穴建物炉



A169号竪穴建物炉1



A149・175号竪穴建物

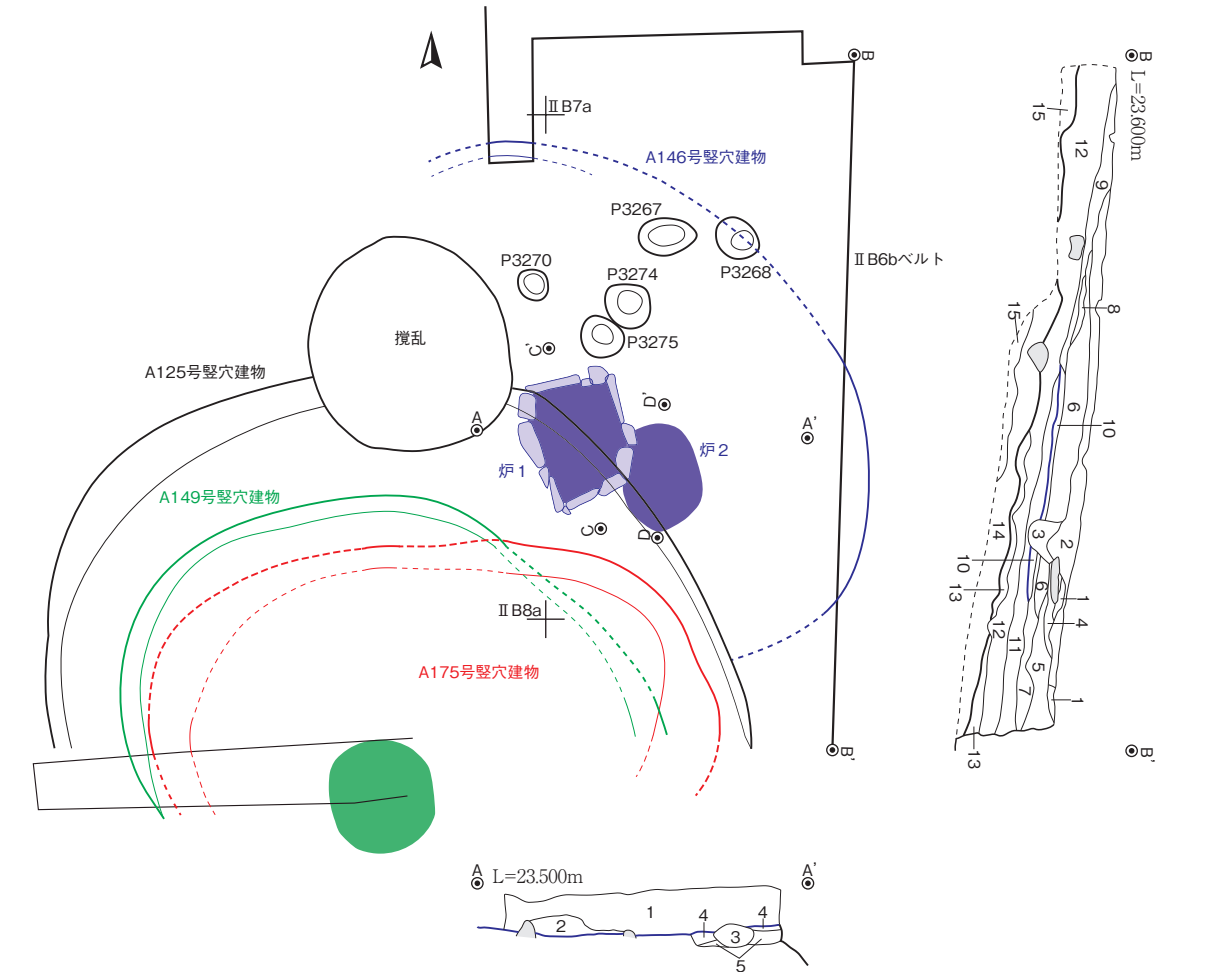


A149・175号竪穴建物 (A-A'・B-B')

- | | |
|---|---|
| 1. 10YR2/2 黒褐色 粘性やや弱 φ2~30mmの炭15%、西側に多い | 11. 10YR3/2 黒褐色 |
| 2. 7.5YR6/6 橙色 粘性やや弱 焼土の流入土 | 12. 7.5YR4/3 褐色 粘性やや強 φ5~10mmの炭5% |
| 3. 10YR2/1 黒色 しまりやや疎 | 13. 10YR6/3 にふい黄褐色 しまり疎、粘性やや弱 焼土ブロック、花崗岩粒多量 |
| 4. 10YR5/3 にふい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩粒多い | 14. 10YR3/2 黒褐色 10YR8/4浅黄褐色土含む |
| 5. 10YR3/2 黒褐色 φ2~5mmの炭5%、花崗岩粒含む | 15. 10YR3/2 黒褐色 |
| 6. 10YR5/3 にふい黄褐色 赤色粒子含む | 16. 10YR3/1 黒褐色 φ2~10mmの炭3% |
| 7. 10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 | 17. 10YR3/2 黒褐色 火山灰?含む |
| 8. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩粒多い | 18. 10YR3/1 黒褐色 φ2~10mmの炭3% |
| 9. 10YR4/2 灰黄褐色 花崗岩粒含む | ※1~7層がA175号竪穴建物、9・11~13層がA149号竪穴建物堆積土、 |
| 10. 10YR3/2 黒褐色 10YR8/4浅黄褐色土含む | その他はⅢ層の細分層 |

第81図 A140~142・169号竪穴建物(2)、A149・175号竪穴建物

A 146号竪穴建物



A146号竪穴建物 (A-A')

1. 10YR4/2 灰黄褐色 φ1~3mmの炭3%、花崗岩粒多い
2. 10YR4/2 灰黄褐色 φ1~3mmの炭15%、花崗岩粒多い
3. 10YR2/1 黒色 花崗岩粒含む 根攪乱か
4. 7.5YR3/3 にぶい褐色 粘性やや強 被熱による地山の変色層
5. 10YR3/2 黒褐色地山 沢状地形堆積土 (II B6aベルト③19層に相当)

II B6bベルト (B-B')

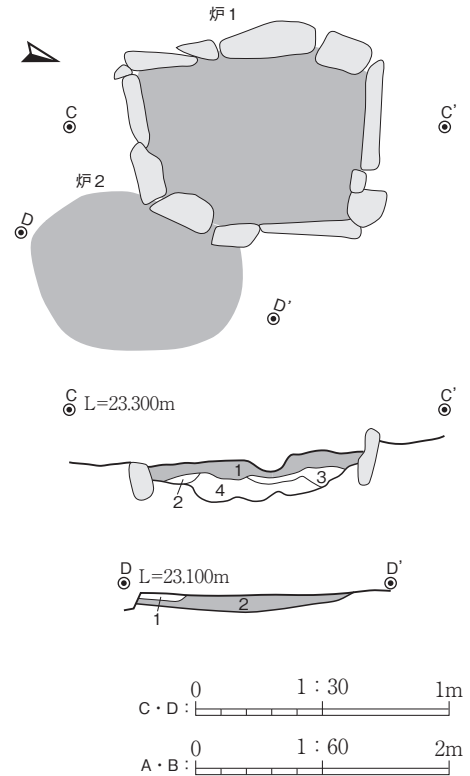
1. 5YR6/6 橙色 しまりやや密、粘性やや弱 二次堆積焼土
 2. 10YR2/2 黒褐色 φ2~20mmの炭5%、花崗岩粒多い
 3. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒含む
 4. 2.5Y7/4 浅黄色 粒子細かい
 5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 大型の花崗岩多い 粒子粗い
 6. 10YR3/2 黒褐色 φ2~20mmの炭5%、花崗岩粒多い 粒子粗い
 7. 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまり疎、粘性弱 花崗岩粒多く脆い
 8. 10YR2/2 黒褐色 しまり疎、粘性弱 花崗岩多い
 9. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒多い
 10. 2.5Y8/2 灰白色砂 A146号竪穴建物床面直上の堆積
 11. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒多い
 12. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 花崗岩粒・礫多い
 13. 10YR6/3 にぶい黄褐色 12・14層より粘土質
 14. 10YR2/1 黒褐色 しまりやや密、粘性やや強 花崗岩粒非常に多い 無遺物層
 15. 2.5Y6/3 にぶい黄色 しまりやや密 粘性やや強 花崗岩粒非常に多い 無遺物層
- ※1~9層がA146号竪穴建物廃絶後の流入土、10層がA146号竪穴建物堆積土、11~15層がA146号竪穴建物構築以前の沢状地形堆積土

A146号竪穴建物 炉1 (C-C')

1. 2.5YR5/8 明赤褐色焼土 しまり密
2. 7.5YR5/6 明褐色 しまり密 被熱による変色層
3. 7.5YR6/6 橙色 しまりやや密 被熱による変色層
4. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや疎、粘性強 掘り方埋土

A146号竪穴建物 炉2 (D-D')

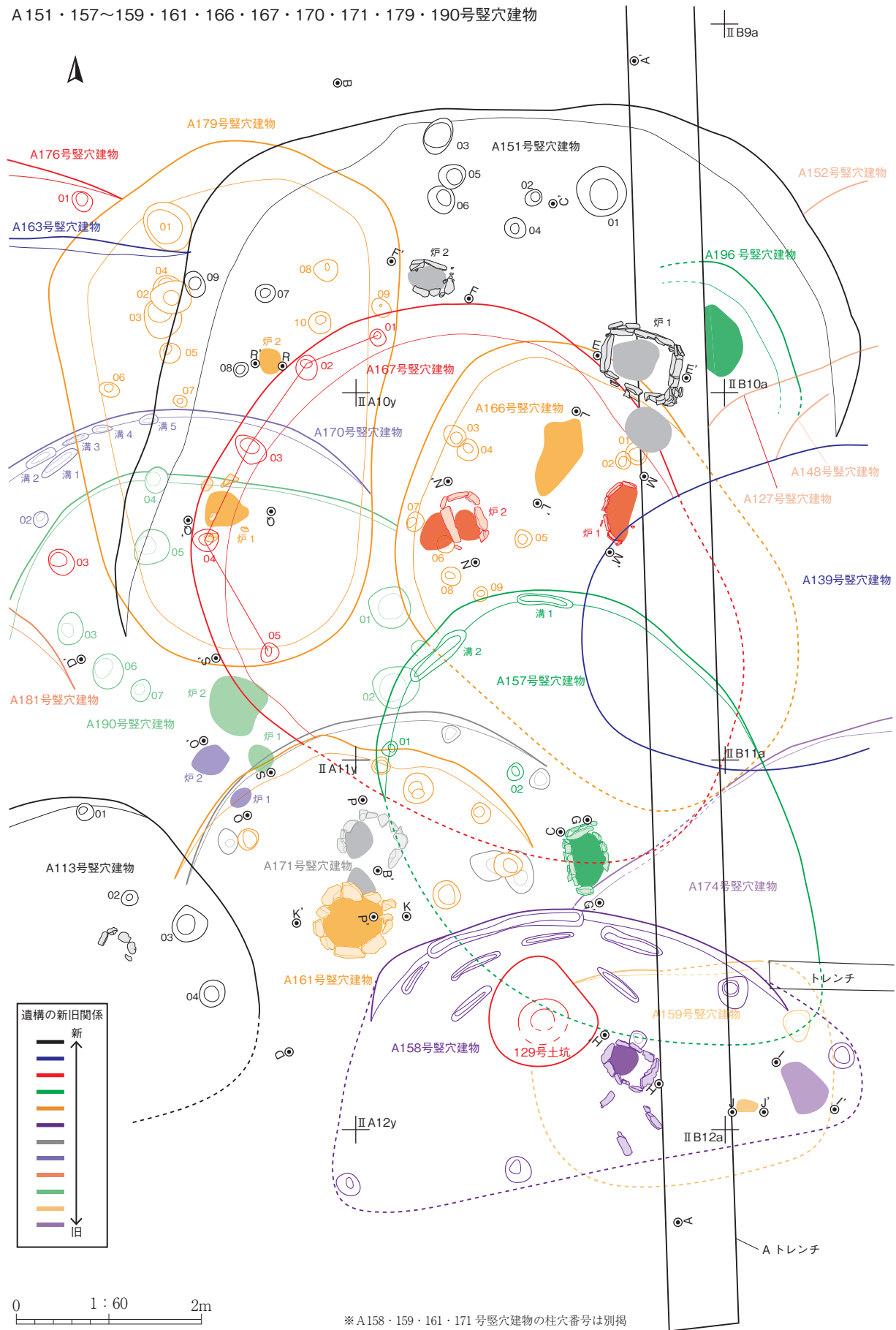
1. 10YR3/2 黒褐色 しまり密 真砂土少量
2. 2.5YR5/8 明赤褐色焼土 しまり密



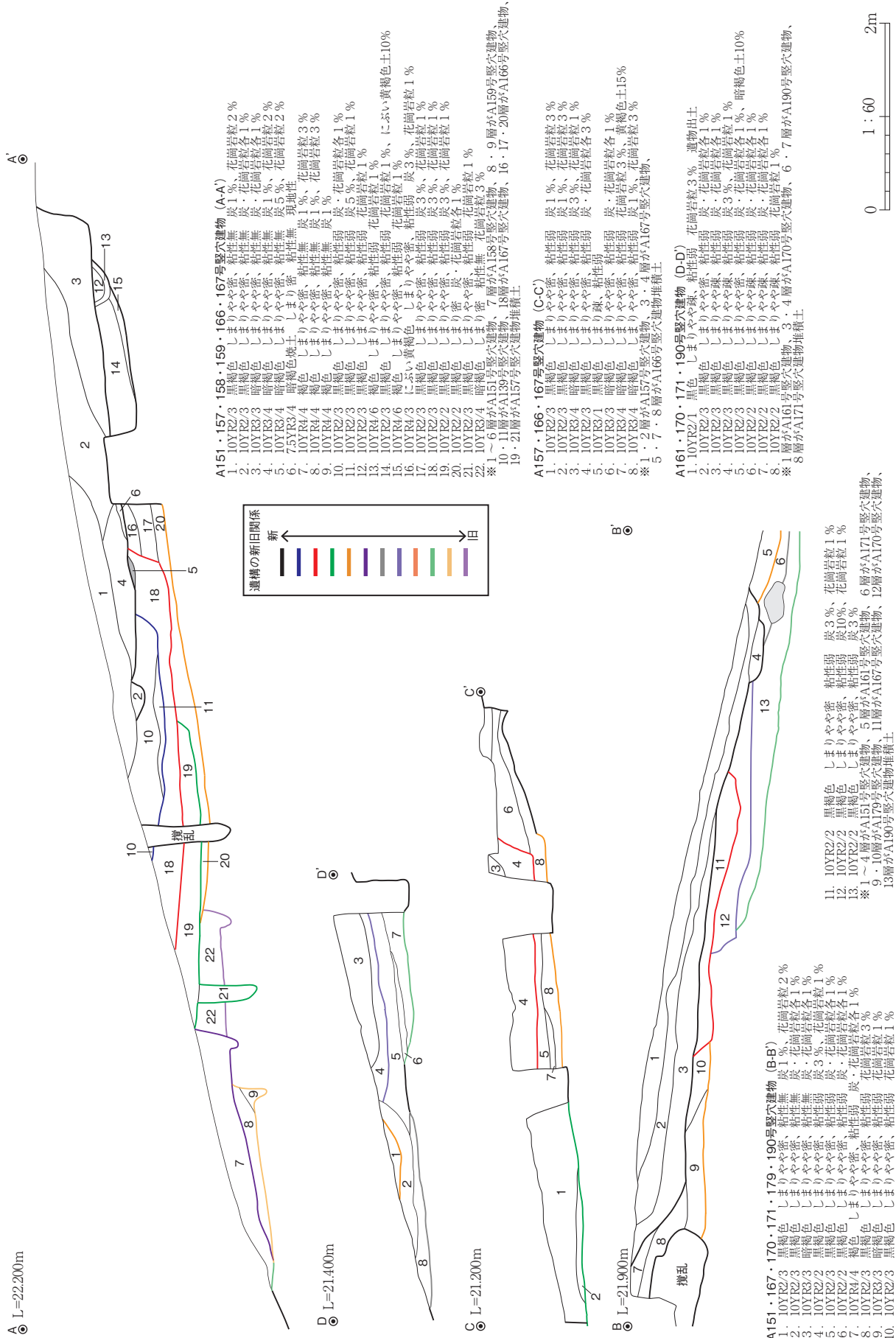
第 82 図 A 146 号竪穴建物

2 竪穴建物（縄文時代）

A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竪穴建物

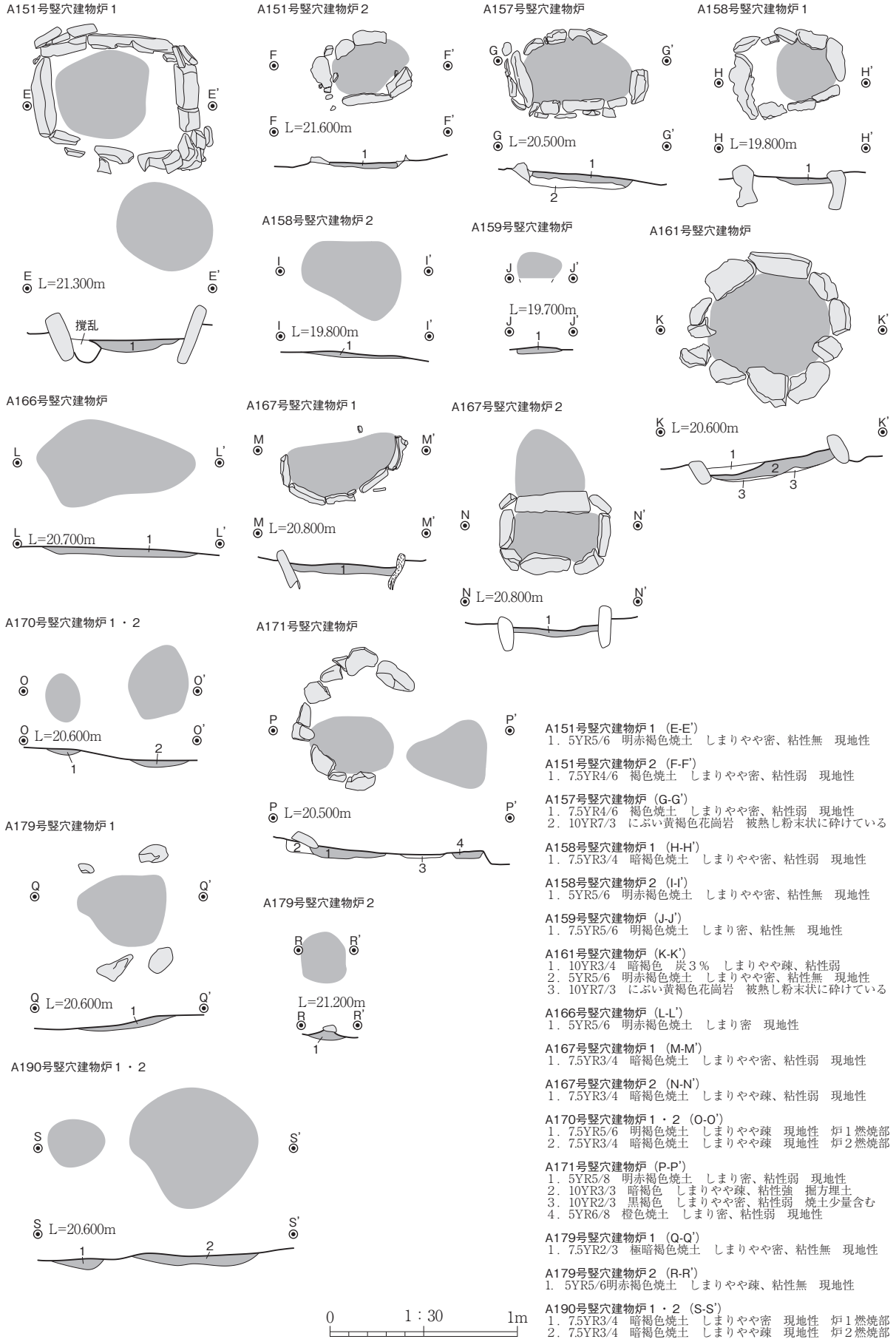


第 83 図 A 151・157～159・161・166・167・170・171・179・190 号竪穴建物（1）



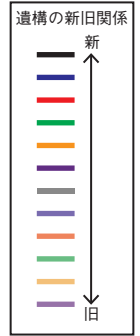
第84図 A 151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竪穴建物(2)

2 竪穴建物（縄文時代）

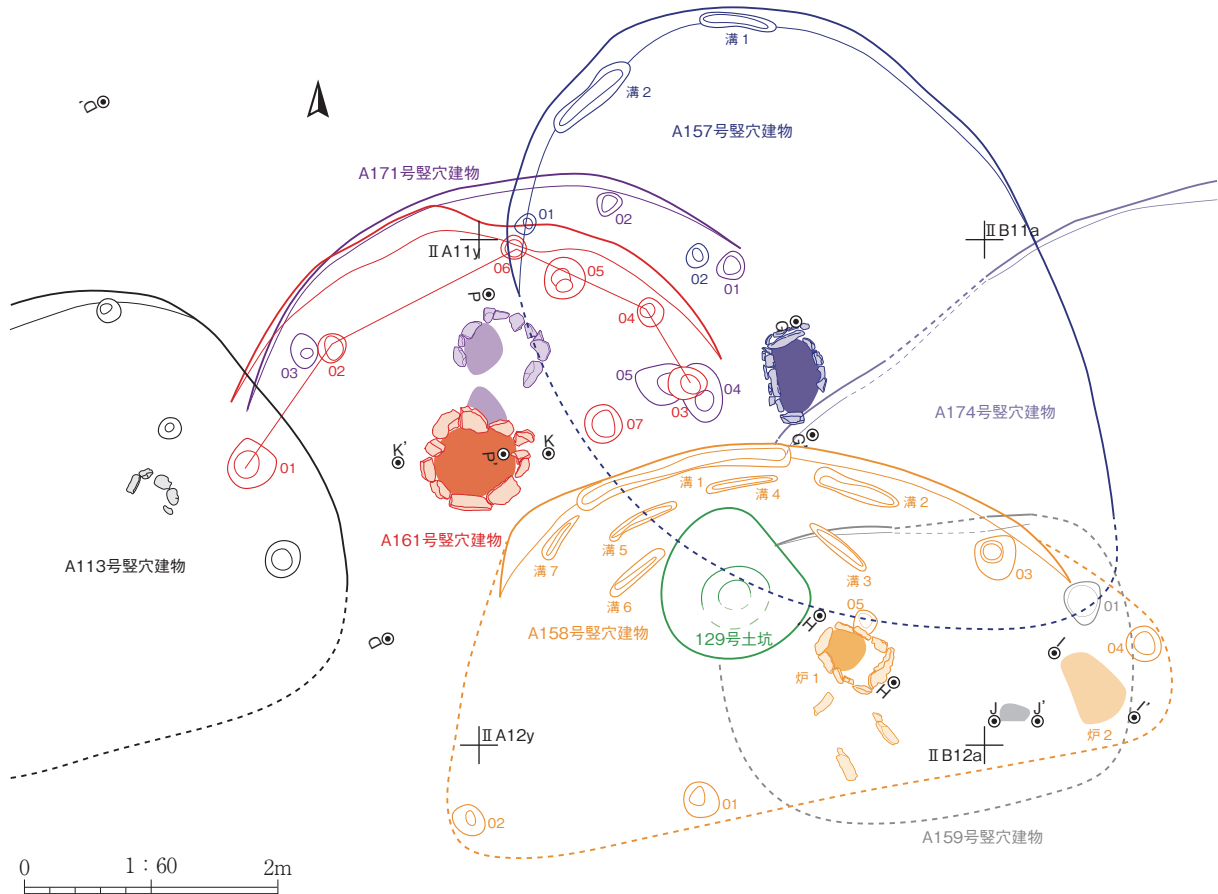


第 85 図 A 151・157～159・161・166・167・170・171・179・190 号竪穴建物 (3)

A151号竪穴建物		A158号竪穴建物		A161号竪穴建物		A166号竪穴建物		A170号竪穴建物		A179号竪穴建物		A190号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)
P01	24.0	P01	29.2	P01	38.0	P01	10.4	P01	27.6	P01	19.2	P01	26.8
P02	16.2	P02	30.6	P02	13.2	P02	12.0	P02	29.8	P02	67.8	P02	20.6
P03	25.8	P03	34	P03	10.6	P03	19.6	溝1	5.4	P03	55.6	P03	33.2
P04	31.6	P04	10.2	P04	37.2	P04	18.2	溝2	5.2	P04	44.0	P04	21.0
P05	15.8	P05	9.4	P05	63.0	P05	6.4	溝3	2.2	P05	66.0	P05	37.6
P06	52.0	溝1	21.2	P06	10.4	P06	21.6	溝4	3.2	P06	23.2	P06	50.4
P07	68.6	溝2	12.2	P07	35.6	P07	31.6	溝5	6.6	P07	14.0	P07	34.6
P08	67.0	溝3	7.0							P08	72.2		
P09	60.2	溝4	8.4	A167号竪穴建物				A171号竪穴建物		P09	72.0		
		溝5	6.2	柱穴 No.	深さ (cm)			柱穴 No.	深さ (cm)	P10	68.2		
		溝6	13.6	P01	70.6			P01	22.6				
		溝7	12.4	P02	67.6			P02	7.0				
				P03	31.2			P03	35.0				
A159号竪穴建物				P04	59.2			P04	28.4				
柱穴 No.	深さ (cm)			P05	31.8			P05	29.2				
P01	30.8												
P02	14.0												
溝1	10.0												
溝2	8.8												

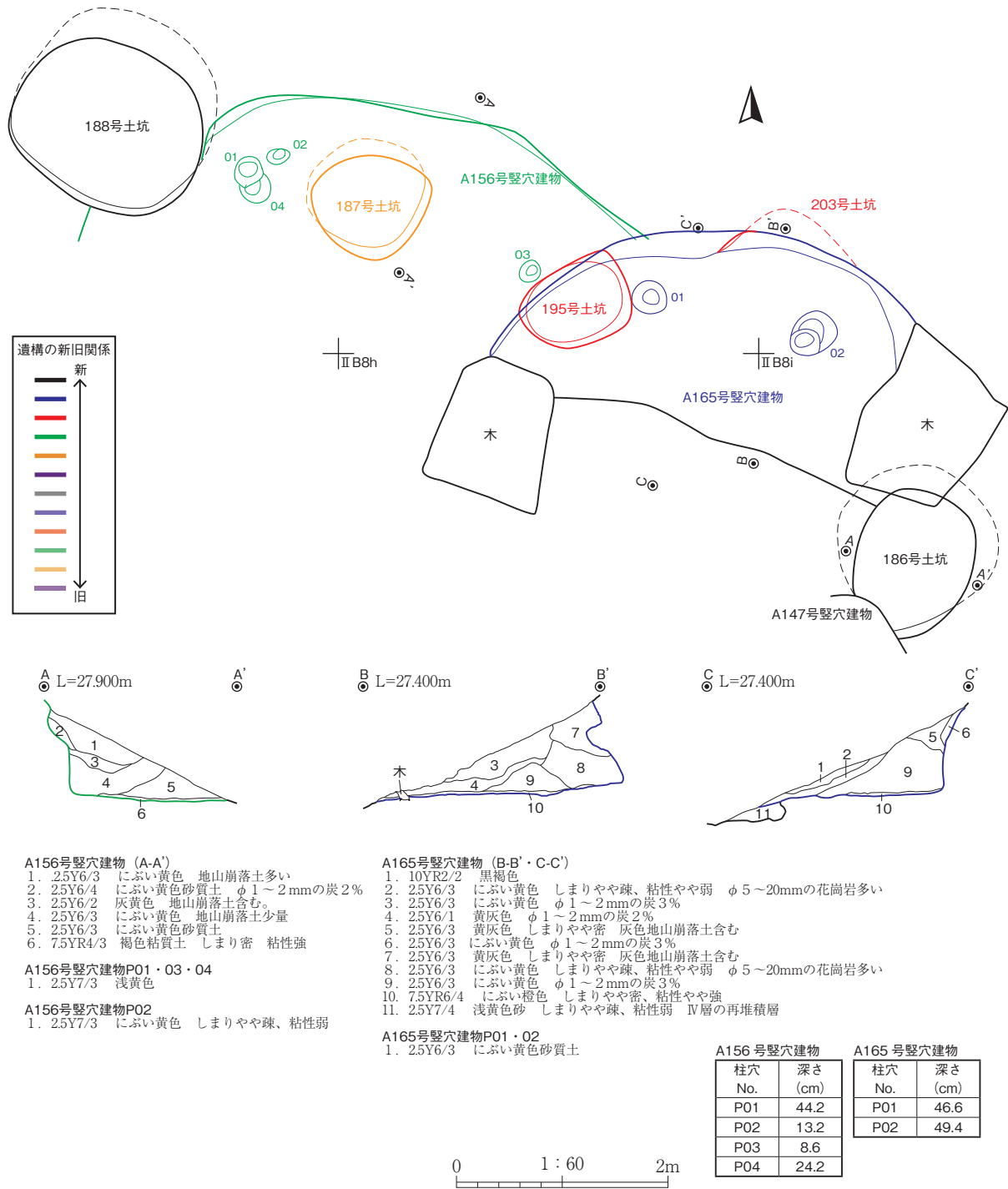


A113・157~159・161・171・174号竪穴建物



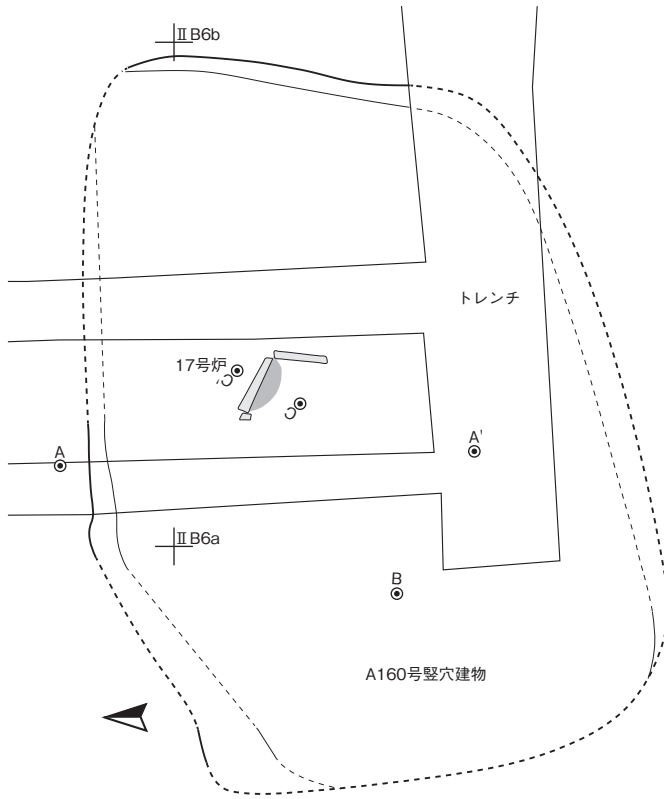
第 86 図 A 151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竪穴建物（4）

A156・165号竪穴建物



第 87 図 A 156・165 号竪穴建物

A160号竪穴建物



A160号竪穴建物 (A-A')

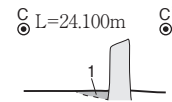
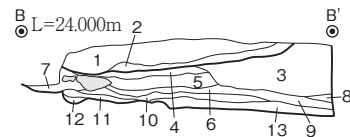
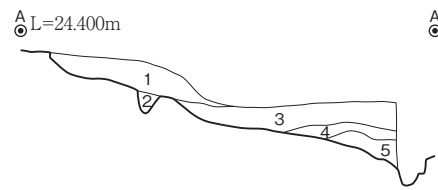
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ1~10mmの炭5%、花崗岩粒多い
2. 10YR2/2 黒褐色 花崗岩粒含む
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまりやや密 花崗岩粒多い
4. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密 花崗岩粒多い
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまりやや密 花崗岩粒多い

A160号竪穴建物 (II B6a) (B-B')

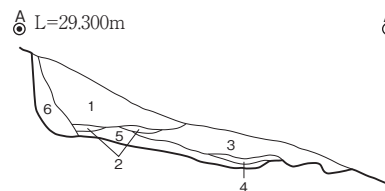
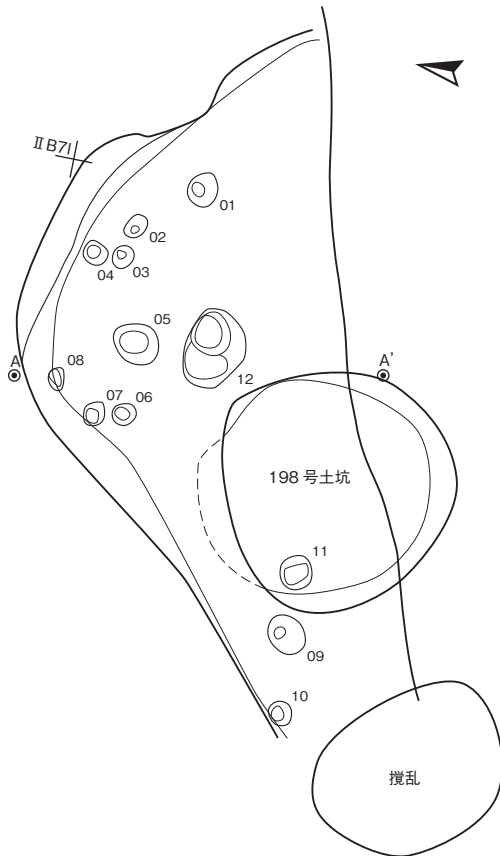
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ1~10mmの炭5%、花崗岩粒多い
 2. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密 花崗岩粒多い
 3. 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩粒多い
 4. 10YR5/3 にぶい黄褐色 浅黄色砂含む
 5. 7.5YR5/3 にぶい褐色
 6. 10YR3/3 暗褐色 花崗岩粒多い
 7. 7.5YR5/3 にぶい褐色
 8. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩粒多い
 9. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩粒含む
 10. 7.5YR5/3 にぶい褐色
 11. 橙色焼土
 12. 10YR5/3 にぶい黄褐色
 13. 10YR5/3 にぶい黄褐色 浅黄色砂含む
- ※1・2層がA160号竪穴建物堆積土、3層以下はA146号竪穴建物他の堆積土

17号炉 (C-C')

1. 橙色焼土



A168号竪穴建物

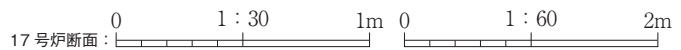


A168号竪穴建物

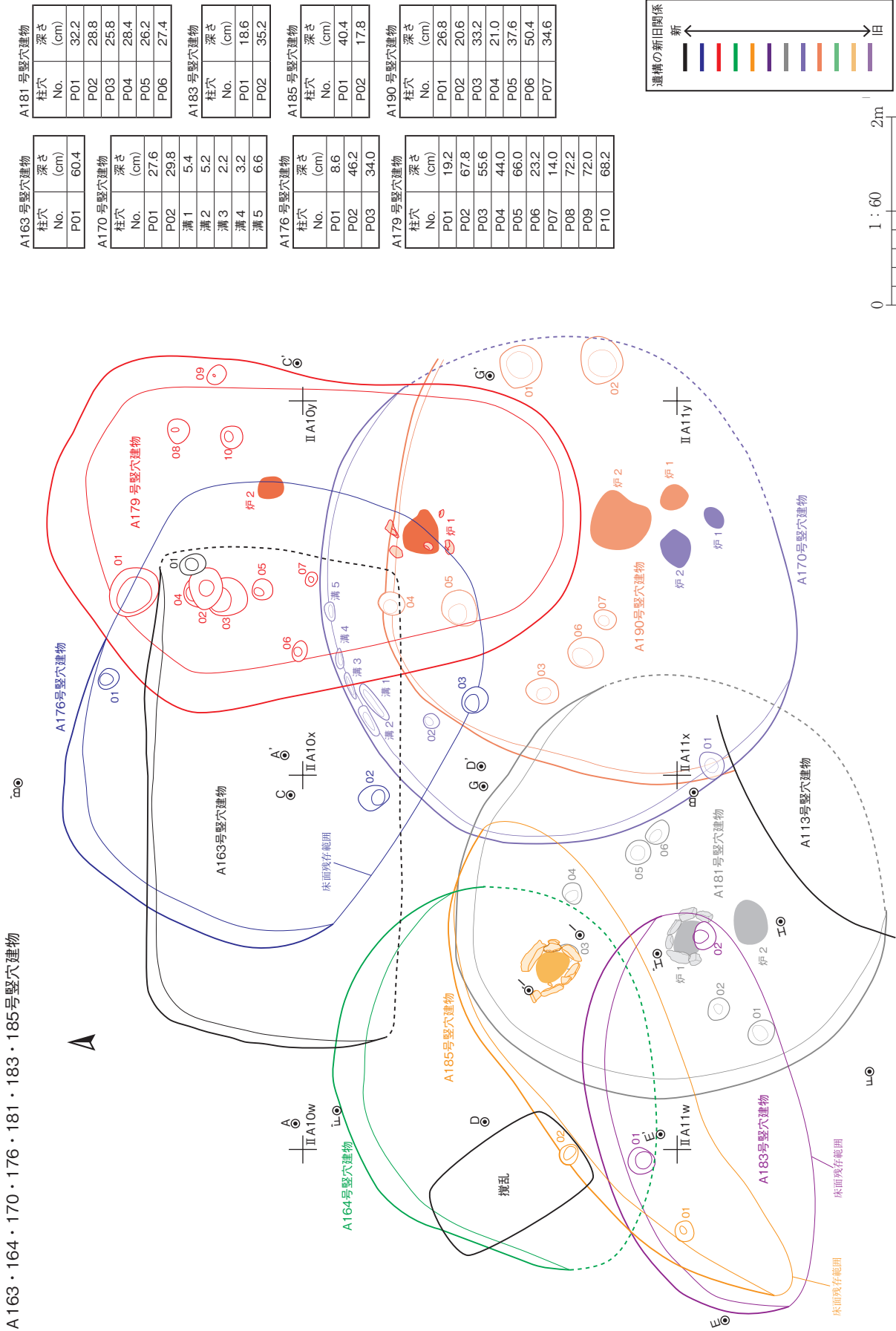
1. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまりやや密 粘性やや強 φ5~20mmの炭5%、花崗岩ブロック含む
2. 10YR8/3 浅黄褐色 地山崩落土
3. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまりやや密 粘性やや強 φ2~20mmの炭3%
4. 10YR6/3 にぶい黄褐色 しまりやや密 粘性やや強
5. 10YR7/3 にぶい黄褐色 しまりやや密 粘性やや強 φ1~5mmの炭3%
6. 10YR3/2 暗褐色 花崗岩少量

A168号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)
P01	38.0	P07	22.4
P02	50.4	P08	7.6
P03	24.2	P09	43.4
P04	13.8	P10	19.8
P05	27.6	P11	20.4
P06	26.0	P12	47.6



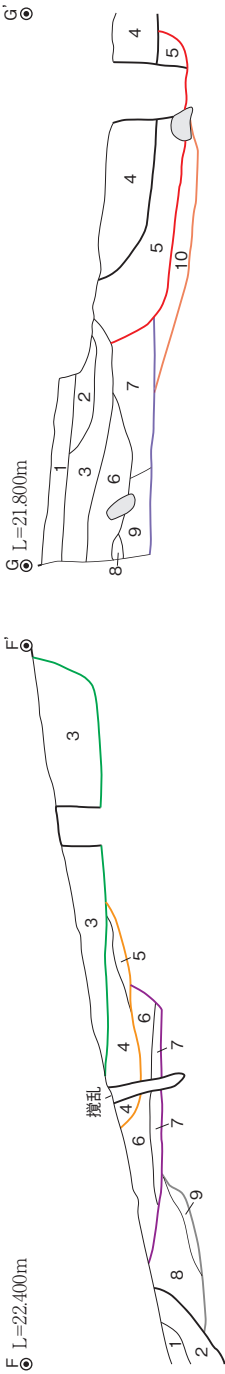
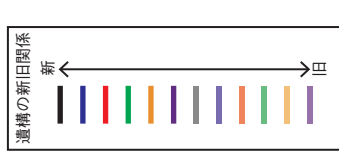
第 88 図 A 160 号竪穴建物、A 168 号竪穴建物



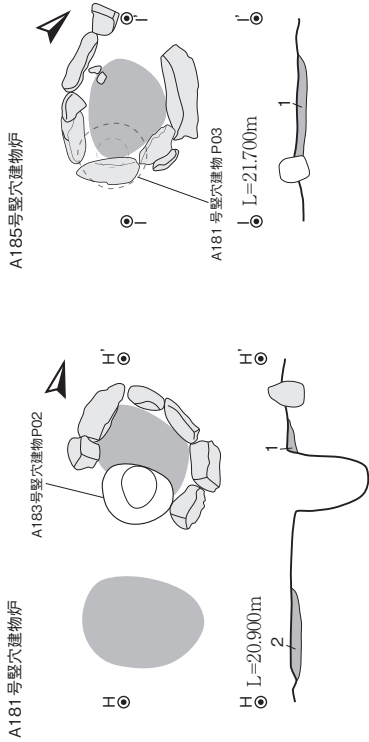
第 89 図 A 163・164・170・176・181・183・185号竪穴建物（1）



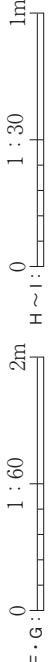
第90図 A 163・164・170・176・181・183・185号竪穴建物(2)



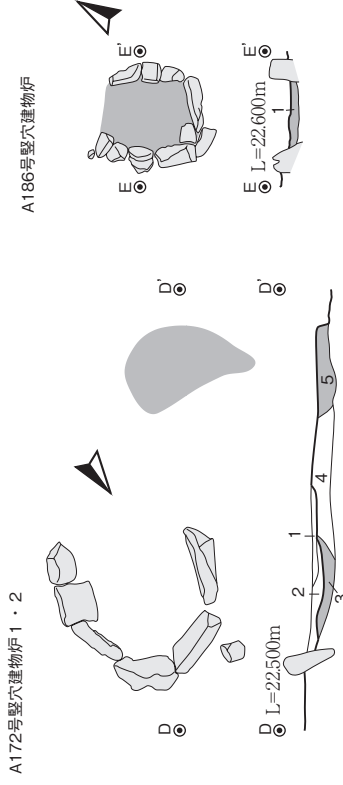
- A164・181・183・185号竪穴建物 (F-F')
1. 10YR2/2 黒褐色 粘りやや密、粘性弱
 2. 10YR2/3 黒褐色 粘りやや疎、粘性弱
 3. 10YR2/3 黒褐色 粘りやや疎、粘性弱
 4. 10YR2/3 黒褐色 粘りやや疎、粘性弱
 5. 10YR2/3 黒褐色 粘りやや疎、粘性弱
 6. 10YR2/2 黒褐色 粘りやや密、粘性無
 7. 10YR2/1 黒褐色 粘りやや密、粘性無
 8. 10YR4/4 黒褐色 粘りやや密、粘性無
 9. 10YR4/4 黒褐色 粘りやや密、粘性無
- ※ 3層がA164号竪穴建物、4・5層がA185号竪穴建物、6・7層がA183号竪穴建物、8・9層がA181号竪穴建物堆積土
- A170・179・190号竪穴建物 (G-G')
1. 10YR2/3 黒褐色 粘りやや疎、粘性無
 2. 10YR2/2 黒褐色 粘りやや疎、粘性無
 3. 10YR2/2 黒褐色 粘りやや疎、粘性無
 4. 10YR2/3 黒褐色 粘りやや疎、粘性無
 5. 10YR2/3 黒褐色 粘りやや疎、粘性無
 6. 10YR2/3 黒褐色 粘りやや疎、粘性無
 7. 10YR2/3 黒褐色 粘りやや疎、粘性無
 8. 10YR2/3 黒褐色 粘りやや疎、粘性無
 9. 10YR2/2 黒褐色 粘りやや密、粘性無
 10. 10YR2/2 黒褐色 粘りやや密、粘性無
- ※ 4層がA170号竪穴建物、5層がA179号竪穴建物、6～9層がA190号竪穴建物堆積土



- A181号竪穴建物 (H-H')
1. 5YR2/3 暗赤褐色焼土 しまりや疎、現地性
 2. 5YR3/6 暗赤褐色焼土 しまりや疎、現地性
- A185号竪穴建物 (H')
1. 5YR4/4 土っぽい赤褐色焼土 粘りやや密、現地性



A172・186号竪穴建物

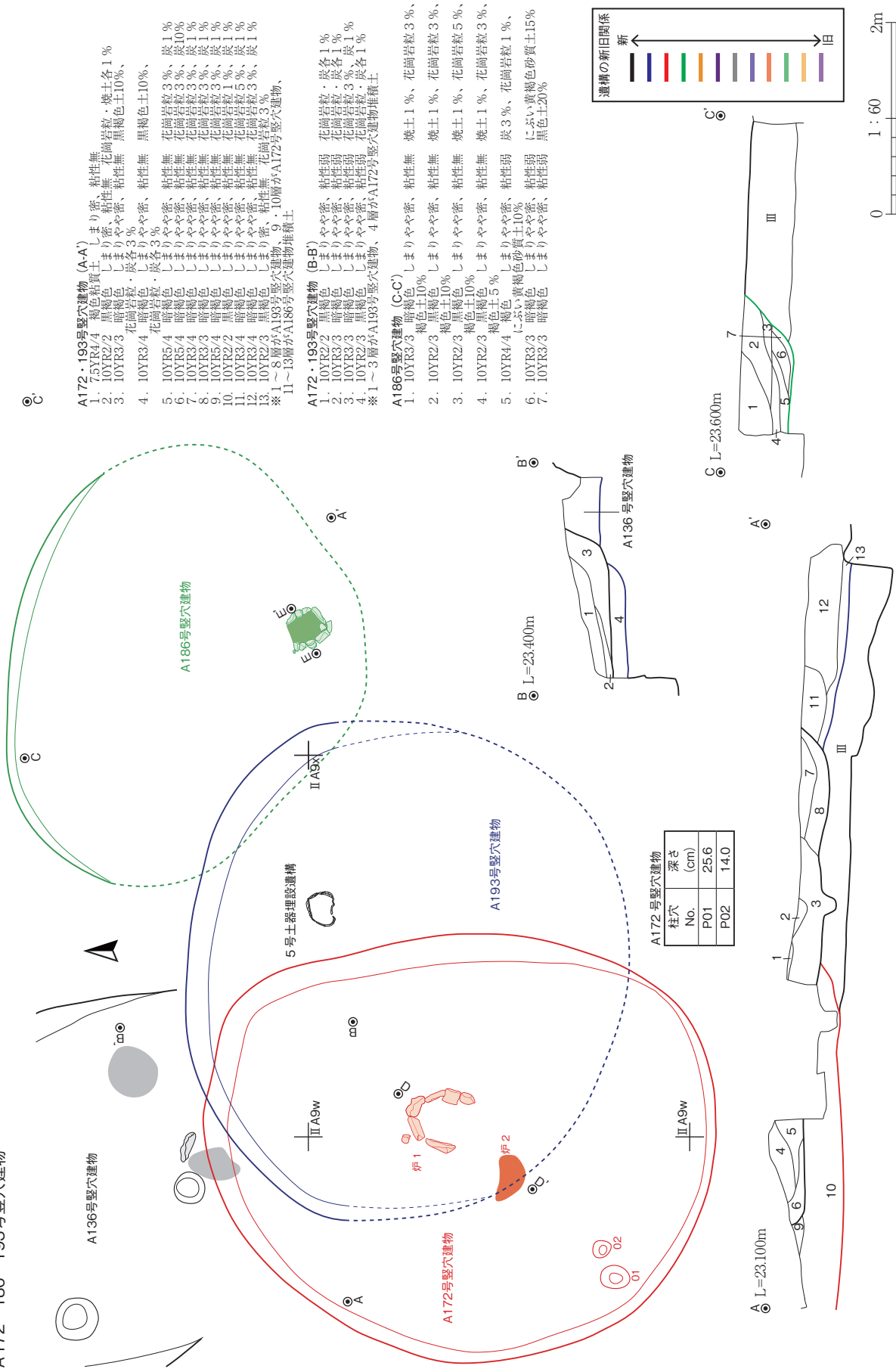


- A172号竪穴建物 (D-D')
1. 10YR2/1 黒褐色炭化物層 しまり密、粘性無
 2. 10YR2/3 黒褐色炭化物層 しまり密、粘性弱
 3. 7.5YR2/6 暗褐色焼土 しまりや疎、粘性無
 4. 10YR2/2 黒褐色焼土 しまりや疎、粘性無
 5. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまりや疎、粘性無
- A186号竪穴建物 (E-E')
1. 7.5YR4/6 褐色焼土 しまりやや密、粘性無
- 現地性



第91図 A163・164・170・176・181・183・185号竪穴建物(3)、
A172・186・193号竪穴建物(1)

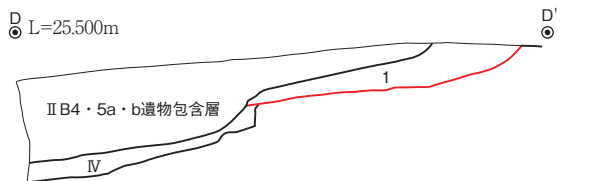
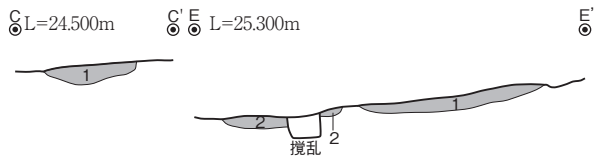
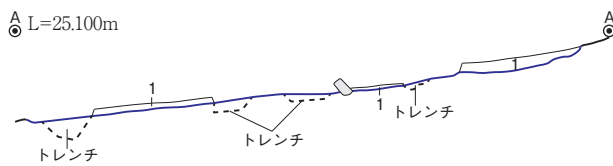
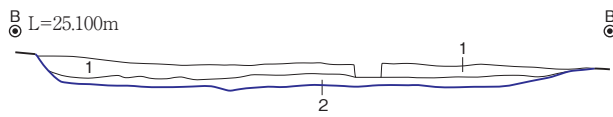
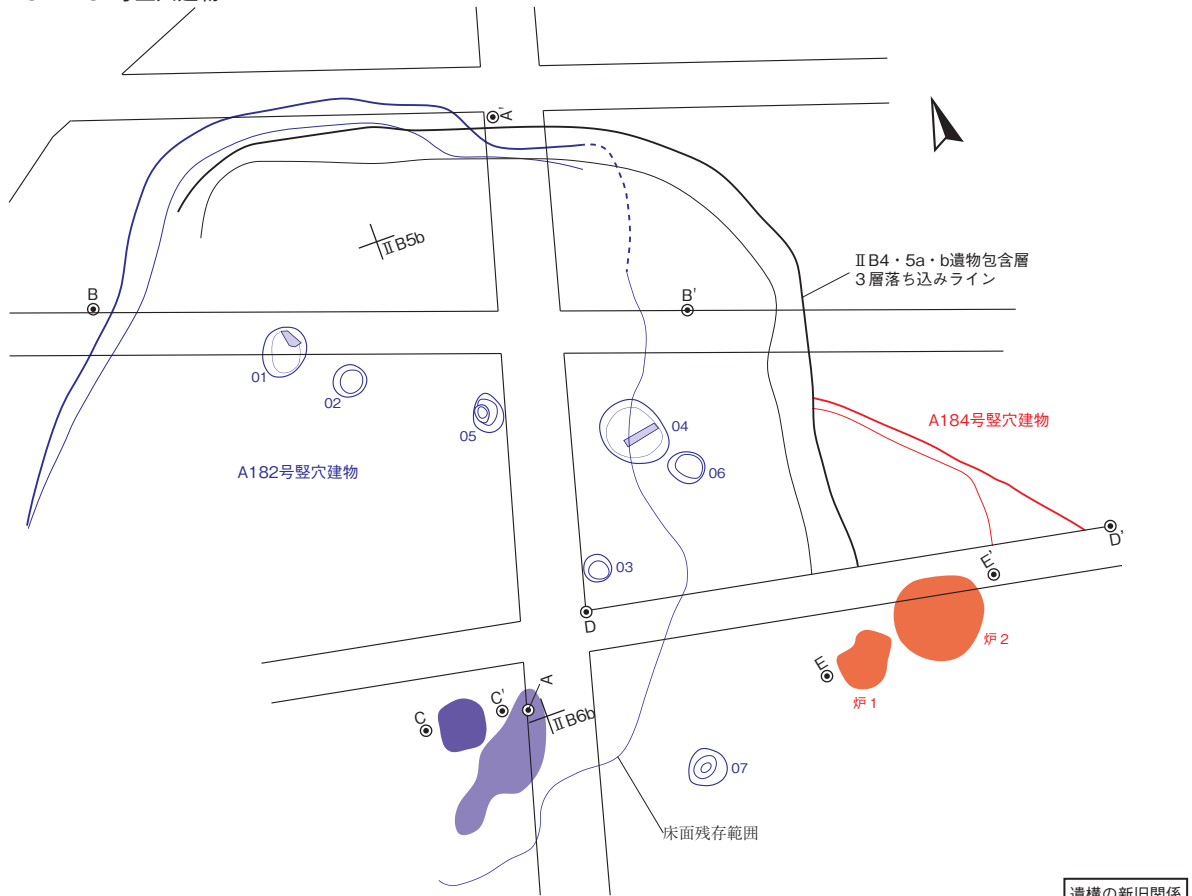
A172・186・193号竪穴建物



第92図 A172・186・193号竪穴建物(2)

2 竪穴建物（縄文時代）

A182・184号竪穴建物



A182号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)	備考
P01	28.8	角礫
P02	26.4	
P03	17.2	
P04	15.2	角礫
P05	35.0	
P06	26.8	
P07	62.4	



A182号竪穴建物 (A-A'・B-B')

- 10YR5/4 に近い黄褐色 しまり密、粘性強 花崗岩粒非常に多い
- 10YR4/2 灰黄褐色 しまり密、粘性強 地山の漸移層か 花崗岩粒非常に多い

A182号竪穴建物炉 (C-C')

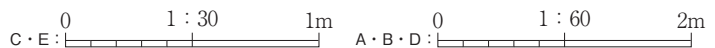
- 7.5YR5/6 暗褐色 しまり密、粘性無 暗褐色土少量 燃烧部焼土

A184号竪穴建物 (D-D')

- 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性やや弱

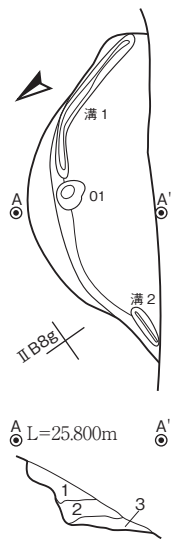
A184号竪穴建物炉1・2 (E-E')

- 7.5YR5/6 明褐色 しまり密、粘性無 強変焼土
- 5YR3/4 暗赤褐色 しまり密、粘性無 弱変焼土



第93図 A182・184号竪穴建物

A 194 号竪穴建物



A194号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	49.0
溝1	18.8
溝2	37.6

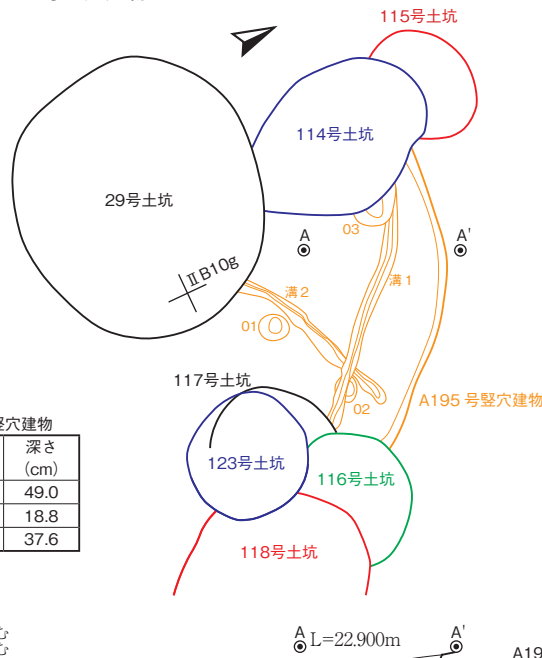
A194号竪穴建物 (A-A')

- 10YR2/2 黒褐色 にぶい黄褐色土含む
- 10YR4/3 にぶい黄褐色 花崗岩粒含む
- 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質土 礫含む

P01

- 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土 しまり疎、粘性やや弱 堆積土より柔らかい

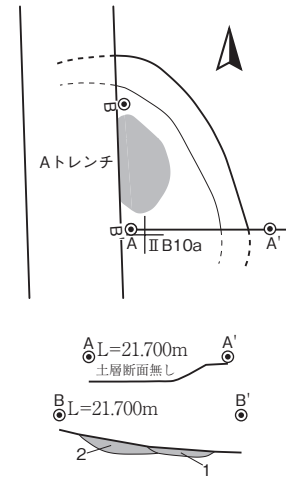
A 195 号竪穴建物



A195号竪穴建物

- 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質土 φ 1~2mmの炭2%

A 196 号竪穴建物



A196号竪穴建物 (A-A')

- 黒褐色土

A196号竪穴建物焼土 (B-B')

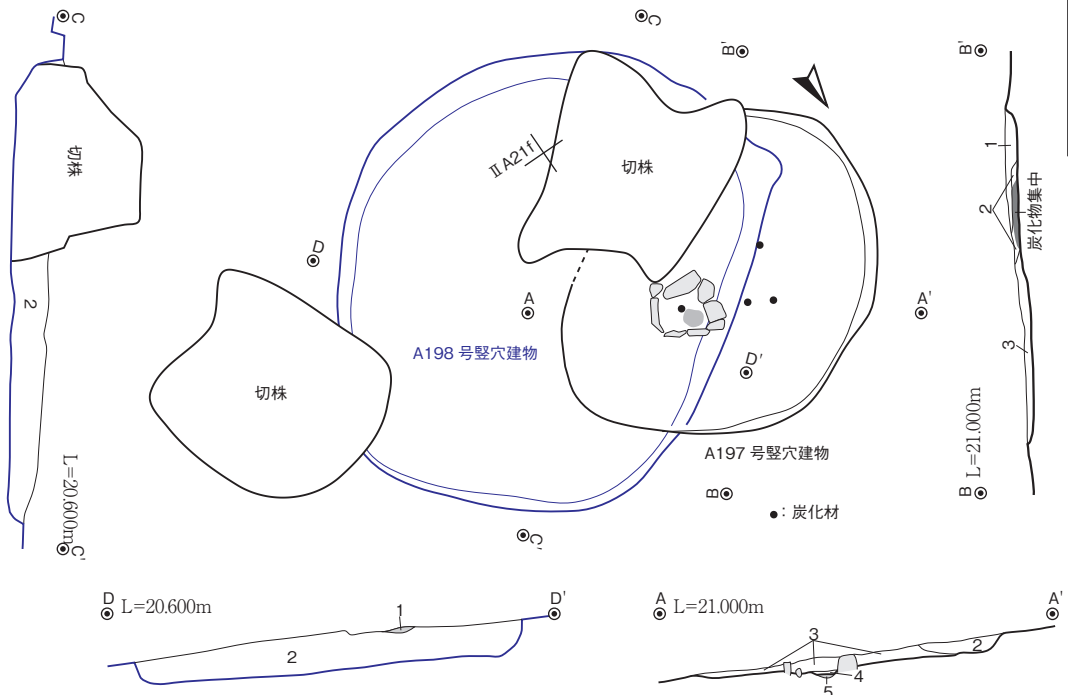
- 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまり密、粘性無
- 7.5YR4/3 褐色 しまりやや密 炭2%

A195号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	34.0
P02	24.8
P03	16.8
溝1	24.6
溝2	26.2



A 197・198 号竪穴建物



A197号竪穴建物 (A-A'・B-B')

- 10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや疎
- 10YR2/2 黒褐色 φ10mm前後の炭・焼土多量 炭は焼失した建築部材の可能性もあるが形状は不明
- 10YR3/2 黒褐色 粘性やや弱 φ2~5mmの炭・焼土少量 建物廃絶直後の流入土
- 10YR3/1 黒褐色 粘性やや弱 炭多量、黄褐色焼土含む
- 5YR7/8 橙色 しまりやや疎、粘性やや弱 燃焼部焼土だが上面の硬化認められず 根の侵食により上位の黒褐色土混入

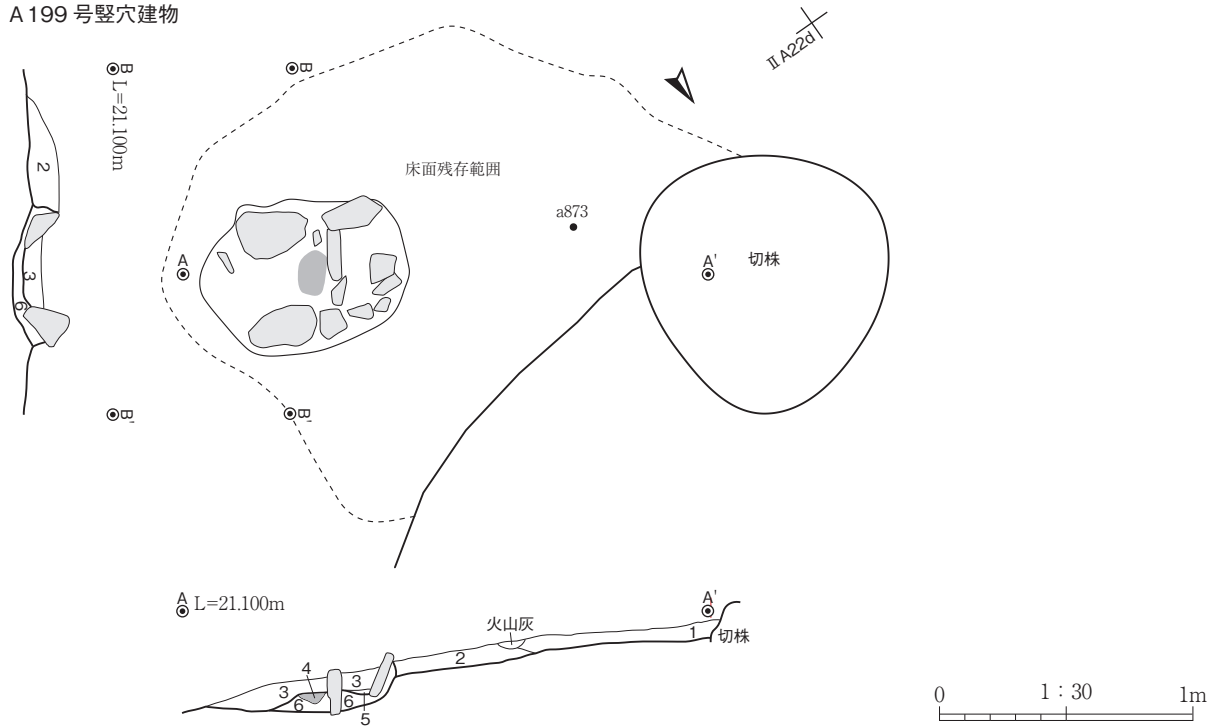
A198号竪穴建物 (C-C'・D-D')

- 5YR7/6 橙色と10YR3/1黒褐色の混合土 斜面上方から流れ込んだ二次堆積焼土
- 10YR3/1 黒褐色 にぶい黄褐色土と明黄褐色土ブロック各15%、花崗岩粒多い

第94図 A 194号竪穴建物、A 195号竪穴建物、A 196号竪穴建物、
A 197・198号竪穴建物

2 竪穴建物（縄文時代）

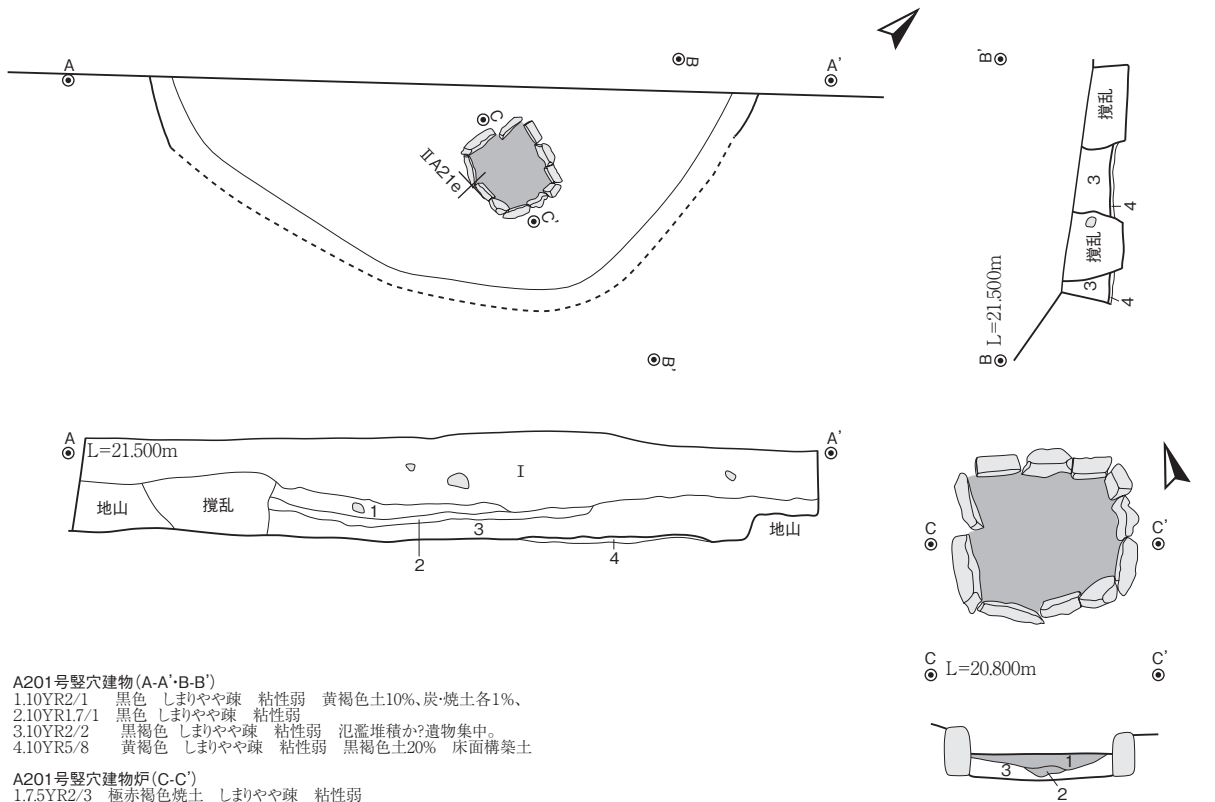
A199号竪穴建物



A199号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1. 10YR3/2 黒褐色 φ2~10mmの花崗岩粒3%、東端に火山灰ブロック含む 2層より粒子細かい 遺物出土
2. 10YR3/2 黒褐色 φ5~10mmの花崗岩粒10%
3. 10YR3/2 黒褐色 下位に焼土粒微量 2層より粒子細かいが由来は同じ
4. 7.5YR/6 橙色 しまりやや疎、粘性やや弱 現地性焼土
5. 10YR2/1 黒色 しまり疎、粘性弱 炭化物層 木炭の細片多量 直下に極薄い焼土層があることから焼成時に形成されたと考えられる
6. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 炉石揺り方埋め土及び底面構築土

A201号竪穴建物



A201号竪穴建物 (A-A'・B-B')

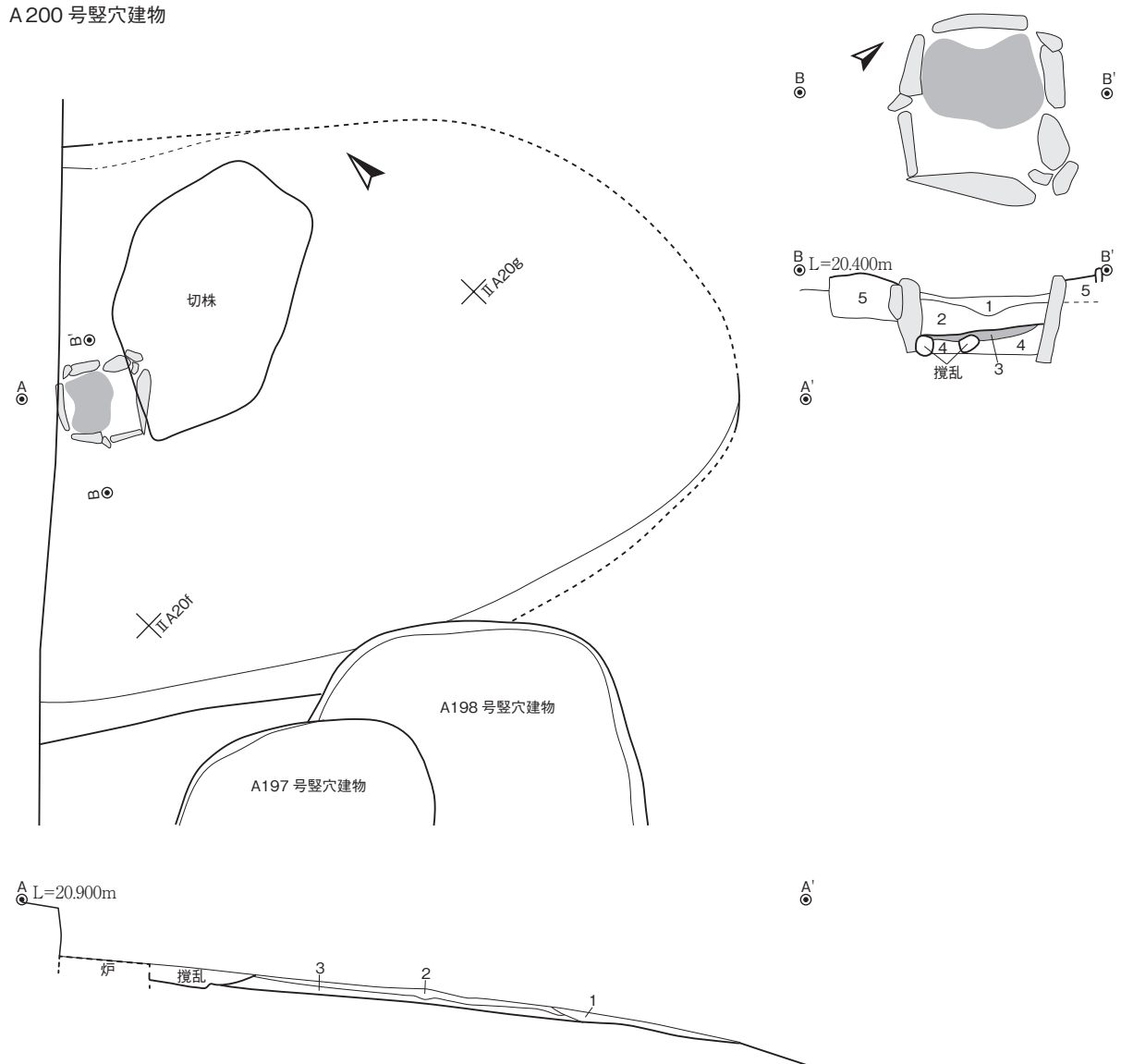
1. 10YR2/1 黒色 しまりやや疎 粘性弱 黄褐色土10%、炭・焼土各1%、
2. 10YR1.7/1 黒色 しまりやや疎 粘性弱
3. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎 粘性弱 氾濫堆積か?遺物集中。
4. 10YR5/8 黄褐色 しまりやや疎 粘性弱 黒褐色土20% 床面構築土

A201号竪穴建物炉 (C-C')

1. 7.5YR2/3 極赤褐色焼土 しまりやや疎 粘性弱
2. 2.5YR2/3 極暗赤褐色焼土 しまりやや疎 粘性無 燃焼部焼土
3. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎 粘性無。

第95図 A199号竪穴建物、A201号竪穴建物

A 200 号竪穴建物

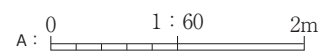
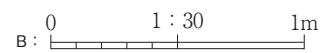


A200 号竪穴建物 (A-A')

1. 10YR3/2 黒褐色と 2.5Y7/4 浅黄色の混合土 しまりやや疎、粘性やや弱
2. 2.5Y7/4 浅黄色砂 しまり疎、粘性弱 花崗岩粒多い
3. 10YR3/1 黒褐色 浅黄色砂 20%

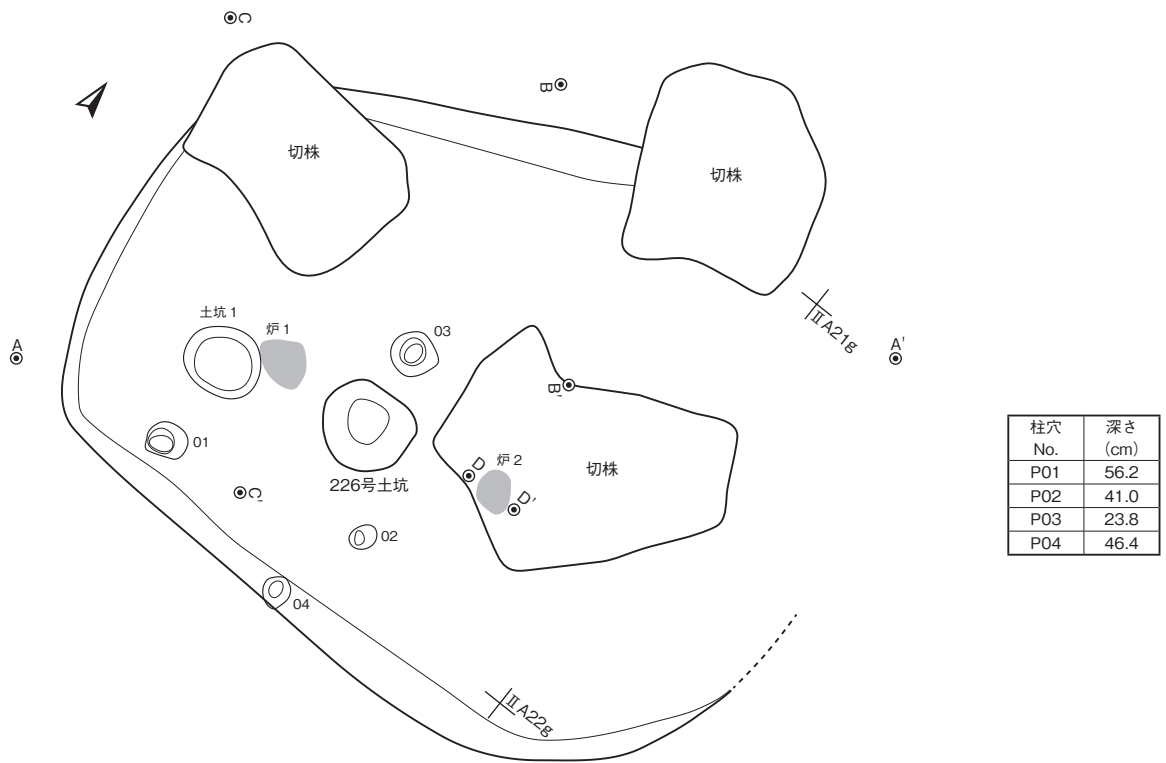
炉 (B-B')

1. 10YR2/1 黒色 φ10～20mmの炭 5%、焼土ブロック含む 住居堆積土より炭・焼土多い
2. 7.5YR5/4 にぶい褐色 φ5mmの焼土ブロック含む
3. 5YR4/8 赤褐色焼土 しまりやや疎粘性弱
4. 10YR2/1 黒色 しまりやや疎、粘性弱
5. 10YR4/6 褐色粘質土 しまりやや密、粘性無 黒色土・黒褐色土各 10% 炉石の据え方埋土

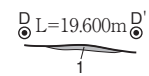
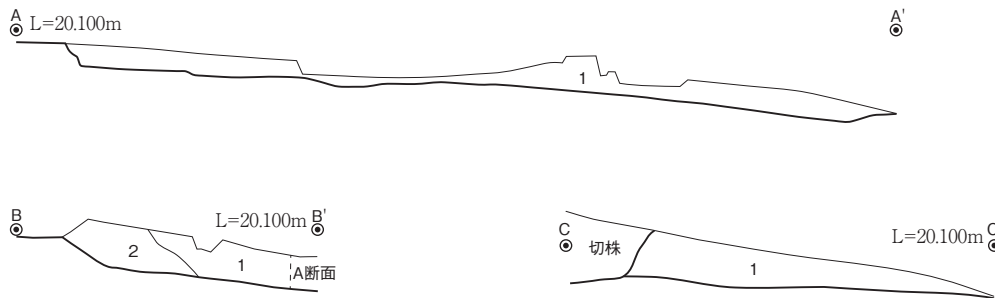


第 96 図 A 200 号竪穴建物

A 202 号竪穴建物



柱穴 No.	深さ (cm)
P01	56.2
P02	41.0
P03	23.8
P04	46.4



A202 号竪穴建物 (A-A'・B-B'・C-C')

- 10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 黄色地山ブロック 2%、遺物多量包含
- 10YR2/1 黒色 しまりやや疎、粘性やや弱 遺物を包含する流入土

炉 1

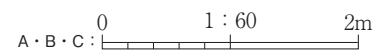
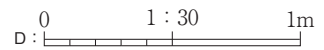
- 5YR3/6 暗赤褐色焼土 しまり疎、粘性無 燃烧部焼土

炉 2 (D-D')

- 5YR3/6 暗赤褐色焼土 しまりやや疎、粘性弱 燃烧部焼土

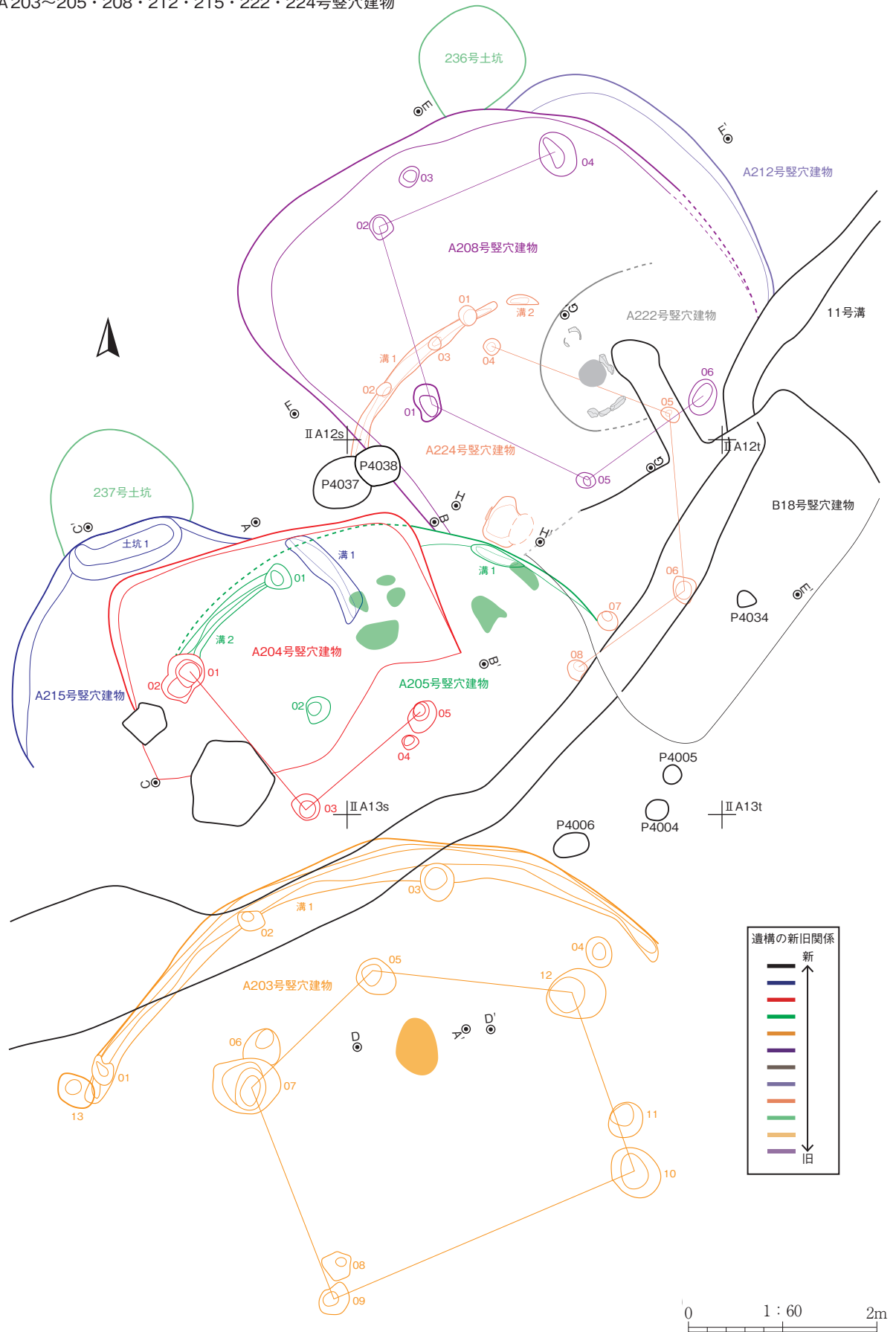
土坑 1

- 10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性弱



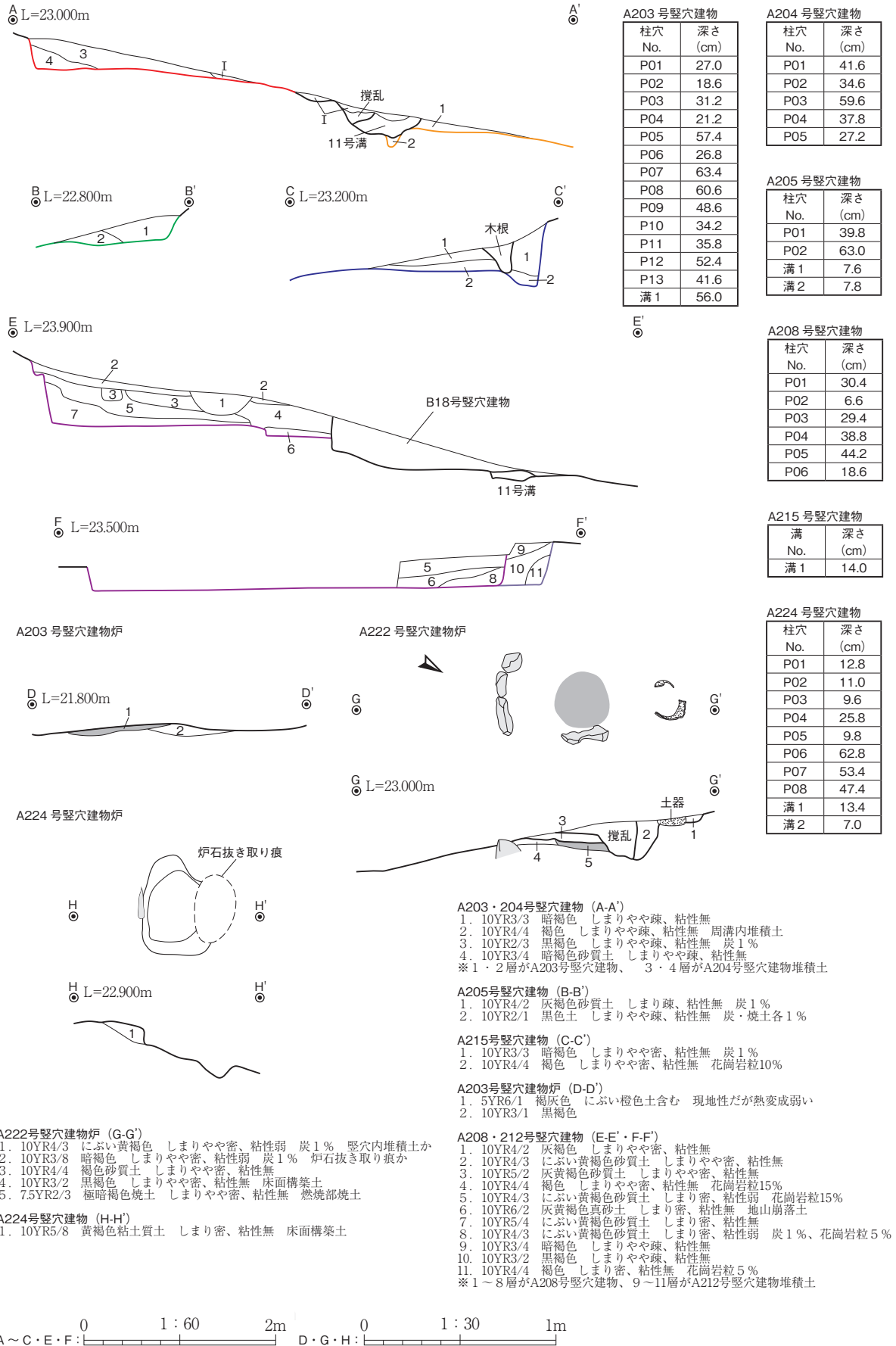
第 97 図 A 202 号竪穴建物

A 203~205・208・212・215・222・224号竪穴建物



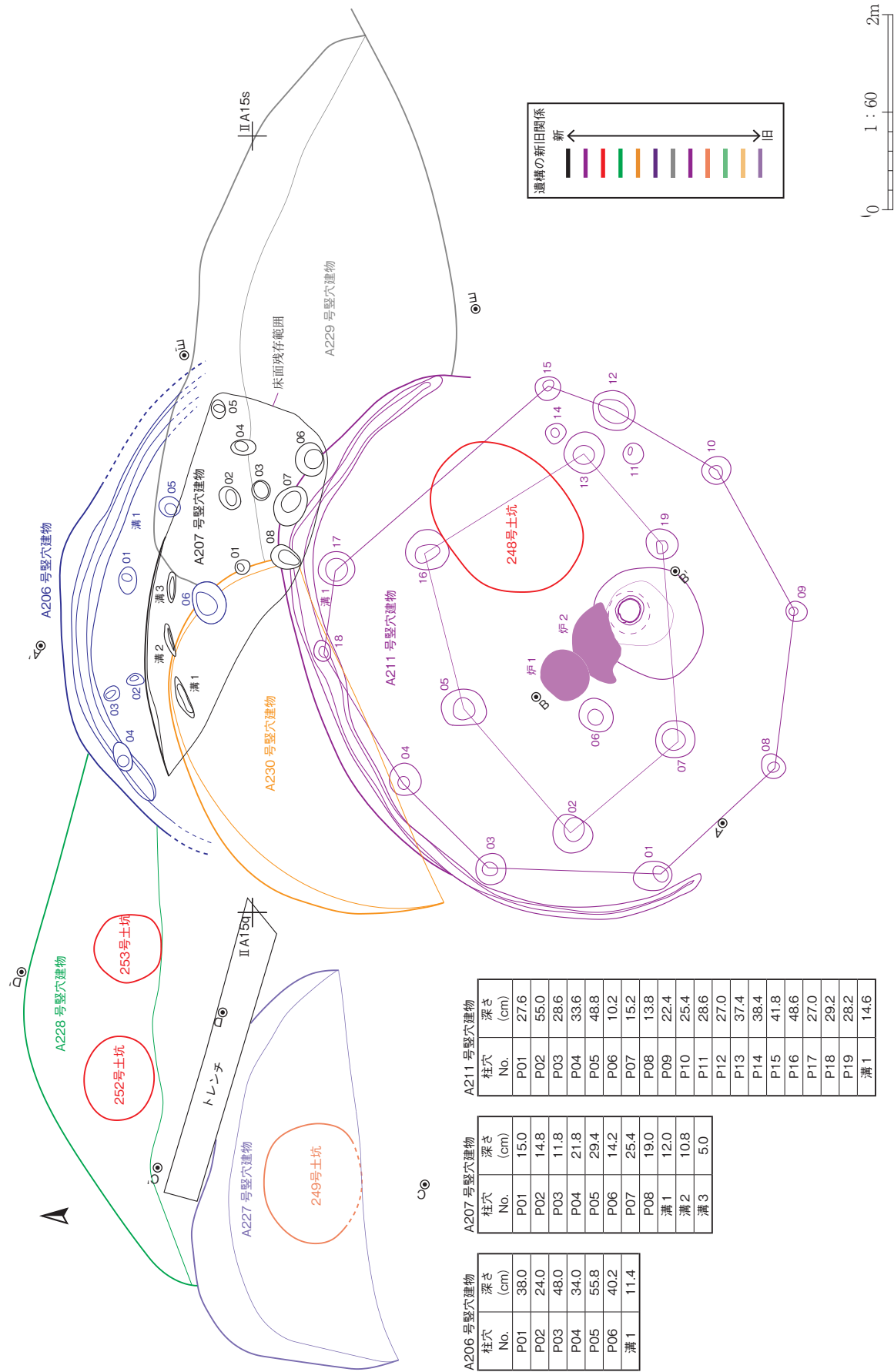
第 98 図 A 203 ~ 205 ・ 208 ・ 212 ・ 215 ・ 222 ・ 224 号竪穴建物 (1)

2 竪穴建物（縄文時代）



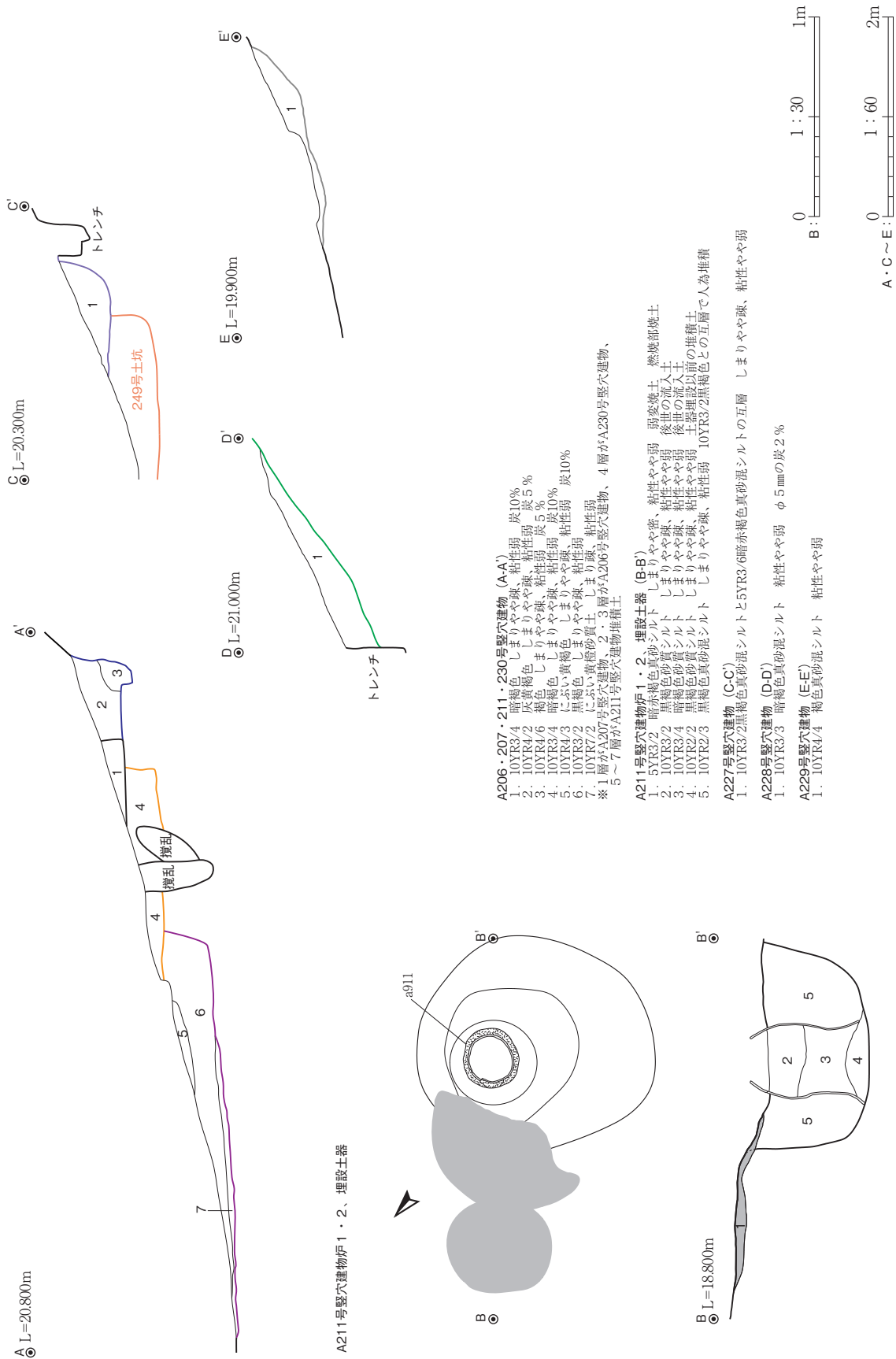
第99図 A 203～205・208・212・215・222・224号竪穴建物（2）

A 206・207・211・227～230号竪穴建物



A206号竪穴建物		A207号竪穴建物		A211号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)
P01	38.0	P01	15.0	P01	27.6
P02	24.0	P02	14.8	P02	55.0
P03	48.0	P03	11.8	P03	28.6
P04	34.0	P04	21.8	P04	33.6
P05	55.8	P05	29.4	P05	48.8
P06	40.2	P06	14.2	P06	10.2
溝1	11.4	P07	25.4	P07	15.2
		P08	19.0	P08	13.8
		溝1	12.0	P09	22.4
		溝2	10.8	P10	25.4
		溝3	5.0	P11	28.6
				P12	27.0
				P13	37.4
				P14	36.4
				P15	41.8
				P16	48.6
				P17	27.0
				P18	29.2
				P19	28.2
				溝1	14.6

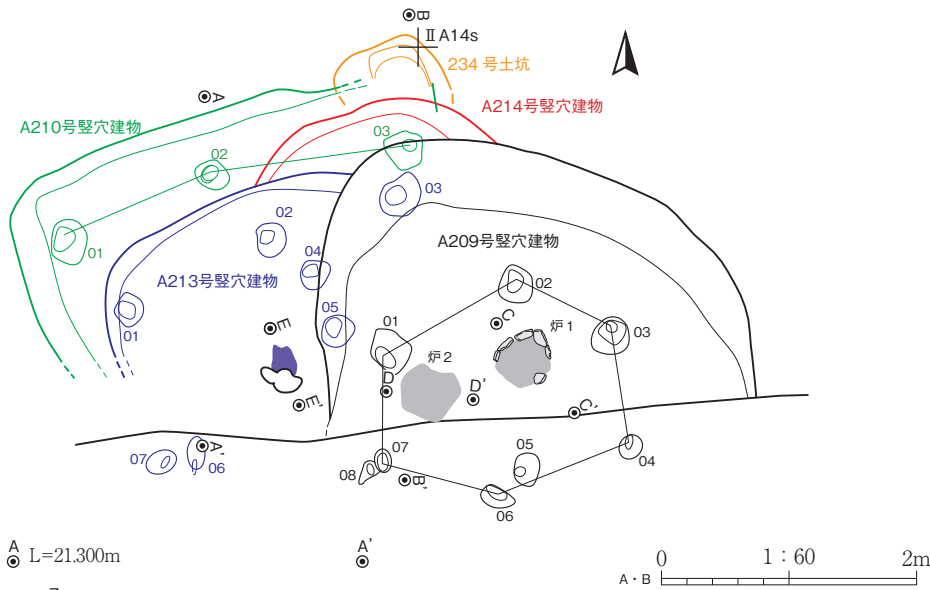
第100図 A 206・207・211・227～230号竪穴建物 (1)



- A206・207・211・230号竪穴建物 (A-A')**
- 10YR3/4 暗褐色 しまりやや疎 粘性弱 炭10%
 - 10YR3/2 暗褐色 しまりやや疎 粘性弱 炭5%
 - 10YR3/6 紫色 しまりやや疎 粘性弱 炭5%
 - 10YR3/4 暗褐色 しまりやや疎 粘性弱 炭10%
 - 10YR3/3 暗褐色 しまりやや疎 粘性弱 炭10%
 - 10YR3/2 暗褐色 しまりやや疎 粘性弱
 - 10YR3/2 暗褐色 黄褐色 しまりやや疎 粘性弱
- ※1層がA207号竪穴建物、2層がA206号竪穴建物、4層がA230号竪穴建物、5～7層がA211号竪穴建物堆積土
- A211号竪穴建物 1・2 埋設土器 (B-B')**
- 5YR3/2 暗赤褐色 真砂混シルト しまりやや密、粘性やや弱 弱炭焼土 炭焼部焼土
 - 10YR3/2 暗褐色 真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 後世の流入土
 - 10YR3/4 暗褐色 真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 後世の流入土
 - 10YR2/2 暗褐色 真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 土器埋設以前の堆積土
 - 10YR2/3 暗褐色 真砂混シルト しまりやや疎、粘性弱 10YR3/2 暗褐色との互層で人為堆積
- A227号竪穴建物 (C-C')**
- 10YR3/2 暗褐色 真砂混シルトと5YR3/6暗赤褐色 真砂混シルトの互層 しまりやや疎、粘性やや弱
- A228号竪穴建物 (D-D')**
- 10YR3/3 暗褐色 真砂混シルト 粘性やや弱 φ5mmの炭2%
- A229号竪穴建物 (E-E')**
- 10YR3/4 暗褐色 真砂混シルト 粘性やや弱

第 101 図 A 206・207・211・227～230号竪穴建物（2）

A209・210・213・214号竪穴建物



A209号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	43.0
P02	34.0
P03	49.8
P04	35.8
P05	39.8
P06	36.2
P07	30.6
P08	18.2

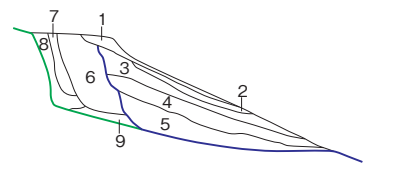
A210号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	50.0
P02	51.4
P03	60.6

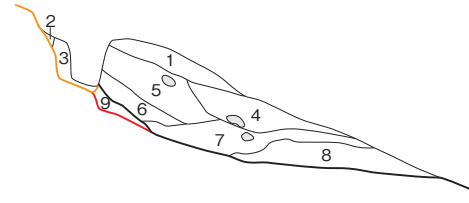
A213号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	36.4
P02	34.8
P03	48.6
P04	26.6
P05	39.6
P06	38.8
P07	46.8

A L=21.300m



B L=21.300m



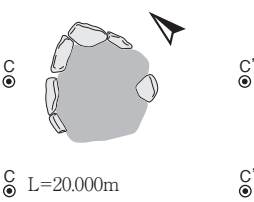
A210・213号竪穴建物 (A-A')

- 2.5YR4/2 暗灰黄色 しまりやや密、粘性無 φ3~10mmの礫7%
 - 2.5YR3/1 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 炭30%
 - 2.5YR4/3 オリーブ褐色 しまり密、粘性無 φ3~10mmの礫7%、炭5%
 - 2.5YR3/2 黒褐色 しまり密、炭25%、φ3~10mmの礫5%
 - 2.5YR4/2 暗灰黄色 しまり密、粘性無 炭3%、φ3~10mmの礫3%
 - 2.5YR4/2 暗灰黄色 しまり密、粘性無 φ3~10mmの礫10%、炭5%
 - 2.5YR4/3 オリーブ褐色 しまりやや密、粘性無 φ3~10mmの礫3%
 - 2.5YR4/2 暗灰黄色 しまり密、粘性無 φ3~10mmの礫5%
 - 2.5YR4/3 オリーブ褐色 しまり密、粘性無 炭2%
- ※2~5層がA213号竪穴建物、6~9層がA210号竪穴建物堆積土

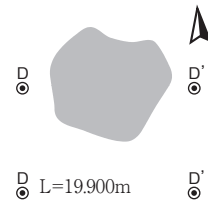
A209・214号竪穴建物、234号土坑 (B-B')

- 2.5YR4/2 暗灰黄色 しまりやや密、粘性無 φ3~10mmの礫7% = A断面1層
 - 10YR6/4 にぶい黄橙色 しまり密、粘性無 (SKB11堆積土)
 - 2.5YR4/3 オリーブ褐色 しまりやや密、粘性無 φ3~10mmの礫7%、炭2%
 - 2.5YR6/3 にぶい黄色 しまりやや疎、粘性無 2.5YR4/4 オリーブ褐色20%
 - 2.5YR4/3 オリーブ褐色 しまり密、粘性弱 φ3~10mmの礫10%、炭3%
 - 2.5YR4/3 オリーブ褐色 しまり密、粘性無 φ3~10mmの礫5%、炭5%
 - 2.5YR4/2 暗灰黄色 しまりやや密、粘性弱 炭5%
 - 2.5YR4/2 暗灰黄色 しまり密、粘性弱 炭3%、2.5YR6/3 にぶい黄色40%
 - 2.5YR4/3 オリーブ褐色 しまり密、粘性無 炭5%
- ※2・3層が234号土坑、4~8層がA209号竪穴建物、9層がA214号竪穴建物堆積土

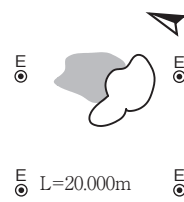
A209号竪穴建物炉1



A209号竪穴建物炉2



A213号竪穴建物炉



A209号竪穴建物炉1 (C-C')

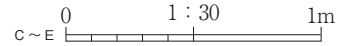
- 7.5YR3/3 暗褐色焼土 しまり密 炭7%
- 10YR6/4 にぶい黄橙色 しまり密、粘性弱 弱い被熱

A209号竪穴建物炉2 (D-D')

- 7.5YR2/3 極暗褐色 しまり密、粘性強 炭5%

A213号竪穴建物炉 (E-E')

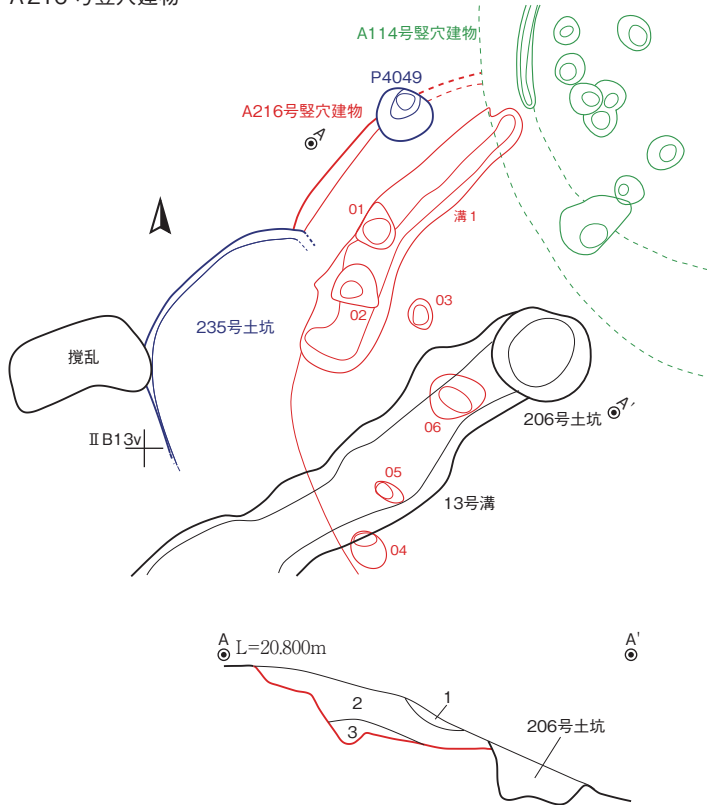
- 5YR4/6 赤褐色 しまりやや密、粘性無



第102図 A209・210・213・214号竪穴建物

2 竪穴建物（縄文時代）

A216号竪穴建物



A216号竪穴建物 (A-A')

1. 10YR2/1 黒色 しまりやや疎、粘性無 表土
2. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性無 花崗岩粒 15%
3. 10YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性無 花崗岩粒 10%

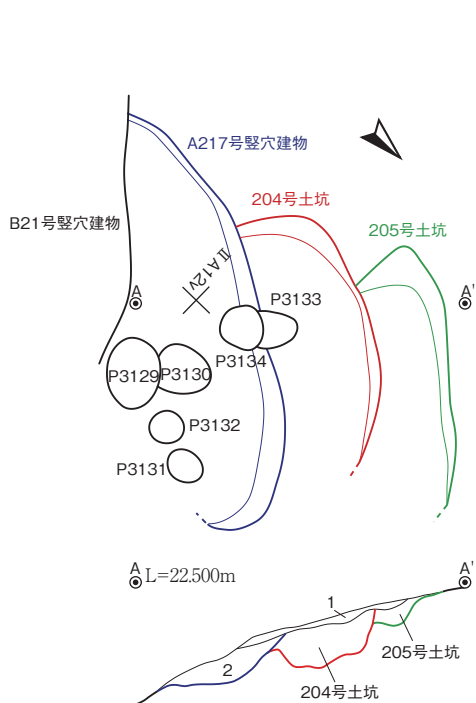
A216号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	56.4
P02	25.6
P03	21.6
P04	38.9
P05	21.3
P06	29.3
溝 1	38.1

遺構の新旧関係



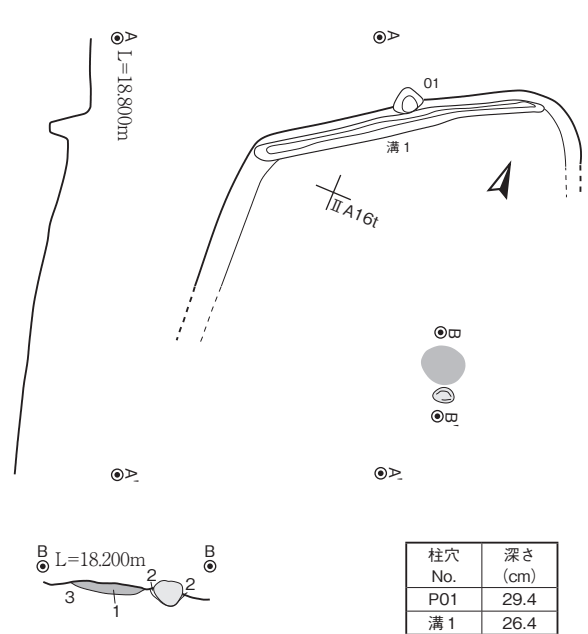
A217号竪穴建物



A217号竪穴建物 (A-A')

1. 10YR2/1 黒色 しまりやや密、粘性無し 花崗岩粒 1%
 2. 10YR3/4 暗褐色 しまりやや密、粘性無し 炭・花崗岩粒各 1%
- ※ 1層は表土、2層が A217号竪穴建物堆積土

A225号竪穴建物

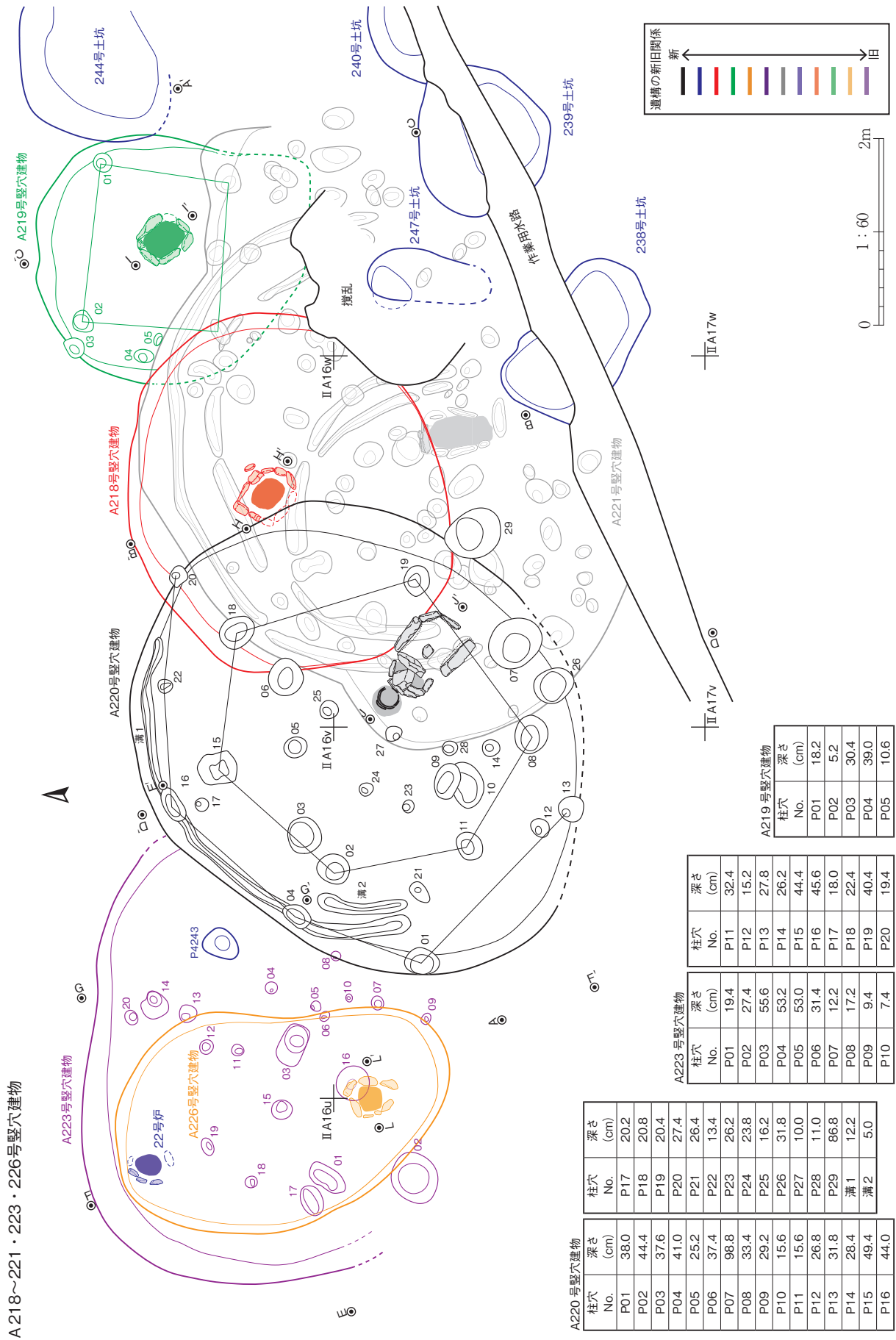


A225号竪穴建物炉 (B-B')

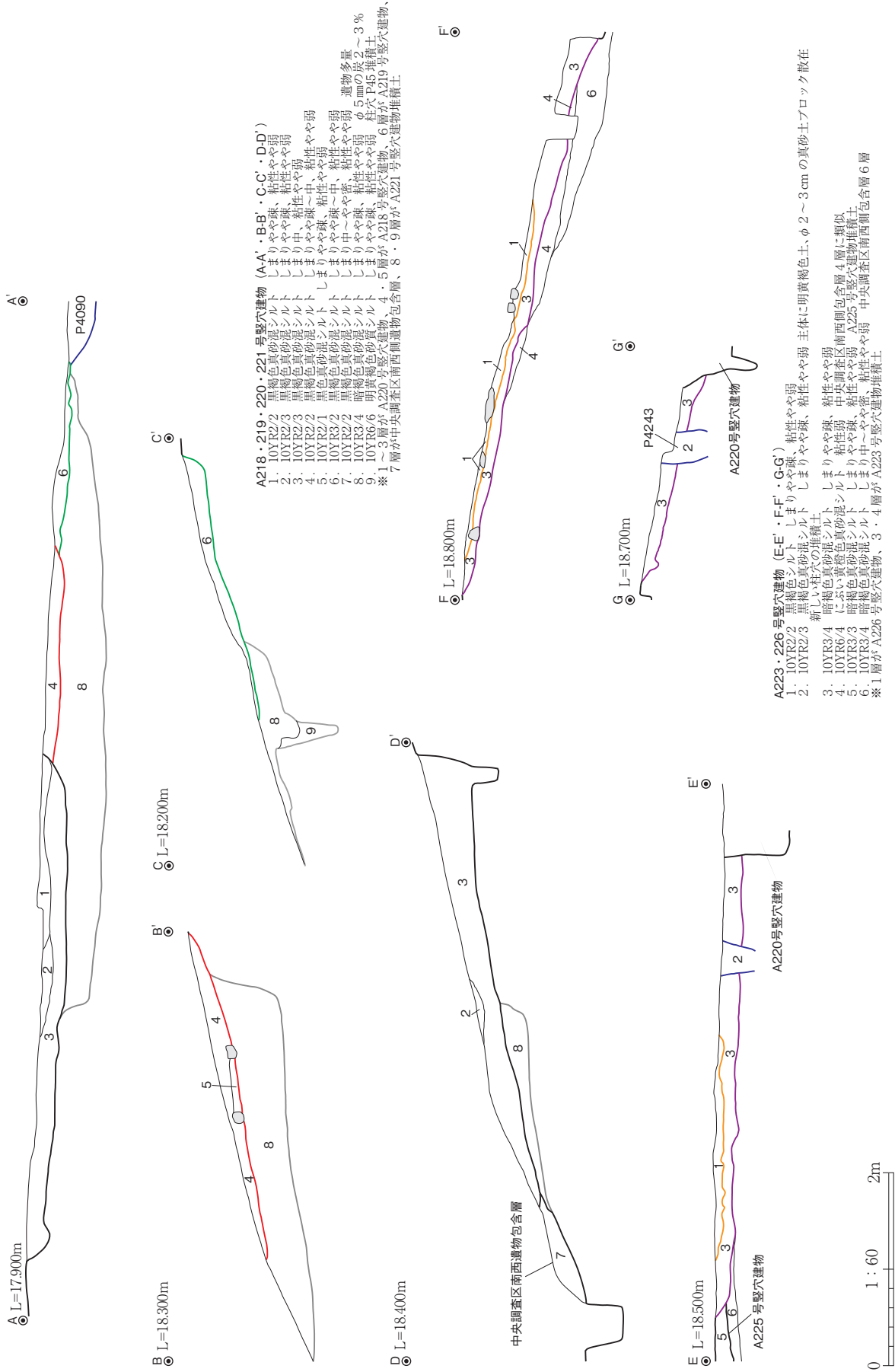
1. 2.5YR4/8 赤褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 強変焼土
 2. 10YR2/3 黒褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 炉石攪り方埋土
 3. 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト しまり有～やや密、粘性やや弱
- 中央調査区南西側ベルト6層と同じ崩落土層

A225号B断面: 0 1:30 1m

第103図 A216号竪穴建物、A217号竪穴建物、A225号竪穴建物

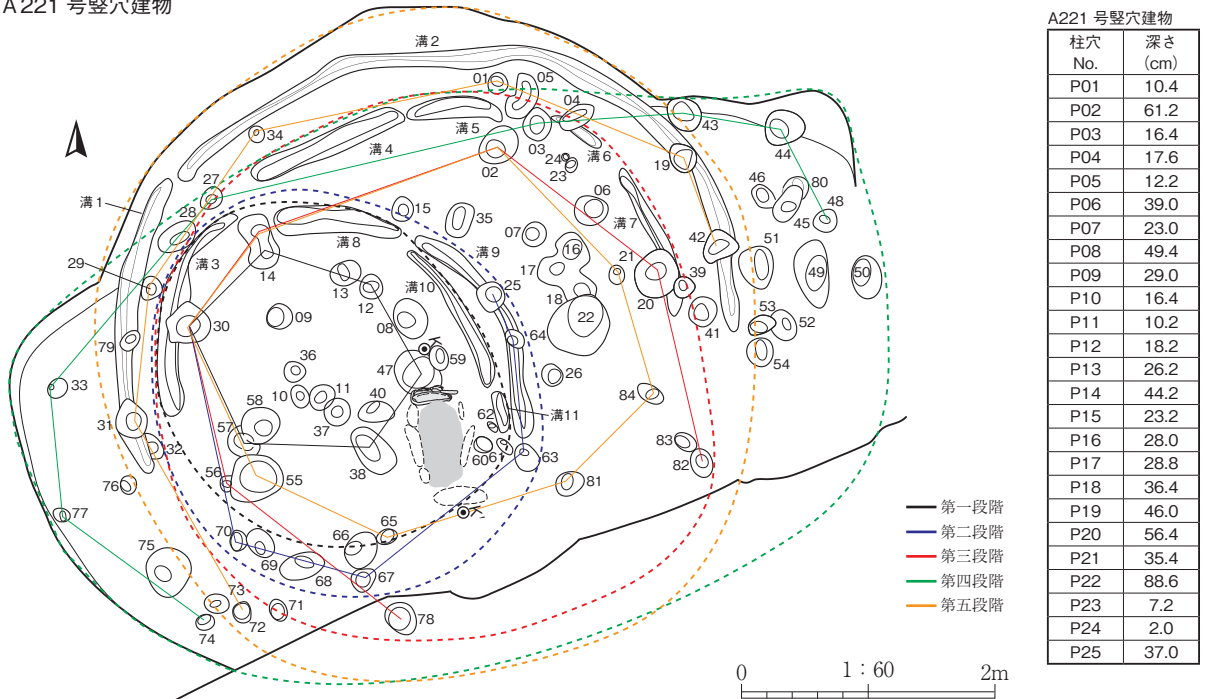


第104図 A218~221・223・226号竪穴建物(1)



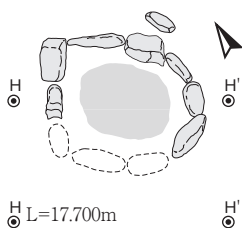
第105図 A 218～221・223・226号竪穴建物（2）

A221 号竪穴建物

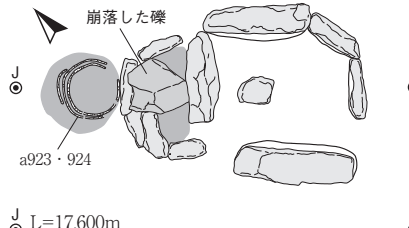


柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)
P26	8.6	P36	18.8	P46	17.2	P56	20.6	P66	45.6	P76	7.8	溝2	11.4
P27	14.0	P37	10.6	P47	70.4	P57	33.2	P67	49.0	P77	21.6	溝3	21.0
P28	10.6	P38	28.4	P48	17.2	P58	64.4	P68	19.6	P78	41.6	溝4	16.0
P29	22.2	P39	14.0	P49	66.0	P59	27.8	P69	17.4	P79	20.0	溝5	7.4
P30	34.8	P40	49.0	P50	52.4	P60	14.8	P70	16.6	P80	19.8	溝6	4.6
P31	32.6	P41	17.4	P51	50.4	P61	10.0	P71	17.8	P81	29.4	溝7	7.4
P32	10.2	P42	15.6	P52	18.2	P62	6.0	P72	17.2	P82	13.6	溝8	25.2
P33	32.4	P43	31.6	P53	14.2	P63	35.2	P73	17.6	P83	16.6	溝9	11.2
P34	8.6	P44	31.2	P54	23.6	P64	13.6	P74	20.6	P84	23.0	溝10	21.6
P35	13.4	P45	64.4	P55	65.2	P65	25.2	P75	27.2	溝11	25.8	溝11	9.6

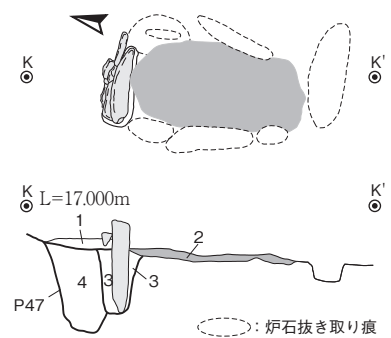
A218 号竪穴建物炉



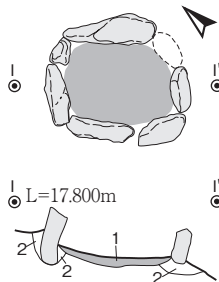
A220 号竪穴建物炉



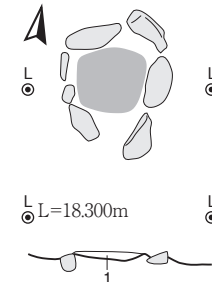
A221 号竪穴建物炉



A219 号竪穴建物炉



A226 号竪穴建物炉



A218 号竪穴建物炉 (H-H')

- 5YR3/6 暗赤褐色真砂混シルト しまりやや疎~中、粘性やや弱
- 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 炉石掘り方

A219 号竪穴建物炉 (I-I')

- 5YR6/6 橙色真砂混粘土 粘性やや弱 強変焼土
- 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまりやや疎、粘性やや弱 炉石掘り方

A220 号竪穴建物炉 (J-J')

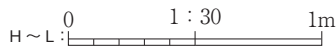
- 5YR4/6 赤褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 強変焼土
- 5YR3/6 暗赤褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 1層の下部影響層
- 5YR4/8 赤褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 強変焼土
- 10YR4/4 褐色真砂混シルト しまりやや疎~中、粘性やや弱 埋設土器掘り方
- 10YR2/3 黒褐色真砂混シルト しまりやや疎~中、粘性やや弱 炉石掘り方
- 10YR3/3 暗褐色真砂混シルト しまりやや疎~中、粘性やや弱 炉石掘り方
- 10YR2/3 黒褐色真砂混シルト しまりやや疎~中、粘性やや弱 炉石掘り方

A221 号竪穴建物炉 (K-K')

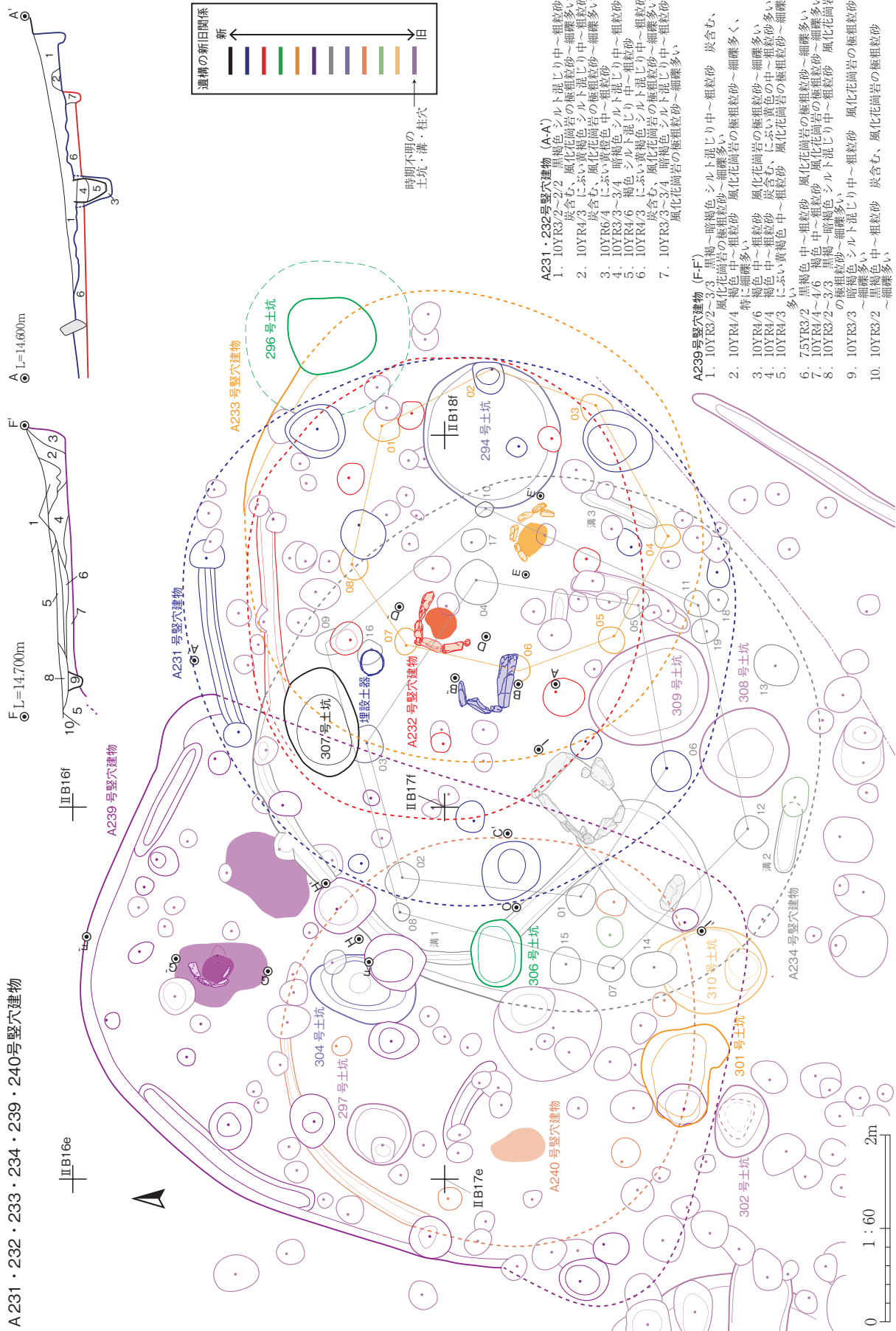
- 10YR8/6 黄褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 炉石上面貼土
- 5YR7/6 橙色真砂土 弱変焼土
- 10YR4/4 褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 炉石掘え方埋土
- 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 P47堆積土

A226 号竪穴建物炉 (L-L')

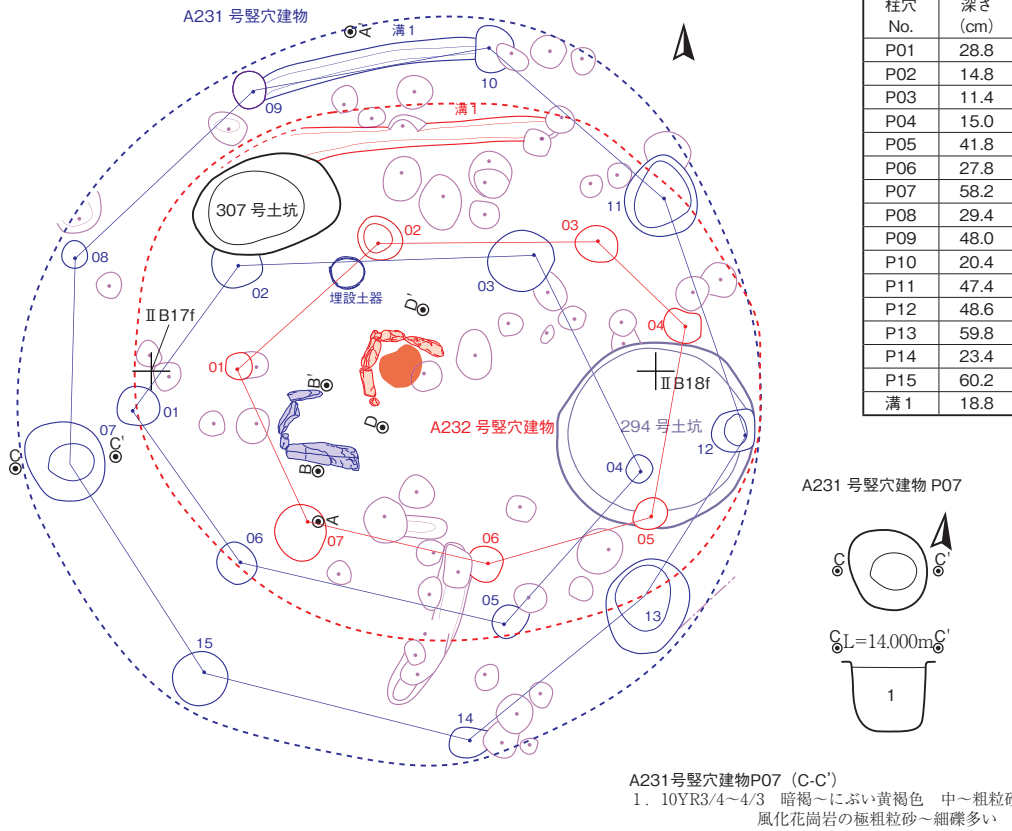
- 7.5YR4/6 褐色焼土 しまりやや密、粘性無 炭7%



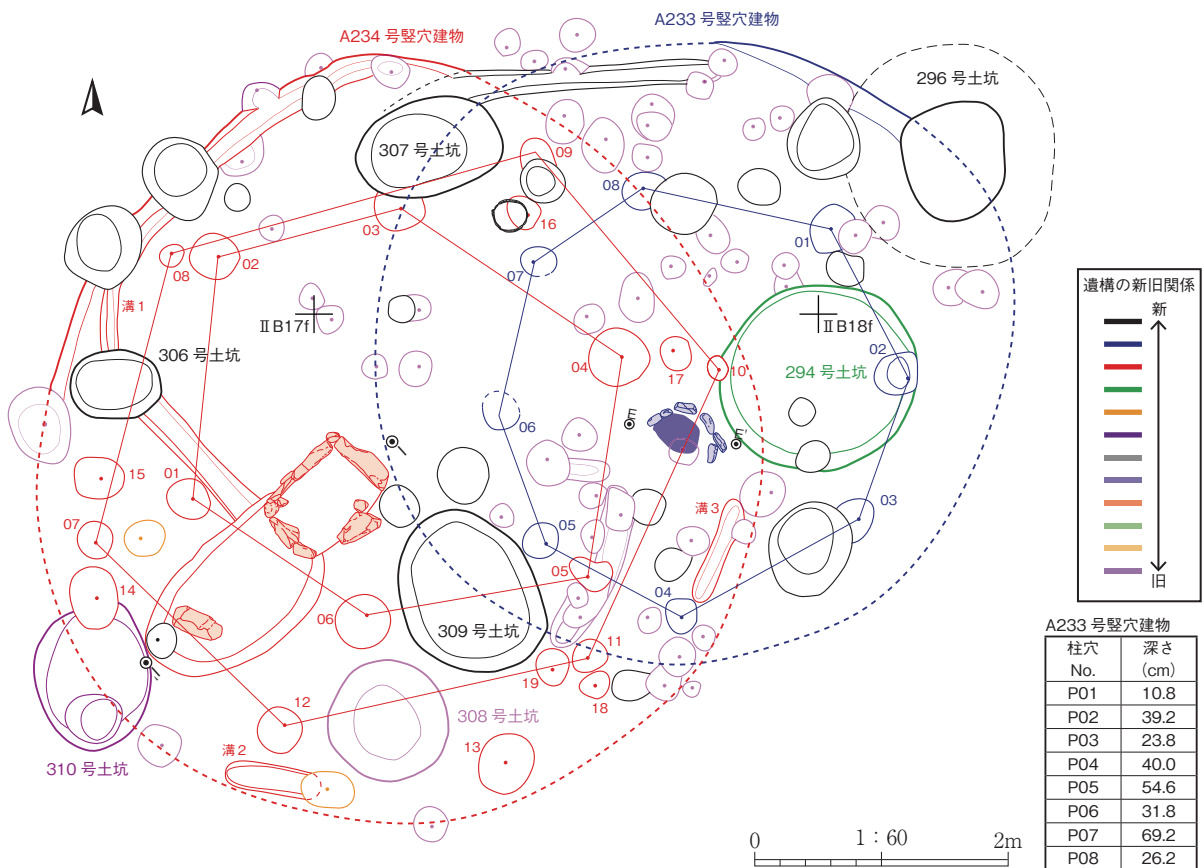
第 106 図 A 218 ~ 221・223・226 号竪穴建物 (3)



A231・232号竪穴建物

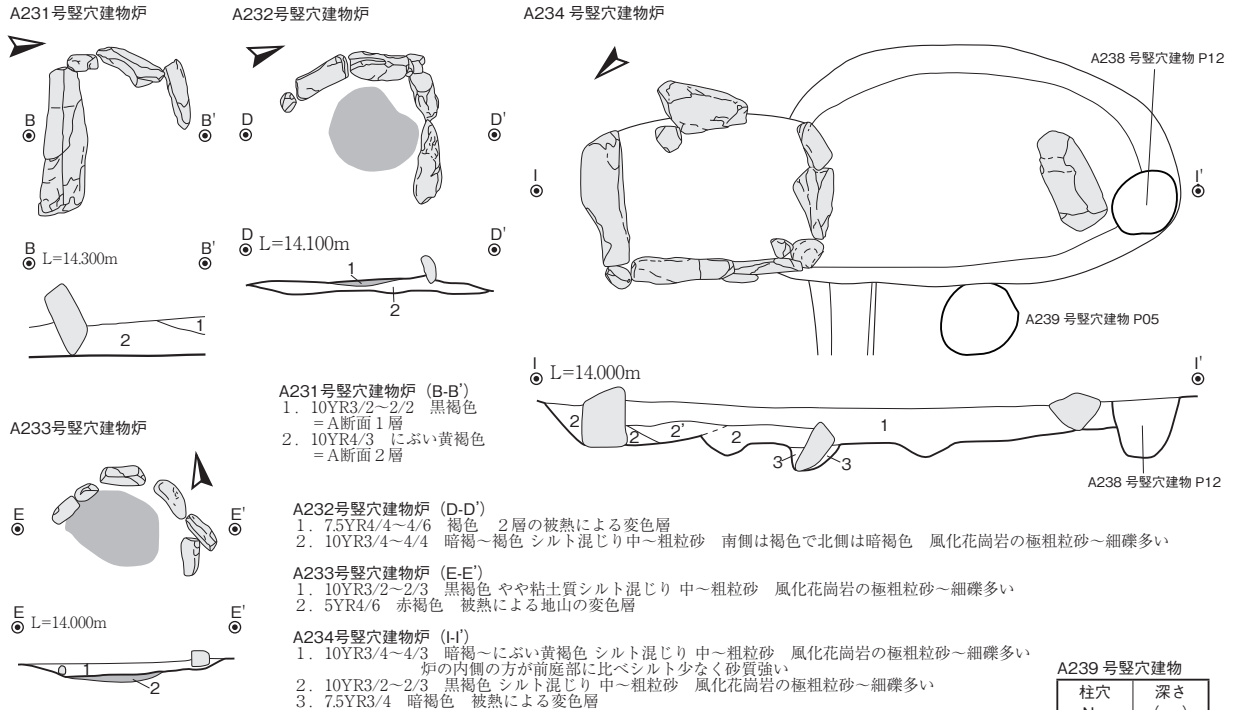


A233・234号竪穴建物

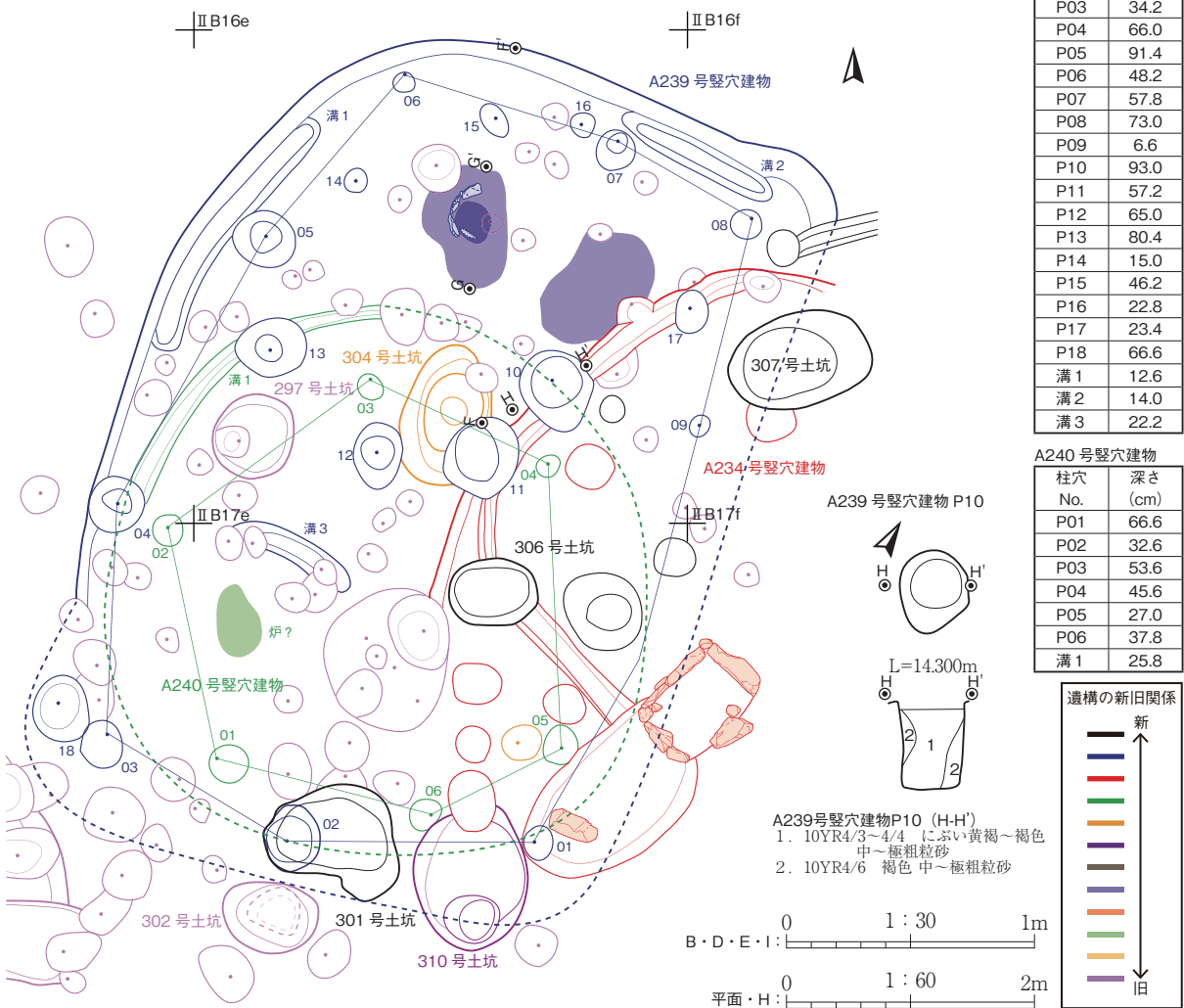


第108図 A231~234・239・240号竪穴建物(2)

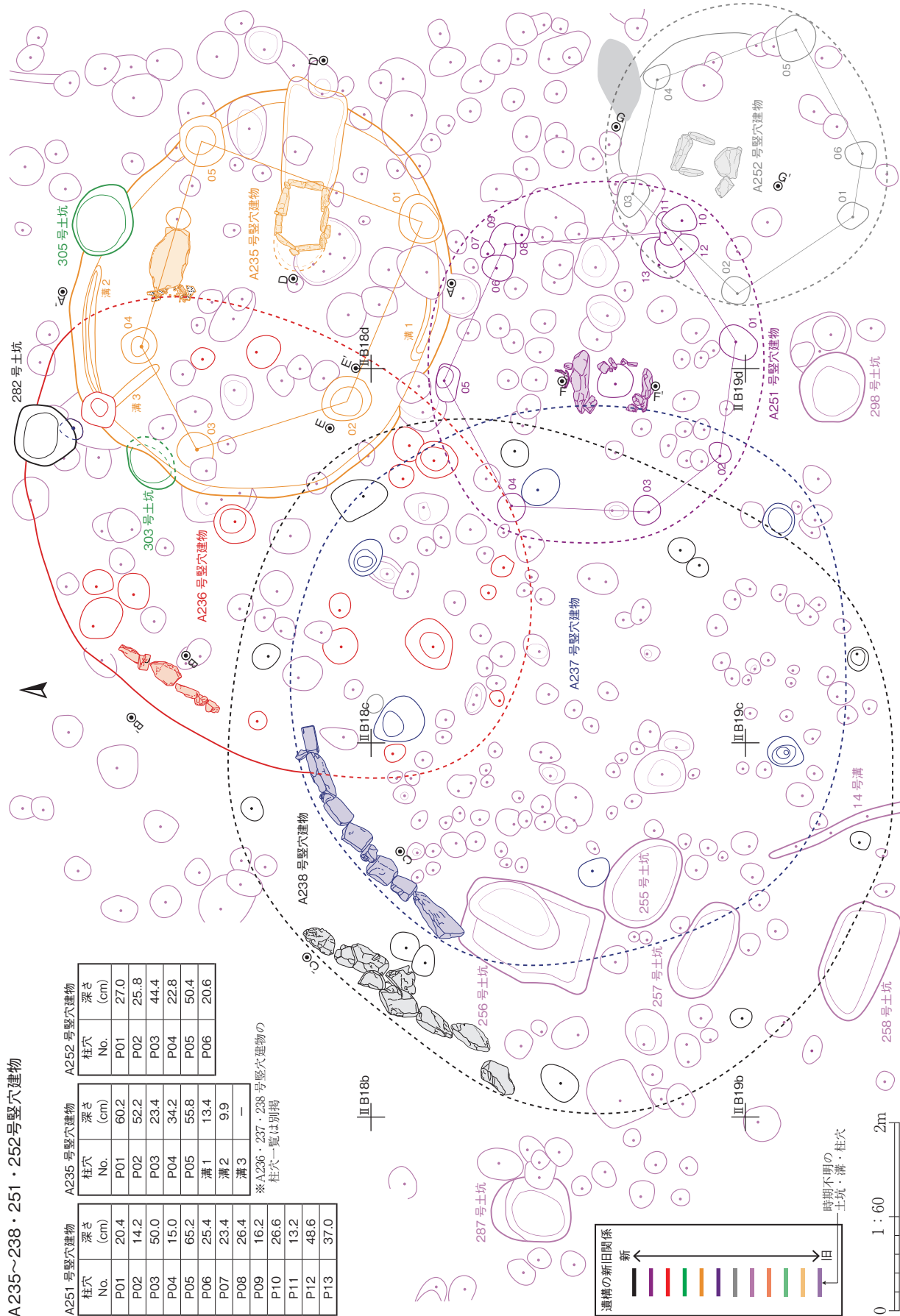
2 竪穴建物（縄文時代）



A239・240号竪穴建物



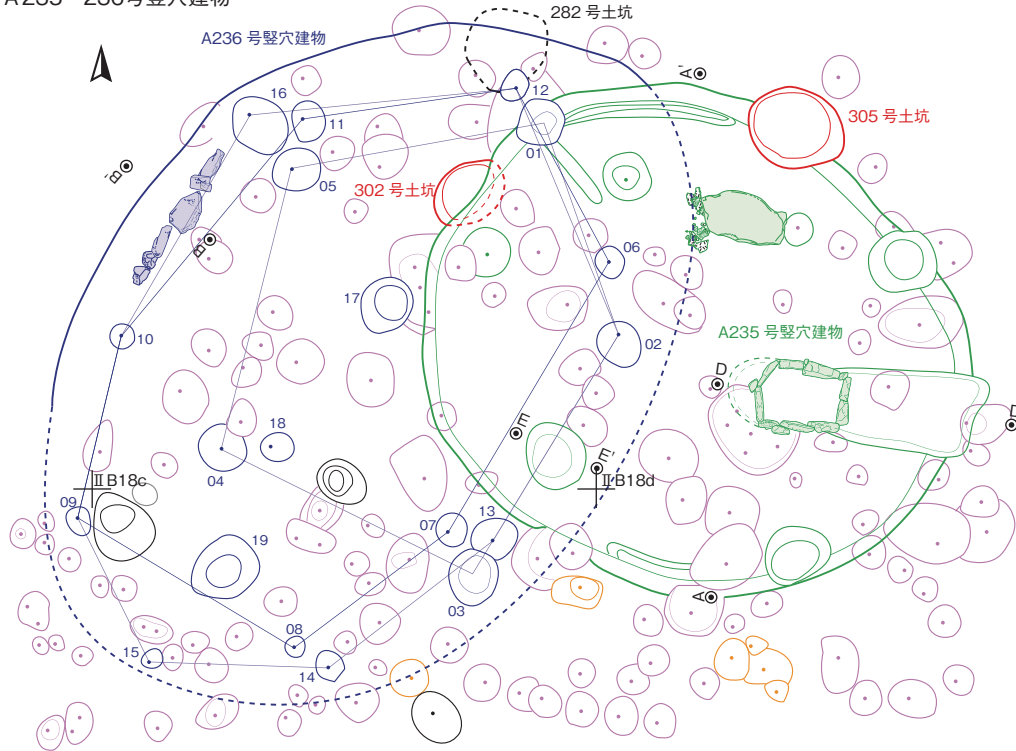
第109図 A231~234・239・240号竪穴建物(3)



第110図 A235～238・251・252号竪穴建物（1）

2 竪穴建物（縄文時代）

A 235・236号竪穴建物

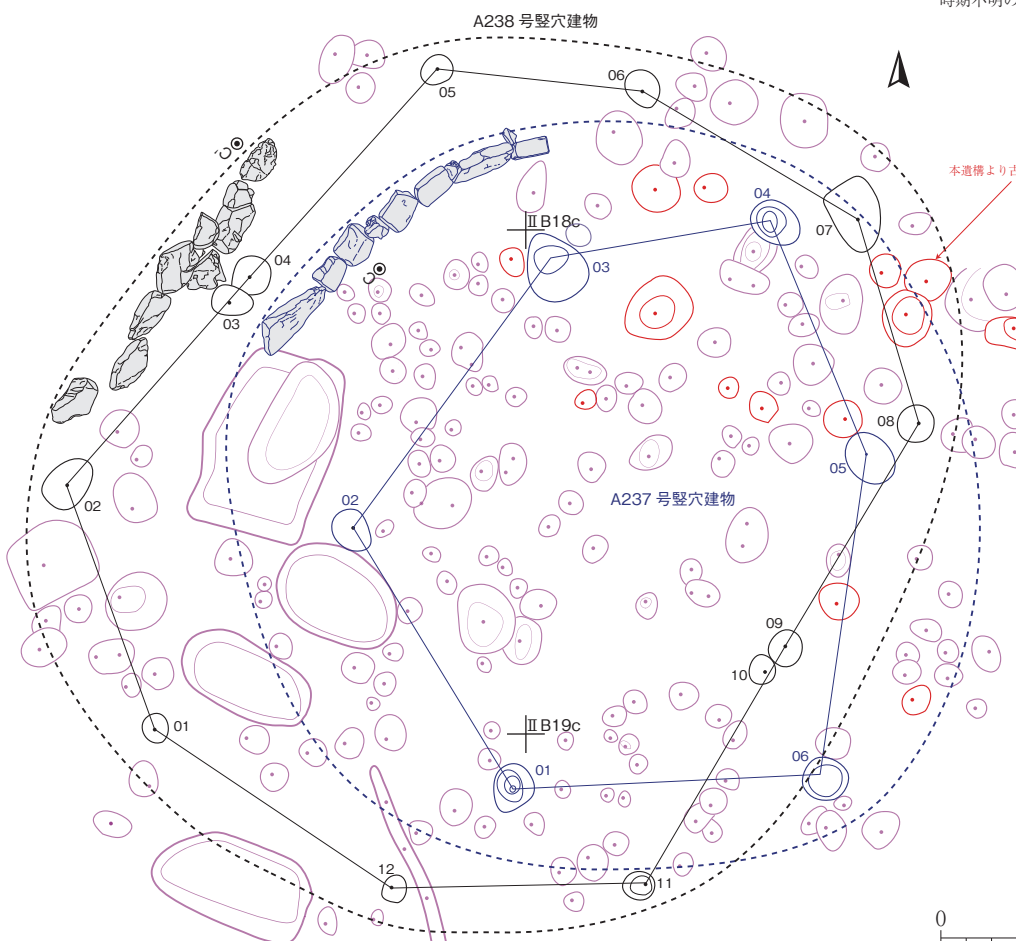


A236号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	46.2
P02	30.6
P03	45.0
P04	22.8
P05	14.6
P06	7.0
P07	41.2
P08	34.8
P09	19.8
P10	24.6
P11	32.2
P12	25.8
P13	13.8
P14	15.0
P15	29.4
P16	65.8
P17	76.8
P18	23.4
P19	70.2



A 237・238号竪穴建物

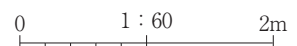


A237号竪穴建物

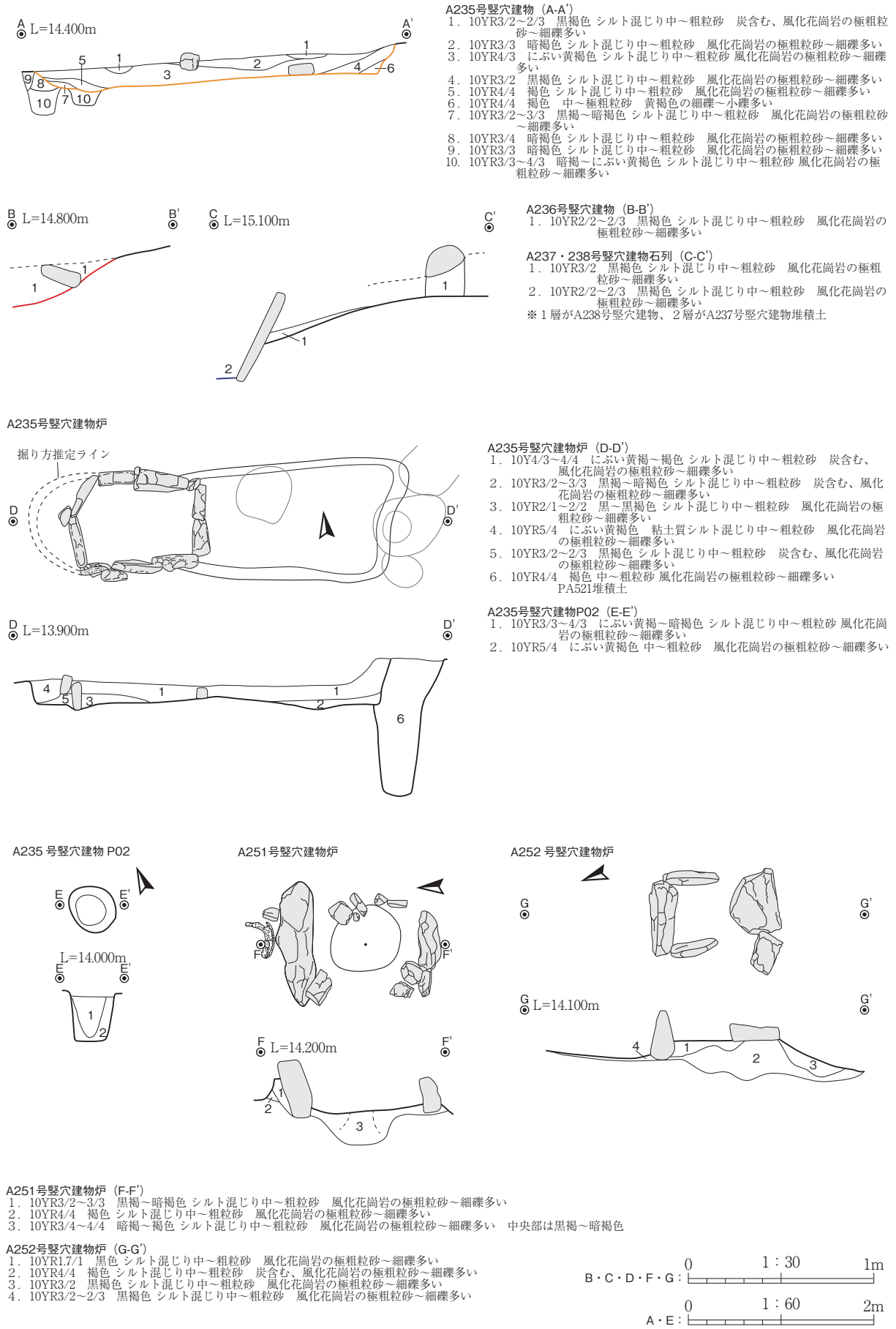
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	58.8
P02	57.0
P03	53.4
P04	30.0
P05	48.0
P06	51.4

A238号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	7.8
P02	32.4
P03	14.6
P04	12.0
P05	33.0
P06	31.8
P07	27.6
P08	47.2
P09	27.6
P10	17.4
P11	23.4
P12	20.4



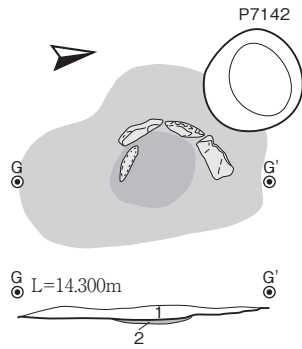
第 111 図 A 235 ~ 238・251・252 号竪穴建物 (2)



第 112 図 A 235 ~ 238・251・252 号竪穴建物 (3)

2 竪穴建物（縄文時代）

A239号竪穴建物炉



- A239号竪穴建物炉 (G-G')
- 7.5YR3/4~4/3 暗褐~褐色 シルト若干混じる 中~粗粒砂
 - 5YR3/6~4/6 暗赤褐~赤褐色 被熱による地山変色層

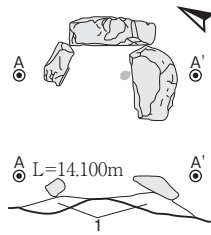
A241号竪穴建物炉 (A-A')

- 10YR3/4~4/3 暗褐~にぶい黄褐色 シルト混じり中~粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂~細礫多い

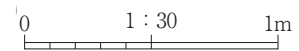
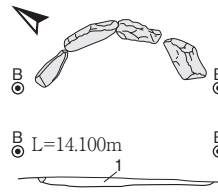
A253号竪穴建物炉 (B-B')

- 10YR3/3 暗褐色 シルト混じり中~粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂~細礫多い

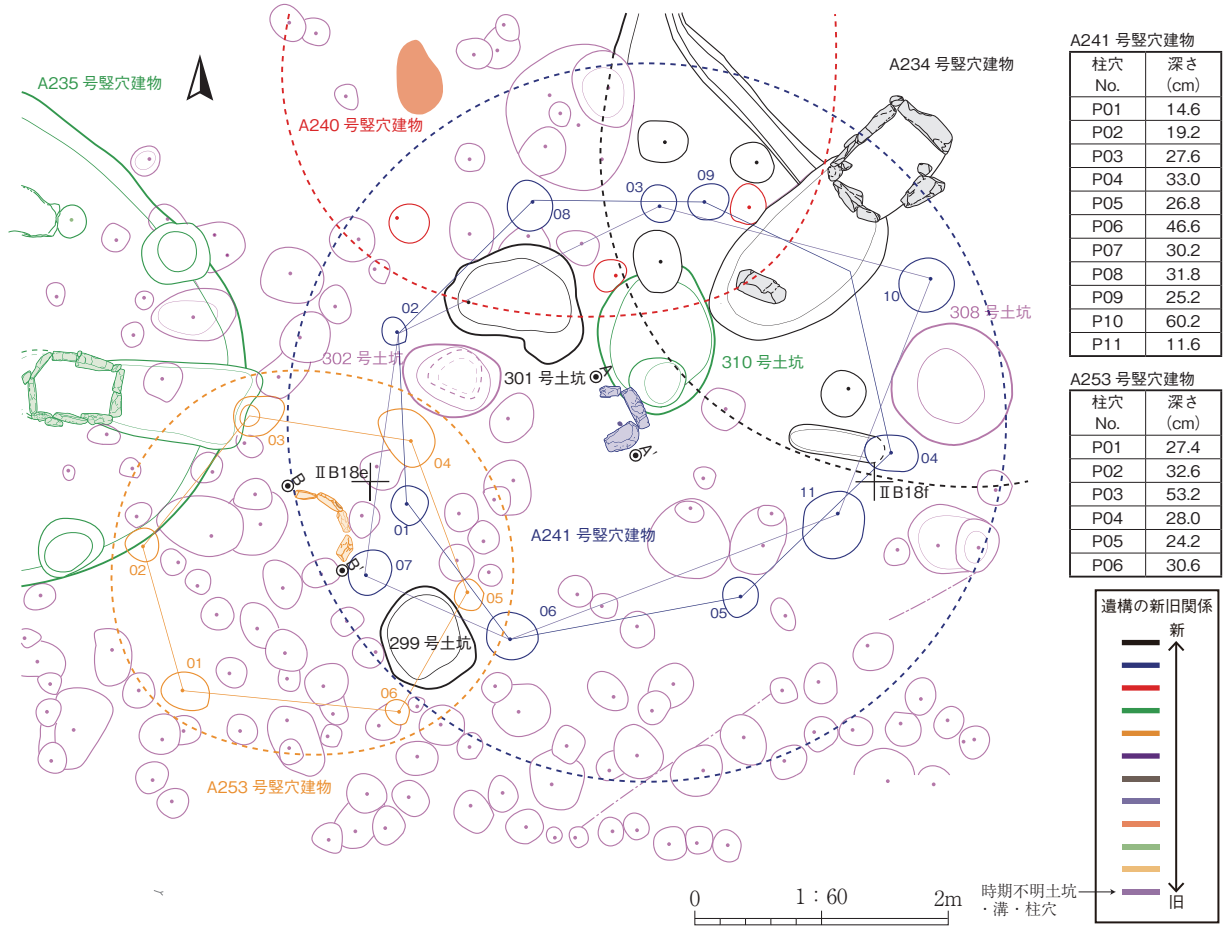
A241号竪穴建物炉



A253号竪穴建物炉

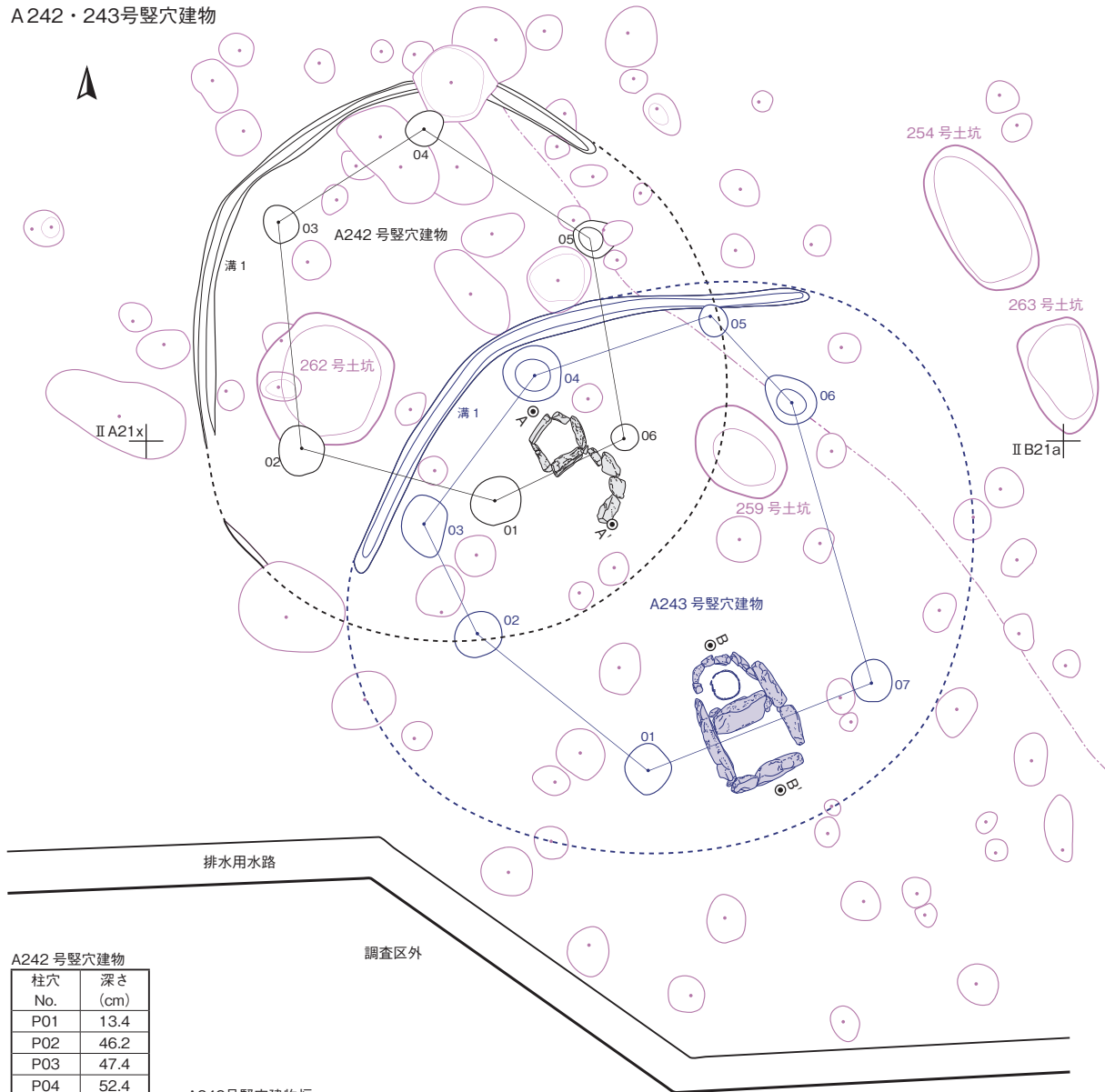


A 241・253号竪穴建物



第 113 図 A 239 号竪穴建物、A 241・253 号竪穴建物

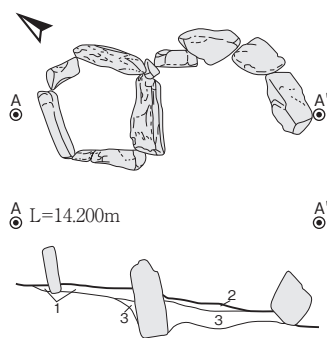
A 242・243号竪穴建物



A242号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	13.4
P02	46.2
P03	47.4
P04	52.4
P05	39.6
P06	19.2
溝 1	27.6

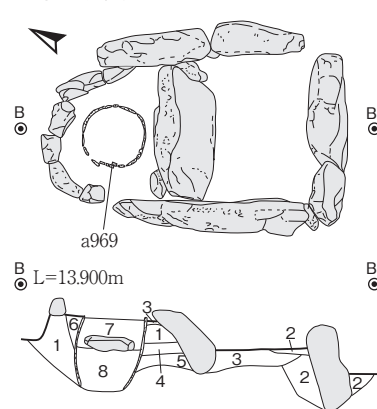
A242号竪穴建物炉



A243号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	10.4
P02	30.0
P03	16.4
P04	39.0
P05	37.2
P06	52.2
P07	17.4
溝 1	32.4

A243号竪穴建物炉

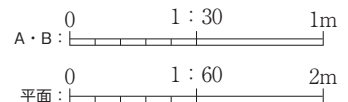


A242号竪穴建物炉 (A-A')

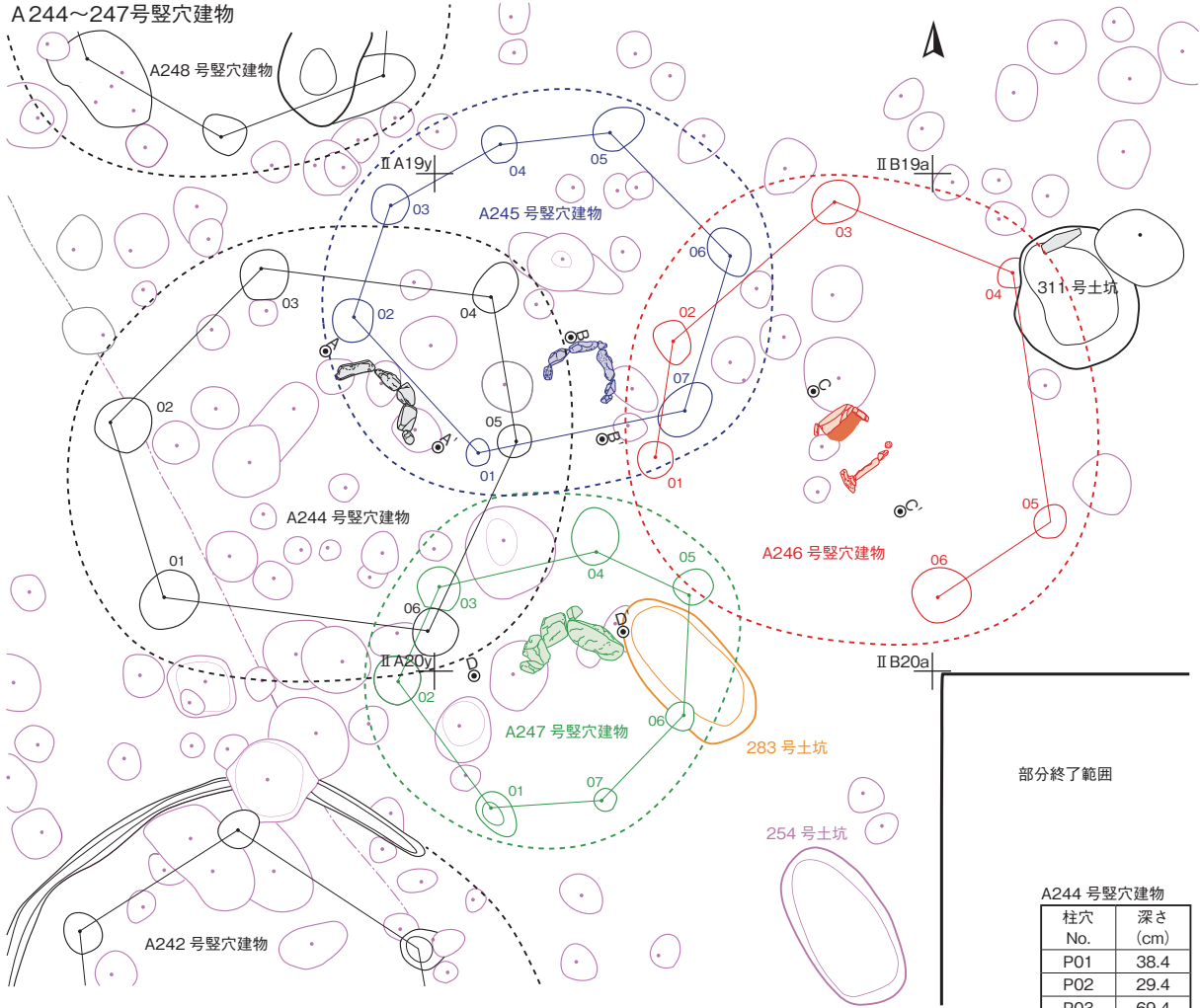
- 10YR2/2 黒褐色シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 10YR2/3 黒褐色シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 10YR4/3 にぶい黄褐色中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い

A243号竪穴建物炉 (B-B')

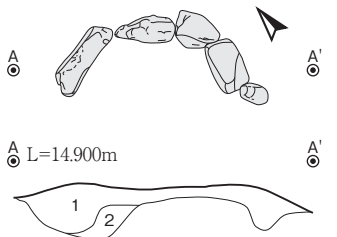
- 10YR4/2 灰黄褐色シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 10YR3/2 黒褐色シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 10YR2/1 黒色シルト 風化花崗岩の極粗粒砂含む
- 10YR4/2 灰黄褐色シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い、にぶい黄褐色の偽礫含む
- 7.5YR3/2～3/3 黒褐～暗褐色シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 10YR5/4 にぶい黄褐色中～極粗粒砂
- 10YR2/2 黒褐色シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 10YR2/1 黒色砂質シルト



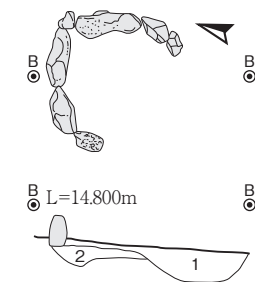
第 114 図 A 242・243 号竪穴建物



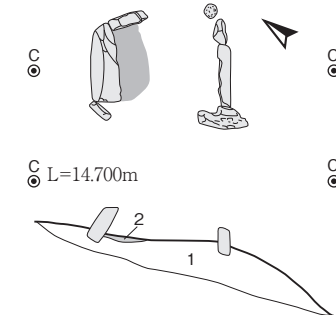
A244号竪穴建物炉



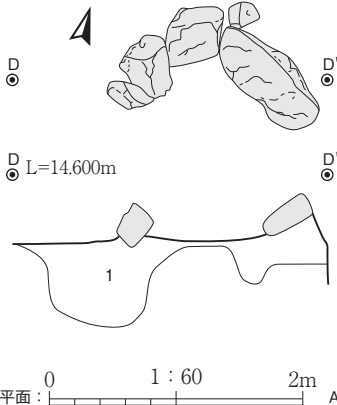
A245号竪穴建物炉



A246号竪穴建物炉



A247号竪穴建物炉



A244号竪穴建物炉 (A-A')

- 10YR3/3 暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 上面の一部は黒褐色 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い

A245号竪穴建物炉 (B-B')

- 10YR3/2～3/3 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 10YR2/1 黒色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い

A246号竪穴建物炉 (C-C')

- 10YR3/2～2/3 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い 北側上面は被熱により変色

A247号竪穴建物炉 (D-D')

- 10YR3/3 暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 表面は黒～黒褐色 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い

A244号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	38.4
P02	29.4
P03	69.4
P04	33.6
P05	24.6
P06	44.8

A245号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	22.6
P02	13.0
P03	18.8
P04	8.0
P05	25.4
P06	20.8
P07	36.4

A246号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	11.2
P02	40.8
P03	22.2
P04	33.0
P05	12.8
P06	13.6

A247号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	27.6
P02	36.4
P03	20.8
P04	59.4
P05	47.0
P06	31.8
P07	23.4

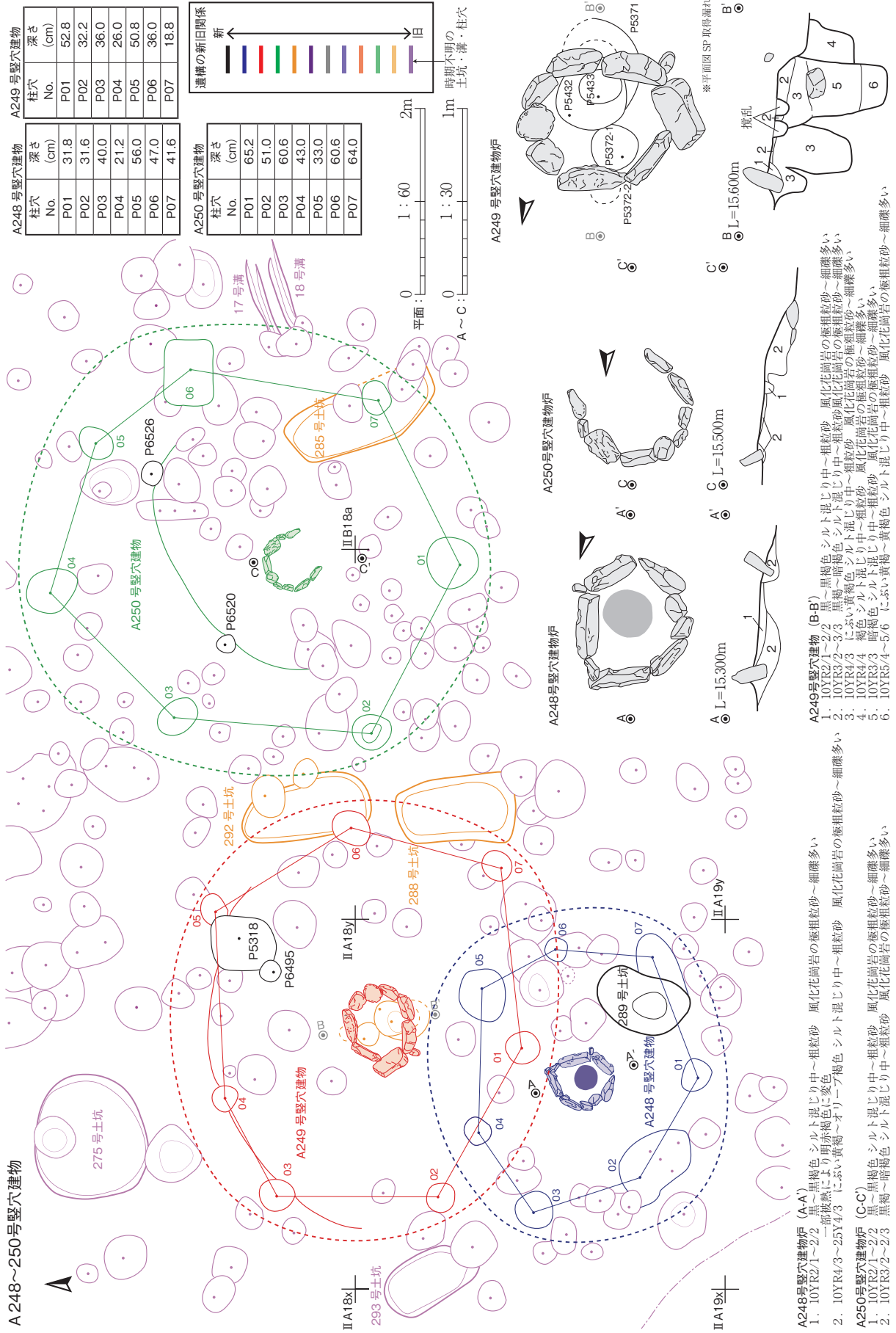
遺構の新旧関係



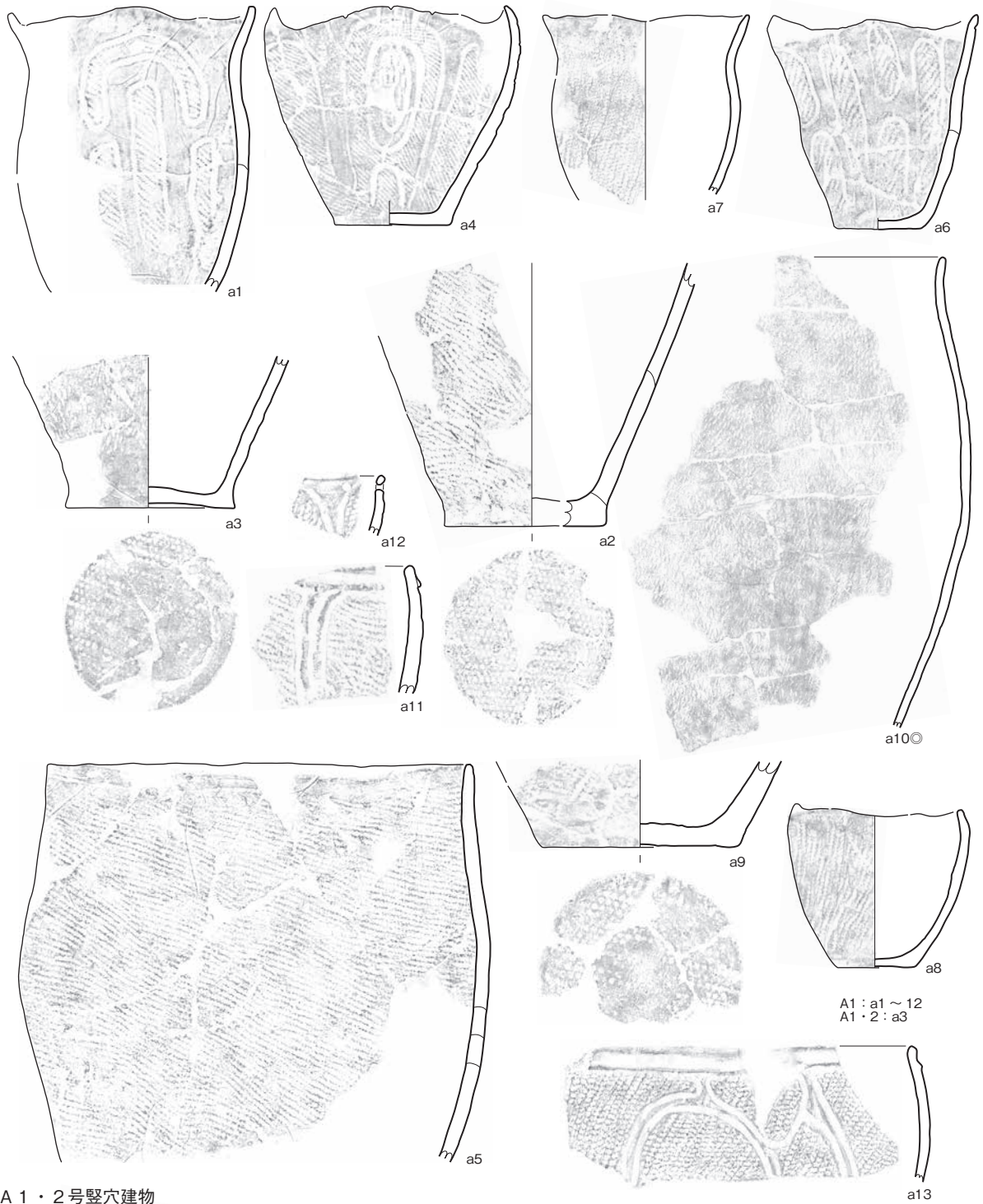
時期不明の土坑・柱穴



第115図 A244～247号竪穴建物



第116図 A 248～250号竖穴建物



A 1・2号竪穴建物

A 3・4・15～20号竪穴建物（1）

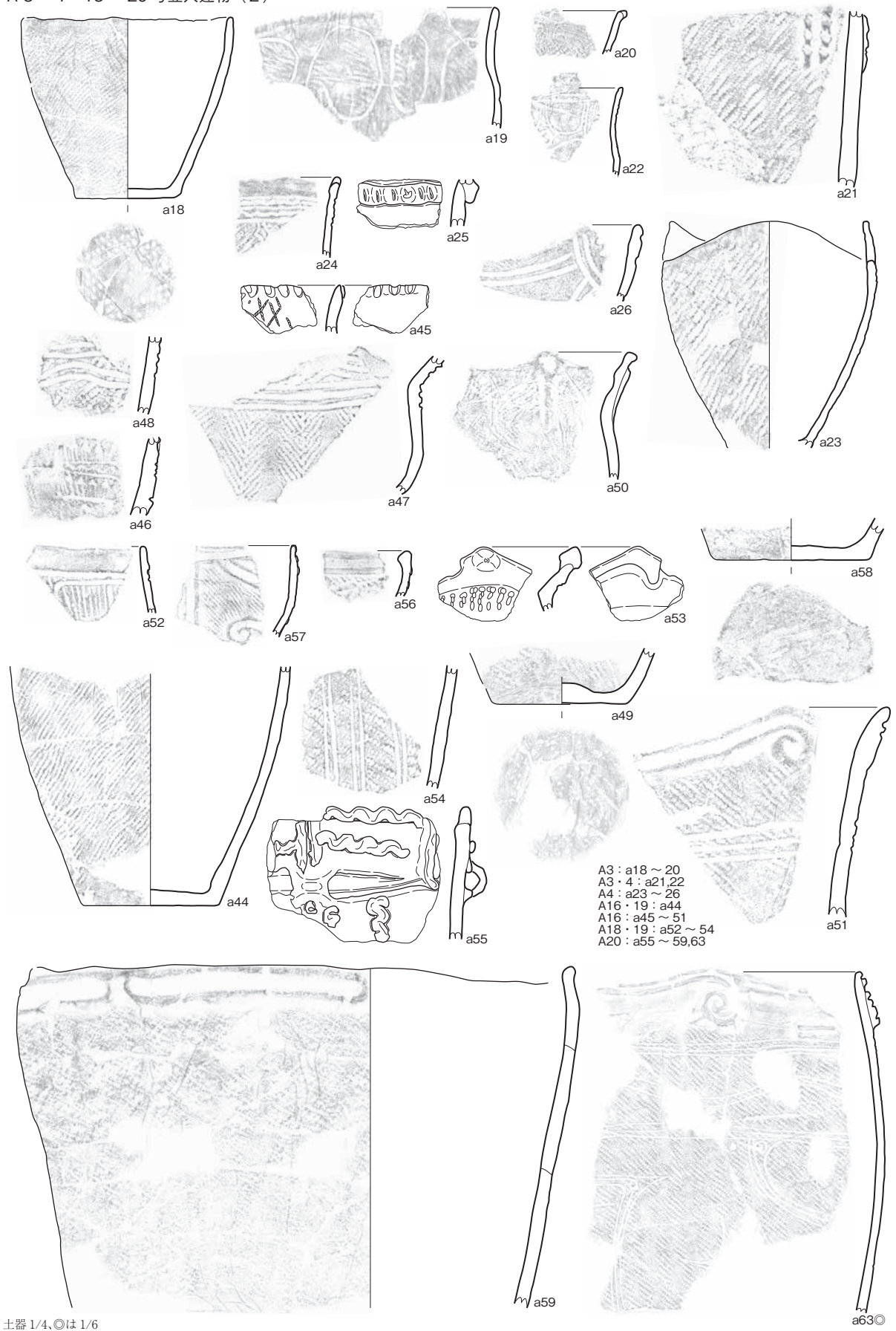
A1 : a1 ~ 12
A1・2 : a3

A3 : a14 ~ 17

土器 1/4, ◎は 1/6

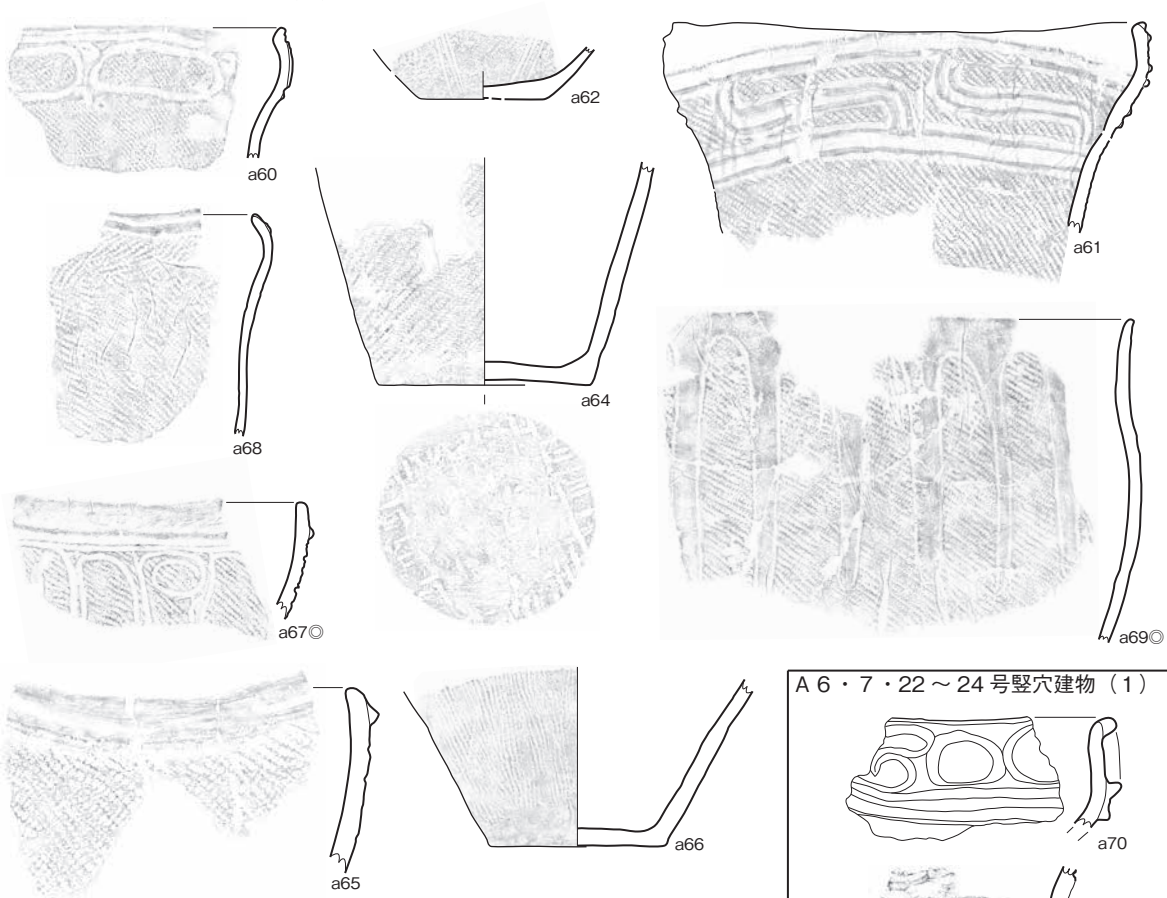
第 117 図 竪穴建物出土土器集成図（1）

A3・4・15～20号竪穴建物(2)

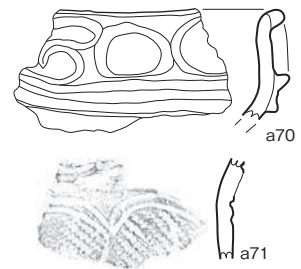


第118図 竪穴建物出土土器集成図(2)

A 3・4・15～20号竖穴建物（3）



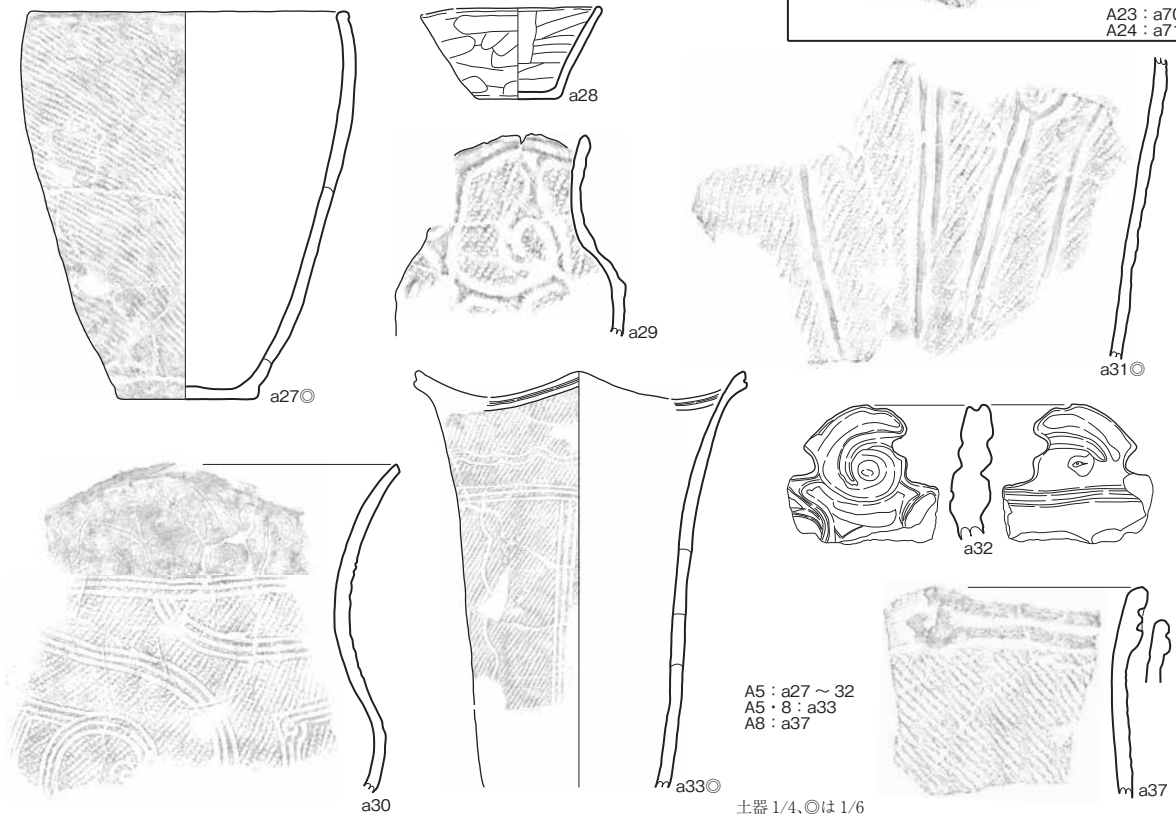
A 6・7・22～24号竖穴建物（1）



A20 : a60 ~ 62, 64 ~ 69

A23 : a70
A24 : a71

A 5・8号竖穴建物

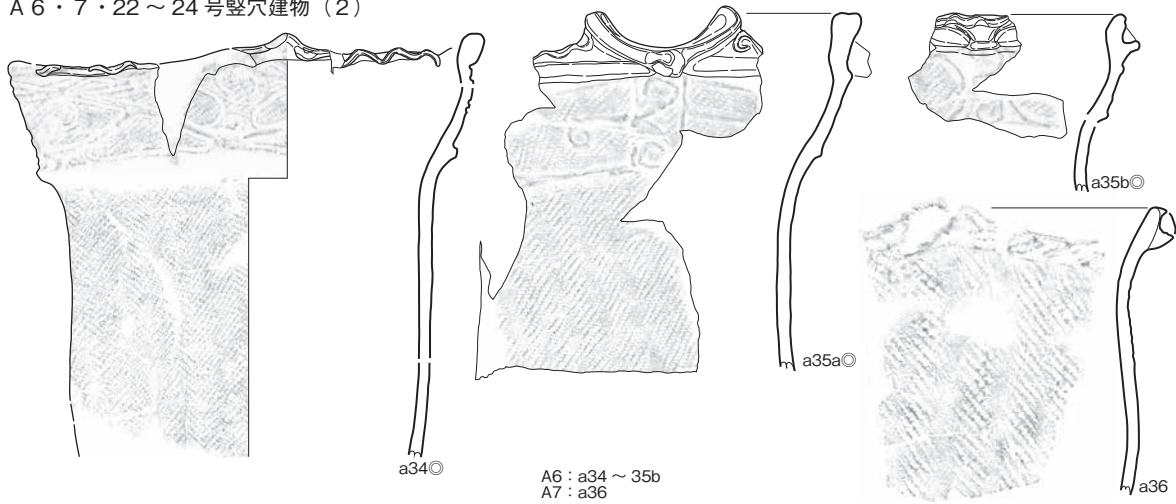


A5 : a27 ~ 32
A5・8 : a33
A8 : a37

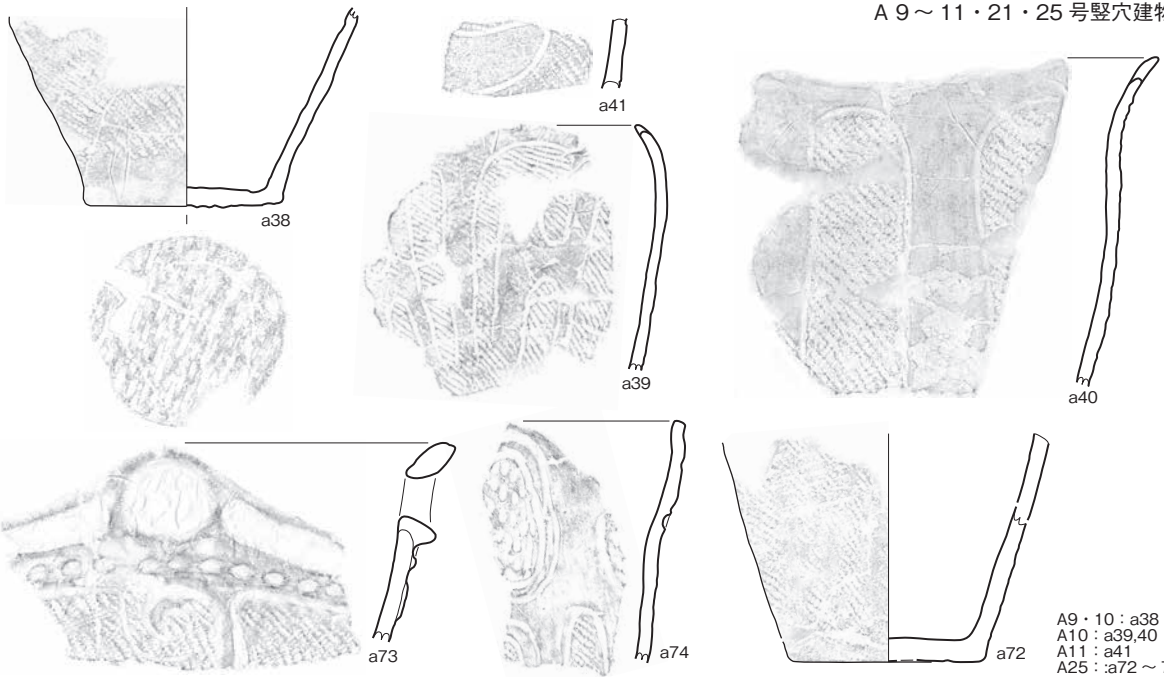
土器 1/4, ○は 1/6

第 119 図 竖穴建物出土土器集成図（3）

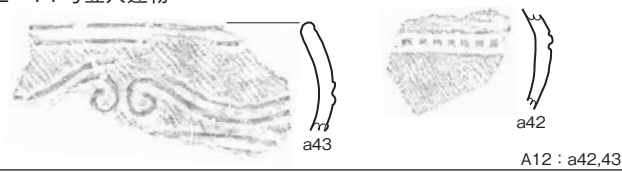
A 6・7・22～24号豎穴建物 (2)



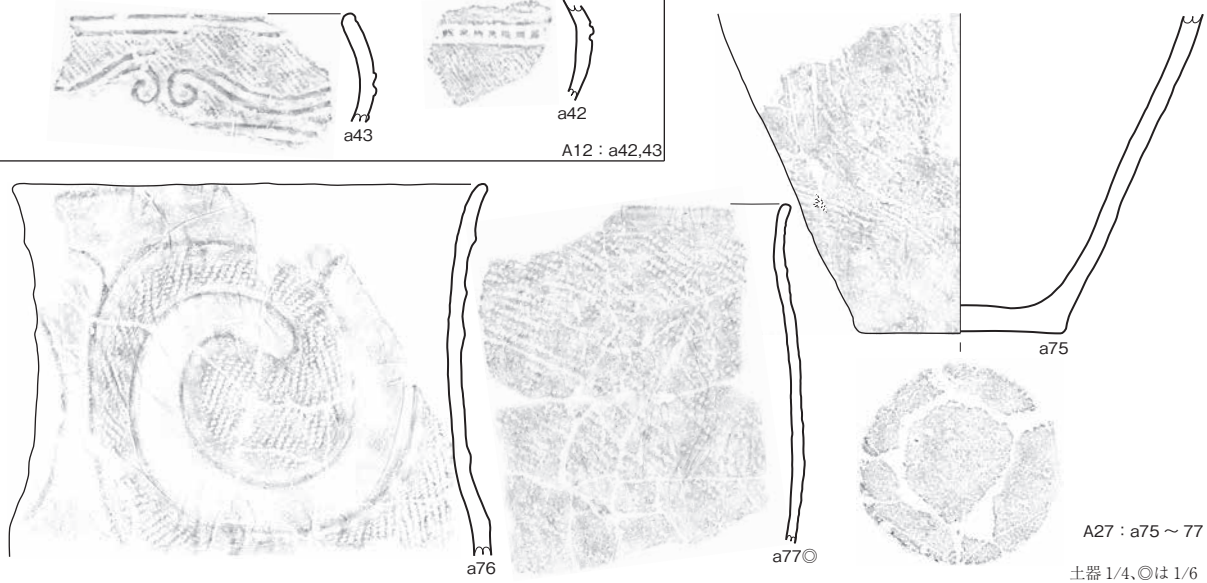
A 9～11・21・25号豎穴建物



A 12・14号豎穴建物

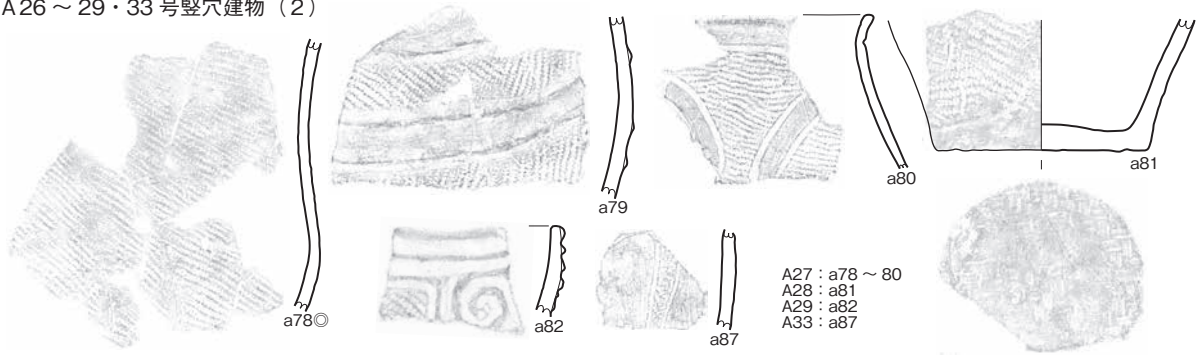


A 26～29・33号豎穴建物 (1)

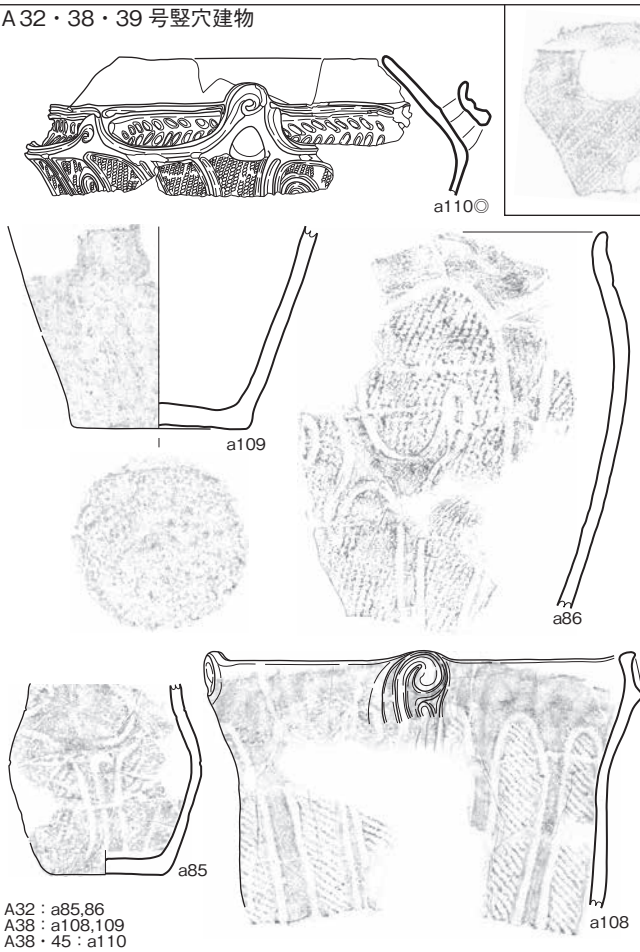


第 120 図 豎穴建物出土土器集成図 (4)

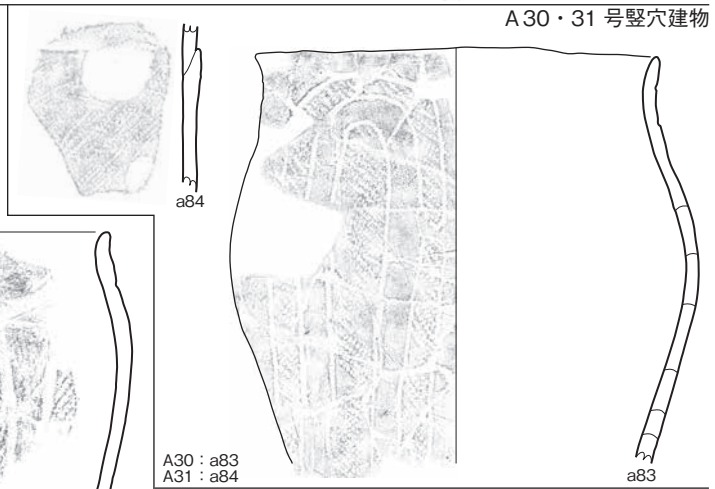
A26 ~ 29・33号竖穴建物（2）



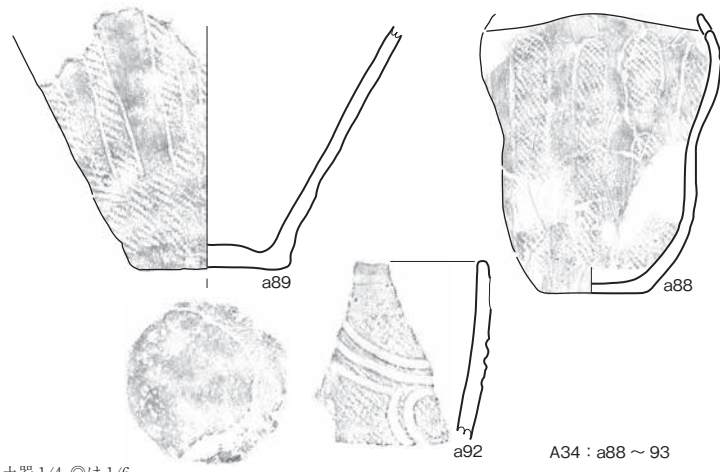
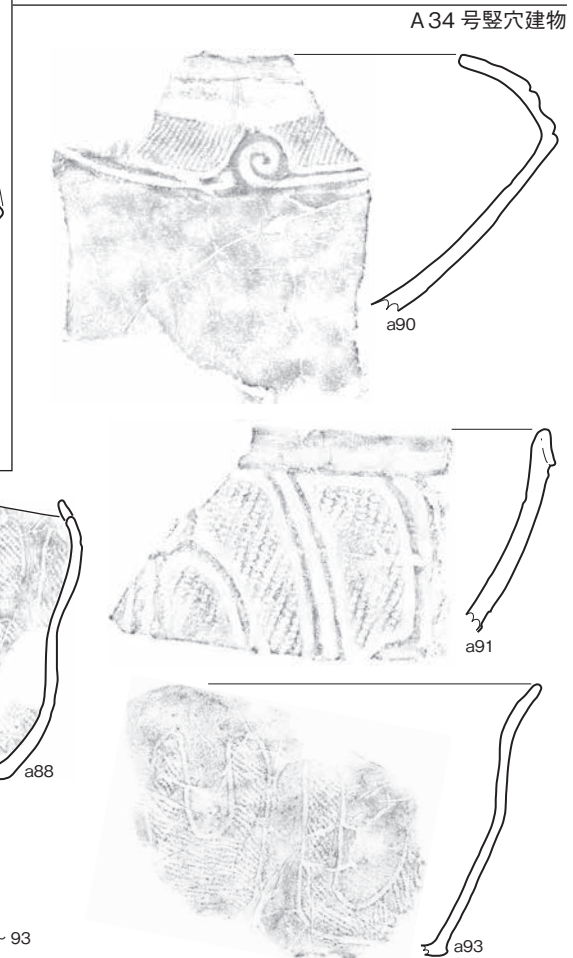
A32・38・39号竖穴建物



A30・31号竖穴建物

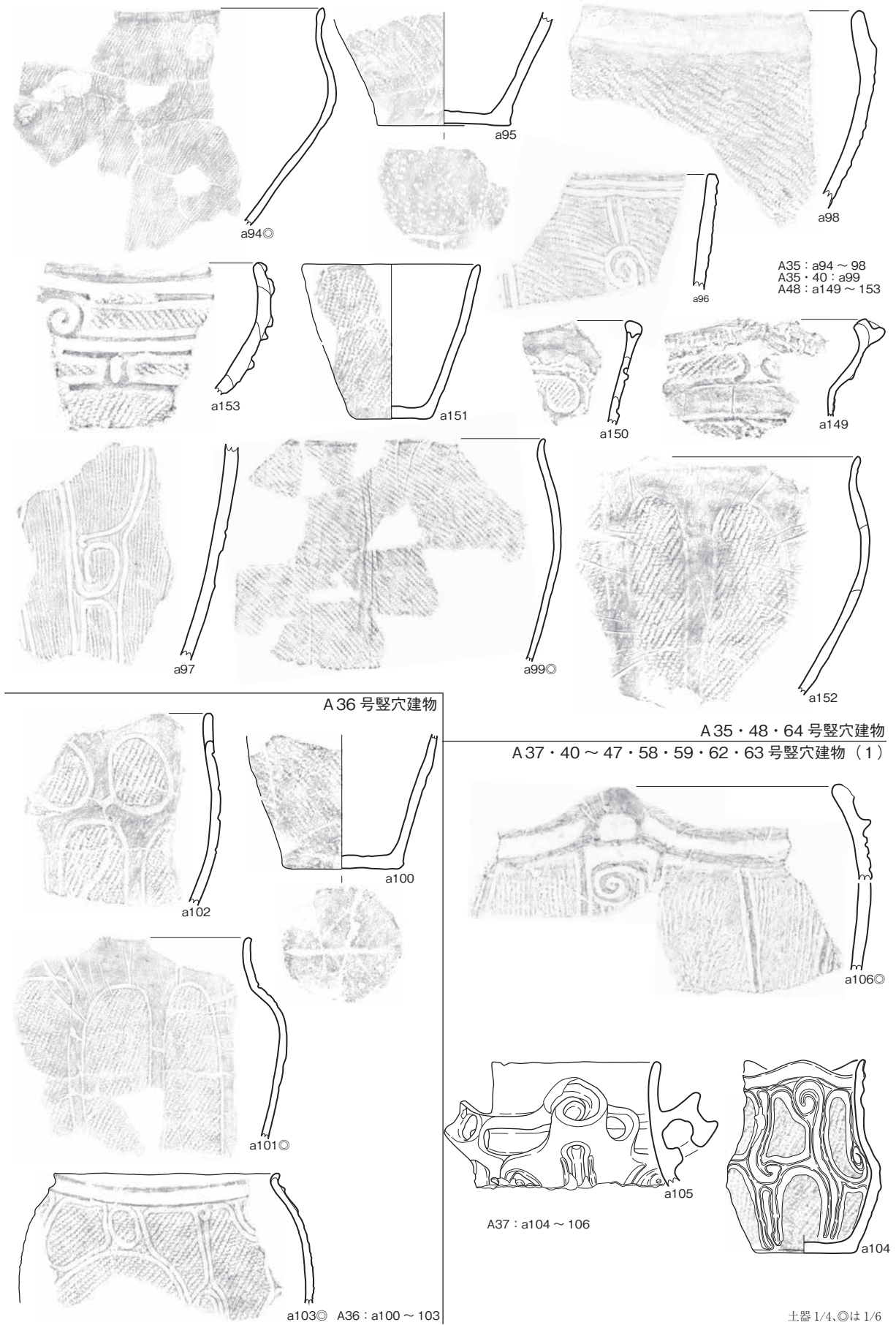


A34号竖穴建物



土器 1/4、○は 1/6

第 121 図 竖穴建物出土土器集成図（5）



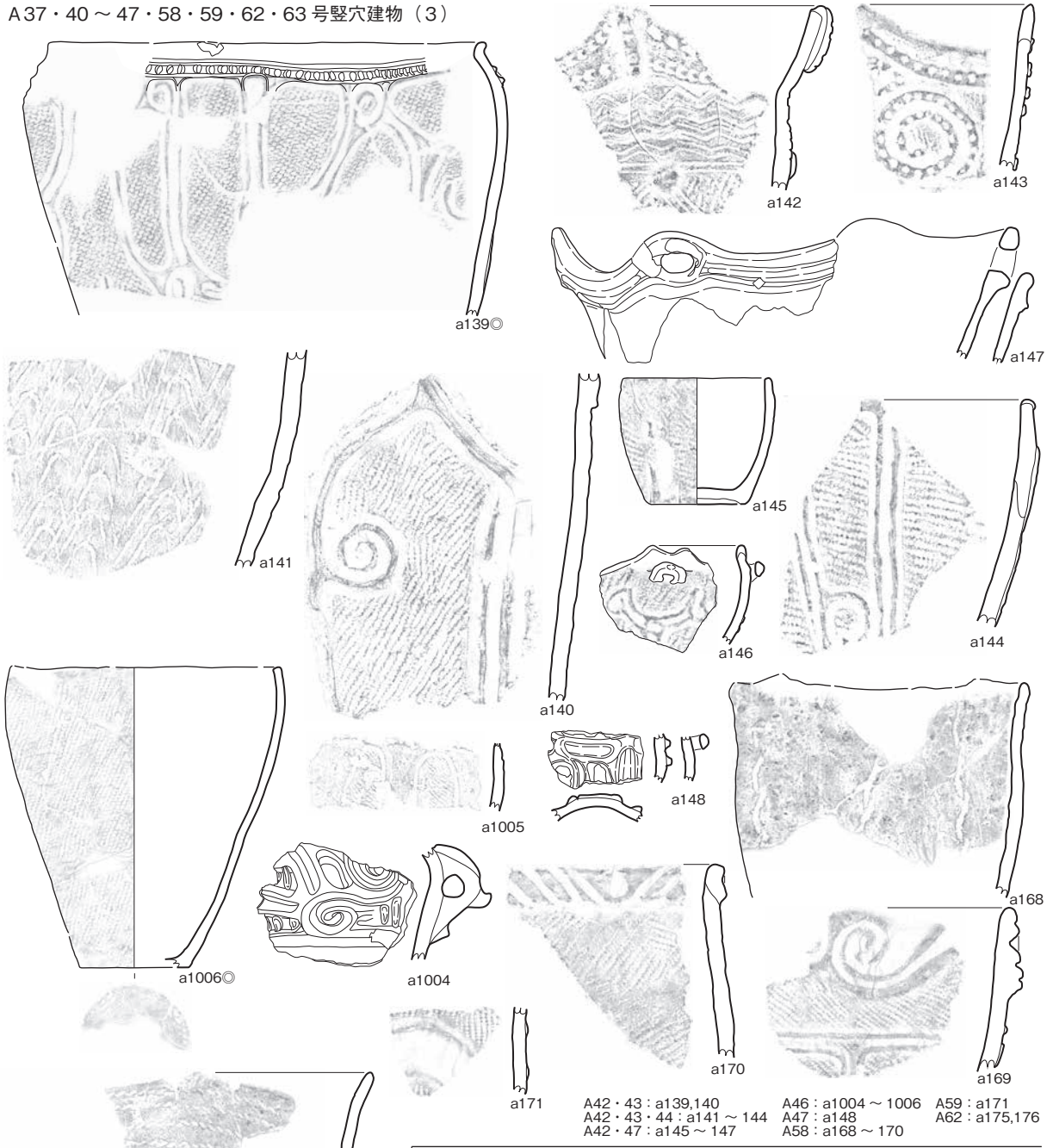
第 122 図 竖穴建物出土土器集成図 (6)

A37・40～47・58・59・62・63号竖穴建物（2）



第 123 図 竖穴建物出土土器集成図（7）

A37・40～47・58・59・62・63号竖穴建物（3）



A42・43 : a139,140
 A42・43・44 : a141～144
 A42・47 : a145～147
 A46 : a1004～1006
 A47 : a148
 A58 : a168～170
 A59 : a171
 A62 : a175,176

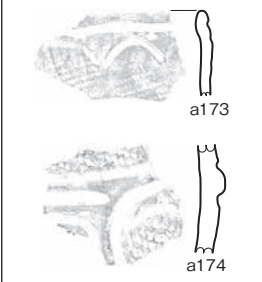
A49・50号竖穴建物



A49 : a154
 A50 : a155

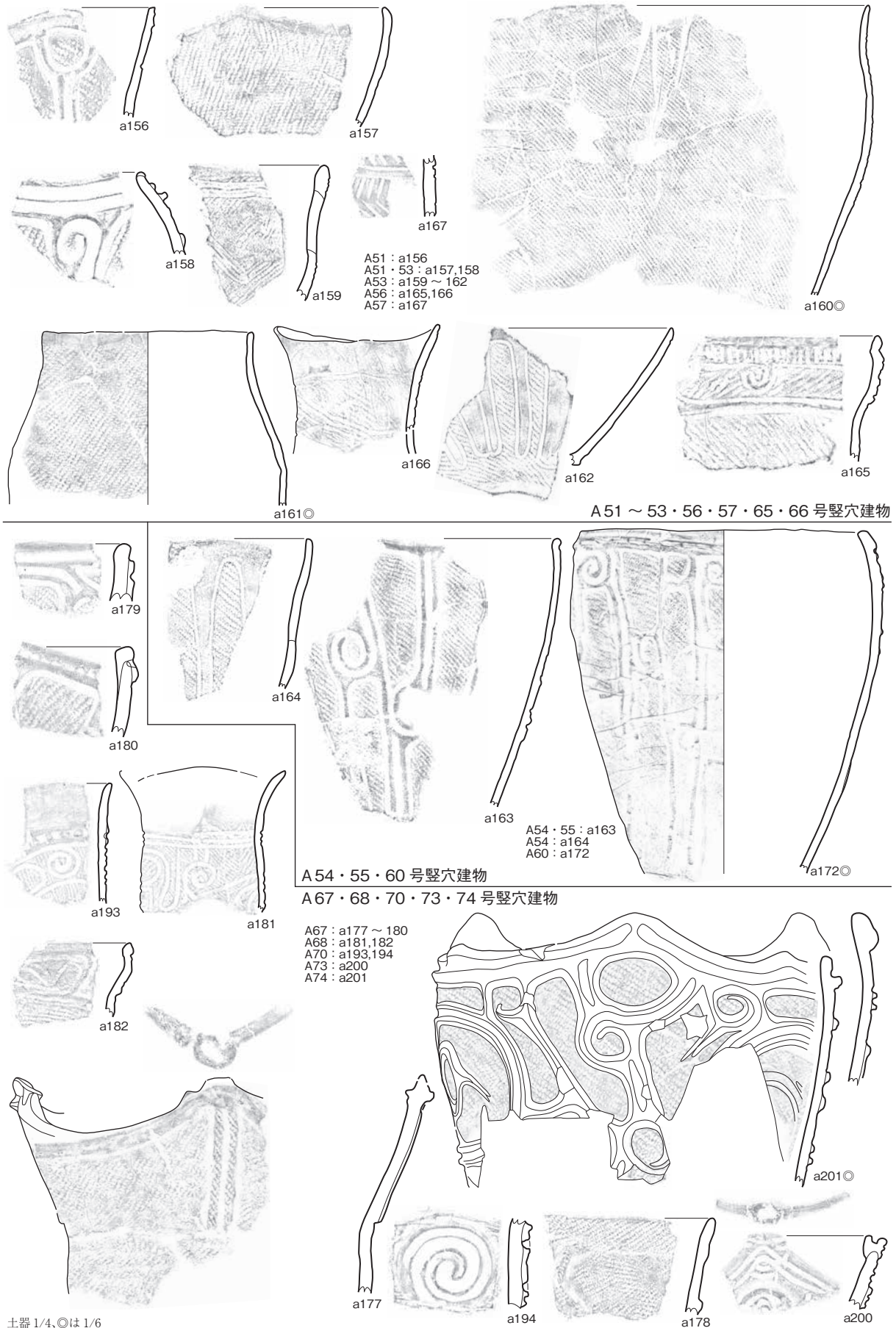
土器 1/4, ◎は 1/6

A61号竖穴建物



第124図 竖穴建物出土土器集成図（8）

2 豎穴建物（縄文時代）



第 125 図 豎穴建物出土土器集成図（9）

A69・71・72・75～81号竪穴建物(1)

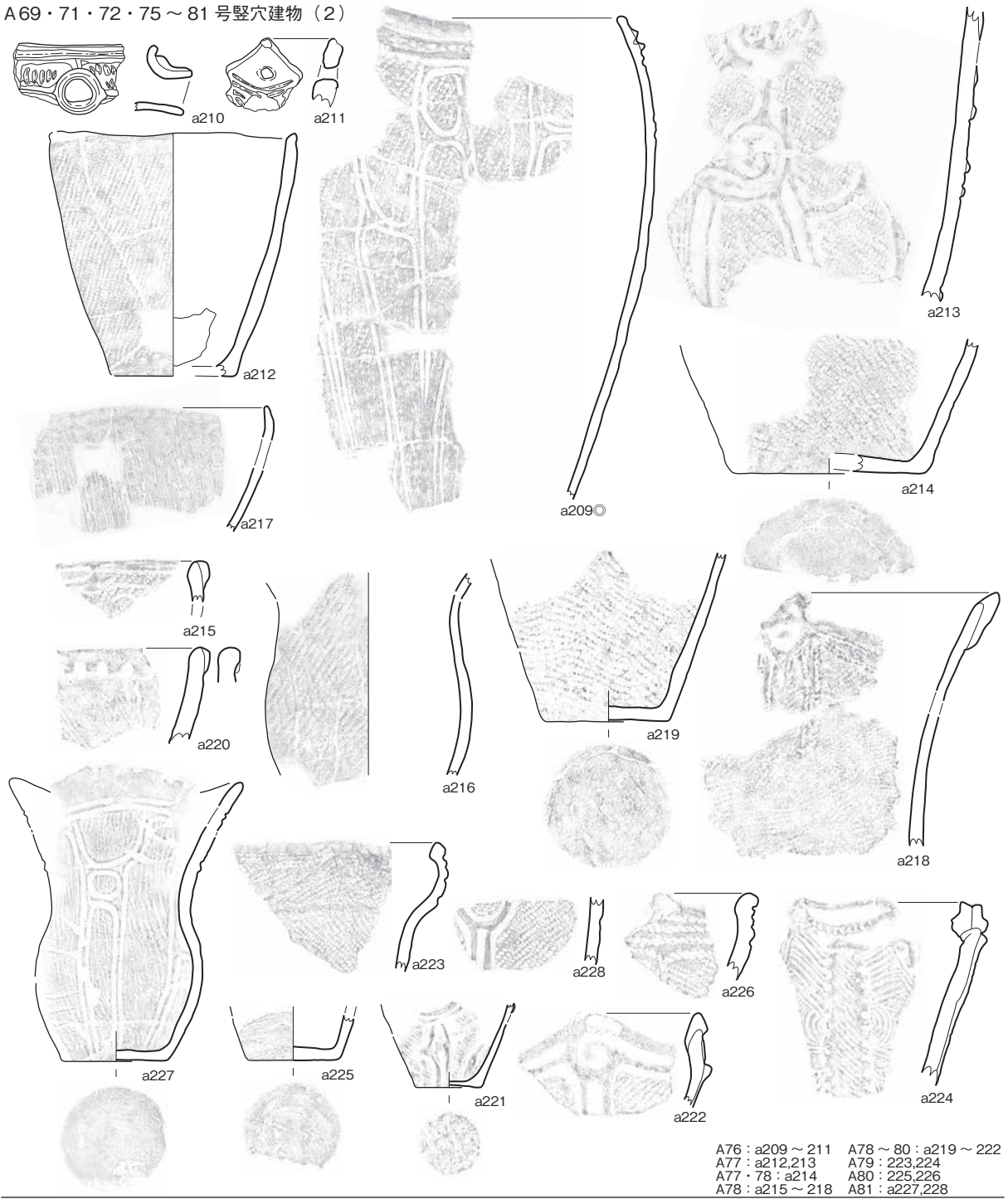


土器 1/4, ◎は 1/6

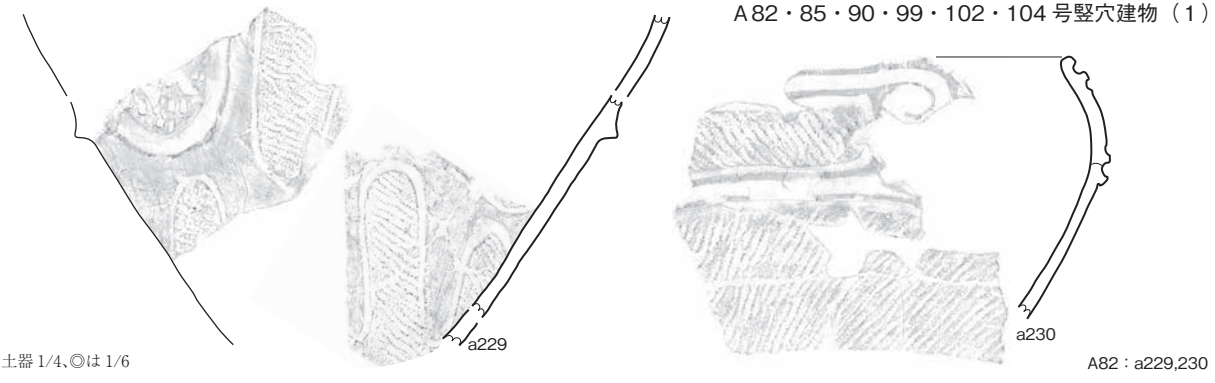
A69 : a183・185～192 A69・75 : a184 A72・78 : a195～199 A75 : a202,203 A75・77 : a204 A76 : a205～208

第126図 竪穴建物出土土器集成図(10)

A 69・71・72・75～81号竖穴建物（2）



A 82・85・90・99・102・104号竖穴建物（1）

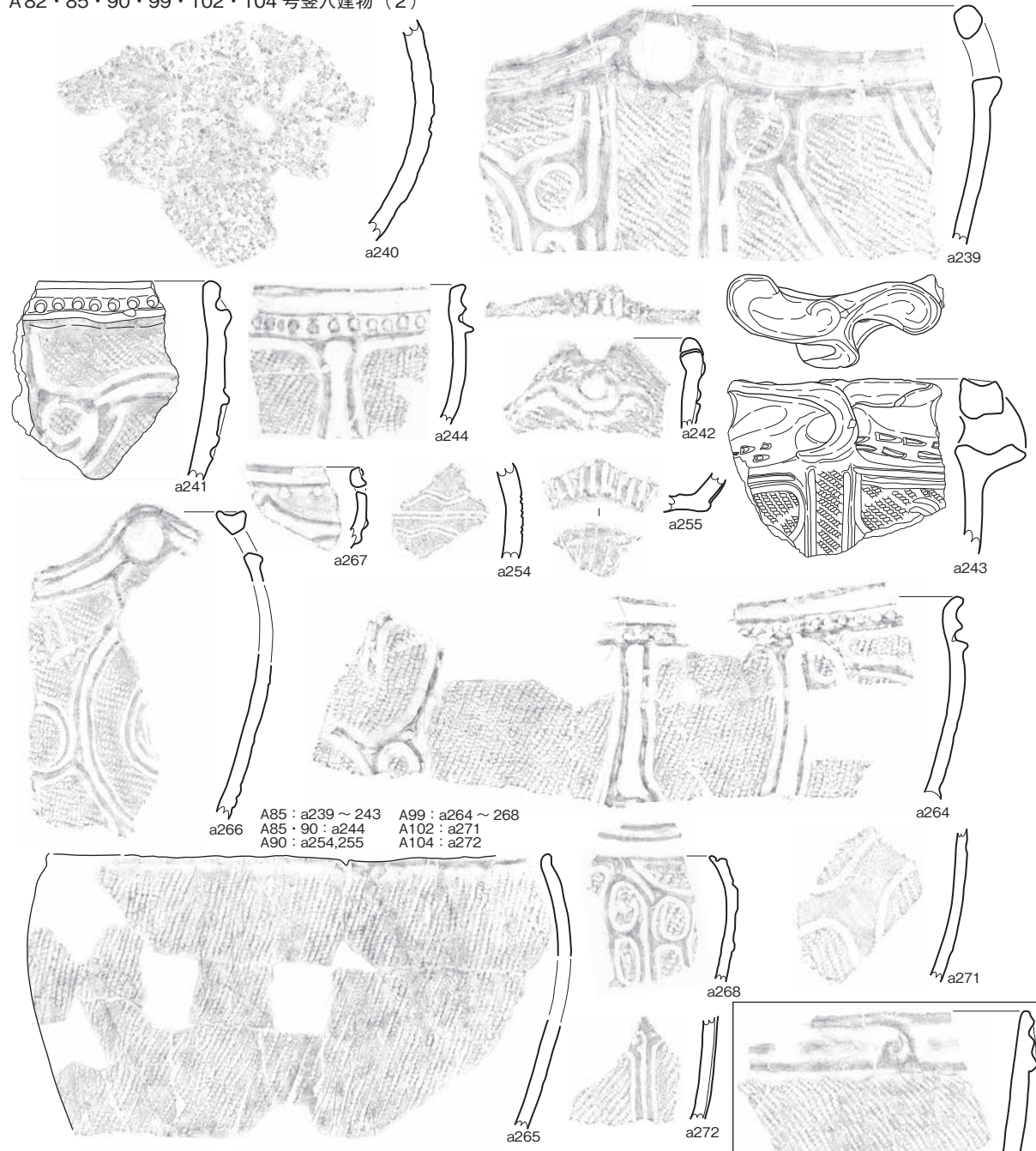


土器 1/4. ◎は 1/6

A82: a229,230

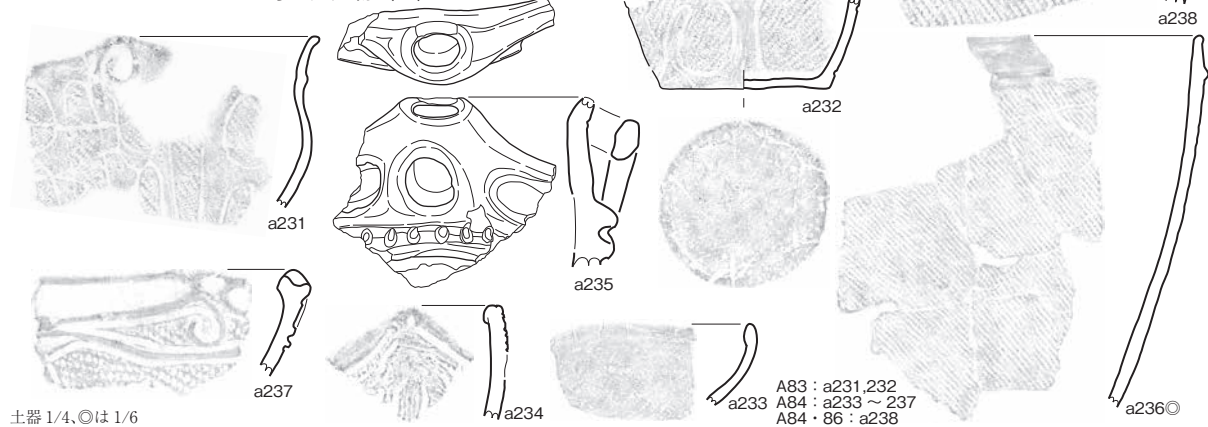
第 127 図 竖穴建物出土土器集成図（11）

A82・85・90・99・102・104号竪穴建物(2)



A85 : a239 ~ 243 A99 : a264 ~ 268
 A85・90 : a244 A102 : a271
 A90 : a254,255 A104 : a272

A83・84・86～89・94号竪穴建物(1)

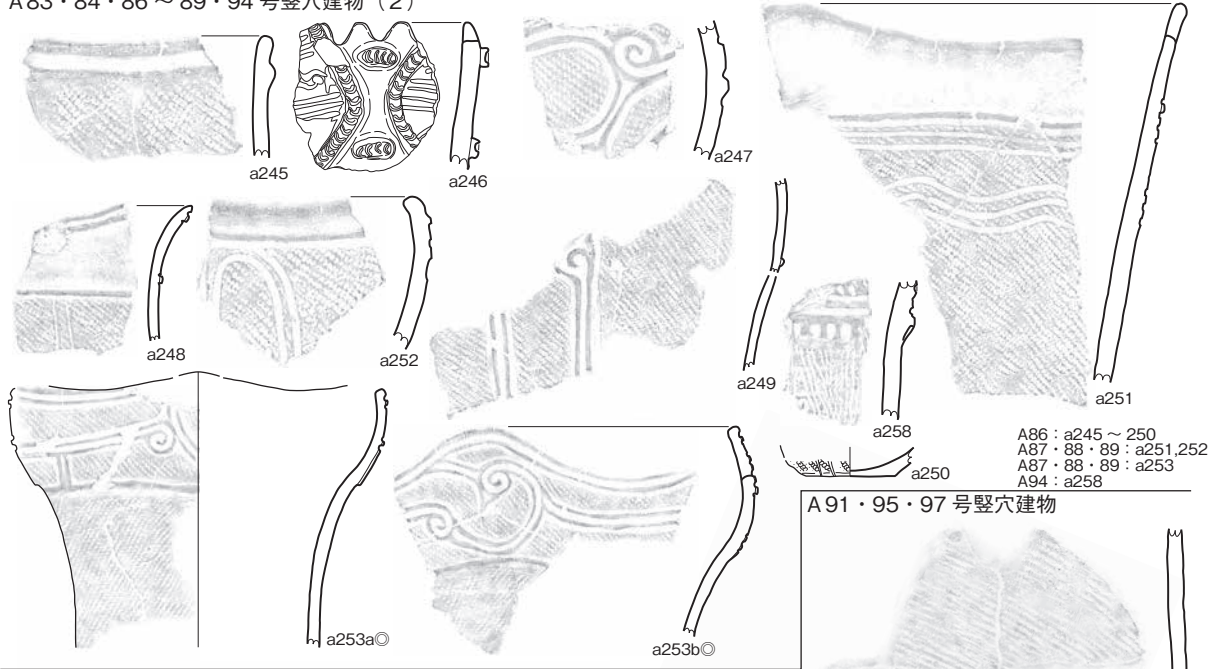


A83 : a231,232
 A84 : a233 ~ 237
 A84・86 : a238

土器 1/4.◎は 1/6

第128図 竪穴建物出土土器集成図(12)

A83・84・86～89・94号竖穴建物（2）

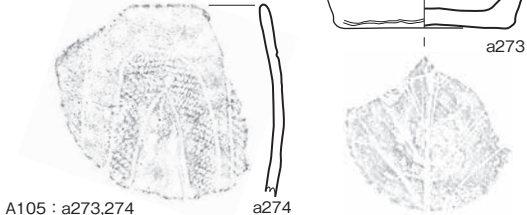


A91・95・97号竖穴建物



A100・101・103号竖穴建物

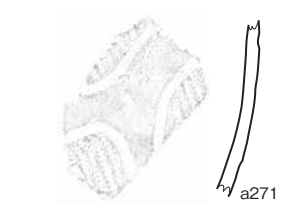
A105・106・133号竖穴建物



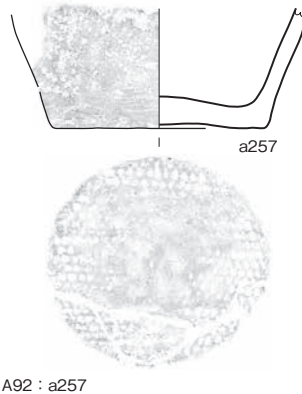
A107号竖穴建物（1）



A102号竖穴建物

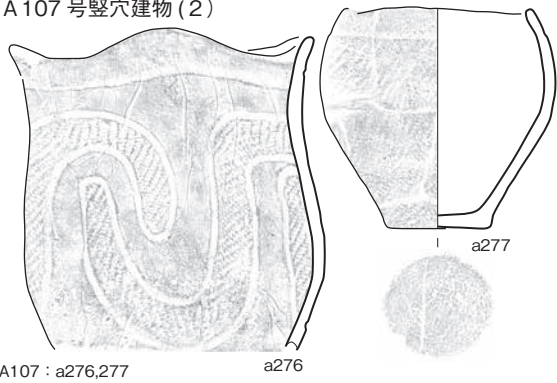


A92号竖穴建物



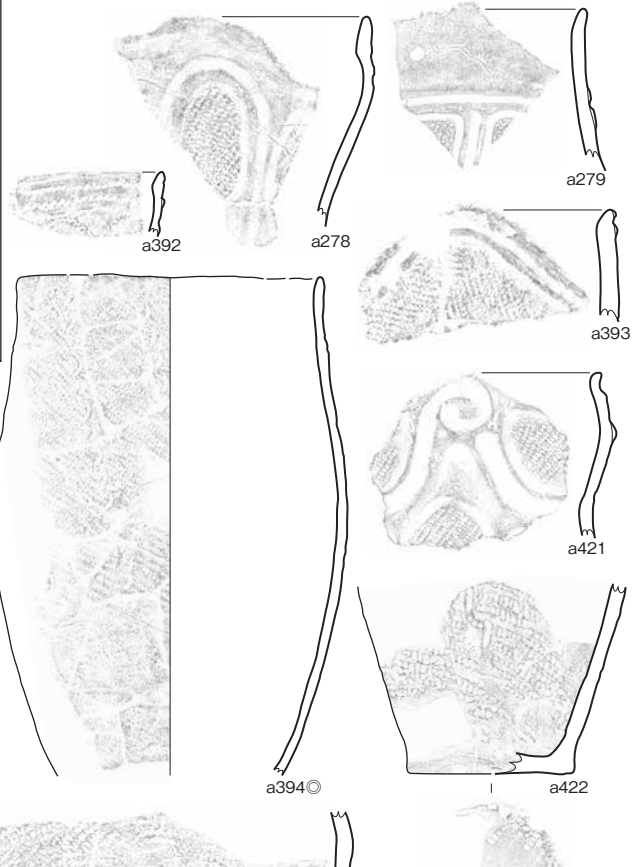
第129图 竖穴建物出土土器集成图（13）

A107号豎穴建物(2)



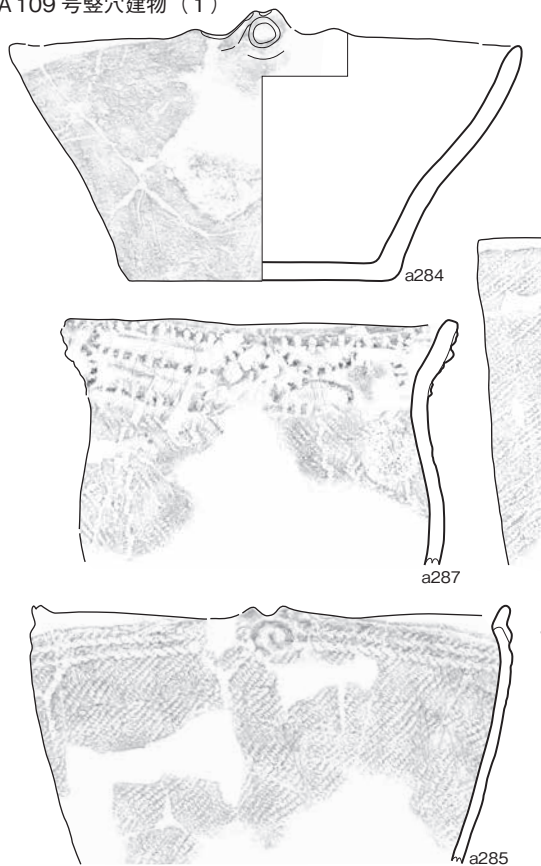
A107 : a276,277

A108・117・123・124・128号豎穴建物

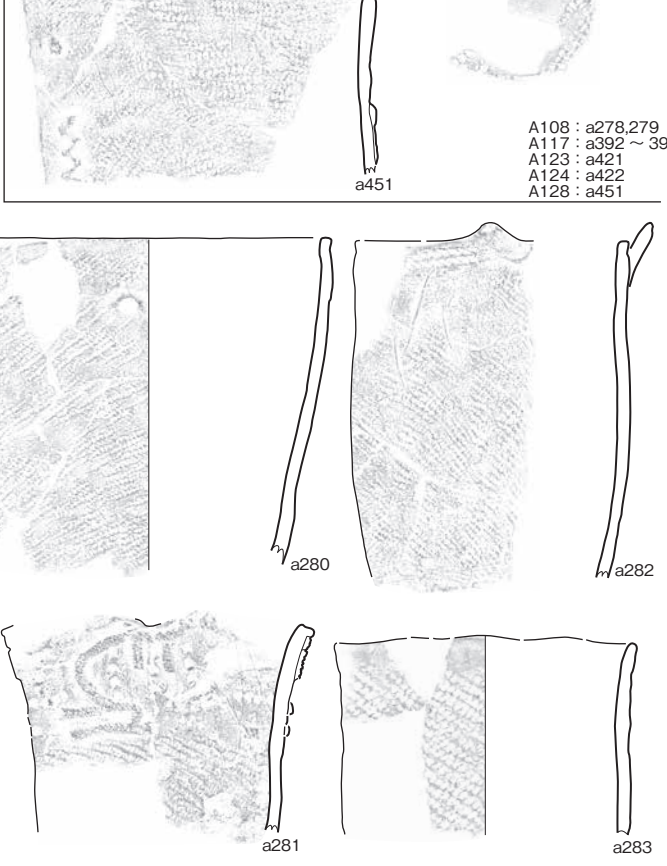


A108 : a278,279
 A117 : a392 ~ 395
 A123 : a421
 A124 : a422
 A128 : a451

A109号豎穴建物(1)



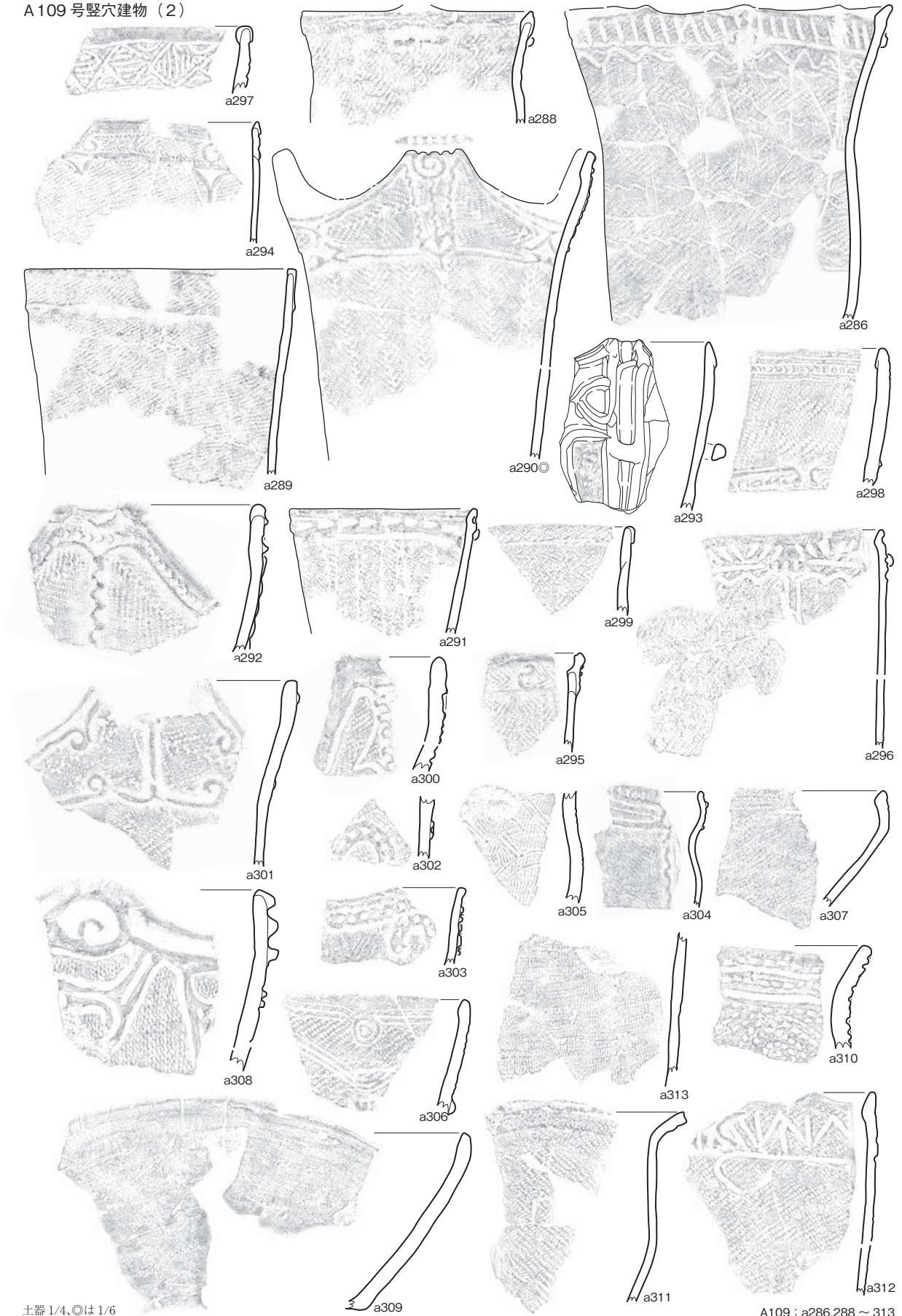
土器 1/4, ◎は 1/6



A109 : a280 ~ 285,287

第130図 豎穴建物出土土器集成図(14)

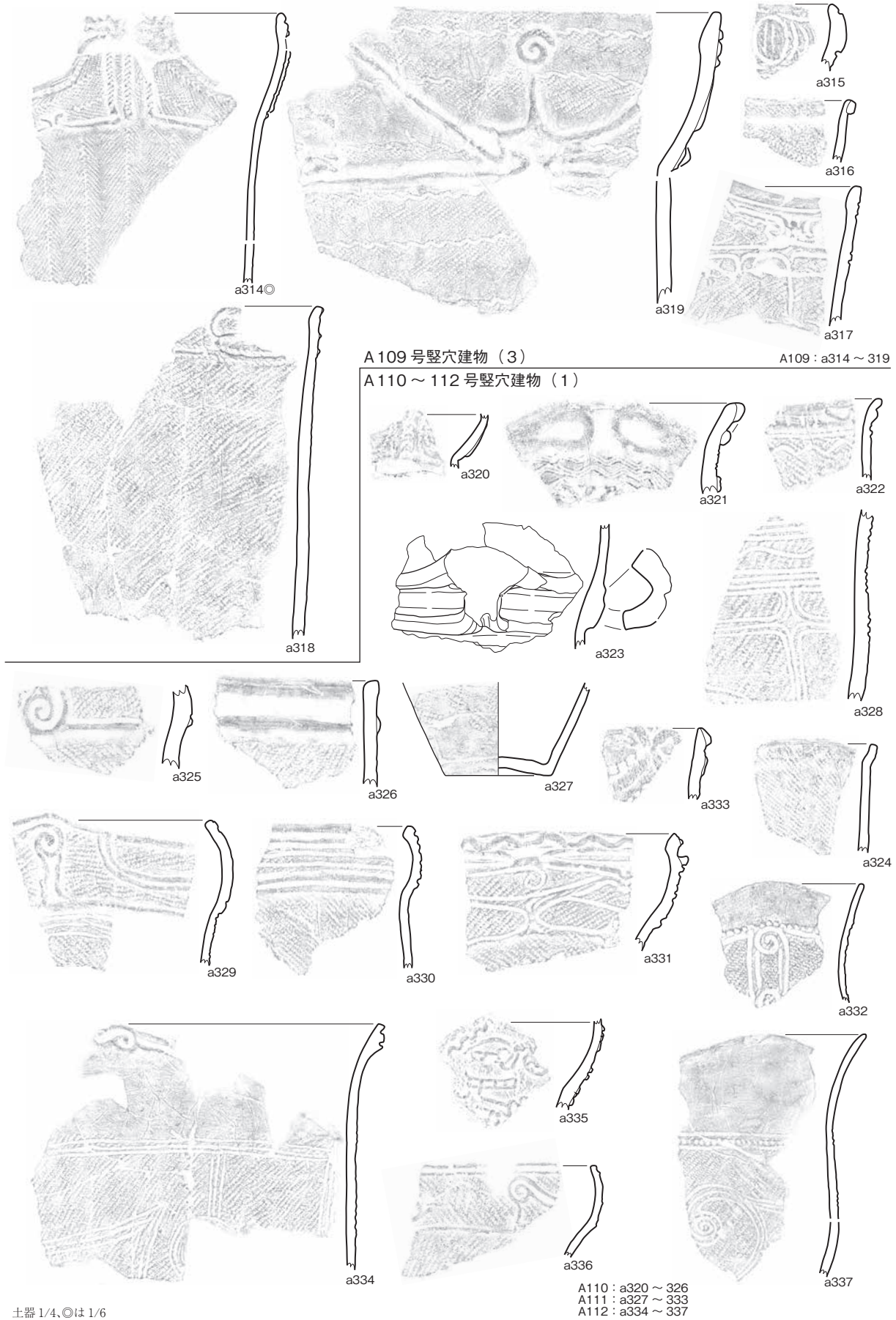
A109号竖穴建物（2）



土器 1/4, ○は 1/6

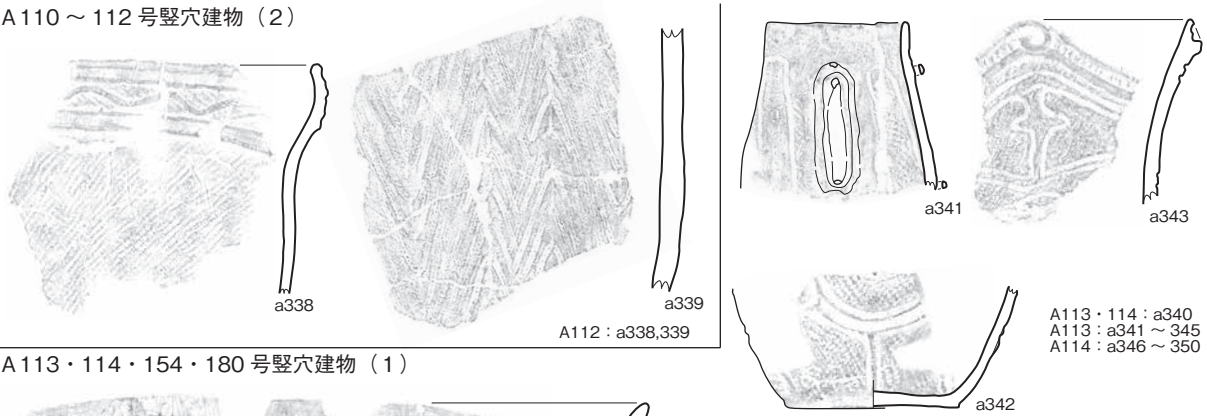
A109 : a286,288 ~ 313

第 131 図 竖穴建物出土土器集成図（15）

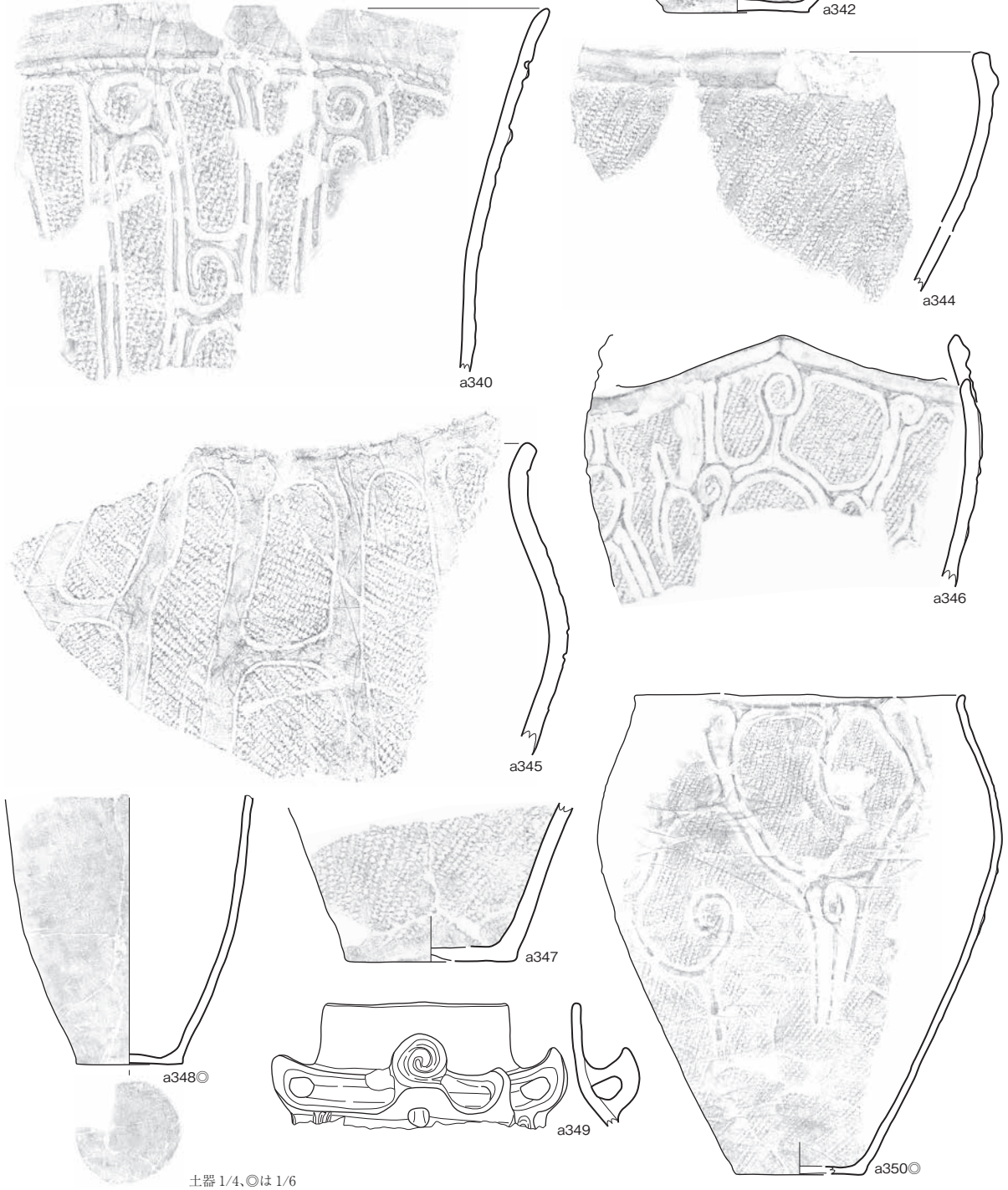


第 132 図 豎穴建物出土土器集成図 (16)

A110～112号竖穴建物（2）

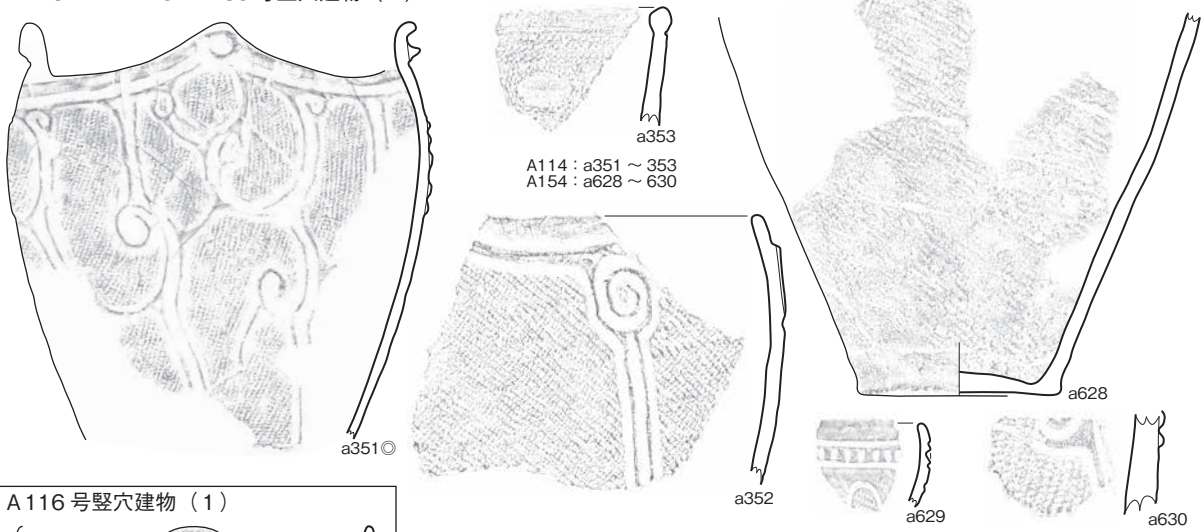


A113・114・154・180号竖穴建物（1）



第133図 竖穴建物出土土器集成図（17）

A113・114・154・180号竖穴建物(2)



A116号竖穴建物(1)



第134図 竖穴建物出土土器集成図(18)

A116号竖穴建物（2）

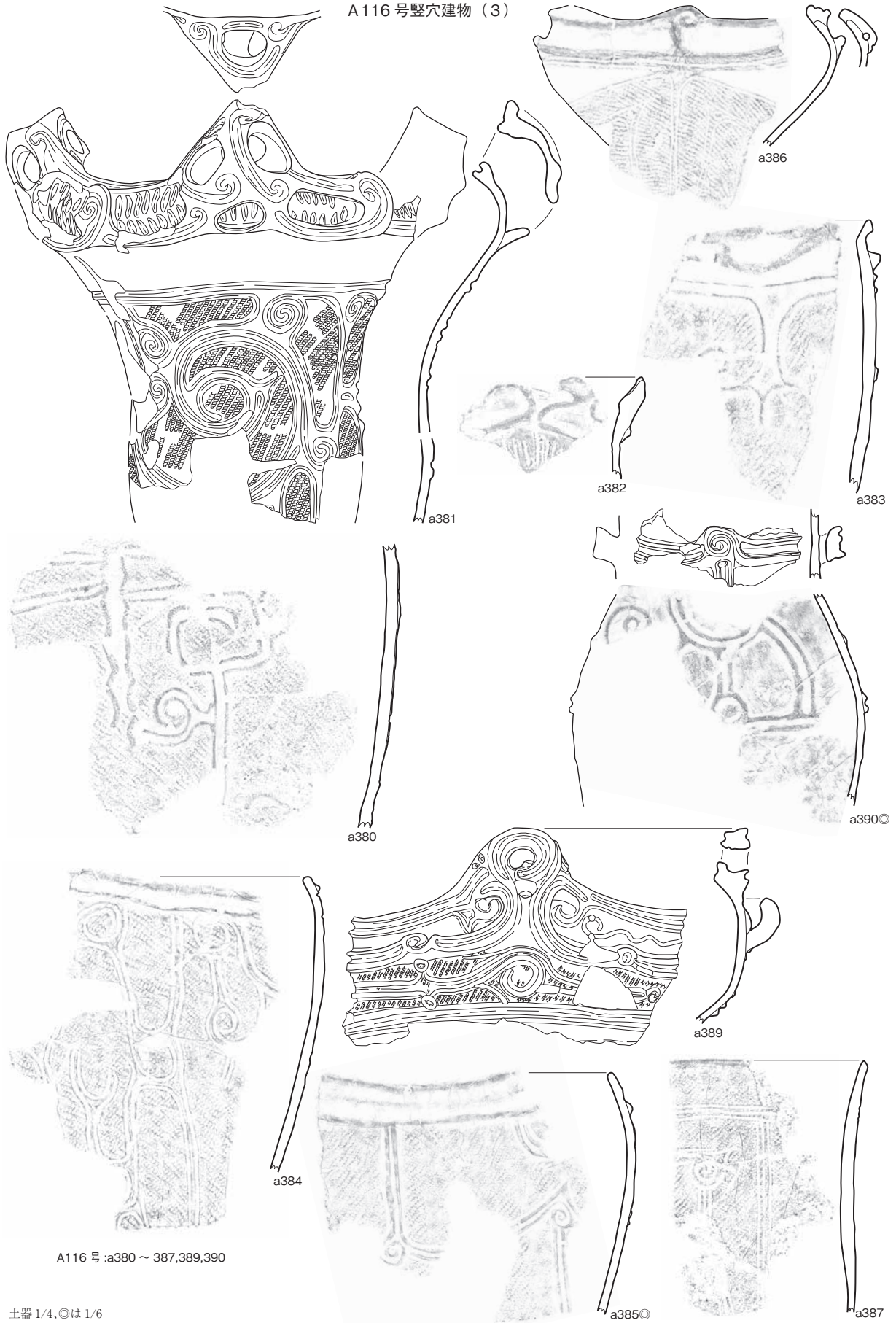


A116 : a363 ~ 379

土器 1/4. ○は 1/6

第 135 図 竖穴建物出土土器集成図 (19)

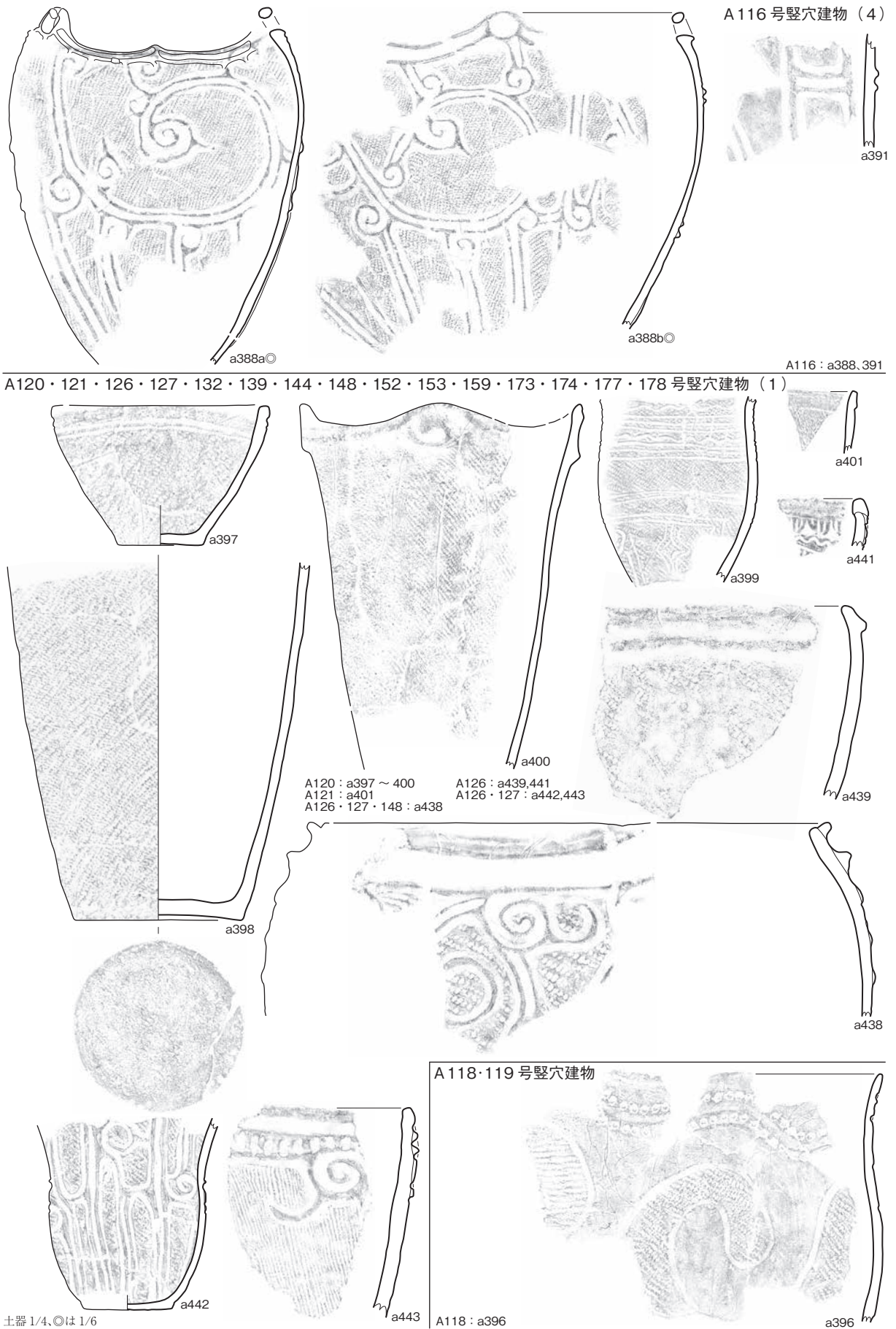
A116号竖穴建物(3)



A116号 :a380 ~ 387,389,390

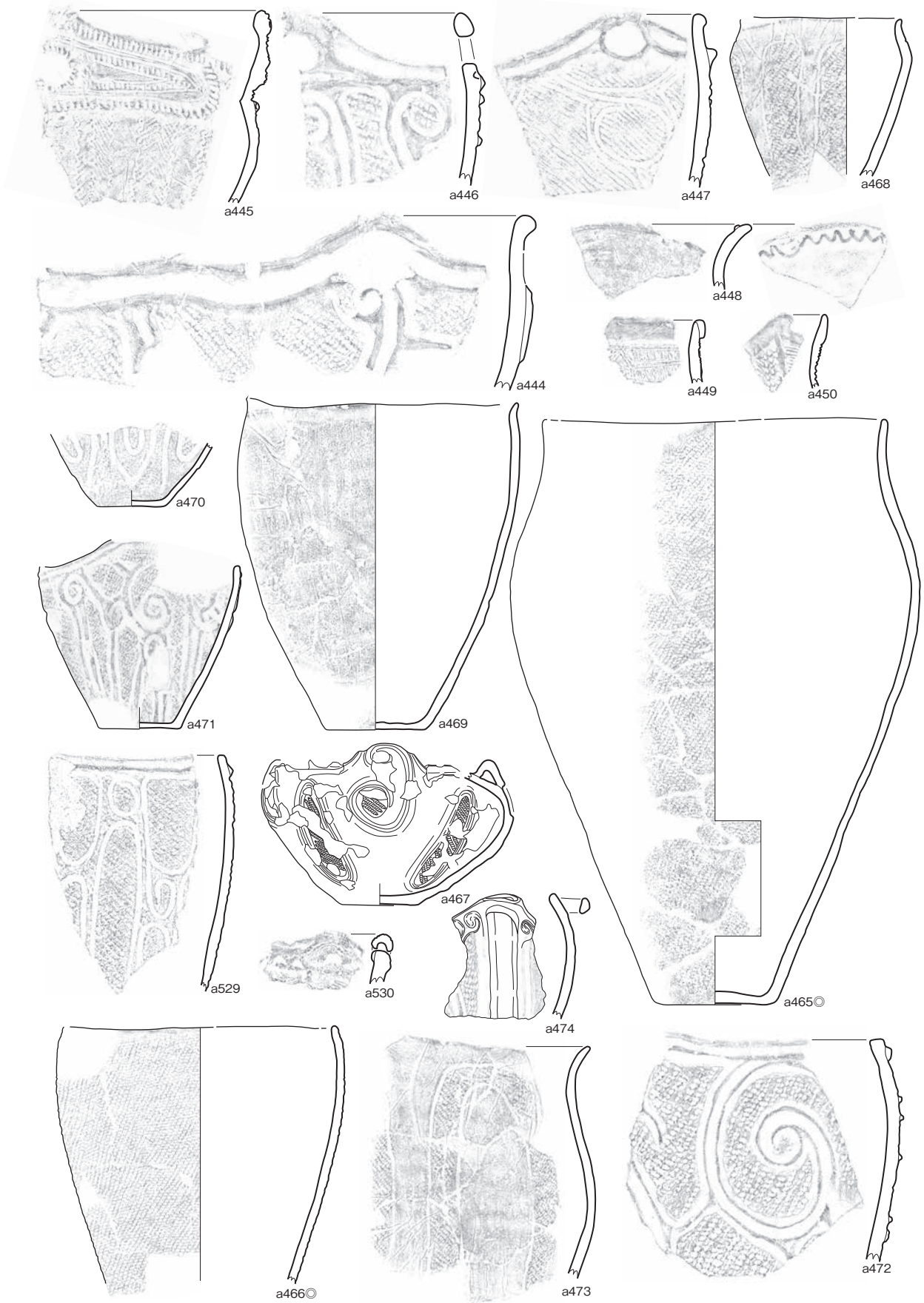
土器 1/4, ◎は 1/6

第136図 竖穴建物出土土器集成図(20)



第137図 竖穴建物出土土器集成図(21)

A120・121・126・127・132・139・144・148・152・153・159・173・174・177・178号豎穴建物(2)

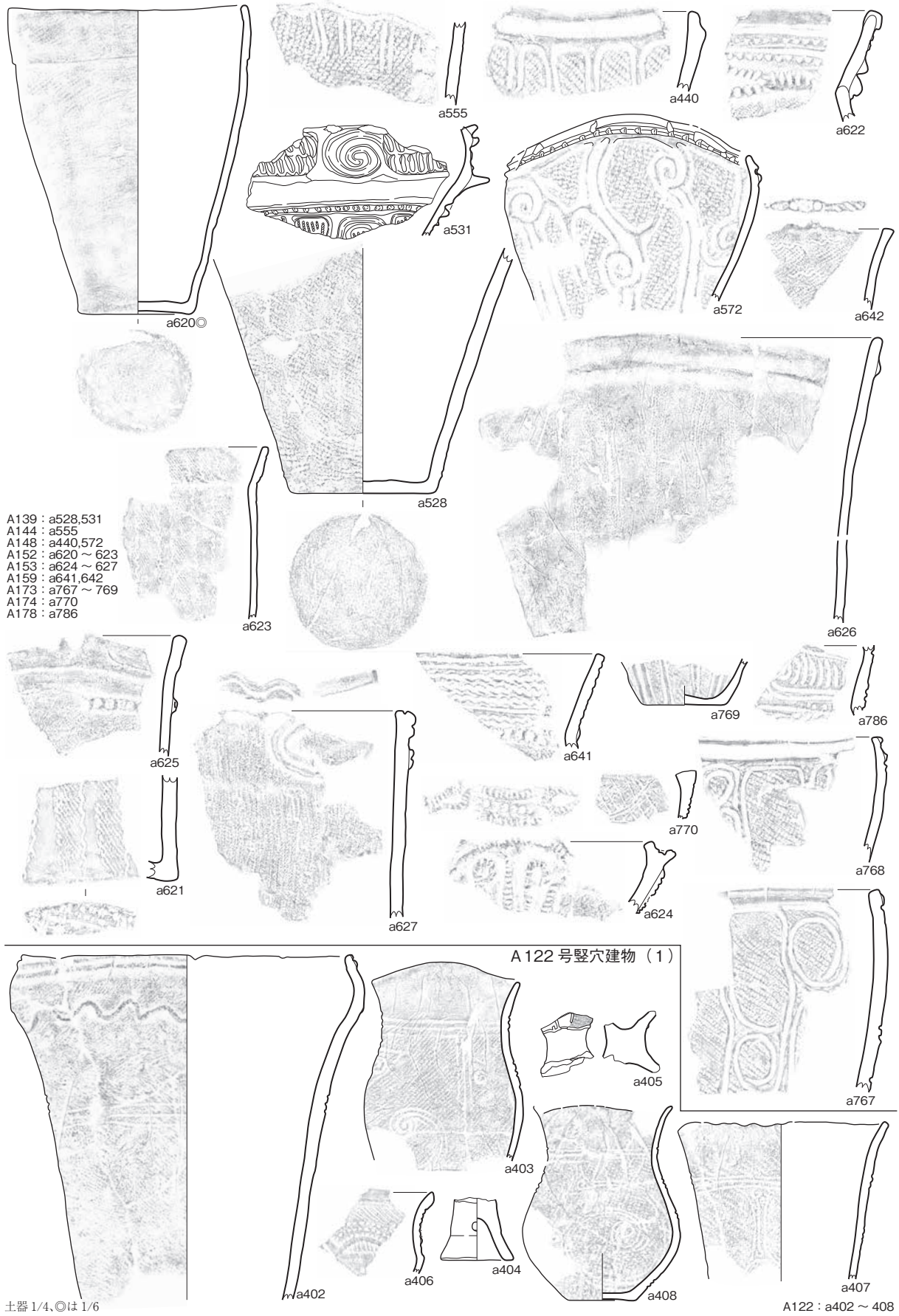


土器 1/4、○は 1/6

A127 : a444 ~ 450 A132 : a465 ~ 474 A139 : a529,530

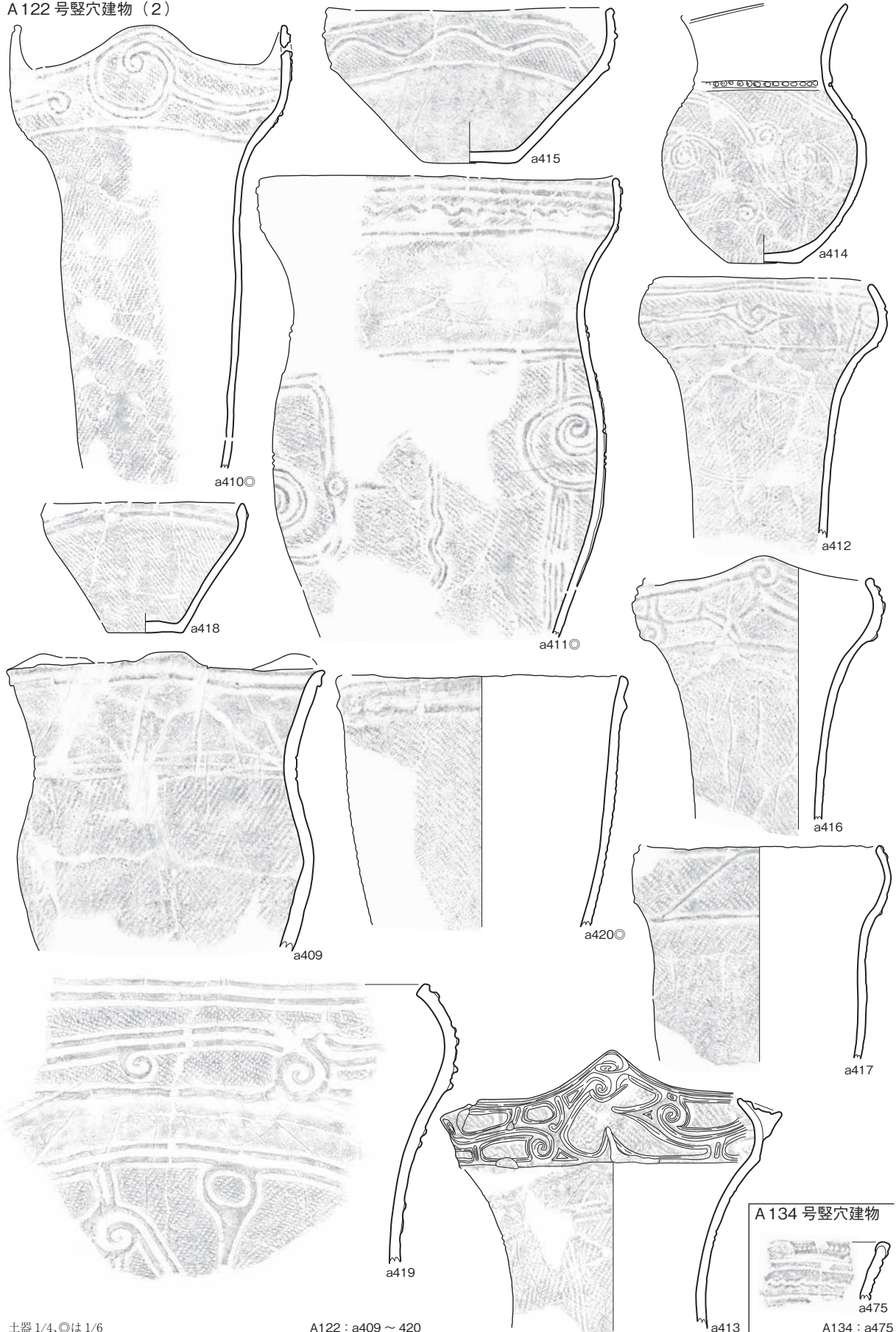
第138図 豎穴建物出土土器集成図(22)

A 120・121・126・127・132・139・144・148・152・153・159・173・174・177・178号竖穴建物（3）



第 139 図 竖穴建物出土土器集成図（23）

A122号竖穴建物(2)



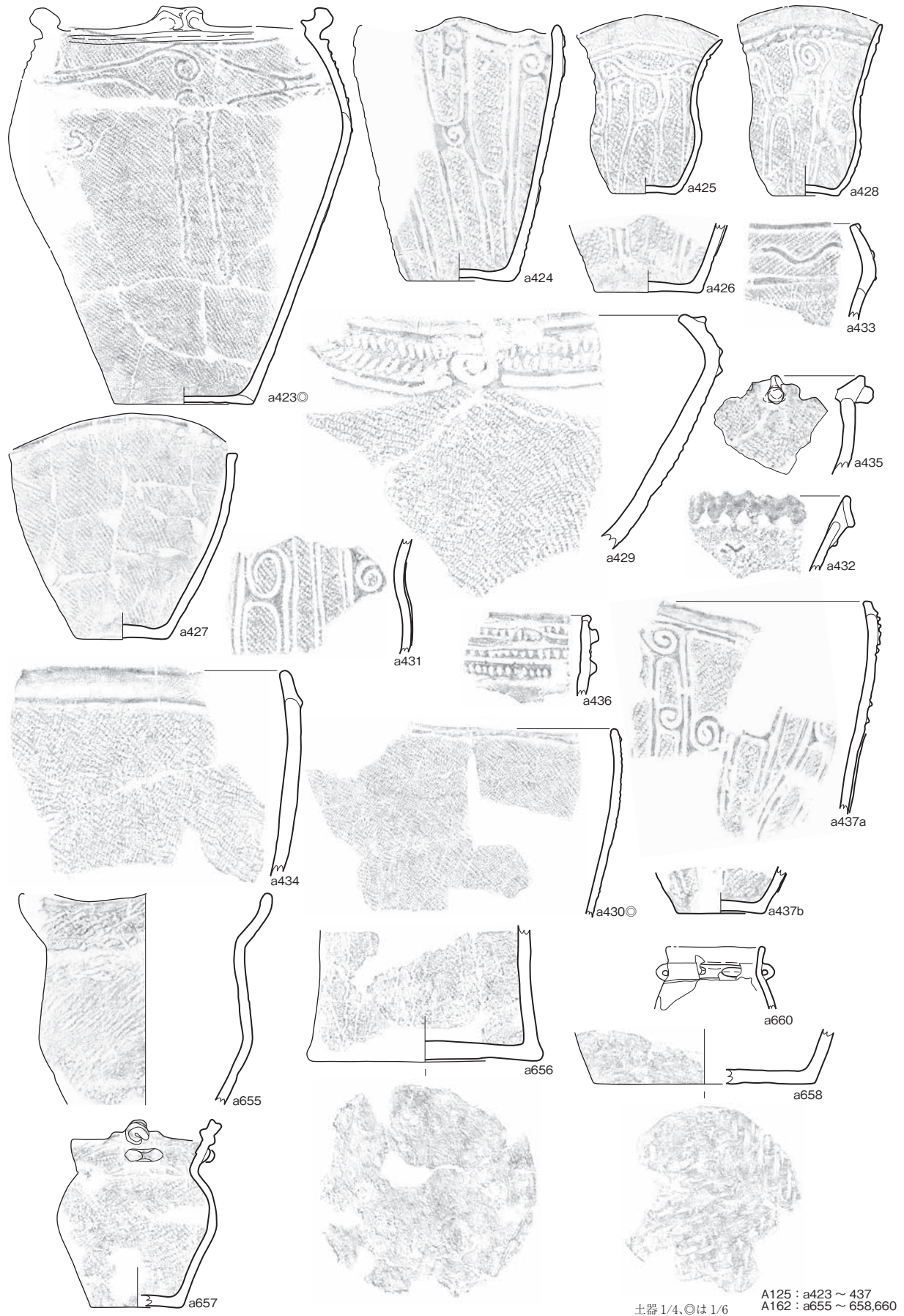
土器 1/4、○は 1/6

A122 : a409 ~ 420

A134 : a475

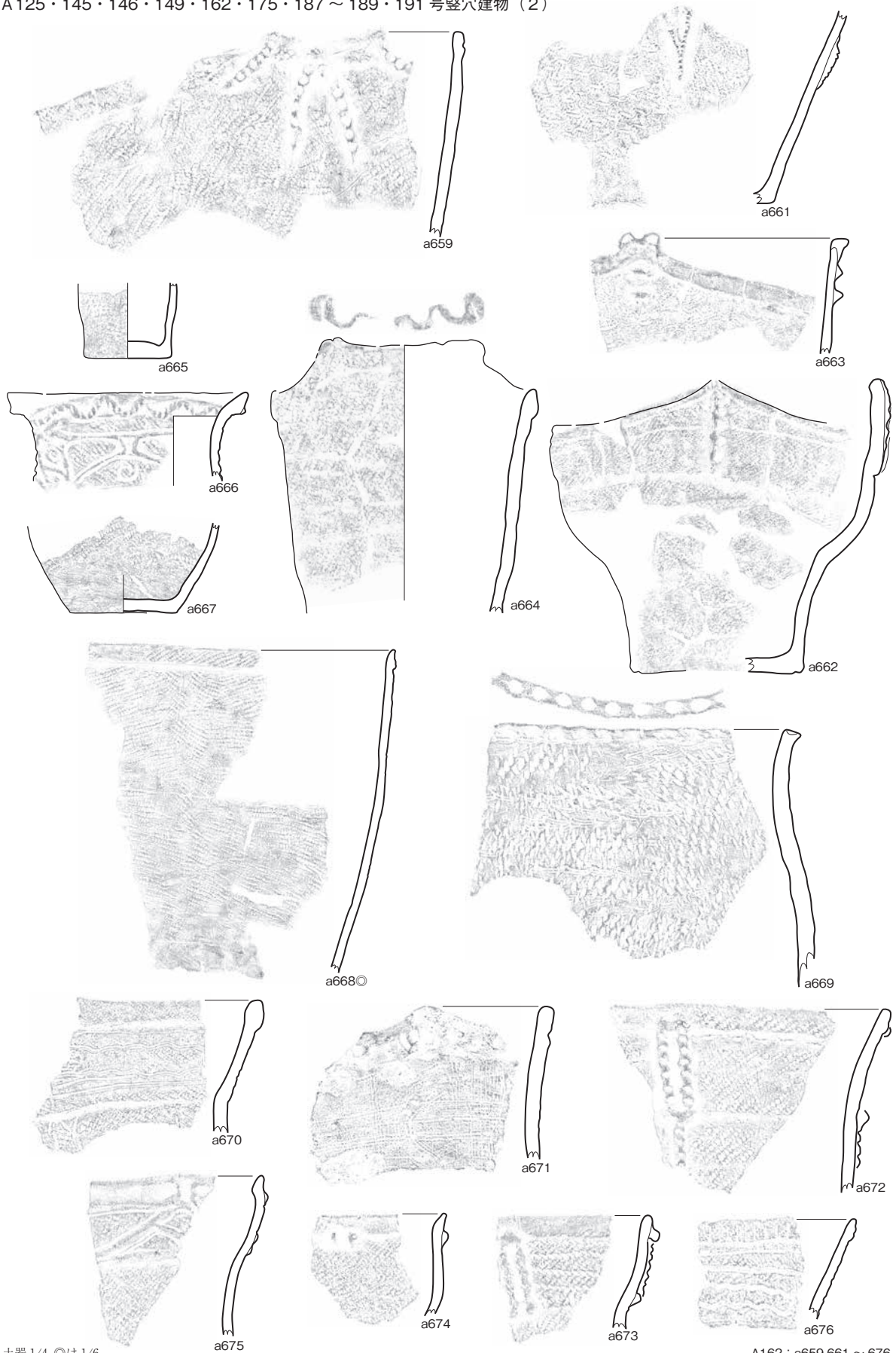
第140図 竖穴建物出土土器集成図(24)

A125・145・146・149・162・175・187～189・191号竪穴建物（1）※A145は第148・149図、A146は第153図、A175は第152図に掲載



第141図 竪穴建物出土土器集成図（25）

A125・145・146・149・162・175・187～189・191号竖穴建物(2)

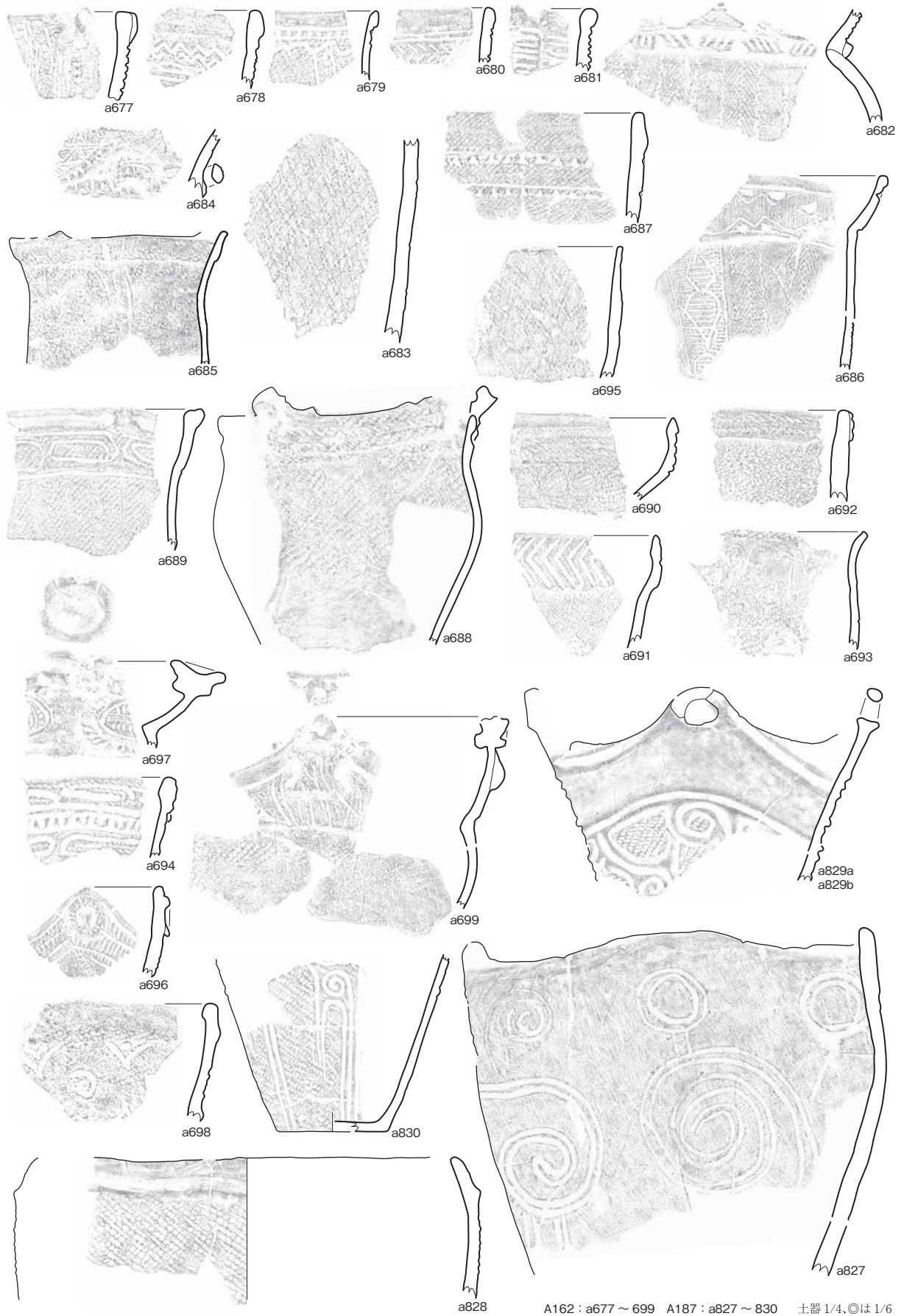


土器 1/4、○は 1/6

A162 : a659,661 ~ 676

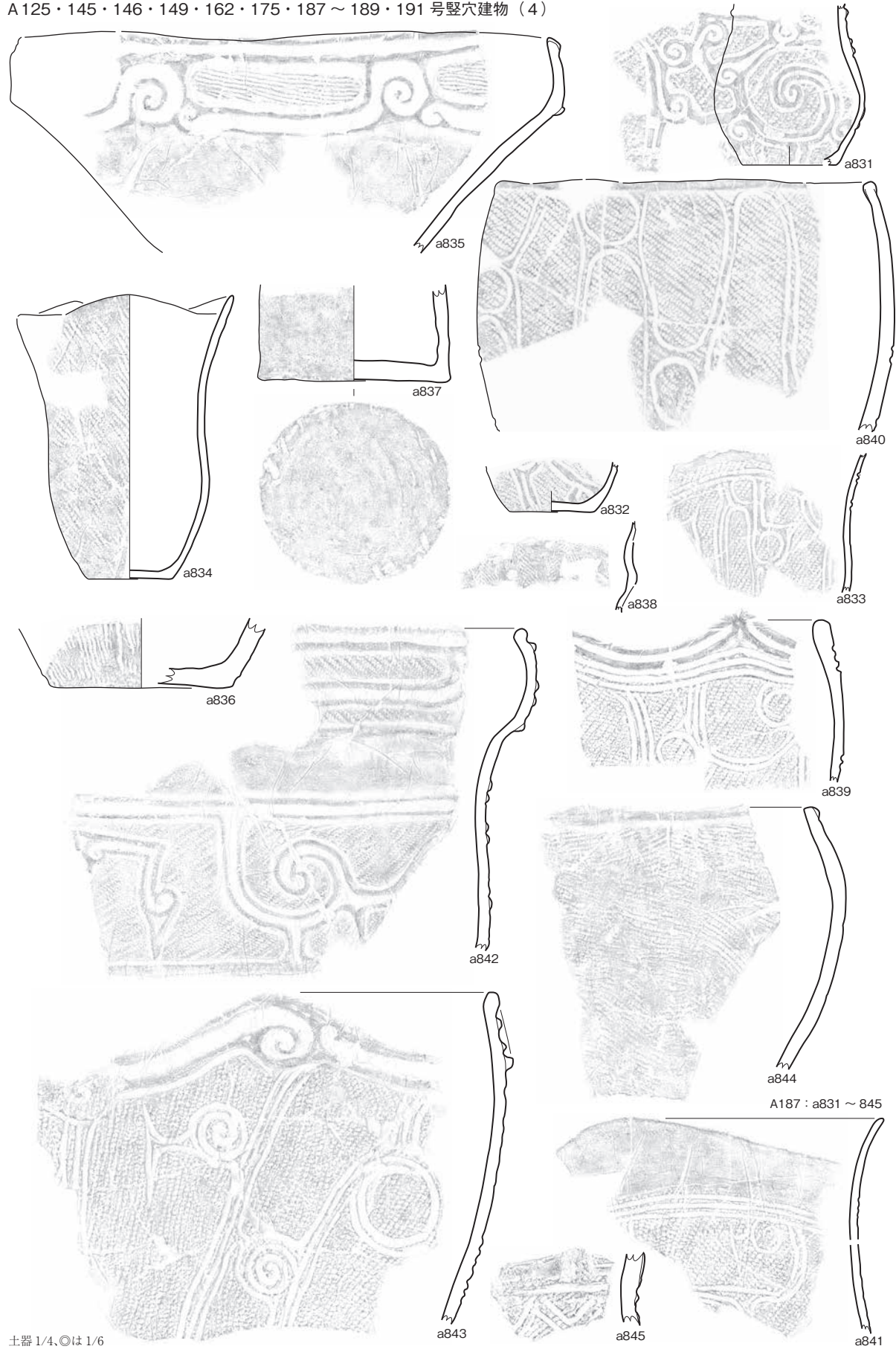
第 142 図 竖穴建物出土土器集成図 (26)

A125・145・146・149・162・175・187～189・191号竖穴建物（3）



第143図 竖穴建物出土土器集成図（27）

A125・145・146・149・162・175・187～189・191号豎穴建物(4)



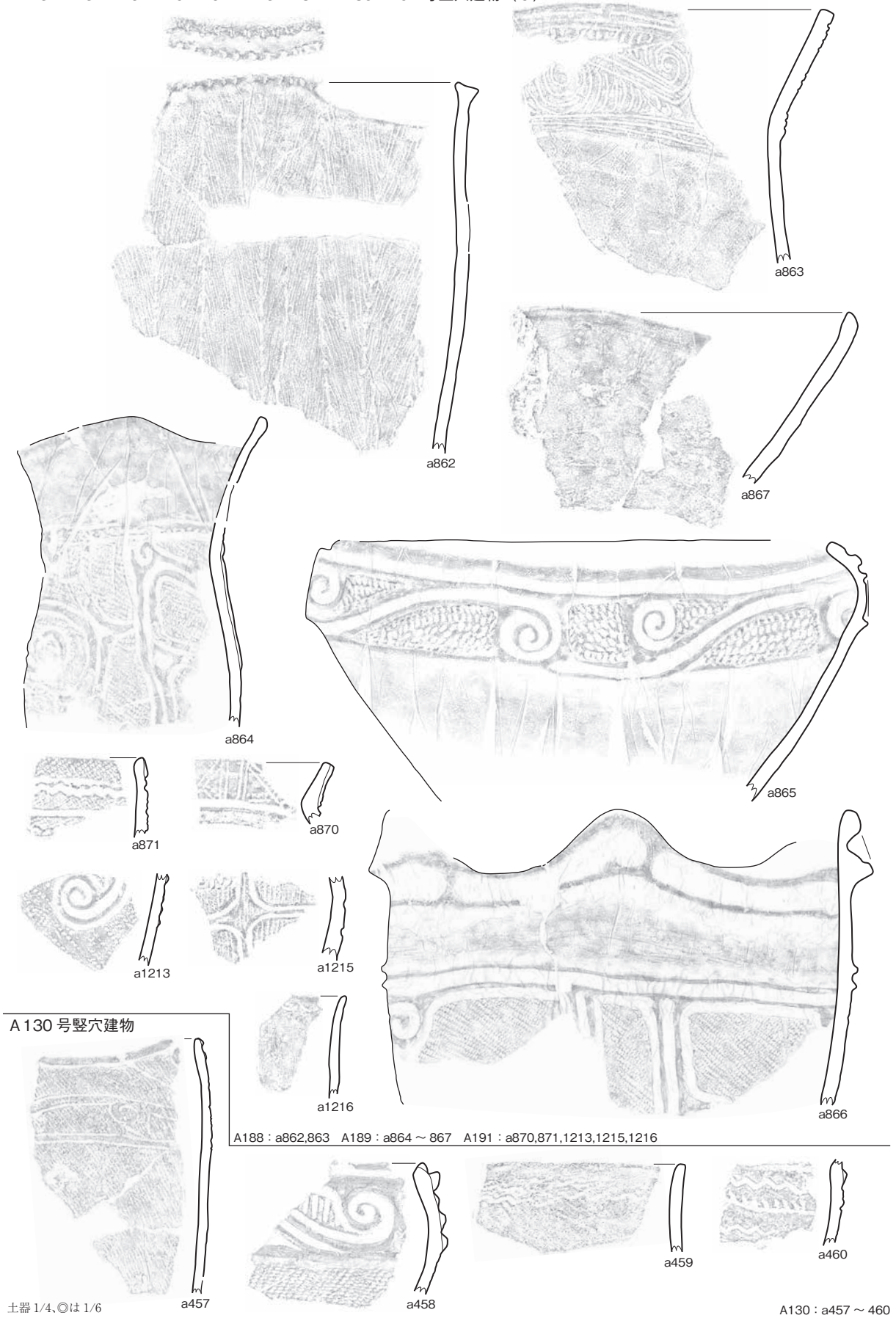
第144図 豎穴建物出土土器集成図(28)

A125・145・146・149・162・175・187～189・191号竖穴建物（5）



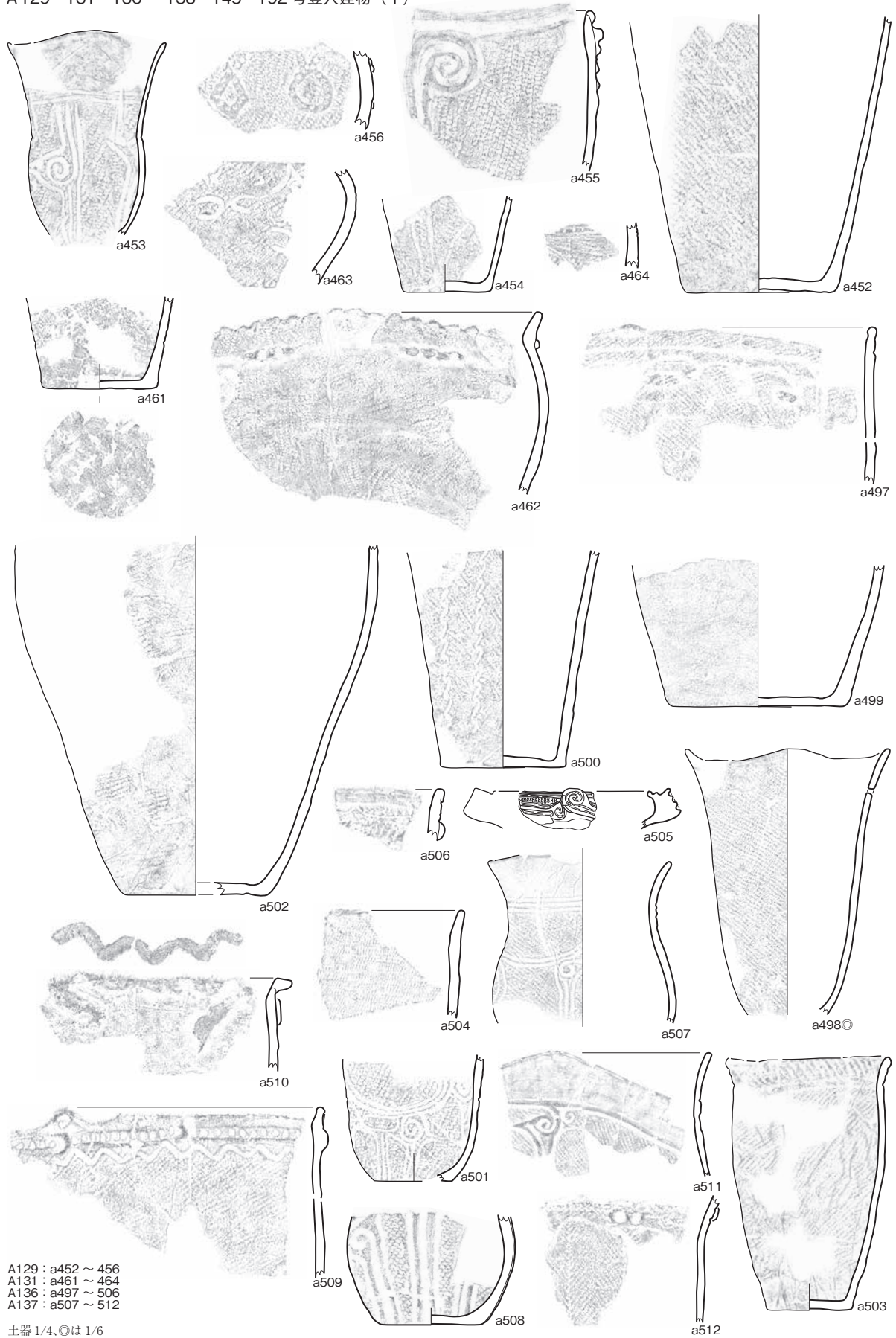
第145図 竖穴建物出土土器集成図（29）

A125・145・146・149・162・175・187～189・191号竖穴建物(6)



第146图 竖穴建物出土土器集成图(30)

A129・131・136～138・145・192号竖穴建物（1）

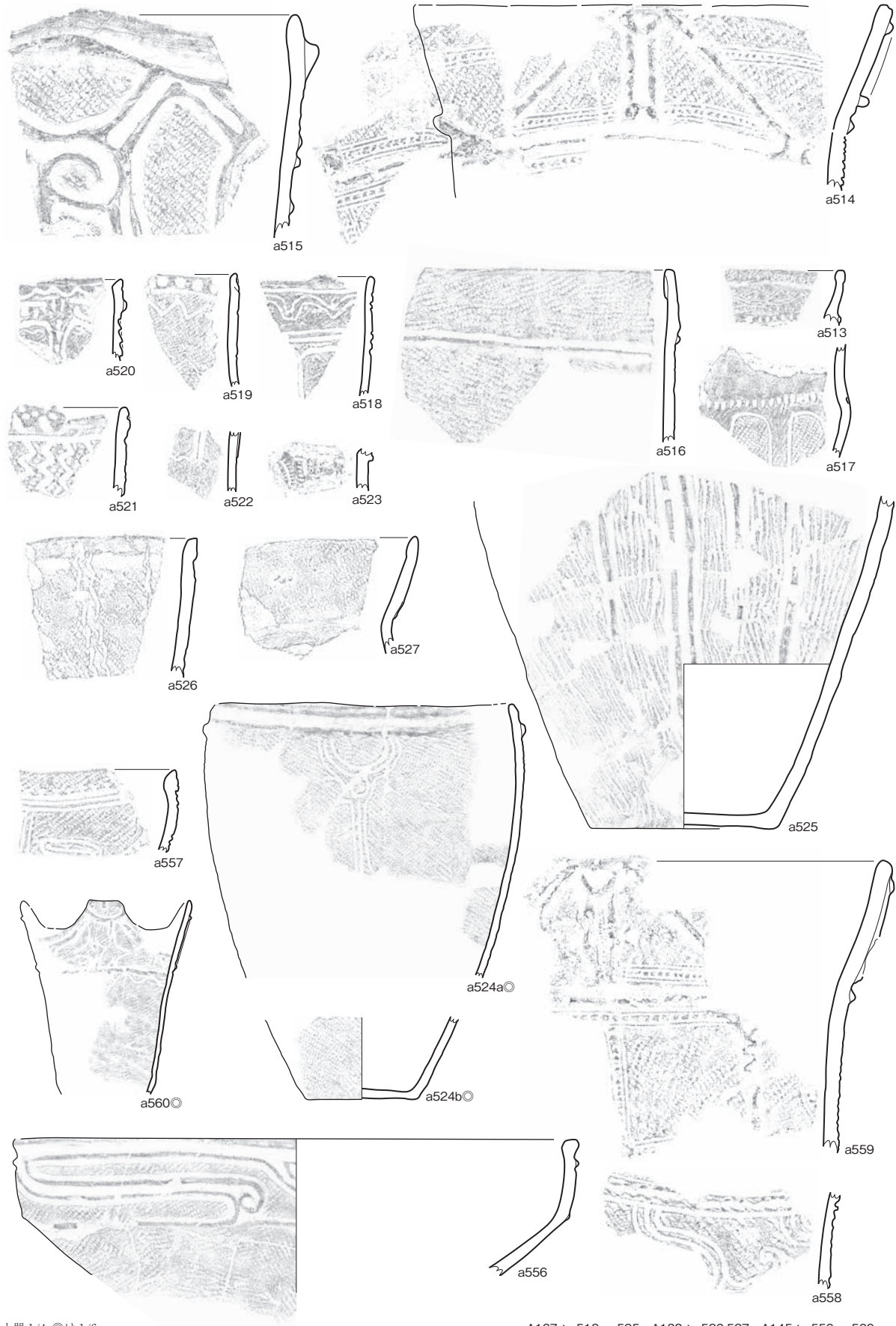


A129 : a452 ~ 456
 A131 : a461 ~ 464
 A136 : a497 ~ 506
 A137 : a507 ~ 512

土器 1/4, ◎は 1/6

第147図 竖穴建物出土土器集成図（31）

A129・131・136～138・145・192号竪穴建物（2）

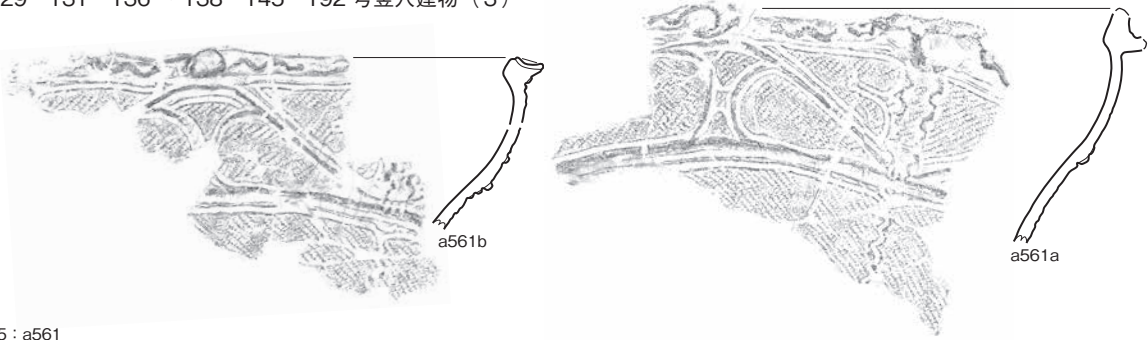


土器 1/4、○は 1/6

A137 : a513 ~ 525 A138 : a526,527 A145 : a556 ~ 560

第148図 竪穴建物出土土器集成図（32）

A129・131・136～138・145・192号竖穴建物（3）



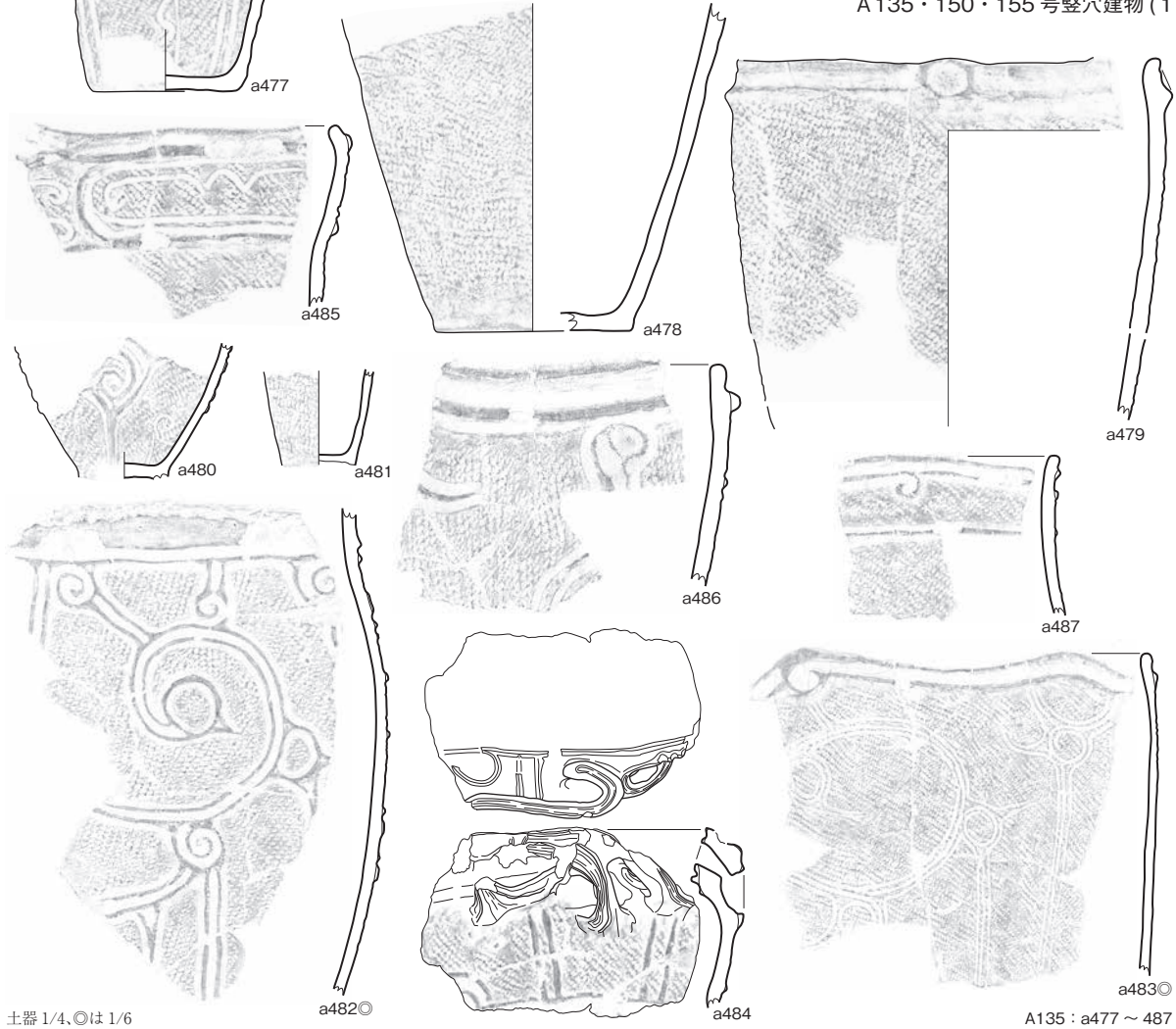
A145 : a561

A147号竖穴建物



A147 : a571

A135・150・155号竖穴建物（1）



土器 1/4, ◎は 1/6

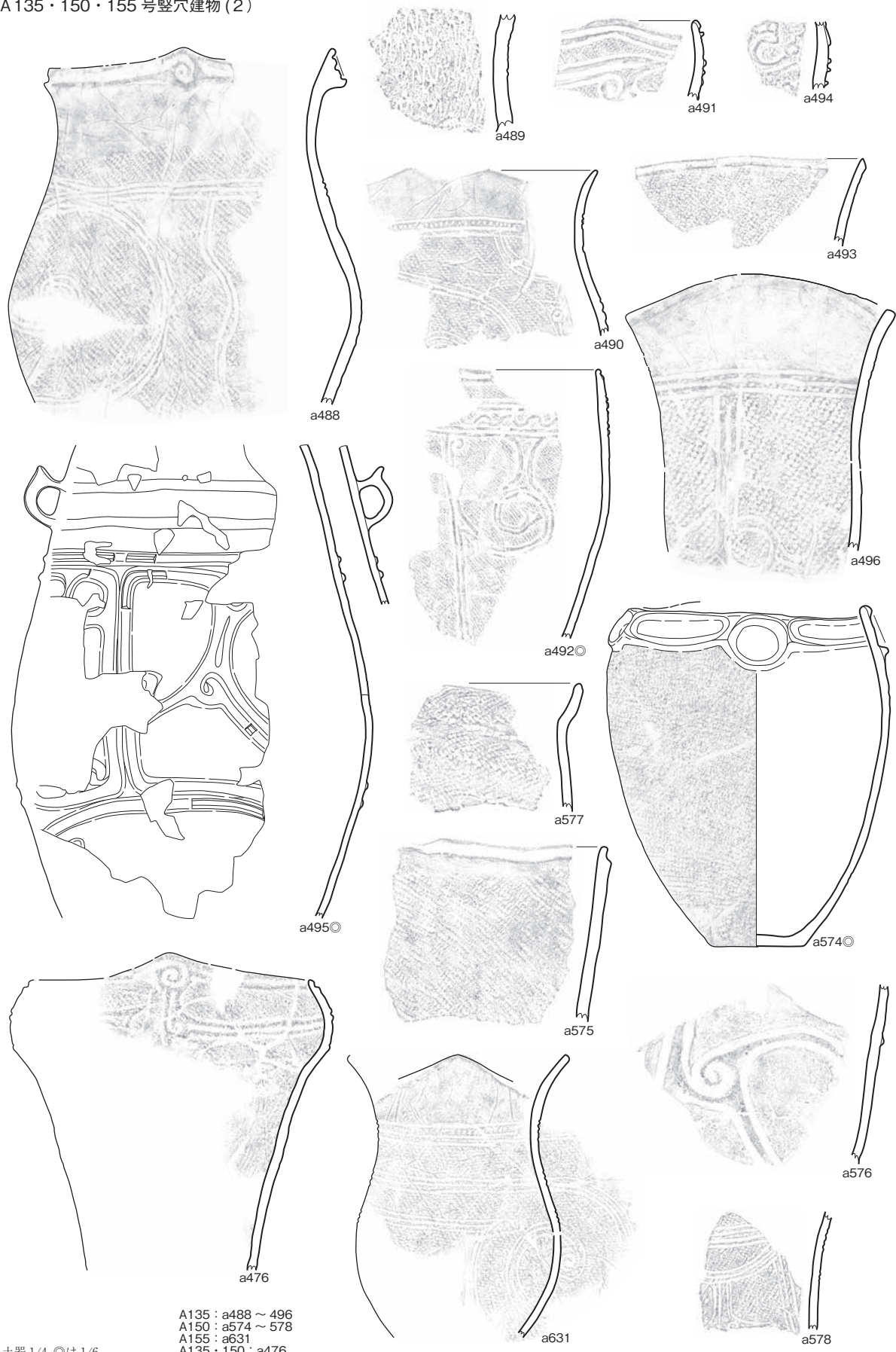
a482◎

a484

A135 : a477 ~ 487

第149图 竖穴建物出土土器集成图（33）

A135・150・155号竪穴建物(2)



第150図 竪穴建物出土土器集成図(34)

A140 ~ 142・169号竪穴建物(1)

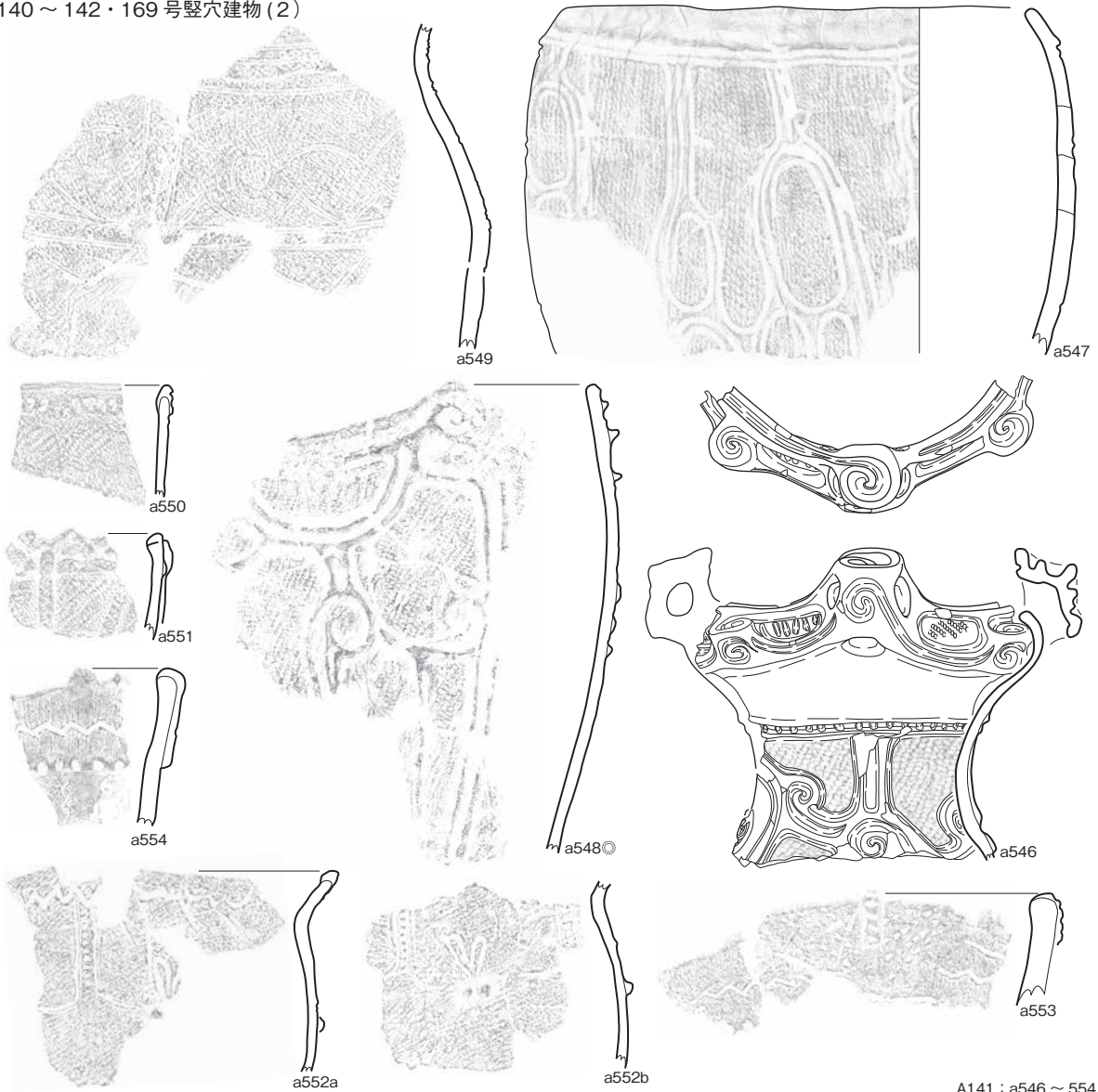


土器 1/4, ○は 1/6

A140・141 : a532 ~ 534, 545 A140 : a535 ~ 544 A169 : a729, 730

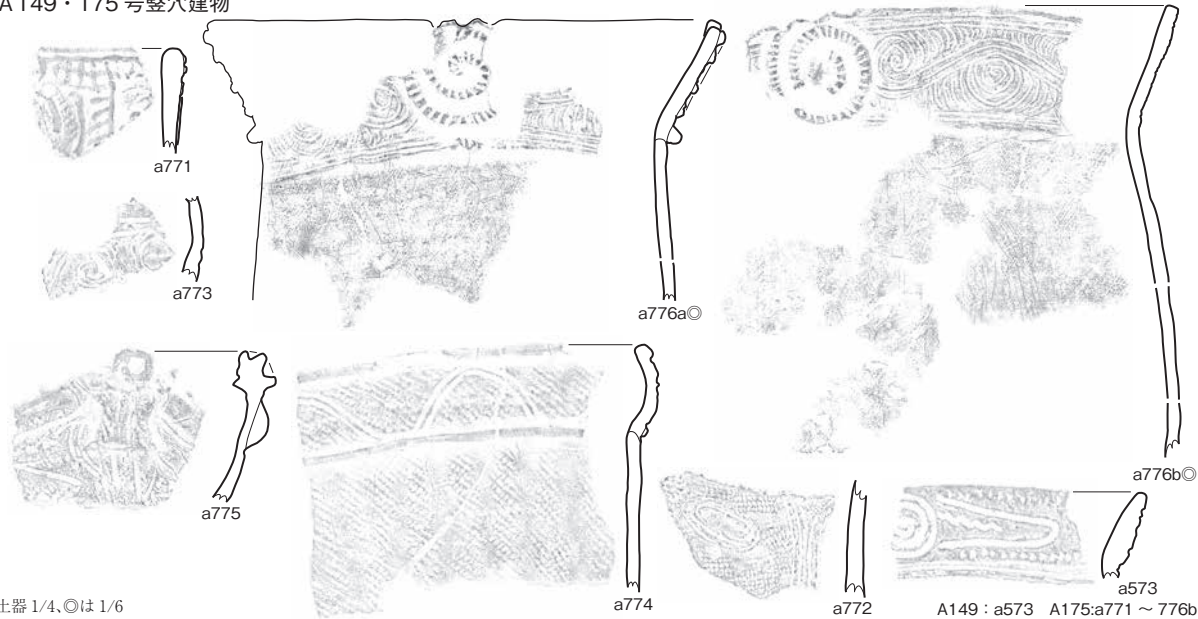
第151図 竪穴建物出土土器集成図(35)

A140 ~ 142・169号豎穴建物(2)



A141 : a546 ~ 554

A149・175号豎穴建物

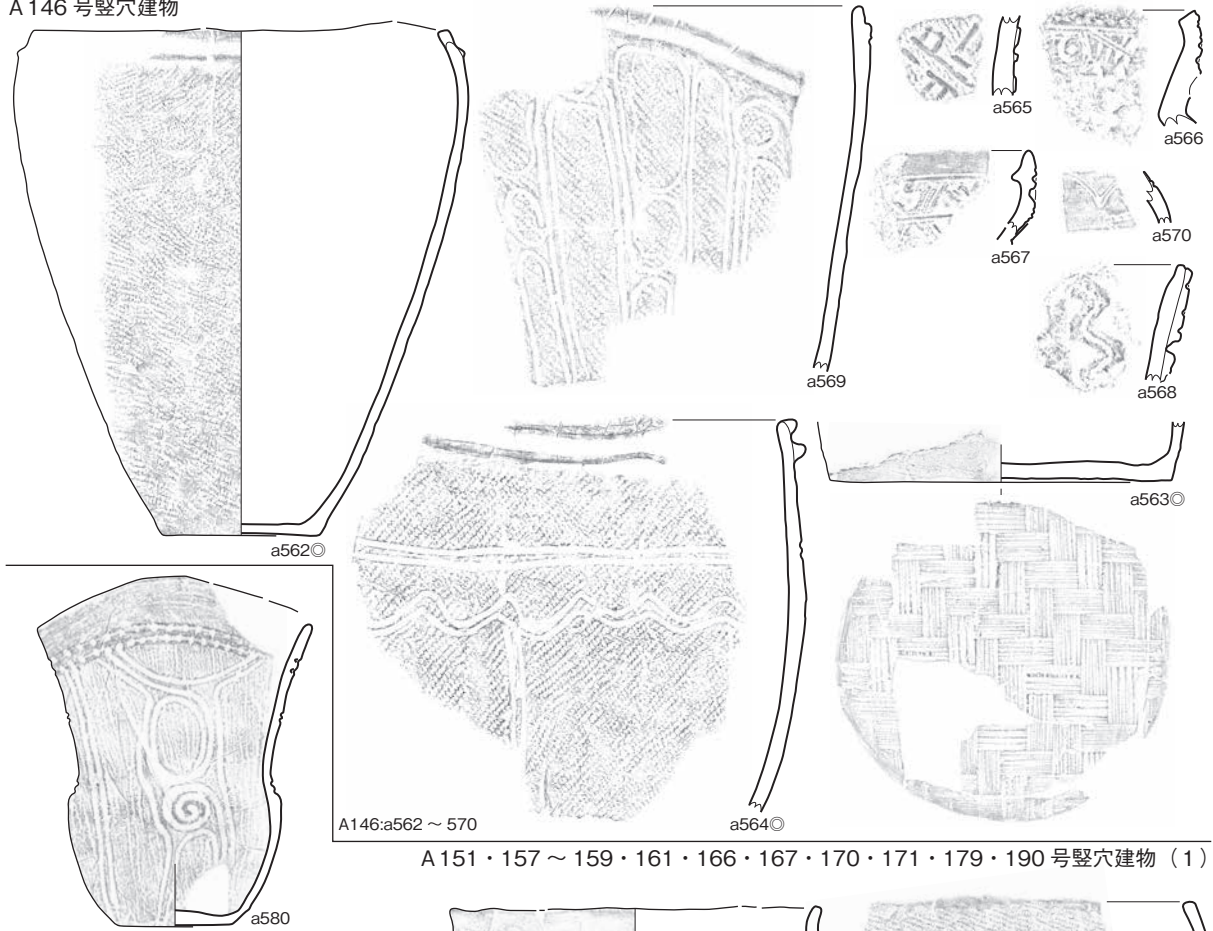


A149 : a573 A175:a771 ~ 776b

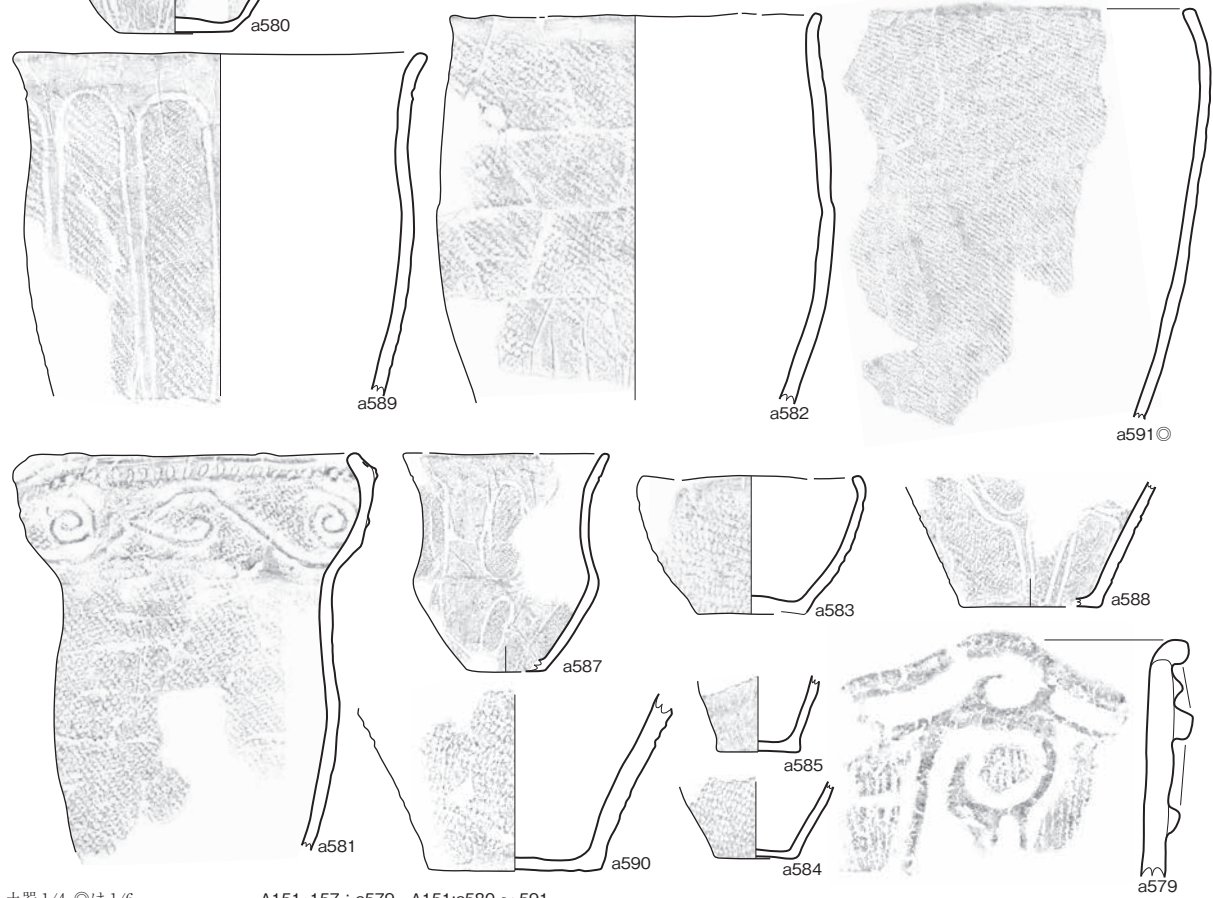
土器 1/4、◎は 1/6

第152図 豎穴建物出土土器集成図(36)

A146号竖穴建物



A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竖穴建物（1）



土器 1/4, ◎は 1/6

A151・157 : a579 A151:a580 ~ 591

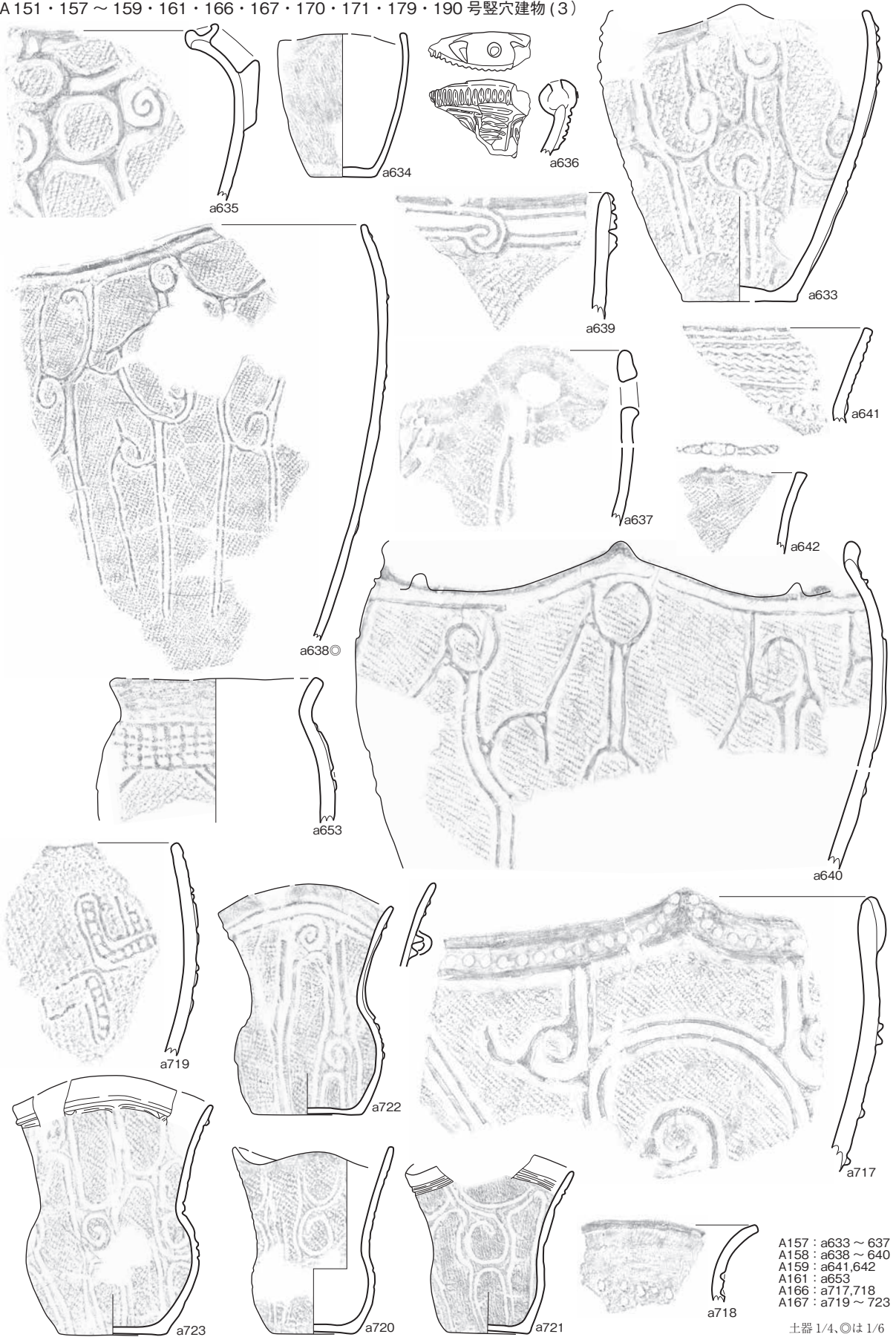
第153図 竖穴建物出土土器集成図（37）

A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竪穴建物(2)



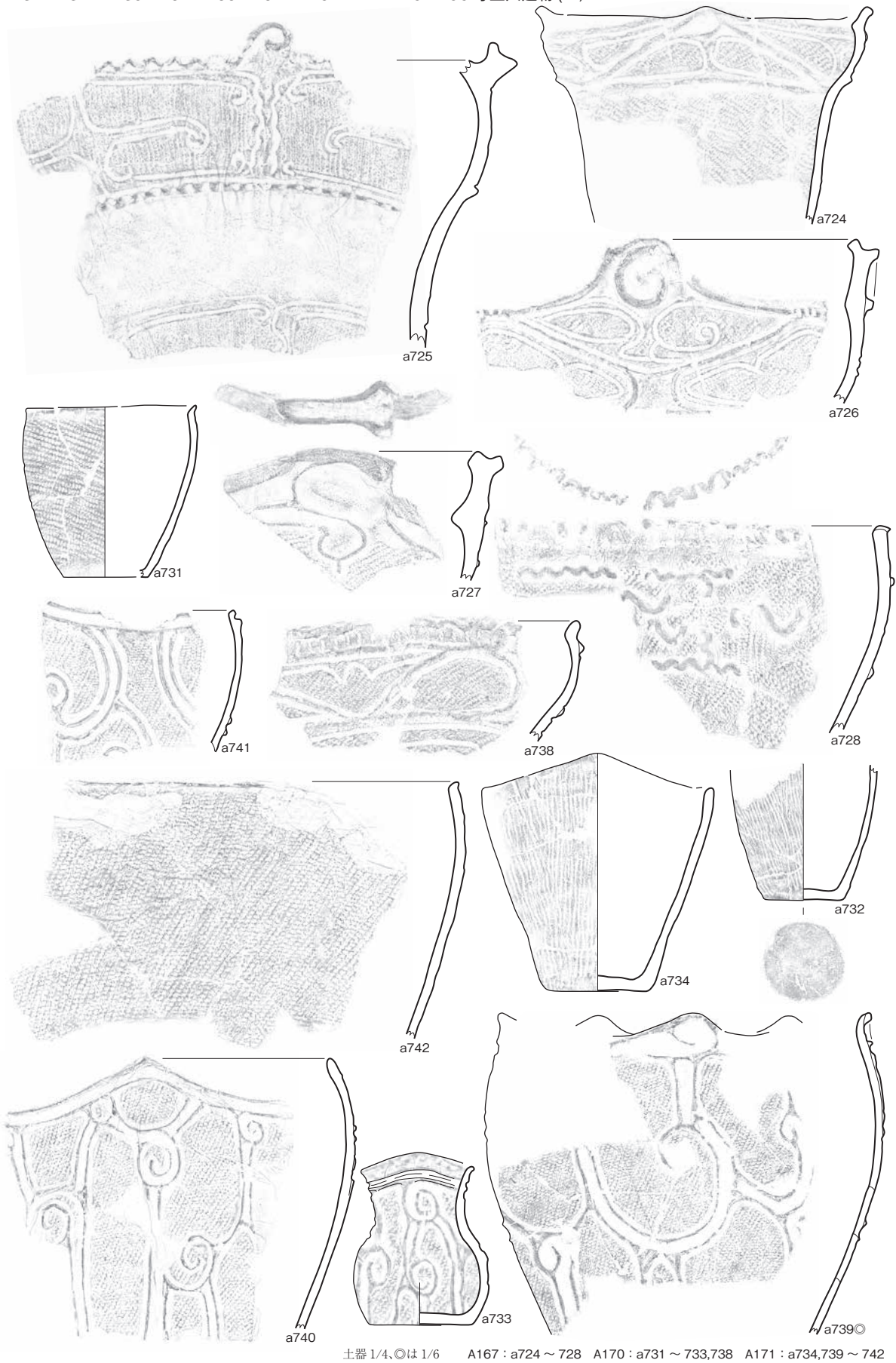
第154図 竪穴建物出土土器集成図(38)

A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竖穴建物（3）



第155図 竖穴建物出土土器集成図（39）

A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竖穴建物(4)



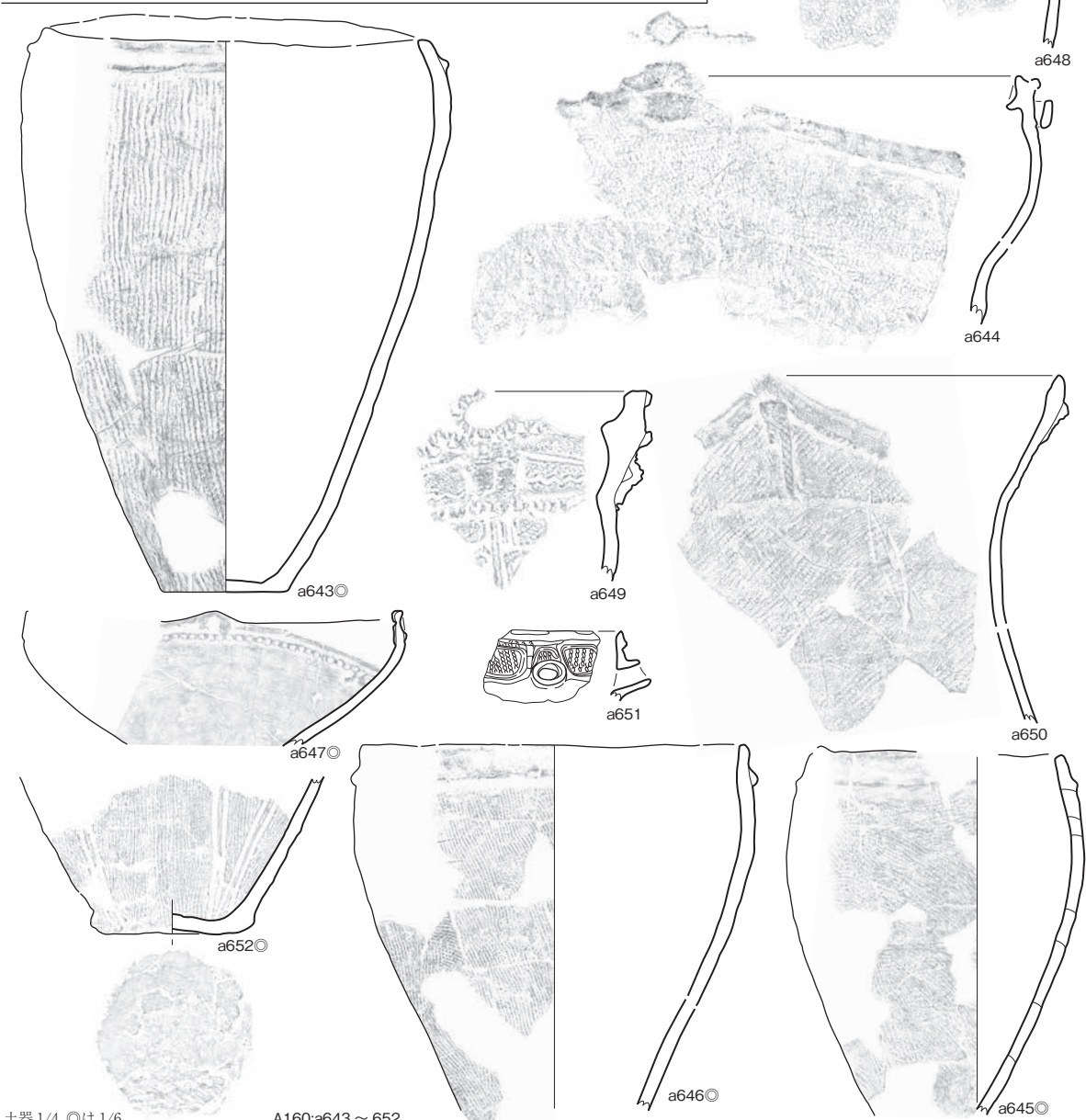
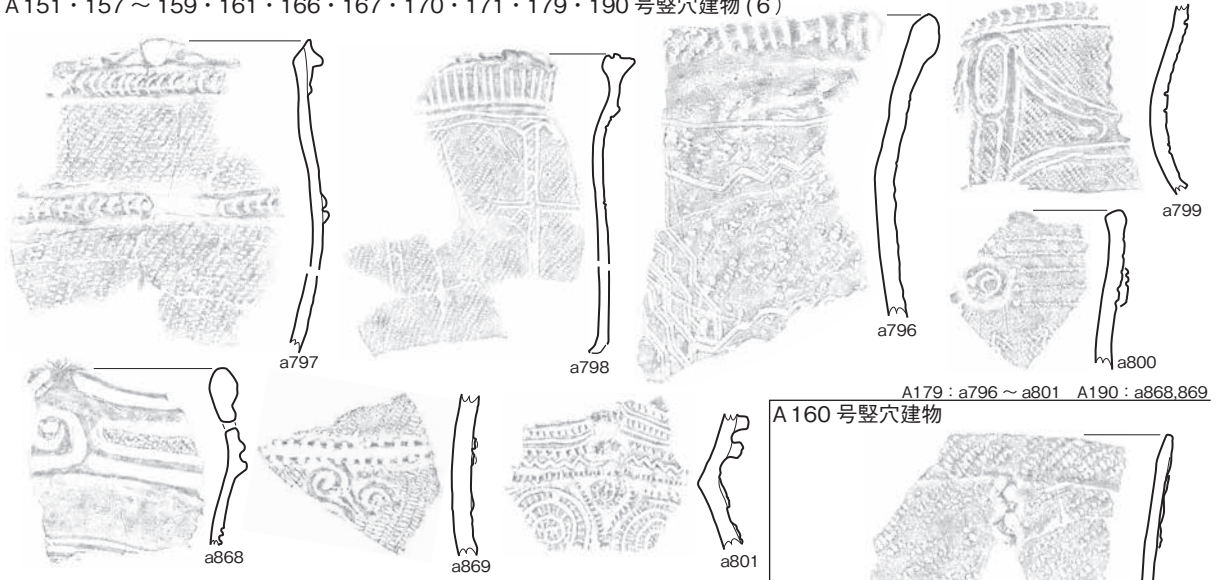
第156図 竖穴建物出土土器集成図(40)

A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竖穴建物(5)



第157図 竖穴建物出土土器集成図(41)

A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号豎穴建物(6)



土器 1/4、◎は 1/6

A160:a643～652

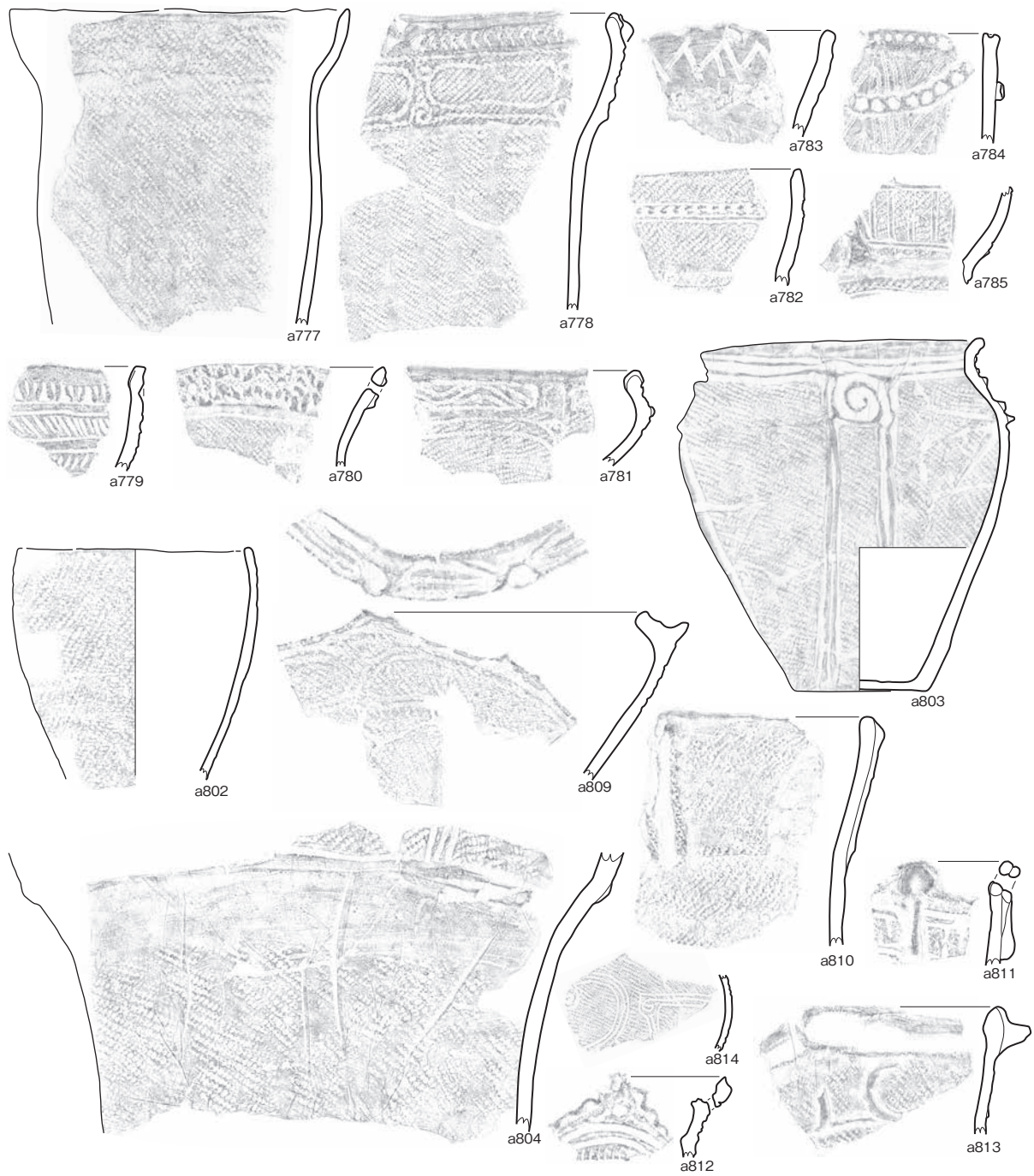
第158図 豎穴建物出土土器集成図(42)

A163・164・170・176・181・183・185号竪穴建物（1） ※A170は第156・157図に掲載



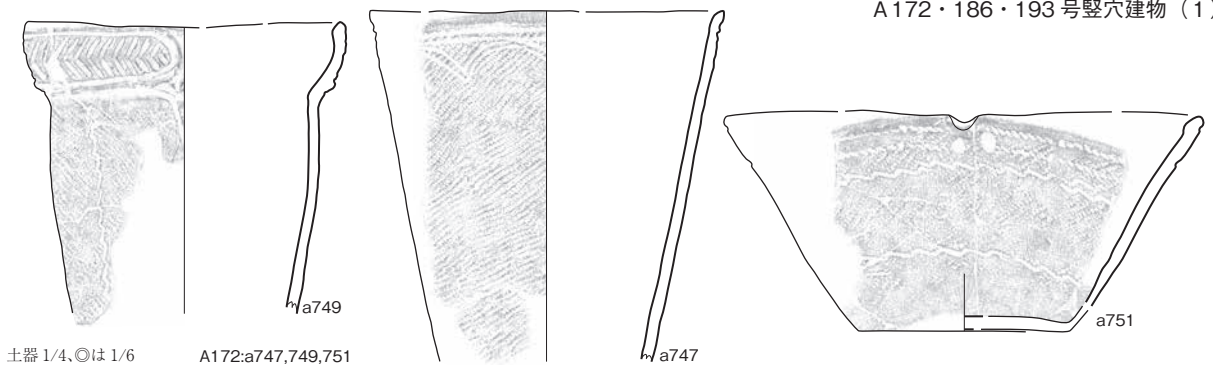
第159図 竪穴建物出土土器集成図（43）

A163・164・170・176・181・183・185号竪穴建物(2)



A176:a777 ~ 785 A181:a802 ~ 804 A183:a809 ~ 812 A185:a813,814

A172・186・193号竪穴建物(1)

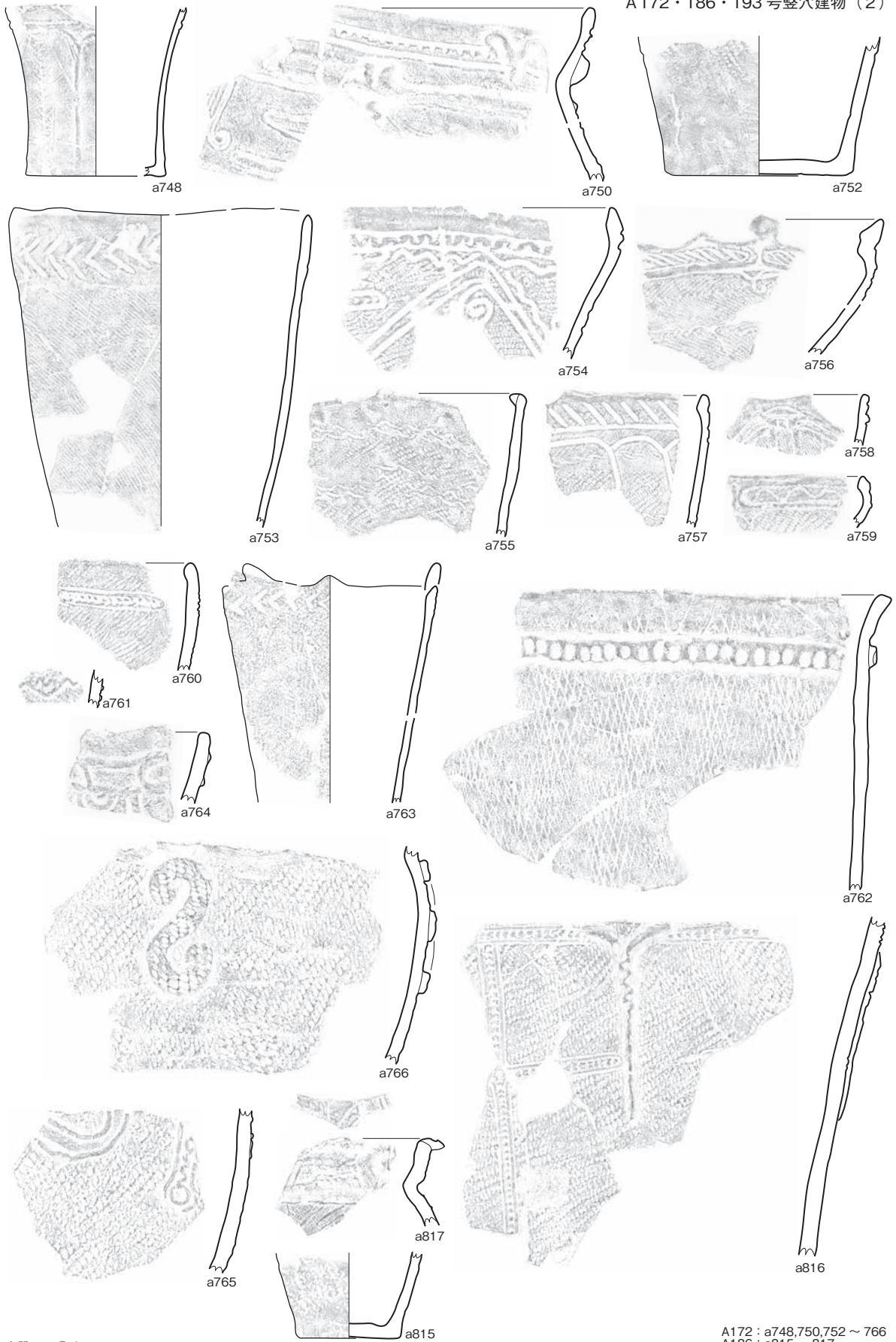


土器 1/4, ◎は 1/6

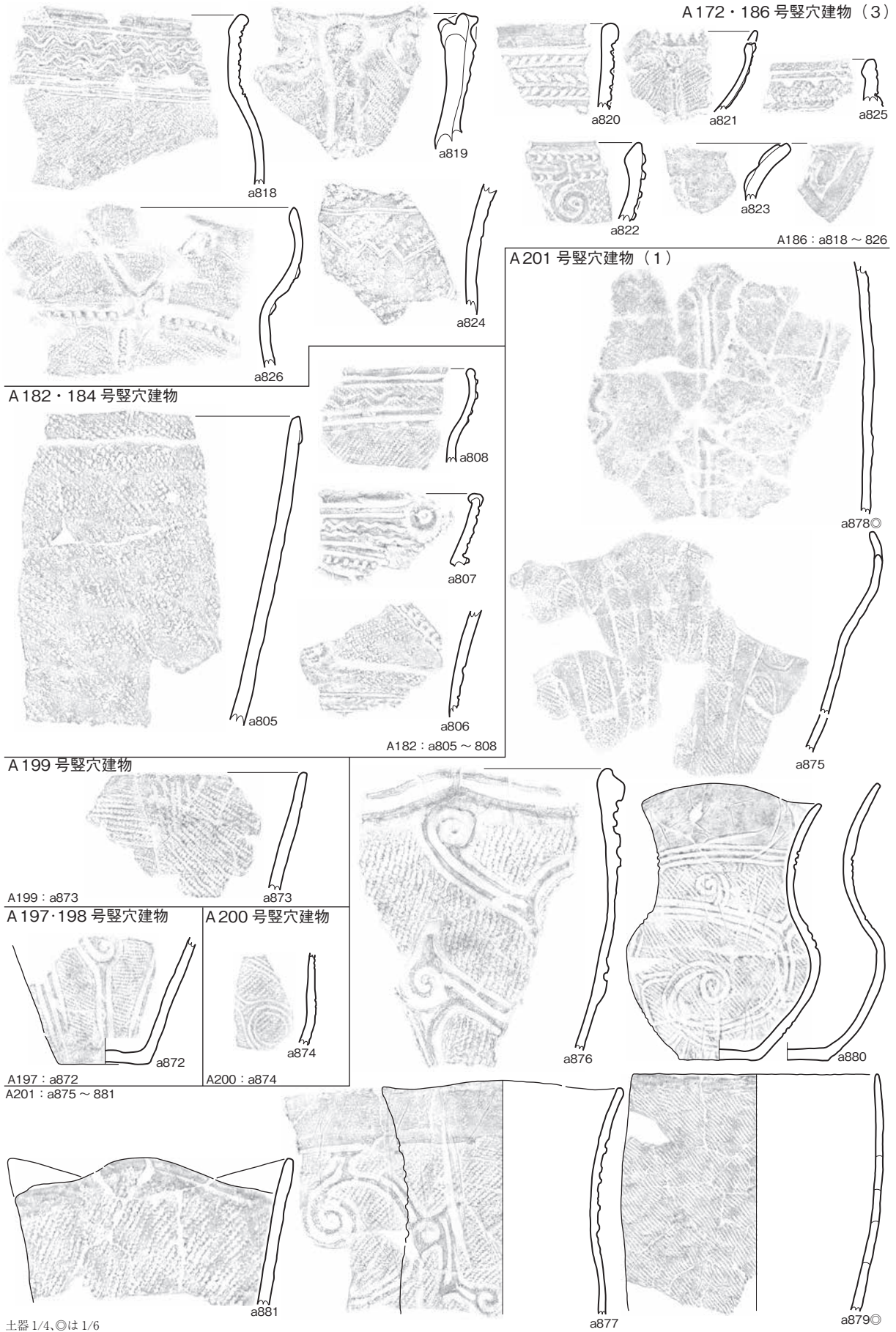
A172:a747,749,751

第160図 竪穴建物出土土器集成図(44)

A172・186・193号竪穴建物（2）



第161図 竪穴建物出土土器集成図（45）

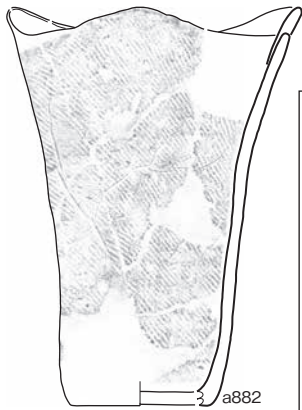


第162図 竖穴建物出土土器集成図(46)

A201 号竖穴建物（2）

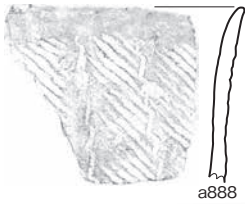


a883◎

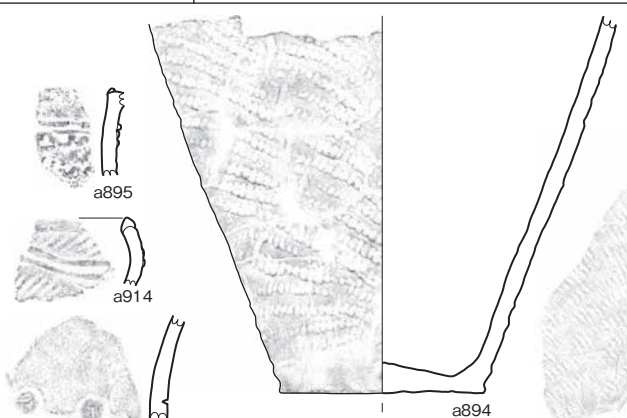


a882

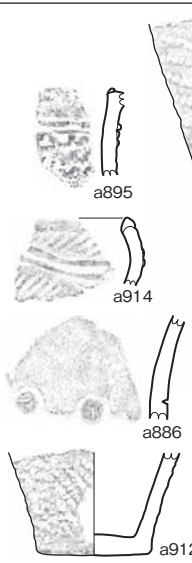
A201 : a882 A201・202 : a883



a888



a894



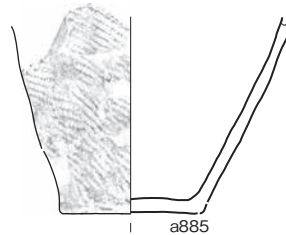
a895

a914

a886

a912

A202 号竖穴建物



a885



a884



A202 : a884,885



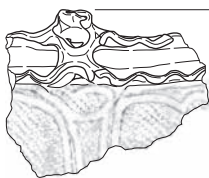
a887◎

A203 : a886,887 A212 : a912
A204 : a888 A215 : a914
A208 : a894,895 A224 : a940



a940

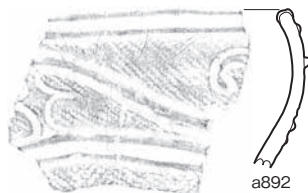
A203 ~ 205・208・212・215・222・224 号竖穴建物
A206・207・211・227 ~ 230 号竖穴建物（1）



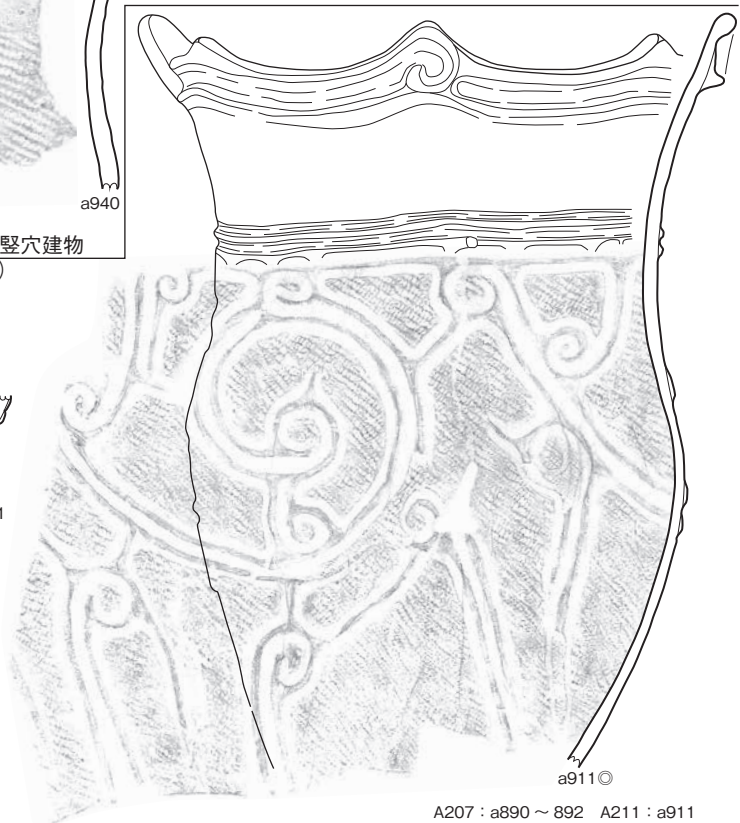
a890



a891



a892



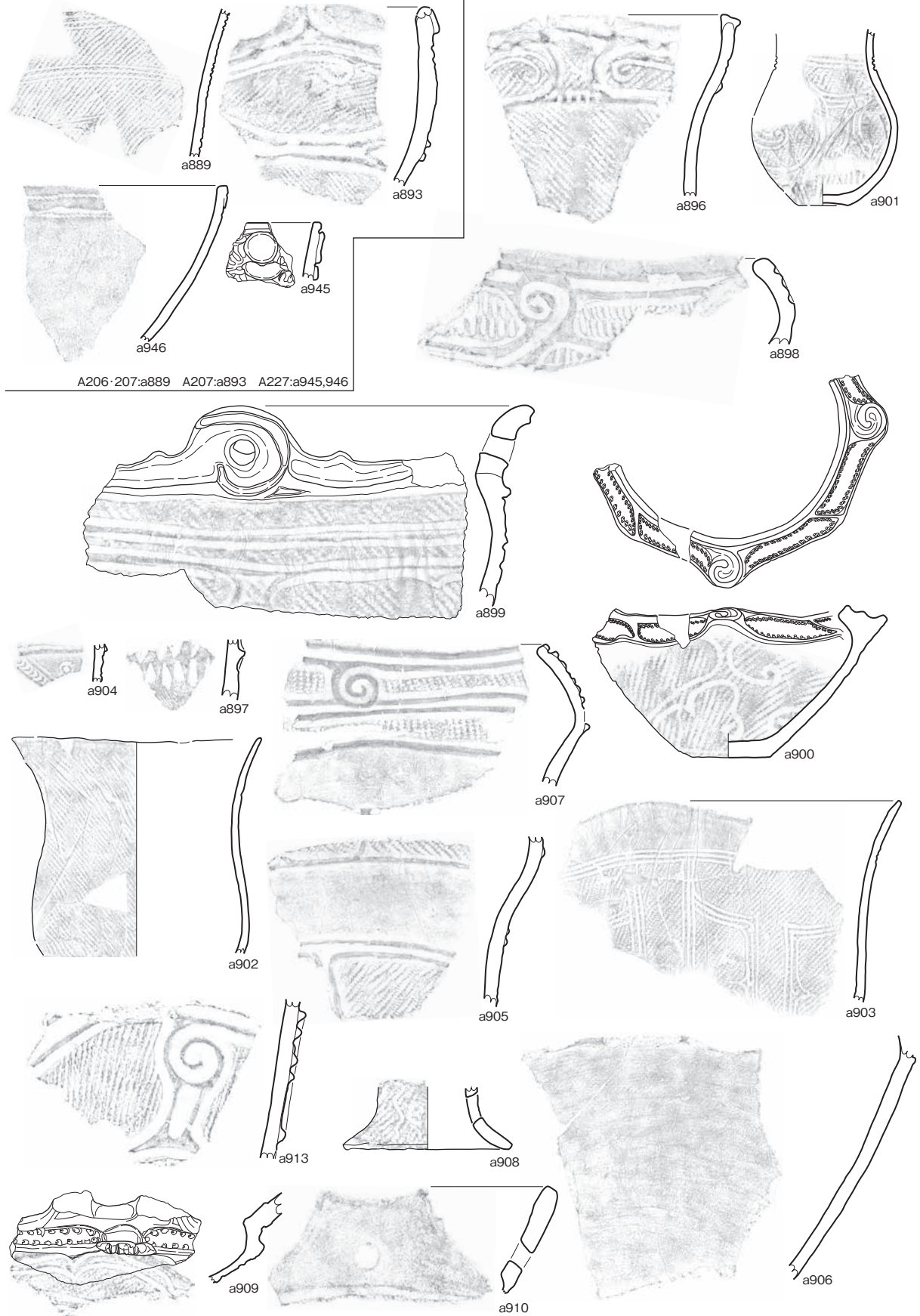
a911◎

A207 : a890 ~ 892 A211 : a911

土器 1/4、◎は 1/6

A206・207・211・227～230号竪穴建物(2)

A209・210・213・214号竪穴建物



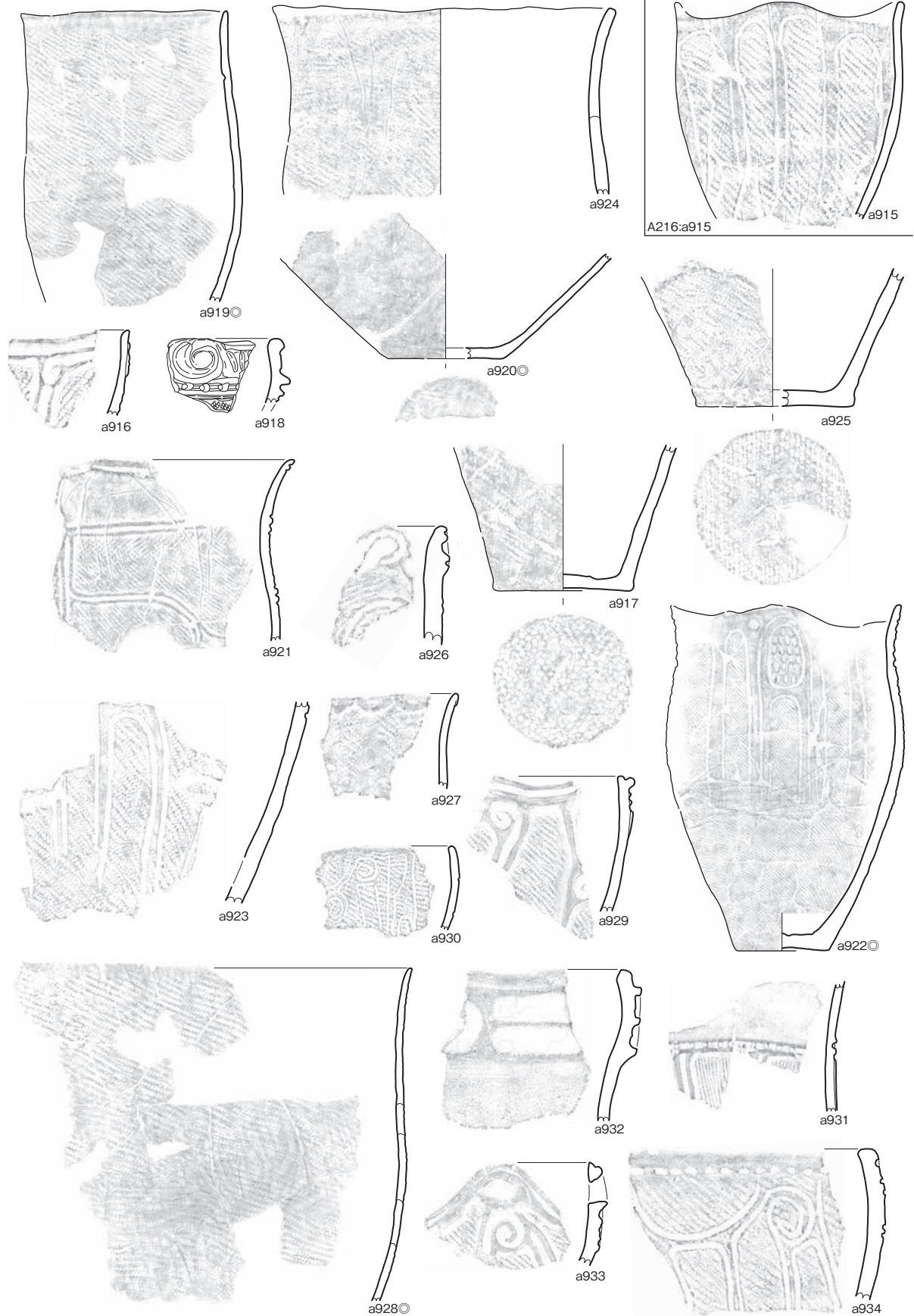
A206-207:a889 A207:a893 A227:a945,946

土器 1/4, ◎は 1/6 A209:a896~900 A209-213:a901 A209-210-213:a902 A210-213:a903 A210:a904~906・908~910 A213:a907 A214:a913

第164図 竪穴建物出土土器集成図(48)

A218 ~ 221・223・226号竖穴建物（1）

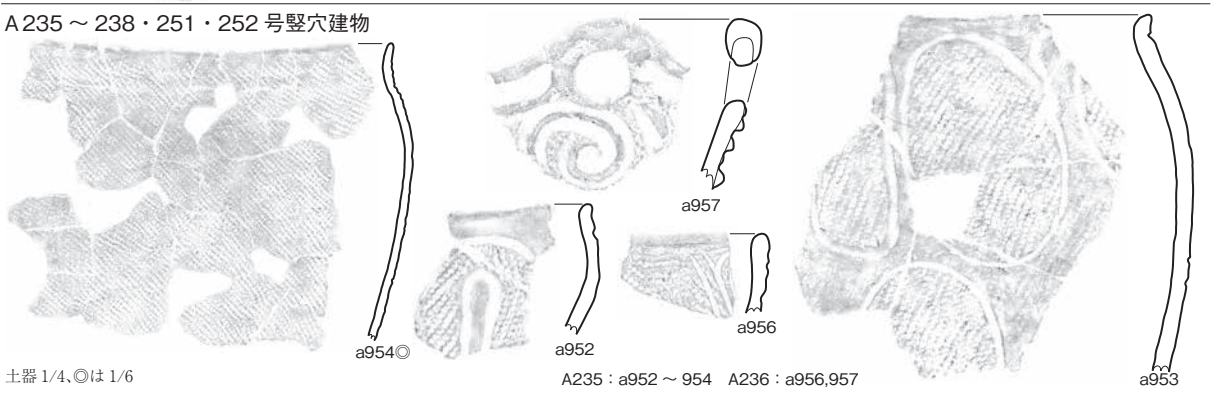
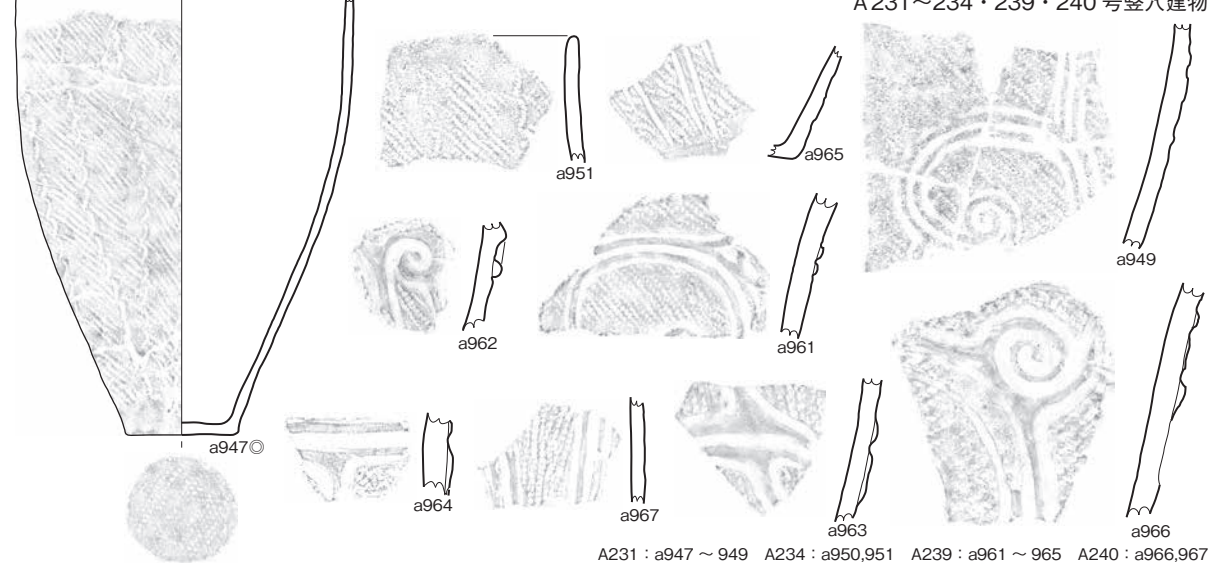
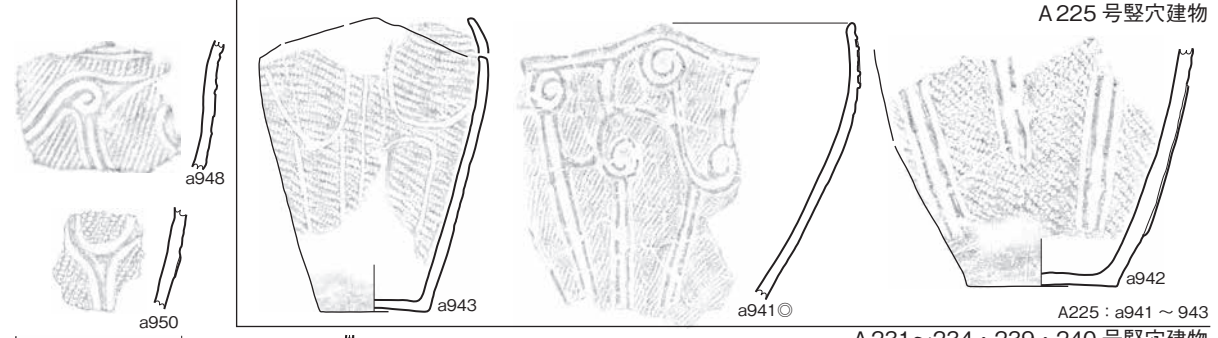
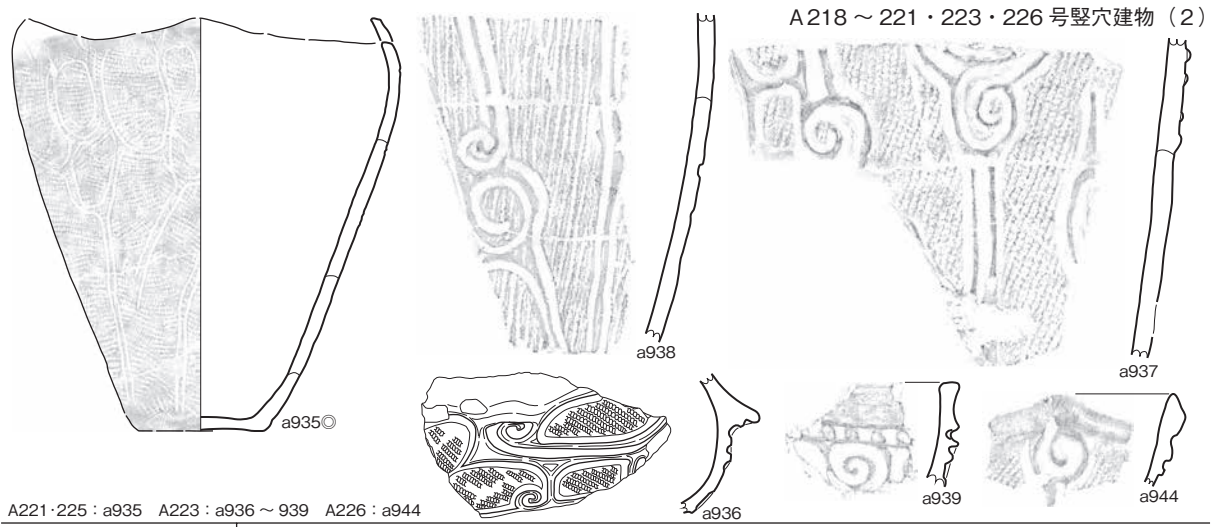
A216号竖穴建物



土器 1/4, ○は 1/6

A218 : a916 A219 : a917 A220 : a919 ~ 927 A221 : a918,929,930,934 A220・221 : a928

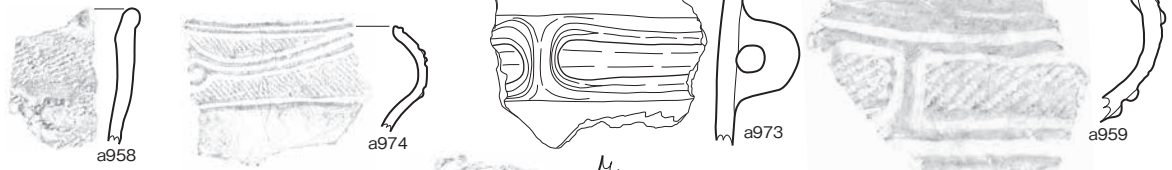
第 165 図 竖穴建物出土土器集成図 (49)



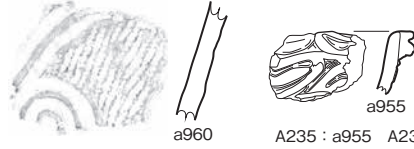
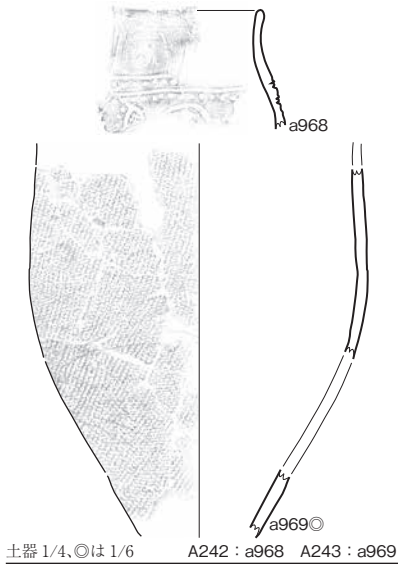
第166図 豎穴建物出土土器集成図 (50)

2 竪穴建物（縄文時代）

A 235 ~ 238・251・252 号竪穴建物（2）

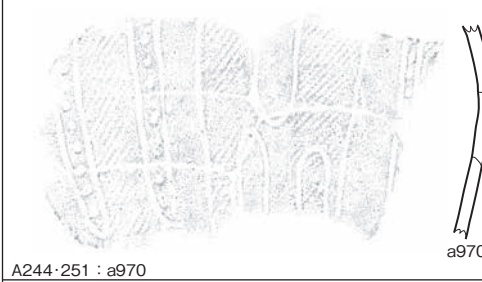


A 242・243 号竪穴建物



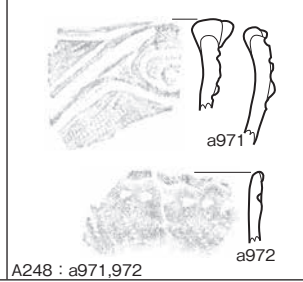
A235 : a955 A237 : a958 ~ 960 A252 : a973,974

A 244 ~ 247 号竪穴建物



A244・251 : a970

A 248 ~ 250 号竪穴建物



A248 : a971,972

第 167 図 竪穴建物出土土器集成図 (51)

第 5 表 竪穴建物（古代）一覧

遺構名	グリッド	平面形	規模 (m)			主軸方位	カマド					床面施設		
			長軸	短軸	深さ		構築材	位置	煙道傾	ピット	刳抜	壁溝	貯蔵穴	炉
B1 号竪穴建物	I B18l	方形	(3.50)	(1.25)	0.45	N-90° -W	石	西壁南	B	×	不明	-	-	-
B2 号竪穴建物	I B16m	方形	3.16	3.01	0.27	N-88° -W	石 + 地山土	西壁中央	B	×	○	-	○	-
B3 号竪穴建物	I B23l	方形	4.45	(3.50)	0.95	N-119° -W	石	西壁南	A	×	×	-	-	○
B4 号竪穴建物	I B25n	方形	(6.10)	(1.50)	0.57	N-96° -W	石	西壁中央	A	×	×	○	-	-
B5 号竪穴建物	II B5o	不明	(2.46)	(1.30)	0.37	N-90° -W	石 + 削出し	不明	A ?	不明	不明	-	-	-
B6 号竪穴建物	II B2h	方形	(2.65)	2.60	0.13	N-1° -W	不明	北壁中央	B	×	×	-	-	-
B7 号竪穴建物	II A7w	方形	4.95	(3.30)	0.60	N-107° -W	削出し	西壁中央	B	×	×	○	-	-
B8 号竪穴建物	II A6y	方形	5.00	(2.85)	0.33	N-2° -W	石 + 地山土	北壁東	B	×	×	○	○	-
B9 号竪穴建物	II A7v	方形	5.30	(3.55)	0.20	N-37° -W	1. 不明 2. 石 + 地山土	西壁中央 西壁北	不明 A	不明 不明	○ ×	-	○	-
B10 号竪穴建物	II B11f	方形	4.23	(2.95)	0.13	N-94° -E	不明	北壁東	B	×	不明	-	-	-
B11 号竪穴建物	II B10e	方形	5.92	(4.20)	0.50	N-60° -W	不明	西壁中央	B	○	×	-	-	○
B12 号竪穴建物	II B4c	方形	4.90	(3.05)	0.37	N-52° -W	石	西壁中央	B	不明	不明	○	-	-
B13 号竪穴建物	II B4c	方形	(3.16)	(1.35)	0.27	N-25° -W	-	-	-	-	-	-	-	-
B14 号竪穴建物	II A9y	方形	7.38	(3.46)	0.40	N-97° -W	-	-	-	-	-	○	-	-
B15 号竪穴建物	II B8a	方形	(5.13)	(3.10)	0.35	N-97° -W	-	-	-	-	-	-	-	-
B16 号竪穴建物	II A6x	円形	3.05	(2.00)	0.50	N-40° -W	-	-	-	-	-	-	-	-
B17 号竪穴建物	II A14q	方形	(4.25)	(3.38)	0.50	N-52° -W	石 + 地山土	西壁中央	A	×	不明	-	-	-
B18 号竪穴建物	II A11s	方形	(3.46)	(2.75)	0.47	N-32° -W	不明	西壁北	B	×	不明	-	-	-
B19 号竪穴建物	II A12u	方形	(2.65)	(2.45)	0.40	N-27° -W	-	-	-	-	-	-	-	-
B20 号竪穴建物	II A13t	方形	(3.20)	(2.72)	0.30	N-27° -W	-	-	-	-	-	-	-	-
B21 号竪穴建物	II A12u	方形	(3.78)	(1.87)	0.17	N-27° -W	-	-	-	-	-	-	-	-
B22 号竪穴建物	II A14v	方形	2.76	(1.76)	0.10	N-61° -W	石 + 地山土	西壁中央	B	×	不明	-	-	-
B23 号竪穴建物	I B15l	円形	4.63	(3.20)	0.20	N-26° -E	×	×	×	-	-	-	-	○

※カマド煙道傾欄の「A」は上昇型、「B」は水平型、「C」は下降型を示す。

※カマド刳抜欄の「○」は刳り抜き式、「×」は掘り込み式を示す。

3 竪穴建物（古代）

23軒検出した。検出位置・規模等は第5表の通りである。以下では表中に記載されていない事項を中心に各建物について記す。

B 1号竪穴建物

（第1-168図、第2-244図、写真図版170・457）

Ⅱ層上面に設定したトレンチの断面で現地性焼土を検出したことから、遺構の可能性を考慮し精査を行った。削平が著しく全体形状は不明だが、推測される平面形は隅丸方形で、壁面下部は内弯し、上部は外傾して立ちあがる。床面はⅡ層を平坦に整えることで形成しており、カマド周辺は硬化が著しい。堆積土は黒褐色土を主体とし、3層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として西壁でカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右袖石据え付け穴、煙道外端部である。燃焼部焼土は50×50cmの円形で、被熱深度は約4cmである。焼土上面は床面よりも約4cm低く皿状に凹んでいる。燃焼部焼土の直上には焼骨細片を多量に含む薄い灰層が堆積していた。煙道は西壁から直交方向に約1.4m水平に延び、屈曲してほぼ垂直に立ち上がる。煙道は幅0.3m、深さは1.3m程度である。その他の床面施設は検出されなかった。

遺物は土器が350.9g出土しており、1点を掲載した（b1）。

本遺構は、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。年代は、カマド燃焼部から出土した炭化材の年代測定結果（第Ⅵ章第1節）と出土遺物から平安時代（9世紀前半）と考えられる。

掲載遺物 ()は掲載番号	他遺構との重複関係 (右側が新しい)	備考
土器 (b1)	無し	炭化材年代測定 (第Ⅵ章第1節)
土器 (b2~4)	無し	
土器 (b5・6)、支脚 (h1)、鉄滓 (j18)	◎→2号土坑	西壁外側にテラス状施設、カマド上面に貝層分布 (第Ⅵ章第4節)
土器 (b7~11)、金属 (i1・2)、鉄滓 (j14・15)	無し	鉄滓分析 (第Ⅵ章第8節)
土器 (b12)、羽口 (j1)	無し	カマド付近のみ残存
無し	無し	
土器 (b13・14)、鉄滓 (j16・17)	無し	焼失家屋、炭化材年代測定 (第Ⅵ章第1節)、樹種同定 (第Ⅵ章第3節)
土器 (b15~41)、金属 (i3~9)、羽口 (j2)	A190号竪穴建物→◎	焼失家屋、炭化材年代測定 (第Ⅵ章第1節)、樹種同定 (第Ⅵ章第3節)
土器 (b42~48)、金属 (i10~12)、羽口 (j3・4)	A137・138号竪穴建物→◎→17号焼土	埋設土器×1、炭化材年代測定 (第Ⅵ章第1節)
土器 (b49・50)	132・134・144号土坑→◎	
土器 (b51~59)	A107・117号竪穴建物→◎	
土器 (b60~62)	B13号竪穴建物→◎	
土器 (b63~65)	◎→B12号竪穴建物	
土器 (b66~69)、鉄滓 (j19・20)	B15号竪穴建物、121号土坑→◎	
土器 (b70~72)、金属 (i13)	◎→B14号竪穴建物	
無し	A135・150号竪穴建物、1号鍛冶炉→◎	
土器 (b73・74)	無し	
無し	A212号竪穴建物→◎→11号溝	
鉄滓 (j21・22)	B20・21号竪穴建物→◎→2号切土整地	鉄滓分析 (第Ⅵ章第8節)
金属 (i14)、鉄滓 (j23~25)	◎→B19号竪穴建物、2号切土整地	
無し	A217号竪穴建物→◎→B19号竪穴建物	
無し	無し	カマド燃焼部掘り方内に礫敷
土器 (b75・76)	無し	竪穴内中央に掘り込み、竪穴外に現地性焼土

※掲載遺物は縄文土器等は除き古代に帰属するもののみ記載

B 2号竪穴建物（第 1-168 図、第 2-244 図、写真図版 171・457）

Ⅱ層の暗褐色土中で黒褐色の方形プランとして検出した。平面形は隅丸方形で、壁面はやや外傾しつつ直線的に立ち上がる。底面全面には竪穴本体を掘削した際の鋤先痕とみられる凹部が斑状に広がり、ここに黒色土を敷き均して床面を構築している。床面はほぼ平坦で、弱い硬化が認められる。堆積土は黒色土を主体とし、2層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として西壁中央でカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右袖土下部、左右袖石、天井石、支脚、煙道、煙出しである。燃焼部焼土は35×30cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。焼土上面は床面より約3cm低く皿状に凹む。焚口からみて左奥に相当する現地性焼土西端部には支脚の可能性がある長さ15cmほどの礫が据えられていた。煙道は、西壁から直交方向に約1.1m水平に伸びたところで屈曲し外傾して50cm程度立ち上がり煙出しへと連続する。煙道の幅は1.2m、深さは0.23m程度である。その他の床面施設として柱穴と土坑を計5個検出した。このうちカマド北側に位置するP 05は貯蔵穴と考えられる。南東隅が調査区外の為断定はできないが、P 01・02・03を使用した4本柱の可能性も考えられる。

遺物は土器が2,948.9g出土しており、3点を掲載した（b 2～4）。

本遺構は、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀前半）と考えられる。

B 3号竪穴建物

（第 1-169 図、第 2-244・380 図、写真図版 172・173・458・529・531）

Ⅱ層の暗褐色土中で黒褐色の方形プランとして検出した。削平の影響により全体形は不明だが、推定される平面形は隅丸方形で、壁面は大きく外傾しながら立ち上がる。床面はⅡ層を平坦に整えており、全体に硬化が認められる。堆積土は黒褐色土を主体とし、床面構築土を含めて8層に分層した。このうち5層下端と6層下端で硬化が認められたことから、本遺構では床面の造り替えが行われており、6層下端を古段階の床面、5層下端を新段階の床面としていたと考えられる。堆積の様相は自然堆積で、5層上位では貝片の集中が認められた。

床面施設として西壁南寄りでカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右袖石、天井石、土製支脚、煙道である。燃焼部焼土は45×35cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。焼土上面は床面より3cmほど低く浅皿状に凹む。焚口正面奥に相当する燃焼部焼土西端部には円柱状の土製支脚が直立した状態で出土した。煙道は西壁から直交方向に約1m上り勾配で延び、後述の張出部底面に至る。煙道幅は0.45mである。その他の床面施設として床面中央部で地床炉を1基検出した。燃焼部焼土は46×34cmの楕円形で、被熱深度は4cm程度である。本遺構については周辺の堆積土から鉄滓（精練滓）が出土していることから、鍛冶炉の可能性を考えておきたい。また、西壁外側の位置で幅約1mのテラス状の範囲を検出した。この範囲の床面は竪穴本体の床面よりも約0.45m高く、平坦に整い弱く硬化している。竪穴本体から延びるカマド煙道がテラス状遺構床面のピットに連続している可能性がある。

遺物は土器が1,055.5g出土しており、2点を掲載した（b 5・6）。この他、支脚が850.2g、鉄生産関連遺物が99.8g出土しており、支脚1点と鉄滓1点を掲載した（h 1、j 18）。また、動物遺存体として5層上位で検出された貝類は、アサリを主体としてイソシジミ類を伴うという分析結果を得ている（第Ⅵ章第4節）。

本遺構はカマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物であるが、鍛冶炉と考えら

れる地床炉も検出されていることから、建物内で鍛冶作業も行っていたと考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀代）と考えられる。

B 4号竪穴建物

（第1-170図、第2-244・245・388図、写真図版174・458・529・530）

Ⅱa層下位で黒褐色の長方形プランとして検出した。斜面上方である西壁の一部が残存するのみで、全体形は不明である。平面形は方形又は長方形で、壁面はやや外傾しつつ直線的に立ち上がる。床面はⅡ～Ⅲ層を平坦に整えており、カマド周辺から床面中央部にかけて硬化が著しい。堆積土は黒褐色土が主体で、5層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として西壁でカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右袖石、天井石、土製支脚、煙道である。燃焼部焼土は50×42cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。焼土上面は床面より2cm程低く浅皿状に凹んでいた。焚口からみて左奥に相当する燃焼部焼土西南端には円柱状の土製支脚（長さ20cm・径10cm程）が直立した状態で残存していた。ただし、この支脚は2次被熱が著しく脆弱で、取上げの際に崩壊した。また、焚口付近の床面から精練滓（2類）に属する椀形滓が出土している。煙道は西壁から直交方向に上り勾配で約1.2m延びるところまで確認できたが、煙出しを検出できずその先が不明となっている。その他の床面施設として西壁直下で壁溝を1本検出した。壁溝は幅12cm、深さ4cmである。

遺物は土器が3,107.4g出土しており、5点を掲載した（b7～11）。この他、金属製品数点と鉄生産関連遺物1,901.4gが出土しており、刀子2点と鉄滓2点を掲載した（i1・2、j14・15）。なお、鉄滓のうちj15は分析の結果、製錬滓と推定される（第Ⅵ章第8節）。

本遺構はカマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物であるが、カマド周辺から鉄滓が出土していることから、炉は検出されていないが建物内で鍛冶作業も行っていた可能性がある。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀代）と考えられる。

B 5号竪穴建物

（第1-171図、第2-245・389図、写真図版175・458・529・530）

尾根部端急斜面部でカマド構築材とみられる角礫の集中を確認したことから、竪穴建物の一部である可能性を考慮し検出を行った。東側が後年の削平により失われており、全体形は不明である。残存する壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面で部分的に硬化面が認められたが、多くの部分において根攪乱の影響を受けている。堆積土は黒褐色土を主体とし、堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として西壁でカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右袖石、土製支脚である。燃焼部焼土は50×46cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。焼土上面は床面よりも約4cm低く皿状に凹んでいる。焚口からみて奥側に相当する燃焼部焼土西端には円柱状の土製支脚（長さ不明・径8cm程）が直立した状態で残存していた。ただし、この支脚は2次被熱が著しく取上げ時に崩壊してしまった。また支脚の基部を覆うように土師器小形甕が倒立した状態で出土した。

遺物は土器が471.1g出土しており、1点掲載した（b12）。この他、鉄生産関連遺物が579.6g出土しており、羽口1点を掲載した（j1）。

本遺構は全体形は不明であるが、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物は乏しいが、年代は平安時代（9世紀代）と考えられる。

（村上・村田）

B 6号竪穴建物

（第 1-171 図、写真図版 176）

尾根頂部のⅣ a 層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。西側は木根により壊されており、全体形は不明である。平面形は方形で、残存する壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ a 層を平坦に整え、部分的にぶい黄橙色土を充填して構築されているが、硬化範囲は確認できない。堆積土は煙道内のものも含めて 8 層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として北壁中央付近でカマド 1 基を検出した。残存部位は、煙道のみである。煙道は北壁から直交方向に約 0.75 m 水平に延びたところでオーバーハングしながら立ち上がる。煙道の幅は 0.25 m、深さは 0.15 m である。

遺物は古代の土器が 336.9 g 出土しているが、細片の為図示していない。

本遺構は、カマドを有することから住居として使用された竪穴建物と考えられる。竪穴の形態から古代に属すると考えられるが、出土遺物が乏しいため詳細な年代は不明である。

（酒井・村田）

B 7号竪穴建物

（第 1-172 図、第 2-245・268・306・335 図、写真図版 177・178・458・529・530）

Ⅱ層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平により失われているが、平面形は隅丸方形と考えられ、壁面はやや外傾して立ち上がる。床面は、Ⅱ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、6 層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。焼失家屋であり、床面北西側では炭化材と焼土が残存し、直上の堆積層にも小型の炭と焼土ブロックを多量に含む。カマド南側の壁面付近では羽口の破片が 4 個体分出土したが、非常に脆く遺物として実測することができなかった。なお、床面直上で出土した炭化材 4 点（炭 1～4）について樹種同定を行ったところ、いずれもコナラ節であるとの分析結果を得ている（第Ⅵ章第 3 節）。

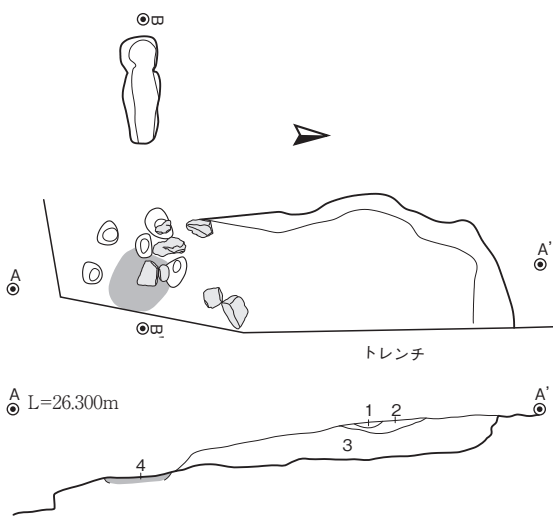
床面施設として西壁中央でカマド 1 基を検出したが、土砂の斜面上方からの流れ込みによる上部の消失や根攪乱により遺存状況は悪い。残存部位は、燃焼部焼土、左袖基底部付近、煙道、煙出しである。燃焼部焼土は 48 × 48cm の円形で、被熱深度は約 8 cm である。煙道は途中で攪乱されているが、煙道は西壁から直交方向に約 1.4 m 水平に延びて煙出しへと至る。煙道の幅は約 0.4 m、深さは約 0.45 m である。なお、煙出しには大礫が 4 個入れられており、廃絶時に煙出しを塞いだ可能性が考えられる。その他の床面施設として床面北東隅で柱穴 1 個、東壁～北壁東側で壁溝を 1 条検出した。壁溝は長さ 5.2 m、幅 15cm、深さ 10cm で、堆積土は竪穴内と同じく黒褐色土が主体である。

遺物は土器が縄文土器 12,806.6 g 出土しているが、大半が斜面上方から流れ込んだ縄文土器であり（a 1444～1446 等）、古代の土器は 2 点掲載できたのみである（b 13・14）。この他、古代の遺物として鉄生産関連遺物が 3,277.5 g 出土しており、鉄滓 2 点を掲載した（j 16・17）。また、縄文時代の遺物として石器 3 点を掲載した（c 286・1108・1246）。

本遺構はカマドを有することから住居として使用された竪穴建物であるが、鉄生産関連遺物が多量に出土していることから、炉は検出されていないが建物内で鍛冶作業も行っていた可能性がある。年代は、カマド燃焼部から出土した炭化材の年代測定結果（第Ⅵ章第 1 節）と出土遺物から平安時代（9 世紀前半）と考えられる。

（高橋・村田）

B 1号竪穴建物

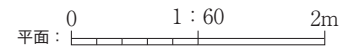
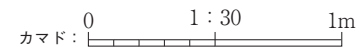


B 1号竪穴建物 (A-A')

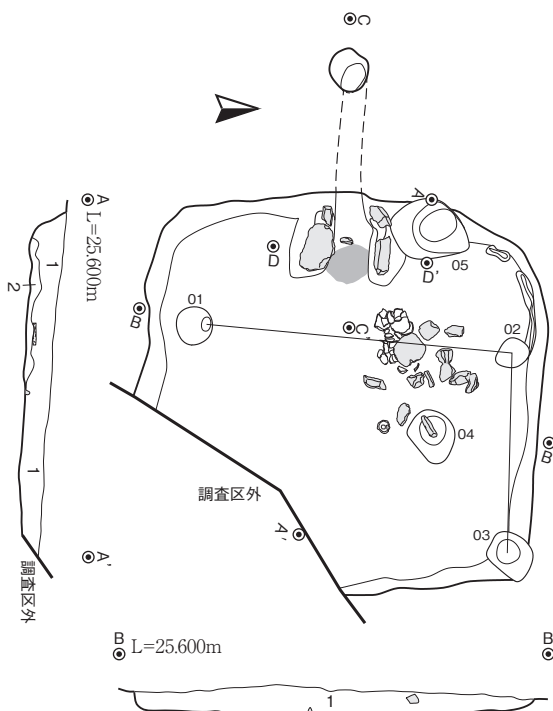
1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強 炭粒極微量 攪乱か
2. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルトブロック層 赤色小ブロック (焼土?) 少量 攪乱か
3. 10YR2/2 黒褐色シルト しまりやや密、粘性やや強
4. 7.5YR4/6 褐色粘土質シルト 焼土 焼骨細片多く含む

カマド (B-B')

1. 10YR2/1 黒褐色シルト しまり弱 燃焼部付近は炭化物含み黒い
2. 7.5YR4/3 ~ 4/4 褐色粘質シルト しまりやや密、粘性やや強 焼骨細片多量
3. 5YR5/8 明赤褐色 ~ 4/8 赤褐色粘質シルト 焼土 しまり密、粘性やや強 地山の変色層



B 2号竪穴建物



B 2号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1. 10YR2/1 黒色シルト しまりやや密 真砂粒極微量
2. 10YR3/1 ~ 2/2 黒褐色シルト 地山黄褐色土及び暗褐色土塊やや多量

カマド (C-C'・D-D')

1. 10YR2/2 ~ 2/3 黒褐色シルト しまりやや密 真砂土微量、地山黄褐色土ブロック少量 崩落により流入した自然堆積層
2. 7.5YR5/8 明褐色 ~ 4/6 褐色シルト しまりやや疎 煙道天井部である地山黄褐色土の崩落層
3. 10YR2/1 黒色 ~ 2/2 黒褐色シルト しまり疎 煙道内部への流入土
4. 7.5YR5/8 明褐色 ~ 4/6 褐色シルト 5層と性質が類似
5. 10YR3/4 暗褐色シルトブロック しまりやや疎 地山黄褐色土ブロック多量 カマド天井崩落層
6. 10YR3/3 ~ 3/4 暗褐色シルト しまり疎、粘性やや弱
7. 10YR2/1 黒褐色 ~ 2/2 暗褐色シルト しまり密、粘性やや強 下面に炭小片 焼土粒やや多い
8. 10YR4/4 褐色 ~ 3/4 暗褐色粘質シルト しまり密 炭粒極微量、真砂粒微量
9. 10YR2/3 黒褐色シルト しまり強 上面硬化著しい 床面構築土

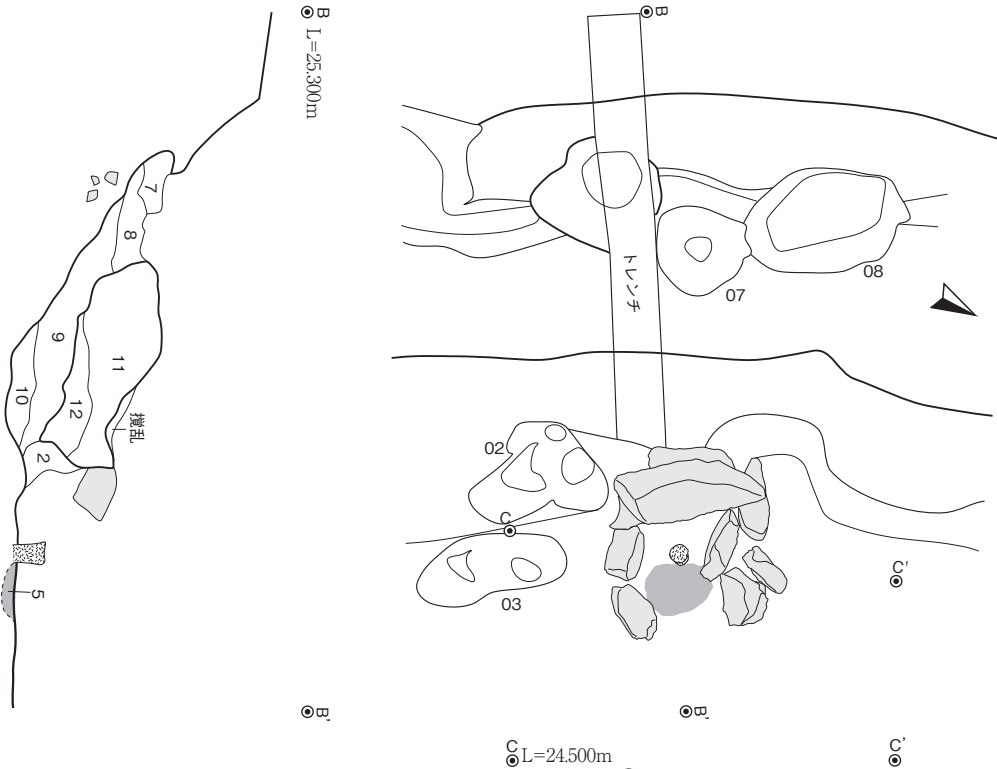
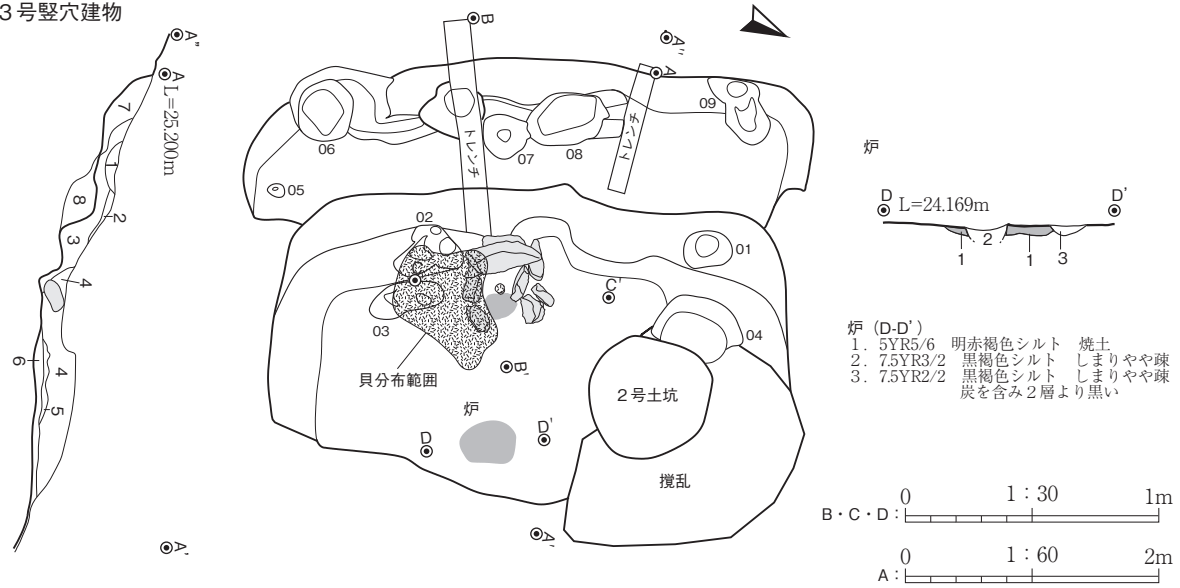
B2号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	35.6
P02	-
P03	39.6
P04	10.6
P05	48.2

第 168 図 B 1・2号竪穴建物

3 竖穴建物（古代）

B 3号竖穴建物



B 3号竖穴建物 (A-A')

1. 10YR2/2 黒褐色シルト しまりやや密、粘性やや強
2. 10YR2/2 ~ 2/3 黒褐色シルト
3. 10YR3/3 ~ 3/4 暗褐色粘質シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土極微量 壁面崩落土の再堆積か
4. 10YR2/2 黒褐色シルト 真砂土含まない
5. 10YR2/3 黒褐色シルト しまりやや疎、粘性やや弱 褐色砂全体に含み砂質
6. 10YR3/3 暗褐色 ~ 2/3 黒褐色シルト しまりやや密 炭微量 上下面に硬化面 初期床面の直上層か
7. 10YR4/4 褐色 ~ 3/4 暗褐色シルト 真砂土粒・花崗岩細片少量 地山褐色土に類似する再堆積層
8. 10YR3/4 暗褐色シルト しまりやや密 黒色土ブロック少量 上段張出部底面の構築土

カマド (B-B'・C-C')

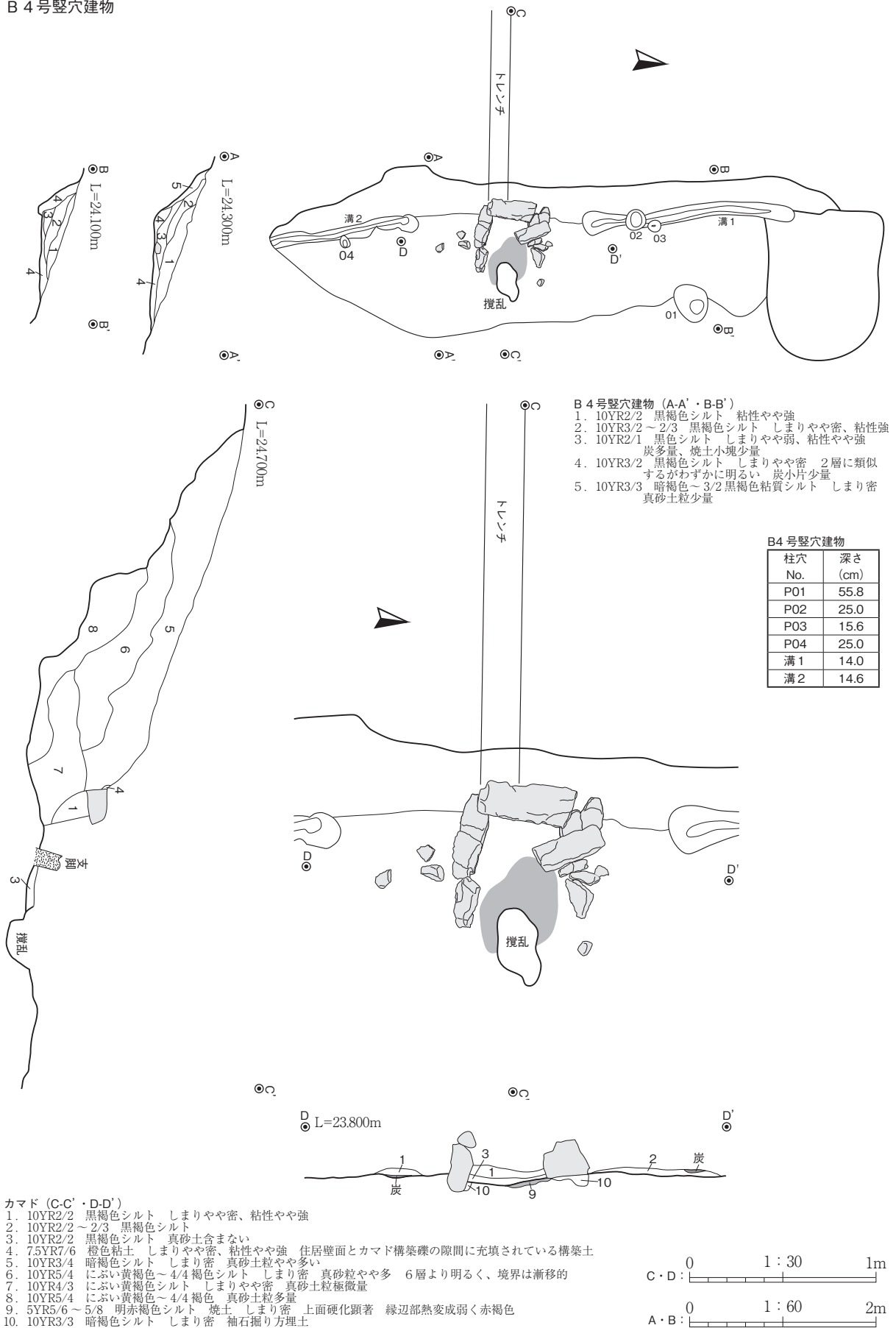
1. 10YR4/4 褐色 ~ 7.5YR4/4 褐色シルト しまり疎 地山黄褐色土及び赤変ブロックの混合層 袖部天井崩落土
2. 10YR3/3 ~ 2/3 黒褐色シルト しまりやや密、粘性やや強
3. 7.5YR2/3 極暗褐色シルト しまりやや疎 焼土を含み全体に赤みがかかる
4. 10YR3/3 ~ 3/4 暗褐色シルト しまりやや疎 黄褐色土ブロック微量 天井崩落土か
5. 5YR4/8 赤褐 ~ 4/4 に近い赤褐色シルト 燃焼部焼土 上面が燃焼面で硬化 縁部は熱変成弱い
6. 10YR3/3 暗褐色シルト しまりやや密 褐色土ブロック少量 袖石掘り方理土
7. 10YR3/2 黒褐色シルト しまりやや密 黒味強い
8. 10YR4/4 褐色 ~ 3/4 暗褐色シルト しまりやや密 真砂土微量
9. 10YR4/4 ~ 4/6 褐色シルト しまりやや疎 真砂土少量 崩落流入土層か
10. 10YR4/3 に近い黄褐色 ~ 4/4 褐色シルト しまりやや疎 9層よりやや色調暗い
11. 10YR3/3 ~ 3/4 暗褐色シルト 地山黄褐色土ブロック微量 黄味 テラス状の段の底面をつくる人為層か
12. 10YR4/3 に近い黄褐色シルト しまりやや密 真砂土微量

B3号竖穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	27.2
P02	43.0
P03	23.8
P04	25.2
P05	18.0
P06	25.0
P07	37.2
P08	28.8
P09	31.6

第 169 図 B 3号竖穴建物

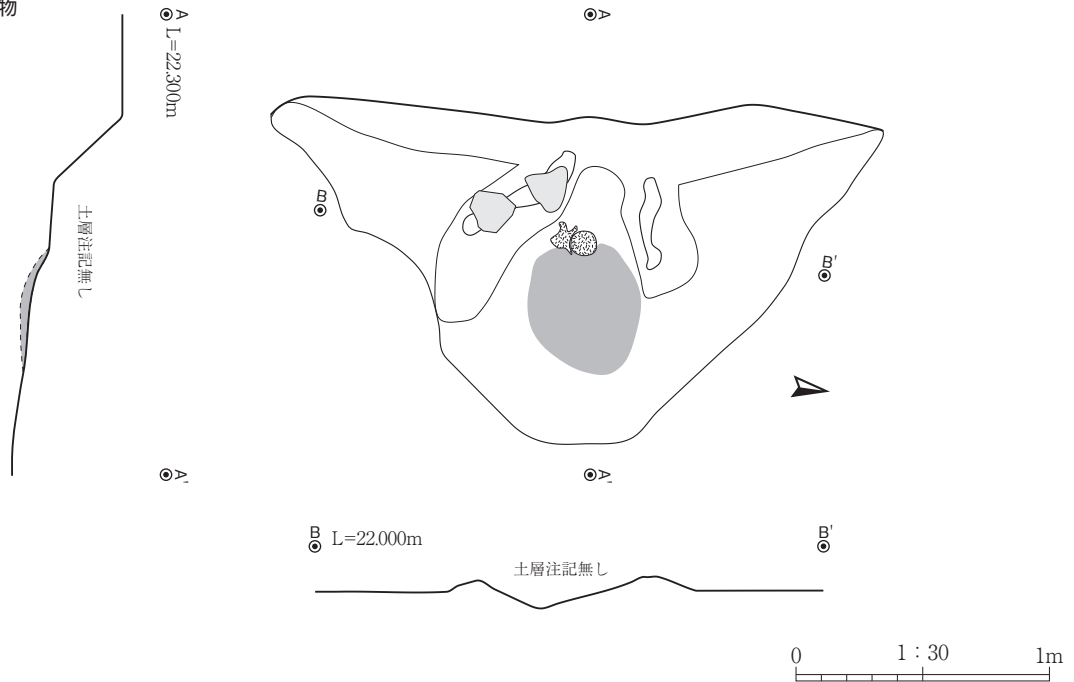
B 4 号竪穴建物



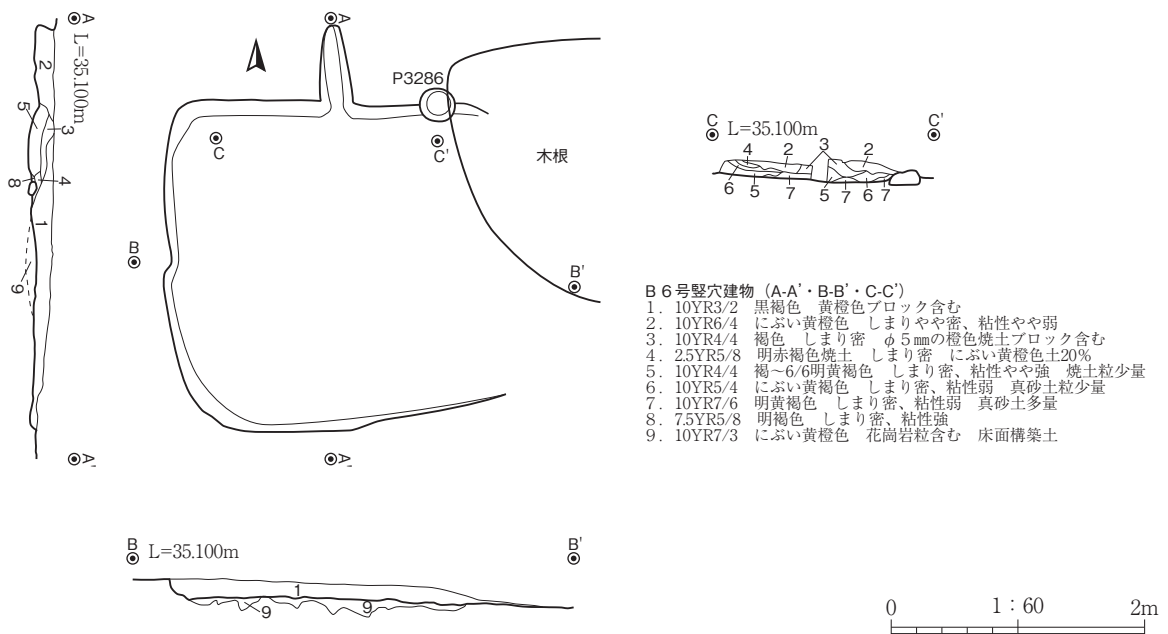
第 170 図 B 4 号竪穴建物

3 竖穴建物（古代）

B 5号竖穴建物



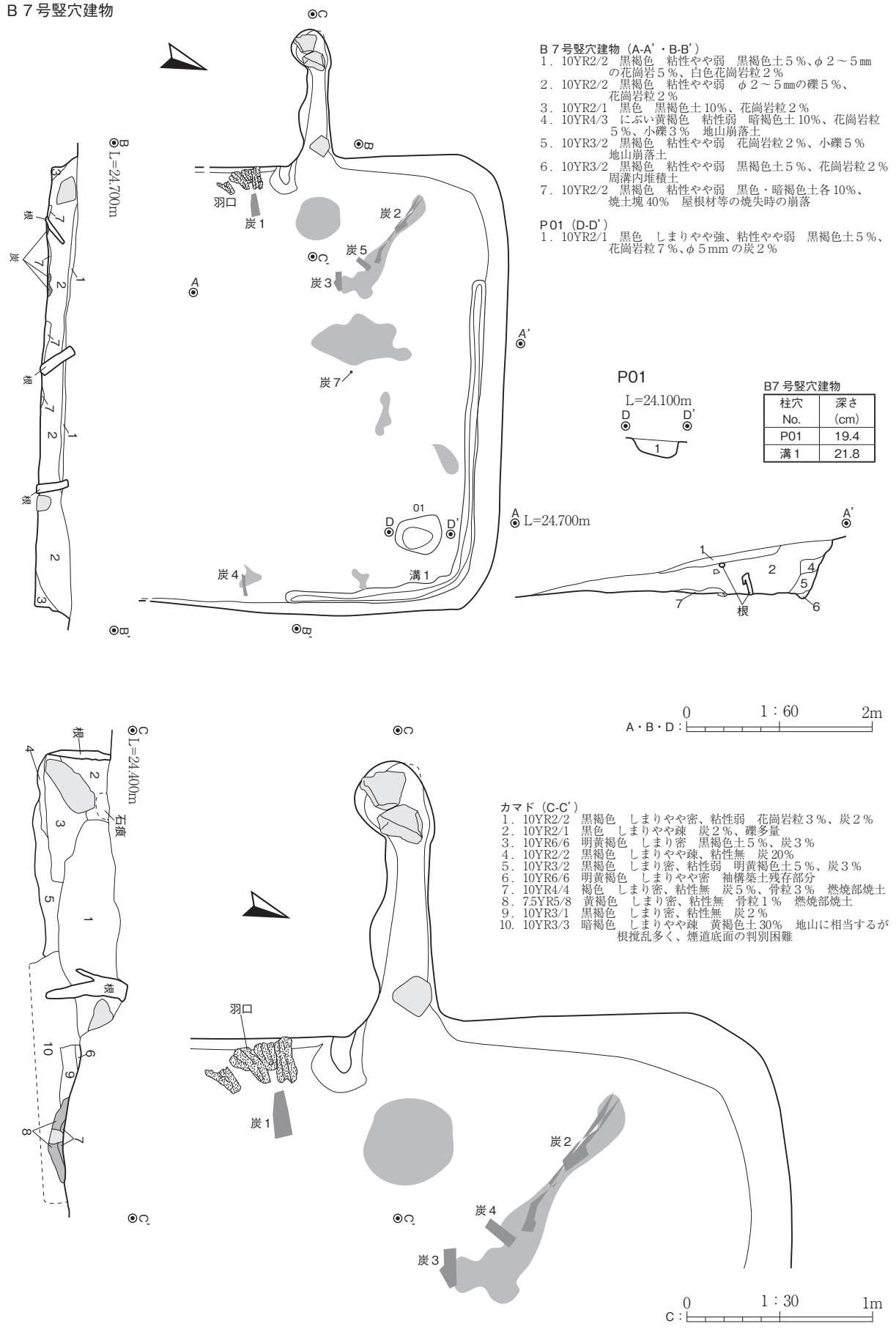
B 6号竖穴建物



- B 6号竖穴建物 (A-A'・B-B'・C-C')
1. 10YR3/2 黒褐色 黄橙色ブロック含む
 2. 10YR6/4 にぶい黄橙色 しまりやや密、粘性やや弱
 3. 10YR4/4 褐色 しまり密 φ5mmの橙色焼土ブロック含む
 4. 2.5YR5/8 明赤褐色焼土 しまり密 にぶい黄橙色土20%
 5. 10YR4/4 褐~6/6明黄褐色 しまり密、粘性やや強 焼土粒少量
 6. 10YR5/4 にぶい黄褐色 しまり密、粘性弱 真砂土粒少量
 7. 10YR7/6 明黄褐色 しまり密、粘性弱 真砂土多量
 8. 7.5YR5/8 明褐色 しまり密、粘性強
 9. 10YR7/3 にぶい黄褐色 花崗岩粒含む 床面構築土

第 171 図 B 5・6号竖穴建物

B 7号竪穴建物



第 172 図 B 7号竪穴建物

B 8号竪穴建物

（第 1-173 図、第 2-245 ～ 248・388・389 図、写真図版 179・180・458・459・529・530）

Ⅱ層上面で黒褐色の長方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平により消失している。平面形は長方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はカマド付近のみ地山由来の黒褐～暗褐色土を使用するが、その他の部分ではⅡ層を平坦に整えている。堆積土は黒～黒褐色土を主体とし、壁溝内堆積土を含め 4 層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。焼失家屋であり、床面直上では状態の良い炭化材と焼土の分布範囲が検出されている。なお、床面直上で出土した炭化材 5 点について樹種同定を行ったところ、クリとコナラ節であるとの結果を得ている（第Ⅵ章第 3 節）。

床面施設として北壁東寄りでカマド 1 基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右両袖構築土及び芯材礫、煙道、煙出しである。燃焼部焼土は 37 × 27cm の楕円形で、被熱深度は約 6 cm である。燃焼部焼土右袖付近には支脚に転用された羽口が 1 点直立した状態で出土した。また、焚口付近には天井部に使用されたと考えられる板石が落ち込んでいた。煙道は北壁と直交方向に床面より一段高い位置から掘り込まれ、約 1.5 m 水平に延びて煙出しへと至る。煙道の幅は約 0.65 m、深さは約 0.5 m である。なお、煙道は上面が削平されており構築方法は不明である。その他の床面施設として土坑 1 基と壁溝 1 条を検出した。土坑 1 はカマド東側に隣接する方形の土坑で、平面規模は 1.2 × 0.6 m である。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、西壁は底面から垂直に立ち上がりカマド左袖に連続する。床面からの深さは 0.4 m である。出土遺物が多く、3 層上面から完形の土師器・須恵器が多量に出土した。壁溝は壁面北～北西隅で確認されており、幅は約 0.2 m、深さは約 0.1 m である。

遺物は土器が 17,518.3 g 出土しているが、斜面上方から流れ込んだ縄文土器も多い（a 1447～1452 等）。古代の土器は先述の土坑 1 を中心に出土しており、27 点を掲載した（b 15～41）。この他、床面付近から金属製品や鉄生産関連遺物も出土しており、金属製品 7 点（鈔帯金具・馬具・鏃・刀子）と羽口 1 点を掲載した（i 3～9、j 2）。

本遺構は全体形は不明であるが、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。年代は、床面直上から出土した炭化材の年代測定結果（第Ⅵ章第 1 節）と土坑 1 内出土土器、金属製品の年代観から平安時代（9 世紀前葉）と考えられる。

（中村・村田）

B 9号竪穴建物

（第 1-174 図、第 2-248・249・388～390 図、写真図版 181・182・458・459・529・530）

Ⅱ層上面で大型の礫が複数露出する黒褐色の不整形プランとして検出した。北西側は調査区外へ延び、南東側は削平されている為全体形は不明である。残存する範囲から平面形は隅丸方形と考えられ、壁面は外傾して立ち上がる。床面は、Ⅱ層を平坦に整えている。堆積土は斜面上方から流れ込んだ黒褐色土が主体であり、2 層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として北壁中央やや西寄り及び北壁東寄りでカマドを各 1 基検出した。西側のものをカマド 1、東側のものをカマド 2 とし、カマド 2 のほうが新しい。カマド 1 の残存部位は、燃焼部焼土、煙道である。燃焼部焼土は 72 × 42cm の円形で、被熱深度は約 3 cm である。袖部はカマド 2 を構築する際に壊されたものと考えられ残存していない。煙道は、直ちに調査区外へと至るため全容は不明であるが、断面形をみる限り割り抜き式と考えられる。カマド 2 の残存部位は、燃焼部焼土、左右両袖構築土及び芯材礫、天井構築礫である。燃焼部焼土は 58 × 48cm の円形で、被熱深度は約 9 cm、燃焼面中央部で羽口を転用した支脚が直立した状態で出土している。カマド 2 は燃焼部付近の袖は壊れているが、煙道開始部分は天井部も含め良好に残存していた。袖及び天井部の構築方法をみると、

まず長さ 20～50cmの板状礫を立て並べて芯材とし、被覆土として黒褐色土と黄褐色土ブロックを含む明黄褐色土を使用している。天井部の被覆状況は不明であるが、袖部構築後に芯材より幅広い板状礫を並べて構築していたと考えられる。なお、カマド構築土には土器・羽口の破片も混入していた。その他の床面施設として土坑1基と柱穴5個、埋設土器1基を検出した。土坑1はカマド2東側に位置する楕円形プランの土坑で、平面規模は0.7×0.36m、深さは0.21mである。堆積土は黒褐色土が主体であり、4層中から羽口が出土している。柱穴は床面残存範囲より外側でも検出されているが、配置は不規則である。埋設土器は、カマド1西側で検出した。土師器甕の口縁部から胴部を逆位に埋設したもので(b46)、土器内の堆積土には焼土ブロックや褐灰色土が含まれる。

遺物は土器が11,627.2g出土しているが、斜面上方から流れ込んだ縄文土器も多い(a1453・1454等)。古代の土器はカマド周辺を中心に出土しており、7点を掲載した(b42～48)。このうち須恵器瓶(b47)は、カマド1の床面構築土から出土している。この他、床面直上で出土した金属製品3点と支脚として転用された物を含む羽口2点を掲載した(i10～12、j3・4)。

本遺構は全体形は不明であるが、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。年代は、床面直上から出土した炭化材の年代測定結果は7世紀後半～8世紀中葉とされるが(第VI章第1節)、カマド2内で出土した土器にロクロ成形の土師器坏が含まれることから平安時代(9世紀前葉)と考えておきたい。

(高橋・佐藤・村田)

B 10号竪穴建物

(第1-175図、第2-249図、写真図版183・460)

IV層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。南壁は削平のため消失しているが、平面形は方形と考えられ、壁面は若干外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土の単層で、堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として東壁中央付近でカマドを1基検出した。残存部位は、燃焼部焼土と煙道である。燃焼部焼土は24×21cmの円形で、被熱深度は約3cmである。煙道は、東壁と直交方向に掘り込まれ、住居床面から約0.85m水平に掘削されて煙出しへと至る。煙道の幅は約0.5m、深さは約0.1mである。その他の床面施設として西壁付近で柱穴を1個検出した。

遺物は土器が82g出土しており、2点を掲載した(b49・50)。

本遺構は、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土遺物から平安時代(9世紀代)と考えられる。

B 11号竪穴建物

(第1-175図、第2-249図、写真図版184・460)

IV層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。南側が大幅に削平されているが平面形は方形と考えられ、壁面はわずかに外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、9層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として西壁中央付近でカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、煙道、煙出しであるが、煙道部は後世の攪乱の為、約1/3が失われている。燃焼部焼土は38×35cmの円形で、被熱深度は約3cmである。袖部は消失しており、構築方法は不明である。煙道は、西壁と直交方向に約2.0m水平に延びて煙出しへと至る。煙道の幅は約0.38m、深さは約0.3mである。煙出しは柱穴状に掘り込まれており、上面は25×25cmの円形、検出面からの深さは約0.95mである。その他の

床面施設として床面中央部付近で焼土1基、床面全域で柱穴を8個検出した。焼土1は95×55cmの楕円形で、被熱深度は約5cmである。周辺から鉄滓（精錬滓主体）が出土していることから鍛冶炉の可能性もある。柱穴配置は床面の約半分が失われている為不明であるが、P 02・03・06等が支柱穴の北側列になる可能性もある。

遺物は土器が3,451.2g出土しており、9点を掲載した（b 51～59）。この他、鉄生産関連遺物が224.4g出土している。

本遺構は、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀代）と考えられる。

B 12・13号竪穴建物

（第1-176図、第2-249・250図、写真図版185・186・460）

Ⅱ層上面で黒褐色の不整形プランとして検出した。当初は1軒の竪穴建物と考えて精査を開始したが、掘り下げを行ったところ主軸の異なる2軒の建物が重複していることが判明した。B12号竪穴建物が新しく、B13号竪穴建物の大部分を壊している。

B 12号竪穴建物は、全体形は不明であるが平面形は方形と考えられ、壁面はわずかに外方に開きながら立ち上がる。床面はⅢ層を平坦に整え、カマド周辺のみ黒褐色土を充填して構築している。堆積土は黒褐色土が主体で、3層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として西壁中央付近でカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右両袖、煙道であるが、煙道は焚口付近の一部が残存するのみである。燃焼部焼土は44×30cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。袖部は遺存状況が悪いが、残存部分によると芯材に長さ20～30cmの角礫を立て、その周囲に地山由来の褐色土を積み上げて構築しているようである。煙道は、西壁と直交方向に焚口より若干高い位置で掘削されており、約0.5m外側に延びる。残存する煙道の幅は0.5m、深さは0.15mである。その他の床面施設として、壁溝1条と柱穴1個を検出した。壁溝は北壁際～北西コーナー部にかけて検出され、上面幅は約0.3mである。

B 13号竪穴建物は、平面形は方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はB 12号竪穴建物より一段高い位置にあり、Ⅲ層を平坦に整えている。

床面施設として壁面南東側で柱穴を1個検出した。

遺物はB 12号竪穴建物で土器が15,207.0g、B 13号竪穴建物で2,024.5g出土しているが、大半が斜面上方から流れ込んだ縄文土器で（a 1455～1460等）、古代の土器はそれぞれの建物で3点ずつ掲載した（b 60～65）。古代の土器のうち、b 61は口縁部に沈線が巡る擦文土器と考えられる土師器甕である。

B 12号竪穴建物は、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と考えられる。B 13号竪穴建物はカマドは検出されていないが、重複関係と出土遺物からB 12号竪穴建物に先行する（9世紀初頭か）住居として使用された竪穴建物と考えられる。

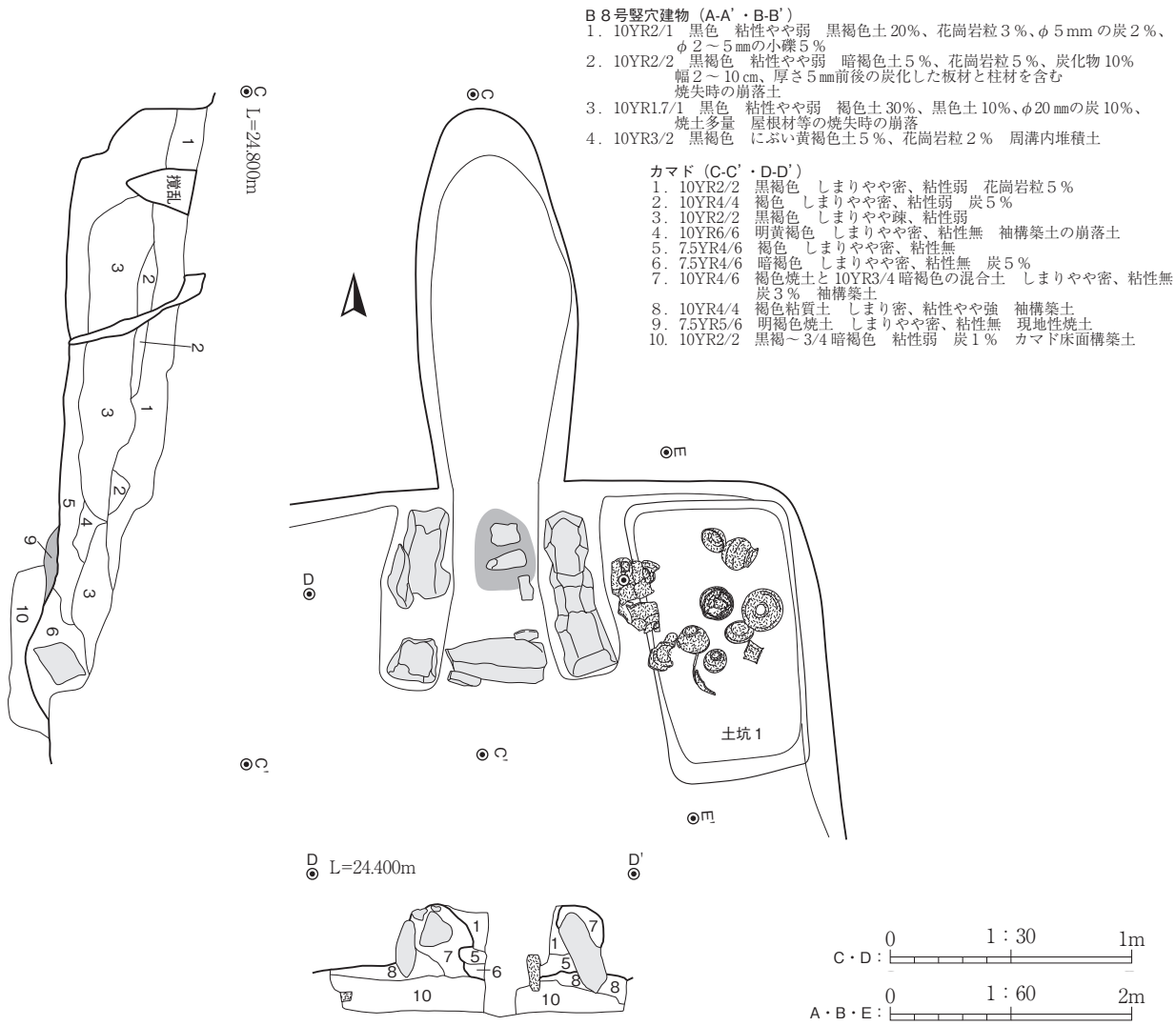
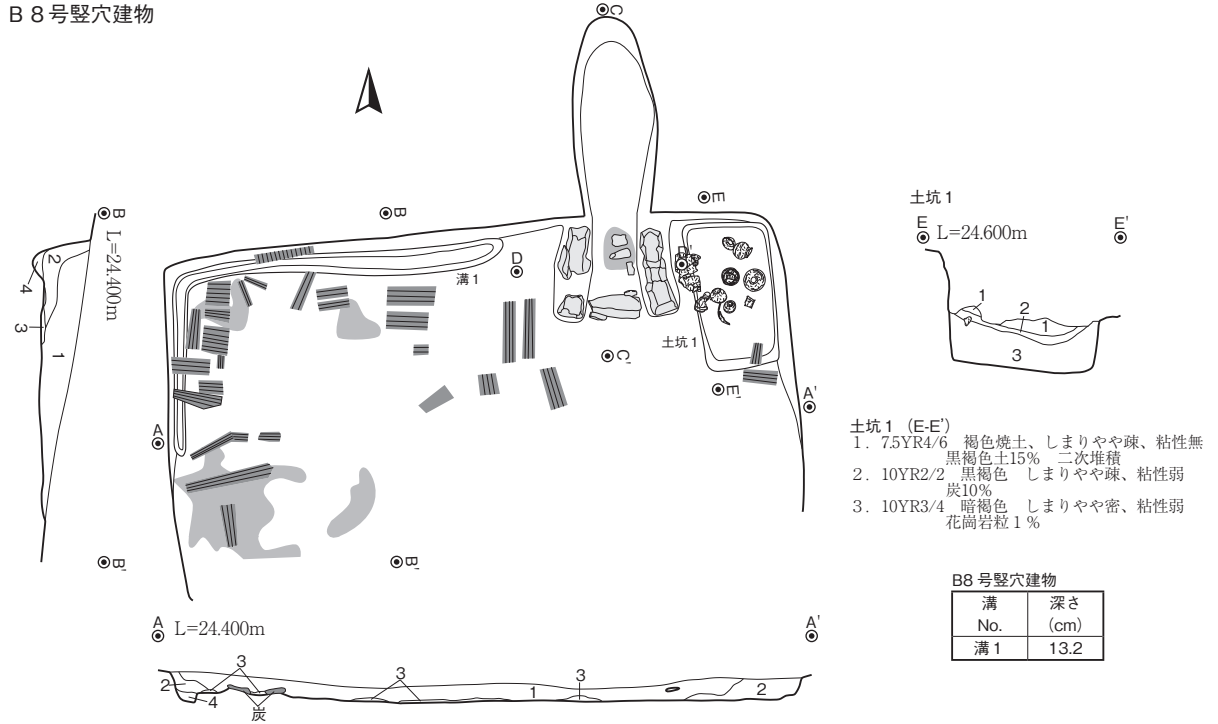
（村田）

B 14号竪穴建物

（第1-177図、第2-250図、写真図版187・188・460・531）

Ⅱ層上面で黒色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は長方形と考えられ、壁面はやや外傾して立ち上がる。床面は、Ⅱ層及び縄文時代竪穴建物の堆積土を

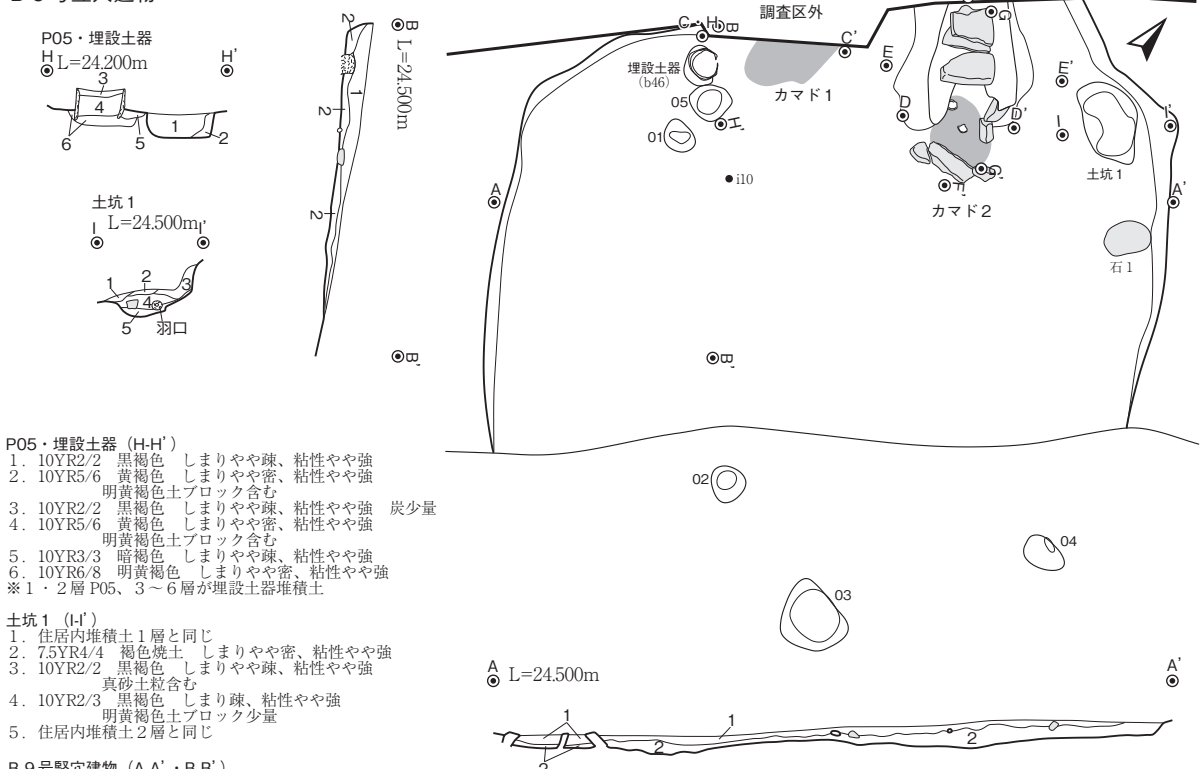
B 8 号竪穴建物



第 173 図 B 8 号竪穴建物

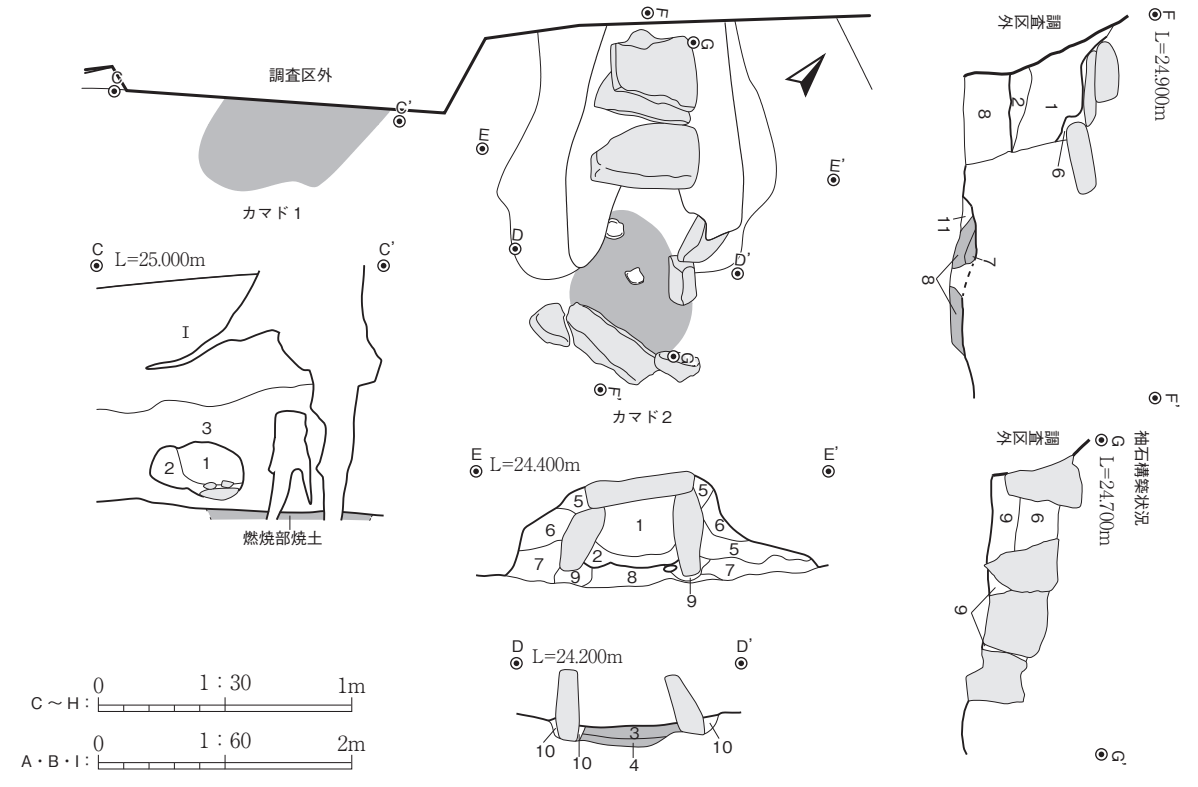
3 竖穴建物 (古代)

B 9号竖穴建物



B9号竖穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	22.4
P02	51.0
P03	20.2
P04	18.8
P05	15.4



第 174 図 B 9号竖穴建物

B10号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1. 10YR2/2 黒褐色と10YR6/3にぶい黄橙色の混合土
2. 10YR2/2 黒褐色 真砂土の崩落土含む
3. 2.5YR7/3 淡赤橙色焼土 しまり疎、粘性弱 燃焼部焼土 132号土坑堆積土上面に形成

B11号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒20%
- 1b. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒40%
- 1c. 10YR3/2 黒褐色 焼土粒20%
- 1d. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒10%
2. 2.5Y7/4 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山砂の再堆積層 炭微量
3. 10YR2/1 黒色 花崗岩粒含む
4. 10YR6/1 灰褐色 やや粘土質で灰白色の灰含む
5. 10YR17/1 黒色 しまりやや疎 地山由来の淡黄色土含む
6. 10YR7/1 灰白色粘質土 粘性やや強 粘土の再堆積層
7. 10YR3/1 黒褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩粒微量含む
8. 10YR3/2 黒褐色 焼土粒・炭各3%
9. 2.5Y8/3 淡黄色 しまり疎、粘性弱 地山由来 壁面崩落土の流れ込みか

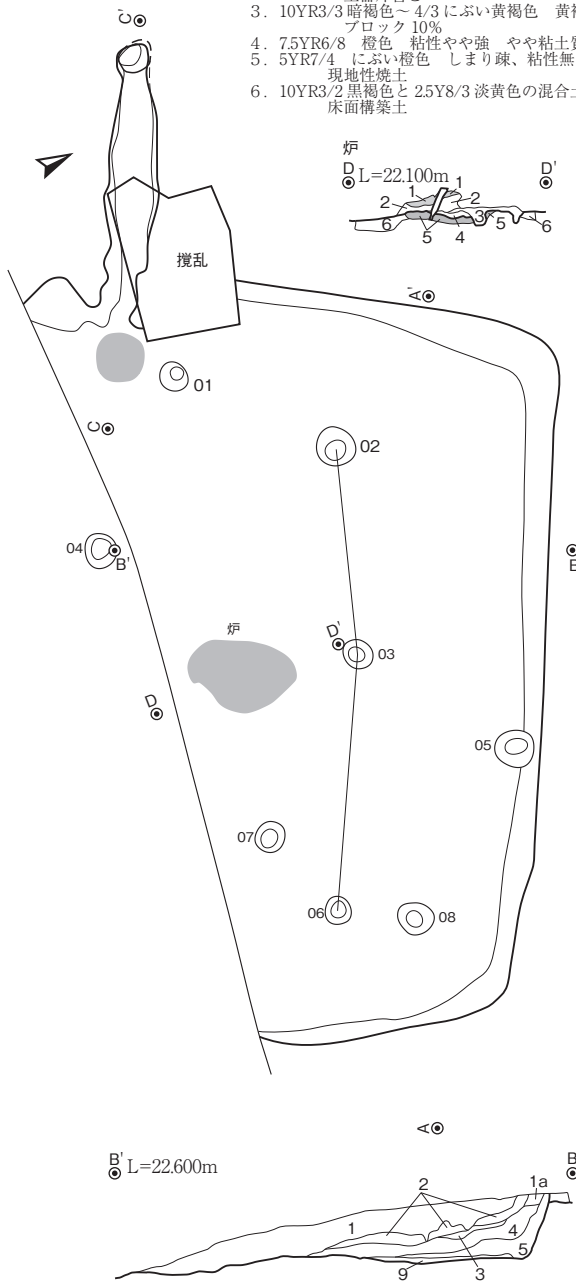
カマド (C-C')

1. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎 地山崩落土含む
2. 10YR3/2 黒褐色 焼土ブロック50%
3. 10YR2/1 黒色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩粒含む
4. 7.5YR7/8 黄褐色 地山再堆積土
5. 5YR7/4 にぶい橙色 しまり疎、粘性無 真砂土面に形成された現地性焼土

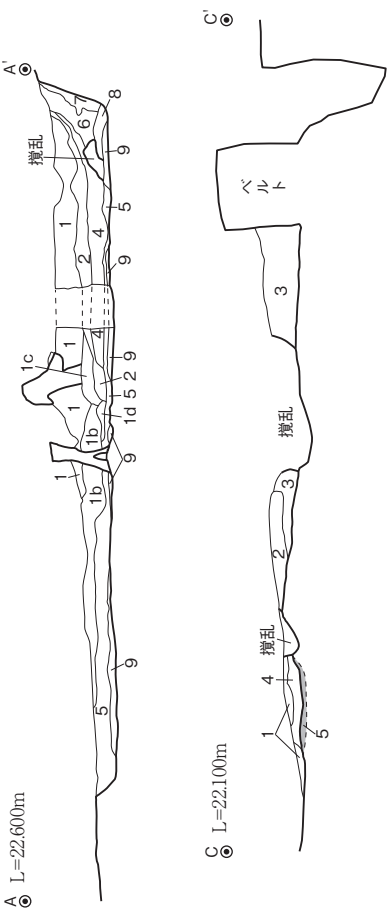
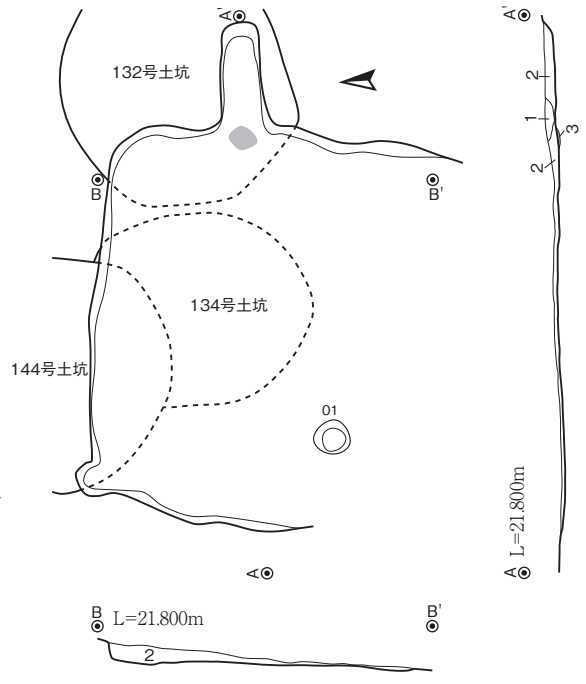
B11号竪穴建物

炉 (D-D')

1. 5YR6/8 橙色焼土 黒褐色土含む二次堆積
2. 10YR3/2 黒褐色 φ2~5mmの炭3%、土器片含む
3. 10YR3/3 暗褐色~4/3にぶい黄褐色 黄褐色土ブロック10%
4. 7.5YR6/8 橙色 粘性やや強 やや粘土質
5. 5YR7/4 にぶい橙色 しまり疎、粘性無 現地性焼土
6. 10YR3/2 黒褐色と2.5Y8/3 淡黄色の混合土 床面構築土



B10号竪穴建物

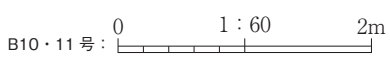
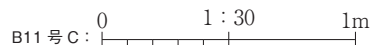


B10号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	31.0

B11号竪穴建物

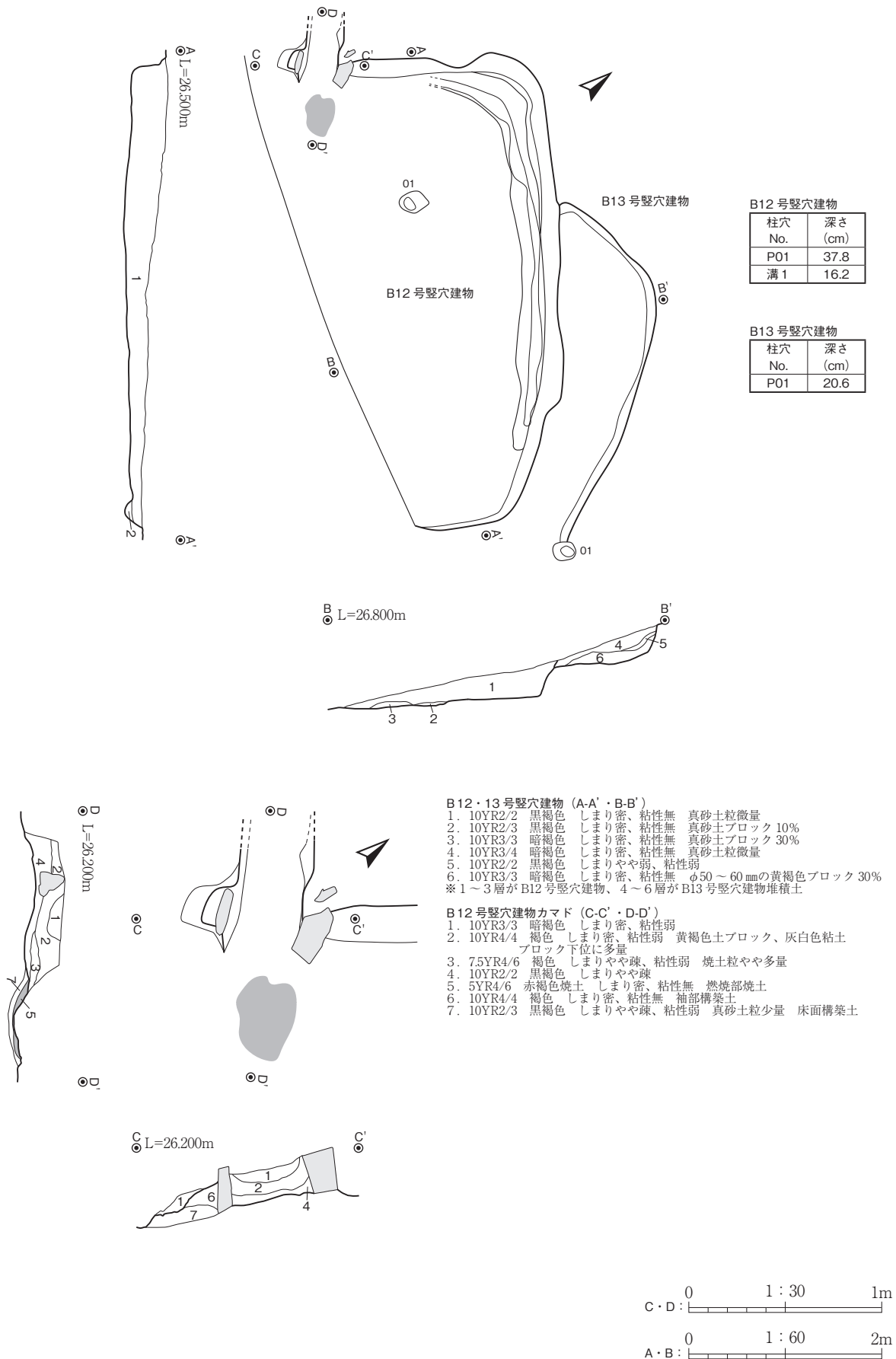
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	27.6
P02	70.6
P03	21.8
P04	20.2
P05	45.8
P06	17.4
P07	21.2
P08	18.2



第175図 B10・11号竪穴建物

3 竪穴建物（古代）

B12・13号竪穴建物



第 176 図 B 12・13号竪穴建物

平坦に整えている。堆積土は黒色土が主体で、2層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として壁溝1条と柱穴3個を検出した。壁溝は北壁際中央やや西寄りに位置し、長さは約3m、上面幅は約0.25mである。堆積土は黒色土である。柱穴は北壁際で等間隔に配置されており、屋根材を支える支柱穴になるものと考えられる。

遺物は土器が13,362.0g出土しているが、大半が斜面上方から流れ込んだ縄文土器であり（a 1461～1474等）、古代の土器としては4点を掲載した（b 66～69）。この他、鉄生産関連遺物が730.6g出土しており、鉄滓2点を掲載した（j 19・20）。

本遺構は、炉や焼土は検出されていないが鉄生産関連遺物が出土していることから工房として使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀後半）と考えられる。

B 15号竪穴建物

（第1-177図、第2-250・388図、写真図版187・188・460・529）

Ⅱ層上面で黒色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平により失われており全体形は不明であるが、平面形は長方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅱ層及び縄文時代竪穴建物の堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒色土が主体で、2層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は土器が7,694.5g出土しているが、大半が斜面上方から流れ込んだ縄文土器である（a 1475・1476等）。古代の土器としては3点を掲載した（b 70～72）。この他、北西側の床面直上から鉄製馬具（鍔吊金具、i 13）が出土している。

本遺構は、床面施設が検出されていないがB14号竪穴建物との形態の類似性からB14号竪穴建物に先行して構築された工房の可能性が考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀後半）と考えられる。

（高橋・村田）

B 16号竪穴建物

（第1-178図、写真図版188）

Ⅱ層で暗褐色の不整形プランとして検出したが、範囲の把握が困難であった為、プランの中央をトレンチ掘削し、断面観察により範囲を確認してから精査を行った。全体形は不明であるが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面はA 135号竪穴建物の堆積土を削り出しているが、凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土を主体とし、3層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は、土器が8,571.6g出土しているが、大半が斜面上方から流れ込んだ縄文土器であり（a 1477～1485等）、古代の土器は細片の為図示できなかった。

本遺構は古代の土器片の出土と縄文時代の遺構との重複関係から古代に属するものとしたが、性格や時期については不明である。

（中村・村田）

B 17号竪穴建物

（第1-178図、第2-250図、写真図版189・460・461）

Ⅳ層上面で黒褐色の三角形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平により失われ、西壁周辺も攪乱により上面が壊されている。削平と攪乱により全体形は不明であるが、平面形は隅丸方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は黒色土が主

体であり、2層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として西壁中央でカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右両袖、煙道、煙出しである。燃焼部焼土は38×31cmの不整形で、被熱深度は約7cmである。袖部は角礫を芯材とし、黄褐色土と黒褐色土を積み上げて構築されている。また、燃焼部付近で天井石と考えられる大型の礫を検出した。煙道は、西壁と直交方向に緩やかに上昇しながら約1.0m延びて煙出しへと至る。煙道の規模は焚口付近と煙出し付近で異なり、焚口付近では幅約0.35m、深さ約0.3m、煙出し付近では幅約0.1m、深さ約0.25mである。煙出しの上面は柱穴状であるが、底面は煙道と連続する。その他の床面施設として壁溝1条と柱穴1個を検出した。壁溝は北壁～西壁北寄りで見出しており、長さは3.5m、幅は約0.13mである。堆積土は暗褐色土である。

遺物は、古代の土器が422.3g出土しているが接合率は悪い。このうち、外面に赤彩が施された土師器甕2点を掲載した（b 73・74）。

本遺構は、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀前半）と考えられる。

（高橋・村田）

B 18号竪穴建物

（第1-179図、写真図版190）

縄文時代の竪穴建物であるA 212号竪穴建物の床面精査時に本遺構の煙道を検出し、その南側で黒褐色の方形プランを検出した。検出面はⅣ層上面である。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ層を削り出しているが、岩盤層が露出している為凹凸が著しい。北壁～カマド付近のみ床面構築土と考えられる明灰褐色粘質土が約3cmの厚さで分布していた。堆積土はほとんど残存しておらず、煙道内堆積土を3層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として北壁東寄りでカマド1基を検出した。残存部位は、煙道、煙出しである。袖部は芯材の据え付け穴が残存するのみである。煙道は、西壁と直交方向に若干上昇しながら約1.2m延びて煙出しへと至る。煙道の幅は約0.36m、深さは約0.3mである。煙出しの上面は柱穴状であるが、底面は煙道と連続する。

遺物は古代の土器が188.1g出土しているが、細片の為図示できなかった。

本遺構は遺存状況は悪いが、カマドを有することから住居として使用された竪穴建物と考えられる。竪穴の形態から古代に属するが、出土遺物が乏しいため詳細な年代は不明である。

B 19号竪穴建物

（第1-179図、第2-391図、写真図版191・531）

Ⅱb層下位～Ⅳ層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形で、残存する北壁は外方に、東西壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は北壁付近では構築土と考えられる白色粘質土が分布していたが、その他の部分はⅣ～Ⅴ層を削り出して形成しているが、Ⅴ層は岩盤層であり木根の侵食も多いため凹凸が著しい。堆積土は黒褐色土とにぶい黄褐色土で構成され、2層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は古代の土器が21.2g出土しているが、細片の為図示できなかった。その他、鉄生産関連遺物が176.0gと陶磁器1点が出土しており、鉄滓2点と陶磁器1点を掲載した（j 21・22、k 3）。なお、鉄滓のうち1点は鉄塊系遺物である（第Ⅵ章第8節）。

本遺構は、床面施設が検出されていないが鉄生産関連遺物が出土していることから工場の可能性が考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（12世紀代か）と考えられる。

B 20 号竪穴建物

（第 1-179 図、第 2-389 図、写真図版 191・529・531）

Ⅱ b 層下位で黒褐色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平、東側は B 19 号竪穴建物により壊されているが、平面形は方形と考えられ、壁面は大きく外方に開きながら立ち上がる。床面はⅡ層最下位を平坦に整えており、Ⅳ層を床面とする B 19 号竪穴建物より凹凸は少ない。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は古代の土器が 252.4 g 出土しているが、細片の為図示できなかった。その他、金属製品数点と鉄生産関連遺物 709.2 g が出土しており、鉄素材の可能性のある不明鉄製品 1 点と鉄滓 3 点を掲載した（i 14・j 23～25）。

本遺構は、床面施設が検出されていないが鉄生産関連遺物が出土していることから工場の可能性が考えられる。年代は、出土遺物から平安時代と考えられる。

B 21 号竪穴建物

（第 1-179 図、第 2-249 図、写真図版 191）

Ⅱ b 層下位～Ⅳ層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平、西側は B 19 号竪穴建物により壊されている。削平等により全体形は不明であるが、平面形は長方形と考えられ、壁面は大きく外方に開きながら立ち上がる。床面はⅣ層を削り出しているが、部分的に岩盤層であるため凹凸が見られる。堆積土は黒褐色土の単層で、堆積の様相は自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は土器が 1,667.4 g 出土しているが、大半が斜面上方から流れ込んだ縄文土器であり（a 1486 等）、古代の土器は細片の為図示できなかった。

本遺構は、床面施設が検出されていないが隣接する竪穴建物との類似性から工場の可能性が考えられる。年代は、出土遺物から平安時代と考えられる。

（中村・村田）

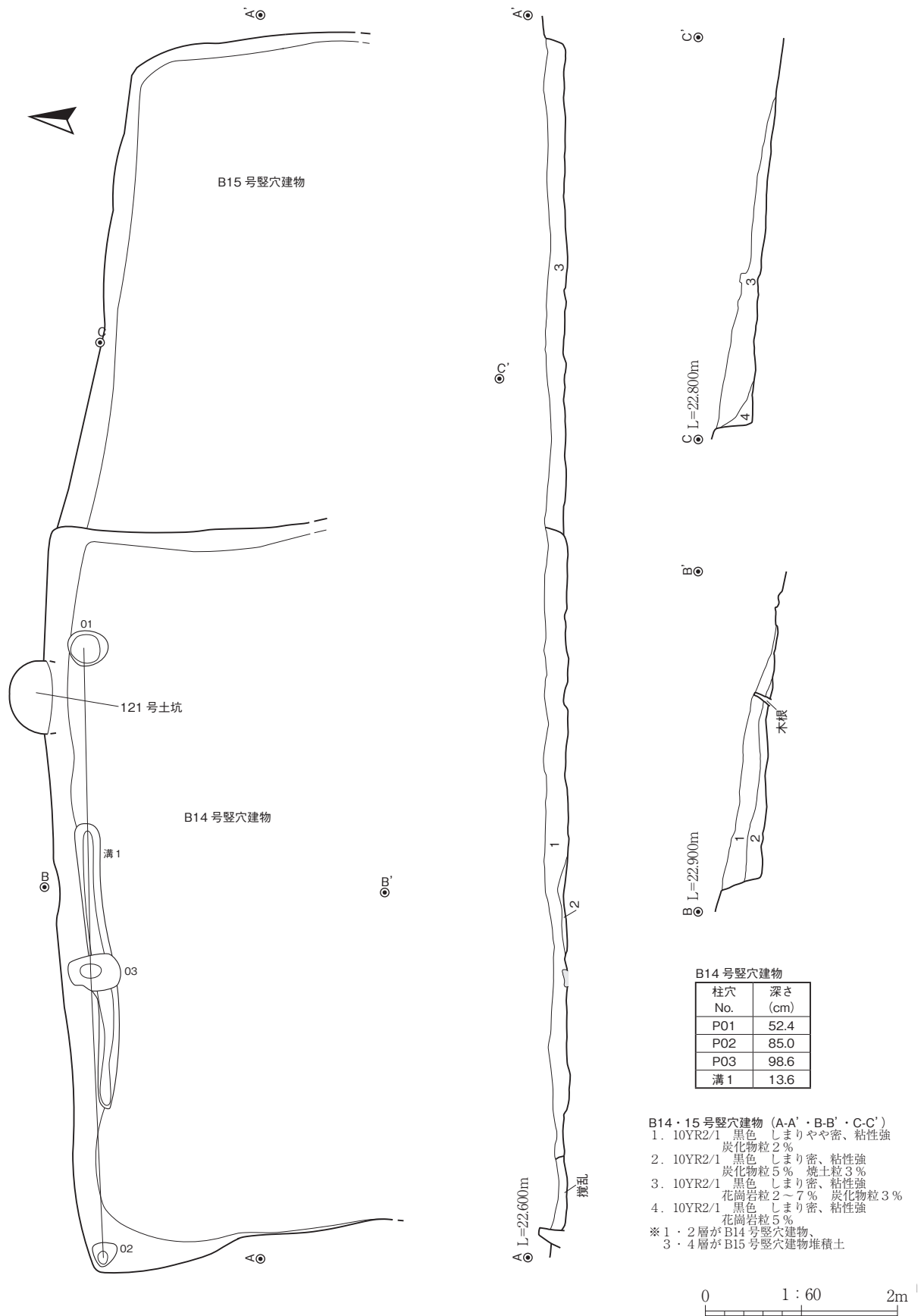
B 22 号竪穴建物

（第 1-180 図、写真図版 192）

Ⅳ層上面で黒褐色の長方形プランとして検出した。同所は調査前現況が作業道であり、かつ今回の調査でも重機道として使用したことから、著しく削平・改変を受けており、本遺構も検出時点で床面が露出する状況であった。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土はわずかに残る部分を見る限り黒褐色土が主体である。残存する堆積土が薄いため堆積の様相は不明である。

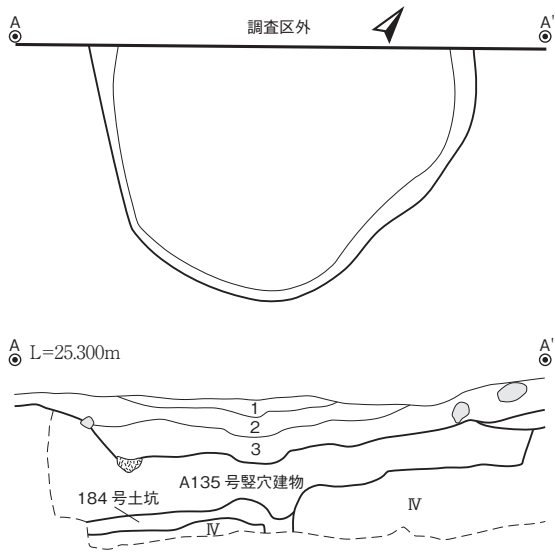
床面施設として西壁中央でカマド 1 基を検出した。残存部位は燃焼部焼土、左右袖芯材据え付け穴、煙道、煙出しである。燃焼部焼土は 45 × 35cm の楕円形で、被熱深度は約 3cm である。燃焼部焼土直下は浅い皿状に掘り込まれており、内部には板状の扁平礫が 3 個敷設されていた。遺跡内で類例は無いが、これはカマドの内部を平坦に保つ工夫と考えられる。袖部は芯材礫の据え付け穴のみが残存しており、構築方法は不明である。煙道は、西壁から直交方向に若干下降しながら約 1.2 m 延びて煙出しへと至る。煙道の幅は約 0.25 m、深さは不明である。煙出しの上面は不明であるが、底面は煙

B14・15号竖穴建物



第177図 B14・15号竖穴建物

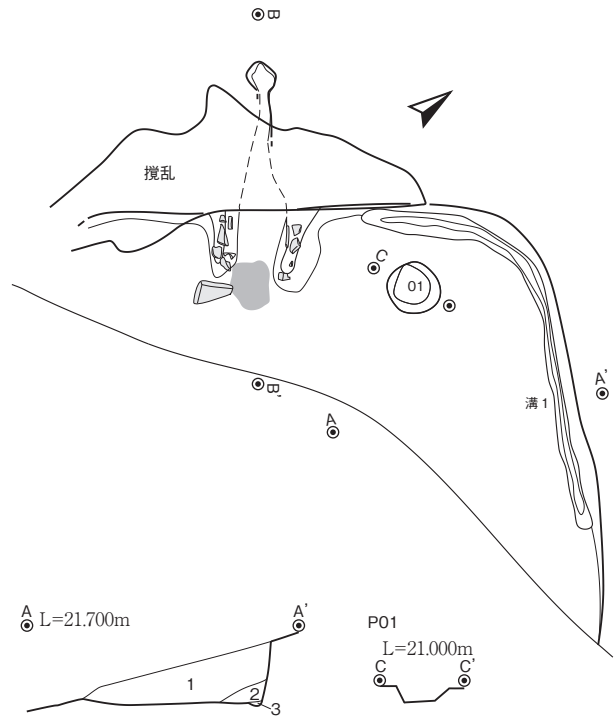
B 16 号竖穴建物



B 16号竖穴建物 (A-A')

1. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性無 花崗岩粒 1%
2. 10YR2/3 黒褐色 黄褐色土 15%、炭・花崗岩粒各 1%
3. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 花崗岩粒 1% 遺物集中

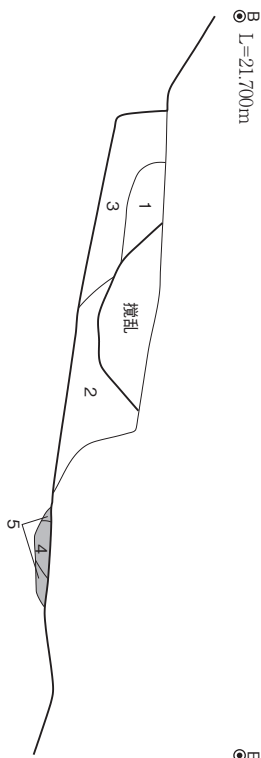
B 17 号竖穴建物



B 17号竖穴建物 (A-A')

P01

L=21.000m



B 17号竖穴建物 (B-B')

1. 10YR2/1 黒色 しまりやや密、粘性強 φ 2~5mmの礫 10%
2. 10YR3/1 黒褐色 しまり密、粘性強 におい黄褐色土 3%
3. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 壁溝内堆積土

カマド (B-B')

1. 10YR3/1 黒褐色 しまり密 褐色土 20%
2. 10YR2/1 黒色 しまりやや密、粘性強
3. 10YR2/1 黒色 しまりやや密 におい黄褐色土 10%、焼土 2% 攪乱による崩落土
4. 10YR4/4 褐色焼土 しまりやや密 燃烧部焼土
5. 5YR4/8 赤褐色焼土 しまりやや密 粘性弱 燃烧部焼土

B 17号竖穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	14.0
溝 1	15.6

B 17号建物 B-B' : 0 1 : 30 1m

B 16・17号建物 : 0 1 : 60 2m

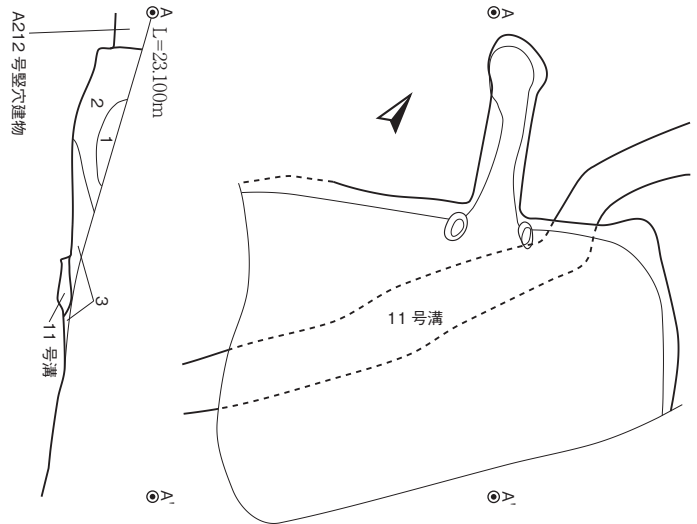
第 178 図 B 16・17 号竖穴建物

3 竖穴建物（古代）

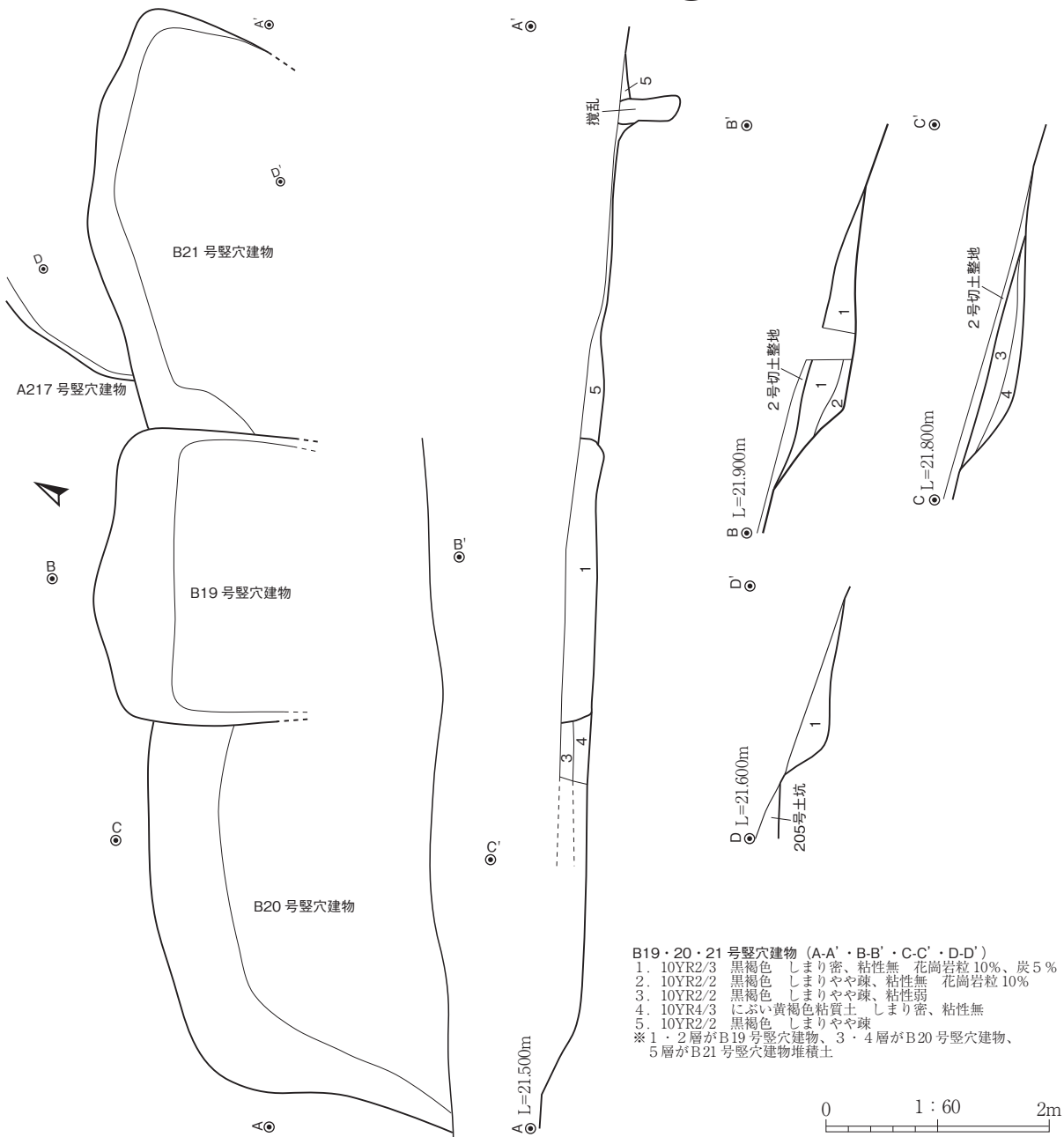
B18号竖穴建物

B18号竖穴建物 (A-A')

1. 10YR3/2 黒褐色 しまり無、粘性無 にぶい黄褐色土10%
2. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性無 焼土粒1%
3. 10YR2/3 黒褐色 しまり密、粘性弱 煙出しに廃棄物集中

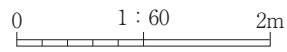


B19・20・21号竖穴建物



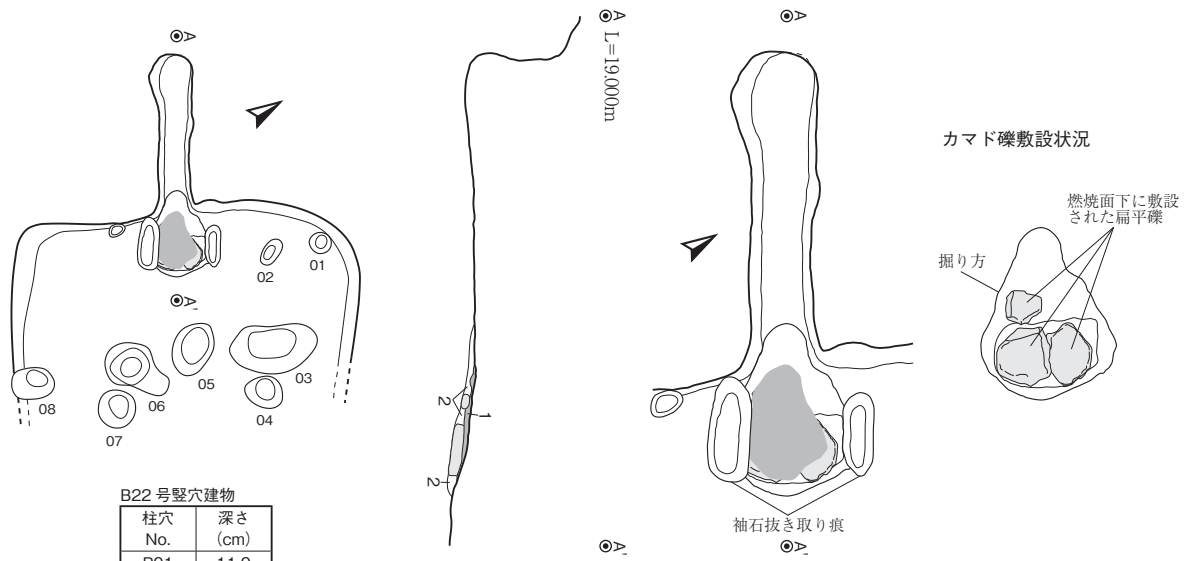
B19・20・21号竖穴建物 (A-A'・B-B'・C-C'・D-D')

1. 10YR2/3 黒褐色 しまり密、粘性無 花崗岩粒10%、炭5%
 2. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性無 花崗岩粒10%
 3. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性弱
 4. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土、しまり密、粘性無
 5. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎
- ※ 1・2層がB19号竖穴建物、3・4層がB20号竖穴建物、
5層がB21号竖穴建物堆積土



第179図 B18～21号竖穴建物

B 22号竪穴建物



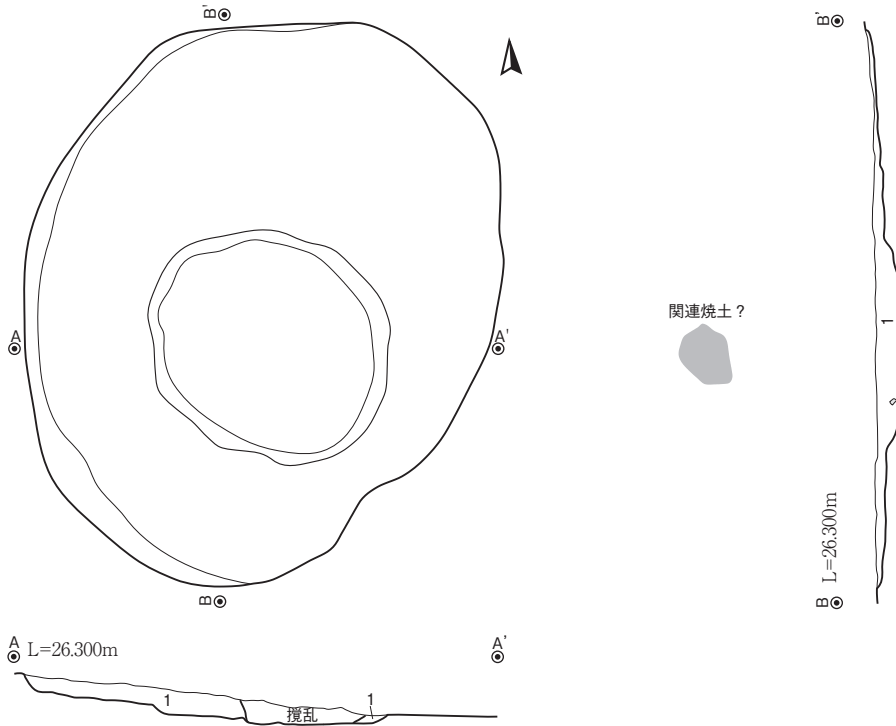
B22号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	11.0
P02	17.0
P03	28.0
P04	20.0
P05	13.6
P06	34.0
P07	13.6
P08	31.2

B 22号竪穴建物カマド (A-A')

1. 5YR5/8 明赤褐色砂質シルト焼土 しまりやや疎、粘性やや弱 現地性の強変焼土
2. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまりやや疎、粘性やや弱 敷設礫の掘り方埋土

B 23号竪穴建物



B 23号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1. 10YR2/1 黒色～2/2 暗褐色シルト しまりやや密 真砂土粒極微量

B22号建物 A-A' : 0 1:30 1m

B22号建物平面・B23号建物 : 0 1:60 2m

道と連続する。その他の床面施設として柱穴8個を検出した。堅穴の規模に対して数が多く、配置と大きさも多様であることから、本遺構に伴わない柱穴も含んでいると考えられる。

遺物は古代の土器が58.1g出土しているが、細片の為図示できなかった。

本遺構は遺存状況は悪いが、カマドを有することから住居として使用された堅穴建物と考えられる。堅穴の形態から古代に属するが、出土遺物が乏しいため詳細な年代は不明である。

(北田・村田)

B 23号堅穴建物

(第1-180図、第2-250図、写真図版192・461)

Ⅱ層下位で黒褐色の楕円形プランとして検出した。上面を削平されている為全容は不明であるが、平面形は円形又は楕円形と考えられ、壁面は下部がやや内弯し、上部は外傾して立ち上がる。床面はⅣ層を平坦に整えており、全体に硬化している。堆積土の主体は黒褐色土の単層である。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として中央部で上面規模2.0×1.7mの楕円形、深さ約10cmの土坑状の掘り込みを1基検出した。堅穴内と一連で黒褐色土が堆積していることから本遺構に伴う施設といえるが、性格については不明である。また、堅穴部東端から1.7m東側で現地性焼土を1基検出した。検出状況からみると、この焼土は本来本遺構の床面で形成されていたものが削平の為下部のみ残存したものである可能性がある。焼土は50×40cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。

遺物は古代の土器が110.8g出土しており、このうち須恵器2点を掲載した(b75・76)。

本遺構は出土遺物から古代の遺構と考えられるが、平面形態や床面施設は遺跡内で他に類例は無く、前述の焼土が本遺構に伴う炉であるとすれば長楕円形プランの工房であった可能性もある。年代は、出土遺物から平安時代(9世紀代か)と考えられる。

(村上・村田)

4 土 坑

(第1-181～208図、第2-91～111・239・250・254・258・264・268・280・285・286・307～311・335～338・358・362・364・373・376・377・382・391・392図、写真図版193～252、340～354・461・463・464・468・470・476・477・488～490・500～502・509・512・514・518・520・521・525・531)

312基検出した。検出位置・規模等は第6表の通りで、ここでは全体的な傾向について記載する。分布状況には偏りがあり、沢状地形に向かって張り出した尾根の頂部から南側の急斜面部とそれに面する沢状地形である南側の低位部の2箇所集中している。縄文時代の貯蔵穴は急斜面部、浅い方形・長楕円形の土坑は低位部に多く分布する(第1-7～11図)。特に急斜面部は貯蔵穴が2～3基重複するものが多く、低位部より乾燥したこの範囲を貯蔵用のエリアとして繰り返し利用していたことがわかる。この他、微高地となっている中央緩斜面西側や西端区では古代以降の土坑も検出されているが、前述の2地点に比べて分布密度は低い。また、尾根北側斜面及び北端区では検出されていない。

年代は、出土遺物及び他遺構との重複関係から縄文時代294基、古代(以降)5基、近世3基、近世以降1基、時期不明9基である。

縄文時代の土坑は、出土遺物と他遺構との重複関係から前期初頭、前期後葉～中期末葉に属すると考えられる。形状から性格が推定できるものとして最も多いのは貯蔵穴で、可能性があるものを含め

第6表 土坑一覧

遺構名	グリッド	時代	性格	断面形	計測値 (m)			出土遺物	備考 (重複: 右側が新しい)
					長軸	短軸	深さ		
1号土坑	II B21m	近世以降	墓?	箱形	1.00	0.88	0.46	土器 1568.2g (a975) 石器 755.3g 陶磁器 (k 5・14・20)	底面に木板、(A15号堅穴建物→◎)
2号土坑	I B23m	古代以降	不明	皿形	(1.39)	(0.86)	0.06		(B3号堅穴建物→◎)
3号土坑	II B16g	縄文	不明	半円形	2.72	1.64	0.44	土器 5237.6g (a976) 土器片円盤 7.7g (g57)	(◎→A26・27・33号堅穴建物)
4号土坑	II B13h	中期後葉	不明	皿形	1.78	1.72	0.13	土器 801.1g (a977～979)	(無し)
5号土坑	II B13h	縄文	不明	皿形	0.72	0.64	0.12		(無し)
6号土坑	II B13i	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.06	0.85	0.46	土器 106.8g、石器 725.6g	(7号土坑→◎)
7号土坑	II B13i	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.70	1.62	0.5	土器 548.7g、石器 1880.3g	(◎→6号土坑)
8号土坑	II B13h	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.36	1.22	0.77	土器 2084.6g (a201・980)	(無し)
9号土坑	II B19g	縄文	不明	不整形	1.04	1.01	0.59	土器 253.4g	(268号土坑、P1366→◎)
10号土坑	II B13f	縄文	不明	皿形	0.67	0.56	0.10		(無し)
11号土坑	II B13h	中期後葉	貯蔵穴	フラスコ	0.72	0.70	1.10	土器 18677.5g (a981～984) 石器 2357.4g (c1014・1248) 石製品 57.9g (d69) 土器片円盤 29.6g (g58)	(無し)
12号土坑	II B11i	縄文	貯蔵穴?	台形	2.18	(1.38)	0.56	土器 95.0g	フラスコ状土坑の底部か、(無し)
13号土坑	II B12h	縄文	貯蔵穴?	台形	1.64	(0.83)	0.33		フラスコ状土坑の底部か、(無し)
14号土坑	II B12j	中期前葉	貯蔵穴?	台形	1.94	(0.98)	0.38	土器 1396.7g (a985・986)	フラスコ状土坑の底部か、(無し)
15号土坑	II B12g	縄文	不明	皿形	0.86	0.76	0.13		(無し)
16号土坑	II B13g	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.47	1.31	0.94	土器 3307.4g (a987～990) 石器 734.1g (c1249)	(◎→21号土坑)
17号土坑	II B12k	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.44	1.14	0.84	動物遺存体 (試料 K-8)	(無し)
18号土坑	II B13f	縄文	不明	皿形	1.58	(0.87)	0.06		副穴2、(◎→P1008)
19号土坑	II B10i	縄文	貯蔵穴?	台形	2.13	1.54	0.25		フラスコ状土坑の底部か、(無し)
20号土坑	II B9h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.52	1.16	1.33	土器 2615.5g (a991)	(無し)
21号土坑	II B13g	縄文	不明	皿形	0.84	0.79	0.09		(16号土坑→◎)
22号土坑	II B9i	縄文	不明	逆台形	0.57	0.49	0.43		(無し)
23号土坑	II B9g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.74	(1.04)	0.88		(無し)
24号土坑	II B13i	中期中～後	貯蔵穴	フラスコ	0.88	0.72	1.00	土器 1335.7g	(無し)
25号土坑	II B8g	中期後葉	貯蔵穴	フラスコ	1.1	1.02	0.92	土器 3118.2g (a992) 石器 213.0g (c1368)	(42号土坑→◎)
26号土坑	II B8f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.42	(1.05)	0.76	土器 2145.5g (a993)	(◎→37・45号土坑)
27号土坑	II B14g	中期中葉?	不明	逆台形	-3.02	(1.48)	0.65	土器 1616.6g	(◎→33号土坑)
28号土坑	II B14i	前期末	貯蔵穴	フラスコ	1.74	1.31	0.75	土器 3997.6g (a994・995) 石器 726.0g	(◎→A34号堅穴建物)
29号土坑	II B10g	縄文	貯蔵穴	筒形	2.22	1.95	2.21	土器 1624.1g (a996～999) 石器 0.7g	(◎→115号土坑)
30号土坑	II B12e	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.60	1.48	0.42	土器 98.2g	(無し)
31号土坑	II B14h	前期末	貯蔵穴	筒形	1.48	1.31	0.59	土器 4891.2g (a1000・1001)	(◎→A34号堅穴建物)
32号土坑	II B13e	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.26	0.90	1.12	土器 1309.1g (a1002)	(無し)
33号土坑	II B13g	中期末	不明	皿形	3.27	(1.72)	0.29	土器 401.9g (a1003) 石器 259.8g	(27号土坑→◎)
34号土坑	II B14k	縄文	不明	逆台形	1.07	0.67	0.67		(A56号堅穴建物→◎)
35号土坑	II B13i	中期中葉	貯蔵穴	フラスコ	0.77	0.70	1.30	土器 1185.2g (a1007)	註記無し、(A32号堅穴建物→◎)
36号土坑	II B10g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.38	1.30	1.82	土器 1215.2g 石器 3474.3g (c1112・1113・1250)	(無し)
37号土坑	II B8f	中期末	貯蔵穴	フラスコ	2.02	1.63	1.59	土器 1697.8g (a1008)	(26・44号土坑→◎)
38号土坑	II B9h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.62	1.45	0.54	土器 295.7g	(43号土坑→◎)
39号土坑	II B15h	縄文	不明	箱形	0.69	(0.34)	0.17	土器 35.0g	(A44号堅穴建物、40号土坑→◎)
40号土坑	II B15h	縄文	不明	箱形	0.82	0.63	0.23	土器 245.5g	(◎→39号土坑)
41号土坑	II B7f	中期中～後	貯蔵穴	フラスコ	1.62	(1.00)	0.80	土器 99.4g (a1009)	(◎→A49号堅穴建物)
42号土坑	II B9g	中期後葉	貯蔵穴	フラスコ	1.28	0.96	1.45	土器 6332.9g (a1010・1011)	(◎→25号土坑)
43号土坑	II B9h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.18	(0.71)	0.11		(◎→38号土坑)
44号土坑	II B8f	中期末	貯蔵穴	フラスコ	1.74	1.27	0.90	土器 12916.8g (a1012～1016) 石器 182.4g	(◎→37号土坑)
45号土坑	II B13f	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.00	0.83	(1.42)	土器 3610.1g (a1017・1018)	註記無し、(無し)
46号土坑	II B16h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.42	1.03	0.61		(◎→A33号堅穴建物)
47号土坑	II B14f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.23	1.13	0.95	土器 (a147) 石器 275.0g	副穴1、遺物はA42・47号堅穴建物と一緒に取り上げ、(◎→A42・43号堅穴建物)
48号土坑	II B14e	中期中葉	貯蔵穴	フラスコ	1.92	1.90	1.16	土器 4300.0g (a1019) 土製品 1344.2g (d45)	註記無し、(◎→A35号堅穴建物)
49号土坑	II B13d	縄文	墓?	箱形	1.42	0.70	0.31		(A61号堅穴建物→◎)
50号土坑	II B14j	前期末	不明	逆台形	1.54	1.50	0.78	土器 662.1g (a1020) 石器 4761.0g	(◎→A56号堅穴建物)
51号土坑	II B13f	中期中～後	陥し穴?	不整形	(2.71)	(2.48)	0.56	土器 2606.6g (a1021)	副穴1、(無し)
52号土坑	II B15e	縄文	不明	逆台形	2.00	(0.87)	0.26	土器 1123.4g	(◎→1号配石遺構)
53号土坑	II B13j	中期後葉	貯蔵穴	フラスコ	1.30	1.03	1.60	土器 6918.1g (a1022～1027) 石器 25800.0g (c1114) 動物遺存体 (試料 K-9)	註記・写真無し、(◎→A32・38号堅穴建物)
54号土坑	II B14d	縄文	不明	箱形	0.92	(0.68)	0.58		註記無し、(◎→A35号堅穴建物)
55号土坑	II B14j	縄文	不明	逆台形	0.64	(0.30)	0.40	土器 160.0g 石器 0.9g (c50)	(◎→A53号堅穴建物)
56号土坑	II B14d	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.71	1.56	1.38	土器 3668.0g (a1028～1030)	(◎→A35号堅穴建物)

4 土坑

遺構名	グリッド	時代	性格	断面形	計測値 (m)			出土遺物	備考 (重複: 右側が新しい)
					長軸	短軸	深さ		
57号土坑	II B14f	前期末	貯蔵穴	フラスコ	0.90	0.84	0.81	土器 574.7g (a1031・1032)	(◎→ A47号堅穴建物)
58号土坑	II B14e	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.48	1.12	1.04	土器 1025.8g (a1033・1034) 石器 588.3g (c1252)	(A64号堅穴建物、65号土坑→◎→ A35号堅穴建物)
59号土坑	II B13e	前期末	貯蔵穴	フラスコ	1.15	0.96	0.69	土器 1042.6g (a1035、r16)	(無し)
60号土坑	II B14d	縄文	貯蔵穴	筒形	2.02	1.74	0.51		(61号土坑→◎→ A35号堅穴建物)
61号土坑	II B14d	縄文	貯蔵穴	フラスコ	2.18	1.52	0.68		(◎→ A35号堅穴建物、60号土坑)
62号土坑	II B15e	中期前葉	陥し穴	箱形	2.02	1.88	0.31	土器 4519.8g (a1028・1036・1037、r17)	副穴1、(◎→ A35・62・63号堅穴建物、1号配石遺構)
63号土坑	II B13d	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.43	1.31	0.79		(◎→ A61号堅穴建物)
64号土坑	II B14g	縄文	陥し穴?	逆台形	1.80	1.25	0.25		(◎→ A42・43号堅穴建物)
65号土坑	II B14e	縄文	不明	逆台形	0.70	(0.48)	0.30	土器 13.7g	註記無し、(58号土坑→◎→ 64号土坑)
66号土坑	II B11p	不明	不明	逆台形	1.16	1.12	0.33	土器 1337.9g	(無し)
67号土坑	II B9p	縄文	不明	逆三角形	1.20	1.16	1.04		(無し)
68号土坑	II B11m	近世	不明	逆三角形	2.54	2.03	0.82	土器 906.8g (a1038・1039) 石器 264.5g、石製品 1409.7g	(69号土坑→◎→ 3号溝)
69号土坑	II B11l	近世	不明	逆台形	3.58	2.28	0.81	土器 11756.2g (a1040) 鉄滓	(◎→ 68・70号土坑)
70号土坑	II B12l	近世	不明	皿形	1.00	0.78	0.28	土器 906.1g	(69号土坑→◎)
71号土坑	II B13j	中期中～後	貯蔵穴	フラスコ	(2.02)	1.40	1.43	土器 5387.8g (a1041～1046)	(◎→ A72号堅穴建物、75号土坑)
72号土坑	II B13m	縄文	貯蔵穴	フラスコ	(0.90)	0.62	0.30		(A72・78号堅穴建物→◎→ A75号堅穴建物)
73号土坑	II B13k	中期前～中	堅穴?	逆台形	1.60	1.42	0.52	土器 121.6g (a1047)	副穴1、(A80号堅穴建物→◎→ A78号堅穴建物、71号土坑)
74号土坑	II B14k	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.04	0.98	0.80	土器 1989.2g (a1048) 石器 6041.2g (c1115)	(◎→ A76号堅穴建物)
75号土坑	II B13j	中期中～後	貯蔵穴	フラスコ	1.26	1.08	1.04	土器 2325.3g (a1049・1050) 石器 25798.0g (c1116・1253～1256) 動物遺存体 (試料 K-2)	(71号土坑→◎)
76号土坑	II B13j	中期中～後	貯蔵穴	逆台形	(1.84)	(1.66)	0.90	土器 1650.4g (a1051)、石器 0.2g 動物遺存体 (試料 K-3・4・10・11)	(77・79・80号土坑→◎)
77号土坑	II B13j	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.42	(1.18)	0.82	土器 960.5g (a1052・1053)、石器 6.9g 動物遺存体 (試料 K-4・5・11・12)	副穴1 (-9.8cm)、(80号土坑→◎→ 76号土坑)
78号土坑	II B13i	中期中～後	陥し穴	筒形	1.86	1.54	1.02	土器 1320.1g (a1054) 石器 499.1g (c 381・1257)	副穴1、(無し)
79号土坑	II B13j	中期前葉	不明	逆台形	0.96	0.73	0.39	土器 127.4g (a1055)	註記・写真無し、(◎→ 76号土坑)
80号土坑	II B13j	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.36	1.20	0.98		(◎→ 76・77号土坑)
81号土坑	II B4i	縄文	貯蔵穴	フラスコ	2.28	1.64	0.64	土器 126.3g	(無し)
82号土坑	II B4i	縄文	不明	箱形	0.92	0.86	0.53		(無し)
83号土坑	II B4h	縄文	不明	逆台形	1.76	(0.68)	0.25		(無し)
84号土坑	II B3i	縄文	陥し穴?	皿形	(2.14)	(1.73)	0.43		副穴1 (-21.0cm)、(無し)
85号土坑	II B4j	縄文	貯蔵穴	逆台形	2.07	1.79	0.65		(無し)
86号土坑	II B5k	縄文	貯蔵穴	フラスコ	2.06	1.84	1.63		(無し)
87号土坑	II B5i	古代	不明	逆台形	2.06	1.88	0.82	土器 17.4g、石製品 36.2g、鉄滓	(無し)
88号土坑	II B6l	縄文	陥し穴	筒形	1.74	1.24	1.00		副穴1、(無し)
89号土坑	II B6l	縄文	不明	不整形	2.40	(1.60)	0.81		(無し)
90号土坑	II B5h	縄文	貯蔵穴?	台形	1.64	(0.91)	0.42		フラスコ状土坑の底部か、(無し)
91号土坑	II B6k	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.73	1.64	1.18		(無し)
92号土坑	II B13c	古代以降	墓?	箱形	1.71	1.08	0.46	土器 1262.6g (a1056) 鉄滓 (j27)	(無し)
93号土坑	II B12d	中期前葉	不明	皿形	1.42	1.04	0.16	土器 509.6g (a1057)	(◎→ A84号堅穴建物)
94号土坑	II B15b	縄文	不明	箱形	1.32	0.70	0.61	土器 322.3g	(無し)
95号土坑	II B14a	中期中～後	貯蔵穴?	不整形	1.36	1.00	0.76	土器 4081.4g (a1058) 石器 238.1g、石製品 8.7g 土器片丹盤 18.1g (g59)	(101号土坑→◎→ A99号堅穴建物)
96号土坑	II B14a	縄文	不明	不整形	1.54	1.20	0.71	土器 901.5g	(101号土坑→◎)
97号土坑	II A15y	縄文	不明	皿形	1.08	0.76	0.27		(◎→ A93号堅穴建物)
98号土坑	II A14y	縄文	不明	逆台形	1.64	0.84	0.20	土器 114.9g	(無し)
99号土坑	II A14y	縄文	不明	逆台形	1.46	(0.35)	0.12	土器 29.9g	(P2003 →◎)
100号土坑	II B12d	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.28	1.20	0.62	土器 3188.6g (a1059・1060)	(102号土坑→◎→ A84号堅穴建物)
101号土坑	II B14a	中期中～後	不明	不整形	(0.70)	(0.40)	0.27	土器 191.2g (a1061)	(102号土坑→◎→ 95・96号土坑)
102号土坑	II B12d	縄文	不明	半円形?	0.52	0.40	0.34	土器 65.2g、石製品 1097.0g	(◎→ A84号堅穴建物、100号土坑)
103号土坑	II B14c	中期中～末	不明	筒形	1.79	1.52	0.33	土器 1519.6g (a1062)	(A83号堅穴建物→◎→ 104号土坑)
104号土坑	II B14c	縄文	不明	皿形	0.73	0.68	0.84	土器 357g	(103号土坑→◎)
105号土坑	II B13c	中期中～後	不明	不整形	(0.74)	(0.22)	-	土器 544.2g (a1063) 石器 266.7g	(◎→ A83・90号堅穴建物)
106号土坑	II B13d	前期末	貯蔵穴	フラスコ	1.10	1.02	1.09	土器 5824.7g (a1064～1069) 石器 2.6g	(◎→ A83号堅穴建物、108号土坑)
107号土坑	II B13b	縄文	不明	箱形	0.82	0.44	0.34	土器 82.8g	(無し)
108号土坑	II B13d	中期	不明	逆台形	1.44	0.80	0.26	土器 657.3g (a1064)	(106号土坑→◎→ A83号堅穴建物)
109号土坑	II B14c	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.72	1.45	0.37		(A100号堅穴建物→◎)
110号土坑	II B14c	縄文	不明	不整形	(1.38)	(1.17)	0.19	土器 157.2g	(◎→ A99号堅穴建物)
111号土坑	II B15d	中期前葉?	貯蔵穴	フラスコ	1.22	1.17	1.39	土器 610.3g (a1070) 石器 915.2g (c1259)	(P2074 →◎)

遺構名	グリッド	時代	性格	断面形	計測値 (m)			出土遺物	備考 (重複: 右側が新しい)
					長軸	短軸	深さ		
112号土坑	II B15c	中期中以前	貯蔵穴	フラスコ	1.36	1.28	1.04	土器 1339.4g (a1071) 石器 1978.3g (c1117)	(P2072・2073 →◎→ A97号堅穴建物)
113号土坑	II B10i	中期末	貯蔵穴	フラスコ	1.65	1.52	0.66	土器 5042.0g (a1072・1703)	(無し)
114号土坑	II B9f	中期	貯蔵穴	フラスコ	0.92	0.48	0.85	土器 428.5g	(A195号堅穴建物、115号土坑→◎)
115号土坑	II B9f	中期	貯蔵穴	フラスコ	(1.54)	1.12	0.86	土器 1392.0g (a1074) 石器 5498.6g	(29号土坑→◎→114号土坑)
116号土坑	II B9g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.06	(0.72)	-	土器 42.6g	(A195号堅穴建物→◎→117・123号土坑)
117号土坑	II B9g	中期末以降	不明	皿形	(0.98)	(0.48)	0.36	土器 1114.4g	(116・123号土坑→◎)
118号土坑	II B10g	中期中葉	貯蔵穴	フラスコ	(1.86)	1.72	0.60	土器 4702.0g (a1075・1076) 石器 14.4g (c288)	(116号土坑→◎→A105号堅穴建物、123号土坑)
119号土坑	II A11t	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	2.28	1.96	0.81	土器 2965.4g (a1077～1080) 石器 34.0g (c288)	(120号土坑→◎)
120号土坑	II A11t	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.96	1.84	0.52		(◎→119号土坑)
121号土坑	II B8a	古代	不明	半円形	0.76	(0.44)	0.22	土器 398.5g	(◎→B14号堅穴建物)
122号土坑	II A8w	古代以降	不明	半円形	0.62	0.56	0.23		(A136号堅穴建物→◎)
123号土坑	II B10g	中期後～末	貯蔵穴	フラスコ	1.00	0.94	1.73	土器 15851.9g (a1072・1081～1084) 土製品 (e99)	(A195号堅穴建物、116・118号土坑→◎→117号土坑)
124号土坑	II B8f	縄文	貯蔵穴?	不整形	1.02	0.82	0.48		フラスコ状土坑の底部か、(125号土坑→◎)
125号土坑	II B8f	中期中葉	貯蔵穴	フラスコ	1.64	1.42	0.41	土器 260.8g (a1085)	(◎→124号土坑)
126号土坑	II B11a	中期中葉	不明	逆台形	1.54	0.72	0.22	土器 580.3g (a1086)	(A174号堅穴建物→◎)
127号土坑	II B8a	不明	不明	皿形	0.84	0.70	0.21	土器 135.2g	(5号溝→◎)
128号土坑	II B12a	不明	不明	不整形	0.55	0.32	0.22	土器 142.5g	(無し)
129号土坑	II A11y	縄文	陥し穴	逆台形	1.16	1.14	0.69	土器 1579.5g (a640)	副穴1、(A158号堅穴建物→◎)
130号土坑	II B11c	前期末	不明	不整形	1.11	0.72	0.44	土器 1934.5g (a1087) 石器 1573.6g (c1118)	(無し)
131号土坑	II B9j	不明	雨裂?	不整形	2.00	0.90	0.71	土器 534.1g (a1088)	(◎→A118号堅穴建物)
132号土坑	II B10f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.98	1.94	0.45	土器 379.8g、910.7g	(◎→B10号堅穴建物)
133号土坑	II B10e	縄文	不明	逆三角形	0.98	0.84	0.82	土器 62.9g	遺物は134号土坑と一緒に取り上げ、(◎→134号土坑)
134号土坑	II B10e	中期末以降	不明	皿形	1.80	(1.58)	0.22		(133・144号土坑→◎)
135号土坑	II B10f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.56	1.54	1.11	土器 194.9g 石器 41000.0g (c1122)	(◎→B11号堅穴建物)
136号土坑	II B8d	縄文	不明	筒形	1.22	0.78	0.68		(A108号堅穴建物→◎)
137号土坑	II B11c	縄文	不明	箱形	(1.27)	1.01	0.44	土器 2651.8g	(無し)
138号土坑	II B11h	縄文	不明	不整形	1.76	1.03	0.44		(◎→A105号堅穴建物)
139号土坑	II B7c	不明	不明	皿形	0.50	0.44	0.10	土器 111.2g 土器片円盤 21.4g (g60)	(A143号堅穴建物→◎)
140号土坑	II B7c	不明	不明	逆台形	1.10	0.96	0.34	土器 121.7g、石器 0.4g	(A169号堅穴建物→◎)
141号土坑	II B7c	不明	不明	逆台形	0.60	0.54	0.21	土器 150.3g	(A169号堅穴建物→◎)
142号土坑	II B9f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.48	1.30	0.96	土器 1880.1g (b77) 石器 619.2g	(◎→A107号堅穴建物)
143号土坑	II B11c	縄文	不明	逆台形	0.74	0.60	0.28	土器 120.2g	(無し)
144号土坑	II B10e	中期末	貯蔵穴	フラスコ	2.06	1.88	1.16	土器 2796.8g (a1089) 石器 1503.3g (c 1119・1260・1261) 石製品 4.8g、土製品 (e100)	底面に炭化物、(◎→134・152号土坑)
145号土坑	II B11h	縄文	不明	逆台形	2.34	(1.01)	0.62	土器 178.9g	
146号土坑	II A7v	中期後葉	不明	逆台形	1.62	1.27	0.46	土器 14182.1g (a525・1090～1097) 石器 61.3g	(A137・192号堅穴建物→◎)
147号土坑	II B11b	中期前以降	不明	逆台形	1.13	0.66	0.42	土器 212.5g、石器 1.3g	(149号土坑→◎)
148号土坑	II B11b	中期前以降	不明	不整形	(0.88)	(0.79)	0.42	土器 96.7g	(A121号堅穴建物、149号土坑→◎)
149号土坑	II B11b	中期前葉	不明	不整形	(1.14)	(0.60)	0.30	土器 698.1g (a1098) 石器 6.4g	(◎→147・148号土坑)
150号土坑	II B11f	縄文	不明	逆台形	2.00	1.80	0.32	石器 21400.0g	(A133号堅穴建物→◎→151号土坑)
151号土坑	II B11f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.54	1.05	1.12	土器 1279.7g	(150号土坑→◎)
152号土坑	II B10e	中期末以降	貯蔵穴	フラスコ	1.59	1.48	0.91	土器 2251.3g (a1099)	(144号土坑→◎→B11号堅穴建物)
153号土坑	II B9d	縄文	不明	皿形	1.02	0.90	0.16	土器 15.0g	(A117・124・128号堅穴建物→◎→B11号堅穴建物)
154号土坑	II B9d	縄文	不明	逆三角形	0.81	0.76	0.79	土器 40.1g	(A124号堅穴建物→◎)
155号土坑	II B6d	縄文	不明	逆台形	(2.06)	1.18	0.35		(156・157号土坑→◎)
156号土坑	II B6d	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.70	1.40	0.50	土器 109.6g	(◎→155号土坑)
157号土坑	II B6d	縄文	不明	逆台形	1.98	1.68	0.49		(◎→155・162号土坑)
158号土坑	II B7d	縄文	貯蔵穴?	台形	1.58	1.36	0.30	土器 14.6g	フラスコ状土坑の底部か、(無し)
159号土坑	II B7d	縄文	貯蔵穴	フラスコ	0.98	0.97	1.02	土器 799.6g、石器 8.3g	(◎→A122号堅穴建物)
160号土坑	II B8h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.58	(0.62)	0.39	土器 536.2g	(A143号堅穴建物→◎)
161号土坑	II B8g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.30	1.12	1.07	土器 421.4g、石器 9400.0g	(A143号堅穴建物→◎)
162号土坑	II B6e	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.28	0.68	1.00	土器 496.7g	(157号土坑→◎)
163号土坑	II B8h	中期中以前	貯蔵穴	フラスコ	0.97	0.90	1.19	土器 2216.4g (a1100)	(◎→A147号堅穴建物)
164号土坑	II B7f	縄文	貯蔵穴	筒形	1.58	1.25	0.55	土器 217.8g、石器 48.8g	(無し)
165号土坑	II B7f	中期中～後	貯蔵穴	フラスコ	1.26	1.08	0.98	土器 9766.5g (a1075・1101～1103) 石器 4317.1g	(無し)
166号土坑	II B8e	縄文	不明	筒形	1.00	0.54	0.62	土器 34.2g	(◎→A108号堅穴建物)
167号土坑	II B8e	中期中～後	貯蔵穴	フラスコ	1.94	1.14	1.74	土器 1882.3g (a1104) 石器 1116.1g (c1262)	(◎→A107号堅穴建物)

4 土坑

遺構名	グリッド	時代	性格	断面形	計測値 (m)			出土遺物	備考 (重複：右側が新しい)
					長軸	短軸	深さ		
168号土坑	II B7f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.54	1.52	0.81	土器 1470.1g	(無し)
169号土坑	II B8j	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.86	1.53	1.13	土器 541.7g	(無し)
170号土坑	II B8j	中期後以降	貯蔵穴	フラスコ	1.63	1.25	1.62	土器 616.0g	(185号土坑→◎→16号炉)
171号土坑	II B9e	縄文	堅穴?	箱形	2.17	(1.00)	0.42	土器 419.4g	(◎→A117・123号堅穴建物)
172号土坑	II B7g	中期中～後	貯蔵穴	フラスコ	1.48	1.06	1.47	土器 4582.3g (a1105・1106) 石器 742.8g (c1263)	(A194号堅穴建物→◎)
173号土坑	II B8j	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.73	1.43	0.84	土器 76.4g	(174号土坑→◎)
174号土坑	II B8j	縄文	不明	箱形	1.46	(0.88)	0.30		(◎→173・181・189号土坑)
175号土坑	II B8h	中期後葉	貯蔵穴	フラスコ	(1.20)	(0.69)	1.05	土器 2330.4g (a1107・1108) 石器 952.9g (c1264)	(無し)
176号土坑	II B8j	中期中～後	貯蔵穴	フラスコ	(1.46)	0.87	1.47	土器 3065.1g (a1109～1112)	(◎→181号土坑)
177号土坑	II B9h	中期中～後	貯蔵穴	フラスコ	0.82	0.62	1.47	土器 4049.5g (a1103・1104)	(7号溝→◎)
178号土坑	II B7f	縄文	不明	皿形	(1.74)	(0.84)	0.45	土器 431.6g	(179・194号土坑→◎→164・172号土坑)
179号土坑	II B7f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.50	(1.28)	0.59	土器 307.7g	(180号土坑→◎→178号土坑)
180号土坑	II B7f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	(1.50)	1.08	0.62	土器 203.0g	(◎→179号土坑)
181号土坑	II B8j	中期中～後	貯蔵穴	フラスコ	(1.20)	1.08	1.55	土器 3679.8g (a1109～1112)	(174・176号土坑→◎)
182号土坑	II B8c	不明	不明	半円形	0.76	0.66	0.22	土器 304.7g	(A169号堅穴建物→◎)
183号土坑	II B5e	縄文	貯蔵穴	フラスコ	2.12	(0.91)	0.55		(無し)
184号土坑	II A6x	縄文	不明	不整形	1.76	(1.60)	0.32		(◎→A135号堅穴建物)
185号土坑	II B9k	中期中～後	貯蔵穴	フラスコ	1.48	0.98	2.03	土器 2053.0g (a1115・1116)	(無し)
186号土坑	II B8i	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.42	1.12	1.00	土器 803.1g	(◎→A147号堅穴建物)
187号土坑	II B7h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.13	0.98	0.77		(◎→A156号堅穴建物)
188号土坑	II B7g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.84	1.55	1.10	土器 124.2g	(A156号堅穴建物、194号土坑→◎)
189号土坑	II B8i	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.30	1.21	1.20	土器 162.2g	(174号土坑→◎)
190号土坑	II B10d	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.76	(1.46)	0.91	土器 766.2g (a1117)	(A134号堅穴建物→◎→8号溝)
191号土坑	II B6f	中期後葉	貯蔵穴	フラスコ	1.88	1.62	0.98	土器 (a1120)	遺物はA192号堅穴建物と一緒に取り上げ、 (192・193号土坑→◎)
192号土坑	II B6f	中期中葉	不明	半円形	1.72	0.62	0.84	土器 4517.8g (a1118)	註記無し、(◎→191号土坑)
193号土坑	II B6f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	2.82	1.24	0.42	土器 69.9g	(◎→191号土坑)
194号土坑	II B7g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.74	1.51	0.74	土器 158.9g	(◎→178・188号土坑)
195号土坑	II B7h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.05	0.92	0.42	石器 117.2g	(A165号堅穴建物→◎)
196号土坑	II B7i	中期中葉	貯蔵穴	台形	1.90	1.19	0.80	土器 667.4g (a1119)	(無し)
197号土坑	II B5e	中期後葉	貯蔵穴	フラスコ	1.80	1.28	1.02	土器 257.0g (a1120)	(無し)
198号土坑	II B7k	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.94	1.86	0.52		(◎→A168号堅穴建物)
199号土坑	II B7j	縄文	不明	箱形	1.86	0.73	0.54		(無し)
200号土坑	II A12w	縄文	不明	不整形	(1.50)	(0.62)	-	土器 273.9g	(201号土坑→◎→A154号堅穴建物)
201号土坑	II A12w	縄文	不明	皿形	0.90	0.80	0.09		(◎→A154号堅穴建物、200号土坑)
202号土坑	II B8c	縄文	不明	箱形	0.49	0.43	0.20	土器 25.2g	(A169号堅穴建物→◎)
203号土坑	II B7i	縄文	貯蔵穴	フラスコ	-	-	0.40		(◎→A165号堅穴建物)
204号土坑	II A11u	縄文	不明	不整形	(2.00)	(0.82)	0.44	土器 38.3g	(205号土坑→◎→A217号堅穴建物、P3133・ 3134)
205号土坑	II A11u	縄文	不明	不整形	(2.06)	(0.58)	0.25	土器 67.1g	(◎→A217号堅穴建物、204号土坑)
206号土坑	II A12v	不明	不明	逆台形	0.76	0.70	0.49		(A216号堅穴建物、13号溝→◎)
207号土坑	II B7h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.46	1.03	1.06		(208号土坑→◎)
208号土坑	II B7h	中期後葉	貯蔵穴	フラスコ	1.22	0.56	0.37	土器 3260.4g (a1121・1122)	(◎→207号土坑)
209号土坑	II B7h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	0.74	0.52	0.97		(無し)
210号土坑	II B7i	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.12	0.92	1.29	土器 75.3g	(無し)
211号土坑	II B6f	縄文	貯蔵穴	逆台形	(1.20)	1.10	0.94		(◎→219号土坑)
212号土坑	II B6k	縄文	貯蔵穴	筒形	1.08	0.99	1.81		註記・断面図無し、(無し)
213号土坑	II B6k	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.18	1.16	1.52	土器 591.7g	(無し)
214号土坑	II B6h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.46	(0.44)	0.33		(無し)
215号土坑	II B6g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	2.38	1.10	1.11		(無し)
216号土坑	II B7f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.04	(0.94)	1.67	土器 54.0g	(◎→219号土坑)
217号土坑	II B10d	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	2.26	1.49	0.55	土器 9101.3g (a1123～1125)	(◎→A134号堅穴建物) 新旧逆か
218号土坑	II B10a	縄文	不明	不整形	0.85	0.46	0.26	土器 383.9g 石器 1.7g (c170)	(◎→A139号堅穴建物)
219号土坑	II B7g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.76	1.37	0.86		(211・216号土坑→◎)
220号土坑	II B6h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.42	0.94	1.34		(無し)
221号土坑	II A8y	前期末	堅穴?	皿形	(2.33)	2.32	0.30	土器 4548.8g (a1126～1129)	(◎→A162号堅穴建物)
222号土坑	II B7k	縄文	貯蔵穴	フラスコ	0.69	0.55	1.30		(無し)
223号土坑	II B8a	中期中～後	不明	フラスコ	0.84	(0.36)	0.74	土器 361.5g (a1130・1131)	(◎→A142号堅穴建物) 新旧逆か
224号土坑	II A6x	縄文	不明	逆台形	0.91	(0.84)	0.21		(◎→A150号堅穴建物、312号土坑)
225号土坑	II A22d	中期中～後	不明	皿形	1.88	1.20	0.28	土器 270.6g (a1132)	(無し)
226号土坑	II A21f	縄文	不明	逆台形	0.74	0.68	0.54	土器 21.9g 石器 3444.2g (c1120)	(A202号堅穴建物→◎)
227号土坑	II A16l	縄文	不明	箱形	0.90	0.88	0.30	土器 49.1g	(◎→P4002)
228号土坑	II A13r	縄文	陥し穴	逆台形	(1.22)	(0.57)	0.47	土器 575.2g	副穴1、(229号土坑→◎)
229号土坑	II A13r	中期前葉	不明	逆台形	(0.84)	(0.40)	0.27	土器 591.1g (a1134)	(231号土坑→◎→228号土坑)
230号土坑	II A14s	中期	陥し穴	逆台形	(1.17)	(0.42)	0.46	土器 752.8g (a1135)	副穴1、(232号土坑→◎)
231号土坑	II A13s	縄文	不明	皿形	(0.78)	(0.23)	0.15	土器 735.4g	(◎→229号土坑)
232号土坑	II A14s	縄文	不明	逆台形	(1.30)	(0.34)	0.36	土器 269.7g	(233号土坑→◎→230号土坑)
233号土坑	II A14s	縄文	不明	逆台形	(0.70)	(0.32)	0.31	土器 44.3g	(◎→232・234号土坑)
234号土坑	II A14r	縄文	不明	筒形	(0.88)	(0.48)	0.46		(A210・214号堅穴建物、233号土坑→◎)
235号土坑	II A12v	縄文	不明	箱形	(20.60)	(0.73)	0.44	土器 154.1g、石器 187.5g	(無し)
236号土坑	II A10s	中期末	貯蔵穴	フラスコ	1.08	1.02	1.42	土器 1604.4g (a1136・1137)	(◎→A208号堅穴建物) 新旧逆か

遺構名	グリッド	時代	性格	断面形	計測値 (m)			出土遺物	備考 (重複：右側が新しい)
					長軸	短軸	深さ		
237号土坑	II A12r	中期後葉	貯蔵穴	フラスコ	1.58	1.50	1.70	土器 4687.9g (a1138) 石器 15.4g (c 257・258) 土製品 (e7)	(◎→ A215号堅穴建物) 新旧逆か
238号土坑	II A16v	縄文	墓?	箱形	1.85	0.90	0.46		(無し)
239号土坑	II A16w	縄文	不明	逆台形	1.50	(0.61)	0.50	土器 154.6g	(240号土坑→◎)
240号土坑	II A16w	中期後葉	不明	半円形	1.52	(0.44)	0.26	土器 228.1g (a1139・1140)	(246号土坑→◎→239号土坑)
241号土坑	II A16x	縄文	不明	皿形	(1.28)	(0.56)	0.32	土器 60.0g 石器 3610.0g (c1121)	(無し)
242号土坑	II A15x	中期前葉	不明	不整形	1.40	0.90	0.45	土器 597.1g (a1141)	遺物は243号土坑と一緒に取り上げ、(243号土坑→◎)
243号土坑	II A15x	中期前葉	不明	箱形	1.32	(0.52)	0.58	土器 (a1141)	(◎→242号土坑)
244号土坑	II A15x	中期中～後	不明	逆台形	(2.04)	(1.50)	0.30	土器 1217.0g (a1142)	(◎→245号土坑)
245号土坑	II A15x	中期中～後	不明	逆台形	(1.20)	(0.98)	0.23	土器 2977.0g (a1143)	註記無し、(244号土坑→◎→246号土坑)
246号土坑	II A16x	中期中～後	不明	不整形	(1.92)	1.78	0.62	土器 6253.9g (a1143～1146) 石器 3201.6g	(245号土坑→◎→240号土坑)
247号土坑	II A16w	縄文	不明	不整形	1.00	(0.56)	0.60	土器 1707.1g	杭痕か、(A221号堅穴建物→◎)
248号土坑	II A15r	縄文	不明	皿形	1.68	1.30	0.37		(A211号堅穴建物→◎)
249号土坑	II A15p	縄文	不明	箱形	1.22	(1.00)	0.45	石器 11445.7g	(◎→A227号堅穴建物)
250号土坑	II A15s	中期前葉	不明	逆台形	1.16	(0.52)	0.38	土器 1758.8g (a1147・1148)	(無し)
251号土坑	II A17u	中期中葉	不明	箱形	0.66	(0.35)	0.44	土器 373.2g (a1149)	(無し)
252号土坑	II A14p	縄文	不明	不整形	0.85	0.70	1.11	土器 46.6g 石器 11.8g (c1015)	(◎→A228号堅穴建物)
253号土坑	II A14p	縄文	不明	不整形	0.70	0.68	0.85	土器 19.1g	(◎→A228号堅穴建物)
254号土坑	II A20y	縄文	不明	箱形	1.36	0.72	0.49	土器 11.0g	(無し)
255号土坑	II B18b	縄文	不明	皿形	1.00	0.71	0.20		(無し)
256号土坑	II B18b	縄文	不明	逆台形	1.46	1.01	0.27	土器 13.9g	(無し)
257号土坑	II B18b	縄文	不明	逆台形	1.08	0.53	0.27	土器 28.3g	(無し)
258号土坑	II B19b	縄文	不明	皿形	1.28	0.68	0.17		(無し)
259号土坑	II A20y	縄文	不明	逆台形	0.88	0.66	0.27	土器 26.5g	註記無し、(無し)
260号土坑	II B19b	中期前葉	不明	逆台形	0.75	(0.55)	0.16	土器 27.9g (a1150)	註記無し、(◎→261号土坑)
261号土坑	II B19b	縄文	不明	逆台形	1.04	0.72	0.13	土器 83.1g	註記無し、(260号土坑→◎)
262号土坑	II A20x	縄文	不明	皿形	1.18	1.14	0.16		(無し)
263号土坑	II A20y	縄文	不明	逆台形	0.98	0.60	0.25	土器 45.7g	註記無し、(無し)
264号土坑	II B19b	中期後葉	不明	皿形	1.20	1.01	0.14	土器 137.5g (a1151)	(◎→P5023・5024)
265号土坑	II B16c	縄文	不明	半円形	1.29	1.21	0.32		(◎→P5126・5127)
266号土坑	II B19c	縄文	不明	逆台形	(1.26)	1.62	0.10	土器 40.5g	註記無し、(無し)
267号土坑	II B19c	縄文	不明	逆台形	0.83	(0.80)	0.14	土器 13.9g	註記無し、(無し)
268号土坑	II B19f	縄文	不明	皿形	0.64	(0.34)	0.12	土器 32.1g	(◎→9号土坑)
269号土坑	II B19e	縄文	不明	皿形	1.10	0.81	0.41	土器 10.1g	(無し)
270号土坑	II A17v	中期後葉	不明	皿形	2.34	0.89	0.39	土器 5369.7g (a1152・1153) 土器片円盤 13.0g (g61)	(◎→P5245)
271号土坑	II B16a	中期中～後	不明	逆台形	0.85	0.76	0.18	土器 36.8g (a1154) 石器 1.8g (c51)	(無し)
272号土坑	II A16y	縄文	不明	逆台形	1.01	0.80	0.29	土器 31.5g	註記無し、(無し)
273号土坑	II A16x	中期中～後	不明	半円形	1.28	1.00	0.32	土器 275.6g (a1155)	(◎→P5273)
274号土坑	II A20w	縄文	不明	逆台形	1.10	1.02	0.60		
275号土坑	II A17x	中期後葉	不明	箱形	1.33	(1.18)	0.53	土器 388.2g (a1156)	(◎→P5306・6480)
276号土坑	II A18v	縄文	不明	皿形	1.19	1.15	0.60	土器 152.3g	(◎→P6513)
277号土坑	II A17v	中期中～末	不明	箱形	1.94	1.82	0.70	土器 765.3g (a1157)	(◎→P5247～5249・5290・6377・6378・6458)
278号土坑	II B17b	縄文	不明	不整形	1.08	0.62	0.39		(無し)
279号土坑	II B19b	縄文	不明	不整形	1.05	0.78	0.35		註記・断面図無し、(無し)
280号土坑	II B19b	縄文	不明	不整形	1.42	0.92	0.46		註記・断面図無し、(無し)
281号土坑	II B19c	縄文	不明	逆台形	1.13	0.55	0.13		註記無し、(無し)
282号土坑	II B17c	縄文	不明	逆台形	0.66	0.62	0.23	土器 37.1g	(A236号堅穴建物、P5156・5190・7150→◎)
283号土坑	II A19y	中期前葉	墓?	箱形	1.34	0.67	0.81	土器 120.8g (a1158)	(無し)
284号土坑	II B17a	前期末	不明	逆台形	0.68	0.64	0.20	土器 258.8g (a1159)	註記無し、(◎→P5331)
285号土坑	II B17a	縄文	墓?	逆台形	1.68	0.64	0.38	土器 82.4g	註記無し、(◎→P6578～6582)
286号土坑	II B17a	縄文	不明	筒形	0.60	0.55	0.66	土器 65.9g	(無し)
287号土坑	II B18a	縄文	不明	不整形	0.83	0.66	0.24	土器 97.1g	北壁に段差有り、(無し)
288号土坑	II A18y	中期中葉	墓?	逆台形	1.28	0.75	0.34	土器 108.5g (a1160)	註記無し、(◎→P6610)
289号土坑	II A18x	縄文	不明	逆台形	0.88	0.72	0.78	土器 18.8g	(無し)
290号土坑	II A18y	縄文	不明	皿形	0.84	0.83	0.09	土器 30.7g	(◎→P5362)
291号土坑	II A16w	縄文	不明	皿形	1.54	1.54	0.14		註記無し、(◎→P5250・6366～6368・6456・6457)
292号土坑	II A17y	縄文	不明	逆台形	1.50	0.66	0.41		註記無し、(◎→P6604・6605)
293号土坑	II A18w	縄文	不明	逆台形	0.93	0.55	0.20		註記無し、(◎→P6521)
294号土坑	II B16f	縄文	不明	箱形	1.54	1.46	0.37	土器 27.8g	(◎→A231号堅穴建物、P7136)
295号土坑	II A19r	前期初頭	不明	筒形	0.82	0.79	0.62	土器 538.2g (a1161)	(無し)
296号土坑	II B16g	中期中葉	貯蔵穴	フラスコ	0.89	0.82	-	土器 1967.9g (a1162・1163)	湧水・崩落により底面付近未掘、(◎→P5531)
297号土坑	II B16e	縄文	不明	箱形	0.66	0.64	0.50	土器 12.3g	(P7074→◎)
298号土坑	II B19c	中期前葉	不明	箱形	0.76	0.67	0.36	土器 65.7g (a1165)	(無し)
299号土坑	II B18e	縄文	不明	箱形	0.77	0.70	0.30	土器 18.9g	(無し)
300号土坑	II B18e	縄文	不明	逆台形	0.62	0.60	0.24	土器 31.4g	副穴1、(◎→P7144)

4 土坑

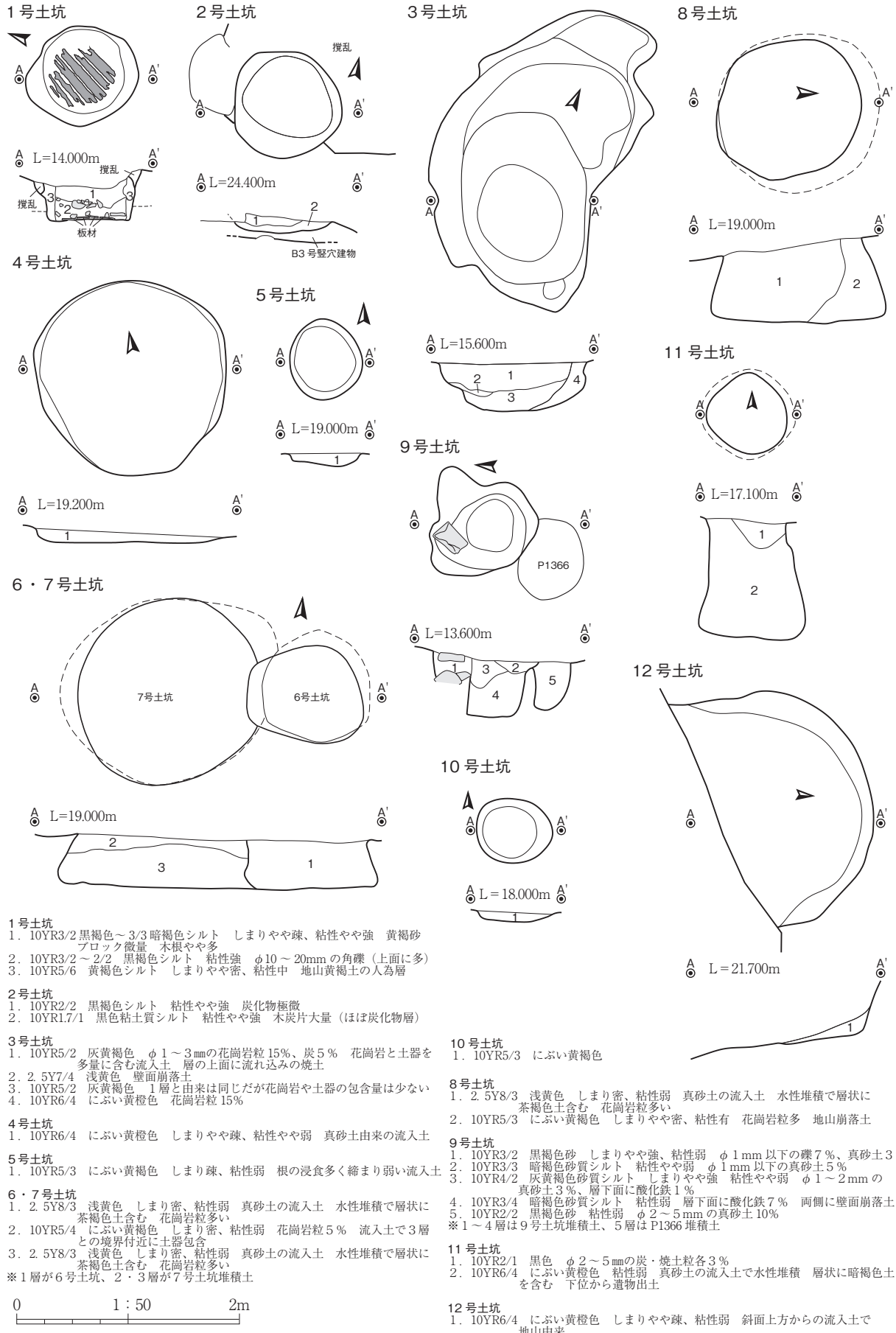
遺構名	グリッド	時代	性格	断面形	計測値 (m)			出土遺物	備考 (重複：右側が新しい)
					長軸	短軸	深さ		
301号土坑	II B17e	中期中～後	不明	箱形	1.08	0.84	0.51	土器 189.1g (a1166)	(A239号堅穴建物→◎)
302号土坑	II B17e	縄文	不明	筒形	0.74	0.56	0.65		二段階に掘り込み、(無し)
303号土坑	II B17c	縄文	不明	不整形	0.58	(0.28)	0.22	土器 94.4g	註記無し、(◎→A235号堅穴建物)
304号土坑	II B16e	縄文	不明	筒形	1.13	0.67	0.67	土器 2306.5g	二段階に掘り込み、(◎→P5491・5512・7016)
305号土坑	II B17d	縄文	不明	逆台形	0.88	0.62	0.29	土器 42.3g	註記無し、(A235号堅穴建物→◎)
306号土坑	II B17e	縄文	不明	逆台形	0.71	0.54	0.15	土器 75.7g	(A234号堅穴建物→◎)
307号土坑	II B16f	中期後葉	不明	箱形	1.16	0.75	0.82	土器 1112.9g (a1167)	(無し)
308号土坑	II B17f	中期中～後	不明	半円形	0.95	0.94	0.38	土器 31.9g (a1168)	(無し)
309号土坑	II B17f	縄文	不明	箱形	1.32	1.06	0.64	土器 343.4g	(無し)
310号土坑	II B17e	縄文	不明	箱形	1.16	0.93	0.40		(◎→P7156・7215)
311号土坑	II B19a	縄文	墓?	逆台形	1.12	(0.98)	0.52	土器 175.8g	北壁付近に板石、(◎→P5330)
312号土坑	II A6x	縄文	不明	逆台形	0.72	0.66	0.18	土器 724.2g	南側に焼土伴う、(224号土坑→◎→A150号堅穴建物)

127基確認した。いわゆるフラスコ状土坑と呼ばれるもので、断面形が逆台形又はハの字形になる。壁面の角度も底部から直線的になるものと中位付近で屈曲するものがある。貯蔵穴の次に多いのは陥し穴であるが、可能性があるものを含め9基と貯蔵穴より圧倒的に少ない。平面形が円形、断面形が筒形になるもので、底面中央付近に副穴を持つ。ただし、性格不明とした土坑のうち52・54・83・184号土坑等は、検出面からの深さが浅く副穴も持たないが、陥し穴と形状が類似していることから本来は陥し穴であった可能性もある。この他、平面形が長方形又は長楕円形、断面形が箱形又は逆台形となる6基(49・238・283・285・288・311号土坑)は、出土遺物に乏しいが形態から墓の可能性が考えられる。また、平面形が円形で、底面が平坦で副穴(柱穴)を有する等の特徴を持った3基(73・171・221号土坑)は、規模の小さい堅穴建物であった可能性が考えられる。縄文時代の土坑では、220基で遺物の出土が確認されているが、主体は土器・石器類である。縄文土器は前期初頭、大木2～10式、円筒下層d式、円筒上層a式の土器が出土しているが、なかでも大木6式の出土量が比較的多い。その他、貯蔵穴5基(17・53・75～77号土坑)から動物遺存体が出土している(第VI章第4節)。75～77号土坑ではアサリを主体とした貝類やスズキ等の魚類、ニホンジカ等の獣類、17号土坑ではアシカ、53号土坑ではニホンジカが確認されている。

古代(以降)の土坑は、縄文時代のものと同じく平面形が長方形、断面形が箱形のもの1基(92号土坑)が墓と考えられる。その他の4基は出土遺物や他遺構との重複関係からこの時期としたが、性格については不明である。

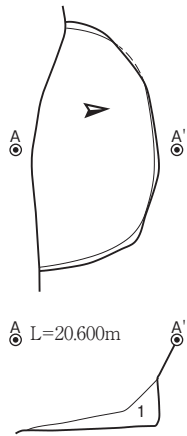
近世とした3基(68～70号土坑)は、同一地点で掘削された土坑である。検出時には黒褐色土が広範囲に分布する不整形プランとして認識しており、掘り下げの結果、3基の土坑が重複していることが判明した。いずれも平面形・断面形ともに不整形である。69号土坑からは鉄滓と炭化物が出土しており、隣接する3号溝と同じく鉄生産関連遺物の廃棄場であった可能性がある。

近世以降とした1基(1号土坑)は、平面形が円形で、底面には幅約20cm・厚さ2cm程度の板材が敷き並べられていた。敷板は径120cmの範囲に並列し、各板材の端部は範囲の周縁に沿って弧状に加工されている。底面の敷板は一見して桶底様であり、遺構内部に側板らしい板材は遺存していないが、敷板範囲の周縁に側板の下端と考えられる痕跡が認められることから、木桶を埋設した墓の可能性が考えられる。なお、堆積土3層は土坑と容器外部との空隙を埋める充填土と考えられる。

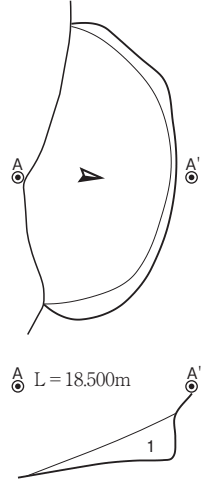


第181図 1～12号土坑

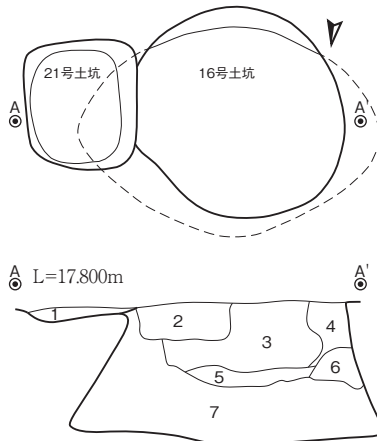
13号土坑



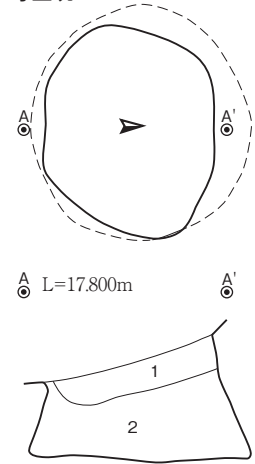
14号土坑



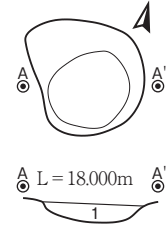
16・21号土坑



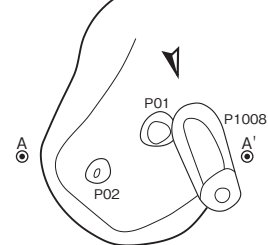
17号土坑



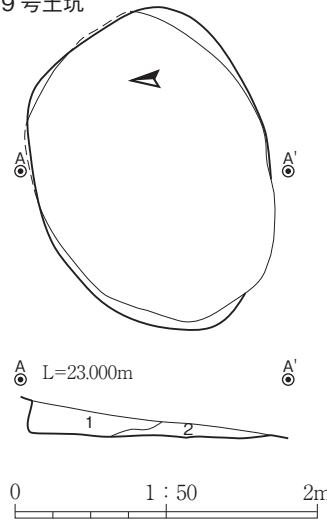
15号土坑



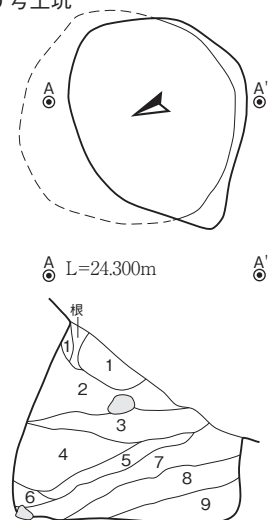
18号土坑



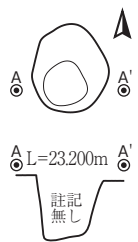
19号土坑



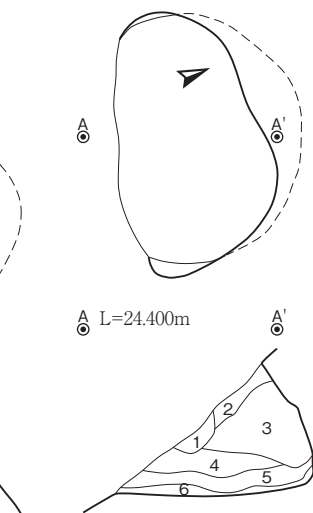
20号土坑



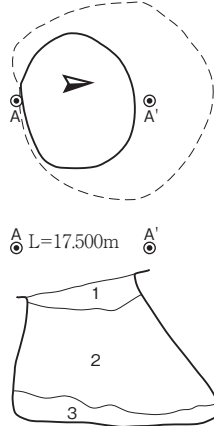
22号土坑



23号土坑



24号土坑



16・21号土坑

1. 10YR6/4 にぶい黄橙色 粘性やや弱 花崗岩粒多い
 2. 10YR4/2 灰黄褐色 粘性やや弱 φ1~3mmの炭2% 人為堆積
 3. 2.5Y7/3 浅黄色砂質土 しまり密、粘性弱 φ10~20mmの花崗岩3%、炭2%
 4. 10YR7/4 にぶい黄橙色 しまり密、粘性弱 花崗岩粒40% 壁面崩落土
 5. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土 粘性弱 炭10%
 6. 壁面崩落土 花崗岩ブロック
 7. 2.5Y7/2 灰黄色 粘性弱 粗い砂質土 水成堆積でにぶい黄褐色土層状に含む
- *1層は21号土坑、2~7層は16号土坑堆積土

18号土坑

1. 10YR5/2 灰黄褐色 P1008 堆積土
2. 10YR6/4 にぶい黄橙色 しまりやや疎、粘性やや弱 真砂土由来の流入土

19号土坑

1. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱

20号土坑

1. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱
2. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱
3. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱 φ10mmの真砂土10%
4. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱 φ5mmの真砂土1%
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱 φ10mmの炭1%
6. 10YR3/3 暗褐色シルト しまり密 φ10mmの炭1%
7. 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト しまり密、粘性やや弱 φ5mmの真砂土1%
8. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性やや弱 真砂土ブロックが帯状に堆積
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト しまり密、粘性やや弱

23号土坑

1. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱
2. 5Y7/3 浅黄色砂質シルト しまりやや密、粘性弱
3. 2.5Y8/3 淡黄色砂質シルト しまりやや密、粘性弱 φ10mmの真砂土15% 壁面崩落土か
4. 10YR7/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性やや弱 φ10mmの真砂土5%
5. 10YR7/2 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱
6. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密

24号土坑

1. 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまり密 φ5~10mmの花崗岩粒と土器片含む 斜面上方からの流入土
2. 2.5Y7/4 浅黄色 しまりやや密、粘性やや弱 真砂土の流入土で水性堆積 遺物含む
3. 10YR4/2 灰黄褐色 花崗岩粒と遺物を含む 流入土

- 13号土坑
1. 10YR6/4 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 真砂土由来の流入土

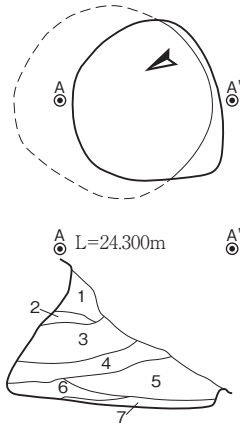
- 14号土坑
1. 10YR6/4 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性弱 斜面上方からの流入土で 地山由来 西壁付近に遺物集中

- 15号土坑
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまり疎、粘性弱 根の浸食多く締まり弱い

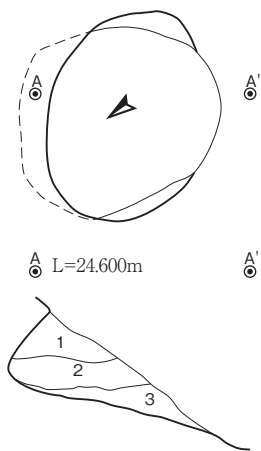
- 17号土坑
1. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密 φ1~3mmの炭5%、花崗岩粒10% 人為堆積か
 2. 2.5Y8/3 浅黄色 しまり密、粘性弱 真砂土の流入土 水性堆積で層状に 茶褐色土含む 花崗岩粒多い

第182図 13~24号土坑

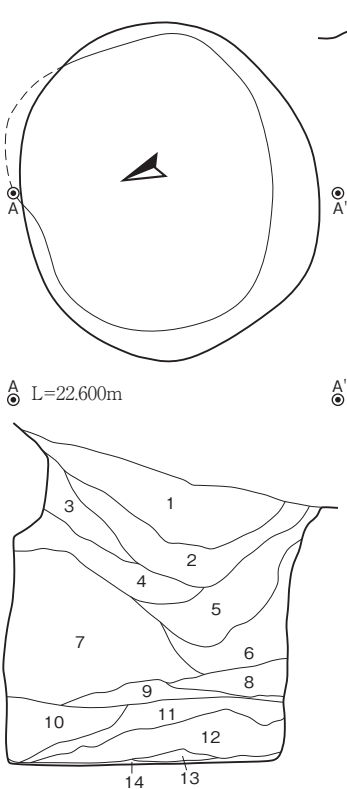
25号土坑



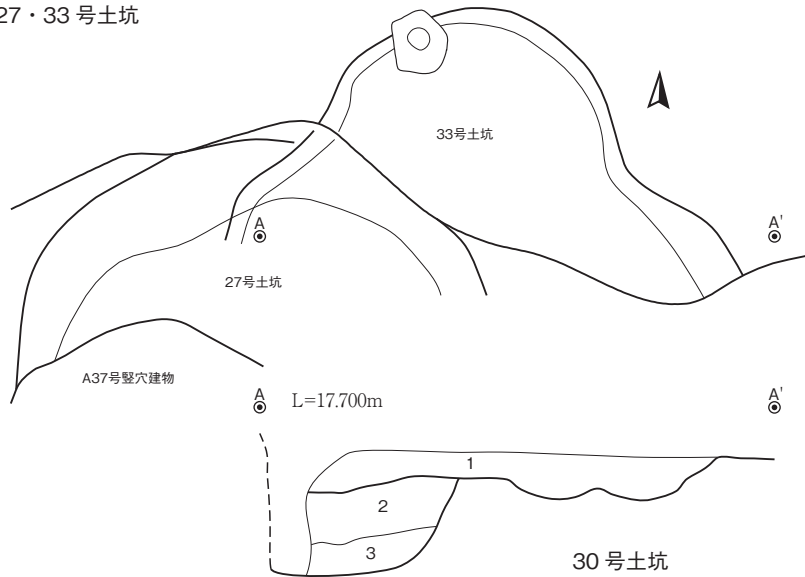
26号土坑



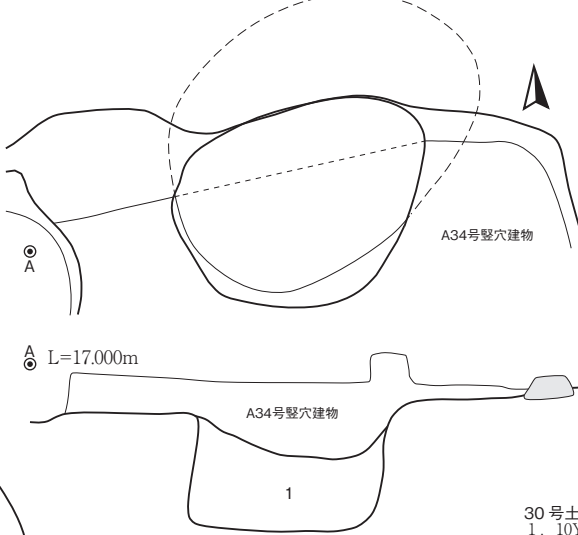
29号土坑



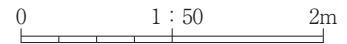
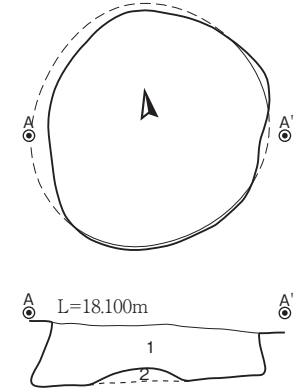
27・33号土坑



28号土坑



30号土坑



30号土坑

1. 10YR6/2 灰黄褐色細砂 しまりやや強、粘性弱 真砂土板状に20%
2. 花崗岩層（地山か）

25号土坑

1. 10YR7/3 におい黄褐色砂質シルト しまり有、粘性弱
2. 10YR6/3 におい黄褐色砂質シルト しまりやや密、粘性弱 φ50mmの真砂土ブロック10%
3. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱 φ1mmの炭1%
4. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性弱
5. 2.5Y7/3 浅黄色砂質シルト しまりやや密、粘性弱
6. 10YR7/3 におい黄褐色砂質シルト しまりやや密、粘性弱 φ5~10mmの炭1%
7. 10YR6/3 におい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱

26号土坑

1. 10YR7/3 におい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱
2. 10YR6/3 におい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱 φ100~150mmの真砂土ブロック20%、φ10mmの炭1%
3. 10YR7/2 におい黄褐色砂質シルト しまりやや疎、粘性弱

27・33号土坑

1. 2.5Y6/3 におい黄色 しまり密、粘性やや弱 10YR4/2 灰褐色土30%
 2. 10YR5/4 におい黄褐色 しまり密、粘性弱 花崗岩粒5% 流入土で3層との境界付近に土器包含
 3. 10YR7/4 におい黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱 壁面崩落土
- ※1層は33号土坑、2・3層は27号土坑堆積土

28号土坑

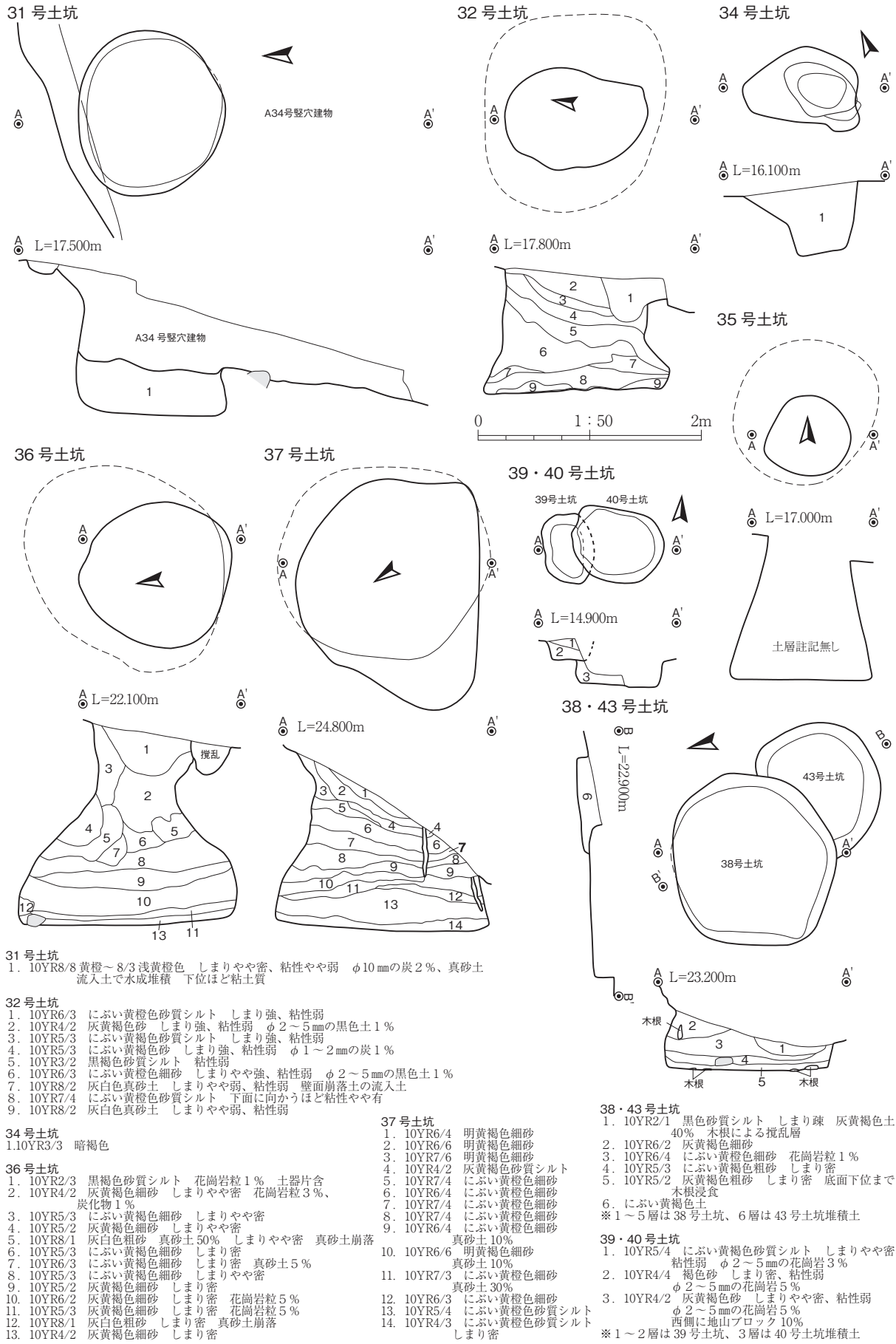
1. 10YR6/6 におい黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱 φ10~20mmの炭3% 流入土と崩落土の混合

29号土坑

1. 10YR2/3 黒褐色シルト しまり密、粘性弱 φ2mmの真砂土15%、φ5mmの炭1%
2. 10YR4/3 におい黄褐色シルト しまり密、粘性弱 φ2mmの真砂土10%
3. 10YR5/4 におい黄褐色シルト しまり密、粘性弱 φ2mmの真砂土5%
4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト しまり密、粘性弱 φ20mmの真砂土30%
5. 10YR5/3 におい黄褐色シルト しまり密、粘性弱 φ2mmの真砂土3%
6. 2.5Y7/3 浅黄色砂質シルト 粘性弱 φ10~20mmの真砂土20%
7. 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性弱 真砂土と互層で堆積
8. 10YR7/2 におい黄褐色砂質シルト しまりやや密、粘性弱 地山崩落層
9. 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱 φ10mmの真砂土1%
10. 10YR7/3 におい黄褐色粗砂 真砂土 しまりやや密
11. 10YR6/4 におい黄褐色細砂 真砂土の腐触土 しまり密
12. 10YR7/3 におい黄褐色粗砂 真砂土 しまりやや密
13. 10YR6/4 におい黄褐色細砂 真砂土の腐触土 しまり密
14. 10YR5/4 におい黄褐色砂質粘土 しまり密

第183図 25~30・33号土坑

4 土坑

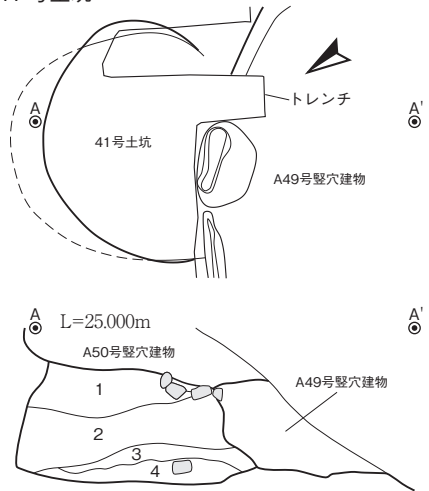


- 31号土坑**
 1. 10YR8/8 黄橙～8/3 浅黄橙色 しまりやや密、粘性やや弱 φ10mmの炭2%、真砂土
 流入土で水成堆積 下位ほど粘土質
- 32号土坑**
 1. 10YR6/3 におい黄褐色砂質シルト しまり強、粘性弱
 2. 10YR4/2 灰黄褐色砂 しまり強、粘性弱 φ2～5mmの黒色土1%
 3. 10YR5/3 におい黄褐色砂質シルト しまり強、粘性弱
 4. 10YR5/3 におい黄褐色砂 しまり強、粘性弱 φ1～2mmの炭1%
 5. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性弱
 6. 10YR6/3 におい黄褐色細砂 しまりやや強、粘性弱 φ2～5mmの黒色土1%
 7. 10YR8/2 灰白色真砂土 しまりやや弱、粘性弱 壁面崩落土の流入土
 8. 10YR7/4 におい黄褐色砂質シルト 下面に向かうほど粘性やや有
 9. 10YR8/2 灰白色真砂土 しまりやや弱、粘性弱
- 34号土坑**
 1. 10YR3/3 暗褐色
- 36号土坑**
 1. 10YR2/3 黒褐色砂質シルト 花崗岩粒1% 土器片含
 2. 10YR4/2 灰黄褐色細砂 しまりやや密 花崗岩粒3%、炭化物1%
 3. 10YR5/3 におい黄褐色細砂 しまりやや密
 4. 10YR5/2 灰黄褐色細砂 しまりやや密
 5. 10YR8/1 灰白色粗砂 真砂土50% しまりやや密 真砂土崩落
 6. 10YR5/3 におい黄褐色細砂 しまり密
 7. 10YR6/3 におい黄褐色細砂 しまり密 真砂土5%
 8. 10YR5/3 におい黄褐色細砂 しまりやや密
 9. 10YR5/2 灰黄褐色細砂 しまり密
 10. 10YR6/2 灰黄褐色細砂 しまり密 花崗岩粒5%
 11. 10YR5/3 灰黄褐色細砂 しまり密 花崗岩粒5%
 12. 10YR8/1 灰白色粗砂 しまり密 真砂土崩落
 13. 10YR4/2 灰黄褐色細砂 しまり密
- 37号土坑**
 1. 10YR6/4 明黄褐色細砂
 2. 10YR6/6 明黄褐色細砂
 3. 10YR7/6 明黄褐色細砂
 4. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト
 5. 10YR7/4 におい黄褐色細砂 真砂土10%
 6. 10YR6/4 におい黄褐色細砂 真砂土30%
 7. 10YR7/4 におい黄褐色細砂
 8. 10YR7/4 におい黄褐色細砂
 9. 10YR6/4 におい黄褐色細砂
 10. 10YR6/6 明黄褐色細砂
 11. 10YR7/3 真砂土10%
 12. 10YR6/3 におい黄褐色細砂
 13. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト
 14. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト しまり密

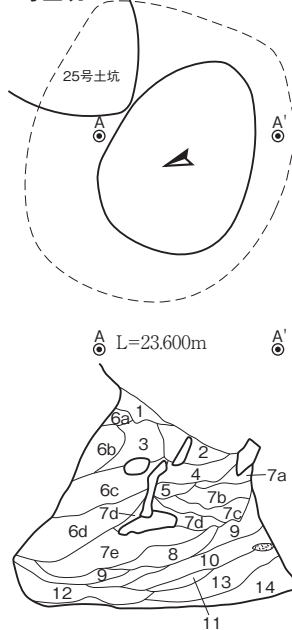
- 38・43号土坑**
 1. 10YR2/1 黒色砂質シルト しまり疎 灰黄褐色土40% 木根による攪乱層
 2. 10YR6/2 灰黄褐色細砂
 3. 10YR6/4 におい黄褐色細砂 花崗岩粒1%
 4. 10YR5/3 におい黄褐色粗砂 しまり密
 5. 10YR5/2 灰黄褐色粗砂 しまり密 底面下位まで木根浸食
 6. におい黄褐色土
 ※1～5層は38号土坑、6層は43号土坑堆積土
- 39・40号土坑**
 1. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト しまりやや密、粘性弱 φ2～5mmの花崗岩3%
 2. 10YR4/4 褐色砂 しまり密、粘性弱 φ2～5mmの花崗岩5%
 3. 10YR4/2 灰黄褐色砂 しまりやや密、粘性弱 φ2～5mmの花崗岩5%
 西側に地山ブロック10%
 ※1～2層は39号土坑、3層は40号土坑堆積土

第184図 31・32・34～40・43号土坑

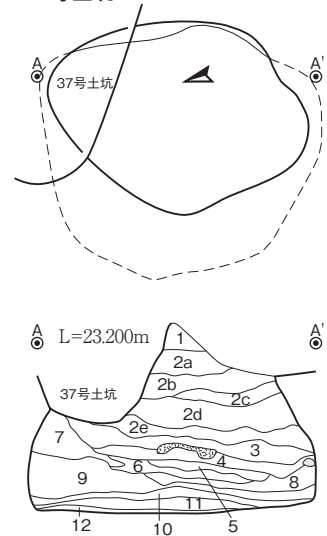
41号土坑



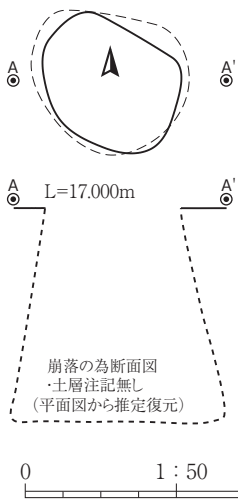
42号土坑



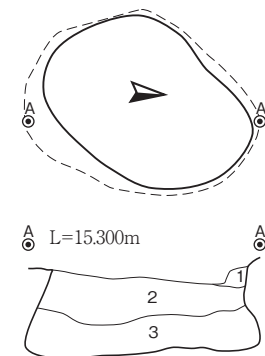
44号土坑



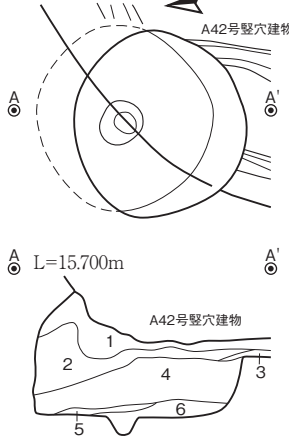
45号土坑



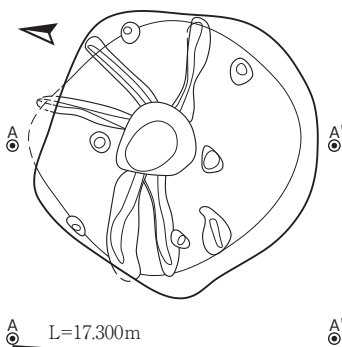
46号土坑



47号土坑



48号土坑



41号土坑

- 1. 10YR8/2 灰白色シルト～極細砂 粘性弱 粗砂～細礫10%
- 2. 2. 5Y6/2 灰黄色極細砂～細砂 粘性無 粗砂～細礫25%
- 3. 2. 5Y5/1 黄灰色極細砂～細砂 粘性無 粗砂～細砂5%
- 4. 10YR7/2 黄灰色シルト～極細砂 しまりやや密、粘性弱 粗砂～細礫10%

42号土坑

- 1. 10YR2/2 黒褐色シルト しまり疎 木根含
- 2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 木根含
- 3. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 炭1%
- 4. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 木根含 炭1%
- 5. 10YR4/4 褐色砂質シルト 炭化物1%
- 6. 10YR5/3 におい黄褐色と10YR8/2灰白色の混合粗砂 しまり密 真砂土上におい黄褐色土が堆積
- 6a. 10YR5/3 におい黄褐色と10YR8/2灰白色の混合粗砂 しまり密 におい黄褐色土3%
- 6b. 10YR5/3 におい黄褐色と10YR8/2灰白色の混合粗砂 しまり密 におい黄褐色土5%
- 6c. 10YR5/3 におい黄褐色と10YR8/2灰白色の混合粗砂 しまり密 におい黄褐色土40%、炭5%
- 6d. 10YR5/3 におい黄褐色と10YR8/2灰白色の混合粗砂 しまり密 におい黄褐色土10%
- 7a. 10YR6/4 におい黄褐色細砂 木根含
- 7b. 10YR6/4 におい黄褐色細砂 木根含
- 7c. 10YR6/4 におい黄褐色細砂 木根含
- 7d. 10YR6/4 におい黄褐色細砂 木根含
- 7e. 10YR5/4 におい黄褐色細砂
- 8. 10YR2/3 黒褐色と10YR5/4 におい黄褐色の混合シルト におい黄褐色土10%、炭5%
- 9. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト
- 10. 10YR6/3 におい黄褐色細砂 木根含 土器片含
- 11. 10YR5/4 におい黄褐色細砂
- 12. 10YR6/3 におい黄褐色細砂
- 13. 10YR5/3 におい黄褐色細砂
- 14. 10YR5/6 黄褐色粘土 しまり密

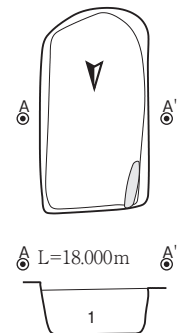
47号土坑

- 1. 7. 5YR6/4 におい橙色 φ1～3mmの炭2% やや粘土質
- 2. 10YR7/3 におい黄褐色砂質土 しまりやや疎、粘性やや弱 φ1～3mmの炭2% 地山崩落土
- 3. 7. 5YR6/4 におい橙色粘土 しまりやや密、粘性強 水成堆積の粘土層
- 4. 7. 5YR6/4 におい橙色 φ1～3mmの炭2% やや粘土質
- 5. 10YR7/3 におい黄褐色砂質土 しまりやや疎、粘性やや弱 φ1～3mmの炭2% 地山崩落土
- 6. 7. 5YR6/4 におい橙色 φ1～3mmの炭2% やや粘土質

46号土坑

- 1. 10YR5/2 灰黄褐色 地山黄色ブロック10%
- 2. 10YR5/2 灰黄褐色 下位に黄色ブロック、部分的に炭含む
- 3. 10YR4/2 灰黄褐色 花崗岩粒少量 遺物出土

49号土坑



48号土坑

- 1. 灰黄褐色土 花崗岩粒15%

49号土坑

- 1. 黒褐色土 礫含む

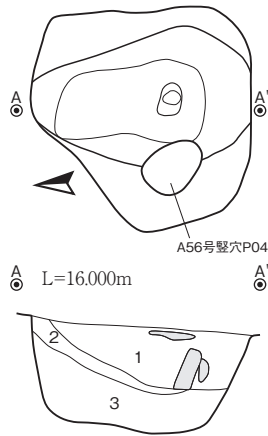
44号土坑

- 1. 10YR8/1 灰白色真砂土 しまり密
- 2a. 10YR6/3 におい黄褐色細砂
- 2b. 10YR6/3 におい黄褐色細砂
- 2c. 10YR6/3 におい黄褐色細砂
- 2d. 10YR6/3 におい黄褐色細砂
- 2e. 10YR6/3 におい黄褐色細砂
- ※におい黄褐色土の上に筋状に黄褐色土層が入る
- ※2a～2eはにおい黄褐色土の互層堆積
- 3. 10YR6/4 におい黄褐色細砂 しまりやや密
- 4. 10YR3/4 暗褐色シルト
- 5. 10YR6/3 におい黄褐色細砂 炭化物1%
- 6. 10YR3/3 暗褐色シルト
- 7. 10YR6/3 におい黄褐色細砂
- 8. 10YR2/3 黒褐色シルト におい黄褐色土10%
- 9. 10YR5/4 におい黄褐色 しまり密
- 10. 10YR3/2 黒褐色土砂質シルト 炭化物3%
- 11. 10YR6/3 におい黄褐色細砂 しまり密
- 12. 10YR6/6 明黄褐色粘土 しまり密 火山灰起源の土

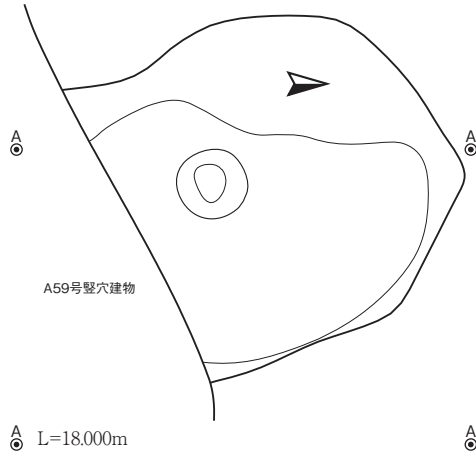
第185図 41・42・44～49号土坑

4 土坑

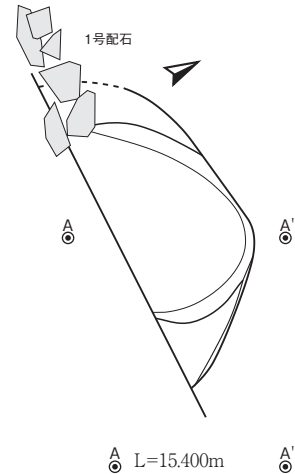
50号土坑



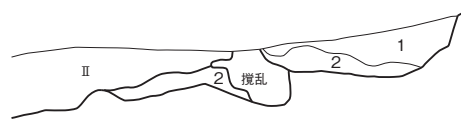
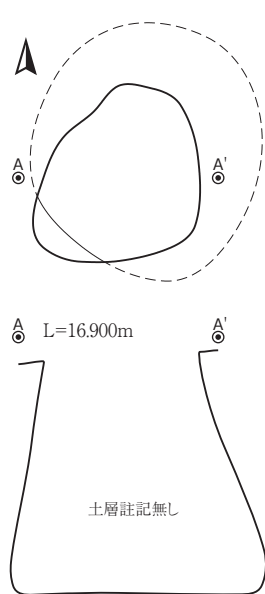
51号土坑



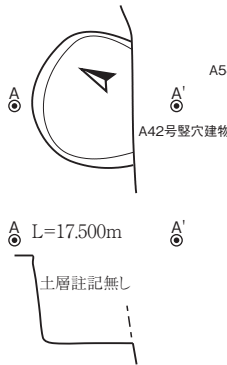
52号土坑



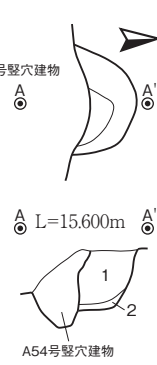
53号土坑



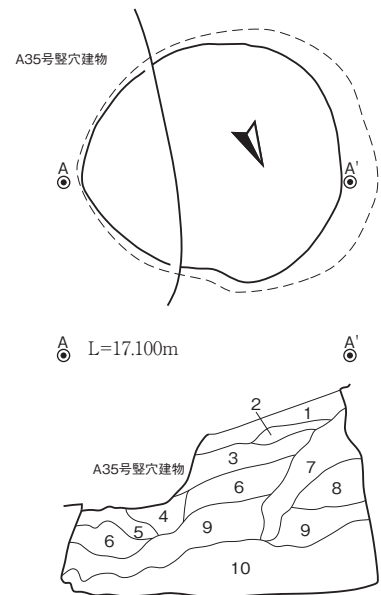
54号土坑



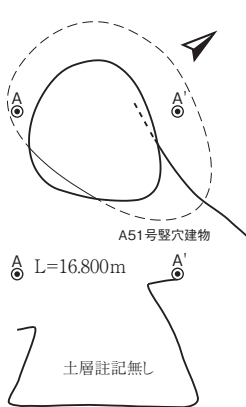
55号土坑



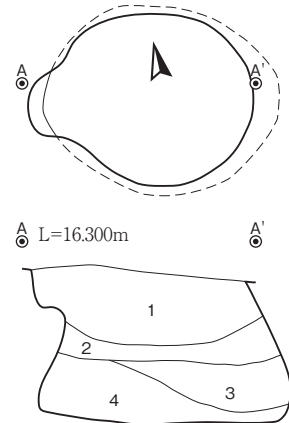
56号土坑



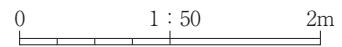
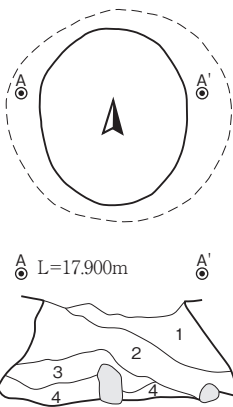
57号土坑



58号土坑



59号土坑



52号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色 花崗岩粒少量

56号土坑
1. 10YR3/2 黒褐色 φ1~3mmの炭2%
2. 7.5YR6/6 橙色 しまりやや疎、粘性やや弱 焼土の流入層か
3. 10YR3/1 黒褐色
4. 10YR5/2 灰黄褐色 花崗岩粒多い
5. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒多い
6. 10YR3/1 黒褐色 地山崩落ブロック含む
7. 10YR3/2 黒褐色 やや砂質 根攪乱か
8. 10YR3/1 黒褐色 地山崩落ブロック多い
9. 10YR3/1 黒褐色
10. 2.5Y8/3 浅黄色 しまり疎、粘性弱 地山崩落土

50号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性無 炭2%、花崗岩粒3%
2. 10YR4/4 褐色 しまり密、粘性無 花崗岩粒3%
3. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性弱 花崗岩粒3%

51号土坑
1. 10YR4/1 褐灰色と10YR5/2灰黄褐色の混合土 しまりやや疎 後世の人為堆積
2. 2.5Y8/3 浅黄色砂 しまり疎、粘性弱

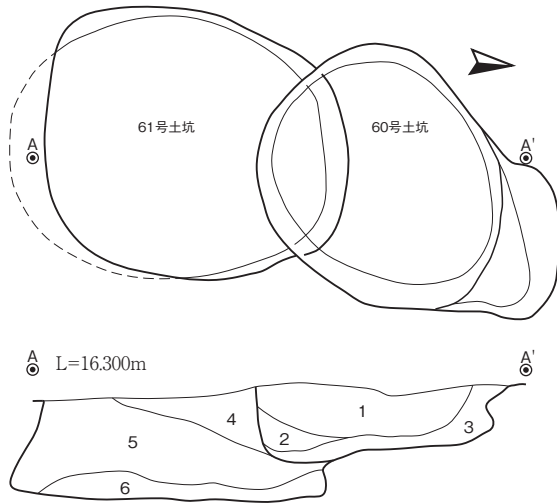
55号土坑
1. 10YR3/1 黒褐色 しまりやや密、粘性無 炭3%、花崗岩粒2%
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性無 炭2%、花崗岩粒3%

58号土坑
1. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや疎、粘性無
2. 10YR4/4 褐色 しまりやや疎、粘性弱 10YR2/3 黒褐色 20%
3. 10YR5/8 黄褐色 しまりやや疎、粘性弱 10YR3/3 暗褐色 20%
4. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質土 しまりやや疎、粘性弱

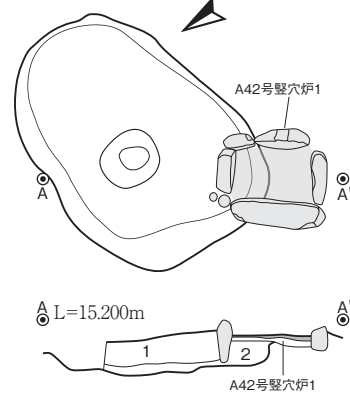
59号土坑
1. 10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 層状に黒色土含む
2. 2.5Y8/4 浅黄色と10YR3/1黒褐色の混合土
3. 2.5Y8/3 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 粒子細かい 真砂土の流入土
4. 10YR3/2 黒褐色 炭含む 水成堆積

第186図 50~59号土坑

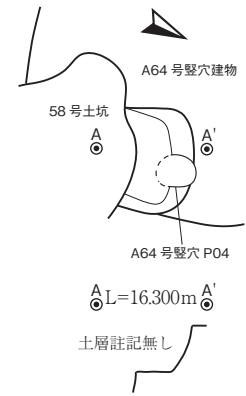
60・61号土坑



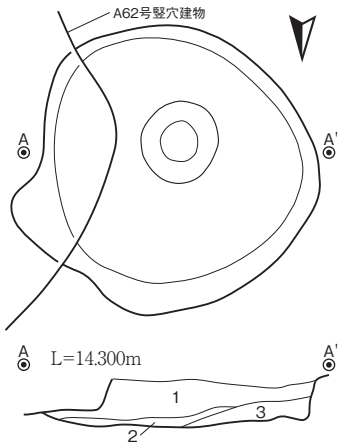
64号土坑



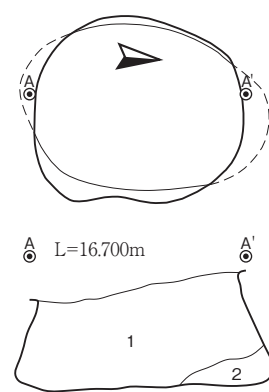
65号土坑



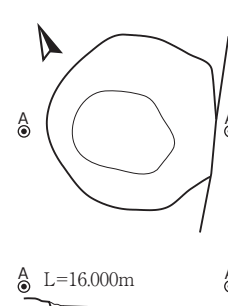
62号土坑



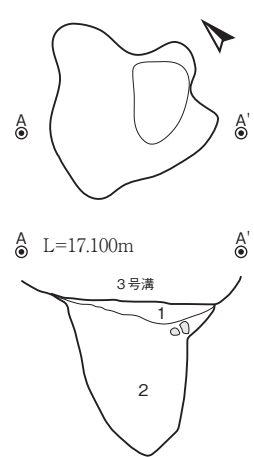
63号土坑



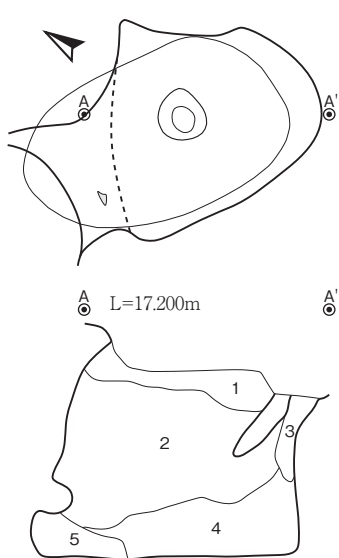
66号土坑



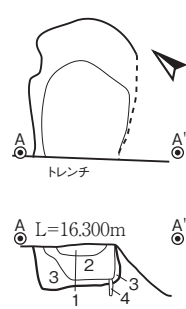
67号土坑



71号土坑



72号土坑



60・61号土坑

- 1. 10YR5/2 灰黄褐色 層状に黒色土(炭?)を含む流入土
 - 2. 2.5Y8/3 浅黄色 しまりやや疎、粘性弱 真砂土の流入土 粒子粗い
 - 3. 10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 2層より粒子細かい
 - 4. 10YR3/2 黒褐色
 - 5. 10YR4/2 灰黄褐色 花崗岩粒多い
 - 6. 10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや密 粒子細かい 流入土
- ※1~3層が60号土坑、4~6層が61号土坑堆積土

62号土坑

- 1. 10YR2/2 黒褐色 花崗岩粒多い 1号配石1層と同質
- 2. 7.5YR6/6 橙色 花崗岩粒含む 粒子細かいが焼土ではない
- 3. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒含む

63号土坑

- 1. 10YR5/2 灰黄褐色 真砂土の流入土 水成堆積
- 2. 10YR6/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱 真砂土の崩落土

64号土坑

- 1. 10YR4/6 褐色 しまりやや疎 炭3% A42号竪穴建物床面構築土
- 2. 10YR5/4 におい黄褐色砂質土 しまり密、粘性弱

66号土坑

- 1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強 φ100~200mmの礫少量 黄褐色土ブロック、炭微量
- 2. 10YR4/4 褐色砂質シルト しまりやや密、粘性やや弱 真砂土混じりの細礫層
- 3. 10YR2/3 黒褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強 黒色土ブロック少量

67号土坑

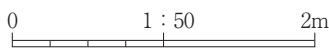
- 1. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト しまりやや疎、粘性やや弱 粒子の粗い真砂土主体
- 2. 10YR7/2 におい黄褐色シルト しまり疎、粘性やや弱 粒子の粗い真砂土主体 粒子細かい真砂土、φ50~100mmの礫少量

71号土坑

- 1. 10YR6/2 灰黄褐色シルト しまりやや疎、粘性やや弱 真砂土主体
- 2. 10YR6/3 におい黄褐色シルト しまりやや疎 粘性やや弱 真砂土主体
- 3. 10YR4/4 褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強 真砂土主体
- 4. 10YR4/3 におい黄褐色シルト しまりやや疎、粘性やや弱 真砂土主体
- 5. 10YR7/1 灰白色シルト しまりやや疎、粘性やや弱 真砂土主体

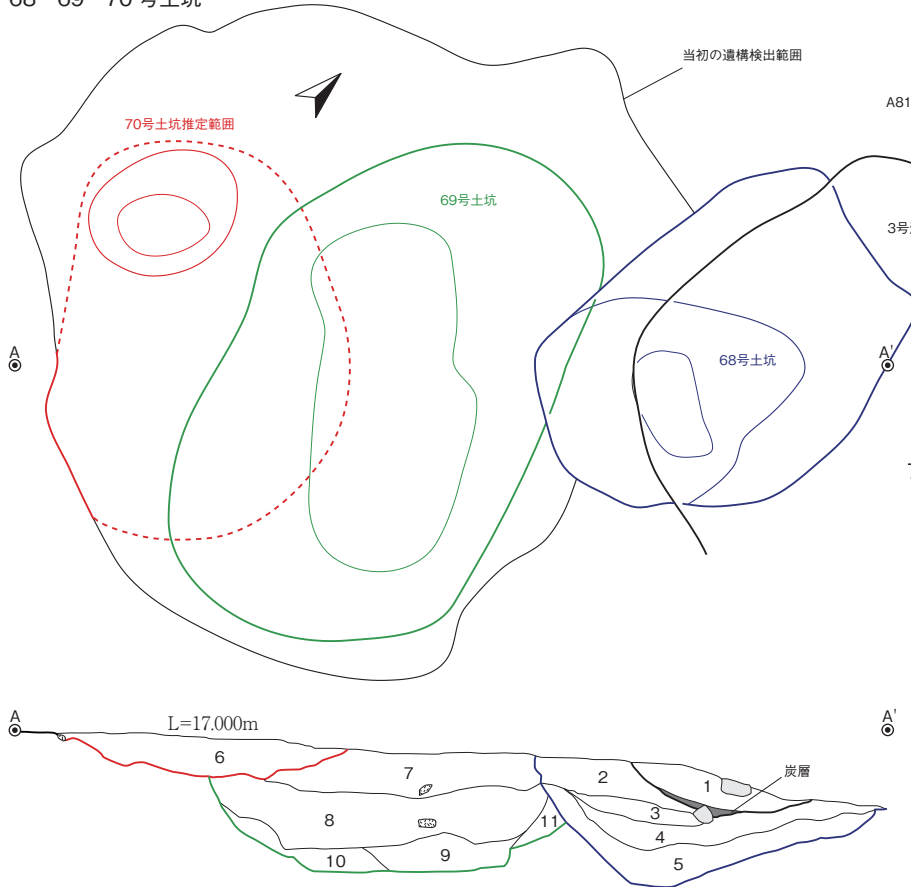
72号土坑

- 1. 10YR4/3 におい黄褐色シルト しまり密、粘性やや強 炭・真砂土微量
- 2. 10YR5/8 黄褐色シルト しまり密、粘性強 黄褐色土ブロック多量、真砂土微量
- 3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 黄褐色土ブロック少量、真砂土微量
- 4. 10YR5/6 黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 黄褐色土混じり

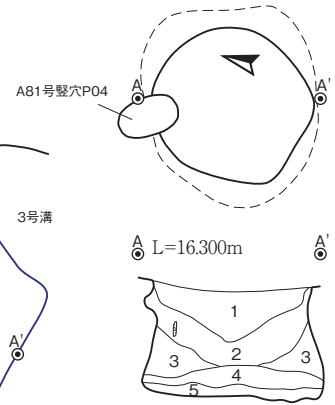


第187図 60~67・71・72号土坑

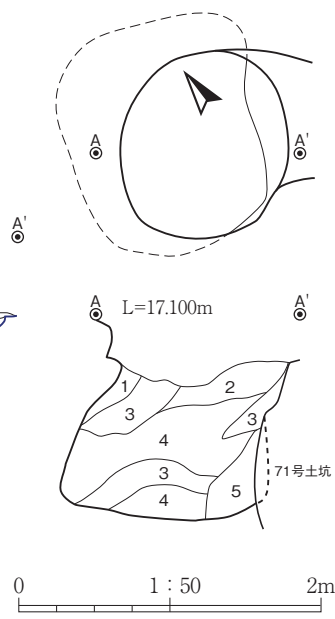
68・69・70号土坑



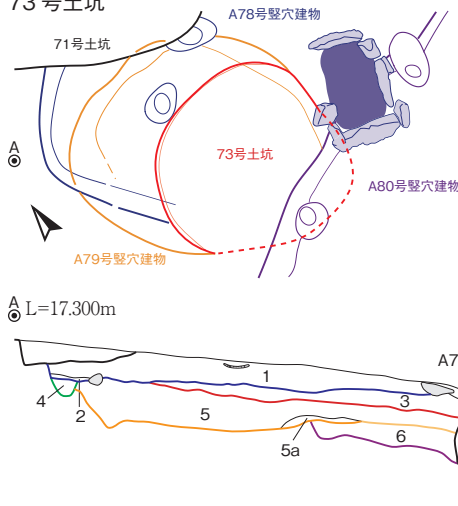
74号土坑



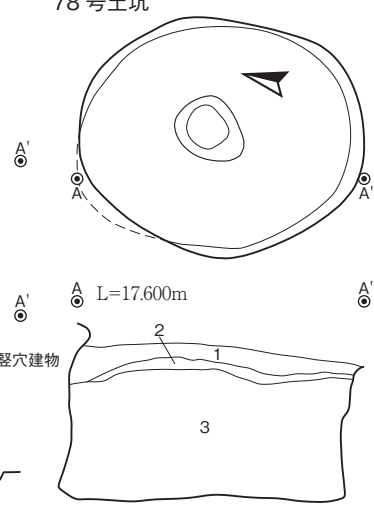
75号土坑



73号土坑



78号土坑



75号土坑

1. 10YR4/4 褐色砂質土 しまりやや疎、粘性弱
2. 10YR2/3 黒褐色 しまりやや疎、褐色砂質土、花崗岩各10%、炭3%
3. 10YR7/2 にぶい黄褐色砂質土 地山崩落土
4. 10YR4/6 褐色砂質土 しまりやや密、粘性弱
5. IV層再堆積土

78号土坑

1. 10YR5/6 黄褐色砂質土 しまりやや疎、粘性弱
2. 10YR3/4 暗褐色 しまりやや密、粘性弱
3. 10YR4/6 褐色砂質土 しまりやや疎、粘性弱

68・69・70号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土少量 一部酸化鉄、下部に炭層
 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 φ100mm 前後の花崗岩粒がラミナ状に斜めに含まれる
 3. 10YR2/3 黒褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強
 4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強
 5. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強 φ10mm 前後の花崗岩粒、灰黄褐色土ブロック中量
 6. 10YR2/3 黒褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 黄褐色・灰黄褐色土ブロック中量
 7. 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 黄褐色・灰黄褐色土ブロック中量
 8. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強 真砂土、明黄褐色・灰黄褐色土ブロック多量
 9. 10YR4/1 褐灰色シルト しまりやや密、粘性やや強 灰黄褐色土・黒褐色土ブロック少量
 10. 10YR3/4 暗褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 黒褐色土ブロック少量
 11. 10YR2/3 黒褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土多量
- ※1層が3号溝、2～5層が68号土坑、6層が70号土坑、7～11層が69号土坑堆積土

73号土坑

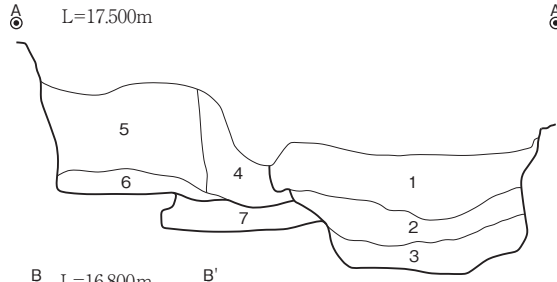
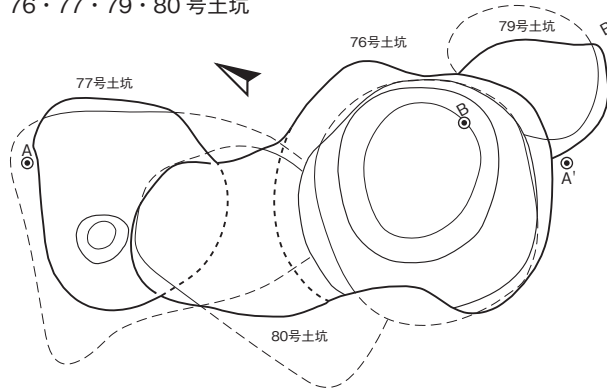
1. 10YR4/4 褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土粒微量含
 2. 10YR4/6 褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土粒微量含
 3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強
 4. 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土中量
 5. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強
 - 5a. 5層より締めりあり、褐色土ブロック中量
 6. 10YR4/6 褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土粒少量
- ※1・2層がA78号竖穴建物、3層が73号土坑、4層がA72号竖穴建物、5・5a層がA79号竖穴建物、6層がA80号竖穴建物堆積土

74号土坑

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強 真砂土微量 黄褐色土混じり
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや弱 真砂土微量
3. 10YR2/3 黒褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土微量
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土含
5. 10YR3/4 暗褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強

第188図 68～70・73～75・78号土坑

76・77・79・80号土坑



L=17.500m

L=16.800m

土層注記無し

76号土坑

82号土坑

L=34.400m

L=33.500m

82号土坑

L=34.400m

L=33.500m

82号土坑

L=34.400m

L=33.500m

82号土坑

L=34.400m

L=33.500m

82号土坑

L=34.400m

L=33.500m

82号土坑

L=34.400m

L=33.500m

82号土坑

L=34.400m

L=33.500m

82号土坑

L=34.400m

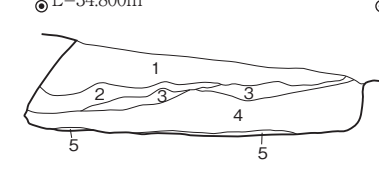
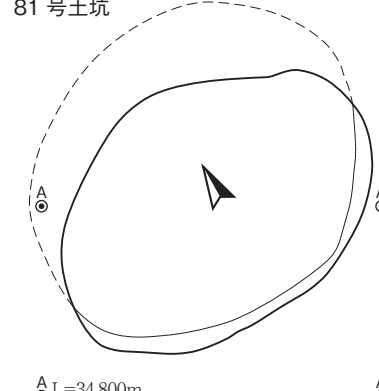
L=33.500m

82号土坑

L=34.400m

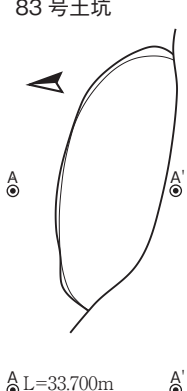
L=33.500m

81号土坑



L=34.800m

83号土坑



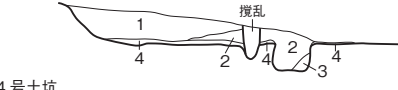
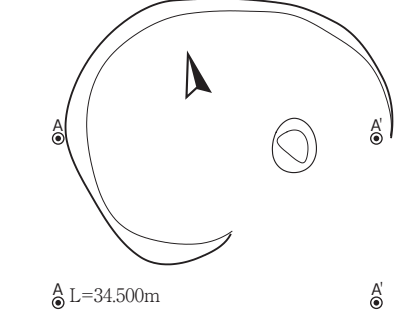
L=33.700m

83号土坑

1. 10YR6/6 明黄褐色

しまり密、粘性弱

84号土坑



L=34.500m

84号土坑

1. 2.5YR6/3 におい黄褐色

花崗岩粒含む

2. 10YR3/2 黒褐色~4/3 におい黄褐色

しまりやや密、粘性やや強

3. 2.5YR7/3 浅黄色

しまりやや密、粘性やや強

地山崩落土

4. 7.5YR4/4 褐色

しまりやや密、粘性やや強

地山崩落土におい黄褐色土含む

84号土坑

L=34.500m

84号土坑

L=34.500m

84号土坑

L=34.500m

84号土坑

L=34.500m

84号土坑

L=34.500m

84号土坑

L=34.500m

84号土坑

L=34.500m

84号土坑

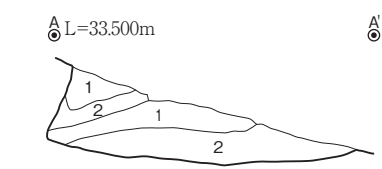
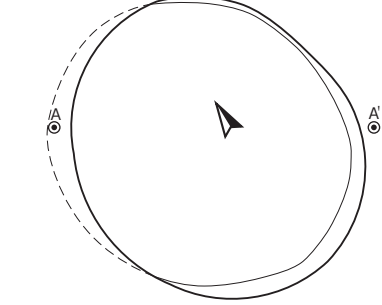
L=34.500m

84号土坑

L=34.500m

84号土坑

85号土坑



L=33.500m

85号土坑

1. 10YR6/3 におい黄褐色

しまりやや疎、粘性やや有

地山崩落土含む

2. 7.5YR7/6 橙色

しまり疎、粘性弱

地山崩落土におい黄褐色土含む

85号土坑

L=33.500m

85号土坑

L=33.500m

85号土坑

L=33.500m

85号土坑

L=33.500m

85号土坑

L=33.500m

85号土坑

L=33.500m

85号土坑

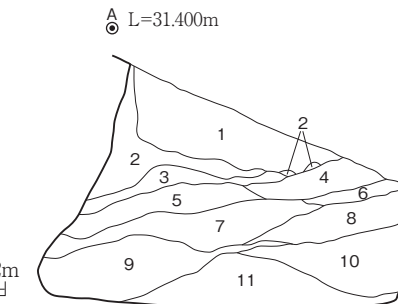
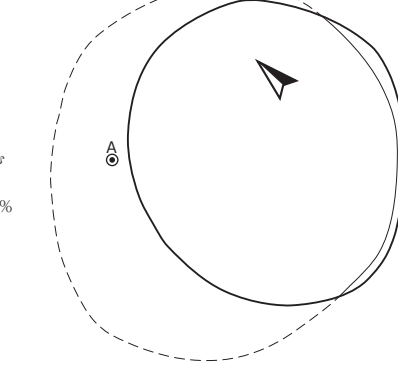
L=33.500m

85号土坑

L=33.500m

85号土坑

86号土坑



L=31.400m

86号土坑

L=31.400m

86号土坑

L=31.400m

86号土坑

L=31.400m

86号土坑

L=31.400m

86号土坑

L=31.400m

86号土坑

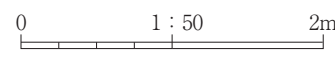
L=31.400m

86号土坑

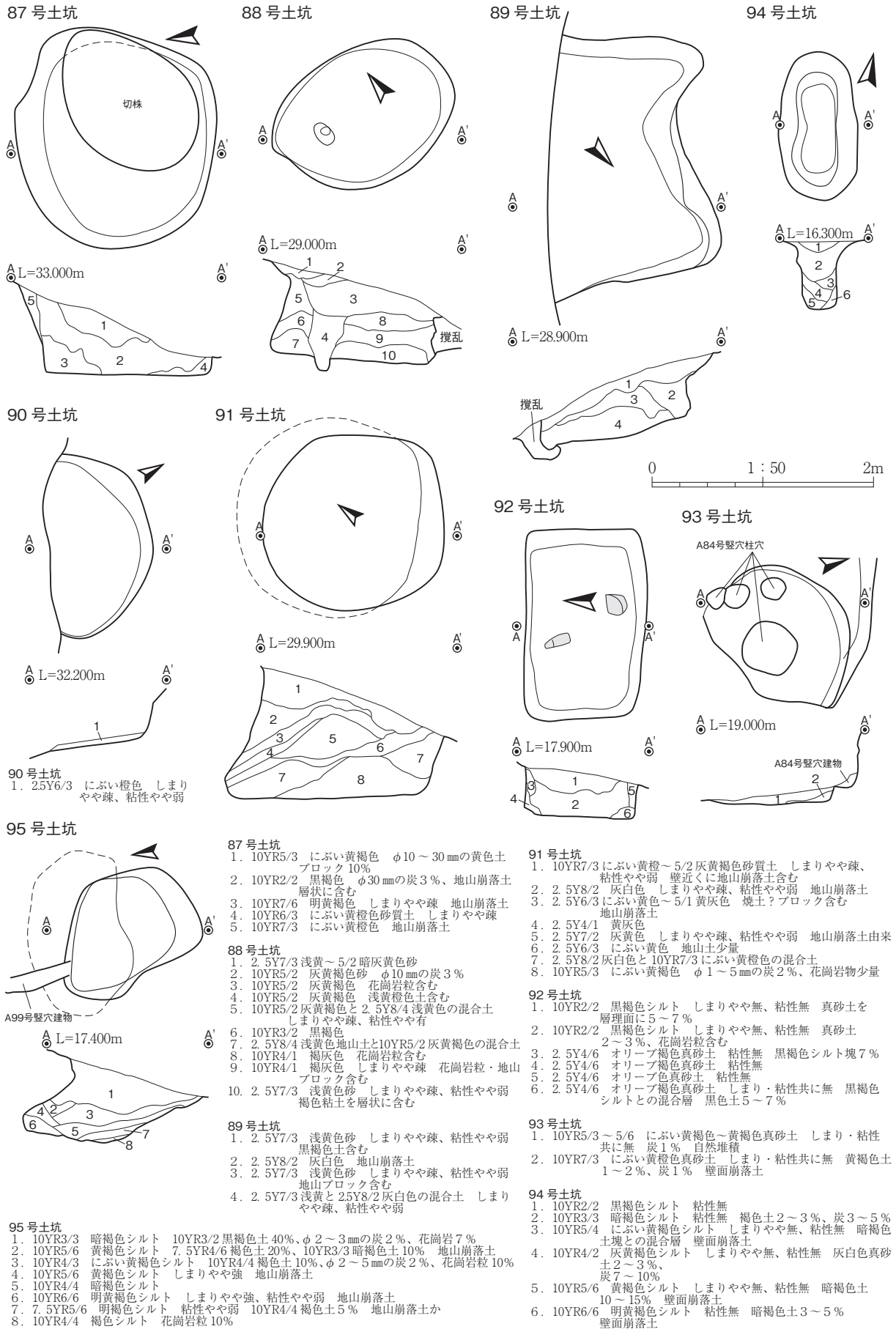
L=31.400m

86号土坑

- 82号土坑
1. 10YR7/3 におい黄褐色 黒褐色土を斑状に含む φ5mmの炭1%
 2. 10YR7/3 におい黄褐色 φ2~5mmの炭1%
- 76・77・79・80号土坑
1. 10YR4/4 褐色 しまりやや疎、粘性弱
 2. 10YR7/2 におい黄褐色花崗岩粒 しまりやや密、粘性弱
 3. 10YR5/6 黄褐色 しまりやや密、粘性弱
 4. 10YR7/2 におい黄褐色花崗岩粒 しまりやや密、粘性弱
 5. 10YR4/6 褐色 しまりやや密、粘性弱
 6. 10YR3/4 暗褐色 しまりやや密、粘性弱
 7. 10YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性弱
- ※1~3層が76号土坑、4~6層が77号土坑、7層が80号土坑堆積土
- 85号土坑
1. 10YR6/3 におい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや有
 2. 7.5YR7/6 橙色 しまり疎、粘性弱
- 地山崩落土含む
- 84号土坑
1. 2.5YR6/3 におい黄褐色 花崗岩粒含む
 2. 10YR3/2 黒褐色~4/3 におい黄褐色 しまりやや密、粘性やや強
 3. 2.5YR7/3 浅黄色 しまりやや密、粘性やや強
 4. 7.5YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性やや強
- 地山崩落土におい黄褐色土含む

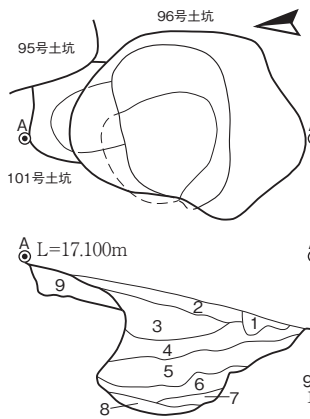


第189図 76・77・79・80~86号土坑



第190図 87～95号土坑

96・101号土坑



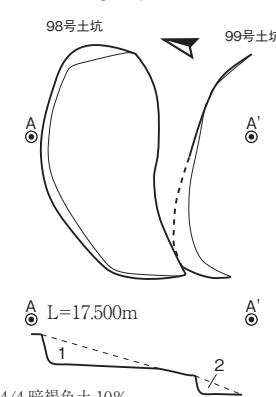
97号土坑



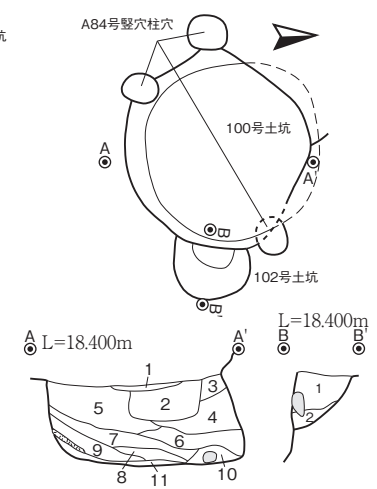
97号土坑
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 10YR4/4 暗褐色土 10%

98・99号土坑
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 花崗岩粒 7%
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 10YR3/2 黒褐色土・花崗岩粒各 10%
※1層が98号土坑、2層が99号土坑堆積土

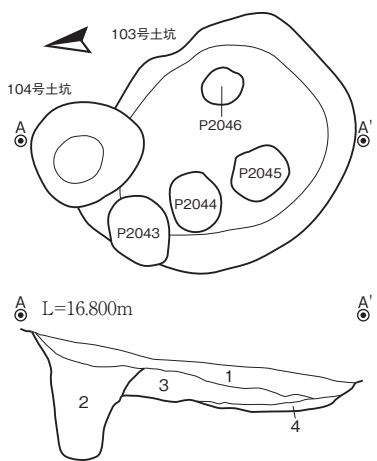
98・99号土坑



100・102号土坑



103・104号土坑

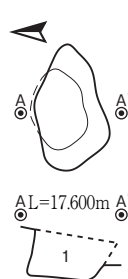


105号土坑



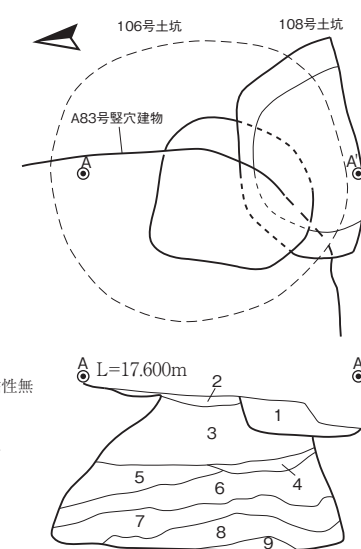
105号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色真砂土 しまり・粘性無 花崗岩粒含む

107号土坑



107号土坑
1. 10YR4/1 褐色土 花崗岩粒・赤色粒子含む

106・108号土坑



96・101号土坑

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 10YR2/1 黒色土 30%、花崗岩粒 7% 根攪乱か
 2. 10YR3/2 黒褐色シルト 花崗岩粒 7%
 3. 10YR3/4 暗褐色シルト 10YR4/4 褐色土 20%、花崗岩粒 10%
 4. 10YR3/3 暗褐色シルト φ 2mmの炭 2%、花崗岩粒 10%
 5. 10YR4/4 褐色シルト 10YR3/3 暗褐色土・花崗岩粒各 10%
 6. 10YR4/4 褐色シルト 10YR4/3 ~ 5/4 にぶい黄褐色土 10%、砂粒多量
 7. 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや強 7.5YR5/6 明褐色土 20%、地山崩落土
 8. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 10YR4/4 暗褐色土 20%、花崗岩粒 10%
 9. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 10YR4/6 褐色土 2%、花崗岩粒 10%
- ※1~8層が96号土坑、9層が101号土坑堆積土

100号土坑

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色真砂土 しまり・粘性無 灰白色粒 2~3%
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色真砂土 しまり・粘性無 炭化物粒 2~3%、灰白色真砂土小塊 5~7%
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色真砂土 しまり・粘性無 灰白色真砂土小塊 7~10%
4. 10YR3/3 暗褐色 しまり・粘性無 炭 2%、灰白色真砂土塊 3~5%
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色真砂土と 10YR3/3 暗褐色土の互層 粘性無 炭 1%
6. 10YR5/3 にぶい黄褐色真砂土 しまり・粘性無 10YR3/3 暗褐色土 25~30%、炭 1~2%
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色真砂土と 10YR3/3 暗褐色土の互層 しまり・粘性無 炭 1~2%
8. 10YR3/4 暗褐色 しまりやや無、粘性無 にぶい黄褐色真砂土小塊 7%、炭 1~2%
9. 10YR6/4 にぶい黄褐色と 10YR5/3 にぶい黄褐色真砂土の互層 しまりやや有、粘性無 炭 1%
10. 10YR6/4 にぶい黄褐色真砂土 しまり・粘性無 にぶい黄褐色真砂土小塊 3%、礫含む
11. 10YR6/4 にぶい黄褐色真砂土 しまり・粘性無

102号土坑

1. 10YR5/3 にぶい黄褐色真砂土 炭 3~5%、灰白色真砂土小塊 5%
2. 10YR3/2 黒褐色 粘性無 炭 1~2%、灰白色真砂土小塊 2~3%

103・104号土坑

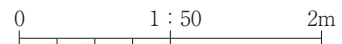
1. 10YR3/2 黒褐色シルト 10YR2/1 黒色土 10%、花崗岩粒 5%
 2. 10YR3/3 暗褐色シルト 花崗岩粒 7%
 3. 10YR4/4 褐色シルト 10YR4/6 褐色土 10%、花崗岩粒 7%
 4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまりやや強 10YR3/3 暗褐色土 10%、花崗岩粒 5%
- ※2層が104号土坑、3・4層が103号土坑堆積土

106・108号土坑

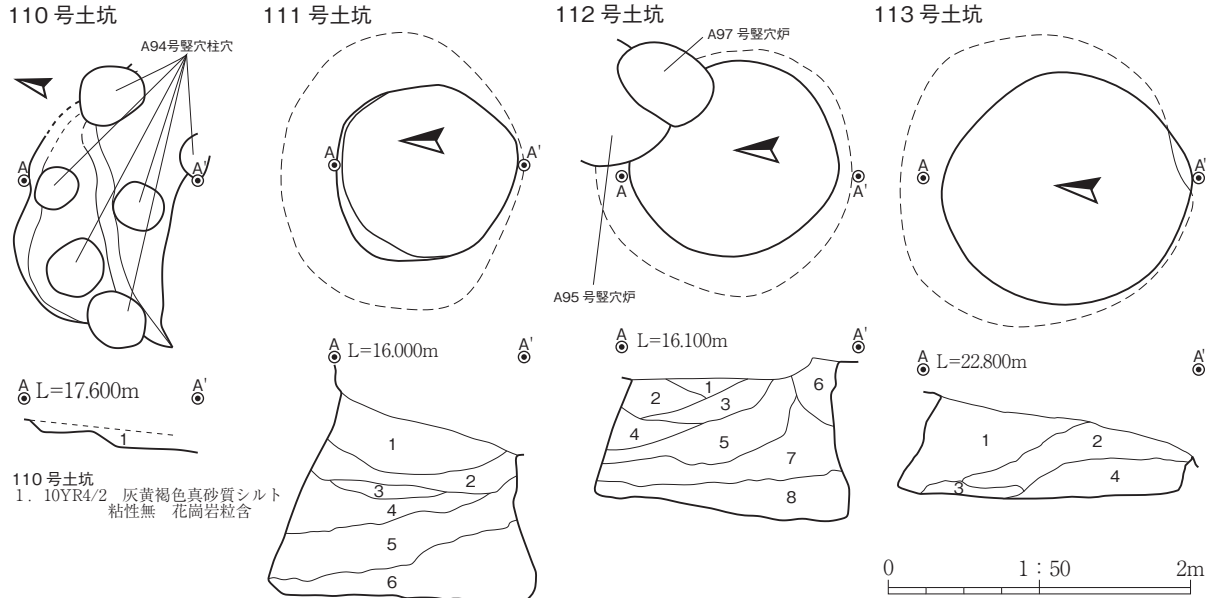
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色真砂土シルト 粘性無 花崗岩粒含む
 2. 10YR5/3 にぶい黄褐色真砂土 しまりやや無、粘性無
 3. 10YR6/3 にぶい黄褐色真砂土 しまり・粘性無 花崗岩粒多量
 4. 10YR4/4 褐色真砂土 しまりやや無、粘性無 やや赤み帯びる
 5. 10YR2/3 黒褐色シルト しまり・粘性無 褐色土塊 10%
 6. 10YR5/4 にぶい黄褐色真砂土 しまり・粘性無 灰白色真砂土・黒褐色土を層状に含む
 7. 10YR4/3 にぶい黄褐色真砂土 しまり・粘性無 灰白色真砂土塊 15%、炭含む
 8. 10YR4/4 褐色真砂土 しまり・粘性無 黒褐色土層状に含む
 9. 10YR5/3 にぶい黄褐色真砂土 しまりやや無、粘性無
- ※1層が108号土坑、2~9層が106号土坑堆積土

109号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト しまりやや弱 花崗岩粒 10%
2. 10YR5/6 明褐色シルト しまりやや強、粘性やや強 花崗岩粒 10%
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 花崗岩粒 20%、粒子細かい
4. 10YR3/3 暗褐色シルト しまりやや強 花崗岩粒 5%



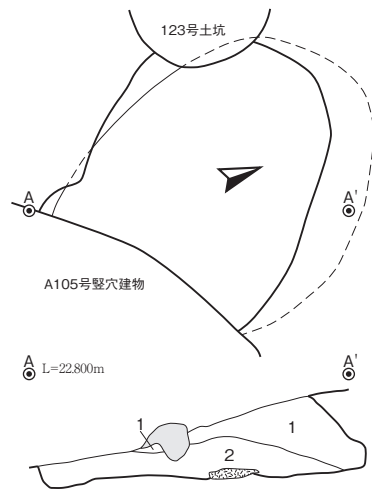
第191図 96~109号土坑



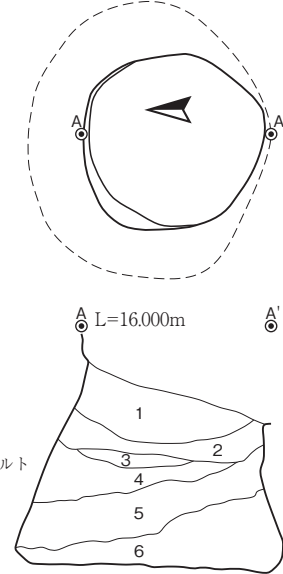
110号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色真砂質シルト
粘性無 花崗岩粒含

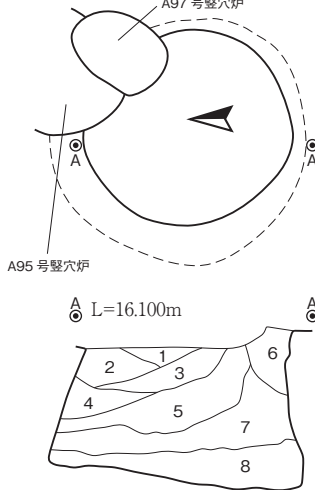
118号土坑



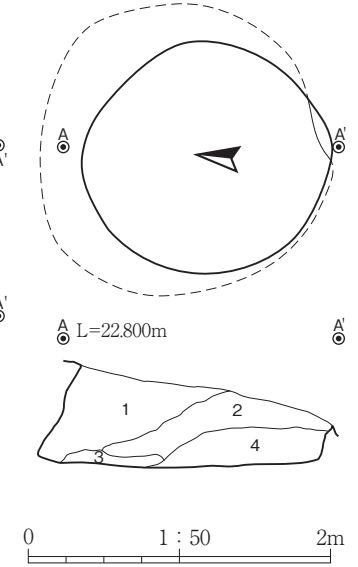
111号土坑



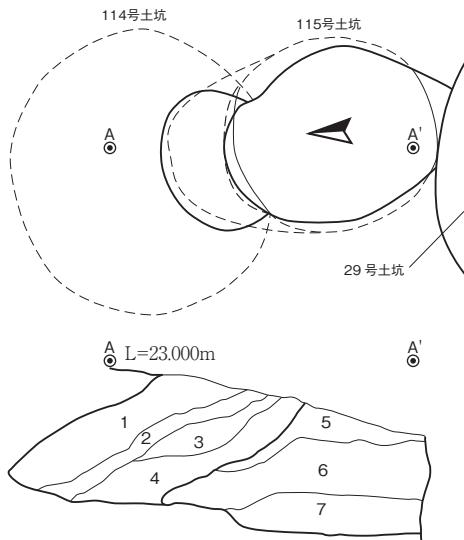
112号土坑



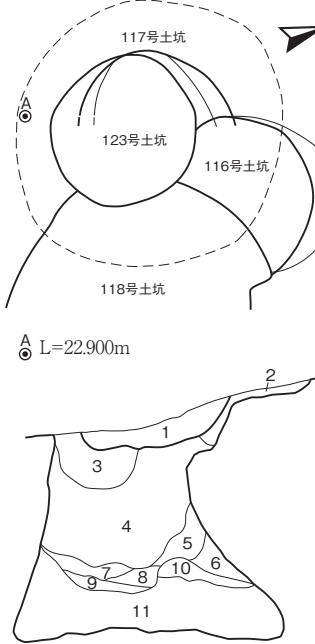
113号土坑



114・115号土坑



116・117・123号土坑



111号土坑

- 1. 10YR4/4 褐色シルト 花崗岩粒5%
- 2. 10YR3/3 暗褐色シルト 花崗岩粒10%
- 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱 花崗岩粒2%
- 4. 10YR3/2 黒褐色シルト 10YR3/3暗褐色土 20%、花崗岩粒2%
- 5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト、10YR5/4 にぶい黄褐色砂がフミナ状に入る 花崗岩粒5%
- 6. 10YR3/3 暗褐色シルト 10YR4/6褐色土を層状に20%、花崗岩粒20%

112号土坑

- 1. 10YR4/4 褐色 しまり密、粘性弱
- 2. 10YR5/8 黄褐色 しまり密、粘性弱
- 3. 10YR5/3 10YR4/4褐色土15%、花崗岩粒10% 黄褐色 しまり密、粘性弱
- 4. 10YR5/8 黄褐色 しまり密、粘性弱
- 5. 10YR3/4 暗褐色 しまり密、粘性弱
- 6. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性弱
- 7. 10YR6/8 明黄褐色 しまり密、粘性弱
- 8. 10YR4/3 炭3% にぶい黄褐色 しまり密、粘性弱

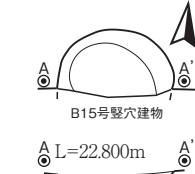
113号土坑

- 1. 2. 5Y7/3 浅黄色砂 しまりやや密、粘性やや弱 壁面崩落土含む
- 2. 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱 φ1~3mmの花崗岩粒10%
- 3. 2. 5Y8/3 浅黄色真砂土 壁面崩落土
- 4. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 しまりやや密、粘性やや弱 φ1~3mmの炭3%

114・115号土坑

- 1. 10YR6/3 にぶい黄橙色砂質土 φ1~2mmの炭2%
- 2. 10YR3/2 黒褐色 φ1~3mmの炭3% 南側は黒褐色にぶい黄褐色
- 3. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土 花崗岩粒少量
- 4. 10YR6/3 にぶい黄橙色砂質土 粘性やや弱 1・3層より粒子粗い、水成堆積

121号土坑

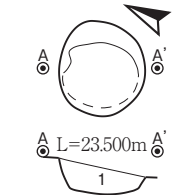


- 5. 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘性やや弱 4層と成因は同じ
- 6. 10YR6/3 にぶい黄褐色 砂質土
- 7. IV層再堆積土

117・123号土坑

- 1. 10YR6/3 にぶい黄褐色 しまり密、粘性やや弱
- 2. 10YR6/3 にぶい黄褐色 しまり密、粘性やや弱 花崗岩粒多い
- 3. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒多い
- 4. 10YR6/3 にぶい黄褐色 φ2~10mmの炭5% 1層より粒子粗い
- 5. 10YR5/3 にぶい黄褐色 地山ブロック含む
- 6. 10YR4/2 灰黄褐色 φ2~5mmの炭5%、土器包含
- 7. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒含む
- 8. 10YR5/3 にぶい黄褐色
- 9. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒含む
- 10. 地山崩落土
- 11. 10YR4/2 灰黄褐色 φ2~5mmの炭5%

122号土坑



118号土坑

- 1. 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱 φ1~3mmの花崗岩粒10%、炭5%
- 2. 10YR6/3 にぶい黄褐色 粘性やや弱 φ1~3mmの花崗岩粒15%

121号土坑

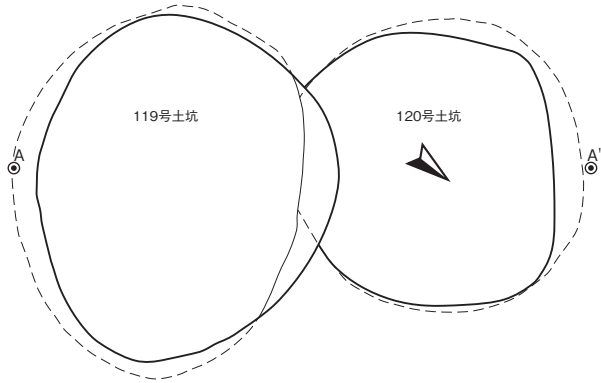
- 1. 10YR2/1 黒色 しまりやや密 花崗岩粒2%、炭1%

122号土坑

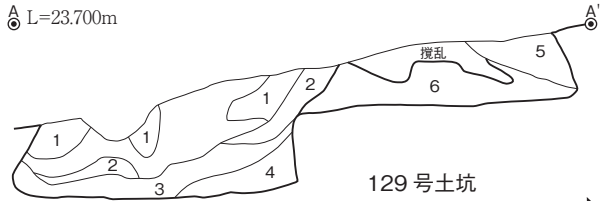
- 1. 10YR2/1 黒色 しまりやや密 花崗岩粒2%

第192図 110~118・121~123号土坑

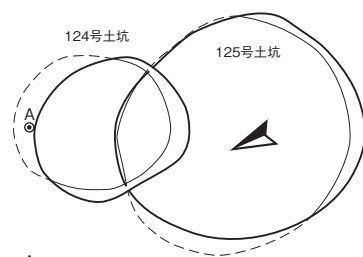
119・120号土坑



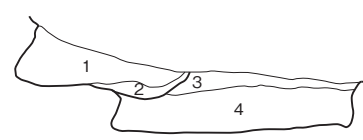
L=23.700m



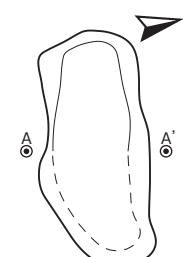
124・125号土坑



L=23.800m



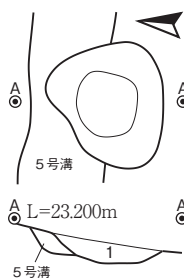
126号土坑



L=20.700m



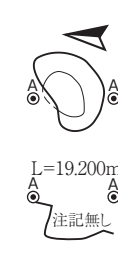
127号土坑



L=23.200m

5号溝

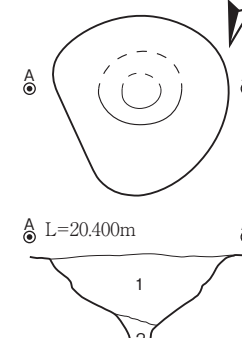
128号土坑



L=19.200m

注記無し

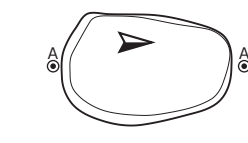
129号土坑



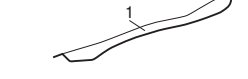
L=20.400m



130号土坑



L=20.800m



126号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色 花崗岩粒含む

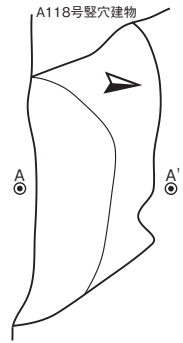
127号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 炭2%

129号土坑
1. 10YR2/1 黒色 花崗岩・土器多量
2. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒5%

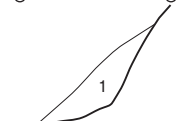
130号土坑
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性やや弱

131号土坑
1. 2. 5Y7/3 浅黄色砂

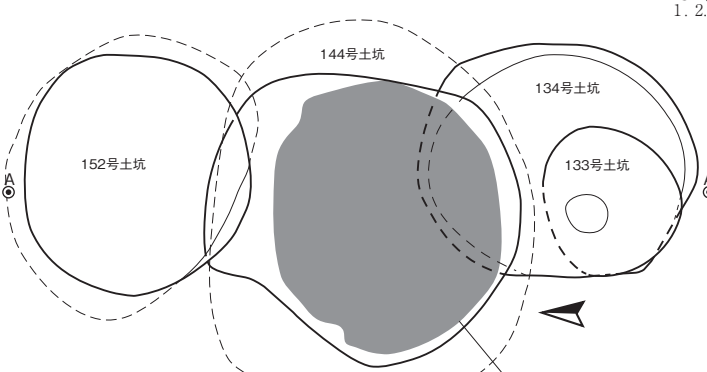
131号土坑



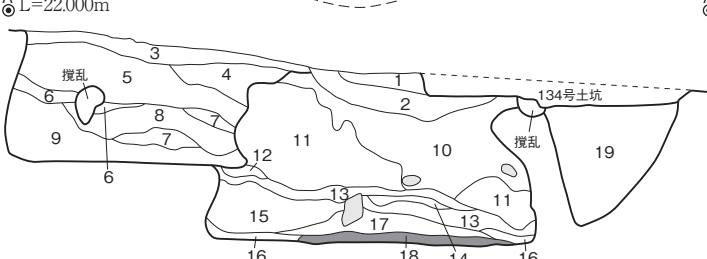
L=24.800m



133・134・144・152号土坑



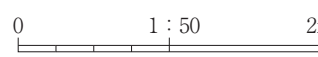
L=22.000m



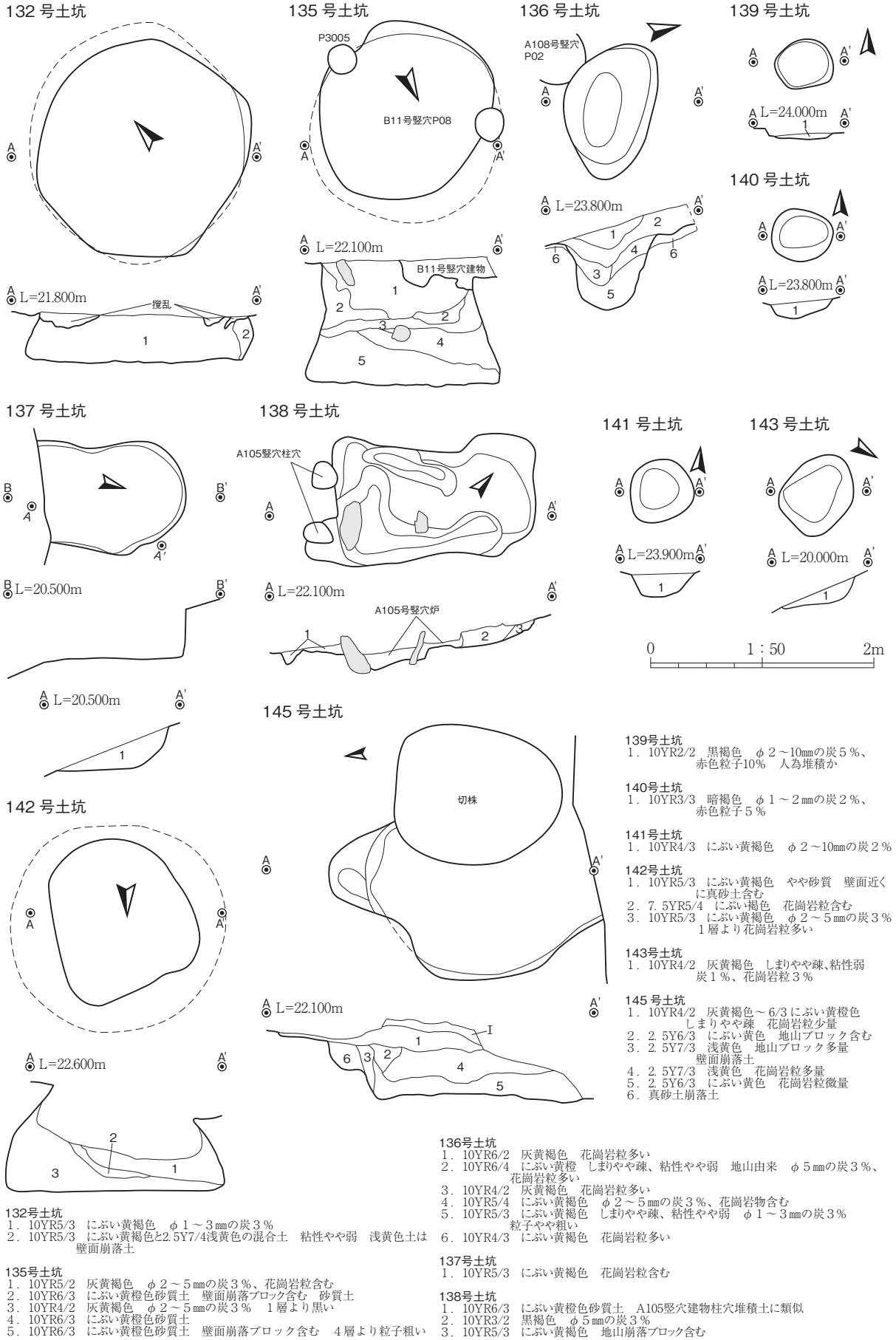
124・125号土坑
1. 10YR7/3 にぶい黄褐色 しまり密 φ1~3mmの炭化物10%
2. 10YR7/3 にぶい黄褐色と10YR2/1黒色の混合土 しまり密 1層と炭化物の混合層
3. 10YR6/3 にぶい黄褐色 1層より粒子粗い 薄く酸化鉄層含む
4. 10YR6/3 にぶい黄褐色 3層より粒子粗い
※1・2層が124号土坑、3・4層が125号土坑堆積土

119・120号土坑
1. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまり密、粘性弱 10YR3/4暗褐色土20%、花崗岩粒15%
2. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまり密、粘性弱 10YR3/4暗褐色土30%、花崗岩粒15%
3. 10YR3/4 暗褐色 しまり密、粘性弱 10YR7/4にぶい黄褐色土20%、花崗岩粒10%
4. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまりやや密 10YR3/4暗褐色土30%、花崗岩粒15%
5. 10YR7/6 明黄褐色 しまり密、粘性弱 花崗岩粒3%
6. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまり密、粘性弱 10YR3/4暗褐色土・花崗岩粒30%
※1~4層が119号土坑、5・6層が120号土坑堆積土

133・134・144・152号土坑
1. 10YR2/2 黒褐色 花崗岩粒多い
2. 10YR4/2 灰黄褐色 φ2~5mmの炭3% 1層より粒子細かい
3. 10YR6/3 にぶい黄褐色 黒褐色土斑に含む B11号竪穴建物床面構築土
4. 10YR7/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 水性堆積で花崗岩粒含む 粒子やや粗い
5. 10YR6/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 色調以外は4層と同じ
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 花崗岩粒少量
7. 10YR5/1 褐色 しまりやや疎、粘性やや弱
8. 10YR5/3 にぶい黄褐色 周辺からの流入土
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色 褐色土含む 由来は8層と同じ
10. 10YR6/3 にぶい黄褐色 粘性やや弱 φ1~5mmの炭5%、花崗岩ブロック含む
11. 2.5Y8/2 灰白色 しまり密 地山崩落土で部分的ににぶい黄褐色土含む
12. 10YR6/2 灰黄褐色砂質土 しまりやや疎、粘性やや弱
13. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性弱 φ5~30mmの炭5%
14. 2.5Y8/2 灰白色と10YR6/3にぶい黄褐色の混合土 しまりやや疎、粘性やや弱
15. 10YR6/3 にぶい黄褐色 φ5~30mmの炭5%、地山ブロック多量
16. 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘性やや強 粘質土で混和物ほとんど無し
17. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質土 しまりやや疎、粘性やや弱
18. 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘性やや強 大型の炭化物含む
19. 2.5Y8/2 灰白色 しまり密 にぶい黄褐色土少量 地山崩落土
※1~3層はB11号竪穴建物以前、4~9層が152号土坑、10~18層が144号土坑、19層が133号土坑堆積土
※134号土坑は灰黄褐色系の堆積土であったが注記漏れ

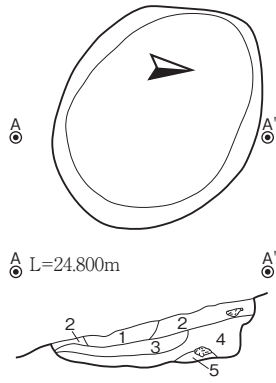


第193図 119・120・124~131・133・134・144・152号土坑

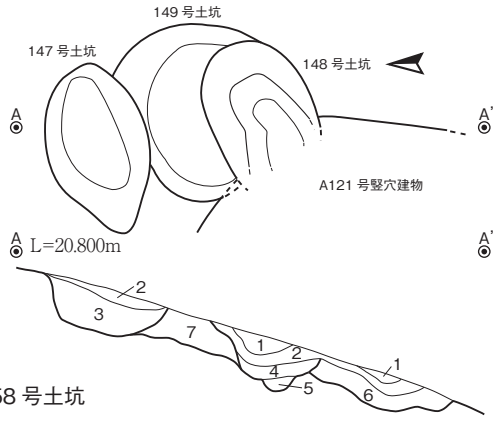


第194図 132・135～143・145号土坑

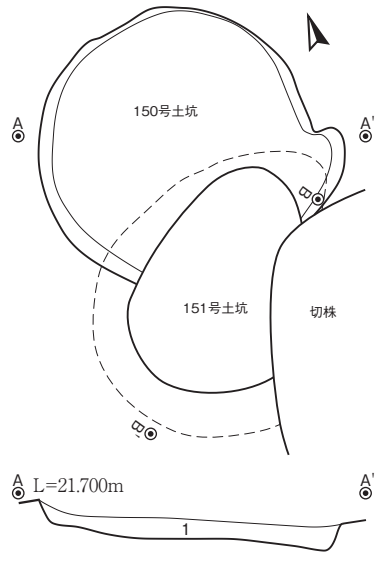
146号土坑



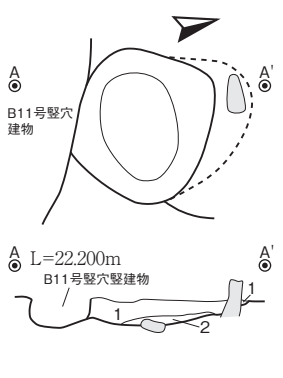
147・148・149号土坑



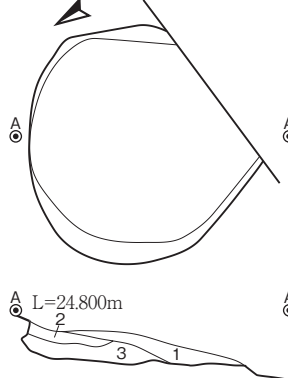
150・151号土坑



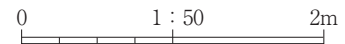
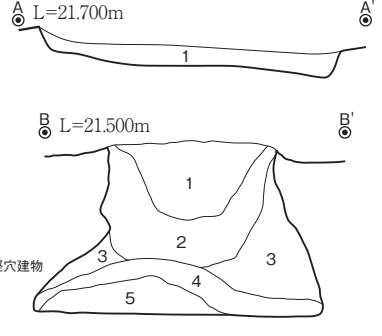
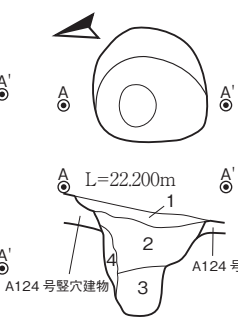
153号土坑



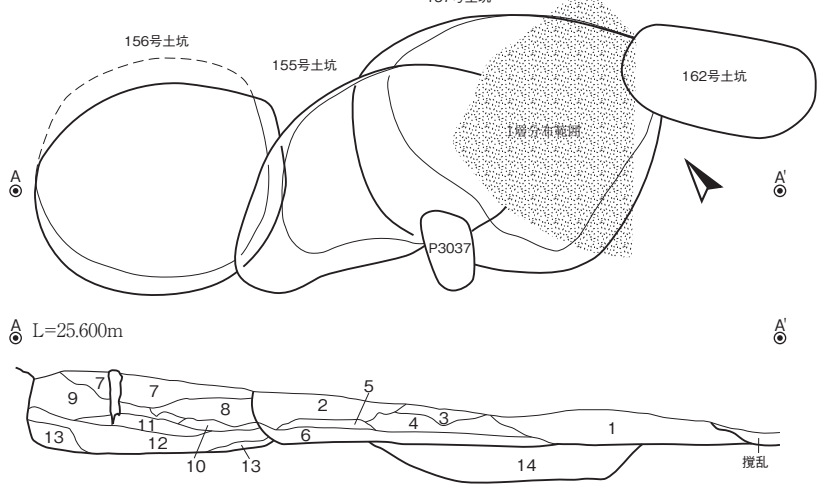
158号土坑



154号土坑



155・156・157号土坑



- 146号土坑
1. 10YR3/4 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱
 2. 10YR2/3 黒褐色 しまりやや疎、粘性弱
 3. 10YR2/1 黒色 炭化物粒3% しまりやや疎、粘性弱
 4. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱
 5. 10YR6/6 明黄褐色砂質土 しまりやや密、粘性無し
- ※2～4層に遺物集中

- 150号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色

- 151号土坑
1. 10YR2/1 黒～2/2 黒褐色
 2. 10YR6/1 褐灰～7/1 灰白色
 3. 10YR6/1 褐灰～7/1 灰白色 地山崩落土含む
 4. 10YR2/2～3/2 黒褐色
 5. 10YR5/1～6/1 褐灰色

- 153号土坑
1. 10YR4/2 灰黄褐色 φ5mmの赤色粒子3%、花崗岩粒多い
 2. 10YR2/1 黒色 炭化物層か

147・148・149号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや疎、粘性無し 炭1%、花崗岩粒2%
 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性無し 焼土粒2%、炭・花崗岩粒各1%
 3. 10YR3/1 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 炭・花崗岩粒各3%
 4. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、粘性弱 炭1%、花崗岩粒3%
 5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭1%、花崗岩粒3%
 6. 10YR3/2 黒褐色 しまり密 焼土1%、炭2%、花崗岩粒5%
 7. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭1%、花崗岩粒3%
- ※1・2層は後世の流土、3層が147号土坑、4・5層が148号土坑、6層がA121号竪穴建物、7層が149号土坑堆積土

154号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色 φ2～10mmの炭10%
2. 10YR3/2 黒褐～6/3 にぶい黄褐色 φ1～3mmの赤色粒子5% 下位に遺物含む
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまり密 焼土1%、炭2%、花崗岩粒5% 花崗岩含む 粒子やや粗い
4. 2. 5Y7/6 明黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 壁面崩落土

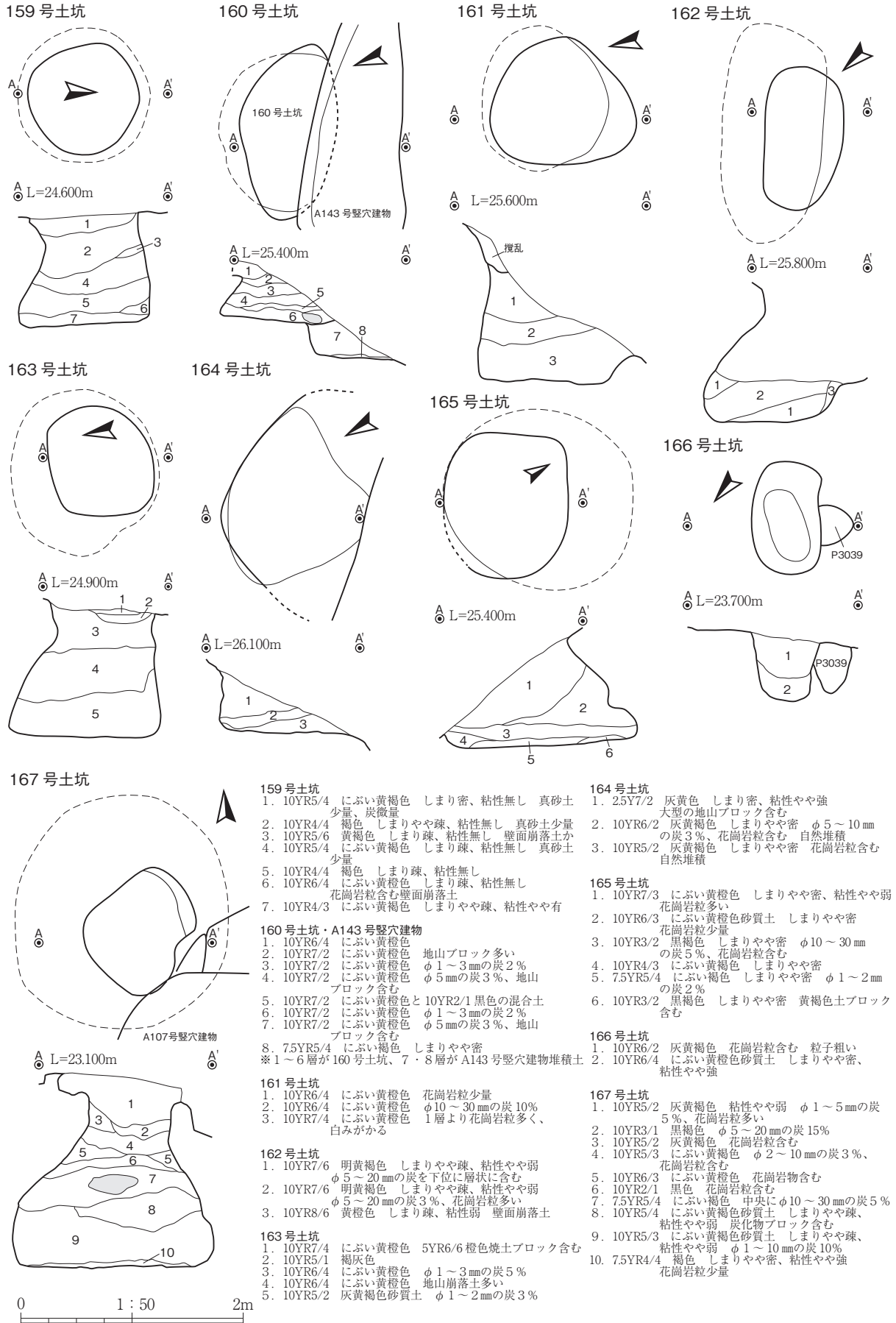
158号土坑

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 φ10mmの炭3%、花崗岩粒多い
2. 2. 5Y7/4 浅黄色 しまり疎、粘性弱 にぶい黄褐色土含む 地山崩落土
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 φ10mmの炭3%、花崗岩粒多い

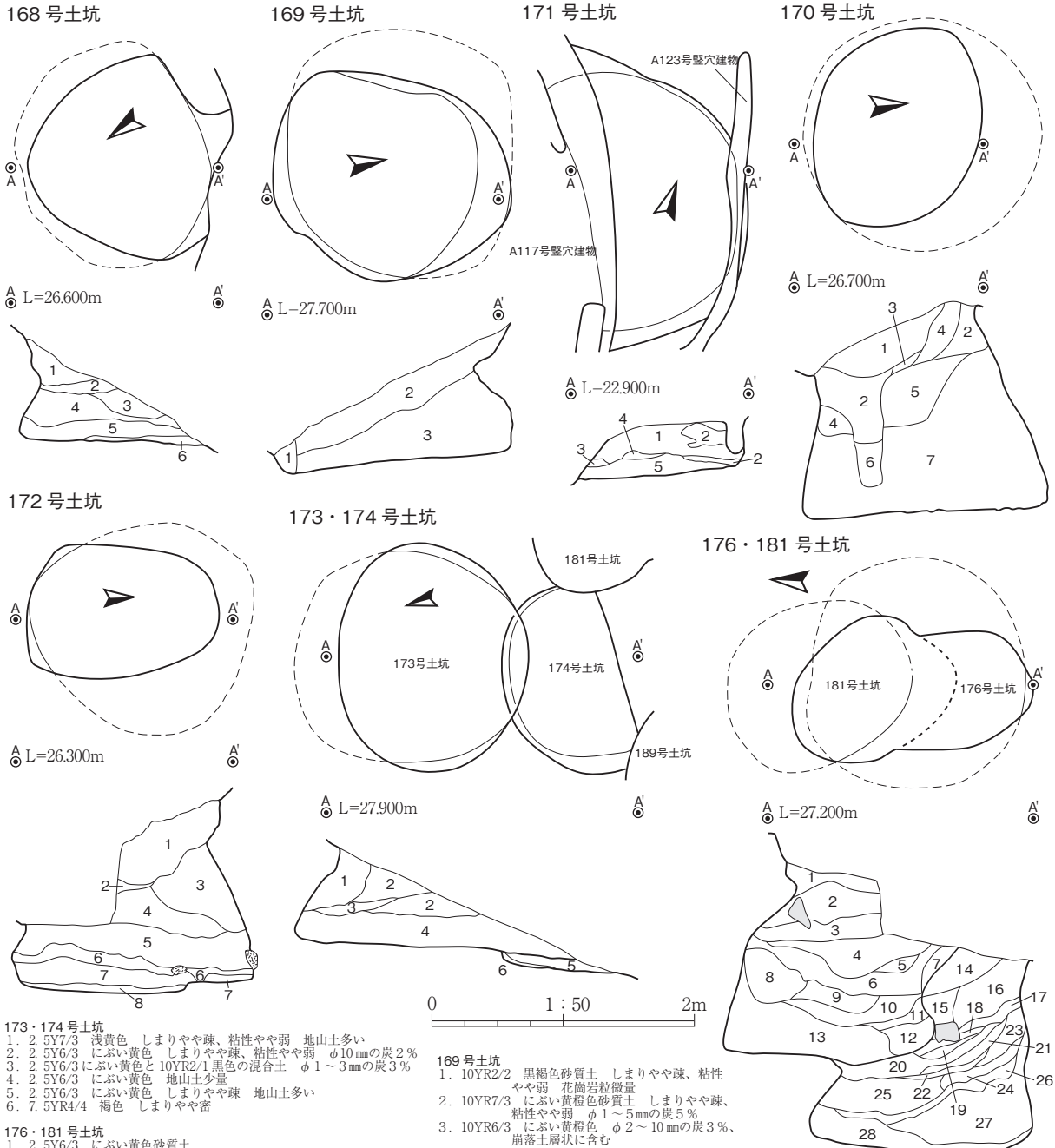
155・156・157号土坑

1. 2. 5Y6/2 灰黄色砂質土 しまり疎、粘性弱 黒褐色・にぶい黄褐色土含む 粒子粗い
 2. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ2～10mmの炭3%
 3. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性やや弱
 4. 2. 5Y6/2 灰黄色砂質土 しまり疎、粘性弱 1層と類似するが地山ブロックを層状に含む
 5. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山ブロック・大型の炭含む
 6. 真砂土崩落土 色調明るい
 7. 10YR3/2 黒褐色 2～5層と比べて粒子細かい 下位に7.5YR5/4 にぶい褐色土(焼土?)含む
 8. 10YR6/2 灰黄褐色 黒色土少量 やや粘土質
 9. 10YR3/3 暗褐色と10YR2/1 黒色の混合土
 10. 10YR8/3 浅黄褐色 しまり疎、粘性無し 地山崩落土
 11. 10YR6/2 灰黄褐色 黒色土少量 やや粘土質
 12. 10YR5/2 灰黄褐色 黒色土・花崗岩を層状に含む
 13. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落土
 14. 真砂土崩落土 6層より色調暗い
- ※1層は後世の堆積土、2～6層が155号土坑、7～13層が156号土坑、14層が157号土坑堆積土
※7～13層は人為堆積か

第195図 146～151・153～158号土坑

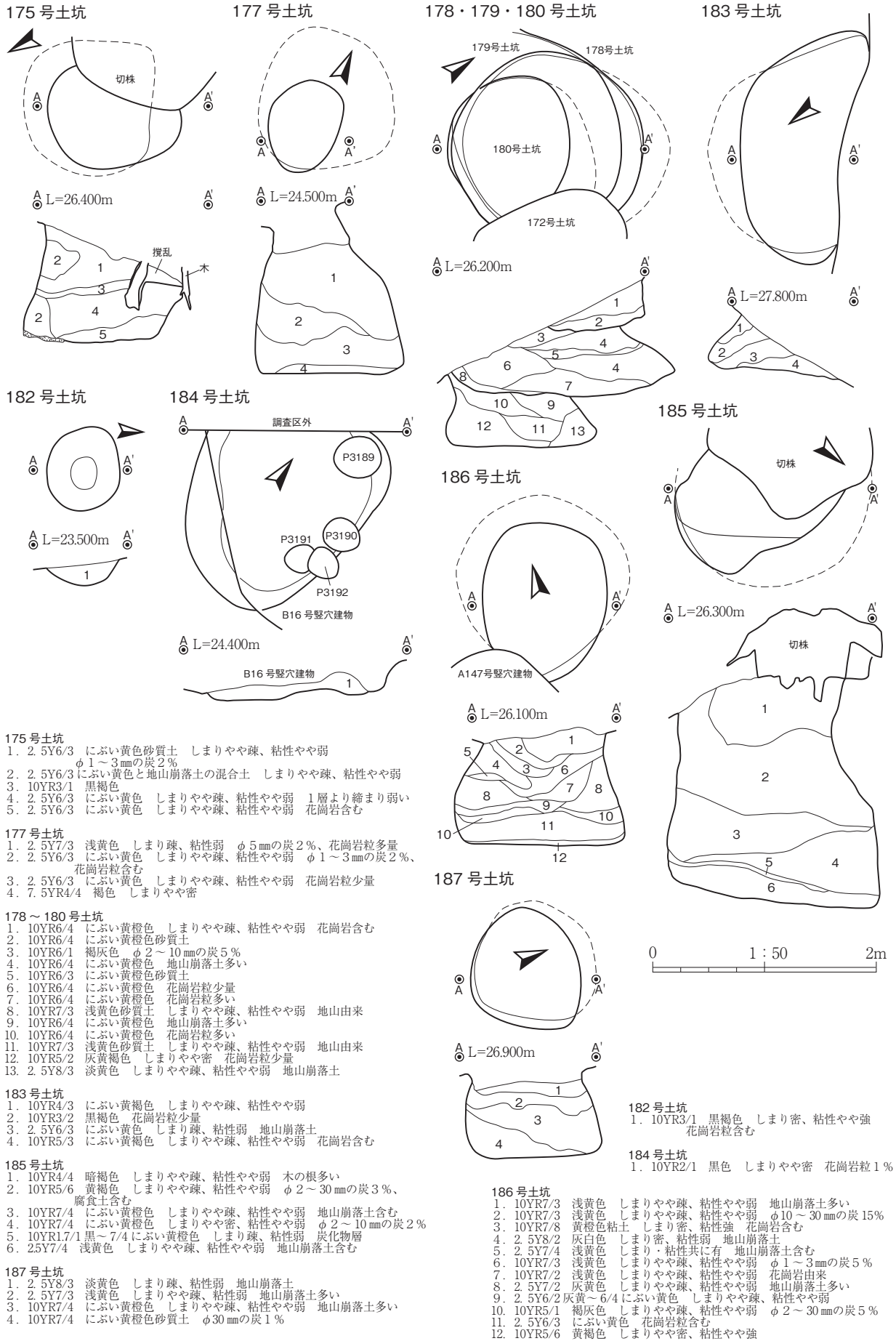


第196図 159~167号土坑



- 173・174号土坑**
1. 2. 5Y7/3 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山土多い
 2. 5Y6/3 にぶい黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ10mmの炭2%
 3. 2. 5Y6/3 にぶい黄色と10YR2/1黒色の混合土 φ1~3mmの炭3%
 4. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 地山土少量
 5. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 しまりやや疎 地山土多い
 6. 7. 5YR4/4 褐色 しまりやや密
- 176・181号土坑**
1. 2. 5Y6/3 にぶい黄色砂質土
 2. 2. 5Y6/3 にぶい黄色砂質土 φ1~3mmの炭2%
 3. 2. 5Y6/3 にぶい黄色と10YR2/1黒色の混合砂質土 φ2~10mmの炭3%、花崗岩粒含む
 4. 2. 5Y7/2 灰黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落土含む
 5. 2. 5Y7/3 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ2~10mmの炭15%
 6. 2. 5Y7/3 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ1~5mmの炭5%
 7. 10YR5/4 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱
 8. 2. 5Y8/2 灰白色 しまり疎、粘性弱 地山崩落土
 9. 2. 5Y8/3 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 若干黒みがる
 10. 2. 5Y7/3 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落土含む
 11. 10YR5/4 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱
 12. 2. 5Y7/3 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 上位に褐色土、中位に炭含む
 13. 2. 5Y8/2 灰白色 しまりやや疎、粘性やや弱 上位に地山崩落土
 14. 2. 5Y7/3 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ1~5mmの炭5%
 15. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱
 16. 7. 5YR4/3 褐~6/3 にぶい褐色 しまりやや疎 φ2~10mmの炭5%
 17. 10YR2/1 黒色 炭25%、灰白色土ブロック含む
 18. 7. 5YR4/3 褐色と2.5Y8/2灰白色の混合土 しまりやや疎、粘性やや弱 φ2~10mmの炭5%
 19. 10YR2/1 黒色 炭25%、灰白色土ブロック含む
 20. 10YR6/4 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性やや強 φ2~10mmの炭5%、地山崩落土含む
 21. 10YR5/3 にぶい黄褐色と2.5Y8/2灰白色の混合土 φ5~10mmの炭10%
 22. 7. 5YR4/3 褐色と2.5Y8/2灰白色の混合土 しまりやや疎、粘性やや弱 φ2~10mmの炭5%
 23. 10YR5/3 にぶい黄褐色 花崗岩粒多い
 24. 7. 5YR4/3 褐色と2.5Y8/2灰白色の混合土 しまりやや疎、粘性やや弱 φ2~10mmの炭5%
 25. 10YR5/3 にぶい黄褐色 φ5~20mmの炭10%
 26. 10YR5/4 にぶい黄褐色 しまりやや密 φ10~20mmの炭5%
 27. 10YR6/4 ~7/4 にぶい黄褐色砂質土 しまりやや密 炭を層状に含む
 28. 10YR7/4 にぶい黄褐色粘質土 しまりやや密、粘性やや強 φ10mmの炭2% 下位が褐色に変色 ※1~13層が181号土坑、14層以下が176号土坑堆積土
- 169号土坑**
1. 10YR2/2 黒褐色砂質土 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩粒微量
 2. 10YR7/3 にぶい黄褐色砂質土 しまりやや疎、粘性やや弱 φ1~5mmの炭5%
 3. 10YR6/3 にぶい黄褐色 φ2~10mmの炭3%、崩落土層状に含む
- 170号土坑**
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎 赤色・黄色ブロック少量
 4. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 φ2~5mmの炭2%、地山崩落土含む
 5. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 φ1~3mmの炭5%
 6. 7. 5YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性やや強 花崗岩粒含む
- 171号土坑**
1. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 φ1~3mmの炭3%、花崗岩粒少量
 2. 2. 5Y5/2 暗褐灰色砂質土 φ2~30mmの炭3%
 3. 2. 5Y6/3 にぶい黄色砂質土 10YR2/2黒褐色土含む
 4. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 地山ブロック含む
 5. 2. 5Y6/4 にぶい黄色砂質土 地山ブロック多い
 6. 10YR3/2 黒褐色土
 7. IV層再堆積土
- 172号土坑**
1. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 しまりやや疎 地山ブロック含む
 2. 7. 5YR4/4 褐色
 3. 地山崩落土と2.5Y6/3 にぶい黄色の混合土 しまりやや疎、粘性やや弱
 4. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 しまりやや疎 花崗岩粒少量
 5. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 φ2~5mmの炭3%
 6. 10YR3/1 黒褐色 φ5~10mmの炭15%
 7. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 しまりやや密 地山土含む
 8. 7. 5YR5/4 にぶい褐色 しまり密、粘性やや強 地山土含む

第197図 168~174・176・181号土坑



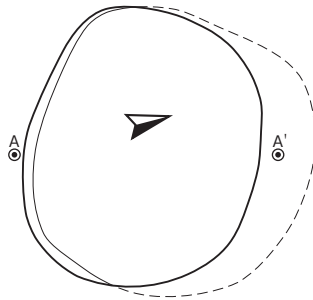
- 175号土坑**
 1. 2. 5Y6/3 におい黄色砂質土 しまりやや疎、粘性やや弱
 φ1~3mmの炭2%
 2. 2. 5Y6/3 におい黄色と地山崩落土の混合土 しまりやや疎、粘性やや弱
 3. 10YR3/1 黒褐色
 4. 2. 5Y6/3 におい黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 1層より締まり弱い
 5. 2. 5Y6/3 におい黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩含む
- 177号土坑**
 1. 2. 5Y7/3 浅黄色 しまり疎、粘性弱 φ5mmの炭2%、花崗岩粒多量
 2. 2. 5Y6/3 におい黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ1~3mmの炭2%、
 花崗岩粒含む
 3. 2. 5Y6/3 におい黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩粒少量
 4. 7. 5YR4/4 褐色 しまりやや密
- 178~180号土坑**
 1. 10YR6/4 におい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩含む
 2. 10YR6/4 におい黄褐色 砂質土
 3. 10YR6/1 褐灰色 φ2~10mmの炭5%
 4. 10YR6/4 におい黄褐色 地山崩落土多い
 5. 10YR6/3 におい黄褐色 砂質土
 6. 10YR6/4 におい黄褐色 花崗岩粒少量
 7. 10YR6/4 におい黄褐色 花崗岩粒多い
 8. 10YR7/3 浅黄色砂質土 しまりやや疎、粘性やや弱 地山由来
 9. 10YR6/4 におい黄褐色 地山崩落土多い
 10. 10YR6/4 におい黄褐色 花崗岩粒多い
 11. 10YR7/3 浅黄色砂質土 しまりやや疎、粘性やや弱 地山由来
 12. 10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや密 花崗岩粒少量
 13. 2. 5Y8/3 淡黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落土
- 183号土坑**
 1. 10YR4/3 におい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱
 2. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒少量
 3. 2. 5Y6/3 におい黄色 しまり疎、粘性弱 地山崩落土
 4. 10YR5/3 におい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩含む
- 185号土坑**
 1. 10YR4/4 暗褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 木の根多い
 2. 10YR5/6 黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ2~30mmの炭3%、
 腐食土含む
 3. 10YR7/4 におい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落土含む
 4. 10YR7/4 におい黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱 φ2~10mmの炭2%
 5. 10YR17/1 黒~7/4におい黄褐色 しまり疎、粘性弱 炭化物層
 6. 2. 5Y7/4 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落土含む
- 187号土坑**
 1. 2. 5Y8/3 淡黄色 しまり疎、粘性弱 地山崩落土
 2. 2. 5Y7/3 浅黄色 しまりやや疎、粘性弱 地山崩落土多い
 3. 10YR7/4 におい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落土多い
 4. 10YR7/4 におい黄褐色 砂質土 φ30mmの炭1%

- 182号土坑**
 1. 10YR3/1 黒褐色 しまり密、粘性やや強
 花崗岩粒含む
- 184号土坑**
 1. 10YR2/1 黒色 しまりやや密 花崗岩粒1%

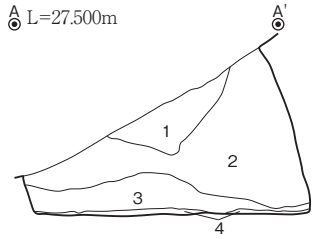
- 186号土坑**
 1. 10YR7/3 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落土多い
 2. 10YR7/3 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ10~30mmの炭15%
 3. 10YR7/8 黄褐色粘土 しまり密、粘性強 花崗岩含む
 4. 2. 5Y8/2 灰白色 しまり密、粘性弱 地山崩落土
 5. 2. 5Y7/4 浅黄色 しまり密、粘性弱に有 地山崩落土含む
 6. 10YR7/3 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ1~3mmの炭5%
 7. 10YR7/2 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩由来
 8. 2. 5Y7/2 灰黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落土多い
 9. 2. 5Y6/2 灰黄~6/4におい黄色 しまりやや疎、粘性やや弱
 10. 10YR5/1 褐灰色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ2~30mmの炭5%
 11. 2. 5Y6/3 におい黄色 花崗岩粒含む
 12. 10YR5/6 黄褐色 しまりやや密、粘性やや強

第198図 175・177~180・182~187号土坑

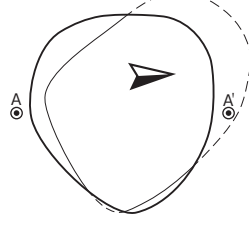
188号土坑



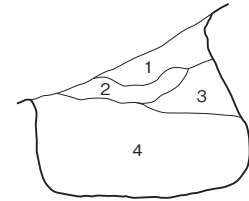
Ⓐ L=27.500m



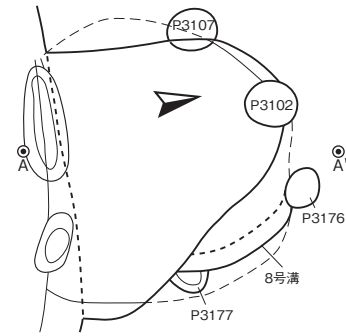
189号土坑



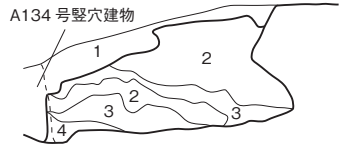
Ⓐ L=26.900m



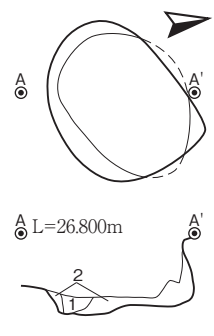
190号土坑



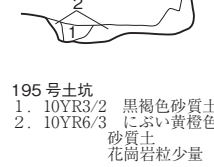
Ⓐ L=22.000m



195号土坑

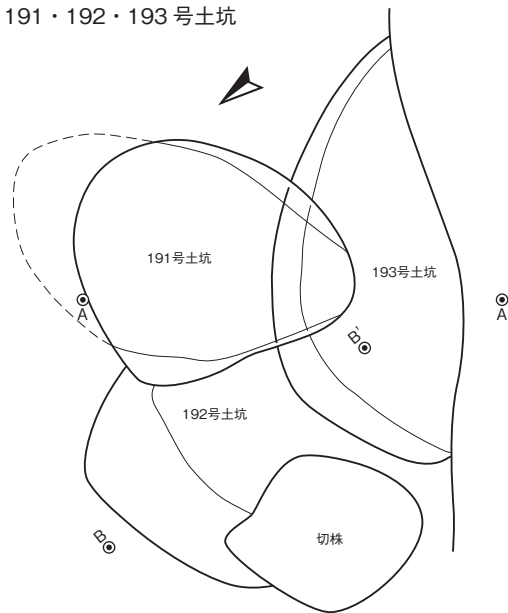


Ⓐ L=26.800m

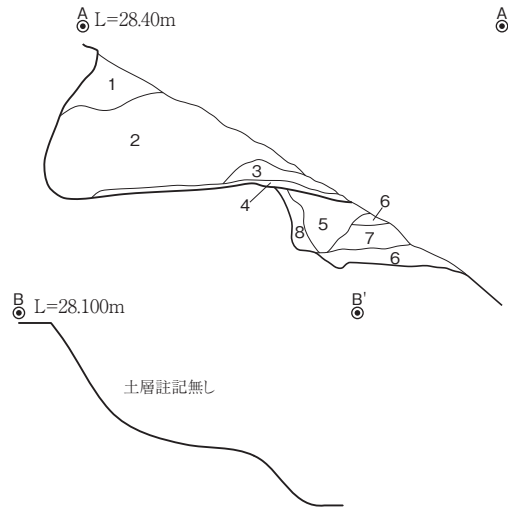


195号土坑
1. 10YR3/2 黒褐色砂質土
2. 10YR6/3 にぶい黄橙色砂質土
花崗岩粒少量

191・192・193号土坑



Ⓐ L=28.40m

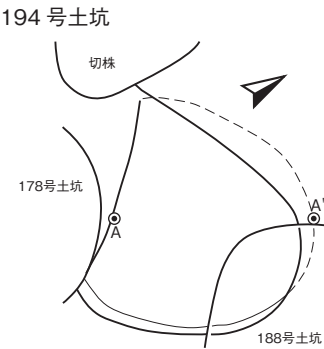


Ⓑ L=28.100m

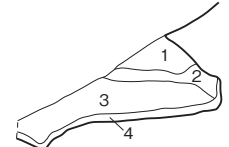
土層註記無し

0 1 : 50 2m

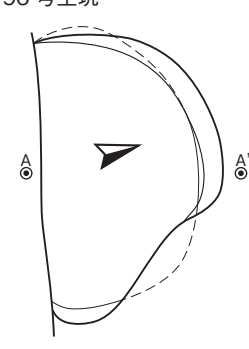
194号土坑



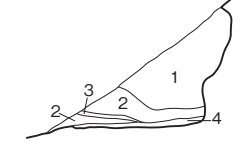
Ⓐ L=27.000m



196号土坑



Ⓐ L=28.500m



188号土坑

1. 2. 5Y7/4 浅黄色粘質土 しまりやや密、粘性強 花崗岩粒多い
2. 2. 5Y7/4 浅黄色 しまりやや密、粘性やや強 地山崩落土多量
3. 2. 5Y6/2 灰黄色 しまり密、粘性やや強 花崗岩含む
4. 7. 5YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性やや強

189号土坑

1. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落砂多い
2. 10YR3/2 ~ 2/2 黒褐色 花崗岩粒微量
3. 2. 5Y8/2 灰白色 しまり疎、粘性弱 壁面崩落土
4. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 地山崩落砂を層状に含む

190号土坑

1. 10YR3/2 黒褐 ~ 4/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ5 ~ 30mmの炭3%、花崗岩粒含む 後世の流れ込み
2. 2. 5Y7/3 浅黄色 しまり疎、粘性無 地山崩落土で粗い砂 炭化物ブロック含む
3. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒含む
4. 2. 5Y8/3 淡黄細砂と10YR3/2 黒褐色の混合土 しまりやや密 φ5mmの炭2%

191・193号土坑

1. 10YR6/3 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩粒含む
2. 10YR6/3 にぶい黄褐色と10YR8/4 浅黄褐色地山土の混合土 しまりやや疎、粘性やや弱
3. 10YR5/1 褐灰色 粘性やや疎 花崗岩粒含む
4. 7. 5YR4/4 にぶい橙色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩粒多い
5. 10YR8/4 浅黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落土
6. 10YR3/2 黒褐色 灰白色土少量
7. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまり疎、粘性無 地山崩落土
8. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまりやや密 地山崩落土含む

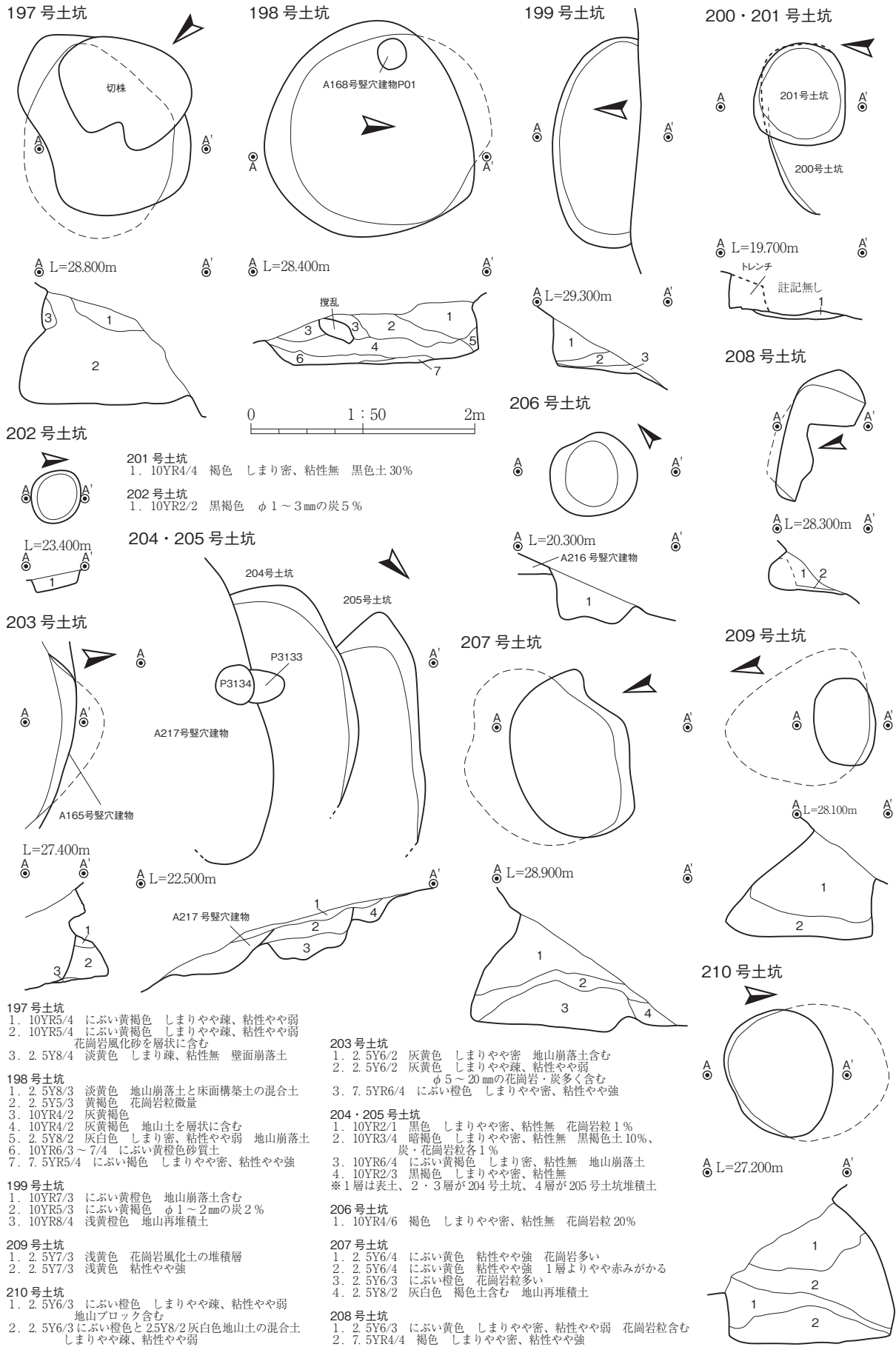
194号土坑

1. 10YR7/6 明黄褐色 φ5mmの炭1%、花崗岩風化層
2. 10YR7/2 にぶい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩風化層
3. 10YR7/3 にぶい黄褐色 しまりやや密 φ2 ~ 5mmの炭2%、花崗岩含む
4. 7. 5YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性やや強

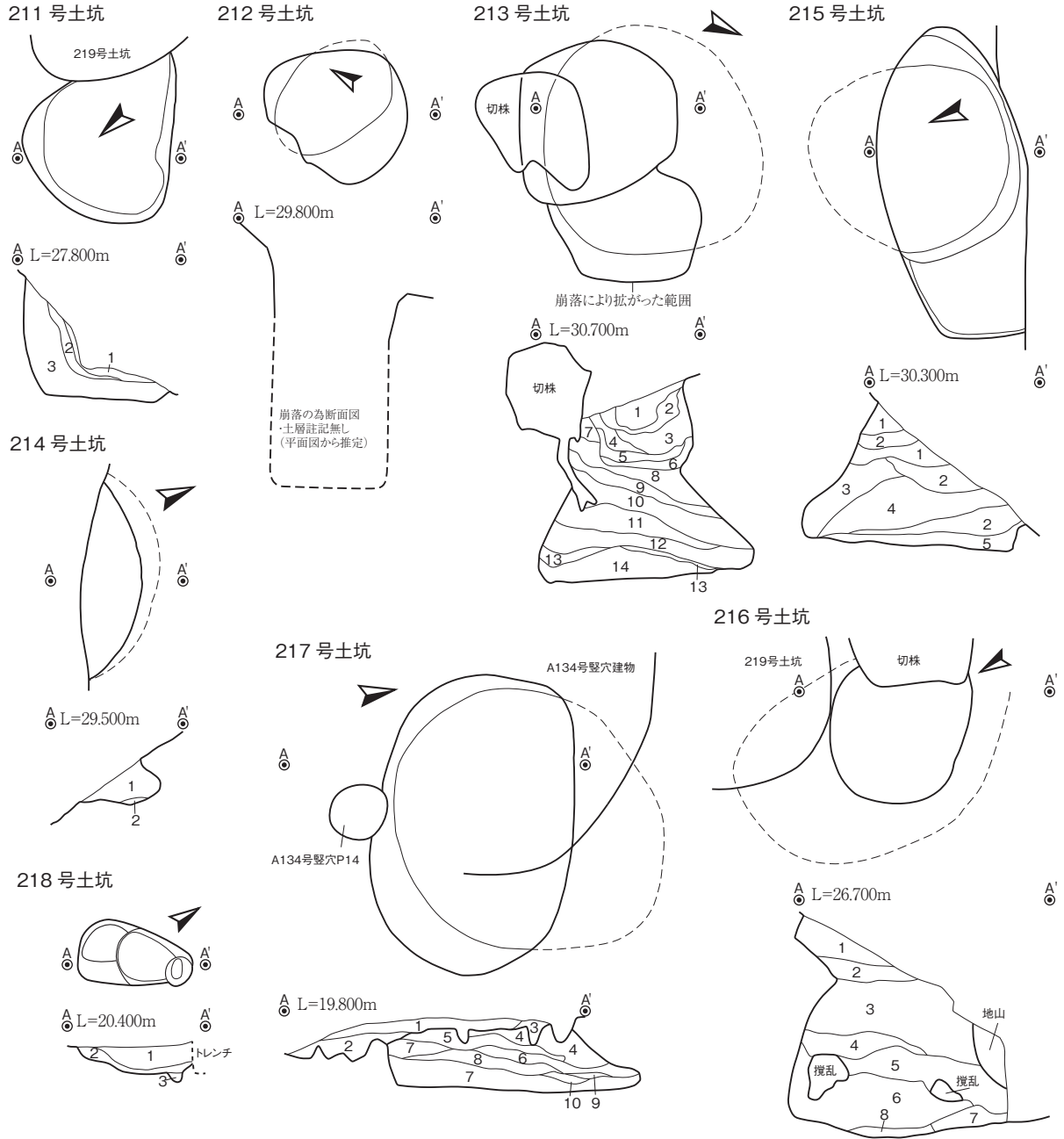
196号土坑

1. 10YR7/3 にぶい黄褐色 地山崩落土含む
2. 10YR7/3 にぶい黄褐色砂質土 花崗岩粒微量
3. 10YR2/2 黒褐色
4. 7. 5YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性やや強

第199図 188 ~ 196号土坑



第200図 197~210号土坑



- 211号土坑**
 1. 2. 5Y7/4 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 黒褐色土含む
 2. 2. 5Y7/4 浅黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落土含む
 3. 2. 5Y8/2 灰白色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落土

- 213号土坑**
 1. 10YR2/1 黒色 φ1~5mmの炭5%
 2. 2. 5Y7/3 浅黄色砂質土
 3. 2. 5Y7/3 浅黄色 地山崩落土多い
 4. 2. 5Y7/3 浅黄色砂質土
 5. 10YR2/1 黒色 φ1~5mmの炭5%
 6. 2. 5Y6/3 にぶい黄色
 7. 10YR5/4 にぶい黄褐色
 8. 2. 5Y8/2 淡黄色 地山崩落土
 9. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒微量
 10. 2. 5Y8/4 淡黄色 粒子細かい 地山風化土の流入土
 11. 10YR5/3 にぶい黄褐色
 12. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒微量
 13. 2. 5Y8/4 淡黄色 粒子細かい 地山風化土の流入土
 14. 2. 5Y5/2 暗灰黄色

- 214号土坑**
 1. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性弱 花崗岩粒微量
 2. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまり密、粘性弱 1層より花崗岩粒多い

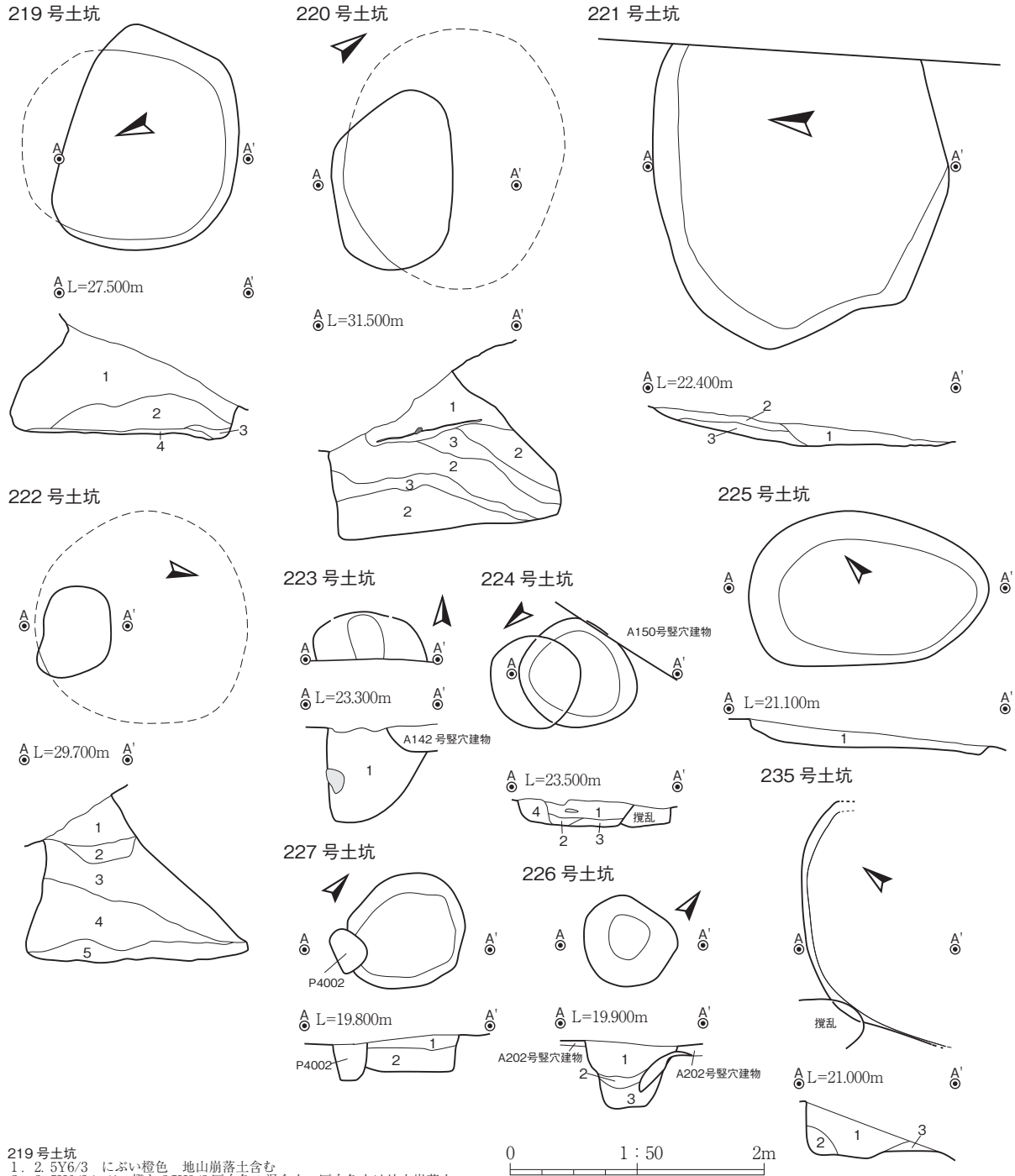
- 215号土坑**
 1. 2. 5Y7/4 浅黄色 花崗岩粒多い
 2. 2. 5Y7/4 浅黄色 地山崩落土多い
 3. 2. 5Y8/3 淡黄色 しまりやや密、粘性やや弱 地山崩落土
 4. 2. 5Y7/4 浅黄色 大型地山ブロック含む
 5. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまり密、粘性弱 地山崩落土

- 216号土坑**
 1. 2. 5Y7/3 浅黄色 しまりやや密
 2. 2. 5Y7/3 浅黄色 地山土含む
 3. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 しまりやや密 地山ブロック多く含む
 4. 2. 5Y8/2 灰白色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山土の再堆積
 5. 2. 5Y6/3 にぶい黄色 しまりやや密
 6. 2. 5Y7/6 明黄褐色粘質土 しまりやや密、粘性やや強
 7. 2. 5Y7/8 黄色粘土 しまり密、粘性強 水成堆積か
 8. 10YR6/4 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性やや強

- 217号土坑**
 1. 10YR17/1 黒色 しまりやや密 黄褐色粘土・灰白色土ブロック・花崗岩粒含む
 2. 10YR2/1 黒色 灰白色土・灰褐色土ブロックを多く含む 人為堆積土
 3. SID36溝2堆積土
 4. 10YR7/3 にぶい黄褐色 しまりやや密 φ2~10mmの炭3%、灰白色土ブロック含む
 5. 10YR3/3 暗褐色 φ5~10mmの炭2%、花崗岩粒多い
 6. 10YR3/3 暗褐色 5層より花崗岩粒少ない
 7. 2. 5Y8/2 灰白色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落土
 8. 10YR5/3 にぶい黄褐色 φ2~10mmの炭3%
 9. 10YR7/2 にぶい黄褐色砂質土 しまりやや疎、粘性やや弱
 10. 10YR17/1 黒色

- 218号土坑**
 1. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性なし 炭2%
 2. 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性強 炭1%
 3. 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性弱 炭1%

第201図 211~218号土坑



219号土坑
 1. 2. 5Y6/3 にぶい橙色 地山崩落土含む
 2. 2. 5Y6/3 にぶい橙と2.5Y8/2 灰白色の混合土 灰白色土は地山崩落土
 3. 2. 5Y6/3 にぶい橙色粘土 しまり密、粘性強
 4. 7. 5YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性やや強

220号土坑
 1. 2. 5Y7/3 浅黄色 地山崩落土、下位に炭層状に含む
 2. 2. 5Y8/3 淡黄色 褐色土含む 地山崩落土
 3. 2. 5Y6/4 にぶい黄色 しまりやや密 φ2~10mmの炭1%

221号土坑
 1. 10YR2/2 黒褐色 φ2~10mmの炭3%、赤色・黄色粒子2%、花崗岩粒含む
 2. 7.5YR5/3 にぶい褐色 φ2~5mmの炭2%
 3. 2. 5Y7/2 灰黄色砂と10YR4/2 灰黄褐色の混合土 しまりやや疎、粘性やや弱 φ2~10mmの炭5%

222号土坑
 1. 10YR6/3 にぶい黄橙色砂質土
 2. 10YR6/3 にぶい黄褐色 地山崩落土多い
 3. 10YR5/3 にぶい黄褐色 φ2~5mmの炭1%
 4. 10YR5/3 にぶい黄褐色 地山崩落土含む
 5. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土

224号土坑
 1. 10YR2/3 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 炭・焼土・花崗岩粒各1%
 2. 10YR2/3 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 10YR3/4 暗褐色土25%、炭・焼土・花崗岩粒各1%
 3. 10YR3/4 暗褐色粘質土 しまりやや密
 4. 10YR2/3 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 10YR4/6 褐色粘土塊15%

223号土坑
 1. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎 花崗岩粒含む

225号土坑
 1. 10YR2/1 黒色 しまり疎、粘性やや弱
 斜面上方からの流入土

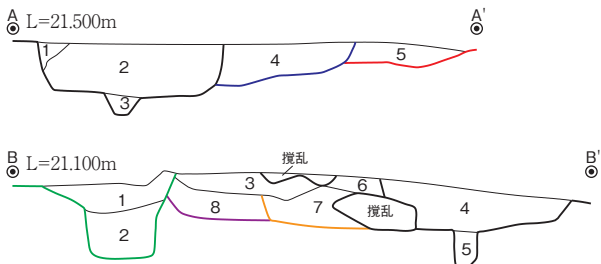
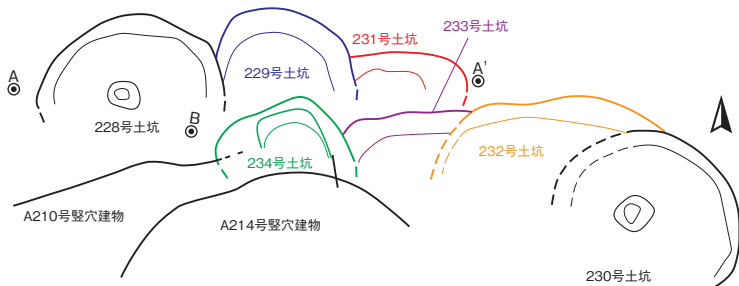
226号土坑
 1. 10YR4/2 灰黄褐色 地山土3%、花崗岩粒多い
 2. 10YR3/1 黒褐色 1層より粒子細かい
 3. 10YR6/2 灰黄褐色 地山小ブロックと小炭少量

227号土坑
 1. 7.5YR3/1 黒褐色粘質土 しまり密、粘性無
 2. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性弱

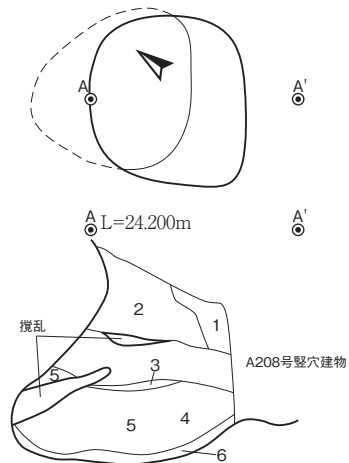
235号土坑
 1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密
 2. 10YR3/4 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱
 3. 10YR4/4 褐色 しまりやや疎、粘性弱

第202図 219~227・235号土坑

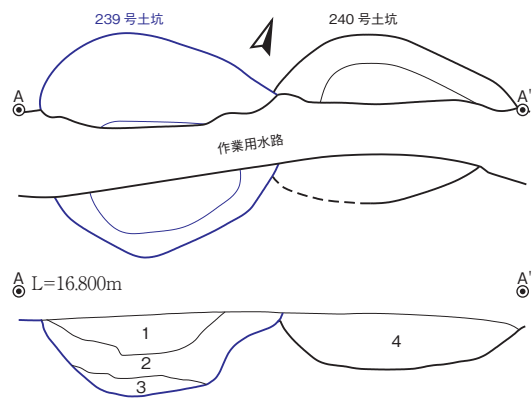
228・229・230・231・232・233・234号土坑



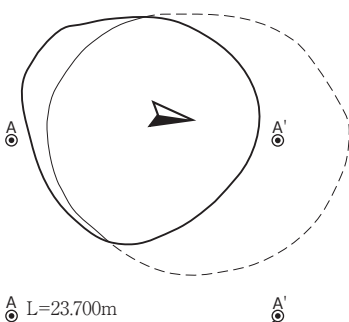
236号土坑



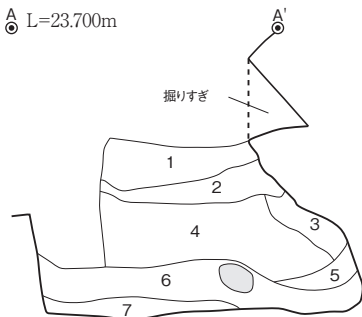
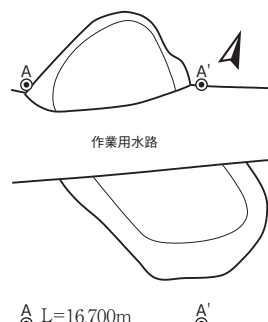
239・240号土坑



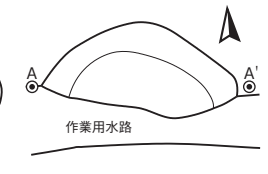
237号土坑



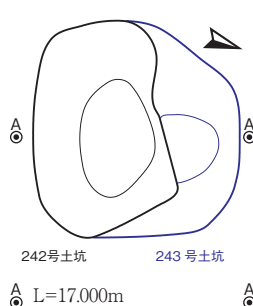
238号土坑



241号土坑



242・243号土坑



237号土坑

- 10YR4/6 褐色砂質土 しまり密、粘性無 花崗岩粒30%
- 10YR3/4 暗褐色 しまり密、粘性無 10YR2/1黒色土10%、花崗岩粒30%
- 10YR6/8 明黄褐色 しまりやや疎、粘性弱 花崗岩粒10%
- 10YR4/4褐色と10YR2/3黒褐色の互層 しまり密、粘性無 炭10%、花崗岩粒20%
- 10YR2/3 黒褐色 しまり密、粘性無 花崗岩粒10%
- 10YR5/4にぶい黄褐色と10YR2/3黒褐色の互層 しまり密、粘性無 炭10%、花崗岩粒20%
- 10YR5/8 黄褐色砂質土 しまり密、粘性無 花崗岩粒10%

238号土坑

- 10YR3/3 暗褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 φ5mmの炭1%
- 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 φ10mmの炭3%
- 10YR4/3にぶい黄褐色真砂混シルトと10YR6/6明黄褐色粘土の互層 しまりやや疎、粘性やや弱

239・240号土坑

- 10YR2/3 黒褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱
 - 10YR4/4 褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 φ5mmの炭1%
 - 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト 粘性やや弱
 - 10YR2/3 暗褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱
- ※1～3層が239号土坑、4層が240号土坑堆積土

228・229・231号土坑(A-A')

- 5YR4/2 暗灰黄色 しまりやや疎、粘性無 φ3～10mmの礫15%
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまり密、粘性無 φ3～10mmの礫15%
 - 10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや疎、粘性無
 - 10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性無 φ3～10mmの礫10%
 - 5YR5/3 黄褐色 しまりやや密、粘性無
- ※1～3層が228号土坑、4層が229号土坑、5層が231号土坑堆積土

230・232・233・234号土坑(B-B')

- 5YR5/3 黄褐色 しまり密、粘性無 φ3～10mmの礫5%
 - 5YR4/3 オリーブ褐色 しまりやや密、粘性無 φ3～10mmの礫7%
 - 5YR6/3 にぶい黄色 しまり密、粘性無 φ3～10mmの礫5%
 - 5YR4/2 暗灰黄色 しまりやや密、粘性無 φ3～10mmの礫10%、炭2%
 - 5YR4/3 オリーブ褐色 しまりやや疎、粘性無 炭1%
 - 5YR5/3 黄褐色 しまり密、粘性無 φ3～10mmの礫5%
 - 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまり密、粘性無 炭2%
 - 5YR4/2 暗灰黄色 しまり密、粘性無 炭2%
- ※1・2層が234号土坑、4・5層が230号土坑、6・7層が232号土坑、8層が233号土坑堆積土

236号土坑

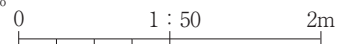
- 5YR6/1 褐灰色砂質土 しまり密、粘性弱 花崗岩粒15%
- 5YR5/2 灰褐色 しまり密、粘性無 花崗岩粒15%
- 5YR6/1 褐灰色砂質土 しまり密、粘性弱 花崗岩粒15%
- 10YR6/1 褐灰色砂質土 しまり密、粘性無 花崗岩粒3%
- 10YR5/6 褐色 しまりやや密、粘性弱 炭1%、花崗岩粒10%
- 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 しまり密、粘性無 花崗岩粒20%

241号土坑

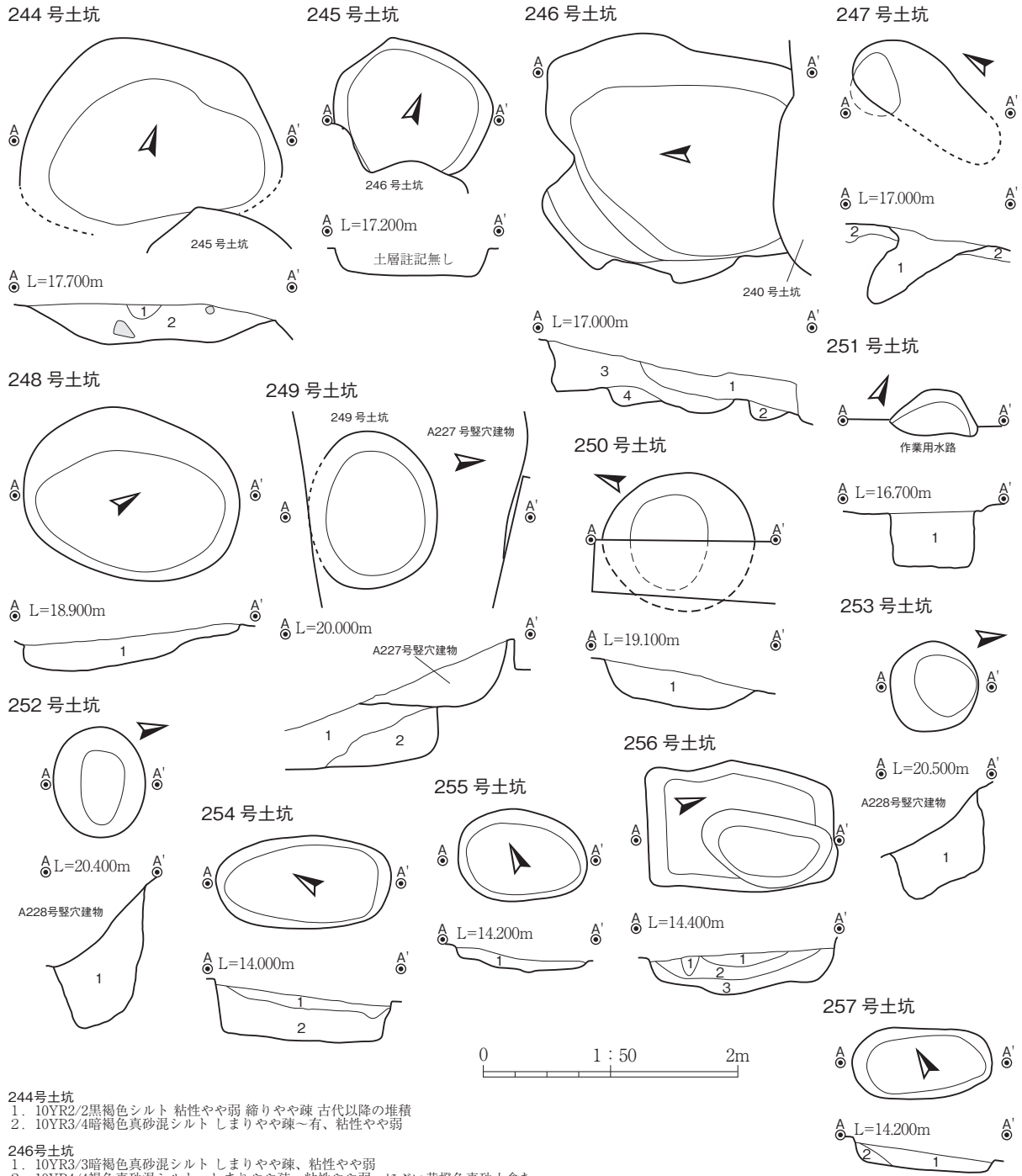
- 10YR3/3 暗褐色真砂混シルト 粘性やや弱

242・243号土坑

- 10YR2/3 黒褐色真砂混シルト 粘性やや弱
- 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト 粘性やや弱



第203図 228～234・236～243号土坑



- 244号土坑**
 1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや弱 締めやや疎 古代以降の堆積
 2. 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト しまりやや疎～有、粘性やや弱
- 246号土坑**
 1. 10YR3/3 暗褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱
 2. 10YR4/4 褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 にぶい黄褐色真砂土含む
 3. 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱
 4. 10YR4/4 褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 明黄褐色真砂土含む

- 254号土坑**
 1. 10YR3/3 暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い、にぶい黄褐色砂質シルトの偽礫含む
 2. 2.5Y5/4 黄褐色 細～粗粒砂 にぶい黄褐色砂質シルトの偽礫含む

- 247号土坑**
 1. 10YR4/4 褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱
 2. 10YR4/6 褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 φ5mmの炭1%
 ※2層はA221号竪穴建物堆積土
- 248号土坑**
 1. 10YR2/2 黒褐色真砂混シルト 粘性やや弱
- 249号土坑**
 1. 10YR3/3 暗褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱
 自然堆積層か 249号土坑より後でSIB39より前の堆積
 2. 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱
- 250号土坑**
 1. 10YR3/2 黒褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱 φ5mmの炭3%
- 251号土坑**
 1. 10YR5/4 にぶい黄褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱

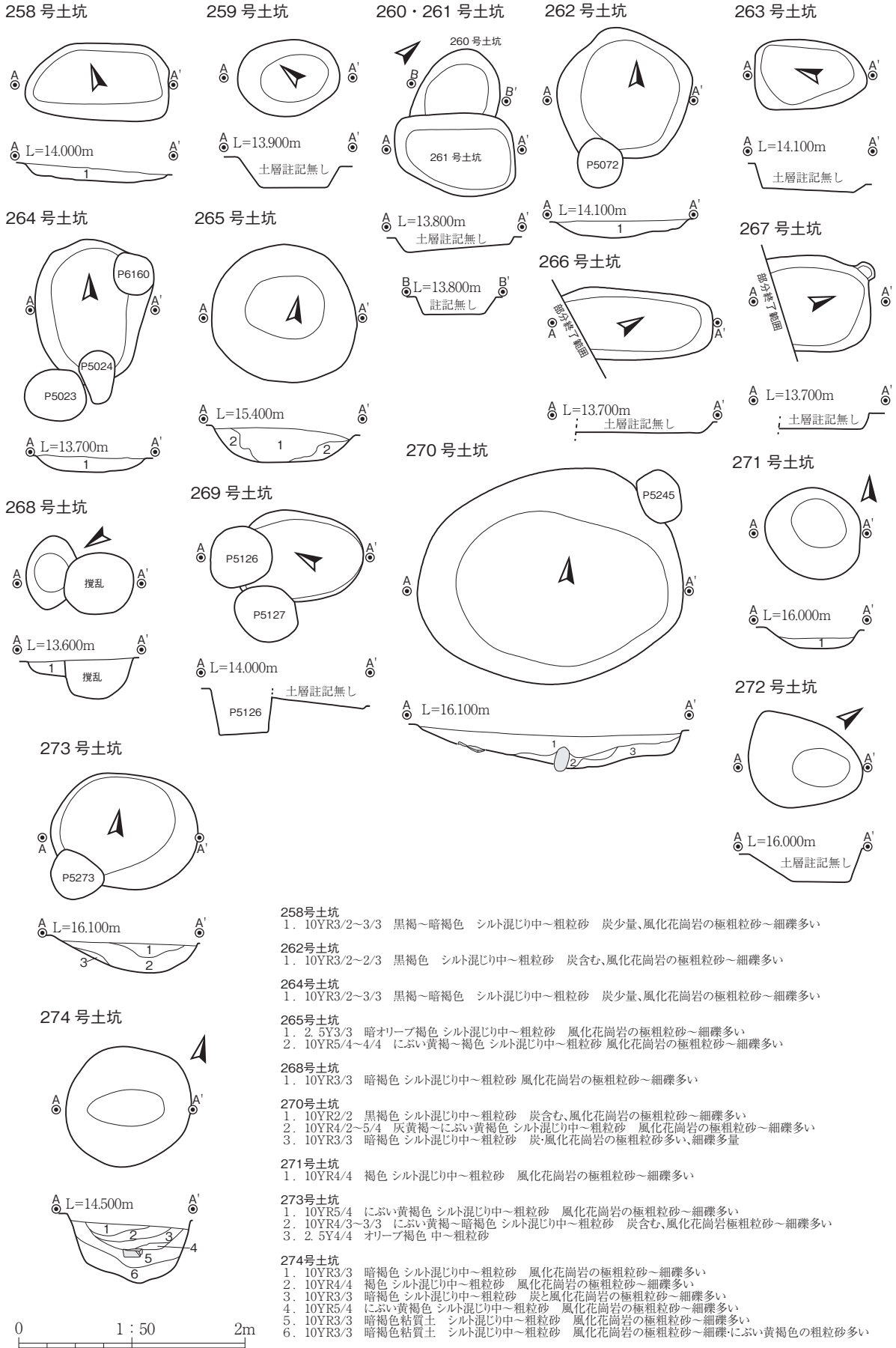
- 255号土坑**
 1. 10YR3/2～3/3 黒褐～暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 炭少量、風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い

- 252・253号土坑**
 1. 10YR4/3 にぶい黄褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱
 φ5mmの炭2% 斜面上部からの流入土

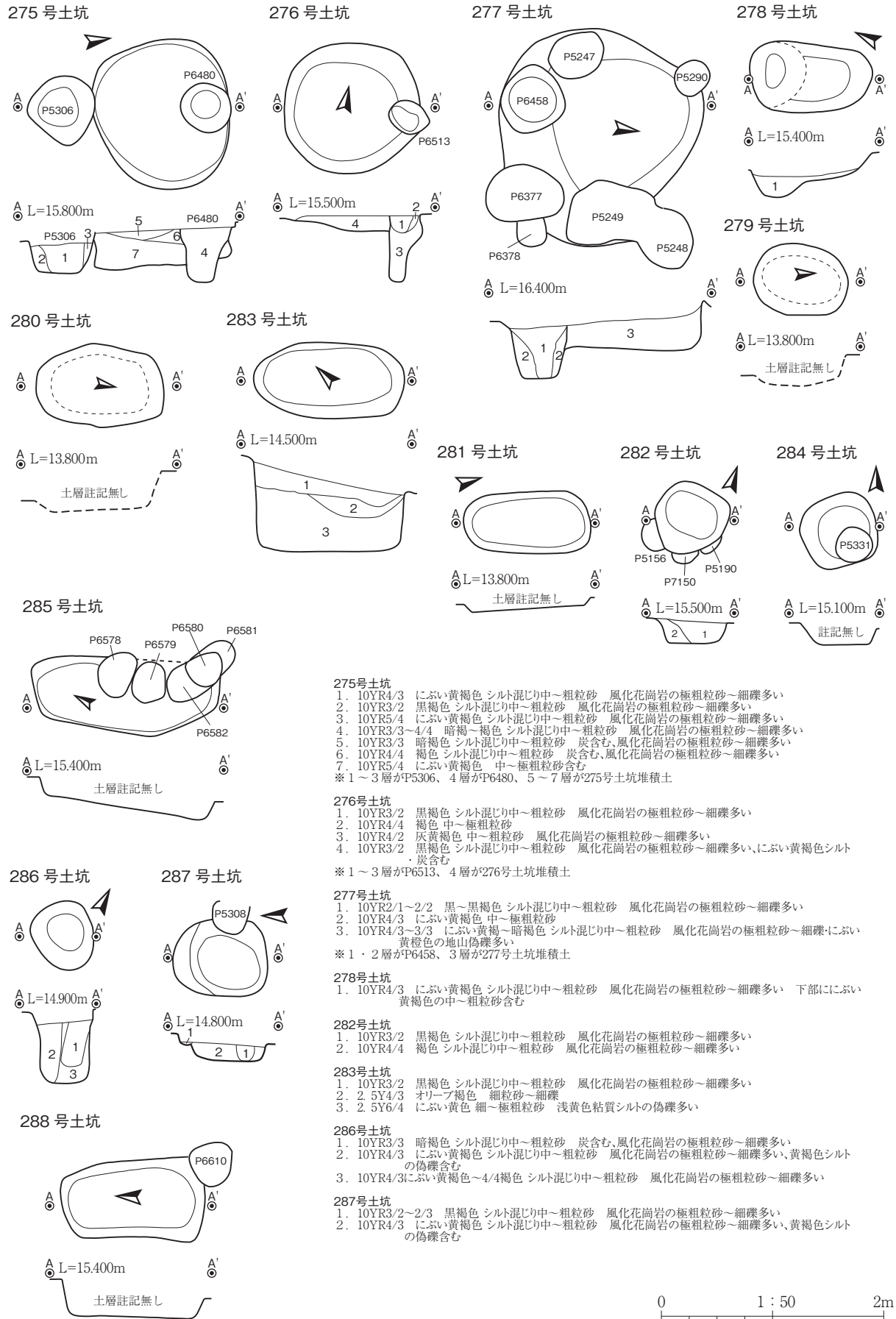
- 256号土坑**
 1. 10YR3/2～3/3 黒褐～暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 炭少量、風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 2. 10YR5/3～5/4 にぶい黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い

- 257号土坑**
 1. 10YR3/2～3/3 黒褐～暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 炭少量、風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 2. 10YR5/3～4/3 にぶい黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 炭少量、風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い

第 204 図 244～257 号土坑

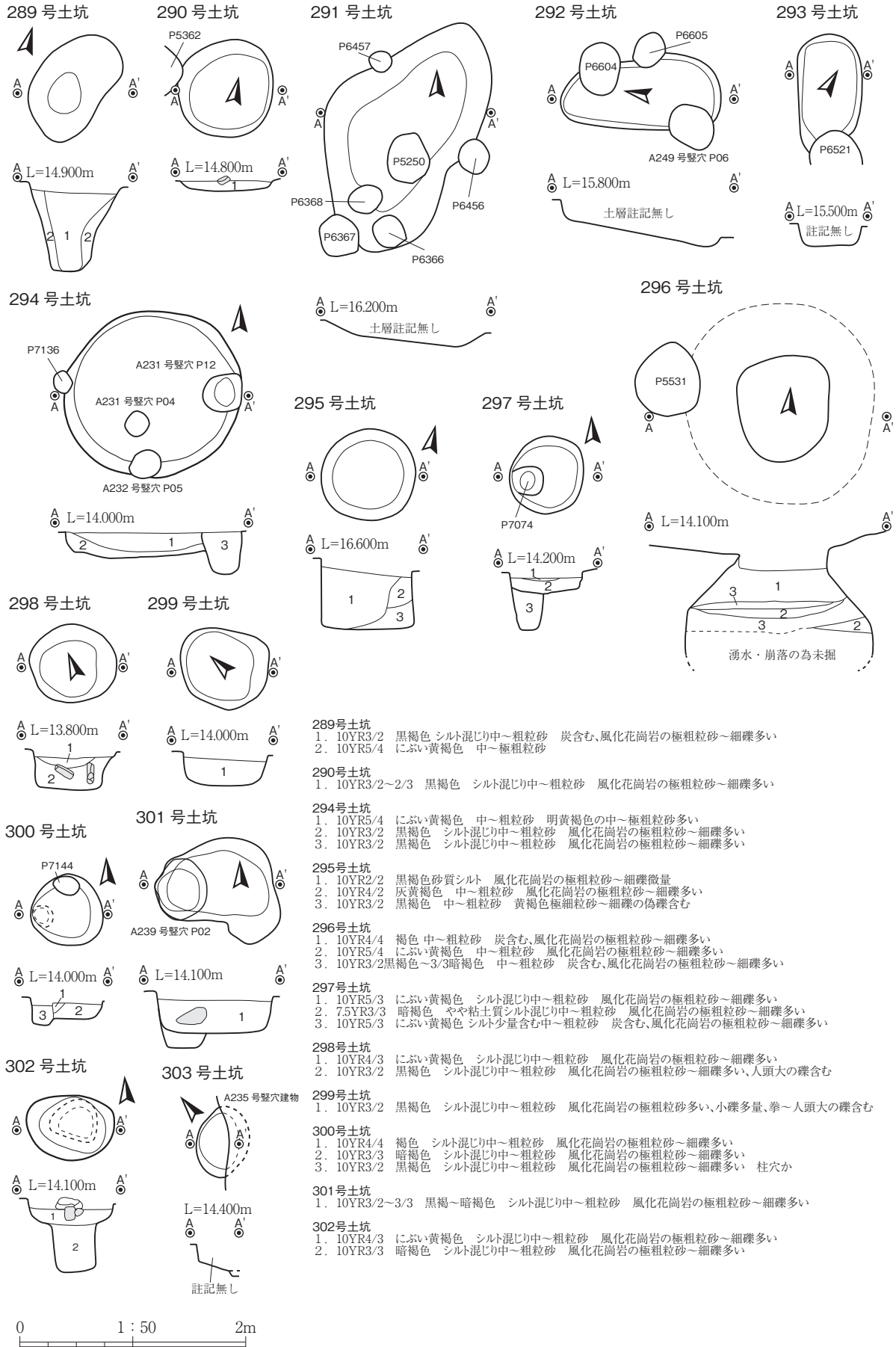


第 205 図 258 ~ 274 号土坑



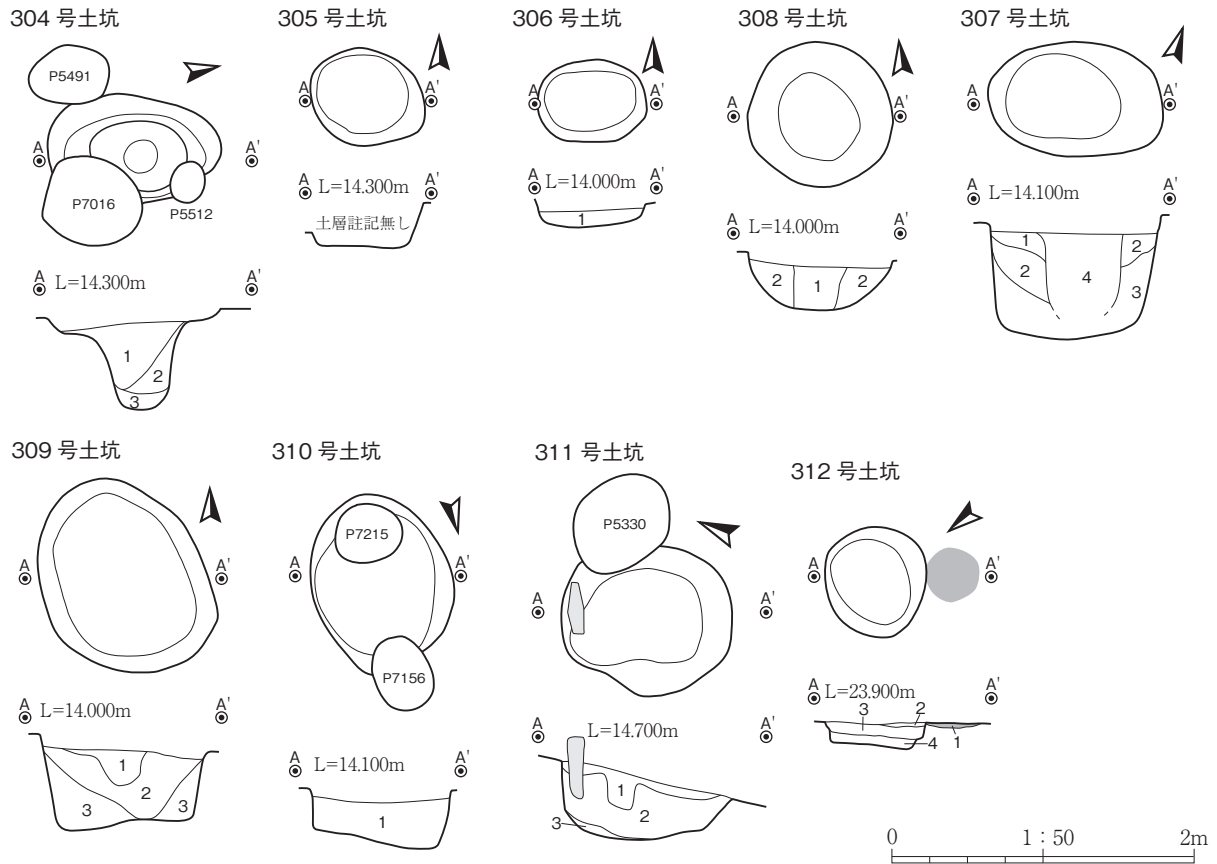
- 275号土坑**
- 10YR3/2 におい黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 - 10YR3/2 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 - 10YR5/4 におい黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 - 10YR3/3 4/4 暗褐色～褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 - 10YR3/3 暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 炭含む、風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 - 10YR4/4 褐色 シルト混じり中～粗粒砂 炭含む、風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 - 10YR5/4 におい黄褐色 中～極粗粒砂含む
- ※ 1～3層がP5306、4層がP6480、5～7層が275号土坑堆積土
- 276号土坑**
- 10YR4/3 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 - 10YR4/4 褐色 中～極粗粒砂
 - 10YR4/2 灰黄褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 - 10YR3/2 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い、におい黄褐色シルト炭含む
- ※ 1～3層がP6513、4層が276号土坑堆積土
- 277号土坑**
- 10YR2/1～2/2 黒～黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 - 10YR4/3 におい黄褐色 中～極粗粒砂
 - 10YR4/3～3/3 におい黄褐～暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫におい黄褐色の地山偽礫多い
- ※ 1・2層がP6458、3層が277号土坑堆積土
- 278号土坑**
- 10YR4/3 におい黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い 下部ににおい黄褐色の中～粗粒砂含む
- 282号土坑**
- 10YR3/2 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 - 10YR4/4 褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 283号土坑**
- 10YR3/2 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 2. 5Y4/3 オリーブ褐色 細粒砂～細礫
 2. 5Y6/4 におい黄色 細～極粗粒砂 浅黄色粘質シルトの偽礫多い
- 286号土坑**
- 10YR3/3 暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 炭含む、風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 - 10YR4/3 におい黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い、黄褐色シルトの偽礫含む
 - 10YR4/3におい黄褐色～4/4褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 287号土坑**
- 10YR3/2～2/3 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 - 10YR4/3 におい黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い、黄褐色シルトの偽礫含む

第 206 図 275～288 号土坑



第207図 289～303号土坑

4 土坑



- 304号土坑
 1. 10YR4/4 褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 2. 10YR5/4 にぶい黄褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 3. 10YR3/4 暗褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 306号土坑
 1. 10YR4/3～3/4 にぶい黄褐～暗褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 307号土坑
 1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 2. 10YR4/6 褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 3. 10YR3/2～3/3 黒褐～暗褐色 中～粗粒砂 炭含む、風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 4. 10YR3/2～3/3 黒褐～暗褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 308号土坑
 1. 10YR2/1～2/2 黒～黒褐色 2層との境界は漸移的
 2. 10YR3/2～3/3 黒褐～暗褐色 中～粗粒砂 炭含む、風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 309号土坑
 1. 10YR3/2～2/3 黒褐色 中～粗粒砂 炭含む、風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 2. 10YR4/3～4/4 にぶい黄褐～褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
 3. 10YR3/4 暗褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 310号土坑
 1. 10YR4/3～4/4 にぶい黄褐～褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細礫多い
- 311号土坑
 1. 10YR3/1 黒褐色 しまりやや密、粘性弱
 2. 10YR5/4 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性無 炭2%、φ20～50mmのにぶい黄橙色土15% 人為堆積
 3. 10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや疎、粘性弱 人為堆積
- 312号土坑
 1. 5YR5/6 明赤褐色焼土 しまりやや密、粘性無
 2. 5YR4/6赤褐色焼土塊と10YR3/1黒褐色粘土質土の混合土 しまり密、粘性無
 3. 7.5YR4/6褐色粘土質土と10YR3/1黒褐色粘土質土の混合土 しまり密 粘性無
 4. 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土質土 しまり密、粘性無

第 208 図 304～312号土坑

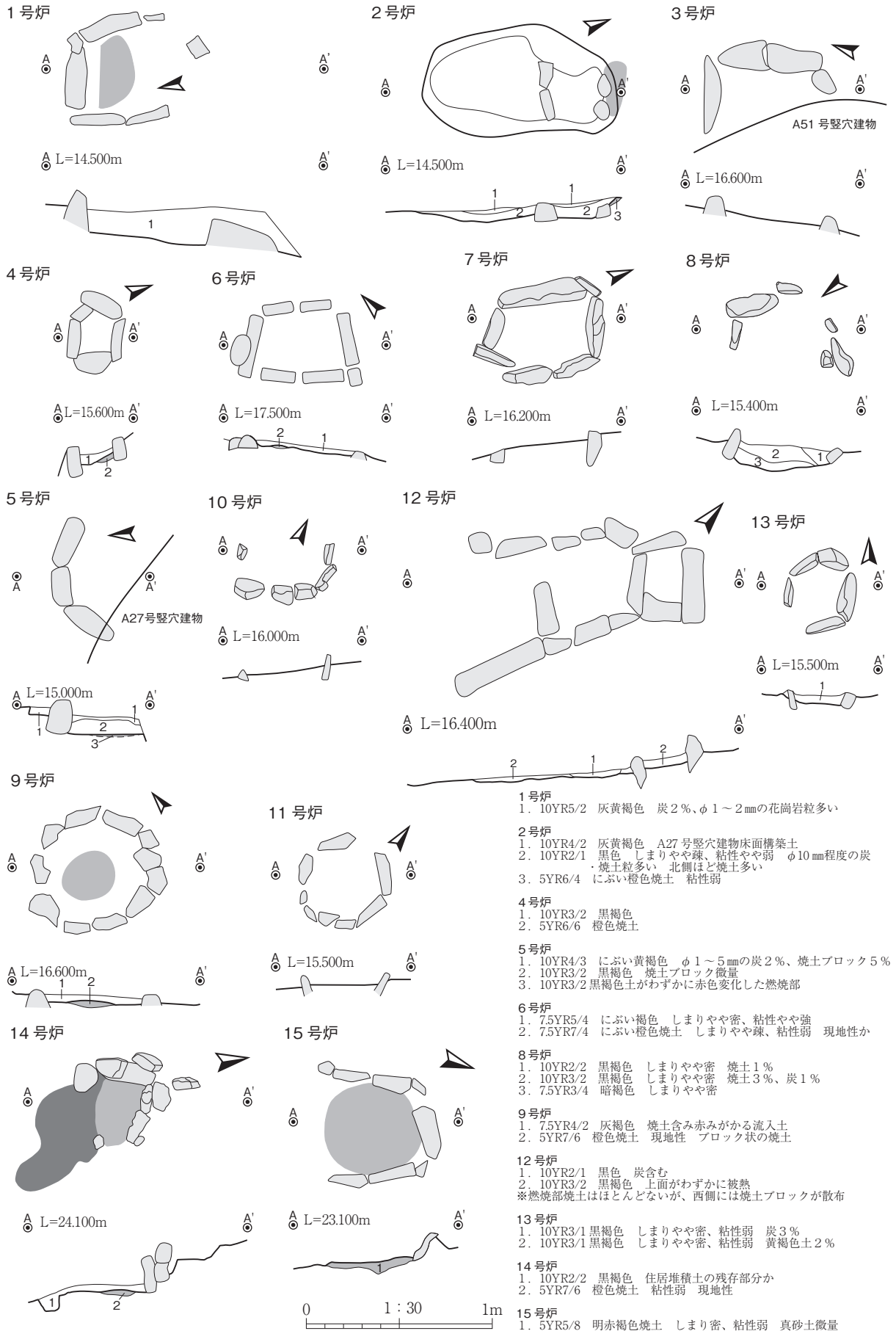
5 炉・焼土

(第1-209～211図、第2-111・112・310図、写真図版252～262・354・355・489)

竪穴建物への帰属が不明なものとして石囲炉23基、焼土19基を登録した。規模・形状等は第7表の通りである。石囲炉は石が全周するもの、1箇所が開口するもの、複式炉と3型式に分類できる。構築方法は、掘り方を持たず炉石部分のみ掘り込んで構築するA型、土坑状の掘り方を持ち壁面又はやや内側に立て並べるB型、遺存状況が悪く不明なものをC型とした。年代は、縄文時代竪穴建物の掘り込み面より上位で検出した17号焼土を除いていずれも縄文時代に属すると考えられる。なお、後述する4号土器埋設遺構は炉の機能を持つが、今回は土器を使用する点を考慮して土器埋設遺構に分類した。

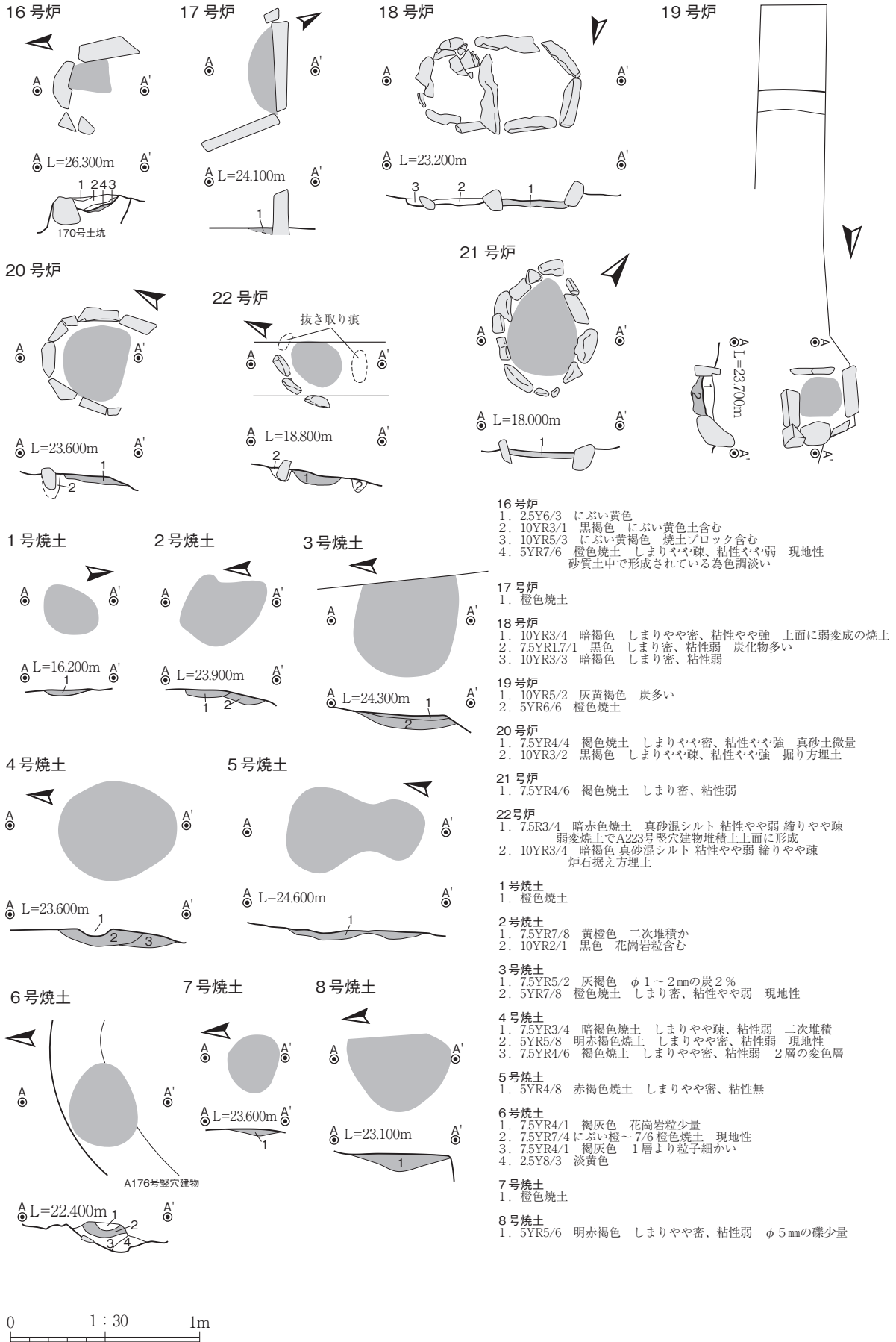
第7表 炉・焼土一覧

遺構名	グリッド	時代	種別	平面形	設置方法	規模 (cm)		掲載遺物	備考 (重複：右側が新しい)
						平面	被熱深		
1号炉	II B16h	縄文	石囲炉	長方形	A	53×42	1		燃焼部の熱変成弱、(無し)
2号炉	II B16h	縄文	石囲炉	楕円形	B	107×60	2		前庭部有り、(A33号竪穴建物→◎→A27号竪穴建物)
3号炉	II B14j	縄文	石囲炉	長方形	A	72×(43)	1		燃焼部の熱変成弱、(◎→A51号竪穴建物)
4号炉	II B15i	縄文	石囲炉	方形	A	47×30	3	土器 1060.4g	(◎→A36号竪穴建物)
5号炉	II B15h	縄文	石囲炉	楕円形?	B	70×23	1.5	土器 233.7g	(◎→A36号竪穴建物)
6号炉	II B13f	縄文	石囲炉	長方形	A	67×46	2		(45・57号土坑→◎)
7号炉	II B14i	縄文	石囲炉	長方形	A	65×56	1	土器 2185.8g (a1169)、石器 951.1g	(A51号竪穴建物→◎)
8号炉	II B15i	縄文	石囲炉	不明	B	68×(55)	1	土器 63.2g (a1170)	(◎→A29号竪穴建物)
9号炉	II B14d	縄文	石囲炉	円形	A	73×68	4		(A35号竪穴建物→◎)
10号炉	II B15j	縄文	石囲炉	不明	A	52×(34)	1	石器 (c1124)、石器 673.4g	(A57号竪穴建物→◎)
11号炉	II B15j	縄文	石囲炉	円形	A	53×51	1		(A57号竪穴建物→◎)
12号炉	II B15e	縄文	複式炉	台形	A	134×85	1	土器 1407.1g、石器 6024.6g	(A35号竪穴建物→◎)
13号炉	II B15i	縄文	石囲炉	方形	B	44×39	1	土器 1256.1g (a1171)	(A53号竪穴建物→◎)
14号炉	II B8e	縄文	石囲炉	方形?	B	(52)×(50)	3	石器 2069.2g	遺存状況不良、(A108号竪穴建物→◎)
15号炉	II B8b	縄文	石囲炉	台形	A	67×64	5	土器 27.0g、石器 1060.6g	A142号竪穴建物に伴う炉か、(無し)
16号炉	II B8j	縄文	石囲炉	方形?	A	(52)×(46)	2	石器 896.2g	(170号土坑→◎)
17号炉	II B6a	縄文	石囲炉	不明	A	(75)×(41)	4		(A160号竪穴建物→◎)
18号炉	II A8y	縄文	複式炉	楕円形	A	90×52	4	土器 653.2g (a1172・1173)	(◎→A125号竪穴建物)
19号炉	II B6a	縄文	石囲炉	方形	A	42×42	7		竪穴建物の炉か、北側に可能性のある立ち上がり確認、(A160号竪穴建物→◎)
20号炉	II B6a	縄文	石囲炉	楕円形?	A	(62)×58	4	土器 25.1g、石器 3835.5g (c1125)	A160号竪穴建物に伴う炉か、(無し)
21号炉	II A17s	縄文	石囲炉	楕円形	A	74×53	3		(無し)
22号炉	II A15t	縄文	石囲炉	楕円形?	A	50×(40)	6	土器 (a1174)	(◎→A223号竪穴建物)
23号炉	II A7v	縄文	石囲炉	円形	A	-	-	土器 3340.9g	写真のみ掲載
1号焼土	II B14k	縄文	地床炉	円形	-	29×24	3	土器 313.3g	(無し)
2号焼土	II B8e	縄文	二次堆積?	不整形	-	40×38	4		(A108号竪穴建物→◎)
3号焼土	II B7c	縄文	地床炉	楕円形	-	53×(50)	8	土器 323.9g	(無し)
4号焼土	II A6x	縄文	地床炉	円形	-	62×41	9		(◎→A155号竪穴建物)
5号焼土	II A5y	縄文	地床炉	瓢形	-	72×44	4	土器 12333.8g (a1175～1181) 石器 193.5g	(無し)
6号焼土	II A9w	縄文	地床炉	円形	-	44×36	8		(A163号竪穴建物→◎)
7号焼土	II A7x	縄文	地床炉	円形	-	30×27	4		(無し)
8号焼土	II B7a	縄文	地床炉	楕円形	-	54×(30)	10		A146号竪穴建物に伴う炉か、(無し)
9号焼土	II B7a	縄文	地床炉	不整形	-	68×53	5		A146号竪穴建物に伴う炉か、(◎→A125号竪穴建物)
10号焼土	II B7a	縄文	地床炉	不整形	-	52×40	11	土器 5.2g	A146号竪穴建物に伴う炉か、(A175号竪穴建物→◎)
11号焼土	II A7y	縄文	地床炉	円形	-	35×32	4		A146号竪穴建物に伴う炉か、(A175号竪穴建物→◎)
12号焼土	II A6y	縄文	地床炉	不整形	-	58×56	4		(A160号竪穴建物→◎)
13号焼土	II B8b	縄文	地床炉	不整形	-	68×40	5	土器 31.9g	(◎→A142号竪穴建物)
14号焼土	II A9y	縄文	地床炉	楕円形	-	108×60	6		(無し)
15号焼土	II A17r	縄文	地床炉	円形	-	65×58	6	土器 1210.6g	(無し)
16号焼土	II A16s	縄文	地床炉	円形	-	58×56	13	土器 209.3g	(無し)
17号焼土	II A8u	古代以降	地床炉?	円形?	-	47×(19)	12		(無し)
18号焼土	II A10v	縄文	地床炉	楕円形	B	181×104	9		掘り方有り、(◎→A109号竪穴建物)
19号焼土	II A10v	縄文	地床炉	楕円形	-	35×24	4		(◎→A109号竪穴建物)
1号鍛冶炉	II A6w	古代	鍛冶炉	円形	-	36×(19)	5	土器 162.4g (a2613)	(A135・150号竪穴建物→◎→B16号竪穴建物)

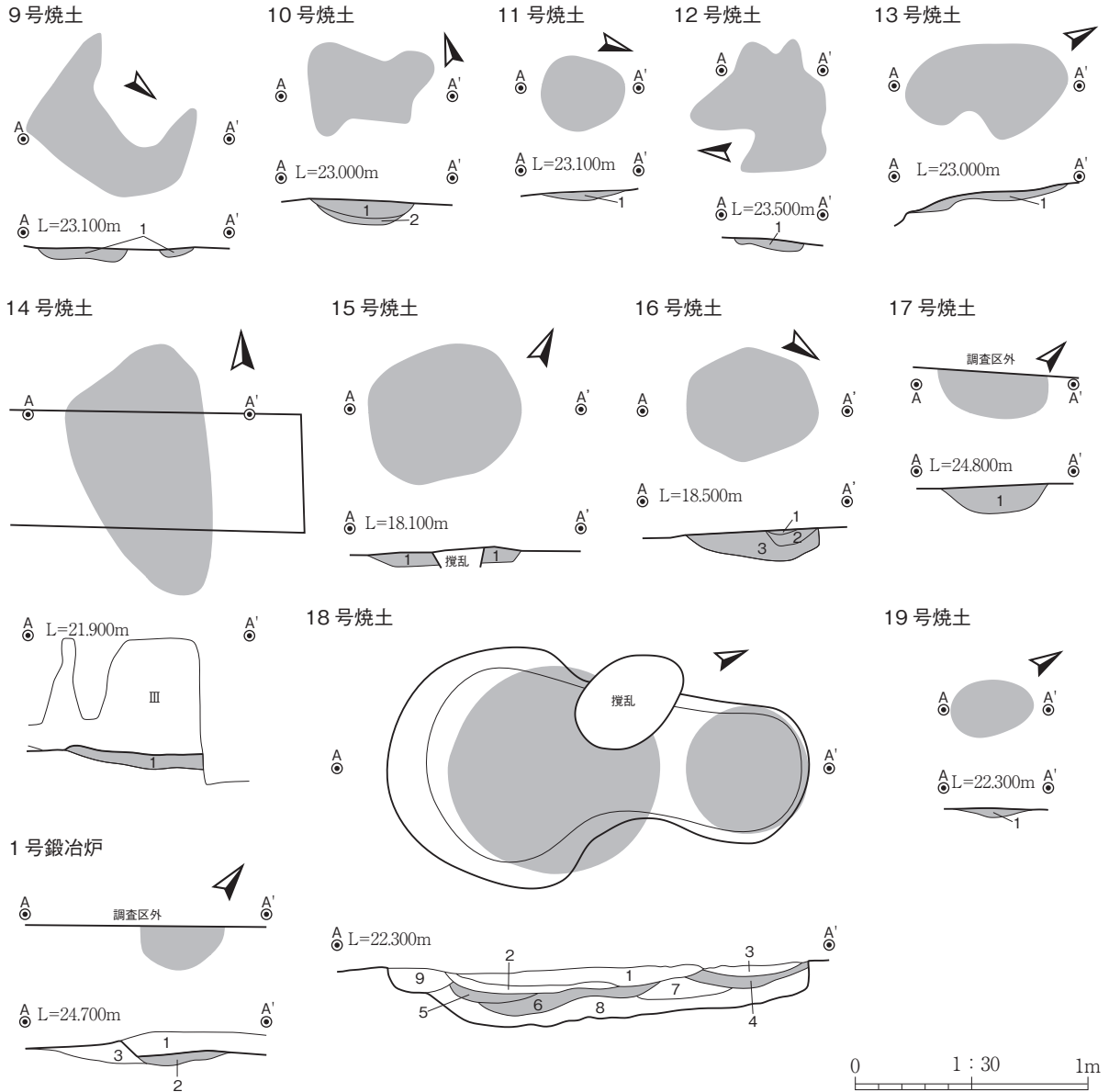


- 1号炉
1. 10YR5/2 灰黄褐色 炭2%、φ1~2mmの花崗岩粒多い
- 2号炉
1. 10YR4/2 灰黄褐色 A27号竪穴建物床面構築土
2. 10YR2/1 黒色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ10mm程度の炭・焼土粒多い、北側ほど焼土多い
3. 5YR6/4 にぶい橙色焼土 粘性弱
- 4号炉
1. 10YR3/2 黒褐色
2. 5YR6/6 橙色焼土
- 5号炉
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 φ1~5mmの炭2%、焼土ブロック5%
2. 10YR3/2 黒褐色 焼土ブロック微量
3. 10YR3/2 黒褐色土がわずかに赤色変化した燃焼部
- 6号炉
1. 7.5YR5/4 にぶい褐色 しまりやや密、粘性やや強
2. 7.5YR7/4 にぶい橙色焼土 しまりやや疎、粘性弱 現地性か
- 8号炉
1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 焼土1%
2. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密 焼土3%、炭1%
3. 7.5YR3/4 暗褐色 しまりやや密
- 9号炉
1. 7.5YR4/2 灰褐色 焼土含み赤みがかかる流入土
2. 5YR7/6 橙色焼土 現地性 ブロック状の焼土
- 12号炉
1. 10YR2/1 黒色 炭含む
2. 10YR3/2 黒褐色 上面がわずかに被熱
※燃焼部焼土はほとんどないが、西側には焼土ブロックが散布
- 13号炉
1. 10YR3/1 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 炭3%
2. 10YR3/1 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 黄褐色土2%
- 14号炉
1. 10YR2/2 黒褐色 住居堆積土の残存部分か
2. 5YR7/6 橙色焼土 粘性弱 現地性
- 15号炉
1. 5YR5/8 明赤褐色焼土 しまり密、粘性弱 真砂土微量

第209図 1~15号炉



第210図 16~22号炉、1~8号焼土



9号焼土
1. 5YR5/8 明赤褐色焼土 しまり密、粘性弱

10号焼土
1. 5YR5/8 明赤褐色焼土 しまりやや密、粘性やや弱
2. 7.5YR6/6 橙色焼土 しまりやや密、粘性弱 真砂土・炭微量

11号焼土
1. 5YR5/8 明赤褐色焼土 しまりやや疎、粘性弱 真砂土微量、土器片含む

12号焼土
1. 5YR6/6 橙色焼土

13号焼土
1. 5YR5/8 明赤褐色焼土 しまりやや密、粘性弱

14号焼土
1. 5YR6/6 橙色焼土 しまり密、粘性やや弱 現地性

15号焼土
1. 7.5YR5/6 明褐色 しまりやや密、粘性弱

16号焼土
1. 7.5YR2/3 極暗褐色焼土 しまり密、粘性強 炭2%
2. 7.5YR4/3 褐色焼土 しまり密、粘性無 炭5%
3. 5YR6/6 褐色焼土

17号焼土
1. 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまり密、粘性無

18号焼土
1. 7.5YR3/3 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 暗赤褐色焼土5%、炭10%、花崗岩粒1%
2. 5YR2/3 極暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭2%、花崗岩粒1%
3. 5YR2/4 極暗赤褐色土 しまりやや疎、粘性弱 炭2%、花崗岩粒1%
4. 5YR5/6 明赤褐色焼土 しまりやや疎、粘性無 現地性
5. 5YR5/6 明赤褐色焼土 しまりやや疎、粘性無 現地性
6. 5YR5/6 明赤褐色焼土 しまりやや疎、粘性無 現地性
7. 7.5YR5/4 にぶい褐色 しまりやや疎、粘性無 4層・6層からの被熱による変色層
8. 10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや疎
9. 7.5YR3/4 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 暗赤褐色焼土5%、炭10%、花崗岩粒1%

19号焼土
1. 5YR2/3 極暗赤褐色焼土 しまりやや疎、粘性無

1号鍛冶炉
1. 10YR3/4 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 にぶい黄褐色砂質土30%、炭・花崗岩粒各1%
2. 5YR6/8 橙色焼土 しまりやや疎、粘性無 現地性
3. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや疎、粘性無 焼土粒10%

第 211 図 9～19号焼土、1号鍛冶炉

6 鉄生産関連炉

1号鍛冶炉（第1-211図、写真図版262・457）

北側が調査区外に延びるため全体形は不明であるが、円形プランの地床炉と考えられる。燃焼部焼土の上面は1cm程度浅くレンズ状に窪み、上面には炭化物が集中する。周辺に鉄滓が少量散布していた。出土遺物は縄文土器（a 2613）のみであるが、周辺に鉄滓が少量散布していたことと他遺構との重複関係を考慮して古代に属する鍛冶炉と判断した。なお、焼土面直上から出土した炭化物の年代測定結果は縄文時代中期であるが、本遺構はA 135・150号竪穴建物堆積土を掘り込んで構築されていることから、これらから混入した炭化物を採取・分析した可能性がある（第VI章第1節）。

7 溝

（第1-212～214図、第2-112・113・291・310・338・389・390図、写真図版263～266・355・356・480・489・502・529～532）

19条検出した。規模・形状は第8表の通りである。このうち5・11号溝と16・17号溝は同一の遺構の可能性ある。ここでは3・4号溝について記載する。

3・4号溝（第1-213図、第2-112・113・291・310・389・390図、写真図版263・264・355・356・480・489・529～532）

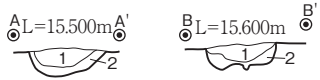
中段田区東側のIV層上面でにぶい黄褐色土のL字状プランとして検出した。当初は1条の溝と考えていたが、断面観察の結果同一地点で2条の溝が重複していることを確認した。69号土坑と重複関係にあり、3・4号溝のほうが新しい。3号溝は4号溝堆積土中に掘削されており、調査区北東壁から直線的に南西方向に約17m延びるが、そこから南側では堆積土が確認されなくなる。断面形は、逆台形又は皿形である。堆積土は真砂土を多量に含むにぶい黄褐色土が主体で、2層に分層した。遺物は土器が5,917.6g、石器が31.4g、鉄生産関連遺物が3,684.4g出土しており、縄文土器2点を掲

第8表 溝一覧

遺構名	グリッド名	時代	主軸方向	規模			掲載遺物	備考 (重複:右側が新しい)
				長(m)	幅(m)	深さ(cm)		
1号溝	II B15m~k	古代以降	N-42°-E	13.55	0.5	16~19		(無し)
2号溝	II B18k	古代以降	N-39°-E	5.5	0.95	36	土器2107.9g	(無し)
3号溝	II B8p~13o	近世	N-50~148°-E	29.85	2.3~2.6	37~55	土器5917.6g(a1182・1183) 石器249.2g	(67・68号土坑→4号溝→◎)
4号溝					1.4~6.1	30~72	土器45284.3g(a1184~1191) 石器2352.7g(c1046・1123)	(67・68号土坑→◎→3号溝)
5号溝	II A10u~ II B8d	古代	N-57~94°-E	(28.41)	0.35~0.6	7~9	土器4167.9g(a1192)、石器 1.9g	11号溝と一連のもの、(A109・162号竪穴建物→◎)
6号溝	II A11w~ II B11a	古代以降	N-70~91°-E	(6.48)	0.08~0.31	5~9	土器1236.5g	(A157・161・174号竪穴建物→◎)
7号溝	II B9i	縄文	N-90°-E	1.45	0.43	23		(A147号竪穴建物→◎→177号土坑)
8号溝	II B10d	縄文	N-64°-E	0.87	(0.12)	20		(◎→190号土坑)
9号溝	II B6a	縄文	N-89°-E	0.98	0.15	4	土器116.5g	竪穴建物の周溝か、(◎→P3268)
10号溝	II A13p~r	古代以降	N-68°-E	5.5	0.27~0.47	8		(無し)
11号溝	II A11t~13r	古代	N-34~76°-E	20.75	0.2~1.3	10~38	土器182.0g	5号溝と一連のもの、(A203・204号竪穴建物→◎ →B18号竪穴建物)
12号溝	II A13o	縄文	N-101°-E	10.7	0.44	10	土器54.9g	(無し)
13号溝	II A12v~15t	古代	N-48°-E	12.55	0.74~1.16	9~29	石器948.3g(c1265)	(◎→A216号竪穴建物)
14号溝	II B19c	縄文	N-19°-W	1.70	0.11	20		(無し)
15号溝	II B17b	縄文	N-66°-E	0.66	0.21	11		(◎→P6595・6596)
16号溝	II B17b	縄文	N-73°-E	2.15	0.18	8		17号溝と一連のもの、(19号溝→◎→284号土坑)
17号溝	II B17a	縄文	N-71°-E	0.86	0.16	16		16号溝と一連のもの、(◎→P5278)
18号溝	II B17a	縄文	N-72°-E	0.98	0.13	6		(◎→P6673)
19号溝	II B17b	縄文	N-17°-W	(1.00)	0.11	26		(◎→16号溝、P5363)

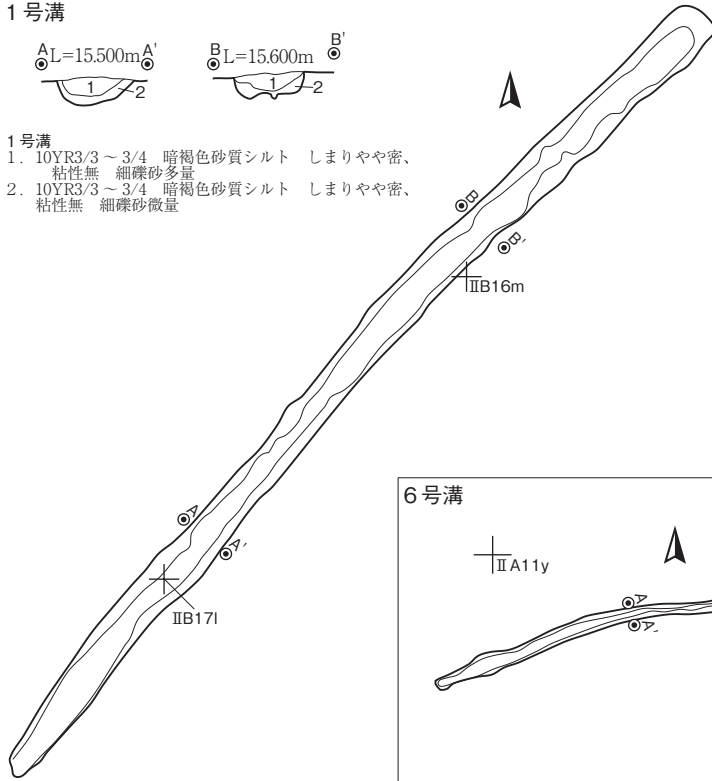
※規模欄の()付は中間が途切れているものの残存値

1号溝

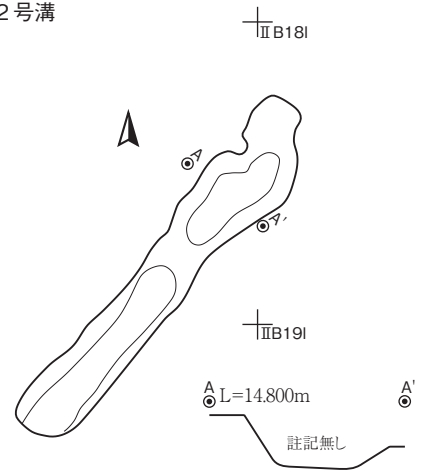


1号溝

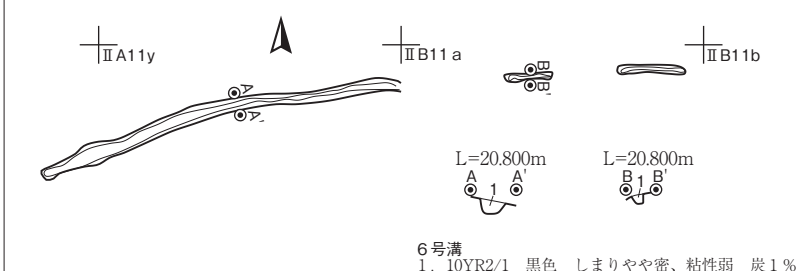
- 10YR3/3~3/4 暗褐色砂質シルト しまりやや密、粘性無 細砂多量
- 10YR3/3~3/4 暗褐色砂質シルト しまりやや密、粘性無 細砂微量



2号溝



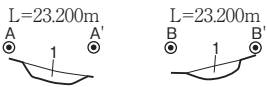
6号溝



6号溝

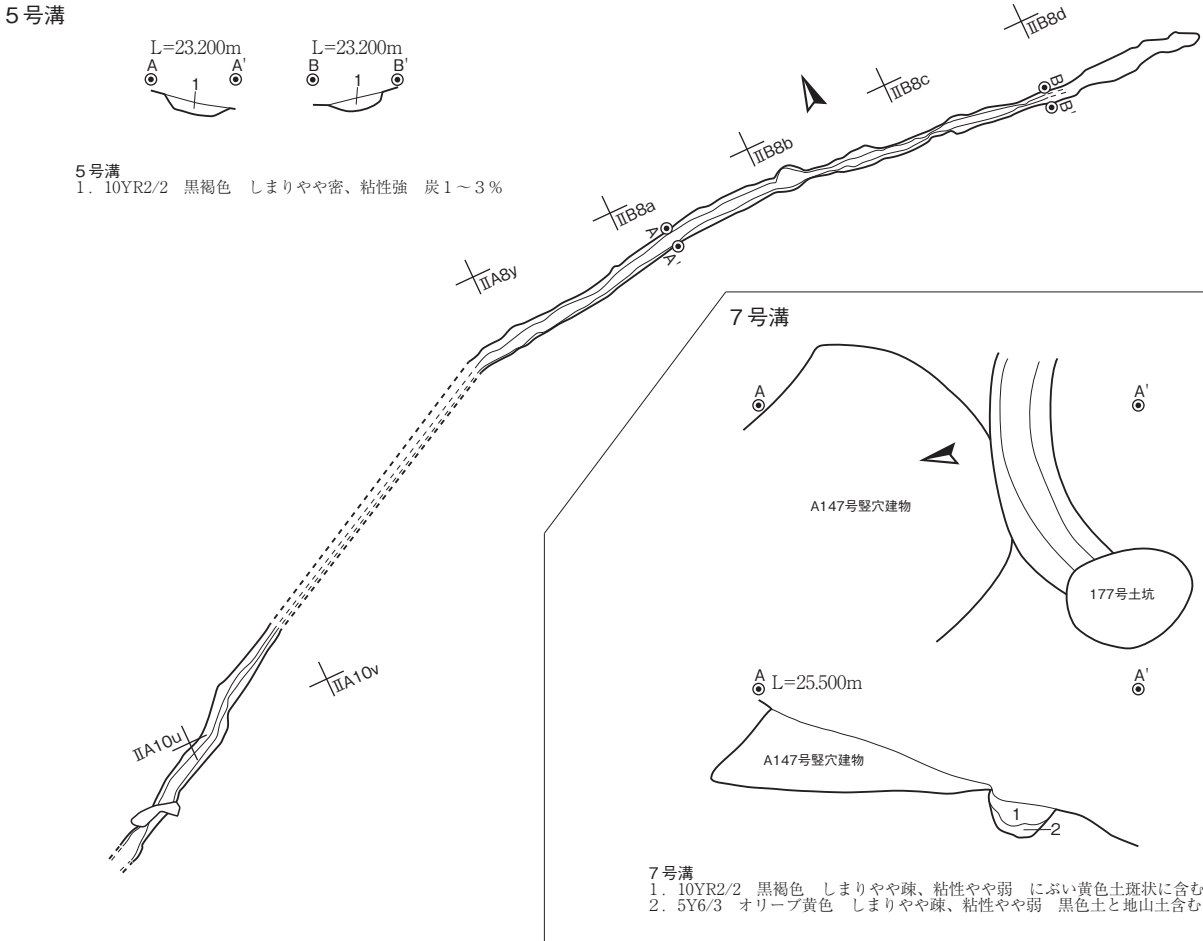
- 10YR2/1 黒色 しまりやや密、粘性弱 炭1%

5号溝

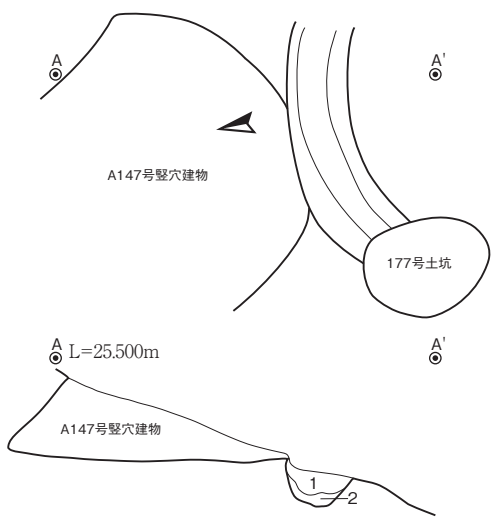


5号溝

- 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性強 炭1~3%

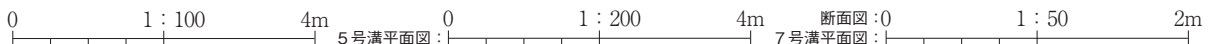


7号溝



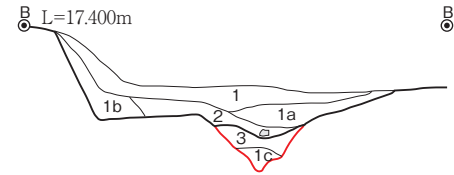
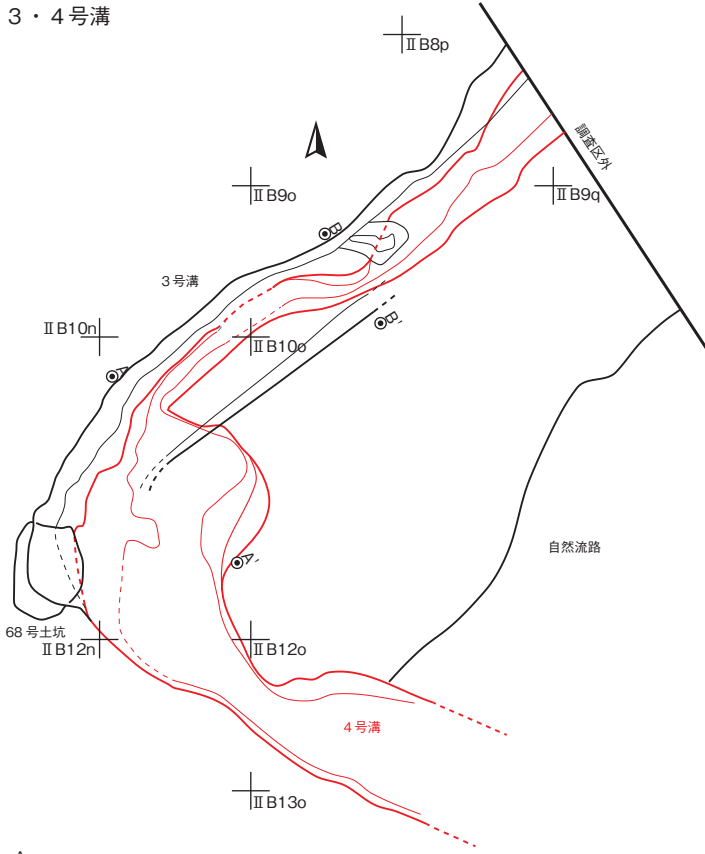
7号溝

- 10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 におい黄色土斑状に含む
- 5Y6/3 オリーブ黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 黒色土と地山土含む

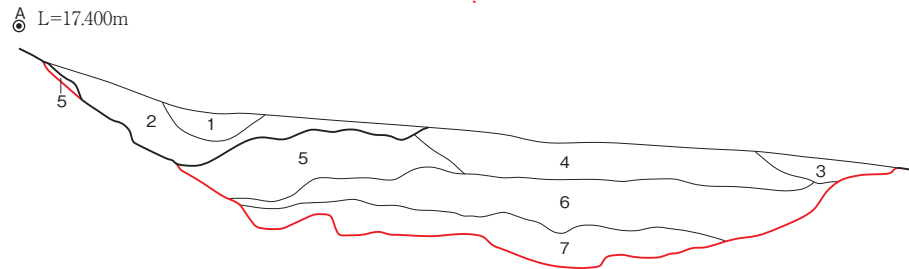


第212図 1・2・5~7号溝

3・4号溝

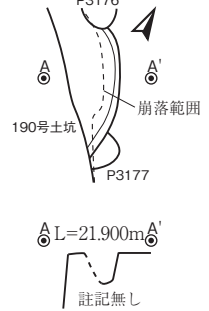


- 3・4号溝B-B'
1. 10YR6/3 にぶい黄橙色真砂土 しまりやや疎、粘性弱
φ5~10mmの風化花崗岩粒多量
 - 1a. 1層に黒色土混じる
 - 1b. 1層より粒子の細い真砂土
 - 1c. 1a・b層の混合土
 2. 10YR4/6 褐色砂質シルト しまりやや疎、粘性やや弱
真砂土粒少量
 3. 10YR3/2 黒褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強
粒子の細い真砂土ブロック少量
- ※ 1a・b・2層が3号溝、1c・3層が4号溝堆積土

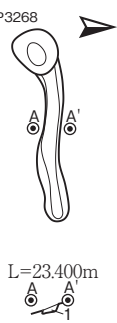


- 3・4号溝A-A'
1. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂礫シルト しまりやや疎、粘性弱
φ5mmの風化花崗岩主体
 2. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまりやや疎、粘性
やや弱 真砂土主体 黒色土ブロック少量含
 3. 10YR3/4 暗褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強
 4. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂礫シルト しまりやや疎、粘性弱
φ200mmの風化花崗岩主体
 5. 10YR8/2 灰白色シルト しまりやや疎、粘性やや弱
真砂土崩落土
 6. 10YR4/1 褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強
真砂土ブロック含
 7. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂礫シルト しまりやや疎、粘性やや
弱 φ50cmの風化花崗岩主体
- ※ 1・2層が3号溝、3層以下が4号溝堆積土

8号溝

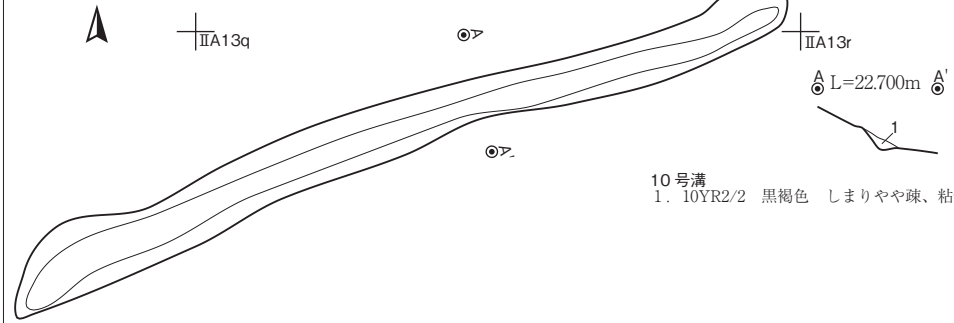


9号溝



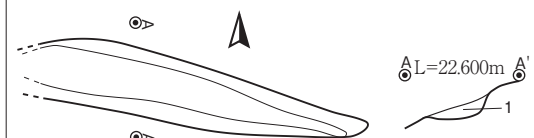
- 9号溝
1. 10YR6/3 にぶい黄橙色

10号溝



- 10号溝
1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性弱

12号溝



- 12号溝
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 しまりやや疎、粘性無

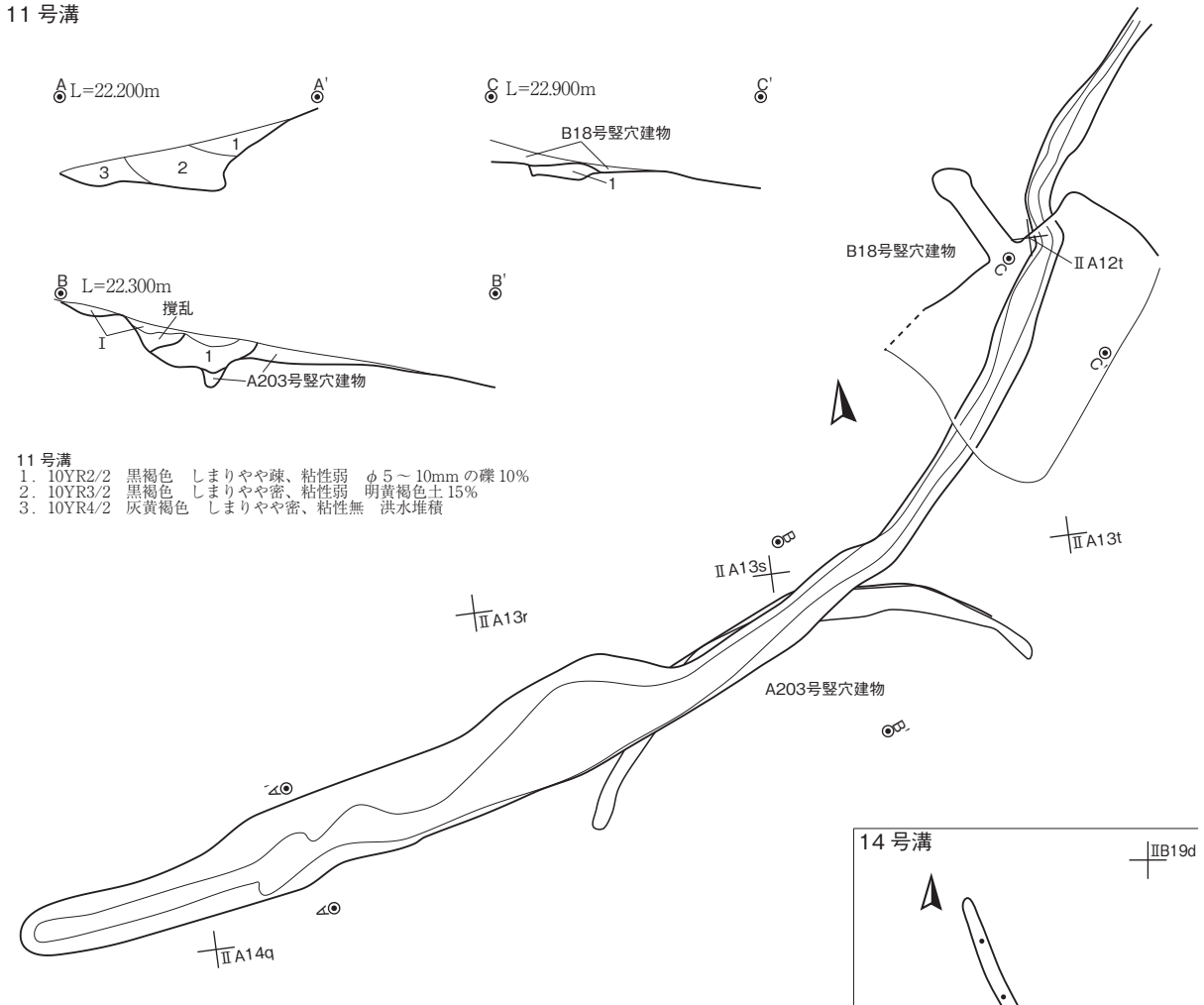
断面図：0 1 : 50 2m

8~12号溝平面図：0 1 : 200 4m

3・4号溝平面図：0 1 : 200 4m

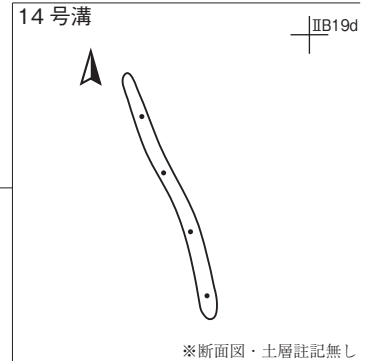
第213図 3・4・8~10・12号溝

11号溝



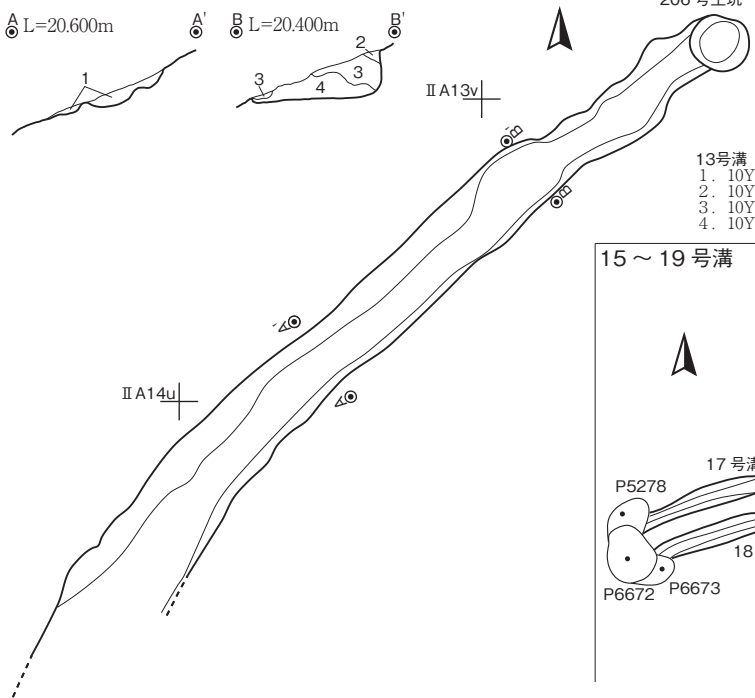
11号溝

- 1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性弱 φ5~10mmの礫10%
- 2. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 明黄褐色土15%
- 3. 10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性無 洪水堆積



※断面図・土層註記無し

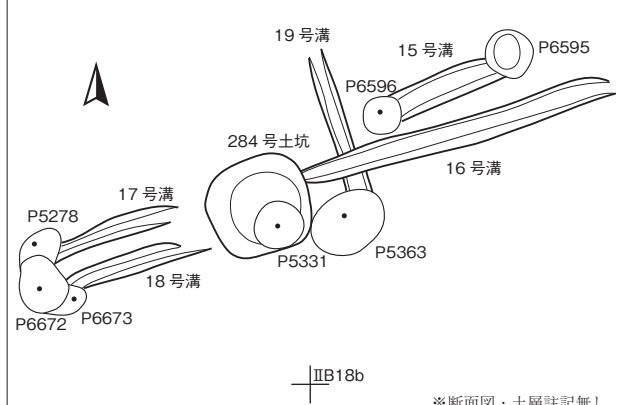
13号溝



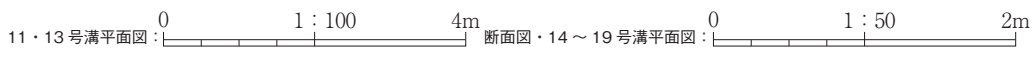
13号溝

- 1. 10YR2/2 黒褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱
- 2. 10YR7/4 濃い黄褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱
- 3. 10YR3/3 暗褐色真砂混シルト しまりやや疎、粘性やや弱
- 4. 10YR8/6 黄褐色真砂混シルト 粘性やや弱 壁面崩落土

15~19号溝



※断面図・土層註記無し



第214図 11・13~19号溝

載した (a1182・1183)。この他、動物遺存体が 312.4 g 出土している (第VI章第4節)。

4号溝は、調査区北東壁から若干蛇行しながら南西方向に約 16 m 延び、II B 11n グリッド付近で南東方向に約 90° 角度を変え、10 m 程度延びて自然流路の上面で消滅する。上面幅は一定ではなく、直線部の狭い部分で 1.4m、屈曲部の広い部分で 6.1m である。断面形は直線部では逆三角形、屈曲部では逆台形である。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、5層に分層した。4号溝より真砂土の混入量は少ないが、屈曲部付近では大型の礫を多量に含む。遺物は3号溝と一括で取り上げたものを含むが、土器 45,284.3 g、石器 4,176.4 g、鉄生産関連遺物 172,934.5 g、金属製品が出土しており、縄文土器 8点 (a 1184～1191)、石器 1点 (c 1123)、金属製品 1点 (i 15)、鉄生産関連遺物 14点 (j 5・6・28～33・35～40) を掲載した。鉄滓のうち 2点は成分分析を行っている (第VI章第8節)。

両遺構は、出土遺物からいずれも近世あるいはそれ以降に掘削された溝と考えられる。性格は周辺で明確な遺構は確認されていないが、鉄生産関連遺物を多量に含むことから鉄生産関連炉に伴う廃棄施設として掘削された可能性がある。

8 配石遺構

1号配石遺構 (第1-215図、第2-113図、写真図版 267・355)

II B 15 d グリッドで検出した。検出面はII層中で、東西 3.5 m、南北 2.5 m の範囲内に直線的に並ぶ石列を確認した。A 19・237・238号竪穴建物と同じく竪穴内の石列の可能性も考えたが、明瞭なプランが確認できなかったことから配石遺構として登録した。A 35・62号竪穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが新しい。一部の石は失われているが、北東-南西方向及び北西-南東方向に石が並んでおり、本来は井桁状の配置であったと考えられる。使用された石材は頁岩及び花崗岩であり、全て自然礫で石器の転用品は無い。また、石を設置する際の掘り込みは確認できなかった。遺物は周辺から縄文土器が 1,950.2 g 出土しており、このうち 1点を掲載した (a 1193)。他遺構との重複関係と出土遺物から縄文時代中期に構築されたものと考えられる。

9 土器埋設遺構

明確に竪穴建物に伴うと判断される埋設土器を除き、7基を検出した。

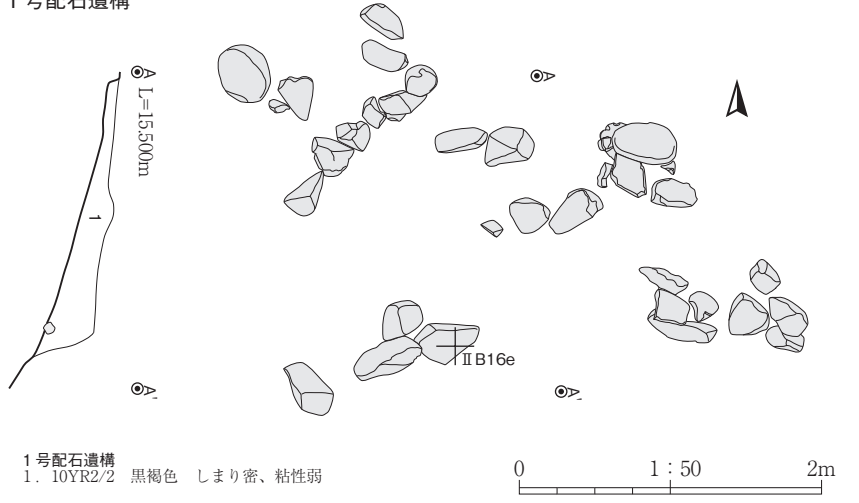
1号土器埋設遺構 (第1-215図、第2-113図、写真図版 267・356)

II B 15 j グリッドに位置する。A 53号竪穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが新しい。A 53号竪穴建物堆積土及び床面を若干掘り込んで深鉢を逆位に設置している。意図的なものかは不明であるが、底部は欠損している。内部にはA 53号竪穴建物堆積土と同じ暗褐色土が堆積していた。土器 (a 1194) は大木9式新段階のものであり、縄文時代中期後葉に設置されたと考えられる。

2号土器埋設遺構 (第1-215図、第2-113図、写真図版 267・356)

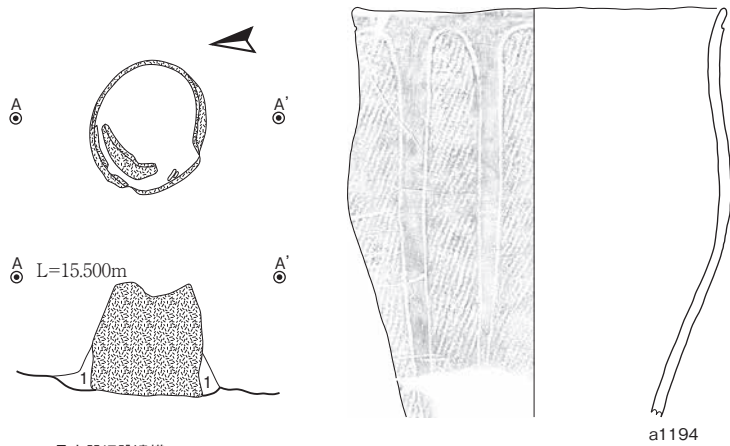
II B 5a グリッドに位置する。A 182号竪穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが新しい。A 182号竪穴建物の堆積土を土器の直径より約3倍の広さで掘り込み、内部に暗褐色土を充填してその上位に深鉢を逆位に設置している。意図的なものかは不明であるが、底部は欠損している。内部には黒褐色土が堆積していた。土器 (a 1195) 大木8a式新段階のものであり、縄文時代中期中葉に設置されたと考えられる。

1号配石遺構



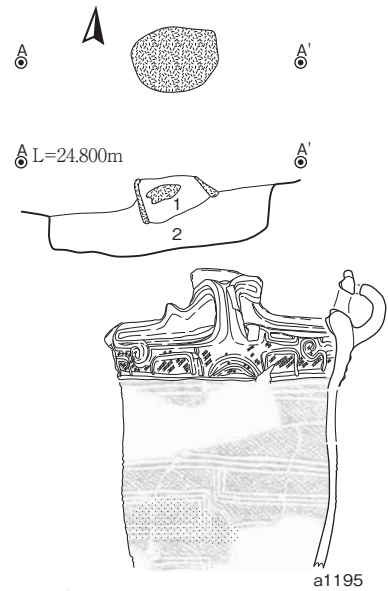
1号配石遺構
1. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性弱

1号土器埋設遺構

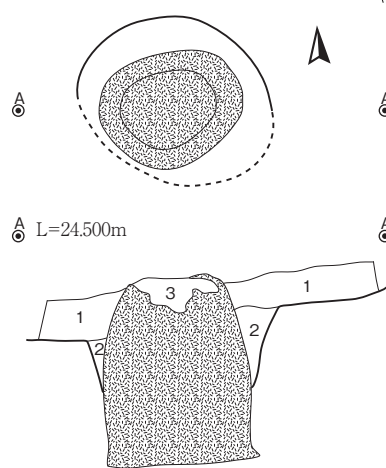


1号土器埋設遺構
1. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性無 炭・花崗岩粒各3%
※A53号竈穴建物B断面3層に対応

2号土器埋設遺構



3号土器埋設遺構



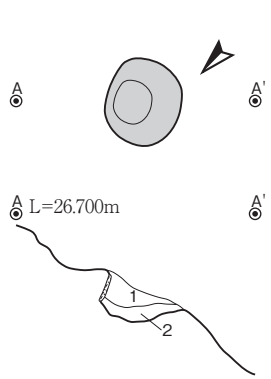
2号土器埋設遺構
1. 10YR2/3 黒褐色 しまり疎、粘性弱
2. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性無 白色粒全体に含む

3号土器埋設遺構
1. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性弱 白色粒子全体に含む
2. 10YR2/3 黒褐色 しまり密、粘性弱 φ30~50mmの礫含む
3. 10YR2/2 黒褐色 しまり疎、粘性弱

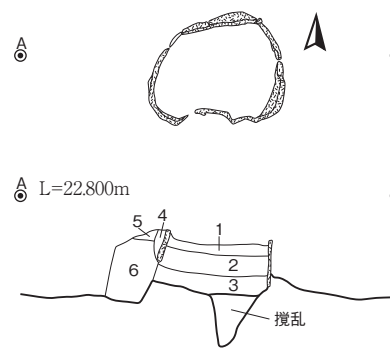
0 1:20 1m 土器 1/6、○は 1/8

第215図 1号配石遺構、1~3号土器埋設遺構

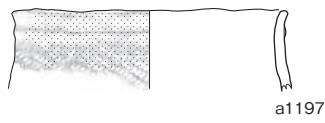
4号土器埋設遺構



5号土器埋設遺構



a1198



a1197

4号土器埋設遺構

1. 10YR17/1 黒色 しまりやや密、粘性強 炭化物層
2. 2.5YR5/8 明赤褐色 しまりやや疎、粘性弱 真砂土の被熱層

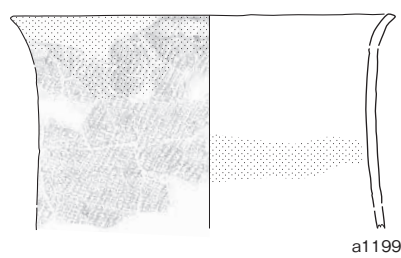
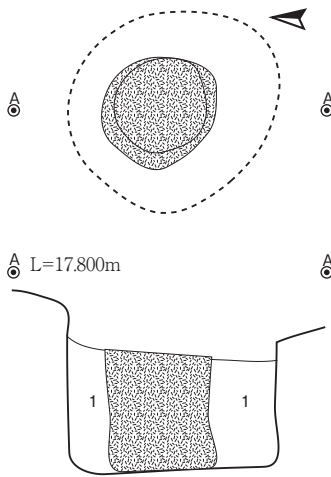
5号土器埋設遺構

1. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭15%
2. 10YR4/6 褐色粘土 しまりやや密、粘性無
3. 10YR2/3 黒褐色 しまりやや疎、粘性弱 花崗岩粒1%
4. 10YR4/6 褐色粘土 しまり密、粘性無
5. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、粘性無 炭5%
6. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、粘性無

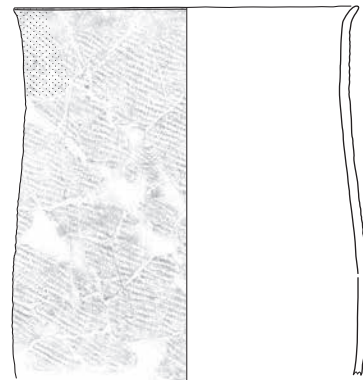
6号土器埋設遺構

1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎 土器外部の土色

6号土器埋設遺構

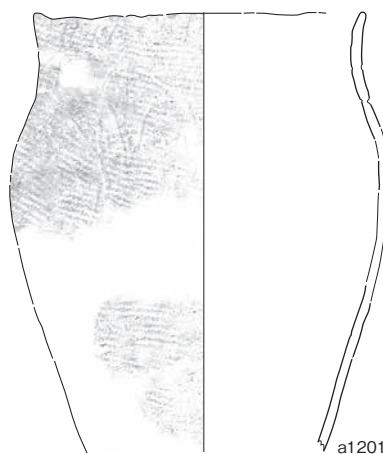
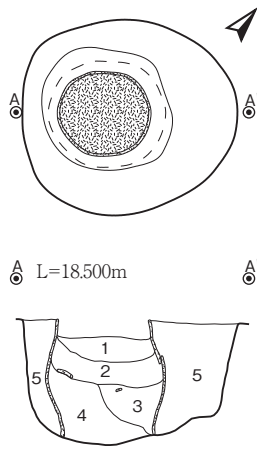


a1199

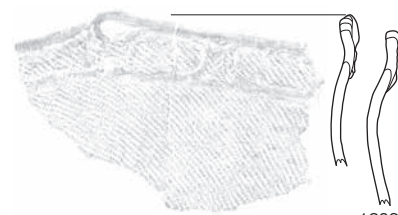


a1200

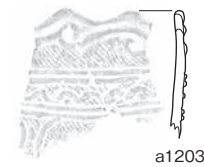
7号土器埋設遺構



a1201



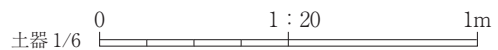
a1202



a1203

7号土器埋設遺構

1. 10YR7/4 にぶい黄橙色真砂質シルト 粘性やや弱
2. 10YR6/4 にぶい黄橙色真砂質シルト 粘性やや弱 φ 5mmの炭1%
3. 10YR8/4 浅黄橙色真砂質シルト 粘性やや弱
4. 10YR6/4 にぶい黄橙色真砂質シルト 粘性やや弱 φ 5mmの炭2% 2層と類似
5. 10YR6/6 明黄褐色真砂混シルト しまりやや密、粘性やや弱 掘り方埋土



第216図 4～7号土器埋設遺構

3号土器埋設遺構

(第 1-215 図、第 2-113・254・279・360 図、写真図版 267・356・463・476・511)

II B 5 a グリッドに位置する。A 182 号竪穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが新しい。A 182 号竪穴建物堆積土及びIV層を土器の直径より少し広く掘り込み、深鉢を逆位に設置している。意図的なものかは不明であるが、底部は欠損している。内部にはII層由来の黒褐色土が堆積しており、石鏃と異形石器、三角壻形石製品が各1点出土している (c 52・378、d 28)。土器 (a 1196) は大木 8 a 式新段階のものであり、縄文時代中期中葉に設置されたと考えられる。

4号土器埋設遺構 (第 1-216 図、第 2-114 図、写真図版 268・355)

II B 7 f グリッドに位置する。214 号土坑の西側に位置するが、直接的な新旧関係は無い。IV層を土坑状に掘り込み、壁面に深鉢の破片を並べて内部で燃焼行為を行っている。掘り込みの底面は赤褐色に変色しており、被熱深度は約 4 cm である。内部には炭化物層である黒色土が堆積していた。土器 (a 1197) は大木 8 式のものであり、縄文時代中期中葉に設置された屋外炉と考えられる。

5号土器埋設遺構 (第 1-216 図、第 2-114 図、写真図版 268・356)

II A 9 w グリッドに位置する。他遺構との重複関係は無い。II層中で検出しているが、検出時に土器の大部分が露出している。土器の外側に充填土と考えられる暗褐色土 (6層) が確認されたことから、掘り込みがあったと考えられる。使用された土器は深鉢で、口縁部側を逆位にして設置しているが、口縁部・底部ともに欠損している。内部には黒褐色土と褐色粘土が互層に堆積していた。土器 (a 1198) は地文のみで詳細な時期は不明であるが、縄文時代中期に設置されたと考えられる。

6号土器埋設遺構 (第 1-216 図、第 2-114 図、写真図版 268・356・357)

II A17 r グリッドに位置する。他遺構との重複関係は無い。II層を土器の直径の約 2 倍の広さで掘り込み、深鉢 2 個体を入れ子にして逆位に設置している。意図的なものかは不明であるが、底部は 2 個体とも欠損している。掘り方内には黒褐色土を充填しており、内部にはII層由来の黒褐色土が堆積している。土器 (a 1199・1200) は 2 個体とも地文のみであるが、器形の特徴から大木 8 式と考えられ、縄文時代中期中葉に設置されたと考えられる。

7号土器埋設遺構 (第 1-216 図、第 2-114 図、写真図版 268・357)

II A17 r グリッドに位置する。他遺構との重複関係は無い。IV層を土器の直径の約 2 倍の広さに掘り込み、深鉢を逆位にして設置している。意図的なものかは不明であるが、底部は欠損している。掘り方内にはIV層由来の黄褐色土が充填され、内部にはIII～IV層由来のいぶい黄橙色土が主体となって堆積していた。埋設土器 (a 1201) は地文のみであるが、内部から出土した土器が大木 8 a 式であることから、縄文時代中期中葉に設置されたと考えられる。

10 遺物包含層

遺物は調査区全域で出土しているが、特にまとまって出土した 2 箇所を遺物包含層とみなした。

II B 4・5 a・b 遺物包含層

(第 1-12・217・218 図、第 2-116～138・185・241・255・256・263・271～273・277・279・281・

287・315・316・345～347・359・361・369・375・377・379・384、写真図版 270～272・358～375・463・467・471・472・474～476・478・492・503～505・510・511・516・520・521・523・526)

Ⅱ B 5 b グリッドを中心に、表土直下で遺物を多量に含む黒～黒褐色土の広がりとして確認した。本遺構の南側では黒褐色土中で遺構（竪穴建物）重複が多数確認されており、本遺構も当初は周辺の状態と同じく遺構（竪穴建物）が複数重複している可能性を考慮してベルトを4本設定して掘り下げ断面観察を行ったところ、この範囲の中央は窪んでおり遺物を含む土層は斜面上方からその窪地に流れ込んだ洪水堆積層であることを確認した。また、遺構はA 181号竪穴建物が本遺構に壊されているほかは堆積土中では遺構は確認できなかったことから、遺構の重複ではなく窪地を中心とした範囲に形成された遺物包含層であると判断した。北西側が調査区外へ至るため全容は不明であるが、検出範囲は南北6.3m、東西4.5mである。深さは最も深いSPNo.B3付近で約1.1mであり、この地点を中心として東西方向に播鉢状に土層が堆積していた。

堆積土は、大きく8層に分層した。このうち5層は無遺物層でⅢ層に相当し、8層は柱穴状の窪地に流れ込んだ二次堆積の焼土であることから、包含層としての堆積土は1～4・6・7層の6層となる。なお、1～4層についてはさらに混和物により細分している。いずれも自然堆積であり、最初に4層が北東方向から流れ込み、その後3・6・7層が北西方向から流れ込んで窪地を形成する。その窪地に最も堆積の厚い2層が複数回流れ込むことで窪地がほとんど埋まり、最終的に古代以降の旧表土と考えられる1層が被覆して包含層が形成されていることが判明した。

遺物の大半は2層からの出土であり、次いで1層からの出土が多い。下位層にあたる3・4・6・7層からの出土量は少ない。旧表土である1層からは土師器片や鉄生産関連遺物等古代以降の遺物も含まれるが、2層以下は縄文時代前～中期の遺物のみとなる。前述の通り自然に堆積した包含層であり、各層の遺物は時期が混在している。種別は土器が主体で、1,067,097.2g出土しており、縄文土器180点を掲載した（a 1249～1424・1968・1970、r 49）。大木5～9式古段階のものが出土しているが、半数以上は大木8a式である。次いで後続する大木8b式が多いが、一方で先行する大木7b式は明確なものは出土していない。この他、石器・石製品78,158.6g、土製品469.2g、鉄生産関連遺物154.7gが出土しており、石器36点、石製品4点、土製品3点、台形土器1点、土器片円盤1点を掲載した（c 80～88・245・311・324・332・367・368・379・384・385・1026・1140～1143・1298～1311、d 23・37・85・86、e 42・108・109、f 8、g 81）。

本遺構は旧表土（1層）に古代以降の遺物を含むが、2層以下は縄文時代前～中期後葉の遺物しか出土しないことから、縄文時代中期後葉以降に堆積を開始したと考えられる。斜面上方からの流れ込みによる自然堆積であり、人為的に形成された捨て場ではない。

中央調査区南西遺物包含層

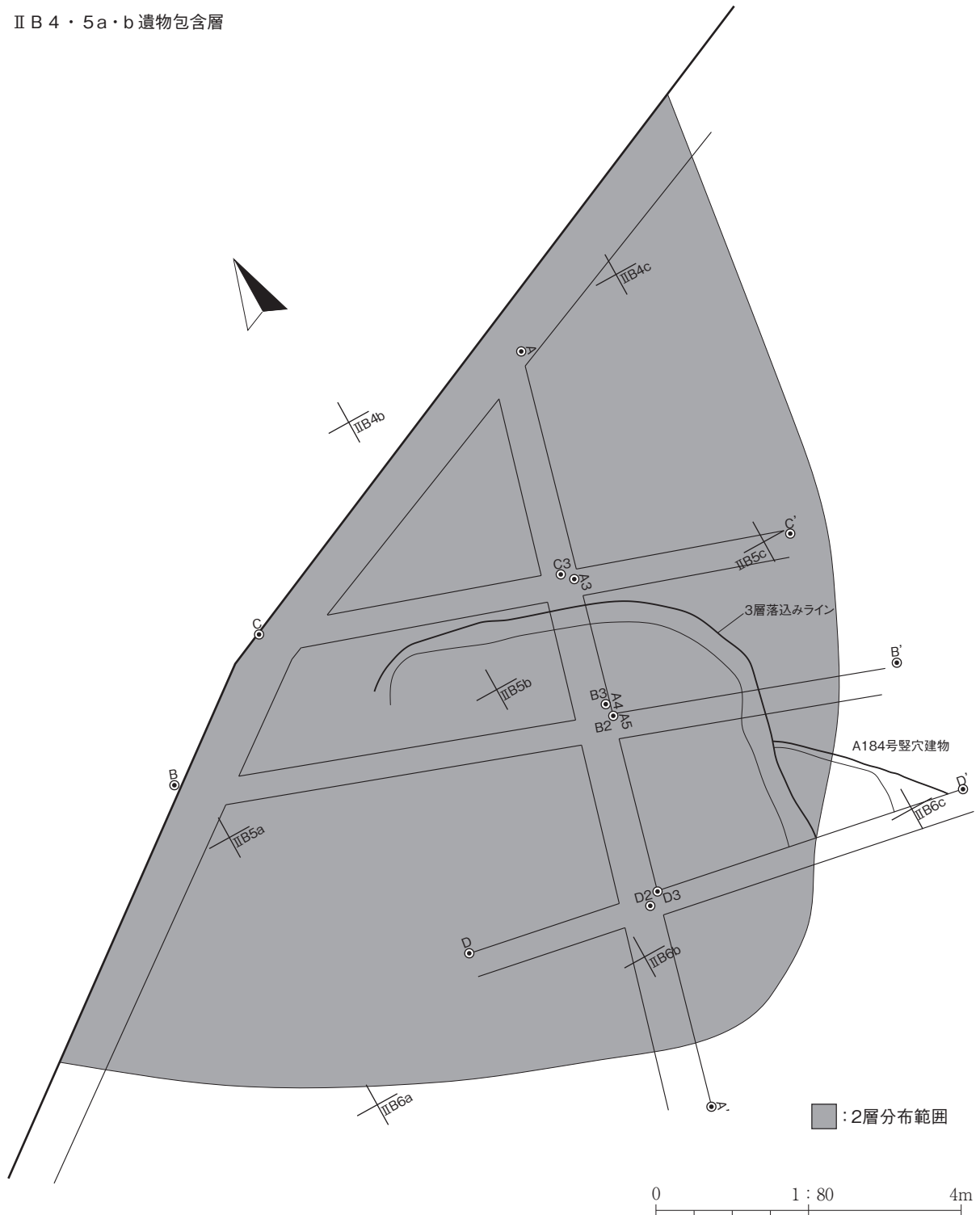
（第1-12・218図、第2-138～140・233・234・236・237・240・242・274・288～290・357・361・362・378・382、写真図版272・375・376・453～456・459・460・473・479・480・508・509・511・512・522・525）

中央緩斜面裾部から南西に広がる旧沢跡内、Ⅱ A 16 t・17 s・t・18 t グリッドの範囲内に位置する。この一帯は調査時には湿地状となっており土色ははっきりしなかった為、層位確認の為に試掘トレンチ中央南T 1～4設定して掘り下げたところ、遺物が集中する黒褐色土を確認した。その為、T 1～4を拡張して平面の範囲を、また、T 2～4の中に5本のトレンチ（T 5～9）を設定して深さの確認を行った。その結果、T 2・3を中心に東西約12m、南北約8mの範囲で広がる遺物包含層であり、

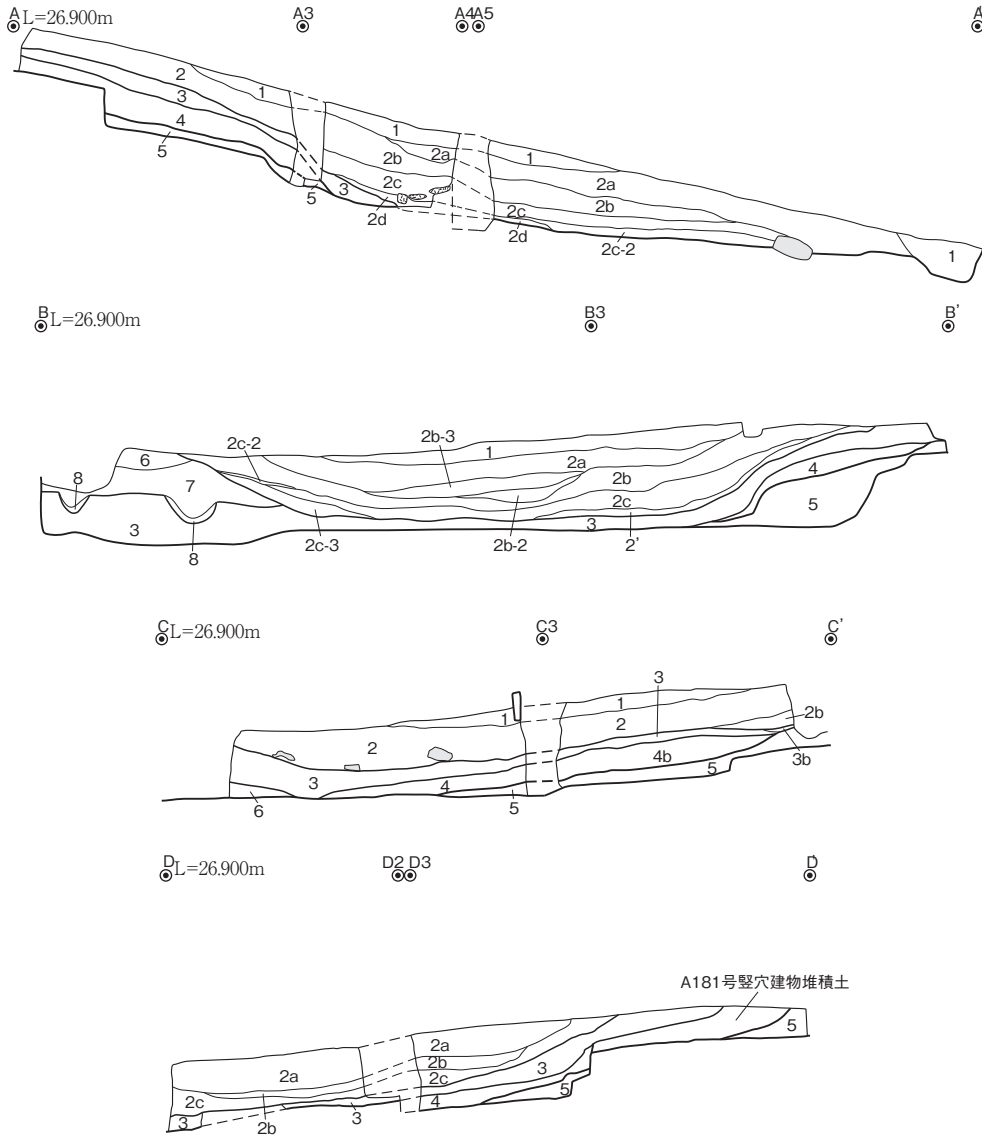
深さは最も深い南側で約 1.0 mであることを確認した。なお、後述する遺物出土層である 1～6 層上位までの層厚は 0.7 m前後である。

堆積土は斜面上方から流れ込んだⅡ～Ⅲ層由来の黒褐色土・暗褐色土が主体で、地山面を含め 8 層に分層した。上位層である 1～3 層までに遺物が多量に含まれるが、4～6 層上位では疎らになり、6 層下位以下では出土していない。なお、1・2 層上面では十和田中振火山灰と考えられる灰白色の火山灰が散布していた。

Ⅱ B 4・5a・b 遺物包含層



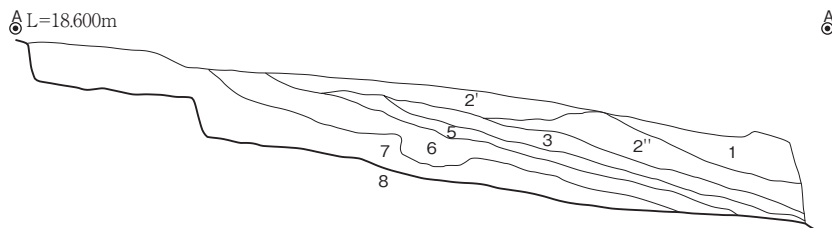
第 217 図 遺物包含層 (1)



II B 4・5 a・b 遺物包含層 (A-A'・B-B'・C-C'・D-D')

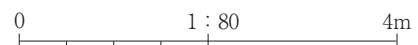
- | | |
|---|---|
| 1. 10YR2/1 黒色 しまり弱、粘性無 旧表土か 土器多量 | 2'. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、粘性やや強 断面図には無い |
| 2a. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや弱、粘性無 真砂土少量、土器非常に多量
下位に炭化物・焼土ブロックの集積有 | 3. 10YR3/4 暗褐色 しまり密、粘性無 |
| 2b. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや有、粘性無 真砂土少量、土器多量 | 3'. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性無 |
| 2b-2. 10YR2/1 黒色 しまりやや疎、粘性弱 真砂土少量 炭少量 | 4. 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性やや弱 |
| 2b-3. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性無 炭・焼土部分的に含む 真砂土少量 | 4'. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性無 |
| 2c. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、粘性無 土器多量 | 5. 10YR4/2 灰黄褐色 しまり密、粘性無 無遺物層 基本層序III層に相当 |
| 2c-2. 10YR2/1 黒色 しまりやや疎、粘性弱 | 6. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性無 褐色砂斑状 真砂土少量 |
| 2d. 10YR2/3 黒褐色 しまり密、粘性弱 真砂土多量 土器含む | 7. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 下位に焼土斑状に分布 |
| 2'. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂 しまりやや疎、粘性無 遺物少量 | 8. 7.5YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや有 二次堆積焼土含む |

中央調査区南西遺物包含層



中央調査区南西側包含層(A-A')

- | |
|---|
| 1. 10YR2/2 黒褐色真砂混シルト しまりやや密、粘性やや弱 遺物多量 |
| 2. 10YR3/3 暗褐色真砂混シルト 粘性やや弱 遺物多量 |
| 2'. 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト しまりやや密、粘性やや弱 遺物多量 |
| 3. 10YR3/2 黒褐色真砂混シルト 粘性やや弱 シルト質強い 遺物多量 |
| 4. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまりやや疎、粘性やや弱 断面図には無い |
| 5. 10YR3/3 暗褐色真砂混シルト 粘性やや弱 |
| 6. 7.5YR3/2 黒褐色真砂混シルト しまりやや密 地山崩落土 下位には遺物含まない |
| 7. 7.5YR2/2 黒褐色真砂混シルト しまりやや密 地山崩落土 遺物無し |
| 8. 7.5YR6/6 橙色真砂土 基本層序IV層に相当する地山 |



第 218 図 遺物包含層 (2)

遺物の取り上げは本遺構名の他に各トレンチ名でも行っており、観察表の「中央調査区南西 T5 T5～6間、T5～8間、T8～9間」及び「湿地エリアT2」は本遺構内に含まれる。遺物は縄文時代前～中期のもののみで、斜面上方から流れ込んだものであるため各層の遺物は時期が混在している。土器は116,357.7 g出土しており、34点掲載した（a 1425～1443・2556～2565・2584～2593・2599、r 43・44・50）。大木3～9式古段階のものが出土しているが、前期に属する大木3・4・6式が比較的多く出土している。この他、石器・石製品が37,627.1 g、土製品が348.7 g出土しており、石器12点、石製品2点、土製品2点、土器片円盤1点を掲載した（c 335・336・1035～1038・1043・1360～1364、d 33・49、e 140・141、g 63）。

本遺構は、出土土器のうち最も新しいものは大木9式であることから縄文時代中期後葉に堆積した遺物包含層と考えられる。斜面上方からの流れ込みによる自然堆積であり、人為的に形成された捨て場ではない。なお、本遺構はA 221号竪穴建物（中期中～後葉）の南端部を被覆し、A 220号竪穴建物（中期後葉）にわずかに切られていることから（第1-105図断面D）、中期後葉になり比較的短期間で形成された遺物包含層と考えられる。

11 整地

3箇所（切土2箇所、盛土1箇所）検出した。いずれも古代以降の造成と考えられる。

1・2号切土整地（第1-219図、写真図版264）

比較的斜面の傾斜が強い地点で検出されたことから、傾斜を緩やかにする目的で行われた整地と考えられる。1号切土整地は、II A 14 o グリッドに位置する。他遺構との重複関係は無い。IV層を斜面に直交するように東西方向に掘り込んでおり、残存範囲は7.5 m × 2.1 mである。周辺地形より遺物は土器が337.4 g出土しているが、いずれも細片であり図示していない。2号切土整地は、II A 12t～13u グリッドに位置する。B 19・20号竪穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが新しい。IV層を斜面に直交するように北東-南西方向に掘り込んでおり、残存範囲は5.8 × 5.5 mである。遺物は出土していない。

1号盛土整地（第1-219図、第2-382図、写真図版262・525）

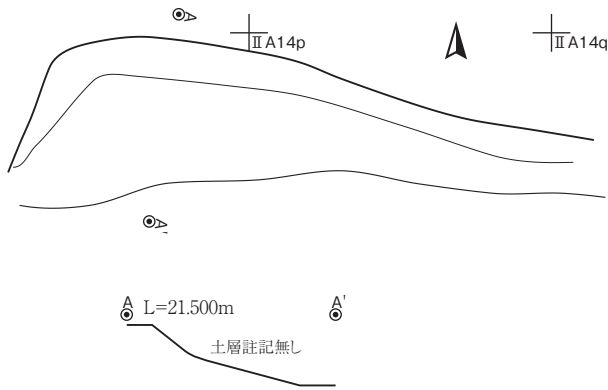
II A 16 j グリッドに位置する。他遺構との重複関係は無い。北西-南東方向に長い楕円形プランで、本遺構の位置する一帯は湿地状になっていることから、湿地を埋めるための盛土と考えられる。規模は5.8 × 3.5 mで北西側は調査区外へと至る。黒褐色粘土と明黄褐色土の混合土を用いており、検出面から0.4 m以上盛られているが、それより下位は湧水が激しく計測できなかった。遺物は土器が1,616.1 g出土しており、土器片円盤1点を掲載した（g 62）。

12 性格不明遺構

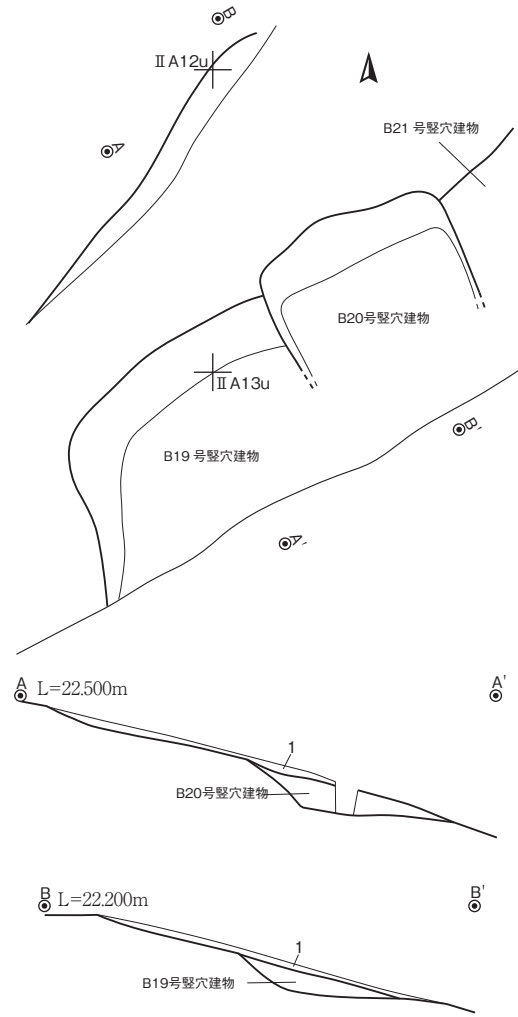
1号性格不明遺構（第1-219図、写真図版269）

I B 11 o グリッドに位置する。検出面はIV層で、黒褐色土の扇形プランとして検出した。他遺構との重複関係は無い。東部は崩落、北部は調査区外に延びているため全体形は不明である。確認された規模は4.2 × 2.1 m、深さは約50cmである。全体が竪穴状の掘り込みとなっており、内部の壁直下には幅60～90cm、深さ20～25cmの周溝状の溝を持つ。さらに内側にもこれに並走する溝が多重に巡っ

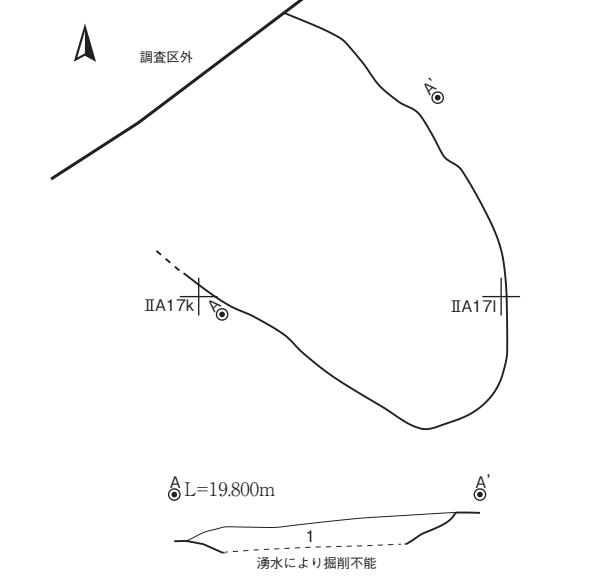
1号切土整地



2号切土整地



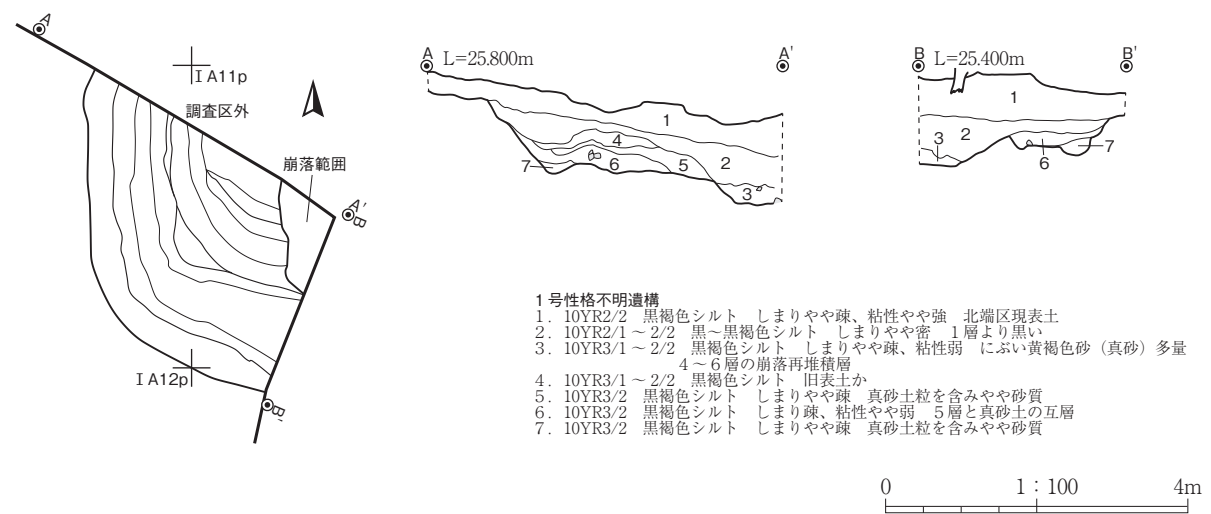
1号盛土整地



1号盛土整地
1. 10YR3/1 黒褐色粘土と 10YR6/6 明黄褐色の混合土 しまり密, 粘性弱

2号切土整地
1. 10YR3/4 暗褐色 しまりやや密、粘性無 花崗岩粒5% 氾濫堆積

1号性格不明遺構



1号性格不明遺構
1. 10YR2/2 黒褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強 北端区現表土
2. 10YR2/1~2/2 黒~黒褐色シルト しまりやや密 1層より黒い
3. 10YR3/1~2/2 黒褐色シルト しまりやや疎、粘性弱 にぶい黄褐色砂(真砂)多量
4~6層の崩落再堆積層
4. 10YR3/1~2/2 黒褐色シルト 旧表土か
5. 10YR3/2 黒褐色シルト しまりやや疎 真砂土粒を含みやや砂質
6. 10YR3/2 黒褐色シルト しまり疎、粘性やや弱 5層と真砂土の互層
7. 10YR3/2 黒褐色シルト しまりやや疎 真砂土粒を含みやや砂質

第 219 図 1・2号切土整地、1号盛土整地、1号性格不明遺構

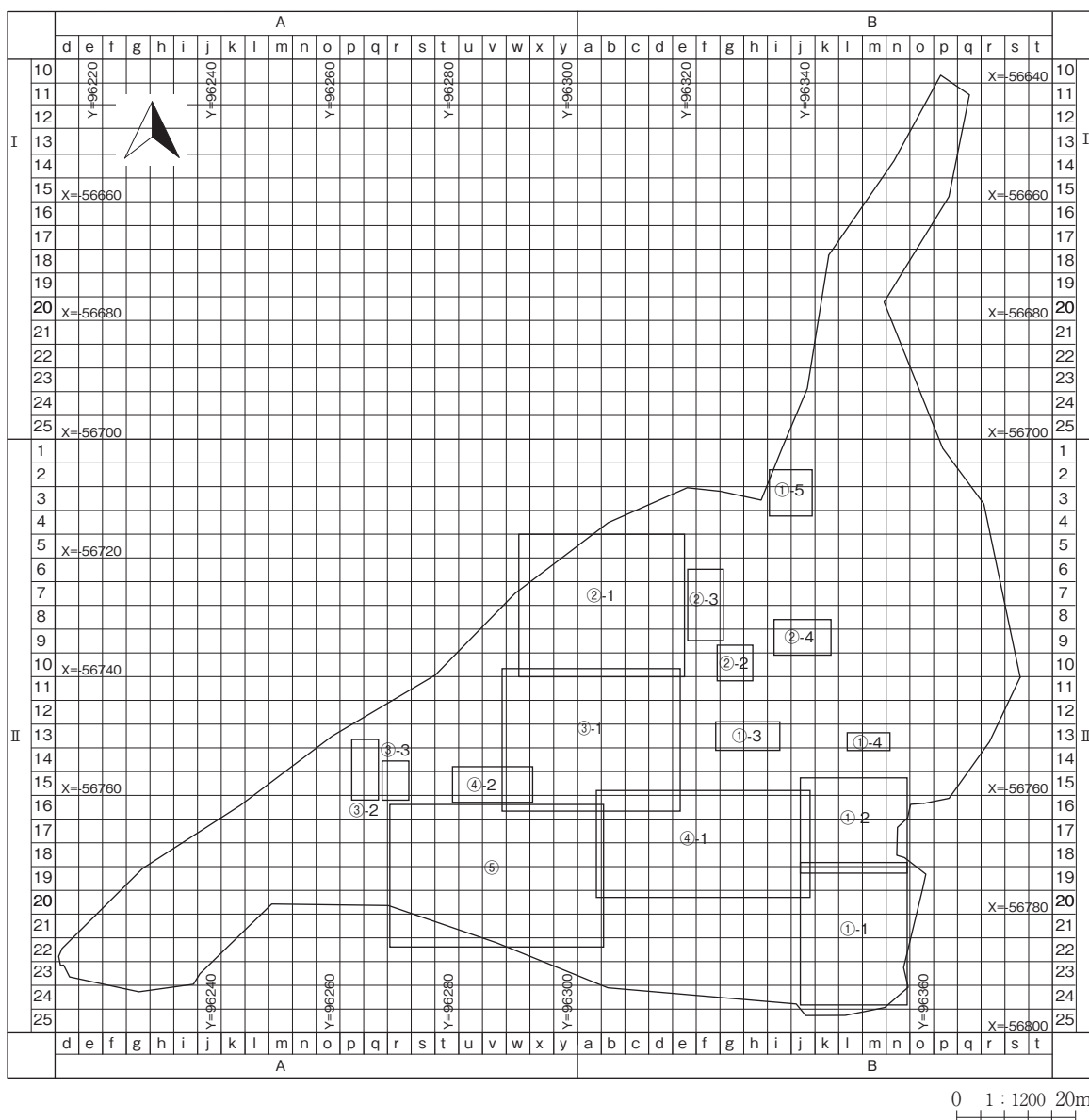
ており、底面は凹凸が目立つ。堆積土は現表土を含め7層に分層した。斜面上方から流れ込んだ自然堆積であり、真砂土を含む黒褐色土が主体である。出土遺物は無く、年代は不明である。

13 柱 穴

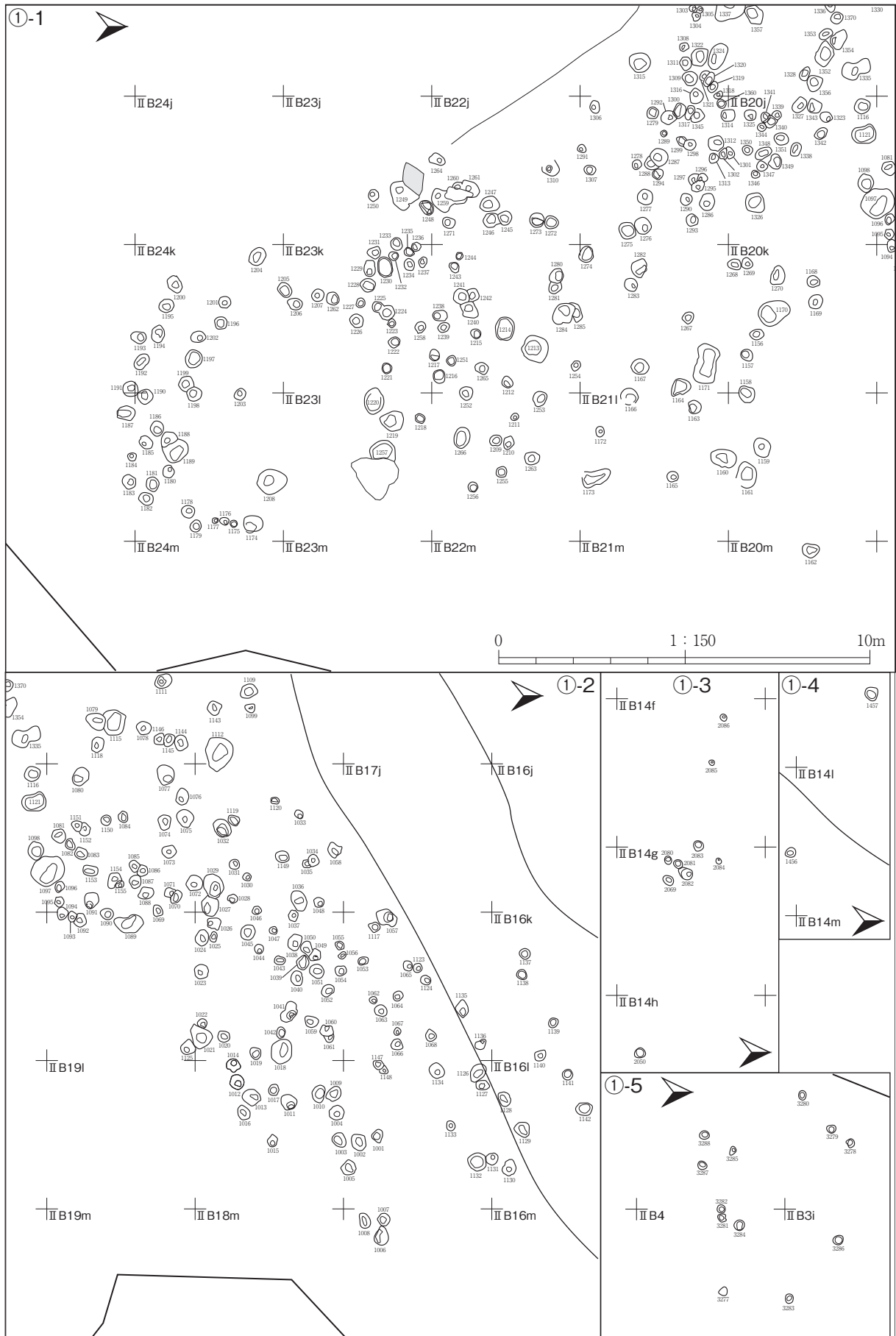
(第 1-220 ~ 225 図、第 2-114 ~ 116・239・250・258・286・310・311・339・340・359・362 図、写真図版 357・358・461・465・478・489 ~ 491・501・502・510・512)

2805 個を柱穴として登録したが、木の根による疑似柱穴も含んでいると考えられる。なお、調査中に遺構内柱穴として登録したものの他に、図面整理によって 481 個を遺構内柱穴として認定した。地点・遺構の帰属等は第 9 表の通りである。なお、P 5001 以降の柱穴については調査期間の制約もあり下端図面の作成を行わず、最下点のみ記録したものがほとんどである。

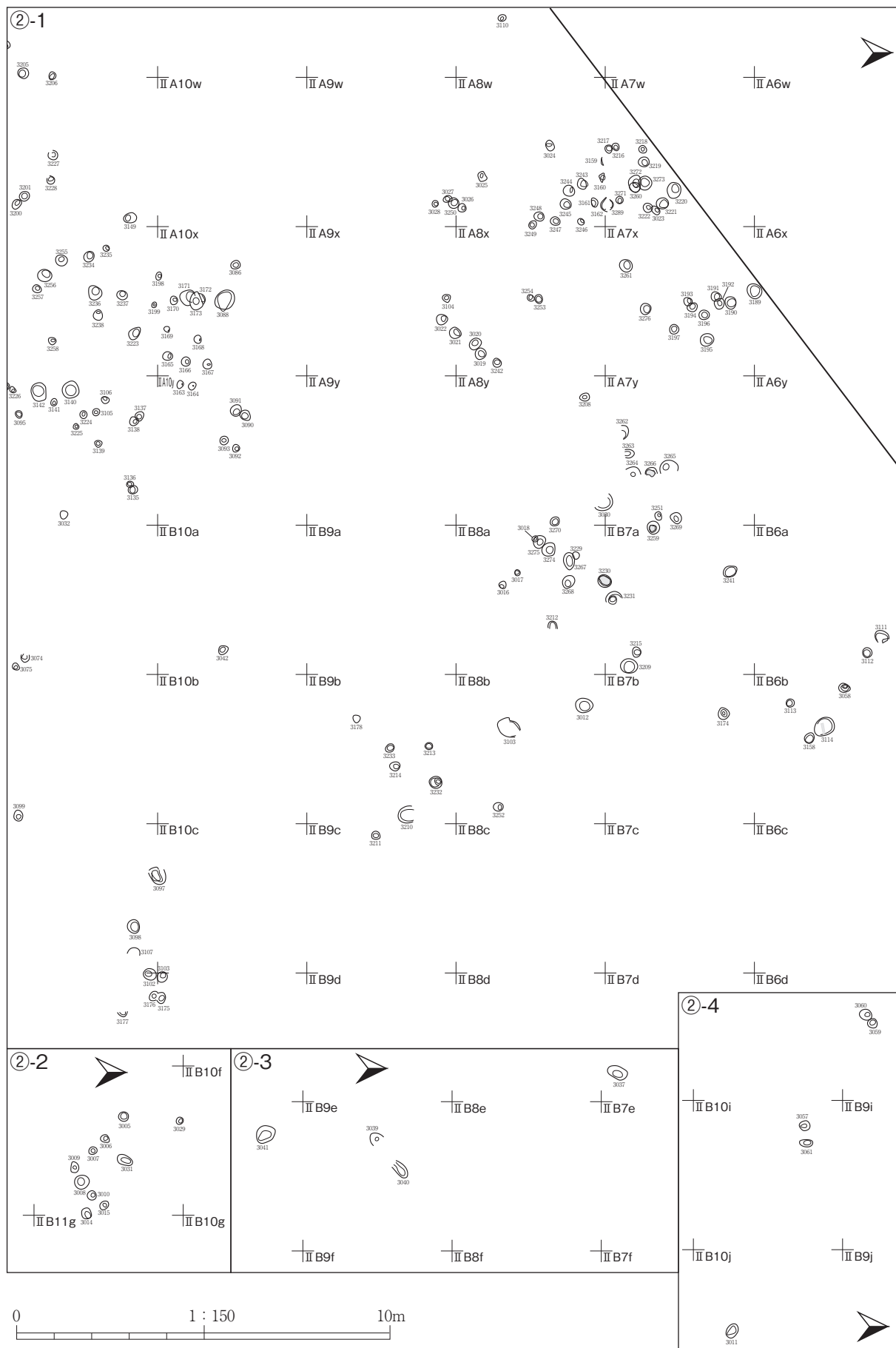
(村田)



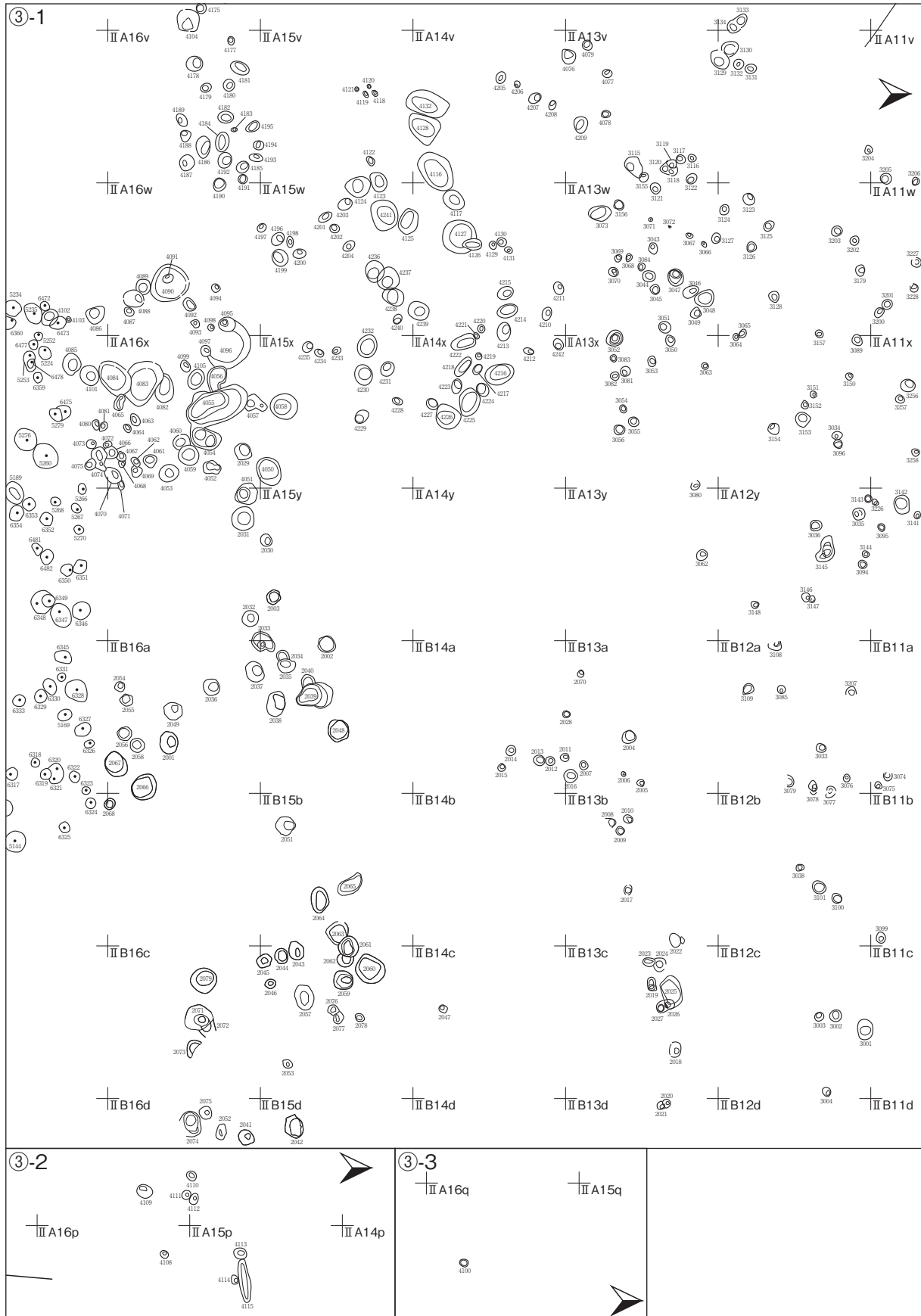
第 220 図 柱穴分布位置図



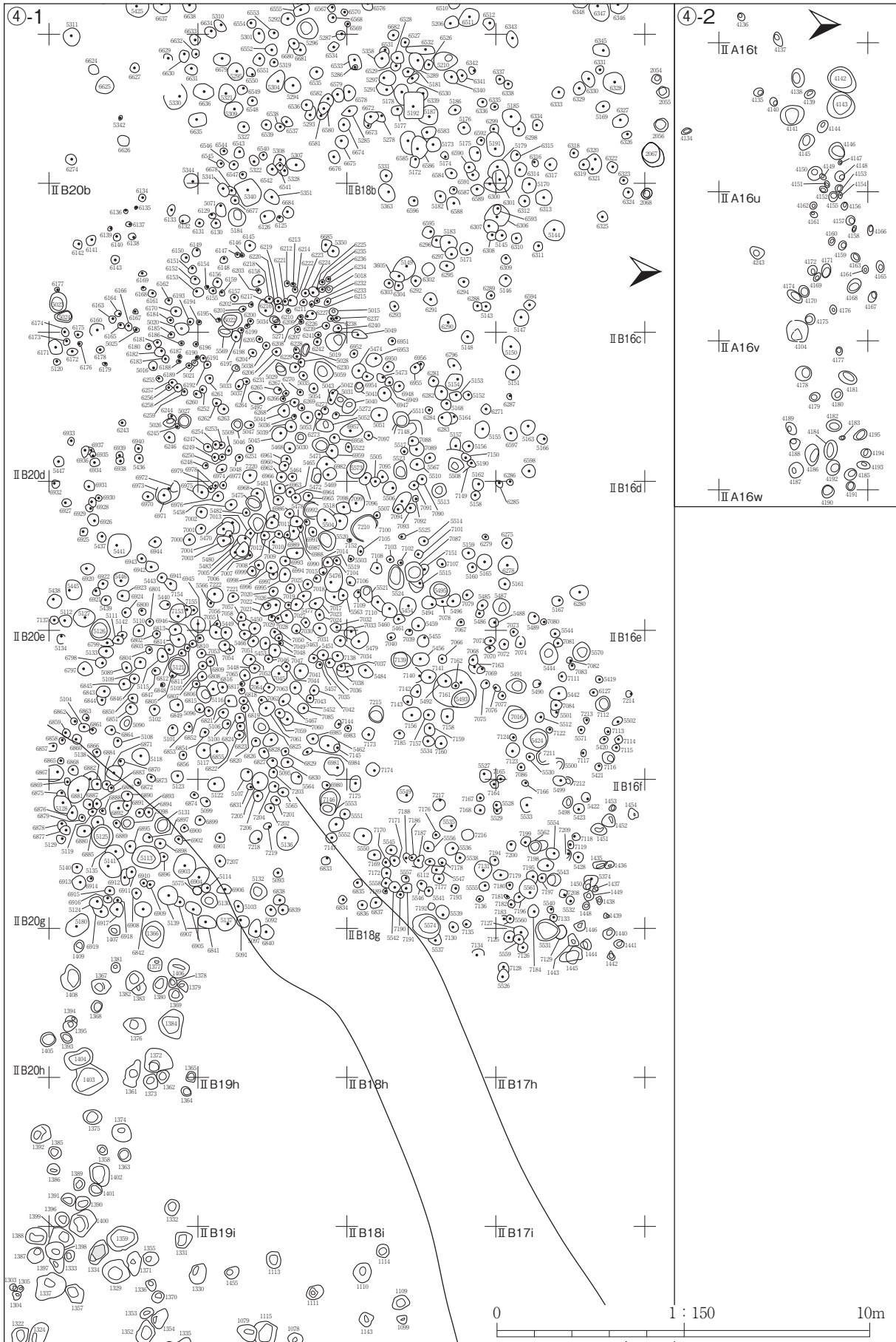
第 221 図 柱穴分布図 (1)



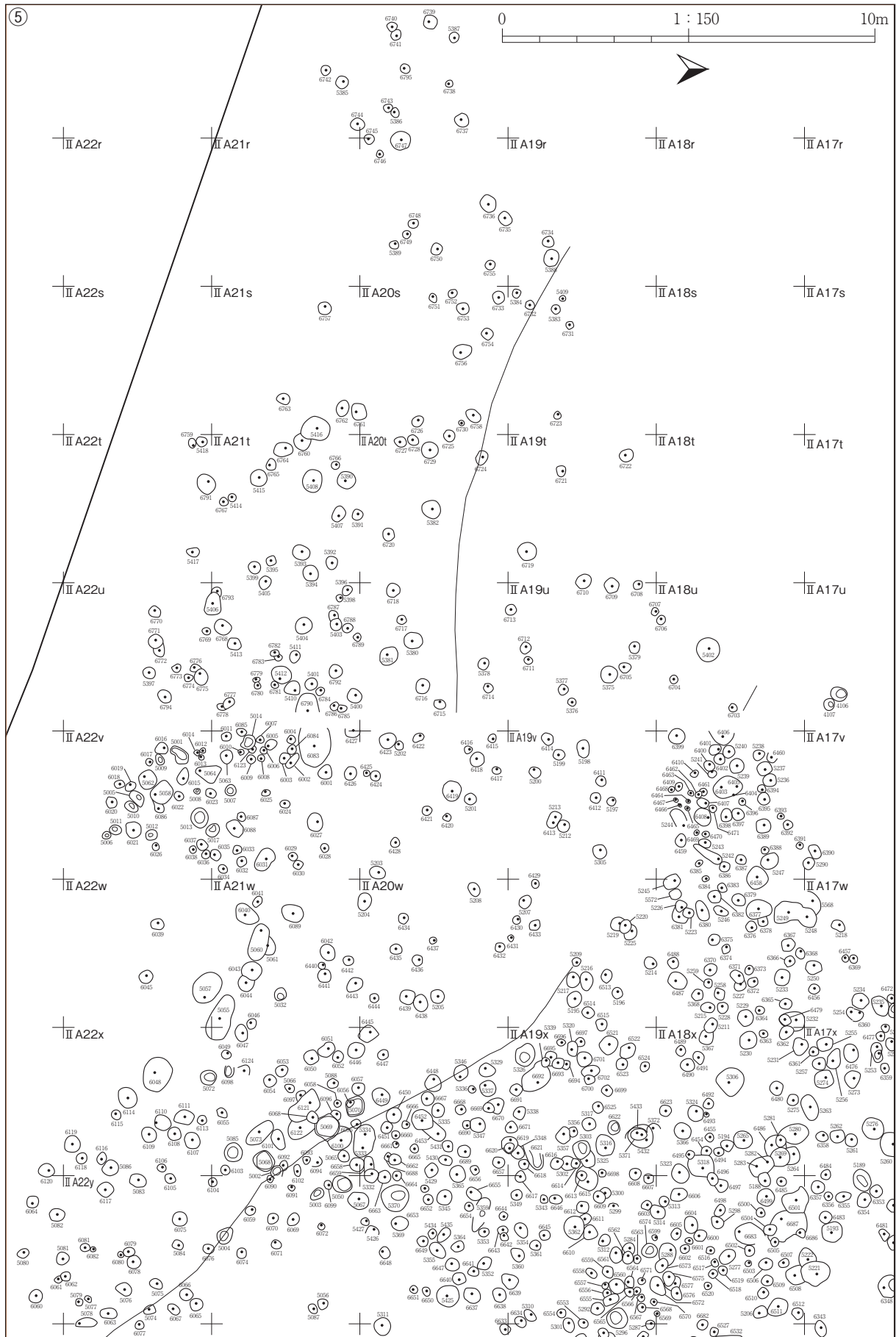
第 222 图 柱穴分布图 (2)



第 223 図 柱穴分布図 (3)



第 224 图 柱穴分布图 (4)



第 225 図 柱穴分布図 (5)

第9表 柱穴一覧

No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)
P1001	II B16l	28.0	A5号整穴P02		P1097	II B18j	45.8			P1194	II B23k	29.6	A6号整穴P01	
P1002	II B16l	37.8	A5号整穴P07		P1098	II B19j	41.2	A14号整穴P05		P1195	II B23k	42.0	A6号整穴P02	
P1003	II B17l	50.0	A5号整穴P08		P1099	II B17l	24.8			P1196	II B23k	25.8	A6号整穴P03	
P1004	II B17l	47.0		A5号整穴より古い	P1100	-	-			P1197	II B23k	30.8	A7号整穴P02	
P1005	II B16l	50.8	A5号整穴P06		P1101	-	-			P1198	II B23l	44.6	A7号整穴P13	
P1006	II B16m	58.6		A5号整穴より新しい	P1102	-	-			P1199	II B23k	30.6	A7号整穴P14	
P1007	II B16m	33.4	A5号整穴P01		P1103	-	-			P1200	II B23k	33.4	A6号整穴P04	
P1008	II B16m	29.2	A5号整穴P05		P1104	-	-			P1201	II B23k	29.4		
P1009	II B17l	39.0	A5号整穴P03		P1105	-	-			P1202	II B23k	34.8	A6号整穴P06	
P1010	II B17l	40.4	A8号整穴P01		P1106	-	-			P1203	II B23l	29.6	A7号整穴P01	
P1011	II B17l	55.6	A8号整穴P02		P1107	-	-			P1204	II B23k	17.4	A6号整穴P07	
P1012	II B17l	51.6		A5号整穴より古い、b78	P1108	-	-			P1205	II B22k	28.6		
P1013	II B17l	57.0		A5号整穴より古い	P1109	II B17j	35.0			P1206	II B22k	43.4		
P1014	II B17l	52.0			P1110	II B17j	25.4			P1207	II B22k	21.2		
P1015	II B17l	37.8	A5号整穴P09		P1111	II B18j	33.0	A14号整穴P01		P1208	II B23l	45.4		
P1016	II B17l	31.2	A5号整穴P04		P1112	II B17j	61.8	A21号整穴P02		P1209	II B21l	19.4		
P1017	II B17l	37.2	A8号整穴P03		P1113	II B18j	24.2			P1210	II B21l	36.6	A20号整穴P07	
P1018	II B17k	75.6	A10号整穴P03		P1114	II B17j	25.6			P1211	II B21l	19.0	A20号整穴P02	
P1019	II B17k	25.6			P1115	II B18j	53.8			P1212	II B21k	19.0		
P1020	II B17k	33.2		a1204	P1116	II B19j	24.2			P1213	II B21k	45.0	A20号整穴P01	
P1021	II B17k	65.8	A10号整穴P02		P1117	II B16k	9.6	A25号整穴P05		P1214	II B21k	32.0	A19号整穴P01	
P1022	II B17k	41.6			P1118	II B18j	32.8			P1215	II B21k	15.4		
P1023	II B17k	48.8	A10号整穴P01		P1119	II B17j	14.2	A21号整穴P03		P1216	II B21k	43.4	A19号整穴P03	
P1024	II B17k	40.4		a1205	P1120	II B17j	12.6	A11号整穴P06		P1217	II B21k	47.2		
P1025	II B17k	22.4			P1121	II B19j	20.0			P1218	II B22l	11.2		
P1026	II B17k	33.6			P1122	-	-			P1219	II B22l	39.4		
P1027	II B17j	47.4	A11号整穴P01		P1123	II B16k	45.6			P1220	II B22l	47.2	A20号整穴P08	
P1028	II B17j	32.0			P1124	II B16k	40.0	A25号整穴P04		P1221	II B22k	37.4	A19号整穴P04	
P1029	II B17j	47.6	A10号整穴P06		P1125	II B18k	49.2			P1222	II B22k	25.0	A20号整穴P05	
P1030	II B17j	13.6			P1126	II B16l	24.8			P1223	II B22k	18.2	A18号整穴P05	
P1031	II B17j	21.2			P1127	II B16l	44.0			P1224	II B22k	24.0	A20号整穴P09	
P1032	II B17j	39.4	A21号整穴P01		P1128	II B15j	27.6			P1225	II B22k	25.6		
P1033	II B17j	36.4	A11号整穴P05		P1129	II B15j	26.6	A13号整穴P03		P1226	II B22k	37.8	A19号整穴P08	
P1034	II B17j	44.2			P1130	II B15j	30.4			P1227	II B22k	31.6	A19号整穴P05	
P1035	II B17j	25.0	A11号整穴P04		P1131	II B16l	52.6			P1228	II B22k	23.2	A18号整穴P02	
P1036	II B17j	48.0	A10号整穴P05		P1132	II B16l	26.0		1号溝より古い	P1229	II B22k	34.2	A19号整穴P09	
P1037	II B17k	27.2	A11号整穴P03		P1133	II B16l	22.0	A13号整穴P04		P1230	II B22k	26.6		
P1038	II B17k	36.8			P1134	II B16l	32.2	A13号整穴P05		P1231	II B22k	14.0		
P1039	II B17k	27.0			P1135	II B16k	41.6	A13号整穴P06		P1232	II B22k	22.0		
P1040	II B17k	31.4	A10号整穴P04		P1136	II B16k	30.8			P1233	II B22j	35.2		
P1041	II B17k	50.6			P1137	II B15k	8.2			P1234	II B22k	24.2		
P1042	II B17k	27.4			P1138	II B15k	13.0			P1235	II B22k	20.4		
P1043	II B17k	21.4			P1139	II B15k	9.8	A13号整穴P01		P1236	II B22k	20.4	A19号整穴P06	
P1044	II B17k	45.4			P1140	II B15k	27.2			P1237	II B22k	23.8		
P1045	II B17k	31.6	A11号整穴P02		P1141	II B15l	11.4	A13号整穴P02		P1238	II B21k	17.6	A19号整穴P10	
P1046	II B17j	27.6			P1142	II B15l	22.8			P1239	II B21k	11.8		
P1047	II B17k	28.0			P1143	II B17j	19.6			P1240	II B21k	35.2		
P1048	II B17j	37.2			P1144	II B18j	19.0	A14号整穴P02		P1241	II B21k	31.2	A18号整穴P01	
P1049	II B17k	75.6	A9号整穴P03		P1145	II B18j	17.6			P1242	II B21k	39.6	A20号整穴P06	
P1050	II B17k	57.4	A25号整穴P06		P1146	II B18j	26.0			P1243	II B21k	21.6		
P1051	II B17k	23.2			P1147	II B16l	28.4	A25号整穴P02		P1244	II B21k	16.6	A19号整穴P07	
P1052	II B17k	41.2			P1148	II B16l	25.0			P1245	II B21j	29.0		
P1053	II B16k	15.2			P1149	II B17j	12.2			P1246	II B21j	24.2	A20号整穴P10-A18号整穴P07	
P1054	II B17k	29.8			P1150	II B18j	12.2			P1247	II B21j	16.4	A18号整穴P04	
P1055	II B17k	34.0			P1151	II B18j	17.8			P1248	II B22j	22.2		
P1056	II B17k	14.0			P1152	II B18j	21.6			P1249	II B22j	23.2	A18号整穴P03	
P1057	II B16k	53.0	A9号整穴P01		P1153	II B18j	16.8			P1250	II B22j	26.8		
P1058	II B17j	31.2	A9号整穴P02		P1154	II B18j	23.8	A12号整穴P05		P1251	II B21k	24.8		
P1059	II B17k	63.6	A25号整穴P01		P1155	II B18j	28.2			P1252	II B21l	13.8	A20号整穴P12	
P1060	II B17k	47.8			P1156	II B19k	19.0			P1253	II B21l	47.4	A16号整穴P03	
P1061	II B17k	40.6			P1157	II B19k	16.6			P1254	II B21k	35.8	A4号整穴P01	
P1062	II B16k	29.0			P1158	II B19j	18.0			P1255	II B21l	36.6	A15号整穴P01	
P1063	II B16k	38.8			P1159	II B19j	27.6			P1256	II B21l	40.8	A20号整穴P03	
P1064	II B16k	20.6			P1160	II B20l	24.4			P1257	II B22l	29.2	A20号整穴P04	
P1065	II B16k	42.6			P1161	II B19j	25.8			P1258	II B22k	34.8		
P1066	II B16k	25.0			P1162	II B19m	17.2			P1259	II B21j	21.4		
P1067	II B16k	17.2			P1163	II B20l	31.6			P1260	II B21j	19.0		
P1068	II B16k	25.6	A25号整穴P03		P1164	II B20k	14.4			P1261	II B21j	28.6		
P1069	II B18j	41.8			P1165	II B20l	16.2			P1262	II B22k	45.2		
P1070	II B18j	28.0	A12号整穴P02		P1166	II B20l	35.2			P1263	II B21l	26.2	A16号整穴P01	
P1071	II B18j	42.2			P1167	II B20k	30.2			P1264	II B21j	25.2	A18号整穴P06	
P1072	II B17j	62.2			P1168	II B19k	15.4			P1265	II B21k	12.4	A19号整穴P03	
P1073	II B18j	34.4			P1169	II B19k	19.6			P1266	II B21l	18.0		
P1074	II B18j	29.2	A12号整穴P01		P1170	II B19k	22.2			P1267	II B20k	17.2		
P1075	II B18j	36.8	A14号整穴P03		P1171	II B20k	13.8			P1268	II B19k	8.2		
P1076	II B18j	24.2			P1172	II B20l	14.8	A3号整穴P01		P1269	II B19k	7.6		
P1077	II B18j	22.8			P1173	II B20l	30.2	A3号整穴P02		P1270	II B19k	15.8		
P1078	II B18j	42.4			P1174	II B23l	47.6	A22号整穴P01		P1271	II B21j	15.4		
P1079	II B18j	35.4			P1175	II B23l	15.8	A22号整穴P02		P1272	II B21j	26.6		
P1080	II B18j	33.8			P1176	II B23l	32.6	A22号整穴P03		P1273	II B21j	29.8	A17号整穴P02	
P1081	II B18j	29.0	A12号整穴P04		P1177	II B23l	11.0	A22号整穴P04		P1274	II B20k	59.6		
P1082	II B18j	24.2			P1178	II B23l	21.8	A22号整穴P05		P1275	II B20j	15.6		
P1083	II B18j	20.0			P1179	II B23l	39.4			P1276	II B20j	42.4		
P1084	II B18j	17.6			P1180	II B23l	27.6	A7号整穴P06		P1277	II B20j	39.0		
P1085	II B18j	31.6			P1181	II B23l	38.8			P1278	II B20j	19.6		
P1086	II B18j	20.0			P1182	II B23l	44.4			P1279	II B20j	27.4		
P1087	II B18j	45.4	A14号整穴P04		P1183	II B24l	25.4			P1280	II B21k	34.6		
P1088	II B18j	39.8			P1184	II B24l	23.8	A7号整穴P06		P1281	II B21k	12.8	A20号整穴P11	
P1089	II B18k	67.6			P1185	II B23l	20.6	A7号整穴P07		P1282	II B20k	40.6	A17号整穴P10	
P1090	II B18k	28.4			P1186	II B23l	50.0	A7号整穴P08		P1283	II B20k	39.0	A17号整穴P06	
P1091	II B18j	43.2			P1187	II B24l	40.4	A7号整穴P04		P1284	II B21k	44.4	A17号整穴P01	
P1092	II B18k	18.0	A12号整穴P03		P1188	II B23l	27.0	A7号整穴P09		P1285	II B21k	36.8	A16号整穴P02	
P1093	II B18k	27.0			P1189	II B23l	34.4	A7号整穴P10		P1286	II B20j	33.6		
P1094	II B18k	40.2			P1190	II B23l	33.6	A7号整穴P11		P1287	II B20j	21.8		
P1095	II B18j	51.0			P1191	II B24k	23.2	A7号整穴P12		P1288	II B20j	14.2		
P1096	II B18j	43.8			P1192	II B23k	27.6	A7号整穴P03		P1289	II B20j	10.4	A17号整穴P04	
					P1193	II B23k	26.6			P1290	II B20j	60.8	A17号整穴P05	

No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)
P1291	II B20j	21.2	A17号竪穴P03		P1388	II B20i	35.0			P2028	II B12a	10.4		
P1292	II B20j	32.8	A17号竪穴P08		P1389	II B19h	36.0			P2029	II A15y	62.8		
P1293	II B20j	62.4			P1390	II B19h	35.8			P2030	II A15y	30.6		al210
P1294	II B20j	22.6			P1391	II B19h	48.4			P2031	II A14y	36.0		
P1295	II B20j	43.8			P1392	II B20h	34.6			P2032	II A15y	40.0		
P1296	II B20j	26.8			P1393	II B19g	20.2			P2033	II B14a	32.8		
P1297	II B20j	25.6	A17号竪穴P09		P1394	II B19g	37.2			P2034	II B14a	8.8		
P1298	II B20j	30.8			P1395	II B19g	32.8			P2035	II B14a	38.6		
P1299	II B20j	28.0			P1396	II B19h	34.0			P2036	II B15a	57.4		
P1300	II B20j	40.0			P1397	II B19i	31.4	A31号竪穴P02		P2037	II B15a	86.8		
P1301	II B19j	38.8			P1398	II B19i	43.2			P2038	II B14a	77.4		c1128
P1302	II B20j	21.4			P1399	II B19i	42.2			P2039	II B14a	50.8		
P1303	II B20i	26.8	A31号竪穴P03		P1400	II B19h	46.4			P2040	II B14a	23.4		
P1304	II B20i	26.4	A30号竪穴P03		P1401	II B19h	18.2			P2041	II B15d	51.8		
P1305	II B20i	25.8			P1402	II B19h	48.2			P2042	II B14d	54.6		c1127
P1306	II B30j	27.6	A17号竪穴P07		P1403	II B19h	59.0			P2043	II B14c	48.0		
P1307	II B20j	21.6			P1404	II B19g	67.2			P2044	II B14c	34.6		
P1308	II B20i	31.2			P1405	II B19g	16.2		c1016	P2045	II B14c	60.2		
P1309	II B20i	39.0	A30号竪穴P04		P1406	II B19g	22.8			P2046	II B14c	25.6		
P1310	II B21j	35.2			P1407	II B19g	18.6			P2047	II B13c	38.4		
P1311	II B20i	39.8	A31号竪穴P04		P1408	II B19g	46.6			P2048	II B14a	32.6		al211
P1312	II B20j	38.6	A30号竪穴P05		P1409	II B19g	31.2			P2049	II B15a	49.2		
P1313	II B20j	42.0			P1410	-	-			P2050	II B13h	25.0		
P1314	II B20j	32.0			P1411	-	-			P2051	II B14b	75.8		
P1315	II B20i	33.0			P1412	-	-			P2052	II B15d	34.4		
P1316	II B20i	28.8			P1413	-	-			P2053	II B14c	19.4		
P1317	II B20j	34.0			P1414	-	-			P2054	II B15a	21.0		
P1318	II B20i	12.6			P1415	-	-			P2055	II B15a	27.0		
P1319	II B20i	29.6			P1416	-	-			P2056	II B15a	23.2		
P1320	II B20i	24.8			P1417	-	-			P2057	II B14c	48.0		c1127
P1321	II B20i	22.4			P1418	-	-			P2058	II B15a	33.4		
P1322	II B20i	31.4			P1419	-	-			P2059	II B14c	73.0		
P1323	II B19j	31.6	A30号竪穴P07		P1420	-	-			P2060	II B14c	27.8		A102号竪穴より新しい
P1324	II B20i	34.0			P1421	-	-			P2061	II B14c	27.4		
P1325	II B19j	37.8			P1422	-	-			P2062	II B14c	15.4		
P1326	II B19j	52.2			P1423	-	-			P2063	II B14b	13.0		
P1327	II B19j	36.4	A31号竪穴P07		P1424	-	-			P2064	II B14b	59.6		
P1328	II B19i	20.4			P1425	-	-			P2065	II B14b	26.8		c1268
P1329	II B19i	55.4	A31号竪穴P01		P1426	-	-			P2066	II B15a	38.4		
P1330	II B18i	78.0			P1427	-	-			P2067	II B15a	41.8		
P1331	II B19i	43.8			P1428	-	-			P2068	II B15b	15.0		
P1332	II B19h	34.4			P1429	-	-			P2069	II B13g	37.6		
P1333	II B19i	29.8	A30号竪穴P02		P1430	-	-			P2070	II B12a	24.0		
P1334	II B19i	36.2			P1431	-	-			P2071	II B15c	53.2		
P1335	II B19i	58.0	A30号竪穴P08		P1432	-	-			P2072	II B15c	29.0		
P1336	II B19i	31.0			P1433	-	-			P2073	II B15c	34.6		
P1337	II B19i	48.8			P1434	-	-			P2074	II B15d	46.8		
P1338	II B19j	46.6			P1435	II B16f	70.8			P2075	II B15d	39.8		
P1339	II B19j	26.4			P1436	II B16f	36.0			P2076	II B14c	41.2		
P1340	II B19j	23.6			P1437	II B16f	14.2			P2077	II B14c	38.2		
P1341	II B19j	20.6			P1438	II B16f	16.6			P2078	II B14c	15.0		
P1342	II B19j	38.6			P1439	II B16f	15.8			P2079	II B15c	64.2		
P1343	II B19j	28.4	A14号竪穴P06		P1440	II B16g	52.6			P2080	II B13g	23.6		
P1344	II B19j	28.4	A31号竪穴P06		P1441	II B16g	16.2			P2081	II B13g	30.0		
P1345	II B20j	40.8	A31号竪穴P05		P1442	II B16g	11.4			P2082	II B13g	49.2		
P1346	II B19j	21.8			P1443	II B16g	42.8	A41号竪穴P13		P2083	II B13f	39.2		
P1347	II B19j	25.4			P1444	II B16g	35.0		A59号竪穴より新しい	P2084	II B13g	29.6		
P1348	II B19j	49.4			P1445	II B16g	47.2			P2085	II B13f	28.4		
P1349	II B19j	68.0	A30号竪穴P06		P1446	II B16f	9.8		A59号竪穴より古い	P2086	II B13f	14.0		
P1350	II B19j	20.0			P1447	II B16f	26.0		A59号竪穴より古い	P3001	II B11b	56.8		
P1351	II B19j	41.0			P1448	II B16f	8.0		A59号竪穴より新しい	P3002	II B11b	19.4		
P1352	II B19i	71.8	A31号竪穴P08		P1449	II B16f	19.4			P3003	II B11b	36.0		
P1353	II B19i	37.0			P1450	II B16f	34.6	A41号竪穴P14		P3004	II B11b	18.4		
P1354	II B19i	59.2	A14号竪穴P07		P1451	II B16f	16.2			P3005	II B10e	23.0		
P1355	II B19i	23.2			P1452	II B16f	43.2			P3006	II B10e	21.4		
P1356	II B19i	19.4			P1453	II B16f	22.6			P3007	II B10e	17.0		
P1357	II B19i	21.6			P1454	II B16f	52.8			P3008	II B10e	21.2		
P1358	II B19h	39.2			P1455	II B18i	40.6	A14号竪穴P08		P3009	II B10e	22.0		
P1359	II B19i	43.6			P1456	II B13k	57.4		A75号竪穴より新しい	P3010	II B10e	25.4		
P1360	II B20j	14.4			P1457	II B14i	27.6			P3011	II B9i	46.0		
P1361	II B19g	53.4		al206	P2001	II B15a	73.4			P3012	II B7a	31.0		
P1362	II B19g	57.0			P2002	II B14a	22.8			P3013	II B7a	12.2		
P1363	II B19h	17.0			P2003	II A14y	33.8			P3014	II B10e	25.4		
P1364	II B19h	20.0			P2004	II B12a	38.6			P3015	II B10e	26.4		
P1365	II B19g	27.2			P2005	II B12a	18.4			P3016	II A7y	24.6		A146号竪穴より新しい
P1366	II B19g	50.6		264号土坑より新しい	P2006	II B12a	12.6			P3017	II A7y	5.6		A146号竪穴より新しい
P1367	II B19g	49.4			P2007	II B12a	15.2			P3018	II A7y	16.0		A146号竪穴より新しい
P1368	II B19g	39.2			P2008	II B12b	29.8			P3019	II A7w	28.0		A187号竪穴より新しい
P1369	II B19g	40.8			P2009	II B12b	19.2			P3020	II A7w	24.0		A187号竪穴より新しい
P1370	II B19i	35.2			P2010	II B12b	30.2			P3021	II A8w	30.0		A187号竪穴より新しい
P1371	II B19i	24.0	A30号竪穴P01		P2011	II B13a	14.4			P3022	II A8w	30.8		A187号竪穴より新しい
P1372	II B19g	63.0			P2012	II B13a	10.8			P3023	II A6v	41.0		A150号竪穴より古い
P1373	II B19h	31.4			P2013	II B13a	22.0			P3024	II A7v	21.2		A137-192号竪穴より新しい
P1374	II B19h	38.4			P2014	II B13a	18.0							
P1375	II B19h	41.8			P2015	II B13a	22.6			P3025	II A7v	35.2		A145号竪穴より新しい
P1376	II B19g	44.2			P2016	II B12a	22.6			P3026	II A7v	27.2		A145号竪穴より新しい
P1377	II B19g	25.4			P2017	II B12b	36.8			P3027	II A8w	22.2		A145号竪穴より新しい
P1378	II B19g	24.2			P2018	II B12c	75.0		al208	P3028	II A8w	12.6		A145号竪穴より新しい
P1379	II B19g	17.8			P2019	II B12c	40.0			P3029	II B10e	27.8		
P1380	II B19g	16.0			P2020	II B12d	27.6			P3030	II A7x	15.8		
P1381	II B19g	23.4			P2021	II B12d	35.8			P3031	II B10e	19.0		
P1382	II B19g	61.4			P2022	II B12b	43.8			P3032	II A10x	-		
P1383	II B19g	32.6			P2023	II B12c	67.4			P3033	II A11y	43.0		
P1384	II B19g	59.4			P2024	II B12c	82.4		c1126	P3034	II A11w	35.0	A171号竪穴P03	
P1385	II B19h	29.6			P2025	II B12c	48.2		al209	P3035	II A11x	63.0	A161号竪穴P05	
P1386	II B19h	28.4			P2026	II B12c	45.8			P3036	II A11x	35.6	A161号竪穴P07	
P1387	II B20i	33.0		al207	P2027	II B12c	64.8			P3037	II B6c	69.6		157号土坑より新しい

No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)
P3038	II B11a	24.6			P3135	II A10x	10.4	A166号整穴P01・A182号整穴P05		P3231	II A6y	43.4		
P3039	II B8d	51.4			P3136	II A10x	12.0	A166号整穴P02		P3232	II B8a	36.6		
P3040	II B8d	11.8			P3137	II A10x	19.6	A166号整穴P03		P3233	II B8a	15.0		
P3041	II B9d	29.8			P3138	II A10x	18.2	A166号整穴P04		P3234	II A10w	34.0	A176号整穴P03	
P3042	II A9y	32.0			P3139	II A10x	6.4	A166号整穴P05		P3235	II A10w	29.8	A170号整穴P02	
P3043	II A12v	40.8	A114号整穴P16		P3140	II A10x	26.8	A190号整穴P01		P3236	II A10w	37.6	A190号整穴P05	
P3044	II A12v	32.2	A114号整穴P18		P3141	II A10x	10.4			P3237	II A10w	21.0	A190号整穴P04	
P3045	II A12v	27.2	A114号整穴P17		P3142	II A10x	20.6	A190号整穴P02		P3238	II A10w	59.2	A167号整穴P04	
P3046	II A12v	33.0	A114号整穴P15		P3143	II A11x	10.4	A161号整穴P06		P3239	II B8b	18.4		
P3047	II A12v	42.0	A114号整穴P14		P3144	II A11x	14.0	A157号整穴P02		P3240	II B8b	13.8		
P3048	II A12v	20.8	A180号整穴P03		P3145	II A11x	38.2			P3241	II A6y	18.6		
P3049	II A12v	38.6	A180号整穴P04		P3146	II A11x	22.0			P3242	II A7w	23.0	A188号整穴P02	
P3050	II A12w	53.6	A154号整穴P09		P3147	II A11x	15.6			P3243	II A7v	19.2		
P3051	II A12v	44.4	A154号整穴P10		P3148	II A11x	9.4			P3244	II A7v	46.0		
P3052	II A12w	46.4	A154号整穴P07		P3149	II A10v	46.2	A176号整穴P02		P3245	II A7v	25.8		
P3053	II A12w	26.4	A154号整穴P08		P3150	II A11w	36.6	A113号整穴P01		P3246	II A7v	16.6		
P3054	II A12w	13.4			P3151	II A11w	22.6	A113号整穴P02		P3247	II A7v	18.4	A145号整穴P01	
P3055	II A12w	22.2			P3152	II A11w	12.8			P3248	II A7v	24.0	A145号整穴P02	
P3056	II A12w	19.2			P3153	II A11w	38.0	A113号整穴P03・A161号整穴P01		P3249	II A7v	23.2	A145号整穴P03	
P3057	II B9b	33.2			P3154	II A11w	47.4	A113号整穴P04		P3250	II A8v	26.0		
P3058	II B5a	35.0			P3155	II A12u	33.6	A114号整穴P09		P3251	II A6x	35.0		al214
P3059	II B8g	33.8			P3156	II A12v	15.8	A114号整穴P10		P3252	II B7a	50.8		
P3060	II B8g	42.8			P3157	II A11v	13.0	A180号整穴P11		P3253	II A7w	14.6	A187号整穴P02	
P3061	II B9h	22.6			P3158	II B7a	26.8	A182号整穴P06		P3254	II A7w	11.6	A187号整穴P03	
P3062	II A12x	29.2			P3159	II A7v	18.2		A155-192号整穴より新しい	P3255	II A10w	33.2	A190号整穴P03	
P3063	II A12w	11.2	A180号整穴P05		P3160	II A7v	25.4	A155号整穴P02		P3256	II A10w	50.4	A190号整穴P06	
P3064	II A11w	19.4	A180号整穴P06		P3161	II A7v	33.2		A155号整穴より新しい	P3257	II A10w	34.6	A190号整穴P07	
P3065	II A11v	32.4	A180号整穴P07		P3162	-	-		P3289と同一の為欠番	P3258	II A10w	31.8	A167号整穴P05	
P3066	II A12v	14.4	A180号整穴P02		P3163	II A9x	70.6	A167号整穴P01		P3259	II A6y	28.2		
P3067	II A12v	21.6	A154号整穴P11		P3164	II A9x	72.0	A179号整穴P09		P3260	II A6w	56.2		P3272より新しい
P3068	II A12v	33.0	A114号整穴P20		P3165	II A9w	67.6	A167号整穴P02		P3261	II A6w	20.8	A155号整穴P03	
P3069	II A12v	32.8	A114号整穴P21		P3166	II A9w	68.2	A179号整穴P10		P3262	II A6x	23.8	A191号整穴P01	
P3070	II A12v	44.0	A114号整穴P22		P3167	II A9w	72.2	A179号整穴P08		P3263	II A6x	19.0	A191号整穴P02	
P3071	II A12v	12.8	A154号整穴P13		P3168	II A9w	68.6	A151号整穴P07		P3264	II A6x	39.2	A191号整穴P03	
P3072	II A12v	5.4	A154号整穴P12		P3169	II A9w	67.0	A151号整穴P08		P3265	II A6x	62.2	A191号整穴P04	
P3073	II A12v	82.0	A114号整穴P11		P3170	II A9w	66.0	A179号整穴P05		P3266	II A6x	22.4	A191号整穴P05	
P3074	II A10y	7.4			P3171	II A9w	55.6	A179号整穴P03		P3267	II A7y	17.8	A191号整穴P08	al215
P3075	II A10y	24.4			P3172	II A9w	44.0	A179号整穴P04		P3268	II A7y	16.8	A191号整穴P09	al216
P3076	II A11y	11.2			P3173	II A9w	67.8	A179号整穴P02		P3269	II A6x	20.8		9号溝より新しい
P3077	II A11y	59.0			P3174	II B6a	62.4	A182号整穴P07		P3270	II A7x	15.6	A191号整穴P10	
P3078	II A11y	35.4			P3175	II B9c	43.6			P3271	II A6v	9.2	A135号整穴P03	
P3079	II A11y	12.6			P3176	II B10c	44.4		190号土坑より新しい	P3272	II A6v	47.4		P3273より古い
P3080	II A12w	30.6			P3177	II B10c	16.0		8号溝より古い	P3273	II A6v	13.4		
P3081	II A12w	13.4	A154号整穴P05		P3178	II B8a	-			P3274	II A7y	9.2	A191号整穴P11	
P3082	II A12w	20.4	A154号整穴P04		P3179	II A11v	35.2	A183号整穴P02		P3275	II A7y	11.4	A191号整穴P12	
P3083	II A12w	12.4	A154号整穴P06		P3180	-	-			P3276	II A6w	17.6	A155号整穴P09・A191号整穴P13	
P3084	II A12v	22.8	A114号整穴P19		P3181	-	-			P3277	II B3i	79.2		
P3085	II A11y	24.2			P3182	-	-			P3278	II B2h	16.6		
P3086	II A9w	8.6	A176号整穴P01		P3183	-	-			P3279	II B2h	15.0		
P3087	-	-		P3154と同一の為欠番 al212	P3184	-	-			P3280	II B2h	15.4		
P3088	II A9w	19.2	A179号整穴P01		P3185	-	-			P3281	II B3i	15.6		
P3089	II A11w	27.6	A170号整穴P01		P3186	-	-			P3282	II B3h	39.8		
P3090	II A9x	15.8	A151号整穴P05		P3187	-	-			P3283	II B2i	26.6		
P3091	II A9x	52.0	A151号整穴P06		P3188	-	-			P3284	II B3i	10.6		
P3092	II A9x	16.2	A151号整穴P02		P3189	II A6w	18.4	A155号整穴P14		P3285	II B3h	33.2		
P3093	II A9x	31.6	A151号整穴P04		P3190	II A6w	28.6	A155号整穴P05		P3286	II B2i	18.4		
P3094	II A11x	22.6	A171号整穴P01		P3191	II A6w	20.8	A155号整穴P13		P3287	II B3h	12.8		
P3095	II A10x	7.0	A171号整穴P02		P3192	II A6w	23.8			P3288	II B3h	21.8		
P3096	II A11w	13.2	A161号整穴P02		P3193	II A6w	17.6	A155号整穴P11		P3289	II A6v	17.8		A155号整穴より新しい
P3097	II B10b	53.6			P3194	II A6w	18.4	A155号整穴P10		P4001	II A16k	21.6		
P3098	II B10b	42.0			P3195	II A6w	16.4	A135号整穴P02		P4002	II A16l	31.4		
P3099	II B10a	55.2			P3196	II A6w	19.4	A155号整穴P12		P4003	II A16m	26.4		
P3100	II B11a	17.8			P3197	II A6w	17.0	A155号整穴P04		P4004	II A12s	25.4		
P3101	II B11a	20.2			P3198	II A9w	23.2	A179号整穴P06		P4005	II A12s	21.4		
P3102	II B10c	43.6		190号土坑より新しい	P3199	II A10w	14.0	A179号整穴P07		P4006	II A13s	43.6		
P3103	II B9c	39.4			P3200	II A10v	27.4	A181号整穴P06		P4007	II A13s	21.2	A203号整穴P04	
P3104	II A8w	18.6	A188号整穴P01		P3201	II A10v	26.2	A181号整穴P05		P4008	II A13s	52.4	A203号整穴P12	
P3105	II A10x	21.6	A166号整穴P06		P3202	II A11v	28.8	A181号整穴P02		P4009	II A14r	50.0		c1266
P3106	II A10x	31.6	A166号整穴P07		P3203	II A11v	32.2	A181号整穴P01		P4010	II A14r	51.4		
P3107	II B10b	-		190号土坑より新しい	P3204	II A11u	40.4	A185号整穴P01		P4011	II A14r	60.6	A203号整穴P08	
P3108	II A11y	34.0	A159号整穴か		P3205	II A10u	18.6	A183号整穴P01		P4012	II A14r	34.4		
P3109	II A11y	10.2	A159号整穴か		P3206	II A10u	17.8	A185号整穴P02		P4013	II A14r	48.8		
P3110	II A7u	9.8			P3207	II A11y	64.2			P4014	II A14r	34.6	A203号整穴P09	
P3111	II A5y	28.8	A182号整穴P01		P3208	II A7x	17.0	A187号整穴P01		P4015	II A14r	26.6		
P3112	II A5y	26.4	A182号整穴P02		P3209	II A6y	53.6			P4016	II A14r	39.6		
P3113	II B5a	17.2	A182号整穴P03		P3210	II B8a	17.6			P4017	II A14s	34.0	A209号整穴P02	
P3114	II B5a	15.2	A182号整穴P04		P3211	II B8b	12.0			P4018	II A14s	49.8	A209号整穴P03	
P3115	II A12u	58.4	A114号整穴P01		P3212	II A7y	12.4			P4019	II A14r	43.0		
P3116	II A12u	22.2	A114号整穴P02		P3213	II B8a	10.4			P4020	II A12r	41.6	A204号整穴P01	
P3117	II A12u	20.2	A114号整穴P03		P3214	II B8a	26.0			P4021	II A12r	34.6	A204号整穴P02	
P3118	II A12u	35.2	A114号整穴P04		P3215	II A6y	20.8			P4022	II A12s	27.2	A204号整穴P05	
P3119	II A12u	44.0	A114号整穴P05		P3216	II A6v	8.6	A192号整穴P01		P4023	II A13s	57.4	A203号整穴P05	
P3120	II A12u	32.6	A114号整穴P06		P3217	II A6v	12.8	A192号整穴P02		P4024	II A13s	34.2	A203号整穴P10	
P3121	II A12v	33.4	A114号整穴P07		P3218	II A6v	15.6	A155号整穴P01		P4025	II A13s	35.8	A203号整穴P11	
P3122	II A12u	46.6	A114号整穴P08		P3219	II A6v	30.6	A155号整穴P06		P4026	II A13r	63.4	A203号整穴P07	
P3123	II A11v	25.6	A114号整穴P12		P3220	II A6v	47.6	A155号整穴P07		P4027	II A12r	59.6	A204号整穴P03	
P3124	II A11v	55.6	A180号整穴P01		P3221	II A6v	45.0	A155号整穴P08		P4028	II A12s	37.8	A204号整穴P04	
P3125	II A11v	34.4	A180号整穴P10		P3222	II A6v	14.6			P4029	II A13r	41.6	A203号整穴P13	
P3126	II A11v	28.6	A180号整穴P09		P3223	II A10w	31.2	A167号整穴P03		P4030	II A13r	26.8	A203号整穴P06	
P3127	II A12v	26.6	A114号整穴P13		P3224	II A10x	17.0	A166号整穴P08		P4031	II A12s	47.4	A224号整穴P08	
P3128	II A11v	40.8	A180号整穴P08		P3225	II A10x	12.4	A166号整穴P09		P4032	II A12s	53.4	A224号整穴P07	
P3129	II A11u	25.0			P3226	II A10x	30.8	A157号整穴P01		P4033	II A12s	62.8	A224号整穴P06	
P3130	II A11u	24.0			P3227	II A10v	25.8	A181号整穴P03		P4034	II A12i	49.6		
P3131	II A11u	34.4												

No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)
P4039	II A11s	66	A208号竪穴P02		P4136	II A15s	32.4			P4233	II A14x	25.6		
P4040	II A11s	29.4	A208号竪穴P03		P4137	II A15s	19.7			P4234	II A14x	13.0		
P4041	II A11s	38.8	A208号竪穴P04		P4138	II A15t	28.2			P4235	II A14x	19.7		
P4042	II A11s	25.8	A224号竪穴P04		P4139	II A15t	8.4			P4236	II A14w	22.8		
P4043	II A11s	44.2	A208号竪穴P05		P4140	II A15t	19.7			P4237	II A14w	24.3		
P4044	II A11s	9.8	A224号竪穴P05		P4141	II A15t	58.2			P4238	II A14w	26.4		
P4045	II A12u	45.0			P4142	II A15t	39.7			P4239	II A13w	39.9		
P4046	II A12u	45.0			P4143	II A15t	29.9			P4240	II A14w	9.8		
P4047	II A14v	52.8			P4144	II A15t	24.3			P4241	II A14w	14.0		
P4048	II A14v	38.6			P4145	II A15t	44.9			P4242	II A13x	10.9	A154号竪穴P03	
P4049	II A14v	61.2			P4146	II A15t	16.3			P4243	II A15u	30.2		
P4050	II A14x	34.8			P4147	II A15t	14.6			P5001	II A21v	49.6		
P4051	II A15x	34.5			P4148	II A15t	49.8			P5002	II A20x	39.6	A242号竪穴P05	
P4052	II A15x	36.1			P4149	II A15t	20.3			P5003	II A20y	27.6	A247号竪穴P01	
P4053	II A15x	51.0			P4150	II A15t	33.9			P5004	II A20y	52.2	A243号竪穴P06	
P4054	II A15x	36.6			P4151	II A15t	24.6			P5005	II A21v	48.6		
P4055	II A15x	72.4			P4152	II A15t	16.1			P5006	II A21v	33.4		
P4056	II A15x	23.1			P4153	II A15t	20.1			P5007	II A20v	26.6		
P4057	II A15x	21.2			P4154	II A15u	15.7			P5008	II A21v	29.2		
P4058	II A14x	20.4			P4155	II A15u	26.6			P5009	II A21v	25.2		
P4059	II A15x	19.0			P4156	II A15u	25.8			P5010	II A21v	34.8		
P4060	II A15x	21.7			P4157	II A15u	24.3			P5011	II A21v	27.8		
P4061	II A15x	12.9			P4158	II A15u	6.9			P5012	II A21v	39.4		
P4062	II A15x	24.3			P4159	II A15u	16.1			P5013	II A21v	33.2		
P4063	II A15x	19.8			P4160	II A15u	41.0			P5014	II A20v	18.6		
P4064	II A15x	22.5			P4161	II A15u	26.7			P5015	II B18b	18.6		al218
P4065	II A15x	19.2			P4162	II A15u	11.2			P5016	II B19c	23.4	A238号竪穴P11	
P4066	II A15x	43.2			P4163	II A15u	16.1			P5017	II A20v	30.2		
P4067	II A15x	35.3			P4164	II A15u	8.4			P5018	II B18b	13.4		
P4068	II A15x	18.6			P4165	II A14u	12.3			P5019	II B18c	53.4	A237号竪穴P03	
P4069	II A15x	28.5			P4166	II A14u	11.8			P5020	II B19b	58.8	A237号竪穴P01	
P4070	II A15x	39.9		al217	P4167	II A14u	19.2			P5021	II B19c	30.4		
P4071	II A15x	30.7			P4168	II A15u	14.7			P5022	II B18b	36.6		
P4072	II A16x	37.0			P4169	II A15u	13.0			P5023	II B19b	28.4		
P4073	II A16x	52.4			P4170	II A15u	7.9			P5024	II B19b	13.0		
P4074	II A16x	53.8			P4171	II A15u	9.6			P5025	II B19b	33.6		al219
P4075	II A16x	29.0			P4172	II A15u	12.0			P5026	II B19c	39.8		
P4076	II A12v	36.8			P4173	-	-			P5027	II B19c	51.4	A237号竪穴P06	
P4077	II A12v	23.6			P4174	II A15u	15.5			P5028	II B18c	20.6		
P4078	II A12v	21.6	A216号竪穴P03		P4175	II A15u	14.0			P5029	II B18c	25.8		
P4079	II A12v	15.0			P4176	II A15u	13.3			P5030	II B18c	23.6		r18
P4080	II A16x	45.0			P4177	II A15v	15.1			P5031	II B17 c	21.2	A236号竪穴P18	
P4081	II A16x	22.0			P4178	II A15v	50.1			P5032	II A20w	39.0		
P4082	II A15x	25.4			P4179	II A15v	14.3			P5033	II B18c	31.0		
P4083	II A15x	35.3			P4180	II A15v	29.4			P5034	II B18b	49.8		
P4084	II A15x	29.7			P4181	II A15v	47.9			P5035	II B18c	20.2		
P4085	II A16x	16.0			P4182	II A15v	53.3			P5036	II B18c	15.0	A251号竪穴P04	
P4086	II A16w	34.3			P4183	II A15v	23.7			P5037	II B18c	15.8		
P4087	II A15w	15.6			P4184	II A15v	43.5			P5038	II B18c	28.6		
P4088	II A15w	72.5			P4185	II A15v	41.7			P5039	II B18c	14.4		
P4089	II A15w	20.1			P4186	II A15v	26.7			P5040	II B17c	48.0	A237号竪穴P05	
P4090	II A15w	40.8			P4187	II A15v	32.0			P5041	II B18c	40.8		
P4091	II A15w	42.0			P4188	II A15v	42.8			P5042	II B18c	40.0		
P4092	II A15w	32.2			P4189	II A15v	47.5			P5043	II B18c	41.8		al220
P4093	II A15w	21.9			P4190	II A15w	14.6			P5044	II B18c	13.4		
P4094	II A15w	54.6			P4191	II A15w	31.8			P5045	II B18c	30.0	A237号竪穴P04	
P4095	II A15w	61.1			P4192	II A15w	48.6			P5046	II B18c	50.0	A251号竪穴P03	
P4096	II A15x	41.6			P4193	II A15w	37.1			P5047	II B18c	40.4		
P4097	II A15x	27.8			P4194	II A15w	29.4			P5048	II B18c	43.2		
P4098	II A15w	15.0			P4195	II A15w	39.6			P5049	II B17c	15.6		
P4099	II A15x	44.4			P4196	II A14w	14.7			P5050	II A20y	33.6		
P4100	II A15q	9.8			P4197	II A14w	15.6			P5051	II B17e	13.0		
P4101	II A16x	42.1			P4198	II A14w	12.9			P5052	II B18c	63.0		
P4102	II A16w	48.9			P4199	II A14w	32.2			P5053	II B18c	15.4		
P4103	II A16w	12.9			P4200	II A14w	38.0			P5054	II B18c	14.0		
P4104	II A15u	48.6			P4201	II A14w	38.7			P5055	II A20w	21.4		
P4105	II A15x	19.2			P4202	II A14w	14.2			P5056	II A20y	43.8		
P4106	II A16u	64.3			P4203	II A14w	47.1			P5057	II A21w	54.6		
P4107	II A16u	27.0			P4204	II A14w	36.0			P5058	II A21v	25.2		
P4108	II A15p	23.1			P4205	II A13v	24.8			P5059	II B18c	70.2		
P4109	II A15o	65.2			P4206	II A13v	21.9			P5060	II A20w	22.2		al221
P4110	II A14o	33.0			P4207	II A13v	38.9	A216号竪穴P04		P5061	II A20w	14.8		
P4111	II A15o	46.2			P4208	II A13v	21.3	A216号竪穴P05		P5062	II A21v	47.6		
P4112	II A14o	44.9			P4209	II A12v	29.2	A216号竪穴P06		P5063	II A20v	19.8		
P4113	II A14p	29.1			P4210	II A13w	18.3	A154号竪穴P01		P5064	II A21v	27.6		
P4114	II A14p	33.6			P4211	II A13w	29.1	A154号竪穴P02		P5065	II A20x	13.0		
P4115	II A14p	25.2			P4212	II A13x	32.9			P5066	II A20x	12.2		
P4116	II A13v	22.5			P4213	II A13w	29.4			P5067	II A20y	31.8		
P4117	II A13w	32.5			P4214	II A13w	18.1			P5068	II A20x	33.4		
P4118	II A14v	8.1			P4215	II A13w	13.0			P5069	II A20x	46.6		
P4119	II A14v	6.7			P4216	II A13x	18.9			P5070	II A20x	20.4		
P4120	II A14v	4.7			P4217	II A13x	18.9			P5071	II B18b	11.4		
P4121	II A14v	3.7			P4218	II A13x	12.0			P5072	II A21x	46.2	A242号竪穴P02	
P4122	II A14v	6.5			P4219	II A13x	6.5			P5073	II A20x	31.0		
P4123	II A14v	33.3			P4220	II A13w	10.5			P5074	II A21y	13.0		
P4124	II A14w	38.3			P4221	II A13x	7.8			P5075	II A21y	17.4		
P4125	II A14w	38.1			P4222	II A13x	16.0			P5076	II A21y	13.2		
P4126	II A13w	23.7			P4223	II A13x	11.4			P5077	II A21y	19.4		
P4127	II A13w	27.3			P4224	II A13x	11.7			P5078	II A21y	29.8		
P4128	II A13v	19.8			P4225	II A13x	17.4			P5079	II A21y	20.0		
P4129	II A13w	18.9			P4226	II A13x	20.7			P5080	II A22y	29.0		
P4130	II A13w	13.8			P4227	II A13x	9.3			P5081	II A22y	18.6		
P4131	II A13w	14.1			P4228	II A14x	8.6			P5082	II A22y	33.4		
P4132	II A13v	32.1			P4229	II A14x	15.0			P5083	II A21y	23.0		
P4133	-	-			P4230	II A14x	13.3			P5084	II A21y	21.0		
P4134	II A16t	48.9			P4231	II A14x	11.9			P5085	II A20x	39.0	A243号竪穴P04	
P4135	II A15t	25.9			P4232	II A14x	11.8			P5086	II A21x	24.0		c1269

13 柱穴

No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	
P5087	II A20y	40.4			P5184	II B18b	67.8			P5281	II A17x	30.4			
P5088	II A20x	34.2			P5185	II B16a	24.6			P5282	II A17x	45.0			
P5089	II B19e	20.4			P5186	II B17a	22.2			P5283	II A17x	52.2			
P5090	II B19e	45.0		a1222	P5187	II B17a	42.0			P5284	II A18y	27.8			
P5091	II B18f	41.4			P5188	II A17y	55.4			P5285	II B17a	31.2			
P5092	II B18f	46.2			P5189	II A16y	49.4			P5286	II B17a	21.0			
P5093	II B18f	36.6			P5190	II B17c	27.0			P5287	II A18y	26.4			
P5094	ー	ー		P7207と同一の為欠番	P5191	II B17a	59.8			P5288	II A17y	41.8			
P5095	II B18e	39.6			P5192	II B17a	60.6	A250号竪穴P06		P5289	II B17a	47.4			
P5096	II B18e	34.2			P5193	II A16y	13.8			P5290	II A16v	31.2			
P5097	II B18g	47.4			P5194	II A17x	23.8			P5291	II B17a	33.6			
P5098	II B19f	30.6			P5195	II A18w	25.2			P5292	II A18y	23.4			
P5099	II B18f	49.8			P5196	II A18w	52.6			P5293	II B18a	7.8			
P5100	II B18e	33.2			P5197	II A18v	40.6			P5294	II B18a	15.6			
P5101	II B19e	45.6			P5198	II A18v	26.4			P5295	II B18a	18.2			
P5102	II B19e	42.6			P5199	II A18v	28.2			P5296	II A18y	65.2	A250号竪穴P01		
P5103	II B18f	22.6			P5200	II A18v	24.6			P5297	II B17a	54.0			
P5104	II B19e	24.8			P5201	II A19v	31.8			P5298	II A17y	15.4			
P5105	II B18e	16.2			P5202	II A19v	16.0			P5299	II A18y	23.4			
P5106	II B18e	33.0			P5203	II A19v	23.6		a1227	P5300	II A18y	16.6			
P5107	II B18e	43.4			P5204	II A19w	26.6			P5301	II A18y	26.4			
P5108	II B19e	42.2			P5205	II A19w	26.4			P5302	II A18x	27.6			
P5109	II B19e	45.2			P5206	II A17y	26.0			P5303	II A18x	96.8			
P5110	II B19e	29.6			P5207	II A18w	32.4			P5304	II B18a	36.2			
P5111	II B19e	36.6			P5208	II A19w	17.4			P5305	II A18v	45.4			
P5112	II B19d	31.4			P5209	II A18w	22.6		a1228	P5306	II A17x	42.0			
P5113	II B19f	36.6			P5210	II B17a	64.2			P5307	II B18a	18.2			
P5114	II B18f	29.6			P5211	II A17w	52.0			P5308	II B18a	21.0			
P5115	II B19e	48.6			P5212	II A18v	32.4		a1229	P5309	II B18a	34.8			
P5116	II B18e	31.2			P5213	II A18v	25.4			P5310	II A18y	30.0			
P5117	II B18e	38.4			P5214	II A18w	41.4			P5311	II B19a	13.6	A246号竪穴P06		
P5118	II B19e	19.2			P5215	II A17w	41.0			P5312	II A18y	42.0			
P5119	II B19f	14.4			P5216	II A18w	22.0			P5313	II A17y	26.8			
P5120	II B19c	30.6			P5217	II A18w	21.6			P5314	II A17y	36.0			
P5121	II B19e	36.2		a1223-cl017	P5218	II A16w	22.2			P5315	ー	ー			
P5122	II B18f	41.2			P5219	II A18w	42.6			P5316	II A18x	56.0	A248号竪穴P05		
P5123	II B19e	26.0		a1224	P5220	II A18w	46.8			P5317	II A18x	52.8			
P5124	II B19f	30.4			P5221	II A16y	56.0			P5318	II A17x	21.0			
P5125	II B19f	35.0			P5222	II A16y	57.8			P5319	II B18a	27.6			
P5126	II B19d	42.6			P5223	II A17w	44.4			P5320	II A18x	4.5			
P5127	II B19d	20.4			P5224	II A16x	51.6			P5321	II B18a	27.0			
P5128	II B19f	28.8			P5225	II A18w	52.8			P5322	II B18a	46.2			
P5129	II B19f	ー			P5226	II A17w	46.0			P5323	II A17x	22.8			
P5130	II B18f	49.8			P5227	II A17w	45.0			P5324	II A17x	53.4			
P5131	II B19f	37.2			P5228	II A17w	66.6		a1230	P5325	II A18x	37.4			
P5132	II B18f	42.4			P5229	II A17w	61.2			P5326	II A18x	114.0			
P5133	II B19e	43.2			P5230	II A17x	20.6			P5327	II B18a	41.1			
P5134	II B19e	37.8			P5231	II A17x	60.2			P5328	II B18a	31.0			
P5135	II B19f	23.4			P5232	II A17w	19.8			P5329	II A19x	38.4			
P5136	II B18f	25.2			P5233	II A17w	17.8			P5330	II B19a	82.0			
P5137	II B18f	45.6			P5234	II A16w	18.6			P5331	II B17a	27.6			
P5138	II B19f	39.6			P5235	II A16w	22.2			P5332	II A19x	44.8	A244号竪穴P06		
P5139	II B19f	22.8			P5236	II A17v	37.2			P5333	II A19x	26.8		d10	
P5140	II B19f	36.0			P5237	II A17v	55.0			P5334	II A19x	27.0			
P5141	II B19f	36.2			P5238	II A17v	45.0			P5335	II A19x	27.8			
P5142	II B19e	47.4			P5239	II A17v	11.4			P5336	II A19x	57.6			
P5143	II B17b	11.4			P5240	II A17v	25.0			P5337	II A19x	31.8			
P5144	II B16b	18.4			P5241	II A17v	25.8			P5338	II A18x	31.8	A248号竪穴P01		
P5145	II B16b	31.2			P5242	II A17v	44.8			P5339	II A18x	53.4			
P5146	II B16b	43.0			P5243	II A17v	43.8			P5340	II B18b	30.6			
P5147	II B16b	48.6			P5244	II A17v	38.6			P5341	II B18b	19.3			
P5148	II B17c	31.8			P5245	II A17w	31.8			P5342	II B19a	24.0			
P5149	II B17b	56.4		a1225	P5246	II A17w	7.4			P5343	II A18y	19.8			
P5150	II B16c	37.4			P5247	II A17v	36.2			P5344	II B19a	63.3			
P5151	II B16c	26.8			P5248	II A16w	36.6			P5345	II A19y	26.4			
P5152	II B17c	31.8			P5249	II A17w	35.6			P5346	II A19x	49.6			
P5153	II B17c	32.2	A236号竪穴P11		P5250	II A16w	54.6			P5347	II A19x	69.4	A244号竪穴P03		
P5154	II B17c	65.8	A236号竪穴P14		P5251	II A16w	50.8			P5348	II A18x	19.8			
P5155	II B17c	24.0			P5252	ー	ー		P4102と同一の為欠番	P5349	II A18y	8.0	A245号竪穴P04		
P5156	II B17c	39.6			P5253	II A16x	14.2			P5350	II B18b	120	A238号竪穴P04		
P5157	II B17c	18.6			P5254	II A16w	21.4			P5351	II B18b	32.4	A238号竪穴P02		
P5158	II B17d	14.4			P5255	II A16x	38.6		a1231	P5352	II A19y	20.8	A245号竪穴P06		
P5159	II B17d	9.6			P5256	II A16x	18.2			P5353	II A19y	110.0			
P5160	II B17d	28.2			P5257	II A16x	21.6			P5354	II A18y	25.4	A245号竪穴P05		
P5161	II B16d	44.0		a1226	P5258	II A17w	57.4			P5355	II A19y	36.4	A245号竪穴P06		
P5162	II B17d	26.4			P5259	II A17w	54.0			P5356	II A18x	39.0			
P5163	II B16c	37.8			P5260	II A16x	31.2			P5357	II A18x	37.2			
P5164	II B17c	23.6			P5261	II A16x	30.6			P5358	II B17a	63.0			
P5165	II B17d	10.2			P5262	II A16x	22.4			P5359	II A19y	106.2			
P5166	II B16c	28.2			P5263	II A16x	36.6			P5360	II A18y	75.6		a1232	
P5167	II B16d	41.6			P5264	II A17x	10.6			P5361	II A18y	73.8			
P5168	II B17c	23.6			P5265	II A17x	23.4			P5362	II A18y	91.4			
P5169	II B16a	14.4			P5266	II A16y	30.6			P5363	II B17b	31.2		a1233	
P5170	II B16b	28.2			P5267	II A16y	30.6			P5364	II A19y	40.8	A246号竪穴P02		
P5171	II B17b	25.2			P5268	II A16y	42.8			P5365	II A19x	75.8			
P5172	II B17a	24.6			P5269	II A17x	29.4			P5366	II A17x	57.6			
P5173	II B17a	20.4			P5270	II A16y	25.0			P5367	II A17x	19.6		a1234	
P5174	II B17a	31.8			P5271	II B18b	20.2			P5368	II A17w	34.2			
P5175	II B17a	36.6			P5272	II B18c	34.2			P5369	II A19y	59.4	A247号竪穴P04		
P5176	II B17a	13.8			P5273	II A16x	20.0			P5370	II A19y	108.6		a1235-1236	
P5177	II B17a	23.4			P5274	II A16x	58.8			P5371	II A18x	39.6			
P5178	II B17a	34.8			P5275	II A17x	24.2			P5372	II A18x	32.0			
P5179	II B16a	16.6			P5276	II A16x	58.8			P5373	ー	ー		P1449と同一の為欠番	
P5180	II B19f	26.4			P5277	II A17y	60.6	A250号竪穴P03		P5374	II B16f	20.4	A231号竪穴P10		
P5181	II B17a	23.0			P5278	II B17a	29.0			P5375	II A18u	31.2			
P5182	II B17b	7.8			P5279	II A16x	40.8			P5376	II A18u	15.2			
P5183	II B17b	45.8			P5280	II A17x	22.2			P5377	II A18u	28.8			

No.	グリッド	深さ (cm)	層属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	層属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	層属	備考(掲載遺物、重複等)
P5378	II A19u	196			P5475	II B18d	306			P5571	II B16e	308		
P5379	II A18u	426			P5476	II B18d	342			P5572	II A17w	-		
P5380	II A19a	456			P5477	II B18d	134			P5573	II B17c	148	A231号竪穴P02	
P5381	II A19a	570			P5478	II B18d	254	A251号竪穴P06		P5574	II B17f	-		
P5382	II A19t	536		a1237	P5479	II B17e	280	A253号竪穴P04		P5575	II B19f	-		
P5383	II A18s	218			P5480	II B18d	132	A251号竪穴P11		P6001	II A20v	170		
P5384	II A18s	258			P5481	II B18d	222			P6002	II A20v	150		
P5385	II A20q	468			P5482	II B18d	40			P6003	II A20v	158		
P5386	II A19q	228			P5483	II B18d	258			P6004	II A20v	178		
P5387	II A19q	264			P5484	II B17e	780			P6005	II A20v	234		
P5388	II A18r	334			P5485	II B17d	800			P6006	II A20v	246		
P5389	II A19r	336			P5486	II B17d	166			P6007	II A20v	108		
P5390	II A20t	564			P5487	II B16d	660	A239号竪穴P04		P6008	II A20v	132		
P5391	II A20t	306			P5488	II B17d	326	A240号竪穴P02		P6009	II A20v	92		
P5392	II A20t	306			P5489	II B16d	750			P6010	II A20v	192		
P5393	II A20t	282			P5490	II B16e	536	A240号竪穴P03		P6011	II A20v	112		
P5394	II A20t	138			P5491	II B16e	650	A239号竪穴P12		P6012	II A21v	84		
P5395	II A20t	330			P5492	II B17e	310			P6013	II A21v	156		
P5396	II A20u	390			P5493	II B17e	684			P6014	II A21v	94		
P5397	II A21u	354			P5494	II B17d	342	A239号竪穴P03		P6015	II A21v	290		
P5398	II A20u	314			P5495	II B17d	666	A239号竪穴P18		P6016	II A21v	294		
P5399	II A20t	210			P5496	II B17d	604		a1245, d53	P6017	II A21v	286		
P5400	II A20u	304			P5497	II B18c	522	A235号竪穴P02		P6018	II A21v	216		
P5401	II A20u	370			P5498	II B16f	198			P6019	II A21v	432		
P5402	II A17u	462			P5499	II B16f	234	A239号竪穴P17		P6020	II A21v	140		
P5403	II A20u	402			P5500	II B16e	150			P6021	II A21v	418		
P5404	II A20u	514			P5501	II B16e	270			P6022	II A21v	112		
P5405	II A20t	258			P5502	II B16e	462	A239号竪穴P15		P6023	II A21v	332		
P5406	II A20u	704	a1238		P5503	II B17d	304			P6024	II A20v	212		
P5407	II A20t	224			P5504	II B18d	270			P6025	II A20v	278		
P5408	II A20t	198			P5505	II B17d	204			P6026	II A21v	260		
P5409	II A18s	164			P5506	II B17d	306	A236号竪穴P02		P6027	II A20v	162		
P5410	II A20u	498			P5507	II B17d	132			P6028	II A20v	142		
P5411	II A20u	568			P5508	II B17c	462	A236号竪穴P01		P6029	II A20v	164		
P5412	II A20u	450			P5509	II B18c	192			P6030	II A20v	142		
P5413	II A20u	306	a1239		P5510	II B17c	348			P6031	II A20v	128		
P5414	II A20t	120			P5511	II B17c	768		a1246	P6032	II A20v	108		
P5415	II A20t	334			P5512	II B16e	296			P6033	II A20v	78		
P5416	II A20s	530	a1240		P5513	II B17d	342	A235号竪穴P04		P6034	II A20v	94		
P5417	II A21t	540			P5514	II B17d	454			P6035	II A20v	150		
P5418	II A21t	398			P5515	II B17d	402			P6036	II A21v	170		
P5419	II B16e	150	A239号竪穴P14		P5516	-	-		P5515と同一の為欠番	P6037	II A21v	162		
P5420	II B16e	274	a1241		P5517	II B17c	234			P6038	II A21v	132		
P5421	II B16e	304			P5518	II B18d	192			P6039	II A21w	186		
P5422	II B16 f	730	A239号竪穴P08		P5519	II B18d	326	A253号竪穴P02		P6040	II A20w	222		
P5423	II B16 f	480	A231号竪穴P09		P5520	II B18d	602	A235号竪穴P01		P6041	II A20w	402		
P5424	II B16e	930	A239号竪穴P10		P5521	II B17d	532	A253号竪穴P03		P6042	II A20w	254		
P5425	II A19y	912			P5522	II B17c	372			P6043	II A20w	140		
P5426	II A19y	188			P5523	II B17c	438			P6044	II A20w	248		
P5427	II A19y	312			P5524	II B17d	812			P6045	II A21w	222		
P5428	II B16f	508			P5525	II B17d	168			P6046	II A20v	372		
P5429	II A19x	176			P5526	II B16g	278			P6047	II A20x	172		
P5430	II A19x	186			P5527	II B17e	288	A231号竪穴P01		P6048	II A21x	346		
P5431	II A19x	92			P5528	II B16f	396	A232号竪穴P01		P6049	II A20x	270		
P5432	II A18x	372			P5529	II B16f	156			P6050	II A20x	446		
P5433	II A18x	186			P5530	II B16e	294	A231号竪穴P08		P6051	II A20x	582		
P5434	II A19y	366			P5531	II B16g	490	A231号竪穴P11		P6052	II A20x	120		
P5435	II A19y	352			P5532	II B16f	186			P6053	II A20x	474	A242号竪穴P03	
P5436	II B19c	122			P5533	II B16f	148	A234号竪穴P03	c1270	P6054	II A20x	234		
P5437	II B19d	162			P5534	II B17e	270	A240号竪穴P05		P6055	II A20x	176		
P5438	II B19d	430			P5535	II B17f	252	A232号竪穴P07		P6056	II A20x	298		
P5439	II B19d	346	c171		P5536	II B17f	288			P6057	II A20x	264		
P5440	II B19d	470			P5537	II B17g	238	A233号竪穴P03		P6058	II A20x	180		
P5441	II B19d	380			P5538	II B17f	106			P6059	II A20y	372	A243号竪穴P05	
P5442	II B16e	378			P5539	II B17f	352			P6060	II A22y	262		
P5443	II B19d	236			P5540	II B16f	734			P6061	II A22y	182		
P5444	II B16e	804	A239号竪穴P13		P5541	II B17f	210			P6062	II A21y	176		
P5445	II B19d	588			P5542	II B17f	296			P6063	II A21y	228		
P5446	II B19d	344	a1242		P5543	II B16f	470			P6064	II A22y	228		
P5447	II B19c	174			P5544	II B16e	178	A231号竪穴P12		P6065	II A21y	144		
P5448	II B18e	198			P5545	II B17f	292	A234号竪穴P19	c1271	P6066	II A21y	162		
P5449	II B18e	246			P5546	II B17f	418	A231号竪穴P05		P6067	II A21y	228		
P5450	II B18d	308			P5547	II B17f	252			P6068	II A20x	524	A242号竪穴P04	
P5451	II B18e	242	A253号竪穴P05		P5548	II B17f	278			P6069	II A20y	220		
P5452	II B18e	198			P5549	II B17f	602	A231号竪穴P15・A234号竪穴P06・A241号竪穴P10		P6070	II A20y	234		
P5453	II B18e	152			P5550	II B17f	306	A234号竪穴P13		P6071	II A20y	210		
P5454	II B17d	266			P5551	II B18f	136			P6072	II A20y	234	A247号竪穴P07	
P5455	II B17e	666	A240号竪穴P01		P5552	II B18f	198			P6073	II A20y	318	A247号竪穴P06	
P5456	II B17e	384			P5553	II B18f	434			P6074	II A20y	204		
P5457	II B18e	282			P5554	II B16f	760		c1272	P6075	II A21y	230		
P5458	II B18d	258			P5555	II B17f	530	A234号竪穴P17	a1247	P6076	II A21y	96		
P5459	II B17d	288			P5556	II B17f	546	A233号竪穴P05		P6077	II B21a	118		
P5460	II B17d	678	a1243		P5557	II B17f	274			P6078	II A21y	174	A243号竪穴P07	
P5461	II B17d	816			P5558	II B17f	372			P6079	II A21y	116		
P5462	II B18e	252			P5559	II B16g	200			P6080	II A21y	86		
P5463	II B18e	370			P5560	II B16f	204			P6081	II A21y	126		
P5464	II B18c	108			P5561	II B16f	114	A231号竪穴P03		P6082	II A21y	88		
P5465	II B18d	284			P5562	II B16f	480	A232号竪穴P02		P6083	II A20v	248		
P5466	II B18e	256			P5563	II B18d	342			P6084	II A20v	192		
P5467	II B18e	136			P5564	II B18e	402			P6085	II A20v	310		
P5468	II B18c	472	a1244		P5565	II B18f	262		a1248	P6086	II A21v	184		
P5469	II B18c	474			P5566	II B18d	202			P6087	II A20v	210		
P5470	II B18d	370	A251号竪穴P13		P5567	II B17c	162			P6088	II A20v	190		
P5471	II B18c	450	A236号竪穴P03		P5568	II A16w	356			P6089	II A20w	254		
P5472	II B18c	652	A251号竪穴P05		P5569	II B18b	188			P6090	II A20y	310		
P5473	II B17c	258			P5570	II B16e	812			P6091	II A20y	112		
P5474	II B17c	228	A236号竪穴P04							P6092	II A20x	170		

13 柱穴

No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)
P6093	II A20x	25.2			P6190	II B19c	28.2			P6287	II B16c	15.6		
P6094	II A20x	6.6			P6191	II B18c	16.2			P6288	II B17b	8.4		
P6095	II A20x	12.0			P6192	II B18c	27.6			P6289	II B17b	15.0		
P6096	II A20x	12.0			P6193	II B19b	16.2			P6290	II B17b	20.2		
P6097	II A20x	8.4			P6194	II B18b	7.4			P6291	II B17b	13.8		
P6098	II A20x	22.8			P6195	II B18b	8.4			P6292	II B17b	10.6		
P6099	II A20y	18.0			P6196	II B19c	7.4			P6293	II B17b	33.0	A238号整穴P05	
P6100	II A20x	12.6			P6197	II B18c	50.8			P6294	II B17b	15.0		
P6101	II A20x	18.0			P6198	II B18b	9.6			P6295	II B17b	18.0		
P6102	II A20x	13.0			P6199	II B18b	8.6			P6296	II B17b	22.8		
P6103	II A20x	10.8			P6200	II B18b	9.0			P6297	II B17b	57.2		
P6104	II A20y	19.2	A242号整穴P06		P6201	II B18b	10.0			P6298	II B16a	16.2		
P6105	II A21y	26.4			P6202	II B18b	5.4			P6299	II B17a	15.6		
P6106	II A21x	25.0			P6203	II B18b	9.6			P6300	II B17b	21.0		
P6107	II A21x	13.4	A242号整穴P01		P6204	II B18c	16.2			P6301	II B16a	21.0		
P6108	II A21x	36.6			P6205	II B18c	7.8			P6302	II B17b	-		
P6109	II A21x	30.0	A243号整穴P02		P6206	II B18c	12.6			P6303	II B17b	10.6		
P6110	II A21x	38.4			P6207	II B18b	10.2			P6304	II B17b	8.2		
P6111	II A21x	16.4	A243号整穴P03		P6208	II B18b	13.2			P6305	II B17b	66.6		
P6112	II B17f	13.2			P6209	II B18b	8.4			P6306	II B16b	19.0		
P6113	II A21x	8.2			P6210	II B18b	8.4			P6307	II B17b	13.0		
P6114	II A21x	21.0			P6211	II B18b	9.0			P6308	II B17b	17.6		
P6115	II A21x	16.6			P6212	II B18b	21.2			P6309	II B16b	-		
P6116	II A21x	19.0			P6213	II B18b	16.2			P6310	II B16b	22.4		
P6117	II A21y	10.4	A243号整穴P01		P6214	II B18b	7.6			P6311	II B16b	17.8		
P6118	II A21x	11.4			P6215	II B18b	16.8			P6312	II B16b	24.6		
P6119	II A21x	14.4			P6216	II B18b	20.6			P6313	II B16b	25.6		
P6120	II A22x	15.0			P6217	II B18b	40.8			P6314	II B16a	20.0		
P6121	II A20x	29.6			P6218	II B18b	12.6			P6315	II B16a	23.2		
P6122	II A20x	15.0			P6219	II B18b	30.6			P6316	II B16a	15.4		
P6123	II A20v	10.8			P6220	II B18b	12.0			P6317	II B16a	34.6		
P6124	II A20x	22.8			P6221	II B18b	14.0			P6318	II B16a	16.2		
P6125	II B18b	20.4			P6222	II B18b	21.4			P6319	II B16a	19.4		
P6126	II B18b	44.4			P6223	II B18b	9.8			P6320	II B16a	21.0		
P6127	II B16e	-			P6224	II B18b	11.4			P6321	II B16a	15.8		
P6128	-	-			P6225	II B18b	10.8			P6322	II B16a	22.2		
P6129	II B18b	19.2			P6226	II B18b	12.2			P6323	II B16a	10.8		
P6130	II B18b	13.8			P6227	II B18b	44.4			P6324	II B16b	11.0		
P6131	II B18b	14.2	A238号整穴P01		P6228	II B18c	29.4	A236号整穴P15		P6325	II B16b	12.6		
P6132	II B19b	15.6			P6229	II B18c	27.8			P6326	II B16a	19.2		
P6133	II B19b	11.6			P6230	II B18c	6.2			P6327	II B16a	16.2		
P6134	II B19b	8.2			P6231	II B18c	17.6			P6328	II B16a	14.8		
P6135	II B19b	6.4			P6232	II B18b	19.4			P6329	II B16a	14.4		
P6136	II B19b	21.0			P6233	II B18b	18.6			P6330	II B16a	24.6		
P6137	II B19b	15.0			P6234	II B18b	16.6			P6331	II B16a	21.0		
P6138	II B19b	20.8			P6235	II B18b	9.4			P6332	-	-		
P6139	II B19b	12.2			P6236	II B18b	5.6			P6333	II B16a	21.2		
P6140	II B19b	8.0			P6237	II B18b	19.8			P6334	II B16a	9.0		
P6141	II B19b	15.4			P6238	II B18b	25.2			P6335	II B17a	8.0		
P6142	II B19b	17.2			P6239	II B18b	17.2			P6336	II B17a	12.6		
P6143	II B19b	9.0			P6240	II B18b	19.8	A236号整穴P09		P6337	II B16a	16.8		
P6144	-	-			P6241	II B18c	5.4			P6338	II B16a	23.4		
P6145	II B18b	18.0			P6242	II B18c	6.6			P6339	II B17a	18.0		
P6146	II B18b	5.4			P6243	II B19c	12.4			P6340	II B17a	33.0	A250号整穴P05	
P6147	II B18b	9.6			P6244	II B19c	7.8			P6341	II B17a	8.4		
P6148	II B18b	16.4			P6245	II B19c	9.8			P6342	II B17a	11.4		
P6149	II B19b	42.8			P6246	II B19c	11.6			P6343	II B16a	53.0		
P6150	II B19b	19.2			P6247	II B18c	14.2	A251号整穴P02		P6344	-	-		
P6151	II B19b	28.8			P6248	II B18c	16.0			P6345	II B16a	30.0		
P6152	II B19b	30.2			P6249	II B18c	18.6			P6346	II A16y	13.2		
P6153	II B19b	24.8			P6250	II B18c	28.8			P6347	II A16y	42.8		
P6154	II B18b	18.2			P6251	II B18c	15.6			P6348	II A16y	19.8		
P6155	II B18b	17.4			P6252	II B18c	13.0			P6349	II A16y	54.2		
P6156	II B18b	16.6			P6253	II B18c	13.4			P6350	II A16y	36.6		
P6157	II B18b	30.4			P6254	II B18c	15.8			P6351	II A16y	25.8		
P6158	II B18b	57.0	A237号整穴P02		P6255	II B19c	21.6			P6352	II A16y	21.6		
P6159	II B18b	7.2			P6256	II B19c	11.8			P6353	II A16y	26.2		
P6160	II B19b	21.0			P6257	II B19c	15.2			P6354	II A16y	18.0		
P6161	II B19b	20.4	A238号整穴P12		P6258	II B19c	11.4			P6355	II A16y	22.8		
P6162	II B19b	13.4			P6259	II B19c	8.2			P6356	II A16y	19.0		
P6163	II B19b	31.8			P6260	II B19c	9.0			P6357	II A16y	50.2		
P6164	II B19b	28.2			P6261	II B18c	22.0			P6358	II A16x	52.0		
P6165	II B19b	9.6			P6262	II B18c	17.4	A238号整穴P10		P6359	II A16x	11.8		
P6166	II B19b	49.8			P6263	II B18c	27.6	A238号整穴P09		P6360	II A16w	45.0		
P6167	II B19b	8.8			P6264	II B18c	11.4			P6361	II A16x	30.3		
P6168	II B19b	9.2			P6265	II B18c	29.4			P6362	II A17x	15.0		
P6169	II B19b	18.6			P6266	II B18c	20.6			P6363	II A17x	16.4		
P6170	II B19b	9.4			P6267	II B18c	13.4			P6364	II A17w	21.0		
P6171	II B19c	26.0			P6268	II B18c	15.0	A236号整穴P14		P6365	II A17w	11.4		
P6172	II B19c	18.6			P6269	II B18c	22.4			P6366	II A17w	24.6		
P6173	II B19c	9.6			P6270	II B18c	34.8	A236号整穴P08		P6367	II A17w	41.6		
P6174	II B19b	10.2			P6271	II B17c	18.0			P6368	II A17w	51.6		
P6175	II B19c	14.0			P6272	II B18c	12.8			P6369	II A16w	16.2		
P6176	II B19c	9.8			P6273	II B18c	14.4			P6370	II A17w	30.8		
P6177	II B19b	4.2			P6274	II B19a	37.0			P6371	II A17w	57.8		
P6178	II B19c	12.6			P6275	II B16d	23.2			P6372	II A17w	46.8		
P6179	II B19c	6.0			P6276	-	-			P6373	II A17w	56.4		
P6180	II B19c	16.8			P6277	-	-			P6374	II A17w	25.8		
P6181	II B19c	25.6			P6278	II B16d	10.0			P6375	II A17w	39.0		
P6182	II B19c	31.4			P6279	II B17d	9.2			P6376	II A17w	24.6		
P6183	II B19c	6.6			P6280	II B16d	10.2			P6377	II A17w	18.6		
P6184	II B19b	9.4			P6281	II B17c	34.6			P6378	II A17w	26.2		
P6185	II B19c	8.0			P6282	II B17c	14.6	A236号整穴P05		P6379	II A17w	13.6		
P6186	II B19c	10.2			P6283	II B17c	34.2			P6380	II A17w	26.0		
P6187	II B19c	19.4			P6284	II B17c	11.2			P6381	II A17w	14.6		
P6188	II B19c	15.0			P6285	II B16d	19.2			P6382	-	-		P7202と同一の為欠番
P6189	II B19c	14.4			P6286	II B16d	13.0			P6383	II A17w	11.4		

No.	グリッド	深さ (cm)	層属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	層属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	層属	備考(掲載遺物、重複等)
P6384	II A17v	11.4			P6481	II A16y	28.6			P6578	II B17a	69.6		
P6385	II A17v	9.2			P6482	II A16y	18.2			P6579	II B18a	64.0	A250号竪穴P07	
P6386	II A17v	10.4			P6483	II A16y	27.6			P6580	II B18a	57.4		
P6387	II A17v	10.0			P6484	II A16x	12.6			P6581	II B18a	20.6		
P6388	II A17v	13.6			P6485	II A17y	28.8			P6582	II B18a	30.6		
P6389	II A17v	48.6			P6486	II A17x	19.8			P6583	II B17a	26.4		
P6390	II A16v	18.0			P6487	II A17w	26.8			P6584	II B17a	18.2		
P6391	II A17v	6.0			P6488	II A17w	45.4			P6585	II B17a	48.0		
P6392	II A17v	14.6			P6489	II A17x	38.4			P6586	II B17a	66.0		
P6393	II A17v	13.2			P6490	II A17x	36.0	A249号竪穴P03		P6587	II B17b	22.2		
P6394	II A17v	11.4			P6491	II A17x	14.2			P6588	II B17b	16.2		
P6395	II A17v	37.6			P6492	II A17x	26.0	A249号竪穴P04		P6589	II B17b	17.8		
P6396	II A17v	19.8			P6493	II A17x	12.0			P6590	II B17a	18.0		
P6397	II A17v	29.4			P6494	II A17x	36.0			P6591	II B17a	13.8		
P6398	II A17v	12.4			P6495	II A17x	19.0			P6592	II B17a	10.2		
P6399	II A17v	38.0			P6496	II A17y	50.8	A249号竪穴P05		P6593	II B16b	24.8		
P6400	II A17v	22.8			P6497	II A17y	60.4			P6594	II B16b	9.2		
P6401	II A17v	20.4			P6498	II A17y	19.2			P6595	II B17b	54.4		
P6402	II A17v	29.8			P6499	II A17y	27.0			P6596	II B17b	35.4		
P6403	II A17v	14.4			P6500	II A17y	24.6			P6597	II B16c	13.8		
P6404	II A17v	29.4			P6501	II A17y	54.6			P6598	II B16c	14.0		
P6405	II A17v	42.0			P6502	II A17y	25.4			P6599	II A18y	9.4		
P6406	II A17v	18.4			P6503	II A17y	10.2			P6600	II A17y	23.4		
P6407	II A17v	34.2			P6504	II A17y	25.6			P6601	II A17y	7.8		
P6408	II A17v	57.0			P6505	II A17y	20.8			P6602	II A17y	10.6		
P6409	II A17v	15.4			P6506	II A17y	29.4			P6603	II A18y	30.6		
P6410	II A17v	18.0			P6507	II A17y	13.0			P6604	II A17y	14.0		
P6411	II A18v	25.8			P6508	II A17y	41.8			P6605	II A17y	29.0		
P6412	II A18v	13.8			P6509	II A17y	49.2			P6606	II A17y	15.0		
P6413	II A18v	33.2			P6510	II A17y	8.8			P6607	II A18y	14.0		
P6414	II A18v	20.4			P6511	II A17y	43.0	A250号竪穴P04		P6608	II A18x	14.4		
P6415	II A19v	23.4			P6512	II A17y	67.4			P6609	II A18y	18.8	A249号竪穴P07	
P6416	II A19v	36.2			P6513	II A18w	59.0			P6610	II A18y	24.2		
P6417	II A19v	32.2			P6514	II A18w	45.0			P6611	II A18y	26.4		
P6418	II A19v	43.8			P6515	II A18w	23.4			P6612	II A18y	25.2		
P6419	II A19v	45.0			P6516	II A17y	14.6			P6613	II A18x	40.6		
P6420	II A19v	42.4			P6517	II A17y	50.4			P6614	II A18x	47.0	A248号竪穴P06	
P6421	II A19v	22.4			P6518	II A17y	8.8			P6615	II A18y	18.0		
P6422	II A19v	43.2			P6519	II A17y	33.6			P6616	II A18x	51.0		
P6423	II A19v	33.4			P6520	II A17y	15.0			P6617	II A18y	16.2		
P6424	II A19v	36.6			P6521	II A18x	45.4			P6618	II A18x	13.4		
P6425	II A19v	14.4			P6522	II A18x	45.0			P6619	II A18x	24.6		
P6426	II A20v	17.6			P6523	II A18x	32.2	A249号竪穴P02		P6620	II A18x	10.8		
P6427	II A20v	16.8			P6524	II A18x	19.6			P6621	II A18x	41.6	A248号竪穴P07	
P6428	II A19v	24.6			P6525	II A18x	40.4			P6622	II A18x	55.4		
P6429	II A18w	10.4			P6526	II B17a	19.8			P6623	II A17x	27.8		
P6430	II A18w	16.2			P6527	II B17a	15.2			P6624	II B19a	12.8	A246号竪穴P05	
P6431	II A18w	12.6			P6528	II B17a	33.6			P6625	II B19a	-		
P6432	II A19w	15.2			P6529	II B17a	20.6			P6626	II B19a	-		
P6433	II A18w	9.2			P6530	II B17a	24.0			P6627	II B19a	9.6		
P6434	II A19w	16.4			P6531	II B17a	19.2			P6628	-	-		
P6435	II A19w	31.2			P6532	II B17a	24.0			P6629	II B19a	33.0	A246号竪穴P04	
P6436	II A19w	28.0			P6533	II B17a	16.2			P6630	II B19a	24.0		
P6437	II A19w	22.8			P6534	II B18a	44.4			P6631	II B19a	26.6		
P6438	II A19w	9.0			P6535	II B18a	6.0			P6632	II B19a	15.6		
P6439	II A19w	51.0			P6536	II B18a	19.0			P6633	II B19a	20.2		
P6440	II A20w	22.2			P6537	II B18a	12.0			P6634	II A18y	25.4		
P6441	II A20w	58.6			P6538	II B18a	20.0			P6635	II B19a	93.6		
P6442	II A20w	19.8			P6539	II B18a	13.2			P6636	II B18a	32.4		
P6443	II A20w	21.8			P6540	II B18a	9.0			P6637	II A19y	19.0		
P6444	II A19w	28.8			P6541	II B18a	15.2			P6638	II A19y	22.2	A246号竪穴P03	
P6445	II A19x	60.2			P6542	II B18a	14.4			P6639	II A18y	8.8		
P6446	II A20x	9.0			P6543	II B18a	27.0			P6640	II A19y	19.8		
P6447	II A19x	19.2			P6544	II B18a	23.4			P6641	II A19y	15.0		
P6448	II A19x	29.4	A244号竪穴P02		P6545	II B18a	21.0			P6642	II A19y	39.8		
P6449	II A19x	38.4	A244号竪穴P01		P6546	II B18a	22.2			P6643	II A19y	28.8		
P6450	II A19x	16.2			P6547	II B18a	21.4			P6644	II A19y	11.2		
P6451	II A19x	19.2			P6548	II B18a	28.8			P6645	II A18y	12.8		
P6452	II A19x	93.6			P6549	II B18a	27.0			P6646	II A18y	21.0		
P6453	II A19x	23.2			P6550	II B18a	48.0			P6647	II A19y	21.0		
P6454	II A17x	19.6			P6551	II B18a	14.6			P6648	II A19y	47.0	A247号竪穴P05	
P6455	II A17x	16.2			P6552	II B18a	22.8			P6649	II A19y	11.2	A246号竪穴P01	
P6456	II A16w	9.0			P6553	II A18y	29.8			P6650	II A19y	10.2		
P6457	II A16w	10.8			P6554	II A18y	18.0			P6651	II A19y	12.6		
P6458	II A17v	58.2			P6555	II A18y	33.0			P6652	II A19y	24.6	A244号竪穴P05	
P6459	II A17v	15.4			P6556	II A18y	12.6			P6653	II A19y	22.6	A245号竪穴P01	
P6460	II A17v	10.2			P6557	II A18y	26.4			P6654	II A19y	15.4		
P6461	II A17v	6.6			P6558	II A18y	18.6			P6655	II A19y	33.6	A244号竪穴P04	
P6462	II A17v	9.6			P6559	II A18y	21.8			P6656	II A19x	33.6		
P6463	II A17v	9.0			P6560	II A18y	9.6			P6657	II A19x	18.8	A245号竪穴P03	
P6464	II A17v	5.0			P6561	II A18y	27.6			P6658	II A20x	36.4	A247号竪穴P02	
P6465	II A17v	6.0			P6562	II A18y	37.2			P6659	II A19x	36.4		
P6466	II A17v	5.2			P6563	II A18y	12.6			P6660	II A19x	16.2		
P6467	II A17v	6.0			P6564	II A18y	26.4			P6661	II A19x	6.8		
P6468	II A17v	47.2	A238号竪穴P08		P6565	II A18y	19.8			P6662	II A19x	21.4		
P6469	II A17v	15.0			P6566	II A18y	32.0			P6663	II A19x	20.8	A247号竪穴P03	
P6470	II A17v	6.6			P6567	II A18y	30.2			P6664	II A19x	12.2		
P6471	II A17v	10.8			P6568	II A18y	18.4			P6665	II A19x	9.8		
P6472	II A16w	10.4			P6569	II A17y	6.6			P6666	II A19x	7.4		
P6473	II A16w	19.2			P6570	II A18y	11.4			P6667	II A19x	10.4		
P6474	-	-		P4085と同一の為欠番	P6571	II A18y	22.6			P6668	II A19x	16.6		
P6475	II A16x	26.4			P6572	II A17y	32.4			P6669	II A19x	26.2		
P6476	II A16x	58.8			P6573	II A17y	44.4			P6670	II A19x	22.8		
P6477	II A16x	12.0			P6574	II A18y	51.0	A250号竪穴P02		P6671	II A18x	14.2		
P6478	II A16x	37.0			P6575	II A17y	50.8			P6672	II B17a	48.8		
P6479	II A17w	24.0			P6576	II A17y	46.2			P6673	II B17a	24.2		
P6480	II A17x	20.2			P6577	II A17y	35.4			P6674	II B18a	7.4		

13 柱穴

No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	帰属	備考(掲載遺物、重複等)
P6675	II B18a	8.6			P6772	II A21u	25.6			P6869	II B19f	10.6		
P6676	II B18a	13.2			P6773	II A21u	28.4			P6870	II B19e	24.0		
P6677	II B18b	17.8			P6774	II A21u	24.6			P6871	II B19e	11.4		
P6678	II B18b	15.4			P6775	II A21u	31.2			P6872	II B19f	12.8		
P6679	II B18a	23.4			P6776	II A21u	18.4			P6873	II B19e	31.2		
P6680	II B18a	20.8			P6777	II A20u	31.8			P6874	II B19f	15.2		
P6681	II B18a	18.0			P6778	II A20u	33.2			P6875	II B19f	16.6		
P6682	II B17a	15.8			P6779	II A20u	30.6			P6876	II B19f	16.2		
P6683	II A17y	61.2			P6780	II A20u	16.2			P6877	II B19f	19.6		
P6684	II B18b	22.8			P6781	II A20u	12.6			P6878	II B19f	19.2		
P6685	II B18b	14.6	A238号整穴P03		P6782	II A20u	28.0			P6879	II B19f	9.2		
P6686	II A17y	14.8			P6783	II A20u	18.6			P6880	II B19f	19.2		
P6687	II A17y	17.8			P6784	II A20u	26.0			P6881	II B19f	27.2		
P6688	II A19x	5.4			P6785	II A20u	51.4			P6882	II B19e	17.4		
P6689	II A19x	13.0	A245号整穴P02		P6786	II A20u	34.2			P6883	II B19f	15.0		
P6690	II A19x	10.8			P6787	II A20u	29.4			P6884	II B19f	12.6		
P6691	II A18x	22.2			P6788	II A20u	12.2			P6885	II B19f	15.6		
P6692	II A18x	31.6	A248号整穴P02		P6789	II A20u	28.8			P6886	II B19f	24.8		
P6693	II A18x	23.8			P6790	II A20u	31.8			P6887	II B19f	23.4		
P6694	II A18x	24.0			P6791	II A21t	50.4			P6888	II B19f	26.8		
P6695	II A18x	12.0			P6792	II A20u	45.6			P6889	II B19f	24.6		
P6696	II A18x	22.4			P6793	II A20u	14.0			P6890	II B19f	26.4		
P6697	II A18x	18.2			P6794	II A21u	32.4			P6891	II B19f	38.2		
P6698	II A18x	11.8			P6795	II A19q	35.4			P6892	II B19f	21.2		
P6699	II A18x	21.1	A248号整穴P04		P6796	II B17c	15.6			P6893	II B19f	23.4		
P6700	II A18x	32.4			P6797	II B19e	40.0			P6894	II B19f	10.4		
P6701	II A18x	40.0	A248号整穴P03		P6798	II B19e	30.4			P6895	II B19f	11.2		
P6702	II A18x	33.0			P6799	II B19e	32.4			P6896	II B19f	14.4		
P6703	II A17u	19.8			P6800	II B19d	18.2			P6897	II B19f	13.4		
P6704	II A17u	19.2			P6801	II B19d	25.8			P6898	II B19f	16.2		
P6705	II A18u	35.4			P6802	II B19e	27.0			P6899	II B18f	47.4		
P6706	II A17u	30.0			P6803	II B19e	25.8			P6900	II B19f	22.4		
P6707	II A18u	32.2			P6804	II B19e	31.8			P6901	II B18 f	42.6		
P6708	II A18u	40.4			P6805	II B19e	30.4			P6902	II B19f	12.0		
P6709	II A18u	46.8			P6806	II B19e	19.6			P6903	II B19f	18.4		
P6710	II A18t	27.4			P6807	II B18e	33.0			P6904	II B18f	13.4		
P6711	II A18u	27.0			P6808	II B18e	6.6			P6905	II B19f	42.6		
P6712	II A18u	61.2			P6809	II B18e	44.8			P6906	II B18f	24.0		
P6713	II A18u	34.4			P6810	II B19e	7.8			P6907	II B19f	7.8		
P6714	II A19u	24.6			P6811	II B19e	15.0			P6908	II B19f	11.6		
P6715	II A19u	33.4			P6812	II B19e	11.4			P6909	II B19f	13.2		
P6716	II A19u	17.6			P6813	II B19d	17.0			P6910	II B19f	9.4		
P6717	II A19u	28.2			P6814	II B19e	24.6			P6911	II B19f	20.8		
P6718	II A19u	23.6			P6815	II B18e	31.0			P6912	II B19f	20.0		
P6719	II A18t	23.4			P6816	II B18e	38.4			P6913	II B19f	30.0		
P6720	II A19t	22.6			P6817	II B18e	15.2			P6914	II B19f	6.2		
P6721	II A18t	43.8			P6818	II B18e	9.8			P6915	II B19f	17.2		
P6722	II A18t	44.0			P6819	II B18e	30.4			P6916	II B19f	16.2		
P6723	II A18s	34.8			P6820	II B18e	11.8			P6917	II B19f	60.0		
P6724	II A19t	31.2			P6821	II B18e	29.0			P6918	II B19f	9.0		
P6725	II A19t	29.6			P6822	II B18e	22.2			P6919	II B19f	29.0		
P6726	II A19s	34.0			P6823	II B18e	17.6			P6920	II B19d	29.2		
P6727	II A19t	39.6			P6824	II B18e	14.8			P6921	II B19d	31.4		
P6728	II A19t	36.0			P6825	II B18e	55.4			P6922	II B19d	32.4		
P6729	II A19t	31.2			P6826	II B18e	18.6			P6923	II B19d	18.6		
P6730	II A19s	24.0			P6827	II B18e	13.6			P6924	II B19d	30.2		
P6731	II A18s	13.4			P6828	II B18e	25.8			P6925	II B19d	17.6		
P6732	II A18s	13.2			P6829	II B18e	16.2			P6926	II B19d	37.8		
P6733	II A19s	23.4			P6830	II B18e	25.6			P6927	II B19d	17.4		
P6734	II A18r	37.4			P6831	II B18f	25.6			P6928	II B19d	15.6		
P6735	II A19r	31.2			P6832	II B18f	13.2			P6929	II B19d	23.8		
P6736	II A19r	20.0			P6833	II B18f	41.0			P6930	II B19d	90.0		
P6737	II A19q	35.4			P6834	II B18f	36.2			P6931	II B19d	32.0		
P6738	II A19q	38.6			P6835	II B17f	15.0			P6932	II B19d	22.2		
P6739	II A19q	38.2			P6836	II B17f	25.4			P6933	II B19c	26.4		
P6740	II A19q	31.0			P6837	II B17f	15.0			P6934	II B19c	10.2		
P6741	II A19q	24.8			P6838	II B18f	47.6			P6935	II B19c	22.6		
P6742	II A20q	17.6			P6839	II B18f	44.4			P6936	II B19c	9.0		
P6743	II A19q	12.8			P6840	II B18g	18.6			P6937	II B19c	7.4		
P6744	II A20q	23.8			P6841	II B18f	45.0			P6938	II B19c	28.4		
P6745	II A19r	16.8			P6842	II B19f	45.0			P6939	II B19c	13.2		
P6746	II A19r	18.0			P6843	II B19e	19.8			P6940	II B19c	10.8		
P6747	II A19r	31.2			P6844	II B19e	15.0			P6941	II B19d	32.0		
P6748	II A19r	13.4			P6845	II B19e	26.2			P6942	II B19d	20.6	A252号整穴P06	
P6749	II A19r	19.8			P6846	II B19e	21.8			P6943	II B19d	20.0		
P6750	II A19r	29.4			P6847	II B19e	47.4			P6944	II B19d	27.0	A252号整穴P01	
P6751	II A19s	45.8			P6848	II B19e	18.0			P6945	II B18d	21.6		
P6752	II A19s	24.2			P6849	II B19e	36.8			P6946	II B18e	26.6		
P6753	II A19s	18.6			P6850	II B19e	32.4			P6947	II B17c	19.8		
P6754	II A19s	23.0			P6851	II B19e	35.4			P6948	II B17c	19.8		
P6755	II A19r	26.4			P6852	II B18e	29.4			P6949	II B17c	20.2		
P6756	II A19s	22.0			P6853	II B19e	34.0			P6950	II B17c	31.8	A238号整穴P06	
P6757	II A20s	21.6			P6854	II B18e	32.4			P6951	II B17c	24.6	A236号整穴P10	
P6758	II A19s	22.2			P6855	II B18e	25.0			P6952	II B17c	19.2		
P6759	II A21t	42.2			P6856	II B19e	27.6			P6953	II B17c	49.6		
P6760	II A20t	14.8			P6857	II B19e	19.8			P6954	II B17c	19.2		
P6761	II A20s	34.8			P6858	II B19e	11.4			P6955	II B17c	21.2		
P6762	II A20s	65.2			P6859	II B19e	11.8			P6956	II B17c	17.2		
P6763	II A20s	29.6			P6860	II B19e	20.2			P6957	II B17c	27.6	A238号整穴P07	
P6764	II A20t	20.4			P6861	II B19e	26.2			P6958	II B18e	41.2	A236号整穴P07	
P6765	II A20t	33.2			P6862	II B19e	22.2			P6959	II B18e	13.8	A236号整穴P13	
P6766	II A20t	15.6			P6863	II B19e	31.0			P6960	II B18e	19.6		
P6767	II A20t	14.8			P6864	II B19e	40.8			P6961	II B18e	14.0		
P6768	II A20u	83.4			P6865	II B19e	14.4			P6962	II B18e	17.8		
P6769	II A21u	10.6			P6866	II B19e	22.6			P6963	II B18d	14.0		
P6770	II A21u	33.2			P6867	II B19e	21.0			P6964	II B18d	22.6		
P6771	II A21u	49.0			P6868	II B19e	25.2			P6965	II B18d	9.2		

IV 検出遺構

No.	グリッド	深さ (cm)	層属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	層属	備考(掲載遺物、重複等)	No.	グリッド	深さ (cm)	層属	備考(掲載遺物、重複等)
P6966	II B18d	25.8			P7063	II B18e	12.0			P7160	II B17e	38.4	A234号堅穴P01	
P6967	-	-			P7064	II B18e	19.8			P7161	II B17e	7.6		
P6968	II B18d	30.6			P7065	II B18e	11.8			P7162	II B17e	23.2		
P6969	-	-			P7066	II B17e	9.8			P7163	II B17e	14.4		
P6970	II B19 d	14.8			P7067	II B17d	8.8			P7164	II B17f	23.0		
P6971	II B19 d	41.6			P7068	II B17e	40.8			P7165	II B16e	7.8		
P6972	II B19 d	-			P7069	II B17e	18.2			P7166	II B16f	6.6	A239号堅穴P09	
P6973	II B19d	12.2			P7070	II B17e	40.8			P7167	II B17f	12.0		
P6974	II B18c	53.8			P7071	II B17e	29.0			P7168	II B17f	22.8		
P6975	II B18d	20.4	A251号堅穴P01		P7072	II B16e	8.6			P7169	II B17f	19.4		
P6976	II B18d	23.4			P7073	II B16e	43.4			P7170	II B17f	22.8	A234号堅穴P18	
P6977	II B18d	29.4			P7074	II B16e	57.0			P7171	II B17f	14.8	A234号堅穴P11	
P6978	II B18d	25.8			P7075	II B17e	26.8			P7172	II B17f	23.4	A231号堅穴P14	
P6979	II B18d	16.8			P7076	II B17e	21.0			P7173	II B17e	29.4		
P6980	II B18f	24.6			P7077	II B16e	12.2			P7174	II B17e	52.8	A234号堅穴P12	
P6981	II B18e	11.6	A241号堅穴P11		P7078	II B17d	14.4			P7175	II B17f	33.0	A241号堅穴P04	
P6982	II B18c	22.8			P7079	II B17d	44.0			P7176	II B17f	14.2		
P6983	II B17e	19.0			P7080	II B16d	75.0			P7177	II B17f	17.4	A232号堅穴P06	
P6984	II B18e	14.4			P7081	II B16e	47.0			P7178	II B17f	25.2		
P6985	II B18e	26.8	A241号堅穴P05		P7082	II B16e	26.0			P7179	II B16f	24.6		
P6986	II B18d	15.0			P7083	II B16e	22.2			P7180	II B16f	41.6		
P6987	II B18d	18.0			P7084	II B16e	60.0			P7181	II B16f	8.0		
P6988	II B18d	23.4	A251号堅穴P07		P7085	II B18e	9.4			P7182	II B16f	25.2		
P6989	II B18d	26.4	A251号堅穴P08		P7086	II B16e	7.0			P7183	II B16f	18.4		
P6990	II B18d	16.2	A251号堅穴P09		P7087	II B17d	55.8	A235号堅穴P05		P7184	II B16f	48.0	A232号堅穴P03	
P6991	II B18d	13.8			P7088	II B17c	20.2			P7185	II B17e	28.4	A239号堅穴P01	
P6992	II B18d	14.4			P7089	II B17c	23.4	A235号堅穴P03		P7186	II B17f	21.2		
P6993	II B18d	59.4			P7090	II B17c	13.4			P7187	II B17f	38.8	A234号堅穴P05	
P6994	II B18d	6.0			P7091	II B17d	7.0	A236号堅穴P06		P7188	II B17f	27.2		
P6995	II B18d	27.4	A253号堅穴P01		P7092	II B17d	6.4			P7189	II B17f	6.8		
P6996	II B18d	25.2			P7093	II B17d	7.0			P7190	II B17f	11.4		
P6997	II B18d	21.4			P7094	II B17d	29.8			P7191	II B17f	40.0	A233号堅穴P04	
P6998	II B18d	28.8			P7095	II B17c	8.6			P7192	II B17f	-		
P6999	II B18d	8.8			P7096	II B17c	30.0			P7193	II B17f	32.8		
P7000	II B19d	8.4			P7097	II B17c	26.0			P7194	II B17f	12.2		
P7001	II B18d	8.6			P7098	II B18d	13.8			P7195	II B16f	26.2	A233号堅穴P08	
P7002	II B18d	25.8	A252号堅穴P02		P7099	II B17d	8.4			P7196	II B16f	9.6		
P7003	II B18d	26.6	A251号堅穴P10		P7100	II B17d	10.0			P7197	II B16f	9.6		
P7004	II B18d	48.6	A251号堅穴P12		P7101	II B17d	22.6			P7198	II B16f	67.2		
P7005	II B18d	22.2			P7102	II B17d	34.2			P7199	II B16f	48.0	A234号堅穴P16	
P7006	II B18d	44.4	A252号堅穴P03		P7103	II B17d	6.6			P7200	II B16f	69.2	A233号堅穴P07	
P7007	II B18d	17.4			P7104	II B18d	9.2			P7201	II B18f	15.4		
P7008	II B18d	23.8			P7105	II B17d	28.2			P7202	II B18f	29.4		
P7009	II B18d	21.0			P7106	II B17d	15.4			P7203	II B18e	13.4		
P7010	II B18d	14.4			P7107	II B17d	20.6			P7204	II B18f	33.8		
P7011	II B18d	37.2			P7108	II B17d	16.8			P7205	II B18f	39.4		
P7012	II B18d	55.0			P7109	II B17d	33.6			P7206	II B18f	13.6		
P7013	II B18d	25.8			P7110	II B17d	46.2			P7207	II B18f	21.8		
P7014	II B18d	26.2			P7111	II B16e	63.8			P7208	II B16f	166.8		
P7015	II B18d	13.2			P7112	II B16e	60.0			P7209	II B16f	24.4		
P7016	II B16e	57.2	A239号堅穴P11		P7113	II B16e	21.4			P7210	II B17d	14.8		
P7017	II B18d	20.8			P7114	II B16e	13.8			P7211	II B16e	22.8		
P7018	II B18d	35.4			P7115	II B16e	22.8	A239号堅穴P16		P7212	II B16f	19.2		
P7019	II B18d	18.2			P7116	II B16e	57.8	A239号堅穴P07		P7213	II B16e	19.6		
P7020	II B18d	10.8			P7117	II B16e	14.4			P7214	II B16e	48.0	A239号堅穴P06	
P7021	II B18d	13.0			P7118	II B16f	25.0			P7215	II B17e	-		
P7022	II B18d	12.6			P7119	II B16f	9.0			P7216	II B17f	31.8	A233号堅穴P06	
P7023	II B18d	18.4			P7120	-	-		P1450と同一の為欠番	P7217	II B17f	52.8		
P7024	II B18d	13.6			P7121	-	-		P1448と同一の為欠番	P7218	II B18f	3.6		
P7025	II B18d	17.4			P7122	II B16e	24.0			P7219	II B18f	3.4		
P7026	II B18d	10.2			P7123	II B16e	80.4			P7220	II B18c	21.0		
P7027	II B18d	11.2			P7124	II B16e	45.6	A234号堅穴P08-A240号堅穴P04		P7221	II B18d	22.8	A252号堅穴P04	
P7028	II B18d	14.6			P7125	II B16g	25.6	A232号堅穴P04		P7222	II B18d	48.2		
P7029	II B18d	13.2			P7126	II B16g	16.6							
P7030	II B18d	21.0			P7127	II B16g	10.8	A233号堅穴P01						
P7031	II B18d	30.2	A241号堅穴P07		P7128	II B16g	15.0							
P7032	II B18d	33.6			P7129	II B16g	-							
P7033	II B17e	78.4			P7130	II B17f	35.2	A232号堅穴P05						
P7034	II B18e	14.6	A241号堅穴P01		P7131	II B17f	10.4	A234号堅穴P04						
P7035	II B18e	29.6			P7132	-	-		P5543と同一の為欠番					
P7036	II B18e	27.0			P7133	II B16f	23.4							
P7037	II B18e	31.8			P7134	II B17g	39.2	A231号堅穴P12-A233号堅穴P02						
P7038	II B17e	10.8			P7135	II B17f	15.0	A231号堅穴P04						
P7039	II B17e	18.6			P7136	II B17f	15.2	A234号堅穴P10						
P7040	II B17e	19.2	A241号堅穴P02		P7137	II B19d	16.8							
P7041	II B18e	46.6	A241号堅穴P06		P7138	II B18e	22.2							
P7042	II B18e	15.6			P7139	II B17e	52.4							
P7043	II B18e	32.4			P7140	II B17e	28.0							
P7044	II B18e	17.8			P7141	II B17e	31.8	A241号堅穴P08						
P7045	II B18e	31.2			P7142	II B17e	39.8							
P7046	II B18e	16.4			P7143	II B17e	37.8	A240号堅穴P06						
P7047	II B18e	36.4			P7144	II B18e	22.2							
P7048	II B18e	12.2			P7145	II B18e	26.6							
P7049	II B18e	30.6	A253号堅穴P06		P7146	II B18f	16.2							
P7050	II B18e	33.6			P7147	II B18f	14.0							
P7051	II B18e	10.0			P7148	II B17c	28.4							
P7052	II B18e	33.6			P7149	II B17c	-							
P7053	II B18e	22.4			P7150	II B17c	25.8	A236号堅穴P12						
P7054	II B18e	12.6			P7151	II B17d	21.0							
P7055	II B18e	17.6			P7152	II B17d	6.6							
P7056	II B18d	11.0			P7153	II B19d	50.4	A252号堅穴P05						
P7057	II B18d	12.6			P7154	II B19d	37.2							
P7058	II B18d	28.2			P7155	II B19d	9.0							
P7059	II B18e	16.6			P7156	II B17e	62.6	A234号堅穴P14						
P7060	II B18e	14.0			P7157	II B17e	27.6	A234号堅穴P07-A241号堅穴P03						
P7061	II B18e	16.2			P7158	II B17e	30.2	A234号堅穴P15						
P7062	II B18e	7.8			P7159	II B17e	25.2	A241号堅穴P09						

V 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、土器（縄文土器・土師器・須恵器）、石器（剥片石器・礫石器）、石製品、土製品、台形土器、土器片円盤、支脚、金属製品、鉄生産関連遺物（羽口・鉄滓・炉壁）、陶磁器・ガラス製品、動物遺存体等多岐にわたる。以下では、各種別の分類基準について記す。なお、遺物実測図の縮尺は各図版中に付したスケールの通りである。実測図の表現方法は第2分冊の凡例図に提示した。遺物写真図版は約2/3～1/3を基本とし、大型の縄文土器では1/4～1/6としたものもある。

1 縄文土器（第10表、第1-226～235図、第2-1～237図、写真図版273～457）

最も出土量が多く、大コンテナ750箱分（総重量約11,261,228.9g）出土している。出土時期は早期・前期・中期・後期で、早期は後葉、前期は初頭～末、中期は初頭～末、後期は初頭～前葉のものが出土している。前・中期のものは主として大木式土器及び円筒土器に分類されるものである。以下では時期ごとの特徴をみていくが、最初に分類基準と記載方法について記載しておく。

分類基準

本報告書での分類は『総覧 縄文土器』（小林達雄編2008）を基本とし、下記の文献を参考に行った。以下では各分類の概要について記すが、詳細については各文献及びその他の参考文献（474～476頁）を参照して頂きたい。

- 阿部昭典 2008 「東日本の中期末葉から後期前葉の土器様式」『縄文時代の社会変動論』
今村啓爾 2006 「大木6式土器の諸系統と変遷過程」『東京大学考古学研究室研究紀要』第20号
神原雄一郎 2004 「渦巻文様の展開 -盛岡の縄文時代中期の土器-」『縄文の彩華 -中期の技と美-』
須原 拓 2018 「V 出土遺物の分類」『浜川目沢田I遺跡発掘調査報告書』岩文振第679集
須原 拓 2019 「岩手県沿岸地域の大木8a式土器について -浜川目沢田I遺跡の資料から」『紀要』第38号
早瀬亮介 2018 「第8章 総括 第1節 土器・土製品」『中沢遺跡』石巻市教育委員会
松田光太郎 2003 「大木6式土器の変遷とその地域性」『神奈川考古』第39号

記載方法

土器の型式及び年代は第10・11表の時期欄に記載しているが、記載方法は以下の通りである。

- ・大木式 → 「大○」、円筒下層式 → 「円下○」、円筒上層式 → 「円上○」
- ・同一型式のなかで新古不明なもの → 単に「大2」又は「大7b」等
- ・前後の型式の特徴を有し、いずれに帰属するか判別が難しいもの → 「大6～7a」等
- ・土器型式は不明だが、大別時期がわかるもの → 「中期」等
- ・大別時期も不明なもの → 「不明」

(1) 早期（第1-226図）

早期後葉

器種は深鉢と考えられるが、全形がわかる資料は無い。1点掲載した。地文は単節斜行縄文と考えられるが、ナデにより不明である。胎土に繊維はほとんど含まれず、内外面及び断面いずれも色調は黒色である。

(2) 前期 (第 1-226 ~ 228・235 図)

大木 2 a・b 式を前葉、大木 3 式と円筒下層 b 式を中葉、大木 4・5 式を後葉、大木 6 式と円筒下層 d 式を末葉とした。また、型式は特定できないが初頭～前葉と考えられる資料も確認されており、これらを一括した。

初頭～前葉

大木 2 式の特徴を持たないもので、中には大木 1 式を含む可能性もある。8 点掲載した。器種は深鉢のみと考えられるが、全形がわかる資料は無い。口縁部は平縁で、胴部から直線的に立ち上がるものと外方に屈曲するものがある。地文は単節斜行縄文・結束羽状縄文・組紐で、胎土に繊維を含むものもある。前期初頭と考えられる a 577 は末端環付の単節斜行縄文が施文される。

大木 2 a 式

器種は深鉢のみと考えられるが、全形がわかる資料は無い。2 点掲載した。口縁部形態は不明である。地文は結束羽状縄文で、胎土に繊維を含む。

大木 2 b 式

器種は深鉢のみと考えられるが、全形がわかる資料は無い。17 点掲載した。口縁部は平縁と小波状口縁があり、いずれも胴部から直線的に立ち上がる。上面や端部が指押さえにより花卉状となるものが多い。地文は単節斜行縄文の他、結節縄文・結節回転文・単軸絡条体 1 A 類・組紐等があり、内面に施文するものも一定量ある。2 a 式と異なり胎土に繊維は含まない。a 978 のように口縁部付近に横位隆帯を 1 条巡らせ、さらに押圧や刺突を施すものもある。なお、後述する大木 5 式にも同様の横位隆帯を有するものがあるが、隆帯の幅が狭く、胎土が他の大木 2 b 式と類似しているものは本型式に含めた。

大木 3 式

深鉢のみ出土しており、可能性があるものを含めて 55 点掲載した。全形がわかる資料は 1 点のみである (a 2067)。口縁部は外反するものと内湾するものがあり、いずれも胴部と口縁部の境界は不明瞭である。胴部は直線的に立ち上がるものと丸みを持つものがある。地文は単節斜行縄文が大半で、結節縄文・単軸絡条体・多軸絡条体は少量である。また、胴部には地文を施文した後に沈線による円文、細沈線貼付+キザミ、沈線+爪形文等が施文される。

大木 4 式

深鉢のみ出土しており、全形がわかる資料は無い。56 点掲載した。口縁部は平縁で、外反するものと内湾するものがあり、大きく外反するものは内外面に粘土紐や沈線による円形・山形文が施文される。胴部は丸みを持つものが大半である。地文は単節斜行縄文が大半で、結節縄文・単軸絡条体 1 A 類等は少量である。また、胴部には地文を施文した後に細い粘土紐による円形・山形・格子・梯子文等、多様な貼付文が施文される。

大木 5 式

深鉢のみ出土しており、91 点掲載した。口縁部から底部まで完存する資料は無いが、器形の推定は可能である。口縁部は平縁のものは外反または内湾、波状口縁のものは胴部から直線的に立ち上がる。口縁端部にキザミが施されるものもある。胴部は丸みを持つものが多いが、底部から直線的に立ち上がり、胴部中位から丸みを持つ球胴形に近い形態のものもある。地文は単節斜行縄文と単軸絡条体が主体で、無節斜行縄文・結節縄文・多軸絡条体は少量である。単軸絡条体は 1 A 類と 5 類 (いわゆる網目状撚糸文) がある。胴部には地文を施文した後に粘土紐による横位隆帯の他、S 字・逆 V 字

状等の貼付文が施文される。また、粘土紐には押圧や刺突、斜行縄文が施文される。

大木6式

松田 2003・今村 2006 に従って分類した。深鉢のみ出土しており、188 点掲載した。口縁部から底部まで完存する資料は少ないが、長胴形と球胴形に分類できる（球胴形については第 10 表で「球胴深鉢」とした）。口縁部は平縁と 2～4 単位の波状口縁があり、長胴形・球胴形ともに外反するものが大半である。地文は単節斜行縄文が大半で、無節斜行縄文・複節縄文・結節縄文・結束縄文・単軸絡条体は少量である。文様は口縁部に施文されるものがほとんどで、粘土板によるボタン状・橋状の貼付文（突起）、粘土紐による隆帯を施した後に斜め方向の短沈線や半裁竹管による押し引き、竹管による刺突等が施される。長胴形の胴部は若干丸みを持つが、胴部最大径を持つ位置は上～下位まで多様である。球胴形の胴部は大きく丸みを持ち、頸部の屈曲が強いものと弱いものがある。胴部への施文は長胴形には山形・併行沈線文を施すものが少量確認されるが、球胴形には無い。

なお、本型式は後続する 7 a 式との判別が困難なものが多いことから、判別基準として①口縁部の波状の高低差が小さいまたは突起・貼付で形成、②球胴タイプで胴部下半の直線部が相対的に短い、③先述の貼付文+短沈線・押し引きを施文、という 3 基準のいずれかを満たす場合は本型式に含めた。ただし、ボタン状貼付文に 7 a 式で主体となる細沈線を施す等、両型式の特徴を有するものもあり、これらについては大木 6～7 a 式とし、89 点掲載した。

円筒下層 b 式

本型式の可能性のある深鉢の口縁部破片を 1 点掲載した。地文は単節斜行縄文で、口縁部には原体側面圧痕と横位隆帯が施文される。

円筒下層 d 式

深鉢のみ出土しているが、全形がわかる資料は無い。可能性のあるものを含めて 6 点掲載した。d 1 式と d 2 式があるが、出土数が少ないため一括した。口縁部は平縁と小波状口縁があり、胴部から直線的に立ち上がる。地文は、単節斜行縄文・羽状縄文・単軸絡条体 1 A 類がある。単軸絡条体 1 A 類にはいわゆる木目状燃糸文も含まれる。口縁部付近には原体側面圧痕が施され、さらに爪形刺突が施されるものもある。胴部に地文以外が施文されるものは無い。なお、文様構成は本型式であるが、後続する円筒上層 a 式に近い口縁部が外反する器形のものも出土しており、これらは円筒下層 d～上層 a 式とし、3 点掲載した。

(3) 中期 (第 1-228～235 図)

大木 7 a 式と円筒上層 a 式を初頭、大木 7 b 式と円筒上層 c 式を前葉、大木 8 a・b 式を中葉、大木 9 式を後葉、大木 10 式を末葉とした。

大木 7 a 式

神原 2004 に従って分類した。深鉢と浅鉢が出土しており、307 点掲載した。本型式は二段階に細分されているが、判別できないものも多く本書では細分していない。

深鉢は、6 式と同じく長胴タイプと球胴タイプがある。口縁部は平縁と 2～4 単位の波状口縁（突起）があり、長胴タイプは直線的に立ち上がるものと内湾するもの、球胴タイプは外方に開きながら立ち上がるものがある。長胴タイプの胴部は、底部から直線的に立ち上がるものと胴部中央が膨らむものがある。また、大型化した波状口縁を持つものが確認されるようになる。地文は単節斜行縄文が主体であるが、無節斜行縄文・結節縄文・結束羽状縄文・単軸絡条体 1 A 類等も一定量確認できる。本型式では頸部に横位隆帯や沈線を巡らせて口縁部と胴部の文様帯を区画している。文様帯には細い隆帯

による三叉・弧状等の貼付文や沈線による渦巻・円形・弧状・波状文等が施され、さらに細沈線・刺突・キザミ・押圧等が施される。球胴タイプは口縁部文様帯にのみ施文され、中空突起や橋状突起が2個一対で施される。浅鉢は、胴部が直線的に外方に立ち上がる形態である。地文に単節斜行縄文を用いるものもあるが、ナデ調整のみのもが多く、隆帯や貼付文・突起等を施している。

大木7b式

深鉢と浅鉢が出土しており、158点掲載した。深鉢は、口縁部は平縁と2～4単位の波状口縁で、直線的に立ち上がるものと頸部～口縁部が丸みを持つものがあり、後者はいわゆるキャリパー形である。胴部は底部から直線的に立ち上がるものと胴部中央が膨らむものがあり、後者には器高が低く壺型に近い器形もある。地文は単節斜行縄文が大半で、複節縄文・結節縄文・羽状縄文・単軸絡条体1A類等は少量である。7a式と同じく頸部に横位隆帯や沈線を巡らせて口縁部と胴部の文様帯を区画しているが、胴部へ施文されるものは少量である。口縁部文様帯には単独の原体側面圧痕や両脇に原体側面圧痕を施した隆帯による文様が施文されており、後続する8a式の器形となるものを除いて原体側面圧痕が施文されているものは本型式に含めた。浅鉢は、胴部が直線的に立ち上がるものと丸みを持つものがある。7a式と異なりナデ調整のみのもは無く、地文に無節・単節・複節の縄文を用い、口縁部には2～4個の突起、深鉢と同様の原体側面圧痕を施文している。

大木8a式

蒲原2004、須原2018・2019に従って分類した。二段階に細分されている。深鉢と浅鉢が出土しており、291点掲載した。細分可能な資料が一定量あることから古段階と新段階に分けて記載する。

古段階の深鉢は、口縁部は平縁と2～4単位の波状口縁があり、内弯するものがほとんどである。胴部はキャリパー形と長胴形があり、胴部中央が膨らむものと直線的なものがある。地文は単節斜行縄文が大半で、複節縄文と単軸絡条体1A類等は少量である。大木7式と同じく頸部に隆帯を巡らせて口縁部と胴部の文様帯を区画しているが、胴部へ施文されるものは極少量である。口縁部文様帯には隆帯や沈線、隆沈線による波状文が主体となるが、本型式の器形で7b式に特徴的な原体側面圧痕を施すものも少量確認されている。浅鉢は、7b式で見られた器形の他に胴部中位で屈曲して口縁部が直線的に立ち上がるものが出現する。地文は単節斜行縄文が大半で、口縁部に突起を付けるものが多い。その他の文様構成は深鉢と同様である。また、大型の浅鉢も確認できるようになる。

新段階の深鉢は基本的な特徴は古段階と同様であるが、口縁部文様帯に隆沈線が増加し、波状文だけでなく曲線状文やクランク文、S字状文等が施される。また、8b式に繋がるような立体的な波状口縁や隆帯を持つものが出現する。浅鉢は資料数が少ないが、古段階と同様の器形に加えて口径と底径の比率が小さいもの小壺形も確認される。文様帯の特徴は深鉢と同様であるが、胴部に縦方向の曲線文を施すものもある。

なお、新段階の資料の中には榎林式古段階と考えられる、口縁部と胴部の境界が不明瞭で平行沈線による直線・波状・連弧文が施されるものも含まれている。榎林式土器は青森県を中心に岩手県では沿岸北部で一定の出土量が確認されているが、現在の研究では大木式土器の地方型式と捉えられており、今回は基本的に榎林式古段階は8a式新段階、榎林式新段階は8b式の中に含め、該当するものは第10表の備考に「可能性有」と記載した。

大木8b式

蒲原2004、須原2018に従って分類した。深鉢・脚付深鉢・浅鉢・壺・注口土器が出土しており、全型式の中で最も器種構成が豊富である。441点掲載した。細分可能な資料が多いことから、本書では須原の分類に従い古段階と新段階に分けて記載する。

古段階の深鉢は、口縁部は平縁と波状口縁があり、内弯するものと直線的に立ち上がるものがある。平縁が主体となり、波状口縁も以前の型式までと比べて小型化している。器形はキャリパー形が大半で、胴部は中央付近が膨らむものと直線的に立ち上がるものがある。地文は単節斜行縄文が主体で、口縁部と胴部で回転方向が異なるものも一定量確認される。また、8 a 式よりも複節縄文の割合が高くなっている。口縁部文様帯には隆帯や隆沈線による横位直線と連続する渦巻文を施し、さらに渦巻の先端に有棘文が組み合わされる。また、口縁部には大形の中空突起が付けられるものがある。胴部文様帯を施すものは2～3条の平行沈線による直線・曲線文や渦巻・有棘文が主体であるが、一条の隆帯により渦巻・有棘文を施すものも少量確認される。浅鉢は底径が狭くなり、口径と底径の比率が大きいものが主体となる。口縁部は平縁で、胴部は直線的に立ち上がり口縁部付近で内弯する。口縁部・胴部とも文様構成は深鉢と同様である。

新段階の深鉢は、古段階と大きく器形が変化する。また、中～大型と小型で特徴が異なるようになる。中～大型の口縁部は平縁と4～8単位の波状口縁があり、内弯するものが多い。4単位の波状口縁には中空突起を付けるものがある。小型の口縁部は2～3単位の波状口縁が大半で、胴部は丸みを持つが、中～下位で屈曲して外反しながら口縁部へと至る。胴部は、中～大型は胴部上半～口縁部付近に最大径を持つものとキャリパー形、小型は胴部中位が膨らみ頸部が括れるものがある。地文は古段階と同じく単節斜行縄文が主体で、複節縄文も一定量確認される。本段階でも隆帯により口縁部と胴部の文様帯と区画するが、頸部に無文帯を持つものが出現する。口縁部文様帯は、頸部に無文帯を持つものは隆沈線による渦巻文が横方向に施され、無文帯を持たないものは端部に2条の隆帯を巡らせ波状口縁の頂部に小さい渦巻文を施している。また、隆帯に沿って刺突を列状に施すものもある。胴部文様帯には隆沈線による複数の渦巻文が施され、渦巻文には短い直線・曲線の隆帯や縦方向の直線的な隆帯が連結する。小型のものでは沈線で表現されるものもある。浅鉢は、器形は古段階と同じであるが、口縁部文様帯に横方向の渦巻文が施され、胴部がナデ調整のみのもものが主体となる。

本型式から出現する器種として脚付深鉢・壺・注口土器がある。脚付深鉢は、胴部が球胴形に近い器形で、口縁部形態や文様構成は深鉢と同じである。脚部は直線的に外方に開き、地文以外に隆沈線が及ぶものもある。壺は底径と口径がほぼ同じで、胴部下半が丸みをもつ器形である。口縁部は平縁で、内傾気味に立ち上がる。地文を施文するものがほとんど無く、ナデ調整が主体である。口縁部は無文であり、頸部には隆沈線と4単位の突起が付けられる。突起は中空突起または橋状突起で、中空突起の中央には渦巻文が施される。胴部文様帯には深鉢と同様の文様が施される。注口土器は浅鉢型で、口縁部直下に斜め上方に向いた注口が1個付けられる。

大木 8 b 新～9 式古段階

須原 2018 に従って分類した。小破片で 8 b 式新段階か 9 式古段階の判別が困難なもの及び以下の特徴を有する土器が一定量認められたため設定した（第 10 表では「大 8 b～9」と記載）。深鉢と壺が出土しており、214 点掲載した。8 b 式新段階と同じく胴部上半から口縁部付近に最大径を持つ器形に、8 b 式新段階と 9 式古段階の両者の特徴の文様を有するものを本型式とした。口縁部は平縁と 2 単位の波状口縁があり、口縁部には 8 b 式のような幅広の文様帯を持たず、横位に沈線や連続刺突文が施される。また、頸部無文帯は無くなる。胴部には沈線による円形文・楕円形文・渦巻文が複数描かれ、それらを直線的な沈線で連結している。磨消技法はほとんど認められない。なお、隆帯による渦巻文または楕円文になる円形文様が施されるが、判別が困難なものは本型式に含めた。

大木 9 式

阿部 2008 に従って分類した。二段階に細分されている。深鉢・浅鉢・脚付深鉢・壺が出土しており、

257 点掲載した。細分可能な資料が多いことから古段階と新段階に分けて記載する。

古段階の深鉢は、8 b 式新段階と同じく中～大型と小型では特徴が異なる。中～大型の口縁部は平縁と 2～4 単位の波状口縁があり、内湾するものが多い。小型の口縁部は外反するものが多い。胴部は、中～大型は胴部上半～口縁部付近に最大径を持つものとキャリパー形、小型は胴部中位が膨らみ頸部が括れて口縁部が開くものがある。新段階と異なり最大径は頸部～胴部にあり、プロポーションは大きく異なる。地文は単節斜行縄文が主体であるが、複節縄文と単軸絡条体 1 A 類も一定量確認される。口縁部と胴部の文様帯の区別が曖昧になり、口縁部から胴部まで連続する文様構成となる。口縁部には 8 b 式新段階のような幅広の文様帯を持たず、横位に沈線や連続刺突文が施される。胴部には上半から下半にかけて縦方向に隆帯による懸垂文が施され、それらが連結して楕円区画化するものもある。区画内は縄文施文後に磨消技法が施される。浅鉢は胴部が直線的に外方に開き口縁部付近で内湾するものが主体であり、8 b 式新段階と比べて胴部が丸みを持つ。

新段階の深鉢は、古段階と異なり中～大型と小型の特徴が類似してくる。口縁部は平縁と 2～4 単位の波状口縁があり、内湾するものと外反するものがある。胴部は器高に対して口径が小さいものが多く、頸部～口縁部に最大径を持つものが大半となる。地文は単節斜行縄文が主体であるが、複節縄文の割合が古段階より多くなっている。文様は、口縁部に隆沈線による渦巻文や楕円形文が施されるものもあるが、文様帯の区別が曖昧になり、口縁部から胴部まで連続して沈線による逆 U 字文や楕円文等の区画文が縦方向に施され、区画内は縄文施文後に磨消技法が施される。浅鉢は、基本的には古段階と同形態で、文様構成が深鉢と同じものとなる。

その他の器種として、脚付深鉢と壺がある。脚付深鉢は脚部の破片のみで全形がわかる資料は無い。地文施文後に隆帯貼付や磨消技法が施され、穿孔も確認される。壺は、器高に対して口径が小さいもので、最大径が胴部にあるものと口縁部にあるものがある。文様構成は深鉢と同じであるが、胴部下半がナデ調整のものや中位に橋状突起を付けるものもある。

大木 10 式

阿部 2008 に従って分類した。三段階に細分されている。深鉢・浅鉢・壺が出土しており、36 点掲載した。資料数は少ないが、各段階で特徴が異なるため分けて記載する。

古段階の資料は深鉢のみである。口縁部は平縁と波状口縁があるが、前者が主体である。胴部中位付近に最大径を持ち、頸部が若干括れて口縁部が外方に開く。口縁部はナデによる無文帯を基本として、円形の刺突文が横位に施されるものもある。口縁部から胴部にかけて「C」・「S」・「U」等アルファベット状の区画帯を巡らせ、区画内には縄文が充填技法で施文される。また、充填後に沈線を引き直すものもある。

中段階の深鉢は、口縁部は平縁と波状口縁があり、前者が主体である。胴部は古段階とほぼ同形態である。口縁部文様帯は無くなり、胴部上半に古段階より幅広の曲線状区画が描かれ胴部下半の字文と連結する。区画内には縄文が充填技法で施文される。

新段階の資料は深鉢の胴部破片が出土しているのみで、全形がわかる資料は無い。文様は、微隆起線文による無文帯が施される。

円筒上層 a 式

深鉢のみ出土しており、全形がわかる資料は無い。可能性があるものを含めて 5 点掲載した。口縁部は平縁で、外方に開きながら立ち上がる。胴部は円筒下層 d 式より丸みを持つ。地文は結節・結束縄文と単軸絡条体 1 A 類である。口縁部には地文を施文した後に隆帯を直線・弧状に貼り付け、原体側面圧痕・刺突・キザミ等が施される。

円筒上層c式

深鉢のみ出土しており、全形がわかる資料は無い。可能性があるものを含めて3点掲載した。口縁部は平縁と波状口縁があり、外方に開きながら立ち上がる。胴部は円筒上層a式と類似している。地文は単節斜行縄文と結節縄文である。口縁部には地文を施文した後に直線・弧状の隆帯を貼り付けて原体側面圧痕や刺突を施すもの、原体側面圧痕のみ施すものがある。

中期前葉（五領ヶ台式?）

細隆帯と細沈線で文様を施すもので、関東地方の五領ヶ台式土器の影響を受けたと考えられるものである。深鉢のみ出土しており、全形がわかる資料は無い。3点掲載した。細隆帯や沈線で区画した後に内部に斜め方向の細沈線と交互刺突が施される。

（4）後 期（第1-234図）

後期初頭～前葉

深鉢の口縁部破片が3点出土しているのみで、全形がわかる資料は無い。a 155は縦方向の2条の平行沈線が施され、その内部に刺突が2列施される。沈線は頸部で90°屈曲し、刺突は1列になるが同様の文様が頸部全体に巡らされる。a 2081は竹管による円形刺突が縦方向に1列施される。門前式に相当すると考えられるが、大木10式新段階に含まれる可能性もある。a 2331は原体の細かい単節斜行縄文を地文とし、沈線で曲線状に区画をして内部に磨消技法が施される。十腰内I式に相当すると考えられる。

（5）赤 彩 土 器（第11表、第2-238～243図）

縄文土器のうち、赤彩の付着が認められた破片を一括して掲載した。大木6～9式の土器で確認されているが、大半が大木8b式である、付着位置は口縁部外面・胴部外面・口縁部内面・胴部内面である。今回出土したものは他の縄文土器と器形や胎土に相違点はみられない。

2 土師器・須恵器（第12表、第2-244～252図、写真図版457～461・532）

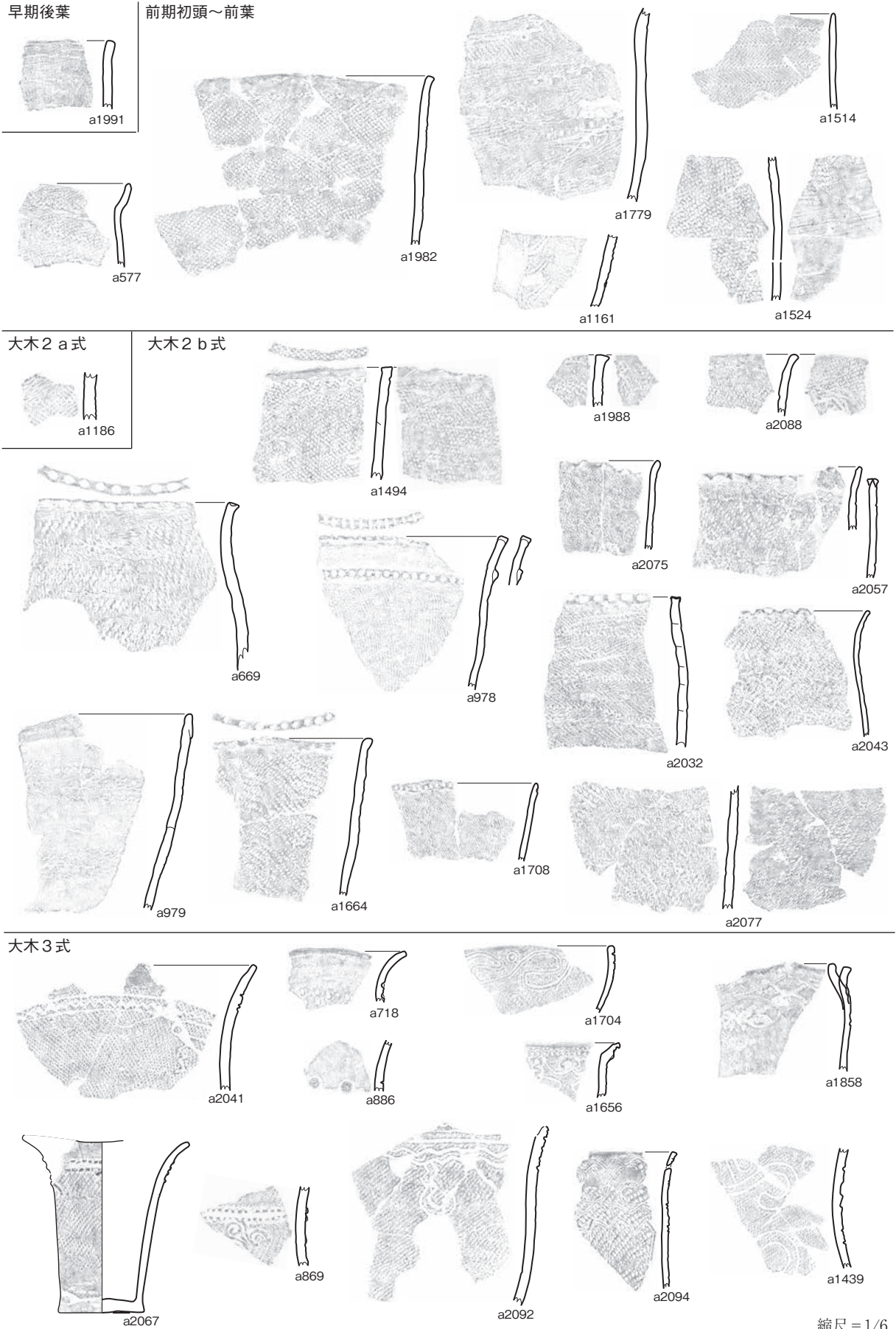
（1）土 師 器

坏・高坏・鉢・甕・壺が出土しており、79点掲載した。

坏 24点掲載した。轆轤使用の有無を大分類（I・II類）、黒色処理の有無を小分類（a・b類）とし、例えば轆轤使用で内面に黒色処理を施すものは「II a類」等とした。

I類は、非轆轤成形の製品で6点掲載した（b 59・60・63・86～88）。胴部調整は、外面は横ナデ・ナデ、外面下位～底部付近はケズリである。b 59・60は胴部内面下位に沈線状の段、b 88は胴部外面中位に細い隆帯状の段が施されている。

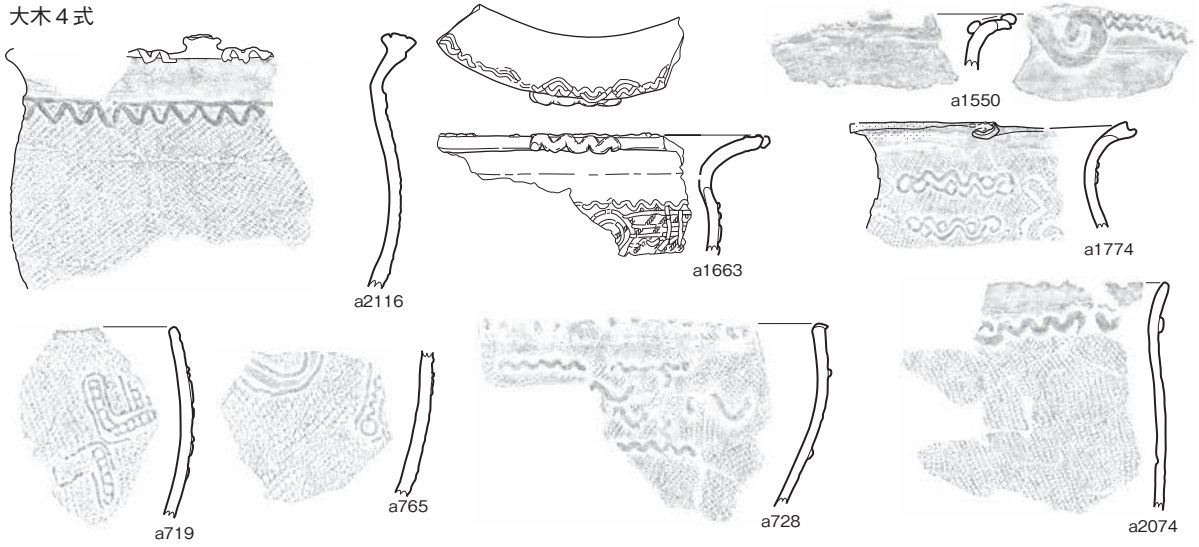
II類は、轆轤成形の製品で19点掲載した（b 2・5・13・15～18・42・49・51・66～71・89～91）。大きさや口縁部の屈曲度合いに若干の偏差はあるが、いずれも胴部が丸みをもって立ち上がる器形である。胴部調整は、内面黒色処理のa類は外面が回転ナデ、内面がミガキ・黒色処理、内外面黒色処理のb類が内外面ともミガキ・黒色処理である。底部切り離し技法は回転糸切りが基本であるが、b 18はヘラケズリ、b 69・91はナデ調整が施されている。なお、b類のうちb 5は外面が黒色処理ではなく赤彩となっている。



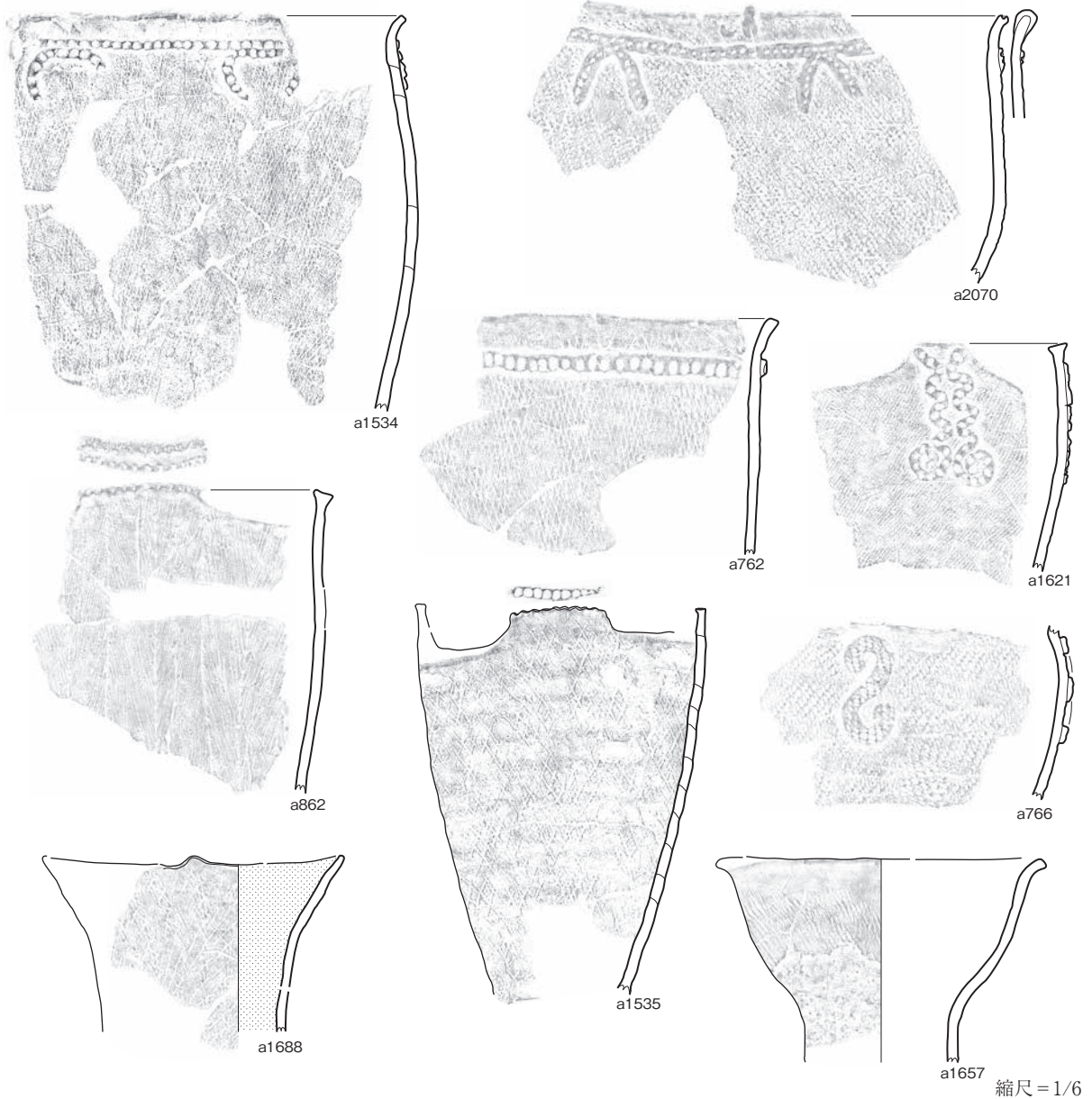
縮尺 = 1/6

第 226 図 縄文土器分類図 (1)

大木 4 式

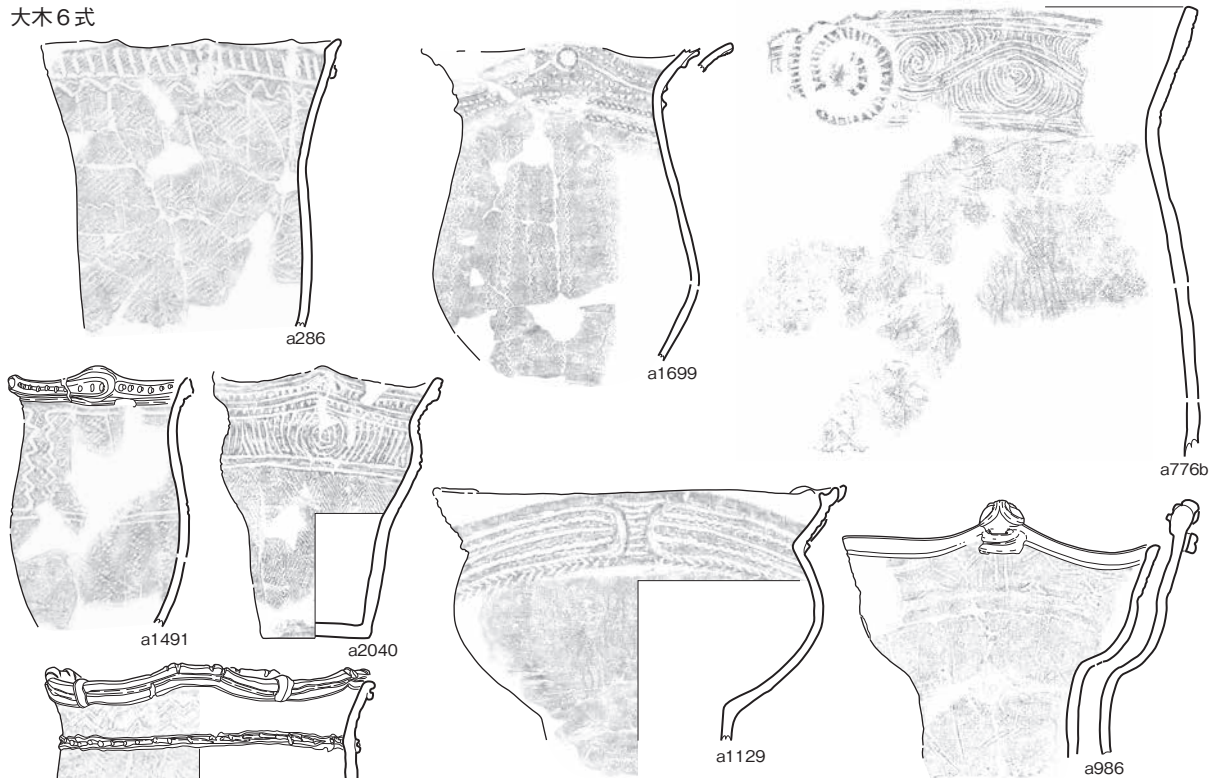


大木 5 式

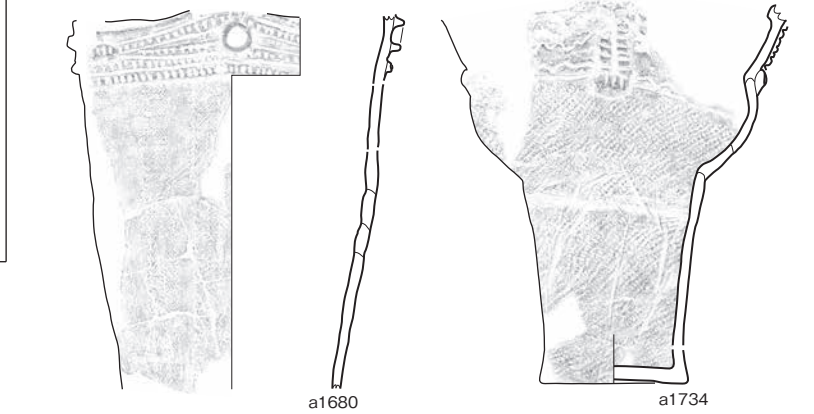


第 227 図 縄文土器分類図 (2)

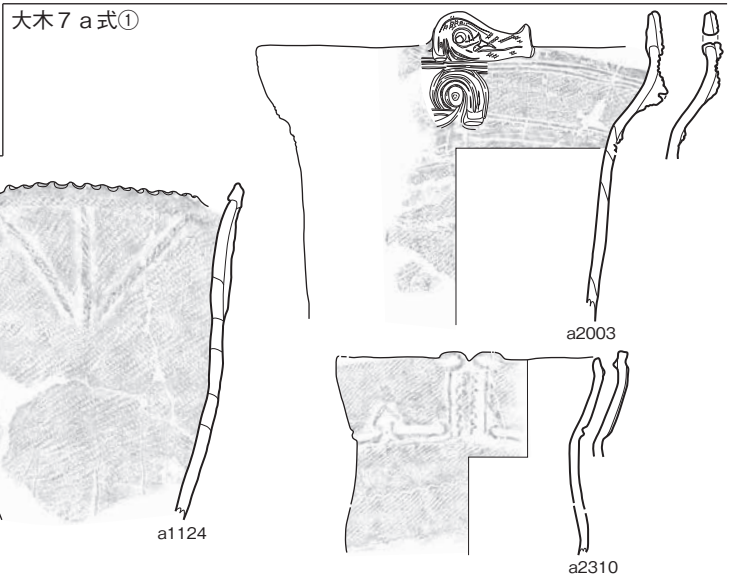
大木6式



大木6~7 a式



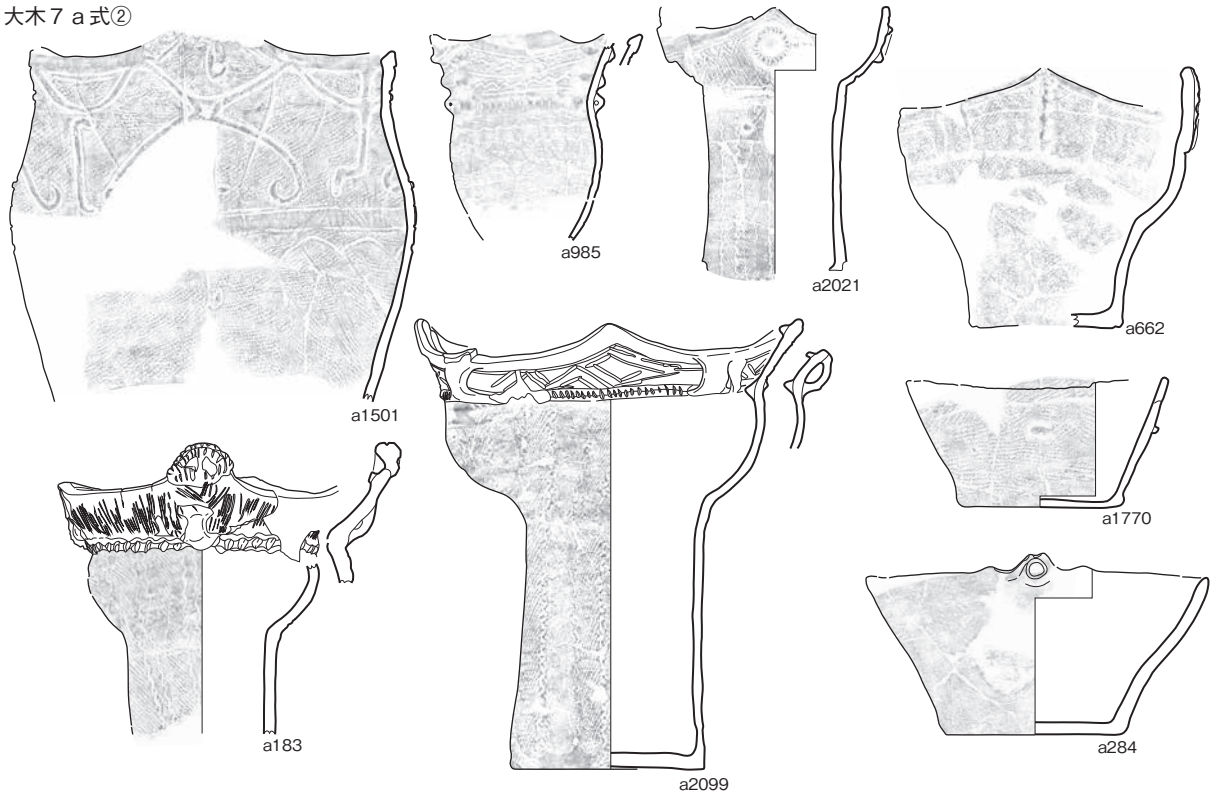
大木7 a式①



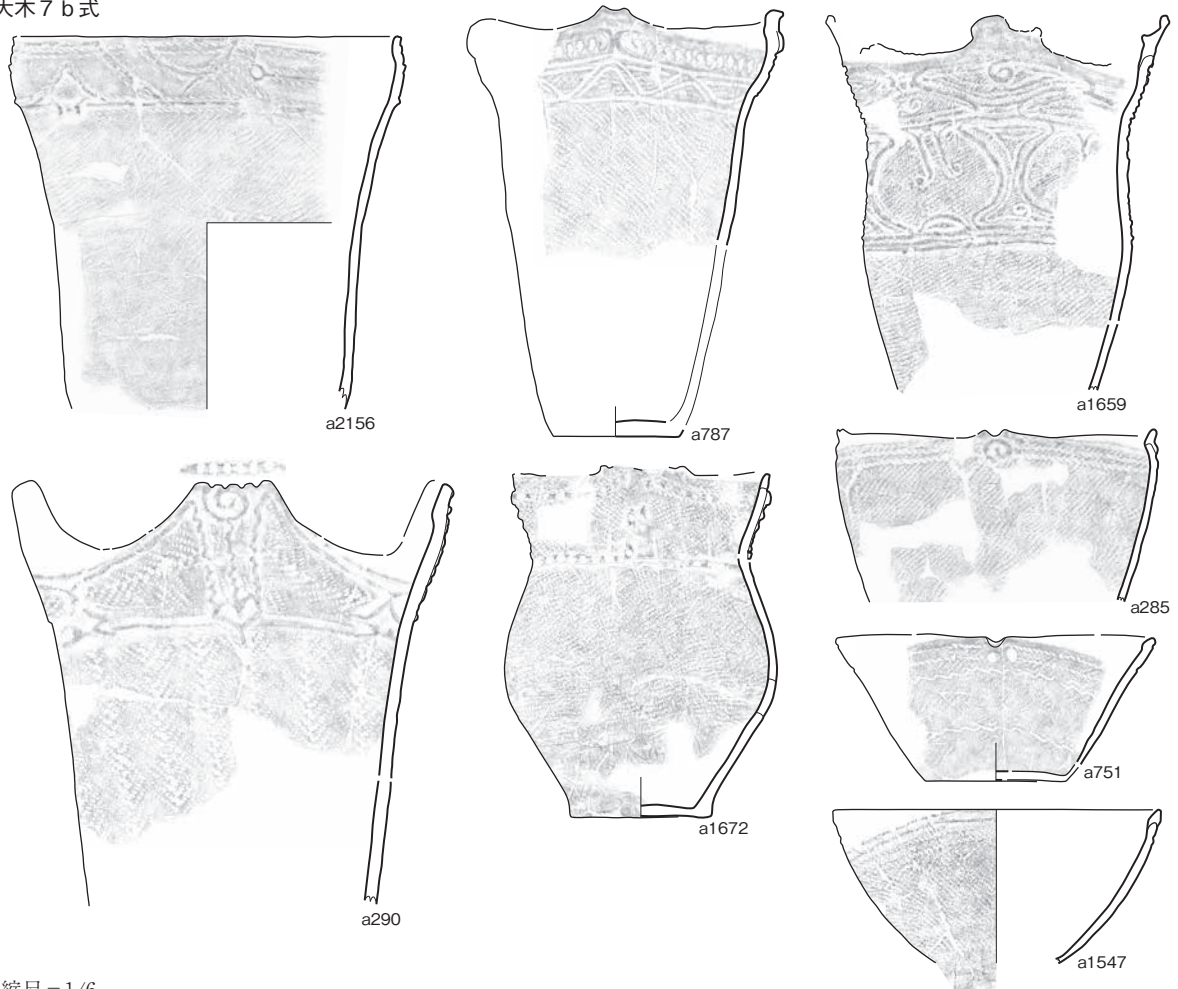
縮尺=1/6

第228図 縄文土器分類図(3)

大木7 a式②



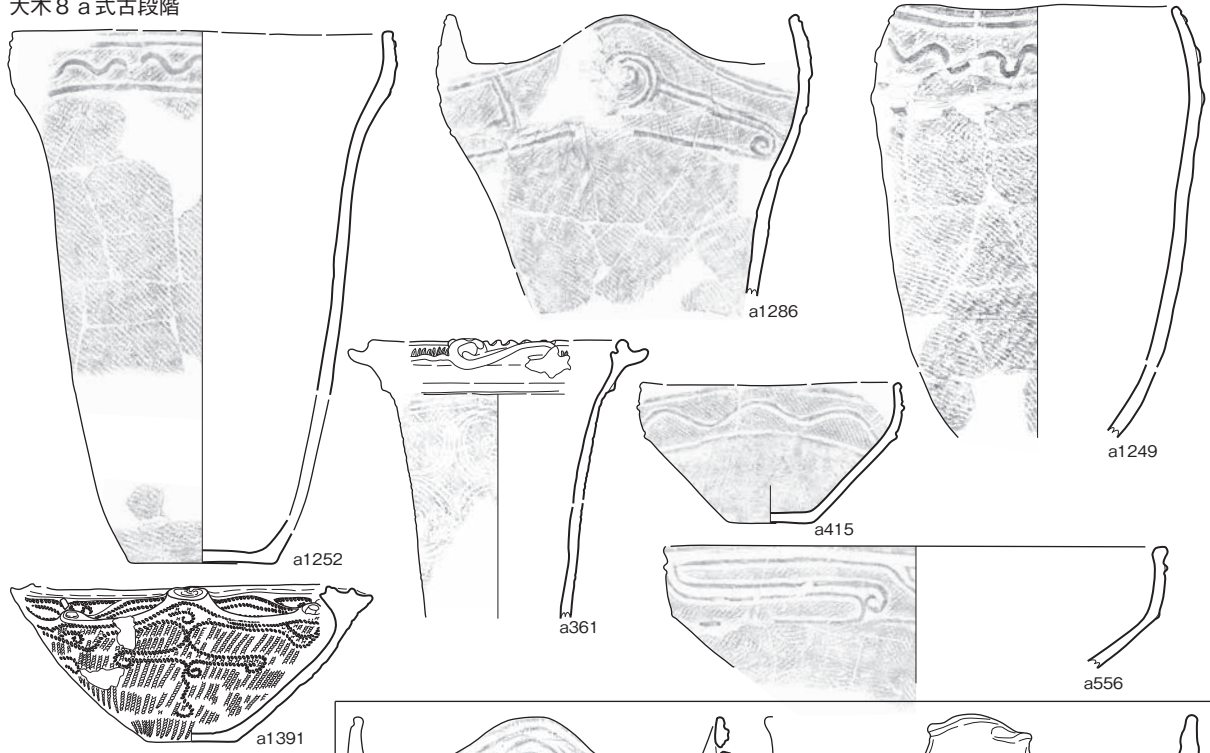
大木7 b式



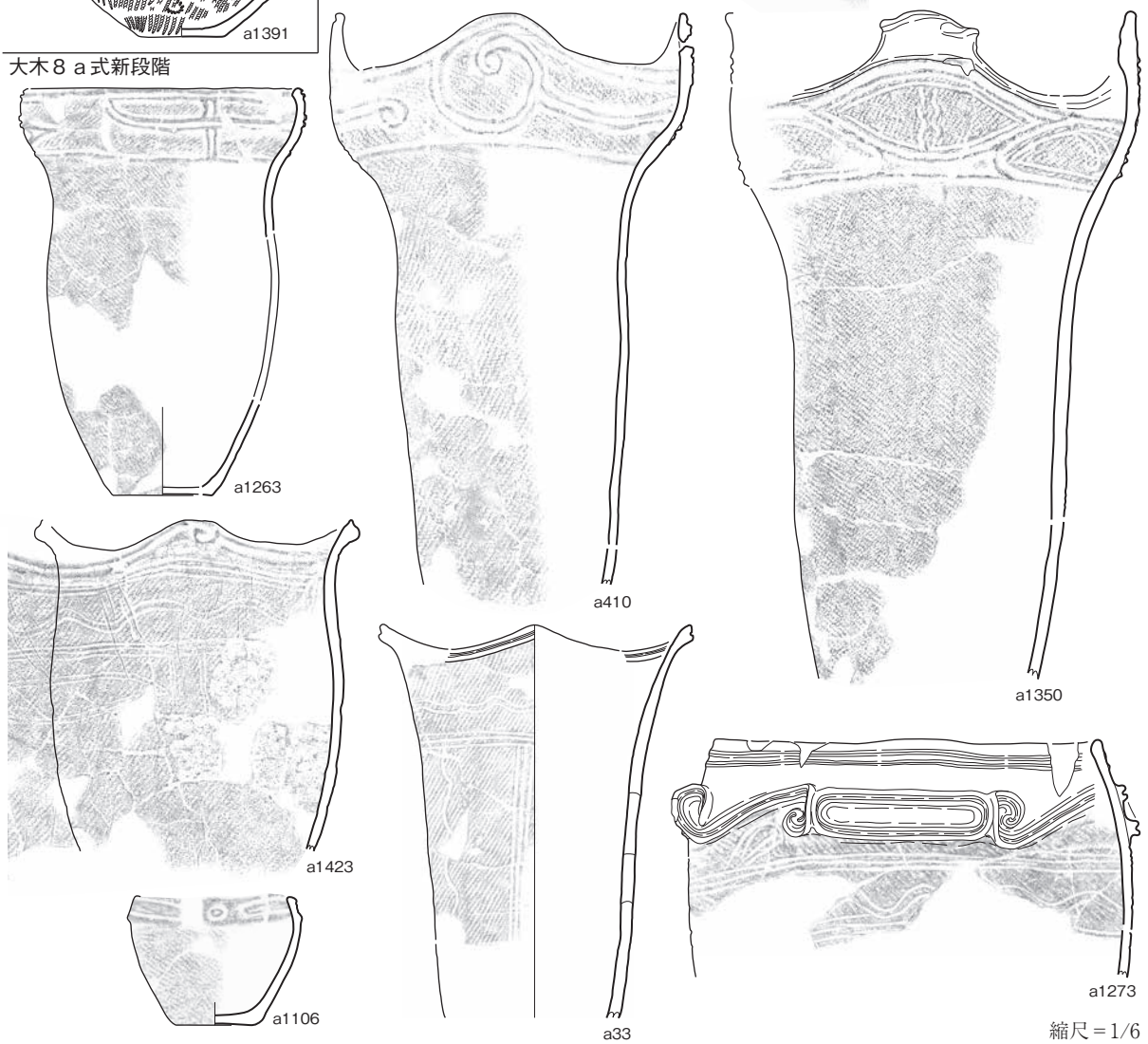
縮尺 = 1/6

第 229 図 縄文土器分類図 (4)

大木8 a式古段階



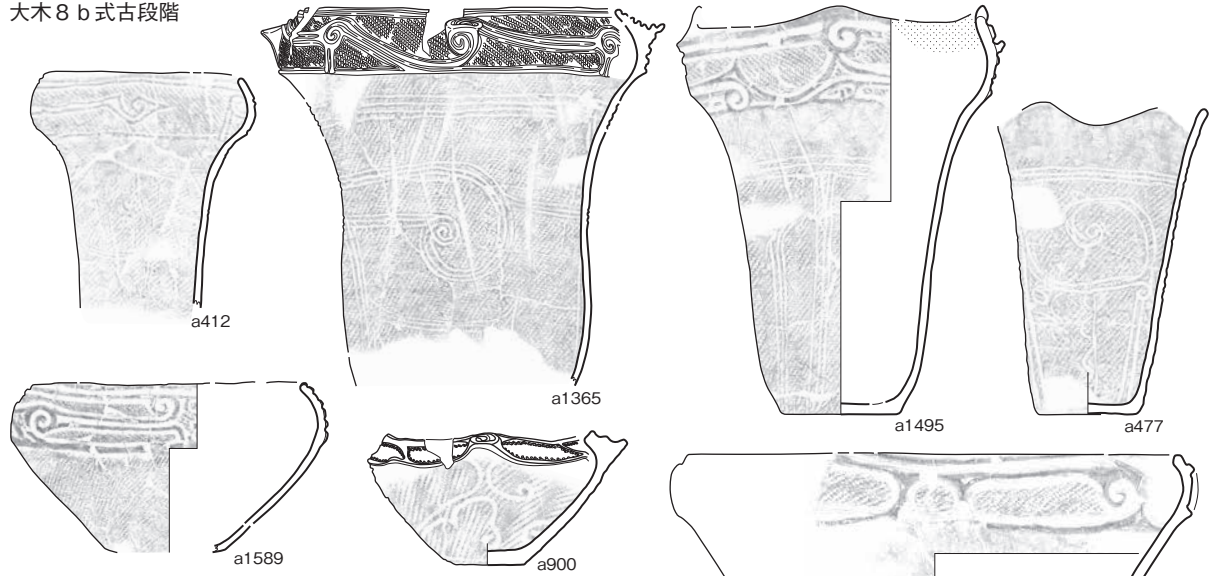
大木8 a式新段階



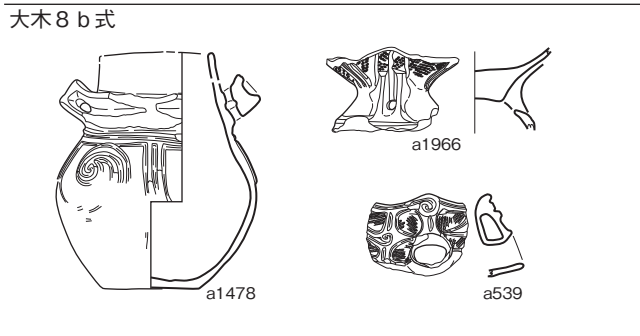
縮尺=1/6

第230図 縄文土器分類図(5)

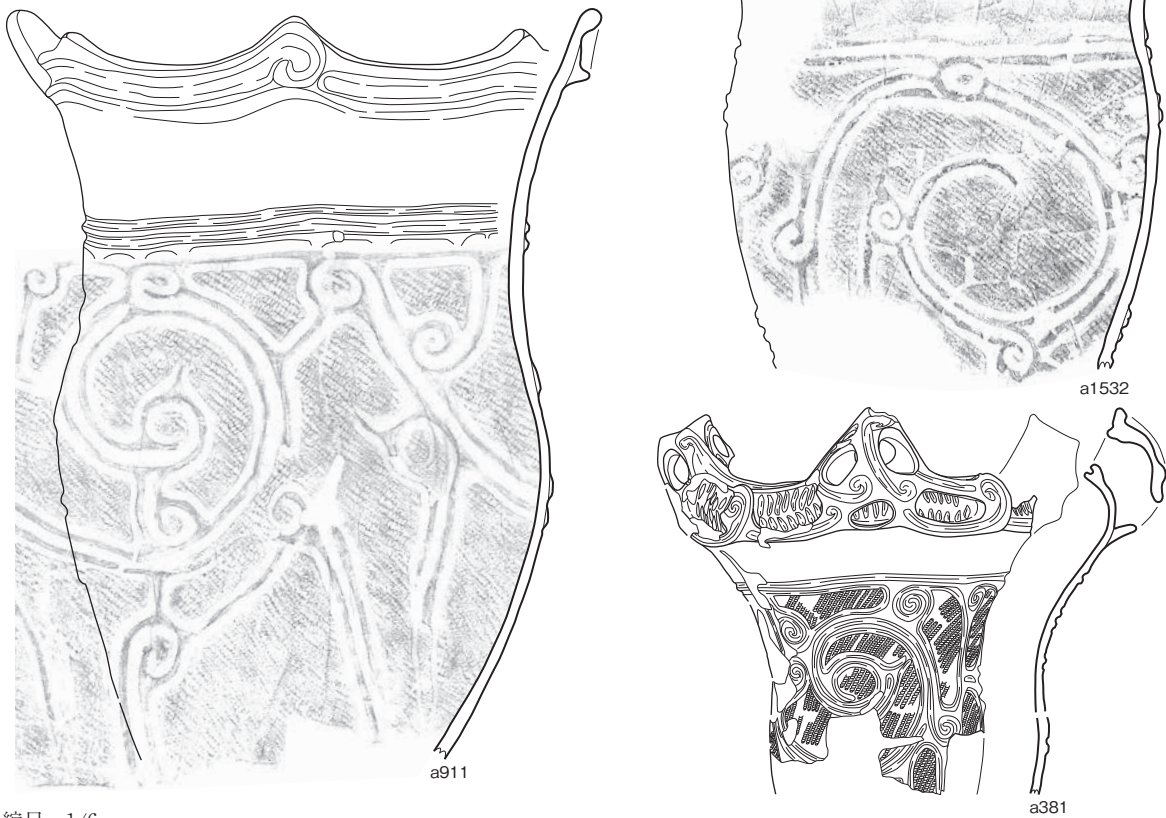
大木 8 b 式古段階



大木 8 b 式



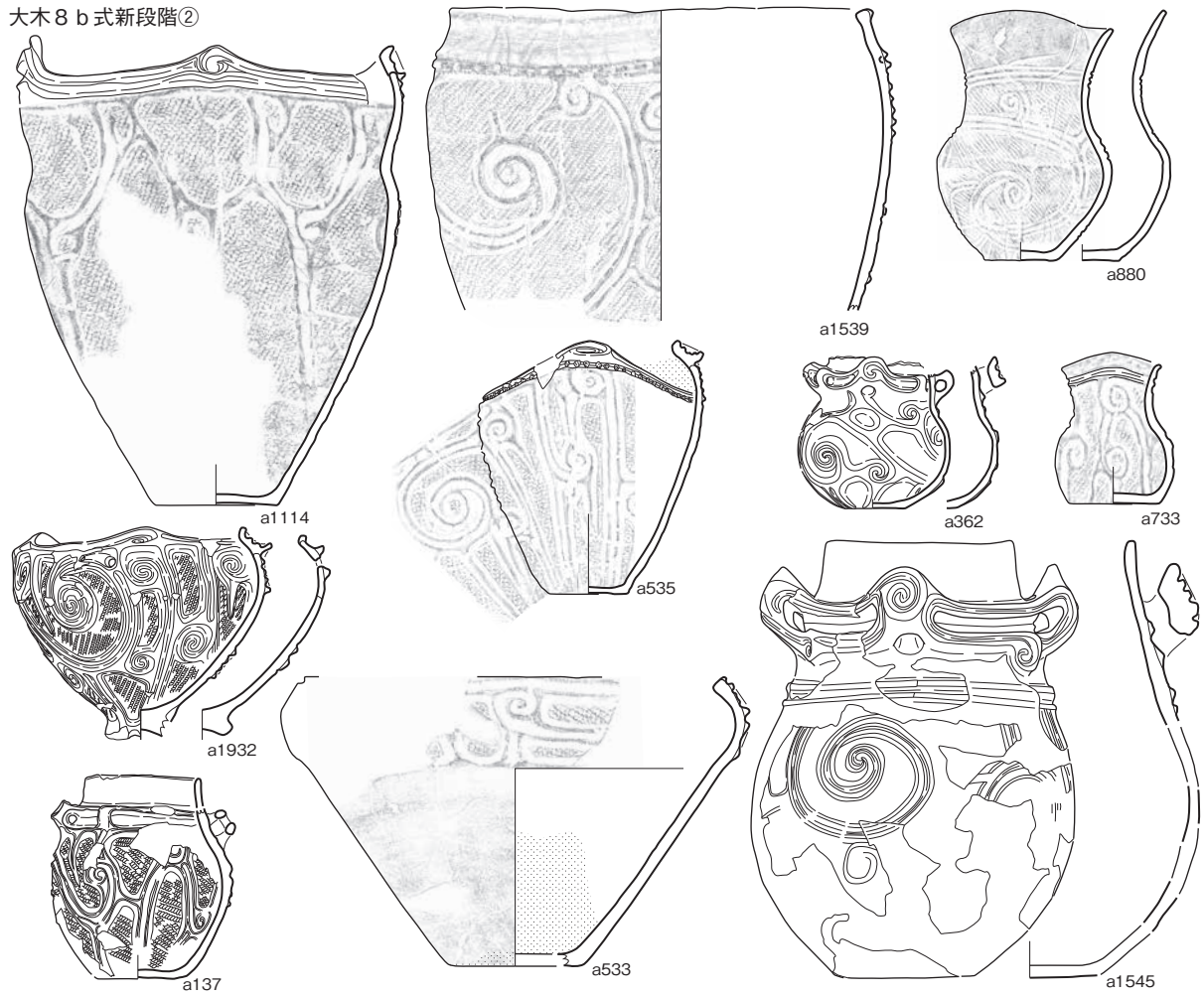
大木 8 b 式新段階①



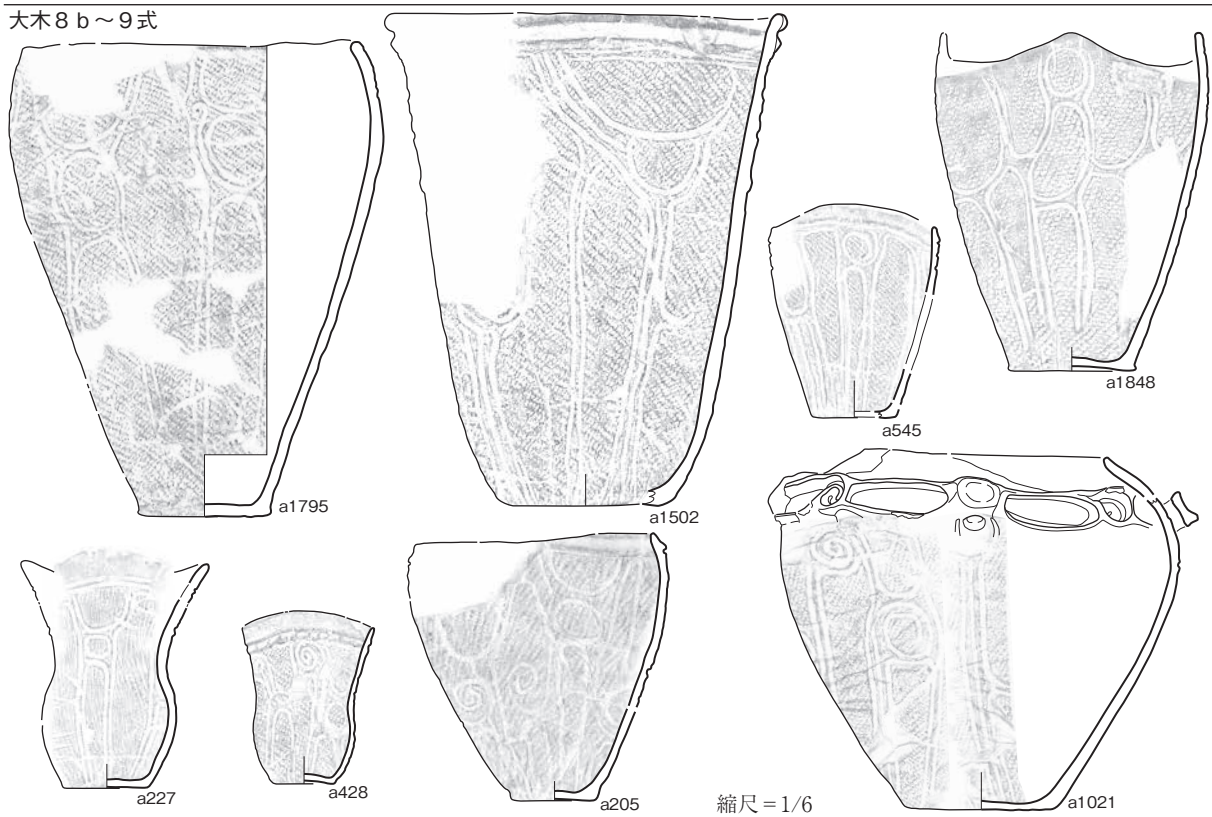
縮尺 = 1/6

第 231 図 縄文土器分類図 (6)

大木 8 b 式新段階②

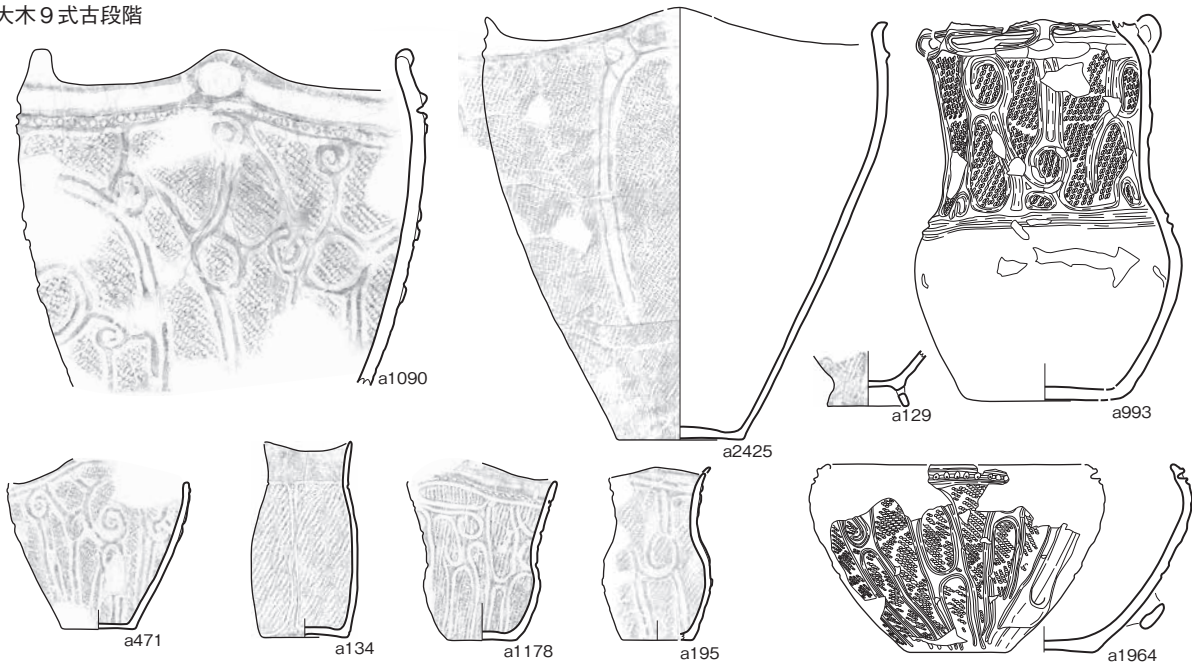


大木 8 b ~ 9 式

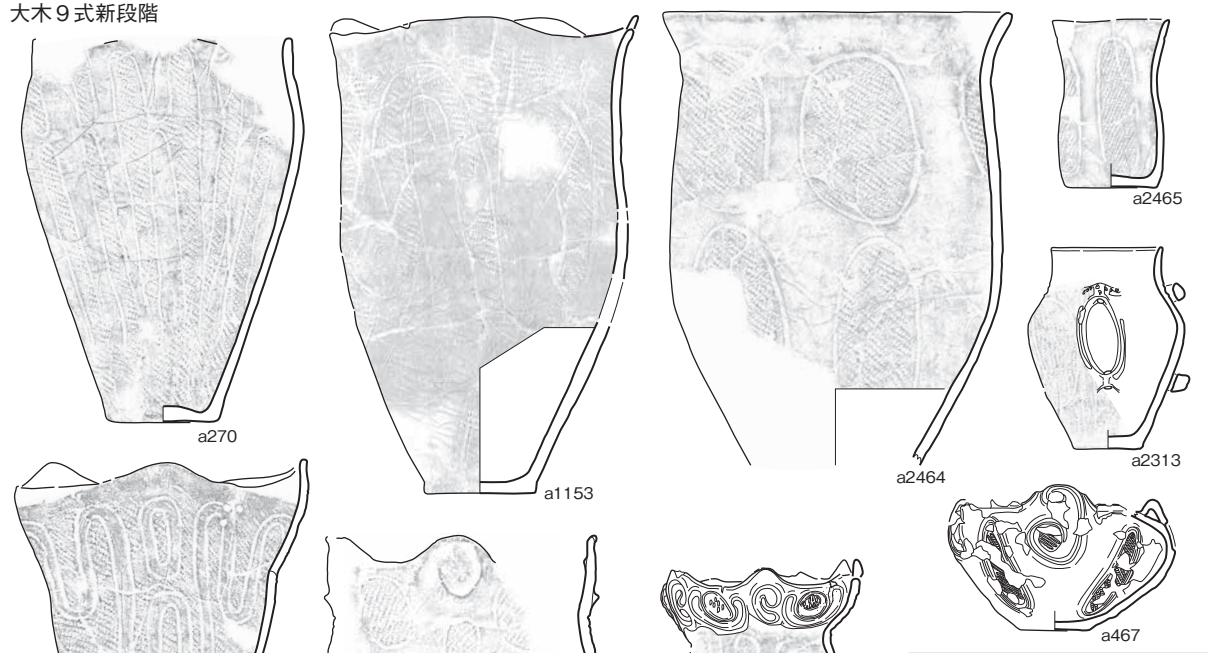


第 232 図 縄文土器分類図 (7)

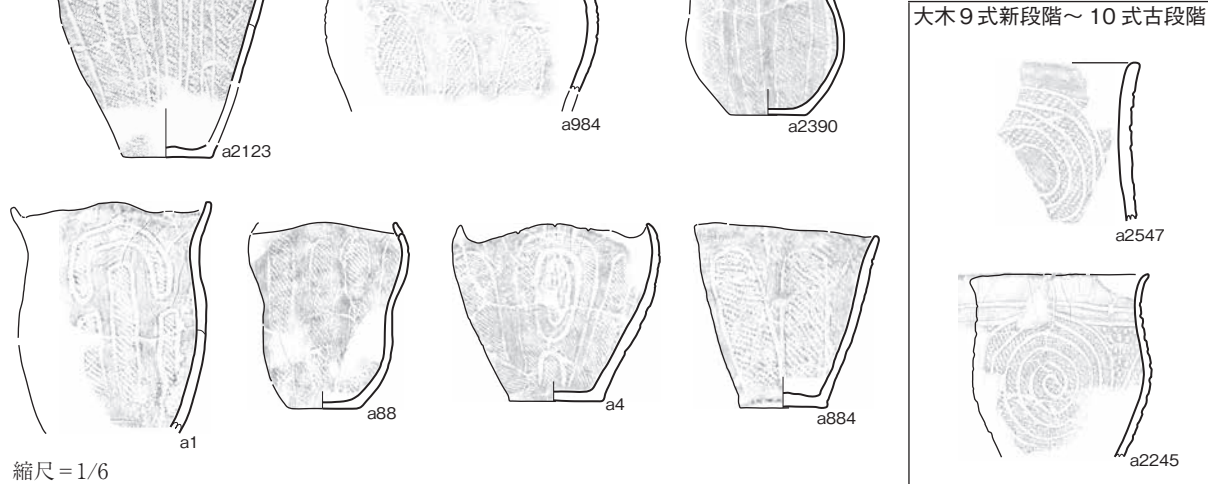
大木9式古段階



大木9式新段階



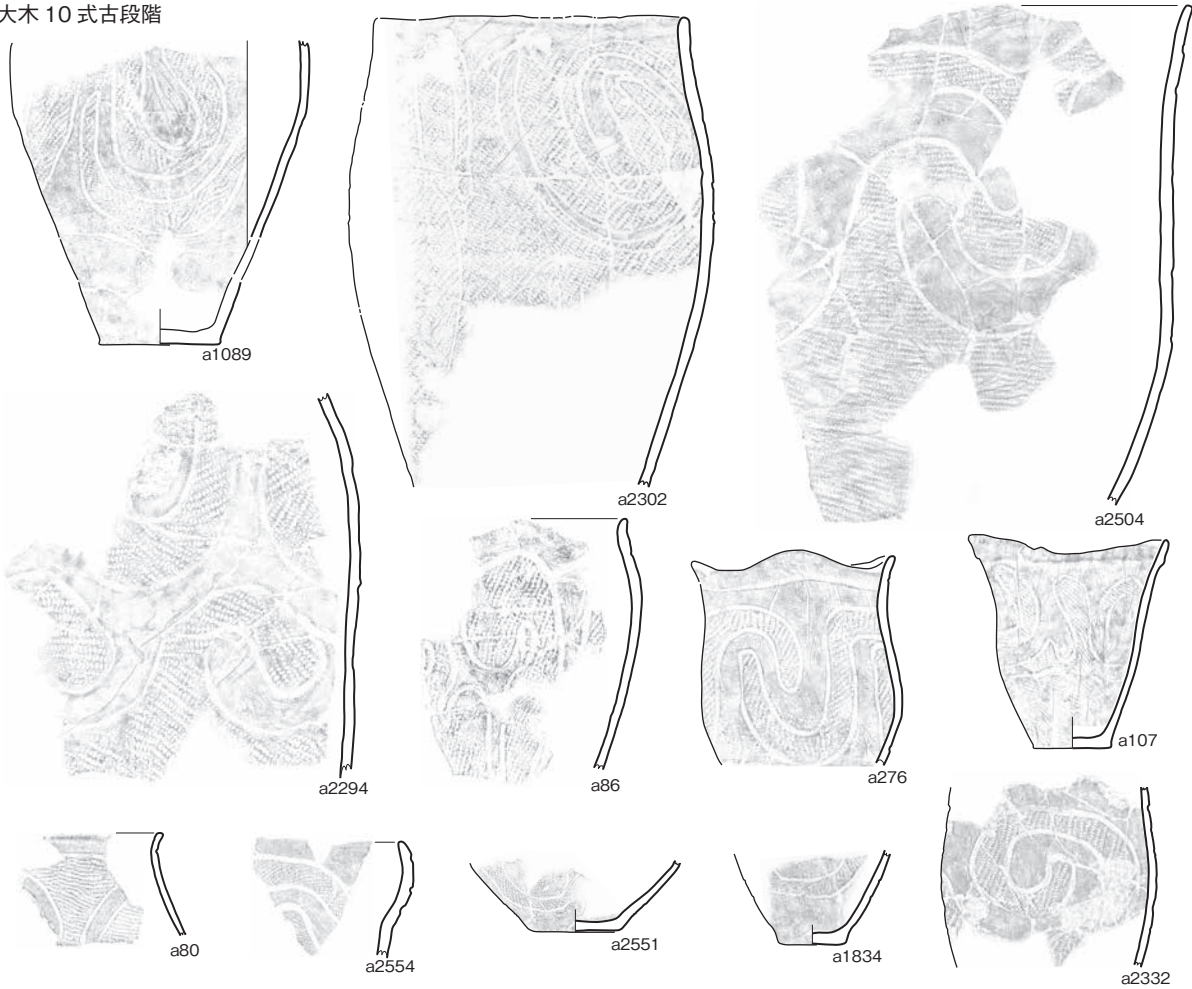
大木9式新段階～10式古段階



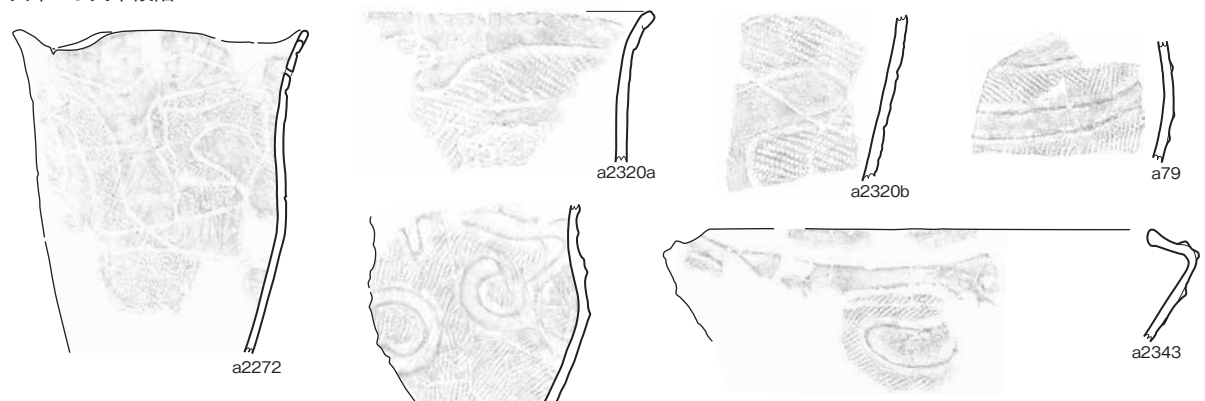
縮尺=1/6

第233図 縄文土器分類図(8)

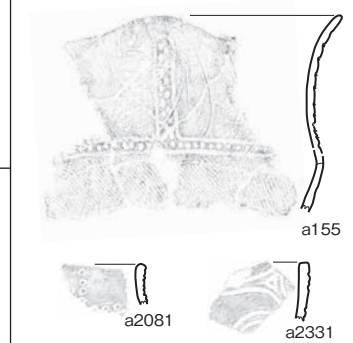
大木 10 式古段階



大木 10 式中段階



後期初頭～前葉



大木 10 式新段階



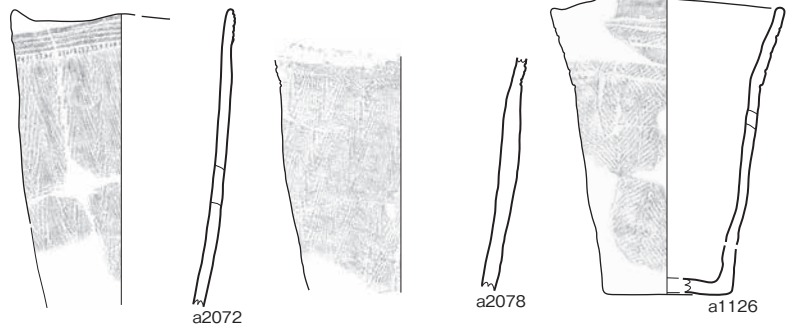
縮尺 = 1/6

第 234 図 縄文土器分類図 (9)

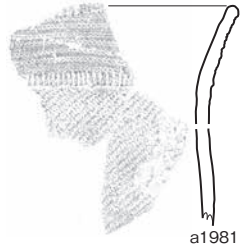
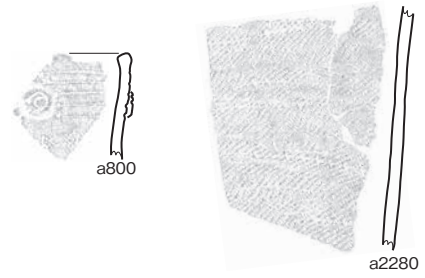
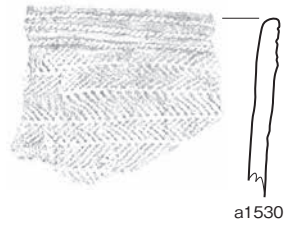
円筒下層 b 式？



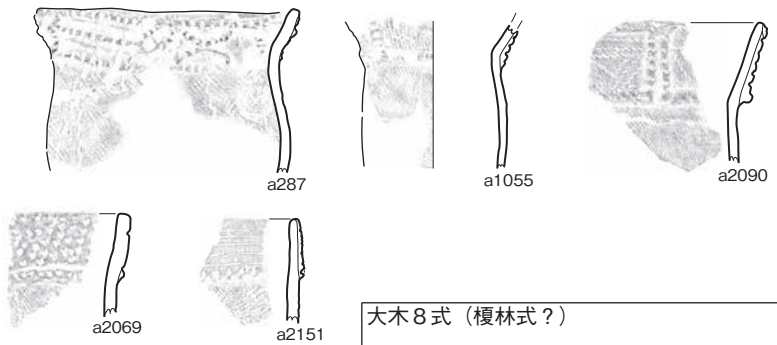
円筒下層 d 式



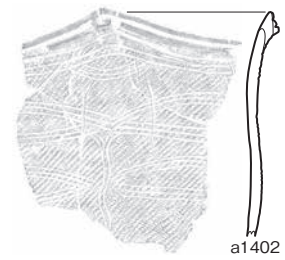
円筒下層 d～上層 a 式



円筒上層 a 式



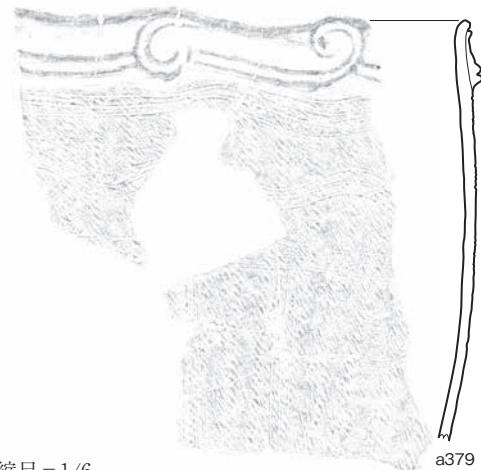
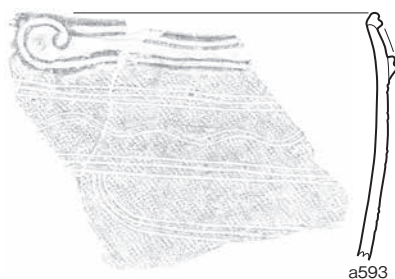
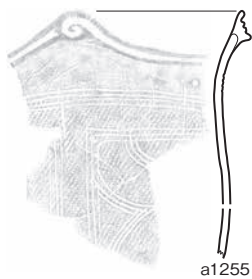
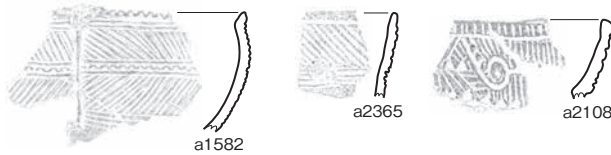
大木 8 式（榎林式？）



円筒上層 c 式



中期前葉（五領ヶ台系？）



縮尺 = 1/6

第 235 図 縄文土器分類図 (10)

高坏 1点掲載した (b 80)。ハの字状に外側に開く脚部の破片で、外面は横ナデ、胴部内面には黒色処理が施されている。脚部と胴部の接合部付近に透かし穴が施されている。

鉢 2点掲載した (b 65・83)。b 65は内弯する口縁部の破片で、外面に横ナデ、内面にハケ調整が施されている。b 83は坏I a類と調整技法は同じであるが、坏よりも大型であることから今回は鉢とした。

甕 土師器の中で最も出土量が多く、47点掲載した。全体形がわかるものが少ない為、坏と同じく轆轤使用の有無でのみ分類 (I・II類)を行った。

I類は、非轆轤成形の製品で43点掲載した (b 1・3・4・6～12・30～34・43～46・50・52・53・55～58・61・62・64・72～74・81・82・84・93～98・10・102)。器形の判明するものを見ると、胴部は長胴形で、胴部上～中位に最大径を持つ。胴部調整は、外面が縦方向のナデ・ハケ・ケズリ、内面は横・斜め方向のナデ・ハケである。口縁部は、「く」の字状に斜め上方に立ち上がる単純口縁で頸部に明瞭な屈曲があるもの (b 3・4・7・8・30・31等)と頸部の屈曲が弱く不明瞭なもの (b 6・44・46・84等)がある。また、口縁端部が直線的なもの (b 3・743・45等)と外反するもの (b 1・31等)があるが、b 95のみ口縁端部がわずかに直立し受口状となる。なお、b 61は口縁部外面に沈線が複数巡らされており、擦文土器またはその影響を受けて製作されたものと考えられる。

II類は、轆轤成形の製品で4点掲載した (b 26～29)。I類と同じく胴部は長胴形で、胴部上～中位に最大径を持つ。胴部調整は、内外面が回転ナデ、外面中～下位が縦方向のヘラケズリ、底部付近が横方向のヘラケズリである。口縁部は、端部が直立する受け口状である。

なお、胴部外面に赤彩が施されているものが5点あるが (b 73・74・81・101・102)、いずれもI類でII類では確認されていない。

壺 4点掲載した (b 54・77・103・104)。いずれも口縁部の破片であるが、単純口縁で斜め上方に立ち上がるもの (b 54)、ほぼ直立するもの (b 103)、短く直立するもの (b 77)と、複合口縁のもの (b 104)がある。なお、b 103・104は内外面に赤彩が施されている。

(2) 須恵器

坏・瓶・壺・甕が出土しており、25点掲載した。

坏 8点掲載した (b 19～25・92)。いずれも轆轤成形で、口縁部の屈曲度合いに若干の偏差はあるが、いずれも幅広の底部から胴部下半は丸みをもって立ち上がり、中位から直線的になる器形である。胴部調整は、内外面とも回転ナデである。底部切り離し技法は回転糸切りである。b 23には胴部外面に「×」の窠書が認められる。

瓶 胴部最大径に対して頸部径が1/2以下となるもので、7点掲載した (b 38・41・47・48・75・76・85)。大きさは、大型 (b 41)、中型 (b 47)、小型 (b 38・75・76)がある。いずれも轆轤成形で、胴部中～上位に最大径を持つ。胴部調整は、外面が回転ナデ、外面下位が回転ヘラケズリであるが、内面には当て具の痕跡が明瞭に残る。頸部はわずかに外方に開きながら立ち上がり、b 38・41ではリング状凸帯が巡らされている。底部切り離し技法は回転糸切りであるが、b 41では回転ヘラケズリ、

b 38 では放射状痕跡が確認されている。

壺 胴部最大径に対して口縁部径が1/2以上となるもので、いわゆる短頸壺である。後述する甕より小型のもので、2点掲載した(b 37・40)。いずれも轆轤成形で、胴部中位に最大径を持つ。胴部調整は、内外面ともに回転ナデ、外面下位が回転ヘラケズリである。

甕 瓶・壺より大型の貯蔵用具を一括し、8点掲載した。全体形がわかるものが少ない為、坏と同じく轆轤使用の有無でのみ分類（Ⅰ・Ⅱ類）を行った。

Ⅰ類は、轆轤成形の製品で6点掲載した（b 14・35・36・39・78・99）。胴部調整は内外面が回転ナデ、外面中～下位が縦方向のヘラケズリ・ナデ、内面中～下位がナデ・ハケである。口縁部は外方に開く形状で、側面に平坦面を形成する（b 35・99）。成形・調整ではタタキも行われていたと考えられ、わずかに痕跡が確認できるものがある（b 36・99）。

Ⅱ類は、非轆轤成形の製品で2点掲載した（b 79・100）。タタキ成形の大甕であるが、いずれも胴部の小破片で全体形は不明である。

3 石 器

剥片石器・礫石器・石製品を合わせて3,633点登録した。剥片石器は鏃・尖頭器、錐、匙、削器、筥状石器、細部加工剥片、異形石器、石核、礫石器は石斧、石皿・台石類、敲磨器類、円盤状石器に分類した。石材は、点数の多い種別から順に記載している。

（1）剥 片 石 器

鏃・尖頭器（第13表、第2-253～262図、写真図版462～467）

平面形が左右対称で、扁平かつ全長が5cm未満のものを鏃、5cm以上のものを尖頭器とした。1077点登録し、232点掲載した（掲載率21.5%）。石材は、頁岩（赤色頁岩含む）1045点（うち掲載220、以下「掲載」を省略）、凝灰岩19点（3）、黒曜石5点（5）、石英3点（3）、流紋岩2点、玉髓1点（1）、粘板岩1点である。なお、黒曜石は産地同定の為に分析を行ったところ、3点が小赤沢系、1点が月山系であるとの結果を得ている（第Ⅶ章第5節）。鏃は基部形状から4類に分類した。

Ⅰ類…無茎平基鏃。茎部をもたず基部が平坦なもので、平面形が長三角形のもの・長五角形のもの・三角形のものがある。766点登録し、150点掲載した。

Ⅱ類…無茎凹基鏃。茎部をもたず基部に抉りが入るもので、平面形は三角形である。出土量が最も多い形態で、214点登録し、43点掲載した。

Ⅲ類…有茎鏃。尖頭部と茎部の境界は凸状で、尖頭部平面形は、三角形・柳葉形・長三角形がある。22点登録し、10点掲載した。

Ⅳ類…尖基鏃。平面形が柳葉形で、尖頭部と基部の境界は不明瞭である。形態的には尖頭器と類似する。33点登録し、16点掲載した。

Ⅴ類…尖頭器。平面形が左右対称で、全長が5cm以上のもの。先端部に二次加工を施しており、鋭く尖らせたものである。42点登録し、13点掲載した。

錐（第14表、第2-262・263図、写真図版467・468）

摘み部が尖頭状で平面形は石鏃に類似するが、石鏃よりも厚みがあるもの。38点登録し、18点掲載した（掲載率47.3%）。石材は、頁岩37点（18）、凝灰岩1点である。

匙（第15表、第2-263～371図、写真図版468～471）

摘み状の突起を一端に有し、二次加工によって片面あるいは両面に刃部を作出したもの。162点登録し、65点掲載した（掲載率40.1%）。石材は、頁岩（赤色頁岩含む）159点（62）、黒曜石1点（1）、凝灰岩1点（1）、石英1点（1）である。なお、黒曜石は産地同定の為に分析を行ったところ小赤沢系であるとの結果を得ている（第Ⅶ章第5節）。摘み部を上にして置き、抉り部が水平になるように設置した場合の平面形状から以下の通り分類した。

- I類…形状が縦長になるもの。58点登録し、27点掲載した。
- II類…形状が横長になるもの。40点登録し、23点掲載した。
- III類…形状が斜めになるもの。30点登録し、13点掲載した。
- IV類…欠損により分類不明なもの。34点登録し、2点掲載した。

篋状石器（第16表、第2-271～273図、写真図版471・472）

平面形が左右対称で、上端部が狭く下端部が広がっているもの。削器同様、細部加工のある剥片と判別が困難なものもあるが、平面形がほぼ左右対称のものはこちらに含めた。32点登録し、11点掲載した（掲載率34.4%）。石材は、頁岩29点（11）、ホルンフェルス2点、砂岩1点である。

削器（第17表、第2-273・274図、写真図版472・473）

定形した形状をもたないが、刃部が作り出されているもの。細部加工のある剥片と判別が困難なものもあるが、両側縁に刃部が形成されているものはこちらに含めた。29点登録し、10点掲載した（掲載率34%）。石材は、頁岩29点（10）である。

細部加工剥片（第20表、第2-274～278図、写真図版473～476）

不定形の剥片に二次加工を施して刃部を作り出しているもの。202点出土しており、20点掲載した（掲載率9.9%）。石材は、頁岩（珪質頁岩含む）188点（19）、凝灰岩4点（1）、瑪瑙5点、水晶3点、流紋岩2点である。

異形石器（第18表、第2-279図、写真図版476）

平面形がX字状の用途不明の石器である。2点登録し、2点とも掲載した（掲載率100%）。石材は、頁岩2点（2）である。

石核（第19図、第2-279～283図、写真図版475・476）

61点登録し、10点掲載した（掲載率16.4%）。石材は、頁岩58点（9）、チャート1点（1）、石英2点である。

(2) 石 斧（第21表、第2-284～291図、写真図版477～480）

未製品も含めて180点登録し、46点掲載した（掲載率25.6%）。石材は、頁岩61点（17）、玢岩41点（4）、

細粒花崗閃緑岩 24 点 (7)、細粒閃緑岩 14 点 (8)、砂岩 10 点 (4)、蛇紋岩 10 点 (4)、閃緑岩 6 点、ホルンフェルス 4 点 (1)、デイサイト 3 点 (2)、翡翠 1 点 (1)、花崗岩・花崗閃緑岩・凝灰岩・はんれい岩・流紋岩・礫岩各 1 点である。なお、翡翠は産地同定の為に分析を行ったが特定はできなかった (第 VI 章第 7 節)。全て磨製石斧と考えられ、形状と研磨の状況から以下の 3 類に分類した。

I 類…「定角式磨製石斧」(両側縁及び頭部が研磨され、正裏両面と側面の間に稜をもち、断面形が隅丸長方形となるもの)

II 類…「太型蛤刃石斧」(断面形が楕円形で、頭部が細く直線的なもの)

III 類…成形または研磨途中の未成品で、I 類か II 類の判別が困難なもの

(3) 石皿・台石類 (第 22 表、第 2-292～318 図、写真図版 481～494)

扁平な形状で敲打や摩耗痕跡があるものを石皿・台石類とした。使用痕が微弱なものが多く自然礫との判別が困難であったが、400 点登録し、109 点掲載した (掲載率 27.3%)。石材は、細粒花崗閃緑岩 89 点 (21)、砂岩 58 点 (12)、凝灰岩 47 点 (19)、花崗岩 42 点 (17)、花崗閃緑岩 35 点 (14)、安山岩 30 点 (5)、花崗斑岩 29 点 (8)、ヒン岩 26 点、閃緑岩 25 点 (4)、デイサイト 6 点 (3)、細粒閃緑岩 3 点 (2)、ペグマタイト・ホルンフェルス・はんれい岩各 2 点、頁岩・玄武岩・石英斑岩・流紋岩各 1 点である。側縁を加工して縁を有するものがある。

(4) 敲磨器類 (第 23 表、第 2-319～357 図、写真図版 494～509)

表面に敲打あるいは摩滅痕跡が認められたものを敲磨器類とした。石皿・台石類と同じく使用痕が微弱なものが多かったが、1622 点登録し、208 点掲載した (掲載率 12.8%)。石材は、閃緑岩 366 点 (79)、花崗岩 267 点 (38)、花崗閃緑岩 153 点 (13)、デイサイト 104 点 (14)、砂岩 94 点 (23)、アプライト 55 点 (5)、細粒花崗閃緑岩 54 点 (9)、細粒閃緑岩 24 点 (3)、頁岩 (珪質頁岩含む) 19 点 (3)、溶結凝灰岩 15 点 (5)、花崗斑岩 15 点 (4)、安山岩 13 点 (3)、はんれい岩 11 点、ホルンフェルス 9 点 (1)、凝灰岩 8 点、ヒン岩 8 点、流紋岩 4 点 (3)、玄武岩 4 点 (1)、玢岩 3 点、蛇紋岩 2 点、石英・チャート・礫質砂岩各 1 点である。使用痕及び形状から以下の 4 類に分類した。

1 類…平面が丸形で、側面・断面が長楕円形のもの

2 類…平面・側面・断面いずれも丸形で、いわゆる球状のもの

3 類…平面が角形、側面が長楕円形、断面が三角形のもの

4 類…平面が角形、断面形が長楕円形、断面形が四角 (多角) のもの

(5) 円盤状石器 (第 24 表、第 2-358 図、写真図版 509)

25 点登録し、15 点掲載した (掲載率 60.0%)。石材は、頁岩 12 点 (5)、ホルンフェルス 10 点 (9)、砂岩 1 点 (1)、花崗閃緑岩・デイサイト各 1 点である。平面形が円形のを I 類、半円形のを II 類とした。また、細分類として周縁部を打ち欠いているものを A 類、研磨しているものを B 類とした。I 類は 13 点登録し、II 類は 12 点登録した。周辺部を研磨する B 類は 7 点で、いずれも I 類である。

4 石製品 (第 25 表、第 2-359～371 図、写真図版 510～517)

有孔垂飾具・三角壺形・石棒石刀類 (大型石棒・棒状礫含む)・軽石製品 (有孔軽石製品含む)・玉

石が出土しており、194点を登録し、117点を掲載した（掲載率60.3%）。玉石は古代に属すると考えられるが、その他は縄文時代に属するものである。

（1）有孔垂飾具

穿孔が施される小型の製品を一括した。26点出土しており、25点掲載した（掲載率96.2%）。石材は、頁岩8点（8）、滑石7点（7）、流紋岩4点（3）、凝灰岩2点（2）、蛇紋岩2点（2）、翡翠2点（2）である。なお、翡翠は産地同定のために分析を行ったが特定はできなかった（第Ⅵ章第7節）。平面形は円形基調（d 1・24等）、楕円形基調（d 10・12～15等）、方形基調（d 2・3・5等）、棒状・板状（d 7～9・22・23等）があり、非常に多様である。なお、円形基調のうちd 18～21はいわゆる抉状耳飾である。穿孔は1箇所のもの（d 1～7・9・11・12～14・17・18・22～24）、2箇所のもの（d 8・10・13）がある。穿孔は平らな面の短側面付近に施されるものがほとんどであるが、d 5・6は長軸に沿って施されている。

（2）三角壙形石製品

三角柱状の形態となる石製品である。3点登録し、全点掲載した（掲載率100%）。石材は、全て流紋岩である。横断面形は二等辺三角形で、側片は緩やかに弯曲する。両側面の大きさが異なり、正面形は台形となる。底面には底面形と同じ形状の凹みがある。d 26は、広いほうの側面の中央に1個、底面の凹み内に2個の穿孔が施されているが、貫通はしていない。d 27は、広いほうの側面から底面に向かって斜位に先行が施されており、貫通している。

（3）石棒石刀類

細長い棒状の石製品であり、断面形が円または方形のものは石棒、三角形のものは石刀とすべきところであるが、判別が困難なものが多いことから両者を一括して分類した。また、大型のものは大型石棒、小型で使用痕が微弱なものは棒状礫とした。75点登録し、35点掲載した（掲載率46.7%）。石材は、頁岩33点（10）、砂岩25点（18）、デイサイト5点（4）、ホルンフェルス5点（1）、細粒花崗閃緑岩3点（1）、粘板岩2点（1）、花崗閃緑岩・滑石各1点である。形態は、断面形がレンズ状または菱形で横幅がほとんど変わらない長方形タイプ（d 29～36）、断面形が円形で、上端と下端の幅が異なる台形タイプ（d 41・47～48・50・52～57）、平面形が円形で、台形タイプであるが一端が有頭状となるタイプ（d 38～40・42～45）、平面形が方形または隅丸方形で、平面形が台形タイプ（d 46・49・61・63）、断面形が方形または隅丸方形で、平面形が長方形タイプ（d 51・58～60・62）に分類できる。また、側面に摩耗による凹みや細溝があるものも確認されており（d 55・46・47・58・59）、これらは砥石として使用されていた可能性がある。

（4）軽石製品

軽石で作られた石製品で、孔があるものと無いものがある。52点登録し、25点掲載した（掲載率48.1%）。形態は、円筒状（d 66・68・76）、扁平板状（d 64・70・75・77・80・81・85・87）、四角柱状（d 71・74・76・86）、球・扁平球状（d 65・69・79・82・83）不整形（d 67・84・88・89）があり、いずれにも穿孔が施されるものがある。穿孔は、有孔垂飾具と同じく平らな面の短側面に施されるものが多いが、d 76のように長軸に沿って施されるものもある。

(5) 玉 石

使用痕・加工痕が確認できない為厳密には石製品ではないが、ほぼ同一形態のものがまとまって出土したことから掲載した。ほとんどが古代の竪穴建物であるB8号竪穴建物から出土しており、29点登録し、23点掲載した(掲載率79.3%)。石材は、玉髓9点(9)、ヒン岩6点(6)、花崗斑岩5点(3)、頁岩4点(4)、閃緑岩2点(1)、砂岩・デイサイト・ホルンフェルス各1点である。

5 土 製 品 (第26表、第2-372～378図、写真図版518～522)

土偶・動物形・キノコ形・斧形・三角壙形・耳環・玉・垂飾具・有孔円盤・土錘・環状・棒状・円錐形・ミニチュア土器がある。189点登録し、141点掲載した(掲載率74.6%)。ここでは主要なものについて記載する。

(1) 土 偶

6点登録し、全点掲載した(掲載率100%)。e1は板状土偶の体～脚部と腕部の破片で、いわゆる板状土偶である。体部中央には臍を表現したと考えられる円形突起が1個付けられている。半裁竹管による押し引きにより表面と背面に斜線・鋸歯・渦巻文が施される。e2も板状土偶の体～脚部の破片であるが、脚は円形で二脚の表現は無い。表面と背面に沈線で斜線・鋸歯・弧状文が施される。e3は頭部と考えられる破片である。e4は腕部と考えられる破片で、表面に単節斜行縄文が施される。e5は板状土偶の腕部破片で、表面と背面に沈線で斜線文が施される。e6は部位不明の破片である。腕部であるe1-2と5は先端付近に穿孔が1個施される。

(2) 斧 形 土 製 品

磨製石斧のような短冊形で、横断面形が楕円形または隅丸方形となる。19点登録し、全点掲載した(掲載率100%)。基本的に頭部側に穿孔を施し先端部が平たく尖る形態となるが、穿孔の無いものもある(e29)。頭部平面形は円形(e15・20・21・22・25・29)と隅丸方形(e26)があり、隅丸方形のものは頂部断面形が窪んでいる。穿孔は、平らな面に直交して施されるものが多いが(e15・21・22・25・26・30・32・33)、併行に施すものもある(e20)。施文方法は、縄文のみ(e15・16・18・19・21～25・28・29)、隆沈線と縄文(e30)、沈線と縄文、(e19・32・33)、磨消縄文(e28)、無文(e17・27・31)がある。

(3) 三角壙形土製品

三角柱状の形態となる土製品である。2点登録し、全点掲載した(掲載率100%)。三角壙形石製品と同じく横断面形は二等辺三角形で、側片は緩やかに弯曲する。2点とも欠損しており両側面の大きさは不明であるが、正面形は台形になると考えられる。底面には底面形と同じ形状の凹みがある。e35は、両正面に沈線と刺突列を二重に巡らせている。側面は中央の穿孔の周囲に刺突列と沈線を各一列巡らせている。底面にも沈線と刺突列が施されている。e36は側面付近のみの破片である。中央に穿孔した後、斜行縄文と原体側面圧痕を施している。

(4) 装身具類

管玉・垂飾具・耳環・玉（土玉・飾り玉）・有孔円盤がある。垂飾具（e 38）は平面形が長楕円形になると考えられ、石製品と同形態である。縄文を施文した後に穿孔の周囲に沈線を巡らせている。耳環は円盤形（e 41・42）と鼓形（e 39・43）があり、円盤形は表裏面に沈線が施されるが、鼓形は無文である。土玉は横断面形が算盤玉形（e 44～47）・円形（e 49～54）・台形（e 48）があり、算盤玉形と台形は大型である。飾り玉は扁平球形（e 61）とドーナツ形（e 62）があり、片面に貫通しない穿孔が多数施される。

(5) ミニチュア土器

小型の土器との判別は難しいが、おおそ器高11cmまでのものをミニチュア土器とし、56点掲載した。ナデ調整のみを施した手づくね成形のもの（e 86～89・91・125）と同時期の器種を小型化したものがある。後者には大木8 a～10式古段階の文様構成をもつものが確認できる。用途については不明であるが、ススコゲが付着しているものも一定量確認されている。

6 台形土器（第28表、第2-379・380図、写真図版523）

脚付深鉢の脚部の可能性があるものを含めて22点を登録、全点掲載した。不明な1点を除いて阿部昭典の分類（阿部2017）の1～4類に該当するものが確認できる。いずれも円孔を持つものをa類、持たないものをb類としているが、今回は細分はしていない。

- 1類…有脚で鏝の無い円筒形（台形）で、9点が該当する（f 6・10・12～14・17～20）。受け面よりも脚端部の径が大きく、器高と脚部径の比率は1.0に近い数値（0.8～1.25）となる。
- 2類…有脚で鏝の無い円筒形（台形）で、6点が該当する（f 3・4・8・11・21・22）。器高と受け面の比率が0.5前後となり、受け面径に比べて器高が低くなる。
- 3類…受け面が広く、鏝が付いて円卓状となる形態で、4点が該当する（f 1・2・9・15）。器高と受け面径の比率が0.4前後となる。
- 4類…受け面が広く、鏝が付いて円卓状となる形態で、2点が該当する（f 5・7）。器高は非常に低く、器高と受け面径の比率は0.1～0.3となる。

7 土器片円盤（第27表、第2-381～387図、写真図版524～528）

土器の周辺を打ち欠きまたは研磨して作成された円盤状の土製品である。ただし、今回は平面形状が円形のものだけではなく、方形・三角形・不整形のものも含めている。536点出土しており、206点掲載した（掲載率38.2%）。なお、残存状態については、1/3以上欠損しているものは「欠損」、それ以下のものは「一部欠」とした。穿孔が施されているものは53点で、全体の約10%程度である。内訳は貫通しているものが33点、未貫通のものが20点である。基本的には1個のみ穿孔されるが、g 8・165のように複数穿孔されるものもある。側面加工の有無については、全体の50%以上加工しているものが159点、50%以下のものが272点、加工されていないものが104点であり、部分的に加工するものが50%を占めている。

8 土製支脚 (第31表、第2-380図、写真図版529)

約10点出土しているが、被熱や風化により取り上げ前に復元不能な状態で出土したものが多く、図示できたものは2点のみである (h 1・2)。

9 金属製品 (第29表、第2-388・389図、写真図版529・530)

(1) 鉄製品

刀子・馬具・鎌・釘・鈎・鎌・鍋が出土しており、18点掲載した。このうち刀子・馬具・鎌・鈎針・鎌は古代、釘・鍋は近世に属すると考えられる。ここでは主要なものについて記載する。

刀子 可能性があるものを含めて7点掲載した (i 1・2・4・5・9・11・12)。横幅の偏差はあるが、いずれも刃部横断面形は逆三角形、柄部横断面形は長方形である。関部が確認できたもの少ないが、i 1は両角関、i 5・9は斜め片関である。

馬具 引手と鐙吊金具があり、各1点掲載した (i 6・13)。引手は、轡の一部で銜の先に取り付けられて手綱を連結する為の道具である。i 6は両端に環を持つ棒状の一本引手で、引手壺は「く」の字状に屈曲する。また、引手壺の中央で合わせ目が確認できる。鐙吊金具は、鐙の本体と兵庫鎖を連結する為の道具で、木芯金属張三角錐形壺鐙の一部である。i 13は一本の鉄棒を逆台形状に曲げ、一端を扁平な板状、もう一端を横断面形が「く」の字状になる板状に成形している。錆により塞がれているが、扁平な側には端部に穿孔が1個確認できる。

鎌 2点掲載した (i 7・8)。いずれも無頸鑿根鎌であるが、i 7は先端部が錐状で横断面形が方形に近く、i 8は横断面形が長方形となる。茎部には柄部の木質が残存している。

鈎 1点掲載した (i 10)。一本の鉄棒をU字状に曲げ、先端部には返しが付付けられる。

(2) 銅製品

銚帯金具・煙管・銭貨が出土しており、6点掲載した (i 3・20～24)。i 3は銚帯金具の巡方で、下半部を若干欠損している。表金具のみで、裏金具は確認されていない。外面には布状の付着物が確認されている。i 20は煙管の火皿で、江戸時代後半のものと考えられる。銭貨は、i 21～23が寛永通宝 (初鑄年1636年)、i 24が洪武通宝 (初鑄年1368年) である。

10 鉄生産関連遺物 (第30表、第2-389・390図、写真図版530～532)

羽口・鉄滓・炉壁を合わせて119kg出土している。第2節で述べている通り、まず肉眼分類で羽口・鉄滓・炉壁に分類し、羽口は個体毎に登録、鉄滓についてはさらに磁石を使用して細分を行った。なお、今回の調査では銑鉄に該当するものは出土していない。

(1) 羽 口

中コンテナで約3箱分出土している。そのうち内外径や装着角度など羽口の使用状況がわかる個体78点を登録し、13点掲載した(j 1～13、掲載率16.7%)。支脚に転用されたものもあり、判別困難なものも多いが、中空のものは羽口とした。いずれも円筒状で、横断面形は円形である。手づくね成形で、胎土は砂粒を含む橙色土である。全体形が判明するものは1点(j 2)しかないが、今回出土した羽口の大きさの平均は、長さ15～20cm、内径3～4cm、厚さ2～4cmである。

(2) 鉄 滓

鉄滓は、下記の3つの段階を経て分類を行っている。第一段階は、洗浄後に肉眼による大分類(羽口・鉄滓・炉壁)である。第二段階は、大分類のうち鉄滓のみの肉眼分類である。第三段階は、強力磁石を用いた磁着の有無による分類である。今回の調査では出土した鉄滓が排出されたと考えられる鉄生産関連炉が確認できなかった為、第二・三段階の分類をもとに一般的な生産工程を意識して大きく以下の3つに分類した。なお、写真のみであるが代表的なものを21点掲載しており(掲載重量6,687.7g)、そのうち4点は化学分析を行っている(第Ⅶ章第8節)。

分類1…製鉄・製練工程で排出されたと考えられるもので、8点掲載した(j 14・19・23・26・27・30～32)。外面色調が灰～赤褐色で、光沢を持つものもある。磁着するものが若干含まれている。炉内滓・炉外流出滓がある。

分類2…精練工程で排出されたと考えられるもので、12点掲載した(j 15～18・20・21・24・25・28・29・33・34)。外面色調が橙～赤褐色で、外面が錆化しているものが多い。磁着するものはほとんど無い。炉内滓・炉外流出滓・流出孔滓がある。

分類3…鉄塊系遺物で、1点掲載した(j 22)。色調は赤褐色で、反応は弱い磁着する。

(3) 炉 壁

大半が3・4号溝とその周辺からの出土で、6点掲載した(j 35～40)。スサや長石、石英等の混和物が含まれている。

11 陶磁器・ガラス製品(第32表、第2-391・392図)

陶磁器22点とガラス製品3点を掲載した。産地が判明するものは、k 1が猿投窯産灰釉陶器碗、k 2・3が常滑窯産陶器片口鉢、k 4が中国産青磁碗、k 5・9・10が大堀相馬産陶器碗・腰鏝、k 6が瀬戸窯産陶器刷毛目碗、k 7・8が瀬戸窯産陶器腰鏝、k 11が瀬戸窯産陶器筒形碗、k 12～16が肥前産磁器碗・皿、k 21が瀬戸窯産陶器香炉である。年代はk 1が9世紀後半、k 2・3が12世紀代、k 4が中世、k 5～22は18～19世紀前半代と考えられる。ガラス製品は、k 23がウズラ酢、k 24がヤクルトの瓶、k 25がおはじきである。

12 動物遺存体

獣骨・魚骨・貝類が出土している。詳細な種別については第Ⅶ章第4節に記載している。

VI 自然科学分析

1 放射性炭素年代測定

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

間木戸 I 遺跡は、岩手県下閉伊郡山田町山田第 3 地割地内（北緯 39° 48′ 21″、東経 141° 95′ 47″）に所在する。測定対象試料は、竪穴建物・土坑・鍛冶炉から出土した木炭 10 点である（表 1）。

2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、¹⁴C の計数、¹³C 濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C 濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) δ ¹³C は、試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表 1・2 に示す。分析は 3 箇年にわたり実施しており、試料 No. は平成 26 年度実施分を 1～5、平成 27 年度実施分を H27-1・2、平成 31 年度実施分を H31-1～3 とした。

試料の ^{14}C 年代は、1・2・5・H27-2・H31-1・3 が 4200yrBP 前後、3・4・H27-1・H31-2 が 1300yrBP 前後の値を示した。暦年較正年代 (1σ) は、1・2・H27-2・H31-3 が縄文時代中期中葉～後葉頃、5・H31-1 が中期中葉頃に相当する (小林編 2008)。3・4 は 7 世紀後半から 8 世紀半ば頃、H27-1・H31-2 は 8 世紀前葉～9 世紀中葉頃の値を示している。なお、試料 H31-1 が出土した鍛冶炉は平安時代の遺構と考えられるが、縄文時代中期の竪穴建物堆積土中に構築されたものであり、H31-1 は先行する竪穴建物の堆積土中に含まれていた炭化物が鍛冶炉に混入した可能性がある。試料の炭素含有率はすべて約 45% 以上の適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360
- 小林 謙一 2017 縄文時代の実年代 - 土器型式編年と炭素 14 年代 -, 同成社
- 小林達雄 編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

1 放射性炭素年代測定

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887

佐原 眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分 佐原眞, ウェルナー・シュタインハウス監修, 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所編集, ドイツ展記念概説 日本の考古学 上巻, 学生社, 14-19

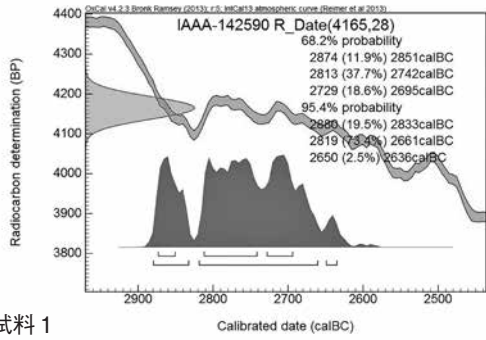
Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 (δ 13C 補正值)

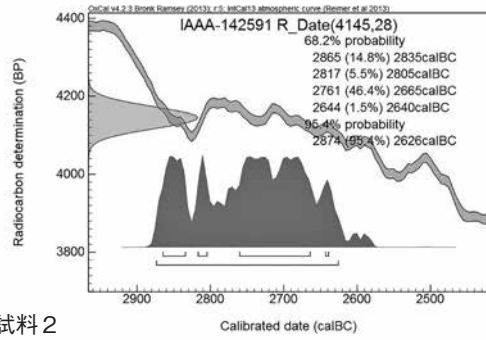
測定番号	試料 No.	採取場所	試料 形態	処理 方法	δ 13C (‰) (AMS)	δ 13C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-142590	1	A197 号竪穴建物 石囲炉内 No.1	木炭	AaA	-26.85 ± 0.41	4,170 ± 30	59.54 ± 0.21
IAAA-142591	2	A49 号竪穴建物 炭化材 No.2	木炭	AaA	-27.26 ± 0.45	4,150 ± 30	59.68 ± 0.21
IAAA-142592	3	B7 号竪穴建物 床面直上 炭 No.1	木炭	AAA	-25.35 ± 0.66	1,290 ± 30	85.12 ± 0.27
IAAA-142593	4	B9 号竪穴建物 土器 No.1 内	木炭	AAA	-26.87 ± 0.41	1,310 ± 20	84.98 ± 0.25
IAAA-142594	5	A69 号竪穴建物 堆積土下位	木炭	AAA	-26.38 ± 0.66	4,230 ± 30	59.09 ± 0.21
IAAA-152174	H27-1	B8 号竪穴建物 床面直上 C-1	木炭	AAA	-25.80 ± 0.3	1,230 ± 20	85.86 ± 0.26
IAAA-152175	H27-2	A165 号竪穴建物 ベルト①堆積土	木炭	AAA	-27.15 ± 0.29	4,170 ± 30	59.51 ± 0.19
IAAA-190039	H31-1	1 号鍛冶炉 焼土面直上	木炭	AAA	-27.11 ± 0.21	4,280 ± 30	58.68 ± 0.20
IAAA-190040	H31-2	B1 号竪穴建物 カマド燃焼部	木炭	AAA	-27.60 ± 0.22	1,210 ± 20	86.07 ± 0.25
IAAA-190041	H31-3	77 号土坑 堆積土	木炭	AAA	-27.01 ± 0.22	4,140 ± 30	59.73 ± 0.20

表2 放射性炭素年代測定結果 (δ 13C 未補正值、暦年較正用 14C 年代、較正年代)

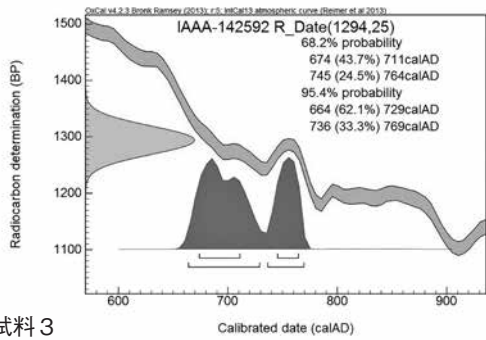
測定番号	試料 No.	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
		Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142590	1	4,200 ± 30	59.31 ± 0.2	4,165 ± 28	2874calBC - 2851calBC (11.9%)	2880calBC - 2833calBC (19.5%)
					2813calBC - 2742calBC (37.7%)	
					2729calBC - 2695calBC (18.6%)	
IAAA-142591	2	4,180 ± 30	59.41 ± 0.2	4,145 ± 28	2865calBC - 2835calBC (14.8%)	2874calBC - 2626calBC (95.4%)
					2817calBC - 2805calBC (5.5%)	
					2761calBC - 2665calBC (46.4%)	
IAAA-142592	3	1,300 ± 20	85.06 ± 0.24	1,294 ± 25	2644calBC - 2640calBC (1.5%)	664calAD - 729calAD (62.1%)
					674calAD - 711calAD (43.7%)	
					745calAD - 764calAD (24.5%)	
IAAA-142593	4	1,340 ± 20	84.66 ± 0.24	1,307 ± 23	665calAD - 695calAD (43.8%)	660calAD - 722calAD (68.0%)
					703calAD - 707calAD (3.4%)	
					746calAD - 764calAD (20.9%)	
IAAA-142594	5	4,250 ± 30	58.92 ± 0.19	4,226 ± 28	2898calBC - 2868calBC (45.7%)	2905calBC - 2858calBC (52.2%)
					2804calBC - 2777calBC (22.5%)	
					2723calBC - 2701calBC (6.5%)	
IAAA-152174	H27-1	1,240 ± 20	85.71 ± 0.25	1,225 ± 24	722calAD - 740calAD (14.3%)	695calAD - 702calAD (1.8%)
					767calAD - 779calAD (9.8%)	
					790calAD - 829calAD (25.6%)	
					838calAD - 866calAD (18.5%)	
IAAA-152175	H27-2	4,200 ± 30	59.25 ± 0.19	4,169 ± 25	2875calBC - 2854calBC (12.0%)	2880calBC - 2835calBC (19.8%)
					2812calBC - 2746calBC (39.2%)	
					2726calBC - 2697calBC (17.1%)	
IAAA-190039	H31-1	4,320 ± 30	58.42 ± 0.20	4,282 ± 27	2909calBC - 2889calBC (68.2%)	2924calBC - 2877calBC (95.4%)
					774calAD - 778calAD (3.9%)	
IAAA-190040	H31-2	1,250 ± 20	85.61 ± 0.24	1,205 ± 22	789calAD - 868calAD (64.3%)	730calAD - 736calAD (1.7%)
					769calAD - 886calAD (93.7%)	
IAAA-190041	H31-3	4,170 ± 30	59.48 ± 0.2	4,139 ± 26	2862calBC - 2834calBC (14.7%)	2872calBC - 2623calBC (95.4%)
					2818calBC - 2808calBC (5.1%)	
					2758calBC - 2718calBC (20.5%)	
					2707calBC - 2662calBC (23.0%)	
					2648calBC - 2636calBC (4.9%)	



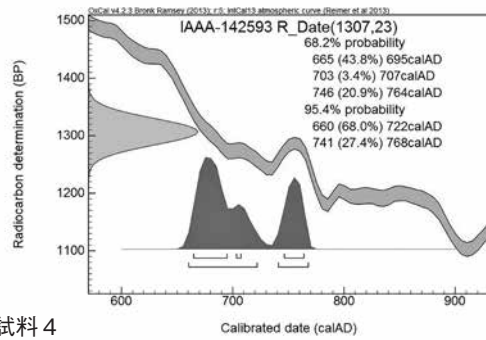
試料 1



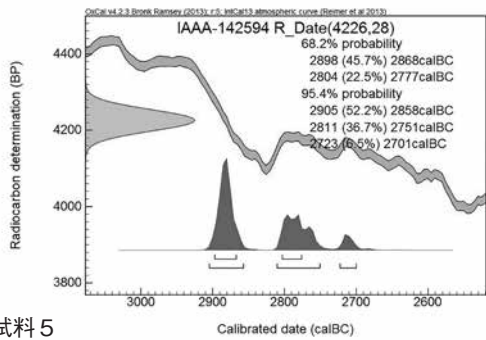
試料 2



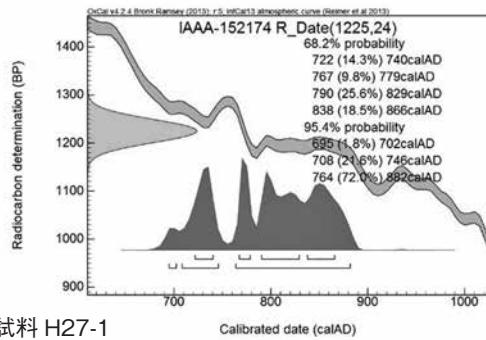
試料 3



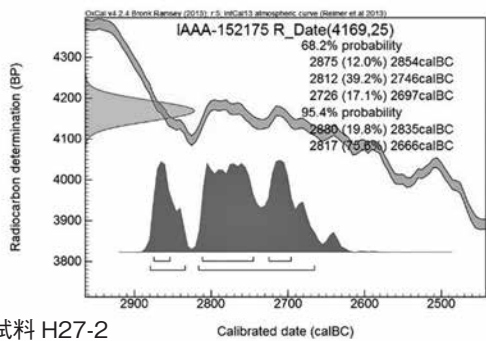
試料 4



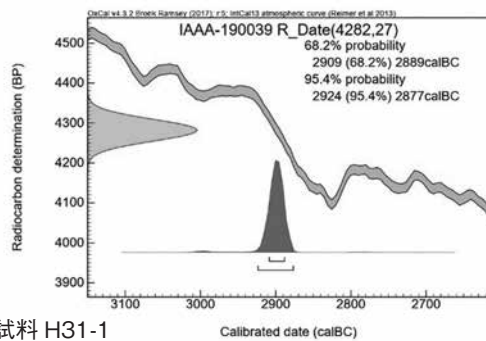
試料 5



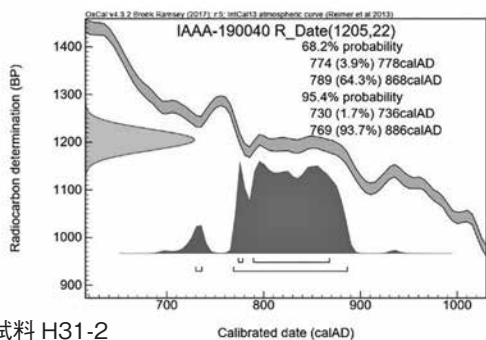
試料 H27-1



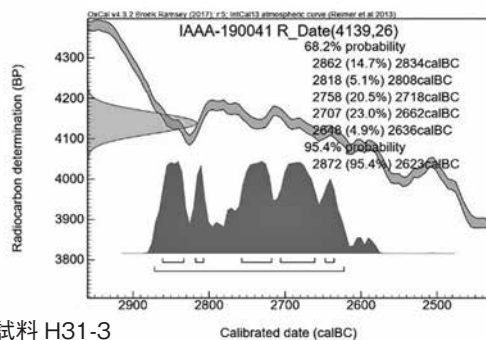
試料 H27-2



試料 H31-1



試料 H31-2



試料 H31-3

2 火山灰分析

株式会社火山灰考古学研究所

はじめに

東北地方北部の三陸沿岸域の地層や土壌の中には、十和田、岩手、秋田駒ヶ岳、焼石、鳴子、肘折、愛島、沼沢などの東北地方の火山のほか、洞爺、浅間、榛名、御岳、三瓶、阿蘇、始良、鬼界など遠方の火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ（町田・新井，1992，2003，2011）に収録されており、考古遺跡などで調査分析を行い年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには考古遺物や遺構の年代などに関する情報を得られるようになってきている。

山田町間木戸Ⅰ遺跡の発掘調査でも火山灰の可能性が高い土層が検出されたことから、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、実験室内でテフラ分析（テフラ検出分析，テフラ組成分析，屈折率測定，E PMA分析）を実施して、すでに年代が明らかにされている指標テフラとの同定を行うことになった。

1 分析試料

テフラ分析の対象となった試料は、間木戸Ⅰ遺跡ⅡA 7・8 x グリッドにおいてⅢ層から採取された試料1である。

2 テフラ検出分析

（1）分析方法

試料1に含まれるテフラの量や特徴を定性的に把握するために、テフラ検出分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料 10g を秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80 ° C で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の相対的な量や特徴を観察。

（2）分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。試料から比較的粗粒な軽石やスコリアは検出されなかったものの、火山ガラスが比較的多く検出された。火山ガラスは、無色透明の繊維束状軽石型である。不透明鉱物（おもに磁鉄鉱）以外の重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、少量の角閃石や黒雲母が認められる。

3 テフラ組成分析（火山ガラス比分析・重鉍物組成分析）

（1）分析 方 法

試料1を対象に、火山ガラスの形態色調別含有率と、重鉍物や軽鉍物の含有率を合わせて求める火山ガラス比分析と、重鉍物組成分析（火山ガラス比分析と合わせてテフラ組成分析とする）を実施して、火山ガラスの色調形態別含有率を求め、重鉍物組成上の特徴を定量的に明らかにした。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料 25 g を秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80 ° C で恒温乾燥。
- 4) 分析篩により 1/4 ~ 1/8mm と 1/8 ~ 1/16mm の粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で 1/4 ~ 1/8mm 粒径の 250 粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別含有率ならびに軽鉍物や重鉍物の含有率を求める（火山ガラス比分析）。
- 6) 偏光顕微鏡下で 1/4 ~ 1/8mm 粒径の重鉍物 250 粒子を観察し、重鉍物組成を求める（重鉍物組成分析）。

（2）分 析 結 果

テフラ組成分析の結果を図1に、火山ガラス比分析と重鉍物組成分析の結果を表2と表3に示す。試料1における火山ガラス、軽鉍物、重鉍物の含有率は、順に8.8%、71.2%、13.2%で、軽鉍物の含有率が高い。この試料に含まれる火山ガラスは、含有率が高い順に、分厚い中間型ガラス（5.2%）、スポンジ状軽石型（2.8%）、繊維束状軽石型および無色透明バブル型（各0.4%）である。不透明鉍物（おもに磁鉄鉍）をのぞく重鉍物としては、順に斜方輝石（38.4%）、単斜輝石（17.6%）、角閃石（6.8%）、黒雲母（3.2%）が認められる。斜方輝石の中には、火山ガラスが付着したものがある。

4 屈折率測定（火山ガラス・斜方輝石）

（1）測 定 方 法

試料1に含まれる火山ガラスの屈折率測定を行って、指標テフラとの同定精度の向上を図った。測定対象は1/8 ~ 1/16mmの火山ガラスで、温度変化型屈折率測定法（壇原, 1993）に従って測定を実施した。

（2）測 定 結 果

屈折率の測定結果を表4に示す。この表には、岩手県域の後期更新世後半以降の代表的指標テフラの火山ガラスおよび斜方輝石の屈折率特性も合わせて示した。試料1に含まれる火山ガラス（30粒子）と斜方輝石（31粒子）の屈折率は、それぞれ $n : 1.511-1.514$ と $\gamma : 1.700-1.713$ である。

5 EPMA 分析 (火山ガラスの主成分分析)

(1) 分析 方 法

指標テフラとの同定確度をさらに向上させるため、個々の粒子の些少な領域の主成分組成を明らかにできる EPMA 分析を実施した。分析対象は、偏光顕微鏡下で 1/4 ~ 1/8mm 粒子の中から手選した火山ガラスである。また、分析に使用した電子線プローブマイクロアナライザ (EPMA) は、山形大学理学部の日本電子 JXA8600MWDS 型 EPMA である。加速電圧 15kV、照射電流 0.01 μ A、ビーム径 10 μ m の条件で行った。なお、補正には Oxide ZAF 法を用いた。

(2) 分 析 結 果

試料 1 に含まれる火山ガラスの EPMA による主成分分析の結果を表 5 に、試料 1 と指標テフラに含まれる火山ガラスの主成分組成を表 6 に示す。

試料 1 に含まれる火山ガラスの主成分のばらつきはさほどではなく、遺跡周辺に降灰している指標テフラと比較すると、SiO₂ および K₂O に乏しく、逆に TiO₂、Al₂O₃、FeO*、MgO、CaO、Na₂O を多く含むことが明らかになった。

6 考 察

試料 1 (II A 7・8 x グリッド・III 層) に比較的多く含まれる火山ガラスは、その形態、屈折率特性、さらに主成分組成から、約 6,000 年前の十和田中振テフラ (To-Cu, 大池ほか, 1966, 早川 1983, 町田・新井, 1992, 2003, 2011) に由来すると考えられる。重鉍物も、斜方輝石や単斜輝石が多いことや、斜方輝石の屈折率特性から、多くは To-Cu に由来する可能性が高い

ただし、試料 1 から得られた斜方輝石の屈折率は、To-Cu の値より range が広く、To-Cu 以外に由来するものも含まれている可能性が高い。少量ながら検出された角閃石や黒雲母も、本来 To-Cu の本質物質では記載されていないことから、やはり To-Cu 以外のものと推定される。分析者が実際に現地で試料採取を実施していないことから原因の詳細は不明であるが、試料採取時の混入物の可能性が高い。

いずれにしても、試料の純度は非常に高いとはいえないものの、試料に含まれる多くのテフラ粒子は To-Cu と考えられる。

ま と め

山田町間木戸 I 遺跡で採取されたテフラ分析用試料 (試料 1) を対象として、テフラ検出分析、テフラ組成分析 (火山ガラス比分析・重鉍物組成分析)、火山ガラスおよび鉍物の屈折率測定、さらに火山ガラスの EPMA 分析を実施した。その結果、分析対象となった試料 1 (II A 7・8 x グリッド・III 層) に、十和田中振テフラ (To-Cu, 約 6,000 年前) に由来するテフラ粒子が多く含まれていることが明らかになった。

参考文献

- 青木かおり・新井房夫 (2000) 三陸沖改訂コア KH9-3, LM-8 の後期更新世テフラ層序. 第四紀研究, 39, p.107-120.
- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法 2」, p.136-149.
- 壇原 徹 (1993) 温度変化型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法 2」, 東京大学出版会, p.149-158.
- 早川由紀夫 (1983) 十和田中振テフラ層の分布, 粒度, 組成, 年代. 火山, 28, p.263-273.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 「火山灰アトラス」. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 「新編火山灰アトラス」. 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫 (2011) 「新編火山灰アトラス (第2刷)」. 東京大学出版会, 336p.
- 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之 (1966) 馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰. 第四紀研究, 5, p.29-35.

表1 テフラ検出分析結果

試料 (採取地点)	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物
	量	色調	最大径	量	形態	色調	(不透明鉱物以外)
間木戸I遺跡・試料1 (II A 7・8 x グリッド・III層)				**	pm (f b)	無色透明, 白	opx, cpx, (am, bi)

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない, bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, sc: スコリア型, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状, ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, () : 量が少ないことを示す.

表2 火山ガラス比分析結果

試料 (採取地点)	火山ガラス						軽鉱物	重鉱物	その他	合計
	bw (cl)	bw (pb)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)				
間木戸I遺跡・試料1 (II A 7・8 x グリッド・III層)	1	0	0	13	7	1	178	33	17	250

bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, sc: スコリア型, cl: 無色透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状. 数字は粒子数.

表3 重鉱物組成分析結果

試料 (採取地点)	ol	opx	cpx	am	bi	opq	その他	合計
試料1 (II A 7・8 x グリッド・III層)	0	96	44	17	8	79	6	250

ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, o p q: 不透明鉱物 (黒色で光沢をもつもの). 数字は粒子数.

表5 試料1に含まれる火山ガラスのEPMA分析結果

試料1	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	total
1	74.93	0.41	13.45	2.27	0.08	0.62	2.80	3.96	1.30	0.18	100.00
2	75.16	0.40	13.35	2.41	0.08	0.65	2.55	3.94	1.32	0.14	100.00
3	75.39	0.41	12.87	2.41	0.12	0.55	2.77	3.94	1.39	0.15	100.00
4	74.78	0.48	13.48	2.58	0.09	0.60	2.71	3.85	1.32	0.11	100.00
5	75.48	0.44	13.32	2.47	0.06	0.58	2.55	3.72	1.35	0.04	100.00
6	74.67	0.49	13.48	2.57	0.12	0.61	2.80	3.79	1.36	0.11	100.00
7	74.89	0.49	13.44	2.37	0.11	0.62	2.58	3.95	1.42	0.12	100.00
8	74.61	0.47	13.41	2.50	0.09	0.66	2.88	4.01	1.33	0.04	100.00
9	75.21	0.47	13.43	2.37	0.04	0.60	2.54	3.94	1.40	0.00	100.00
10	75.13	0.48	13.60	2.54	0.07	0.65	2.42	3.94	1.13	0.05	100.00
平均値	75.03	0.45	13.38	2.45	0.08	0.61	2.66	3.90	1.33	0.09	100.00

無水に換算.

表4 屈折率測定結果

地点・試料・指標テフラ	火山ガラス		斜方輝石		文献
	屈折率 (n)	測定点数	屈折率 (γ)	測定点数	
間木戸 I 遺跡・試料 1	1.511-1.514	30	1.700-1.713	31	本報告
三陸沿岸地域の指標テフラ (後期更新世以降)					
十和田 a (To-a, 岩手・秋田)	1.500-1.508		1.706-1.708		町田・新井 (2011)
十和田 b (To-b)	1.496-1.508		1.705-1.708		町田・新井 (2011)
十和田中振 (To-Cu, 青森)	1.510-1.514		1.704-1.708		町田・新井 (2011)
十和田中振 (To-Cu, 岩手・秋田)	1.508-1.512		1.703-1.709		町田・新井 (2011)
十和田南部 (To-Nb)	1.512-1.517		1.708-1.718		町田・新井 (2011)
秋田駒柳沢 (Ak-Y)	未詳		1.718-1.723		町田・新井 (2011)
肘折尾花沢 (Hj-O)	1.499-1.504		1.712-1.716		町田・新井 (2011)
秋田駒小岩井 (Ak-K)	未詳		1.708-1.712		町田・新井 (2011)
十和田八戸 (To-H)	1.505-1.509		1.705-1.708		町田・新井 (2011)
浅間板鼻黄色 (As-YP)	1.501-1.505				町田・新井 (2011)
鳴子潟沼上原 (Nk-U)	1.492-1.500		1.711-1.715		町田・新井 (2011)
始良 Tn (AT)	1.498-1.501				町田・新井 (2011)
十和田大不動 (To-Of)	1.505-1.511		1.707-1.711		町田・新井 (2011)
西岩手雪浦・生出 (Iw-Y, Od)	1.508-1.508		1.721-1.726		町田・新井 (2011)
鳴子柳沢 (Nr-Y)	1.500-1.503		1.717-1.722		町田・新井 (2011)
焼石山形 (Yk-Y)	1.501-1.503		1.720-1.725		町田・新井 (2011)
焼石村崎野 (Yk-M)	1.503-1.508		1.717-1.722		町田・新井 (2011)
阿蘇 4 (Aso-4)	1.506-1.510				町田・新井 (2011)
鳴子荷坂 (Nr-N)	1.500-1.502		1.724-1.728		町田・新井 (2011)
肘折北原 (Hj-Kth)	1.499-1.502		1.728-1.733		町田・新井 (2011)
三瓶木次 (SK)	1.496-1.498				町田・新井 (2011)
洞爺 (Toya)	1.494-1.498				町田・新井 (2011)

本報告における屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定法(壇原, 1993)による。

テフラ・カタログ(町田・新井, 2011)の屈折率測定は、温度一定型屈折率測定法(新井, 1972, 1993)による。

表6 テフラ試料と約3万年前以降の指標テフラに含まれる火山ガラスの主成分化学組成

地点・試料	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	P ₂ O ₅	備考
間木戸 I 遺跡・試料 1	75.03	0.45	13.38	2.45	0.08	0.61	2.66	3.90	1.33	0.99	本報告
指標テフラ											
To-a	77.87	0.37	12.81	1.75	0.10	0.42	2.00	3.29	1.34		1)
Nm-N	78.10	0.24	12.10	1.14	0.09	0.19	1.34	3.35	3.45		2)
To-Cu	75.08	0.44	13.28	2.46	0.08	0.63	2.63	4.04	1.29		1)
K-Ah	75.24	0.53	12.85	2.42	0.08	0.47	2.02	3.32	3.00		1)
Hj-O	77.79	0.16	12.76	1.05	記載なし	0.44	1.09	3.61	3.10		2)
To-H (pfl) 上部	78.30	0.29	12.67	1.52	0.06	0.29	1.73	3.84	1.30		2)
To-H (pfl) 下部	76.38	0.40	13.43	1.90	0.11	0.44	2.22	3.88	1.24		2)
As-YP	78.15	0.27	11.99	1.33	0.04	0.26	1.30	3.72	2.89		1)
Nr-KU	77.98	0.22	12.28	1.22	記載なし	1.01	1.59	4.23	1.47		2)
AT	78.25	0.13	12.14	1.26	0.04	0.11	1.09	3.41	3.56	0.02	1)
To-Of (pfl)	77.82	0.36	12.45	1.88	0.08	0.33	1.87	3.97	1.25		2)

無水に換算。1) 八木(未公表)。2) 青木・新井(2000)。

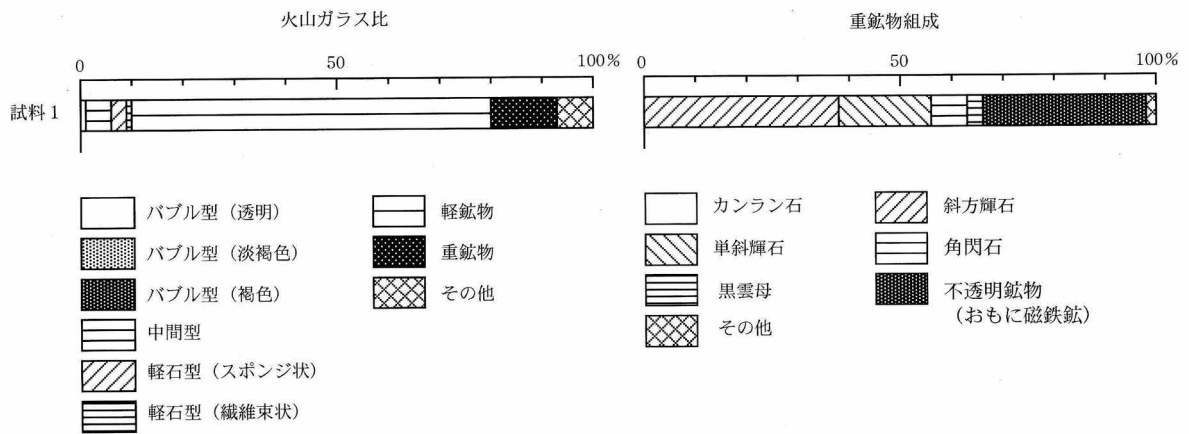


図1 間木戸 I 遺跡のテフラ組成ダイヤグラム



写真1 試料1

中央左 (暗色塊状) : 中間型ガラス.
 中央右 (有色鉱物) : 斜方輝石.
 中央下 : 角閃石.



写真2 試料1

中央下 : スポンジ状軽石型ガラス.
 中央 (有色鉱物) : 斜方輝石
 (ガラス付着)
 左上 (有色鉱物) : 角閃石.

3 炭化材樹種同定

吉川純子（古代の森研究舎）

はじめに

間木戸 I 遺跡は、山田町山田第 3 地割の海岸線から 500m ほど内陸に入った丘陵の南側斜面部裾部に立地している。本遺跡では縄文時代中期とされる竪穴建物群と平安時代と考えられる竪穴建物集落跡が検出され、平安時代の焼失家屋とみられる竪穴建物で炭化材が多く検出された。そこで当時の建物構築材等の木材利用状況を調査する目的で分析をおこなった。なお、縄文時代中期の炭化材検出建物は焼失かどうか不明である。今回分析に供した試料は 10 試料で、平安時代とみられる B 7 竪穴建物から 4 試料、B 8 号竪穴建物から 5 試料、縄文時代中期中～後葉とみられる A 197 号竪穴建物から 1 試料となっている。なお、試料に複数の破片があるものは個々の破片を観察し、異なる樹種の場合は 2 種を記した。炭化材は自然乾燥後に剃刀で横断面、放射断面、接線断面の 3 方向に割り実体顕微鏡及び反射光式顕微鏡で同定した。

同定結果及び考察

本遺跡の住居跡から出土した炭化材同定結果を表 1 に示した。2 種類の炭化材片が含まれていたのは 3 試料で計 13 点を同定し、7 点がコナラ属コナラ節と最も多く、クリが 3 点、ケヤキ、ハコヤナギ属、不明散孔材がそれぞれ 1 点ずつであった。以下に出土した炭化材の形態記載をおこなう。

ハコヤナギ属 (*Populus*)：年輪内にやや小さい道管が単独ないし 2,3 個放射方向に複合して年輪内にはほぼ均等に分布する散孔材で晩材部ではやや径を減じ年輪界は比較的明瞭である。道管は単穿孔で側壁には交互壁孔がみられ、道管放射組織間壁孔は比較的大きなふるい状となる。放射組織は単列で同性。

クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)：年輪はじめに大きい道管がほぼ単独で数列配列しその後径が急減して薄壁の角張った小管孔が火炎状に配列する環孔材。道管は単穿孔を有し、放射組織は平伏細胞のみの同性で単列である。

コナラ属コナラ節 (*Quercus* sect. *Prinus*)：年輪はじめに大きい道管がほぼ単独で数列配列しその後径が急減して波状ないし火炎状に配列する環孔材で小管孔は薄壁で角張っている。道管は単穿孔を有し、放射組織は平伏細胞のみの同性で、単列と幅の広い複合型の広放射組織がある。

ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino)：きわめて大きい道管が年輪はじめに 1 列並び、急に径を減じて小さい管孔が多数集合して接線状、斜線状に連なる環孔材。道管は単穿孔で小道管内壁にらせん肥厚があり、道管放射組織間壁孔は大きいふるい状。放射組織は平伏細胞であるが上下縁辺に方形細胞が見られ異性、1-7.8 細胞幅で縁辺にしばしば大きい結晶細胞がみられ、周囲はごつごつして見える。

不明散孔材：年輪内にやや小さい道管が単独ないし 2,3 個放射方向に複合して年輪内にはほぼ均等に分布する散孔材で晩材部ではやや径を減じ年輪界は比較的明瞭である。道管は単穿孔で側壁には交互壁孔がみられ、道管放射組織間壁孔は比較的大きなふるい状となる。放射組織は単列と時々 3 細胞幅

程度のものがあり、平伏細胞と方形細胞が半々くらいの異性である。

本遺跡で炭化材が出土した建物跡は焼失家屋と考えられ、炭化した木材のほとんどは建物構築材と考えられている。平安時代の炭化材全体としては約6割にコナラ節が利用され25%がクリであった。東北の平野から丘陵にかけてはコナラなどの落葉広葉樹を主体とした二次林が広く分布しており、調達が容易であることと土木建築材として優れているため利用されてきたと考えられる。建物毎ではB7号竪穴建物は同定に供した破片が大きく建築材と見られ樹種はコナラ節のみであったが、B8号竪穴建物はクリとコナラ節があり、小さい破片にケヤキ、ハコヤナギ属、散孔材があった。ケヤキは建築材にも利用するがハコヤナギ属は軽く軟らかいため通常は建築材として利用しない。不明散孔材も含め破片が小さいことから建物内に置かれていた器具類などが焼失し建築材とともに検出された可能性も考えられる。岩手県の奈良～平安時代にかけての焼失家屋における炭化材出土例では、一戸町小井田V遺跡の古墳末～平安とみられる住居構築材109点のうち約80%をコナラ節材が占める例があるが、同時期の一戸町上野遺跡ではシナノキ属やケヤキが多くコナラ節はわずか5%である例もある(伊東・山田2012)。

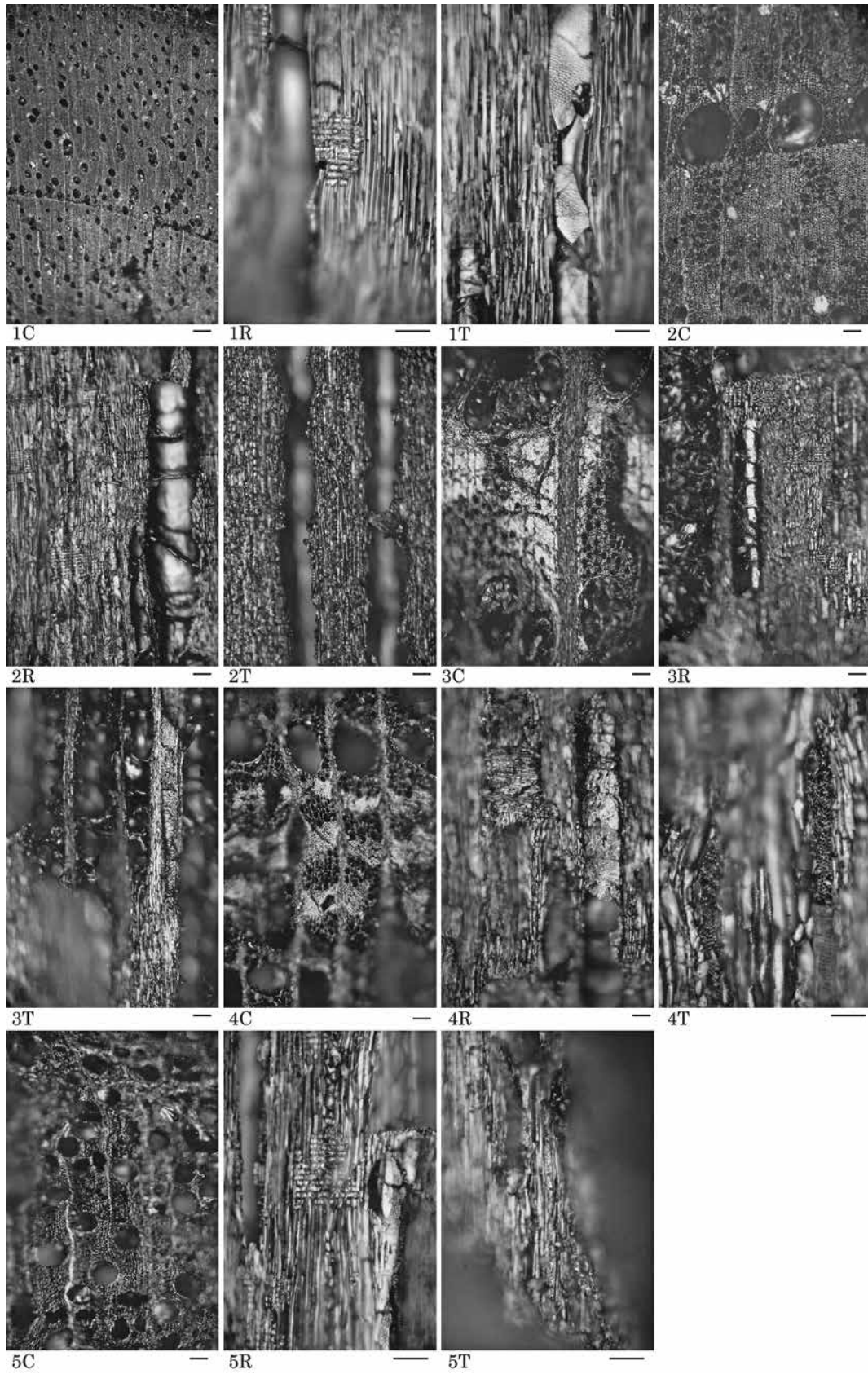
縄文時代中期のA197号竪穴建物から出土した炭化材はクリであり、当時の建物構築材あるいは燃料材として利用していたと考えられる。クリは縄文時代の東北地方において建築材や燃料材として多用されてきた。

引用文献

伊東隆夫・山田昌久 編. 2012. 木の考古学 出土製品用材データベース. 449pp. 海青社.

表1 炭化材観察表

番号	時期	遺構	層位	状況	樹種
1	平安	B7号竪穴建物	床面直上炭化物 No.1	棒材 垂木ないし腰板用の柱	コナラ節
2	平安	B7号竪穴建物	炭化物 No.2	棒材 主柱	コナラ節
3	平安	B7号竪穴建物	炭化物 No.3	棒材 垂木ないし桁	コナラ節
4	平安	B7号竪穴建物	炭化物 No.4	棒材 垂木	コナラ節
5	平安	B8号竪穴建物	C-1	板材 腰板(縦貼り)	クリ ハコヤナギ属
6	平安	B8号竪穴建物	C-2	棒材 腰板を押さえる胴縁(建物内面)	クリ 散孔材
7	平安	B8号竪穴建物	C-3	棒材 腰板用の柱	コナラ節
8	平安	B8号竪穴建物	C-4	板材 腰板(横貼り)ないし板床ないし腰板を押さえる胴縁(建物内側)	コナラ節
9	平安	B8号竪穴建物	C-5	棒材 主柱ないしサスないし垂木	コナラ節 ケヤキ
10	縄文中期	A197号竪穴建物	炭化物 No.4		クリ



1. ハコヤナギ属 (No.5) 2. クリ (No.5) 3. コナラ属コナラ節 (No.2) 4. ケヤキ (No.9) 5. 不明散孔材 (No.6)
 C: 横断面, R: 放射断面, T: 接線断面, スケールは0.1mm

図版 1 間木戸 I 遺跡から出土した炭化材の顕微鏡写真

4 動物遺存体分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

間木戸 I 遺跡（岩手県下閉伊郡山田町第 3 地割ほかに所在）は、丘陵地の尾根上から斜面部にかけて位置し、縄文時代の竪穴建物、フラスコ状土坑、古代の竪穴建物や溝等が検出されている。今回、調査区内から出土した動物遺体について、その種類を明らかにするため骨貝類同定を実施した。

1 試料

試料は、古代の竪穴建物、縄文時代の土坑、近世の溝から採取された骨貝類 12 試料（K-1～12）である。出土地点と乾燥重量は、表 1 に示す。

2 分析方法

試料には、砂・泥分が付着するため、乾燥重量を計測した後、軽く水洗する。自然乾燥後、試料を肉眼および実態顕微鏡下で観察し、形態的特徴から種・部位を特定する。必要に応じてデジタルノギスを使用して計測を行うが、貝類は完形殻のみを対象として殻長あるいは殻高を計測する。なお、貝類の生態等については、奥谷ほか（2000）、奥谷編著（2004）を参考とする。

3 結果

検出された種類は、腹足綱 4 種類（クボガイ類・スガイ・エゾタマガイ？・チヂミボラ）、二枚貝綱 12 種類（イガイ科・マガキ・ミルクイ・ヒメシラトリ・シラトリモドキ・イソシジミ類・マテガイ類・オニアサリ・カガミガイ・アサリ・ウチムラサキ・オオノガイ）、顎脚綱（チシマフジツボ）、硬骨魚綱 10 種類（フナ属・メバル類・スズキ属・ハタ類・クロダイ属・サバ属・ソウダガツオ属・カツオ？・カレイ類・カワハギ類）、鳥綱 3 種類（キジ類・クイナ科・サギ類）、哺乳綱 6 種類（ヒト・イヌ・アシカ属・ウマ・イノシシ・ニホンジカ）である（表 2）。同定結果を表 3、貝類の計測結果を表 4・5 に示す。以下、試料ごとに結果の概略を示す。

< K-1：B3 号竪穴建物 >

二枚貝類のアサリを主体として、イソシジミ類などを伴う。

< K-2：75 号土坑 >

二枚貝類のシラトリモドキ、アサリ、オオノガイなどが検出されるが、数量的には少ない。

< K-3：76 号土坑 >

二枚貝類のアサリを主体として、ヒメシラトリ、シラトリモドキ、イソシジミ類、マテガイ類、カ

表 1 分析試料一覧

試料番号	遺構名	出土地点	乾燥重量 (g)
K-1	B3 号竪穴建物		1521.05
K-2	75 号土坑	2 層下位	18.01
K-3	76 号土坑		1019.33
K-4	76・77 号土坑	7 層	550.75
K-5	77 号土坑		37039
K-6	3 号溝	堆積土 (II B11o グリッド付近)	139.61
K-7	3 号溝	北端部堆積土	172.82
K-8	17 号土坑		461.65
K-9	53 号土坑	堆積土下位	39.28
K-10	76 号土坑		367.17
K-11	76・77 号土坑	7 層	661.41
K-12	77 号土坑		969.85

表2 検出分類群一覧

軟体動物門 <i>Phylum Mollusca</i>	脊椎動物門 <i>Phylum Vertebrata</i>
腹足綱 <i>Class Gastropoda</i>	硬骨魚綱 <i>Class Osteichthys</i>
前鰓亜綱 <i>Subclass Prosobranchia</i>	条鰭亜綱 <i>Subclass Actinopterygii</i>
古腹足目 <i>Order Vetigastropoda</i>	コイ目 <i>Order Cypriniformes</i>
ニシキウズガイ科 <i>Family Trochidae</i>	コイ科 <i>Family Cyprinidae</i>
クボガイ類 <i>Chlorostoma sp.</i>	コイ亜科 <i>Subfamily Cyprininae</i>
サザエ科 <i>Family Turbinidae</i>	フナ属 <i>Genus Carassius</i>
スガイ <i>Turbo (Lunella) cornatus coreensis</i>	カサゴ目 <i>Order Scorpaeniformes</i>
盤足目 <i>Order Discopoda</i>	カサゴ亜目 <i>Suborder Scorpaenoidei</i>
タマガイ科 <i>Family Naticidae</i>	フサカサゴ科 <i>Family Scorpaenidae</i>
エゾタマガイ? <i>Cryptonatica andoi?</i>	メバル亜科 <i>Subfamily Sebastinae</i>
新腹足目 <i>Order Neogastropoda</i>	メバル類 <i>Gen. et. sp. indent.</i>
アッキガイ科 <i>Family Muricidae</i>	スズキ目 <i>Order Perciformes</i>
ヨウラクガイ亜科 <i>Subfamily Ocenebrinae</i>	スズキ亜目 <i>Suborder Percoidei</i>
チヂミボラ <i>Nucella lima</i>	スズキ科 <i>Family Moronidae</i>
二枚貝綱 <i>Class Bivalvia</i>	スズキ属 <i>Genus Lateolabrax</i>
翼形亜綱 <i>Subclass Pteriomophia</i>	ハタ科 <i>Family Serranidae</i>
イガイ目 <i>Order Mytiloida</i>	ハタ類 <i>Gen. et. sp. indent.</i>
イガイ科 <i>Family Mytilidae</i>	タイ科 <i>Family Sparidae</i>
カキ目 <i>Order Ostreoida</i>	ダイ亜科 <i>Subfamily Sparinae</i>
カキ亜目 <i>Suborder Ostreina</i>	クロダイ属 <i>Genus Acanthopagrus</i>
イタボガキ科 <i>Family Ostreidae</i>	サバ亜目 <i>Suborder Scombroidei</i>
マガキ <i>Crassostrea gigas</i>	サバ科 <i>Family Scombridae</i>
異歯亜綱 <i>Subclass Heterodonta</i>	サバ属 <i>Genus Scomber</i>
マルスダレガイ目 <i>Order Veneroida</i>	ソウダガツオ属 <i>Genus Auxis</i>
バカガイ科 <i>Family Mactridae</i>	カツオ? <i>Katsuwonus pelam</i>
ミルクイ <i>Tresus keenae</i>	カレイ目 <i>Order Pleuronectiformes</i>
ニッコウガイ科 <i>Family Tellinidae</i>	カレイ科 <i>Family Pleuronectidae</i>
ヒメシラトリ <i>Macoma incongrua</i>	カレイ類 <i>Gen. et. sp. indent.</i>
シラトリモドキ <i>Heteromacoma irus</i>	フグ目 <i>Order Tetraodontiformes</i>
シオサザナミ科 <i>Family Psammobiidae</i>	フグ亜目 <i>Tetraodontoidei</i>
イソシジミ類 <i>Nuttallia sp.</i>	カワハギ科 <i>Family Monacanthidae</i>
マテガイ科 <i>Family Solenidae</i>	カワハギ類 <i>Gen. et. sp. indent.</i>
マテガイ類 <i>Gen. et. sp. indent.</i>	鳥綱 <i>Class Aves</i>
マルスダレガイ科 <i>Family Veneridae</i>	キジ目 <i>Order Galliformes</i>
オニアサリ <i>Protothaca jadoensis</i>	キジ科 <i>Family Phasianidae</i>
カガミガイ <i>Phacosoma japonicum</i>	キジ類 <i>Gen. et. sp. indent.</i>
アサリ <i>Ruditapes philippinarum</i>	ツル目 <i>Order Gruiformes</i>
ウチムラサキ <i>Saxidomus purpurata</i>	クイナ亜目 <i>Suborder Galli</i>
オオノガイ目 <i>Order Myoida</i>	クイナ科 <i>Family Rallidae</i>
オオノガイ亜目 <i>Suborder Myoida</i>	コウノトリ目 <i>Order Ciconiiformes</i>
オオノガイ科 <i>Family Myidae</i>	サギ科 <i>Family Ardeidae</i>
オオノガイ <i>Mya arenaria oonogai</i>	サギ類 <i>Gen. et. sp. indent.</i>
節足動物門 <i>Phylum Arthropoda</i>	哺乳綱 <i>Class Mammalia</i>
顎脚綱 <i>Class Maxillopoda</i>	サル目(霊長目) <i>Order Primates</i>
鞘甲亜綱 <i>Subclass Thecostraca</i>	ヒト科 <i>Family Hominidae</i>
無柄目 <i>Order Sessilia</i>	ヒト <i>Homo sapiens</i>
フジツボ亜目 <i>Balanina</i>	ネコ目(食肉目) <i>Order Carnivora</i>
フジツボ科 <i>Family Balanidae</i>	ネコ亜目 <i>Suborder Fissipedia</i>
アカフジツボ亜科 <i>Subfamily Megabalaninae</i>	イヌ科 <i>Family Canidae</i>
チシマフジツボ <i>Balanus cariosus</i>	イヌ <i>Canis familiaris</i>
	アシカ亜目 <i>Suborder Pinnipedia</i>
	アシカ科 <i>Family Otariidae</i>
	アシカ属 <i>Genus Zalophus</i>
	ウマ目(奇蹄目) <i>Order Perissodactyla</i>
	ウマ科 <i>Family Equidae</i>
	ウマ <i>Equus caballus</i>
	ウシ目(偶蹄目) <i>Order Artiodactyla</i>
	イノシシ科 <i>Family Suidae</i>
	イノシシ <i>Sus scrofa</i>
	シカ科 <i>Family Cervidae</i>
	ニホンジカ <i>Cervus nippon</i>

表3 骨貝類同定結果(1)

試料番号	遺構名	種類	部位	左	右	部分	数量		被熱	備考	
K-1	B3号竪穴建物 (SI13)	腹足綱	殻			破片	1				
		イガイ科	殻	左			破片	2			
						右	破片	1			
		イソシジミ類	殻	左			破片	4			
						右	破片	5			
		マルスダレガイ科	殻	左			破片	51			
						右	破片	36			
		アサリ	殻	左			略完	3			
							破片	252			
						右	略完	6			
							破片	279			
オオノガイ	殻			右	破片	1					
二枚貝綱	殻				破片	675.45	g				
貝類	殻				破片	69.67	g				
K-2	75号土坑 (SKK11)	シラトリモドキ	殻	左	右	略完	1			合貝	
				左		破片	5				
		シラトリモドキ	殻			右	破片	2			
		マルスダレガイ科	殻			右	破片	2			
		アサリ	殻	左			破片	1			
						右	破片	2			
		オオノガイ	殻	左			破片	1			
二枚貝綱	殻				破片	6.04	g				
K-3	76号土坑 (SKK12)	腹足綱	殻			破片	3				
		クボガイ類	殻			破片	2				
		スガイ	殻				略完	1			
		ヒメシラトリ	殻	左			破片	5			
						右	破片	2			
		シラトリモドキ	殻	左			破片	2			
						右	破片	2			
		イソシジミ類	殻	左			破片	2			
						右	破片	2			
		マテガイ類	殻				破片	7			
		マルスダレガイ科	殻	左			破片	91			
						右	破片	74			
		カガミガイ類	殻	左			破片	2			
		オニアサリ	殻	左			略完	2			
		アサリ	殻	左			略完	37			
							破片	187			
						右	略完	48			
						右	破片	221			
		ウチムラサキ	殻			右	破片	1			
		オオノガイ	殻	左			破片	1			
						右	破片	3			
		チシマフジツボ	殻				破片	1			
		二枚貝綱	殻				破片	291.95	g		
					破片	0.79	g	○			
貝類	殻				破片	18.83	g				
獣類	不明				破片	1					
					破片	2		○			
植物遺体					破片	1					
土器					破片	1					
K-4	76・77号土坑 (SKK12・13)	腹足綱	殻			破片	3				
		ニシキウズガイ科	殻			破片	1				
		エゾタマガイ?	殻			破片	1				
		タマガイ科	殻			破片	1				
		ヒメシラトリ	殻	左		右	略完	1			合貝
					略完	1					
	右				略完	2					

表3 骨貝類同定結果(2)

試料番号	遺構名	種類	部位	左	右	部分	数量		被熱	備考	
K-4	76・77号土坑 (SKK12・13)	イソシジミ類	殻	左		破片	6				
					右	略完	1				
					右	破片	1				
		マテガイ類	殻	左		破片	1				
						破片	2				
		マルスダレガイ科	殻	左		破片	11				
					右	破片	15				
		オニアサリ	殻	左		略完	1				
		アサリ	殻	左		略完	31				
				左		破片	121				
					右	略完	38				
					右	破片	111				
		ウチムラサキ	殻		右	破片	1				
		オオノガイ	殻		右	破片	3				
		二枚貝綱	殻			破片	107.98	g			
		貝類	殻			破片	6.68	g			
K-5	77号土坑 (SKK13)	腹足綱	殻			破片	12				
		クボガイ類	殻			破片	2				
		スガイ	殻			略完	2				
						略完	1				
		タマガイ科	殻			破片	1				
		チヂミボラ	殻			略完	1				
						破片	1				
		イガイ科?	殻			破片	1				
		マガキ	殻	左		破片	1				
		ミルクイ	殻	左		破片	1				
		ヒメシラトリ	殻	左		略完	10				
				左		破片	1				
					右	略完	8				
					右	破片	7				
		シラトリモドキ	殻	左	右	略完	3				合具
				左		略完	2				
				左		破片	5				
					右	略完	2				
					右	破片	4				
		イソシジミ類	殻	左		略完	1				
				左		破片	14				
					右	破片	21				
		マテガイ類	殻	左		破片	2				
					右	破片	5				
						破片	7				
		マルスダレガイ科	殻	左		破片	303				
				左		破片	2			○	
				右		破片	297				
		カガミガイ	殻		右	略完	1				
		カガミガイ類	殻	左		破片	1				
		オニアサリ	殻	左	右	略完	1				合具
				左		破片	2				
	右			略完	2						
	右			破片	2						
アサリ	殻	左		略完	161						
		左		破片	768						
			右	略完	173						
			右	破片	753						
ウチムラサキ	殻	左	右	略完	1				合具		
		左		破片	1						

表3 骨貝類同定結果 (3)

試料番号	遺構名	種類	部位	左	右	部分	数量		被熱	備考	
K-5	77号土坑 (SKK13)	オオノガイ	殻	左		破片	7				
					右	破片	10				
		チシマフジツボ	殻			破片	2				
		二枚貝綱	殻			破片	956.35	g			
		貝類	殻			破片	82.23	g			
		獣類	不明			破片	1				
						破片	2		○		
K-6	3号溝 (SDK01)	ウマ	上顎第1後臼 歯?		右	破片	1				
			上顎第2後臼 歯?		右	破片	1				
			上顎第3後臼 歯?		右	破片	1				
			上顎歯牙			破片	56				
						破片	32.61	g			
K-7	3号溝 (SDK01)	ヒト	頭蓋骨			破片	49		+		
			脳頭蓋骨			破損	1				
						破片	8				
						斜台部	1				
			側頭骨	左		破片	1				
			蝶形骨			破片	1				
			下顎骨		右	破片	1			M2 植立	
			下顎骨? 第1頸椎			関節突起?	1				
			破片	1							
K-8	17号土坑	アシカ属	上腕骨	左		破損	1				
K-9	53号土坑 (SK56)	ニホンジカ	角			破片	19	+			
			下顎骨		右	破片	1			P3-M3 植立	
			基節骨			略完	1				
			中節骨			略完	1				
		ニホンジカ?	大腿骨			遠位端破片	1				
		獣類	仙骨			破片	1				
			肋骨			破片	1	+			
			四肢骨			破片	4				
肋骨/四肢骨				破片	1						
			不明			4.79	g				
K-10	76号土坑 (SKK12)	アサリ	殻	左		破片	1				
		メバル類	上擬鎖骨		右	破片	1				
		スズキ属	尾椎			略完	1				
		ハタ類	上舌骨	左		破片	1				
			尾椎			破片	1				
		ハタ類?	主鰓蓋骨		右	破片	1				
		カワハギ科	背鱗棘			破片	1				
		ソウダガツオ属	尾椎			略完	1				
		魚類	前上顎骨/歯骨			破片	1				
			前鰓蓋骨			破片	2				
			肩甲骨			破片	1				
			腹椎			破片	1				
			下尾骨			破片	2				
			棘鱗等			破片	6.63	g			
			不明			破片	1.39	g			
		サギ類	大腿骨	左		近位端	1				
		クイナ科	鳥口骨		右	近位端	1				
		鳥類	橈骨			近位端破片	1				
		イノシシ	頭蓋骨	左		耳骨胞	1				
			中節骨			略完	1			近位端未化骨 外れ	
			第2/5中足骨			略完	1			遠位端未化骨 外れ	
			第2/5基節骨			略完	1			近位端未化骨 外れ	
			第2/5中節骨			略完	1				
				略完	1			近位端未化骨 外れ			
第2/5末節骨				略完	1						
末節骨			略完	1							

表3 骨貝類同定結果(4)

試料番号	遺構名	種類	部位	左	右	部分	数量		被熱	備考		
K-10	76号土坑 (SKK12)	ニホンジカ	頭蓋骨		右	岩様骨	1					
			下顎第3前臼歯		右	略完	1			未出歯牙		
			下顎第4前臼歯		右	略完	1			未出歯牙		
			胸椎					椎体破片	1			
								破片	1			
			尺骨	左			近位端	1				
			第2+第3手根骨		右		略完	1				
			距骨	左			略完	1				
			中足骨				近位端欠	1			遠位端未化骨	
			基節骨				略完	2				
		中節骨				略完	1					
		末節骨				略完	1					
		ニホンジカ?	距骨		右		破片	1				
		大型獣類	肋骨				破片	2				
		獣類	頭蓋骨				破片	1				
			下顎骨?				破片	4				
			歯牙				破片	1				
			頸椎				椎体破片	1				
			胸椎				椎体板	2				
			尾椎				略完	1				
			肋骨				破片	10				
			肋骨?				破片	5				
			四肢骨				破片		13			
			肋骨/四肢骨				破片	11				
			大腿骨				近位端	1			未化骨骨端	
			不明					破片	17.56	g		
								破片	8		○	
		不明	不明				破片	84.63	g			
		土器					破片	2				
		K-11	76・77号土坑 (SKK12・13)	マテガイ類	殻		右	破片	2			
				二枚貝綱	殻			破片	1			
				スズキ属?	尾椎				略完	1		
				クロダイ属	前上顎骨	左		略完	1			
魚類	主上顎骨			左			破片	1				
	歯骨				右		破片	1				
	口蓋骨						破片	1				
	椎骨						破片	1				
	棘鱗等						破片	1.41	g			
	不明						破片	0.85	g			
イノシシ	下顎第3後臼歯				右		略完	1			未出歯牙	
	肩甲骨			左			破片	1				
				左			破片	1			幼獣	
					右		破片	1			幼獣	
	第2/5中手骨/中足骨						遠位端欠	1				
	第4足根骨				右		略完	1				
	第2/5基節骨						略完	2				
第2/5中節骨						略完	1					
ニホンジカ	角						破片	1				
	下顎骨			左			下顎枝	1				
					右		下顎枝欠	1			P2-M2 植立.M3 途中	
	胸椎						略完	1			椎体板未化骨	
							破損	1			椎体板未化骨	
	上腕骨		右		遠位端	1			Bd.44.12			
	尺側手根骨	左			略完	1						
	第2+第3手根骨	左			破片	1						
	中手骨/中足骨				遠位端破片	2						
	大腿骨		右		遠位端破片	1						

表3 骨貝類同定結果 (5)

試料番号	遺構名	種類	部位	左	右	部分	数量		被熱	備考		
K-11	76・77号土坑 (SKK12・13)	ニホンジカ	距骨	左		略完	1					
			中足骨		右	近位端	1					
			破片				2					
			基節骨			略完	1					
				中節骨			略完	1				
		大型獣類	肋骨				破片	13				
			踵骨	左			破片	1				
		獣類	椎骨				椎体板	2				
							椎体破片	2				
				肋骨			破片	10				
				肋骨?			破片	2				
				四肢骨			破片	15				
				肋骨/四肢骨			破片	19				
				不明			破片	55.36	g			
				不明	不明		破片	32.51	g			
		K-12	77号土坑 (SKK13)	マガキ	殻	左		破片	1			
				貝類	殻			破片	3		○	
フナ属	腹椎					略完	1					
スズキ属	前上顎骨			左			破片	1				
	主上顎骨				右		略完	1				
	前鰓蓋骨				右		破片	1				
	上擬鎖骨				右		略完	2				
	尾椎						略完	1				
サバ属	尾椎					略完	1					
カレイ類	腹椎					破片	1					
ハタ類	角舌骨				右		破片	1				
	主鰓蓋骨			左			破片	1				
				右			破片	1				
	尾椎					略完	1					
カワハギ科	尾椎					略完	1					
カツオ?	前上顎骨				右		破片	1				
ソウダガツオ属?	椎骨						破片	1				
魚類	前上顎骨/歯骨						破片	2				
	咽頭骨						破片	1				
	前鰓蓋骨						破片	1				
	腹椎						破片	1				
	終尾椎						略完	2				
	椎骨						破片	6				
	棘鱗等						破片	12.11	g			
	不明						破片	5.79	g			
キジ類	橈骨			左			近位端欠	1				
				右			近位端欠	1				
キジ類?	橈骨			左			近位端	1				
鳥類	上腕骨						破片	1				
	四肢骨						破片	1				
イヌ	第4中足骨			左			遠位端欠	1				
イノシシ	下顎門歯						破片	1				
	肩甲骨			左			破片	1				
	第4中手骨				右		略完	1			GL.82.53	
	第2/5中手骨						略完	1			遠位端未化骨外れ	
	第2/5中手骨/中足骨						近位端欠	1			遠位端未化骨外れ	
	中手骨/中足骨						遠位端	1			未化骨骨端	
	中手骨/中足骨						破片	1				
	基節骨						近位端破片	1			未化骨骨端	
	第2/5中節骨						略完	1				
	第2/5末節骨				略完	1						

表3 骨貝類同定結果(6)

試料番号	遺構名	種類	部位	左	右	部分	数量		被熱	備考		
K-12	77号土坑 (SKK13)	ニホンジカ	下顎骨	左		破片	1			M3破片植立		
					右	破片	1					
			下顎第4門歯		右	破片	1					
			歯牙			破片	8					
			涙骨			破片	1					
			胸椎			破損	4				椎体板未化骨 外れ	
						椎体	1				椎体板未化骨 外れ	
						破片	2					
			尾椎			破片	3					
			椎骨			椎体板	6					
			椎骨?			棘突起?	10					
			橈骨			遠位端	1	右				Bd,42.65
			橈側手根骨			略完	1	右				
			中間手根骨			略完	2	右				
			尺側手根骨			略完	1	左				
			副手根骨			略完	1	右				
			中手骨			近位端	1	右				Bp,31.46
						近位端欠	1					Bd,35.16
			膝蓋骨			略完	1	左				
						略完	1	右				
			中心+第4足根骨			略完	1	左				
						破損	1	左				
						略完	1	右				
						破片	1	右				
			第2+第3足根骨			略完	1	左				
						略完	1	右				
			中足骨			近位端	1	左				Bp,29.21
			中手骨/中足骨			遠位端	1					未化骨骨端
						遠位端破片	3					
						破片	4					
			基節骨			略完	1					近位端未化骨
			中節骨			略完	2					
			第2/5中節骨			略完	1					
		末節骨			略完	3						
		第2/5末節骨			破片	1						
		第2/3種子骨			略完	2						
		第1/4種子骨			略完	1						
		大型獸類			肋骨			破片	37			
		獸類			下顎骨			破片	3			
					下顎骨?			破片	1			
					歯牙			破片	1			
					仙骨?			破片	1			
					椎骨			破片	1			
					肋骨			破片	19			
					四肢骨			破片	19			
					肋骨/四肢骨			破片	69			
					不明			破片	26.43	g		
								破片	4		○	
		不明			不明			破片	1		赤色顔料? 付着	
								破片	154.67	g		
								破片	6		○	

ガミガイ類、オニアサリ、ウチムラサキ、オオノガイなどが検出される。この他、腹足綱のクボガイ類・スガイ、チシマフジツボ、獸類の部位不明破片が検出される。これらの中には、焼けているものが含まれる。

< K-4: 76・77号土坑 >

二枚貝類のアサリを主体として、ヒメシラトリ、イソシジミ類、マテガイ類、オニアサリ、ウチムラサキ、オオノガイなどが検出される。この他には、腹足綱のニシキウズガイ科、タマガイ科、エゾタマガイ?が検出される。

表4 アサリ計測結果

試料	左右	殻長	殻高	試料	左右	殻長	殻高	試料	左右	殻長	殻高	試料	左右	殻長	殻高	試料	左右	殻長	殻高	試料	左右	殻長	殻高
K-1	左	28.57	20.97	K-3	右	27.85	20.90	K-5	左	35.78	25.78	K-5	左	29.81	23.75	K-5	右	37.17	28.86	K-5	右	31.54	22.91
	左	29.66	22.47		右	27.71	20.09		左	35.62	24.98		左	33.87	23.84		右	35.32	23.29		右	32.45	24.59
	左	37.84	26.83		右	26.68	20.11		左	37.79	24.90		左	30.18	21.93		右	35.83	24.87		右	30.63	23.93
	右	35.83	25.32		右	32.28	23.29		左	34.85	25.99		左	29.98	21.89		右	37.74	24.98		右	32.08	22.72
	右	35.93	26.03		右	25.87	19.64		左	29.82	22.23		左	31.87	23.55		右	33.33	25.03		右	30.50	23.53
	右	30.69	20.52		右	27.35	19.64		左	43.20	30.35		左	26.73	22.23		右	28.15	22.60		右	38.10	27.62
	右	26.28	18.96		右	28.03	19.73		左	39.16	29.60		左	30.09	22.97		右	30.87	23.31		右	34.21	24.44
	右	28.88	21.63		右	22.78	17.19		左	36.93	25.81		左	27.41	20.84		右	32.01	22.95		右	31.69	22.09
	右	35.12	24.41		右	20.79	15.62		左	43.57	32.36		左	27.78	21.64		右	31.83	22.59		右	31.74	24.00
	右	44.71	32.05		右	22.01	17.02		左	43.56	30.26		左	26.90	20.22		右	29.82	21.97		右	32.41	23.34
K-3	左	40.13	30.62	K-4	左	39.07	27.02	左	44.15	30.27	左	26.72	19.79	右	29.24	21.17	右	30.15	22.57				
	左	36.06	27.52		左	35.89	25.06	左	38.22	28.89	左	28.27	20.21	右	28.41	20.72	右	30.66	22.87				
	左	36.86	27.55		左	31.37	23.25	左	34.86	26.33	左	27.07	20.42	右	29.27	20.66	右	29.71	21.47				
	左	33.29	24.15		左	36.66	27.07	左	32.94	25.26	左	27.57	19.91	右	29.02	20.78	右	31.29	22.04				
	左	32.20	23.41		左	35.93	24.79	左	36.89	26.14	左	27.64	21.89	右	29.89	22.01	右	29.50	22.05				
	左	32.99	22.53		左	31.52	23.72	左	37.66	27.22	左	25.91	18.47	右	35.21	24.75	右	34.72	25.96				
	左	32.43	24.16		左	29.79	21.78	左	35.51	27.11	左	27.40	21.61	右	36.71	25.41	右	29.09	21.47				
	左	31.87	24.75		左	36.48	26.05	左	34.58	24.69	左	26.96	21.98	右	36.07	25.16	右	29.84	22.81				
	左	31.69	22.25		左	30.38	23.30	左	36.32	26.31	左	25.14	18.99	右	31.01	24.70	右	31.66	23.24				
	左	31.72	23.90		左	31.54	23.00	左	36.10	25.93	左	31.12	23.32	右	36.80	26.73	右	30.75	22.66				
左	31.83	23.00	左	32.28	22.37	左	32.77	26.02	左	31.52	22.18	右	38.09	26.91	右	30.86	22.53						
左	33.22	23.71	左	33.06	23.30	左	35.22	25.49	左	30.50	20.58	右	35.45	25.28	右	30.33	21.70						
左	31.83	23.78	左	28.75	22.42	左	33.24	23.70	左	29.91	21.32	右	34.88	24.87	右	26.27	20.67						
左	31.87	23.53	左	31.23	22.99	左	35.05	24.61	左	31.48	25.40	右	30.94	23.00	右	30.12	21.92						
左	30.16	22.88	左	31.19	23.51	左	33.19	25.74	左	31.08	22.59	右	31.61	22.43	右	28.33	19.92						
左	31.94	22.63	左	32.35	22.86	左	31.77	23.78	左	27.99	22.54	右	32.92	22.89	右	27.61	21.51						
左	28.60	20.91	左	29.81	22.54	左	31.92	23.47	左	29.56	22.05	右	31.15	22.14	右	28.81	20.21						
左	28.22	22.19	左	29.94	21.84	左	38.66	29.35	左	31.30	22.55	右	32.17	22.28	右	27.89	21.02						
左	31.30	22.01	左	28.16	22.40	左	36.91	25.57	左	28.36	21.17	右	32.24	23.23	右	27.91	21.30						
左	28.64	21.05	左	32.22	24.79	左	33.81	23.44	左	27.64	20.68	右	33.01	22.61	右	26.37	19.21						
左	30.14	20.41	左	28.88	21.56	左	35.31	26.14	左	26.40	20.00	右	32.84	23.28	右	29.62	20.90						
左	31.64	24.27	左	27.13	19.10	左	37.35	28.40	左	28.76	19.53	右	31.85	23.07	右	28.42	21.02						
左	30.05	21.74	左	27.76	21.98	左	38.80	27.72	左	27.18	20.45	右	31.24	24.25	右	29.25	20.27						
左	26.91	19.23	左	29.88	22.14	左	37.04	25.62	左	27.99	21.61	右	32.22	22.77	右	28.37	20.14						
左	29.36	21.63	左	30.82	22.59	左	35.94	26.65	左	28.00	21.30	右	33.22	24.67	右	27.72	20.36						
左	25.41	18.72	左	27.49	19.88	左	38.18	27.39	左	28.34	23.52	右	31.13	22.39	右	27.28	19.87						
左	28.65	21.41	左	24.44	18.06	左	32.91	25.36	左	25.41	18.77	右	32.84	23.21	右	27.37	20.30						
左	29.38	20.90	左	28.23	21.15	左	38.90	27.99	左	26.76	19.93	右	30.53	22.27	右	27.41	19.99						
左	26.16	20.15	左	24.55	19.70	左	37.21	25.87	左	29.46	20.15	右	31.17	21.95	右	27.04	20.11						
左	28.37	21.35	左	26.32	19.55	左	36.63	26.27	左	34.51	25.49	右	29.18	22.38	右	28.68	21.40						
左	26.95	19.73	左	23.24	17.64	左	33.81	23.63	左	31.97	23.71	右	29.78	22.51	右	28.75	21.67						
左	25.41	19.34	右	39.65	27.85	左	35.44	26.07	左	31.94	23.95	右	29.72	22.14	右	27.34	19.18						
左	26.81	20.24	右	30.04	22.73	左	30.63	23.15	左	31.57	24.83	右	27.67	21.44	右	25.89	17.79						
左	25.23	18.29	右	37.82	27.89	左	35.24	24.70	左	31.87	22.69	右	30.65	21.90	右	27.94	20.11						
左	24.14	19.11	右	35.75	25.91	左	29.53	22.62	左	28.77	22.43	右	27.59	20.96	右	27.53	19.97						
左	22.83	15.76	右	32.02	23.19	左	30.71	21.84	左	32.56	24.13	右	29.59	21.42	右	26.65	19.13						
右	40.73	29.24	右	33.46	23.75	左	31.75	22.92	左	28.95	21.27	右	30.25	22.63	右	27.46	20.51						
右	42.76	30.41	右	34.46	25.24	左	37.03	24.15	左	30.21	21.98	右	34.61	24.34	右	26.33	19.71						
右	34.78	23.58	右	36.85	25.46	左	33.11	24.15	左	30.37	23.24	右	35.91	26.05	右	24.81	17.89						
右	37.54	27.19	右	31.35	22.03	左	34.54	24.06	左	27.17	20.39	右	36.30	26.98	右	23.36	18.27						
右	37.26	27.98	右	31.17	22.95	左	34.59	26.20	左	30.84	22.63	右	36.98	24.71	右	25.62	18.52						
右	35.76	27.69	右	31.54	23.93	左	31.53	22.72	左	30.85	23.41	右	36.70	25.59	右	24.84	17.86						
右	35.45	25.38	右	30.91	24.04	左	31.10	22.46	左	31.23	22.86	右	36.05	25.77	右	26.64	19.38						
右	34.16	25.24	右	28.42	20.61	左	31.03	23.88	左	30.56	23.09	右	36.47	27.31	右	21.90	16.80						
右	29.45	23.80	右	29.62	21.42	左	29.06	22.33	左	30.37	22.26	右	37.24	27.26	右	31.50	23.50						
右	30.00	21.03	右	29.28	20.99	左	29.60	21.05	左	30.46	20.94	右	36.89	28.23	右	28.07	19.93						
右	29.62	21.59	右	32.34	23.42	左	30.58	23.88	左	26.35	19.46	右	33.02	24.05	右	26.74	19.31						
右	33.74	25.38	右	27.68	19.15	左	29.89	22.97	左	29.31	22.64	右	35.40	26.86	右	28.93	21.51						
右	36.50	26.59	右	31.02	23.52	左	33.15	24.95	左	29.26	21.21	右	34.10	25.24	右	29.11	21.47						
右	38.01	28.71	右	27.99	19.69	左	31.26	23.97	左	28.02	21.75	右	34.64	23.55	右	29.04	20.03						
右	39.57	28.86	右	34.03	24.84	左	33.28	23.39	左	26.53	19.93	右	33.90	22.94	右	28.68	21.66						
右	32.32	24.28	右	30.35	20.63	左	27.01	19.86	左	24.71	19.64	右	33.08	25.20	右	27.98	21.35						
右	33.42	23.75	右	29.85	21.87	左	28.91	22.88	左	32.44	22.02	右	32.52	23.89	右	29.20	20.05						
右	33.19	22.63	右	31.61	23.16	左	31.26	23.33	左	29.23	21.31	右	31.04	22.48	右	25.93	19.74						
右	31.45	22.37	右	25.52	18.46	左	32.07	23.32	左	28.24	21.13	右	31.72	22.36	右	28.23	21.47						
右	28.64	21.57	右	29.93	20.75	左	33.32	24.34	左	28.27	20.98	右	31.70	22.53	右	28.17	21.12						
右	30.64	22.18	右	26.93	19.92	左	29.13	22.46	左	29.22	21.95	右	29.54	21.42	右	26.91	20.08						
右	28.10	21.74	右	27.64	21.45	左	29.14	20.71	左	26.64	20.16	右	31.20	23.53	右	25.99	18.84						
右	29.45	21.75	右	31.67	22.77	左	25.53	18.63	左	27.27	20.30	右	30.15	22.39	右	27.02	19.13						
右	28.04	21.43	右	27.14	19.58	左	25.76	20.61	左	22.37	17.05	右	30.99	21.83	右	25.31	20.12						
右	31.63	21.99	右	25.93	18.49	左	27.11	20.19	左	19.79	15.08	右	29.19	21.51	右	26.3							

表5 アサリ以外の計測結果

種類	試料	左右	殻長	殻高	種類	試料	左右	殻長	殻高	
スガイ	K-5	-	-	23.16	シラトリモドキ	K-2	左右	30.27	26.43	
スガイ	K-5	-	-	10.79		K-5	左右	35.94	30.03	
チヂミボラ	K-5	-	-	35.42		K-5	左右	33.59	26.32	
ヒメシラトリ	K-4	左右	20.73	16.23		K-5	左右	30.95	23.42	
	K-4	左	25.05	19.56		K-5	左	34.05	26.82	
	K-4	右	25.86	20.39		K-5	左	32.84	25.62	
	K-4	右	25.48	19.43		K-5	右	34.63	27.32	
	K-5	左	27.33	19.36		K-5	右	34.1	28.41	
	K-5	左	25.56	20.01		イソシジミ類	K-4	右	48.34	36.21
	K-5	左	23.45	19.04			K-5	左	49.23	41.65
	K-5	左	25.93	19.8	オニアサリ	K-3	左	52.07	45.43	
	K-5	左	24.37	19.45		K-3	左	43.17	38.79	
	K-5	左	22.35	17.97		K-4	左	33.86	31.38	
	K-5	左	24.18	18.81		K-5	左右	38.94	36.04	
	K-5	左	22.84	18.9		K-5	右	40.66	35.09	
	K-5	左	24.39	19.39		K-5	右	42.66	37.13	
	K-5	左	22.72	18.37		カガミガイ	K-5	右	54.07	51.51
	K-5	右	24.85	18.24		ウチムラサキ	K-5	左右	58.99	45.23
	K-5	右	24.99	19.72	X					
	K-5	右	24.54	19.39						
	K-5	右	25.99	19.87						
K-5	右	24.85	19.62							
K-5	右	22.65	18.8							
K-5	右	22.8	18.7							
K-5	右	22.34	18.21							

< K-6 : 3号溝 >

ウマの上顎歯牙片である。これらの歯牙の中には、右上顎第1～3後臼歯の可能性のある破片がみられる。

< K-7 : 3号溝 >

ヒトの頭蓋骨、脳頭蓋骨、後頭骨、左側頭骨、蝶形骨、右下顎骨、第1頸椎などである。右下顎骨では、第2大臼歯が植立する。

< K-8 : 17号土坑 >

アシカ属の左上腕骨である。部分的に破損する。

< K-9 : 53号土坑 >

ニホンジカの角・右下顎骨・基

節骨・中節骨、ニホンジカの可能性がある大腿骨遠位端片、獣類の仙骨・肋骨・四肢骨・肋骨/四肢骨などである。右下顎骨では、第3前臼歯～第3後臼歯が植立する。

< K-10 : 76号土坑 >

骨を主体とする。メバル類の右上擬鎖骨、スズキ属の尾椎、ハタ類の左上舌骨・尾椎、ハタ類?の右主鰓蓋骨、カワハギ科の背鰭棘、ソウダガツオ属の尾椎、魚類の前上顎骨/歯骨・腹椎・前鰓蓋骨・下尾骨・肩甲骨・棘鰭等、サギ類の左大腿骨、クイナ科の右鳥口骨、鳥類の橈骨、イノシシの左頭蓋骨・第2/5中足骨・第2/5基節骨・第2/5中節骨・第2/5末節骨・末節骨、ニホンジカの右頭蓋骨・右下顎第3前臼歯・右下顎第4前臼歯・胸椎・胸椎・左尺骨・右第2+第3手根骨・左距骨・中足骨・基節骨・中節骨・末節骨、ニホンジカ?の右距骨片、大型獣類の肋骨、獣類の頭蓋骨・下顎骨?・歯牙・頸椎・胸椎・尾椎・肋骨・大腿骨・四肢骨などが検出される。また、アサリの左殻がみられる。これらの中には、焼けているものが含まれる。

なお、イノシシの第2/5中足骨・第2/5基節骨・第2/5中節骨、ニホンジカの中足骨・中節骨、獣類の大腿骨は骨端が未化骨である。また、ニホンジカの右下顎第3前臼歯・右下顎第4前臼歯は未出歯牙である。

< K-11 : 76・77号土坑 >

スズキ属?の尾椎、クロダイ属の左前上顎骨、魚類の左主上顎骨・右歯骨・口蓋骨・椎骨・棘鰭等、イノシシの左下顎第3後臼歯・左右肩甲骨・第2/5中手骨/中足骨・右第4足根骨・第2/5基節骨・第2/5中節骨、ニホンジカの角・左右下顎骨・胸椎・右上腕骨・左尺側手根骨・左第2+第3手根骨・らの中には、焼けているものが含まれる。

なお、イノシシの第2/5中足骨・第2/5基節骨・第2/5中節骨、ニホンジカの中足骨・中節骨、獣類の大腿骨は骨端が未化骨である。また、ニホンジカの右下顎第3前臼歯・右下顎第4前臼歯は未出歯牙である。

< K-11 : 76・77号土坑 7層 >

スズキ属?の尾椎、クロダイ属の左前上顎骨、魚類の左主上顎骨・右歯骨・口蓋骨・椎骨・棘鰭等、イノシシの左下顎第3後臼歯・左右肩甲骨・第2/5中手骨/中足骨・右第4足根骨・第2/5基節骨・

第2/5中節骨、ニホンジカの角・左右下顎骨・胸椎・右上腕骨・左尺側手根骨・左第2+第3手根骨・中手骨/中足骨・右大腿骨・左距骨・右中足骨・中足骨・基節骨・中節骨、大型獣類の肋骨・左踵骨、椎骨・肋骨・四肢骨などが検出される。またマテガイ類の右殻、二枚貝鋼の破片もみられる。

なお、イノシシの右下顎第3後臼歯は未出歯牙である。また、ニホンジカでは、右下顎骨は第2前臼歯～第2後臼歯が植立し、第3後臼歯が萌出途中であり、胸椎は椎体板が未化骨で外れる。

<K-12:77号土坑>

フナ属の腹椎、スズキ属の左前上顎骨・右上上顎骨・右前鰓蓋骨・右上疑鎖骨・尾椎、サバ属の尾椎、カレイ類の腹椎、ハタ類の右角舌骨・左右主鰓蓋骨・尾椎、カワハギ科の尾椎、カツオ?の右前上顎骨、ソウダガツオ属?の椎骨、魚類の前上顎骨/歯骨・咽頭骨・前鰓蓋骨・腹椎・終尾椎・椎骨・棘鱗等、キジ類の左右橈骨、鳥類の上腕骨・四肢骨、イヌの左第4中足骨、イノシシの下顎門歯・左肩甲骨・右第4中手骨・第2/5中手骨・第2/5中手骨/中足骨・中手骨/中足骨・基節骨・第2/5中節骨・第2/5末節骨、ニホンジカの涙骨・左右下顎骨・右下顎第4門歯・歯牙・胸椎・尾椎・椎骨・右橈骨・右橈側手根骨・右中間手根骨・右副手根骨・左尺側手根骨・右中手骨・左右膝蓋骨・左右中心+第4足根骨・左右第2+第3足根骨・左中足骨・中手骨/中足骨・基節骨・中節骨・第2/5中節骨・末節骨・第2/5末節骨・第2/3種子骨・第1/4種子骨、大型獣類の肋骨、獣類の下顎骨・歯牙・仙骨?・椎骨・肋骨・四肢骨などが検出される。また、マガキの左殻がみられる。これらの中には、焼けているものが含まれる。

なお、イノシシやニホンジカの中手骨/中足骨、指趾骨などには骨端が未化骨のものが含まれ、ニホンジカの胸椎は、椎体板が未化骨で外れる。また、ニホンジカの左下顎骨は、第3後臼歯が破片となっているが植立する状態が確認される。なお、本試料では、種類・部位ともに不明の破片であったが、赤色顔料のようなものが付着する状態が観察される。

4 考 察

本遺跡で検出される貝類の内、マルスダレガイ科としたものは、おそらくアサリの破片と思われる。そこで、遺構ごとに貝類の最小個体数を求めてみた(表6)。これで見ると、本遺跡で検出される貝類は、アサリおよびその破片と思われるマルスダレガイ科で90%以上となり、その他の種類は高くても2%以下で、大変は1%以下となる。遺構別にみると、77号土坑で最も多くの貝類が検出され、次いでB3号竪穴建物・76号土坑となる。

アサリは、北海道～九州・朝鮮半島・中国大陸沿岸に分布し、潮間帯中部～水深10mの砂礫泥底に棲息するとされている。この他の種類も、多くは同様な環境に棲息する。これらは、山田湾などの海浜部で採取され、持ち込まれたものと思われる。ただし、クボガイ類、スガイ、チヂミボラ、イガイ科など岩礁地に棲息する種類も僅かに検出されていることから、近隣の岩礁地帯にも赴いていたと考えられる。また、検出されるアサリは、大きさが比較的そろった状態にあり(図1)、殻長20～30mm程度の大きさとなっている。採取地で普通に採取できるサイズとみられ、それよりも大型のサイズはそれほど採取できなかつたと考えられる。

魚類では、フナ属・メバル類・スズキ属・ハタ類・クロダイ属・サバ属・ソウダガツオ属・カツオ?・カレイ類・カワハギ類が確認された。76・77号土坑でのみ確認される。フナ属は、淡水生の魚類であり、大沢川などで捕獲されたのであろう。メバル類・ハタ類・カワハギ類が浅い岩礁地、スズキ属・クロダイ属・サバ属・カレイ類が内湾域で、ソウダガツオ沖合などで採取されたと思われる。

表6 貝類遺構別最少個体数

種類	遺構	B3号堅 穴建物	75号 土坑	76号 土坑	76・77 号土坑	77号 土坑	3号溝	17号 土坑	53号 土坑	合計	比率 (%)
	試料	K-1	K-2	K-3 K-10	K-4 K-11	K-5 K-12	K-6 K-7	K-8	K-9		
クボガイ類				1		1				2	0.1%
ニシキウズガイ科					1					1	0.0%
スガイ				1		2				3	0.1%
エゾタマガイ?					1					1	0.0%
タマガイ科					1	1				2	0.1%
チヂミボラ						2				2	0.1%
イガイ科		2								2	0.1%
イガイ科?						1				1	0.0%
マガキ						2				2	0.1%
ミルクイ						1				1	0.0%
ヒメシラトリ				5	3	15				23	1.0%
シラトリモドキ			6	2		10				18	0.8%
イソシジミ類		5		2	6	21				34	1.5%
マテガイ類				1	2	5				8	0.4%
オニアサリ				2	1	5				8	0.4%
カガミガイ・カガミガイ類				2		1				3	0.1%
アサリ		285	2	269	152	929				1637	73.3%
ウチムラサキ				1	1	2				4	0.2%
マルスダレガイ科		51	2	91	15	305				464	20.8%
オオノガイ		1	1	3	3	10				18	0.8%
合計		344	11	380	186	1313	0	0	0	2234	100.0%
比率 (%)		15.4%	0.5%	17.0%	8.3%	58.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	

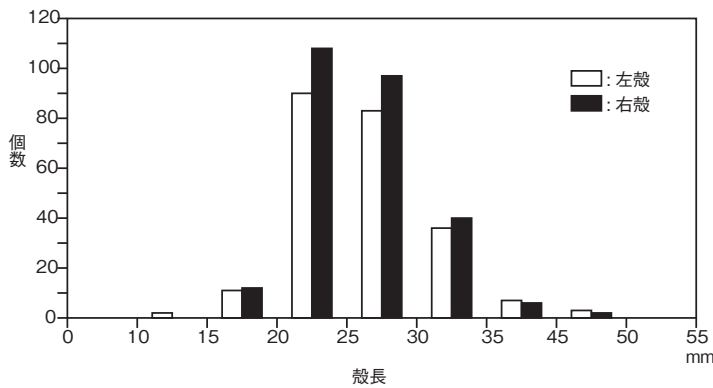


図1 アサリ殻長分布

鳥類のキジ類・クイナ科・サギ類、哺乳綱のイノシシ・ニホンジカなどは、食料資源として周辺後背地に棲息していたものが採取されたとみられる。検出される遺構が53・76・77号土坑に限定されており、これらの遺構の中に食物残渣などが廃棄されたと考えられる。種類別、遺構別に検出される破片数でみると（表7）、ニホンジカが最も多い。遺構

ごとにみると、76号土坑は最小1個体で、右下顎第3前臼歯と右下顎第4前臼歯が未出歯牙であることから2.5～3.5歳以下とみられる。77号土坑は左右中心+第4足根骨が2点みられることから最小2個体とみられ、内1体は第3後臼歯が萌出済であることから4歳以上、もう1体は四肢骨の骨端や胸椎椎体板が未化骨であることから幼～若獣と推定される。なお、76・77号土坑で右下顎骨の第3後臼歯が萌出途中であることから2.5～3.5歳程度となる。これより、前記した77号土坑で幼～若獣とした個体はこの年齢になる可能性もある。53号土坑は最小1個体で、右下顎骨の第3後臼歯が植立していることから4歳以上と考えられる。以上、ニホンジカの最小個体数は、2.5～3.5歳以下が1個体、4歳以上が2個体、幼～若獣が1個体、合計4個体となる。イノシシは、ニホンジカと比較して検出破片数は少ないが、左肩甲骨が3点検出されることから最小個体数は3個体とみられる。76・77号土坑とも中手骨/中足骨や指趾骨の骨端が未化骨であることから幼～若獣が含まれるとみ

表7 骨類種類別・遺構別破片数

種類	遺構	B3号堅 穴建物	75号 土坑	76号 土坑	76・77 号土坑	77号 土坑	3号溝	17号 土坑	53号 土坑	合計	比率 (%)
	試料	K-1	K-2	K-3 K-10	K-4 K-11	K-5 K-12	K-6 K-7	K-8	K-9		
フナ属						1				1	0.2%
メバル類				1						1	0.2%
スズキ属・スズキ属?				1	1	6				8	1.3%
ハタ類・ハタ類?				3		4				7	1.1%
クロダイ属					1					1	0.2%
サバ属						1				1	0.2%
ソウダガツオ属・ソウダガツオ属?				1		1				2	0.3%
カツオ?						1				1	0.2%
カレイ類						1				1	0.2%
カワハギ類				1		1				2	0.3%
魚類(鰭棘等・不明除く)				7	4	13				24	3.9%
キジ類・キジ類?						3				3	0.5%
クイナ科				1						1	0.2%
サギ類				1						1	0.2%
鳥類				1		2				3	0.5%
ヒト							64			64	10.5%
イヌ						1				1	0.2%
アシカ属								1		1	0.2%
ウマ							59			59	9.7%
イノシシ				8	9	10				27	4.4%
ニホンジカ・ニホンジカ?				14	17	74			23	128	20.9%
大型獣類				2	14	37				53	8.7%
獣類				50	50	114			7	221	36.2%
合計		0	0	91	96	270	123	1	30	611	100.0%
比率 (%)		0.0%	0.0%	14.9%	15.7%	44.2%	20.1%	0.2%	4.9%	100.0%	

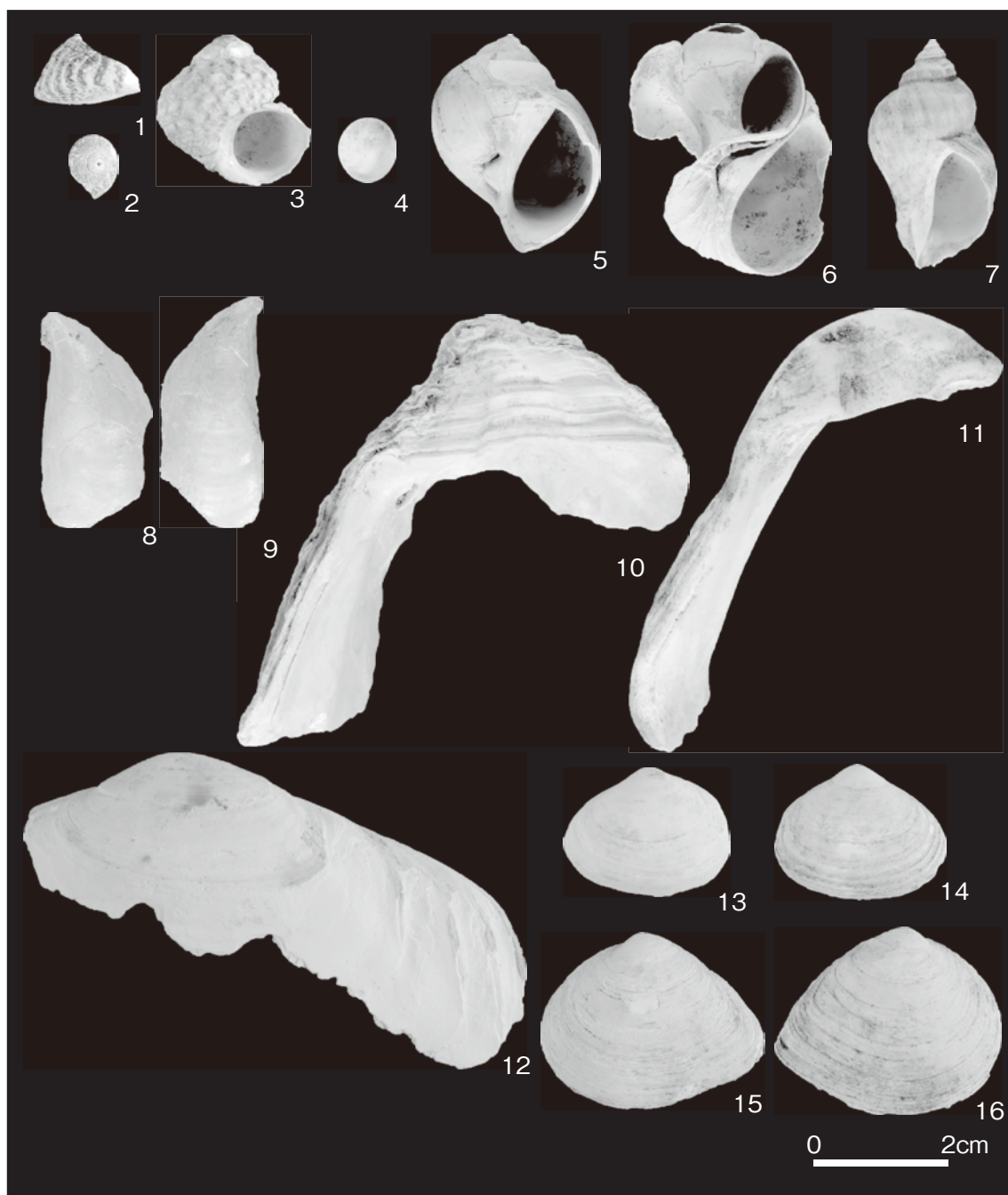
られる。残り1体は、76・77号土坑で見られる左肩甲骨の大きさから成獣の可能性はある。

ウマおよびヒトは、3号溝から出土する。ウマは、物資やヒトを運ぶ役割、軍用、農耕用など、多様な用途が考えられる。松井(1997)によると、ウマ・ウシの出土例を整理・分類すると、自然死・事故死、屠殺、犠牲に分類できるとしている。ただし、上顎歯牙のみが検出されており、部分的な検出であることから別の場所から二次的に流れ込んだ可能性もあり詳細不明である。ヒトは頭蓋および第1頸椎の破片が確認された。頭蓋では矢状縫合の外側が閉じていないものの、内側が閉塞していることから熟年(40～59歳程度)の可能性はある。また、外後頭骨突起と乳様突起が発達することから男性と判断される。アシカ属は17号土坑で左上腕骨が検出されている。沿岸部を回遊していたものを捕獲した可能性もある。ただし、76・77号土坑など他の骨や貝類などと同時に検出しておらず、食物残渣の廃棄等とは異なる取り扱いであった可能性もある。

引用文献

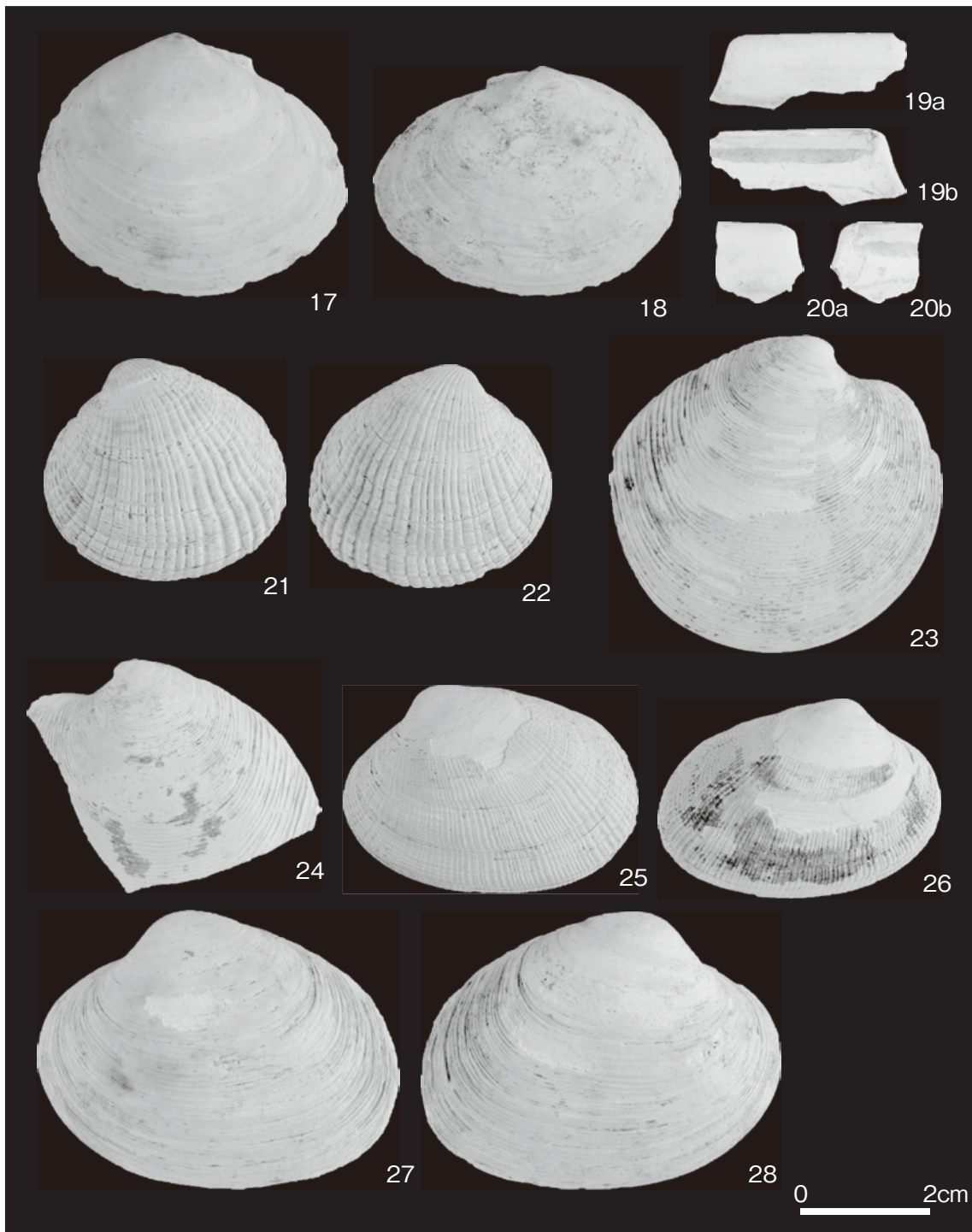
- 松井 章,1997,考古学から見た動物利用. 部落開放なら 8,2-31.
- 奥谷 喬司編著,2004,改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類. 株式会社世界文化社. 399p.
- 奥谷 喬司・窪寺 恒己・黒住 耐二・斎藤 寛・佐々木 猛智・土田 英治・土屋 光太郎・長谷川 和範・濱谷 巖・速水 格・堀 成夫・松隈 明彦,2000,日本近海産貝類図. 奥谷喬司編,東海大学出版会,1173p.

図1 出土骨貝類 (1)



- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1. クボガイ類殻 (K-3 ; 76号土坑) | 2. ニシキウズガイ科殻 (K-4 ; 76・77号土坑) |
| 3. スガイ殻 (K-5 ; 77号土坑) | 4. スガイ蓋 (K-5 ; 77号土坑) |
| 5. エゾタマガイ?殻 (K-4 ; 76・77号土坑) | 6. タマガイ科殻 (K-4 ; 76・77号土坑) |
| 7. チヂミボラ殻 (K-5 ; 77号土坑) | 8. イガイ科左殻 (K-1 ; B3号竪穴建物) |
| 9. イガイ科右殻 (K-1 ; B3号竪穴建物) | 10. マガキ左殻 (K-5 ; 77号土坑) |
| 11. マガキ左殻 (K-12 ; 77号土坑) | 12. ミルクイ左殻 (K-5 ; 77号土坑) |
| 13. ヒメシラトリ左殻 (K-3 ; 76号土坑) | 14. ヒメシラトリ右殻 (K-3 ; 76号土坑) |
| 15. シラトリモドキ左殻 (K-5 ; 77号土坑) | 16. シラトリモドキ右殻 (K-5 ; 77号土坑) |

図2 出土骨貝類 (2)



17. イソシジミ類左殻 (K-5 ; 77 号土坑)
 19. マテガイ類左殻 (K-5 ; 77 号土坑)
 21. オニアサリ左殻 (K-5 ; 77 号土坑)
 23. カガミガイ右殻 (K-5 ; 77 号土坑)
 25. アサリ左殻 (K-5 ; 77 号土坑)
 27. ウチムラサキ左殻 (K-5 ; 77 号土坑)

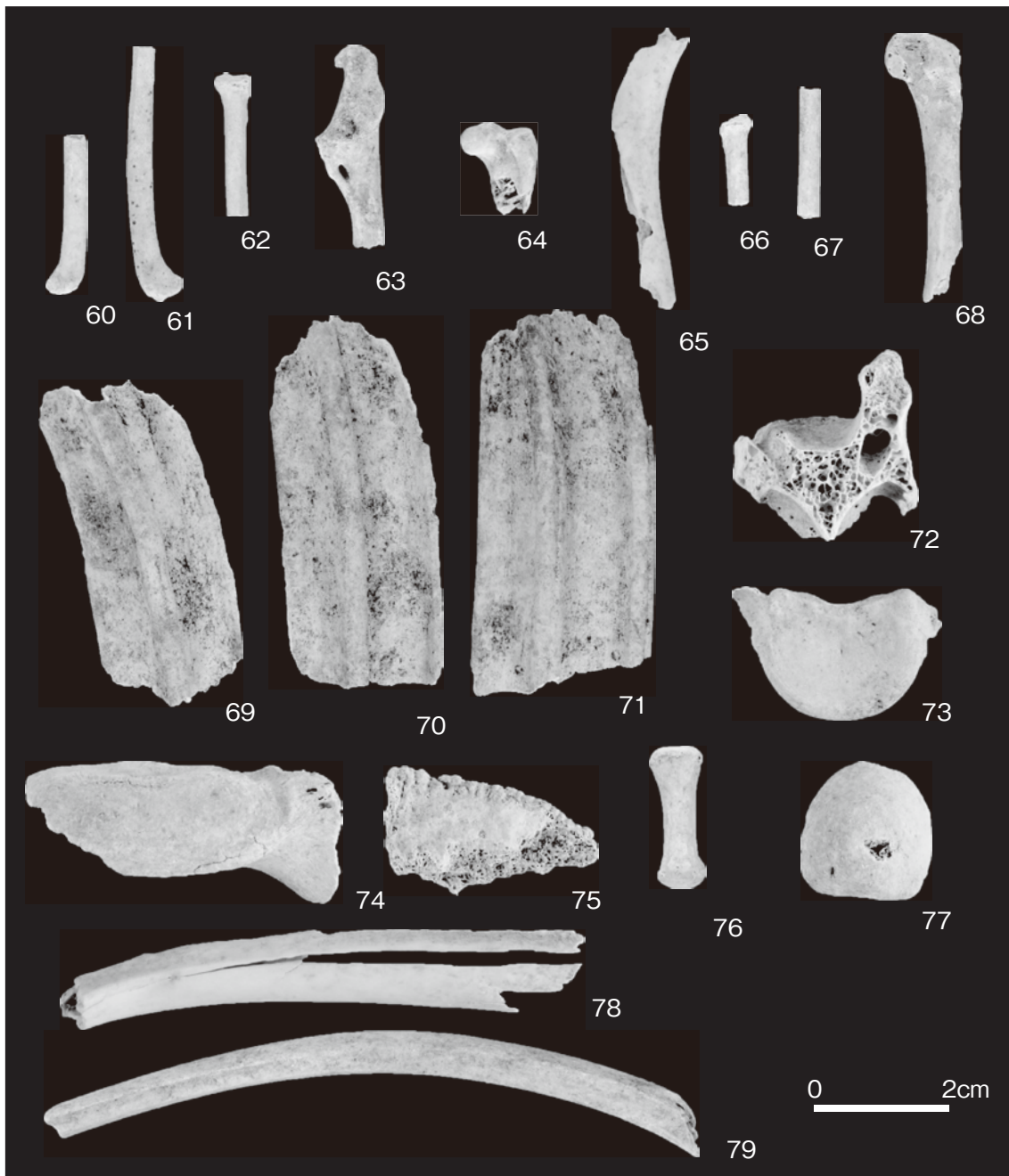
18. イソシジミ類右殻 (K-4 ; 76・77 号土坑)
 20. マテガイ類右殻 (K-5 ; 77 号土坑)
 22. オニアサリ右殻 (K-5 ; 77 号土坑)
 24. カガミガイ類左殻 (K-5 ; 77 号土坑)
 26. アサリ右殻 (K-5 ; 77 号土坑)
 28. ウチムラサキ右殻 (K-5 ; 77 号土坑)

図3 出土骨貝類 (3)



- | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 29. オオノガイ右殻 (K-5 ; 77 号土坑) | 30. オオノガイ左殻 (K-5 ; 77 号土坑) |
| 31. チシマフジツボ殻 (K-3 ; 76 号土坑) | 32. フナ属腹椎 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 33. メバル類右上擬鎖骨 (K-10 ; 76 号土坑) | 34. スズキ属左前上顎骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 35. スズキ属右上主上顎骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 36. スズキ属右前鰓蓋骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 37. スズキ属右上擬鎖骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 38. スズキ属尾椎 (K-10 ; 76 号土坑) |
| 39. ハタ類左主鰓蓋骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 40. ハタ類右主鰓蓋骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 41. ハタ類右角舌骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 42. ハタ類左上舌骨 (K-10 ; 76 号土坑) |
| 43. ハタ類尾椎 (K-12 ; 77 号土坑) | 44. クロダイ属左前上顎骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) |
| 45. サバ属尾椎 (K-12 ; 77 号土坑) | 46. ソウダガツオ属尾椎 (K-10 ; 76 号土坑) |
| 47. カツオ? 右前上顎骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 48. カレイ類腹椎 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 49. カワハギ科尾椎 (K-12 ; 77 号土坑) | 50. カワハギ科背鱗棘 (K-10 ; 76 号土坑) |
| 51. 魚類左上主上顎骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) | 52. 魚類右歯骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) |
| 53. 魚類口蓋骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) | 54. 魚類咽頭骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 55. 魚類肩甲骨 (K-10 ; 76 号土坑) | 56. 魚類前鰓蓋骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 57. 魚類下尾骨 (K-10 ; 76 号土坑) | 58. 魚類終尾椎 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 59. 種類部位不明破片 (K-12 ; 77 号土坑) | |

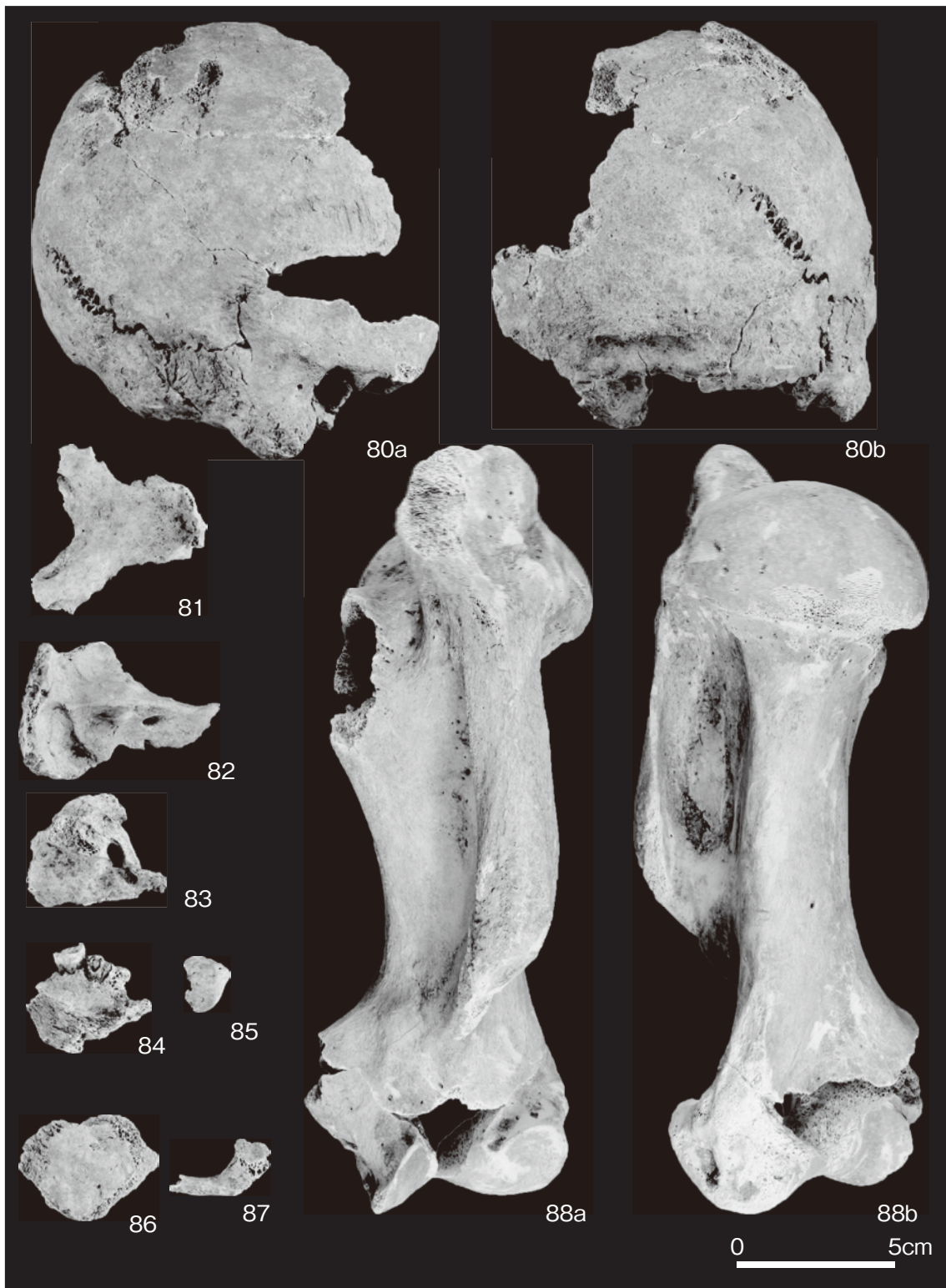
図4 出土骨貝類 (4)



60. キジ類左橈骨 (K-12; 77号土坑)
 62. キジ類?左橈骨 (K-12; 77号土坑)
 64. サギ類左大腿骨 (K-10; 76号土坑)
 66. 鳥類橈骨 (K-10; 76号土坑)
 68. イヌ左第4中足骨 (K-12; 77号土坑)
 70. ウマ右上顎第2後臼歯?(K-6; 3号溝)
 72. 獣類頸椎 (K-10; 76号土坑)
 74. 獣類仙骨 (K-9; 53号土坑)
 76. 獣類尾椎 (K-10; 76号土坑)
 78. 獣類肋骨 (K-9; 53号土坑)

61. キジ類右橈骨 (K-12; 77号土坑)
 63. クイナ科右鳥口骨 (K-10; 76号土坑)
 65. 鳥類上腕骨 (K-12; 77号土坑)
 67. 鳥類四肢骨 (K-12; 77号土坑)
 69. ウマ右上顎第3後臼歯?(K-6; 3号溝)
 71. ウマ右上顎第1後臼歯?(K-6; 3号溝)
 73. 獣類胸椎 (K-10; 76号土坑)
 75. 獣類仙骨?(K-12; 77号土坑)
 77. 獣類大腿骨 (K-10; 76号土坑)
 79. 獣類肋骨 (K-12; 77号土坑)

図5 出土骨貝類 (5)



- 80. ヒト脳頭蓋骨 (K-7 ; 3号溝)
- 82. ヒト左側頭骨 (K-7 ; 3号溝)
- 84. ヒト右下顎骨 (K-7 ; 3号溝)
- 86. ヒト脳頭蓋骨 (K-7 ; 3号溝)
- 88. アシカ属左上腕骨 (K-8 ; 17号土坑)

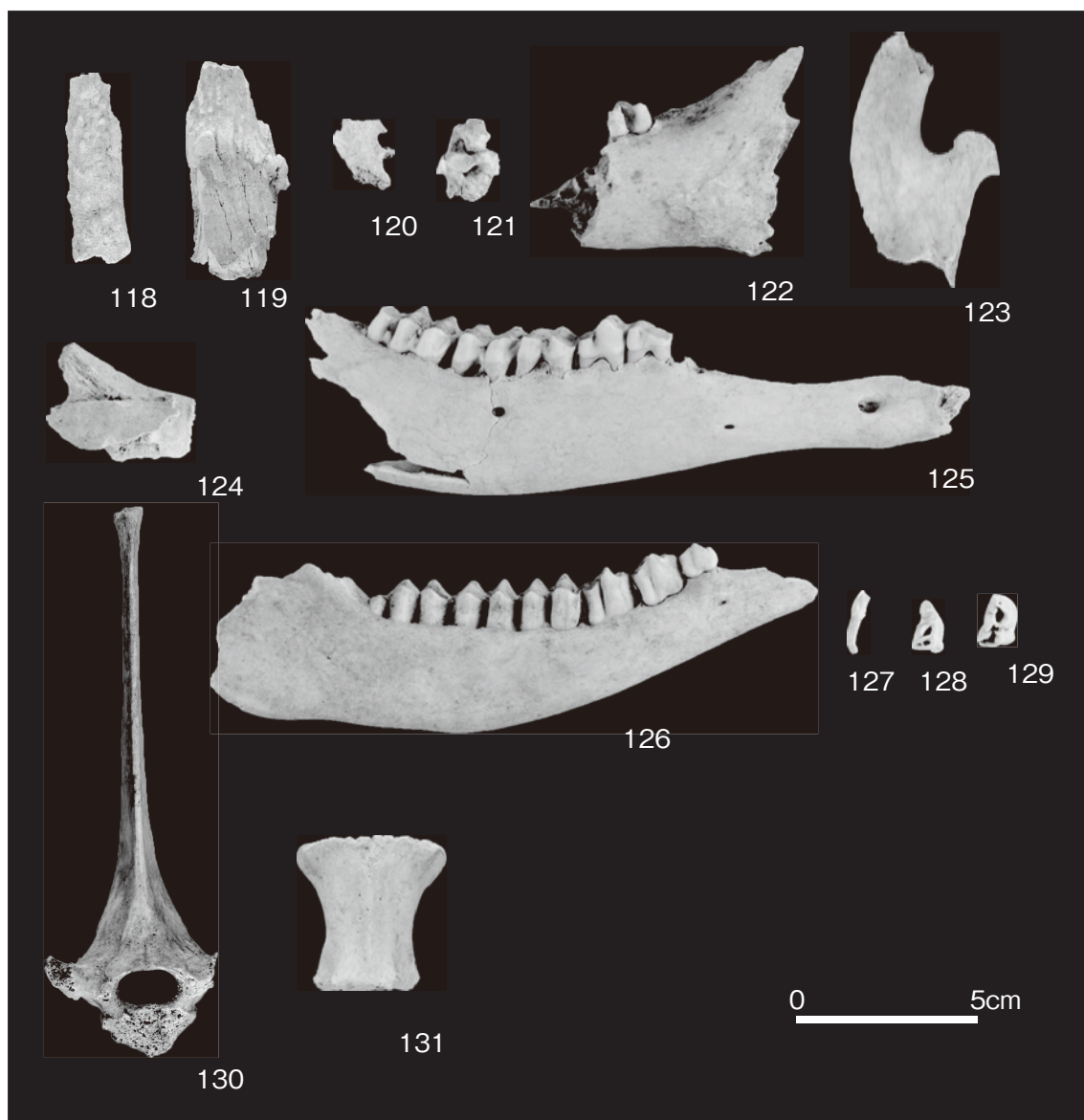
- 81. ヒト後頭骨 (K-7 ; 3号溝)
- 83. ヒト蝶形骨 (K-7 ; 3号溝)
- 85. ヒト下顎骨?(K-7 ; 3号溝)
- 87. ヒト第1頸椎 (K-7 ; 3号溝)

図6 出土骨貝類 (6)



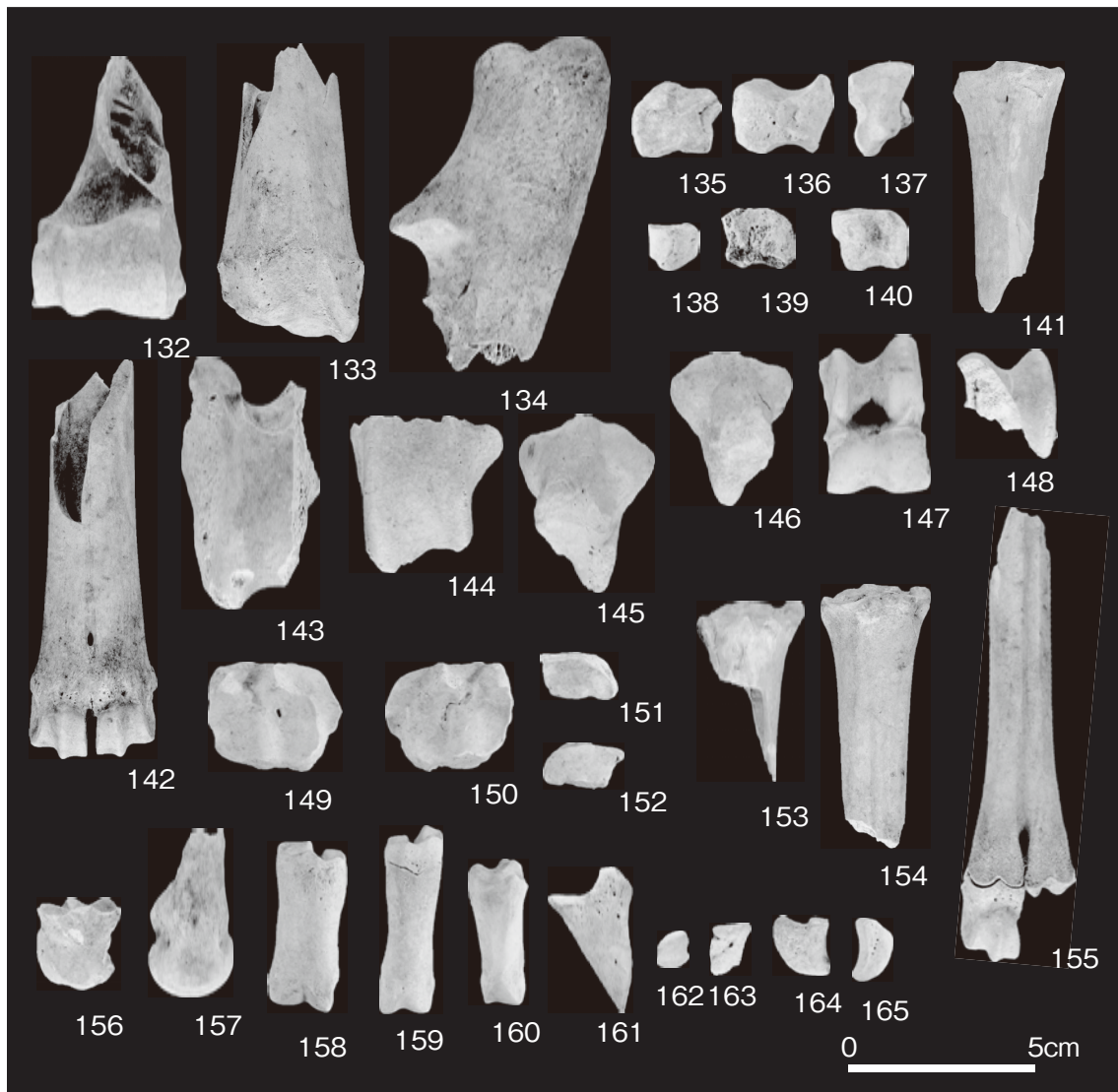
- | | |
|--|---|
| 89. イノシシ左頭蓋骨耳骨胞 (K-10 ; 76 号土坑) | 90. イノシシ下顎門歯 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 91. イノシシ右下顎第 3 後臼歯 (K-11 ; 76・77 号土坑) | 92. イノシシ左肩甲骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) |
| 93. イノシシ左肩甲骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) | 94. イノシシ左肩甲骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 95. イノシシ右肩甲骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) | 96. イノシシ右第 4 中手骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 97. イノシシ右第 4 中手骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 98. イノシシ第 2/5 中手骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 99. イノシシ右第 4 足根骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) | 100. イノシシ第 2/5 中足骨 (K-10 ; 76 号土坑) |
| 101. イノシシ中手骨 / 中足骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 102. イノシシ中手骨 / 中足骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 103. イノシシ第 2/5 中手骨 / 中足骨
(K-11 ; 76・77 号土坑) | 104. イノシシ第 2/5 中手骨 / 中足骨
(K-12 ; 77 号土坑) |
| 105. イノシシ基節骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 106. イノシシ末節骨 (K-10 ; 76 号土坑) |
| 107. イノシシ第 2/5 基節骨 (K-10 ; 76 号土坑) | 108. イノシシ第 2/5 基節骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) |
| 109. イノシシ第 2/5 中節骨 (K-10 ; 76 号土坑) | 110. イノシシ第 2/5 中節骨 (K-10 ; 76 号土坑) |
| 111. イノシシ第 2/5 中節骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) | 112. イノシシ第 2/5 中節骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 113. イノシシ第 2/5 末節骨 (K-10 ; 76 号土坑) | 114. イノシシ第 2/5 末節骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 115. 大型獣類肋骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 116. 大型獣類肋骨 (K-10 ; 76 号土坑) |
| 117. 大型獣類左踵骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) | |

図7 出土骨貝類 (7)



- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 118. ニホンジカ角 (K-9 ; 53 号土坑) | 119. ニホンジカ角 (K-11 ; 76・77 号土坑) |
| 120. ニホンジカ涙骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 121. ニホンジカ右岩様骨 (K-10 ; 76 号土坑) |
| 122. ニホンジカ左下顎骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 123. ニホンジカ左下顎骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) |
| 124. ニホンジカ右下顎骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 125. ニホンジカ右下顎骨 (K-9 ; 53 号土坑) |
| 126. ニホンジカ右下顎骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) | 127. ニホンジカ右下顎第 4 門歯 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 128. ニホンジカ右下顎第 3 前臼歯 (K-10 ; 76 号土坑) | 129. ニホンジカ右下顎第 4 前臼歯 (K-10 ; 76 号土坑) |
| 130. ニホンジカ胸椎 (K-11 ; 76・77 号土坑) | 131. ニホンジカ尾椎 (K-12 ; 77 号土坑) |

図8 出土骨貝類 (8)



- | | |
|---|---|
| 132. ニホンジカ右上腕骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) | 133. ニホンジカ右橈骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 134. ニホンジカ左尺骨 (K-10 ; 76 号土坑) | 135. ニホンジカ左尺側手根骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 136. ニホンジカ右橈側手根骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 137. ニホンジカ右中間手根骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 138. ニホンジカ右副手根骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 139. ニホンジカ左第 2+ 第 3 手根骨
(K-11 ; 76・77 号土坑) |
| 140. ニホンジカ右第 2+ 第 3 手根骨 (K-10 ; 76 号土坑) | 141. ニホンジカ右中手骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 142. ニホンジカ中手骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 143. ニホンジカ右大腿骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) |
| 144. ニホンジカ? 大腿骨 (K-9 ; 53 号土坑) | 145. ニホンジカ左膝蓋骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 146. ニホンジカ右膝蓋骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 147. ニホンジカ左距骨 (K-10 ; 76 号土坑) |
| 148. ニホンジカ? 右距骨 (K-10 ; 76 号土坑) | 149. ニホンジカ左中心 + 第 4 足根骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 150. ニホンジカ右中心 + 第 4 足根骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 151. ニホンジカ左第 2+ 第 3 足根骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 152. ニホンジカ右第 2+ 第 3 足根骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 153. ニホンジカ左中足骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 154. ニホンジカ右中足骨 (K-11 ; 76・77 号土坑) | 155. ニホンジカ中足骨 (K-10 ; 76 号土坑) |
| 156. ニホンジカ中手骨 / 中足骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 157. ニホンジカ中手骨 / 中足骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 158. ニホンジカ基節骨 (K-9 ; 53 号土坑) | 159. ニホンジカ基節骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 160. ニホンジカ中節骨 (K-9 ; 53 号土坑) | 161. ニホンジカ末節骨 (K-10 ; 76 号土坑) |
| 162. ニホンジカ第 2/5 中節骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 163. ニホンジカ第 2/5 末節骨 (K-12 ; 77 号土坑) |
| 164. ニホンジカ第 1/4 種子骨 (K-12 ; 77 号土坑) | 165. ニホンジカ第 2/3 種子骨 (K-12 ; 77 号土坑) |

5 黒曜石分析

(株)第四紀地質研究所

1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製 J S X - 3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（F P 法）による自動定量計算システムが採用されており、6 C ~ 92 U までの元素分析ができ、ハイパワー X 線源（最大 30 k V、4 m A）の採用で微量試料～最大 290mmφ × 80mmH までの大型試料の測定が可能である。小形試料では 16 試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルク F P 法でおこなった。F P 法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X 線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルク F P 法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気 = 真空、X 線管ターゲット素材 = R h、加速電圧 = 30 k V、管電流 = 自動制御、分析時間 = 200 秒（有効分析時間）である。

分析対象元素は Si, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zr の 14 元素、分析値は黒曜石の含水量 = 0 と仮定し、酸化物の重量%を 100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下 2 桁で表示することになっているが、微量元素の Rb, Sr, Y, Zr は重量%では小数点以下 3 ~ 4 桁の微量となり、小数点以下 2 桁では 0 と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下 4 桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量%）で SiO₂-Al₂O₃, Fe₂O₃-TiO₂, K₂O-CaO の各相関図、Rb-Sr は積分強度の相関図の 4 組の組み合わせで図を作成した。

2 分析結果

第 1 表化学分析表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。

第 2 表原産地対比表には出土遺跡の石器類の原産地が記載してある。なお、分析は平成 27・28 年度の二箇年で実施しており、27 年度分は M - ○、28 年度分は Z - ○及び A - ○と表記した。

- 1) 小赤沢系とは小赤沢、花泉、水沢の礫層中の黒曜石の採石地の化学組成が同じものであるので一連のものとして小赤沢系とした。
- 2) 第 2 表に示すように最も多く検出されたのは小赤沢系である。全 49 個の分析のうち 35 個が該当する。Z-17 と Z-22 の 2 個は弱比熱をしている。
- 3) 男鹿系に対比されるものは 8 個で、Z-24 は弱比熱している。
- 4) 月山系に対比されるものは 3 個で、Z-1 と Z-43 は弱比熱している。
- 5) 和田峠系 2 に対比されるものは 3 個で、Z-12 と Z-13 の 2 個は弱比熱している。

引用文献

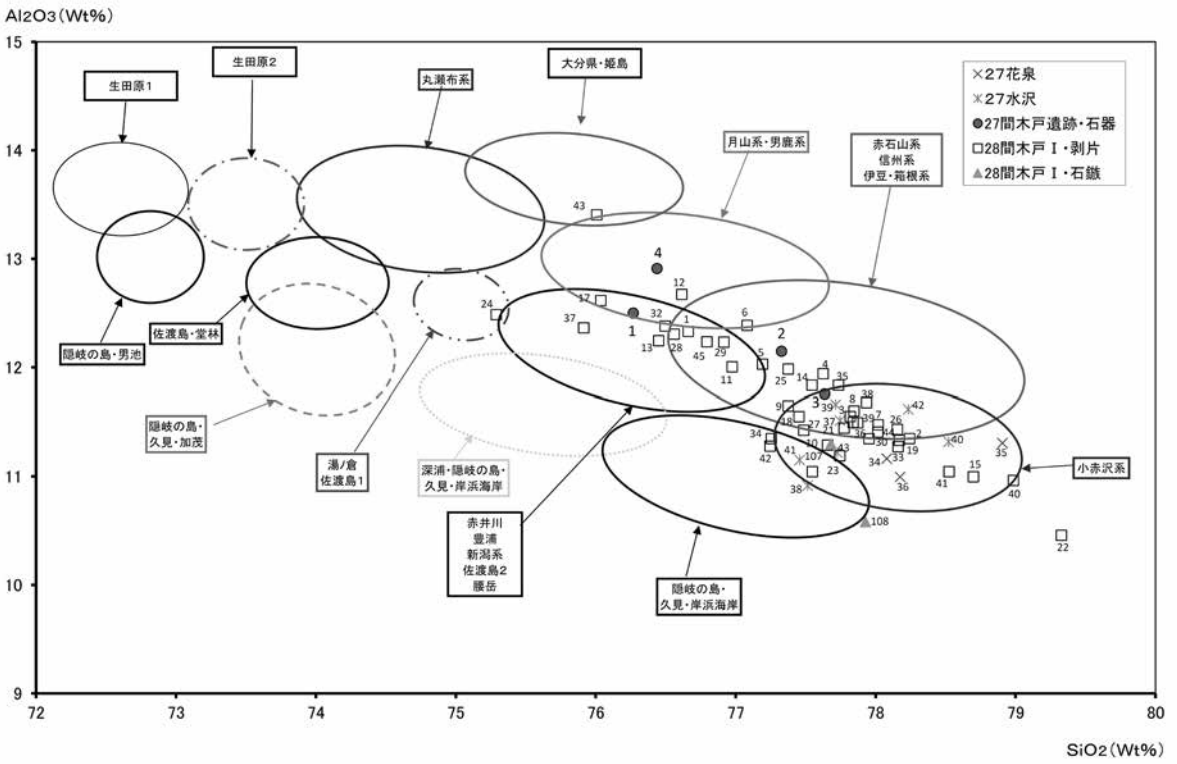
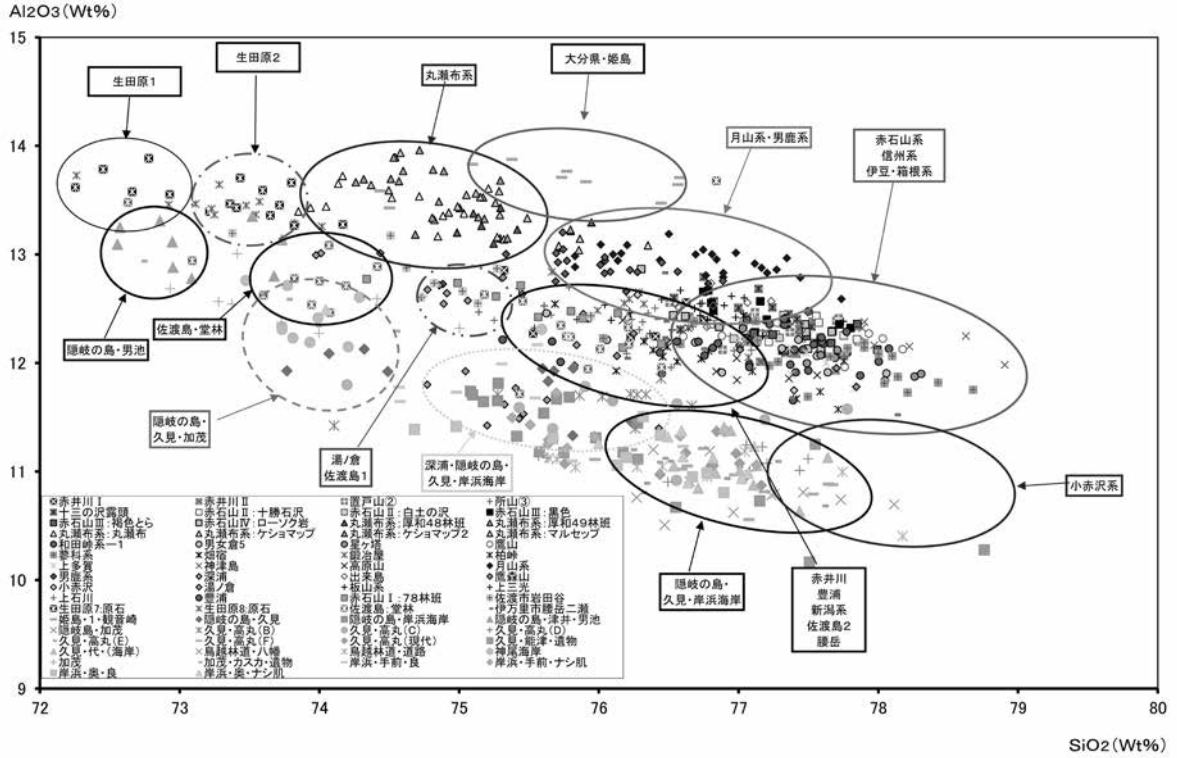
- 井上 巖 (2000) 東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光 X 線分析 (X R F) 北越考古学、第 11 号、23-38/
井上 巖 (2001) テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第 7 号 23-51.

井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 関東・中部・東海編、東北・北陸編、北海道編

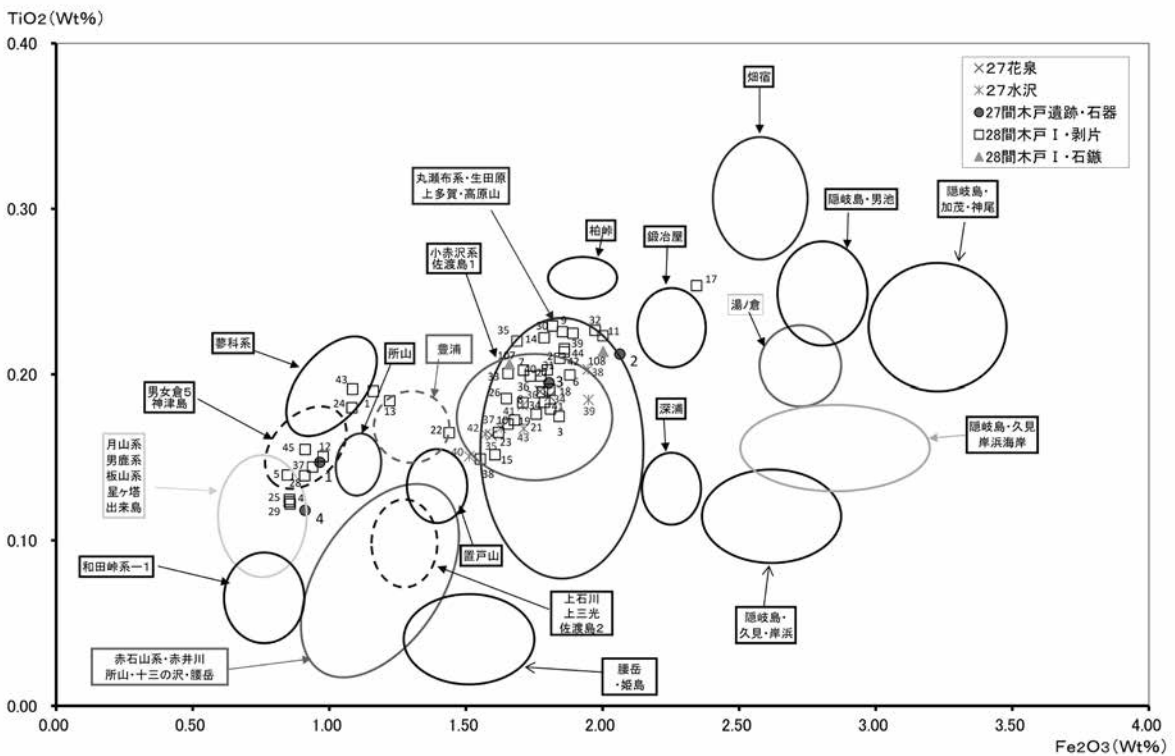
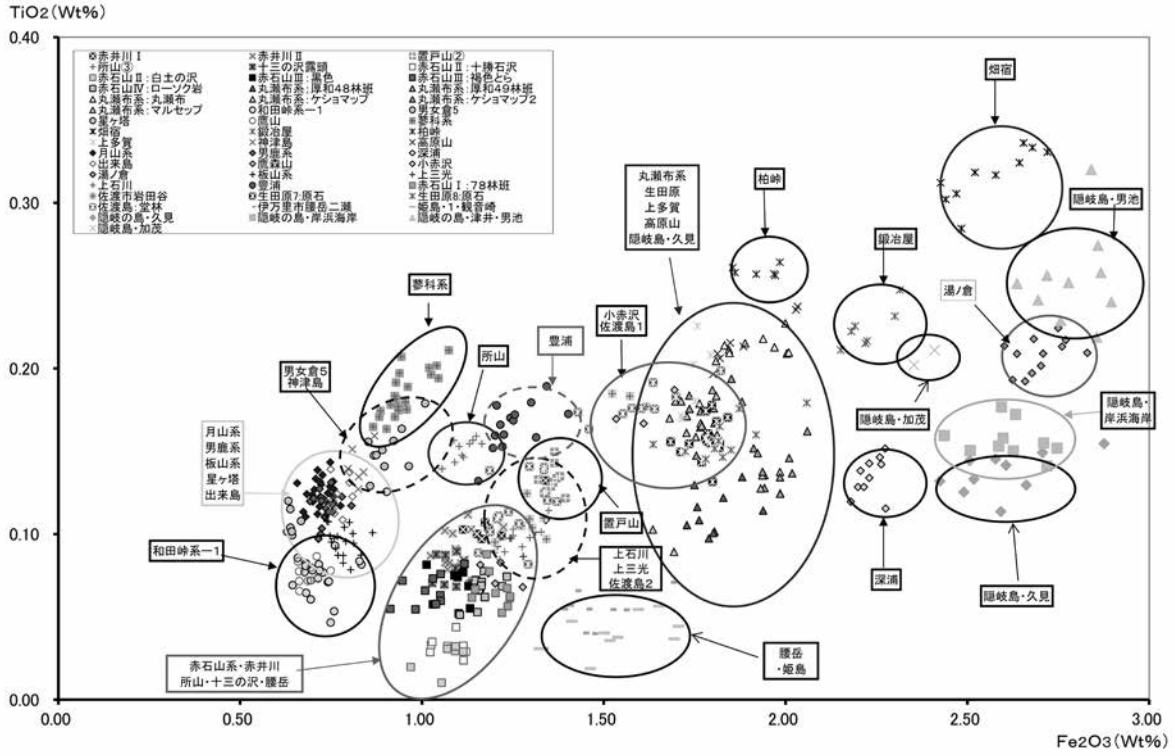
井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石写真集

第 1 表 化学分析表

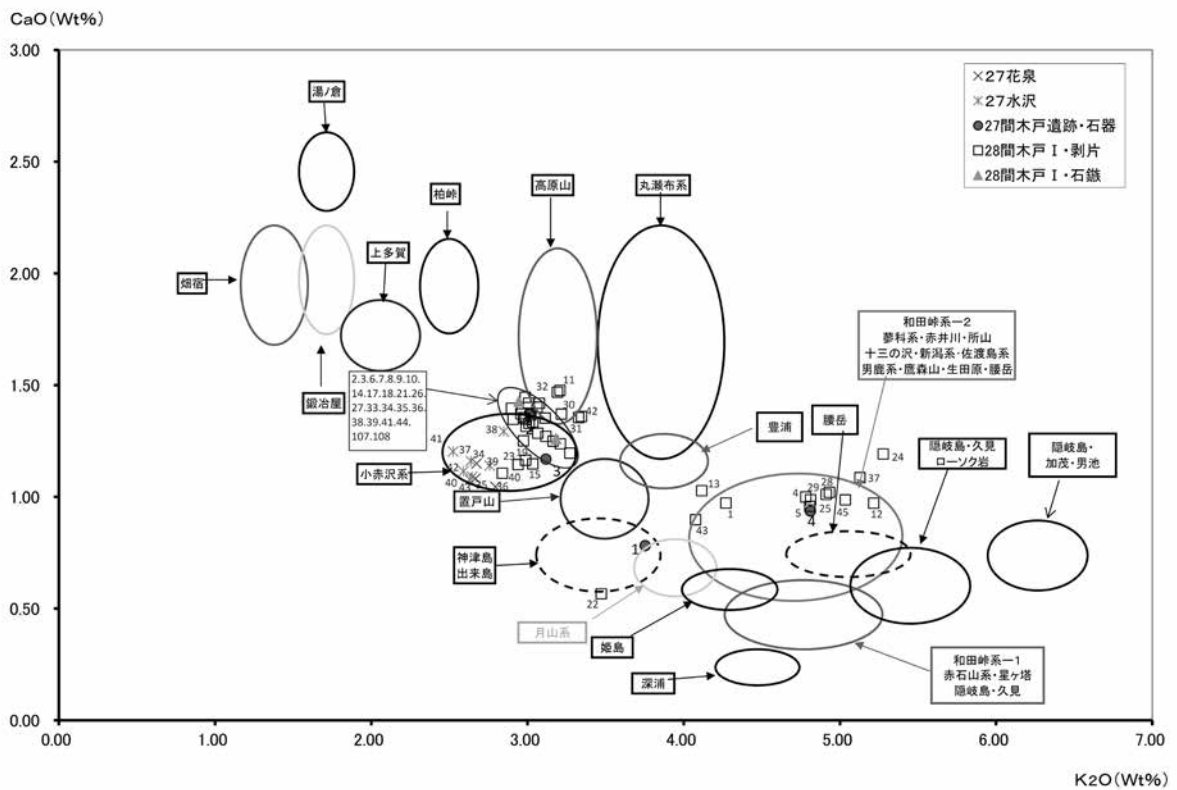
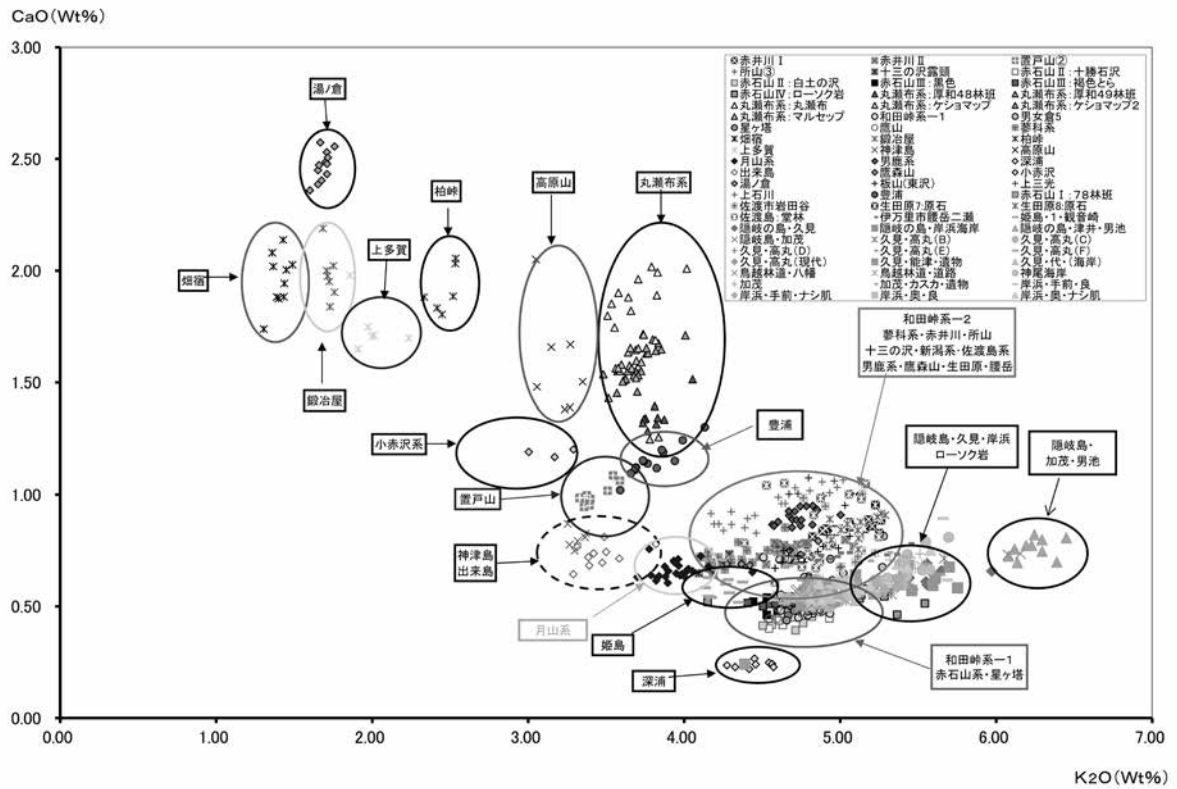
試料名	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	Rb2O	SrO	Y2O3	ZrO2	Total	RbD)	Sr(D)	原産地	備考
Z-1	3.5770	0.0000	12.3301	76.6610	0.6251	4.2703	0.9723	0.1899	0.1716	1.1616	0.0148	0.0159	0.0026	0.0078	100.0000	884	931	月山系・弱比熱	剥片
Z-2	3.2622	0.0000	11.3477	78.2432	0.6998	2.9089	1.3471	0.2096	0.0837	1.8437	0.0105	0.0156	0.0069	0.0210	99.9999	636	929	小赤沢系	剥片
Z-3	3.4459	0.0000	11.5513	77.8194	0.6472	3.0344	1.3346	0.1749	0.0865	1.8411	0.0140	0.0170	0.0067	0.0269	99.9999	801	951	小赤沢系	剥片
Z-4	2.8137	0.0000	11.9411	77.6254	0.6235	4.7820	0.9990	0.1220	0.1798	0.8571	0.0257	0.0148	0.0062	0.0066	99.9999	1583	890	男鹿系	剥片
Z-5	3.1640	0.0000	12.0289	77.1917	0.6451	4.8082	0.9576	0.1395	0.1693	0.8463	0.0243	0.0184	0.0061	0.0066	100.0000	1635	1211	男鹿系	剥片
Z-6	3.1322	0.0000	12.3859	77.0821	0.6821	3.0770	1.4187	0.1996	0.0860	1.8808	0.0090	0.0130	0.0043	0.0293	100.0000	545	772	小赤沢系	剥片
Z-7	3.4568	0.0000	11.4752	78.0186	0.6647	2.9770	1.3543	0.2024	0.0903	1.7111	0.0112	0.0118	0.0046	0.0222	100.0002	727	748	小赤沢系	剥片
Z-8	3.3887	0.0000	11.6007	77.8459	0.7306	3.0622	1.4011	0.2257	0.0956	1.8534	0.0089	0.0169	0.0045	0.0256	99.9999	621	699	小赤沢系	剥片
Z-9	3.5512	0.0000	11.6474	77.3767	0.7306	3.0622	1.4011	0.2257	0.0956	1.8534	0.0089	0.0169	0.0045	0.0256	99.9999	621	699	小赤沢系	剥片
Z-10	3.9445	0.0000	11.2882	77.6571	0.6929	3.2718	1.1956	0.1702	0.0857	1.6543	0.0055	0.0090	0.0036	0.0215	99.9999	368	590	小赤沢系	剥片
Z-11	3.3071	0.0000	12.0042	76.9757	0.6477	3.2086	1.4766	0.2232	0.0825	2.0019	0.0136	0.0143	0.0133	0.0314	100.0001	838	856	和田峠系 2・弱比熱	剥片
Z-12	2.4675	0.0000	12.6715	76.6151	0.6710	5.2164	0.9716	0.1506	0.1892	0.9774	0.0299	0.0118	0.0082	0.0196	99.9998	1540	930	和田峠系 2・弱比熱	剥片
Z-13	3.5493	0.0000	12.2445	76.4501	0.8423	4.1156	1.0274	0.1843	0.2365	1.2216	0.0617	0.0291	0.0051	0.0326	100.0001	2017	930	和田峠系 2・弱比熱	剥片
Z-14	3.3764	0.0000	11.8349	77.5465	0.7482	2.9869	1.3465	0.2221	0.0921	1.7864	0.0094	0.0125	0.0098	0.0283	100.0000	599	784	小赤沢系	剥片
Z-15	3.4746	0.0000	10.9957	78.6992	0.7510	3.0351	1.1470	0.1517	0.0861	1.6065	0.0126	0.0093	0.0031	0.0282	100.0001	805	581	小赤沢系	剥片
Z-17	3.3790	0.0000	12.6146	76.0370	0.7525	2.9858	1.4453	0.2536	0.0965	2.3444	0.0210	0.0275	0.0055	0.0375	100.0002	1063	1357	小赤沢系・弱比熱	剥片
Z-18	3.7935	0.0000	11.5499	77.4631	0.7331	2.9576	1.3710	0.1909	0.0863	1.8063	0.0145	0.0154	0.0021	0.0264	100.0001	914	948	小赤沢系	剥片
Z-19	3.6878	0.0000	11.3322	78.1696	0.6720	2.9883	1.1643	0.1727	0.0770	1.6782	0.0107	0.0157	0.0058	0.0258	100.0001	679	971	小赤沢系	剥片
Z-21	3.7678	0.0000	11.4438	77.7753	0.6470	2.8982	1.3965	0.1763	0.0814	1.7573	0.0112	0.0145	0.0056	0.0248	99.9997	710	896	小赤沢系	剥片
Z-22	3.7460	0.0000	10.4567	79.3276	0.6954	3.4730	0.5663	0.1650	0.0610	1.4390	0.0124	0.0085	0.0141	0.0350	100.0000	656	442	小赤沢系・弱比熱	剥片
Z-23	4.3776	0.0000	11.1893	77.7450	0.6739	2.9400	1.1439	0.1652	0.0949	1.6196	0.0100	0.0071	0.0057	0.0277	99.9999	662	458	小赤沢系	剥片
Z-24	3.5127	0.0000	12.4843	75.2890	0.7004	5.2772	1.1915	0.1801	0.2069	1.0829	0.0309	0.0207	0.0057	0.0178	100.0001	1742	1140	男鹿系・弱比熱	剥片
Z-25	2.8316	0.0000	11.9830	77.3766	0.6749	4.9132	1.0107	0.1233	0.1609	0.8540	0.0315	0.0189	0.0063	0.0150	99.9999	1998	1175	男鹿系	剥片
Z-26	3.2993	0.0000	11.4328	78.1560	0.7839	3.1642	1.2491	0.1857	0.0788	1.6483	0.0108	0.0141	0.0048	0.0321	99.9999	677	862	小赤沢系	剥片
Z-27	3.8786	0.0000	11.4240	77.4864	0.6614	3.0079	1.4193	0.1990	0.0864	1.7739	0.0107	0.0179	0.0080	0.0284	99.9999	665	1089	小赤沢系	剥片
Z-28	3.1857	0.0000	12.3047	76.5602	0.6929	4.9334	1.0203	0.1390	0.1769	0.9095	0.0298	0.0177	0.0088	0.0210	99.9999	1931	1119	男鹿系	剥片
Z-29	3.1727	0.0000	12.2316	76.9161	0.6528	4.8123	0.9870	0.1247	0.1752	0.8541	0.0250	0.0191	0.0044	0.0167	100.0000	1570	1175	男鹿系	剥片
Z-31	3.8727	0.0000	11.0436	77.5486	0.6993	3.3288	1.3544	0.2026	0.0943	1.7978	0.0104	0.0166	0.0061	0.0263	99.9998	938	999	小赤沢系	剥片
Z-32	3.4176	0.0000	12.3796	76.4969	0.6713	3.1929	1.4685	0.2265	0.1026	1.9725	0.0092	0.0173	0.0094	0.0357	100.0000	539	922	小赤沢系	剥片
Z-33	3.7014	0.0000	11.2738	78.1617	0.6438	2.9746	1.2508	0.2004	0.0830	1.6540	0.0090	0.0154	0.0068	0.0253	100.0000	565	944	小赤沢系	剥片
Z-34	4.1719	0.0000	11.3475	77.2557	0.6631	3.2108	1.2371	0.1834	0.0864	1.7876	0.0141	0.0137	0.0056	0.0230	99.9999	836	790	小赤沢系	剥片
Z-35	3.3614	0.0000	11.8353	77.7357	0.7303	2.9918	1.3150	0.1989	0.0806	1.6868	0.0087	0.0076	0.0053	0.0216	100.0001	557	479	小赤沢系	剥片
Z-36	3.5677	0.0000	11.4965	77.8399	0.6889	3.0109	1.3290	0.1989	0.0784	1.7364	0.0107	0.0118	0.0090	0.0219	100.0000	702	756	小赤沢系	剥片
Z-37	3.3754	0.0000	12.3634	75.9142	0.6106	5.1287	1.0860	0.1443	0.1718	0.9390	0.0312	0.0090	0.0062	0.0203	100.0001	1943	548	和田峠系 2	剥片
Z-38	3.5388	0.0000	11.6781	77.9351	0.6682	3.0664	1.2846	0.1492	0.0788	1.5529	0.0104	0.0149	0.0061	0.0165	100.0000	696	970	小赤沢系	剥片
Z-39	3.2341	0.0000	11.4926	77.8730	0.6596	3.1141	1.3525	0.2247	0.0887	1.8922	0.0092	0.0183	0.0139	0.0272	100.0001	504	980	小赤沢系	剥片
Z-40	3.9606	0.0000	10.9621	78.9853	0.6190	2.8398	1.1052	0.1894	0.0759	1.7808	0.0210	0.0190	0.0072	0.0347	100.0000	1078	956	小赤沢系	剥片
Z-41	3.2394	0.0000	11.0431	78.5250	0.6568	3.1188	1.2704	0.1794	0.1001	1.8096	0.0103	0.0130	0.0039	0.0302	100.0000	634	777	小赤沢系	剥片
Z-42	3.8933	0.0000	11.2782	77.2465	0.6589	3.3466	1.3597	0.2135	0.0831	1.8997	0.0091	0.0113	0.0084	0.0317	100.0000	525	636	小赤沢系	剥片
Z-43	3.4656	0.0000	13.4053	76.0080	0.6757	4.0769	0.8972	0.1912	0.1410	1.0850	0.0129	0.0184	0.0050	0.0179	100.0001	751	1049	月山系・弱比熱	剥片
Z-44	3.2931	0.0000	11.4082	78.0168	0.6733	3.0214	1.3742	0.2153	0.0816	1.8603	0.0114	0.0156	0.0004	0.0283	99.9999	699	933	小赤沢系	剥片
A-107	3.8679	0.0000	11.3005	77.6814	0.6868	3.1839	1.2600	0.2061	0.0897	1.6993	0.0115	0.0147	0.0068	0.0315	100.0001	719	894	小赤沢系	石礫
A-108	3.7257	0.0000	10.5817	77.9275	0.9958	2.9451	1.4272	0.2137	0.1051	2.0024	0.0131	0.0208	0.0130	0.0290	100.0001	516	801	小赤沢系	石礫
M-1	5.0420	0.0000	12.4990	76.2681	0.3374	3.7537	0.7812	0.1471	0.1502	0.9653	0.0158	0.0149	0.0078	0.0174	99.9999	883	815	月山系	石礫
M-2	3.3283	0.0000	12.1476	77.3277	0.3621	3.0147	1.3745	0.2122	0.0986	2.0639	0.0171	0.0151	0.0069	0.0385	100.0002	840	728	小赤沢系	石礫
M-3	3.7922	0.0000	11.7563	77.6363	0.3743	3.1182	1.1685	0.1949	0.0882	1.8044	0.0129	0.0174	0.0095	0.0269	100.0000	715	945	小赤沢系	石礫
M-4	3.1711	0.0000	12.9108	76.4389	0.4630	4.8112	0.9358	0.1181	0.1784	0.9112	0.0286	0.0128	0.0091	0.0112	100.0002	1611	704	男鹿系	剥片



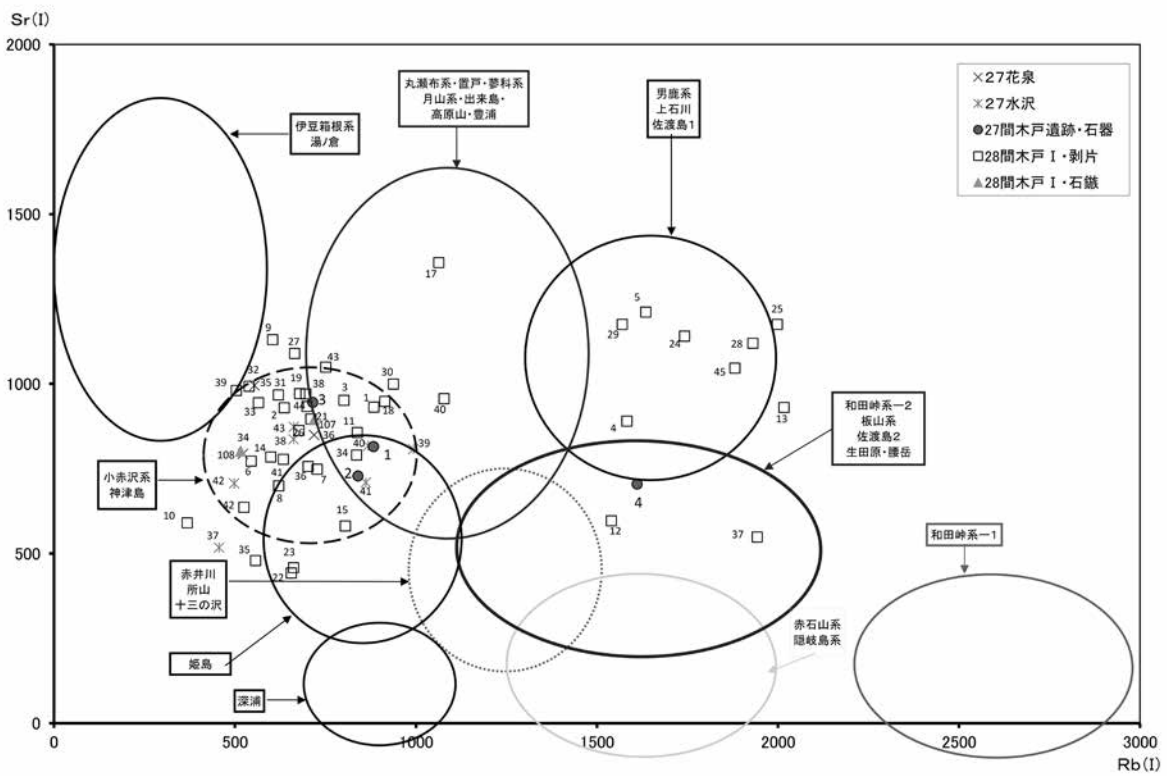
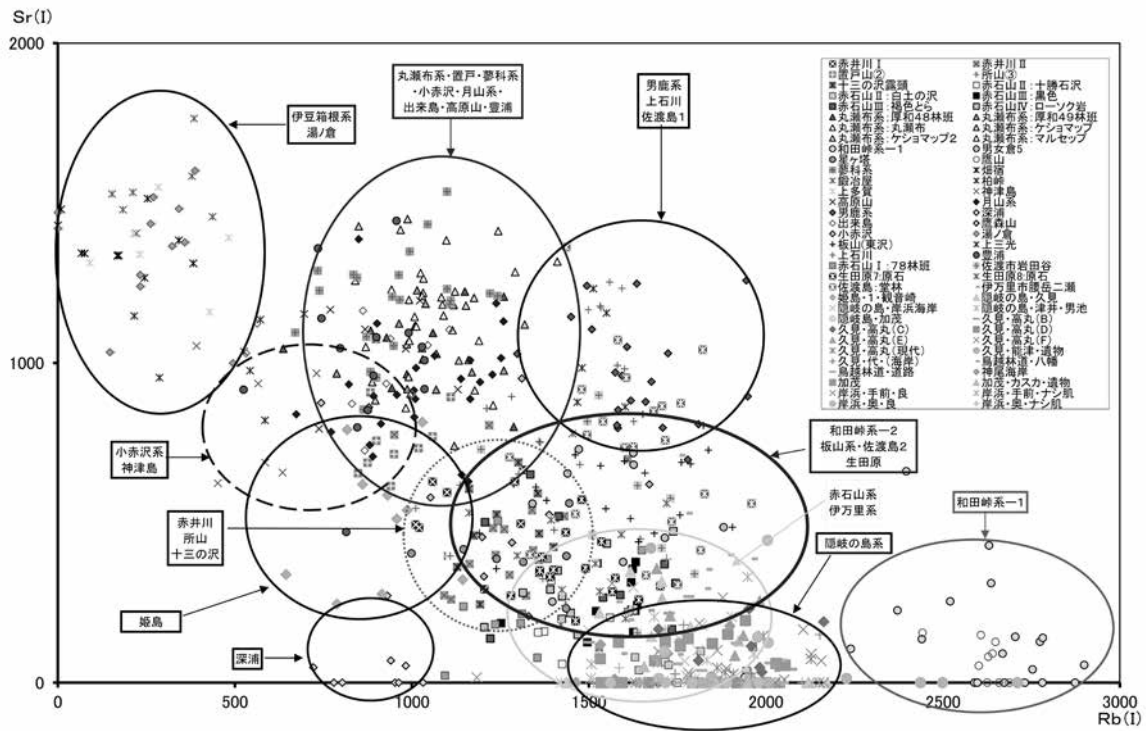
第1図 日本の黒曜石 SiO₂ - Al₂O₃ 図 (総合図)



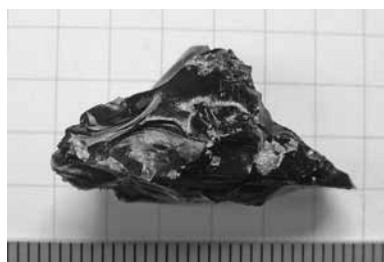
第2図 日本の黒曜石 $Fe_2O_3 - TiO_2$ 図 (総合図)



第3図 日本の黒曜石 K2O - CaO 図 (総合図)



第4図 日本の黒曜石 Rb - Sr 図 (総合図)



Z-1



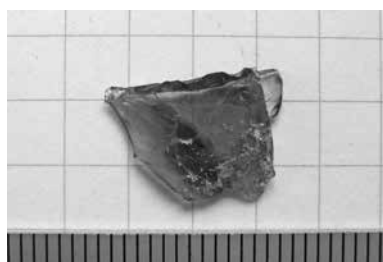
Z-2



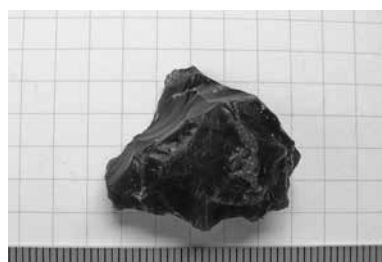
Z-3



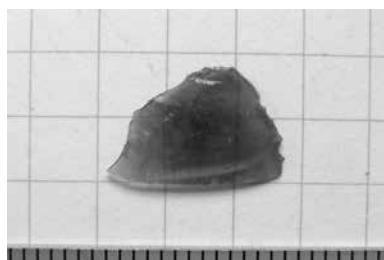
Z-4



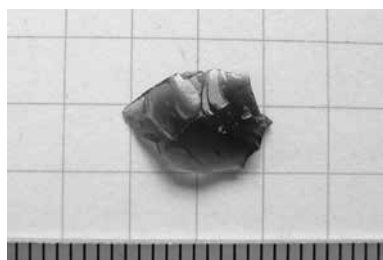
Z-5



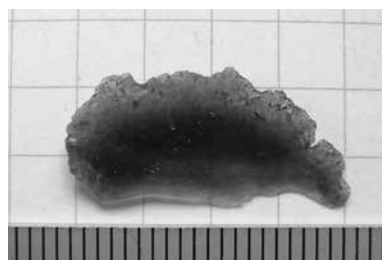
Z-6



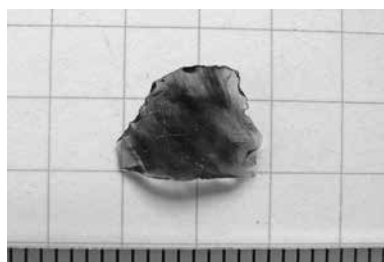
Z-7



Z-8



Z-9



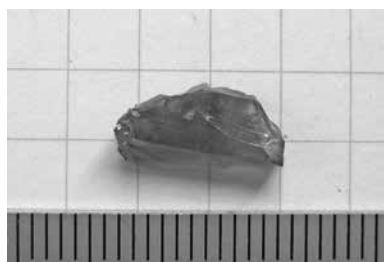
Z-10



Z-11



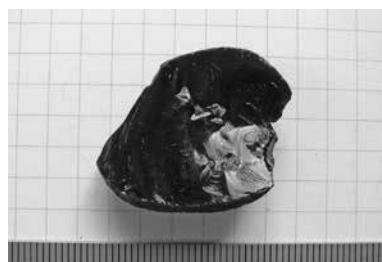
Z-12



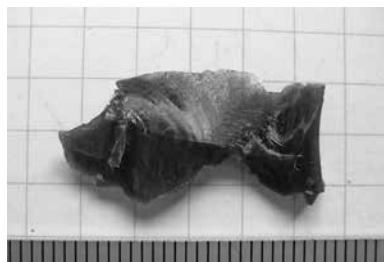
Z-13



Z-14



Z-15



Z-17

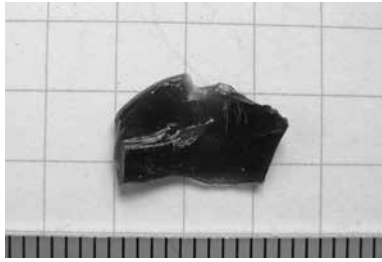


Z-18



Z-19

写真1 分析対象試料(1)



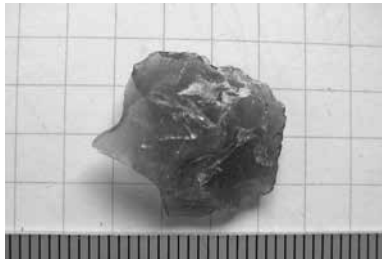
Z-21



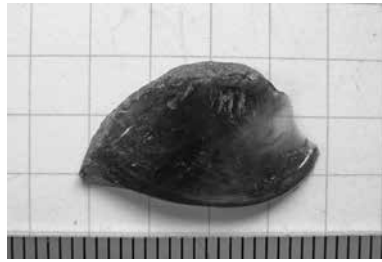
Z-22



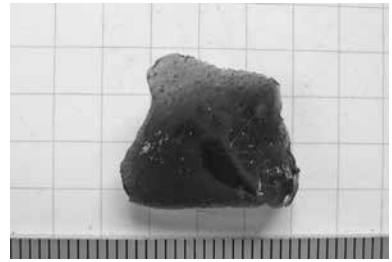
Z-23



Z-24



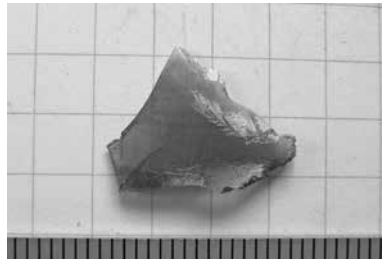
Z-25



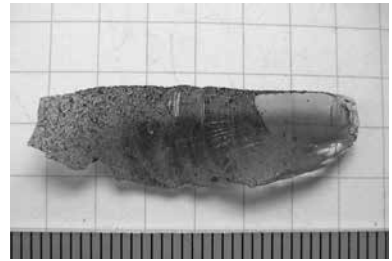
Z-26



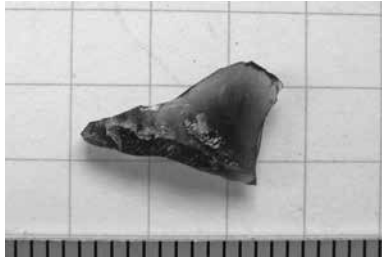
Z-27



Z-28



Z-29



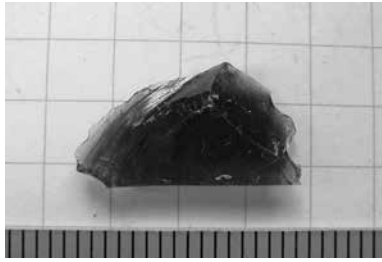
Z-30



Z-31



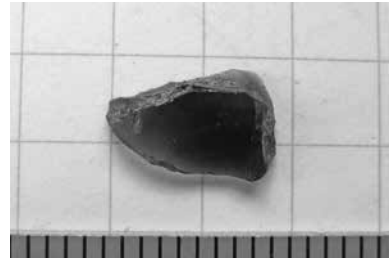
Z-32



Z-33



Z-34



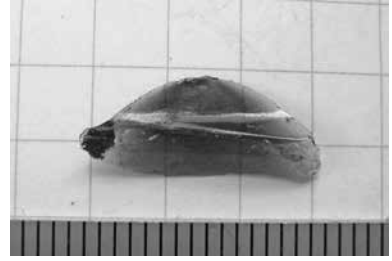
Z-35



Z-36



Z-37



Z-38

写真2 分析対象試料(2)



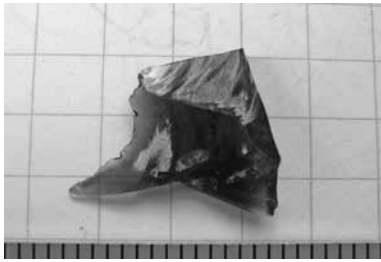
Z-39



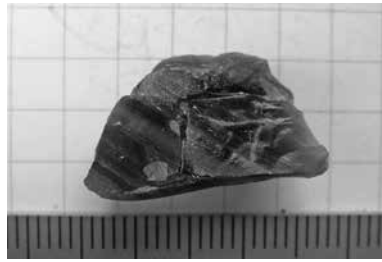
Z-40



Z-41



Z-42



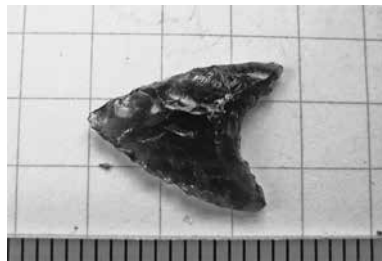
Z-43



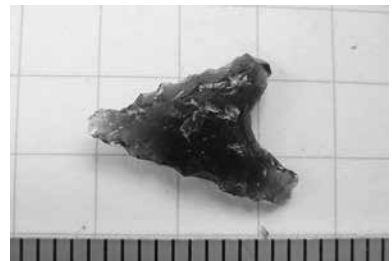
Z-44



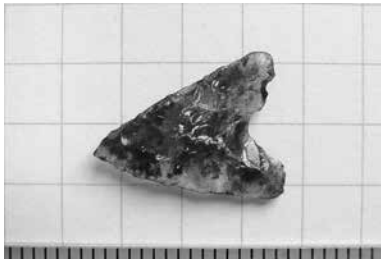
Z-45



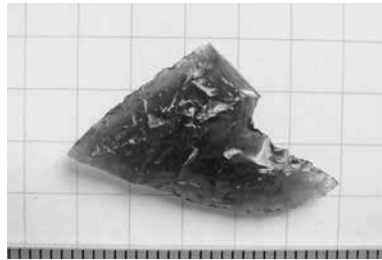
A-107 (c89)



A-108 (c75)



M-1 (c137)



M-2 (c92)



M-3 (c292)



M-4 (Z-20)

※ () 内は図版掲載番号

写真3 分析対象試料(3)

第2表 原産地対比表

試料名	原産地	備考	試料名	原産地	備考
Z-2	小赤沢系	剥片	Z-40	小赤沢系	剥片
Z-3	小赤沢系	剥片	Z-41	小赤沢系	剥片
Z-6	小赤沢系	剥片	Z-42	小赤沢系	剥片
Z-7	小赤沢系	剥片	Z-44	小赤沢系	剥片
Z-8	小赤沢系	剥片	A-107	小赤沢系	石鏃
Z-9	小赤沢系	剥片	A-108	小赤沢系	石鏃
Z-10	小赤沢系	剥片	M-2	小赤沢系	石鏃
Z-11	小赤沢系	剥片	M-3	小赤沢系	石鏃
Z-14	小赤沢系	剥片	Z-17	小赤沢系・弱比熱	剥片
Z-15	小赤沢系	剥片	Z-22	小赤沢系・弱比熱	剥片
Z-18	小赤沢系	剥片	Z-4	男鹿系	剥片
Z-19	小赤沢系	剥片	Z-5	男鹿系	剥片
Z-21	小赤沢系	剥片	Z-25	男鹿系	剥片
Z-23	小赤沢系	剥片	Z-28	男鹿系	剥片
Z-26	小赤沢系	剥片	Z-29	男鹿系	剥片
Z-27	小赤沢系	剥片	Z-45	男鹿系	剥片
Z-30	小赤沢系	剥片	M-4	男鹿系	剥片
Z-31	小赤沢系	剥片	Z-24	男鹿系・弱比熱	剥片
Z-32	小赤沢系	剥片	M-1	月山系	石鏃
Z-33	小赤沢系	剥片	Z-1	月山系・弱比熱	剥片
Z-34	小赤沢系	剥片	Z-43	月山系・弱比熱	剥片
Z-35	小赤沢系	剥片	Z-37	和田峠系2	剥片
Z-36	小赤沢系	剥片	Z-12	和田峠系2・弱比熱	剥片
Z-38	小赤沢系	剥片	Z-13	和田峠系2・弱比熱	剥片
Z-39	小赤沢系	剥片			

6 琥珀分析

(株)第四紀地質研究所

1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（F P法）による自動定量計算システムが採用されており、6 C～92 Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源（最大30 k V、4 mA）の採用で微量試料～最大290mmφ×80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクF P法でおこなった。F P法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。分析にあたっては標準サンプルを分析し、キャリブレーションを行い、装置の正常さを保って行った。

実験条件はバルクF P法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気=真空、X線管ターゲット素材=Rh、加速電圧=30 k V、管電流=自動制御、分析時間=200秒（有効分析時間）である。

分析対象元素はAl.Si.S.K.Ca.Cr.Mn.Fe.Cu.As.Os.Au.Hg.Pdの14元素、分析値は試料の含水量=0と仮定し、元素の重量%を100%にノーマライズし表示した。分析対象元素は自動定性で行った。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量%では小数点以下3～4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素の濃度（重量%）でSi-Al、S-Si、K-Caの3組の組み合わせで図を作成した。

2 分析試料

第1表に示すように間木戸I遺跡より出土した琥珀遺物（AM-1～3、KOH-19～24）と現地に赴き採取した久慈市琥珀博物館・琥珀、久慈市琥珀神社・琥珀、提供していただいた琥珀は久慈市滝沢（滝沢地区の滝沢氏）、久慈市・上山昭彦氏からは上山氏所有の琥珀鉦山、野田村・琥珀海岸の琥珀、いわき市・アンモナイトセンターの鈴木直氏からはいわき市琥珀である。なお、銚子市君ヶ浜・長崎浜で採取した試料については肉眼的には琥珀に類似するが、分析値はSiO₂が90%以上で組成的には瑪瑙に近く、今回の調査の琥珀類とは明らかに異なるので除外した。ただし、分析表と写真は添付した。なお、間木戸I遺跡の試料出土地点は、AM-1～3がII B 6 bグリッドII層、KOH-19～21がA131号竪穴建物床面直上、KOH-22～24がA151号竪穴建物堆積土下位である。

3 分析結果

3-1 Si-Alの相関について

第1図Si-Al図に示すように琥珀類はSi-1～Si-5の5つの領域に分かれる。

Si-1の領域には久慈市・上山琥珀、久慈市・琥珀博物館、久慈市滝沢琥珀が集中する。

Si-2 の領域にはいわき市の琥珀が集中する。

Si-3 の領域には間木戸 I 遺跡 II B 6 b グリッド及び A151 号竪穴建物の琥珀遺物が集中する。

Si-4 の領域には間木戸 I 遺跡 A131 号竪穴建物の琥珀遺物が集中する。

Si-5 の領域には久慈市琥珀神社・琥珀が集中する。

各領域には原産地琥珀や遺物琥珀が集中し、組成的違いで分類できることが分かる。

3-2 S-Si の相関について

第2図 S-Si 図に示すように琥珀類は S-1 ~ S-4 の4つの領域に分かれる。

S-1 の領域には間木戸 I 遺跡 A131 号竪穴建物の琥珀遺物と上山琥珀（黒色）が共存する。

S-2 の領域には間木戸 I 遺跡 II B 6 b グリッドの琥珀遺物と琥珀神社・琥珀が共存する。

S-3 の領域にはいわき市琥珀が集中する。

S-4 の領域には久慈市琥珀博物館・琥珀、久慈市滝沢・琥珀、上山琥珀、野田村・琥珀海岸が集中し、間木戸 I 遺跡 A151 号竪穴建物の琥珀遺物が共存する。

3-3 K-Ca の相関について

第3図 K-Ca 図に示すように K-1 ~ K-4 の4つの領域に分かれる。

K-1 の領域には久慈市の原産地琥珀である琥珀博物館・琥珀、上山琥珀、久慈市滝沢・琥珀が集中する。

K-2 の領域にはいわき市琥珀が集中する。

K-3 の領域には間木戸 I 遺跡 II B 6 b グリッド・A131 号竪穴建物・A151 号竪穴建物の琥珀遺物と琥珀神社・琥珀が共存する。

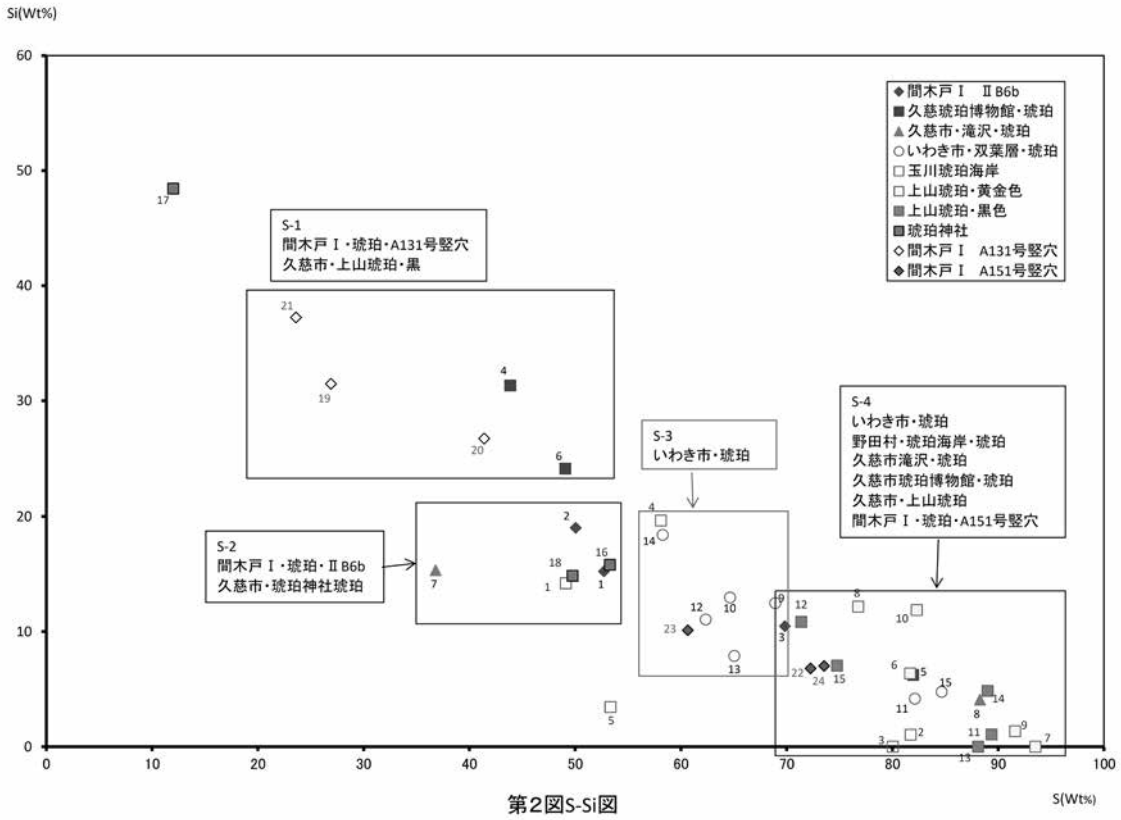
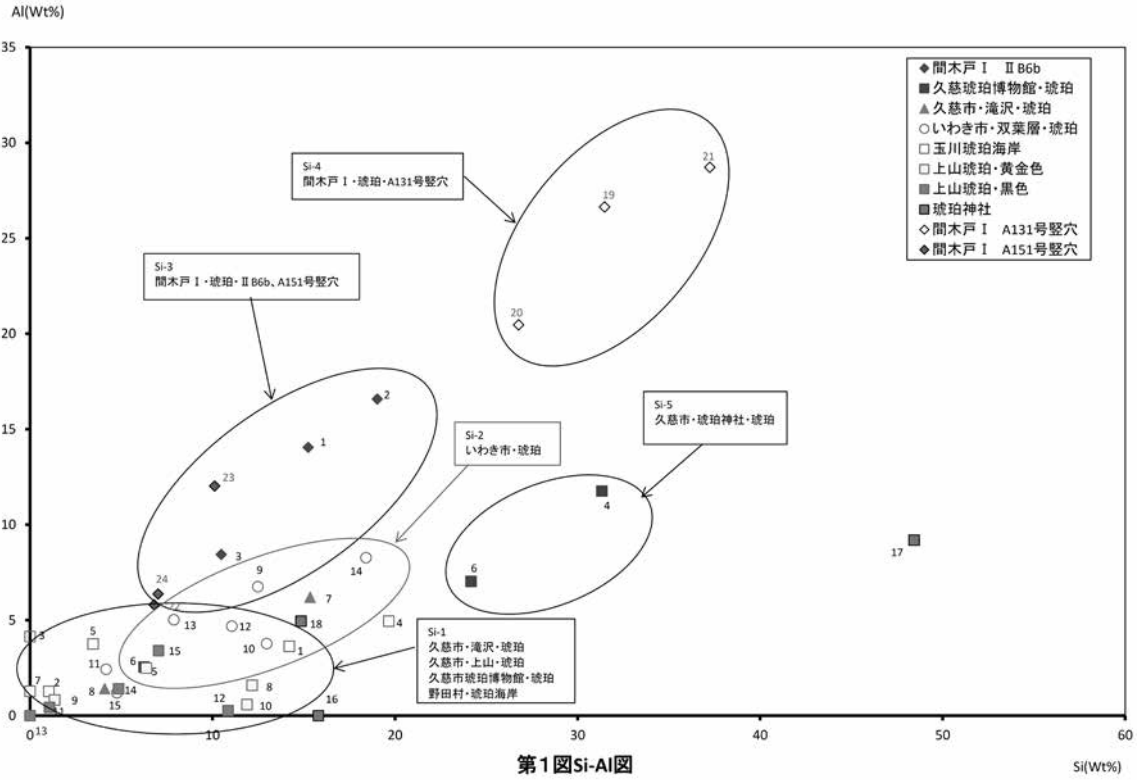
K-4 の領域には野田村・琥珀海岸の琥珀が集中する。

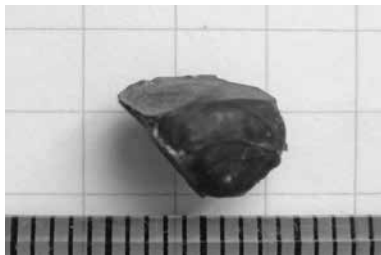
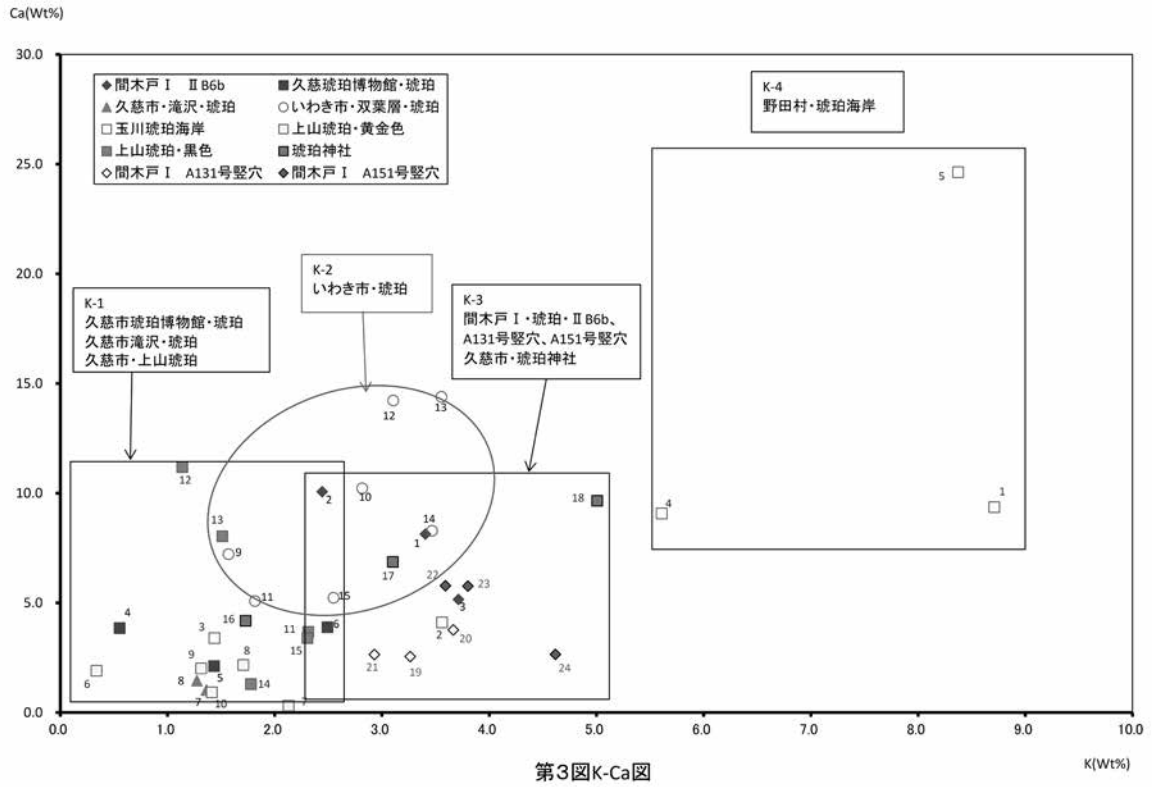
4 ま と め

- 1) 琥珀は木の樹液が地中に樹木とともに埋没して形成されたもので、地層の続成作用の過程でゲル状の SiO_2 や Al_2O_3 及びその他の元素が樹液にしみこみ固化していったものと推察され、その時間経過と続成作用の過程が異なれば化学組成も異なるものであると考えられる。
- 2) Si-Al の相関では間木戸 I 遺跡出土の琥珀遺物のうち、A131 号竪穴建物と A151 号竪穴建物の琥珀は異なる領域にある。久慈市、野田村、いわき市の原産地琥珀との関連はなく久慈市の異なる原産地琥珀と推察される。
- 3) いわき市・琥珀と久慈市の原産地琥珀、野田村・琥珀海岸・琥珀は各元素による分別では異なる領域にあり、分別される。

第1表 琥珀元素化学分析表

試料名	Al	Si	S	K	Ca	Cr	Mn	Fe	Cu	As	Os	Au	Hg	Pb	Total	備考
AM-1	14.0507	15.2384	52.7255	3.4040	8.1349	0.5316	0.3988	1.4460	0.2766	0.6985	1.8367	0.0000	1.2583	0.0000	100.0000	間木戸 I II B6b グリッド
AM-2	16.5763	19.0268	50.0476	2.4426	10.0603	0.0000	0.0000	1.5647	0.1300	0.0000	0.0000	0.1517	0.0000	0.0000	100.0000	間木戸 I II B6b グリッド
AM-3	8.4392	10.4809	69.8419	3.7131	5.1509	0.0000	0.3619	0.8711	0.2461	0.2241	0.0000	0.6055	0.0000	0.0651	99.9998	間木戸 I II B6b グリッド
AM-4	11.7665	31.3272	43.8582	0.5526	3.8442	0.0000	0.0734	6.3170	0.3276	0.0000	0.1170	0.9837	0.6699	0.1627	100.0000	久慈市琥珀博物館・琥珀
AM-5	2.5535	6.2442	81.9707	1.4345	2.1174	0.0000	0.0774	0.5930	0.3101	0.0000	1.8777	1.0354	0.6434	1.1427	100.0000	久慈市琥珀博物館・琥珀
AM-6	7.0312	24.1593	49.0651	2.4924	3.8898	0.0000	0.0000	2.4478	0.4408	0.0000	1.9975	0.9618	5.1568	2.3575	100.0000	久慈市琥珀博物館・琥珀
AM-7	6.2006	15.3451	36.8141	1.3630	1.0261	0.0000	0.1345	36.8043	0.8762	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	1.4362	100.0001	久慈市琥珀博物館・琥珀
AM-8	1.4130	4.0905	88.2884	1.2743	1.4523	0.0000	0.2473	1.0918	0.0000	0.2014	0.0000	0.7369	1.2940	0.0000	99.9999	久慈市滝沢・琥珀
AM-9	6.7613	12.4819	68.9139	1.5681	7.2198	0.0000	0.3306	1.9902	0.0775	0.1723	0.4845	0.0000	0.0000	0.0000	100.0001	いわき市・琥珀
AM-10	3.7726	12.9652	64.6498	2.8156	10.2215	0.3602	0.1459	3.2478	0.9009	0.0000	0.0000	0.4276	0.0000	0.4928	99.9999	いわき市・琥珀
AM-11	2.4258	4.1704	82.1241	1.8157	5.0777	0.0350	0.1717	1.6862	0.6888	0.2801	0.3110	0.5806	0.5843	0.0486	100.0000	いわき市・琥珀
AM-12	4.6867	11.0545	62.3392	3.1056	14.2242	0.4149	0.2971	2.8051	0.1051	0.0000	0.5771	0.0000	0.3905	0.0000	100.0000	いわき市・琥珀
AM-13	5.0298	7.8843	65.0486	3.5537	14.3874	0.0000	0.4311	2.1541	0.0763	0.1479	0.1814	0.7051	0.2354	0.1649	100.0000	いわき市・琥珀
AM-14	8.2746	18.4077	58.2751	3.4682	8.2850	0.0000	0.2724	1.3507	0.2416	0.0000	0.0000	1.1328	0.2919	0.0000	100.0000	いわき市・琥珀
AM-15	1.1999	4.7653	84.6569	2.5471	5.2303	0.0041	0.0598	0.7784	0.0000	0.0000	0.0000	0.7581	0.0000	0.0000	99.9999	いわき市・琥珀
KOH-1	3.6325	14.2030	49.1248	8.7114	9.3636	0.0000	2.3770	2.1363	0.7003	1.0212	0.8423	1.9868	0.0000	5.9008	100.0000	玉川琥珀海岸
KOH-2	1.2729	1.0382	81.7198	3.5588	4.1093	0.0000	0.0199	4.7465	0.1745	0.7826	1.0248	1.3436	0.2090	0.0000	99.9999	玉川琥珀海岸
KOH-3	4.1406	0.0000	80.0343	1.4377	3.3910	0.2981	0.0000	2.8605	0.0000	0.0000	0.0000	0.4239	0.0000	2.0725	100.0000	玉川琥珀海岸
KOH-4	4.9518	19.6530	58.1012	5.6093	9.0750	0.1928	0.0000	1.9930	0.0000	0.0000	0.0000	0.4239	0.0000	2.0725	100.0000	玉川琥珀海岸
KOH-5	3.7583	3.4546	53.3376	8.3738	24.6310	1.5317	0.0000	1.9921	1.5631	0.0000	0.2422	0.0000	0.1905	0.0000	100.0001	玉川琥珀海岸
KOH-6	2.4991	6.3737	81.6672	0.3369	1.9009	0.0000	0.0000	5.4015	0.5335	0.1308	0.0000	0.2957	0.0000	0.8607	100.0000	上山琥珀・黄金色
KOH-7	1.2793	0.0000	93.5118	2.1290	0.3131	0.0000	0.1489	1.4666	0.6286	0.3278	0.1948	0.0000	0.0000	0.0000	99.9999	上山琥珀・黄金色
KOH-8	1.5948	12.1700	76.7613	1.7059	2.1689	0.0000	0.0000	2.3692	0.0176	0.0000	0.0000	0.0824	1.5367	0.0000	99.9999	上山琥珀・黄金色
KOH-9	0.8170	1.3523	91.5964	1.3134	2.0096	0.8117	0.1254	1.5521	0.1905	0.0000	0.2315	0.0000	0.0000	0.0000	99.9999	上山琥珀・黄金色
KOH-10	0.5829	11.8794	82.3039	1.4125	0.9165	0.1112	0.0000	2.2975	0.2553	0.0000	0.0000	0.0000	0.2200	0.0207	99.9999	上山琥珀・黄金色
KOH-11	0.4349	1.0675	89.3723	2.3126	3.6745	0.3200	0.0705	1.8067	0.6003	0.0000	0.1524	0.0000	0.1884	0.0000	100.0001	上山琥珀・黒色
KOH-12	0.2644	10.8509	71.3827	1.1381	11.1906	0.0000	0.0624	4.3539	0.2008	0.0827	0.1903	0.1223	0.1294	0.0317	100.0002	上山琥珀・黒色
KOH-13	0.0000	0.0000	88.1062	1.5121	8.0349	0.0000	0.0647	1.3779	0.4683	0.1279	0.0000	0.0000	0.0000	0.3080	100.0000	上山琥珀・黒色
KOH-14	1.4111	4.8495	89.0018	1.7784	1.2969	0.0000	0.1306	1.0101	0.3366	0.0000	0.1454	0.0000	0.0000	0.0397	100.0001	上山琥珀・黒色
KOH-15	3.4059	7.0469	74.7557	2.3044	3.3903	0.1667	0.0000	8.0133	0.6336	0.0298	0.0000	0.1205	0.0000	0.1329	100.0000	上山琥珀・黒色
KOH-16	0.0025	15.8011	53.2936	1.7291	4.1812	0.2469	0.7838	21.3365	0.6790	0.1226	1.2036	0.0000	0.0000	0.6822	99.9999	琥珀神社
KOH-17	9.1929	48.4409	11.9984	3.1010	6.8646	0.1422	1.0795	17.5211	0.3847	0.0000	0.0000	0.0000	0.5925	0.6822	100.0000	琥珀神社
KOH-18	4.9490	14.8453	49.7582	5.0083	9.6580	0.0000	0.5918	13.2895	0.5313	0.0000	0.5704	0.1854	0.7128	0.0000	100.1000	琥珀神社
KOH-19	26.6349	31.4746	26.9174	3.2634	2.5523	0.1126	0.3169	7.4646	0.3911	0.1210	0.5592	0.1920	0.0000	0.0000	100.0000	間木戸 I A131号堅穴
KOH-20	20.4665	26.7716	41.3959	3.6644	3.7617	0.0044	0.0000	3.3390	0.2469	0.0000	0.0000	0.1088	0.0572	0.1835	99.9999	間木戸 I A131号堅穴
KOH-21	28.7139	37.2463	23.6042	2.9289	2.6417	0.1604	0.3191	3.9479	0.3174	0.0746	0.0456	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	間木戸 I A131号堅穴
KOH-22	5.8028	6.8024	72.2621	3.5924	5.7815	0.1411	0.0370	2.5801	0.8902	0.5304	1.5801	0.0000	0.0000	0.0000	100.0001	間木戸 I A151号堅穴
KOH-23	12.0254	10.1119	60.6523	3.8007	5.7615	0.4722	1.3140	3.3675	0.0710	0.2919	1.7988	0.3326	0.0000	0.0000	99.9998	間木戸 I A151号堅穴
KOH-24	6.3742	7.0114	73.5401	4.6182	2.6476	0.0367	0.3715	0.9648	0.3455	0.0834	0.8030	2.7808	0.4228	0.0000	100.0000	間木戸 I A151号堅穴
AM-16	0.0000	98.6570	0.5447	0.0000	0.4560	0.0946	0.0890	0.6644	0.0000	0.0057	0.0333	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	銚子市・君ヶ浜・瑠璃
AM-17	0.0000	98.9679	0.0000	0.0000	0.1053	0.0000	0.0000	0.2896	0.0146	0.0000	0.0194	0.0586	0.0000	0.0000	100.0001	銚子市・君ヶ浜・瑠璃
AM-18	0.0504	98.7630	0.0000	0.0000	0.1681	0.0489	0.0925	0.8761	0.0007	0.0000	0.0003	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	銚子市・君ヶ浜・瑠璃
AM-19	0.0000	98.5892	0.5578	0.0000	0.2463	0.0000	0.0303	0.0515	0.0011	0.0000	0.0316	0.0197	0.0066	0.0000	100.0001	銚子市・長崎浜・瑠璃
AM-20	0.0000	98.4844	0.4831	0.0000	0.2665	0.0091	0.0016	0.6650	0.0042	0.0000	0.0068	0.0494	0.0299	0.0000	100.0000	銚子市・長崎浜・瑠璃
AM-21	0.0000	98.5365	0.0000	0.0000	0.0864	0.0041	0.0170	1.3234	0.0000	0.0108	0.0218	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	銚子市・長崎浜・瑠璃
AM-22	0.0000	98.9068	0.0000	0.0000	0.0877	0.0286	0.0316	0.9127	0.0003	0.0014	0.0000	0.0000	0.0301	0.0009	100.0001	銚子市・長崎浜・瑠璃
AM-23	0.0000	96.8960	0.0000	0.0000	0.1747	0.0204	0.0787	2.7911	0.0068	0.0000	0.0000	0.0000	0.0203	0.0120	100.0000	銚子市・長崎浜・瑠璃





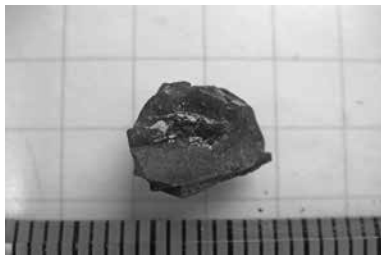
AM-1 (間木戸 I II B6b)



AM-2 (間木戸 I II B6b)



AM-3 (間木戸 I II B6b)



KOH-19 (間木戸 I A131号竖穴)



KOH-20 (間木戸 I A131号竖穴)



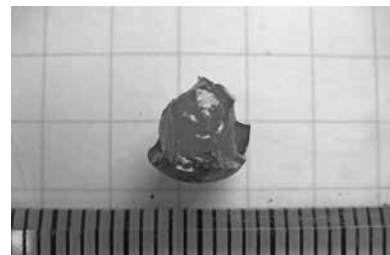
KOH-21 (間木戸 I A131号竖穴)



KOH-22 (間木戸 I A151号竖穴)

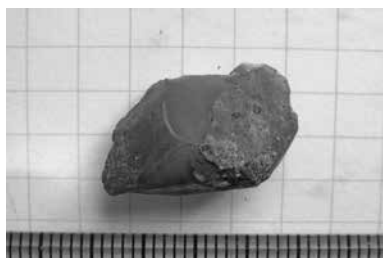


KOH-23 (間木戸 I A151号竖穴)



KOH-24 (間木戸 I A151号竖穴)

写真1 分析対象試料(1)



AM-4 (琥珀博物館 -1)



AM-5 (琥珀博物館 -2)



AM-6 (琥珀博物館 -3)



AM-7 (久慈市滝沢 -1)



AM-8 (久慈市滝沢 -2)



AM-9 (いわき市 -1)



AM-10 (いわき市 -2)



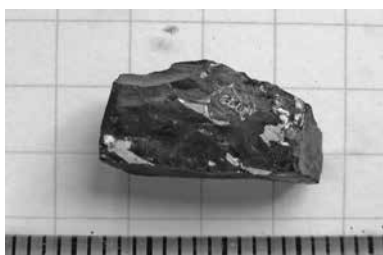
AM-11 (いわき市 -3)



AM-12 (いわき市 -4)



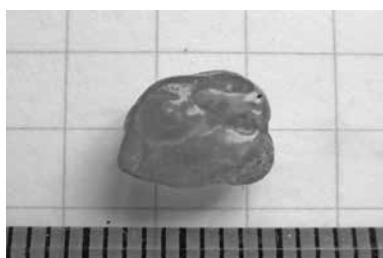
AM-13 (いわき市 -5)



AM-14 (いわき市 -5)



AM-16 (銚子市君ヶ浜 -1)



AM-17 (銚子市君ヶ浜 -2)



AM-18 (銚子市君ヶ浜 -3)



AM-19 (銚子市長崎浜 -1)



AM-20 (銚子市長崎浜 -2)



AM-21 (銚子市長崎浜 -3)



AM-22 (銚子市長崎浜 -4)

写真2 分析対象試料 (2)

7 翡翠分析

(株)第四紀地質研究所

1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（F P法）による自動定量計算システムが採用されており、6 C～92 Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源（最大30 k V、4 mA）の採用で微量試料～最大290mmφ×80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクF P法でおこなった。F P法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。分析にあたっては標準サンプルを分析し、キャリブレーションを行い、装置の正常さを保って行った。

実験条件はバルクF P法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、X線管ターゲット素材＝Rh、加速電圧＝30 k V、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は試料の含水量＝0と仮定し、酸化物の重量％を100％にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量％は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量％では小数点以下3～4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量％）でSiO₂-Al₂O₃、CaO-Na₂O、CaO-Kの3組の組み合わせで図を作成した。

2 分析試料

第1表に示すように28年度間木戸I遺跡より出土した翡翠と石英質石器、22年度分析の古城方八丁遺跡出土の石帯（古城方八丁遺跡の石帯は表面と裏面を分析した。）と駒板3遺跡から出土したヒスイ性遺物1個および比較対象試料として北海道埋蔵文化財センターの柏木川13遺跡から出土した石製品と薄片、産地同定用の試料として北海道埋蔵文化財センター所有のベンケユクトラシナイ沢で採取した原石、斜里町立知床博物館より提供していただいた日高ヒスイ、井上が糸魚川翡翠峡の周辺で採取したヒスイの原石である（北海道埋蔵文化財センター2004）。

3 分析結果

3-1 SiO₂-Al₂O₃の相関について

第1図SiO₂-Al₂O₃図に示すように28間木戸I遺跡・翡翠は駒板3遺跡・ヒスイと共存するもので糸魚川の翡翠とは明らかに領域が異なり、糸魚川系の翡翠ではないことが分かる。間木戸I遺跡の石英質遺物はSiO₂が95％以上で、糸魚川の翡翠と同じ領域にあるがこれは石英質のためである。28間

木戸 I 遺跡・翡翠は駒板 3 遺跡・ヒスイの領域は SiO_2 が 60-65% Al_2O_3 が 20-25% で化学組成としては斜長石に近い領域にある。

3-2 CaO - Na_2O の相関について

第 2 図 CaO - Na_2O 図に示すように 28 間木戸 I 遺跡・翡翠は CaO が 8-10%、 Na_2O が 2-7% の領域にあり、駒板 3 遺跡・ヒスイの領域と異なるものである。間木戸 I 遺跡の石英質遺物は糸魚川の翡翠と同じ領域にあり、分別される。

3-3 CaO- K_2O の相関について

第 3 図 CaO- K_2O 図見られるように 28 間木戸 I 遺跡・翡翠と駒板 3 遺跡・ヒスイは領域を異にし、分別される。28 間木戸 I 遺跡・翡翠は柏木川 13 遺跡の石製品、日高ヒスイ、糸魚川翡翠などとは化学組成が異なり、現在の対比試料では原産地の判断は難しい。

4 ま と め

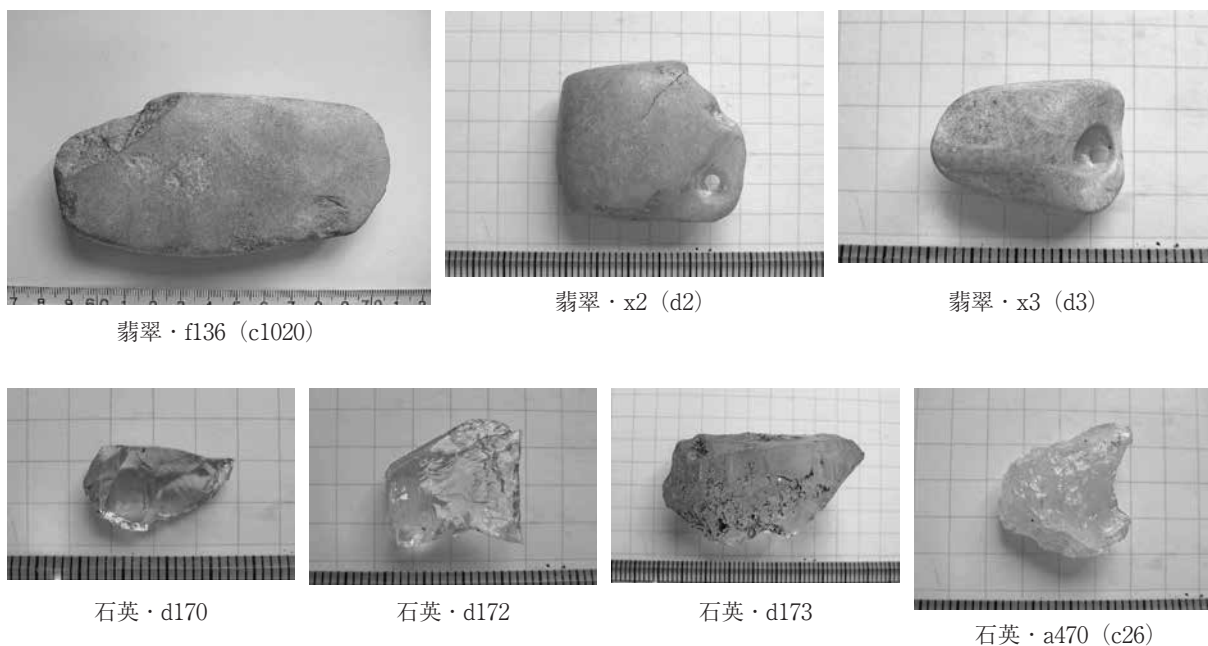
28 間木戸 I 遺跡・翡翠は駒板 3 遺跡・ヒスイ、柏木川 13 遺跡の石製品、日高ヒスイ、糸魚川翡翠などとは化学組成が異なり、現在の対比試料では原産地の判断は難しい。

引用文献

井上 巖 (2000) 東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光 X 線分析 (XRF) 北越考古学、第 11 号、23-38/

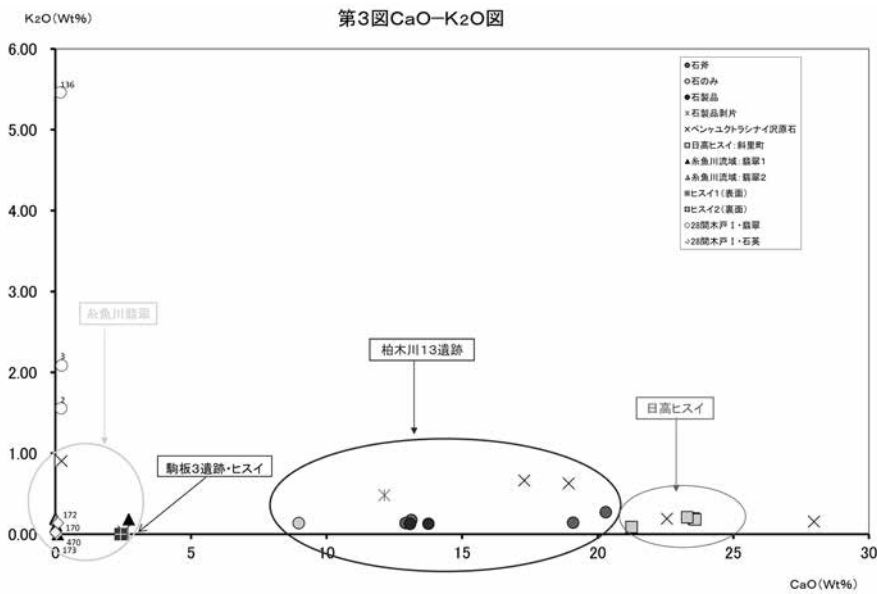
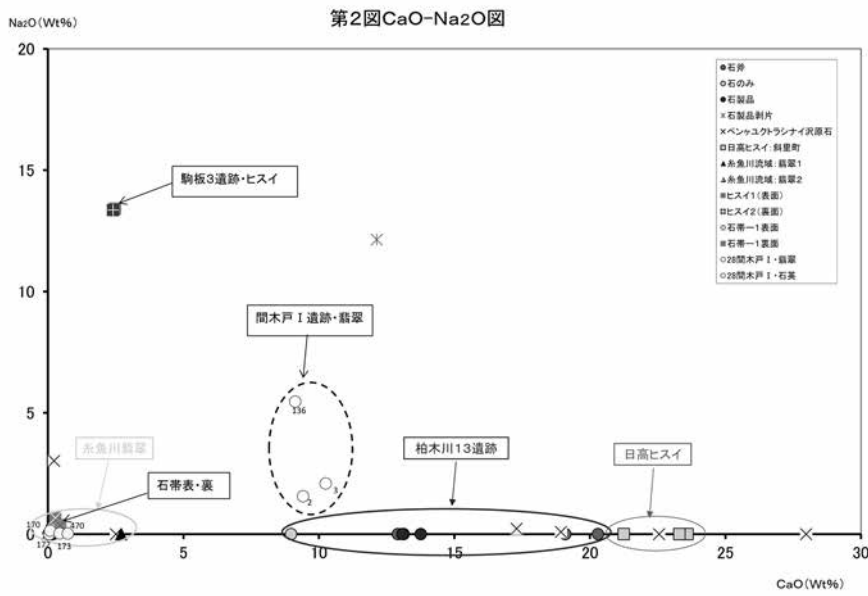
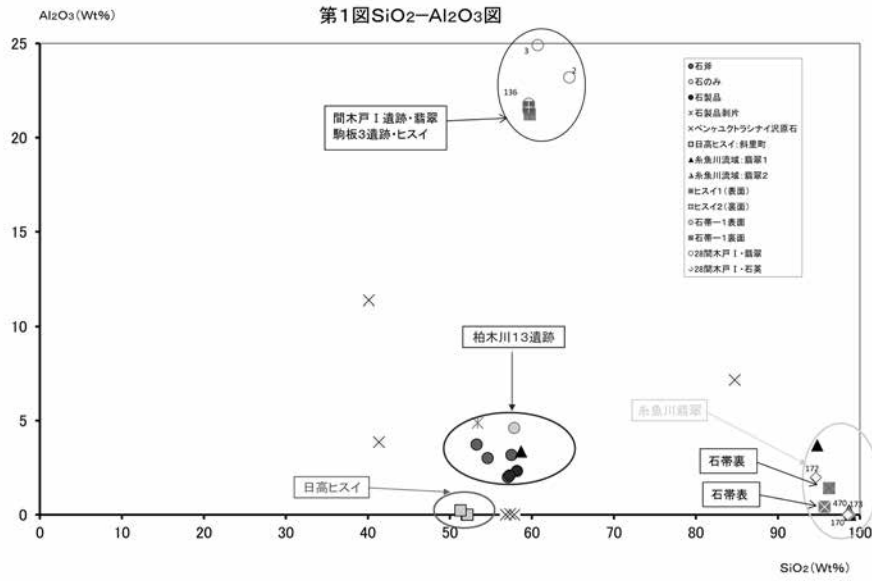
井上 巖 (2001) テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第 7 号 23-51.

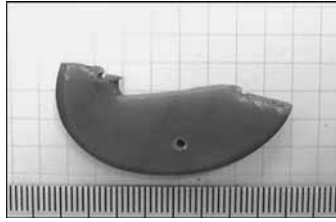
(賤) 北海道埋蔵文化財センター (2004) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書、第 203 集、柏木川 13 遺跡



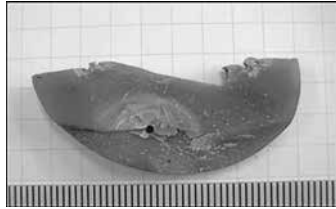
※ () 内は図版掲載番号

写真 1 分析対象試料





古城方八丁・石帯 (表)



古城方八丁・石帯 (裏)



駒板3・翡翠製遺物 (表)



駒板3・翡翠製遺物 (裏)

写真2 分析比較試料

第1表 化学分析表

試料名	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	Rb2O	SrO	Y2O3	ZrO2	Total	備考
柏-1・1	0.0000	18.1217	3.7261	53.2640	0.1226	0.1414	19.0980	0.0597	0.1905	5.2619	0.0007	0.0089	0.0000	0.0046	100.0001	石斧
柏-1・2	0.0000	16.6831	3.0073	54.6186	0.1390	0.2715	20.3002	0.0492	0.2299	4.6923	0.0000	0.0024	0.0000	0.0064	99.9999	石斧
柏-2・1	0.0000	21.2456	1.9913	57.0892	0.2571	0.1745	13.1325	0.0563	0.1991	5.8492	0.0000	0.0052	0.0000	0.0000	100.0000	石斧
柏-2・2	0.0000	20.6840	3.1719	57.5175	0.0677	0.1388	12.9160	0.0506	0.1573	5.2947	0.0000	0.0027	0.0000	0.0008	100.0000	石斧
柏-3	0.0000	21.5108	4.6053	57.8427	0.3704	0.1358	8.9743	0.0367	0.1357	6.3838	0.0018	0.0007	0.0000	0.0019	99.9999	石のみ
柏-4	0.0000	19.4760	2.3162	58.1965	0.0000	0.1258	13.0838	0.0285	0.1545	6.6125	0.0004	0.0041	0.0000	0.0000	100.0000	石製品
柏-5	0.0000	20.1903	2.0802	57.2956	0.4370	0.1278	13.7604	0.0415	0.2155	5.8417	0.0000	0.0050	0.0000	0.0000	99.9999	石製品
柏-6・1	0.0000	35.0522	11.3629	40.1332	0.0324	0.0317	2.5121	0.0484	0.1977	10.6222	0.0000	0.0016	0.0056	0.0000	100.0000	原石
柏-6・2	0.0000	12.2121	3.8561	41.3569	0.0429	0.1542	27.9818	1.2820	0.2818	12.4136	0.0026	0.0142	0.0000	0.0079	100.0000	原石
柏-7	3.0168	0.8640	7.1535	84.7425	0.8467	0.9043	0.2275	0.1447	0.0423	2.0174	0.0072	0.0056	0.0038	0.0237	100.0000	原石
柏-8・1	0.0000	15.9859	0.0429	57.3577	0.2139	0.1915	22.5557	0.0080	0.1386	3.4782	0.0000	0.0276	0.0000	0.0000	100.0000	原石
柏-8・2	0.0890	18.7288	0.0000	56.8298	0.3374	0.6271	18.9330	0.0455	0.1692	4.1981	0.0017	0.0353	0.0011	0.0039	99.9999	原石
柏-8・3	0.2278	19.3287	0.0000	57.8708	0.1511	0.6632	17.2941	0.0495	0.1584	4.2111	0.0000	0.0446	0.0007	0.0000	100.0000	原石
柏-9	0.0256	20.6394	4.8756	53.3815	1.5790	0.4810	12.1345	0.1124	0.2859	6.4750	0.0069	0.0000	0.0034	0.0000	100.0002	剥片
日高-1	0.0000	19.6497	0.0000	52.0850	0.4335	0.1920	23.5440	0.0000	0.0989	3.9857	0.0007	0.0102	0.0000	0.0000	99.9999	原石
日高-2	0.0000	20.3481	0.0000	52.0862	0.6724	0.1807	23.6023	0.0000	0.1029	2.9982	0.0012	0.0080	0.0000	0.0000	100.0000	原石
日高-3	0.0000	19.9129	0.0000	52.1586	0.5742	0.2070	23.3048	0.0000	0.0877	3.7386	0.0024	0.0089	0.0047	0.0000	99.9998	原石
日高-4	0.0000	22.0055	0.2250	51.3087	0.3695	0.0872	21.2513	0.0000	0.0961	4.6393	0.0033	0.0040	0.0020	0.0080	99.9999	原石
糸魚川-1	0.0000	25.4228	3.3532	58.6809	0.7412	0.1835	2.7071	0.1273	0.1258	8.6239	0.0022	0.0191	0.0000	0.0130	100.0000	原石
糸魚川-2	0.0268	0.0000	3.6836	94.8013	1.1284	0.0000	0.0863	0.1648	0.0000	0.0955	0.0008	0.0074	0.0010	0.0040	99.9999	原石
糸魚川-3	0.2399	0.0000	0.0000	98.8242	0.7050	0.1084	0.0279	0.0000	0.0000	0.0946	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	100.0000	原石
翡翠-1	0.0000	0.0996	0.1251	98.7823	0.6341	0.1976	0.0036	0.0199	0.0143	0.1174	0.0058	0.0004	0.0000	0.0000	100.0001	原石
翡翠-2	0.2912	0.0683	0.2243	98.6820	0.4384	0.1855	0.0239	0.0006	0.0205	0.0627	0.0014	0.0000	0.0000	0.0010	99.9998	原石
翡翠-3	0.0000	59.5543	1.0953	13.0022	0.0597	0.0645	0.8436	0.0000	0.6859	24.6672	0.0000	0.0212	0.0000	0.0061	100.0000	原石
ヒスイ1 (表面)	13.4132	2.3626	21.2244	59.7452	0.0000	0.0000	2.4798	0.0276	0.0131	0.7092	0.0000	0.0188	0.0000	0.0061	100.0000	石製品
ヒスイ2 (裏面)	13.3525	2.3599	21.6090	59.6160	0.0000	0.0000	2.4051	0.0169	0.0127	0.6067	0.0000	0.0132	0.0003	0.0076	99.9999	石製品
石帯-1表面	0.6669	0.4679	0.4196	95.6865	2.1966	0.0000	0.2700	0.0036	0.0179	0.2616	0.0012	0.0002	0.0022	0.0062	100.0004	石製品
石帯-1裏面	0.3765	0.7057	1.4141	96.2495	0.3074	0.0308	0.4594	0.0408	0.0035	0.4093	0.0000	0.0012	0.0000	0.0031	100.0001	石製品
F136 (c1020)	9.1285	1.7242	21.7897	59.6286	0.5073	0.1966	5.4591	0.1055	0.0375	1.3989	0.0025	0.0028	0.0000	0.0000	100.0002	石斧
X2 (d2)	9.4193	0.0000	23.1911	64.5846	0.2504	0.2144	1.5547	0.0724	0.0195	0.6819	0.0000	0.0075	0.0000	0.0042	100.0000	有孔垂飾具
X3 (d3)	10.2524	0.1700	24.9060	60.7145	0.5883	0.2332	2.0847	0.0771	0.0136	0.9384	0.0052	0.0127	0.0000	0.0039	100.0000	有孔垂飾具
DD170	0.0585	0.0000	0.0000	98.7824	1.0646	0.0428	0.0000	0.0011	0.0060	0.0422	0.0008	0.0015	0.0000	0.0000	99.9999	細部加工剥片
DD172	0.0854	0.7104	1.9768	94.6208	0.5357	0.0984	0.1372	0.0315	0.0439	1.7589	0.0000	0.0000	0.0010	0.0000	99.9999	細部加工剥片
DD173	0.4372	0.0000	0.0000	98.4801	1.0353	0.0000	0.0276	0.0035	0.0033	0.0069	0.0017	0.0036	0.0000	0.0000	100.0001	石英
AA470 (c26)	0.7384	0.0000	0.0000	98.5355	0.4002	0.0020	0.0220	0.0097	0.2000	0.0747	0.0047	0.0000	0.0043	0.0086	100.0001	石英

* 試料名欄の()内は遺物掲載番号

8 鉄 滓 分 析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

間木戸 I 遺跡は、岩手県下閉伊郡山田町に所在する。発掘調査では古代の竪穴建物 23 軒や鉄生産に関わる炉跡が 1 基確認された。鉄滓の出土量は 28 リットルコンテナで 12 箱分と多くはないが、古代の竪穴建物・炉跡、近世の溝から出土している。本分析調査では、当地域周辺での鉄生産の実態を検討するため、竪穴建物および溝から出土した製鉄関連遺物を対象に分析を実施した。

1 試 料

分析試料は、B 4 号竪穴建物から出土した炉外流出滓 1 点、B 19 号竪穴建物から出土した鉄塊系遺物 1 点、4 号溝から出土した炉外流出滓 1 点、流出孔滓 1 点の計 4 点である。各遺物の詳細及び分析項目については表 1 に示した。

2 分 析 方 法

(1) 外観観察

調査対象とした遺物の外観上の特徴を記載した。

(2) 顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成や金属鉄（またはその錆化物）の組織観察を目的とする。

遺物外観の特徴から断面観察の位置を設定し、切り出した試験片を樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の #150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の $3\mu\text{m}$ と $1\mu\text{m}$ で鏡面研磨した。さらに断面全体を金属反射顕微鏡で観察した後、代表的・特徴的な視野を写真撮影した。金属鉄を含む遺物は、金属組織の観察のため 3% ナイタール（硝酸アルコール液）で腐食した。

(3) EPMA 調査

EPMA（日本電子製(株) JXA-8230）を用いて、鉄滓の鉱物組成を調査した。測定条件は以下の通りである。加速電圧：15kV、照射電流（分析電流）：2.00E-8A。

(4) 化学組成分析

各成分の測定法は以下の通りである。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第 1 鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）：燃焼容量法、硫黄（S）：燃焼赤外吸収法。

二酸化珪素（SiO₂）、酸化アルミニウム（Al₂O₃）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、

酸化カリウム (K_2O)、酸化ナトリウム (Na_2O)、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン (TiO_2)、酸化クロム (Cr_2O_3)、五酸化燐 (P_2O_5)、バナジウム (V)、銅 (Cu)、二酸化ジルコニウム (ZrO_2) : ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) 発光分光分析法。

3 結 果

1. MGI14 - 1 : 炉外流出滓

1) 外観観察：細い滓が複数重なって凝固した、炉外流出滓の側面破片 (502.6g) である。製鉄炉の操業中に排出された滓と推測される。上面の一部と下面および側面1面は本来の表面で、側面3面は破面である。滓の色調は暗灰色で、弱い着磁性がある。全体に気孔は少なく緻密で、重量感のある滓である。

2) 顕微鏡組織：図版1-①～③に示す。滓中の微細な淡茶褐色多角形結晶は、マグネタイト (Magnetite : $FeO \cdot F_2O_3$)、またはチタン磁鉄鉱 [Titano-magnetite: マグネタイトとウルボスピネル (Ulvöspinel : $2FeO \cdot TiO_2$) の中間組成の固溶体] と推定される。さらに白色粒状結晶ウスタイト (Wustite : FeO)、淡灰色柱状結晶ファヤライト (Fayalite : $2FeO \cdot SiO_2$) が晶出する。また、③の灰褐色粒は、下面表層に付着した砂鉄 (磁鉄鉱または含チタン鉄鉱) である。熱影響はほとんどなく、製錬滓を炉外に排出した時に、表面に付着したものと推測される。

3) 化学組成分析：表2に示す。全鉄分 (Total Fe) 50.79% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) は 0.48%、酸化第1鉄 (FeO) が 49.01%、酸化第2鉄 (Fe_2O_3) 17.46% の割合であった。造滓成分 ($SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O$) は 28.59% で、このうち塩基性成分 ($CaO + MgO$) 5.00% とやや高めであった。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱 (注1)) 起源の二酸化チタン (TiO_2) が 2.84%、バナジウム (V) は 0.22% であった。また酸化マンガン (MnO) は 0.43%、二酸化ジルコニウム (ZrO_2) は 0.10% であった。

以上の調査結果から、当鉄滓は低チタン (TiO_2) 砂鉄を原料とした製錬滓と推定される。

2. MGI14 - 2 : 鉄塊系遺物

1) 外観観察：やや小形で不定形の鉄塊系遺物 (55.4g) である。表面全体が黄褐色の土砂や茶褐色の鉄錆化物で覆われる。表面に若干暗灰色の滓が付着するが、広い範囲で金属探知器反応がある。内部にまとまった金属鉄部が残存すると推定される。

2) 顕微鏡組織：図版1-④～⑥に示す。表層にごく薄く滓が付着しているが、鉄主体の遺物であった。明灰色～褐色部は金属鉄で、組織観察のため3% ナイタールで腐食したところ、亜共析組織～過共析組織が確認された。⑤は過共析組織部分の拡大である。素地は層状のパーライト (Pearlite) で、針状セメンタイト (Cementite : Fe_3C) が析出する。⑥は亜共析～共析組織部分の拡大で、表面に白色のフェライト (Ferrite : α 鉄) が析出する。また、⑥右側の暗灰色部は、白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色針状結晶イスコライト (Iscoelite : $5FeO \cdot Fe_2O_3 \cdot SiO_{10}$) が晶出する。

3) EPMA 調査：図版2-①に鉄中非金属介在物の反射電子像 (COMP) を示す。鉄中の微細な淡黄色部は、特性X線像では硫黄 (S) に強い反応がある。定量分析値は 64.3%Fe - 35.2%S (分析点1) であった。硫化鉄 (FeS) である。また特性X線像では、燐 (P) の偏析も確認された。定量分析値は 88.5%Fe - 9.2%P (分析点2) で、ステダイト (Steadite : $Fe - Fe_3C - Fe_3P$) と推定される。

さらに滓部の組成を調査した。図版2②に反射電子像 (COMP) を示す。白色粒状結晶は鉄 (Fe)

に強い反応がある。定量分析値は94.2%FeO（分析点3）であった。ウスタイト（Wustite：FeO）と推定される。淡灰色針状結晶は、特性X線像では鉄（Fe）、珪素（Si）、アルミニウム（Al）に反応がある。定量分析値は77.3%FeO - 11.0%SiO₂ - 4.4%Al₂O₃ - 3.5%TiO₂（分析点4）であった。イスコライト（Ischorite：5FeO·Fe₂O₃·SiO₁₀）と推定される。

以上の調査結果から、当遺物は鍛冶加工前の小鉄塊（鋼）と推定される。部位により、炭素量は0.7～1.2%程度のばらつきがみられる。

3. MGI14 - 3：炉外流出滓

1) 外観観察：やや偏平な炉外流出滓の破片（178.1g）である。滓の色調は暗灰色で、弱い着磁性がある。上下面と側面2面は本来の表面で、側面5面はやや不規則な破面である。破面に大形の気孔が若干点在するが、緻密で重量感のある滓である。炉外流出滓（MGI14 - 1）のような細い滓が多数溶着した跡はなく、製鉄炉の操業中に多量の滓が一気に排出されて生じたものと考えられる。

2) 顕微鏡組織：図版3-①～③に示す。滓中には微細な白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。

3) 化学組成分析：表2に示す。全鉄分（Total Fe）51.82%に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.10%、酸化第1鉄（FeO）が54.85%、酸化第2鉄（Fe₂O₃）12.99%の割合であった。造滓成分（SiO₂ + Al₂O₃ + CaO + MgO + K₂O + Na₂O）は29.48%で、このうち塩基性成分（CaO + MgO）の割合は1.94%と低い。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO₂）は1.04%、バナジウム（V）が0.12%と低値であった。酸化マンガン（MnO）は0.20%で、二酸化ジルコニウム（ZrO₂）は0.12%であった。

以上の調査結果から、当鉄滓も炉外流出滓（MGI14 - 1）と同様に、低チタン（TiO₂）砂鉄を原料とした製錬滓と推定される。

4. MGI14 - 4：流出孔滓

1) 外観観察：二条の棒状の滓が接着した、やや大形の流出孔滓（466.3g）と推測される。側面から下面にかけて砂粒を含む炉壁粘土が付着する。上面の中央は、小形の木炭痕による凹凸が著しい。表面の広い範囲で茶褐色の鉄錆化物が付着しており、弱い着磁性もあるが、まとまった鉄部はみられない。緻密で重量感のある滓である。

2) 顕微鏡組織：図版3-④～⑥に示す。滓中の多角形結晶の明色部はチタン磁鉄鉱、暗色部はヘルシナイト（Hercynite：FeO·Al₂O₃）と推測される。さらに白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。

3) 化学組成分析：表2に示す。全鉄分（Total Fe）47.84%に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.14%、酸化第1鉄（FeO）が54.83%、酸化第2鉄（Fe₂O₃）7.26%の割合であった。造滓成分（SiO₂ + Al₂O₃ + CaO + MgO + K₂O + Na₂O）は27.75%で、このうち塩基性成分（CaO + MgO）の割合は2.30%と低い。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO₂）は1.29%、バナジウム（V）が0.12%と低値であった。また酸化マンガン（MnO）は0.22%、二酸化ジルコニウム（ZrO₂）は0.12%であった。

当鉄滓も炉外流出滓（MGI14 - 1・3）とよく似た組成で、低チタン（TiO₂）砂鉄を原料とした製錬滓と推定される。

4 まとめ

間木戸Ⅰ遺跡の出土遺物を調査した結果、当遺跡では地域に分布する低チタン砂鉄を原料として鉄生産が行われていたと推定される。詳細は以下の通りである。

鉄滓3点(1・3・4)は、低チタン(TiO₂)砂鉄を原料とした製錬滓と推定される。砂鉄製錬滓としては、チタニアの割合が低めであった(TiO₂:1.04~2.84%)。岩手県内の製鉄遺跡の分析調査結果をみると、下閉伊郡に所在する多くの遺跡で、出土した砂鉄・製錬滓ともチタニアの割合が低く、低チタン砂鉄が製鉄原料であったことが明らかとなっている〔山ノ内Ⅲ遺跡(山田町)は砂鉄:0.39~0.96% TiO₂、製錬滓:0.38~2.79% TiO₂(注2)、島田Ⅱ遺跡(宮古市)は砂鉄:0.60~2.52% TiO₂、製錬滓:2.04~7.62% TiO₂(注3)〕。当遺跡でも地域周辺に分布する低チタン砂鉄を採取して、鉄を生産していたと考えられる。

鉄塊系遺物(2)は、当遺物は鍛冶加工前の小鉄塊と推定される。炭素量は0.7~1.2%程度の高炭素鋼で、焼き入れ硬さを要求される刃部の素材としても適した原料といえる。なお鉄中には、鍛冶加工時の鍛接不良や製品の脆化等の要因となる、硫黄(S)、燐(P)の影響が若干確認された。

注

(1) 木下亀城・小川留太郎, 1995, 『岩石鉱物』, 保育社

チタン鉄鉱は赤鉄鉱とあらゆる割合に混じりあった固溶体をつくる。(中略)チタン鉄鉱と赤鉄鉱の固溶体には、チタン鉄鉱あるいは赤鉄鉱の結晶をなし、全体が完全に均質なものと、チタン鉄鉱と赤鉄鉱が平行にならんで規則正しい縞状構造を示すものがある。チタン鉄鉱は磁鉄鉱とも固溶体をつくり、これにも均質なものと、縞状のものがある。(中略)このようなチタン鉄鉱と赤鉄鉱、または磁鉄鉱との固溶体を含チタン鉄鉱 Titaniferous iron ore という。

(2) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 1993, 『山ノ内Ⅲ遺跡発掘調査報告書』

(3) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 2004, 『島田Ⅱ遺跡第2~4次発掘調査報告書』

表1 分析試料一覧

試料番号	出土地点	遺物名称	推定年代	計測値		金属探知器反応	調査項目		
				大きさ(mm)	重量(g)		顕微鏡組織	EPMA	化学分析
MGI14-1	B4号竪穴建物	炉外流出滓	古代	78×70×50	502.6	なし	○		○
MGI14-2	B19号竪穴建物	鉄塊系遺物		41×31×24	55.4	L(●)	○	○	
MGI14-3	4号溝	炉外流出滓	近世	89×64×16	178.1	なし	○		○
MGI14-4	4号溝	流出孔滓		110×83×45	466.3	なし	○		○

表2 化学分析結果

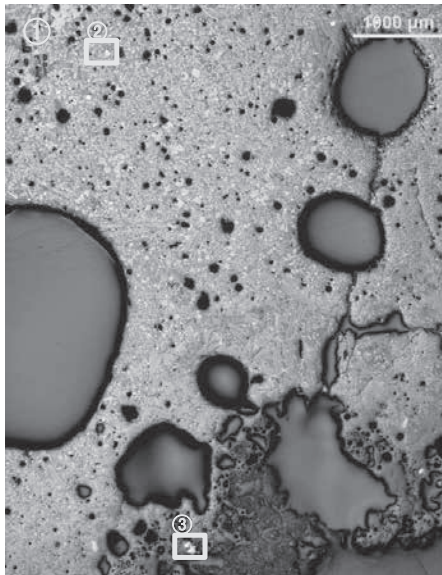
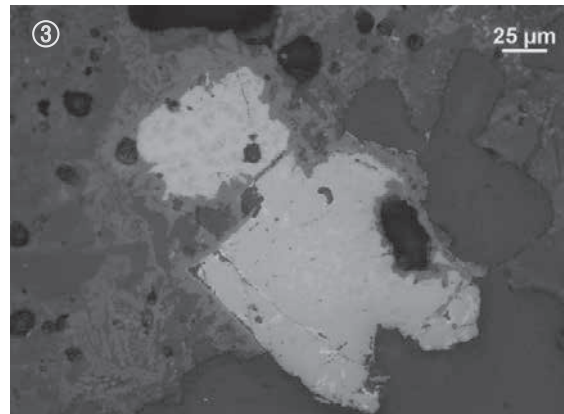
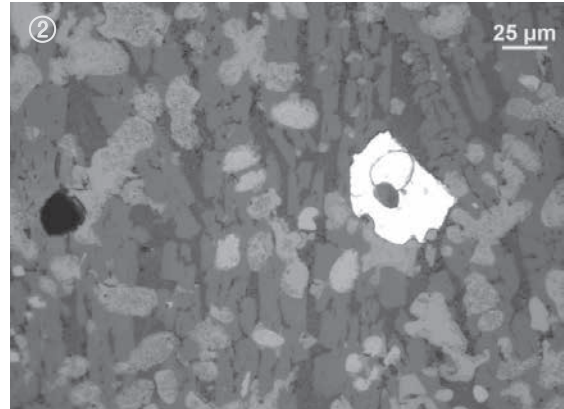
試料番号	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化 第1鉄 (FeO)	酸化 第2鉄 (Fe ₂ O ₃)	*		*		*		*	
					二酸化 珪素 (SiO ₂)	酸化 アルミニウム (Al ₂ O ₃)	酸化 カルシウム (CaO)	酸化 マグネシウム (MgO)	酸化 カリウム (K ₂ O)	酸化 ナトリウム (Na ₂ O)	酸化 マンガン (MnO)	
MGI14-1	50.79	0.48	49.01	17.46	17.76	4.56	4.38	0.62	0.55	0.72	0.43	
MGI14-3	51.82	0.10	54.85	12.99	19.92	6.39	1.41	0.53	0.55	0.67	0.20	
MGI14-4	47.84	0.14	54.83	7.26	18.45	5.98	1.59	0.71	0.52	0.50	0.22	
									Σ*			
試料番号	二酸化チタン (TiO ₂)	酸化クロム (Cr ₂ O ₃)	硫黄 (S)	五酸化燐 (P ₂ O ₅)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	二酸化 ジルコニウム (ZrO ₂)	造滓成分	造滓成分 Total Fe	TiO ₂ Total Fe	
MGI14-1	2.84	0.04	0.023	1.51	0.03	0.22	<0.01	0.10	28.59	0.563	0.056	
MGI14-3	1.04	0.04	0.027	0.25	0.10	0.12	<0.01	0.12	29.47	0.569	0.020	
MGI14-4	1.29	0.04	0.023	0.33	0.19	0.12	<0.01	0.12	27.75	0.580	0.027	

図版1 炉外流出滓・鉄塊系遺物の顕微鏡組織

MGI14-1

炉外流出滓

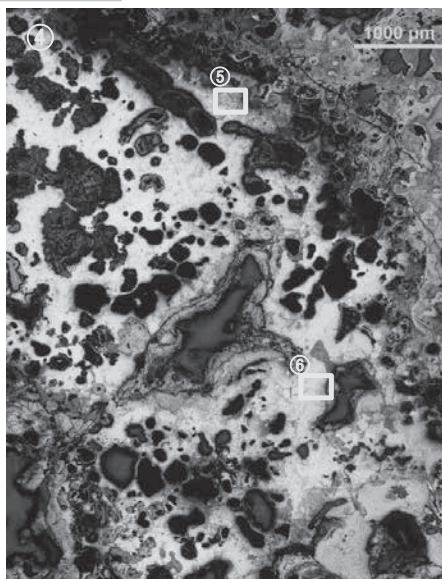
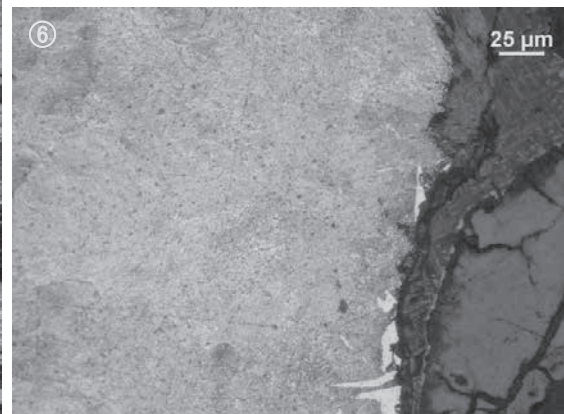
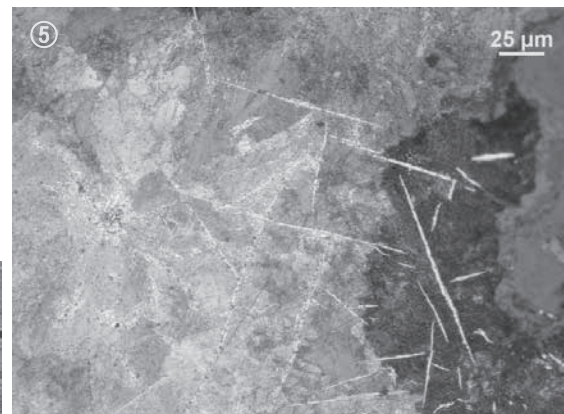
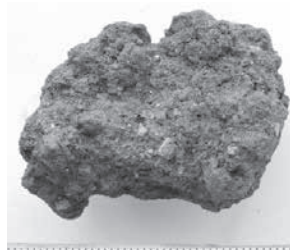
①滓部:マグネサイト(またはチタン磁鉄鉱)・ウスタイト・フェライト、②滓部拡大、微小明白色粒:金属鉄、フェライト単相、③下面表層付着砂鉄拡大



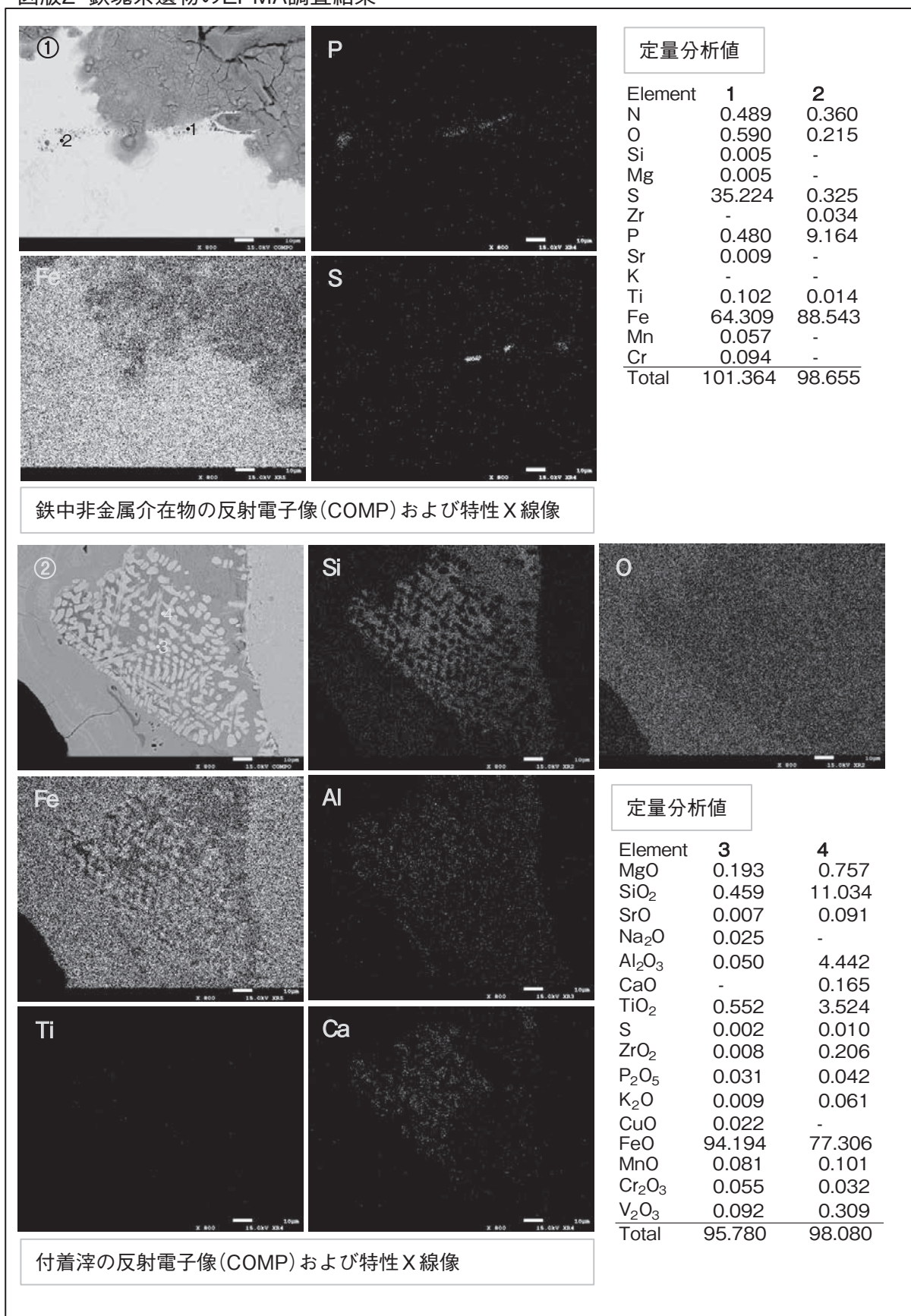
MGI14-2

鉄塊系遺物

④金属鉄部:亜共析組織～過共析組織、⑤過共析組織、⑥亜共析～共析組織部分拡大



図版2 鉄塊系遺物のEPMA調査結果

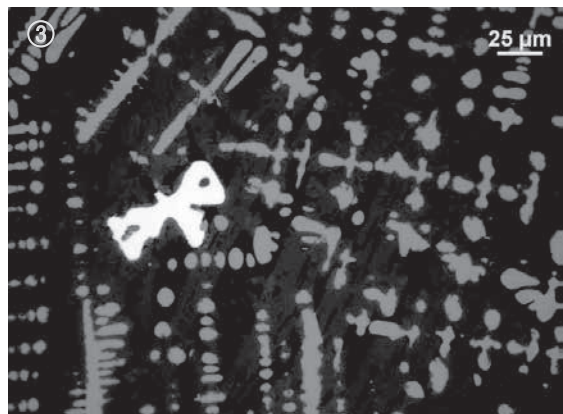
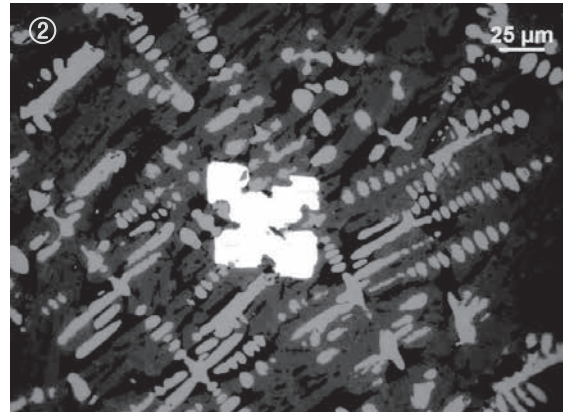
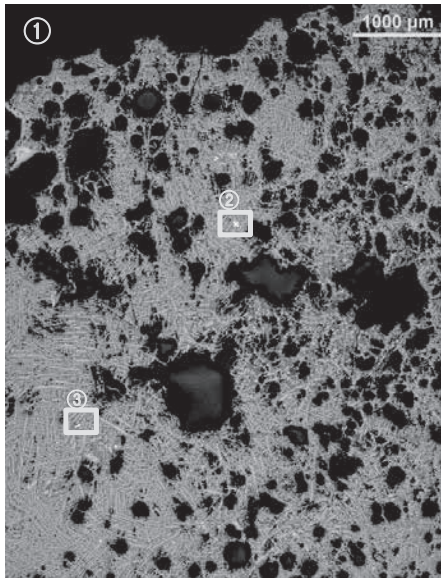


図版3 炉外流出滓・流出孔滓の顕微鏡組織

MGI14-3

炉外流出滓

①～③滓部:ウスタイト・
ファヤライト、微小明白色
粒:金属鉄



MGI14-4

流出孔滓

④～⑥ウスタイト・マグネ
シト(またはチタン磁鉄
鉱)・ハルシナイト・ファヤライト

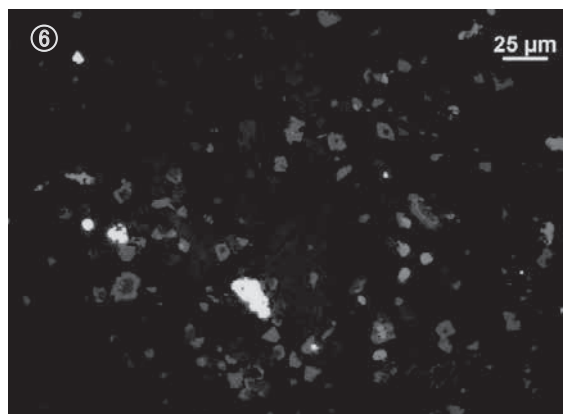
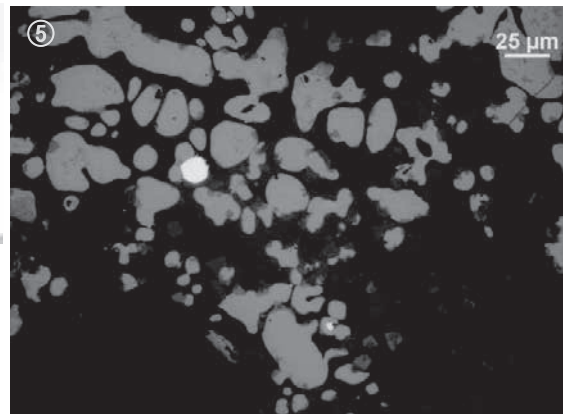
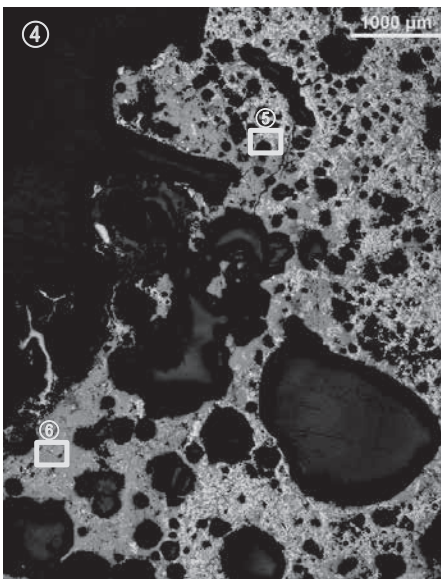
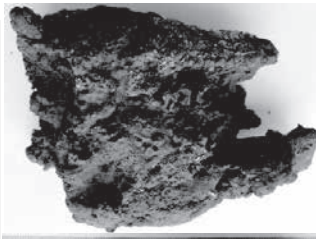


表3 出土遺物の調査結果のまとめ

試料番号	顕微鏡組織	化学組成 (%)								所見
		Total Fe	塩基性成分	TiO ₂	V	MnO	ZrO ₂	造滓成分	Cu	
MGI141	滓部:M (またはTi) +W+F、砂鉄粒子付着、微小金属鉄粒:フェライト単相	50.79	5.00	2.84	0.22	0.43	0.10	28.59	<0.01	製錬滓 (原料:低チタン砂鉄)
MGI142	滓部:W+Is、金属鉄部:亜共析組織~過共析組織	-	-	-	-	-	-	-	-	鍛冶加工前の小鉄塊 (銅)炭素量:0.7~1.2%程度
MGI143	滓部:W+F、微小金属鉄粒	51.82	1.94	1.04	0.12	0.20	0.12	29.47	<0.01	製錬滓 (原料:低チタン砂鉄)
MGI144	滓部:M (またはTi) +H+W+F	47.84	2.30	1.29	0.12	0.22	0.12	27.75	<0.01	製錬滓 (原料:低チタン砂鉄)

W:Wustite (FeO)、M:Magnetite (FeO·Fe2O3)、Ti:Titano-magnetite (MagnetiteとUlvöspinelの中間組成)、U:Ulvöspinel (2FeO·TiO2)、H:Hercynite (FeO·Al2O3)、Is:Iscorite (5FeO·Fe2O3·SiO10)、F:Fayalite (2FeO·SiO2)

9 金属製品保存処理

はじめに

今回の調査で出土した金属製品については、平成28年度の整理作業時に公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所保存科学室に保存処理業務を委託した。本節では保存処理終了時に受領した報告書を基に、処理の過程と結果について記載を行う。

1 対象資料

対象資料は第1表の通りである。資料は引渡し前に肉眼観察を基にした錆落とし、実測・写真撮影を行っている。なお、資料には整理作業用の仮登録番号を付しているが、作業においては委託先便宜上通し番号を付け直しており、その対応関係も第1表に示している。

2 保存処理工程

2-1 事前調査・記録

処理前の状態の観察とともに、記録のため外観の写真撮影、X線透過画像撮影を実施した(写真図版1~4)。

2-2 クリーニング・脱水処理

アルコールに浸漬し、表面に付着している砂などを除去するとともに、金属が錆びる原因のひとつである水分を除去した。

2-3 錆落とし

資料上、また保存上取り除く必要のある錆についてはハンドグラインダー・メスなどを用いて物理的に取り除いた。

2-4 脱塩処理・安定化処理

鉄製品については、錆びる原因である塩分を高温高圧脱酸素水法で除去した。脱塩処理液の塩化物イオン濃度及び硫酸イオン濃度については比濁法(多項目水質計)を用いて測定し、測定限界値(塩化物イオン2ppm、硫酸イオン10ppm)以下になるまで脱塩処理を繰り返した。銅製品(IWT15018)については、銅の錆化を抑止するためベンゾトリアゾールのアルコール

溶液へ浸漬した。

2-5 樹脂含浸処理

金属が錆びる原因のひとつである酸素との接触を出来る限り防ぎ、傷んでいる遺物自体の強度を向上させるため、減圧下で合成樹脂含浸をおこなった。

使用した合成樹脂は非水溶性アクリルエマルジョン（商品名：パラロイド NAD10）、非水溶性アクリル樹脂（商品名：パラロイド B72）である。

2-6 接合・復元

小片の接合および亀裂の目立つ箇所に補填し、彩色を施した。接合復元にはシアノアクリレート系接着剤（商品名：アロンアルファ）、エポキシ系補填材（商品名：ウッドエポキシ）を用いた。

2-7 処理後記録・保管

処理後の記録のため写真撮影を実施した。低湿度状態で経過観察を行っている。

3 処理後の状況

資料の受領後、ユニパックにシリカゲルとともに密封し、温湿度変化が少ないようにコンテナに入れて保管している。

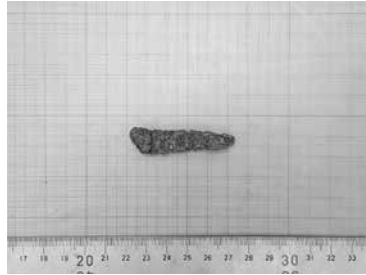
(村田)

第1表 保存処理対象資料一覧

処理 No.	掲載 No.	登録 No.	器種	計測値 (cm)			備考
				長	幅	厚	
IWT16001	i1	F1	刀子	15.2	1.0	0.4	完形、破片3点
IWT16002	i2	F2	刀子	[5.0]	1.0	0.3	柄部破片
IWT16003	i17	F4	釘?	[2.9]	[3.1]	0.5	
IWT16004	i14	F5	不明	[10.4]	1.85	1.5	
IWT16005	i3	F7	鈎帯金具	[3.0]	[3.0]	0.2	巡方、布? (繊維質付着)
IWT16006	i4	F8	刀子?	[3.8]	0.6	0.2	
IWT16007	i10	F10	鈎針	12.6	7.5	0.45 ~ 0.9	
IWT16008	i11	F11	刀子	[5.7]	1.2	0.3	刃部破片
IWT16009	i12	F12	刀子	[9.2]	1.5	0.3	刃部破片
IWT16010	i13	F14	馬具	8.7	2.5	0.2 ~ 0.7	鐙吊金具
IWT16011	i15	F15	釘?	[8.2]	1.0	0.35	
IWT16012	i7	F22-1	鏃	11.8	1.0	0.4 ~ 0.8	炭化した木質付着
IWT16013	i8	F22-2	鏃	12.2	1.0	0.4 ~ 0.6	炭化した木質付着
IWT16014	i9	F22-3	刀子?	[8.8]	1.2	0.5	炭化した木質付着
IWT16015	i5	F23	刀子	[9.4]	1.1	0.35	片闕、F22 から剥がれた1点
IWT16016	i6	F24	馬具	12.0	0.9 ~ 3.7	0.8	引手
IWT16017	i16	F25	鎌	[14.0]	2.8	0.3	先端部欠損
IWT16018	i20	F26	煙管	4.5	1.1	0.8	



i1 (IWT16001)



i2 (IWT16002)



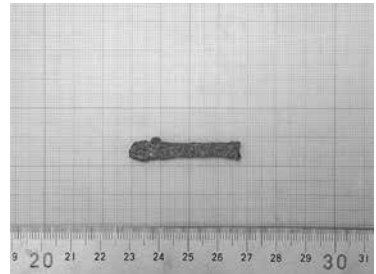
i17 (IWT16003)



i14 (IWT16004)



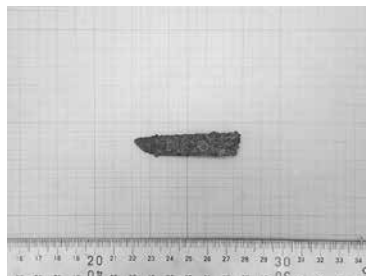
i3 (IWT16005)



i4 (IWT16006)



i10 (IWT16007)



i11 (IWT16008)



i12 (IWT16009)



※上が保存処理前、下が保存処理後

写真1 対象資料外観写真(1)



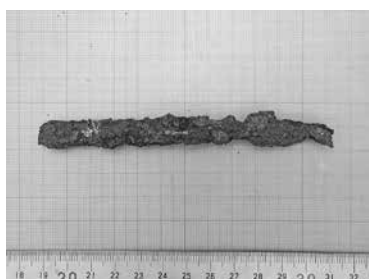
i13 (IWT16010)



i15 (IWT16011)



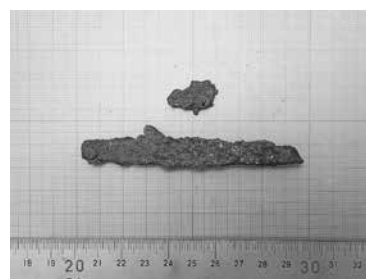
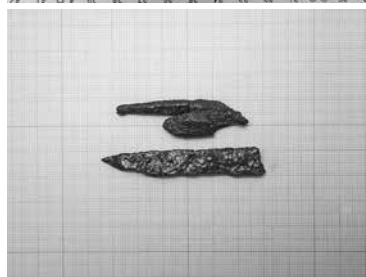
i9 (IWT16012)



i8 (IWT16013)



i7 (IWT16014)



i5 (IWT16015)



i6 (IWT16016)



i16 (IWT16017)



i20 (IWT16018)

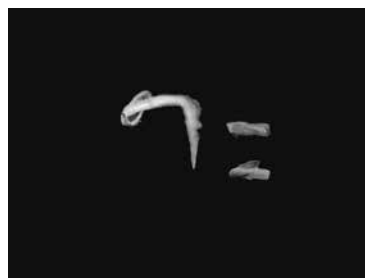




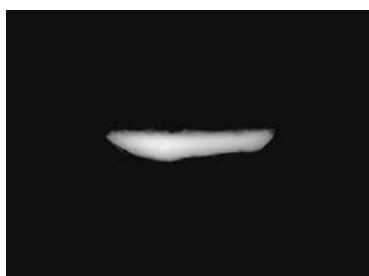
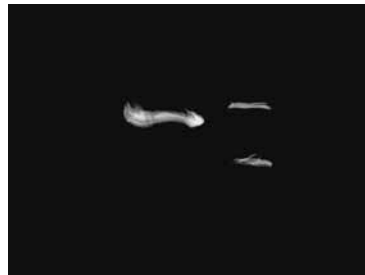
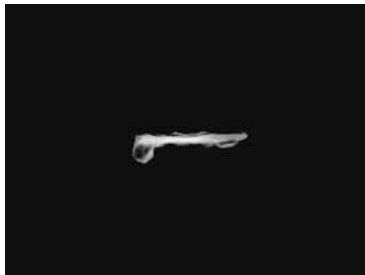
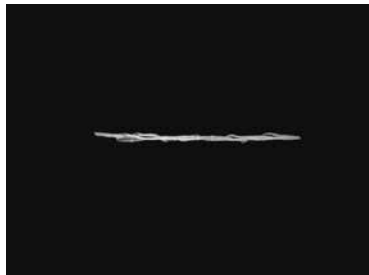
i1 (IWT16001)



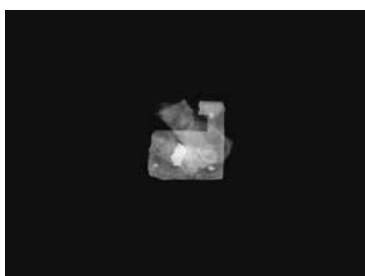
i2 (IWT16002)



i17 (IWT16003)



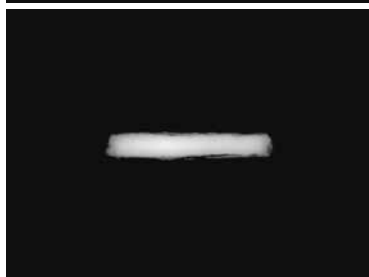
i14 (IWT16004)



i3 (IWT16005)



i4 (IWT16006)



i10 (IWT16007)



i11 (IWT16008)



i12 (IWT16009)

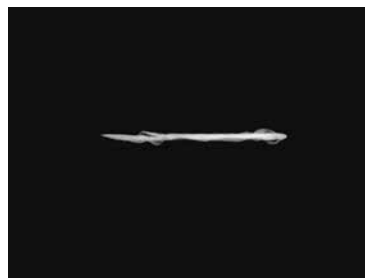
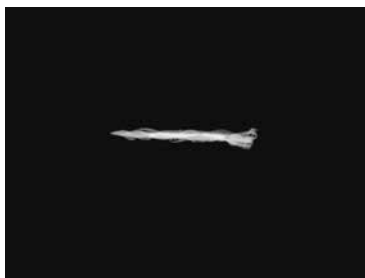
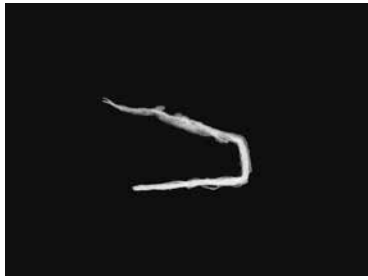


写真3 対象資料X線透過写真(1)



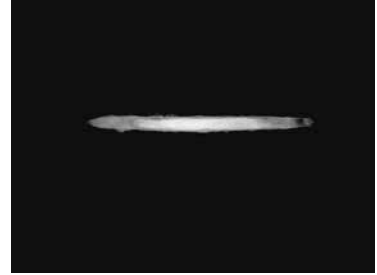
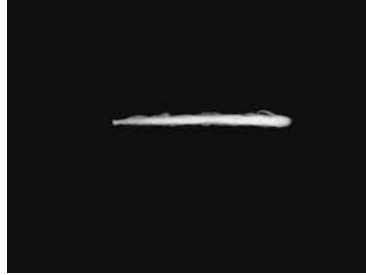
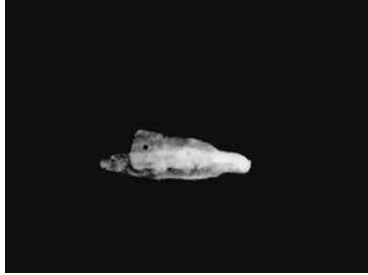
i13 (IWT16010)



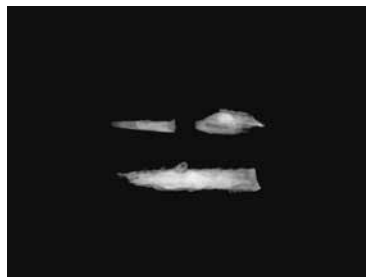
i15 (IWT16011)



i9 (IWT16012)



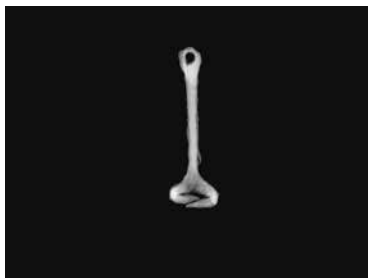
i8 (IWT16013)



i7 (IWT16014)



i5 (IWT16015)



i6 (IWT16016)



i16 (IWT16017)



i20 (IWT16018)



写真4 対象資料X線透過写真(2)

Ⅶ 調査のまとめ

1 検出遺構

(1) 縄文時代

竪穴建物・土坑・炉・焼土・土器埋設遺構・配石遺構が検出されている。ここでは竪穴建物を中心に時期毎の分布状況等、全体的な様相についてみていく。竪穴建物は253軒検出しており、出土遺物と重複関係から大きく前期末葉、中期前葉、中期中葉、中期中葉～後葉、中期後葉、中期末葉～後期初頭の6時期に分類できる(第1-236図)。

前期末葉

大木6式土器が出土した竪穴建物をこの時期とし、大木7a式古段階(中期中葉)の可能性のあるものを含めて11軒検出した(第1-236図：緑)。調査区中央の沢状地形部分と調査区南東隅の低位部に造られており、A16・17号竪穴建物が重複関係にあるが、それ以外は切り合うことなく単独で造られている。削平されているものが多いが、平面形は方形または隅丸方形が主体である。このうちA162号竪穴建物は長軸が9m以上あり、床面施設は確認されなかったが大型住居であった可能性がある。柱配置は、四角形(A191号竪穴建物)と六角形(A17号竪穴建物)がある(第1-17・72図)。また、A16・17・94・134号竪穴建物では周溝と柱配置から建て替え・拡張が行われていたと考えられる(第1-14・49・71図)。炉は5軒で検出されており、A174号竪穴建物の2基は石囲炉であるが、その他は地床炉である。

中期前葉

大木7a・b式土器が出土した竪穴建物をこの時期とし、大木8a式(中期中葉)の可能性のあるものを含めて22軒検出した(第1-236図：赤)。分布域は、調査区中央の沢状地形部分に集中する点は前期末葉と同じであるが、南東側の低位部ではなく西側尾根の頂部～斜面部に分布するようになる。前期末葉より建物数は増加するが、同時期の建物または前期末葉の建物と重複するものが多く、同時存在していた建物は少なかったと考えられる。平面形は円形が主体となり、前期末葉に比べて規模は縮小する。柱配置は、四角形(A153・204号竪穴建物)、五角形(A203号竪穴建物)、六角形(A121号竪穴建物)がある(第1-68・98図)。この時期の竪穴建物では床面施設の検出数が少なく、明確に建て替え・拡張を確認できたものは無い。炉は11軒で検出されており、このうち4軒では複数確認されている。形態は石囲炉と地床炉が主体であるが、A153号竪穴建物では石囲炉と地床炉で構成される複式炉が検出されている(第1-65図)。

中期中葉

大木8a・b式土器が出土した竪穴建物をこの時期とし、43軒検出した(第1-236図：青)。建物数の増加に伴って分布域も広がり、前期末葉～中期前葉までのものと同じ範囲に加えて西端区でも造られるようになる。西側尾根の頂部では中期前葉の建物と重複するが、前時期の建物を避けるように中央の沢状地形部分でも尾根の裾部に近い地点に造るようになる。平面形は中期前葉と同じく円形が基本であるが、A58号竪穴建物のような方形も確認されている(第1-33図)。長軸4～5m規模の建物が主体となるが、5m以上の大型も9軒、3.5m以下の小型も5軒あり、規模の分化が認められる。柱配置は削平により不明なものが多いが、四角形(A12・31号竪穴建物)、五角形(A114・208号

竪穴建物)がある(第1-24・61・98図)。なお、中期前葉と同じくこの時期には建て替え・拡張を行ったと考えられる竪穴建物は確認されていない。炉は31軒で検出しており、このうち7軒で複数確認されている。単室の石囲炉が主体であるが、複式炉も6基確認されている。複式炉は種類が増え、A110号竪穴建物では石組による二室構造、A120・145・171号竪穴建物では石囲炉と地床炉、A154・222号竪穴建物では石囲炉と土器埋設炉で構成される(第1-60・62・69・77・85・99図)。なお、複式炉は本期以降中期末葉まで造られるが、構造は上記パターンのいずれかとなる。

中期中～後葉

大木8b～9式土器が出土した竪穴建物をこの時期とし、96軒検出した(第1-236図：黒)。最も建物数が多い時期であり、分布域は中期中葉と同じ範囲に加えて調査区中央南側の沢状地形低位部でも造られるようになる。ただし、重複が著しく単独で立地するものがほとんど無いことから、同時存在の建物数はあまり多くないと考えられる。平面形は円形または楕円形が主体で、A239号竪穴建物のような方形プランはわずかである(第1-109図)。建物規模は中期中葉より大きくなり長軸5m以上のものが約半数の44軒である。また、長軸が7m以上となるものも6軒確認されている。柱配置は、四角形(A18・67・73・219号竪穴建物)、五角形(A56・75号竪穴建物)、六角形(A20・76・209・211・231～234号竪穴建物)、七角形(A99・117号竪穴建物)、八角形(A19号竪穴建物)がある(第1-14・17・38・41・44・46・48・56・100・102・104・108図)。A67・211号竪穴建物では支柱穴と壁柱穴の併用、A127号竪穴建物では支柱穴の支持柱と考えられる壁面に斜めに掘削された柱穴が確認されている(第1-68図)。建て替え・拡張を行ったと考えられる建物は5軒あり、このうちA42号竪穴建物では3回、A221号竪穴建物では4回の建て替え・拡張が行われたと考えられる(第1-32・104図)。また、A20号竪穴建物では北西壁に沿って壁面を保護する為と考えられる石列が検出されている(第1-14図)。炉は70軒で検出しており、このうち15軒で複数確認されている。種別は石囲炉が51軒(53基)と最も多く、次いで地床炉が多い。複式炉は3基のみであるが、長軸6.5m以上の大型建物で検出されている。なお、最も炉の検出数が多いのはA126号竪穴建物で、4基の地床炉が検出されている(第1-65図)。

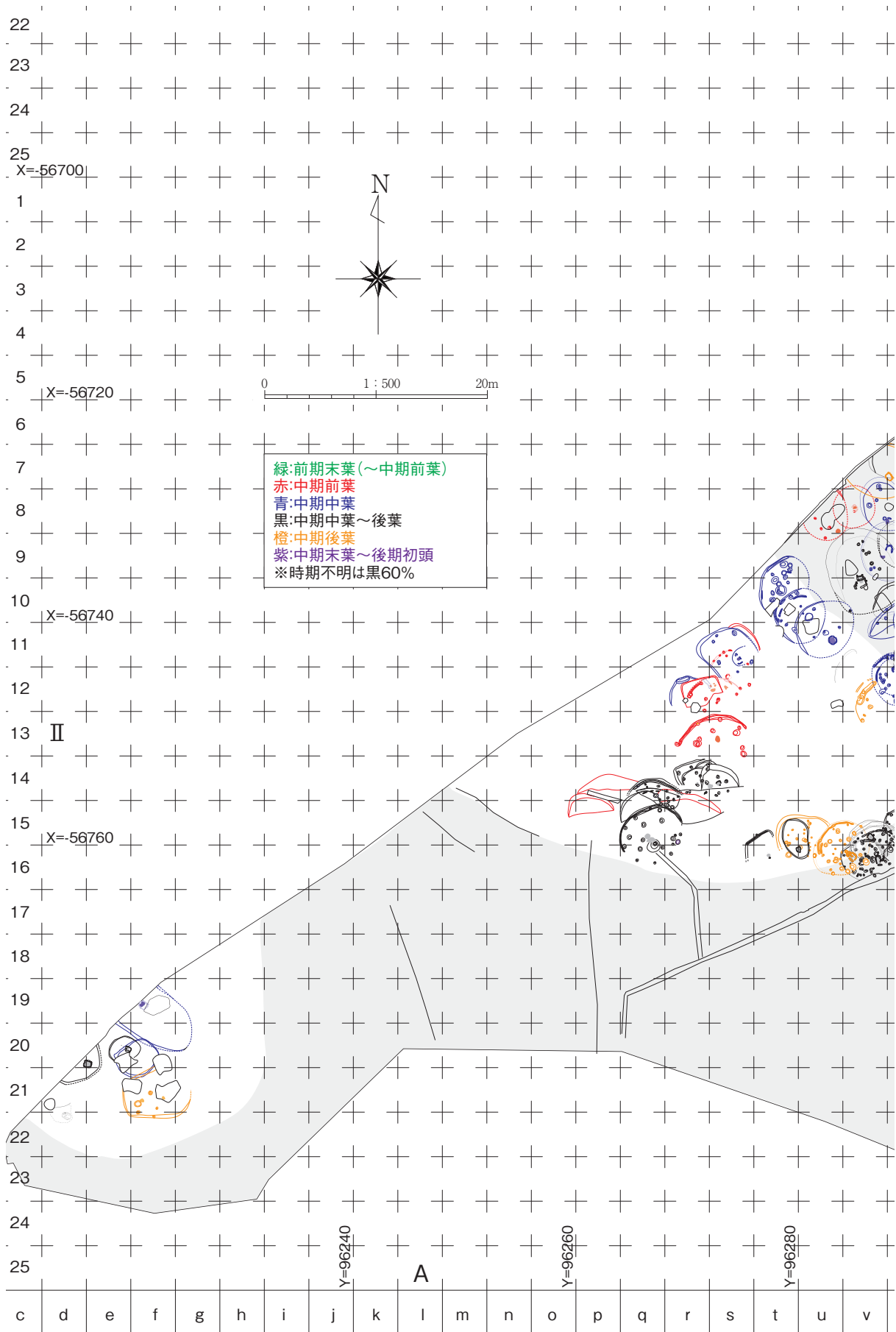
中期後葉

大木9式土器が出土した竪穴建物をこの時期とし、38軒検出した(第1-236図：橙)。分布域は中期中～後葉とほぼ同じで、前時期の建物の隣接地点に重複しながら造られている。平面形は円形または楕円形が基本で、方形のものは極少数である。建物規模は中期中～後葉より小さくなり、中期中葉と同じく長軸4～5mの建物が主体となる。柱配置は、五角形(A235号竪穴建物)、六角形(A10・25・220号竪穴建物)、八角形(A30・40号竪穴建物)がある(第1-21・28・33・110図)。A220・235号竪穴建物では、柱配置が複数確認されていることから建て替え・拡張が行われたと考えられる(第1-104・110図)また、A236号竪穴建物では北西壁に沿って壁面を保護する為と考えられる石列が検出されている(第1-111図)。炉は29軒で検出しており、このうち4軒で複数確認されている。単室の石囲炉が主体であり、地床炉は2基、複式炉は5基確認されている。

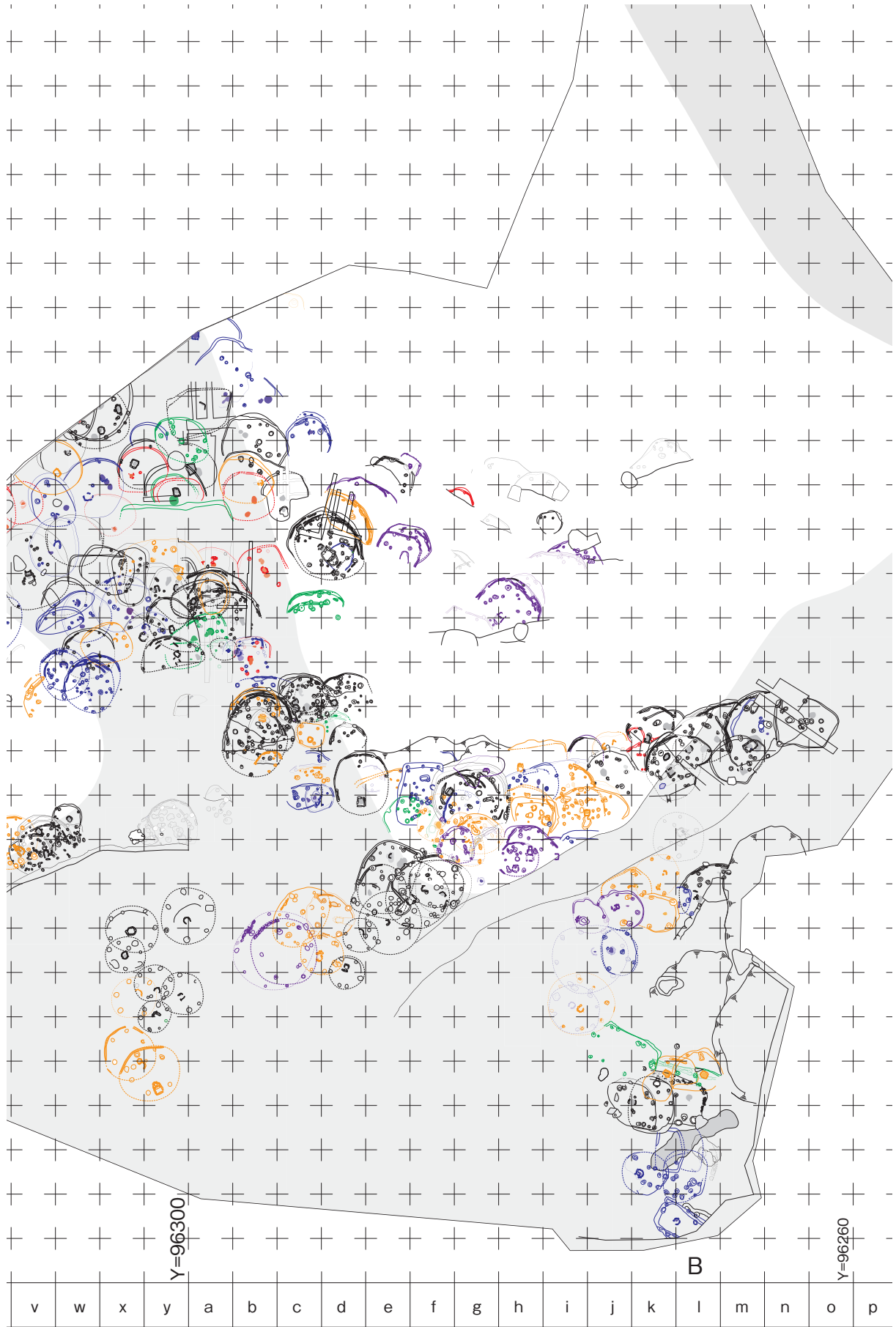
中期末葉

大木10式土器が出土した竪穴建物をこの時期とし、中期末葉以降の可能性のあるものを含めて16軒検出した(第1-236図：紫)。分布域は中期後葉とほぼ同じで、中期後葉の建物と重複するものが多い。また、新たに北側尾根の斜面中腹に造られるようになる。削平されているものが多いが、平面形は円形または楕円形が主体となるが不整形なものも多い。柱配置はA11・107・237・238号竪穴建物で確認できるが、いずれも多角形である。建て替え・拡張が行われた建物も多く、A107号竪穴建物

1 検出遺構



第 236 図 縄文時代竪穴建物時期別分布図



では斜面上方である北側に拡張している状況が確認されている（第 1-55 図）。また、A 237・238 号堅穴建物では北西壁に沿って壁面を保護する為と考えられる石列が検出されている（第 1-111 図）。炉は 9 軒で検出されており、このうち 2 軒では複数確認されている。複式炉は A 11・27・105 号堅穴建物で石組による二室構造のものが各 1 基検出されている（第 1-23・26・54 図）。

なお、今回の調査では最も新しい時期の堅穴建物として後期初頭に属する A 50 号堅穴建物がある（第 1-37 図）。北側尾根の中腹に位置し、石囲炉を有する方形プランの建物である。

土坑の分布状況

縄文時代に属する土坑は 294 基検出されており、今回の調査で最も遺構数が多い。出土遺物から時期の判明する土坑は、前期初頭が 1 基、前期末葉が 9 基、中期前葉が 25 基、中期中葉が 9 基、中期中～後葉が 26 基、中期後葉が 16 基、中期末葉が 6 基で、中期前葉を除きおおむね堅穴建物の数に比例した検出数である。分布域は各時期とも堅穴建物の近傍あるいは北側尾根の南側斜面であり、その多くは堅穴建物に伴う貯蔵穴として掘削されたものと考えられる。なお、本遺跡で最も古い遺構は 295 号土坑で、調査区中央南側の沢状地形内（II A 19 r グリッド）に単独で位置しており、貯蔵穴と考えられるが同時期の遺構は確認されていない（第 1-207 図）。

（2）古 代

堅穴建物と土坑、鉄生産関連炉があり、ここでは検出数が最も多い堅穴建物についてみていく。堅穴建物は 23 軒検出しており、年代はいずれも平安時代で 9 世紀代が中心となるが、B 19 号堅穴建物は 12 世紀代の可能性がある。立地は北端区では II 層で検出されているが、その他の地点では沢状地形堆積土である III 層の範囲を避けて尾根上など IV 層露出範囲に造られている。

まず平面形と規模についてみていく。全形が残存しているものは少ないが、平面形は方形と円形があり、方形はさらに正方形（B 2・6 号堅穴建物等）と長方形（B 14・15 号堅穴建物等）に分類できる。遺構としては堅穴部のみ検出されているが、B 3 号堅穴建物では西壁側にテラス状の施設が確認されている。円形の堅穴建物としては B 16・23 号堅穴建物がある。出土遺物及び他遺構との重複関係から古代の遺構としたが、方形のものとは構築方法を含めて性格が異なると考えられる。規模については床面全体が残存しているものが無く面積の算出ができないことから、長軸を基準にみていく。長さが判明する 12 軒の長軸平均値は 4.64 m である。平均値に近い規模の建物が多く、1 m 以上大きい建物は B 11・14 号堅穴建物、1 m 以上小さい建物は B 2・16・22 号堅穴建物である。なお、長軸の最大は B 14 号堅穴建物の 7.38 m、最小は B 22 号堅穴建物の 2.76 m である。

次に床面施設についてみていく。床面施設には壁溝・貯蔵穴・炉があり、壁溝は 5 軒、貯蔵穴は 3 軒、炉は 3 軒で確認されている。壁溝は全周するものは無く、カマドを設置している壁面に巡らせるものが多い。貯蔵穴は、いずれも北壁に設置されたカマドの東側に掘削されている。平面形は B 2・9 号堅穴建物は円形、B 8 号堅穴建物は方形である。B 8 号堅穴建物の貯蔵穴からは多量の土器が出土している。炉はいずれも地床炉で、B 3・11 号堅穴建物では炉の周辺から鉄滓（精練滓）が出土していることから鍛冶炉としての機能が想定される。また、B 23 号堅穴建物では堅穴外に現地性焼土が検出されており、検出層位から B 23 号堅穴建物に帰属する焼土としたが性格は不明である。柱配置は、四角形（B 2 号堅穴建物）と六角形（B 11 号堅穴建物）、壁柱穴が巡るもの（B 14 号堅穴建物）が確認されているが、全ての柱穴が検出された建物は無い。また、検出面からの深さが 30cm 以上あっても柱穴が検出されない建物もあり、無柱穴の建物もあったと考えられる。

カマドは 15 軒で検出されている。B 9 号堅穴建物では 2 基検出されているが、基本的には 1 軒に

1基である。設置位置は西壁が11軒、北壁が3軒、不明が1軒であり、斜面下方にあたる東壁や南壁に設置されるものは無い。壁面での設置位置をみると、中央が9基と最も多い。袖の構築方法は、基底を平坦に整えるか若干削り出し、芯材に板石または川原石を設置するものがほとんどである。被覆土が残存するものは少ないが、地山由来の黄褐色土を使用するものが多い。また、天井部にも板石を使用するものがあり、B4号竪穴建物及びB9号竪穴建物カマド2では架構された状態で検出されている。煙道はいずれも長煙道で、掘り込み式が6基、削り抜き式が3基、不明が6基である。煙道の傾きは煙出しに向かって上昇するA型が4基、煙出しまで水平となるB型が10基であり、下降するC型も設定したが本遺跡では確認されていない。煙出しピットを持つものはB1号竪穴建物の1基のみで、基本的に煙出しと煙道の底面は段差が無く一連となる。

B7・8号竪穴建物は焼失家屋であり、特にB8号竪穴建物は板材と柱材の遺存状況が良好である(第1-173図)。本建物では北～西壁沿いの壁溝に沿ってコナラ節を主体とした板材が検出されており、壁面から床面内側に向かって倒れ込んでいることから、壁板として使用されたものと考えられる。柱材はクリが使用されており、板材の付近で検出されている。ただし、直径が10cm弱と細く、それに伴う柱穴も検出されていないことから側壁を支える杭のように使用されていたものと考えられる。また、ハコヤナギ属や散孔材も確認されているが、これらは建築材としては不向きな木材であり、建物内に置かれていた器具類等であった可能性が指摘されている(第Ⅶ章第3節)。

本遺跡で検出された竪穴建物はカマドを持つものは住居、持たないものは鉄生産関連遺物などの出土を考慮して工房の機能を想定した。ただし、鍛冶炉を有するもの(B3・11号竪穴建物)や羽口など鉄生産関連遺物が出土するもの(B7号竪穴建物)等、カマドを有する竪穴建物でも一部工房としての機能を有していたものがあつたと考えられる。

2 出土遺物

(1) 縄文土器

総重量は11,261,228.9 g(約11 t)である。分類は第Ⅴ章で記載した通りであり、ここでは出土状況についてにまとめておく。

遺構内出土土器

遺物包含層を除く遺構内で2,640,017.2 g出土している。内訳は、竪穴建物2,207,955.7 g(84%)、土坑326,165.9 g(12%)、溝59,067.6 g(2%、近世溝からの出土含む)、土器埋設遺構23,901.4 g(1%)、焼土14,185.9 g(0.5%)、炉4,674.6 g、配石遺構1,950.2 gである。竪穴建物での出土量をみると、一括で取り上げを行った分を除いた242軒のうち(第4表)、出土量が1,000 g以下の建物は75軒(31%)、1,001～10,000 gの建物は107軒(44%)、10,001～20,000 gの建物は26軒(11%)、20,001～30,000 gの建物は17軒(7%)、30,001 g以上の建物は17軒(7%)である。斜面上方からの流れ込みや下位の遺構堆積土からの混入もあり、埋設土器や床面直上以外で出土したものは建物構築時期以外のものが含まれている点は注意しておくべきであるが、中期末葉を除く各時期に30,001 g以上出土した竪穴建物があり、時期ごとの多寡は認められない。なお、中期中～後葉のA116号竪穴建物と中期後葉のA151号竪穴建物では100,000 g以上している。

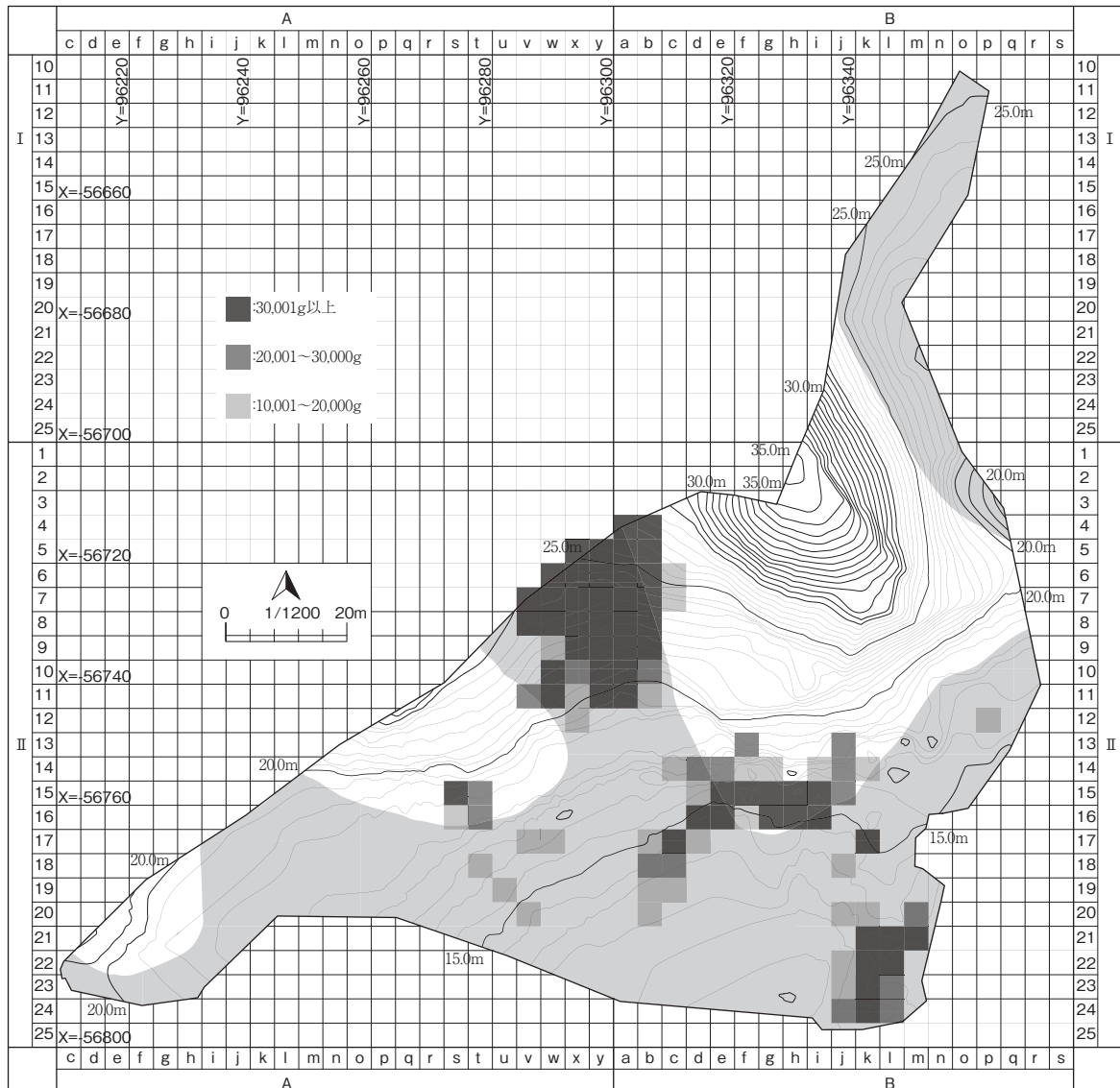
遺構外出土土器

土師器・須恵器など古代の土器も少量含まれているが、調査区全域で7,437,757.0 g出土している。このうちグリッドで取り上げを行った土器は5,467,906.6 g(遺構外全体の73%)あり、これを基に出

土傾向をみていく。1グリッドあたり10,000g以上出土した地点を第1-237図に示した（遺物包含層は除く）。これをみると出土量が多い地点は沢状地形内に集中しており、大きく①調査区中央北側（標高20～25m）、②北側尾根南側（標高15～17m）、③調査区南東側低位部（標高12～13m）の3箇所にとまめられる。一方、同じ沢状地形でも調査区西側（II A 16 j～20 pグリッド周辺）は現在も湿地帯となっており、遺物はほとんど出土していない。沢状地形内での土器の出土層位はI～III層で、特にII層での出土量が多い。ただし、II層は斜面上方からの流れ込みによって形成された自然堆積層であり、II a層とII b層に分層（可能な範囲ではさらに細分）したが、各層とも出土する土器は前期前葉～中期末葉までのものが混在しており、層位毎に年代を区分することはできなかった。また、この3地点では竪穴建物の検出数も多く（第1-236図）、II層で出土した土器には斜面上方からの流れ込みの他に本来III層以下で造られた竪穴建物に帰属する土器（特に大木5～6式土器）も含まれていると考えられる。

(2) 土 偶

6点出土しており、ここではいわゆる「板状O脚土偶」と考えられる土偶について検討を加える。「板状O脚土偶」とは、岩手県の北上川上～中流域で出土する前期前葉～中期前葉に位置づけられる板状



第 237 図 遺構外出土土器重量分布図

土偶の一群を指し（金子 2012）、本遺跡から出土した土偶のうち、3点がこれに該当すると考えられる（第 2-372 図 e 1、第 2-373 図 e 2・5）。

第 V 章第 5 節でも述べているが、ここで再度これら 3 点の特徴についてみておきたい。e 1-1 は A 162 号竪穴建物から出土した体～脚部にかけての破片で、脚部は O 脚である。体部の中央には臍を表現したと考えられる円形突起が 1 個付けられている。表裏面には半裁竹管による押し引きにより斜線・鋸歯・渦巻文が施され、裏面の鋸歯文は肋骨状となる。大きさは、長さが残存値で 22.7cm、横幅が 16.7cm であり、残存部位からの復元長は約 45cm になると考えられる。e 1-2 は同じく A 162 号竪穴建物から出土した腕部の破片で、接合はしないが e 1-1 と同一個体と考えられる。裏面は剥離により不明であるが、表面には押し引きによる斜線・鋸歯文が施され、先端部付近には穿孔が 1 個施される。e 2 は II B 14 m グリッドから出土した体～脚部にかけての破片で、脚部は円形で二脚の表現は無い。表裏面に沈線により斜線・鋸歯・弧状文が施され、裏面の鋸歯文は肋骨状となる。e 5 は II B 8 b グリッドから出土した腕部の破片で、表裏面に沈線で斜線文が施される。先端の突出が e 1-2 より小さいことから e 1 より小型の土偶の破片と考えられる。

次に他遺跡の出土事例と比較しながら年代についてみていくが（第 1-238 図）、ここでは金子昭彦が提示した編年観に基づいて記載する（金子 2012）。まず e 1 であるが、年代を推定する為の特徴として①半裁竹管による押し引き、②表面の体部中央を垂下する線、③裏面の肋骨状の鋸歯文が挙げられる。これらの特徴は岩手県内では北上市滝の沢遺跡例（第 1-238 図 6、以下第 1-238 図を省略）や北上市鳩岡崎遺跡例（3）、雫石町塩ヶ森 I 遺跡例（7・8）といった大木 6 式中～7 a 式古期の資料で確認されていることから、e 1 もこれらと同時期に属するものと考えられる。また、体部形態が滝の沢遺跡例（6）に比べて胴部が長く、塩ヶ森 I 遺跡例に近いプロポーションであることから比較的大木 7 a 式古期に近いものと考えられる。なお、e 1 が出土した A 162 号竪穴建物は出土土器が大木 6～7 a 式主体であり、土偶の年代と土器の年代には整合性があるといえる。次に e 2 であるが、年代を推定する為の特徴として①表面の文様が縦方向の沈線・鋸歯文、②裏面の肋骨状の鋸歯文、③円形の一脚が挙げられる。①・②については鳩岡崎遺跡や滝の沢遺跡等で類例があり、e 1 と同じく大木 6 式中～7 a 式古期に属すると考えられる。③については大木式土器文化圏での出土量は少ないが、奥州市新田遺跡で大木 6 式古期の資料が出土している（9）。ただし、6 は裏面文様が無く簡素であり、文様構成が複雑な e 2 は相対的に新しいと考えられる。なお、円形の一脚は円筒土器文化圏で多くみられる形態で、円筒下層 d～上層 a 式とされる青森県三内丸山遺跡等で出土例が多い。遺構外からの出土であり土器との同伴関係は不明であるが、本遺跡からもこの時期に属する円筒土器が出土していることから（第 1-235 図）、土器と共に持ち込まれた土偶の可能性もある。最後に e 5 であるが、腕部のみ破片であるが文様構成などが e 1・2 と類似することから同じく大木 6 式中～7 a 式古期に属すると考えられる。

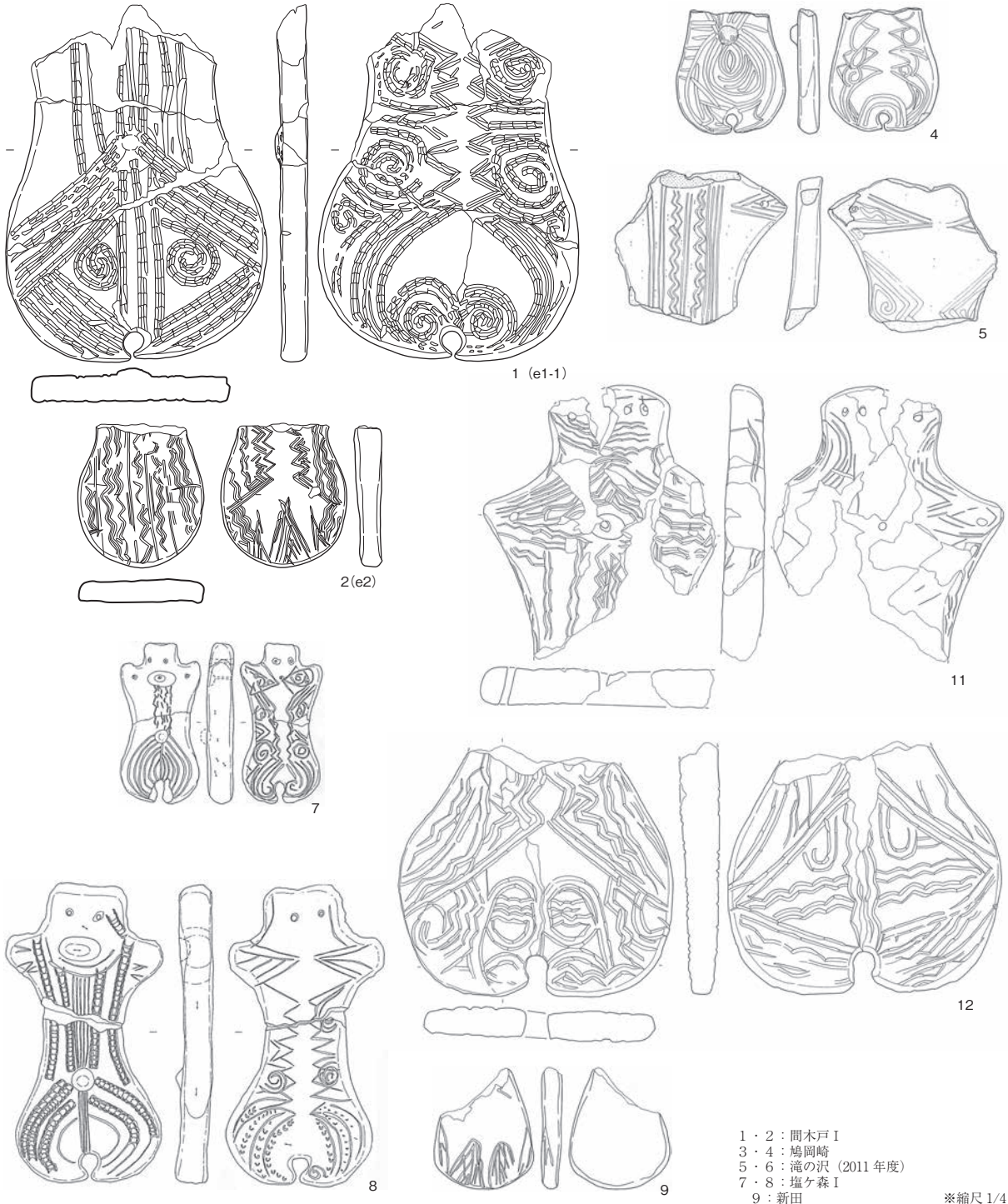
（3）台形土器

中期中～後葉（大木 8 b～9 式期）になり注口付浅鉢や壺形土器と共に出現する器種であり、破片資料を含めて 22 点出土している（第 2-379・380 図）。台形土器は名称が示す通り本来的には土器の一器種であり、一般的な縄文土器と同じ胎土で作られている。しかし、後述するように使用法が異なり、出土量も少ない特殊な器物と考えられることから縄文土器と分けて掲載した。

出土事例は山梨県をはじめ中部高地や関東地方で多いが、東北地方では岩手県と福島県が比較的多い。岩手県では現在のところ本遺跡を含めて約 20 遺跡で出土が確認されている（第 1-239 図）。年代

は、盛岡市上米内遺跡や山王山遺跡では大木8b式新段階、大船渡市長谷堂貝塚では大木9～10式、花巻市観音堂遺跡では大木10式～後期初頭の土器と共伴しており、大半が中期後葉～後期初頭に属すると考えられる。本遺跡では遺構内出土資料は5点あるが、A116号竪穴建物が中期中～後葉、A44・132号竪穴建物が中期後葉、A235号竪穴建物が中期後～末葉であり、県内の出土傾向と合致する。器形は2類が多く4類が少ないという傾向はあるが、時期的な偏りは認められない。また、本遺跡では22点のうち6点でススが付着しており、他遺跡では上米内遺跡や山王山遺跡、陸前高田市堂の前貝塚出土資料にはタール状の付着物が確認されている（阿部勝 2001）。

用途については出土事例の多い中部・関東地方では「土器を載せる台」、「調理台」、「土器焼成台」、



第 238 図 板状土偶の諸例

「土器製作（回転台）台」等の見解が示されているが、現在では「土器製作台」とする説が有力となっている（櫛原 2004・室伏 2008）。一方で、東北地方では器面に残る使用痕や付着物の分析から「注口付浅鉢を加熱する際に用いられる五徳状の台」としての機能が想定されている（阿部昭 2016）。中部高地の例として山梨県釈迦堂遺跡出土事例をみると、岩手県内出土事例に比べて大きく、鏝を有する 3・4 類が多い。器面をみると受部上面や高台端部が摩耗しており、特に高台端部は土器製作時の回転による使用痕と考えられる片減り（櫛原 2004）によって内面の胎土が露出しているものもある。なお、釈迦堂遺跡例では摩耗は顕著に認められるが、スズ等が付着しているものは少ないようである。岩手県内の事例と比較すると、本遺跡例をはじめ高台端部が摩耗しているものはあるが、釈迦堂遺跡例のような片減りは確認されていない。一方で付着物が認められるものは比較的多く、器面観察からは先述の通り同じ台形土器でも地域によって使用方法が異なっていたものと推察される。なお、岩手県内では台形土器の出土遺跡は中期後葉～後期初頭全体の遺跡数と比べると非常に少なく、山田湾周辺では本遺跡の南西に位置する沢田 I 遺跡で 4 類が 1 点出土しているのみである。台形土器の出土量が少ない要因の一つとして台付土器が代替となっていたからと考えられているが（阿部昭 2016）、約 11 t の出土量を誇る本遺跡でも台付土器の出土量は少なく代替といえる量ではない。このことは、本遺跡を含め岩手県内ではそもそも台付の器種の使用頻度が低く、それに伴い台形土器も定着しなかった為と考えられる。

（4）馬 具

B 8 号竪穴建物から轡の一部である引手、B 15 号竪穴建物から鐙の一部である吊金具が各 1 点出土している（第 2-388 図 i 6・13）。考古学で使用される馬具の名称は承平年間（931～938 年）に編纂された辞書『倭名類聚抄』等の古文献から援用したものが多く、それ以前の時代で使用されていたものとは限らないが、慣例的に使用されていることからそれに基づいて記載を行う。

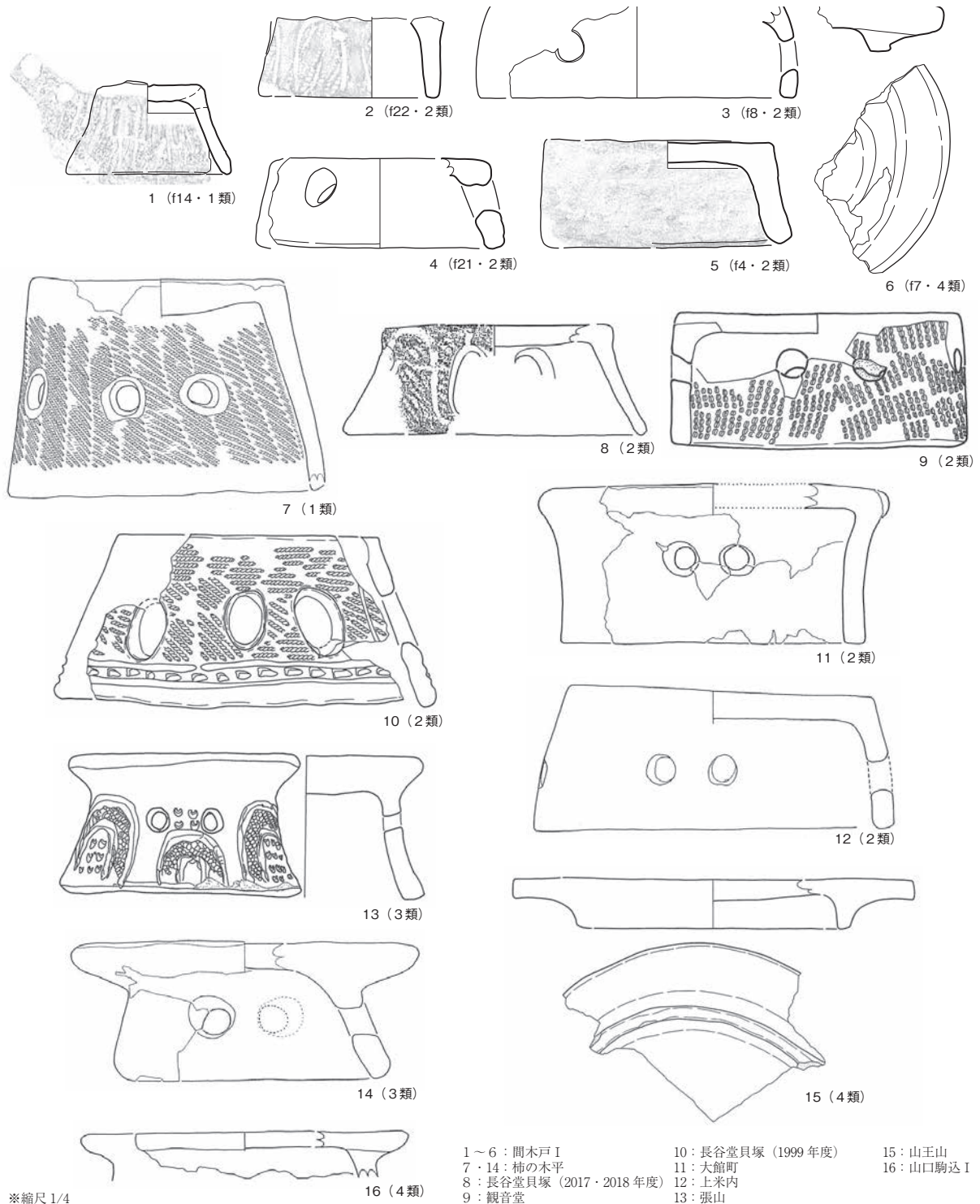
ここで再度形状について述べておきたい。引手（i 6）は両端に環を持つ棒状の一本引手で、引手壺は「く」の字状に屈曲する。また、引手壺の中央で合わせ目が確認できる。轡は鏡板・引手・銜で構成される馬を制御するための道具であり、引手は銜の先に取り付けられて手綱を連結する為に用いられる。B 8 号竪穴建物の堆積土中から出土しているが、遺構内共伴土器及び炭化材年代測定結果から 9 世紀前葉に属すると考えられる。轡は岩手県内では古墳時代以降の遺跡から出土しており、そのうち引手は引手壺の形状から二条線引手と「く」の字状引手がある。前者のほうが古くは 6 世紀からみられるが、後者は 7 世紀以降に出現する。「く」の字状引手は古墳時代の事例として北上市五条丸 47・51 号墳、平安時代の事例として盛岡市志波城跡、平泉町志羅山遺跡等で出土が確認されている（第 1-240 図上）。なお、近隣での出土事例としては、本遺跡の西側約 600 m に位置する房の沢古墳群 R T 07 古墳等で 8 世紀代の二条線引手を有する轡が出土している。

鐙吊金具（i 13）は一本の鉄棒を逆台形状に曲げ、一端を扁平な板状、もう一端を横断面形が「く」の字状になる板状に成形している。錆により塞がれているが、扁平な側には端部に穿孔が 1 個確認できる。B 15 号竪穴建物の床面直上から出土しており、年代は遺構内出土土器との共伴関係から 9 世紀後半に属すると考えられる。鐙は鉸具と革または鎖で構成される鐙鞞（みずお）を通して鞍橋に取り付けられた力革と連結し垂下される道具で、乗馬する際の足掛けと騎乗中の体の安定を保つために使用される。このうち吊金具は壺鐙本体と革・鎖を連結する為の道具であり、本資料はいわゆる木芯金属張三角錐形壺鐙の一部となるものである。岩手県内で最も古い壺鐙は 7 世紀前半と考えられる矢巾町藤澤狄森古墳群の鉄製壺鐙であるが、平安時代に属する木芯金属張三角錐形壺鐙の吊金具は本遺

跡を含めて11遺跡で出土している（第1-240図中）。中央の屈曲部は逆台形のもの（1・6・7）と楕円形のもの（2・3）があり、後者のほうが幅狭となる。両端の形状は一端が扁平な板状、もう一端が「く」の字または半円形の横断面となる点はいずれも同じであるが、鉾または鉾を通す穿孔の数は1個のもの（1・3・4）と2個のもの（5・8）がある。

（5） 鈔 帯

銅製の鈔帯金具が1点出土している（第2-388図i3）。鈔帯とは帯金具や石帯で装飾された革帯の



第 239 図 台形土器の諸例

ことで、律令官人の朝服と制服に伴う腰帯である。鍔帯は、帯留金具である「鉸具」、帯の先端を飾る「鉞尾」、留め穴周辺を飾る「巡方」と「丸鞆」で構成される。律令期の官人は『養老衣服令』等の法令で位階に応じて所有できる鍔帯の大きさや色が決められていたことから、鍔帯は色調や寸法から所有者の位階が推定できる遺物といえる。松村恵司が平城京・宮出土資料を対象として行った分析によると、革帯は幅に1分単位8段階の規格差が存在し、革帯幅＝巡方横幅＝丸鞆横幅という相関があるということである（松村 2002）。

まず形状について再度触れておく。i 3（以下、本資料とする）は巡方の表金具で、下半部を若干欠損しているが、計測値（寸法）は横 3.0cm、縦 3.0cm、厚さ 0.2cmで、下部に方形の透かし穴が施されている。また、外面には布状の付着物が確認されている。B 8号竪穴建物の床面直上から出土しており、付着物があることから布など繊維質のものにくるまれた状態で保管・使用されていた可能性がある。年代は、遺構内共伴土器及び炭化材年代測定結果から9世紀前葉に属すると考えられる。

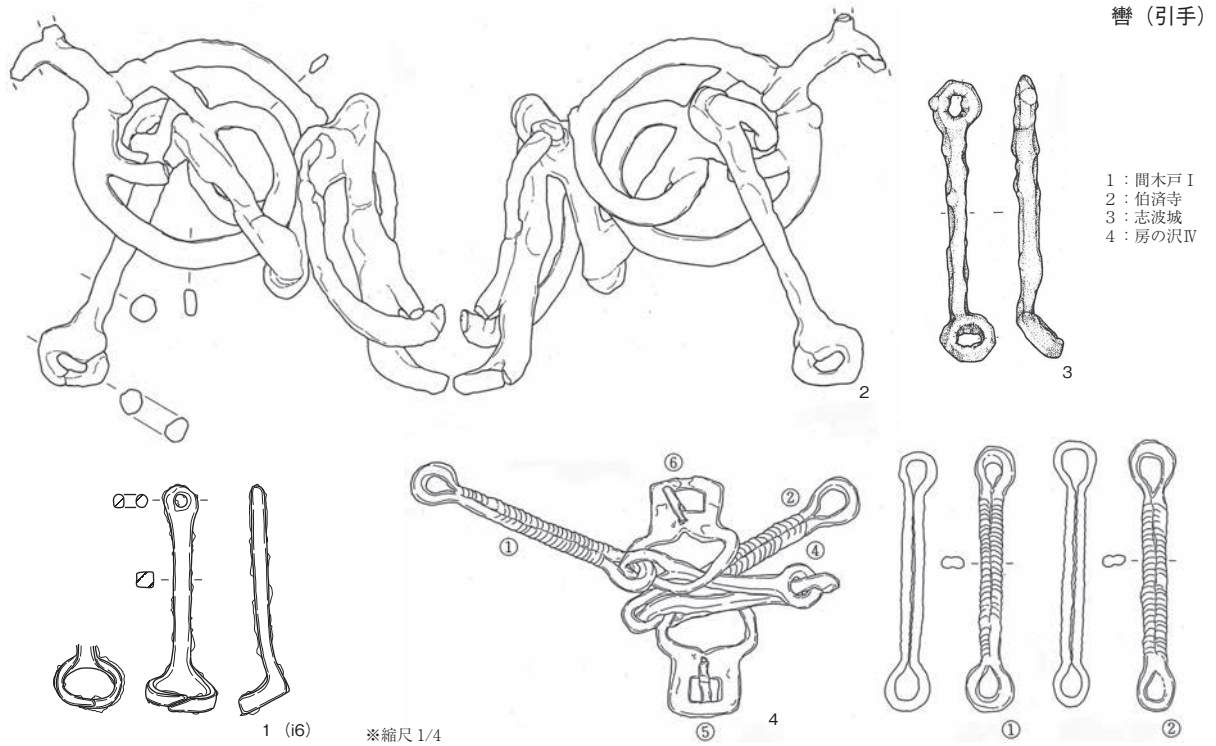
岩手県内での出土例をみると、銅製の鍔帯金具は本遺跡の他に盛岡市太田蝦夷森古墳群（2号墳）、花巻市熊堂古墳群、金ヶ崎町西根古墳群、北上市千苺遺跡、奥州市杉の堂遺跡等で出土が確認されている（第 1-240 図下）。種別は間木戸Ⅰ・先苺・杉の堂遺跡が巡方のみ、太田蝦夷森2号墳が巡方と丸鞆、熊堂古墳群と西根古墳群では鉸具・鉞尾・巡方・丸鞆の全てが出土している。出土遺構は太田蝦夷森古墳群と熊堂古墳群は8世紀代の古墳、千苺遺跡は8世紀末～9世紀初頭の竪穴建物、杉の堂遺跡は9世紀中葉の竪穴建物である。点数は古墳からは複数出土する傾向があり、最も多いのは西根古墳群で13点（鉞尾1・巡方4・丸鞆8）である。

最後に巡方の規格についてみていく。本県で出土した巡方は、古墳出土品は長方形、集落遺跡出土品は正方形である。また、欠損している千苺遺跡例を除いて全て透かし穴が確認できる。計測可能な資料の寸法は、太田蝦夷森2号墳例と杉の堂遺跡例が幅 3.3cm（一寸一分）、本資料と熊堂古墳群例は幅 3.0cm（一寸）である。平城京での銅製鍔帯の分析結果を参考にすると、一寸一分は従七位、一寸は正八位の官位に相当する人物が保有できたものと考えられ、一本の革帯に装着できる点数が出土している熊堂古墳群と西根古墳群では古墳の被葬者が実際にこの官位に相当する人物であった可能性がある。しかし、本遺跡では1点のみの出土であり、革帯として機能したと考え難いことから鍔帯としての本来的性格を有したものとして遺跡内に持ち込まれたものかは不明である。

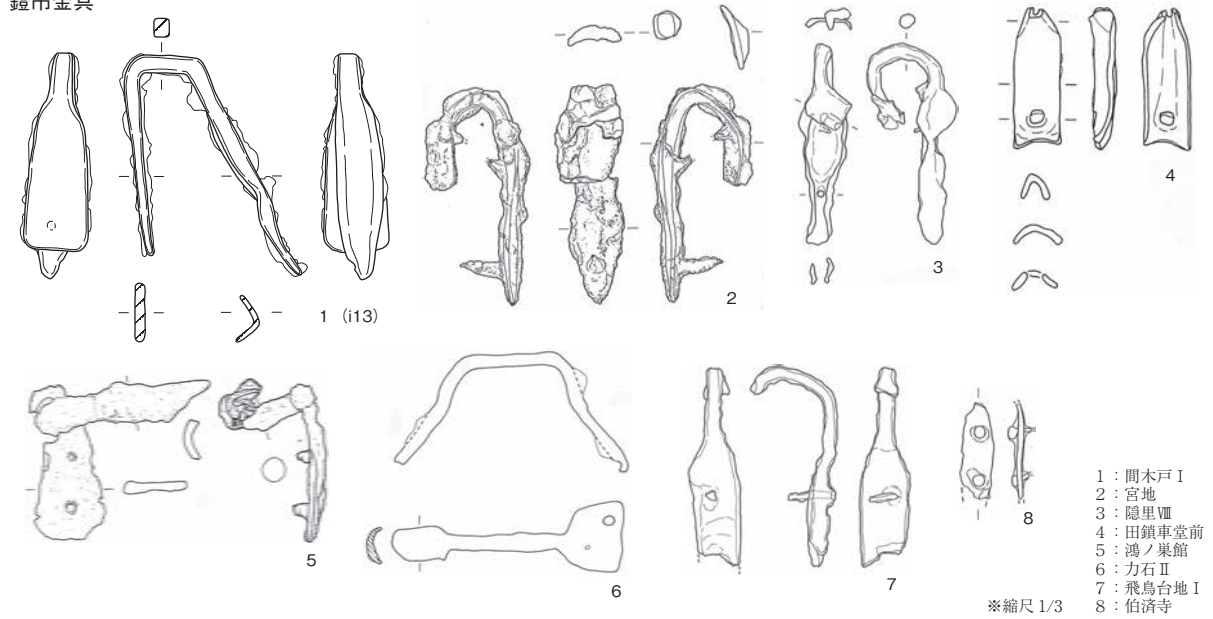
（6）陶 磁 器

22点掲載しており、ここでは古代に属する陶磁器である灰釉陶器と常滑窯産陶器についてみていく（第 1-391 図 k 1～3）。k 1はⅡ B22 1グリッドから出土した灰釉陶器碗の底部破片で、胎土と灰釉の色調から猿投窯産と考えられる。高台は貼付の角高台であるが、中央がわずかに膨らみ端部は丸みを帯びる。灰釉は、体部内面と外面上半に刷毛塗りで施釉されている。なお、体部内面と高台端部には摩滅の痕跡が確認できる。高台形状をもとに年代を推定すると、高台は比較的高いが三日月高台ではないことから黒笹 90号窯式期古段階（9世紀後半）に製作されたものと考えられる。古代の施釉陶磁器は岩手県では現在のところ約 60 遺跡で出土しているが、沿岸部では本遺跡を含めて宮古市田鎖車堂前遺跡、同隠里Ⅲ遺跡、田野畑村浜岩泉Ⅲ遺跡の4遺跡で出土しているのみである（村田 2016b）。出土遺跡の性格は多様であるが、鉄生産関連炉や鉄生産関連遺物が共伴する遺跡が多いことが指摘されており、本遺跡でも工房や鉄生産関連遺物が検出されていることから、他遺跡と同じく鉄生産に関連して持ち込まれた器物と考えられる。

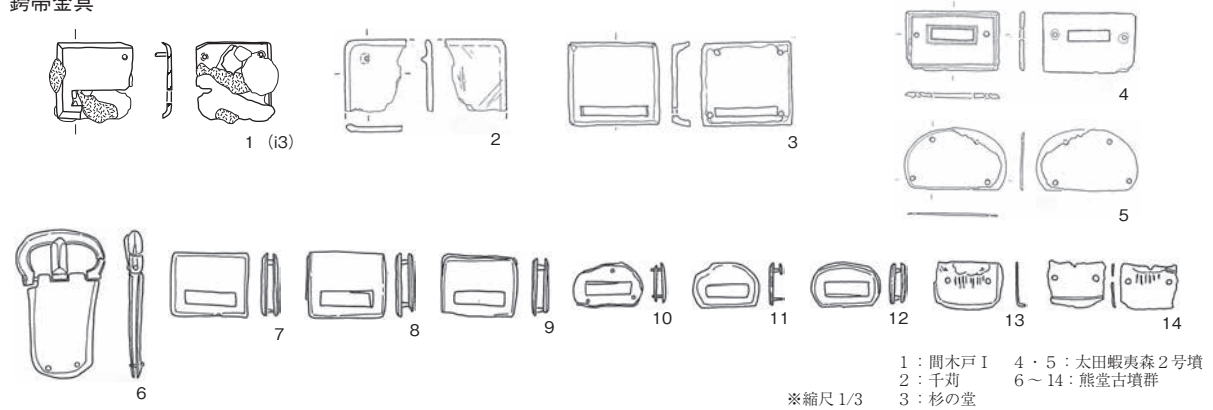
k 2は中段田区、k 3はB 19号竪穴建物から出土した片口鉢で、k 2は口縁部、k 3は体部の破



錠吊金具



鈔帶金具



第 240 図 轡・錠吊金具・鈔帶金具の諸例

片である。胎土と色調からいずれも常滑窯産で、詳細な年代は不明であるが12世紀代に製作されたものと考えられる。12世紀は平泉で奥州藤原氏が繁栄していた時代であり、岩手県沿岸部ではこの時代の遺物が出土した遺跡は現在のところ約20遺跡である（村田2016a）。本遺跡で出土した器種はかわらけや壺・甕類等、宴会儀礼に使用された器種ではなく片口鉢であり、どのような意図を持って持ち込まれた器物であるかは不明である。また、出土遺構は工房と考えられる竪穴建物であるが、堆積土中からの出土であり使用状況についても不明である。

3 総括

3箇年にわたる発掘調査により、間木戸Ⅰ遺跡は縄文時代～近世にかけての複合遺跡であることが確認された。最後に時代毎に周辺遺跡との関係も踏まえながら特徴を列記することで総括としたい。

縄文時代

前期～後期初頭にかけて集落として利用されており、今回の調査で最も遺構・遺物の検出数が多い時代である。遺構は竪穴建物・土坑・炉・焼土・土器埋設遺構・配石遺構等があり、前期初頭・前期末葉～後期初頭に属すると考えられる。竪穴建物は時期ごとに地点の移動はあるものの、期間を通じてみると尾根頂部を除いてほぼ同じ場所で繰り返し建てられている。土坑は貯蔵穴が多数を占め、尾根の南側斜面に集中して掘削されている。遺物は早期後葉～後期初頭の土器をはじめ多種多量であり、中には遠隔地との交流を示す遺物も含まれている。土器では県北部や津軽地方との交流を示す円筒土器や榎林式土器、関東地方との交流を示す五領ヶ台系土器、その他に黒曜石、翡翠、琥珀等がある。ただし、黒曜石は分析により月山・小赤沢・男鹿・和田峠系があることを確認できたが（第Ⅵ章第5節）、翡翠と琥珀については原産地を特定することはできなかった（第Ⅵ章第6・7節）。これらは遺物全体からみれば極少量であるが、本遺跡では地域内だけではなくより広域との関わりを持って生活が営まれていたことを示す遺物として認識しておく必要がある。

山田湾沿岸の縄文時代の遺跡を時期ごとにみると、早期の遺跡としては後葉に属する榎木Ⅰ式土器を伴う竪穴建物が検出された沢田Ⅰ遺跡がある。前期の遺跡としては前葉の大型住居が検出された沢田Ⅰ遺跡や川半貝塚、後葉の大型住居が検出されたクク井遺跡などがある。中期に入ると遺跡数は増加し、本遺跡の周辺では間木戸Ⅱ遺跡や沢田Ⅰ遺跡、浜川目沢田Ⅰ遺跡等がある。本遺跡でも中期前葉から竪穴建物数が増加傾向にあり、特に中～後葉（大木8b～9式）に96軒と最も多くなる。ここで中期における山田湾岸の様相についてみていく。齋藤瑞穂は縄文時代における三陸地震津波の解明の為、山田湾岸に位置する中期の遺跡について竪穴建物の軒数からその消長を分析している（齋藤2020）。それによると山田湾岸の中期集落では大木8-9式（中間）式（本報告書での大木8b～9式に相当）の遺跡がほとんど無く、大木9式（後葉）になり浜川目沢田Ⅰ遺跡等で竪穴建物の構築が再開されるとしている。確かにこの時期の土器が多量に出土した浜川目沢田Ⅰ遺跡でも竪穴建物は6軒程度で、しかも重複関係にあることから1時期あたりの建物数は1～2軒と想定されている（岩文振第689集）。齋藤は津波の発生年代を大木8-9（中間）期とみており、それに伴う人口減少の反映として遺跡数・竪穴建物数が減少したと考えている。確かに山田湾全域で見した場合遺跡数は減少しているが、本遺跡では大木8b～9式の竪穴建物は100軒近くあり、竪穴建物の総数でいえば山田湾全域での大幅な減少は認められない。また、本遺跡での建物数は中～後葉のものが中期中葉のものより2倍以上に増加しており、建物数のみを基準とすれば中～後葉に人口が大幅に増加したとみることもできる。この現象は、遺跡内での自然な人口増加ではなく津波による避難などで他の集落からの移

動により一時的に人口が増加したことを示している可能性もある。一方、本遺跡では後葉には建物数は中～後葉の約 1/3 に減少するが、浜川目沢田 I・沢田 I・沢田 II 遺跡といった標高の低い土地にあった遺跡では再び建物数が増加する。これは津波被害から復興が行われる後葉になり、本遺跡に一時避難をしていた低地部の住人が再びかつての集落へと戻って生活を再開したことを示していると考えられる。

古 代

縄文時代より遺構・遺物の検出数は少なくなるが、竪穴建物が 20 軒以上検出されており、比較的規模の大きな集落であったといえる。竪穴建物は 9 世紀代のものが主体で、尾根頂部及び北端区に分布する。遺物は土師器・須恵器が主体であるが、前節で検討を加えた銅製銚帯金具や馬具、陶磁器といった岩手県内では比較的出土数の少ない遺物も出土している。本遺跡が位置する山田湾には蕨手刀や多量の馬具が出土した房の沢古墳群があり、古墳時代以来律令国家との結びつきがあったことが知られている。房の沢古墳群と同時期（7 世紀後半～8 世紀前半）の集落としては間木戸 II 遺跡や沢田 II 遺跡があり、続く奈良時代の集落として和同開珎が出土した沢田 III 遺跡がある。本遺跡はそれらよりも新しいが、搬入品である銚帯金具や灰釉陶器などが出土していることから、本遺跡を含めたこの地域は平安時代に入っても律令国家との結びつきをもっていたと考えられる。また、B 12 号竪穴建物では擦文土器と考えられる口縁部に横方向の沈線を施す土師器甕も出土しており、これは北方地域との結びつきを示唆する遺物といえる。

近 世

明確な遺構は少ないが、鉄生産に関連するものが検出されている。3・4 号溝は調査区東端付近で検出された溝で、2 条が重複関係にある。平面形は溝状であるが、鉄滓を主体とする鉄生産関連遺物が多量に出土しており、排滓場として使用されたものと考えられる。出土した鉄滓は精練滓が多く、羽口も内径が小さいものが多いことから精練に関わる炉が存在していたと考えられたが、調査区内では鉄生産関連炉は検出されなかった。

(村田)

参考文献

- 相原淳一 1990 「東北地方における縄文時代早期後葉から前期前葉にかけての土器編年 - 仙台湾周辺に分層発掘資料を中心に -」『考古学雑誌』第 76 巻第 1 号
- 相原淳一 2018 「縄文時代前期末葉から中期初頭の土器編年 - 宮城県七ヶ宿町小梁川遺跡を中心とする層位的再検討 -」『東北歴史博物館研究紀要』第 19 号
- 青森県史編纂考古部会 2017 『青森県史 資料編 考古 1』
- 今村啓爾 2006 「大木 6 式土器の諸系統と変遷過程」『東京大学考古学研究室研究紀要』第 20 号
- 阿部昭典 2008 「東日本の中期末葉から後期前葉の土器様式」『縄文時代の社会変動論』アム・プロモーション
- 阿部昭典 2015 『縄文の儀器と世界観 - 社会変動期における精神文化の様相 -』知泉書館
- 阿部昭典 2016 「東北地方における中期末葉の台形土器と台付浅鉢」『縄文時代』第 27 号 縄文時代研究会
- 阿部勝則 2001 「岩手県内出土の縄文時代中期の器台について」『紀要 XX』
(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 阿部勝則 2004 「縄文時代中期の三角罫形土製品・三角罫石製品について - 岩手県内出土事例の検討 -」
『紀要 XX III』(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 池谷信之 1988 「東北地方における縄文時代中期末葉土器の変遷と後期土器の成立」『沼津市博物館紀要』12
沼津市歴史民俗資料館

- 石巻市教育委員会 2018 『中沢遺跡 - 小寺筑防災集団移転促進事業に係る発掘調査報告書 -』
石巻市文化財調査報告書第 14 集
- 井上 巖 2017 「岩手県山田町間木戸 I 遺跡出土琥珀遺物と原産地琥珀の退避について」『日本考古学協会第 83 回
総会研究発表要旨』一般社団法人日本考古学協会
- 岩手県教育委員会 1980a 『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ（宮地遺跡）』岩手県文化財調査報告書第 48 集
1980b 『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅴ（鴻ノ巣館遺跡，高畑遺跡，白沢遺跡）』
岩手県埋蔵文化財調査報告書第 49 集
1982a 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅢ 太田方八丁遺跡（志波城跡）』
岩手県埋蔵文化財調査報告書第 68 集
1982b 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅤ（江釣子村鳩岡崎遺跡）』
岩手県埋蔵文化財調査報告書第 70 集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書は岩文振○集と省略）
- 1979 『主要地方道一関・北上線関連遺跡発掘調査報告書（岩手県江刺市力石Ⅱ遺跡・兎Ⅱ遺跡
・落合Ⅲ遺跡・朴ノ木遺跡）』岩文振第 8 集
1982 『御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書（塩ヶ森Ⅰ・Ⅱ遺跡）』岩文振第 31 集
1988 『飛鳥台地Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 120 集
1994 『煤孫遺跡発掘調査報告書』岩文振第 196 集
1995a 『大畑Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 218 集
1995b 『上米内遺跡第 9 次発掘調査報告書』岩文振第 220 集
1997 『沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 268 集
1998 『房の沢Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 287 集
1999 『山王山遺跡第 9 次発掘調査報告書』岩文振第 316 集
2000 『沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 318 集
2001a 『沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 342 集
2001b 『長谷堂貝塚発掘調査報告書』岩文振第 367 集
2002 『新田遺跡発掘調査報告書』岩文振第 405 集
2005 『滝の沢地区遺跡発掘調査報告書』岩文振第 456 集
2006 『大清水上遺跡発掘調査報告書』岩文振第 475 集
2008 『力持遺跡発掘調査報告書』岩文振第 510 集
2009 『道上遺跡第 3 次・合野遺跡・小林繁長遺跡発掘調査報告書』岩文振第 544 集
2010 『隠里Ⅷ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 552 集
2011 『八木沢野来遺跡発掘調査報告書』岩文振第 573 集
2012 『滝の沢遺跡発掘調査報告書』岩文振第 590 集
2015 『間木戸Ⅱ遺跡・間木戸Ⅴ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 640 集
2016 『千苺遺跡発掘調査報告書』岩文振第 652 集
2018a 『浜川目沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 679 集
2018b 『荷竹日向Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 681 集
2018c 『浜川目沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 689 集
2019a 『力持遺跡発掘調査報告書』岩文振第 694 集
2019b 『山口駒込Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第 696 集
2020 『長谷堂貝塚発掘調査報告書』岩文振第 719 集
- 岩手県立博物館 1990 『熊堂古墳群・浮島古墳群発掘調査報告書』岩手県立博物館調査研究報告書第六冊
- 大迫町教育委員会 1986 『観音堂遺跡 第 1～6 次発掘調査報告書』大迫町埋蔵文化財調査報告書第 11 集
- 折登亮子 2019 「円筒土器文化圏における縄文時代前期末葉～中期初頭の土偶に関する一考察 - 大木式土器文化
圏の土偶との比較を中心に -」『特別史跡三内丸山遺跡 年報』22 青森県教育委員会

- 金子昭彦 2012 「大木式北部・板状O脚土偶の編年 - 東北地方中部における縄文時代前期～中期前葉の土偶 -」
『岩手考古学』第 23 号 岩手考古学会
- 神原雄一郎 2004 「渦巻文様の展開 - 盛岡の縄文時代中期の土器 -」『縄文の彩華 - 中期の技と美 -』
- 榑原功一 2004 「台形土器の研究」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第 12 集
- 小島俊彰 1983 「三角壜形土製品」『縄文文化の研究 9 縄文人の精神文化』雄山閣
- 小林達雄編 2008 『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- 斎藤瑞穂 2020 「縄文三陸地震津波への接近」『考古学ジャーナル』第 746 号 ニュー・サイエンス社
- 坂本美夫 1985 『馬具』ニュー・サイエンス社
- 須原 拓 2018 「V 出土遺物の分類」『浜川目沢田 I 遺跡発掘調査報告書』岩文振第 689 集
- 須原 拓 2019 「岩手県沿岸地域の大木 8a 式土器について - 浜川目沢田 I 遺跡の資料から」『紀要』第 38 号
(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 東海古墳文化研究会 2006 『東海の馬具と飾大刀』
- 遠野市教育委員会 2006 『張山遺跡』遠野市埋蔵文化財調査報告書第 8 集
- 日本考古学協会 2005 「複式炉と縄文文化」『日本考古学協会 2005 年度福島大会シンポジウム資料集』
2016 『津軽海峡圏の縄文文化 - 一般社団法人日本考古学協会 2016 年度弘前大会 第 I 分科会
研究報告資料集』
- 早瀬亮介・菅野智則・須藤隆 2006 「東北大学文学研究科 考古学陳列館所蔵大木冴貝塚出土基準資料
- 山内清男編年基準資料 -」『Bulltin of the Tohoku University Museum』No. 5 東北大学
- 松田光太郎 2003 「大木 6 式土器の変遷とその地域性」『神奈川考古』第 39 号 神奈川考古同人会
- 松村恵司 2002 「鍔帯金具の位階表示機能」『鍔帯をめぐる諸問題』奈良考古学研究所
- 水沢市教育委員会 2004 「伯濟寺遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査 - 平成 14 年度発掘調査概報 -』岩手県水沢市
文化財報告書第 37 集
- 村田 淳 2016a 「岩手県沿岸部の様相」『考古資料にみる「平泉」とその周辺』岩手考古学会第 48 回研究大会資料集
2016b 「東北地方北部出土の施釉陶磁器」『第 II 分科会 北東北 9・10 世紀社会の変動 研究報告資料集』
日本考古学協会 2016 年度弘前大会実行委員会
- 室伏 徹 2008 「台形土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 盛岡市遺跡の学び館 2004 『縄文の彩華 - 中期の技と美 -』開館記念特別展図録
2008 『柿ノ木平遺跡 堰根遺跡 - 浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書 IV -』
- 盛岡市教育委員会 1997 『大館遺跡群 - 大館町遺跡 - 平成 6・7 年度発掘調査概報』
- 八木光則 1996 「馬具と蝦夷 - 藤澤蝦夷森古墳群出土の壺鐙をととして -」『岩手史学研究』第 79 号 岩手史学会
- 山田町教育委員会 2002a 『山田町内遺跡詳細分布調査報告書 III 山田・折笠地区』山田町埋蔵文化財調査報告書
第 7 集
2002b 『細浦 IV・後山 I 遺跡発掘調査報告書』山田町埋蔵文化財調査報告書第 9 集
2015 『間木戸一里塚発掘調査報告書』山田町埋蔵文化財調査報告書第 14 集
- 山梨県教育委員会 1987a 『釈迦堂 II』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 21 集
1987b 『釈迦堂 III』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第 22 集
- 山梨県考古学協会 2002 『土器から探る縄文社会』

第 10 表 縄文土器観察表 (1)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a1	深鉢	大9新	A 1号竪穴建物 3~5層・5層以下	口~胴部	[186]	16.1	729.9	RL→磨消	ススコゲ	1	274	
a2	深鉢	大9	A 1号竪穴建物 5層	胴~底部	[172]	-	885	車軸絡糸体?	底部網代直	1	274	
a3	深鉢	大9	A 1号竪穴建物 3~4層	口~底部	[96]	-	105	車軸絡糸体?	底部網代直	1	274	
a4	深鉢	大9新	A 1号竪穴建物 5層	口~底部	14.3	15.0	7.4	0.95	4車位波状口縁	1	274	
a5	深鉢	大9	A 1号竪穴建物 5層	胴部	[26.0]	-	0.9	1.233	至み大きい	1	274	
a6	深鉢	大9新	A 1号竪穴建物 5層以下	口~底部	13.9	13.1	5.4	0.75	6単位波状口縁	1	274	
a7	深鉢	大9	A 1号竪穴建物 5層	口~胴部	[11.6]	13.2	-	0.6	小波状口縁?	1	274	
a8	深鉢	大9	A 1号竪穴建物 4層下位	口~底部	10.6	10.9	5.0	0.55	底部網代直	1	274	
a9	深鉢	大9	A 1号竪穴建物 5層	底部	[5.6]	-	1.2	1.3	小波状口縁?	2	274	
a10	深鉢	大9	A 1号竪穴建物 4層下位・中位焼土面	口~胴部	[45.7]	-	1.0	1.223	車軸絡糸体1類	2	274	
a11	深鉢	大9古	A 1号竪穴建物 床面直上	口縁部	-	-	1.0	0.965	補修孔	1	274	
a12	深鉢	大9新	A 1号竪穴建物 5層	口縁部	-	-	0.6	0.727	スス	2	275	
a13	深鉢	大8b~9	A 1・2号竪穴建物 5層以下・西ベルト一括	口縁部	-	-	0.7	1.779	ススコゲ	2	275	
a14	深鉢	大7b~8a	A 3号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.7	0.942	ススコゲ	2	275	
a15	深鉢	不明	A 3号竪穴建物 北側壁面直上	底部	[7.45]	-	(12.4)	0.9	底部網代直	2	275	
a16	深鉢	大6	A 3号竪穴建物 炬内堆積土下位	口縁部	-	-	0.7	6.26	補修孔あり、ススコゲ	2	275	
a17	深鉢	大7a	A 3号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.8	36.9	底部網代直	2	275	
a18	深鉢	大9	A 3号竪穴建物 堆積土	口~底部	13.0	15.1	7.5	0.7	底部網代直	2	275	
a19	深鉢	大9新	A 3号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.6	8.00	底部網代直	2	275	
a20	深鉢	大7b	A 3号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.45	10.1	底部網代直	2	275	
a21	深鉢	大7a	A 3・4号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	1.2	238.8	ススコゲ	2	275	
a22	深鉢	大9	A 3・4号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.4	13.2	細文細かい	3	275	
a23	深鉢	大8b~9	A 4号竪穴建物 床面直上・堆積土	口~底部	[16.3]	(14.4)	0.6	247.4	ススコゲ	3	275	
a24	深鉢	大7a	A 4号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.5	18.1	3単位波状口縁	3	275	
a25	深鉢	大5	A 4号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.95	33.8	スス	3	275	
a26	深鉢	大7a	A 4号竪穴建物 B断面6層	口縁部	-	-	0.7	38.0	スス	3	275	
a27	深鉢	中期	A 5号竪穴建物 床面直上	口~底部	30.7	(25.5)	10.6	1.339.5	スス	3	275	
a28	浅鉢	中期	A 5号竪穴建物 床面直上・堆積土	口~底部	4.9	(9.5)	4.2	0.5	スス	3	275	
a29	深鉢	大8b新	A 5号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[10.8]	-	0.55	117.3	スス	3	275	
a30	深鉢	大8b~9	A 5号竪穴建物 床面直上・堆積土	口~胴部	[17.5]	-	0.75	257.9	スス	3	275	
a31	深鉢	大8b~9	A 5号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	0.95	81.3	スス	3	276	
a32	深鉢	大8a	A 5号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	1.75	116.0	突起	3	275	
a33	深鉢	大8a新	A 5・8号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[32.9]	(26.4)	-	1.0	突起	3	276	
a34	深鉢	大8a新	A 6号竪穴建物 炬内堆積土・床面直上・堆積土	口~胴部	[35.5]	36.0	-	1.15	小波状口縁	4	276	
a35a	深鉢	大8a新	A 6号竪穴建物 炬内堆積土・堆積土	口~胴部	[28.3]	-	-	1.05	突起	4	276	
a35b	深鉢	大8a新	A 6号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.95	408.2	突起	4	276	
a36	深鉢	大8a	A 7号竪穴建物 B断面7層	口縁部	-	-	0.6	149.5	突起	4	275	
a37	深鉢	大8a	A 8号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.8	156.0	突起	4	276	
a38	深鉢	中期	A 9・10号竪穴建物 ベルト一括	底部	[10.6]	-	10.2	0.7	突起	4	276	
a39	深鉢	大9新	A 10号竪穴建物 ベルト一括	口~胴部	-	-	0.65	131.4	突起	4	276	
a40	深鉢	大9新	A 10号竪穴建物 ベルト一括	口~胴部	-	-	0.7	272.4	突起	4	276	
a41	深鉢	大10	A 11号竪穴建物 炬内堆積土	胴部	-	-	0.75	31.3	突起	5	277	
a42	深鉢	大7b?	A 12号竪穴建物 A断面2層	胴部	-	-	0.8	36.4	突起	5	277	
a43	深鉢	大8a	A 12号竪穴建物 A断面3層	口縁部	-	-	0.8	98.7	突起	5	277	
a44	深鉢	中期	A 16・19号竪穴建物 堆積土・北ベルト一括 (A 3号竪穴建物 堆積土)	胴~底部	-	-	0.85	556.5	突起	5	277	
a45	深鉢	大5	A 16号竪穴建物 床面直上	口縁部	-	-	0.8	17.4	突起	5	277	
a46	深鉢	大6	A 16号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	1.1	61.4	突起	5	277	
a47	球胴深鉢	大6	A 16号竪穴建物 床面直上	胴部	-	-	0.75	109.3	突起	5	277	
a48	深鉢	大6	A 16号竪穴建物 床面直上	胴部	-	-	0.85	42.4	突起	5	277	
a49	深鉢	前期	A 16号竪穴建物 B断面10層	底部	[3.7]	-	9.4	0.8	突起	5	277	
a50	深鉢	大5	A 16号竪穴建物 B断面10層	口~胴部	-	-	0.75	79.6	突起	5	277	

第 10 表 縄文土器観察表 (2)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a51	深鉢	大 8a	A16 号壺穴建物 B 断面 10 層	口~胴部	-	-	228.0	LR (0 段) → 隆沈線 /	波状口縁	5	277	
a52	深鉢	大 9	A18・19 号壺穴建物 堆積土	口縁部	-	-	21.0	車軸緒糸体 1 類 → 沈線・刺突 /		5	277	
a53	深鉢	大 6	A18・19 号壺穴建物 堆積土	口縁部	-	-	35.6	凹形貼付文・結束 LR /	波状口縁	5	277	
a54	深鉢	大 8b~9	A18・19 号壺穴建物 堆積土	胴部	-	-	85	LR → 磨消? /		5	277	
a55	深鉢	大 6~7a	A20 号壺穴建物 北壁際堆積土	口縁部	-	-	187.3	隆帯・縞状突起 /		5	277	
a56	深鉢	大 8a	A20 号壺穴建物 北壁際堆積土	口縁部	-	-	121	RL (0 段) → 隆帯 /	スス	5	277	
a57	深鉢	大 8b	A20 号壺穴建物 北壁際堆積土	口縁部	-	-	25.6	LR → 隆沈線 /		5	277	
a58	深鉢	中期	A20 号壺穴建物 堆積土	底部	[3.0]	-	150.7	LR /	底部網代裏	5	277	
a59	深鉢	大 8a	A20 号壺穴建物 A 断面 7 層下位	口~胴部	[24.7]	39.0	3.778.7	付加糸、口縁部隆帯 /	ススコグ、外面摩耗	6	277	
a60	深鉢	大 8a	A20 号壺穴建物 A 断面 8 層	口縁部	-	-	73.7	LR → 隆沈線 /		5	277	
a61	深鉢	大 8a	A20 号壺穴建物 B 断面 7 層	口~胴部	[126]	-	429.0	LR → 隆沈線 /		6	277	
a62	深鉢	大 8a~b	A20 号壺穴建物 B 断面 8 層	底部	[2.7]	-	108.2	RL? 付加糸? → 沈線 /		5	277	
a63	深鉢	大 8b 古	A20 号壺穴建物 床面直上・堆積土	口~胴部	-	-	1.270.3	LR → 沈線、口縁部隆帯 → 沈線 /	小波状口縁、コグ	6	277	
a64	深鉢	中期	A20 号壺穴建物 床面直上	胴~底部	[12.1]	-	518.3	RL /	ススコグ、外面に粘土付着	6	278	
a65	深鉢	大 8a	A20 号壺穴建物 床面直上	口縁部	-	-	192.8	口縁部隆帯 → LR /		6	278	
a66	深鉢	中期	A20 号壺穴建物 床面直上	胴~底部	[10.0]	-	372.9	車軸緒糸体 1 A 類 R /		7	278	
a67	深鉢	大 8b~9	A20 号壺穴建物 床面直上	口縁部	-	-	296.8	LR /	スス	7	278	
a68	深鉢	大 8a	A20 号壺穴建物 床面直上	口~胴部	-	-	66.0	RLR → 隆沈線 /	補修孔	7	278	
a69	深鉢	大 9 新	A20 号壺穴建物 堆積土層下位	口~胴部	-	-	1.128.7	LR → 沈線・磨消 /		7	278	
a70	深鉢	大 8b	A23 号壺穴建物 E 断面 4 層	口縁部	-	-	122.2	隆沈線 /		7	277	
a71	深鉢	大 8a	A24 号壺穴建物 堆積土	胴部	-	-	37.9	LR → 沈線 /		7	278	
a72	深鉢	中期	A25 号壺穴建物 P03 堆積土	胴~底部	[12.2]	-	631.3	LR /	底部網代裏、スス	7	278	
a73	深鉢	大 9 古	A25 号壺穴建物 堆積土	口縁部	-	-	261.7	RL → 隆沈線 → 凹形刺突 /		7	278	
a74	深鉢	大 9 新	A25 号壺穴建物 堆積土	口縁部	-	-	95.7	RL? → 磨消 → 刺突 /	波状口縁、スス	7	278	
a75	深鉢	中期	A27 号壺穴建物 床面直上	胴~底部	[17.1]	-	1.108.9	LR /	底部木葉裏、外面に粘土付着	7	278	
a76	深鉢	大 10 中	A27 号壺穴建物 2 層	口~胴部	[19.9]	(25.5)	470.2	RL → 磨消 /	スス	8	279	
a77	深鉢	中期	A27 号壺穴建物 2 層	口~胴部	-	-	645.7	LR /		8	279	
a78	深鉢	中期	A27 号壺穴建物 炉 2 内堆積土	胴部	-	-	337.9	LR /		8	278	
a79	深鉢	大 10 中	A27 号壺穴建物 2 層	胴部	-	-	127.2	RL → 磨消 /		8	278	
a80	深鉢	大 10 古	A27 号壺穴建物 2 層	口縁部	-	-	54.4	LR (0 段) → 磨消 /	スス付着	8	278	
a81	深鉢	不明	A28 号壺穴建物 2 層	底部	[7.05]	-	328.3	LR (0 段・未端結束?) /	網代裏	8	279	
a82	深鉢	大 8b	A29 号壺穴建物 3 層	口縁部	-	-	45.3	RL → 隆沈線 /		8	279	
a83	深鉢	大 9 新	A30 号壺穴建物 堆積土	口~胴部	[22.9]	(21.4)	664.2	LR → 磨消 /	スス	8	279	
a84	深鉢	不明	A31 号壺穴建物 如熱窯跡上面	胴部	-	-	77.2	付加糸 /		8	279	
a85	深鉢	大 8b~9	A32 号壺穴建物 堆積土	胴~底部	[10.2]	-	172.9	RL → 沈線 /		9	279	
a86	深鉢	大 10 古	A32 号壺穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	212.7	RLR → 沈線 /		9	279	
a87	深鉢	大 10	A33 号壺穴建物 堆積土	胴部	-	-	28.6	LR → 磨消 /		9	279	
a88	深鉢	大 9 新	A34 号壺穴建物 3 層	口~底部	14.0	-	332.1	LR → 磨消 /	口縁部一か所のみ上がる	9	279	
a89	深鉢	大 9 新	A34 号壺穴建物 3 層	胴~底部	[13.0]	-	396.1	LR → 磨消 /	底部網代裏	9	279	
a90	浅鉢	大 9 古	A34 号壺穴建物 2~3 層	口~胴部	-	-	345.3	RL → 隆沈線 体部ナデ /		9	279	
a91	深鉢	大 9 古	A34 号壺穴建物 2 層	口~胴部	-	-	280.7	RL → 隆沈線 /		9	280	
a92	深鉢	大 8b~9	A34 号壺穴建物 床面直上	口縁部	-	-	59.5	RL → 沈線 /		9	280	
a93	深鉢	大 10 古	A34 号壺穴建物 3 層	口~底部	-	-	131.4	LR /		9	280	
a94	深鉢	中期	A35 号壺穴建物 3 層	口~胴部	-	-	521.0	車軸緒糸体 1 類 /	スス	9	280	
a95	深鉢	中期	A35 号壺穴建物 3 層	胴~底部	[8.3]	-	251.7	LR /	底部網代裏	10	280	
a96	深鉢	大 8b~9	A35 号壺穴建物 7 層	口縁部	-	-	140.6	LR → 沈線 /	波状口縁	10	280	
a97	深鉢	大 8b~9	A35 号壺穴建物 7 層	胴部	-	-	201.3	車軸緒糸体 1 類 R → 沈線 /		10	280	
a98	深鉢	大 8b~9	A35 号壺穴建物 8 層	口~胴部	-	-	299.6	LR /	波状口縁?	10	280	
a99	深鉢	中期	A35・40 号壺穴建物 堆積土下位	口~胴部	-	-	571.6	LR /		10	280	
a100	深鉢	中期	A36 号壺穴建物 2 層	胴~底部	[9.9]	-	279.5	LR /	底部一文字の圧痕あり、コグ	10	280	
a101	深鉢	大 9 新	A36 号壺穴建物 2 層	口~胴部	-	-	543.4	RLR → 磨消 /		10	280	
a102	深鉢	大 9 新	A36 号壺穴建物 2 層	口~胴部	-	-	151.1	RLR → 磨消 /		10	280	
a103	深鉢	大 8b~9	A36 号壺穴建物 2 層	口~胴部	[14.0]	(24.4)	518.0	RLR → 隆沈線 /	波状口縁	10	281	

第 10 表 縄文土器観察表 (3)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a104	深鉢	大 8b	A37 号竪穴建物 7 層	口～底部	14.1	8.8	7.7	475.2	RLR → 隆沈線 /	3 単位波状口縁、スス	11	281
a105	深鉢	大 8b 新	炉内堆積土・7 層	口縁部	[9.2]	12.4	-	708.6	隆帯・中空突起 /	外面赤色顔料	11	281
a106	深鉢	大 8b	A37 号竪穴建物 3 層	口～胴部	-	-	-	1,027.2	車軸緒糸体 1 類 → 隆沈線・口縁部隆帯 /		11	281
a107	深鉢	大 10 古	A37 号竪穴建物 堆積土上～下位 A42 号竪穴建物 堆積土中位	口～底部	17.2	(15.6)	(6.0)	368.0	LR → 磨消 /	2 単位波状口縁	11	281
a108	深鉢	大 9 新	A38 号竪穴建物 2・3 層	口～胴部	[13.9]	(18.1)	-	326.7	LR (0 段) → 磨消 /		11	281
a109	深鉢	大 8b 新	A38 号竪穴建物 堆積土上～中位	胴～底部	[10.8]	-	9.2	334.6	LR → ナナズ? /	底部網代裏	11	280
a110	深鉢	不明	A38・45 号竪穴建物 堆積土中～下位	口縁部	[11.0]	(21.6)	-	795.8	RL → 隆沈線・短沈線・中空突起 /		11	281
a111	深鉢	大 5	A40 号竪穴建物 堆積土上～下位	口縁部	-	-	-	70.8	網状工具による上下方向の多重沈線 /		11	281
a112	深鉢	大 5	A40 号竪穴建物 堆積土中～下位	口縁部	-	-	-	40.1	RL → 山形突起 /		11	281
a113	深鉢	大 8b～9	A40 号竪穴建物 6 層	底部	-	-	-	36.6	LR (0 段) ? → 隆沈線 /	底部ナテ	11	281
a114	深鉢	大 8b	A40 号竪穴建物 6 層	口縁部	-	-	-	96.2	車軸緒糸体 1 類 /		11	281
a115	深鉢	大 8b	A40 号竪穴建物 6 層	口縁部	-	-	-	71.4	LR (0 段) → 隆沈線 /	ススコゴ	11	281
a116	深鉢	大 8b	A40 号竪穴建物 床面直上	口～胴部	-	-	-	488.2	RL → 隆沈線 /	波状口縁	12	282
a117	深鉢	大 2b～3	A40 号竪穴建物 堆積土中～下位	底部	-	-	-	61.0	縦紐 /	底部網代裏	12	281
a118	深鉢	大 9 新	A40 号竪穴建物 堆積土上 A41 号竪穴建物 床面直上	口～胴部	-	-	-	349.7	RL → 磨消・押し引き /	波状口縁	12	282
a119	深鉢	大 9 新	A41 号竪穴建物 堆積土上位	底部	[2.2]	3.8	0.3	26.4	LR? → 磨消 /		12	281
a120	深鉢	大 9 新	A41 号竪穴建物 堆積土上位	胴部	-	-	-	57.8	原体不明 → 磨消・削突 /		12	281
a121	深鉢	中期	A41 号竪穴建物 堆積土上位	底部	[3.8]	11.1	1.0	206.7	LR /	底部網代裏	12	282
a122	深鉢	大 9 新	A41 号竪穴建物 堆積土中～下位	胴部	-	-	-	103.6	RL → 磨消・削突 /		12	282
a123	深鉢	大 8b～9	A42・43 号竪穴建物 東区 堆積土中位	口縁部	-	-	-	93.9	LR (0 段) → 沈線 /		12	282
a124	深鉢	大 8b	A42・43 号竪穴建物 西区 堆積土中位	口縁部	-	-	-	198.5	LR または L → 隆沈線 /		12	282
a125	深鉢	大 7a	A42・43 号竪穴建物 堆積土下位	口縁部	-	-	-	83.6	隆帯 → キザミ・短沈線 /		12	282
a126	深鉢	大 7a	A42・43 号竪穴建物 東区 堆積土上～中位	胴部	-	-	-	66.2	RL (0 段) → 隆帯 → 押圧 /		12	282
a127	浅鉢	大 8a	A42・43 号竪穴建物 東区 堆積土上～中位	胴部	-	-	-	256.0	RL (0 段) ? → 隆沈線・ナテ /		12	282
a128	深鉢	大 2b～3	A42・43 号竪穴建物 東区 堆積土中～下位	胴部	-	-	-	14.3	付加条 → 隆帯 → 削突 /	胴部に焼成加算孔	12	282
a129	胴付深鉢	大 9 古	A42・43 号竪穴建物 堆積土下位	底部	[4.4]	6.5	0.6	73.8	RL または RLR → 隆帯 /	波状口縁	12	282
a130	深鉢	大 9 古	A42・43 号竪穴建物 堆積土下位	口縁部	-	-	-	111.9	RL → 隆沈線 /		12	282
a131	深鉢	大 8b 新	A42・43 号竪穴建物 堆積土下位	口～胴部	[7.2]	8.0	-	159.9	RL → 隆沈線 /	2 単位波状口縁	12	282
a132	深鉢	大 9 古	A42・43 号竪穴建物 堆積土下位	胴～底部	[14.8]	-	10.2	453.1	LR → 隆沈線 /	底部付近穿孔、コケ	13	282
a133	深鉢	大 8b～9	A42・43 号竪穴建物 東区 堆積土中～下位	胴部	-	-	-	1,057.0	車軸緒糸体 1A 類 → 沈線 /		13	282
a134	葷	大 9 古	A42・43 号竪穴建物 堆積土下位	口～底部	15.7	7.2	6.9	319.8	RL → ナテ・沈線 /	2 単位波状口縁	13	282
a135	深鉢	大 8b 新	A42・43 号竪穴建物 堆積土下位	胴部	-	-	-	53.3	RL → 隆帯 /		13	282
a136	深鉢	大 8b～9	A42・43 号竪穴建物 北側周溝付近 床面直上	胴部	-	-	-	101.8	RLR? → 沈線 /		13	282
a137	深鉢	大 8b 新	A42・43 号竪穴建物 炉 1 周辺堆積土	口～底部	16.5	8.9	7.5	704.6	LR → 隆沈線・中空突起 /	底部ナテ	13	282
a138	深鉢	中期	A42・43 号竪穴建物 東区 堆積土中～下位	胴～底部	[12.1]	-	9.4	559.9	RL /	底部ナテ	13	283
a139	深鉢	大 8b 新	A42・43 号竪穴建物 堆積土	口～胴部	[25.1]	40.0	-	3,641.1	RLR → 隆沈線 → 爪形削突 /		13	283
a140	深鉢	大 8b 新	A42・43 号竪穴建物 堆積土下位 (A37 号竪穴建物 堆積土上～中位)	胴部	-	-	-	366.8	RL → 隆沈線 /		13	283
a141	深鉢	不明	A42・43・44 号竪穴建物 堆積土上～下位	胴部	-	-	-	293.1	車軸緒糸体 1A 類 (木目状熱赤文) /		13	283
a142	深鉢	大 6	A42・43・44 号竪穴建物 堆積土上～中位	口縁部	-	-	-	159.3	LR → 沈線 (平・山)・貼付 → 押し引き /		14	283
a143	深鉢	大 5	A42・43・44 号竪穴建物 堆積土中～下位	口縁部	-	-	-	85.9	車軸緒糸体 1A 類 → 隆帯 → 竹管削突 /	ススコゴ	14	283
a144	深鉢	大 9 古	A42・43・44 号竪穴建物 堆積土上～下位	口縁部	-	-	-	190.4	LR → 隆沈線 /	スス	14	283
a145	深鉢	中期	A42・47 号竪穴建物 堆積土上～中位	口～底部	7.8	(9.2)	6.0	85.6	原体不明 → 隆帯 /	底部割落	14	283
a146	深鉢	大 8b 新	A42・47 号竪穴建物 堆積土上～中位	口縁部	-	-	-	36.7	RL → 隆帯 /	波状口縁	14	283
a147	深鉢	大 8b 新	A42・47 号竪穴建物 堆積土上～下位 47 号土坑 堆積土下位	口縁部	-	-	-	486.2	ナテ → 隆帯 /	波状口縁	14	283
a148	深鉢	大 8b	A47 号竪穴建物 堆積土下位	口縁部	-	-	-	21.1	隆沈線 → 桶状突起 /		14	283
a149	深鉢	大 8b 新	A48 号竪穴建物 1 層	口縁部	-	-	-	75.0	LR → 隆帯・磨消・底体押圧 /	スス	14	283
a150	深鉢	大 8b～9	A48 号竪穴建物 1 層	口縁部	-	-	-	29.1	RL → 隆沈線 → 削突 /	コケ	14	283
a151	深鉢	中期	A48 号竪穴建物 1 層	口～底部	11.3	(13.1)	5.8	187.5	RL /		14	283
a152	深鉢	大 9 新	A48 号竪穴建物 1 層	口～胴部	-	-	-	288.9	RL → 磨消 /		14	283

第 10 表 縄文土器観察表 (4)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)		重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.	
					器高	口径						底径
a153	深鉢	大 8b 新	A48 号壑穴建物 1 層	口縁部	-	-	177.0	RL→隆沈線/		14	283	
a154	深鉢	大 8b ~ 9	A49 号壑穴建物 P02 堆積土	口縁部	-	-	25.2	隆沈線→筋状突起/		14	283	
a155	深鉢	後期初	A50 号壑穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	406.8	LR→沈線・刺突/	波状口縁、中期末の可能性も有	14	284	
a156	深鉢	大 9 古	A51 号壑穴建物 B 断面 7 層	口縁部	-	-	46.1	LR→隆沈線/		15	283	
a157	深鉢	大 9	A51・53 号壑穴建物 堆積土上位	口縁部	-	-	65	RL→隆沈線/	波状口縁	15	284	
a158	深鉢	大 8b	A51・53 号壑穴建物 堆積土上位	口縁部	-	-	68.9	RL (RL) R→隆沈線/	波状口縁	15	283	
a159	深鉢	大 7a	A53 号壑穴建物 B 断面 3 ~ 4 層	口縁部	-	-	63.9	付加条?または0段→沈線/		15	284	
a160	深鉢	中期	A53 号壑穴建物 C 断面 1 ~ 2 層	口~胴部	-	-	1.395	L/		15	284	
a161	深鉢	中期	A53 号壑穴建物 堆積土	口~胴部	[18.6]	22.0	RL R/			15	284	
a162	浅鉢	大 9 新	A53 号壑穴建物 堆積土下位	口~底部	-	-	79.2	LR (0 段) →磨消/		15	284	
a163	深鉢	大 8b 新	A54・55 号壑穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	162.8	LR→隆沈線/		15	284	
a164	深鉢	大 9 新	A54 号壑穴建物 炉直上堆積土	口~胴部	-	-	57.2	LR→沈線・磨消/		15	284	
a165	深鉢	大 8a	A56 号壑穴建物 P07 堆積土	口縁部	-	-	108.3	LR (0 段) →沈線・刺突/		15	284	
a166	深鉢	大 8b ~ 9	A56 号壑穴建物 P10 堆積土	口~胴部	[9.9]	(12.1)	LR→隆帯・沈線/	2 単位波状口縁		15	284	
a167	深鉢	大 6	A57 号壑穴建物 堆積土	胴部	-	-	27.0	沈線 (平)・短沈線/		15	284	
a168	深鉢	前期	A58 号壑穴建物 F 断面 11 層	口~胴部	-	-	311.7	無筋? (結節部分 L) 縦回転/		15	284	
a169	深鉢	大 8a	A58 号壑穴建物 堆積土中位	口縁部	-	-	168.5	LR (0 段) →隆沈線/		16	284	
a170	深鉢	大 6	A58 号壑穴建物 F 断面 11 層	口縁部	-	-	172.0	LR→短沈線・押圧/		16	284	
a171	深鉢	大 10 新	A59 号壑穴建物 扇状堆積土	胴部	-	-	32.7	LR→磨消/		16	285	
a172	深鉢	大 8b 新	A60 号壑穴建物 埋積土	口~底部	[37.0]	30.4	LR→隆沈線/	ススコガ、器形重み大きい		16	285	
a173	深鉢	大 7b	A61 号壑穴建物 堆積土	口縁部	-	-	26.3	RL→沈線 (平・山) /		16	285	
a174	深鉢	大 8b ~ 9	A61 号壑穴建物 堆積土	胴部	-	-	54.4	RL→隆沈線/		16	285	
a175	深鉢	山下 a ~ 上 a	A62 号壑穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	269.9	羽状細文・結節回転文/	大木 6 ~ 7a 式の可能性も有	16	285	
a176	深鉢	大 6	A62 号壑穴建物 堆積土	口縁部	-	-	109.9	沈線 (細)・貼付文/	貼付文剥落	16	285	
a177	深鉢	大 7a	A67 号壑穴建物 堆積土下位	口~胴部	[15.8]	(30.0)	RL→隆帯→押圧、口縁部突起/	波状口縁		16	285	
a178	深鉢	大 7a	A67 号壑穴建物 仰蓋面	口縁部	-	-	77.7	LR→隆帯→LR/	スス	16	285	
a179	深鉢	大 8b 新	A67 号壑穴建物 堆積土	口縁部	-	-	54.7	RL→隆沈線/		16	285	
a180	深鉢	大 8b ~ 9	A67 号壑穴建物 西区 堆積土下位	口縁部	-	-	72.4	刺突/		16	285	
a181	深鉢	大 8b ~ 9	A68 号壑穴建物 堆積土中位	口~胴部	[10.9]	(12.1)	LR・RL 羽状細文→沈線/			16	285	
a182	深鉢	大 7b	A68 号壑穴建物 堆積土上~中位	胴部	-	-	33.4	LR→隆帯→原形押圧/		17	285	
a183	球脚深鉢	大 7a	A69 号壑穴建物 北区 堆積土上~中位	口~胴部	[23.2]	(22.2)	脚状工具による細沈線・結束 LR→爪形刺突、筋状突起/	4 単位波状口縁、口縁部内面付近に帯状のコゲ		17	285	
a184	深鉢	大 8b 新	A69 号壑穴建物 北・南区 堆積土上~中位	胴~底部	[11.7]	-	239.0	RL→隆沈線/		17	286	
a185	深鉢	大 8b ~ 9	A69・75 号壑穴建物 重複部分 堆積土上~中位	胴~底部	[8.5]	-	1067.7	LR→隆帯/		17	285	
a186	深鉢	大 8b 新	A69 号壑穴建物 北区 堆積土上~中位	口縁部	-	-	292.2	RL R→隆沈線・突起・穿孔/	波状口縁	17	286	
a187	深鉢	大 7	A69 号壑穴建物 北区 堆積土上~中位	口縁部	-	-	44.8	車軸筋条体 1 類 L→隆沈線・突起/		17	285	
a188	深鉢	大 8b 新	A69 号壑穴建物 東区 堆積土上~中位	口縁部	-	-	444.3	脚状工具を縦方向に垂下→隆沈線/	小波状口縁	17	286	
a189	深鉢	大 7	A69 号壑穴建物 東区 堆積土上~中位	胴部	-	-	36.5	結節 L/		17	285	
a190	深鉢	大 3	A69 号壑穴建物 南区 堆積土	口縁部	-	-	18.7	隆帯→キザミ/		17	285	
a191	深鉢	大 8b 新	A69 号壑穴建物 堆積土上~中位	口~胴部	-	-	263.6	L 孔 R? →沈線/	外面摩耗	17	286	
a192	深鉢	大 7b	A69 号壑穴建物 堆積土	口縁部	-	-	54.6	LR→沈線/	スス	17	286	
a193	深鉢	大 8b ~ 9	A70 号壑穴建物 堆積土	口縁部	-	-	41.1	車軸筋条体 1A 類 R→隆帯・沈線→刺突/		17	286	
a194	深鉢	大 6	A70 号壑穴建物 堆積土	胴部	-	-	107.0	幅広い隆帯/		17	286	
a195	深鉢	大 9 古	A72 号壑穴建物 堆積土下位	口~底部	[13.9]	(8.6)	5.5	126.0	RL R→隆沈線/	2 単位波状口縁	17	286
a196	深鉢	大 8b 新	A72・78 号壑穴建物 重複部分 堆積土	口~底部	14.5	10.3	5.6	232.1	LR→隆沈線/	底部に意図的な穿孔?、スス	18	286
a197	深鉢	大 8b ~ 9	A72 号壑穴建物 重複部分 堆積土	口~胴部	-	-	0.85	227.2	R? RL? →沈線/	スス	18	286
a198	深鉢	大 8a 古	A72・78 号壑穴建物 重複部分 堆積土	口~胴部	-	-	0.6	170.1	LR→隆帯→原形押圧/	ススコガ	18	286
a199	深鉢	大 8a 古	A72・78 号壑穴建物 重複部分 堆積土	口縁部	-	-	0.6	43.7	LR→原形押圧/		18	286
a200	深鉢	大 7a	A73 号壑穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.9	45.6	貼付→沈線/		18	286

第 10 表 縄文土器観察表 (5)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a201	深鉢	大 8b 新	A74 号竪穴建物 床面直上 A75 号竪穴建物 堆積土下位 8 号土坑 堆積土下位	口～胴部	-	-	4,076.0	LR→隆沈線/ 隆帯→沈線・キザミ/ 隆沈線・桶状突起/ 細沈線・桶状工具の小口部?を使用した弧状のケスリ/ ススコグ	6 単位波状口縁 ススコグ	18	286	
a202	球胴深鉢	大 7a	A75 号竪穴建物 P01 堆積土	胴部	-	-	62.6	隆帯→沈線・キザミ/ 隆沈線・桶状突起/ 細沈線・桶状工具の小口部?を使用した弧状のケスリ/ ススコグ	ススコグ	18	286	
a203	深鉢	大 8b 新	A75 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	114.0	隆帯→沈線・キザミ/ 隆沈線・桶状突起/ 細沈線・桶状工具の小口部?を使用した弧状のケスリ/ ススコグ	ススコグ	18	287	
a204	深鉢	前期	A75・77 号竪穴建物 重後部分 堆積土下位	口縁部	-	-	22.8	隆帯→沈線・キザミ/ 隆沈線・桶状突起/ 細沈線・桶状工具の小口部?を使用した弧状のケスリ/ ススコグ	ススコグ	18	286	
a205	深鉢	大 8b～9	A76 号竪穴建物 床面直上 取り上げ No. 1	口～底部	21.5	6.8	662.4	RL→沈線/ 単軸線系 1 類 R 又は LR→隆沈線/ 細沈線・桶状突起/ 細沈線・桶状工具の小口部?を使用した弧状のケスリ/ ススコグ	ススコグ	18	287	
a206	深鉢	大 9 古	A76 号竪穴建物 床面直上 取り上げ No. 2	胴～底部	[169]	-	438.0	単軸線系 1 類 R 又は LR→隆沈線/ 細沈線・桶状突起/ 細沈線・桶状工具の小口部?を使用した弧状のケスリ/ ススコグ	細沈線・桶状突起/ 細沈線・桶状工具の小口部?を使用した弧状のケスリ/ ススコグ	18	286	
a207	深鉢	大 8a	A76 号竪穴建物 P05 堆積土	胴部	-	-	29.0	LR→隆帯/ スス	スス	19	286	
a208	深鉢	中期	A76 号竪穴建物 北区 堆積土	口～胴部	[16.5]	-	891.1	RL/ スス	スス	19	287	
a209	深鉢	大 8b～9	A76 号竪穴建物 堆積土下位	口～胴部	-	-	933.5	RL→沈線・隆沈線→凹形刺突/ 注口部 RL→隆沈線/ スス	スス	19	287	
a210	注口土器	大 8b	A76 号竪穴建物 堆積土下位	口縁部	-	-	5.10	注口部 RL→隆沈線/ スス	スス	19	287	
a211	深鉢	大 7b	A76 号竪穴建物 堆積土下位	口縁部	-	-	29.6	沈線・口縁部突起/ スス	ススコグ	19	287	
a212	深鉢	中期	A77 号竪穴建物 堆積土下位	口～底部	[15.7]	(7.8)	324.7	RL/ スス	ススコグ	19	287	
a213	深鉢	大 8b 新	A77 号竪穴建物 堆積土	胴～底部	[8.3]	-	208.9	LR→隆沈線/ スス	スス	19	287	
a214	深鉢	大 7b	A78 号竪穴建物 P03 堆積土	口縁部	-	-	22.8	LRP→原体押圧/ スス	スス	19	287	
a215	深鉢	大 8b～9	A78 号竪穴建物 堆積土下位	口～胴部	[13.2]	-	218.0	RL/ スス	スス	19	287	
a216	深鉢	中期	A78 号竪穴建物 堆積土下位	口～胴部	-	-	68.2	細沈線・桶状突起/ 細沈線・桶状工具の束を縦方向に垂下/ スス	スス	19	287	
a217	深鉢	大 7b	A78 号竪穴建物 床面直上～牀	口～胴部	-	-	198.8	LR→原体押圧・口縁部突起/ スス	スス	20	287	
a218	深鉢	中期	A78 号竪穴建物 重後部分 堆積土	胴～底部	[10.8]	-	306.2	L・LR/ スス	スス	20	287	
a219	深鉢	大 5?	A78・79・80 号竪穴建物 重後部分 堆積土	口縁部	-	-	74.9	結束し→押圧/ スス	スス	20	287	
a220	深鉢	大 8b	A78・79・80 号竪穴建物 重後部分 堆積土	口縁部	[5.4]	4.2	51.2	LR→隆沈線/ スス	波状口縁	20	287	
a221	深鉢	大 8b	A78・79・80 号竪穴建物 重後部分 堆積土	胴～底部	-	-	60.1	RL→隆沈線/ スス	ススコグ	20	287	
a222	深鉢	大 7b	A79 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	7.37	RL・LR→原体押圧/ スス	ススコグ	20	287	
a223	深鉢	大 7a	A79 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	169.9	隆帯→沈線→半截竹管刺突/ スス	凹面上層 a 式の可能性も有	20	288	
a224	深鉢	不明	A80 号竪穴建物 堆積土	底部	[3.5]	5.8	62.4	ナデ/ スス	波状口縁	20	288	
a225	深鉢	大 8b～9	A80 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	36.8	LR→原体押圧/ スス	波状口縁	20	288	
a226	深鉢	大 8b～9	A80 号竪穴建物 炉内壁土	口縁部	18.0	6.8	374.9	単軸線系 1 類 R→沈線/ スス	2 単位波状口縁	20	288	
a227	深鉢	大 9 古	A81 号竪穴建物 P08 堆積土	胴部	-	-	35.5	RLR→隆沈線/ スス	ススコグ	20	288	
a228	深鉢	大 9 新	A82 号竪穴建物 炉内壁土	胴部	[17.4]	-	916.8	LR→隆沈線・磨消→刺突/ スス	底部木葉痕	20	288	
a229	深鉢	大 8b 古	A82 号竪穴建物 東区 堆積土	口縁部	-	-	248.5	RL→隆沈線・磨消→刺突/ スス	山形波状口縁・貼付文剥落・コグ	20	288	
a230	浅鉢?	大 9 新	A83 号竪穴建物 東区 堆積土	口縁部	-	-	67.6	RL→沈線→磨消?/ スス	ススコグ	20	288	
a231	深鉢	大 10 古	A83 号竪穴建物 床面直上 取り上げ No. 1	胴～底部	[4.9]	8.8	158.8	RL→磨消/ スス	底部木葉痕	21	288	
a232	深鉢	不明	A84 号竪穴建物 東区 堆積土	口縁部	-	-	28.8	細沈線・磨消により不明/ スス	山形波状口縁・貼付文剥落・コグ	21	288	
a233	浅鉢	大 7a	A84 号竪穴建物 東区 堆積土	口縁部	-	-	40.7	貼付文→沈線/ スス	山形波状口縁・貼付文剥落・コグ	21	288	
a234	深鉢	大 8b	A84 号竪穴建物 東区 堆積土	口縁部	-	-	246.4	桶状(中空)突起・隆帯→凹形刺突/ スス	ススコグ	21	288	
a235	深鉢	大 8b～9	A84 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	603.3	LR(0段)→口縁部隆帯/ スス	ススコグ	21	288	
a236	深鉢	大 8a	A84 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	79.5	RL→隆沈線/ スス	ススコグ	21	288	
a237	浅鉢	大 8a	A84 号竪穴建物 西区 床面直上	口縁部	-	-	222.6	LR→隆帯/ スス	ススコグ	21	288	
a238	深鉢	大 8a	A85 号竪穴建物 東区 堆積土	口縁部	-	-	631.2	LR→隆沈線/ スス	波状口縁・穿孔	21	288	
a239	深鉢	大 9 古	A85 号竪穴建物 東区 堆積土	口縁部	-	-	327.3	器面剥落により施文不明/ スス	ススコグ	21	288	
a240	深鉢	不明	A85 号竪穴建物 東区 堆積土	胴部	-	-	201.2	LR→隆沈線・隆帯→凹形刺突/ スス	ススコグ	21	289	
a241	深鉢	大 8b 新	A85 号竪穴建物 西区 堆積土	口縁部	-	-	76.4	RL→隆帯→原体押圧/ スス	波状口縁(中央部凹ませたのちキザミ)	21	289	
a242	深鉢	大 7b	A85 号竪穴建物 西区 堆積土	口縁部	-	-	343.0	LR→隆沈線・S 字状中空突起→押し引き沈線/ スス	ススコグ	21	289	
a243	深鉢	大 8a 新	A85 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	145.6	RLR→隆沈線→凹形刺突/ スス	ススコグ	22	289	
a244	深鉢	大 9 古	A90 号竪穴建物 西・東区 堆積土	口縁部	-	-	90.8	RL→隆帯/ スス	スス	22	289	
a245	深鉢	大 8b	A86 号竪穴建物 西区 堆積土	口縁部	-	-	93.2	沈線→隆帯→半截竹管刺突/ スス	波状口縁	22	289	
a246	深鉢	大 7b	A86 号竪穴建物 西区 堆積土	口縁部	-	-	84.3	RL→隆沈線/ スス	スス	22	289	
a247	深鉢	大 8b 新	A86 号竪穴建物 西区 堆積土	胴部	-	-	38.9	LR→隆帯→沈線/ スス	スス	22	289	
a248	深鉢	大 8b 新	A86 号竪穴建物 中央部 堆積土	口縁部	-	-	0.55	スス	スス	22	289	

第 10 表 縄文土器観察表 (6)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a249	深鉢	大8b	A86号壱穴建物 西区 堆積土	胴部	-	-	83.9	LR→隆沈線/				
a250	深鉢	大8b~9	A86号壱穴建物 東区 堆積土	底部	-	-	47.0	LR→沈線/	底部ナデ、スス	22	289	
a251	深鉢	大8a古	A87・88・89号壱穴建物 西区 堆積土	口~胴部	-	-	317.2	LR(0段)→隆帯・沈線/	波状口縁	22	289	
a252	深鉢	大8b~9	A87・88・89号壱穴建物 東区 堆積土	口縁部	-	-	90.8	LR→隆帯・沈線/		22	289	
a253a	深鉢	大8b古	A87・88・89号壱穴建物 西区 堆積土	口~胴部	[21.8]	-	887.7	RL→隆沈線/	波状口縁、473bと同一個体	22	289	
a253b	深鉢	大8b古	A87・88・89号壱穴建物 西区 堆積土	口縁部	-	-	327.8	RL→隆沈線/	波状口縁、473aの口縁部	22	289	
a254	深鉢	大6	A90号壱穴建物 西区 焼土下堆積土	胴部	-	-	43.1	沈線(平・山)/		22	289	
a255	深鉢	大8b~9	A91号壱穴建物 西区 堆積土	底部	-	-	33.3	LR→隆沈線/	底部木炭痕	22	289	
a256	深鉢	大7b	A91号壱穴建物 西区 堆積土	口縁部	-	-	21.9	結束羽状縄文?→隆帯→原体押圧/	スス	22	289	
a257	深鉢	中期	A92号壱穴建物 取り上げNo.1	胴~底部	-	-	44.4	LR/	底部網代痕	22	289	
a258	深鉢	大6	A94号壱穴建物 P03 堆積土	胴部	-	-	41.8	単軸結状体1A 新R→隆帯・沈線→キザミ/		22	289	
a259	深鉢	中期	A95号壱穴建物 東区 堆積土	胴部	-	-	0.75	305.5 L/		22	289	
a260	深鉢	大8b	A95号壱穴建物 東区 堆積土	口縁部	-	-	19.7	隆沈線→橋状突起/		23	289	
a261	深鉢	大8b	A97号壱穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	348.9	L孔R?/		23	290	
a262	深鉢	大7a	A97号壱穴建物 堆積土	胴部	-	-	164.9	LR→押し引き・隆帯→キザミ/		23	290	
a263	深鉢	大7a	A97号壱穴建物 炉内堆積土	胴部	-	-	54.4	隆帯/ミガキ		23	290	
a264	深鉢	大8b新	A99号壱穴建物 P08 堆積土、西区 堆積土	口~胴部	-	-	526.2	RL又はRLR→隆沈線→削突/	スス	23	290	
a265	深鉢	大8b新	A99号壱穴建物 溝5 堆積土、ベルト 堆積土	口~胴部	-	-	193.4	LR→隆沈線・穿孔/	波状口縁	23	290	
a266	深鉢	大8a	A99号壱穴建物 西区 堆積土	口~胴部	-	-	666.7	RL/	焼成後穿孔	23	290	
a267	深鉢	大9古	A99号壱穴建物 P02 堆積土	口縁部	-	-	23.0	隆帯/		23	290	
a268	深鉢	大9古	A99号壱穴建物 堆積土	口縁部	-	-	57.0	RL→隆沈線/	スス	23	290	
a269	深鉢	大9新	A100号壱穴建物 西区 堆積土	胴部	-	-	238.4	RL(RLR)?→隆沈線/		23	290	
a270	深鉢	大9新	A100号壱穴建物 P01 堆積土	口~底部	30.5 (20.6)	9.0	1,497.7	LR→沈線・磨消/	スス	24	290	
a271	深鉢	大9新	A102号壱穴建物 堆積土	胴部	-	-	51.5	RL→沈線・磨消/	スス	23	290	
a272	深鉢	不明	A104号壱穴建物 P05 堆積土	胴部	-	-	0.7	36.5 RL(0段)→隆沈線/		24	290	
a273	深鉢	大10古	A105号壱穴建物 南西区 堆積土	底部	[2.5]	9.0	106.8	ナデ/ナデ	底部木炭痕	24	290	
a274	深鉢	大10古	A105号壱穴建物 北ベルト 2区	口縁部	-	-	8.2	LR→沈線・磨消/	スス	24	290	
a275	深鉢	大10古	A107号壱穴建物 床面直上・堆積土下位	口~胴部	[17.2]	-	626.6	RLR→隆沈線→削突/	波状口縁、スス	24	290	
a276	深鉢	中期	A107号壱穴建物 床面直上・取り上げNo.1	口~胴部	16.3	-	830.0	RL→沈線・磨消/	4単位波状口縁、スス	24	291	
a277	深鉢	中期	A107号壱穴建物 床面直上・取り上げNo.2	口~底部	11.9 (10.2)	5.3	211.9	RL/	外面磨耗、ススコケ	24	291	
a278	深鉢	大9新	A108号壱穴建物 溝北トレン子北側	口縁部	-	-	78.8	RLR→沈線・磨消/		24	290	
a279	深鉢	大8b新	A108号壱穴建物 南西区 堆積土	口縁部	-	-	56.4	RL?→隆沈線/	波状口縁、スス、補修孔1個	24	291	
a280	深鉢	前期?	A109号壱穴建物 畑付近 床面直上~直下	口~胴部	[17.6]	20.6	1,128.5	付加条→貼付/	ススコケ	24	291	
a281	深鉢	大7c	A109号壱穴建物 床面直上・5層・堆積土	口~胴部	[11.3]	(15.6)	281.9	結節LR→隆帯→半葎竹管による削突、原体押圧/	スス	25	291	
a282	深鉢	大7b	A109号壱穴建物 5層・堆積土	口~胴部	[19.1]	(15.8)	603.6	LR→貼付・原体押圧、口縁部突起1個/	スス	25	291	
a283	深鉢	中期	A109号壱穴建物 堆積土	口~胴部	[10.7]	(15.8)	146.0	LR/	小波状口縁	25	291	
a284	浅鉢	大7a	A109号壱穴建物 5層	口~底部	14.6	27.5	917.8	ナデ/ナデ	底部網代痕→ナデ、コケ	25	291	
a285	深鉢	大7a	A109号壱穴建物 5層・堆積土	口~胴部	[14.8]	(25.4)	374.5	RL(0段)→原体押圧、口縁部突起4個/	補修孔1個	25	291	
a286	深鉢	大6	A109号壱穴建物 5層	口~胴部	[23.2]	23.8	1,222.2	結節LR→貼付→沈線 口縁部突起3個/		25	291	
a287	深鉢	大7a	A109号壱穴建物 堆積土	口~胴部	[13.2]	21.0	647.9	結束LR→隆帯→原体押圧/		25	292	
a288	深鉢	大7a	A109号壱穴建物 P02 堆積土	口~胴部	[8.7]	(16.8)	182.8	結節? RL→貼付→原体押圧、口縁部突起/		25	291	
a289	深鉢	大7a	A109号壱穴建物 堆積土	口~胴部	[15.1]	(10.0)	183.6	結節 LR/		25	292	
a290	深鉢	大7b	A109号壱穴建物 堆積土	口~胴部	[33.8]	33.0	2,870.5	RL→隆帯→沈線/	波状口縁、コケ	26	292	
a291	深鉢	大6	A109号壱穴建物 堆積土	口~胴部	[9.2]	(13.4)	104.0	結節LR→貼付→沈線・半葎竹管による押し引き/		26	292	
a292	深鉢	大7b	A109号壱穴建物 堆積土	口縁部	-	-	173.9	RL(開いた縄)→隆帯→半葎竹管による削突/	波状口縁	26	292	
a293	深鉢	大7a	A109号壱穴建物 堆積土	口縁部	-	-	111.5	縄文?→隆沈線、橋状突起/	波状口縁	26	292	
a294	深鉢	大7a	A109号壱穴建物 堆積土	口縁部	-	-	71.0	LR→隆帯→原体押圧/		26	292	
a295	深鉢	大6~7a	A109号壱穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.45	71.0 LR→隆帯→原体押圧、口縁部突起/		26	292	
a296	深鉢	大6	A109号壱穴建物 5層・堆積土	口縁部	-	-	39.6	結束羽状縄文→貼付→沈線	スス	26	292	
a297	球脚深鉢	大6	A109号壱穴建物 堆積土	口縁部	-	-	135.1	LR→貼付→沈線		26	292	
a298	深鉢	大7a	A109号壱穴建物 堆積土	口縁部	-	-	81.8	沈線/		26	292	
a299	深鉢	大7a	A109号壱穴建物 堆積土	口縁部	-	-	135.4	LR→隆帯→沈線→八角形削突/		26	292	
a300	深鉢	大7a	A109号壱穴建物 堆積土	口縁部	-	-	50.6	結節 RL/		26	292	
a300	深鉢	大7a	A109号壱穴建物 堆積土	口縁部	-	-	75.3	LR?→隆帯→沈線→削突/	波状口縁	26	292	

第 10 表 縄文土器観察表 (7)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a301	深鉢	大7b	A109号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	204.0	RL→隆帯/	波状口縁	26	292	
a302	深鉢	大4	A109号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	0.8	胴部不明→貼付(椅子)/		26	292	
a303	深鉢	大5	A109号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	28.7	車輪跡5類→隆帯→竹管刺突/	波状口縁	26	292	
a304	深鉢	大7a	A109号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.6	隆帯→原体押圧/		26	292	
a305	深鉢	大6	A109号竪穴建物 5層	胴部	-	-	33.4	L?→隆沈線→細沈線/		26	292	
a306	深鉢	大6	A109号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.9	付加条?→細沈線/		26	292	
a307	浅鉢	大7b	A109号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.85	RL→原体押圧/	外面摩耗	26	292	
a308	深鉢	大8b新	A109号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	68.8	RL→原体押圧/	外面摩耗	26	292	
a309	浅鉢	大7b	A109号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	263.3	車輪跡条体1A類L→隆沈線/	波状口縁	26	292	
a310	深鉢	大6	A109号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	1.3	ナデ/ナデ	ススコゲ	27	293	
a311	深鉢	大6	A109号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	1.1	押し引き/		27	292	
a312	深鉢	大7b	A109号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	97.2	RL→原体押圧/		27	293	
a313	深鉢	大7a	A109号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.6	RL→沈線・口縁部突起/	スス	27	293	
a314	深鉢	前期?	A109号竪穴建物 床面直上	胴部	-	-	155.7	多輪跡条体/	スス	27	293	
a315	深鉢	大6	A109号竪穴建物 床面直上	口~胴部	-	-	129.2	結束羽状→隆帯→沈線・爪形刺突/	波状口縁・コゲ	27	293	
a316	深鉢	大7b	A109号竪穴建物 炉付近	口縁部	-	-	635.4	貼付→沈線/		27	293	
a317	深鉢	大7a?	A109号竪穴建物 炉付近	口縁部	-	-	0.85	貼付→沈線/		27	293	
a318	深鉢	大7b	A109号竪穴建物 炉付近	口縁部	-	-	0.6	LR(未測結節?)/	波状口縁?	27	293	
a319	深鉢	大7b	A109号竪穴建物 炉付近	口~胴部	-	-	114.5	RL→貼付→沈線/	波状口縁	27	293	
a320	深鉢	大7b	A109号竪穴建物 P02 堆積土・堆積土	口~胴部	-	-	413.3	LR→隆帯→原体押圧/	ススコゲ	27	293	
a321	深鉢	大7b	A110号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	786.2	結節RL→隆帯・貼付/		27	293	
a322	深鉢	大6	A110号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	20.9	隆帯→原体押圧/		27	293	
a323	深鉢	大7b	A110号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	1.05	隆帯→沈線/	波状口縁・スス	28	293	
a324	深鉢	大8b	A110号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	31.5	LR→隆帯・沈線→原体押圧/		28	293	
a325	深鉢	中期	A110号竪穴建物 堆積土下位	口縁部	-	-	0.7	橋状突起/	焼成時に変形・剥落多い、灰色	28	293	
a326	深鉢	大8b	A110号竪穴建物 炉付近堆積土	口縁部	-	-	42.2	LR/	コゲ	28	293	
a327	深鉢	中期	A111号竪穴建物 炉付近堆積土	胴部	-	-	1.1	LR→隆沈線/	コゲ	28	293	
a328	深鉢	大8a	A111号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	95.1	LR→隆沈線/	スス	28	293	
a329	深鉢	大8a	A111号竪穴建物 堆積土	胴~底部	-	-	111.5	RL→隆帯/	スス	28	293	
a330	深鉢	大8a	A111号竪穴建物 堆積土	胴部	[6.8]	7.8	224.0	LR/	ススコゲ	28	293	
a331	深鉢	大8a	A111号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	176.6	RL→沈線/		28	294	
a332	深鉢	大7b	A111号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	107.0	LR→隆沈線/	波状口縁・ススコゲ	28	294	
a333	深鉢	大7b	A111号竪穴建物 溝1 堆積土	口縁部	-	-	0.65	LR→沈線/		28	294	
a334	深鉢	大8b	A112号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	76.5	LR→沈線/		28	294	
a335	深鉢	大4	A112号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	40.0	RLR→隆帯→沈線/	波状口縁・ススコゲ	28	294	
a336	深鉢	大8a	A112号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	27.1	隆帯→原体押圧→刺突/	円筒土器?	28	294	
a337	深鉢	大8b新	A112号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	284.0	RL→沈線/	波状口縁・スス	28	294	
a338	深鉢	大8a	A112号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	57.1	LR?→貼付(椅子・皿)/		28	294	
a339	深鉢	前期	A112号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	46.8	RL→隆沈線/	外面摩耗	28	294	
a340	深鉢	大9古	A113-114号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	115.1	RL→沈線・刺突/	波状口縁・コゲ	28	294	
a341	重	大9新	A113号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	114.6	RL(0段)→隆帯/		28	294	
a342	深鉢	大8b新	A113号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[9.0]	7.3	37.2	車輪跡条体1A類/	コゲ、円筒下層式の可能性も有	29	294	
a343	深鉢	大7b	A113号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[6.5]	-	599.9	RLR→隆沈線→刺突/	スス	29	294	
a344	深鉢	大8b	A113号竪穴建物 堆積土	胴~底部	-	-	138.5	LR→隆帯→沈線・磨消/	底部磨代痕→ナデ、コゲ	29	294	
a345	深鉢	大9新	A113号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	187.7	LR→隆沈線/	波状口縁	29	294	
a346	深鉢	大8b新	A113号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	76.6	RL→沈線・口縁部隆帯→刺突/		29	294	
a347	深鉢	大8b新	A113号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.9	334.8	RL/		29	294
a348	深鉢	中期	A114号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[16.1]	22.0	908.3	RLR(0段)→沈線・磨消/	ススコゲ	29	295	
a349	深鉢	大8b新	A114号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[10.2]	10.7	599.5	RLR→隆沈線/	4車位波状口縁・ススコゲ	30	295	
a350	深鉢	大8b新	A114号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[8.2]	-	1410.2	車輪跡条体1A類R/	底部木葉痕・ススコゲ	30	295	
a351	深鉢	大8b新	A114号竪穴建物 堆積土	口~底部	46.0	(31.8)	1.989.0	橋状突起6箇所/	赤彩	30	295	
a352	深鉢	大8b新	A114号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[33.0]	30.6	1.381.9	RLR→隆沈線/	スス	30	295	
a353	深鉢	大6~7a	A114号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.8	LR(0段)→隆沈線/	4車位波状口縁・スス	30	295	
a353	深鉢	大6~7a	A114号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.8	貼付→押し引き/		30	295	

第10表 縄文土器観察表(8)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.		
					器高	口径	底径							
a354	深鉢	大8b新	A116号竪穴建物 東区 堆積土上位	口~胴部	[174]	(39.6)	-	0.95	1,211.8	RL→隆沈線→刺突/		296	ススコグ	
a355	深鉢	大8b~9	A116号竪穴建物 1~2層 堆積土	胴~底部	[73]	-	(22.9)	0.8	508.6	ナデ→隆帯/		30	295	被熱により外面剥落有
a356	深鉢	大8a	A116号竪穴建物 東区 堆積土	口~胴部	[157]	(18.6)	-	0.7	347.3	LR、口縁部隆沈線/		31	296	波状口縁
a357	深鉢	中期	A116号竪穴建物 東区 堆積土	胴部	[47]	-	6.6	1.0	138.1	ナデ/		30	295	
a358	戒胴深鉢	大8b	A116号竪穴建物 西・東・南東区 堆積土	胴部	[143]	-	-	0.85	1,731.9	LR→隆帯→刺突/		31	296	
a359	深鉢	大8a	A116号竪穴建物 堆積土	口縁部	[116]	(28.6)	-	0.75	585.4	LR→貼付・隆沈線/		31	296	スス
a360	深鉢	大8b新	A116号竪穴建物 西区 堆積土	胴~底部	[369]	-	14.5	0.9	2,016.0	RLR→隆沈線/		32	296	
a361	深鉢	大8a	A116号竪穴建物 西区 堆積土上位	口~胴部	[224]	(20.4)	-	0.75	845.0	LR→隆沈線、口縁部隆帯→爪形刺突・キザミ/		32	296	コグ
a362	深鉢	大8b新	A116号竪穴建物 堆積土	口~底部	[123]	-	5.0	0.4	406.0	隆沈線、橋状突起/		32	296	赤彩若干付着
a363	深鉢	大9古	A116号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[188]	14.5	-	0.4	341.7	LR→隆沈線/		31	296	2単位波状口縁、ススコグ
a364	深鉢	大8b新	A116号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[113]	-	9.5	0.6	402.9	RL→隆沈線/		31	296	コグ
a365	深鉢	大9古	A116号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[141]	(13.2)	-	0.45	1,897.7	RL→隆沈線/		31	297	波状口縁
a366	浅鉢	中期	A116号竪穴建物 堆積土	口~底部	10.3	18.9	6.1	0.75	586.0	LR/		32	297	
a367	深鉢	大8b新	A116号竪穴建物 東区 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.8	487.7	RLR→隆沈線/		32	297	波状口縁
a368	深鉢	大7b	A116号竪穴建物 東区 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.75	350.2	RL(0段)→隆沈線/		32	297	波状口縁、スス
a369	深鉢	大8b新	A116号竪穴建物 東区 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.7	530.0	RL→隆沈線/		33	297	スス
a370	深鉢	大8b	A116号竪穴建物 東区 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.9	387.2	車輪部全体1割R/		33	297	コグ
a371	深鉢	大8a	A116号竪穴建物 東区 堆積土	口縁部	-	-	-	0.95	216.4	LR→隆沈線/		32	297	波状口縁
a372	深鉢	大7a	A116号竪穴建物 東区 堆積土上位	口縁部	-	-	-	1.0	70.2	RL(大さ異なる原体二種類)→隆沈線→原体押圧/		32	297	
a373	深鉢	大6~7a	A116号竪穴建物 東区 堆積土	口縁部	-	-	-	0.8	36.4	RL→貼付→隆沈線/		32	297	
a374	深鉢	大8a	A116号竪穴建物 東区 堆積土上位	口縁部	-	-	-	0.75	65.5	RL?→半段竹管による隆沈線/		33	297	
a375	深鉢	大8a	A116号竪穴建物 東区 堆積土上位	口縁部	-	-	-	0.75	69.7	刺突、口縁部キザミ/		33	297	
a376	深鉢	大8a	A116号竪穴建物 東区 堆積土	口縁部	-	-	-	0.8	69.1	RL→隆沈線、橋状突起/		33	297	
a377	深鉢	大5	A116号竪穴建物 東区 堆積土	口縁部	-	-	-	0.85	31.7	RL→隆沈線、口縁部隆沈線・キザミ/		33	297	
a378	浅鉢	大8b新	A116号竪穴建物 西区 堆積土	口~胴部	[157]	(33.0)	-	0.9	1,036.4	L→隆沈線、口縁部隆沈線/		33	298	ススコグ
a379	深鉢	大8b	A116号竪穴建物 西・東・南東区 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.85	489.6	LR→隆帯/		34	297	波状口縁、橋状突起の可能性も有
a380	深鉢	大8a新	A116号竪穴建物 西区 堆積土	胴部	-	-	-	0.85	1,842.7	短沈線→中空突起→隆沈線/		35	298	
a381	深鉢	大8b新	A116号竪穴建物 西区 堆積土	口~底部	[31.0]	(25.0)	-	0.7	708.8	隆沈線・隆帯、口縁部突起/		34	298	スス
a382	深鉢	大8a	A116号竪穴建物 西区 堆積土	口縁部	-	-	-	0.9	253.5	RL→隆帯/		34	299	波状口縁
a383	深鉢	大8a	A116号竪穴建物 東西バルト・堆積土上位	口~胴部	-	-	-	1.1	996.2	LR→隆帯/		34	299	
a384	深鉢	大8b~9	A116号竪穴建物 西区 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.9	828.5	RLR→隆沈線/		34	299	
a385	深鉢	大8b	A116号竪穴建物 西区 堆積土	口~胴部	[10.3]	(18.2)	-	0.55	151.4	LR(0段)→隆沈線/		35	299	被熱により内面剥落
a386	浅鉢	大8b新	A116号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.9	206.8	RLR→隆沈線/		34	299	ススコグ
a388a	深鉢	大8b新	A116号竪穴建物 東区 堆積土上位	口~胴部	[39.2]	(27.8)	-	0.85	1,607.0	RL→隆沈線/		36	300	6単位波状口縁、ススコグ
a388b	深鉢	大8b新	A116号竪穴建物 東区 堆積土上位	口~胴部	-	-	-	0.9	974.1	RL→隆沈線/		36	300	波状口縁
a390a	深鉢	大8b	A116号竪穴建物 東区 堆積土上位	口~胴部	-	-	-	0.6	503.4	LR→隆沈線/ミガキに近いナデ		36	299	
a390b	深鉢	大8b新	A116号竪穴建物 東区 堆積土	胴部	[32.0]	-	-	0.8	633.3	ナデ→隆沈線/		36	300	突起付近に赤彩残存
a390c	深鉢	大8b新	A116号竪穴建物 東区 堆積土	口縁部	-	-	-	0.75	78.0	ナデ→隆沈線/		35	299	器高はa・cの合計値
a391	深鉢	大7b	A117号竪穴建物 床面直上	胴部	-	-	-	0.4	21.0	貼付→隆沈線/		35	299	スス
a392	深鉢	大7	A117号竪穴建物 床面直上	口縁部	-	-	-	0.9	87.5	RL→隆沈線/		36	299	波状口縁
a394	深鉢	大8b	A117号竪穴建物 床面直上、取り上げNo.1・2	口~胴部	[40.2]	24.0	-	0.8	2,753.6	結節LR/		36	299	口縁部変形、ススコグ
a395	深鉢	大8b	A117号竪穴建物 F断面3層下位	口~胴部	[25.7]	21.5	-	0.9	2,146.8	LR/		36	301	外面摩耗、ススコグ
a396	深鉢	大10古	A118号竪穴建物 東・中央区 堆積土 (A105号竪穴建物 取り上げNo.1)	口~胴部	-	-	-	0.65	358.2	LR→隆沈線・磨消→凹形刺突/		37	299	波状口縁
a397	浅鉢	大8a	A120号竪穴建物 取り上げNo.1	口~底部	10.2	(15.8)	6.2	0.6	293.2	RL→隆沈線/		37	299	内外面摩耗
a398	深鉢	中期	A120号竪穴建物 取り上げNo.2	胴~底部	[26.2]	-	12.2	0.7	1,601.6	RL/		37	301	底部網代痕→ナデ、コグ
a399	深鉢	大8a	A120号竪穴建物 取り上げNo.2	胴部	[13.7]	-	0.7	273.5	RL→隆沈線/		37	300		
a400	深鉢	大8a	A120号竪穴建物 取り上げNo.3	口~胴部	[26.9]	20.2	-	0.5	1,146.2	LR/		37	301	4単位波状口縁
a401	深鉢	大7a	A121号竪穴建物 P09 堆積土	口縁部	-	-	-	0.6	11.1	細沈線/		37	301	コグ

第 10 表 縄文土器観察表 (9)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a402	深鉢	大 8a	A122 号竪穴建物 南東区 堆積土	口～胴部	[25.0]	(23.6)	0.9	1,699.1	LR→隆帯→沈線	外面摩耗、ススコゲ	37	301
a403	深鉢	不明	A122 号竪穴建物 南東区 堆積土	口～胴部	[14.5]	10.7	0.6	308.1	RL→沈線	2 単位波状口縁、口縁部稍円形	37	301
a404	不明	不明	A122 号竪穴建物 南東区 堆積土	胴部?	[4.4]	-	0.7	74.5	ナデ	胴付深鉢の胴部か、竅孔 2 箇所	37	301
a405	胴付深鉢?	中間?	A122 号竪穴建物 北西区 堆積土	脚部	[4.4]	-	2.8	37.9	LR→隆帯	胴付深鉢の脚部、コゲ	38	301
a406	深鉢	大 7a?	A122 号竪穴建物 北東区 堆積土	口縁部	-	-	0.5	17.4	隆帯→細沈線・削突		38	301
a407	深鉢	大 8b 新	A122 号竪穴建物 1～2 層	口～胴部	[11.4]	15.3	0.6	418.3	LR→沈線	口縁部若干変形、コゲ、外面摩耗	38	301
a408	深鉢	大 8b 新	A122 号竪穴建物 1～2 層	口～底部	14.1	(10.1)	4.8	258.3	RL→沈線	2 単位波状口縁	38	301
a409	深鉢	大 8b	A122 号竪穴建物 1～2 層	口～胴部	[21.6]	23.1	0.7	1,316.3	RL→沈線	3 単位波状口縁、外面摩耗	38	302
a410	深鉢	大 8a	A122 号竪穴建物 2 層	口～胴部	[48.2]	29.8	0.9	3,747.6	RL→沈線	4 単位波状口縁、スス	38	302
a411	深鉢	大 8a 新	A122 号竪穴建物 1～2 層	口～底部	[50.4]	(39.4)	0.85	2,983.4	L又はLR→隆帯	外面摩耗、ススコゲ	38	302
a412	深鉢	大 8b 古	A122 号竪穴建物 1～2 層	口～胴部	[19.0]	16.0	0.55	688.3	RL→隆帯→沈線	コゲ、外面摩耗	38	302
a413	深鉢	大 8b 古	A122 号竪穴建物 1～2 層	口～底部	18.9	(11.8)	5.0	336.2	RL→沈線→削突	2 単位波状口縁、ススコゲ	38	302
a414	深鉢	大 8b 新	A122 号竪穴建物 2 層	口～底部	[20.0]	19.0	0.65	826.7	RL→隆帯	2 単位波状口縁	39	303
a415	浅鉢	大 8a 古	A122 号竪穴建物 1～2 層	口～胴部	[17.6]	16.3	0.6	356.8	LR→隆帯	外面摩耗、コゲ	39	303
a416	深鉢	大 8a 古	A122 号竪穴建物 1～2 層	口～胴部	[15.5]	17.4	0.6	779.5	RL→隆帯	外面摩耗、コゲ	39	303
a417	深鉢	大 8a 古	A122 号竪穴建物 5 層	口～底部	9.4	14.2	5.5	253.0	L、口縁部隆帯	ススコゲ	39	302
a418	浅鉢	大 8b 新	A122 号竪穴建物 1～2 層	口～胴部	-	-	0.8	682.1	RL→隆帯	スス	39	303
a419	深鉢	大 8b 新	A122 号竪穴建物 1～2 層	口～胴部	[27.1]	(30.0)	0.9	1,014.1	RL(0段)、口縁部隆帯	ススコゲ	39	303
a420	深鉢	大 8b	A122 号竪穴建物 北西区 堆積土	口～胴部	-	-	0.85	82.3	RL→隆帯	波状口縁	39	303
a421	深鉢	大 9 古	A123 号竪穴建物 西区 堆積土上位	口～胴部	[10.2]	-	(8.6)	226.8	未確認面 RL	底部削代直→ナデ、スス	40	303
a422	不明	不明	A124 号竪穴建物 和周辺 堆積土	胴～底部	43.6	(32.0)	15.2	5,409.7	LR→隆帯、口縁部突起	内面剥落多い、スス	40	303
a423	深鉢	大 8a 新	A125 号竪穴建物 床面直上	口～胴部	19.3	(14.3)	7.4	628.0	LR→隆帯	2 単位波状口縁、スス	40	304
a424	深鉢	大 8b～9	A125 号竪穴建物 床面直上	口～底部	13.1	10.6	4.5	258.8	RL→沈線	2 単位波状口縁、ススコゲ	39	303
a425	深鉢	大 8b～9	A125 号竪穴建物 床面直上	口～底部	[5.1]	-	7.6	174.4	RL→隆帯	底部削代直?→ナデ	39	303
a427	深鉢	大 8b～9	A125 号竪穴建物 南西区 床面直上	口～底部	16.5	16.6	6.4	663.4	LR	2 単位波状口縁、ススコゲ、削修孔 2 個	40	304
a428	浅鉢	大 8b～9	A125 号竪穴建物 床面直上	口～底部	13.9	10.5	4.7	230.6	LR→沈線→削突	2 単位波状口縁、外面摩耗、ススコゲ	40	304
a429	浅鉢	大 8a	A125 号竪穴建物 床面直上	口～胴部	-	-	1.2	561.5	LR(0段)、口縁部隆帯	短沈線	40	304
a430	深鉢	大 8b?	A125 号竪穴建物 床面直上	口～胴部	-	-	0.9	651.5	LR(0段)	コゲ	41	304
a431	深鉢	大 8b～9	A125 号竪穴建物 床面直上	胴部	-	-	0.7	80.7	LR→隆帯	コゲ	40	304
a432	深鉢	大 5	A125 号竪穴建物 床面直上	口縁部	-	-	0.7	66.5	RL?→隆帯、口縁部貼付 (II)		40	304
a433	深鉢	大 8a	A125 号竪穴建物 床面直上	口縁部	-	-	0.7	58.8	RL→隆帯		40	304
a434	深鉢	大 8b	A125 号竪穴建物 堆積土	口～胴部	-	-	1.1	401.4	LR?	スス	40	304
a435	深鉢	大 7a?	A125 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.9	62.2	LR、口縁部突起	スス	41	304
a436	深鉢	大 7a	A125 号竪穴建物 和内堆積土	口縁部	-	-	0.8	57.7	隆帯・貼付→沈線→削突		41	304
a437a	深鉢	大 8b 新	A125 号竪穴建物 床面直上	口～胴部	-	-	0.7	165.1	RL→隆帯	波状口縁、ススコゲ	41	304
a437b	深鉢	大 8b 新	A125 号竪穴建物 床面直上	胴～底部	[3.5]	-	6.5	71.4	RL→隆帯	ススコゲ	41	304
a438	深鉢	大 8b 新	A126・127 号竪穴建物 堆積土 A148 号竪穴建物 A 断面 8～10 層	口～胴部	[14.4]	(8.0)	0.9	462.3	LR→隆帯		41	304
a439	深鉢	大 8b	A126 号竪穴建物 A 断面 4 層	口～胴部	-	-	1.0	323.1	LR	スス	41	304
a440	深鉢	大 9 古	A148 号竪穴建物 A 断面 4 層	口縁部	-	-	0.9	107.9	LR(0段)→隆帯→沈線		41	304
a441	深鉢	大 6	A126 号竪穴建物 A 断面 1 層	口縁部	-	-	0.9	21.9	沈線→削突		41	304
a442	深鉢	大 8b 新	A126・127 号竪穴建物 堆積土	胴～底部	[14.1]	(6.5)	0.5	349.9	LR→隆帯	内面被熱により剥落有	41	305
a443	深鉢	大 8b	A126・127 号竪穴建物 堆積土	口～胴部	-	-	1.1	232.0	単軸結糸体?→隆帯	ススコゲ	41	305
a444	深鉢	大 8b	A127 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	1.1	522.6	LR→隆帯	波状口縁	42	305
a445	球胴深鉢	大 6	A127 号竪穴建物 堆積土	口～胴部	-	-	0.7	212.2	胴部結部羽状細文→隆帯→沈線→削突	波状口縁	41	305
a446	深鉢	大 8b	A127 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.85	176.9	LR→隆帯	波状口縁、ススコゲ	42	305
a447	深鉢	大 8b	A127 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.9	197.1	LR→沈線、口縁部隆帯	波状口縁、椀林式の可能性も有	42	305
a448	深鉢	大 4	A127 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.8	47.3	ナデ/隆帯(波)	ススコゲ	42	305
a449	深鉢	大 7a	A127 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.8	32.0	細沈線		42	305
a450	深鉢	大 7a	A127 号竪穴建物 堆積土上位	口縁部	-	-	0.5	14.1	細沈線・削突	波状口縁、コゲ	42	305
a451	深鉢	大 7a?	A128 号竪穴建物 床面直上	口～胴部	-	-	0.7	241.5	LR→隆帯	ススコゲ	42	305

第 10 表 縄文土器観察表 (10)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.	
					器高	口径	底径						
a452	深鉢	中期	A129 号竪穴建物 堆積土	胴~底部	-	10.5	0.6	848.8	LR/	スココケ	42	305	
a453	深鉢	大 8b	A129 号竪穴建物 炬付近堆積土	口~胴部	[14.8]	(11.4)	-	0.4	167.6	RL→沈線/	2 単位波状口縁	42	305
a454	深鉢	大 8b~9	A129 号竪穴建物 炬付近堆積土	胴~底部	[6.9]	-	0.4	66.9	LR→沈線/	波状口縁、スココケ	42	305	
a455	深鉢	大 8b	A129 号竪穴建物 炬付近堆積土	口縁部	-	-	0.65	154.3	RL→隆沈線/	スココケ	42	305	
a456	深鉢	大 5	A129 号竪穴建物 炬付近堆積土	胴部	-	-	0.95	81.3	LR→貼付→凹形刺突/	スココケ	42	305	
a457	深鉢	大 8a	A130 号竪穴建物 堆積土 II B 4・5 a・b 遺物包含層 2 a・b 層	口~胴部	-	-	0.7	147.7	LR→貼付・沈線/	波状口縁、椀林式の可能性も有	42	305	
a458	深鉢	大 8a	A130 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.8	144.7	RL→隆沈線→短沈線/	摩耗激しく原形不明瞭	42	305	
a459	深鉢	前期	A130 号竪穴建物 堆積土下位	口縁部	-	-	0.9	108.0	未確認筋 LR?/	スココケ	42	305	
a460	深鉢	大 6	A130 号竪穴建物 堆積土下位	胴部	-	-	0.8	61.4	沈線 (平・山) /	スココケ	42	305	
a461	深鉢	不明	A131 号竪穴建物 炬付近堆積土	胴~底部	[6.6]	-	0.6	180.3	LR/	底部スココケ?	43	305	
a462	深鉢	大 6	A131 号竪穴建物 床面直上、2 層下位	口~胴部	-	-	8.2	0.7	279.0	LR→隆沈線/	口縁部花弁状、スココケ	43	306
a463	深鉢	大 3	A131 号竪穴建物 2 層下位	胴部	-	-	0.75	74.7	LR→隆沈線→刺突/	スココケ	43	305	
a464	深鉢	大 7a?	A131 号竪穴建物 2 層下位	胴部	-	-	0.8	188	LR→沈線→刺突/	スココケ	43	305	
a465	深鉢	中期	A132 号竪穴建物 A 断面 2 層	口~底部	63.7	(37.0)	13.0	1.0	5928.7	RL/	スココケ、粘土付着	43	306
a466	深鉢	中期	A132 号竪穴建物 A 断面 2 層	口~胴部	[27.5]	29.2	-	0.9	2107.6	RL→隆沈線・磨消、橋状突起/	口縁部至み最大 31.0cm、スココケ	43	306
a467	浅鉢	大 9 新	A132 号竪穴建物 A 断面 2 層	口~底部	11.7	-	5.6	0.6	520.3	LR→隆沈線・磨消、橋状突起/	外面剥落多い	43	306
a468	深鉢	大 9 新	A132 号竪穴建物 A 断面 2 層	口~胴部	[11.4]	(11.6)	-	0.7	296.8	RL→沈線・磨消/	スココケ	43	306
a469	深鉢	大 8b~9	A132 号竪穴建物 A 断面 3 層	口~底部	24.0	19.6	7.2	0.6	1158.1	磨消工具による上下方向の不規則な細沈線/	スココケ	44	306
a470	深鉢	大 9 新	A132 号竪穴建物 A 断面 2 層	胴~底部	[4.7]	-	4.9	0.4	115.0	RL→沈線・磨消/	外面赤影	43	305
a471	深鉢	大 9 古	A132 号竪穴建物 堆積土	口~底部	[16.8]	(14.2)	0.5	198.6	LR→隆沈線/	2 単位波状口縁、スココケ	43	307	
a472	深鉢	大 8b 新	A132 号竪穴建物 堆積土下位	口~胴部	-	-	0.95	384.2	RL→隆沈線/	スココケ	43	307	
a473	深鉢	大 9 新	A132 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.6	242.2	LR→沈線・磨消/	スココケ	44	307	
a474	深鉢	大 8b	A132 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.7	71.0	LR→隆沈線・橋状突起/	波状口縁	44	306	
a475	深鉢	大 6	A134 号竪穴建物 東区 堆積土 (217 号土坑 堆積土か)	口縁部	-	-	0.8	33.0	沈線/	スココケ	44	306	
a476	深鉢	大 8b	A150 号竪穴建物 19 層	口~胴部	[22.6]	(19.6)	-	0.7	616.3	RL→隆沈線/	2 単位波状口縁、外面磨耗、コケ	44	307
a477	深鉢	大 8b 古	A135 号竪穴建物 13 層	口~底部	25.1	(16.3)	8.0	0.5	578.2	RL→沈線/	2 層→対の 2 単位波状口縁、スココケ	44	307
a478	深鉢	中期	A135 号竪穴建物 13 層	胴~底部	[17.9]	(10.6)	0.8	651.6	LR/	スココケ	44	307	
a479	深鉢	大 8b	A135 号竪穴建物 13 層	口~胴部	[20.2]	(22.6)	-	0.9	865.5	LR、口縁部隆帯/	スココケ	45	307
a480	胴付深鉢	大 8b	A135 号竪穴建物 堆積土上位	胴部	[7.4]	-	0.45	82.8	RL→隆沈線/	スココケ	44	306	
a481	胴付深鉢?	不明	A135 号竪穴建物 堆積土上位	胴~底部	[5.3]	-	0.4	33.3	LR/	コケ	44	307	
a482	深鉢	大 8b 新	A135 号竪穴建物 堆積土上位	口~胴部	-	-	0.95	1,354.9	RL→隆沈線/	スココケ	45	308	
a483	深鉢	大 8b	A135 号竪穴建物 堆積土上位	口~胴部	-	-	0.7	679.6	LR→沈線/	波状口縁	45	308	
a484	深鉢	大 8a 新	A135 号竪穴建物 堆積土上位	口縁部	-	-	0.75	231.3	LR→橋状突起→隆帯・沈線/隆帯→沈線	スココケ	45	307	
a485	深鉢	大 8a	A135 号竪穴建物 堆積土上位	口縁部	-	-	0.7	137.6	LR→隆沈線/	外面磨耗	45	307	
a486	深鉢	大 8b	A135 号竪穴建物 堆積土上位	口縁部	-	-	0.9	224.9	RLR→隆沈線/	波状口縁?	45	307	
a487	深鉢	大 8a	A135 号竪穴建物 堆積土上位	口~胴部	-	-	0.6	77.2	LR→隆沈線/	スココケ	45	307	
a488	深鉢	大 8b	A135 号竪穴建物 堆積土上位	口~胴部	[25.2]	(22.2)	-	0.85	633.0	LR→沈線/	波状口縁、スココケ	46	308
a489	深鉢	前期	A135 号竪穴建物 堆積土上位	胴部	-	-	1.0	97.8	車輪跡 4 類? /	原形不明	46	307	
a490	深鉢	大 8b	A135 号竪穴建物 炬付近堆積土	口~胴部	-	-	0.6	105.9	LR→沈線→刺突/	波状口縁	46	308	
a491	深鉢	大 8a	A135 号竪穴建物 炬付近堆積土	口縁部	-	-	0.6	47.4	RL→隆沈線/	波状口縁、スココケ	46	308	
a492	深鉢	大 8b 古	A135 号竪穴建物 炬付近堆積土	口~胴部	-	-	0.85	382.6	LR→隆沈線/	波状口縁、スココケ	46	308	
a493	深鉢	大 8	A135 号竪穴建物 炬付近堆積土	口縁部	-	-	0.6	59.1	RL/	スココケ	46	308	
a494	深鉢	大 4	A135 号竪穴建物 炬付近堆積土	胴部	-	-	0.8	24.2	原形不明→隆帯/	スココケ	46	308	
a495	深鉢	大 8b 新	A135 号竪穴建物 13 層	胴部	[50.0]	-	-	0.7	1,318.8	ナマ→隆帯、橋状突起/	隆帯剥落部分多い	46	309
a496	深鉢	大 8b~9	A135 号竪穴建物 堆積土上位	口~胴部	[19.8]	18.6	-	0.7	854.3	RL→沈線/	口縁部至み最大 22.8cm、スココケ	46	309
a497	深鉢	大 7b	A136 号竪穴建物 E 断面 4 層	口~胴部	-	-	0.7	137.2	LR→原形押圧、口縁部突起/	スココケ	46	308	
a498	深鉢	大 8	A136 号竪穴建物 E 断面 4 層	口~胴部	[28.6]	21.4	-	0.7	900.2	LR/	4 単位波状口縁、スココケ	47	309
a499	深鉢	不明	A136 号竪穴建物 E 断面 4 層	胴~底部	[10.2]	-	12.4	0.8	986.9	ナマ/	底部スココケ	47	308
a500	深鉢	大 7a	A136 号竪穴建物 E 断面 4 層	胴~底部	[15.7]	-	8.8	0.6	377.2	縦筋 LR/	スココケ、円筒上層式の可能性も有	47	308

第 10 表 縄文土器観察表 (11)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a501	深鉢	大 8b	A136 号竪穴建物 E 断面 4 層	胴~底部	[9.1]	-	123.7	RLR? → 沈線、口縁部隆帯・刺突/	ススコグ	47	309	
a502	深鉢	中期	A136 号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[25.2]	-	10.1	LR/	ススコグ	47	309	
a503	深鉢	大 7b	A136 号竪穴建物 P04・堆積土、E 断面 4 層	口~底部	18.2	(11.6)	6.0	LR → 原形押圧/	ススコグ	47	309	
a504	深鉢	前期	A136 号竪穴建物 E 断面 4 層	口縁部	[2.9]	-	0.75	多軸緒糸体/		47	309	
a505	深鉢	大 8b 古	A136 号竪穴建物 E 断面 4 層	口縁部	-	11.0	-	RL → 隆沈線、口縁部突起/	ス?	47	309	
a506	深鉢	大 6	A136 号竪穴建物 E 断面 4 層	口縁部	-	-	0.75	隆帯 → 沈線・刺突・キザミ/		47	309	
a507	深鉢	大 8b	A137 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[12.5]	13.2	0.5	LR → 沈線/	2 単位波状口縁、ス	47	309	
a508	深鉢	大 8	A137 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[7.9]	-	0.75	RL → 隆沈線/	小波状口縁?、外面磨耗、ス	47	309	
a509	深鉢	大 8	A137 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.55	LR → 貼付 → 櫛方向からの竹管刺突/		47	309	
a510	深鉢	大 5	A137 号竪穴建物 床面直上	口縁部	-	-	0.6	ナデ → 貼付、口縁部上面に凹形貼付/		47	310	
a511	深鉢	大 8b	A137 号竪穴建物 C 断面 1 層	口~胴部	-	-	0.4	LR → 隆沈線/	ス	48	310	
a512	深鉢	大 7b	A137 号竪穴建物 C 断面 1 層	口~胴部	-	-	0.5	LR → 貼付 → 原形押圧/	ス	48	310	
a513	深鉢	大 6 ~ 7a	A137 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.6	沈線・刺突 → 隆帯 → キザミ/	ス	48	310	
a514	深鉢	大 7a	A137 号竪穴建物 堆積土	口縁部	[13.8]	(33.6)	1.0	LR → 隆帯 → 沈線・押し引き/		48	310	
a515	深鉢	大 8b 新	A137 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	1.0	LR → 隆沈線/	波状口縁、ス	48	310	
a516	深鉢	大 7a?	A137 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.8	LR → 沈線/	ス	48	310	
a517	深鉢	大 9 新	A137 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.7	RLR → 沈線・磨消 → 下方からの竹管刺突/	小花式の可能性有	48	310	
a518	深鉢	大 7b?	A137 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	0.55	RL? → 沈線/	小波状口縁、椀杯式の可能性有	48	310	
a519	深鉢	大 5	A137 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.7	RL → 沈線 (11)、口縁部指頭押圧/		48	310	
a520	深鉢	大 6 ~ 7a	A137 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.65	RL → 沈線・貼付 → 刺突/		48	310	
a521	深鉢	大 5	A137 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.8	沈線 (11)、口縁部凹形貼付 → 凹形刺突/		48	310	
a522	深鉢	大 7?	A137 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	0.7	結節 LR → 隆帯/		48	310	
a523	深鉢	大 6 ~ 7a	A137 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	0.85	隆帯 → 凹形刺突・キザミ/	ス	48	310	
a524a	深鉢	大 8b	A137 号竪穴建物 C 断面 1 層	口~胴部	[29.2]	31.8	-	付加糸 LR → 隆帯/	ス	48	310	
a524b	深鉢	大 8	A137 号竪穴建物 C 断面 1 層	胴~底部	[8.8]	-	11.5	付加糸 LR/	コグ	48	310	
a525	深鉢	大 9 古	A137 号竪穴建物 C 断面 1 層	胴~底部	[23.8]	-	13.4	単軸緒糸体 1 類 R → 隆沈線/	コグ	49	311	
a526	深鉢	大 6 ~ 7a	A138 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.9	結節 LR/		49	310	
a527	深鉢	大 7a	A138 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.7	LR → 貼付 (刺突)/		49	310	
a528	深鉢	中期	A139 号竪穴建物 取り上げ No. 1	胴~底部	[17.8]	-	10.5	L/	底部スノコ痕 → ナデ、コグ	49	310	
a529	深鉢	大 8b ~ 9	A139 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.7	LR (0 段) → 沈線/		49	310	
a530	深鉢	大 6	A139 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.95	沈線・刺突、口縁部貼付/		49	310	
a531	深鉢	大 8b	A139 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	0.5	LR → 隆沈線 → 刺突・類沈線/		49	311	
a532	深鉢	大 8b 新	A140 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[23.5]	24.2	-	LR → 沈線 → 刺突/	外面磨耗、ススコグ	49	311	
a533	浅鉢	大 8b 新	A141 号竪穴建物 堆積土上位 A141 号竪穴建物 堆積土上位 II B. 4・5a・b 遺物包含層 2c ~ 3 層	口~底部	234	(34.2)	(11.0)	ナデ、口縁部 LR → 隆沈線/	ススコグ	50	311	
a534	深鉢	大 8b ~ 9	A140 号竪穴建物 西区 床面直上 A141 号竪穴建物 堆積土	口~底部	15.6	13.4	5.8	単軸緒糸体 1 類 R → 沈線/	2 単位波状口縁、コグ	49	311	
a535	深鉢	大 8b 新	A140 号竪穴建物 取り上げ No. 1・3	口~底部	20.5	(17.8)	6.4	RL → 隆沈線 → 刺突/	ススコグ	50	311	
a536	深鉢	大 8b ~ 9	A140 号竪穴建物 取り上げ No. 4	胴~底部	[9.4]	-	8.0	LR → 沈線/	ススコグ	50	311	
a537	深鉢	大 9 古	A140 号竪穴建物 西区 堆積土上位	胴~底部	[9.7]	-	0.7	単軸緒糸体 1 類 R → 沈線/	コグ	50	311	
a538	深鉢	大 8b ~ 9	A140 号竪穴建物 東岸付近堆積土	口縁部	-	-	0.8	単軸緒糸体 1 類 R → 隆沈線/	波状口縁、補修孔 2 個、コグ	50	311	
a539	注口土器	大 8b	A140 号竪穴建物 西区 堆積土中~下位	口縁部	-	-	0.4	LR → 隆沈線/	波状口縁、深鉢形か	50	311	
a540	深鉢	大 6 ~ 7a	A140 号竪穴建物 取り上げ No. 1	口~胴部	-	-	0.85	単軸緒糸体 1A 類 R/	コグ	50	312	
a541	深鉢	大 8b ~ 9	A140 号竪穴建物 取り上げ No. 2	口~胴部	-	-	0.7	LR → 沈線/	波状口縁、ス	51	312	
a542	深鉢	大 8b 新	A140 号竪穴建物 1 ~ 3 層	口~胴部	-	-	0.9	RL → 隆沈線/	小波状口縁、ススコグ	51	312	
a543	深鉢	大 6 ~ 7a	A140 号竪穴建物 床面直上・堆積土上位	口~胴部	-	-	0.65	RL (0 段)?、口縁部キザミ/	外面磨耗とススで支障不明瞭	50	312	
a544	深鉢	大 7b	A140 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	1.0	LR、口縁部貼付 → 原形押圧/		50	312	
a545	深鉢	大 8b ~ 9	A140 号竪穴建物 東区 床面直上・堆積土上位 A141 号竪穴建物 堆積土上位 (A148 号竪穴建物 A 断面 7 層)	口~底部	17.2	(12.8)	6.8	LR → 沈線/	2 単位波状口縁、ススコグ	51	312	

第10表 縄文土器観察表 (12)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)		重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.	
					器高	口径						
a546	深鉢	大8b新	A141 号竪穴建物 4~5層	口~胴部	[185]	(27.8)	0.6	500.8	RL→隆沈線、口縁部中空突起・溝突起→RL・短	51	312	
a547	深鉢	大8b~9	A141 号竪穴建物 4~5層	口~胴部	[201]	(26.8)	1.0	1,584.1	車軸緒系体1類→沈線	51	312	
a548	深鉢	大8b新	A141 号竪穴建物 北東区 4~5層	口~胴部	-	-	1.0	1,280.1	RL→隆沈線	51	313	
a549	深鉢	大6	A141 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	1.0	413.2	LR(0段)→沈線・竹管突起・(貼付) /	52	312	
a550	深鉢	大7b	A141 号竪穴建物 北東区 4~5層	口縁部	-	-	0.6	45.3	結節RL→貼付・原体押圧 /	52	312	
a551	深鉢	大7a?	A141 号竪穴建物 P02 堆積土	口縁部	-	-	0.6	48.8	LR→隆帯→LR、口縁部山形 /	52	313	
a552a	深鉢	大7a	A141 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.5	104.2	LR→沈線・瓜形突起・貼付 /	52	313	
a552b	深鉢	大7a	A141 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	0.5	104.2	LR→沈線・瓜形突起・貼付 /	52	313	
a553	深鉢	大6	A141 号竪穴建物 北東区 4~5層	口縁部	-	-	1.3	53.8	隆帯→沈線・細沈線・押し引き・キザミ /	52	313	
a554	深鉢	大6	A141 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	1.0	98.4	隆帯→沈線・細沈線・押し引き・キザミ /	52	313	
a555	深鉢	大8b~9	A144 号竪穴建物 G断面1層	胴部	-	-	0.8	61.1	RLR→沈線 /	52	313	
a556	浅鉢	大8a	A145 号竪穴建物 堆積土	口縁部	[98]	(40.2)	0.8	340.7	LR→隆沈線 /	52	313	
a557	深鉢	大7a	A145 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.7	63.6	RL→沈線→削突 /	52	313	
a558	深鉢	大8a	A145 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	0.75	90.2	LR(0段)→沈線 /	52	313	
a559	深鉢	大7a	A145 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[277]	(23.8)	1.1	430.8	LR→隆帯→沈線・半截竹管による削突 /	52	313	
a560	深鉢	大7b	A145 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.6	1,004.5	LR→隆帯→沈線 /	53	313	
a561a	深鉢	大8a	A145 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.8	69.3	LR→隆沈線、口縁部突起・貼付 (H) /	53	314	
a561b	深鉢	大8a	A145 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.8	227.9	LR→隆沈線、口縁部突起・貼付 (H) /	53	314	
a561c	深鉢	大8a	A145 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	0.9	352.8	LR /	53	314	
a562	深鉢	大8b	A146 号竪穴建物 南区 堆積土下位	口~底部	41.4	(33.2)	12.6	3,174.1	LR /	53	314	
a563	深鉢	中期	A146 号竪穴建物 堆積土 II B 6・7 a 11・12 層 (A140 号竪穴建物 3~5層)	底部	[48]	-	26.8	0.8	1,077.9	ナデ /	54	314
a564	深鉢	大8b新	A146 号竪穴建物 南区 堆積土下位	口~胴部	-	-	-	1.2	1,496.5	LR→沈線 /	54	313
a565	深鉢	大4	A146 号竪穴建物 北区 床面直上・堆積土下位	胴部	-	-	1.0	25.6	車軸緒系体1A類L→貼付 (線子) /	53	314	
a566	深鉢	大6	A146 号竪穴建物 北区 床面直上・堆積土下位	口縁部	-	-	1.3	52.6	沈線・削突 /	53	314	
a567	深鉢	大6	A146 号竪穴建物 床面直上・堆積土下位	口縁部	-	-	0.9	31.9	沈線・削突 /	53	314	
a568	深鉢	大5	A146 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	1.35	33.4	細沈線→山形貼付 /	53	314	
a569	深鉢	大8b~9	A146 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.7	224.9	LR→沈線 /	54	314	
a570	深鉢	大6~7a	A146 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.7	9.7	細沈線・押し引き /	54	314	
a571	浅鉢	大8b	A147 号竪穴建物 東区 堆積土	口~胴部	[170]	(37.4)	0.7	493.9	LR→隆沈線 /	54	314	
a572	深鉢	大8b新	A148 号竪穴建物 床面直上取り上げNo.1、炉内堆積土	口~胴部	[136]	17.2	0.6	739.7	RLR?→隆沈線→削突 /	55	314	
a573	深鉢	大6	A149 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.9	94.1	沈線・削突 /	55	314	
a574	深鉢	大8b新	A150 号竪穴建物 調査区塵際 堆積土	口~底部	36.5	26.0	10.2	0.85	4,647.1	LR、口縁部隆帯 /	54	315
a575	深鉢	大8b	A150 号竪穴建物	口~胴部	-	-	0.9	238.9	LR	55	315	
a576	深鉢	大8b	A150 号竪穴建物	胴部	-	-	0.65	141.7	ナデ→隆沈線 /	55	315	
a577	深鉢	前期初~前	A150 号竪穴建物	口~胴部	-	-	0.65	80.8	未確認付LR /	55	314	
a578	深鉢	大8b	A150 号竪穴建物	胴部	-	-	0.6	41.1	RL→沈線 /	55	314	
a579	深鉢	大8b	A151 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	1.2	260.8	車軸緒系体1A類R→隆沈線 /	55	315	
a580	深鉢	大8b~9	A151 号竪穴建物 炉直上・堆積土	口~底部	18.8	14.6	6.0	0.5	486.7	車軸緒系体1A類R→沈線→削突 /	55	315
a581	深鉢	大8a	A151 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[214]	17.4	0.7	777.4	LR→隆帯・突起→原体押圧 /	55	315	
a582	深鉢	中期	A151 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[209]	19.8	0.8	1,283.7	LR /	55	315	
a583	深鉢	中期	A151 号竪穴建物 堆積土	口~底部	7.4	(11.4)	5.8	0.55	126.4	LR /	55	315
a584	深鉢	中期	A151 号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[4.1]	-	4.4	0.45	48.9	LR /	56	315
a585	深鉢	中期	A151 号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[153]	(13.6)	4.2	0.45	49.5	ナデ /	56	315
a586	深鉢	大9新	A151 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[133]	(13.6)	0.65	288.4	LR→沈線・磨消 /	56	315	
a587	深鉢	大9新	A151 号竪穴建物 堆積土	口~底部	11.7	(11.0)	4.0	0.5	126.5	RL→沈線・磨消 /	56	315
a588	深鉢	大8b	A151 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[6.7]	-	(7.4)	0.65	93.4	LR→沈線 /	56	315
a589	深鉢	大9新	A151 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[184]	21.4	0.7	730.0	LR(0段)→沈線・磨消 /	56	316	
a590	深鉢	中期	A151 号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[9.5]	-	9.2	1.0	553.8	LR /	56	315

第 10 表 縄文土器観察表 (13)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a591	深鉢	中期	A151 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	797.6	LR/		56	316	
a592	深鉢	大 8a	A151 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	640.8	LR → 隆沈線 → 刺突、口縁部 S 字状出付・隆帯 (山)		56	316	
a593	深鉢	大 8b	A151 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	626.5	LR → 隆帯・沈線/	スス、覆鉢式の可能性も有	56	316	
a594	深鉢	大 8a	A151 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	359.6	LR (0段) → 隆沈線・S 字状突起/	大部分割落	56	316	
a595	深鉢	大 8a	A151 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	167.6	LR → 沈線/	コケ	57	316	
a596	深鉢	大 8b 新	A151 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	180.7	RL → 隆沈線/	スス	57	316	
a597	深鉢	大 8b ~ 9	A151 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	132.9	LR → 沈線/	波状口縁	57	316	
a598	深鉢	大 8a	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	118.1	LR → 沈線・S 字状突起/	スス	57	316	
a599	深鉢	大 8b	A151 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	(12.8)	-	55.8	RL → 隆沈線、S 字状突起/	4 単位波状口縁	57	316	
a600	深鉢	大 8a	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	121.8	LR → 隆沈線、S 字状突起/		57	316	
a601	浅鉢	大 7b	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	80.0	RL・原体押圧/		57	316	
a602	深鉢	不明	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	42.2	LR/	スス	57	316	
a603	浅鉢	大 8a	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	50.7	LR・隆帯/		57	316	
a604	深鉢	大 8a	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	58.9	LR → 隆帯 → 沈線/		57	316	
a605	深鉢	大 6 ~ 7a	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	70.5	隆帯 → 沈線 → 下方向からの刺突/		57	316	
a606	深鉢	大 8b?	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	59.4	RL/		57	316	
a607	深鉢	大 6	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	63.3	沈線 → 細沈線・刺突/		57	316	
a608	深鉢	大 8a	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	50.3	原体押圧/		57	316	
a609	深鉢	大 9 新	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	26.7	RL → 沈線・磨消/	波状口縁	57	316	
a610	深鉢	大 9 新	A151 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[6.6]	(8.6)	22.6	RL → 沈線・磨消/		57	317	
a611	深鉢	大 8	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	20.6	RL → 沈線/		57	317	
a612	深鉢	大 6	A151 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	113.6	LR? → 沈線 (山) /		57	317	
a613	深鉢	大 7a	A151 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	62.0	RL → 沈線/		57	317	
a614	深鉢	大 7a	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	46.1	隆帯 → 沈線 → 刺突/	波状口縁	57	317	
a615	深鉢	大 8b ~ 9	A151 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	70.7	LR → 隆沈線 → 爪形刺突/		57	317	
a616	深鉢	大 6 ~ 7a	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	11.5	隆帯 → キザミ・沈線 → 刺突/	大部分割落	57	317	
a617	深鉢?	大 6	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	12.3	沈線 → 爪形刺突/	剥落した縁状突起	57	317	
a618	深鉢	大 6	A151 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	140.6	結束羽状縄文?・RL/		57	317	
a619	深鉢	大 4	A151 号竪穴建物 A 断面 3 層	口縁部	-	-	110.6	LR → 貼付 (山) /		57	317	
a620	深鉢	大 7a?	A152 号竪穴建物 取り上げ No. 1・2・3	口~底部	33.1	25.1	3.202.1	LR (胴部下位には施文されない) /	底部変形最狭小 11.0cm、ススコケ	58	317	
a621	深鉢	大 6 ~ 7a	A152 号竪穴建物 B 断面 2a・21 層	底部	-	-	111.9	結節 LR/	底部スノコ裏、外面磨耗、ススコケ	58	317	
a622	深鉢	大 7a	A152 号竪穴建物 B 断面 22 層	口縁部	-	-	113.7	RL → 隆帯 → 沈線・刺突/		58	317	
a623	深鉢	大 6 ~ 7a	A152 号竪穴建物 B 断面 22 層	口~胴部	-	-	71.9	結節 L/	コケ	58	317	
a624	深鉢	大 7a	A153 号竪穴建物 C 断面 2 層	口縁部	-	-	92.8	隆帯 → キザミ・円形刺突/	波状口縁	58	317	
a625	深鉢	大 7a	A153 号竪穴建物 C 断面 4 層	口縁部	-	-	89.6	LR → 隆帯 → キザミ/	スス	58	317	
a626	深鉢	中期	A153 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	363.9	車輪跡条体 1A 類 L/	ススコケ	58	317	
a627	深鉢	大 5	A153 号竪穴建物 炉内焼土下位	口~胴部	-	-	247.2	車輪跡条体 1A 類 R/	スス	58	317	
a628	深鉢	中期	A154 号竪穴建物 埋設土器	胴~底部	-	-	747.6	LR? /	外面磨耗	59	317	
a629	深鉢	大 9 新	A154 号竪穴建物 埋設土器	口~胴部	-	-	15.2	LR → 沈線・磨消 → 刺突/		58	317	
a630	深鉢	大 8b ~ 9	A154 号竪穴建物 埋設土器	口縁部	-	-	80.9	RL → 隆沈線/	コケ	58	317	
a631	深鉢	大 8b	A155 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[20.2]	(15.4)	219.7	RL → 沈線・刺突/	波状口縁、ススコケ	59	318	
a632	深鉢	不明	A157 号竪穴建物 堆積土 (A159 号竪穴建物 堆積土)	胴部	-	-	209.8	車輪跡条体 1A 類 R/	二次被熱により外面発泡	59	317	
a633	深鉢	大 8b 新	A157 号竪穴建物 堆積土	口~底部	[21.5]	(8.0)	712.8	RL → 隆沈線/	波状口縁、底部網代痕、ススコケ	59	318	
a634	深鉢	大 8 ~ 9	A157 号竪穴建物 堆積土	口~底部	10.4	4.4	102.7	車輪跡条体 1A 類 R/	波状口縁、スス	59	317	
a635	深鉢	大 8b 新	A157 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	227.2	RL → 隆沈線/		59	318	
a636	深鉢	大 6 ~ 7a	A157 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	55.0	軀底隆帯 → キザミ・沈線、口縁部筒状の貼付 → 丸・三角の孔/	スス	59	318	
a637	深鉢	大 8b ~ 9	A157 号竪穴建物 19 層	口~胴部	-	-	128.8	LR → 隆沈線/	波状口縁、焼成不良で変形・灰色、944b とは別個体	60	318	
a638	深鉢	大 8b ~ 9	A158 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	1,400.3	RL → 隆沈線/	スス	60	318	
a639	深鉢	大 8a	A158 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	127.1	RL → 隆沈線/		60	318	

第10表 縄文土器観察表 (14)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)		重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.		
					器高	口径						底径	厚
a640	深鉢	大8b~9	A158号竪穴建物 堆積土 I29号土坑 堆積土	口~胴部	[237]	(33.4)	-	0.8	772.5	LR→隆沈線	波状口縁、スス	60	318
a641	深鉢	大6	A159号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.8	683	隆帯・沈線→キザミ		60	318
a642	深鉢	大5	A159号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.6	291	結節RL、口縁部上面キザミ		60	318
a643	深鉢	大8b	A160号竪穴建物 B断面 1~2層 II B 4・5 a・b 遺物包含層 2c~3層	口~底部	49.5	33.0	11.0	1.2	10,000.0	LR、口縁部隆帯	胴部垂み、ススコゲ	61	319
a644	深鉢	大7a?	A160号竪穴建物 東区 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.6	354.1	LR、口縁部突起→貼付	スス	61	318
a645	深鉢	大8b	A160号竪穴建物 B断面 1~2層	口~胴部	[320]	(21.4)	-	1.0	3,105.6	車軸緒糸体1A類L(ランダム)・一部RL	口縁部垂み、ススコゲ	60	319
a646	深鉢	大8b	A160号竪穴建物 B断面 1~2層	口~胴部	[31.5]	(32.8)	-	1.2	1,787.5	車軸緒糸体1A類R	スス	62	319
a647	浅鉢	大7a?	A160号竪穴建物 東区 堆積土	口~胴部	[11.8]	(33.0)	-	0.85	392.6	ナデ、隆帯・貼付→キザミ、口縁部突起	スス	61	319
a648	深鉢	大7a	A160号竪穴建物 東区 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.6	110.4	LR→隆帯	スス	61	319
a649	深鉢	大7a	A160号竪穴建物 東区 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.8	146.6	RL→隆帯・橋状突起→沈線・刺突、口縁部突起		61	318
a650	深鉢	大7a	A160号竪穴建物 北西区 3~5層	口~胴部	-	-	-	0.55	237.3	LR→隆帯→LR	波状口縁	61	319
a651	注口土器	大8b	A160号竪穴建物 1層	口縁部	-	-	-	0.6	27.6	車軸緒糸体1A類R、注口	原体2回以上施文、浅鉢形	61	319
a652	深鉢	大8b~9	A160号竪穴建物 1層 (B8号竪穴建物 堆積土)	胴~底部	[138]	-	14.4	1.1	1,452.9	車軸緒糸体1類R→沈線		62	319
a653	深鉢	大4	A161号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[105]	(14.6)	-	1.0	240.7	LR→貼付(脩子・山)		62	319
a654	深鉢	不明	A161号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[105]	-	11.8	1.0	651.1	RL	外面摩耗	63	320
a655	深鉢	前前前?	A162号竪穴建物 ベルト 砂層下暗褐色土 (13-16層)	口~胴部	[15.4]	(18.0)	-	0.7	424.8	L(明いた端?)	6車位以上の小波状口縁、ススコゲ	62	320
a656	深鉢	大7	A162号竪穴建物 1層	胴~底部	[10.0]	-	16.8	0.9	881.3	結節LR	底部網代又はスノコ肌、ススコゲ	62	320
a657	深鉢	大6	A162号竪穴建物 1層	口~底部	13.7	8.4	6.8	0.6	337.7	LR→貼付、口縁部凹形突起	ススコゲ	63	320
a658	深鉢	不明	A162号竪穴建物 1層	底部	[4.1]	(16.2)	0.85	227.0	ナデ	底部スノコ肌、コゲ	63	319	
a659	深鉢	大7a	A162号竪穴建物 1層	口~胴部	-	-	-	0.8	321.3	RL→隆帯→キザミ	小波状口縁	63	320
a660	垂	大8b?	A162号竪穴建物 1層	口~胴部	[4.6]	7.0	-	0.45	46.8	ナデ→筒状貼付		63	319
a661	深鉢	大3	A162号竪穴建物 1層	胴~底部	-	-	-	0.7	142.7	結節凹転文→隆帯→キザミ	ススコゲ	63	320
a662	深鉢	大7a	A162号竪穴建物 東区 堆積土 II B 8 a ベルト層 II a層	口~底部	[20.9]	(22.8)	(12.0)	0.9	562.2	RL→隆帯→底体押圧	2車位波状口縁、底部網代肌、ススコゲ	63	320
a663	深鉢	大6~7a	A162号竪穴建物 中央区 堆積土 II B 8 a 西トレンチ 下位暗褐色土	口~胴部	-	-	-	0.65	85.9	結節LR→貼付	波状口縁、ススコゲ	63	320
a664	深鉢	大7a?	A162号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[19.8]	(18.4)	-	0.95	680.2	LR、口縁部上面貼付(山)	2車位波状口縁、ススコゲ	64	320
a665	深鉢	不明	A162号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[5.4]	-	6.0	0.5	112.3	RL	コゲ	63	320
a666	深鉢	大8a	A162号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[6.3]	(17.0)	-	0.7	132.7	LR→隆帯→底体押圧	ススコゲ	63	320
a667	深鉢	不明	A162号竪穴建物 1層	胴~底部	[6.4]	-	7.6	0.55	153.8	RL		63	320
a668	深鉢	大7a	A162号竪穴建物 1層	口~胴部	-	-	-	0.9	881.5	LR	ススコゲ	64	320
a669	深鉢	大2b	A162号竪穴建物 1層	口~胴部	-	-	-	1.1	604.3	LR(脚の纖維束で結束) 3、口縁部上面押圧		64	321
a670	深鉢	大7a	A162号竪穴建物 1層	口~胴部	-	-	-	0.95	169.5	LR→沈線	波状口縁?	64	321
a671	深鉢	大6	A162号竪穴建物 1層	口~胴部	-	-	-	1.0	222.1	網状工具による多方向の沈線・爪形刺突	波状口縁	64	321
a672	深鉢	大7a	A162号竪穴建物 1層	口~胴部	-	-	-	0.9	213.5	LR→隆帯→キザミ		64	321
a673	深鉢	大7b	A162号竪穴建物 1層	口縁部	-	-	-	0.7	84.2	LR→隆帯→底体押圧	スス	64	321
a674	深鉢	大6~7a	A162号竪穴建物 1層	口縁部	-	-	-	0.7	58.9	LR→貼付	スス	64	321
a675	深鉢	大8a	A162号竪穴建物 1層	口~胴部	-	-	-	0.6	80.9	LR→隆沈線	スス	64	321
a676	深鉢	大6	A162号竪穴建物 1層	口縁部	-	-	-	0.7	68.1	LR→沈線・細沈線	スス	65	321
a677	深鉢	大6~7a	A162号竪穴建物 1層	口縁部	-	-	-	0.95	55.0	結節凹転文?→貼付・キザミ	ススコゲ	65	321
a678	深鉢	大6~7a	A162号竪穴建物 1層	口縁部	-	-	-	0.85	50.0	沈線(平・山)		65	321
a679	深鉢	大7a	A162号竪穴建物 1層	口縁部	-	-	-	0.55	26.9	RL→沈線→刺突		65	321
a680	深鉢	大7a	A162号竪穴建物 1層	口縁部	-	-	-	0.8	24.5	沈線・短沈線		65	321
a681	深鉢	大6~7a	A162号竪穴建物 1層	口縁部	-	-	-	0.95	23.7	貼付→沈線	スス	65	321
a682	球胴深鉢	大6	A162号竪穴建物 1層	頸部	-	-	-	1.0	165.3	両端結節凹転文→隆帯→細沈線・キザミ	ススコゲ	65	321
a683	深鉢	前前	A162号竪穴建物 1層	胴部	-	-	-	1.05	183.1	車軸緒糸体5層		65	321
a684	深鉢	大6	A162号竪穴建物 1層	頸部	-	-	-	0.8	69.2	隆帯・橋状突起→キザミ、沈線		65	321
a685	深鉢	大7a	A162号竪穴建物 1層	口~胴部	[9.3]	(15.6)	-	0.5	131.7	LR、口縁部小突起		65	321
a686	深鉢	大7a	A162号竪穴建物 1層	口~胴部	-	-	-	0.6	133.5	両端結節凹転文→沈線・刺突	スス	65	321

第 10 表 縄文土器観察表 (15)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a687	深鉢	大 7a	A162 号竪穴建物 堆積土 II B Sa II a 層	口縁部	-	-	137.2	LR→沈線→下方向からの刺突/	スス	65	321	
a688	深鉢	大 7b	A162 号竪穴建物 1 層	口~胴部	[188]	(18.2)	0.6	隆帯→LR→原体押圧、口縁部突起/	ススコグ	65	321	
a689	深鉢	大 7b	A162 号竪穴建物 1 層	口~胴部	-	-	0.6	LR→沈線・突起/	ススコグ	65	321	
a690	浅鉢	大 6	A162 号竪穴建物 1 層	口~胴部	-	-	0.7	LR→原体押圧/		65	321	
a691	深鉢	大 6	A162 号竪穴建物 1 層	口~胴部	-	-	0.7	LR→短沈線/	スス	65	321	
a692	深鉢	大 7b	A162 号竪穴建物 1 層	口縁部	-	-	1.3	原体不明→原体押圧/	スス	65	321	
a693	深鉢	前期	A162 号竪穴建物 1 層	口~胴部	-	-	0.6	結節 LR?/	ススコグ、外面に意図的な?穿孔 1 個	65	321	
a694	深鉢	大 7a	A162 号竪穴建物 1 層	口縁部	-	-	0.65	LR?→沈線→上下方向からの刺突/		65	321	
a695	深鉢	前期	A162 号竪穴建物 1 層	口~胴部	-	-	0.8	車輪条体 5 類、口縁部キザミ/	コグ	66	321	
a696	深鉢	大 6~7a	A162 号竪穴建物 1 層	口~胴部	-	-	0.95	沈線→短沈線・刺突/	波状口縁、スス	66	321	
a697	球胴深鉢	大 6	A162 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.7	隆帯→沈線→刺突・キザミ、口縁部上面円形突起/	刺落多い	66	322	
a698	深鉢	大 7a?	A162 号竪穴建物 中央区 堆積土	口縁部	-	-	0.75	RL→沈線/		66	322	
a699	球胴深鉢	大 6~7a	A162 号竪穴建物 1 層	口~胴部	-	-	0.7	LR→貼付→沈線/	波状口縁、コグ、579c と同一個体か	66	322	
a700	深鉢	大 8a	A163 号竪穴建物 B 断面 1 層	口~胴部	[111]	(14.0)	0.55	LR、口縁部沈線/	3 車位波状口縁、ススコグ	66	322	
a701	深鉢	大 6?	A163 号竪穴建物 堆積土	口~底部	129	(11.8)	6.6	LR→沈線、口縁部突起/	ススコグ	66	322	
a702	深鉢	大 8a	A163 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[224]	(26.0)	0.9	LR→沈線、口縁部 S 字状隆帯→沈線/	スス	66	322	
a703	深鉢	大 8a	A163 号竪穴建物 堆積土	口縁部	[80]	(26.4)	0.6	LR→隆帯・貼付→下方向からの刺突、口縁部突起/		66	322	
a704	深鉢	大 7b	A163 号竪穴建物 A 断面 1 層	口~胴部	-	-	0.5	RL→沈線・貼付/	スス	66	322	
a705	深鉢	大 7b	A163 号竪穴建物 A 断面 1 層	胴部	-	-	0.9	RL→沈線/		66	322	
a706	深鉢	大 8a	A163 号竪穴建物 A 断面 1 層	口~胴部	[233]	(20.2)	0.85	520.3 LR→隆沈線/	ススコグ	67	322	
a707	浅鉢	大 7a?	A163 号竪穴建物 B 断面 1 層	口~胴部	-	-	0.6	44.7 LR→隆帯→刺突/		66	322	
a708	深鉢	大 6	A163 号竪穴建物 A 断面 1 層	胴部	-	-	0.85	42.2 結節 RL→隆帯→沈線・キザミ/		67	322	
a709	深鉢	大 7b	A163 号竪穴建物 A 断面 1 層	口~胴部	-	-	0.4	65.6 LR→沈線・原体押圧/		67	322	
a710	深鉢	大 7b?	A163 号竪穴建物 A 断面 1 層	口~胴部	-	-	0.75	194.2 L、口縁部円形突起/	外面磨耗	67	322	
a711	深鉢	大 8a	A163 号竪穴建物 A 断面 1 層	口~胴部	[122]	(25.0)	0.7	285.5 RLR・車輪条体 1 類 R? 併用→隆帯/	ススコグ	67	323	
a712	深鉢	大 7b	A163 号竪穴建物 A 断面 1 層	口~胴部	-	-	0.95	195.7 RL→隆帯→原体押圧/	波状口縁	67	322	
a713	深鉢	大 8~9	A164 号竪穴建物 堆積土 (A113・114 号竪穴建物 堆積土)	口~胴部	[208]	28.4	1.0	1.364 L/	コグ	67	323	
a714	深鉢	大 8b	A164 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[337]	36.6	1.0	4.488.7 LR/	ススコグ、外面下位に粘土付着	68	323	
a715	深鉢	大 8b~9	A164 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[168]	(15.2)	0.6	360.9 車輪条体 1 類 R→沈線・隆帯→沈線・キザミ/		67	323	
a716	深鉢	大 7a	A164 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	1.05	132.2 隆帯→沈線・キザミ/		68	323	
a717	深鉢	大 8b 新	A166 号竪穴建物 C 断面 8 層	口~胴部	-	-	0.75	929.6 瓜形刺突/		68	323	
a718	深鉢	大 3	A166 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	1.2	54.1 LR→刺突/	波状口縁、ススコグ	68	322	
a719	深鉢	大 4	A167 号竪穴建物 ベルト 堆積土	口~胴部	-	-	0.9	168.9 RL?→貼付 (佛子)/	ススコグ	68	322	
a720	深鉢	大 8b~9	A167 号竪穴建物 堆積土	口~底部	135	11.2	6.0	5.214 LR→沈線/	3 車位波状口縁、ススコグ	68	323	
a721	深鉢	大 8b~9	A167 号竪穴建物 堆積土	口~底部	[129]	12.1	5.8	6.255.5 車輪条体 1 類 R→沈線/	2 車位波状口縁	68	323	
a722	深鉢	大 8b	A167 号竪穴建物 堆積土	口~底部	167	12.4	7.8	0.45 451.5 LR→隆沈線・橋状突起/	2 車位波状口縁	68	324	
a723	深鉢	大 8b~9	A167 号竪穴建物 堆積土	口~底部	188	(14.2)	7.8	0.5 377.8 LR→隆沈線/	2 車位波状口縁、ススコグ	68	324	
a724	深鉢	大 8a	A167 号竪穴建物 好付近堆積土	口~胴部	[154]	(23.2)	0.7	376.7 LR→隆沈線/	4 車位波状口縁	69	324	
a725	深鉢	大 7b	A167 号竪穴建物 好付近堆積土	口~胴部	-	-	1.0	867.2 車輪条体 1A 類 R→沈線・隆帯→指頭押圧、口縁部突起/	スス	69	324	
a726	深鉢	大 8a	A167 号竪穴建物 好付近堆積土	口縁部	-	-	0.75	301.7 LR→隆沈線/	波状口縁	69	324	
a727	深鉢	大 8a	A167 号竪穴建物 好付近堆積土	口縁部	-	-	0.9	283.5 LR→隆帯/	波状口縁	69	324	
a728	深鉢	大 4	A167 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.8	338.4 LR→貼付 (H)/		69	324	
a729	深鉢	大 8b	A169 号竪穴建物 西区 堆積土	口~胴部	-	-	0.4	68.2 LR→沈線/	波状口縁	69	324	
a730	深鉢	大 8a	A169 号竪穴建物 西区 堆積土中~下位	口縁部	-	-	0.8	91.2 RL→隆沈線/	外面磨耗	69	324	
a731	深鉢	中期	A170 号竪穴建物 B 断面 12 層	口~胴部	122	(6.0)	0.5	296.8 LR/	ススコグ	69	324	
a732	深鉢	不明	A170 号竪穴建物 B 断面 12 層	胴~底部	[97]	5.5	0.5	161.3 車輪条体 1A 類 R/	底部細代車→ナテ	69	324	
a733	深鉢	大 8b 新	A170 号竪穴建物 床面直上	口~底部	123	7.9	7.3	0.6 335.4 RLR→隆沈線/	2 車位波状口縁、ススコグ	70	325	
a734	深鉢	大 8~9	A171 号竪穴建物 B 断面 6 層	口~底部	169	(15.2)	7.4	0.6 431.7 車輪条体 1A 類 R?/	2 車位波状口縁、外面磨耗、スス	70	325	
a735	深鉢	中期	A170・171 号竪穴建物 重複部分 堆積土	胴~底部	[198]	-	11.2	1.0 1,035.8 LR/	底部スノコ車、スス	70	325	

第 10 表 縄文土器観察表 (16)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)		重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.		
					器高	口径						底径	厚
a736	深鉢	大 8b 新	A170・171 号竪穴建物 重葺部分 堆積土	胴~底部	[142]	-	90	0.5	386.0	LR→隆沈線/	胴部下位に施成前穿孔、コゲ	70	325
a737	深鉢	大 8b~9	A170・171 号竪穴建物 重葺部分 堆積土	胴~底部	[130]	-	102	0.8	745.2	RL→隆沈線/	コゲ	70	325
a738	深鉢	大 8a	A170 号竪穴建物 B 断面 12 層 (A167 号竪穴建物 堆積土)	口縁部	-	-	-	0.7	184.5	RL→隆沈線→貼付 (山) →原体押圧/	スス	70	324
a739	深鉢	大 8b 新	A171 号竪穴建物 D 断面 8 層	口~胴部	[340]	(39.0)	-	0.75	1,289.4	RLR→隆沈線/	7 単位? 波状口縁、スス	71	325
a740	深鉢	大 8b 新	A171 号竪穴建物 D 断面 8 層	口~胴部	-	-	-	0.5	296.3	RLR→隆沈線/	波状口縁、スス	70	325
a741	深鉢	大 8b 新	A171 号竪穴建物 D 断面 8 層	口~胴部	-	-	-	0.5	96.5	RLR→隆沈線/	波状口縁、ススコゲ	70	325
a742	深鉢	大 8b	A171 号竪穴建物 D 断面 8 層	口~胴部	-	-	-	0.7	498.7	RLR/	スス	71	326
a743	深鉢	大 8b	A171 号竪穴建物 D 断面 8 層	口~胴部	24.9	(11.6)	0.7	498.6	LR/	スス	71	326	
a744	葺	大 8b 新	A171 号竪穴建物 D 断面 8 層	胴~底部	[9.5]	-	3.5	0.6	189.0	ナテ→隆沈線・棒状突起/	外面棒状	71	325
a745a	深鉢	大 7b	A170・171 号竪穴建物 重葺部分 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.6	88.2	LR (0 段) →隆沈線→原体押圧/	波状口縁、スス	71	326
a745b	深鉢	大 7b	A170・171 号竪穴建物 重葺部分 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.6	75.4	LR (0 段) →隆沈線→原体押圧/	波状口縁、スス、補修孔	71	326
a746	深鉢	大 8b~9	A171 号竪穴建物 D 断面 8 層	口~胴部	-	-	-	0.9	507.9	LR→沈線→削突/	ススコゲ	72	326
a747	深鉢	大 7b	A172 号竪穴建物 堆積土 (A136 号竪穴建物 堆積土)	口~胴部	[189]	(19.0)	-	0.6	381.6	RL→原体押圧/	スス	71	326
a748	深鉢	大 8a	A172 号竪穴建物 堆積土 (A136 号竪穴建物 堆積土)	胴~底部	[120]	-	(10.0)	0.4	846	RL→隆帯→原体押圧/	コゲ	72	326
a749	深鉢	大 7a	A172 号竪穴建物 堆積土 (A136 号竪穴建物 堆積土)	口~胴部	[156]	16.8	-	0.6	254.8	結節 LR→隆帯→沈線・短沈線/	スス	72	326
a750	深鉢	大 7a	A172 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.9	299.3	隆帯→沈線・押し引き→削突/	ススコゲ	72	326
a751	浅鉢	大 7b	A172 号竪穴建物 堆積土	口~底部	11.5	(25.4)	11.2	0.85	520.3	結節 LR→原体押圧/	補修孔 2 個	72	327
a752	深鉢	中期	A172 号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[100]	-	13.2	0.65	617.5	LR/	コゲ	72	326
a753	深鉢	大 6	A172 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[22.5]	(21.0)	-	0.6	452.9	L→短沈線/		72	327
a754	深鉢	大 7a	A172 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.7	187.0	LR→沈線→竹管削突、口縁部キザミ 2 箇所/		72	327
a755	深鉢	大 2?	A172 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.7	133.6	結節 LR/	スス	72	326
a756	浅鉢	大 7a	A172 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.6	109.4	結束羽状文→隆沈線/	小波状口縁	73	327
a757	深鉢	大 7a	A172 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.6	78.7	結節 RL→沈線/		73	326
a758	深鉢	大 7b	A172 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	-	0.6	25.9	LR? →原体押圧/	波状口縁	73	326
a759	深鉢	大 7b	A172 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	-	0.55	31.5	RL→原体押圧/		73	326
a760	深鉢	大 7a	A172 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	-	0.9	74.9	LR? →沈線→竹管削突/		73	326
a761	深鉢	大 4	A172 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	-	0.7	12.7	RL? →隆帯/		73	327
a762	深鉢	大 5	A172 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.9	734.6	車輪結条体 5 類→隆帯→指頭押圧/		73	327
a763	深鉢	大 7b	A172 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[17.1]	(14.8)	-	0.5	273.5	結節 LR→短沈線・原体押圧、口縁部突起/	ススコゲ	73	327
a764	深鉢	大 4?	A172 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	-	0.9	47.2	貼付→沈線/	波状口縁	73	327
a765	深鉢	大 4	A172 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	-	1.1	253.0	LR? →隆帯/	ススコゲ	73	327
a766	深鉢	大 7b	A172 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	-	0.8	473.3	LR? →S 字状貼付→LR? /	スス	73	327
a767	深鉢	大 8b~9	A173 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	-	1.0	214.7	LR→沈線/		73	327
a768	深鉢	大 8b~9	A173 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.7	80.2	LR→隆沈線/		73	327
a769	深鉢	大 8b~9	A173 号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[3.4]	-	6.0	0.6	66.2	LR→隆沈線/	スス	73	327
a770	深鉢	前期	A174 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	-	0.75	28.6	細沈線/		73	327
a771	深鉢	大 4	A175 号竪穴建物 東バルト 5 層	口縁部	-	-	-	0.8	47.6	原体不明→貼付 (梯子・溝) /	途中で止めた施成後穿孔 1 個	73	327
a772	深鉢	大 4	A175 号竪穴建物 東バルト 5 層	胴部	-	-	-	0.85	69.8	LR→沈線/		73	327
a773	深鉢	大 6	A175 号竪穴建物 東バルト 5 層	胴部	-	-	-	0.6	21.8	沈線/	胎土粗い	73	327
a774	深鉢	大 8a	A175 号竪穴建物 西バルト 1 層	口~胴部	-	-	-	0.7	227.0	L→隆帯→沈線/	外面摩耗	73	327
a775	深鉢	大 7a	A175 号竪穴建物 南区 床面直上	口縁部	-	-	-	0.7	90.9	LR→貼付→沈線/	波状口縁、コゲ	74	328
a776a	深鉢	大 6	A175 号竪穴建物 西区 床面直上	口~胴部	[35.8]	(39.4)	-	1.0	963.6	両端結節 RL、口縁部隆帯・貼付→沈線・キザミ/		74	328
a777b	深鉢	大 7~8a	A175 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[198]	(21.2)	-	0.65	395.3	LR/	スス	74	328
a778	深鉢	大 7b	A176 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.75	306.8	LR→原体押圧/		74	328
a779	深鉢	大 6	A176 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	-	0.8	45.4	沈線→短沈線・削突/		74	328
a780	深鉢	大 7b	A176 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	-	0.7	63.7	LR→隆帯→原体押圧/	補修孔 1 個	74	328
a781	深鉢	大 7b	A176 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	-	0.7	85.6	LR→原体押圧/		74	328

第 10 表 縄文土器観察表 (17)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a782	深鉢	大7a	A176号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	76.9	LR→沈線→半載竹管による押し引き	スココゲ	74	328	
a783	深鉢	大5	A176号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	72.4	LR?→沈線(山)	小波状口縁	74	328	
a784	深鉢	大5	A176号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	638	車軸線条体1A類→隆帯→指頭押圧、口縁部上面口形脚突/	スス	74	328	
a785	深鉢	大7a	A176号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	630	LR→貼付(・隆帯)→沈線/		74	328	
a786	深鉢	大6	A178号竪穴建物 堆積土	頸部	-	-	350	沈線→短沈線/		74	328	
a787	深鉢	大7b	A179号竪穴建物 堆積土	口~底部	34.3	23.5	1,533.7	LR→貼付→沈線・原体押圧、口縁部突起1個		75	328	
a788	深鉢	不明	A179号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[120]	-	148	LR、口縁部突起/		75	328	
a789	深鉢	大7	A179号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[123]	14.0	367.4	LR、口縁部突起/	スス	75	328	
a790	深鉢	大7b	A179号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[78]	(21.2)	281.4	LR→沈線・原体押圧/		75	328	
a791	深鉢	大6	A179号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	148.7	結節LR?→隆帯→相沈線・脚突/		75	329	
a792	深鉢	大5	A179号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	147.9	LR/	口縁部花弁状	75	329	
a793	深鉢	大8b	A179号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	361.0	LR→隆沈線・ナデ/	スス	75	329	
a794	球胴深鉢	大6	A179号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	360.1	両端結節LR?→(貼付)→沈線/	波状口縁、コゲ	75	329	
a795	深鉢	大7a?	A179号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	353.2	結節RL/		75	329	
a796	深鉢	大6	A179号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	1.0	LR?→半載竹管による沈線→脚突/	波状口縁、スス	76	329	
a797	深鉢	大7b	A179号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	166.4	RL→隆帯→原体押圧、口縁部突起/	スココゲ	76	329	
a798	深鉢	大7a	A179号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	110.1	RL→沈線、口縁部突起/	スココゲ	76	329	
a799	深鉢	大7a	A179号竪穴建物 堆積土	頸部	-	-	111.9	LR→沈線→原体押圧→ナデ?/	スココゲ	75	329	
a800	深鉢	円下d	A179号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	65.5	結節L?→貼付→原体押圧/	スココゲ	76	329	
a801	深鉢	大6~7a	A179号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	98.6	隆帯・貼付→沈線→キザミ・円形脚突/	東北南部系か	76	329	
a802	深鉢	大8~9	A181号竪穴建物 堆積土 (A113号竪穴建物 堆積土)	口~胴部	[14.5]	14.2	394.9	RL/	外面摩耗、スココゲ	76	329	
a803	深鉢	大8b	A181号竪穴建物 堆積土中位	口~底部	22.1	17.7	1,295.5	LR→隆沈線/	スココゲ	76	329	
a804	深鉢	大8b	A181号竪穴建物 堆積土中位	胴部	[17.5]	-	1,115.5	LR→隆沈線/	スココゲ	76	329	
a805	深鉢	大7a	A182号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	1.0	486.5	RLR/	76	330	
a806	深鉢	大7a	A182号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	77.3	RL→半載竹管による押し引き		76	330	
a807	深鉢	大6	A182号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	590	隆帯・貼付→沈線(半・山)/	波状口縁、コゲ	77	329	
a808	深鉢	大8a	A182号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	64.9	RL→隆沈線/	スココゲ	77	330	
a809	浅鉢	大7b	A183号竪穴建物 堆積土 (A164号竪穴建物 堆積土)	口~胴部	-	-	178.2	LR→原体押圧、口縁部突起・隆帯→原体押圧/	スココゲ	77	330	
a810	深鉢	大7a	A183号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	195.2	結節?→隆帯→羅紐?/		77	330	
a811	深鉢	大7a	A183号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	420	LR?→隆帯→沈線(半・山)、口縁部突起/		77	330	
a812	深鉢	大7a	A183号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	391	沈線、口縁部突起→貼付(山)/		77	330	
a813	深鉢	大8a	A185号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	122.3	LR→隆帯→ナデ?、口縁部突起/		77	330	
a814	深鉢	大8b	A185号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	228	LR→沈線/		77	330	
a815	深鉢	中期	A186号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[6.2]	7.0	245.2	LR/	コゲ	77	330	
a816	深鉢	大7a	A186号竪穴建物 C断面2~4層	胴部	-	-	679.2	LR→隆帯・沈線→半載竹管による脚突/		77	330	
a817	深鉢	大7a?	A186号竪穴建物 C断面2~4層	口~胴部	-	-	719	LR→貼付・細隆帯、口縁部突起/		77	330	
a818	深鉢	大6	A186号竪穴建物 C断面2~4層	口~胴部	-	-	211.2	結束RL→沈線(半・波)/		77	330	
a819	深鉢	大7a	A186号竪穴建物 C断面2~4層	口~胴部	-	-	231.7	RL(0段)→隆帯→RL(0段)/	波状口縁	77	330	
a820	深鉢	大7a	A186号竪穴建物 C断面2~4層	口~胴部	-	-	596	沈線→脚突/		77	330	
a821	深鉢	大7b	A186号竪穴建物 C断面2~4層	口~胴部	-	-	29.5	LR→隆帯→原体押圧/		77	330	
a822	深鉢	大7b	A186号竪穴建物 C断面2~4層	口~胴部	-	-	538	RL→隆帯→爪形脚突/	波状口縁	77	330	
a823	深鉢	大4	A186号竪穴建物 C断面2~4層	口縁部	-	-	31.1	ナデ/隆帯		77	330	
a824	深鉢	大6	A186号竪穴建物 C断面2~4層	胴部	-	-	112.6	LR→半載竹管による沈線/	スココゲ	77	331	
a825	深鉢	大6	A186号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	36.6	RL→沈線→脚突/		78	330	
a826	深鉢	大7b	A186号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	180.5	LR→隆帯→キザミ・原体押圧/		78	331	
a827	深鉢	大8b~9	A187号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[25.3]	28.8	2,870.9	車軸線条体1A類R→沈線/	4単位波状口縁、器形歪み	78	330	
a828	深鉢	大8b	A187号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[10.3]	(30.2)	472.4	LR/	スココゲ	78	331	
a829a	深鉢	大8b新	A187号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[13.9]	(25.6)	335.3	RLR→隆沈線/	8単位波状口縁、931と同一個体	78	331	
a829b	深鉢	大8b新	A187号竪穴建物 炉付近堆積土	口~胴部	-	-	252.7	RLR→隆沈線/	915と同一個体、実測・拓本不要、写真のみ	78	331	
a830	深鉢	大8b新	A187号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[12.9]	-	132.7	LR→沈線/	スココゲ	78	330	

第 10 表 縄文土器観察表 (18)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a831	深鉢	大 8b 新	A187 号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[116]	-	142.2	RL→隆沈線	スス	78	331	
a832	深鉢	大 8b 新	A187 号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[33]	-	68	LR→隆沈線		78	331	
a833	深鉢	大 8b ~ 9	A187 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	0.45	LR→隆沈線→刺突	波状口縁・ススコゲ	78	331	
a834	深鉢	大 8b ~ 9	A187 号竪穴建物 堆積土	口~底部	20.4	(15.6)	6.1	LR	3 単位波状口縁・ススコゲ	78	331	
a835	浅鉢	不明	A187 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[5.0]	(28.4)	-	車軸緒糸体 1A 類 R→隆沈線、ナデ		79	331	
a836	深鉢	大 8b	A187 号竪穴建物 堆積土	底部	[7.0]	-	13.0	1.25	底部胴代車	78	331	
a837	深鉢	中期	A187 号竪穴建物 好付近堆積土	底部	-	-	0.9	601.5	底部胴代車→ナデ、コゲ	79	331	
a838	深鉢	中期	A187 号竪穴建物 好付近堆積土	胴部	-	-	0.7	597	波状口縁	78	331	
a839	深鉢	大 8b ~ 9	A187 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.6	191.9	両端結節結束羽状縄文	79	331	
a840	深鉢	大 8b ~ 9	A187 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[18.2]	(26.6)	-	1.0	スス	79	331	
a841	深鉢	大 8b 新	A187 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.5	176.0	2 単位波状口縁・スス	79	332	
a842	深鉢	大 8b 新	A187 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.75	656.3	波状口縁	80	332	
a843	深鉢	大 8b 新	A187 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.9	760.4	スス	80	332	
a844	深鉢	大 8b	A187 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.95	428.8	スス	79	332	
a845	深鉢	大 7b?	A187 号竪穴建物 好付近堆積土	胴部	-	-	1.1	83.3	原形不明→隆帯→沈線	79	331	
a846	深鉢	大 8b 新	A187 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.8	212.8	波状口縁・棒成不良で変形・灰色、944a とは別個体	79	332	
a847	球胴深鉢	大 7a	A188 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[14.7]	(23.4)	-	0.9	外面大部分剥落	80	332	
a848	深鉢	大 7a	A188 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[21.3]	(22.6)	-	0.8	外面剥落多い、ススコゲ	80	332	
a849	深鉢	大 6 ~ 7a	A188 号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[7.7]	-	(13.0)	0.7	ススコゲ、補修孔 1 個	80	332	
a850	深鉢	大 7a	A188 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[14.5]	(22.7)	-	0.7	ススコゲ、補修孔 1 個	80	333	
a851	深鉢	大 6	A188 号竪穴建物 堆積土	口縁部	[5.7]	(14.6)	-	0.65	4 単位波状口縁、外面摩耗、ススコゲ	80	333	
a852	戒胴深鉢	大 7a	A188 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[19.5]	(35.6)	-	0.8	スス	81	333	
a853	浅鉢	大 8b	A188 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.8	326.2		81	333	
a854	深鉢	大 5?	A188 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.9	237.7		81	333	
a855	深鉢	大 7a	A188 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	1.0	165.1		81	333	
a856	深鉢	大 5	A188 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.65	80.4		80	333	
a857	深鉢	大 6	A188 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.95	61.8		80	333	
a858	深鉢	大 7a	A188 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	1.0	588.8		81	333	
a859	深鉢	大 7a	A188 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.9	464.8		81	333	
a860	深鉢	大 6	A188 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.8	123.3		81	333	
a861	深鉢	不明	A188 号竪穴建物 堆積土	底部	-	-	-	161.3		81	333	
a862	深鉢	大 5	A188 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.9	724.8		82	333	
a863	深鉢	大 6	A188 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	0.95	435.4		82	334	
a864	深鉢	大 8b 新	A189 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[22.7]	18.1	-	0.8		82	334	
a865	浅鉢	大 8b	A189 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[19.1]	(35.7)	-	0.9		82	334	
a866	浅鉢	大 8b 新	A189 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[21.5]	(33.9)	-	1.0		83	334	
a867	浅鉢	大 7b ~ 8a	A189 号竪穴建物 堆積土	口~胴部	-	-	1.05	350.4		83	334	
a868	深鉢	大 8b	A190 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.6	89.7		82	333	
a869	深鉢	大 3	A190 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	1.05	94.1		82	333	
a870	深鉢	大 6	A191 号竪穴建物 J 断面 1 層	口縁部	-	-	0.95	491		82	334	
a871	深鉢	大 6	A191 号竪穴建物 J 断面 1 層	口縁部	-	-	0.85	40.8		82	334	
a872	深鉢	大 8b	A197 号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[9.3]	-	6.4	0.7		83	334	
a873	深鉢	前期	A199 号竪穴建物 取り上げ No. 1	口縁部	-	-	0.9	92.8		83	334	
a874	深鉢	大 8b ~ 9	A200 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	0.65	21.8		83	334	
a875	深鉢	大 9 新	A201 号竪穴建物 南区 1 層	口~胴部	-	-	0.55	190.2		83	334	
a876	深鉢	大 8b 新	A201 号竪穴建物 2 ~ 3 層	口~胴部	[17.0]	17.6	-	0.65		83	334	
a877	深鉢	大 8b 新	A201 号竪穴建物 2 ~ 3 層	口~胴部	-	-	0.55	364.1		83	334	
a878	深鉢	大 8	A201 号竪穴建物 3 層	胴部	-	-	0.95	918.9		83	335	
a879	深鉢	中期	A201 号竪穴建物 東区 3 層	口~胴部	[25.6]	26.5	-	0.85		84	335	
a880	深鉢	大 8b 新	A201 号竪穴建物 北区 1 ~ 3 層	口~底部	20.2	13.6	5.6	0.65		84	334	
a881	深鉢	大 8b ~ 9	A201 号竪穴建物 床面直上	口~胴部	[10.7]	(20.4)	-	0.85		84	335	

第 10 表 縄文土器観察表 (19)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a882	深鉢	大 8b ~ 9	A201 号竪穴建物 2 ~ 3 層	口 ~ 底部	213	158	7.4	0.65	478.0	LR /	84	335
a883	深鉢	大 8b 新	A201 号竪穴建物 北東区 1 ~ 3 層 A202 号竪穴建物 床面直上	口 ~ 胴部	-	-	-	0.95	947.0	RLR → 隆沈線 /	84	335
a884	深鉢	大 9 新	A202 号竪穴建物 北東区 堆積土	口 ~ 底部	14.8	158	7.1	0.75	681.5	LR → 磨消 /	84	335
a885	深鉢	大 3	A202 号竪穴建物 北西区 堆積土上位	胴 ~ 底部	[10.5]	-	7.3	0.6	173.0	LR (0 段) /	84	335
a886	深鉢	前問?	A203 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	-	0.9	42.6	沈線 (円形) /	84	335
a887	深鉢	前問?	P4018 堆積土中 ~ 下位	口 ~ 胴部	-	-	-	0.85	530.2	L /	84	335
a888	深鉢	前問?	A204 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	-	0.8	90.1	結節 L /	84	335
a889	深鉢	大 8b	A206 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	-	0.6	70.3	RL (0 段) → 沈線 /	85	335
a890	深鉢	大 8a	A207 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	-	0.9	130.1	LR → 沈線 → 隆帯 → 橋状突起 /	85	335
a891	深鉢	大 7	A207 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	-	0.75	32.0	貼付文 → キザミ /	85	335
a892	深鉢	大 7a	A207 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	-	0.7	134.5	RL? → 隆沈線 /	85	335
a893	深鉢	大 8a	A207 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	-	1.2	214.0	LR → 隆沈線 /	85	335
a894	深鉢	大 8a	A208 号竪穴建物 堆積土	胴 ~ 底部	[20.1]	-	10.8	0.9	663.1	LR /	85	336
a895	深鉢	大 4	A208 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	-	0.75	17.2	L? → 貼付 (卵状・棒子状) /	85	336
a896	深鉢	大 8a	A209 号竪穴建物 西区 堆積土	口縁部	-	-	-	0.8	179.7	LR → 隆沈線 → 刺突 /	85	336
a897	深鉢	大 6 ~ 7a	A209 号竪穴建物 東区 堆積土	胴部	-	-	-	1.0	31.3	RL? → 短沈線 /	85	336
a898	深鉢	大 8b	A209 号竪穴建物 中央区 堆積土	口縁部	-	-	-	0.45	212.7	隆沈線・刺突 /	85	336
a899	深鉢	大 8a	A209 号竪穴建物 東区 堆積土	口 ~ 胴部	-	-	-	1.1	611.5	LR → 隆沈線 /	85	336
a900	浅鉢	大 8b 古	A209 号竪穴建物 堆積土	口 ~ 底部	11.6	16.5	6.0	0.8	499.8	RL → 底体押圧 /	85	336
a901	深鉢	大 8b 新	A209 号竪穴建物 中央区 堆積土 A213 号竪穴建物 A 断面 5 層	胴 ~ 底部	[12.1]	-	3.4	0.55	148.0	RLR → 沈線 /	85	336
a902	深鉢	大 8 ~ 9	A209 号竪穴建物 B 断面 7 層 A210 号竪穴建物 堆積土 A213 号竪穴建物 A 断面 4 層	口 ~ 胴部	[15.5]	(17.6)	-	0.5	430.4	LR /	86	336
a903	深鉢	大 8b	A210 号竪穴建物 西区 堆積土	口縁部	-	-	-	0.6	197.0	RL (0 段) → 沈線 /	86	336
a904	深鉢	大 7a	A210 号竪穴建物 A 断面 5 層	胴部	-	-	-	0.6	12.6	沈線・半截竹管押し引き /	86	336
a905	深鉢	大 8b	A210 号竪穴建物 西区 堆積土	胴部	-	-	-	0.9	238.8	RL (0 段) → 隆沈線・磨消 /	86	336
a906	浅鉢	大 8b?	A210 号竪穴建物 西区 堆積土	胴部	-	-	-	0.9	433.9	ナデ /	86	336
a907	深鉢	大 8b	A213 号竪穴建物 A 断面 5 層	口縁部	-	-	-	0.85	292.5	RLR? → 隆沈線 /	86	336
a908	脚付深鉢	大 9	A210 号竪穴建物 西区 堆積土	脚部	[4.6]	-	(11.4)	0.85	65.0	RL → 磨消 /	86	336
a909	浅鉢	大 8a	A210 号竪穴建物 西区 堆積土	胴部	-	-	-	0.9	147.8	LR → 沈線・キザミ・隆帯 → 竹管刺突 /	86	336
a910	深鉢	大 7b	A210 号竪穴建物 西区 堆積土	口縁部	-	-	-	1.2	167.4	ナデ /	86	337
a911	深鉢	大 8b 新	A211 号竪穴建物 埋設土器	口 ~ 胴部	[59.9]	44.7	-	0.8	12984.2	LR → 隆沈線 /	87	337
a912	深鉢	不明	A212 号竪穴建物 西区 堆積土	底部	[5.5]	-	5.8	0.75	77.2	LR /	86	337
a913	深鉢	大 8b 新	A214 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	-	0.9	230.3	LR → 沈線 /	86	337
a914	深鉢	大 8a	A215 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	-	0.7	17.3	車輪跡帯体 1A 型 → 隆沈線 /	86	337
a915	深鉢	大 9 新	A216 号竪穴建物 堆積土	口 ~ 胴部	[15.3]	15.8	-	0.65	569.0	LR → 磨消 /	86	337
a916	深鉢	大 8b ~ 9	A218 号竪穴建物 南西区 堆積土	口 ~ 胴部	-	-	-	0.55	32.1	RLR → 隆沈線 /	86	337
a917	深鉢	不明	A219 号竪穴建物 ヘルト 堆積土	胴 ~ 底部	[10.1]	-	9.6	0.8	318.0	LR /	86	337
a918	深鉢	大 8a	A220 号竪穴建物 北東区 堆積土	口縁部	[29.9]	-	-	0.8	36.0	LR → 隆沈線・刺突 /	87	337
a919	深鉢	大 9	A220 号竪穴建物 C 断面 8 層	口 ~ 胴部	[21.6]	-	(6.0)	0.8	845.5	ナデ / ナデ / ナデ /	87	337
a920	浅鉢	大 8b?	A220 号竪穴建物 北東区 堆積土	胴 ~ 底部	[11.0]	-	-	0.7	115.8	LR (明状) → 隆沈線 /	88	337
a921	深鉢	大 8b	A220 号竪穴建物 西区 堆積土	口 ~ 胴部	-	-	-	1.2	1306.5	LR → 磨消 → 竹管刺突 /	88	337
a922	深鉢	大 9 新	A220 号竪穴建物 南西区 堆積土	口 ~ 底部	36.1	(24.0)	9.5	1.2	1306.5	LR → 磨消 → 竹管刺突 /	88	337
a923	深鉢	大 9 新	A220 号竪穴建物 畑内埋設土器	胴部	-	-	-	1.0	215.9	LR → 磨消 /	88	338
a924	深鉢	大 9	A220 号竪穴建物 畑内埋設土器	口 ~ 胴部	[13.4]	(24.3)	-	0.8	571.4	LR /	88	338
a925	深鉢	中期	A220 号竪穴建物 北東区 堆積土	胴 ~ 底部	[9.7]	-	10.7	0.95	407.1	LR /	88	338
a926	深鉢	大 8a	A220 号竪穴建物 北東区 堆積土	口縁部	-	-	-	1.2	63.7	RL? → 隆沈線 /	88	337
a927	深鉢	大 7a?	A220 号竪穴建物 北東区 堆積土	口縁部	-	-	-	0.6	40.0	LR /	88	337

第 10 表 縄文土器観察表 (20)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a928	深鉢	大 8 ~ 9	A220 号竪穴建物 北東区 堆積土 A221 号竪穴建物 南西区 堆積土	口 ~ 胴部	-	-	979.9	LR /		88	338	
a929	深鉢	大 8b ~ 9	A221 号竪穴建物 北西区 堆積土	口縁部	-	-	77.5	LR → 隆沈線 /		88	338	
a930	深鉢	大 8b ~ 9	A221 号竪穴建物 北西区 堆積土	口縁部	-	-	37.0	LR → 沈線 /		88	338	
a931	深鉢	大 8b ~ 9	A221 号竪穴建物 南西区 堆積土	胴部	-	-	57.2	単軸糸体 1A 類 R → 隆沈線 → 沈線内刺突 /		88	338	
a932	深鉢	大 8b	A221 号竪穴建物 南西区 堆積土	口縁部	-	-	10	隆帯・ナデ /		89	338	
a933	深鉢	大 8b	A221 号竪穴建物 南西区 堆積土	口縁部	-	-	71.5	LR → 隆沈線 /		89	338	
a934	深鉢	大 8b ~ 9	A221 号竪穴建物 東バルト 堆積土	口縁部	-	-	273.1	L → 沈線 → 口縁部刺突 /	スス	89	338	
a935	深鉢	大 8b ~ 9	A221 号竪穴建物 北西区 堆積土 A225 号竪穴建物 堆積土	口 ~ 底部	32.7	(27.4)	2,143.5	LR → 沈線 /	4 単位波状口縁、底部ナデ、ススコ	89	338	
a936	深鉢	大 8b 新	A223 号竪穴建物 西バルト 堆積土	胴部	-	-	118.5	RL → 隆沈線・突起	コケ	89	338	
a937	深鉢	大 8b 新	A223 号竪穴建物 北西区 堆積土	胴部	-	-	1.05	RLR? → 隆沈線 /		89	338	
a938	深鉢	大 8b ~ 9	A223 号竪穴建物 バルト 堆積土	胴部	-	-	0.85	単軸糸体 1 類 R → 沈線 /		89	338	
a939	深鉢	大 8b	A223 号竪穴建物 バルト 堆積土	口縁部	-	-	0.7	隆沈線 → 沈線内刺突 /		89	338	
a940	深鉢	中期	A224 号竪穴建物 床面直上	口縁部	-	-	365.5	LR /		89	338	
a941	深鉢	大 8b ~ 9	A225 号竪穴建物 南西区 堆積土、東西バルト 堆積土	口 ~ 胴部	-	-	600.0	RL → 隆沈線 /		89	339	
a942	深鉢	大 8b ~ 9	A225 号竪穴建物 東西バルト 堆積土	胴 ~ 底部	[12.7]	-	414.3	LR → 隆沈線 /	底部調整剥落で不明	89	339	
a943	深鉢	大 8b ~ 9	A225 号竪穴建物 東西バルト 堆積土	口 ~ 底部	15.7	(11.2)	288.8	LR (0 段) → 沈線 /	2 単位波状口縁、底部ナデ	89	339	
a944	深鉢	大 8b	A226 号竪穴建物 バルト 堆積土	口縁部	-	-	0.6	LR → 隆沈線 /		90	338	
a945	深鉢	大 6	A227 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.8	沈線 → 貼付文 /		90	338	
a946	浅鉢	大 7b	A227 号竪穴建物 埋設土器	口縁部	-	-	83.8	ナデ・原体押圧 /	スス	90	339	
a947	深鉢	大 8	A231 号竪穴建物 埋設土器	胴 ~ 底部	[34.7]	-	0.75	結節・LR /	底部削代直	90	339	
a948	深鉢	大 8b	A231 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	48.8	RL → 隆沈線 /	スス	90	339	
a949	深鉢	大 8b	A231 号竪穴建物 東区 堆積土	胴部	-	-	1.0	LR → 隆沈線 /		90	339	
a950	深鉢	大 8b ~ 9	A234 号竪穴建物 炉前庭部 堆積土	胴部	-	-	0.65	RLR? → 隆沈線 /		90	339	
a951	深鉢	中期	A234 号竪穴建物 溝 1 堆積土	口縁部	-	-	0.8	結節 LR /		90	339	
a952	深鉢	大 10 古	A235 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	51.1	RL → 磨消 /	スス	90	339	
a953	深鉢	大 9 新	A235 号竪穴建物 堆積土	口 ~ 胴部	-	-	348.6	RLR → 磨消 /		90	339	
a954	深鉢	中期	A235 号竪穴建物 床面直上	口 ~ 胴部	-	-	0.65	LR /		90	339	
a955	深鉢	大 8a	A235 号竪穴建物 P02 堆積土	口縁部	-	-	19.4	隆沈線 /		90	339	
a956	深鉢	大 7a?	A236 号竪穴建物 P03 堆積土	口縁部	-	-	0.75	LR → 沈線 /		90	339	
a957	深鉢	大 8b 新	A236 号竪穴建物 P01 堆積土	口縁部	-	-	0.8	LR → 隆沈線、穿孔 /	波状口縁	90	339	
a958	深鉢	大 7a?	A237 号竪穴建物 P01 堆積土	口縁部	-	-	0.8	LR? → 隆帯 /	波状口縁	90	339	
a959	深鉢	大 8b	A237 号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	139.5	RL → 隆沈線 /		90	339	
a960	深鉢	大 8b	A237 号竪穴建物 バルト 堆積土	胴部	-	-	1.0	78.8 RL → 隆沈線 /		90	339	
a961	深鉢	大 8b	A239 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	1.1	126.7 RL → 隆沈線 /		90	340	
a962	深鉢	大 8b	A239 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	0.8	42.1 LR → 隆沈線 /		91	340	
a963	深鉢	大 8b	A239 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	0.9	61.9 RL → 隆沈線 /		91	340	
a964	深鉢	大 8b ~ 9	A239 号竪穴建物 溝 1 堆積土	胴部	-	-	1.3	49.6 LR → 隆沈線 /		91	340	
a965	深鉢	大 8b ~ 9	A239 号竪穴建物 P13 堆積土	胴 ~ 底部	-	-	0.7	41.9 LR → 沈線 /		91	340	
a966	深鉢	大 8b	A240 号竪穴建物 堆積土	胴部	-	-	1.2	299.3 RL → 隆沈線 /		91	340	
a967	深鉢	大 8b ~ 9	A240 号竪穴建物 溝 1 堆積土	胴部	-	-	0.7	34.9 RLR → 隆沈線 /		91	340	
a968	深鉢	大 9 新	A242 号竪穴建物 炉周辺堆積土	口縁部	-	-	0.6	27.7 原体不明 → 沈線 → 凹形刺突 /	波状口縁か	91	340	
a969	深鉢	中期	A243 号竪穴建物 炉内埋設土器	胴部	[31.3]	-	2,488.7	RLR /	ススコ	91	340	
a970	深鉢	大 9 新	A244 号竪穴建物 炉周辺堆積土	胴部	-	-	211.7	RL → 沈線 磨消 → 刺突 /	外面磨耗	91	340	
a971	深鉢	大 8b	A251 号竪穴建物 炉周辺堆積土	口縁部	-	-	0.7	63.9 RL → 隆沈線 /	スス	91	340	
a972	深鉢	大 4	A248 号竪穴建物 炉周辺堆積土	口縁部	-	-	0.55	30.4 LR → 隆帯 → 原体押圧 (深い) /		91	340	
a973	深鉢	大 8b 新	A252 号竪穴建物 炉内堆積土	口縁部	-	-	0.95	233.9 隆帯突起 /		91	340	
a974	深鉢	大 8b 古	A252 号竪穴建物 炉周辺堆積土	口縁部	-	-	0.55	51.8 RLR → 隆沈線 /	スス	91	340	
a975	深鉢	大 8b ~ 9	1 号土坑 堆積土	口縁部	-	-	0.55	30.3 RL → 隆沈線 /	波状口縁	91	340	
a976	深鉢	不明	3 号土坑 3 層	胴 ~ 底部	[7.0]	-	393.8	LR? /	外面磨耗、底部木葉痕	91	340	

第 10 表 縄文土器観察表 (21)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a977	深鉢	大9古	4号土坑 堆積土上位	口縁部	-	-	23.4	RLR→隆帯/ 車軸絡糸体1A類R?→隆帯→丸形刺突、口縁部貼付→キザミ	外面摩耗	91	340	
a978	深鉢	大2b	4号土坑 堆積土	口~胴部	-	-	282.6	車軸絡糸体1A類R?→隆帯→丸形刺突、口縁部貼付→キザミ	波状口縁、ススコグ	91	340	
a979	深鉢	大2b	4号土坑 堆積土	口~胴部	-	-	333.4	結節回転文RL?→口縁部隆帯/ 付→キザミ	波状口縁、ススコグ	91	340	
a980	深鉢	大7a	11号土坑 堆積土上~下位	口~胴部	[14.5]	-	1,306.2	RL→隆帯→RL、沈線→半截竹管刺突/ 付→キザミ	波状口縁、ススコグ	92	340	
a981	深鉢	大8	11号土坑 2層	口縁部	-	-	169.4	RL→隆帯隆帯、橋状突起		92	340	
a982	深鉢	大8b新	11号土坑 堆積土中~下位	口~胴部	-	-	463.0	RLR→隆帯隆帯、穿孔	スス	92	341	
a983	深鉢	大8b	11号土坑 堆積土中~下位	口縁部	-	-	62.5	RLR→隆帯隆帯、穿孔	波状口縁、スス	92	340	
a984	深鉢	大9新	11号土坑 堆積土中~下位	口~胴部	[18.3]	-	1,039.6	RLR→隆帯隆帯、穿孔	6単位波状口縁?、スス	92	341	
a985	深鉢	大7a	14号土坑 底面直上	口~胴部	[16.5]	-	458.9	結節回転文→隆帯貼付→橋状突起→沈線(平・山)、キザミ	4単位波状口縁、コケ	92	341	
a986	球胴深鉢	大6	14号土坑 底面直上	口~胴部	[20.7]	-	888.2	沈線(山)、橋状工具による縦方向の垂下・ナデ、口縁部突起、橋状突起	波状口縁	92	341	
a987	深鉢	大7a?	16号土坑 堆積土下位	口縁部	-	-	75.1	LR?→沈線	波状口縁、655と同一個体か	92	340	
a988	深鉢	大7a	16号土坑 堆積土下位	口~胴部	-	-	262.8	LR→沈線→貼付	654と同一個体か	92	340	
a989	深鉢	大7	16号土坑 堆積土下位	口~底部	[8.5]	(8.2)	113.2	RL→沈線→竹管刺突	コケ	93	341	
a990	深鉢	大7b	16号土坑 堆積土下位	口~胴部	[25.6]	-	1,278.8	LR→胴体押圧	ススコグ	93	341	
a991	深鉢	不明	20号土坑 西区 堆積土下位	口~胴部	-	-	1,588.2	LR	スス	93	341	
a992	深鉢	大8b~9	24号土坑 堆積土中~下位	胴部	-	-	215.6	車軸絡糸体1類R→沈線		93	341	
a993	壺	大9古	25号土坑 堆積土下位	口~底部	[30.4]	-	2,751.7	RLR→隆帯隆帯、ナデ、橋状突起了個?/		93	342	
a994	深鉢	大8b?	27号土坑 2~3層	口縁部	-	-	209.5	ナデ・隆帯	小波状口縁	93	342	
a995	深鉢	大2	27号土坑 2~3層	口縁部	-	-	172.8	LR・貼付		93	341	
a996	深鉢	大6?	28号土坑 堆積土中~下位	胴部	-	-	35.1	沈線	胎土非常に細い	93	341	
a997	深鉢	大6	28号土坑 堆積土中~下位	口縁部	-	-	110.8	沈線・刺突	スス	93	341	
a998	深鉢	大6	28号土坑 堆積土中~下位	胴部	-	-	498.8	車軸絡糸体1A類R		94	342	
a999	深鉢	大6	28号土坑 堆積土中~下位	口~胴部	-	-	790.1	結束羽状網文、口縁部短沈線・刺突		94	342	
a1000	球胴深鉢	大6	31号土坑 堆積土上位	胴部	-	-	536.7	結節RL→短沈線・刺突		94	342	
a1001	球胴深鉢	大6	31号土坑 堆積土中	胴部	-	-	267.3	結束LR	ススコグ	94	342	
a1002	深鉢	大6~7a	32号土坑 堆積土中~下位	口縁部	-	-	81.3	隆帯、円形突起		94	342	
a1003	深鉢	大10古	33号土坑 1層	口縁部	-	-	52.2	沈線・ナデ→RL充填		94	342	
a1004	深鉢	大8b	A46号竪穴建物 堆積土下位	口縁部	-	-	131.1	隆帯隆帯、中空突起		94	342	
a1005	深鉢	大9新	A46号竪穴建物 堆積土下位	口縁部	-	-	41.9	LR→沈線・磨消	ススコグ	94	342	
a1006	深鉢	中期	A46号竪穴建物 堆積土	口~底部	28.0	24.6	1,796.2	RLR	底部網代痕→ナデ、スス	94	342	
a1007	深鉢	大8b	35号土坑 堆積土	胴部	-	-	7.5	RLR?→隆帯隆帯		94	342	
a1008	深鉢	大8b~9	37号土坑 東区 14層	胴部	-	-	58.3	LR→沈線	スス	95	342	
a1009	深鉢	大8b~9	41号土坑 2層	胴部	-	-	64.3	LR?→沈線		95	342	
a1010	深鉢	大9古	42号土坑 東区 7d層	胴部	-	-	117.4	RLR→隆帯隆帯	スス	95	342	
a1011	深鉢	中期	42号土坑 東区 7d・13・14層	口~胴部	[28.9]	25.3	1,341.1	RL	器形歪み大きい	95	343	
a1012	深鉢	大7b	44号土坑 東区 2d層	口縁部	-	-	84.2	LR→隆帯→胴体押圧	ススコグ	95	343	
a1013	深鉢	大10中	44号土坑 西区 3層	口~底部	-	-	755.4	LR→沈線・磨消、円形押圧・竹管刺突	波状口縁、底部網代痕→ナデ、ススコグ	95	342	
a1014	深鉢	大10中	44号土坑 西区 堆積土中位	胴~底部	[20.3]	6.4	855.8	RL→隆帯・磨消	底部網代痕→ナデ、器形やや変形	95	343	
a1015	深鉢	中期	44号土坑 4層中心	胴~底部	63.2	12.4	6,650.6	LR	器形歪み、ススコグ	95	343	
a1016	深鉢	中期	44号土坑 西区 堆積土中位	胴~底部	[33.2]	(8.3)	693.0	LR?	器形歪み、摩耗激しい	96	343	
a1017	深鉢	大7b?	45号土坑 堆積土下位	胴部	[16.4]	-	264.8	LR→沈線		96	343	
a1018	深鉢	中期	45号土坑 堆積土下位	口~胴部	[23.2]	24.2	2,040.5	RL→口縁部隆帯	スス	96	343	
a1019a	深鉢	大8b新	48号土坑 堆積土下位	口~底部	[15.3]	14.0	1.1	RL→隆帯隆帯		96	344	
a1019b	深鉢	大8b新	48号土坑 堆積土下位	口~胴部	-	-	4,300.0	RL→隆帯隆帯		96	344	
a1019c	深鉢	大8b新	48号土坑 堆積土下位	口縁部	-	-	1.15	RL→隆帯隆帯		96	344	
a1020	深鉢	大6	50号土坑 堆積土	胴部	-	-	122.1	沈線→磨消?→竹管による上方方向の刺突	波状口縁	96	343	
a1021	浅鉢	大8b~9	51号土坑 堆積土	口~底部	28.6	(19.4)	2,606.6	RL→隆帯・橋状突起→沈線	ススコグ	97	344	
a1022	深鉢	中期	53号土坑 堆積土	胴~底部	[14.3]	6.5	437.7	RL?/	器面全体に粘土付着	97	343	
a1023	浅鉢	大8b新	53号土坑 堆積土	口縁部	-	-	313.2	RL→隆帯隆帯、ナデ		97	343	
a1024	深鉢	大8b~9	53号土坑 堆積土下位	口~胴部	-	-	148.1	車軸絡糸体1類R→沈線	波状口縁	97	344	

第 10 表 縄文土器観察表 (22)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a1025	深鉢	大 9 古	53号土坑 堆積土下位	胴~胴部	-	-	997.7	車軸絡糸体 1 類 R → 沈沈線	粘土付着	97	344	
a1026	深鉢	大 8b ~ 9	53号土坑 堆積土下位	胴~底部	[20.5]	(13.3)	933.1	車軸絡糸体 1 類 L → 沈沈線	粘土付着	97	344	
a1027	深鉢	中期	53号土坑 底面直上	胴~底部	[16.9]	11.3	1,086.4	RL /	コゴ	98	345	
a1028	深鉢	大 6	56号土坑 堆積土下位	胴~胴部	[30.4]	26.0	3,053.7	両端結節 LR → 沈沈線 (平・山) /	ススコグ	98	345	
a1029	深鉢	大 7a	56号土坑 堆積土下位	胴~胴部	-	-	164.2	L → 隆帯 → 原体押圧 → 爪形刺突、LR → 沈沈線 → 凹形刺突 /	波状口縁、712 と同一個体か	98	344	
a1030	深鉢	大 7a	56号土坑 堆積土下位	胴~胴部	-	-	450.1	口縁：L → 原体押圧、頸部：爪形刺突、胴部：LR → 沈沈線、凹形刺突 → 隆帯 /	710 と同一個体か	98	345	
a1031	球胴深鉢	大 6	57号土坑 堆積土	胴部	-	-	115.1	結束羽状縄文・LR → 沈沈線 /	スス	98	345	
a1032	深鉢	大 6	57号土坑 堆積土	口縁部	-	-	184.3	隆帯 → キザミ /	スス	98	345	
a1033	球胴深鉢	大 6	58号土坑 堆積土	胴部	-	-	75.9	原体不明 → 沈沈線 /	ススコグ	98	345	
a1034	深鉢	大 7a	58号土坑 堆積土	口縁部	-	-	158.3	結束 L → 隆帯 → 爪形刺突、原体押圧、口縁部小突起・端部キザミ /		98	345	
a1035	球胴深鉢	大 6	59号土坑 堆積土	胴部	-	-	225.8	結束 RL2 → 沈沈線 /	ススコグ	98	345	
a1036	深鉢	大 6 ~ 7a	62号土坑 堆積土中~下位	胴~底部	-	-	162.0	LR → 隆帯 /	スス	98	345	
a1037	深鉢	大 6 ~ 7a	62号土坑 堆積土中~下位	胴部	-	-	32.7	L/LR? → 沈沈線 → 爪形刺突 /		98	345	
a1038	深鉢	大 8b ~ 9	68号土坑 堆積土	口縁部	-	-	100.9	LR2 → 隆沈線・貼付 /	スス	99	345	
a1039	深鉢	大 7b	68号土坑 堆積土	口縁部	-	-	66.7	RL → 隆帯 → 原体押圧 /		99	345	
a1040	深鉢	大 7a?	70号土坑 堆積土	口縁部	-	-	78.7	RL → 隆帯 /		99	345	
a1041	深鉢	大 6	71号土坑 堆積土下位	口縁部	-	-	198.0	繩状工具による沈沈線 → 隆帯 → 凹形刺突 /	東北南部系か	99	345	
a1042	深鉢	大 5	71号土坑 堆積土下位	胴部	-	-	42.0	車軸絡糸体 1A 類 L? → 貼付 → 凹形刺突 /		99	346	
a1043	浅鉢	不明	71号土坑 堆積土下位	胴~底部	-	-	0.55	ナデ		99	345	
a1044	深鉢	大 8b ~ 9	71号土坑 堆積土下位	胴~胴部	-	-	278.8	LR → 沈沈線・磨消 /		99	345	
a1045	深鉢	大 8b ~ 9	71号土坑 堆積土下位	胴~胴部	-	-	444.3	LR (0段) → 隆帯 → 刺突、沈沈線・磨消 /	2 単位波状口縁	99	345	
a1046	深鉢	大 6 ~ 7a	71号土坑 堆積土下位	胴~胴部	[17.1]	16.1	1.0	981.3	ナデ	スス	99	346
a1047	深鉢	大 7b	73号土坑 堆積土	口縁部	-	-	0.5	12.3	LR2 → 原体押圧 /	ススコグ	99	346
a1048	深鉢	大 7b	74号土坑 堆積土	口縁部	-	-	0.7	63.8	原体不明 → 隆帯 → 原体押圧 /		99	346
a1049	深鉢	大 6 ~ 7a	75号土坑 堆積土	胴~底部	[7.8]	11.7	0.7	290.1	結束羽状縄文 /		99	346
a1050	深鉢	大 8b ~ 9	75号土坑 堆積土	口縁部	-	-	1.25	232.0	車軸絡糸体 1A 類 R → 隆沈線 /		99	346
a1051	深鉢	大 8b	76号土坑 堆積土中~下位	胴部	-	-	0.95	203.9	RL → 隆沈線 /		99	346
a1052	深鉢	大 6	77号土坑 堆積土	胴~胴部	-	-	0.9	156.5	結節 L → 口縁部隆帯 → 下方向からの刺突 /	波状口縁	99	346
a1053	深鉢	大 7b	77号土坑 堆積土	口縁部	-	-	0.8	176.1	RLR → 隆帯・貼付 → 原体押圧 /	波状口縁	100	346
a1054	深鉢	大 8b ~ 9	78号土坑 堆積土	胴~底部	-	-	0.8	418.3	RLR → 隆沈線 /	ススコグ	100	346
a1055	深鉢	円上 a?	79号土坑 堆積土	胴~底部	[11.3]	-	127.4	結節 LR → 隆帯 → 沈沈線・磨消 /	ススコグ、大水 7a の可能性も有	100	346	
a1056	深鉢	大 9 新	92号土坑 東区 堆積土	胴部	-	-	0.45	12.2	LR → 沈沈線・磨消 /		100	346
a1057	深鉢	大 6 ~ 7a	93号土坑 堆積土	胴部	-	-	0.9	26.2	隆帯 → 爪形刺突 /		100	346
a1058	深鉢	大 8b ~ 9	95号土坑 堆積土	胴部	-	-	0.6	25.2	LR.L? → 隆沈線 /		100	346
a1059	深鉢	大 9 古	100号土坑 東区 堆積土	胴部	-	-	0.9	103.4	LR → 隆沈線 /		100	346
a1060	深鉢	大 6 ~ 7a	100号土坑 底面直上 取り上げ No. 2	胴~胴部	[27.0]	23.6	0.7	1,871.2	結節凹底文 LR、口縁部隆帯 → 原体押圧 /	ススコグ	100	346
a1061	深鉢	大 8b ~ 9	101号土坑 堆積土	口縁部	-	-	0.5	21.6	LR.L → 沈沈線・磨消 /	波状口縁	100	346
a1062	深鉢	大 9 古	103号土坑 堆積土	口縁部	-	-	0.4	12.9	LR → 隆沈線 → 刺突 /		100	346
a1063	深鉢	大 9 古	105号土坑 堆積土	胴部	-	-	0.8	26.2	RL → 隆沈線 /		100	346
a1064	浅鉢	中期	106号土坑 堆積土	口縁部	[6.3]	(15.6)	0.75	88.8	LR → ナデ /	スス	100	346
a1065	深鉢	大 6	106号土坑 堆積土	胴部	-	-	0.8	63.1	LR2 → 隆帯 → キザミ、沈沈線 → 押し引き /	コゴ	100	346
a1066	深鉢	大 6	106号土坑 堆積土	胴部	-	-	0.6	30.6	隆帯 → 沈沈線 /		100	346
a1067	深鉢	大 6	106号土坑 堆積土	口縁部	-	-	0.75	50.0	LR → 隆帯、凹形刺突 /	波状口縁、ススコグ	100	346
a1068	深鉢	大 7a	106号土坑 堆積土	胴部	-	-	0.85	76.8	LR2 → 隆帯 → キザミ、沈沈線 → 押し引き /		100	346
a1069	深鉢	大 7a	106号土坑 底面直上 取り上げ No. 1	胴~底部	23.5	17.4	0.9	1,590.2	LR → 口縁部隆帯 → 貼付 /	底部網代直 → ナデ、ススコグ	100	346
a1070	深鉢	大 7a?	111号土坑 東区 堆積土	胴部	-	-	0.8	80.2	隆帯 → LR /	スス	100	346
a1071	深鉢	中期	112号土坑 堆積土	胴~底部	[26.5]	-	9.0	0.7	1,389.4	LR /	100	347

第 10 表 縄文土器観察表 (23)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.	
					器高	口径	底径						
a1072	深鉢	中期	113号土坑 堆積土中～下位	胴～底部	-	10.8	1.1	1,866.8	LR /	底部網代裏、外面磨耗、スココグ	101	347	
a1073	深鉢	大10古	123号土坑 北壁際 堆積土下位	胴～底部	-	4.8	0.7	152.0	ナテ→沈線 /	内面下位剥落	101	346	
a1074	深鉢	中期	115号土坑 堆積土下位	口～胴部	-	-	0.95	354.0	結束LR (0段) /	外面磨耗	101	347	
a1075	深鉢	大8b新	165号土坑 堆積土下位	口～胴部	-	-	0.8	1,441.9	単軸糸体1類→隆沈線→刺突 /	2単位波状口縁、スココグ	101	347	
a1076	深鉢	大6～7a	118号土坑 底面直上・堆積土中～下位	胴～底部	[15.6]	18.4	0.8	626.0	ナテ→隆沈線→刺突 /	底部網代裏→ナテ、コグ	102	347	
a1077	深鉢	大6	119号土坑 底面直上・堆積土	口～胴部	[11.1]	-	0.8	747.4	ナテ /	小波状口縁、スココグ、器面剥落	102	347	
a1078	深鉢	大7a	119号土坑 底面直上・堆積土	口～胴部	-	-	0.9	1,301.1	RL /	スココグ	101	347	
a1080	深鉢	大7a?	119号土坑 底面直上・堆積土	口～胴部	-	-	0.9	1,116.6	沈線 /	底部木葉痕、スココグ	102	348	
a1081	深鉢	中期	123号土坑 北壁際 堆積土下位	胴～底部	[26.8]	-	0.85	1,546.8	RL /	底部木葉痕、外面磨耗	102	348	
a1082	深鉢	中期	123号土坑 底面直上・堆積土下位	口～胴部	[29.0]	31.8	0.9	1,249.9	LR /	口縁部片状に開く、外面磨耗、スココグ	102	348	
a1083	深鉢	中期	123号土坑 底面直上・堆積土下位	口～胴部	17.1	(16.0)	10.0	352.3	LR /	口縁部内面までスココグ	102	348	
a1084	深鉢	中期	123号土坑 堆積土下位	口～胴部	-	-	0.6	32.5	LR /	波状口縁、内外面磨耗・剥落、スココグ	102	348	
a1085	深鉢	大8a～b	125号土坑 堆積土	口縁部	-	-	0.9	81.2	RL→沈線、口縁部突起 /	波状口縁、内外面磨耗	102	348	
a1086	深鉢	大8a～b	126号土坑 堆積土	口縁部	-	-	0.95	103.1	LR /	波状口縁、内外面磨耗	102	348	
a1087	球胴深鉢	大6	130号土坑 堆積土中位	口縁部	-	-	0.9	77.8	隆帯→沈線・押し引き /	波状口縁、内外面磨耗・剥落、スココグ	102	348	
a1088	深鉢	大10古	144号土坑 底面直上・堆積土中位	胴～底部	[24.2]	-	1.1	392.7	LR→隆沈線 /	波状口縁、スココグ	103	348	
a1089	深鉢	大9古	146号土坑 堆積土	口～胴部	[27.1]	(30.0)	-	1,309.9	LR→隆沈線→刺突 /	波状口縁、スココグ	104	349	
a1091	深鉢	大8b～9	146号土坑 堆積土	口～胴部	[12.1]	13.2	0.9	1,037.3	LR→沈線 /	波状口縁、外面磨耗	103	348	
a1092	深鉢	大8b新	146号土坑 堆積土	口～胴部	[34.8]	(41.4)	1.0	1,387.3	LR→隆沈線→竹管刺突 /	2単位波状口縁、スココグ	103	348	
a1093	深鉢	大8b新	146号土坑 堆積土	口～胴部	[11.4]	(12.0)	0.45	110.0	LR→隆沈線→刺突 /	2単位波状口縁、器高推定11.8cm	103	348	
a1094	深鉢	大8b～9	146号土坑 堆積土	口～胴部	[10.2]	(10.3)	3.8	86.1	RL?単軸糸体1類?→沈線→刺突 /	波状口縁、スココグ	104	349	
a1095	深鉢	大8a～b	146号土坑 堆積土	口～胴部	-	-	0.85	623.4	LR→沈線 /	スココグ	105	349	
a1096	深鉢	大7a	149号土坑 堆積土	口～胴部	-	-	0.85	150.1	RL→隆帯→爪形刺突 /	内外面磨耗	104	349	
a1097	深鉢	中期	152号土坑 堆積土	口～胴部	[15.2]	(34.0)	-	1.0	703.8	RL /	内外面磨耗	104	349
a1099	深鉢	中期	165号土坑 堆積土下位	口～胴部	-	-	0.95	410.5	LR /	内外面磨耗、スココグ	105	350	
a1100	深鉢	中期	165号土坑 堆積土下位	口～胴部	-	-	1.2	1,212.3	単軸糸体1類→沈線 /	内外面磨耗、スココグ	105	350	
a1101	深鉢	中期	165号土坑 堆積土下位	口～胴部	-	-	0.9	1,414.3	単軸糸体1類→隆沈線 /	口縁部歪み最小 29mm、スココグ	105	350	
a1102	深鉢	中期	165号土坑 堆積土中～下位	口～底部	37.5	30.2	10.0	3,455.9	LR /	2単位波状口縁が歪み大、底部木葉痕、内外面磨耗、スココグ	105	350	
a1103	深鉢	大8b～9	167号土坑 堆積土上～中位	口～底部	[21.2]	(19.6)	7.8	415.2	LR /	2単位波状口縁、外面磨耗、コグ	105	349	
a1104	深鉢	大8b～9	172号土坑 5層下位	口～底部	14.3	11.3	5.0	290.2	RL→沈線→刺突 /	内外面磨耗、スココグ	106	349	
a1105	浅鉢	大8a	172号土坑 堆積土下位	口～底部	11.2	13.0	6.8	513.2	LR、隆沈線 /	内外面磨耗、スココグ	106	349	
a1107	深鉢	大8a～b	175号土坑 堆積土下位	口～胴部	[24.5]	20.2	-	0.8	1,936.2	LR? /	内外面磨耗、スココグ	106	351
a1108	深鉢	大9新	175号土坑 西区 堆積土	口～胴部	-	-	0.8	277.2	RLR→沈線・磨消 /	内外面磨耗	106	350	
a1109	深鉢	大8b～9	176・181号土坑 堆積土中～下位	胴～底部	[13.3]	-	(11.6)	1.0	405.1	RL→隆沈線 /	外面磨耗、スココグ、内面粘土付着	106	350
a1110	深鉢	中期	176・181号土坑 堆積土	口～底部	26.6	(18.9)	7.8	66.6	RLR・LR併用 /	スココグ	106	351	
a1111	深鉢	大8b～9	176・181号土坑 堆積土中～下位	口～胴部	-	-	1.1	213.9	単軸糸体1類→沈線 /	波状口縁、スココグ	106	351	
a1112	深鉢	大8b～9	176・181号土坑 堆積土	口～胴部	-	-	0.9	366.6	LR→沈線 /	内外面磨耗、スココグ	106	351	
a1113	深鉢	大8b新	177号土坑 北壁際 底面10cm上	口～胴部	[18.9]	(10.2)	0.45	357.8	ナテ→隆沈線→刺突 /	4単位波状口縁、スココグ、粘土付着	107	351	
a1114	深鉢	大8b新	177号土坑 堆積土	口～底部	37.6	28.5	10.0	2,125.1	RLR・RL併用?→隆沈線 /	波状口縁、スココグ	107	351	
a1115	深鉢	大7～8	185号土坑 堆積土	口縁部	-	-	0.7	108.7	RL→沈線 /	スココグ	106	351	
a1116	深鉢	大8b～9	185号土坑 堆積土	口縁部	-	-	0.6	71.2	隆帯→LR /	外面被熱により大部分剥落、スココグ	107	352	
a1117	深鉢	大7a	190号土坑 堆積土	口～胴部	[33.8]	25.6	-	0.7	4,250.0	隆帯→LR→竹管?による押圧 /	波状口縁、内外面剥落多い	108	352
a1118	深鉢	大8a	192号土坑 底面直上	口～胴部	-	-	0.9	500.2	LR→隆沈線 /	2単位波状口縁、内外面磨耗、スココグ	108	352	
a1119	深鉢	大8b新	196号土坑 堆積土	口～胴部	-	-	0.55	110.1	LR→隆沈線 /		108	351	
a1120	深鉢	大9古	197号土坑 堆積土 (191号土坑 堆積土)	口～胴部	-	-	-	-	-				

第 10 表 縄文土器観察表 (24)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a1121	深鉢	大9新	208号土坑 堆積土上位	口~底部	455	(40.2)	8.4	0.7	2,933.2	LR→沈線・磨消/	108	352
a1122	深鉢	大8a	217号土坑 堆積土上位	口~底部	-	-	-	-	107.6	LR→沈線	108	352
a1123	深鉢	大7a	217号土坑 堆積土中位	口~胴部	[229]	27.9	-	0.9	2,654.6	LR→隆帯・貼付/	108	352
a1124	深鉢	大7a	217号土坑 堆積土中位	口~胴部	[277]	22.8	-	1.0	1,917.7	隆帯→LR/	108	352
a1125	浅鉢	大7a	217号土坑 堆積土最下位	口~底部	-	-	-	0.5	16.7	ナデ/ナデ	108	352
a1126	深鉢	円下d	221号土坑 堆積土	口~底部	240	(18.2)	(10.3)	0.8	672.3	結束羽状縄文→沈線/	108	353
a1127	深鉢	大6	221号土坑 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.85	209.0	RL→結節L?→隆帯・貼付→原体押圧・刺突・口縁部上端沈線→キザミ/	109	352
a1128	深鉢	大5	221号土坑 堆積土	口縁部	-	-	-	0.9	55.7	貼付 (山)/	109	352
a1129	球胴深鉢	大7a	221号土坑 堆積土	口~胴部	[205]	32.0	-	0.7	1,913.8	繩状工具による押し引き状の沈線→隆帯→沈線・口縁部突起1箇所/	109	352
a1130	深鉢	大4	223号土坑 堆積土	口縁部	-	-	-	0.7	25.4	LR (0段)・口縁部上面貼付 (波)/	109	352
a1131	深鉢	大8b~9	223号土坑 堆積土	胴部	-	-	-	0.9	49.3	LR→沈線	109	352
a1132	深鉢	大8b~9	225号土坑 堆積土	胴部	-	-	-	0.8	20.6	付加条RL?→隆帯/	109	353
a1133	深鉢	大8b	225号土坑 周辺 III層	口~胴部	-	-	-	0.9	387.3	LR/	109	353
a1134	深鉢	大7b	229号土坑 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.55	36.7	RL?→原体押圧/	109	353
a1135	深鉢	中期	230号土坑 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.75	174.9	LR/	109	353
a1136	深鉢	大7a	236号土坑 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.6	192.6	RL→貼付 (キザミ)→原体押圧/	109	353
a1137	深鉢	大10古	236号土坑 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.7	48.7	沈線・突起→刺突/	109	353
a1138	深鉢	大9新	237号土坑 堆積土	口縁部	-	-	-	0.8	670.3	RL→沈線→磨消/	109	353
a1139	深鉢	大9新	240号土坑 堆積土	胴~底部	[6.1]	5.0	0.5	92.2	LR→沈線・磨消/	109	353	
a1140	深鉢	大8a~b	240号土坑 堆積土	口縁部	-	-	-	0.75	15.7	車軸緒糸体IA類R→隆沈線/	109	353
a1141	深鉢	大7a	242・243号土坑 堆積土	胴部	-	-	-	0.8	52.9	RL→隆帯/	109	353
a1142	深鉢	大8b~9	244号土坑 堆積土	胴部	-	-	-	0.9	87.4	LR→隆沈線/	110	353
a1143	深鉢	大8b~9	245号土坑 堆積土	胴部	-	-	-	0.9	72.1	LR→沈線/	110	353
a1144	深鉢	大8b	246号土坑 堆積土	口縁部	-	-	-	0.5	37.4	LR→沈線/	110	353
a1145	深鉢	大8a~b	246号土坑 堆積土	口縁部	-	-	-	0.8	54.1	RL・中空突起/	110	353
a1146	深鉢	中期	246号土坑 堆積土	胴~底部	[9.2]	11.0	0.95	451.5	LR/	110	353	
a1147	深鉢	大7b	250号土坑 堆積土	口縁部	-	-	-	0.95	66.5	RL→原体押圧→隆帯→爪形刺突/	110	353
a1148	深鉢	大6	250号土坑 堆積土	口~胴部	[25.0]	20.5	-	0.7	1,291.4	結節LR/	110	353
a1149	深鉢	大8b	251号土坑 堆積土	胴部	-	-	-	0.95	77.0	RL→隆沈線・有線渦巻文/	110	353
a1150	深鉢	大7b	250号土坑 堆積土	口~底部	-	-	-	0.8	23.6	原体押圧→隆帯→キザミ/	110	353
a1151	深鉢	大9古	264号土坑 堆積土	口~底部	10.2	(10.4)	4.4	0.55	137.5	RL→隆沈線→刺突/	110	353
a1152	深鉢	大8b~9	270号土坑 堆積土	口~胴部	[158]	(11.6)	-	0.7	369.9	LR (-部結節あり)/	110	354
a1153	深鉢	大9新	270号土坑 堆積土	口~底部	38.0	24.0	8.7	0.9	2,428.4	LR→沈線・磨消・結節LR/	110	354
a1154	深鉢	大8b~9	271号土坑 堆積土	胴部	-	-	-	0.75	18.4	RL→沈線/	110	354
a1155	深鉢	大8b~9	273号土坑 堆積土	胴部	-	-	-	0.6	16.1	RL→隆沈線/	110	354
a1156	深鉢	大9~10	277号土坑 堆積土	胴部	-	-	-	0.5	13.0	LR→沈線・磨消/	110	354
a1157	深鉢	大7b	283号土坑 堆積土	胴部	-	-	-	0.7	17.2	LR→原体押圧・隆帯/	110	354
a1158	深鉢	大6	284号土坑 堆積土	口縁部	-	-	-	0.9	25.8	沈線 (山)/	110	354
a1159	深鉢	大8a	288号土坑 堆積土	胴部	-	-	-	0.85	33.0	LR→隆帯/	110	354
a1160	深鉢	前期初	295号土坑 堆積土	胴部	-	-	-	0.85	94.7	LR→原体押圧?/	110	354
a1161	深鉢	大7a	296号土坑 堆積土	口~底部	22.0	(15.4)	(8.4)	0.75	675.1	L→沈線→キザミ・口縁部突起→キザミ/	110	354
a1162	深鉢	大8a	296号土坑 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.7	152.4	LR→隆沈線/	111	354
a1163	深鉢	大7a	296号土坑 堆積土	口~胴部	[88]	(9.6)	-	0.6	94.2	LR/	111	354
a1164	深鉢	大7a	298号土坑 堆積土	口縁部	-	-	-	0.85	45.0	隆帯→LR→細沈線/	111	354
a1165	深鉢	大8b~9	301号土坑 堆積土	胴部	-	-	-	0.95	20.1	LR→隆沈線/	111	354
a1166	深鉢	大9新	307号土坑 堆積土	口縁部	-	-	-	0.75	14.6	RL→沈線・磨消/	111	354
a1167	深鉢	大8b~9	308号土坑 堆積土	胴部	-	-	-	0.6	26.5	RLR→隆沈線/	111	354
a1168	深鉢	大8b~9	7号炬 周辺 II層	口縁部	-	-	-	0.8	88.3	RLR→隆沈線/	111	354
a1170	深鉢	大7b	8号炬 周辺 II層	胴部	-	-	-	0.75	63.2	RL→隆沈線→原体押圧/	111	354

第 10 表 縄文土器観察表 (25)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a1171	深鉢	大9新	13号炉 周辺 II層	胴~底部	[9.8]	-	10.0	0.6	488.1	RL→沈線・磨消/	111	354
a1172	深鉢	大8a	18号炉 炉内堆積土	口~胴部	-	-	-	0.8	266.9	RLR→沈線/	111	354
a1173	深鉢	大8a	18号炉 炉内堆積土	口~胴部	-	-	-	0.7	129.4	LR→隆沈線/	111	355
a1174	深鉢	大8b	22号炉 周辺 II層	口縁部	-	-	-	0.7	31.4	LR→沈線・口縁部突起/	111	354
a1175	深鉢	大8b新	5号爐土 上面堆積土	胴部	[22.3]	-	-	0.65	666.1	車輪緒条体1類R→隆沈線/	112	355
a1176	深鉢	大8b	5号爐土 上面堆積土	口~胴部	[13.1]	-	-	0.9	631.0	車輪緒条体1A類R→隆沈線/	112	355
a1177	深鉢	大8b~9	5号爐土 上面堆積土	胴部	14.2	(12.0)	5.6	0.5	228.6	RL→沈線・磨消→刺突/	111	355
a1178	深鉢	大9古	5号爐土 上面堆積土	胴部	[8.8]	-	4.4	0.4	105.0	RL→沈線/	111	354
a1179	深鉢	大9古	5号爐土 上面堆積土	胴部	12.6	(10.0)	4.4	0.4	108.6	RL→隆沈線→刺突/	111	354
a1180	深鉢	大9古	5号爐土 上面堆積土、周辺 II層	口~底部	-	-	-	1.2	293.1	RLR→原体押圧/	112	355
a1181	深鉢	大7b	5号爐土 周辺 II層	口縁部	-	-	-	0.6	25.3	LR→隆沈線/	112	355
a1182	深鉢	大8a	3号溝 堆積土	胴部	-	-	-	1.15	255.1	RL?→隆沈線→刺突/	112	355
a1183	深鉢	大8b新	3・4号溝 堆積土	口縁部	-	-	-	1.2	144.0	結束羽状縄文?/	112	355
a1184	深鉢	大7a	4号溝 東区 堆積土	口縁部	-	-	-	0.7	122.1	LR→隆沈線・口縁部突起/	113	355
a1185	深鉢	大7b	4号溝 堆積土	胴部	-	-	-	1.3	49.5	結束羽状縄文/	113	355
a1186	深鉢	大2a	4号溝 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.8	189.5	LR→沈線/	113	355
a1187	深鉢	大7b	4号溝 堆積土	口縁部	-	-	-	0.8	68.9	沈線→刺突・口縁部突起/	113	355
a1188	深鉢	大6	4号溝 堆積土	口縁部	-	-	-	0.7	46.3	隆帯→沈線→キザミ/	113	355
a1189	深鉢	大6	4号溝 堆積土	胴部	-	-	-	1.1	97.8	RL→沈線/	113	355
a1190	深鉢	大6~7a	4号溝 堆積土上位	口~胴部	-	-	-	0.9	746.7	LR→沈線→キザミ・原体押圧/	113	356
a1191	深鉢	大6	4号溝 堆積土上位	口縁部	-	-	-	0.75	28.8	沈線/	113	355
a1192	深鉢	大6	5号溝 堆積土	口縁部	-	-	-	1.54	776.0	LR/	113	355
a1193	深鉢	中期	1号配石遺構 西区	胴~底部	[7.6]	-	-	0.85	4.255.2	RL→磨消/	113	356
a1194	深鉢	大9新	1号土器埋設遺構	口~胴部	[32.9]	29.6	-	0.85	4.255.2	RL→磨消/	113	356
a1195	深鉢	大8a古	2号土器埋設遺構	口~胴部	[23.9]	16.8	-	0.7	919.0	LR→沈線・隆帯・口縁部突起1箇所/	113	356
a1196	深鉢	大8a古	3号土器埋設遺構	口~胴部	[58.0]	42.4	-	0.9	10,000.0	LR・口縁部突起・隆帯→キザミ・原体押圧/	113	356
a1197	深鉢	大8	4号土器埋設遺構	口縁部	[6.4]	(22.0)	-	0.85	237.2	LR・隆帯/	114	355
a1198	深鉢	中期	5号土器埋設遺構	胴部	[19.1]	-	-	0.95	927.8	LR/	114	356
a1199	深鉢	大8a	6号土器埋設遺構	口~胴部	[17.2]	(30.1)	-	0.8	1,204.8	LR(0段)/	114	356
a1200	深鉢	大8a	6号土器埋設遺構	口~胴部	[30.1]	27.3	-	0.75	2,320.0	LR/	114	357
a1201	深鉢	大8a	7号土器埋設遺構	口~胴部	[35.4]	(26.3)	-	0.7	2,111.1	LR/	114	357
a1202	深鉢	大8a古	7号土器埋設遺構 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.85	449.5	LR→隆帯→LR/	114	357
a1203	深鉢	大8a	7号土器埋設遺構 堆積土	口縁部	-	-	-	0.8	126.5	LR→隆沈線/	114	357
a1204	深鉢	大9新	P 1020 堆積土	胴部	-	-	-	1.1	62.7	LR→沈線・磨消/	114	357
a1205	深鉢	大9新	P 1024 堆積土	胴部	-	-	-	0.9	60.9	LR→沈線・磨消/	114	357
a1206	深鉢	大8a	P 1361 堆積土下位	口縁部	-	-	-	1.1	81.8	車輪緒条体1A類?→隆沈線/	114	357
a1207	深鉢	中期	P 1388 堆積土下位	口縁部	-	-	-	0.7	23.7	ナデ/	114	357
a1208	深鉢	大8b	P 2018 堆積土	胴部	-	-	-	1.1	91.4	RL→隆沈線/	115	357
a1209	深鉢	大8b	P 2025 堆積土	口縁部	-	-	-	1.0	131.4	LR→隆沈線/	115	357
a1210	深鉢	大8b	P 2030 堆積土	胴部	-	-	-	1.0	109.2	RL→隆沈線/	115	357
a1211	深鉢	大8b~9	P 2048 堆積土	口縁部	-	-	-	1.0	36.8	隆沈線/	115	357
a1212	球胴深鉢	大6	P 3088 堆積土	口縁部	-	-	-	0.8	38.5	沈線・貼付/	115	357
a1213	深鉢	大8b	P 3230 (A 191号) 堅穴建物 P 07) 堆積土	胴部	-	-	-	0.7	53.5	LR→隆沈線/	115	357
a1214	深鉢	大4	P 3251 堆積土	胴部	-	-	-	0.75	59.3	LR→細隆帯/	115	358
a1215	深鉢	不明	P 3267 (A 191号) 堅穴建物 P 08) 堆積土	胴部	-	-	-	1.0	61.2	車輪緒条体1A類R→沈線→ナデ?/	115	358
a1216	深鉢	不明	P 3268 (A 191号) 堅穴建物 P 09) 堆積土	口~胴部	-	-	-	0.7	25.2	L?/	115	358
a1217	深鉢	大8b~9	P 4070 堆積土	口縁部	-	-	-	0.8	31.1	原体不明→隆帯/	115	357
a1218	深鉢	大8b~9	P 5015 堆積土	胴部	-	-	-	0.65	27.2	RL?→隆沈線→刺突/	115	357
a1219	深鉢	大8a	P 5025 堆積土	口縁部	-	-	-	0.6	35.0	隆沈線→キザミ/	115	358
a1220	深鉢	大3	P 5043 堆積土	胴部	-	-	-	0.7	11.4	RL→凹形文/	115	357
a1221	深鉢	大4?	P 5060 堆積土	口縁部	-	-	-	0.8	14.5	沈線/	115	358
a1222	深鉢	大8a	P 5090 堆積土	口縁部	-	-	-	0.65	10.5	RL→隆沈線/	115	358
a1223	深鉢	大8a	P 5121 堆積土	口~胴部	[16.9]	(21.0)	-	0.5	227.4	RL(0段)→沈線・口縁部突起/	115	358

第 10 表 縄文土器観察表 (26)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a1224	深鉢	大8b	P 5123 堆積土	口縁部	-	-	319	LR→隆沈線/	波状口縁、ススコグ	115	358	
a1225	深鉢	大6	P 5149 堆積土	口縁部	-	-	169.2	LR (0段)→隆帯/	波状口縁、ススコグ	115	358	
a1226	注口土器	大8b	P 5161 堆積土	口縁部	-	-	267	LR?→隆沈線/	浅鉢形	115	358	
a1227	深鉢	大8b~9	P 5203 堆積土	胴部	-	-	1.1	LR→隆沈線/		115	358	
a1228	深鉢	大8b新	P 5209 堆積土	口~胴部	-	-	1.0	LR→隆沈線/		115	358	
a1229	深鉢	大8b~9	P 5212 堆積土	胴部	-	-	0.8	RLR→隆沈線/		115	358	
a1230	深鉢	大7b	P 5228 堆積土	口縁部	-	-	95.7	RL 押圧・沈線/		115	358	
a1231	深鉢	大7a?	P 5255 堆積土	口縁部	-	-	0.85	貼付→沈線/		115	358	
a1232	深鉢	大2a?	P 5360 堆積土	口縁部	-	-	34.2	LR→隆帯→凹形押圧/		115	358	
a1233	深鉢	大9	P 5363 堆積土	口縁部	-	-	46.6	隆沈線/	スス	116	358	
a1234	深鉢	大5	P 5367 堆積土	胴部	-	-	1.1	単軸絡糸体1A類→隆帯→凹形押圧/		116	358	
a1235	深鉢	大4	P 5370 堆積土	胴部	-	-	27.2	LR?→隆帯/	外面摩耗	116	358	
a1236	深鉢	大7b	P 5370 堆積土	口縁部	-	-	1.05	LR?→隆帯・沈線/		116	358	
a1237	深鉢	大8b~9	P 5382 堆積土	胴部	-	-	0.85	LR→沈線/		116	358	
a1238	深鉢	大9	P 5406 堆積土	口縁部	-	-	0.55	RLR→隆沈線/	波状口縁	116	358	
a1239	深鉢	大8b~9	P 5413 堆積土	胴部	-	-	0.8	RLR→隆沈線/		116	358	
a1240	深鉢	大8b	P 5416 堆積土	胴部	-	-	30.8	RL→隆沈線/	小波状口縁、ススコグ	116	358	
a1241	深鉢	大8a	P 5420 堆積土	口縁部	-	-	0.65	LR?→隆沈線/		116	358	
a1242	深鉢	大8b	P 5446 堆積土	口縁部	-	-	47.3	隆沈線、脈状突起/		116	358	
a1243	深鉢	大8b	P 5460 堆積土	胴部	-	-	11.2	単軸絡糸体1A類→隆沈線/		116	358	
a1244	深鉢	大8a	P 5468 堆積土	口縁部	-	-	0.6	胴体不明→隆沈線/		116	358	
a1245	深鉢	大8b	P 5496 堆積土	胴部	-	-	1.25	RLR?→隆沈線/		116	358	
a1246	深鉢	大8b~9	P 5511 堆積土	胴部	-	-	0.9	LR→沈線/		116	358	
a1247	深鉢	大8b~9	P 5555 堆積土	胴部	-	-	0.85	単軸絡糸体1A類 R→沈線/		116	358	
a1248	深鉢	大7b	P 5565 堆積土	胴部	-	-	0.9	LR→隆帯→胴体押圧/		116	358	
a1249	深鉢	大8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 B 断面西 2a~c 層、II B 4a 2層	口~胴部	22.2	-	2,984.3	L→隆帯/	口縁部歪み最大23.2mm、外面摩耗、ススコグ	116	358	
a1250	深鉢	大8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4a 2層	口~胴部	-	0.4	41.0	LR/	波状口縁、外面摩耗、ススコグ	116	358	
a1251	深鉢	大8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4a 2c~3層	口~底部	139	6.0	630.9	LR、口縁部突起→隆沈線→短沈線/	外面摩耗、ススコグ	116	359	
a1252	深鉢	大8a古	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4・5a 2層	口~底部	42.5	11.6	3,136.9	LR→隆沈線/	ススコグ	116	359	
a1253	浅鉢	大8a古	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4a 3層	口~胴部	[9.2]	-	240.5	LR→沈線・隆沈線、口縁部突起/	小波状口縁、スス	116	359	
a1254	深鉢	大5	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4a 2層	口縁部	-	-	60.1	隆帯(平・山)/		117	359	
a1255	深鉢	大8a新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4a 2層	口~胴部	-	-	199.5	RL→沈線・隆沈線/	波状口縁、補修孔1個、ススコグ、椀形式の可能性も有	117	359	
a1256	深鉢	大8a新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4a 2層	口~胴部	-	-	892.2	RL→沈線・隆沈線/	小波状口縁、スス、椀形式の可能性も有	117	359	
a1257	深鉢	大8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4a 2層	口縁部	-	-	30.8	RL→沈線/		117	359	
a1258	深鉢	大8b新	II B 4・5a・b 遺物包含層 A 断面中央 2b層、II B 4・5b 2層	胴~底部	[24.0]	-	3,408.2	RLR→隆沈線/	外面摩耗、コグ	118	359	
a1258a	深鉢	大8b	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4b 2層	口~胴部	[28.8]	-	2,565.6	RL→隆沈線/	ススコグ、a1259bと同一個体	117	359	
a1259b	深鉢	大8b	II B 4・5a・b 遺物包含層 B 断面東 2a層	口~胴部	[28.8]	-	713.2	RL→隆沈線/	a1258aと同一個体、写真のみ	無し	359	
a1260	深鉢	大8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4b 2層	口~胴部	[21.5]	-	845.8	LR→隆沈線/	2単位波状口縁だが180°対称ではない、外面摩耗、スス	117	360	
a1261	深鉢	不明	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4b 2層	口~底部	198	(15.6)	(7.2)	単軸絡糸体1A類 R/	3単位波状口縁、ススコグ	118	360	
a1262	深鉢	大8b~9	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4b 2層	口~胴部	[23.0]	-	788.4	RL→沈線/	波状口縁、スス	118	360	
a1263	深鉢	大8a新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4b・c 2層	口~底部	34.2	22.4	(8.3)	LR→隆沈線/	ススコグ	119	360	
a1264	深鉢	大8b~9	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4b 2層	口~底部	16.2	12.8	6.6	RLR→沈線・隆帯/	ススコグ	118	360	
a1265	深鉢	不明	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4b 2層	口~胴部	-	-	0.6	ナデ/		118	361	
a1266	深鉢	大8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4b 2層	口~胴部	[17.2]	-	663.8	RL→沈線/	ススコグ	119	360	
a1267	深鉢	大8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4b 3層	口~胴部	[12.2]	-	0.5	28.2	RL→沈線・隆帯/	6単位波状口縁、スス	119	360
a1268	深鉢	大8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4b 3層	口~胴部	[18.9]	-	0.7	340.4	LR/	外面摩耗、ススコグ	119	360
a1269	深鉢	大8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4b 2~3層	口~胴部	[14.7]	-	0.5	174.2	LR→沈線・隆帯/	4単位波状口縁	119	361
a1270	深鉢	大8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4b 3層	胴~底部	[13.0]	-	5.4	13.1	RL→沈線/	内外面摩耗、スス	119	360
a1271	深鉢	大8a新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4b 3層	口~胴部	[17.0]	(21.4)	-	630.6	LR→隆沈線→沈線/	口縁部歪み大きい、内外面摩耗	120	361

第10表 縄文土器観察表 (27)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.	
					器高	口径	底径						厚
a1272	深鉢	大8a新	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 3層	口～胴部	[224]	(24.8)	-	0.7	519.9	RL (0段) →隆帯/	口縁部歪み大きい、外面磨耗	120	361
a1273	深鉢	大8a新	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 3～4層	口～胴部	[202]	(32.4)	-	0.8	2698.6	LR →沈線・S字・環状の突起と隆帯→沈線/	外面磨耗、椀様式の可能性も有	120	361
a1274	深鉢	大8a新	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 4層	口～胴部	[330]	(23.9)	-	0.8	860.0	LR →隆帯・沈線/	外面磨耗	120	361
a1275	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 C断面東 2層	口～胴部	[132]	(29.3)	-	0.9	618.3	LR →隆帯→キザミ/	波状口縁、スス	120	362
a1276	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 B断面東 2層、II B 4b 2層	口縁部	[43]	(8.3)	-	0.55	62.7	L →隆沈線/		120	361
a1277	深鉢	大8a新	II B 4・5a・b遺物包含層 B断面東 2～3層、II B 5b 2層	口～胴部	[185]	(18.8)	-	0.8	913.7	LR →隆帯、口縁部S字状突起→キザミ/	外面磨耗	120	361
a1278	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 A断面北 2層	口～胴部	[190]	(12.4)	-	0.45	351.3	LR →沈線/	2単位波状口縁だが180°対称ではない、外面磨耗、ススコグ	120	362
a1279	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 A断面中央 2b層	口～底部	182	(11.2)	(5.0)	0.6	543.9	RL →口縁部隆沈線/	2単位波状口縁だが180°対称ではない、ススコグ	121	361
a1280	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 A断面中央 2b層	口～胴部	[170]	(19.0)	-	0.8	549.9	LR →隆沈線/	スス	121	362
a1281	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 A断面中央 2c層、II B 4b 3層	口～胴部	[182]	(15.0)	-	0.7	483.8	RL →隆帯/	外面磨耗	121	362
a1282	深鉢	大8a～b	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～胴部	[248]	(19.8)	-	0.6	790.2	LR (0段) →沈線・隆沈線、口縁部中空突起/	ススコグ	121	363
a1283	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～胴部	[263]	(18.4)	-	0.5	847.2	RL →隆沈線、口縁部突起1箇所/	外面磨耗、ススコグ	121	362
a1284	深鉢	大8a新	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～底部	[155]	(10.8)	(5.8)	0.45	197.9	LR →沈線/	2単位波状口縁、外面磨耗、コゲ	121	362
a1285	深鉢	大8b	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～胴部	[180]	(16.2)	-	0.6	499.5	RL →隆沈線→刺突/	2単位波状口縁だが高低差ほとんどなし、ススコグ	122	362
a1286	深鉢	大8a古	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～胴部	[204]	(28.0)	-	1.0	1939.9	LR →隆沈線/	4単位波状口縁、外面磨耗、剥落多い	122	362
a1287	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～底部	247	(18.7)	(9.0)	0.7	588.8	LR →沈線/	2単位波状口縁、スス	122	363
a1288	深鉢	大5?	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～胴部	[222]	(19.5)	-	0.75	925.9	LR →隆帯→刺突/	外面磨耗、ススコグ	122	362
a1289	深鉢	大8b～9	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～胴部	[131]	(12.0)	-	0.5	191.5	LR →隆沈線/	2単位波状口縁	122	363
a1290	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	胴～底部	[83]	-	(6.0)	0.5	86.2	RL →沈線/	ススコグ	122	363
a1291	深鉢	大8b新	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	胴部	[119]	-	-	0.7	429.4	RLR →隆沈線→刺突/		122	363
a1292	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4・5b 2層	口～胴部	[177]	(21.6)	-	0.6	753.2	LR (0段) →隆沈線・沈線、口縁部突起1箇所/	ススコグ、補修孔1個	123	363
a1293	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 A断面南 2層、II B 4b 2層	口～胴部	[376]	(29.5)	-	0.8	1688.7	RL (0段) →沈線、口縁部隆帯/	4単位小波状口縁、スス	124	363
a1294	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～胴部	-	-	-	0.9	474.7	RL (0段) →沈線/	波状口縁、ススコグ	123	364
a1295	深鉢	大8b新	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～胴部	-	-	-	0.9	611.6	RL →隆沈線/		123	363
a1296	深鉢	大8b新	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～胴部	-	-	-	1.2	2018.7	RLR →隆沈線/	波状口縁	123	364
a1297	深鉢	大8b新	II B 4・5a・b遺物包含層 C断面西 2層	胴部	-	-	-	0.9	537.3	LR →隆沈線/		123	364
a1298	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 B断面西 2a層	口～胴部	[186]	(19.2)	-	0.7	372.1	LR →沈線/	4単位波状口縁、ススコグ	124	364
a1299	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 B断面西 2a層	口縁部	-	-	-	0.55	65.2	RLR →隆沈線/	スス	124	363
a1300	深鉢	大5	II B 4・5a・b遺物包含層 B断面西 2a層	胴部	-	-	-	0.7	38.9	未確認筋? RI →貼付→竹管による刺突/		124	364
a1301	深鉢	不明	II B 4・5a・b遺物包含層 B断面西 2a層、II B 4b 2層	口～胴部	[146]	(33.4)	-	0.6	319.9	単軸絡糸体1類 R/	内外面磨耗、スス	124	364
a1302	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 B断面西 2b層	口～胴部	-	-	-	0.8	471.3	LR →隆沈線/	波状口縁	124	364
a1303	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 B断面西 2b層	口～胴部	-	-	-	0.45	183.3	LR →隆帯・沈線/	小波状口縁、ススコグ	124	364
a1304	深鉢	大8a～b	II B 4・5a・b遺物包含層 B断面西 2b～c層	口～胴部	-	-	-	0.6	136.1	RL →隆沈線・沈線/	スス	125	364
a1305	深鉢	大8b新	II B 4・5a・b遺物包含層 B断面西 2c層	口縁部	[103]	-	-	0.9	288.5	LR →隆沈線→隆帯→竹管による刺突/	ススコグ	125	365
a1306	深鉢	大8a～b	II B 4・5a・b遺物包含層 B断面東 2層	口～胴部	-	-	-	0.65	165.1	RL →隆帯→沈線/	波状口縁	125	365
a1307	深鉢	大5	II B 4・5a・b遺物包含層 A断面北 2層	口縁部	-	-	-	0.75	46.5	LR →隆帯・沈線 (山) /	外面磨耗	125	364
a1308	深鉢	不明	II B 4・5a・b遺物包含層 A断面中央 2a層、B断面東 2a層、II B 4・5b 2層	口～胴部	-	-	-	1.0	814.1	多軸絡糸体? /	外面磨耗、スス	125	365
a1309	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 A断面中央 2b層	口～胴部	-	-	-	0.7	408.3	LR →隆沈線/	波状口縁、補修孔1個、内外面磨耗、ススコグ	125	365
a1310	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～胴部	[116]	(19.0)	-	0.55	175.4	LR →隆沈線/	スス	125	365
a1311	深鉢	大8a～b	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～胴部	-	-	-	0.5	738	RL →隆帯・隆沈線/	波状口縁?、ススコグ	125	365
a1312	深鉢	不明	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口縁部	[6.1]	(9.0)	-	0.5	46.7	LR /	スス	125	365
a1313	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口縁部	-	-	-	0.7	117.8	RL →隆沈線/	スス	125	365
a1314	深鉢	大8a	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口縁部	-	-	-	0.85	54.5	沈線 (平・凹) /	波状口縁、外面磨耗、コゲ	126	365
a1315	深鉢	大6新	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～底部	11.4	(22.0)	(6.8)	0.6	175.0	RL →沈線・隆沈線/	波状口縁、補修孔1個	126	365
a1316	深鉢	大8b	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～胴部	-	-	-	0.8	837.6	LR →隆沈線/	内外面磨耗、スス、隆帯剥落多い	126	365
a1317	深鉢	大6	II B 4・5a・b遺物包含層 II B 4b 2層	口～胴部	-	-	-	0.7	296.1	LR、口縁部キザミ/	波状口縁、外面磨耗、ススコグ	126	365

第 10 表 縄文土器観察表 (28)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.	
					器高	口径	底径						
a1318	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 b 2層	口~胴部	-	0.5	83.2	RL→沈線/	波状口縁?、外面摩耗、ススコグ	126	365		
a1319	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 b 2層	口縁部	[5.2]	(13.6)	0.4	51.2	RL→隆帯/	スス	126	365	
a1320	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 b 2層	口~胴部	-	0.6	7.9	LR→隆帯/	小波状口縁、外面摩耗、ススコグ	126	365		
a1321	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 b 2層	口~胴部	-	0.6	28.2	RLR→隆帯・沈線/		126	366		
a1322	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 b 2層	口~胴部	-	0.85	337.9	RLR→隆沈線/	スス	126	366		
a1323	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 b 2層	口縁部	[4.5]	(8.7)	0.5	36.1	LR→隆沈線/	ススコグ	126	365	
a1324	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 b 2層	口縁部	-	0.4	12.4	LR (0段)→隆沈線/	スス	126	365		
a1325	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 b 2~3層直上	口~胴部	-	0.7	216.6	RLR→隆沈線、口縁部隆帯突起/	波状口縁	126	366		
a1326	深鉢	大 6	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 b 2層	口縁部	-	0.5	16.2	細沈線、隆帯剥落? /	波状口縁	126	365		
a1327	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 b 2層	口~胴部	-	1.0	44.1	RL→沈線・隆沈線/	波状口縁	127	366		
a1328	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 b 2層	口~胴部	-	0.9	69.9	LR→隆沈線/	内外面摩耗	127	366		
a1329	深鉢	大 8b	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 b 2層	口縁部	-	0.8	633.3	RLR→隆沈線/	内外面摩耗	127	366		
a1330	深鉢	不明	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 c 3層	口~胴部	[29.6]	25.9	1.0	1,689.7	LR/	内外面摩耗、ススコグ	127	366	
a1331	浅鉢	大 8a~b	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 b・c 2層	口~底部	9.6	(17.3)	0.8	399.7	L (口縁部非結束状縦文) /	ススコグ	127	366	
a1332	深鉢	大 8b	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 c 2層	口縁部	[17.4]	(33.5)	0.9	1,174.4	LR→隆沈線/	4車位波状口縁、外面摩耗、内面剥落多い、スス	127	366	
a1333	深鉢	大 8b 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 c 2層	口~胴部	-	0.85	165.5	ナデ→隆沈線/		127	366		
a1334	深鉢	大 8b~9	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4 c 2層	口~胴部	-	0.9	547.5	RL→沈線、口縁部貼付・短沈線/	外面摩耗	128	367		
a1335	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 A 断面南 2c層、II B 4 a・b 2~3層	胴~底部	[48.1]	-	1.0	3,708.1	RL/	ススコグ	128	367	
a1336	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口~胴部	[19.9]	14.2	0.55	365.6	RL→沈線・隆沈線/	スス	128	367	
a1337	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口~胴部	[17.3]	(16.8)	0.5	296.3	LR→沈線・隆帯/	波状口縁、外面摩耗、スス	128	367	
a1338	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口~胴部	[15.5]	14.6	0.6	356.6	LR→隆沈線/	コグ	128	367	
a1339	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 D 断面東 2a層、II B 5 a・b 2層	口~底部	[26.6]	(18.6)	0.7	645.8	LR→隆沈線→沈線/	小波状口縁?、底部端成後穿孔、外面摩耗、スス	128	367	
a1340	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	胴~底部	[19.6]	-	14.6	LR→沈線/	コグ	128	367		
a1341	深鉢	大 8a 古	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口~胴部	[22.5]	21.2	0.6	961.4	RL→隆沈線/		129	368	
a1342	浅鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口~底部	8.5	17.8	0.55	301.9	LR→隆沈線/	内外面摩耗、コグ	129	367	
a1343	深鉢	大 8b 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口~胴部	[18.0]	(21.6)	0.85	809.7	LR→沈線・隆沈線/	スス	129	368	
a1344	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2~3層	口~胴部	[14.1]	(19.0)	0.6	263.2	LR→沈線・隆沈線→キザミ、口縁部突起/	ススコグ	129	367	
a1345	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2~3層	口~胴部	[11.6]	13.2	0.4	254.5	LR→隆帯→沈線・短沈線/	1車位波状口縁	129	368	
a1346	深鉢	大 8b	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口~胴部	[16.0]	18.6	0.7	869.4	RL→沈線・隆沈線/	2車位波状口縁だが180°対称ではない、外面摩耗、ススコグ	129	368	
a1347	深鉢	大 8b	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口~胴部	[12.2]	22.7	0.6	584.8	RL→沈線・隆沈線/	波状口縁、ススコグ	130	368	
a1348	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2~3層	口~胴部	[24.9]	(16.2)	0.7	721.5	RL→沈線・隆沈線、口縁部突起/	ススコグ	130	368	
a1349	浅鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口~底部	9.2	(19.2)	(6.4)	157.7	ナデ→隆帯/	ススコグ	130	367	
a1350	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2~3層、II B 4 a 2層	口~胴部	[56.5]	34.8	1.1	4,836.2	LR→隆沈線/	4車位波状口縁	130	369	
a1351	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2~3層	口~底部	28.7	(18.0)	0.75	1,001.7	LR? /	外面摩耗、コグ	130	368	
a1352	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口~胴部	[23.5]	13.3	0.7	692.4	LR→沈線/	小波状口縁、外面摩耗・剥落多い	130	368	
a1353	浅鉢	大 8b	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口~胴部	[10.1]	(16.0)	0.7	179.4	LR→隆沈線/	外面摩耗、内面に赤彩が被熱で黒化?した部分あり	131	368	
a1354	深鉢	大 8b?	II B 4・5a・b 遺物包含層 A 断面北 1層、D 断面 東 2b~c層、II B 4 b・5a 2層	胴~底部	[38.0]	-	11.8	0.9	1,753.3	ナデ→隆帯/	スス	131	369
a1355	深鉢	大 8b~9	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口縁部	-	1.0	198.9	LR→隆沈線→半軟竹管による削突/	外面摩耗	131	369		
a1356	深鉢	大 5	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口縁部	-	0.7	112.3	車輪跡条体5類→貼付/	波状口縁、ススコグ	131	369		
a1357	深鉢	大 5~6	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	底部	-	1.4	102.5	車輪跡条体4類/	コグ	131	369		
a1358	深鉢	大 5	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口縁部	-	0.9	84.8	車輪跡条体5類→隆帯→爪形削突/		131	369		
a1359	深鉢	大 7a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2~3層	口縁部	-	0.8	147.9	画線結節 RL→貼付・沈線→キザミ/		131	369		
a1360	深鉢	大 5	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 3層	口縁部	-	0.8	61.9	LR→隆沈線→原体押圧、口縁部突起/	節の大きさが異なる原体2種類使用か	131	369		
a1361	深鉢	大 6	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口~胴部	-	0.65	72.3	LR (0段)→原体押圧/	小波状口縁、補修孔1個、スス	131	369		
a1362	深鉢	大 5	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口~胴部	-	0.6	120.3	ナデ→隆帯→キザミ/		131	369		
a1363	深鉢	大 7a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 a 2層	口~胴部	-	1.0	215.5	貼付→RL (0段) /		131	370		
a1364	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 b 3層	口~底部	15.4	(10.8)	0.5	288.9	LR→沈線、口縁部突起→削突/	外面摩耗、スス	131	369	
a1365	深鉢	大 8b 古	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5 b 2層	口~胴部	[30.2]	(24.8)	0.6	1,191.5	RLR→沈線、口縁部 RL (0段) →突起→隆沈線/	ススコグ	131	369	

第 10 表 縄文土器観察表 (29)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.	
					器高	口径	底径						
a1366	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口~胴部	[256]	(20.9)	-	742.2	RL→沈線	ススコゲ	132	370	
a1367	深鉢	大 8a~b	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5a・b 2層	胴~底部	[139]	-	0.7	262.7	RL		132	370	
a1368	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2~3層	口~胴部	[220]	20	0.7	1,228.8	RL	4単位波状口縁、内外面摩耗、ススコゲ	132	370	
a1369	深鉢	大 8b	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口~胴部	[126]	14.7	0.65	556.8	LR→隆沈線	1単位波状口縁、ススコゲ	132	369	
a1370	深鉢	大 8b	II B 4・5a・b 遺物包含層 B断面東 2b層、II B 5b 2層	口~底部	11.9	(14.4)	0.6	245.4	LR→隆沈線→鋸状工具による削突	波状口縁、ススコゲ	132	370	
a1371	浅鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口~底部	8.5	(16.8)	0.75	185.2	LR→沈線	スス	132	370	
a1372	深鉢	大 8b	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口~胴部	[20.1]	(22.0)	-	516.9	LR→隆沈線		132	370	
a1373	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 A断面南 2c層、II B 5b 2~3層	口~胴部	[290]	(38.5)	-	2,095.8	LR→隆沈線	4単位波状口縁、内外面摩耗、剥落多い	133	370	
a1374	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2~3層	口~底部	24.1	20.2	10.2	1,322.4	LR→隆帯	4単位波状口縁、ススコゲ	132	371	
a1375	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2~3層	口~胴部	[156]	12.6	0.55	413.7	LR→隆帯	補修孔3個、ススコゲ、胴部と口縁部で筋の大きさ異なる原体使用	133	370	
a1376	深鉢	大 8a~b	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 3層	口~胴部	[84]	(12.3)	-	121.7	LR→隆帯	ススコゲ	133	371	
a1377	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 A断面南 2b~c層	口~胴部	[246]	21.0	0.6	849.2	RL	ススコゲ	133	371	
a1378	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 D断面東 2a層	口~底部	27.6	22.8	9.8	0.7	1,035.3	LR→隆帯	4単位波状口縁、ススコゲ	133	370
a1379	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 B断面西 2c層、C断面西 2c層、D断面東 2a~3層、II B 4a 2層、II B 5・6a 2~3層	口~底部	[67.6]	(35.2)	11.8	0.9	10,263.2	LR→隆帯	底部網代東、コゲ	133	371
a1380	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 D断面東 2b~3層、II B 4b 2層、II B 5a 2~3層	口~胴部	[252]	(40.6)	-	1.1	2,965.3	RL→隆帯(平・波)・S字状突起→爪形削突	外面摩耗、コゲ	134	371
a1381	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 D断面東 2b~c層	口~底部	22.8	12.4	7.0	0.7	645.2	LR→沈線	ススコゲ	133	372
a1382	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 D断面東 2b~c層	口~胴部	[21.4]	(17.6)	-	0.6	462.6	LR→沈線・隆沈線	波状口縁、スス	134	372
a1383	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 A断面南 2c層、D断面東 2b~c層、II B 5b 2層	口~胴部	22.3	(17.0)	(5.6)	0.55	349.5	LR→隆沈線	ススコゲ	134	371
a1384	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 D断面東 2b~c層	口~胴部	[18.1]	(24.6)	-	0.6	344.3	RL→沈線・隆沈線	波状口縁、スス、バンド状のコゲ	135	372
a1385	深鉢	大 8b 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 A断面南 2a層、II B 5b 2層	口~胴部	[44.2]	34.2	-	0.85	3,543.5	RL→隆沈線	波状口縁、コゲ	135	372
a1386	深鉢	中期	II B 4・5a・b 遺物包含層 A断面南 2a~3層、C断面西 2層、D断面東 2a層	口~胴部	[21.1]	(38.0)	-	1.05	1,871.5	LR→隆帯	口縁部歪み大きい、コゲ、内面コゲ部分剥落多い	134	372
a1387	深鉢	大 8b	II B 4・5a・b 遺物包含層 A断面南 2a層	口~底部	16.5	11.6	5.6	0.45	227.8	LR→隆沈線	ススコゲ	134	371
a1388	重	大 8b	II B 4・5a・b 遺物包含層 A断面南 2a層	胴部	[9.1]	-	0.55	181.1	ナデ→隆帯・鈎状の附付	スス	134	372	
a1389	浅鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 A断面南 2b~c層	口~底部	9.5	16.5	5.8	0.6	511.8	LR→隆帯	内外面摩耗、ススコゲ	134	372
a1390	浅鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 A断面南 2b~c層	口~底部	8.3	(16.4)	6.4	0.6	233.5	ナデ・LR→隆帯	コゲ	134	372
a1391	浅鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 A断面南 3層	口~底部	12.8	20.4	7.2	0.8	1,463.1	RL→原体押圧、口縁部突起→隆帯・原体押圧	内面剥落多い、スス? (黒色付着物)	135	372
a1392	浅鉢	大 8a 古	II B 4・5a・b 遺物包含層 A断面南 2層	口~底部	9.1	(13.7)	5.6	0.6	156.1	LR→沈線、口縁部突起→爪形削突・原体押圧	スス	135	372
a1393	深鉢	中期	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口~底部	10.9	(10.6)	6.0	0.35	105.8	RL	2単位波状口縁、ススコゲ	135	373
a1394	大 8b~9	大 8b~9	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口~底部	[190]	(16.5)	7.4	0.7	659.1	LR→沈線	2単位波状口縁、コゲ	135	373
a1395	深鉢	大 8a~b	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2~3層	口~底部	18.6	(12.6)	(6.8)	0.5	351.8	LR/小口状工具による横ナデ	小波状口縁? (変形か)、ススコゲ	135	373
a1396	深鉢	中期	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2~3層	口~胴部	11.2	(10.6)	6.8	0.45	101.6	LR	外面摩耗、コゲ	135	373
a1397	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 D断面東 2b~c層、II B 5b 2~3層	口~胴部	[135]	(16.8)	-	0.55	231.8	L→沈線	ススコゲ	136	373
a1398	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2~3層	口~胴部	[11.2]	14.4	-	0.6	350.6	RL→沈線	4単位波状口縁、補修孔2個、ススコゲ、覆林式の可能性も有	136	373
a1399	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口~胴部	[188]	(22.4)	-	0.65	354.0	LR→隆沈線	波状口縁、外面摩耗、スス	136	373
a1400	深鉢	大 6	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口縁部	-	-	-	0.9	174.1	渦巻状附付→沈線(山・平)・爪形削突		136	373
a1401	深鉢	大 8b 古	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口~胴部	-	-	-	0.65	191.1	LR→隆沈線	LRナゲ口縁部と胴部で筋の異なる原体を使用、内外面摩耗	136	373
a1402	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口~胴部	-	-	-	0.8	326.4	RL→沈線	波状口縁、外面摩耗、ススコゲ、覆林式の可能性も有	136	373
a1403	深鉢	大 8b 古	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口~胴部	-	-	-	0.7	345.5	LR→隆沈線	波状口縁、外面摩耗、コゲ	136	373
a1404	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口縁部	-	-	-	0.6	55.0	RLR→沈線	波状口縁、外面摩耗、ススコゲ、覆林式の可能性も有	136	373
a1405	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口縁部	-	-	-	1.05	552.2	RLR→隆帯→原体押圧	波状口縁	136	373

第 10 表 縄文土器観察表 (30)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a1406	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2'層	口~胴部	-	-	423.8	LR→沈線/	内外面摩耗、スス	137	374	
a1407	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 D 断面東 2a層	口縁部	-	-	601	LR→沈線/	波状口縁、ススコケ	136	373	
a1408	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 D 断面東 2a層	胴部	-	-	0.8	結束羽状縄文?→隆帯/	スス	136	374	
a1409	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 D 断面東 2b~3層	口~胴部	[17.5]	-	272.1	LR→沈線・隆帯/	波状口縁、外面摩耗、スス	137	374	
a1410	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 D 断面東 2b~c層	口~胴部	-	-	201.8	RL (0段) →隆沈線/	波状口縁、スス	137	374	
a1411	浅鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 D 断面東 3層	口~胴部	[7.6]	-	186.7	LR→隆帯、口縁部突起/	貫通していない補修孔あり、スス	137	374	
a1412	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 A 断面南 2b~c層	口~胴部	-	-	233.3	LR→隆帯/	-	137	374	
a1413	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2'~3層	口~胴部	-	-	339.4	RL→隆帯/	波状口縁、スス	137	374	
a1414	深鉢	大 8a	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2'~3層	口~胴部	-	-	103.4	LR→隆帯/	波状口縁、ススコケ	137	374	
a1415	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口~胴部	-	-	337.7	RL→沈線/	波状口縁、ススコケ	137	374	
a1416	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口縁部	-	-	117.1	LR→沈線/	ススコケ	137	374	
a1417	深鉢	大 6	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口縁部	-	-	0.7	単軸絡糸体?→沈線・爪形刺突/	スス	138	374	
a1418	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口~胴部	-	-	115.3	RL→沈線・隆沈線/	波状口縁、スス	138	374	
a1419	深鉢	大 6	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口縁部	-	-	103.2	LR?→附付→沈線/	波状口縁、ススコケ	138	374	
a1420	深鉢	大 5	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口縁部	-	-	0.75	LR→隆帯→指頭押圧/	スス	138	374	
a1421	深鉢	大 6	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4a 2層	口~胴部	[16.9]	-	592.2	LR、口縁部渦巻状貼付・隆沈線→竹管による刺突/	ススコケ	138	374	
a1422	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4b 2層	口~胴部	-	-	0.55	RL→沈線/	波状口縁、補修孔1個、スス	138	374	
a1423	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 4c 2層	口~胴部	[28.8]	-	1828.4	LR→沈線/	4車位波状口縁、スス、覆鉢式の可能性も有	138	375	
a1424	深鉢	大 8a 新	II B 4・5a・b 遺物包含層 II B 5b 2層	口~胴部	-	-	0.85	LR→沈線・隆沈線/	スス	138	375	
a1425	深鉢	大 3	中央調査区南西 遺物包含層 2層	胴部	-	-	0.9	LR→沈線/	スス	138	375	
a1426	深鉢	不明	中央調査区南西 遺物包含層 2層	口~底部	13.6	10.7	190.0	RL→沈線/	小波状口縁、ススコケ	138	375	
a1427	深鉢	大 7a	中央調査区南西 遺物包含層 2層	胴部	[16.7]	-	559.4	両端結節羽状RL、口縁部隆帯→沈線→キザミ/	コケ	139	375	
a1428	浅鉢	不明	中央調査区南西 遺物包含層 南区	胴~底部	[6.2]	-	142.4	ナデ/ナデ	-	138	375	
a1429	深鉢	大 8a 新	中央調査区南西 遺物包含層 南区	口~胴部	-	-	691.5	RL (0段)? →隆沈線/	波状口縁、焼成時に変形、重み大きい、部分的に発泡、灰~黄褐色	139	375	
a1430	深鉢	大 8a	中央調査区南西 遺物包含層 南区	口~胴部	-	-	0.8	LR→沈線・磨消/	口縁部突起、焼成時に変形、重み大きい、部分的に発泡、灰色	139	375	
a1431	深鉢	大 8b	中央調査区南西 遺物包含層 南区	口縁部	-	-	0.9	RL→磨突突起・隆沈線/	口縁部突起の破片、スス	139	375	
a1432	深鉢	不明	中央調査区南西 遺物包含層 南区	胴部	-	-	775.7	RL→磨突突起・隆沈線/	焼成時に変形、重み大きい、部分的に発泡、灰色	139	375	
a1433	深鉢	大 6	中央調査区南西 遺物包含層 南区	口縁部	-	-	282.8	文様不明/	二次被熱により内外面剥落	139	375	
a1434	深鉢	大 7b	中央調査区南西 遺物包含層 南区	口縁部	-	-	0.7	磨突突起→爪形刺突/	波状口縁、焼成時に変形、重み大きい、部分的に発泡、灰色	139	376	
a1435	深鉢	大 6	中央調査区南西 遺物包含層 南区	口縁部	-	-	232.6	胴部突起・磨消/	スス	139	376	
a1436	深鉢	大 7b	中央調査区南西 遺物包含層 南区	口縁部	-	-	1.2	隆帯→原体押圧→沈線/	口縁部突起の破片	140	376	
a1437	台形鉢?	大 8a	中央調査区南西 遺物包含層 南区	口縁部	[6.5]	-	65.1	L→沈線/	晩期	140	375	
a1438	深鉢	大 6	中央調査区南西 遺物包含層 南区	口縁部	-	-	0.8	磨突突起・隆帯→爪形刺突/隆帯	口縁部突起の破片	140	376	
a1439	深鉢	大 3	中央調査区南西 遺物包含層 北区	胴部	-	-	158.5	LR→沈線/	ススコケ	140	376	
a1440	深鉢	大 4	中央調査区南西 遺物包含層 北区	口縁部	-	-	0.65	原体不明→隆帯/	ススコケ	140	376	
a1441	深鉢	大 3	中央調査区南西 遺物包含層 北区	口縁部	-	-	0.9	付加条→沈線/	波状口縁?	140	376	
a1442	深鉢	大 3	中央調査区南西 遺物包含層 北区	胴部	-	-	0.75	付加条→沈線/	-	140	376	
a1443	深鉢	大 9古	中央調査区南西 遺物包含層 北区	胴部	-	-	0.6	RL→隆沈線→刺突/	赤彩	140	376	
a1444	深鉢	大 8b~9	B7号竪穴建物 北東区 堆積土下位	口縁部	-	-	11.5	単軸絡糸体1類 (R) →沈線/	-	140	376	
a1445	深鉢	大 7a	B7号竪穴建物 煙道部トレンチ	口縁部	-	-	1.05	沈線/	-	140	376	
a1446	浅鉢	大 8b	B7号竪穴建物 煙道部トレンチ	口縁部	-	-	0.55	11.4	原体不明→隆沈線/	スス	140	376
a1447	深鉢	大 8b 新	B8号竪穴建物 カマド西側層築土	口縁部	-	-	0.9	330.2	LR (0段) →隆沈線・ナデ/	140	376	
a1448	深鉢	不明	B8号竪穴建物 土坑1堆積土	口縁部	-	-	0.85	137.3	LR (0段) →隆沈線/	140	376	
a1449	深鉢	大 8b	B8号竪穴建物 煙道付近	胴部	-	-	0.6	34.2	LR→隆沈線/	140	376	
a1450	深鉢	不明	B8号竪穴建物 土坑1堆積土	口縁部	-	-	0.9	202.5	LR/	140	376	
a1451	深鉢	大 8b	B8号竪穴建物 土坑1堆積土	胴部	-	-	0.7	50.4	LR? →隆沈線/	140	376	
a1452	深鉢	大 6	B8号竪穴建物 土坑1堆積土	口縁部	-	-	0.9	62.6	原体不明→沈線/	口縁部キザミ、ススコケ	140	376
a1453	深鉢	大 7b~8a	B9号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	0.7	42.8	RL→沈線→刺突/	波状口縁	140	376
a1454	深鉢	大 8b~9	B9号竪穴建物 カマド付近 堆積土下位	口~胴部	-	-	0.8	430.6	RLR →沈線/	波状口縁	140	376

第 10 表 縄文土器観察表 (31)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a1455	深鉢	大 7a	B12号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	323.2	結束羽状縄文→隆帯→沈線・半載竹管による押し引き・キザミ	波状口縁	140	376	
a1456	深鉢	大 8b~9	B12号竪穴建物 西区 堆積土	口縁部	-	-	191	RL→沈線	波状口縁	141	376	
a1457	深鉢	大 8	B12号竪穴建物 北西区 堆積土	口縁部	-	-	576	LR/	外面摩耗	141	376	
a1458	深鉢	大 7b	B12号竪穴建物 北西区 堆積土	口縁部	-	-	163	隆帯→原体押圧	スス	141	376	
a1459	深鉢	大 8	B12号竪穴建物 南西区 堆積土	口縁部	-	-	9.7	LR→突起・隆法線	スス	141	376	
a1460	深鉢	大 8a	B12号竪穴建物 南西区 堆積土	口縁部	-	-	33.7	RLR?→隆法線	波状口縁、スス	141	376	
a1461	深鉢	中期	B14号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	131.4	LR、口縁部突起	外面摩耗	141	376	
a1462	深鉢	大 8a	B14号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	89.2	LR→隆法線	波状口縁、ススコゲ	141	376	
a1463	深鉢	大 8a	B14号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	46.2	LR→隆帯・沈線	波状口縁、スス、外面摩耗	141	376	
a1464	深鉢	大 8a	B14号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	52.1	RLR?→沈線、口縁部隆帯・突起	波状口縁、スス、外面摩耗	141	377	
a1465	深鉢	大 6~7a	B14号竪穴建物 南東区 堆積土	口縁部	-	-	38.7	沈線・突起、口縁部隆帯	波状口縁	141	377	
a1466	深鉢	大 8	B14号竪穴建物 南北ベルト1層	口縁部	-	-	42.1	LR→隆法線	波状口縁	141	376	
a1467	深鉢	大 5	B14号竪穴建物 南北ベルト1層	口縁部	-	-	19.7	車輪跡条体 1A 類 R?→沈線、口縁部突起	ススコゲ	141	377	
a1468	深鉢	大 7a?	B14号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	30.0	RL/	ススコゲ	141	377	
a1469	深鉢	大 7a	B14号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	38.1	RL→隆帯→沈線・RL	波状口縁	141	377	
a1470	深鉢	大 7b	B14号竪穴建物 東西ベルト1層	口縁部	-	-	0.7	RL→隆帯→キザミ	波状口縁	141	377	
a1471	深鉢	大 6~7a	B14号竪穴建物 カマド トレンチ	口縁部	-	-	24.1	LR→隆帯→キザミ	スス	141	377	
a1472	深鉢	大 5	B14号竪穴建物 P02 堆積土	口縁部	-	-	29.9	結節回底文?→隆帯→キザミ	スス	141	377	
a1473	深鉢	大 7a	B14号竪穴建物 溝 1 堆積土	胴部	-	-	91.3	結節回底文?→隆帯・沈線→キザミ	ススコゲ	141	377	
a1474	深鉢	大 3?	B14号竪穴建物 北東区 堆積土	口縁部	-	-	14.4	沈線→キザミ	スス	141	377	
a1475	深鉢	大 5	B15号竪穴建物 北西区 堆積土	口縁部	-	-	0.8	原体押圧・沈線	ススコゲ	141	377	
a1476	深鉢	大 7	B15号竪穴建物 北東区 堆積土	口縁部	-	-	63.4	結節LR?/	コゲ	141	377	
a1477	浅鉢	大 8b 古	B16号竪穴建物 調査区観察 堆積土	口~底部	25.2	-	1946.0	ナデ、口縁部LR→隆法線/ナデ	赤彩	141	377	
a1478	重	大 8b	B16号竪穴建物 調査区観察 堆積土	口~底部	26.9	(39.0)	819.5	ナデ→筋突起・隆法線	二次被熱により剥落、ススコゲ	141	377	
a1479	深鉢	大 8b~9	B16号竪穴建物 堆積土	口~底部	11.0	(9.0)	202.1	LR→沈線	波状口縁、外面摩耗、ススコゲ	142	377	
a1480	深鉢	大 8b~9	B16号竪穴建物 堆積土	胴~底部	[15.2]	-	98.1	LR→隆法線	ススコゲ	142	377	
a1481	深鉢	大 9 古	B16号竪穴建物 堆積土	口~底部	[14.3]	-	830.1	車輪跡条体 1 類 R→隆法線	スス	142	377	
a1482	深鉢	大 8b~9	B16号竪穴建物 調査区観察 堆積土	口~胴部	-	-	568.8	LR→沈線	スス	142	378	
a1483	深鉢	大 9 古	B16号竪穴建物 調査区観察 堆積土	胴部	-	-	88.9	LR→隆法線	コゲ	142	377	
a1484	浅鉢	大 8b	B16号竪穴建物 堆積土	口~胴部	[18.7]	(34.4)	742.7	ナデ、LR→隆法線	波状口縁、スス	142	378	
a1485	深鉢	大 8b	B16号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	217.8	LR→隆法線	波状口縁、スス	142	377	
a1486	深鉢	中期	B21号竪穴建物 堆積土	口縁部	-	-	123.4	LR→沈線	波状口縁、スス	142	377	
a1487	深鉢	大 8b	II A 5 x II層	口~胴部	-	-	293.7	車輪跡条体 1 類 R→隆帯・隆帯	スス	142	378	
a1488	浅鉢	大 8b	II A 5 x II層	口~胴部	[14.9]	(37.4)	642.4	ナデ、車輪跡条体 1A 類→隆帯	スス	143	378	
a1489	深鉢	大 8b~9	II A 5 x II層	口~底部	27.3	20.8	1360.8	LR/	4 単位波状口縁、スス	143	378	
a1490	深鉢	大 8b	II A 5 x II層	口~胴部	[19.8]	17.2	628.8	LR→隆法線	3 単位波状口縁、ススコゲ	143	378	
a1491	深鉢	大 6	II A 5 x II層	口~胴部	[21.0]	14.0	728.6	LR→沈線、口縁部突起→原体押圧→ナデ	スス、原体押圧痕後のナデにより不明瞭	143	378	
a1492	深鉢	大 8b~9	II A 5 x II層	胴~底部	[11.3]	-	358.6	RL→沈線	スス	143	378	
a1493	深鉢	大 8b	II A 5 x II a 層	口~底部	13.2	(12.8)	239.5	LR→隆法線	波状口縁	143	378	
a1494	深鉢	大 2b	II A 5 x II b 層	口~胴部	-	-	250.4	結節/組紐	波状口縁	143	379	
a1495	深鉢	大 8b 古	II A 5 x y II層	口~底部	32.6	(22.4)	756.0	LR→隆法線・隆法線	4 単位波状口縁、ススコゲ	143	379	
a1496	深鉢	大 8a	II A 5 y 南西区 II b 層	口~胴部	[23.5]	18.8	960.8	LR→隆法線	スス	144	379	
a1497	深鉢	大 8b	II A 5 y II b 層	口~底部	18.4	(14.6)	425.4	RL→沈線	2 単位波状口縁、スス	144	378	
a1498	深鉢	大 5	II A 5 y 南西区 II b 層	口縁部	-	-	76.2	車輪跡条体 1A 類 R→隆帯→竹管による円形細突	波状口縁	144	378	
a1499	深鉢	大 5	II A 5 y II層	口縁部	-	-	101.2	結節付加条縄文	押圧による小波状口縁	144	378	
a1500	深鉢	大 8b	II A 5 y II b 層	口縁部	-	-	166.2	RLR→隆法線、口縁部突起の張り出し→上面に隆法線	波状口縁	144	379	
a1501	深鉢	大 7a	II A 5・6 x II層	口~胴部	[28.8]	(28.8)	1069.5	LR (0 段)→隆法線・沈線	波状口縁、外面摩耗、ススコゲ	144	379	
a1502	深鉢	大 8b~9	II A 5・6 y III層	口~底部	[39.2]	(32.0)	1940.8	LR→沈線	ススコゲ	144	379	
a1503	深鉢	大 8b	II A 5・6 y II b 層	口~胴部	[39.8]	24.4	4130.0	車輪跡条体 1 類 R/	外面摩耗、ススコゲ	145	380	
a1504	深鉢	大 8b	II A 5・6 y II層	口~胴部	-	-	563.4	LR/	ススコゲ	144	380	
a1505	深鉢	大 5	II A 5~8 x II層	口~胴部	[12.9]	(29.4)	671.6	車輪跡条体 1A 類 R、口縁部隆帯→キザミ	4 単位波状口縁、器形歪み	145	379	

第 10 表 縄文土器観察表 (32)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)		重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写図 No.	
					器高	口径						
a1506	深鉢	大7a	II A 6w II b層	口縁部	-	0.95	905	結節 LR? → 竹管による沈線・押し引き /		145	379	
a1507	深鉢	大7a	II A 6w II b層	口縁部	-	1.0	785	LR (0段) → 隆帯 → 指頭押圧 /		145	379	
a1508	深鉢	大7a	II A 6w II b層	口縁部	-	0.8	538	RL → 沈線・貼付 → 刺突 /	コゲ	145	380	
a1509	深鉢	大6~7a	II A 6w II b層	口縁部	-	0.9	734	貼付 → 沈線・キザミ /		145	380	
a1510	深鉢	大6	II A 6w II b層	胴部	-	0.7	370	隆帯 → 沈線 /		145	380	
a1511	浅鉢	大8a	II A 6w	口~胴部	[8.7]	(20.6)	300.4	RLR → 沈線・原形押圧・口縁部突起 /		145	380	
a1512	深鉢	大8a	II A 6w	口~胴部	[20.0]	20.2	760.3	LR → 隆帯・口縁部突起 /	隆帯剥落多い、外面摩耗	145	380	
a1513	深鉢	大7a	II A 6w II a層	口縁部	-	0.75	625	ナデ → 隆帯・口縁部突起 /		145	380	
a1514	深鉢	前中期	II A 6w II a層	口~胴部	-	0.7	108.0	結束羽状細文 /	スス	145	380	
a1515	深鉢	大7a	II A 6w II a層	口縁部	-	0.9	92.8	隆帯 → 沈線 → キザミ /	波状口縁	145	380	
a1516	深鉢	大7a?	II A 6w II a層	口縁部	-	0.8	300	沈線 → 刺突 /	波状口縁	145	380	
a1517	深鉢	大6	II A 6w II 層	口縁部	-	0.55	31.4	ボタン状貼付 → 沈線・半載竹管による刺突 /	ススコゲ	145	380	
a1518	深鉢	大5	II A 6w II b層	口~胴部	-	1.1	458.5	LR・口縁部付近指頭押圧・口縁部上面 LR /	コゲ	145	380	
a1519	深鉢	大5	II A 6w II b層	口~胴部	-	0.9	178.2	結節回転文 L /		146	380	
a1520	深鉢	大5	II A 6w II b層	口~胴部	-	0.85	138.9	両端結節 RL・口縁部突起 /		146	380	
a1521	深鉢	大6	II A 6w II b層	口~胴部	-	0.65	122.7	ナデ → 貼付 /	波状口縁	146	381	
a1522	深鉢	大4	II A 6w II b層	口縁部	-	0.75	61.6	結節 LR → 隆帯 (平・山) /	ススコゲ	146	381	
a1523	深鉢	大6	II A 6w II b層	口縁部	-	1.1	57.9	沈線・竹管による凹形刺突 /		146	381	
a1524	深鉢	大2a	II A 6w II b層	胴部	-	0.9	160.6	細紐・組紐・板状工具? による横ナデ		146	381	
a1525	深鉢	大7a	II A 6w・7x II b層	口~胴部	[7.2]	(14.6)	109.7	結節 LR → 沈線 → 竹管交互刺突 /		146	381	
a1526	深鉢	大7a	II A 6w・x II層	口~胴部	-	1.1	60.1	細沈線 → 刺突 /		146	381	
a1527	深鉢	前期	II A 6w・x・7x II層	口~胴部	-	0.9	368.0	車輪絡糸体 6 組? /	波状口縁・ススコゲ	146	381	
a1528	深鉢	大5	II A 6w・x・7x II層	口~胴部	-	0.9	451.1	LR? → 沈線・口縁部 W 字状突起 → 淵部凹形刺突 /	原体の節はくれており不明、ススコゲ	146	381	
a1529	深鉢	大7a	II A 6x I~II層上面	胴部	-	0.9	19.7	LR → 沈線 → 隆帯 → 交互刺突 /		146	381	
a1530	深鉢	凹下 d	II A 6x II 層	口縁部	-	0.7	60.5	結束羽状細文 → 原形押圧 /	スス	146	381	
a1531	深鉢	大4	II A 6x II~III層	胴部	-	(0.4)	5.2	LR → 細隆帯・沈線 /	内面剥落	146	381	
a1532	深鉢	大8b新	II A 6x II b層	口~胴部	[41.4]	(37.6)	2005.5	LR → 隆沈線 /	外面摩耗	147	381	
a1533	深鉢	大8b~9	II A 6x II b層	口~底部	[22.4]	19.1	784.4	LR → 沈線 /	2 車位波状口縁	147	381	
a1534	深鉢	大5	II A 6x II b層	口~胴部	-	1.0	1.456.7	車輪絡糸体 5 類 → 隆帯 → 爪形刺突 /		147	381	
a1535	深鉢	大5	II A 6x II層	口~胴部	[34.6]	25.7	2.175.7	車輪絡糸体 5 類 /	4 車位波状口縁・淵部押圧、スス・輪縁み明瞭	147	382	
a1536	深鉢	前期	II A 6x II b層	口~胴部	-	1.2	793.4	車輪絡糸体 1A 類 R /	波状口縁?、スス	147	382	
a1537	深鉢	大2b	II A 6x II b層	胴部	-	0.9	32.89	結束? 組紐 / 組紐		147	381	
a1538	浅鉢	大8b	II A6・7x II層	口~胴部	[20.1]	(42.0)	837.9	胴部近いナデ (砂粒跡大きい)、口縁部 RL → 隆沈線 /	スス	147	382	
a1539	深鉢	大8b新	II A6・7x II層	口~胴部	[24.2]	(33.3)	943.0	RLR → 隆沈線 /	内面にターム状の黒色付着物 (アスファルト?)	148	382	
a1540	深鉢	大8	II A 6y II b層	胴部	-	0.9	33.8	原形不明 → 沈線 /		147	382	
a1541	深鉢	大8b	II A 6y II~III層	胴部	-	0.75	99.6	LR → 隆沈線 /	スス	147	382	
a1542	深鉢	大7b	II A 6y II a層	口~胴部	[23.1]	17.4	548.5	RL → 隆帯・原形押圧 → キザミ /		148	382	
a1543	葺	大8b新	II A 6y II a層	胴~底部	[10.0]	6.2	302.0	RL → 隆沈線 → 凹形刺突 /		148	382	
a1544	深鉢	中期	II A 6y II a層	口~胴部	[22.6]	(37.8)	954.1	LR /		149	383	
a1545	深鉢	大8b新	II A 6y II b層	口~底部	35.2	14.8	11.2	3.386.3	ナデ → 隆沈線・橋状突起 /	剥落多く観察困難、隆沈線は 3 条の平行沈線を引いた後に同側 2 条の上に隆帯を貼っている。	149	383
a1546	深鉢	大7a?	II A 6y II b層	口~胴部	[9.7]	(14.8)	152.2	LR → 橋状突起・隆帯 → 爪形刺突 /	外面摩耗、コゲ	148	382	
a1547	浅鉢	大7b	II A 6y 南北ベルト II b層	口~胴部	[12.3]	(26.0)	393.9	LR → 隆帯 → 原形押圧 /	内外面摩耗、スス	148	382	
a1548	深鉢	大7a	II A 6y 南北ベルト・北西区 II b層	口~胴部	[15.2]	(23.5)	598.6	隆帯 → LR /	4 車位波状口縁、ススコゲ	148	383	
a1549	深鉢	前期	II A 6y II a層	口~胴部	-	1.1	450.2	橋状工具による上下方向の不規則な沈線 /	スス	148	383	
a1550	深鉢	大4	II A 6y II a層	口縁部	-	1.0	139.0	ナデ / S 字状貼付・細隆帯		148	383	
a1551	深鉢	大7b	II A 6y II a層	頸~胴部	-	0.8	310.4	両端結節 LR → 半載竹管による押し引き・原形押圧 /		148	383	
a1552	深鉢	大7a	II A 6y 北西区 II層	頸~胴部	-	0.7	440.9	LR → 隆帯・貼付・細沈線・半載竹管による押し引き・橋状工具による刺突 /		149	383	
a1553	深鉢	大6~7a	II A 6y II a層	口縁部	-	0.6	80.4	橋状突起 → LR → 沈線・口縁部突起 /		149	383	

第 10 表 縄文土器観察表 (33)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a1554	深鉢	大 7a	II A 6y II a 層	口縁部	-	-	104.9	ボタン状貼付→細沈線/	波状口縁	149	383	
a1555	深鉢	大 7a	II A 6y II a 層	口縁部	-	-	74.9	RL (0 段) →隆帯→片頭押圧/	ススコグ	149	383	
a1566	深鉢	大 4	II A 6y II a 層	口縁部	-	-	55.3	LR →隆帯/	ススコグ	149	383	
a1557	深鉢	大 7a	II A 6y II b 層	口~胴部	-	-	129.9	RL (0 段) →沈線、口縁部小突起/	ス	149	383	
a1558	深鉢	大 5	II A 6y II a 層	口~胴部	-	-	71.3	LR →細隆帯、口縁部山形貼付/	ス	149	383	
a1559	深鉢	前朝前	II A 6y II b 層	胴部	-	-	91.8	結束羽状縄文/	ス	149	383	
a1560	深鉢	大 7a	II A 6y 北西区 II a 層	口縁部	-	-	215.3	隆帯→結束羽状縄文/	波状口縁	149	384	
a1561	深鉢	大 5	II A 6y 南北ペルト II a 層	口縁部	-	-	34.7	両端結節 RL、口縁部隆帯→キザミ/	ス	149	384	
a1562	深鉢	大 3	II A 6y 南北ペルト II a 層	口縁部	-	-	88.2	結節 LR →隆帯→原形押圧/	ス	149	384	
a1563	深鉢	大 7a?	II A 6y 南北ペルト II a 層	口縁部	-	-	43.7	車輪条体 1A 類、口縁部 M 字状貼付/	ススコグ	149	384	
a1564	深鉢	大 8b~9	II A 6y 西区 II b 層	口~胴部	-	-	272.3	車輪条体 1 類 R →隆沈線・橋状突起/	内面にタール状の黒色付着物、補修孔 2 個と穿孔跡中で止めた？孔 2 個	150	384	
a1565	深鉢	大 8b~9	II A 6y II b 層	口~胴部	-	-	409.8	RLR →隆沈線/	波状口縁、補修孔	150	384	
a1566	深鉢	大 8b 新	II A 6y II b 層	口~胴部	-	-	396.8	隆帯/	赤彩？	150	384	
a1567	浅鉢	大 8b	II A 6y・II B 6a II b 層	口~胴部	[122]	(31.4)	489.7	RL →隆沈線→短沈線/	ススコグ	150	384	
a1568	深鉢	大 7a	II A 6・7y	口~胴部	[143]	(18.1)	342.1	LR →橋状突起 (欠損)、口縁部突起 1 箇所/	ススコグ	150	384	
a1569	浅鉢	大 8b	II A 6・7y 南北ペルト II a 層	口~胴部	[135]	(34.2)	356.3	ナデ、車輪条体 1A 類→隆沈線/	ススコグ	150	384	
a1570	深鉢	不明	II A 7v II b 層	胴~底部	[78]	-	278.4	ナデ/	ススコグ	150	384	
a1571	深鉢	大 7b	II A 7v II b 層	口縁部	-	-	110.1	LR →隆帯→原形押圧/	ススコグ	150	384	
a1572	深鉢	大 5	II A 7v II b 層	口縁部	-	-	62.9	車輪条体 5 類/	胎土粗い	150	384	
a1573	深鉢	大 7a	II A 7v II b 層	口縁部	-	-	52.1	車輪条体 5 類？ →丸形刺突/	波状口縁、ス	150	384	
a1574	深鉢	大 7a	II A 7v II b 層	口縁部	-	-	43.7	結節 RL/	ススコグ	150	384	
a1575	浅鉢？	中期	II A 7v II b 層	口縁部	-	-	27.5	ナデ/	コグ	150	384	
a1576	深鉢	大 6	II A 7v II b 層	頸部	-	-	17.9	沈線 (平・山) /	ス	150	384	
a1577	深鉢	大 8b 新	II A 7v II a 層	口~底部	19.6	18.4	883.4	LR →隆沈線/	4 単位波状口縁で 2 個に穿孔、画面摩耗、ス	151	385	
a1578	深鉢	大 7b	II A 7v II 層	口~底部	[252]	(17.0)	604.3	LR →隆帯→原形押圧/	波状口縁、ススコグ、円筒上層 b~c 式か	151	385	
a1579	深鉢	大 8b~9	II A 7v II a 層	口~底部	[168]	(15.4)	204.3	LR →沈線/	2 単位波状口縁、コグ	151	384	
a1580	深鉢	大 7a	II A 7v II a 層	口~胴部	-	-	319.2	L 孔 R? →沈線/	コグ	151	385	
a1581	深鉢	大 5	II A 7v II a 層	口~胴部	-	-	165.2	結節 RL →隆帯→キザミ、口縁部上面突起→押圧/	ス	151	385	
a1582	深鉢	中期前	II A 7v II a 層	口~胴部	-	-	144.9	細隆帯→沈線→交互刺突、口縁部突起/	五領ヶ台系	151	385	
a1583	深鉢	大 6	II A 7v II a 層	口縁部	-	-	53.7	沈線/	波状口縁	151	385	
a1584	深鉢	大 7a	II A 7v II 層	口~胴部	[144]	(31.2)	548.4	隆帯→RL (0 段) →半波竹管による押し引き・キザミ/	ススコグ	151	385	
a1585	深鉢	大 7a	II A 7v II b 層	口~胴部	[139]	(20.6)	279.8	両端結節 RL →隆帯→短沈線、口縁部山形突起/	コグ	151	385	
a1586	深鉢	大 6	II A 7v II b 層	口~胴部	-	-	211.8	車輪条体 1A 類、口縁部上面竹管による円形刺突/	波状口縁	151	385	
a1587	深鉢	大 5	II A 7v II b 層	口縁部	-	-	73.6	車輪条体 1A 類、口縁部上面竹管による円形刺突/	ススコグ	151	385	
a1588	深鉢	前期？	II A 7v II b 層	胴部	-	-	54.2	隆帯工具？による横ナデ→多輪条体/	コグ	151	385	
a1589	浅鉢	大 8b 古	II A 7v II a 層	口~底部	18.0	(29.0)	890.3	RL →隆沈線/	ススコグ	152	385	
a1590	深鉢	大 8b	II A 7v・w II~III 層	口~底部	50.1	30.5	4487.7	RL/	ス	152	386	
a1591	浅鉢	中期	II A 7v・w II a 層	胴~底部	[88]	-	674.3	ナデ/ナデ	ス	152	386	
a1592	深鉢	大 8b	II A 7v・w II a 層	口~胴部	[342]	(29.6)	1265.3	RL/	コグ	152	386	
a1593	深鉢	大 7a	II A 7v 東西 II a 層	口~胴部	[221]	(26.0)	568.0	結束 LR →隆帯・ボタン状貼付→沈線→細沈線/	波状口縁、コグ	152	386	
a1594	深鉢	大 9 新	II A 7w II b 層	胴~底部	[9.5]	-	284.4	LR →沈線・磨消/	ス	152	386	
a1595	深鉢	大 8b 新	II A 7w II b 層	口~胴部	-	-	452.6	車輪条体 1 類 L →沈線→刺突/	ス	152	386	
a1596	深鉢	大 8b	II A 7w III 層	口~胴部	[41.9]	(39.4)	2540.5	LR →一部橋状工具による斜め方向の不規則な細沈線/	4 単位波状口縁、器形歪み大、補修孔 1 個、外面摩耗、ススコグ	153	387	
a1597	深鉢	大 8b 新	II A 7w II a 層	口~胴部	[47.7]	(45.0)	4370.2	L →隆沈線/	波状口縁	153	387	
a1598	浅鉢	大 8b	II A 7w II a 層	口~胴部	[225]	(43.4)	829.2	RL (0 段) →隆沈線/	ス	153	387	
a1599	深鉢	大 8b 新	II A 7w II a 層	口~胴部	[135]	(14.4)	242.4	LR →隆沈線→刺突/	2 単位波状口縁	153	386	
a1600	深鉢	大 8b	II A 7w II a 層	口縁部	-	-	653	LR →隆沈線/	ススコグ	153	387	

第 10 表 縄文土器観察表 (34)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
ai1601	球胴深鉢	大6~7a	II A 7w II a層	頸部	-	-	400	隆帯→沈線→短沈線	スス	153	387	
ai1602	深鉢	大7a	II A 7w II層	口縁部	-	0.75	236.7	LR	スス	153	388	
ai1603	深鉢	大6	II A 7w II b層	胴部	-	0.8	120.5	LR→半載竹管による沈線・刺突	コゲ	153	387	
ai1604	深鉢	大8b新	II A 7x II層	胴部	-	0.5	573.7	RLR→隆沈線→竹管刺突	ススコゲ	153	387	
ai1605	深鉢	大8b新	II A 7x II a層	口~胴部	(166)	-	626.5	ナデ→筋状突起・隆沈線	内外面にターール状の黒色付着物	154	387	
ai1606	深鉢	大8b	II A 7x II a層	口~胴部	(210)	-	511.0	LR	ススコゲ	154	387	
ai1607	深鉢	大8b新	II A 7x II a層	口~胴部	(148)	(81)	333.0	RL→隆沈線→竹管刺突	2単位波状口縁、口縁部内側に歪み、ススコゲ	154	388	
ai1608	深鉢	大8b新	II A 7x II層	口~底部	11.4	(52)	256.3	RL→隆沈線	2単位波状口縁、波状部最大口径14.6cm、補修孔2個、スス	154	388	
ai1609	深鉢	大9古	II A 7x II層	口~胴部	13.4	-	304.9	LR→沈線・磨消	器形歪み、コゲ	154	388	
ai1610	深鉢	大8b	II A 7x II b層	胴~底部	-	4.6	168.9	LR→沈線	ナデ、LR→隆沈線	154	388	
ai1611	深鉢	大8b新	II A 7x II a層	口~胴部	-	1.0	312.4	ナデ、LR→隆沈線	外面磨耗	154	388	
ai1612	球胴深鉢	大7a	II A 7x II a層	口~胴部	-	0.8	198.4	面端結節LR?→隆帯→RL→キザミ、口縁部円形突起		154	388	
ai1613	浅鉢	大7b	II A 7x II a層	口~胴部	-	0.7	124.8	RL→隆帯→原体押圧	波状口縁→穿孔	154	388	
ai1614	深鉢	大7a	II A 7x II a層	口縁部	-	0.6	99.2	LR(0段)→隆帯→半載竹管による沈線→キザミ、口縁部円形突起		154	388	
ai1615	深鉢	大6	II A 7x II a層	口縁部	-	0.7	38.6	沈線・竹管による押し引き→刺突	波状口縁	154	388	
ai1616	深鉢	大8b新	II A 7x II層	口~胴部	-	0.8	987.0	LR→隆沈線	8単位波状口縁、外面下位刺落、スス	155	388	
ai1617	深鉢	大8b新	II A 7x II層	口~胴部	-	0.9	464.9	LR?→沈線・隆帯	波状口縁、外面磨耗	155	388	
ai1618	深鉢	前期	II A 7x II層	口~胴部	-	1.3	297.6	車軸絡糸体 2LR?		155	388	
ai1619	深鉢	大5	II A 7x II~II層	胴部	-	-	95.6	車軸絡糸体 1A類→隆帯→刺突		155	388	
ai1620	深鉢	大5	II A 7x II b層	口~胴部	-	1.1	840.5	LR(0段)、口縁部M字状貼付	スス	155	389	
ai1621	深鉢	大5	II A 7x II b層	口~胴部	-	0.9	529.8	R→隆帯→爪形刺突(押圧に近い)	波状口縁、スス	155	389	
ai1622	深鉢	大6~7a	II A 7x II b層	口縁部	-	0.7	52.6	沈線	波状口縁	155	389	
ai1623	深鉢	大5	II A 7x II b層	口縁部	-	1.0	67.9	沈線・指頭押圧、口縁端部キザミ		155	389	
ai1624	深鉢	大8b新	II A 7x II a層	口~胴部	-	0.7	321.4	RLR→沈線・隆沈線	4単位波状口縁、スス	155	389	
ai1625	深鉢	大8b~9	II A 7y II a層	胴~底部	[11.5]	10.6	1.086.0	LR→沈線	外面磨耗	156	389	
ai1626	深鉢	大8b新	II A 7y II a層	口~底部	21.0	(20.4)	518.1	RL→隆沈線	8単位波状口縁	156	389	
ai1627	深鉢	大7a	II A 7y II a層	口~胴部	-	0.6	170.6	RL→隆沈線→刺突	波状口縁、コゲ	156	389	
ai1628	深鉢	大7a	II A 7y II a層	口~胴部	-	0.8	272.7	LR→隆帯→原体押圧	波状口縁、ススコゲ	156	389	
ai1629	深鉢	大4	II A 7y II a層	胴部	-	0.9	60.2	LR(0段)→ナデ・隆帯→円形刺突		156	389	
ai1630	深鉢	円下d~上a	II A 7y II a層	口縁部	-	0.6	32.3	LR・原体押圧		156	389	
ai1631	深鉢	大5~6	II A 7y II層	胴~底部	[22.3]	(20.6)	1,237.2	付加糸LR		156	390	
ai1632	深鉢	前期	II A 7y II a層	口~胴部	-	0.9	243.0	ボタン状貼付・隆帯→LR・LRL併用?/	外面磨耗、ススコゲ	156	389	
ai1633	深鉢	大7a	II A 7y II a層	口縁部	-	0.65	91.9	貼付→LR→沈線、口縁部突起	貼付刺落、スス	156	390	
ai1634	深鉢	大7a	II A 7y II a層	口縁部	-	0.8	83.7	隆帯→LR→爪形刺突	スス	156	390	
ai1635	深鉢	大7a	II A 7y II a層	口縁部	-	-	68.3	隆帯→LR(0段)→半載竹管による沈線・押し引き・刺突		156	390	
ai1636	深鉢	大7a	II A 7y II a層	口縁部	-	0.7	39.4	LR→隆帯・口縁端部沈線	波状口縁?	156	390	
ai1637	深鉢	大7a	II A 7y II a層	口縁部	-	0.35	66.5	RL→細隆帯・隆帯(波)	コゲ	156	390	
ai1638	深鉢	大7b~8a	II A 7y II a層	口縁部	-	0.7	45.5	結節RL→沈線(11) /	ススコゲ	156	390	
ai1639	深鉢	大3	II A 7y II a層	口縁部	-	0.65	21.7	細沈線		156	390	
ai1640	深鉢	大7a	II A 7y II a層	口縁部	-	0.6	23.3	沈線		156	390	
ai1641	深鉢	大6~7a	II A 7y II a層	口縁部	-	0.8	35.8	ボタン状貼付→細沈線		156	390	
ai1642	深鉢	大6~7a	II A 7y II a層	口縁部	-	0.9	51.0	RL→沈線・隆沈線/竹管による刺突、口縁部くち		157	390	
ai1643	深鉢	大6	II A 7y II a層	口縁部	-	0.9	55.0	押し引き	波状口縁	157	390	
ai1644	深鉢	大6	II A 7y II a層	胴部	-	0.7	25.2	半載竹管による沈線・押し引き	ススコゲ	157	390	
ai1645	深鉢	大5	II A 7y 南北トレンチ II a層	口縁部	-	0.7	85.0	R→円形突起、口縁部上面沈線・円形刺突	スス	157	390	
ai1646	深鉢	大3	II A 7y 南北トレンチ II a層	口縁部	-	0.7	47.6	沈線		157	390	
ai1647	深鉢	大3?	II A 7y 南北トレンチ II a層	口縁部	-	0.9	25.8	車軸絡糸体 1A類?→沈線		157	390	

第 10 表 縄文土器観察表 (35)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真
					器高	口径	底径					
ai649	深鉢	大5	II A 7y 南北トレンチ	胴部	-	-	520	沈線・半戴竹管による刺突/		157	390	
ai650	深鉢	大3	II A 7y 皿層	胴部	-	-	313	沈線・押し引き/	スス	157	390	
ai651	深鉢	大7a	II A 7y II層	口縁部	-	-	281.3	RL→梅花突起・隆帯→沈線・刺突・口縁部突起→		157	390	
ai652	深鉢	大6	II A 7y II層	口縁部	-	-	840	ナデ/	スス	157	390	
ai653	深鉢	大5	II A 7y II層	胴部	-	-	135.8	原形不明→沈線 (II) /		157	390	
ai654	深鉢	大5	II A7・8y II a層	口～胴部	-	-	205.7	車輪筋条体5類/	ススコゲ	157	390	
ai655	深鉢	大7a	II A 7y 皿層	口縁部	-	-	156.0	原形不明・隆帯→沈線・爪形刺突/		157	390	
ai656	深鉢	大3	II A 7y 皿層	口縁部	-	-	46.0	L→隆帯・貼付→沈線→竹管による刺突/	ススコゲ	157	390	
ai657	深鉢	大5	II A 7y II層	口～胴部	[18.4]	(29.5)	667.3	L, RL 2 /	摩耗・割落により文様不明瞭、ススコゲ	157	391	
ai658	深鉢	大3	II A7・8y II a層	口～胴部	-	-	112.9	原形押圧・爪形刺突/		157	391	
ai659	深鉢	大7b	II A 8u II a層	口～胴部	[29.8]	(26.6)	853.0	RL (0段) →隆帯→原形押圧/	4 単位波状口縁	157	391	
ai660	深鉢	大6	II A 8u II層	胴部	-	-	71.7	L→原形押圧/	スス	157	391	
ai661	深鉢	大7a	II A 8v II a層	口縁部	-	-	34.7	L→原形押圧/	スス	158	391	
ai662	深鉢	大7b	II A 8v	口縁部	[5.6]	(24.0)	158.2	離れ突起・隆帯→RL→沈線・刺突/	波状口縁	158	391	
ai663	深鉢	大4	II A 8v II層	口縁部	[9.7]	(39.8)	302.4	車輪筋条体 IA 類? →細隆帯・口縁部突起貼付 (II) / 口縁部細隆帯 (II) /		158	391	
ai664	深鉢	大2b	II A 8v II b層	口～胴部	-	-	274.2	LR・口縁部指ささえにより花弁状/		158	391	
ai665	深鉢	大7a	II A 8v I b～II層上面	口縁部	-	-	156.9	原形不明→隆帯/	波状口縁	158	391	
ai666	深鉢	大7a	II A 8v II a層	口縁部	-	-	163.5	LR→隆帯→竹管による下方向からの刺突/		158	391	
ai667	深鉢	大7a	II A 8w	口～胴部	[12.9]	(20.2)	182.9	結節 LR→沈線 (平・山)・貼付→短沈線・刺突/	小波状口縁・ススコゲ	158	391	
ai668	深鉢	大6	II A 8w	胴部	-	-	239.6	RL→半戴竹管による沈線・刺突/	ススコゲ	158	391	
ai669	深鉢	大7a	II A 8w	口縁部	-	-	17.0	細沈線・刺突/		158	391	
ai670	深鉢	大7b	II A 8w	口縁部	-	-	22.6	隆帯→原形押圧・半戴竹管刺突/	波状口縁・スス	158	391	
ai671	深鉢	大8b～9	II A 8w II a層	口～胴部	[19.7]	19.4	806.4	RL→沈線/	2 単位波状口縁・ススコゲ、補修孔 2個、内面に貫通してない・補修孔 1個	158	391	
ai672	深鉢	大7b	II A 8w II b層	口～底部	28.2	20.4	1620.8	LR→隆帯・貼付→指頭押圧・原形押圧・口縁部突	ススコゲ	159	392	
ai673	深鉢	前期	II A 8w II a層	口～胴部	-	-	205.6	起 1 箇所/		159	392	
ai674	浅鉢	大7	II A 8w II a層	口～胴部	-	-	141.7	結節 LR→沈線/	スス	158	391	
ai675	深鉢	大7a	II A 8w II a層	口～胴部	-	-	108.5	結節 LR→	波状口縁	158	392	
ai676	浅鉢	大7b	II A 8w II a層	口～胴部	-	-	76.9	R→原形押圧/		158	391	
ai677	深鉢	大7a	II A 8w II a層	口～胴部	-	-	117.0	隆帯・半戴竹管による押し引き→LR・口縁部部爪	ススコゲ	158	392	
ai678	深鉢	円上 c	II A 8w II a層	口～胴部	[8.1]	(12.7)	150.5	LR→隆帯→原形押圧・爪形刺突/	4 単位波状口縁、円筒上層	159	392	
ai679	深鉢	大6～7a	II A 8w II a層	口～胴部	-	-	65.5	結節 R→隆帯→刺突/		159	392	
ai680	深鉢	大6～7a	II A 8w II層	口～胴部	[30.2]	(25.2)	826.3	結束羽状縄文 (向湖結節) →隆帯・円形貼付→竹管	ススコゲ	159	392	
ai681	深鉢	大6～7a	II A 8w II層	胴部	-	-	311.3	結束 LR→隆帯→キザミ/	ススコゲ	159	392	
ai682	深鉢	大7a	II A 8w II b層	口～胴部	-	-	331.0	隆帯→LR/	ススコゲ	159	392	
ai683	深鉢	大5	II A 8w II b層	口縁部	-	-	66.1	車輪筋条体 IA 類 R・口縁部指頭押圧/		159	392	
ai684	深鉢	大6	II A 8w II b層	口縁部	-	-	88.4	LR→沈線/		159	392	
ai685	深鉢	大6	II A 8w II b層	口縁部	-	-	77.6	沈線/		159	392	
ai686	深鉢	大4	II A 8w II b層	口縁部	-	-	18.2	沈線→刺突/	ススコゲ	159	392	
ai687	深鉢	大6～7a	II A 8w II a層	口縁部	-	-	442.0	車輪筋条体 5 類・口縁部突起/	胎土粗い、コゲ	160	393	
ai688	深鉢	大5	II A 8w II層	口～胴部	[15.7]	(26.4)	269.1	両端結節 RL→隆帯→沈線/	波状口縁	160	392	
ai689	球胴深鉢	大7a	II A 8・9w II a層	口～胴部	-	-	203.9	RL→原形押圧/	波状口縁	160	393	
ai690	深鉢	大7b	II A 8・9w II a層	口～胴部	-	-	206.4	隆帯・貼付→沈線→刺突・キザミ/	波状口縁	160	393	
ai691	深鉢	大7a	II A 8x II a層	口縁部	-	-	237.4	結束羽状縄文 →隆帯・沈線→押し引き・爪形刺突/	波状口縁	160	393	
ai692	深鉢	大7b	II A 8x II a層	口縁部	-	-	112.6	RLR? →隆帯・貼付→原形押圧/		160	393	
ai693	深鉢	大7a	II A 8x II a層	口縁部	-	-	106.1	隆帯→沈線・細沈線/	波状口縁	159	393	
ai694	深鉢	大7a	II A 8x II a層	口縁部	-	-	0.9			159	393	

第 10 表 縄文土器観察表 (36)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a1695	深鉢	大 7a	II A 8 x II a 層	口縁部	-	-	646	隆帯→キザミ/	波状口縁、ススコゲ	159	393	
a1696	深鉢	大 6	II A 8 x II b 層	胴部	[8.6]	-	227.6	結束羽状縄文→隆帯・沈線→キザミ/		160	393	
a1697	深鉢	大 7b	II A 8 x II b 層	口縁部	-	-	920	原体押圧、爪形刺突のナデ消し? /		160	393	
a1698	深鉢	大 7b ~ 8a	II A 8 x	口縁部	-	-	956	LR→沈線・原体押圧 /	スス	160	393	
a1699a	深鉢	大 6	II A 8 x II 層	口~胴部	[25.1]	-	1,442.3	両端結節・結束第二種 LR→隆帯・日形貼付→沈線・半裁竹管押し引き、細沈線 /	波状口縁	160	393	
a1699b	深鉢	大 6	II A 8 w	口縁部	-	-	202	沈線・押し引き→キザミ	スス	160	-	
a1700	深鉢	大 6 ~ 7a	II A 8 x II a 層	口~胴部	[22.3]	(24.4)	568.6	L→隆帯→押圧 /	コケ	161	393	
a1701	深鉢	大 7a	II A 8 x II a 層	口縁部	-	-	605	隆帯→沈線→細沈線 /	波状口縁	161	393	
a1702	深鉢	大 7a	II A 8 x II a 層	胴部	-	-	589	LR→沈線→刺突 /	ススコゲ	161	393	
a1703	深鉢	大 6 ~ 7a	II A 8 x II b 層	口縁部	-	-	1.1	隆帯→キザミ、口縁部日形突起 /		161	393	
a1704	深鉢	大 3	II A 8 x II b 層	口縁部	-	-	832		ススコゲ	161	393	
a1705	深鉢	大 7b	II A 8 x II b 層	口縁部	-	-	1.0	原体押圧 (L)・隆帯→沈線 /		161	394	
a1706	深鉢	大 6	II A 8 x	口縁部	-	-	146.8	沈線 (平・山) /		161	394	
a1707	深鉢	大 7a	II A 8 x	口~胴部	-	-	0.85	RLR→隆帯 /		161	394	
a1708	深鉢	大 2b	II A 8 x	口~胴部	-	-	0.6	結節 L→刺突 / 刷毛目状の工具痕		161	394	
a1709	深鉢	大 7a	II A 8 x	胴部	-	-	0.8	LR→沈線 /	スス	161	394	
a1710	深鉢	不明	II A 8 x	胴部	-	-	67.1	多軸絡糸体? /		161	394	
a1711	深鉢	不明	II A 8 x	胴部	-	-	307	細状工具による刺突? /	スス	161	394	
a1712	深鉢	大 7a	II A 8 x II a 層	口~胴部	[21.4]	31.4	1,343.3	LR→隆帯→LR /		161	394	
a1713	深鉢	大 8a	II A 8 x II a 層	口~胴部	[7.1]	(15.1)	113.9	RL→隆帯→沈線 /		161	394	
a1714	深鉢	大 7b	II A 8 x II 層	口~胴部	[22.7]	20.5	914.5	隆帯→LR→隆帯に押圧、口縁部突起・貼付 (ボタン・山) /	6 車位? 波状口縁、ススコゲ	162	394	
a1715	深鉢	大 7a	II A 8 x II a 層	口~胴部	-	-	441.0	結節 LR→隆帯→爪形刺突 /	2 車位波状口縁、コケ	162	394	
a1716	深鉢	大 7a	II A 8 x II a 層	口~胴部	-	-	190.6	両端結節?→隆帯→キザミ、口縁部上面貼付 (山) /	波状口縁	162	394	
a1717	深鉢	大 7a	II A 8 x II a 層	口~胴部	-	-	316.3	LR (0 段)→沈線 /	波状口縁	161	395	
a1718	深鉢	大 7a	II A 8 x II a 層	口~底部	-	-	272.4	両端結節 LR→隆帯→沈線→短沈線・キザミ、口縁部上面 C 字状貼付 /	ススコゲ	162	394	
a1719	深鉢	大 7b	II A 8 x II a 層	口縁部	-	-	154.0	LR→隆帯→沈線→原体押圧 /	スス	162	394	
a1720	深鉢	大 7b	II A 8 x II a 層	口縁部	-	-	133.4	隆帯→原体押圧、口縁部上面貼付 / 口縁部付近貼付 /	スス	162	395	
a1721	深鉢	大 7a	II A 8 x II a 層	口縁部	-	-	118.3	隆帯→原体押圧、爪形刺突・キザミ /	スス、円筒上層式の可能性も有	162	395	
a1722	深鉢	大 6	II A 8 x II a 層	口縁部	-	-	0.7	結節 LR→沈線 (平・山) /	波状口縁	162	395	
a1723	深鉢	不明	II A 8 x II 層	胴部	-	-	54.3	多軸絡糸体 /		162	395	
a1724	深鉢	大 7b	II A 8 x II b 層	口~胴部	-	-	87.1	結節 L→貼付→原体押圧 /	波状口縁、ススコゲ	163	395	
a1725	深鉢	大 4	II A 8 x II b 層	口~胴部	-	-	170.3	LR→細隆帯 /	外面磨耗、ススコゲ	163	395	
a1726	深鉢	大 7b	II A 8 x II b 層	口~胴部	-	-	235.6	原体不明→原体押圧 /		163	395	
a1727	深鉢	大 7a	II A 8 x II b 層	口縁部	-	-	94.3	沈線→半裁竹管による下方向からの刺突、口縁部突起→刺突 /		163	395	
a1728	深鉢	大 8	II A 8 x II b 層	口縁部	-	-	134.3	結節 LR→隆帯 /	波状口縁、ススコゲ	163	395	
a1729	深鉢	大 6	II A 8 x II b 層	胴部	-	-	51.8	沈線 /		163	395	
a1730	深鉢	大 6 ~ 7a	II A 8 x 東西トレンチ II a 層	胴部	-	-	46.0	結節 L→貼付→キザミ / 鈎状の隆帯		163	395	
a1731	深鉢	大 7b	II A 8 x II a 層	口縁部	-	-	55.8	隆帯→沈線・短沈線→キザミ、口縁部原体押圧 /		163	395	
a1732	深鉢	大 7a	II A 8 x II a 層	口~胴部	[17.6]	(25.0)	330.8	RL (0 段)→隆帯・日形刺突→押圧 /	波状口縁	163	395	
a1733	深鉢	大 6 ~ 7a	II A 8 x II a 層	胴部	-	-	204.8	両端結節 LR→結節回転文? /	コケ	163	395	
a1734	球胴深鉢	大 6 ~ 7a	II A 8 x II a 層	口~底部	[30.1]	(11.8)	1,275.9	RL→貼付→沈線 /	ススコゲ	163	396	
a1735	深鉢	大 7a	II A 8 x II a 層	口~底部	26.4	(7.6)	958.0	隆帯→両端結節 L、両端結節 LR・結節回転文併用、片端結節も? /	4 車位波状口縁、ススコゲ	163	395	
a1736	深鉢	大 5	II A 8 x II ~ III 層	口~底部	25.1	(23.7)	834.2	単軸絡糸体 5 類 /	4 車位波状口縁、ススコゲ	164	396	
a1737	深鉢	大 8a	II A 8 x II a 層	口~胴部	[18.6]	18.0	890.8	RL→隆帯・沈線、口縁部 C 字状貼付? /	ススコゲ	164	396	
a1738	深鉢	大 3	II A 8 y II b 層	口縁部	[5.0]	(13.2)	94.3	ナデ→刺突 /	ススコゲ	164	396	
a1739	深鉢	大 7a	II A 8 y II a 層	口~胴部	-	-	348.2	橋状突起・貼付→半裁竹管による沈線・押し引き、刺突 /	ススコゲ	164	395	

第 10 表 縄文土器観察表 (37)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a1740	深鉢	大7a	II A 8 y II a 層	口~胴部	-	-	366.5	隆帯→LR、口縁部突起→貼付	ススコケ	164	396	
a1741	深鉢	大7b	II A 8 y II a 層	口~胴部	-	-	153.5	結節回転文?→原体押圧	波状口縁、内外面磨耗、ススコケ	164	396	
a1742	深鉢	大6	II A 8 y II a 層	胴部	-	-	124.8	RL→貼付→沈線、口縁部突起		164	396	
a1743	深鉢	大7a	II A 8 y II a 層	口~胴部	-	-	178.5	LR (0段)	波状口縁	164	396	
a1744	深鉢	大6	II A 8 y II a 層	口縁部	-	-	66.0	沈線		164	396	
a1745	深鉢	大6	II A 8 y II a 層	口縁部	-	-	69.8	沈線、口縁部キザミ	スス	164	396	
a1746	深鉢	大6~7a	II A 8 y II a 層	口縁部	-	-	82.7	結節L→隆帯→キザミ		164	396	
a1747	深鉢	大7a	II A 8 y II a 層	口~胴部	-	-	95.5	LR→隆帯、口縁部貼付と押圧により波状	ススコケ	164	396	
a1748	深鉢	大4	II A 8 y II a 層	胴部	-	-	19.2	沈線 (梯子)		164	396	
a1749	深鉢	大7a	II A 8 y II a 層	口縁部	-	-	211.7	LR→隆帯→爪形刺突		165	396	
a1750	深鉢	大7b	II A 8 y 皿層	口~胴部	-	-	83.2	結節 LR→原体押圧、口縁部突起	スス	165	396	
a1751	深鉢	大5	II A 8 y 皿層	口縁部	-	-	101.5	車輪筋条体 1A 類 L→隆帯→爪形刺突	波状口縁	165	396	
a1752	深鉢	大5	II A 8 y 皿層・下位黒色土	口~胴部	-	-	283.7	車輪筋条体 5 類、押圧により口縁部上面波形	波状口縁	165	396	
a1753	深鉢	大5	II A 8 y 皿層・下位黒色土	胴部	-	-	140.9	車輪筋条体 1A 類 R→隆帯→指頭押圧		165	397	
a1754	深鉢	大3	II A 8 y 東西トレンチ II b 層	胴部	-	-	42.2	LR→沈線、円形刺突・爪形刺突		165	397	
a1755	深鉢	大7a	II A 8 y 東西トレンチ II a 層	口縁部	-	-	124.6	隆帯→RL、口縁部上面キザミ	波状口縁、ススコケ	165	397	
a1756	深鉢	大7a	II A 8 y 北トレンチ II 層	胴部	-	-	214.7	貼付→結束 LR	波状口縁、ススコケ	165	397	
a1757	深鉢	大6	II A 8 y 北トレンチ II 層	口縁部	-	-	39.4	沈線→刺突	波状口縁、コケ	165	397	
a1758	球胴深鉢	大7a	II A 8 y (A トレンチ) II a 層	口~胴部	[19.8]	30.2	貼付→RL→沈線→刺突	2 単位小突起、ススコケ		165	397	
a1759	深鉢	大6	II A 8 y (A トレンチ) II a 層	口~胴部	-	-	144.3	隆帯→沈線→細沈線、刺突		165	397	
a1760	深鉢	中期	II A 9 u II a 層	口~底部	9.0	(6.4)	116.7	LR→沈線	内外面磨耗、ススコケ、底部にもスス	165	397	
a1761	深鉢	大7b	II A 9 v II a 層	口縁部	-	-	172.7	LR→原体押圧	ススコケ	165	397	
a1762	深鉢	大7a	II A 9 v II a 層	口~胴部	-	-	129.2	結節 RL→隆帯	ススコケ	165	397	
a1763	深鉢	大6	II A 9 v II a 層	口縁部	-	-	164.6	隆帯→沈線、押し引き	波状口縁、スス	166	397	
a1764	深鉢	大7b	II A 9 v II a 層	口縁部	-	-	146.4	LR→隆帯→原体押圧	波状口縁	166	397	
a1765	深鉢	大7a	II A 9 v II a 層	口縁部	-	-	145.6	面端結節 RL→細沈線→沈線 (山)・竹管押圧	スス	166	397	
a1766	深鉢	大6~7a	II A 9 v II a 層	口縁部	-	-	96.7	隆帯→沈線	スス	166	397	
a1767	深鉢	大6	II A 9 v II a 層	口~胴部	-	-	438.2	LR→隆帯→沈線・LR	波状口縁	166	397	
a1768	深鉢	大7b	II A 9 v・w II a 層	口縁部	-	-	336.2	隆帯→貼付→LR・付加条	スス	166	397	
a1769	深鉢	大7a	II A 9 w II ~皿層	口~胴部	[26.0]	(52.2)	1361.8	結節 L (LR)→隆帯→原体押圧・竹管刺突		166	398	
a1770	浅鉢	大7a	II A 9 w II a 層	口~底部	10.4	(20.8)	610.9	貼付→RL	スス	166	398	
a1771	深鉢	大7b	II A 9 w II a 層	口~胴部	-	-	275.8	非結束羽状細文→隆帯	波状口縁、スス	166	398	
a1772	深鉢	大8a	II A 9 w II a 層	口~胴部	-	-	266.8	RL→隆沈線	波状口縁、スス	167	398	
a1773	深鉢	大6~7a	II A 9 w II a 層	口縁部	-	-	62.7	原体不明→沈線	小波状口縁	167	398	
a1774	深鉢	大3	II A 9 w II a 層	口縁部	[8.5]	(22.3)	233.0	LR→貼付・沈線		167	398	
a1775	深鉢	大5	II A 9 w II a 層	口縁部	-	-	54.5	RL→沈線	器面剥落、ススコケ	167	398	
a1776	深鉢	前期前	II A 9 w II a 層	胴部	-	-	392.3	細紐		167	398	
a1777	深鉢	前期前	II A 9 w II 層	胴~底部	[20.4]	10.4	548.4	LR	コケ	167	398	
a1778	深鉢	中期	II A 9 w II a 層	胴~底部	[6.0]	5.4	75.8	結節 LR	ススコケ	167	398	
a1779	深鉢	前期前	II A 9 w II a 層	胴部	-	-	523.3	RL・車輪筋条体 1A 類使用	纖維少量含む	167	399	
a1780	深鉢	大7a	II A 9 w II 層	口~胴部	-	-	233.9	結束羽状細文 (無節)→隆帯→沈線・爪形刺突		167	398	
a1781	深鉢	大6	II A 9 w II 層	胴部	-	-	271.2	結束羽状細文→沈線	コケ	167	398	
a1782	深鉢	大8a	II A 9 w II b 層	口~胴部	-	-	320.1	RL→隆沈線、口縁部突起		167	399	
a1783	深鉢	大8a	II A 9 w II 層	口~胴部	-	-	315.2	RL→沈線・キザミ	波状口縁	168	399	
a1784	深鉢	大8a	II A 9 w II b 層	口~胴部	-	-	174.6	LR→沈線→原体押圧	波状口縁	168	398	
a1785	深鉢	大6	II A 9 w II b 層	口縁部	-	-	217.7	沈線・竹管による押し引き		168	399	
a1786	深鉢	大3	II A 9 w II b 層	口縁部	-	-	46.3	付加条 LR→沈線		168	399	
a1787	深鉢	大3	II A 9 w II b 層	口縁部	-	-	42.0	RL→細隆帯・爪形刺突	ススコケ	168	399	
a1788	深鉢	大6	II A 9 w II b 層	胴部	-	-	186.9	結束羽状細文 (節不明)→細沈線	コケ	168	399	
a1789	深鉢	大6	II A 9 w II b 層	胴部	-	-	50.1	細沈線→キザミ	スス	168	399	
a1790	深鉢	大5	II A 9 w II b 層	口縁部	-	-	187.0	LR・半裏竹管による沈線→沈線・円形押圧	波状口縁、スス	168	399	
a1791	深鉢	大5	II A 9 w II b ~皿層	口縁部	-	-	67.7	多輪筋条体、口縁部竹管による刺突	スス	168	399	
a1792	深鉢	大7a	II A 9 x B トレンチ II a 層	口~胴部	-	-	155.4	LR (0段)→爪形刺突	スス	168	400	

第 10 表 縄文土器観察表 (38)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.	
					器高	口径	底径						
a1793	深鉢	大6	II A 9y A トレンチ II a・b 層間黄緑色土	口縁部	-	-	833	沈線・キザミ		168	399		
a1794	深鉢	中期	II A 9y II a 層	口~底部	8.8	9.0	6.1	294.9	LR		168	399	
a1795	深鉢	大8b~9	II A 9y II a 層	口~底部	38.3	27.2	10.3	2,764.1	LR→沈線	スス	168	399	
a1796	深鉢	大8b~9	II A 9y II a 層	口~胴部	-	-	0.8	510.6	LR→沈線	底部細代直・ススコゲ	168	399	
a1797	深鉢	大9新	II A 9y II a 層	口~胴部	-	-	0.8	278.3	RL→隆沈線	波状口縁・ススコゲ	168	399	
a1798	深鉢	大5	II A 9y II a 層	口縁部	-	-	0.85	53.2	単軸筋条体5類	波状口縁・ススコゲ	169	399	
a1799	深鉢	大8	II A 9y II a 層	口縁部	-	-	0.4	18.4	RL→隆沈線		169	399	
a1800	深鉢	大5	II A 9y II b 層	口縁部	-	-	0.9	120.5	LR (0段)→隆帯→沈線・口縁部山形貼付		169	400	
a1801	深鉢	大5	II A 9y II b 層	口縁部	-	-	0.6	32.7	結節 LR→隆帯→沈線・押圧		169	400	
a1802	深鉢	中期	II A 9y A トレンチ II a 層	口~胴部	[22.1]	(35.6)	-	836.4	LR (0段)	スス	169	400	
a1803	深鉢	中期	II A 9y A トレンチ II a 層	口~胴部	-	-	0.7	190.3	RL (0段)	スス	169	400	
a1804	深鉢	大6	II A 9y A トレンチ II a 層	口~胴部	-	-	0.8	253.2	LR?→貼付→沈線・押し引き→刺突	スス	169	400	
a1805	深鉢	大6~7a	II A 9y A トレンチ II a・b 層間黄緑色土	口~胴部	-	-	0.9	53.2	隆帯→細沈線	補修孔	169	400	
a1806	深鉢	大4	II A 9y A トレンチ II a・b 層間黄緑色土	口~胴部	-	-	0.9	83.7	LR→貼付(格子・山)・口縁部上面貼付(格子)	ススコゲ	169	400	
a1807	深鉢	中期	II A 9y C トレンチ II B 層	口~胴部	[22.0]	22.4	-	1,072.8	両端結節 RL	4 車位小波状口縁、内外面摩耗、コゲ、口縁部歪み 最小径 20.4cm	170	400	
a1808	深鉢	大8b新	II A 9y A トレンチ II a 層一括土器	口~底部	57.1	38.0	13.6	11,800.0	RL→隆沈線		170	400	
a1809a	深鉢	大6~7a	II A 9y A トレンチ II a 層	口~胴部	[15.7]	(31.3)	-	476.2	結節 LR→ナデ(磨消)・貼付→沈線→爪形刺突、口縁部突起4ヶ所→沈線	ススコゲ	169	401	
a1809b	深鉢	大6~7a	II A 9y A トレンチ II a 層	口縁部	-	-	0.7	188.6	貼付→沈線→爪形刺突、口縁部突起4ヶ所→穿孔	穿孔は貫通と非貫通あり、スス	169	401	
a1809c	深鉢	大6~7a	II A 9y A トレンチ II a 層	口縁部	-	-	-	215.4	貼付→沈線→爪形刺突、口縁部突起4ヶ所→穿孔	写真のみ掲載	無し	401	
a1810	深鉢	大3	II A10t I~II 層上面	口縁部	-	-	0.85	40.7	短沈線、口縁部キザミ		169	400	
a1811	深鉢	大6	II A10t I~II 層上面	口縁部	-	-	0.6	14.0	RL→沈線→刺突		169	400	
a1812	深鉢	不明	II A10u II b 層	底部	[3.3]	-	11.0	0.95	27.5	LR	底部細代直・スス	169	400
a1813	深鉢	大7b	II A10v II a 層	口縁部	-	-	0.8	153.8	LR→ナデ?→沈線→原体押圧・交互刺突	ススコゲ	170	401	
a1814	深鉢	大8b~9	II A10w II 層	口~胴部	[29.5]	(36.8)	-	1,572.5	LR→沈線・刺突	4 車位波状口縁	171	401	
a1815	深鉢	大7b	II A10w II~III 層	口縁部	-	-	0.6	61.1	LR→隆帯→原体押圧	波状口縁	170	401	
a1816	深鉢	大6~7a	II A10w II~III 層	口~胴部	-	-	0.9	116.5	隆帯・貼付→沈線(平・山)・刺突、半截竹管による押し引き		170	401	
a1817	深鉢	大8a	II A10w II a 層	口~底部	34.2	23.2	10.8	2,433.6	LR→隆沈線	口縁部歪み大きい、22.0~24.6cm、外面摩耗、コゲ	170	401	
a1818	深鉢	大8b~9	II A10w II a 層	口~底部	10.1	8.2	4.0	165.2	LR→沈線	2 車位波状口縁、ススコゲ	170	401	
a1819	深鉢	大8b~9	II A10w II a 層	口~胴部	-	-	1.0	599.2	単軸筋条体1A 刺→沈線	外面やや摩耗、スス	171	401	
a1820	深鉢	大8b~9	II A10w II a 層	口~胴部	-	-	0.65	572.2	LR→沈線・刺突	波状口縁、ススコゲ	171	401	
a1821	深鉢	大8b~9	II A10w II a 層	口~胴部	-	-	1.0	648.0	単軸筋条体1類 RL	スス	171	402	
a1822	深鉢	大4	II A10w II a 層	口縁部	-	-	0.9	114.4	LR→半截竹管による沈線・押し引き		171	402	
a1823	深鉢	大6~7a	II A10w II a 層	胴部	-	-	0.65	28.2	沈線・キザミ		171	402	
a1824	深鉢	大7b~8a	II A10w II a 層	口縁部	-	-	0.7	31.5	口縁部突起→下方からのキザミ・隆沈線		171	402	
a1825	深鉢	大7b	II A10x II~III 層	口~胴部	[6.6]	(8.4)	0.4	44.8	LR→原体押圧	コゲ	171	402	
a1826	深鉢	大8b~9	II A10x II~III 層	胴~底部	[8.7]	-	1.1	435.9	RLR→隆沈線	スス	171	402	
a1827	浅鉢	大7	II A10x II a 層	口~底部	6.3	(12.3)	5.0	0.4	93.9	LR	4 車位波状口縁、外面摩耗	171	402
a1828	球胴深鉢	大6~7a	II A10x 南区 II a 層	胴~底部	[17.2]	-	10.2	0.7	312.1	LR・ナデ	コゲ	171	402
a1829	深鉢	大9新	II A10x 南区 II a 層	口~胴部	[22.6]	24.0	-	0.7	864.4	RLR→沈線	4 車位波状口縁、ススコゲ	172	402
a1830	深鉢	大8a	II A10x 北区 II a 層	口~胴部	[28.9]	(40.7)	-	0.75	1,733.8	LR→隆沈線	スス	172	402
a1831	深鉢	大8b新	II A10x 北区 II a 層	口~胴部	-	-	0.85	574.7	RLR→隆沈線	ススコゲ、隆帯刺突多い	172	402	
a1832	深鉢	大9新	II A10x 北区 II a 層	胴~底部	[13.2]	(17.0)	0.4	328.2	LR (0段)→沈線・磨消	4 車位波状口縁、ススコゲ	172	403	
a1833	深鉢	大9新	II A10x 北区 II a 層	胴~底部	[13.2]	(17.0)	0.65	213.4	LR→隆沈線	スス	172	402	
a1834	深鉢	大10古	II A10x 北区 II a 層	胴~底部	[7.6]	-	5.5	0.6	145.9	LR (0段)→沈線・磨消	ススコゲ	172	402
a1835	深鉢	大6	II A10x II a 層	口縁部	-	-	0.8	106.0	貼付(格子)・口縁部上面隆帯→貼付→キザミ・竹管による刺突	スス	173	402	
a1836	深鉢	大9新	II A10x 南区 II a 層	口~胴部	-	-	0.8	271.7	LR (0段)→沈線・磨消	波状口縁、内外面摩耗、スス	173	403	
a1837	深鉢	大7a?	II A10x II 層	口縁部	-	-	0.95	95.8	沈線→細沈線・刺突		173	402	

第 10 表 縄文土器観察表 (39)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)		重量 (g)	文様・調整 (外面・内面)	備考	図版 No.	写真 No.	
					器高	口径						
a1838	深鉢	大9新	II A10x・IIy Aトレンチ II a層	口〜胴部	[288]	(25.8)	1,175.4	LR→沈線・磨消/	6単位波状口縁、ススコグ	173	403	
a1839	深鉢	大9新	II A10y II a層	口〜胴部	[21.8]	19.2	851.5	LR→沈線・磨消/	小波状口縁、ススコグ	173	403	
a1840	深鉢	大8b新	II A10y Aトレンチ II層	口〜胴部	-	-	470.3	車輪跡条体1類L→隆沈線、口縁部上面沈線/		174	403	
a1841	深鉢	大8b~9	II A10y 南区 II a層	胴部	-	-	357.4	LR?→沈線/	焼成時に変形、器面赤褐~灰色	173	404	
a1842	深鉢	大7a	II A11s	口〜胴部	-	-	228.6	LR→隆帯/	波状口縁	174	404	
a1843	深鉢	大8b新	II A11v II a層	口〜胴部	25.7	(21.3)	1,368.8	RLR→隆沈線/	4単位波状口縁、ススコグ、隆帯副差多い	174	403	
a1844	深鉢	中期	II A11v II a層	口〜底部	10.0	9.2	186.4	LR/	2単位波状口縁、外面摩擦、口縁部欠け多い	173	403	
a1845	浅鉢	大7b	II A11v II a層	口〜胴部	-	-	216.7	RL→原体押圧/		174	403	
a1846	深鉢	大7b	II A11v II a層	口縁部	-	-	77.1	RL→原体押圧/		174	403	
a1847	深鉢	大6~7a	II A11v II a層	口縁部	-	-	28.1	ボタン状貼付・隆帯→細沈線・刺突/		174	403	
a1848	深鉢	大8b~9	II A11・12x II b~III層	口〜底部	26.9	(20.4)	1,269.9	RLR→沈線/	4単位波状口縁、ススコグ	174	404	
a1849	深鉢	大3	II A11w II a層	口〜胴部	-	-	142.1	LR→竹管による刺突/	スス	174	404	
a1850	深鉢	大8	II A11w II b層	口縁部	-	-	26.3	中空突起→沈線/	スス	174	404	
a1851	深鉢	大7b	II A11w II b層	口縁部	-	-	282.1	L?→隆沈線、口縁部貼付(波)→原体押圧/		175	404	
a1852	深鉢	大8b~9	II A11x II a層	口〜底部	18.2	(16.7)	7.6	RL→沈線/	波状口縁、ススコグ	175	404	
a1853	深鉢	不明	II A11x II a層	口〜底部	13.1	11.6	61	LR/	器形歪み、ススコグ	175	404	
a1854	深鉢	大8b新	II A11x 東トレンチ II a層	胴〜底部	[8.2]	6.0	239.3	RLR→隆沈線/	底部に焼成後穿孔、ススコグ	175	404	
a1855	深鉢	大7a	II A11y	胴部	-	-	135.3	LR→沈線→刺突/		175	404	
a1856	深鉢	不明	II A11y I~II層上面	胴部	-	-	185.2	LR/	口縁部歪み、ススコグ	175	404	
a1857	深鉢	不明	II A12v II a層	口〜底部	13.9	15.1	439.1	RLR/		175	404	
a1858	深鉢	大3	II A12v II a層	口〜胴部	-	-	148.3	ナデ→沈線、口縁部押圧により花卉状/		175	404	
a1859	深鉢	大6	II A12v II a層	口〜胴部	-	-	198.5	結束羽状細文→ボタン状貼付→沈線/		175	404	
a1860	深鉢	大6	II A13・14 r・s III層	口縁部	-	-	66.4	沈線・突起→貼付/	スス	175	405	
a1861	深鉢	不明	II A13r II b層	口縁部	-	-	31.9	付加条細文/		175	405	
a1862	深鉢	大9新	II A15r II b層	胴部	-	-	21.5	LR→沈線/		176	405	
a1863	深鉢	大9新	II A15r II b層	口〜胴部	-	-	292.9	RLR→沈線・磨消/		176	405	
a1864	深鉢	中期	II A15s II層	胴〜底部	10.2	(11.6)	144.1	RLR/	2単位波状口縁、底部網代直、黒斑	176	405	
a1865	深鉢	不明	II A15s II層	胴〜底部	[5.2]	11.2	245.3	LR/	底部木葉直・網代直	176	405	
a1866	深鉢	大8b~9	II A15s II層	口〜胴部	-	-	128.5	RL(0段)→隆沈線/	コグ	176	405	
a1867	深鉢	大5	II A15s II層	胴部	-	-	33.6	LR?・LR(0段)?→沈線/	異なる原体使用	176	405	
a1868	深鉢	大9新	II A15s II層	口〜胴部	-	-	144.4	隆沈線→刺突/		176	405	
a1869	深鉢	大7	II A15s II層	口〜胴部	-	-	176.0	LR→沈線/	波状口縁・穿孔	176	405	
a1870	深鉢	大9新	II A15s II層	口〜胴部	-	-	50.8	RL→沈線・磨消/	波状口縁、スス	176	405	
a1871	深鉢	大5	II A15s II層	胴部	-	-	56.1	沈線(HI)/		176	405	
a1872	深鉢	大9新	II A15s II層	口縁部	-	-	61.9	RLR→隆沈線・磨消/	スス	176	405	
a1873	深鉢	大6	II A15s II層	口縁部	-	-	132.7	隆帯・沈線・貼付→キザミ、口縁部突起/		176	405	
a1874	深鉢	中期	II A15s II層	口〜胴部	[47.8]	(30.2)	2,588.9	LR/	ススコグ	176	405	
a1875	深鉢	大9?	II A15s II層	口縁部	-	-	24.0	原体不明→沈線・再形刺突/		176	405	
a1876	深鉢	中期	II A15s II b層	口〜胴部	-	-	1,140.8	RL/		177	405	
a1877	深鉢	大9新	II A15s II b層	頸部	-	-	86.0	隆帯・沈線・磨消→円形刺突/		177	405	
a1878	深鉢	大7b	II A15s II b層	口縁部	-	-	77.6	LR→隆帯→原体押圧、口縁部突起/		176	405	
a1879	深鉢	大9	II A15s II b層	頸部	-	-	56.1	L→隆帯→ナデ(磨消)→円形刺突/		177	405	
a1880	深鉢	大10古	II A15s II b層	口〜胴部	-	-	272.3	LR→沈線・磨消→押し引き?刺突?/		177	406	
a1881	深鉢	大8b新	II A15t II層	口〜胴部	-	-	66.7	RLR→隆沈線/		177	406	
a1882	深鉢	大9新	II A15t II層	口〜胴部	-	-	51.3	L→沈線・磨消/		177	406	
a1883	深鉢	大7a	II A15t II層	胴部	-	-	58.4	隆帯・沈線/	スス	177	406	
a1884	深鉢	大8b	II A15t II層	口縁部	-	-	31.5	LR→隆沈線/	波状口縁、コグ	177	406	
a1885	深鉢	大8b	II A15t II層	口〜胴部	-	-	1.0	621.8	RL(0段)/		178	406
a1886	深鉢	大8b新	II A16s II層	口〜胴部	-	-	568.7	LR(0段)→隆沈線/		178	406	
a1887	深鉢	大8b新	II A16s II層	胴部	-	-	803.3	RL→隆沈線/	ススコグ	177	406	
a1888	深鉢	大4	II A17k II b層	口縁部	-	-	97.4	貼付(唇子)/	ススコグ	177	406	
a1889	深鉢	大7a	II A17k II b層	口〜胴部	-	-	53.7	LR→貼付/	ススコグ	178	406	
a1890	深鉢	不明	II A17s II層	胴〜底部	[9.2]	(8.5)	360.3	LR/	スス	178	406	

第 10 表 縄文土器観察表 (40)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.	
					器高	口径	底径						
a1891	深鉢	不明	II A17s	口縁部	-	-	81	沈線		178	406		
a1892	深鉢	大 8	II A17t II b 層	口縁部	-	0.45	152	隆沈線		178	406		
a1893	深鉢	中期	II A17v II b 層	口～胴部	[192]	(25.2)	897.9	LR (0 段)		178	406		
a1894	深鉢	大 8b ~ 9	II A17v II b 層	口縁部	-	-	105.8	縄文?沈線? → 隆沈線 → 刺突		178	406		
a1895	深鉢	中期	II A17v II b 層	口～胴部	-	1.1	282.6	LR (0 段)	波状口縁	178	407		
a1896	深鉢	大 9	II A17w I ~ II 層上面	口縁部	-	0.5	155	沈線・竹筥刺突		178	406		
a1897	深鉢	大 8a	II A17y 北東区 II 層	口縁部	-	0.65	65.6	LR → 隆帯・沈線 → キザミ		178	406		
a1898	深鉢	大 7b ~ 8a	II A18s II b 層下位	口～胴部	-	0.65	57.9	RL → 沈線 → 原状押圧		178	406		
a1899	深鉢	大 6 ~ 7a	II A18v II b 層 (III A17w II a 層)	口～胴部	[169]	(24.0)	971.7	LR		178	407		
a1900	深鉢	中期	II A18v I ~ II 層上面	口縁部	-	1.15	212.8	単軸絡糸体 1 類 R		178	407		
a1901	深鉢	大 7b	II A18v II a 層	口縁部	-	0.7	28.2	原状押圧	口縁部花弁状	178	407		
a1902	深鉢	不明	II A18v 北西区 II a 層	胴～底部	[6.9]	6.9	189.6	LR	ススコグ	178	407		
a1903	深鉢	大 8	II A19s I ~ II 層上面	口縁部	-	0.9	270.0	LR → 隆帯	小波状口縁・スス	179	407		
a1904	深鉢	大 8	II A19t II 層	口縁部	-	0.8	43.0	隆沈線	口縁部突起	179	407		
a1905	深鉢	大 7a?	II A19u I ~ II 層上面	口縁部	-	1.1	39.8	刺突・細目状の沈線		179	407		
a1906	深鉢	前期	II A19v 北東区 II b 層	胴部	-	-	1.0	150.7	RL → 縦方向のナデ?・ミザキ?		179	407	
a1907	深鉢	中期	II A19v II b 層	口～底部	14.2	(12.5)	4.5	312.3	LR	スス	179	407	
a1908	深鉢	不明	II A19v 北西区 II 層	口～底部	[22.8]	(18.6)	(6.4)	473.0	L		179	407	
a1909	脚付深鉢	大 8b	II A20j 南東区 III 層	脚部	-	0.8	250.7	RL → 隆沈線		179	407		
a1910	深鉢	大 6	II A20t	口縁部	-	0.7	157.8	LR → 沈線・貼付	スス	179	407		
a1911	深鉢	大 6 ~ 7a	II A20t I ~ II 層上面	胴部	-	0.65	17.6	隆帯・刺突 → キザミ		179	407		
a1912	深鉢	大 8b 新	II A20u I ~ II 層上面	口縁部	-	0.85	79.0	RLR → 隆沈線	波状口縁	179	407		
a1913	深鉢	中期	II A20u I ~ II 層上面	胴～底部	[30.5]	10.2	760.7	LR (0 段)	底部網代裏・スス	179	408		
a1914	深鉢	大 9 新	II A20t 21u	口～胴部	-	0.55	189.4	LR → 沈線・磨消	穿孔	179	407		
a1915	深鉢	中期	II A20 ~ 22v	口～胴部	-	-	1.0	324.6	LR	スス	179	408	
a1916	深鉢	大 6	II A20 ~ 22v	口縁部	-	0.6	11.1	沈線 → 交互刺突		180	407		
a1917	深鉢	大 8a	II A20v II a 層	胴～底部	[100]	(11.6)	0.8	222.8	RLR → 沈線		180	407	
a1918	深鉢	中期	II A20v II b 層	胴～底部	[23.7]	(11.6)	1.0	1,493.5	LR	スス、粘土付着	180	408	
a1919	深鉢	大 3	II A20v	胴部	-	0.9	20.7	刺突		180	407		
a1920	深鉢	大 8b ~ 9	II A20v I ~ II 層上面	口～底部	[12.1]	(13.3)	(5.2)	85.1	RLR → 隆沈線	波状口縁	180	408	
a1921	深鉢	大 8b ~ 9	II A20 w II a 層	胴～底部	[22.9]	12.8	1.0	1,378.2	LR (0 段) → 隆沈線	スス	180	408	
a1922	深鉢	大 7b	II A20x II a 層	口縁部	-	0.65	25.3	RL → 隆帯 → 原状押圧・刺突	ススコグ	180	408		
a1923	深鉢	大 6	II A20 ~ 22x	胴部	-	0.9	32.1	隆帯 → 半段竹筥刺突		180	408		
a1924	深鉢	大 8a	II A21w	口～胴部	[11.1]	(11.5)	0.5	234.0	LR → 隆帯・沈線	スス	180	408	
a1925	深鉢	大 7a?	II A21y II a 層	口～胴部	-	0.8	16.5	沈線 → 刺突		180	408		
a1926	深鉢	大 8b ~ 9	II B 4 b II 層	口～底部	37.6	(27.8)	(10.0)	0.75	1,627.6	単軸絡糸体 1 類 (R) → 沈線	180	408	
a1927	深鉢	大 8b ~ 9	II B 5 b II 層	口～底部	[12.6]	(11.6)	0.45	194.4	RL → 沈線	底部ナデ	180	409	
a1928	深鉢	大 8b 新	II B 5 b II 層	口縁部	-	1.0	283.1	LR → 踏込み突起・隆沈線 → ナデ		181	409		
a1929	深鉢	大 8a	II B 5 c 北西区 黄褐色砂層	口～底部	21.4	15.6	7.5	0.6	672.8	LR → 貼付・隆沈線 → 刺突	外面摩耗、コグ	181	409
a1930	深鉢	大 7a	II B 6 a II a 層	口縁部	-	0.8	38.0	LR → 隆帯	スス、2701 と同一胴体か (集合しない)	181	409		
a1931	深鉢	大 4	II B 6 a II a 層	胴部	-	0.7	82.1	RLR → 隆沈線		181	409		
a1932	脚付深鉢	大 8b 新	II B 6 a II b 層	口～胴部	[17.2]	(16.5)	-	0.7	82.1	RLR → 隆沈線	波状口縁、補修孔 2 個、スス	181	409
a1933	深鉢	大 8b ~ 9	II B 6 a II b 層	口～胴部	-	1.05	117.3	LR (0 段)		181	409		
a1934	浅鉢	大 5	II B 6 a II b 層	口縁部	-	0.8	220.5	LR → 沈線	口縁部突起	181	409		
a1935	深鉢	大 8a	II B 6 a II a 層	口縁部	-	0.7	71.5	単軸絡糸体 4 類 → 貼付 → 凹形脚突・沈線	波状口縁、コグ	181	409		
a1936	深鉢	大 6	II B 6 a II a 層	口縁部	-	1.0	123.9	LR → 貼付 → 沈線	スス	181	409		
a1937	深鉢	大 8	II B 6 a II a 層	口～胴部	-	0.45	61.1	LR → 隆帯・沈線	スス	181	409		
a1938	深鉢	大 9 古	II B 6 a 北西区 II b 層	口～胴部	-	0.6	314.2	LR → 沈線	ススコグ	181	409		
a1939	深鉢	大 8b ~ 9	II B 6 a 北西区 II b 層	口～底部	17.0	(16.9)	(6.8)	0.7	286.6	単軸絡糸体 1 類 R → 沈線	スス	182	409
a1940	深鉢	大 8b ~ 9	II B 6 a 北西区 II b 層	口～胴部	[29.3]	(34.0)	-	0.9	1,379.7	RL → 沈線	スス	182	410
a1941	深鉢	大 8b ~ 9	II B 6 a 北西区 II b 層	口～胴部	-	0.8	275.8	単軸絡糸体 1 類 R	スス	181	410		
a1942	深鉢	大 8b ~ 9	II B 6 a 南東・東区 II b 層	胴～底部	[32.7]	-	10.4	0.7	897.5	LR → 隆沈線	ススコグ	182	410

第 10 表 縄文土器観察表 (41)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a1943	深鉢	大 8a	II B 6a 南北スルト II b 層	口~底部	215	156	68	0.7	87.1	LR→隆沈線/ 口縁部やや重み、ススコゲ	182	410
a1944	深鉢	前期?	II B 6a 西区 II b 層、南北トレンチ II a 層	口~胴部	[20.1]	(21.4)	-	0.7	615.5	結束羽状縄文/ ス	183	410
a1945	深鉢	大 8b~9	II B 6a 西区 II b 層、II b 層	口~胴部	[11.2]	15.0	-	0.6	390.8	LR→沈線/ 2 単位波状口縁、ススコゲ	182	411
a1946	深鉢	大 8a	II B 6a 東区 II b 層	口~底部	[20.9]	13.5	7.0	0.6	523.2	LR→沈線・隆沈線/ 3 単位波状口縁、ススコゲ	183	411
a1947	深鉢	大 8	II B 6a 東区 II b 層	口~胴部	[16.5]	(12.6)	-	0.6	271.2	RL→隆帯/ 1 単位波状口縁、ススコゲ	183	411
a1948	浅鉢	大 8a	II B 6a 東区 II b 層	口~胴部	[7.8]	(21.3)	-	0.55	223.6	LR→隆帯、口縁部突起→貼付/ 内外面磨耗、ススコゲ	183	410
a1949	深鉢	不明	II B 6a 東区 II b 層	胴~底部	[5.1]	4.6	0.4	0.4	57.6	RL/ 外面ミガキをしたような光沢有り	183	410
a1950	深鉢	大 8	II B 6a 東区 II b 層	口~胴部	-	-	-	0.9	475.3	LR→沈線/ 波状口縁、ス	183	411
a1951	深鉢	大 8a	II B 6a 東区 II b 層	口~胴部	[14.9]	26.9	-	0.7	1,123.4	RL・RL→隆沈線・沈線/ 口縁部重み最小口径 25.5cm、内外面磨耗、ススコゲ	184	411
a1952	深鉢	大 8a	II B 6a 東区 II b 層	口~胴部	-	-	-	0.45	46.2	RL→沈線、ス	183	411
a1953	深鉢	大 8a	II B 6a 北東区 IV 層直上	口~胴部	-	-	-	0.85	977.0	RLR?→隆帯・沈線/ 波状口縁、ス	183	411
a1954	深鉢	中期	II B 6a 北東区 IV 層直上	口~胴部	[27.8]	(32.8)	-	0.75	906.2	LR→沈線・沈線/ 外面磨耗、ス	183	412
a1955	浅鉢	大 8a	II B 6a 北東区 IV 層直上	口~底部	11.1	(15.4)	5.2	0.65	215.0	LR→沈線→刺突/ 外面磨耗、ススコゲ	184	411
a1956	深鉢	大 8a	II B 6a 北東区 IV 層直上、東区 II b 層	胴~底部	[23.0]	-	10.2	0.7	976.6	LR→沈線/ 外面磨耗、ススコゲ	184	411
a1957	深鉢	大 4	II B 6a Ⅲ層、下位黒色土	口~胴部	[9.4]	(19.7)	-	0.7	245.8	細文→ナデ? (原体不明) →貼付、口縁部突起/ ススコゲ	184	412
a1958	深鉢	大 6~7a	II B 6a Ⅲ層、下位黒色土	口縁部	-	-	-	0.6	28.3	半炭竹管による沈線・細沈線/ 波状口縁	184	411
a1959	深鉢	大 5?	II B 6a Ⅲ層、下位黒色土	口縁部	-	-	-	0.6	7.8	沈線/ 波状口縁	184	411
a1960a	深鉢	大 6	II B 6a Ⅲ層、下位黒色土	口縁部	-	-	-	0.8	107.2	結筋 LR→沈線・刺突/ 3004 と同一胴体→掲載時 ab とする	184	412
a1960b	深鉢	大 6	II B 6a ベルト Ⅲ層、下位黒色土	口縁部	-	-	-	1.2	81.0	沈線→刺突/ 3031 と同一胴体→掲載時 ab とする	184	412
a1961	深鉢	大 7a	II B 6a ベルト Ⅲ層、下位黒色土	口~胴部	-	-	-	0.7	286.9	貼付→LR→沈線→竹管刺突、口縁部突起/ ス	184	412
a1962	深鉢	大 6	II B 6a	桶状突起	-	-	-	0.8	7.1	竹管押し引き/ 波状口縁	184	412
a1963	深鉢	大 8a	II B 6b I~II 層上面	口縁部	-	-	-	0.8	124.2	LR→隆沈線/ 波状口縁、コゲ	184	412
a1964	浅鉢	大 9 古	II B 6b II a 層	口~底部	15.1	(20.8)	8.0	0.75	526.0	隆帯・桶状突起→LR→沈線→刺突/ ス	184	412
a1965	深鉢	大 8b 新	II B 6b 南区 II b 層	口~胴部	[18.1]	17.4	-	0.55	441.7	車輪絡糸体 1 頸 L→隆沈線→刺突/ コゲ	184	412
a1966	脚付深鉢	大 8b	II B 6b 南区 II b 層	胴部	[6.8]	-	-	0.45	303.5	RLR→隆沈線、脚部穿孔 2箇所/ コゲ	185	412
a1967	深鉢	大 8a	II B 6b 南区 II b 層	口~胴部	-	-	-	0.7	212.4	RL→隆帯/ 波状口縁	185	412
a1968	深鉢	大 8a	II B 6b 西区 II b 層	口~胴部	[8.5]	(13.3)	-	0.6	164.7	LR→隆沈線/ 波状口縁	185	412
a1969	浅鉢	大 8	II B 6b 西区 II a 層 (II B 4・5a・b 遺物包含層 南端 2 層)	口~底部	7.7	(16.0)	6.8	0.6	220.3	RL→隆帯/ ススコゲ	185	412
a1970	深鉢	大 8a	II B 6b 西区 II b 層 (II B 4・5a・b 遺物包含層 南端 2 層)	口~胴部	[17.9]	23.2	-	0.85	990.9	LR→隆沈線/ ススコゲ、剥落多い	185	413
a1971	深鉢	大 7a	II B 6b II b 層	口~胴部	[22.8]	(35.0)	-	1.1	1,157.3	貼付→LR・爪形刺突→半炭竹管による沈線・押し引き/ 波状口縁	185	413
a1972	深鉢	大 8a	II B 6b II b 層	口~胴部	[29.8]	(21.0)	-	0.7	803.6	LR→隆沈線/ コゲ	185	413
a1973	深鉢	大 7a	II B 6b 南区 II b 層	口~胴部	-	-	-	0.7	136.0	貼付→指頭押圧→LR/ コゲ	185	413
a1974	深鉢	大 7a	II B 6b 西区 II b 層	口~胴部	-	-	-	0.5	64.3	RL→沈線/ ス	185	413
a1975	深鉢	大 8b~9	II B 6b 西区 II b 層	口~胴部	-	-	-	0.55	51.9	RLR?→沈線/ ススコゲ薄く残存	185	413
a1976	深鉢	大 8a	II B 6b 西区 II b 層	口縁部	-	-	-	0.5	54.8	RL→隆帯/ ス	185	413
a1977	深鉢	大 6~7a	II B 6b 南北スルト II b 層	口縁部	-	-	-	0.6	58.4	沈線→刺突/ ス	185	413
a1978	浅鉢	大 7b	II B 6b 南北スルト II b 層上位	口~胴部	-	-	-	0.75	142.1	RL→原体押圧、口縁部突起/ ス	185	413
a1979	深鉢	大 9 古	II B 6b II a 層	口~胴部	-	-	-	0.9	670.7	RLR→隆沈線/ ススコゲ	186	413
a1980	深鉢	大 7a	II B 6b II a 層	口~胴部	-	-	-	0.8	207.0	貼付→LR→沈線/ ス	186	413
a1981	深鉢	円下 d~上 a	II B 6b II a 層、下位黒褐色土	口~胴部	-	-	-	1.0	230.5	LR (0 段) →原体押圧/ ススコゲ	186	413
a1982	深鉢	前期前	II B 6b Ⅲ層、下位黒褐色土	口~胴部	-	-	-	0.9	677.1	組紐/ ス	186	414
a1983	深鉢	大 8b~9	II B 6c I 層	口縁部	-	-	-	0.8	195.4	LR→隆沈線/ コゲ	186	414
a1984	浅鉢	大 8a	II B 7a II a 層	口~胴部	[7.5]	(18.8)	-	0.5	173.5	LR→隆沈線→ナデ/ コゲ	186	414
a1985	深鉢	大 8b~9	II B 7a II a 層	口~胴部	-	-	-	0.75	61.7	隆帯・桶状突起→ナデ/ ス	186	414
a1986	深鉢	大 8b 新	II B 7a II a 層	胴部	-	-	-	0.8	263.1	ナデ→隆沈線/ ス	186	414
a1987	深鉢	大 4	II B 7a 東西トレンチ II a 層	口~胴部	-	-	-	0.75	141.9	結筋 LR→貼付→沈線・キザミ/ ス	186	414
a1988	深鉢	大 2b	II B 7a II a 層	口~胴部	-	-	-	1.0	32.8	RL/RL/ ス	186	414
a1989	深鉢	大 7a	II B 7a II b 層内砂層	口~胴部	-	-	-	0.8	112.3	LR→貼付→爪形刺突/ 波状口縁、ス	186	414
a1990	深鉢	大 4	II B 7a Ⅲ層、下位暗黒褐色土	口~胴部	-	-	-	0.6	33.7	ナデ/ナデ→貼付/ コゲ	186	414
a1991	深鉢	早期後	II B 7a II b 層	口縁部	-	-	-	1.0	84.9	ナデ/ コゲ	186	414

第 10 表 縄文土器観察表 (42)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真
					器高	口径	底径					
a1992	深鉢	大 7b	II B 7 a II 層	口～胴部	-	-	251.0	LR → 沈線 → 竹管による刺突、口縁部貼付 → 原体押圧 /	スス	187	414	
a1993	深鉢	大 8a	II B 7 a II a・下位暗褐色土	口～底部	28.4	21.8	1,163.0	貼付・橋状突起 → RL → 沈線 /	4 単位波状口縁、底部スノコ真、ススコケ	187	415	
a1994	深鉢	大 6	II B 7 a	口縁部	-	-	83.4	結節? → 沈線 /	ススコケ	187	414	
a1995	深鉢	大 7a	II B 7 a II 層	口縁部	-	-	40.5	結節 LR → 隆帯 → 沈線・キザミ /		187	414	
a1996	深鉢	大 7a	II B 7 a II 層・下位暗褐色土	口縁部	-	-	18.0	原体押圧 /	円筒上唇 a 式の可能性も有	187	414	
a1997	深鉢	大 7a	II B 7 a II 層・下位暗褐色土 (炭化物含む)	口～胴部	[36.8]	(29.2)	1,891.2	LR (0 段)、口縁部隆帯 → LR (0 段)、小波状 1 箇所 /	ススコケ	187	414	
a1998	球胴深鉢	大 6 ~ 7a	II B 7 a II 層・下位暗褐色土	口～胴部	[14.8]	(27.2)	537.0	RL /	外面磨耗、コケ	187	414	
a1999	深鉢	円上 c?	II B 7 a II 層・下位暗褐色土 (炭化物含む)	口～胴部	-	-	1,139.0	LR (0 段) → 原体押圧 /	スス、大木 7b 式の可能性も有	187	414	
a2000	深鉢	大 7b	II B 7 a II 層・下位暗褐色土 (炭化物含む)	口縁部	-	-	58.6	貼付 → RL → 原体押圧、口縁部突起 /		187	415	
a2001	深鉢	大 7b	II B 7 a II 層	口～胴部	-	-	389.4	付加条で両端結節? → 貼付 → 原体押圧、沈線 → 竹管による刺突、口縁部突起 /	磨耗・剥落多い、スス	187	415	
a2002	深鉢	大 5	II B 7 a II 層・下位暗褐色土	口縁部	-	-	57.3	沈線、口縁部貼付 → 沈線 /	コケ	187	415	
a2003	深鉢	大 7a	II B 7 a II 層・下位暗褐色土	口～胴部	[24.9]	(31.0)	640.8	付加条 LR・LR (0 段) 併用? → 貼付 → 細沈線、口縁部突起 /	輪積み明瞭、剥落多い、ススコケ	188	415	
a2004	深鉢	大 7b	II B 7 a II 層・下位暗褐色土	口～胴部	[14.9]	(23.3)	440.3	貼付 → LR → 原体押圧 /	4 単位波状口縁、外面磨耗、ススコケ	188	415	
a2005	深鉢	大 7b	II B 7 b II a 層	口～胴部	[13.8]	(17.0)	240.3	貼付・橋状突起 → LR → 原体押圧 /	4 単位波状口縁	188	415	
a2006	深鉢	大 9 占	II B 7 b II 層	胴～底部	[6.9]	-	115.0	RLR → 沈線・磨消 /	焼成後底部穿孔、コケ	187	415	
a2007	深鉢	大 7a	II B 7 b II 層	口～胴部	-	-	326.0	貼付 → 付加条 LR /	波状口縁	188	415	
a2008	深鉢	大 6	II B 7 b II 層	胴部	-	-	190.8	貼付 → LR → 沈線 /		188	415	
a2009	深鉢	大 7a	II B 7 b 東西トレンチ III 層	口縁部	-	-	142.5	沈線 (山・平)・キザミ /		188	415	
a2010	重	不明	II B 7 c 東西トレンチ II a 層	口～胴部	[7.6]	(9.8)	135.4	ナデ / ナデ		188	415	
a2011	深鉢	大 8a	II B 7 c I ~ II b 層	口縁部	-	-	200.5	LR → 隆沈線 /		188	416	
a2012	浅鉢	中期	II B 8 a I ~ II 層上面	口縁部	-	-	79.3	ナデ /		188	416	
a2020	球胴深鉢	大 7a	II B 8 a II a 層	口縁部	-	-	463.2	LR → 貼付、口縁部突起 /	ススコケ	189	416	
a2014	深鉢	大 7a	II B 8 a II a 層	口～胴部	-	-	121.4	RL → 沈線・隆帯 → 爪形刺突 /		188	416	
a2015	深鉢	大 7b	II B 8 a II a 層	口～胴部	-	-	35.1	結節 L? → LR → 原体押圧 /	波状口縁	188	416	
a2016	深鉢	大 7a	II B 8 a II a 層	口縁部	-	-	92.8	原体不明、隆帯 → 細沈線・押圧、口縁部爪形刺突 /	スス	189	416	
a2017	深鉢	大 3	II B 8 a II a 層	口～胴部	-	-	83.1	結節回転文?・半截竹管による刺突 /	スス	189	416	
a2018	深鉢	大 7a	II B 8 a II a 層 (II A 7 y II a 層)	口～胴部	-	-	275.4	結節 LR・LR → 沈線 → 刺突 /		189	416	
a2019	深鉢	大 7a	II B 8 a II a 層	口縁部	-	-	129.4	LR → 沈線 → 刺突 /		189	416	
a2020	深鉢	大 7a	II B 8 a II a 層	口～胴部	[23.8]	19.8	1,023.3	貼付 → LR、口縁部指押さえ /	小波状口縁	189	416	
a2021	深鉢	大 7a	II B 8 a II a 層	口～胴部	[21.1]	18.2	908.8	両端結節結束羽状 LR・RL → 貼付 → 細沈線 /	4 単位波状口縁、外面磨耗、ススコケ	189	416	
a2022	深鉢	大 7a	II B 8 a II a 層	口～胴部	-	-	120.3	隆帯 → LR /		189	416	
a2023	深鉢	大 6 ~ 7a	II B 8 a II a 層	口～底部	11.4	(12.0)	193.0	LR /	底部スノコ真、コケ	189	416	
a2024	深鉢	大 7a	II B 8 a B トレンチ III 層変色層 (赤褐色)	口～胴部	-	-	740.9	結束羽状 LR・RL → 隆帯 → 貼付 → 沈線・竹管による刺突 /		189	417	
a2025	深鉢	大 5	II B 8 a II 層	口～胴部	-	-	275.6	車輪筋条体 1A 類 R → 貼付 → 爪形刺突 /		190	416	
a2026	深鉢	大 3	II B 8 a II 層	口縁部	-	-	95.5	沈線・刺突 /		189	416	
a2027	深鉢	大 4	II B 8 a II 層	胴部	-	-	16.7	RL → 細隆帯 /		189	416	
a2028	深鉢	大 6 ~ 7a	II B 8 a II 層・下位暗褐色土	口～底部	20.3	15.0	878.9	ナデ → 隆帯 → 押圧、口縁部隆帯突起・2 箇一對のキザミ各 3ヶ所 /	ススコケ	190	417	
a2029	深鉢	大 7a	II B 8 a II 層 (A162号 竪穴建物 堆積土)	口～胴部	-	-	222.5	結節回転文 → 貼付 → キザミ /	波状口縁、ススコケ	190	416	
a2030	深鉢	大 6 ~ 7a	II B 8 a II 層	口～胴部	[10.0]	(9.6)	85.2	隆帯 → ナデ、竹管による刺突 /	ススコケ	190	417	
a2031	深鉢	大 7a?	II B 8 a II 層	口縁部	-	-	97.6	結束 LR → 隆帯 → 沈線・半截竹管による刺突 /	円筒上唇式の可能性も有	190	417	
a2032	深鉢	大 2b	II B 8 a II 層	口～胴部	-	-	328.6	両端結節結束羽状 LR・RL、口縁部指押さえによる爪状 /	スス	190	417	
a2033	深鉢	円下 b?	II B 8 a II 層	口～胴部	-	-	202.4	車輪筋条体 5 類 /	ススコケ	190	417	
a2034	深鉢	大 5	II B 8 a II 層	口～胴部	-	-	146.9	車輪筋条体 5 類 /	外面磨耗	190	417	
a2035	深鉢	大 7a	II B 8 a II 層	口縁部	-	-	49.2	沈線 → 細沈線 /	波状口縁	190	417	

第 10 表 縄文土器観察表 (43)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a2036	深鉢	大6	II B 8 a 血層	胴部	-	-	180.3	結束LR→貼付→沈線・爪形刺突/		190	417	
a2037	深鉢	大6	II B 8 a 血層	胴部	-	-	51.7	沈線/		190	417	
a2038	深鉢	大6~7a	II B 8 a 血層	口縁部	-	-	0.95	貼付→竹筭による刺突・キザミ/		190	417	
a2039	深鉢	大6~7a	II B 7 a II a 層	頸部	-	-	7.24	貼付→沈線・押圧/		190	417	
a2040	球形深鉢	大6	II B 8 a 血層 (A162号堅穴建物 堆積土下位)	口~底部	21.8	17.8	8.5	0.8	1.154.3 非結束羽状LR・RL→貼付→沈線→刺突/	190	417	
a2041	深鉢	大3	II B 8 a 血層	口~胴部	-	-	379.2	多軸線条体→沈線/		190	417	
a2042	深鉢	大6	II B 8 a 血層	胴部	-	-	107.7	LR→沈線/		191	417	
a2043	深鉢	大2b	II B 8 a 血層・下位暗褐色土	口~胴部	-	-	170.5	結節LR、口縁端部指押さえにより花卉状/		191	417	
a2044	深鉢	大7a	II B 8 a 東トレンチ II a 層	口~胴部	[130]	(18.2)	-	0.7	254.5 貼付→LR/	191	418	
a2045	深鉢	大7a	II B 8 a II 層	口縁部	-	-	179.1	凹端結節 (原体不明) /		191	417	
a2046	深鉢	大7a	II B 8 a 西トレンチ 血層・下位暗褐色土	口縁部	-	-	0.5	25.6	沈線→刺突/	191	417	
a2047	深鉢	大7a	II B 8 a 血層・下位暗褐色土	口~胴部	[228]	22.3	-	0.65	788.3 貼付→LR→爪形刺突/	191	418	
a2048	深鉢	大7a	II B 8 a 西トレンチ 血層・下位暗褐色土	口~底部	22.6	(20.5)	0.9	585.3	LR、口縁部上面貼付/	191	418	
a2049	深鉢	大5	II B 8 a 血層・下位暗褐色土 (A162号堅穴建物 堆積土下位)	口縁部	-	-	0.95	65.7	RL、口縁部上面貼付 (山) →沈線/	191	418	
a2050	深鉢	大7a	II B 8 a 血層・下位暗褐色土	口縁部	-	-	0.8	158.8	LR?→隆帯・沈線、口縁部突起/	191	418	
a2051	深鉢	大7a	II B 8 a 血層・下位暗褐色土	口~胴部	-	-	0.9	629.2	結節LR→沈線・刺突/	191	418	
a2052	深鉢	大6~7a	II B 8 a 血層・下位暗褐色土	口縁部	-	-	1.1	78.3	沈線・キザミ、口縁部上面内形突起/	191	418	
a2053	深鉢	大2b	II B 8 a 血層紫色層 (赤褐色)	口~胴部	-	-	0.9	456.7	未端結節LR?/	192	418	
a2054a	深鉢	大4	II B 8 a 血層紫色層 (赤褐色)	口縁部	-	-	1.2	68.8	LR→沈線/	192	418	
a2054b	深鉢	大4	II B 8 a 血層紫色層 (赤褐色)	口縁部	-	-	1.0	83.2	沈線 (平・山)、口縁部上面刺突/	192	418	
a2055	深鉢	大4	II B 8 b II b 層	口縁部	-	-	1.0	81.4	LR→貼付/	192	418	
a2056	深鉢	大5	II B 8 b II b 層	口~胴部	-	-	0.75	84.4	単軸線条体5類/	192	418	
a2057	深鉢	大2b	II B 8 b 血層	口~胴部	-	-	0.8	193.6	結節RL、凹端端部指押さえにより花卉状/	192	418	
a2058	球形深鉢	大6~7a	II B 8 b 東西トレンチ II 層	口~胴部	[18.2]	(34.0)	0.7	738.4	凹端結節東羽状LR・RL、細状工具による沈線→ 隆帯→沈線 (山・平)・キザミ、口縁部中空突起→ 穿孔→細隆帯、凹形突起→キザミ/	192	419	
a2059	深鉢	大6	II B 8 b 南北トレンチ II a 層	口縁部	-	-	0.9	32.3	沈線/	192	418	
a2060	深鉢	大6	II B 8 b II a 層	口縁部	-	-	0.7	94.6	貼付→沈線・キザミ/	192	419	
a2061	深鉢	大6?	II B 8 b II a 層	口~胴部	-	-	0.65	71.9	貼付→沈線→キザミ、口縁端部キザミ/	192	419	
a2062	深鉢	大7a	II B 8 b 血層	口~胴部	[158]	(39.0)	0.8	1.117.9	結束羽状LR・RL→隆帯→貼付→沈線・キザミ/	192	419	
a2063	深鉢	前期	II B 8 b 血層	口~底部	13.7	(13.4)	0.6	250.2	ナデ/	192	419	
a2064	球形深鉢	大6	II B 8 b 血層	口~胴部	[9.2]	(26.6)	0.75	228.5	未端結節東羽状LR・RL→貼付→沈線→竹管によ る刺突、口縁部突起→沈線/	192	419	
a2065	深鉢	大6~7a	II B 8 b 血層	口~胴部	[296]	19.4	-	0.7	1349	凹端結節LR?→沈線/	193	419
a2066	深鉢	大3?	II B 8 b 血層・下位暗褐色土	口~胴部	-	-	0.7	68.8	LR?→竹管による刺突・穿孔/	193	419	
a2067	深鉢	大3	II B 8 b 血層・下位暗褐色土	口~底部	19.4	18.2	9.4	0.7	634.9	LR→細隆帯→キザミ/	193	420
a2068	深鉢	大7a	II B 8 b 血層	口~胴部	[21.4]	(27.8)	0.75	1.537.2	凹端結節LR・貼付→沈線→キザミ/	193	419	
a2069	深鉢	円上 a	II B 8 b 血層・下位暗褐色土	口縁部	-	-	1.0	83.4	凹端結節LR→隆帯→竹管による刺突/	193	419	
a2070	深鉢	大5	II B 8 b 血層・下位暗褐色土	口~胴部	-	-	1.1	1.078.7	RL (明いた端) →貼付→竹管による刺突、口縁端部 貼付→竹管による刺突/	193	420	
a2071	深鉢	大6~7a	II B 8 b 血層・下位暗褐色土	口~胴部	[136]	19.4	-	0.85	494.0	凹端結節結束LR?→隆帯→沈線→竹管による刺突/	193	420
a2072	深鉢	円下 d	II B 8 b 血層紫色層 (赤褐色) ~ 下位暗褐色土	口~胴部	[240]	17.3	-	0.9	1.190.3	単軸線条体1類→原体押圧、爪形刺突/	194	420
a2073	深鉢	大5?	II B 8 b 血層紫色層 (赤褐色) ~ 下位暗褐色土	口~胴部	-	-	0.8	187.8	結節付加条、口縁端部押圧/	193	420	
a2074	深鉢	大4	II B 8 b 血層・下位暗褐色土	口~胴部	-	-	0.75	349.3	RL→貼付、口縁部キザミ/	193	420	
a2075	深鉢	大2b	II B 8 b 血層・下位暗褐色土	口~胴部	-	-	0.65	96.7	細状工具による刺突、口縁部指押さえにより花卉状	193	420	
a2076	深鉢	大4	II B 8 b 血層・下位暗褐色土	口縁部	-	-	0.7	44.6	沈線 (格子) /	194	420	
a2077	深鉢	大2b	II B 8 b 血層・下位暗褐色土	胴部	-	-	0.95	300.9	RL (明いた端) / RL (明いた端)	194	420	
a2078	深鉢	円下 d	II B 8・9 c I ~ II 層上面	胴部	[18.5]	-	1.15	1.247.6	単軸線条体1A 類R?→原体押圧/	194	420	
a2079	深鉢	不明	II B 8・9 c I ~ II 層上面	胴~底部	[5.7]	10.8	0.7	206.0	LR/	194	420	

第 10 表 縄文土器観察表 (44)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)		器高	重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真
					口径	底径						
a2080	深鉢	大6	II B 8・9c I ~ II 層上面	口縁部	-	-	32.2	沈線、口縁部折り返し		194	421	
a2081	深鉢	後期7a	II B 8・9c I ~ II 層上面	口縁部	-	-	0.7	竹管刺突		194	421	
a2082	深鉢	大7a	II B 9a II a 層	胴部	-	-	0.65	LR → 半截竹管による沈線	スス	194	421	
a2083	深鉢	大7b	II B 9a 西区 II a 層	口~底部	12.1	7.6	492.3	LR → 隆帯→底体押圧・刺突	外面摩耗、ススコケ	194	421	
a2084	深鉢	中期	II B 9a 東区 II a 層	口~底部	[86]	18.5	1,116.9	両端結節結束羽状 LR・RL → 隆帯→キザミ	底部稍円形、底後は長軸方向、スノコ痕、コケ	195	421	
a2085	深鉢	中期	II B 9a 南区 II a 層	口~底部	[30.5]	-	709.4	結節結束羽状 LR・RL	内外面摩耗、ススコケ	195	421	
a2086	深鉢	大4	II B 9a 北東区 II a 層	口縁部	-	-	209.9	LR → 隆帯、口縁部押圧	波状口縁?	194	421	
a2087	球胴深鉢	大6	II B 9a 北東区 II a 層 II B 9a C トレンチ II 層	口~胴部	[11.8]	21.3	442.1	結束羽状 LR・RL (0 段) → 貼付 → 沈線 (山・平)	ススコケ	194	421	
a2088	深鉢	大2b	II B 9a B トレンチ II a 層	口縁部	-	-	0.8	細紐/編組		195	421	
a2089	深鉢	大4	II B 9a B トレンチ II a 層	口縁部	-	-	0.7	LR? → 貼付 (椅子状)		195	421	
a2090	深鉢	円上 a	II B 9a B トレンチ II 層、南北トレンチ II b 層	口~胴部	-	-	0.75	車輪結条体 I A 類 R → 貼付 → 底体押圧		195	421	
a2091	深鉢	大7a	II B 9a B トレンチ II 層	口~胴部	-	-	1.0	隆帯 → 細沈線 → 半截竹管による沈線・キザミ		195	421	
a2092	深鉢	大3	II B 9a B トレンチ II b 層	胴部	-	-	1.0	LR → 沈線	外面摩耗	195	421	
a2093	深鉢	大7a	II B 9a 東区 II b 層	口~胴部	-	-	0.7	両端結節結束羽状 LR・RL → 細沈線	外面摩耗	195	422	
a2094	深鉢	大3	II B 9a 北西区 II b 層	口~胴部	-	-	0.7	LR → 細沈線	波状口縁	195	421	
a2095	深鉢	大6	II B 9a 南東区 II b 層	口縁部	-	-	0.9	LR、口縁部貼付 → 円形押圧、爪形刺突	ススコケ	195	421	
a2096	球胴深鉢	大6~7a	II B 9a 東区 II b 層	胴部	[12.1]	-	586.0	両端結節結束羽状 LR・RL	ススコケ	196	422	
a2097	深鉢	大5	II B 9a 東区 II a 層 (炭混じり)	口縁部	-	-	0.65	多輪結条体、口縁部沈線 → キザミ	コケ	196	421	
a2098	深鉢	大6	II B 9a 北東区 II a 層 (炭混じり)	口~胴部	-	-	0.8	貼付 → 竹管による沈線・刺突	ススコケ	196	422	
a2099	球胴深鉢	大7a	II B 9b II a 層	口~底部	35.8	15.3	2,711.6	両端結節 LR、口縁部隆帯 → 筒状突起 → 沈線・キザミ	4 単位波状口縁、底部スノコ痕、ススコケ	197	422	
a2100	球胴深鉢	大6~7a	II B 9b II a 層	口~胴部	[16.1]	38.0	519.1	結束羽状 LR・RL → 細沈線	ススコケ	196	422	
a2101	深鉢	大7a	II B 9b II a 層	口~胴部	-	-	0.85	両端結節結束羽状 LR・RL、貼付 → 沈線・刺突	ススコケ	196	422	
a2102	深鉢	大7a	II B 9b II a 層	口~胴部	-	-	0.75	結節回転文 → 半截竹管による沈線・刺突		196	422	
a2103	深鉢	大6~7a	II B 9b II a 層	口縁部	-	-	0.9	貼付 → 短沈線 → 沈線	スス	196	422	
a2104	深鉢	大7a	II B 9b II a 層	口縁部	-	-	0.9	沈線 → 刺突	剥落多い	196	422	
a2105	深鉢	大6	II B 9b II a 層	口縁部	-	-	0.7	貼付 → 沈線	外面摩耗	196	422	
a2106	深鉢	大7a	II B 9b II a 層	口縁部	-	-	0.75	隆帯 → 結節回転文 → 細沈線・刺突		196	422	
a2107a	深鉢	大6~7a	II B 9b II a 層	口~胴部	-	-	0.6	両端結節結束羽状 LR・RL → 隆帯・貼付 → 細沈線・刺突	波状口縁、ススコケ	196	422	
a2107b	深鉢	大6~7a	II B 9b II a 層	口縁部	-	-	0.6	両端結節結束羽状 LR・RL → 隆帯・貼付 → 細沈線	波状口縁、ススコケ	196	422	
a2108	深鉢	中期前	II B 9b II a 層	口縁部	-	-	1.0	細沈線 → 沈線・刺突	波状口縁、五箇ヶ台系か	196	422	
a2109	深鉢	大7a	II B 9b II a 層	口~胴部	-	-	1.0	両端結節結束羽状 LR・RL → 細沈線・爪形刺突 → 沈線	波状口縁、コケ	196	422	
a2110	深鉢	大7a	II B 9b II a 層	口縁部	-	-	0.55	隆帯 → 細沈線 → 沈線		197	423	
a2111	深鉢	大7a	II B 9b II a 層	口~胴部	-	-	0.6	結束羽状 LR・RL → 沈線・刺突	コケ	197	423	
a2112a	深鉢	大7a?	II B 9b II a 層	口~胴部	-	-	0.8	結節回転文 → 沈線		197	423	
a2112b	深鉢	大7a?	II B 9b II a 層	底部	-	-	329.6	結節回転文		197	423	
a2113	深鉢	大6	II B 9b B トレンチ II a 層上位	口~胴部	-	-	0.8	結節 LR → 貼付 → 押上引き	波状口縁、外面摩耗・剥落多い、スス	197	423	
a2114	深鉢	大7a	II B 9b 西区 II 層	口~胴部	-	-	0.5	結節 RL? → 貼付 → 細沈線・刺突	剥落多い	197	423	
a2115	深鉢	前期	II B 9b II b 層	胴部	-	-	68.9	車輪結条体 I A 類 L	剥落多い	197	423	
a2116	深鉢	大4	II B 9b II b 層	口~胴部	[20.4]	30.4	348.1	結節 LR (0 段) → 貼付、口縁部突起・貼付 → 沈線	ススコケ	198	423	
a2117	深鉢	大4	II B 9b II b 層	口~胴部	-	-	0.8	LR → 貼付	波状口縁、ススコケ	198	423	
a2118	深鉢	大4	II B 9b 南西・西・東区 II b ~ III 層	口~胴部	-	-	0.8	結節 LR、口縁部貼付 → キザミ		198	423	
a2119	深鉢	大7a	II B10a II 層	口縁部	-	-	0.7	隆帯 → 短沈線 → 沈線、口縁部突起 → 貼付	コケ	198	423	
a2120	深鉢	大7a	II B10a 東区 II a 層下位	口~胴部	-	-	0.6	LR → 貼付 → 沈線・竹管による刺突	スス	198	423	
a2121	浅鉢	大8~9	II B10a 北東区 II a 層	口~胴部	11.5	(10.7)	87.2	LR → 貼付 → 沈線	内外面摩耗、ススコケ	198	423	
a2122	深鉢	大9 新	II B10a 北東区 II a 層	口~胴部	[17.3]	26.0	321.6	LR → 隆沈線	コケ	198	423	
a2123	深鉢	大9 新	II B10a 北東区 II a 層	口~底部	27.9	23.0	460.6	RL → 沈線・磨消	3 単位波状口縁、外面摩耗、ススコケ	199	424	
a2124	深鉢	大7a	II B10a 北西区 II a 層	口縁部	-	-	0.9	結束羽状 LR・RL? → 隆帯 → 沈線 → 刺突、口縁部上 面キザミ		198	424	

第 10 表 縄文土器観察表 (45)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a2125	深鉢	大 7a	II B10a 南東区 II a 層	口縁部	-	-	75.4	隆帯→沈線→細沈線・キザミ・穿孔	波状口縁、スス、孔は貫通していない	198	423	
a2126	深鉢	大 8b~9	II B10a 南東区 II a 層下位	口~胴部	-	-	537.5	LR→隆沈線→刺突	スス	199	424	
a2127	深鉢	大 6	II B10a 南西区 II a 層	口縁部	-	-	57.6	車輪緒糸体 I A 類 I →沈線	スス	198	424	
a2128	深鉢	大 4	II B10a 東区 II b 層	口~胴部	-	-	143.6	LR→貼付、口縁部上面貼付		199	424	
a2129	深鉢	大 4	II B10a 東区 II b 層	胴部	-	-	53.0	LR→隆帯		199	424	
a2130	深鉢	大 3	II B10a II b 層	口縁部	-	-	25.1	刺突		199	424	
a2131	深鉢	大 9 新	II B10a 西区 II b 層	口~胴部	[18.0]	(25.8)	882.1	LR (0 段) →隆帯→沈線・磨消	ススコグ	199	424	
a2132	深鉢	中期	II B10a 南東区	口~胴部	-	-	432.5	RL (0 段)	スス	199	424	
a2133	脚付深鉢	中期	II B10b 東区	胴部	[5.5]	(5.8)	47.4	ナデ/ナデ	スス	199	424	
a2134	壺	大 8b~9	II B10b 南北中央トレンチ	胴部	-	-	61.9	RLR→橋状突起・隆沈線	スス	199	424	
a2135	深鉢	大 4	II B10b 南北中央トレンチ	胴部	-	-	80.1	貼付 (椅子・皿)	スス	199	424	
a2136	深鉢	大 6	II B11a II a 層	口縁部	-	-	100.1	口縁部突起貼付・橋状突起→キザミ	内面剥落多い	200	424	
a2137	深鉢	大 8a	II B11a II a 層上位	口~胴部	-	-	88.3	LR→隆帯	波状口縁、ススコグ	200	424	
a2138	深鉢	前期末?	II B11a 西区 II a 層	胴部	-	-	56.7	車輪緒糸体 I A 類 R	焼成時に変形、器面発泡・灰色	200	424	
a2139	深鉢	大 8a	II B11b 東西トレンチ II a 層	口縁部	-	-	58.5	RL→沈線		200	424	
a2140	深鉢	大 7a	II B11・12e 雨裂内	口~胴部	-	-	88.4	LR 斜向するか羽状縄文ではない→キザミ・隆帯→刺突	波状口縁、ススコグ	200	425	
a2141	深鉢	大 7a	II B11~13・m・n I~II 層上面	口縁部	-	-	77.4	隆帯→LR (0 段) →隆帯		200	425	
a2142	深鉢	大 8b 新	II B12a 西区 II a 層	口~底部	[12.9]	(7.5)	294.6	RL→隆沈線	2 単位波状口縁、外面摩耗	200	425	
a2143	深鉢	大 8a	II B12b II a 層	口~胴部	-	-	182.2	L→隆沈線		200	425	
a2144	浅鉢?	大 9	II B12b II a 層上位	口~胴部	[8.5]	(13.8)	118.0	LR→区画ではない沈線・磨消	ススコグ	200	425	
a2145	深鉢	大 7b	II B12b II a~IV 層上面	口縁部	-	-	27.7	隆帯→原体押圧		200	425	
a2146	深鉢	大 8b~9	II B13d IV 層上面	口~胴部	-	-	138.0	LR→隆沈線	波状口縁	200	425	
a2147	深鉢	大 8b	II B13f II b 層	口~胴部	-	-	90.8	RL→隆沈線→刺突		200	425	
a2148	深鉢	大 8a	II B13f II b 層	口~胴部	-	-	81.1	LR→隆沈線	波状口縁、コグ	200	425	
a2149	深鉢	前期	II B13f III 層	口~胴部	-	-	391.1	LR・ナデ		200	425	
a2150	深鉢	大 6	II B13g 東区 III 層	胴部	-	-	470.6	結節 L 孔 R? →貼付		200	425	
a2151	深鉢	円上 a?	II B13g 東区 III 層	口縁部	-	-	56.4	結節 L 孔 R? →原体押圧・刺突	大木 7a 式の可能性も有	200	425	
a2152	深鉢	大 9 新	II B13・14g II b~III 層	胴部	[25.1]	(28.6)	649.4	LR→沈線・磨消	波状口縁、スス	201	425	
a2153	深鉢	大 7a	II B13b 東区 III 層	口縁部	-	-	68.3	沈線・キザミ		200	425	
a2154	深鉢	大 8b 新	II B13g III 層	口~底部	10.1	(10.7)	101.3	ナデ→隆帯、橋状突起		200	425	
a2155	深鉢	大 8b 新	II B13g 東区 II a 層	胴部	-	-	214.4	LR→隆沈線	ススコグ	201	425	
a2156	深鉢	大 7b	II B13j 東区 II a 層	口~胴部	[29.6]	(30.8)	1,003.1	RL (0 段) →隆帯→原体押圧	ススコグ	201	426	
a2157	深鉢	大 9 新	II B13・14j II b~III 層	口~胴部	-	-	179.7	RL→沈線・磨消	波状口縁	201	426	
a2158	深鉢	中期	II B13・14j II b~III 層	胴~底部	-	-	424.8	RL		201	426	
a2159	深鉢	大 8a 新	II B14a I~II 層上面	口縁部	-	-	82.3	LR (0 段) →隆沈線	波状口縁、スス	201	426	
a2160	深鉢	大 9~10	II B14・15a II 層	胴部	-	-	44.3	LR? →隆沈線		201	426	
a2161	深鉢	大 7a	II B14b I~II 層上面	口縁部	-	-	259.9	原体不明→沈線、口縁部突起・貼付		201	426	
a2162	深鉢	大 9 新	II B14d II a 層	口縁部	-	-	216.3	LR→沈線・磨消	ススコグ	201	426	
a2163	注口	大 8	II B14e II b 層	注口	-	-	54.8	RL→貼付、口縁部隆帯		201	426	
a2164	深鉢	大 6	II B14e II b 層	胴部	-	-	160.3	RL→貼付、口縁部隆帯	波状口縁、スス	201	426	
a2165	深鉢	大 3	II B14e II b 層	口縁部	-	-	14.1	沈線・刺突		201	426	
a2166	深鉢	大 8b	II B14e II b 層	口~胴部	-	-	75.2	RLR→隆沈線、橋状突起	波状口縁、スス	202	426	
a2167	深鉢	大 9 新	II B14e 西区 III 層	口縁部	-	-	79.3	LR→沈線・磨消→刺突	波状口縁	202	426	
a2168	深鉢	中期	II B14e III 層	口~胴部	-	-	1,182.8	LR (0 段)	スス	202	426	
a2169	深鉢	大 7a	II B14e III 層	口縁部	-	-	73.2	沈線・短沈線・貼付	スス	202	426	
a2170	深鉢	大 8b	II B14e III 層	口縁部	-	-	89.7	RL→隆沈線	波状口縁、剪孔、ススコグ	202	427	
a2171	深鉢	大 8b~9	II B14e III 層	口~底部	14.5	(14.9)	6.0	LR (0 段)	波状口縁、スス	202	427	
a2172	深鉢	大 8b	II B14e III 層	口~底部	[10.1]	(7.5)	0.5	LR→隆沈線		202	427	
a2173	深鉢	大 8b~9	II B14e III 層	口~底部	[7.6]	(4.6)	0.3	22.2	LR→沈線		202	427
a2174	深鉢	中期	II B14e III 層	胴~底部	19.1	(19.0)	9.5	0.5	526.1	RLR	202	427
a2175	深鉢	大 9 古	II B14e III 層	胴~底部	[19.4]	(8.0)	0.6	693.1	RL→隆沈線	底部漸代裏、ススコグ	202	427
a2176	深鉢	大 8b 新	II B14e 東区 III 層	口~胴部	-	-	507.1	LR (0 段) →隆沈線	ススコグ	202	427	

第 10 表 縄文土器観察表 (46)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a2177	浅鉢	大 7?	II B14e・f・15f II b~III層	口~胴部	[165]	(40.0)	ナデノ		赤彩		202	427
a2178	深鉢	中期	II B14・15e I~II層	口~胴部	[340]	(26.2)	LRノ				203	427
a2179	深鉢	大 8b 新	II B14f II b層	口~胴部	[190]	22.2	LRノ	隆沈線ノ	2 単位波状口縁、ススコグ		203	427
a2180	深鉢	大 8b 新	II B14f II b層	口~底部	[142]	(49)	RLノ	隆沈線ノ	3 単位波状口縁、スス、1355 と接合		203	428
a2181	深鉢	不明	II B14f II b層	胴~底部	[7.5]	(6.1)	RLノ	隆沈線ノ	スス		203	427
a2182	深鉢	中期	II B14f II b層	胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ			203	427
a2183	深鉢	大 8b 新	II B14f II b層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	波状口縁		203	428
a2184	深鉢	大 7a	II B14f II b層	胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	コグ		203	428
a2185	深鉢	大 7a	II B14f II b層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ			203	428
a2186	深鉢	大 8b	II B14f II b層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ			203	428
a2187	深鉢	大 9	II B14f II b層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	小波状口縁、スス		203	428
a2188	深鉢	大 8b 新	II B14f II b~III層	口~底部	236	(19.2)	LRノ	隆沈線ノ	2 単位波状口縁、穿孔、ススコグ、黒斑		203	428
a2189	深鉢	大 9 新	II B14f II b~III層	口~底部	24.8	(20.7)	LRノ	隆沈線ノ	5 単位波状口縁、底面網代痕、コグ		204	428
a2190	深鉢	大 8b	II B14f II b層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	小波状口縁、スス		204	428
a2191	深鉢	大 6~7a	II B14f III層	胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	スス		203	428
a2192	深鉢	大 6	II B14f III層	胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	ススコグ		204	428
a2193	深鉢	大 8a	II B14f III層	口~胴部	[26.8]	(40.5)	RLノ	隆沈線ノ			204	428
a2194	深鉢	大 8b	II B14f III層	胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	アスファルト付着		204	429
a2195	深鉢	大 8b 新	II B14f III層	口~胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	ススコグ		204	428
a2196	深鉢	大 6	II B14f III層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ			204	429
a2197	深鉢	大 8	II B14f III層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	赤彩、隆帯剥落		204	429
a2198	深鉢	大 9 新	II B14f III層	口~胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	波状口縁、外面磨耗、異なる原体使用		205	429
a2199	浅鉢	大 8b	II B14f III層	口~胴部	[169]	-	LRノ	隆沈線ノ	波状口縁		205	429
a2200	深鉢	大 8b 新	II B14f III層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	波状口縁、スス		204	429
a2201	深鉢	大 5~6	II B14f III層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	波状口縁		205	429
a2202	深鉢	大 8b	II B14f III層	胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	底面大部分剥落		205	429
a2203	深鉢	大 8b	II B14f III層	口~胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	波状口縁		205	429
a2204	深鉢	大 9	II B14f III層	口~胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ			206	430
a2205	深鉢	大 8a	II B14f III層	口~胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	波状口縁、隆帯付近コス		206	430
a2206	深鉢	大 7a?	II B14f III層	口~胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	ススコグ		205	430
a2207	深鉢	大 9	II B14g II層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	スス		205	429
a2208	深鉢	不明	II B14g II b層	胴~底部	[5.9]	10.0	LRノ	隆沈線ノ	底面網代痕、外面磨耗、粘土付着		206	430
a2209	深鉢	大 7a	II B14g II b層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	波状口縁、スス		206	430
a2210	深鉢	不明	II B14g II b層	胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ			206	430
a2211	深鉢	不明	II B14g II b層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ			206	430
a2212	深鉢	不明	II B14g II b層	底部	[2.5]	10.0	LRノ	隆沈線ノ	底面網代痕→ナデ、磨成後穿孔		206	430
a2213	深鉢	中期	II B14g 東区 II b層	口~胴部	[23.1]	24.3	LRノ	隆沈線ノ			206	430
a2214	深鉢	大 8b~9	II B14g III層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	波状口縁、スス		206	430
a2215	脚付深鉢	中期	II B14g III層	底部 (高台?)	[5.1]	-	RLノ	隆沈線ノ	コグ		206	430
a2216	深鉢	大 7a?	II B14g III層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	小波状口縁		207	431
a2217	浅鉢	中期	II B14g III層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	波状口縁か		206	430
a2218	深鉢	大 7a	II B14g III層	胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ			207	430
a2219	深鉢	大 8b 新	II B14g III層	胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ			207	430
a2220	深鉢	大 8b 新	II B14g III層	胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	スス		207	431
a2221	深鉢	大 8a	II B14g III層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	波状口縁、スス		207	431
a2222	深鉢	大 7b	II B14g III層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	スス		207	431
a2223	深鉢	大 6	II B14g 東区 III層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	スス		207	431
a2224	深鉢	大 9 新	II B14g 東区 III層	口~胴部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	ススコグ		207	431
a2225	深鉢	大 10 古	II B14g 東区 III層	口縁部	-	-	LRノ	隆沈線ノ	ススコグ		207	431

第 10 表 縄文土器観察表 (48)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a2276	深鉢	大 6	II B15f II b 層	口~胴部	-	-	806	隆帯→押し引き沈線→原体押圧、突起／	波状口縁	211	434	
a2277	深鉢	不明	II B15f II b 層	胴~底部	(10.4)	(11.4)	582.7	車輪緒糸体 1 A 類?／	底部木葉痕	211	434	
a2278	深鉢	大 9 新	II B15f II b 層	口縁部	-	-	145.8	RL→沈線・磨消／	波状口縁	211	434	
a2279	深鉢	不明	II B15f II b 層	底部	-	-	23.4	ナデ?／	底部施成後穿孔	211	434	
a2280	深鉢	円下 d	II B15f II a 層	口部	-	-	351.3	RL／	スス	211	434	
a2281	深鉢	大 10 古	II B15g II a 層	口~胴部	-	-	117.9	LR→沈線・磨消／	スス	211	434	
a2282	深鉢	大 8b 新	II B15g II b 層	口~胴部	-	-	234.6	車輪緒糸体 1 類 R→隆沈線／	波状口縁、ススコケ	212	435	
a2283	深鉢	大 9 新	II B15g II 層	口縁部	-	-	108.7	LR (0 段) →沈線・磨消／	外面磨耗	212	434	
a2284	深鉢	大 9 新	II B15g II b~III 層	口~胴部	-	-	202.0	RL→沈線・磨消／	底部網代痕、ススコケ	212	435	
a2285	深鉢	大 9 新	II B15g 東区 III 層	胴~底部	[33.0]	9.2	1,644.6	L→沈線・磨消／	隆帯剥落、スス	212	435	
a2286	深鉢	大 6~7a	II B15g 東区 III 層	口縁部	-	-	43.4	隆帯・沈線、中空突起／	波状口縁、ススコケ	212	434	
a2287	深鉢	大 9 新	II B15g 東区 III 層	口~胴部	-	-	323.9	RLR→沈線・磨消／	波状口縁、ススコケ	212	435	
a2288	深鉢	中期	II B15h 東区 II b~III 層	口~胴部	-	-	628.0	LR／	波状口縁、ススコケ	212	435	
a2289	深鉢	大 8b 新	II B15h 東区 II b~III 層	口縁部	-	-	188.1	車輪緒糸体 1 類 R→隆沈線→削突／	波状口縁、ススコケ	212	435	
a2290	深鉢	中期	II B15h 東区 II b~III 層	口~胴部	-	-	588.1	結筋 LR／	波状口縁、ススコケ	212	435	
a2291	深鉢	大 9 新	II B15h III 層	口縁部	-	-	179.8	RL→沈線・磨消／	小波状口縁?、器面磨耗	212	435	
a2292	深鉢	中期	II B15h III 層	口~胴部	-	-	282.9	RL／	波状口縁、スス	212	436	
a2293	脚付深鉢	中期	II B15h 東区 III 層	底部	[2.8]	-	49.7	隆帯／	波状口縁、スス	212	435	
a2294	深鉢	大 10 古	II B15h 西区 III 層	胴部	-	-	724.5	LR→沈線・磨消／	波状口縁、スス	213	435	
a2295	深鉢	大 9 新	II B15h II b~III 層	口縁部	-	-	171	LR→沈線・削突／	小波状口縁、スス	213	435	
a2296	深鉢	大 9 新	II B15h 東区 III 層	口~底部	10.6	(8.4)	70.1	LR→沈線・磨消／	底部網代痕、ススコケ	213	436	
a2297	深鉢	中期	II B15h 東区 II b 層	口~底部	8.8	9.7	49	LR→沈線・磨消／	ススコケ	213	436	
a2298	深鉢	中期	II B15h 東区 II b 層	胴~底部	[19.7]	-	903.8	RL／	底部網代痕、ススコケ	213	436	
a2299	深鉢	大 7a	II B15h 東区 III 層	口縁部	-	-	49.7	結筋回文文?、口縁部削付→削突／	ススコケ	213	435	
a2300	深鉢	中期	II B15h 西区 III 層	口~底部	8.7	9.4	142.2	ナデ／	底部木葉痕、スス	213	436	
a2301	深鉢	大 9 新	II B15h 西区 III 層	口~胴部	-	-	223.3	LR→沈線・磨消／	ススコケ	213	436	
a2302	深鉢	大 10 古	II B15h II 層	口~胴部	[37.6]	(25.1)	1,425.9	RL→沈線／	スス、1598 と同一個体だが接合せず	213	436	
a2303	深鉢	大 9 新	II B15h II a 層	口縁部	-	-	149.9	LR→沈線・磨消／	ススコケ	213	436	
a2304	深鉢	中期	II B15h II a 層	胴~底部	-	-	544.2	RL／	底部網代痕、スス	213	436	
a2305	深鉢	前期	II B15k 西区 II b 層	胴部	-	-	22.5	車輪緒糸体 5 類／	ススコケ	214	436	
a2306	深鉢	大 6	II B15m 沈跡内 黒色・黄褐色砂礫層	口縁部	-	-	29.7	竹管削突／	ススコケ	214	436	
a2307	深鉢	前期	II B15m 沈跡内 黒色・黄褐色砂礫層	口縁部	-	-	38.9	車輪緒糸体 1 A 類 R／	原体端部の圧痕残る?	214	436	
a2308	深鉢	大 7a	II B15m 沈跡内 黒色・黄褐色砂礫層	口~胴部	[14.2]	-	419.3	隆帯→LR→沈線→削付／	口縁部突起	214	436	
a2309	深鉢	中期	II B15m 沈跡内 黒色・黄褐色砂礫層	底部	[5.9]	15.8	588.9	LR→沈線?／	器面磨耗、底部スノコ車→ナデ?	214	437	
a2310	深鉢	大 7a	II B15m 沈跡内 黒色・黄褐色砂礫層	口~胴部	[16.2]	20.8	1,016.2	結筋 LR→隆帯 (山・鞍)・沈線／	口縁部突起、ススコケ	214	437	
a2311	深鉢	大 8a	II B16c 南東区 II 層	口縁部	-	-	194.4	LR→隆沈線／	波状口縁	214	436	
a2312	深鉢	大 8b	II B16d II a 層	口縁部	-	-	137.8	鈎状の隆帯→沈線・削突／	波状口縁	214	436	
a2313	重	大 9 新	II B16d 北東区 II a 層	口~底部	16.05	(8.9)	272.0	鈎状の隆帯→沈線・磨消、橋状突起+隆帯／	外面全スス	214	436	
a2314	深鉢	大 8b 新	II B16e II a 層	口~胴部	-	-	113.7	LR→隆沈線／	橋状突起、赤彩	214	437	
a2315	深鉢	大 5~6	II B16e II a 層	口縁部	-	-	76.3	橋状工具による上下方向の重層沈線→隆帯→押圧／	ススコケ	214	437	
a2316	深鉢	中期	II B16e II a 層	胴~底部	[4.5]	6.4	91.6	LR／	ススコケ	214	436	
a2317	深鉢	大 8	II B16e II a 層	口縁部	[18.8]	(22.1)	1,314.1	中空突起→隆沈線／	スス	214	437	
a2318	深鉢	大 9 新	II B16h 西区 II b~III 層	口~胴部	[18.8]	-	1,314.1	LR→沈線・磨消／	スス	214	437	
a2319	深鉢	中期	II B16h 東区 III 層、北東区 II 層	胴~底部	[21.5]	11.6	1,100.0	LR／	波状口縁	215	437	
a2320a	深鉢	大 10 中	II B16h 北東区 II 層	口縁部	-	-	236.1	LR→沈線・磨消／	1600a と同一個体	215	437	
a2320b	深鉢	大 10 中	II B16h 東区 III 層	胴部	-	-	181.4	LR→沈線・磨消／	1600a と同一個体	215	437	
a2321	深鉢	中期	II B16h 北西区 II 層	口~胴部	[20.3]	17.6	442.3	LR／	ススコケ	215	437	
a2322	深鉢	大 7a	II B16h II 層	胴部	-	-	62.0	RL→隆帯→沈線→削突／	波状口縁	214	437	
a2323	深鉢	大 7b	II B16h II b 層	口縁部	-	-	17.0	車輪緒糸体 1 A 類 L→隆帯 (網番) →原体押圧／	波状口縁	214	437	
a2324	深鉢	大 5	II B17a 南西区 II a 層	口縁部	-	-	42.5	貼付 (山形)／	波状口縁	214	437	
a2325	脚付深鉢	大 8	II B17c II a 層	底部	[3.1]	-	10	88.6	車輪緒糸体 1 A 類 R→隆沈線／	波状口縁	214	437
a2326	深鉢	大 9 古	II B17c 南西区 II 層	胴部	-	-	178.1	RLR→隆沈線／	スス	215	437	
a2327	深鉢	大 9 古	II B17c 北東区 II 層	口~底部	10.9	(10.4)	122.4	L→隆沈線／	スス	215	437	

第 10 表 縄文土器観察表 (49)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)		重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.	
					口径	底径						
a2328	深鉢	大8b 新	II B17d 南西区 II a 層	胴部	-	-	82.6	RL (0段) → 隆沈線 /	スス	215	437	
a2329	深鉢	大10古	II B17f II 層	口～胴部	-	-	128.7	LR → 沈線・磨消 → 凹形刺突・押し引き /		215	438	
a2330	深鉢	大9～10	II B17g 南西区	口縁部	-	-	8.5	結束羽状縄文 → 隆帯 /		215	438	
a2331	深鉢	後期前	II B17f 北東区 II 層	口縁部	-	-	26.2	RL → 沈線・磨消 /	波状口縁・原体細か、十腰内I式か	215	438	
a2332	深鉢	大10古	II B17k 北西・南東区 II 層	胴部	-	-	362.2	RL → 沈線・磨消 /	外面剥落多、コケ	215	438	
a2333	深鉢	大8b 新	II B18b 南東区 II a 層	口～胴部	[16.0]	(40.0)	845.8	口縁: RL → 隆沈線・胴部: ナデ /		215	438	
a2334	深鉢	大8b 新	II B18b 南東区 II a 層	口～胴部	-	-	221.6	LR → 隆沈線 /	波状口縁	215	438	
a2335	深鉢	大9古	II B18b 南東区 II a 層	口～胴部	-	-	311.0	LR → 隆沈線 /	波状口縁	216	438	
a2336	深鉢	前期	II B18c 南西区 II a 層	胴部	-	-	27.3	車輪跡系体5類 /		216	438	
a2337	深鉢	大5	II B18c 南西区 II a 層	口縁部	-	-	44.9	隆帯 → 凹形刺突・貼付文 (山形) /	口縁部の突起	216	438	
a2338	深鉢	大9新	II B18c 北東区 II 層	口縁部	-	-	23.6	LR → 沈線・磨消 /	スス	216	438	
a2339	深鉢	大9古	II B18d I ～ II 層上面	口縁部	-	-	9.6	車輪跡系体1類 R → 隆沈線 → 爪形刺突 /	波状口縁	216	438	
a2340	深鉢	大8	II B18g 北西区 II 層	胴部	-	-	30.1	LR → 隆沈線 /	スス	216	438	
a2341	深鉢	大8b	II B18g II a 層	口～胴部	-	-	763.4	RLR → 隆沈線 → 刺突 /	波状口縁	216	438	
a2342	深鉢	大9古	II B18g 北東区 II 層	口縁部	-	-	15.6	RLR → 隆沈線 /	補修孔	216	438	
a2343	浅鉢	大10中	II B18i 南東区 II 層	口～胴部	[8.9]	(34.6)	237.6	RL → 凹形隆帯 → 横溝 /	波状口縁・ススコケ	216	438	
a2344	深鉢	大9新	II B18k 南西区 II 層	口～胴部	-	-	83.1	RLR → 沈線・磨消 /	波状口縁・ススコケ	216	438	
a2345	深鉢	大7b	II B19a 北東区 II 層	口縁部	-	-	5.9	LR → 原体押圧 /		216	438	
a2346	深鉢	大7a?	II B19a 南東区 II 層	口縁部	-	-	10.7	下方向からの刺突・口縁部貼付 (山)		216	438	
a2347	深鉢	大8a	II B19a 南東区 III 層	口縁部	-	-	19.1	LR → 隆沈線・口縁部隆帯 (山)		216	438	
a2348	深鉢	大3	II B19b 南西区 II 層	口縁部	-	-	28.6	LR → 隆帯 → キヤミ /		217	438	
a2349	深鉢	大8a	II B19c II a 層	口縁部	-	-	191.4	RL → 隆沈線 /		217	438	
a2350	深鉢	中期	II B19c 南東区 II a 層	胴～底部	-	-	923.1	LR /	胴突突起	217	439	
a2351	深鉢	大6	II B19c 南東区 II a 層	口縁部	-	-	32.0	隆帯 → 半截竹管刺突 /	底部網代裏・スス	217	439	
a2352	深鉢	大3	II B19 d II a 層	口縁部	-	-	8.8	LR → 隆帯 → キヤミ /		217	438	
a2353	深鉢	大4	II B19k II a 層	口縁部	-	-	23.5	RL? → 半截竹管押し引き /		217	438	
a2354	深鉢	大9	II B19k I ～ II 層上面	口縁部	-	-	183.9	LR → 沈線・磨消 /		217	439	
a2355	深鉢	大8b?	II B20 ～ 22a I ～ II 層上面	胴～底部	[8.7]	6.0	6.6	RL → 隆帯 /	スス	217	439	
a2356	深鉢	大8a	II B20 ～ 22a I ～ II 層上面	胴～底部	[10.2]	6.8	0.7	254.6	LR → 隆帯 → 沈線 /	ススコケ	217	439
a2357	深鉢	大8b～9	II B20j III 層	胴部	-	-	291.5	LR → 沈線 /	スス	217	439	
a2358	深鉢	大8b	II B20j 南東区 III 層	口縁部	-	-	5.2	車輪跡系体1類 R → 隆沈線 /		217	439	
a2359	深鉢	大7b	II B20k 南西区 II 層	口縁部	-	-	24.8	原体押圧・口縁部貼付 (波) /		217	439	
a2360	深鉢	大7a?	II B20k 南西区 III 層	口縁部	-	-	20.9	LR → 沈線・口縁部隆帯 → 刺突 /	ススコケ	217	439	
a2361	深鉢	大8b～9	II B20k 南西区 III 層	口縁部	-	-	105.1	LR → 沈線 /	波状口縁・スス	217	439	
a2362	深鉢	大8b～9	II B20k 南西区 III 層	口縁部	-	-	104.6	RL → 沈線 /	ススコケ・外面摩耗	217	439	
a2363	深鉢	大7b	II B20 南東区 III 層	口縁部	-	-	75.2	LR (0段) → 口縁部隆帯の貼付 → 沈線 (山)・原体押圧 /		217	439	
a2364	深鉢	大7b	II B20 南東区 II 層	口縁部	[9.3]	(22.5)	267.1	LR → 隆帯・貼付 /	スス	217	439	
a2365	深鉢	中期前	II B20m 低位部 黒色土	口縁部	-	-	4.0	沈線 (平) /	五領ヶ台系か	217	439	
a2366	深鉢	不明	II B20m 低位部 黒色土	口縁部	-	-	2.5	沈線 → 下方向からの刺突 /	赤穴式か	217	439	
a2367	深鉢	大8b 新	II B21c I ～ II 層上面	口～胴部	-	-	299.5	LR → 隆沈線 /	波状口縁	217	439	
a2368	壺	大8b 新	II B21j 南東区 北ベルト	口～胴部	[5.5]	(10.4)	86.4	RL → 隆沈線 → ナデ (磨消) /		217	439	
a2369	深鉢	大8b～9	II B21j 南東区 北ベルト	口縁部	-	-	97.6	LR → 沈線 /	波状口縁	217	439	
a2370	深鉢	大9新	II B21j 北東区 II 層	口縁部	-	-	53.9	LR → 沈線・磨消 /	波状口縁	218	439	
a2371	深鉢	大9古	II B21j 北東区 III 層	口縁部	-	-	7.6	LR (0段) → 隆沈線 /	スス	218	439	
a2372	深鉢	大9新	II B21j 北西区 III 層	口縁部	-	-	131.5	LR → 沈線・磨消 /	波状口縁	218	439	
a2373	深鉢	大8	II B21j 北西区 北ベルト	口縁部	-	-	117.5	RL → 隆帯 → 沈線 /	波状口縁	218	439	
a2374	深鉢	大6	II B21j 北西区 III 層	口縁部	-	-	95.5	貼付 → 沈線 (山) /	波状口縁	218	439	
a2375	深鉢	大9新	II B21j 北西区 III 層	口縁部	-	-	149.4	RLR? → 沈線・磨消 /	スス	218	439	
a2376	深鉢	大8b 新	II B21j 北西区 北ベルト	口縁部	-	-	123.0	RL → 隆沈線 → 凹形刺突 /	波状口縁	218	439	
a2377	深鉢	大6～7a	II B21k 南東区 III 層	口縁部	-	-	23.0	沈線 → 竹管による交互刺突 /		218	439	
a2378	深鉢	前期	II B21k 南東区 III 層	口縁部	-	-	37.1	LR → 穿孔 /		218	439	
a2379	深鉢	大9新	II B21k 南東区 III 層	口縁部	-	-	88.5	RL → 沈線・磨消 /	波状口縁	218	440	

第 10 表 縄文土器観察表 (50)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a2380	深鉢	大9古	II B21k 北東区 III層	口~胴部	-	-	65.1	LR→隆沈線/	波状口縁、スス	218	440	
a2381	深鉢	大9古	II B21k 北西区 III層	口~胴部	-	-	0.9	RLR→隆沈線/		218	440	
a2382	深鉢	大8a	II B21k 北西区 II~III層	口縁部	-	-	1.0	隆帯→沈線/		218	440	
a2383	深鉢	大8b新	II B21k 北東区 III層	口~胴部	[26.3]	(31.2)	0.85	RL→隆沈線/	スス	218	440	
a2384	深鉢	大8b~9	II B21k 北東区 III層	口~胴部	-	-	1.15	口縁部隆帯→LR/		218	440	
a2385	深鉢	大8	II B21k 北東区 III層	口縁部	-	-	0.8	LR→沈線/	小波状口縁、スス	218	440	
a2386	深鉢	大8b新	II B21k 北東区 北ベルト	口~底部	18.5	(10.1)	0.55	LR→隆沈線/	2単位波状口縁、底部網代直→ナテ	219	440	
a2387	御行深鉢	大8	II B21k 北東区 北ベルト	底部	[4.7]	-	7.4	LR→隆沈線・穿孔/	透かし穴2箇所	219	440	
a2388	深鉢	大8b新	II B21k 南西区 III層	口~胴部	[12.3]	(8.2)	0.5	RL→隆沈線/	2単位波状口縁、外面摩耗	219	440	
a2389	深鉢	大9古	II B21k 北東区 III層	胴~底部	[12.9]	-	10.4	RLR→隆沈線/		219	440	
a2390	深鉢	大9新	II B21k 南西区 北ベルト	口~底部	16.5	15.0	0.6	582.0 LR→沈線・磨消、口縁部隆帯→沈線→削突/	6単位波状口縁、外面摩耗、ススコグ	219	440	
a2391	深鉢	中期	II B21k 北東区 III層 (II B211 南東区 III層)	胴~底部	[25.4]	-	10.2	RLR/	底部網代直→ナテ	219	440	
a2392	深鉢	中期	II B21k 南西区 II層	口~胴部	-	-	0.8	RLR/		219	441	
a2393	深鉢	大9古	II B21k 南西区 II層	口~胴部	-	-	1.05	394.2 RLR→隆沈線/	補修孔	219	441	
a2394	深鉢	大8b新	II B21k 北西区 土器 No. 1	口~胴部	[17.2]	(10.0)	0.45	505.8 隆沈線→ナテ/	口縁部中空突起、スス	219	441	
a2395	深鉢	大8b~9	II B21k 北西区 III層	口~胴部	19.3	(13.4)	0.65	287.8 LR→沈線/	2単位波状口縁、スス	220	441	
a2396	深鉢	大8b新	II B21k 北西区 III層	口~胴部	-	-	0.9	287.4 RLR→沈線・磨消/	波状口縁、スス	220	441	
a2397	深鉢	大9古	II B21k 北西区 北ベルト	口~胴部	[13.7]	-	0.7	238.7 LR→隆沈線→削突/	波状口縁	220	441	
a2398	深鉢	大9古	II B21k 南西区 III層	口~胴部	[13.7]	-	0.7	398.1 RLR→隆沈線/	波状口縁	220	441	
a2399	深鉢	不明	II B21 (LE12) 2層	胴~底部	[10.2]	(25.0)	0.85	393.7 LR?/	底部スノコ直、外面摩耗	220	441	
a2400	深鉢	不明	II B21 (LE12) 2層	胴~底部	[6.2]	(8.4)	1.0	646.6 LR/	底部網代直	220	441	
a2401	深鉢	大8b~9	II B21 (LE12) 2層	胴部	-	-	0.6	56.1 RL→沈線/	スス	220	442	
a2402	深鉢	中期	II B21 (LE12) 3層	胴部	-	-	0.7	420.4 RL/		220	442	
a2403	深鉢	大8b新	II B21・22 1 (LE13) 1層	口~胴部	[15.6]	(32.0)	0.85	986.5 RLR 充耳→隆沈線→削突/	波状口縁、コグ	221	442	
a2404	深鉢	大8b~9	II B21 (LE12) 4・5層	口~胴部	[27.0]	(25.0)	0.7	709.8 LR、口縁部隆帯/	波状口縁、1020と接合	221	442	
a2405	深鉢	大9新	II B21 (LE12) 4・5層	口~胴部	-	-	0.6	143.1 RL→沈線・磨消/	外面摩耗	221	441	
a2406	深鉢	大9新	II B21 (LE12) 4層	口~胴部	14.7	(15.0)	0.5	333.2 RL→沈線・磨消/	スス	221	443	
a2407	深鉢	大3?	II B21 (LE12) 4層	口縁部	-	-	0.75	14.6 瓜形削突/		221	442	
a2408	深鉢	大9古	II B21 (LE12) 4層	胴部	-	-	1.0	143.2 RLR→隆沈線/		221	441	
a2409	深鉢	大8b~9	II B21 (LE12) 4層	口~底部	[31.3]	(28.5)	0.75	2260.3 RLR→沈線・磨消/	6単位波状口縁か、ススコグ	221	442	
a2410	深鉢	大8b~9	II B21 (LE12) 5層	口~胴部	[26.3]	25.3	0.7	1930.4 RL (0段)?/	スス	221	442	
a2411	深鉢	大9古	II B21 (LE12) 5層	胴部	-	-	0.8	130.5 LR→隆沈線/		221	443	
a2412	深鉢	大8b~9	II B21 (LE12) 5層	口~胴部	-	-	1.2	73.1 車輪跡系体 1A 類 I→隆帯→削突/		221	443	
a2413	深鉢	大9古	II B21 (LE12) 5層	口縁部	-	-	0.9	152.2 LR→隆沈線/		221	443	
a2414	深鉢	大9新	II B21 (LE13) 3層	口縁部	-	-	0.45	19.0 RL→沈線・磨消/		221	443	
a2415	深鉢	大9新	II B21・22 1 (LE13) 1層	口~胴部	[15.4]	(16.4)	0.6	225.8 LR→沈線・磨消/		222	443	
a2416	深鉢	大8b~9	II B21・22 1 (LE13) 1層	口~胴部	-	-	0.9	512.1 RLR/		222	443	
a2417	深鉢	大9新	II B21・22 1 (LE13) 1層	口~胴部	[28.0]	(30.6)	0.9	1207.7 RLR→沈線・磨消/	コグ	222	443	
a2418	深鉢	大9新	II B21・22 1 (LE13) 1層	口~胴部	[23.5]	(29.0)	0.7	1216.0 RL→沈線・磨消/	外面摩耗、スス	222	444	
a2419	深鉢	大8b~9	II B21・22 (LE13) 4層	胴部	-	-	0.8	37.4 車輪跡系体 1A 類 R→沈線/		222	443	
a2420	深鉢	大8b~9	II B21・22 (LE13) 4層	口縁部	-	-	0.6	19.1 LR?→隆沈線/	波状口縁	222	443	
a2421	深鉢	大9新	II B21 南東区 III層下位	口~胴部	-	-	0.7	740.8 RL?付加朱?→沈線・磨消/		222	444	
a2422	深鉢	中期	II B21 南東区 III層	胴~底部	[9.6]	6.9	0.65	197.3 RL→隆沈線/	底部網代直→ナテ	222	444	
a2423	深鉢	大9新	II B21 南東区 III層	口~胴部	-	-	0.85	246.3 RL→沈線・磨消/		222	443	
a2424	深鉢	大7a	II B21 南東区 III層	口縁部	-	-	10.0	87.9 RL (0段)→半波竹管による沈線、口縁部短沈線/		223	444	
a2425	深鉢	大9古	II B21 南西区 土器 No. 1	口~底部	[34.2]	31.9	0.7	3230.5 RL (0段)→隆沈線/	4単位波状口縁、スス	223	444	
a2426	深鉢	大9古	II B21 南西区 土器 No. 1、北ベルト	口~胴部	[11.4]	(9.3)	0.45	131.7 RLR→沈線・磨消/	3単位波状口縁	223	444	
a2427	深鉢	大9古	II B21 南西区 III層	口縁部	-	-	0.8	257.9 RL→隆沈線/	波状口縁	223	444	
a2428	深鉢	大9新	II B21 南西区 III層	口~底部	23.5	21.6	0.65	986.2 RL→沈線・磨消/	2単位波状口縁、ススコグ	223	443	
a2429	深鉢	中期	II B21 南西区 III層	口~胴部	[22.9]	(26.0)	0.8	867.9 RL (0段)/	縄文の隙間にスス残存	223	445	

第 10 表 縄文土器観察表 (51)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a2430	深鉢	大8b新	II B211 南西区 皿層	口~胴部	-	-	0.85	RL→隆沈線	波状口縁	224	444	
a2431	深鉢	大7b	II B211 南西区 皿層	口縁部	-	-	1.1	原体押圧・口縁部キザミ		223	444	
a2432	深鉢	大9古	II B211 南西区 皿層	口縁部	-	-	1.0	RL→隆帯→磨消		223	444	
a2433	深鉢	大3?	II B211 南西区 皿層	口縁部	-	-	1.0	爪形刺突	外面割落	223	444	
a2434	深鉢	大7a	II B211 南西区 皿層	口縁部	-	-	0.8	原体不明	波状口縁	223	444	
a2435	浅鉢	大7	II B211 南西区 皿層	口縁部	-	-	0.75	ナデ	口縁部凹形突起	223	445	
a2436	深鉢	大9新	II B211 南西区 皿層	口縁部	-	-	0.85	RL→沈線・磨消		224	445	
a2437	深鉢	中期	II B211 南西区 皿層	口縁部	-	-	0.6	67.9 LR (0段)	波状口縁	224	445	
a2438	深鉢	大7b	II B211 南西区 皿層	口縁部	[17.9]	6.9	0.55	結節 LR→原体押圧	一方のみ2面の不規則な波状口縁	224	445	
a2439	深鉢	中期	II B211 南西区 皿層	胴~底部	[18.6]	8.5	0.6	226.2 結節 L	スス	224	445	
a2440	深鉢	大8b~9	II B211 南西区 皿層	口縁部	-	-	0.6	209.4 RLR→沈線	波状口縁	224	445	
a2441	深鉢	大7b	II B211 北西区 北ベルト	口縁部	-	-	0.6	153.6 RL→沈線 (山)・原体押圧		224	445	
a2442	深鉢	大9古	II B211 北西区 皿層	口縁部	-	-	0.7	56.0 RL→隆沈線→刺突		224	445	
a2443	深鉢	中期	II B211 北西区 皿層	口縁部	-	-	0.9	182.9 RL	スス	224	445	
a2444	深鉢	中期	II B211 南西区 土器 No.3	口~胴部	-	-	1.0	1.859.9 口縁部隆帯→付加条	スス	224	445	
a2445	深鉢	大3	II B211m 低位部 黒色土	口縁部	-	-	0.7	9.4 沈線→竹管刺突	ススコグ	225	446	
a2446	深鉢	中期	II B221 北東区 皿層	口縁部	-	-	0.8	925.8 RLR		225	446	
a2448	深鉢	大8b~9	II B221 北東区 皿層	口縁部	-	-	0.85	119.3 原体不明		225	445	
a2449	深鉢	大8b新	II B22k 北西区 皿層	胴~底部	[14.4]	12.2	0.8	878.0 RLR		225	446	
a2451	浅鉢	中期	II B22k 北西区 皿層	口縁部	[15.4]	(14.2)	0.6	189.0 LR→隆沈線→刺突	2単位波状口縁	225	446	
a2452	深鉢	大8b新	II B22k 南東区 皿層	底部	-	-	0.9	117.5 RL→沈線		225	446	
a2453	深鉢	不明	II B22k 北西区 皿層	口縁部	-	-	0.5	62.9 単軸糸体 1 A 類 R		225	446	
a2454	深鉢	大8b~9	II B22k 北西区 皿層	口縁部	-	-	0.75	247.8 LR→隆沈線	スス	225	446	
a2455	深鉢	大9新	II B22k 北西区 皿層	口縁部	-	-	1.05	39.2 沈線→爪形刺突	波状口縁	225	446	
a2456	深鉢	中期	II B22k 南東区 皿層・北ベルト	口~胴部	[23.4]	(22.6)	0.8	1.967.7 LR	外面摩耗	226	446	
a2457	深鉢	大9新	II B22k 北東区 皿層	口~底部	17.1	12.0	5.8	0.7	375.0 LR→沈線・磨消	波状口縁、スス、底部稍凹形	225	446
a2458	深鉢	中期	II B22k 北東区 皿層	胴~底部	[13.9]	(8.8)	0.75	218.5 RL		226	447	
a2459	深鉢	大9新	II B22k 北東区 西ベルト	口~胴部	-	-	0.7	199.1 RL→沈線	波状口縁	226	447	
a2461	深鉢	大9新	II B22 南西区 皿層	口~底部	22.1	19.6	8.6	0.7	1.363.7 RL (0段)		226	447
a2462	深鉢	不明	II B22 南西区 皿層	口縁部	11.8	(15.0)	0.8	94.0 単軸糸体 1 A 類 R	4単位波状口縁、スス	226	447	
a2463	深鉢	大9古	II B22 南西区 皿層	口縁部	-	-	0.9	119.5 RLR→隆沈線		226	447	
a2464	深鉢	大9新	II B22 南東区 皿層・北ベルト	口~胴部	[36.0]	(27.0)	0.85	1.618.1 LR→沈線・磨消	波状口縁、スス	226	447	
a2465	壺	大9新	II B22 南東区 皿層	口~底部	-	-	0.5	231.4 RL→沈線・磨消	外面細かいスス、コゲ	226	447	
a2466	深鉢	中期	II B22 南東区 皿層下位	口~胴部	-	-	0.85	541.0 結節 LR	外面摩耗、スス	226	447	
a2467	深鉢	大7a	II B22 南東区 皿層	口縁部	-	-	0.95	56.3 隆帯・沈線→下方向からの刺突	口縁部突起	227	447	
a2468	深鉢	大9古	II B22 南東区 皿層	口縁部	-	-	1.0	174.8 RLR→隆沈線	波状口縁	226	447	
a2469	深鉢	大8a	II B22 南東区 捩乱	口縁部	-	-	0.65	63.9 RL→ナデ→隆沈線		226	447	
a2470	深鉢	中期	II B22 北西区 皿層 (土器 No. 1・2 と同一面)	口~胴部	-	-	0.7	783.9 LR		227	448	
a2471	深鉢	大8b	II B22 北西区 北ベルト	口~底部	13.5	(14.4)	6.9	0.45	372.0 RL→隆沈線→隆帯に刺突	4単位波状口縁、ススコグ	227	447
a2472	深鉢	大9新	II B22 北西区 北ベルト	口~底部	[12.7]	(13.0)	0.6	359.3 RL→沈線・磨消	4単位波状口縁、ススコグ	227	448	
a2473	深鉢	中期	II B22 北西区 北ベルト	胴部	-	-	0.75	410.9 LR→沈線・磨消	外面割落	227	448	
a2474	深鉢	中期	II B22 北西区 土器 No. 1・2	口~底部	32.8	(21.6)	9.5	0.75	2.206.8 LR→沈線・磨消	ススコグ	227	448
a2475	深鉢	大9新	II B22 北西区 土器 No. 1・2 と同一面)	口~胴部	-	-	0.7	742.3 RL (0段)	ススコグ	228	448	
a2476	深鉢	大7a?	II B22 北西区 皿層	口縁部	-	-	0.85	18.7 RLR?→爪形刺突		227	448	
a2477	深鉢	大9新	II B22 北西区 皿層	口縁部	-	-	0.9	48.8 RL→沈線・磨消		227	448	
a2478	深鉢	大9古	II B22 北西区 皿層	口縁部	-	-	0.5	32.2 RL→隆沈線	小波状口縁	227	448	
a2479	深鉢	大8a	II B22 北西区 北ベルト	口縁部	-	-	0.8	150.3 RL→隆沈線		228	448	
a2480	深鉢	中期	II B22 北東区 皿層	胴~底部	[18.1]	(9.6)	0.6	719.6 RL	ススコグ	228	448	
a2481	深鉢	大9新	II B22 北東区 皿層	胴~底部	[5.2]	-	5.8	0.5	69.4 RL→沈線・磨消		228	448
a2482	深鉢	中期	II B22 北東区 皿層	胴~底部	[11.5]	-	10.0	1.1	584.6 RL	底部網代痕・棒状圧痕、外面摩耗	228	448

第 10 表 縄文土器観察表 (52)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)		重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径					
a2483	深鉢	大9新	II B22d 北東区 Ⅲ層下位	口～胴部	-	0.7	301.7	L→沈線・磨消/	波状口縁、ススコゲ	228	449
a2484	深鉢	中期	II B22d 北東区 Ⅲ層	口～胴部	-	0.9	413.4	細状工具による上下方向の不規則な細沈線/		228	449
a2485	深鉢	中期	II B22d 北東区 Ⅲ層	口縁部	-	0.8	326.5	RL/		228	449
a2486	深鉢	大8	II B22d 北東区 Ⅲ層	口縁(筋)	-	0.7	93.9	隆沈線/	中空突起	228	449
a2487	深鉢	大7a?	II B22d 北東区 Ⅲ層	口縁部	-	0.7	81	下方からの竹管刺突/		228	449
a2488	深鉢	大6～7a	II B22d 北東区 Ⅲ層	胴部	-	0.7	16.4	沈線(山)・刺突/		228	449
a2489	深鉢	大9新	II B22d 北東区 Ⅲ層	口縁部	-	0.7	45.5	LR→沈線・磨消/	スス	228	449
a2490	深鉢	大8b	II B22d 北東区 Ⅲ層	口縁部	-	1.3	198.1	LR→隆沈線/	波状口縁	229	449
a2491	深鉢	大9新	II B22d 南西区 西ベルト、南東区 Ⅲ層	口～底部	237	(19.9)	6.6	RL→隆沈線・沈線・磨消/	5単位波状口縁、ススコゲ、摩耗	229	449
a2492	深鉢	中期	II B22d (LE12) 3層	口～胴部	[4.4]	(7.2)	12.0	LR/		229	449
a2493	深鉢	中期	II B22d (LE12) 3層	口～胴部	[9.8]	(13.2)	-	RLR?/		229	449
a2494a	深鉢	大8b新	II B22d 南西区 Ⅲ層	口縁部	-	0.8	-	RL→隆沈線/		229	450
a2494b	深鉢	大8b新	II B21・22k 北東区 Ⅲ層	底部	[10.9]	-	12.6	RL→隆沈線/	底部網代車→ナデ	229	450
a2495	深鉢	大9新	II B22d 北西・南西区 Ⅲ層・北ベルト	口～底部	[26.4]	(17.5)	-	RL→沈線・磨消/	スス	229	449
a2496	深鉢	中期	II B22m 南西区 西ベルト	口～胴部	[14.8]	(14.4)	-	L/		229	449
a2497	深鉢	大8b～9	II B22m 南西区 Ⅲ層	口～胴部	-	0.85	1,273.0	LR→沈線/	波状口縁、隆帯	229	450
a2498	深鉢	大3～4	II B22m 南西区 Ⅲ層	口縁部	-	1.0	21.1	沈線→竹管刺突/	波状口縁	229	449
a2499	深鉢	大9古	II B22m 南西区 西ベルト	口縁部	-	0.9	162.0	RL→隆帯・沈線・磨消/	波状口縁	229	449
a2500	深鉢	大9新	II B22m 北西区 Ⅲ層下位	口～底部	34.6	(29.2)	8.0	RL→沈線・磨消/	4単位波状口縁	230	450
a2501	深鉢	中期	II B22m 北西区 Ⅲ層下位	口～底部	12.1	(14.8)	6.6	LR/	5単位波状口縁、スス	230	450
a2502	深鉢	中期	II B22m 北西区 西ベルト	口～底部	8.7	(9.6)	6.0	RL/	スス	230	450
a2503	深鉢	中期	II B22m 北西区 Ⅲ層下位	口～胴部	-	0.9	430.0	LR/	スス	230	450
a2504	深鉢	大10古	II B22m 北西区 Ⅲ層下位	口～胴部	-	1.0	990.9	LR→沈線・磨消/		230	451
a2505	深鉢	大8a	II B22m 北西区 Ⅲ層下位	口縁部	-	0.85	72.7	RL→隆沈線/		230	450
a2506	深鉢	大9古	II B23j 南東区 Ⅲ層	口～胴部	-	0.95	507.2	RLR→隆沈線/	波状口縁、スス	230	451
a2507	注口	中期	II B23j 南東区 Ⅲ層	口縁部	-	0.8	27.2	LR?/		230	450
a2508	深鉢	大9古	II B23j 南東区 Ⅲ層・北ベルト	口～胴部	-	0.7	163.9	RL→隆沈線/		230	450
a2509	深鉢	中期	II B23k 南西区 Ⅲ層	口縁部	-	0.8	75.8	RL/		231	450
a2510	深鉢	大9古	II B23k 南東区 Ⅲ層 (II B23i 北西区)	口～胴部	-	1.0	1,189.9	LR→隆沈線/		231	451
a2511	深鉢	大9古	II B23k 南東区 西ベルト	口縁部	-	0.7	600	LR→隆沈線/	波状口縁	231	451
a2512	深鉢	大8b新	II B23k 南東区 Ⅲ層	口縁部	-	0.7	64.6	RL→隆沈線/	波状口縁	231	451
a2513	深鉢	大7a?	II B23k 北西区 Ⅲ層	胴部	-	0.6	44.3	RL→隆帯/	ススコゲ	231	451
a2514	深鉢	大9古	II B23k 北東区	口縁部	-	0.9	258.4	RL→隆沈線/		231	451
a2515	壺	大8b新	II B23i 北西区 Ⅲ層	口縁部	-	0.75	93.2	原形不明→隆沈線・橋状突起/	外面赤彩	231	451
a2516	深鉢	大8b～9	II B23i 北東区 Ⅲ層・攪乱	口～底部	[14.9]	(10.2)	6.0	LR(0段?)/	2単位波状口縁	231	452
a2517	深鉢	大8b	II B23i 北東区 攪乱	口～胴部	-	0.6	36.0	LR→沈線・隆帯/	波状口縁	231	451
a2518a	深鉢	中期	II B23i 北西区 Ⅲ層・西ベルト	口～胴部	-	0.8	-	RLR/		231	451
a2518b	深鉢	中期	II B23i 北西区 Ⅲ層・西ベルト	口～胴部	-	0.8	1,204.1	RLR/		231	451
a2519	深鉢	大8a	II B24j 南東区 Ⅲ層	口縁部	-	0.7	94.8	RL→隆沈線/		231	451
a2520	深鉢	大9新	II B24j 南東区 Ⅲ層	口縁部	-	0.7	51.3	RL(0段)→沈線・磨消/		231	452
a2521	深鉢	大9新	II B24j 南東区 Ⅲ層	口縁部	-	0.6	14.9	LR→沈線・磨消→隆帯/	波状口縁	231	452
a2522	深鉢	大8b～9	II B24j 南東区 Ⅲ層	口縁部	-	0.9	86.3	原形不明→隆沈線→刺突/	波状口縁	232	452
a2523	深鉢	大9新	II B24k 南西区 Ⅲ層、南東区 Ⅲ層	胴～底部	[15.1]	-	9.0	RLR→隆沈線/	ススコゲ	232	452
a2524	深鉢	大9新	II B24k 南西区 Ⅲ層	胴～底部	[15.8]	-	9.5	RL→沈線・磨消/	ススコゲ	232	452
a2525	御付深鉢	大8b	II B24k 南東区 Ⅲ層	底部	[3.4]	(6.9)	1.0	51.9	LR→隆沈線/	232	452
a2526	深鉢	中期	II B24k 南東区 Ⅲ層	口～胴部	-	0.8	166.2	LR/	スス	232	452
a2527	深鉢	大9新	II B24k 南東区 Ⅲ層	口縁部	-	0.6	39.2	RL→隆帯→沈線/	波状口縁	232	452
a2528	深鉢	大8b	II B24k 南東区 Ⅲ層	口縁部	-	0.95	80.4	RL→隆沈線/		232	452
a2529	深鉢	大9古	II B24k 南東区 Ⅲ層	口縁部	-	0.8	44.4	LR→沈線・磨消/	波状口縁	232	452

第 10 表 縄文土器観察表 (53)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径	底径					
a2530	深鉢	前期	II B24k 北西区 Ⅲ層	口縁部	-	-	21.7	単軸絡糸体 5 類 /	スス	232	452	
a2531	深鉢	大 9 古	II B24k 北東区 Ⅲ層	口縁部	-	-	27.5	RLR → 隆沈線 /	波状口縁	232	452	
a2532	深鉢	大 7	II B24k 北東区 Ⅲ層	口縁部	-	-	0.9	隆沈線 /	波状口縁	232	452	
a2533	深鉢	大 9 古	II B24k 北東区 Ⅲ層	口縁部	-	-	0.8	RL (0 段) → 隆沈線 /	波状口縁	232	452	
a2534	深鉢	大 9 新	II B24k 北東区 Ⅲ層	胴部	-	-	1.0	LR → 沈線・磨消 → 削突 /	スス	232	452	
a2535	深鉢	中期	II B24k 北東区 Ⅲ層	口～胴部	-	-	0.9	RL /	スス	232	452	
a2536	深鉢	大 9 新	II B24k 南西区 Ⅲ層	口～胴部	-	-	0.8	L → 沈線・磨消 → 削突 /	波状口縁	232	452	
a2537	深鉢	大 8b ~ 9	II B24k 北西区 Ⅲ層	口～胴部	-	-	0.6	RLR → 隆沈線 /	波状口縁	233	453	
a2538	深鉢	大 8b	II B24k 北西区 Ⅲ層	口縁部	-	-	0.9	RL → 隆沈線 /	波状口縁	232	452	
a2539	深鉢	大 8b	II B24k 北東区 Ⅲ層	口縁部	-	-	0.8	ナテ → 隆沈線 /	波状口縁	232	452	
a2540	深鉢	大 7b	中央緩斜面 I ~ II 層上面	口縁部	-	-	0.85	LR → 原形押圧 /	スス	232	452	
a2541	深鉢	大 7a	中央緩斜面 I ~ II 層上面	口縁部	-	-	0.7	RLR → 口縁部隆帯 → キザミ	スス	233	453	
a2542	深鉢	大 3?	中央緩斜面 I ~ II 層上面	口縁部	-	-	0.8	凹形削突 /	波状口縁?、スス	233	452	
a2543	深鉢	前期	中央緩斜面 T 5 局辺 I ~ II 層上面	口縁部	-	-	0.9	単軸絡糸体 IA 類 L2 /	波状口縁・焼成前穿孔	233	453	
a2544	深鉢	大 7b	上段田区 東端部 I ~ II 層上面	口縁部	-	-	0.8	隆帯 → 原形押圧 /	波状口縁、スス	233	453	
a2545	深鉢	大 8	上段田区 東端部 I ~ II 層上面	口縁部	-	-	0.9	RL? RLR? → 隆沈線 /	波状口縁、スス	233	453	
a2546	深鉢	大 9 新	中段田区 II 層	口～胴部	-	-	0.7	LR → 隆帯・沈線・磨消 /	スス	233	453	
a2547	深鉢	大 9 ~ 10	中段田区 II 層	口縁部	-	-	1.0	RL → 沈線 /	スス	233	453	
a2548	深鉢	不明	中段田区 II 層	胴部	-	-	0.75	LR → 磨汰工具による上下方向の不規則な細沈線 /	口縁部突起、ススコグ	233	453	
a2549	深鉢	大 7a	中段田区 上位緩斜面	口縁部	-	-	0.65	RL → 沈線 /	スス	233	453	
a2550	深鉢	大 3	中段田区 東端部 I ~ II 層上面	胴部	-	-	0.8	RL → 爪形削突 /	スス	233	453	
a2551	深鉢	大 10 古	下段田区 東端部 I ~ II 層上面	胴～底部	[5.7]	(6.8)	0.55	LR → 沈線・磨消 /	スス	233	453	
a2552	深鉢	大 9 古	下段田区 東端部 I ~ II 層上面	胴部	-	-	0.7	LR → 隆沈線 /	スス	233	453	
a2553	深鉢	大 4	下段田区 東端部 I ~ II 層上面	口縁部	-	-	0.9	隆帯 → 沈線・口縁部凹形削突 /	スス	233	453	
a2554	深鉢	大 10 中	西端部 II 層下位	口縁部	-	-	0.9	LR → 沈線・磨消 /	波状口縁、ススコグ	233	453	
a2555	深鉢	大 9 新	西端部 I ~ II 層上面	口縁部	-	-	0.6	LR → 沈線・磨消 /	波状口縁、スス	233	453	
a2556	深鉢	中期	中央調査区南西 湿地エリ了 T2 II 層	口～胴部	-	-	1.0	RLR /	口縁部隆帯	233	453	
a2557	浅鉢	大 7a	中央調査区北西 Ⅲ層	口～底部	9.1	(22.9)	0.9	ナテ / ナテ	口縁部突起 1 個、底部スノコ裏	234	453	
a2558	深鉢	中期	中央調査区北西 Ⅲ層	口～胴部	[16.7]	18.6	0.7	RL (0 段) → 貼付 → 原形押圧・沈線 /	2 単位波状口縁、スス、器形重み大きい	234	454	
a2559	深鉢	大 7b	中央調査区北西 Ⅲ層	口～胴部	[10.8]	21.6	0.8	RL (0 段) → 隆帯 → 原形押圧 /	ススコグ	234	454	
a2560	浅鉢	中期	中央調査区北西 Ⅲ層	口～底部	[11.4]	(21.8)	1.0	44.8 L /	ススコグ	234	454	
a2561	深鉢	大 7a	中央調査区北西 複乱	胴部	-	-	1.0	結節 LR → 隆帯 /	ススコグ	234	454	
a2562	深鉢	大 6	中央調査区北西 I 層	口縁部	-	-	0.85	胴: LR (0 段) → 半截竹管による押し引き・沈線、口縁: RL → 隆帯 → 沈線 /	波状口縁、スス	234	454	
a2563	深鉢	大 5	中央調査区北西 Ⅲ層	胴部	-	-	0.6	隆沈線 / 隆沈線 (II) → 竹管削突 /	スス	234	454	
a2564	深鉢	大 8	中央調査区北西 Ⅲ層	口縁部	-	-	0.6	隆沈線 / 隆沈線	口縁部突起の破片	234	454	
a2565	深鉢	大 7a?	中央調査区北西 I 層	口～胴部	-	-	1.1	270.9 結節回転文 → 隆帯 → キザミ /	波状口縁	234	454	
a2566	深鉢	大 4	T1 II 層	口縁部	-	-	0.8	結節回転文?、口縁部隆帯 (山)・突起	ススコグ	234	454	
a2567	深鉢	大 7b	T1 II 層	口縁部	-	-	1.0	31.7 原形押圧・貼付? /	ススコグ	234	454	
a2568	深鉢	大 5	T1 II 層	口縁部	-	-	0.85	70.7 単軸絡糸体 IA 類 L → 貼付 → キザミ /	口縁部貼付 → 削突、ススコグ	234	454	
a2569	深鉢	大 4	T1 II 層	胴部	-	-	0.9	原形不明 → 沈線 (山) → 貼付 /	ススコグ	235	454	
a2570	深鉢	大 3	T1 掘削土一括	胴部	-	-	0.65	10.8 半截竹管押し引き /	スス	235	454	
a2571	深鉢	大 3	T1 掘削土一括	胴部	-	-	0.5	7.4 ナテ → 沈線 → キザミ /	スス	235	454	
a2572	深鉢	前期	T2 II 層	胴部	-	-	0.8	140.1 結節 LR または LR → 結節回転文 /	スス、器面粗い	235	454	
a2573	深鉢	大 3	T2 II 層	口縁部	-	-	0.5	10.9 隆帯 → 削突 /	スス	235	454	
a2574	深鉢	大 3	T2 II 層	口縁部	-	-	0.8	37.2 沈線 (山・円) /	スス	235	454	
a2575	深鉢	大 7b ~ 8a	T2 掘削土一括	胴部	-	-	1.0	79.5 RL (先貫) → 隆沈線 → キザミ /	スス	235	454	
a2576	深鉢	大 9 新	T3 II 層	口～胴部	-	-	0.6	225.6 LR → 沈線・磨消 /	スス	235	454	
a2577	深鉢	大 4	T3 II 層	口縁部	-	-	0.8	54.3 LR?、口縁部貼付 (山) /	スス	235	454	
a2578	深鉢	大 9 古	T3 II 層	口～胴部	-	-	0.95	1.268.6 RL → 隆沈線 /	波状口縁、スス	235	455	
a2579	深鉢	中期	T4 II 層	胴～底部	-	-	0.8	191.5 結節 LR /	スス	235	454	

第 10 表 縄文土器観察表 (54)

掲載 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)		重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.	写真 No.
					器高	口径					
a2580	深鉢	大9新	T4 II層	口~胴部	[28.0]	(27.6)	0.85	RL→沈線	ススコグ	235	455
a2581	深鉢	大8b~9	T5 掘削土一拵	口~胴部	-	-	0.95	LR→沈線・口縁部隆帯		235	455
a2582	深鉢	大8b	T5 II層	口縁部	-	-	0.5	LR→ナデ・口縁部隆帯	波状口縁・スス	235	455
a2583	深鉢	大8b新	T5 掘削土一拵	胴~底部	-	-	0.9	RLR→隆沈線	波状口縁・スス	236	455
a2584	深鉢	中期	中央調査区南西 T5~6間 5層	胴~底部	-	-	1.0	LRLR?・縦方向ケスリ	外面剥落多い	236	456
a2585	深鉢	大8b新	中央調査区南西 T5~6間 2層	口~底部	19.2	11.2	0.55	RL・RL (0段) →橋状突起・隆沈線		236	455
a2586	深鉢	大3	中央調査区南西 T5~6間 2層	胴部	-	-	0.8	沈線→爪形刺突		236	455
a2587	深鉢	中期	中央調査区南西 T5~6間 5層	口~胴部	-	-	0.75	LRL	口縁部隆帯・全面に薄くスス	236	455
a2588	深鉢	大8b新	中央調査区南西 T5~6間 4層	口~胴部	19.0	(16.4)	0.7	RL→隆沈線→刺突	4単位波状口縁・スス、内面中位より下概然により剥落	236	456
a2589	深鉢	大9新	中央調査区南西 T5~6間 1層	口~底部	22.7	(21.1)	0.6	沈線・ナデ→RLR充墳	波状口縁	236	456
a2590	深鉢	不明	中央調査区南西 T5~6間 2層	口~胴部	-	-	0.9	単軸絡糸体1A類		237	456
a2591	深鉢	大7b	中央調査区南西 T5~6間 5層	口縁部	-	-	0.85	LR→隆帯→指頭・原体押圧	口縁部貼付 (II)	236	455
a2592	深鉢	大7a	中央調査区南西 T5~6間 5層	口縁部	-	-	0.85	隆帯→上下方向からの刺突	波状口縁	236	455
a2593	重	大9新	中央調査区南西 T5~6間 1層	頸部	-	-	0.6	LR→沈線・磨消→穿孔		236	455
a2594	深鉢	大8b	T6 東区 1層	口縁部	-	-	0.55	隆帯・橋状突起	外面ほぼ全面に薄く赤彩残る	236	455
a2595	深鉢	大9新	T7 II層	口~胴部	-	-	0.8	LR→沈線・磨消→刺突	波状口縁・スス	236	457
a2596	深鉢	大8b新	T8 掘削土一拵	口~胴部	-	-	1.1	LRLR→沈線		237	456
a2597	深鉢	大9新	T8 掘削土一拵	口~胴部	[8.3]	10.4	0.5	RL→沈線・磨消	4単位波状口縁・ススコグ	237	456
a2598	深鉢	大9~10	T8 掘削土一拵	頸部	-	-	0.9	ナデ→竹管刺突		237	455
a2599	深鉢	大5	中央調査区南西 T8~9間 2層	胴部	-	-	0.9	22.2 沈線 (II)		237	456
a2600	深鉢	大8b新	T9 掘削土一拵	口~胴部	-	-	0.6	LR→隆沈線	波状口縁	237	457
a2601	深鉢	大7b	T9 2層	口縁部	-	-	0.75	LR (0段) →半截竹管による沈線・貼付 (II) →刺突・原体押圧		237	456
a2602	深鉢	大6~7a	T13 掘削土一拵	口縁部	-	-	0.45	沈線→半截竹管による上下方向の刺突		237	456
a2603	深鉢	大5	T18 掘削土一拵	口縁部	-	-	0.9	単軸絡糸体1A類 L? →隆帯→竹管刺突	ススコグ	237	456
a2604	深鉢	大8a	T18 掘削土一拵	口縁部	-	-	0.5	LR? →隆沈線	口縁部突起	237	457
a2605	深鉢	大3	T18 掘削土一拵	口縁部	-	-	0.55	RL→竹管・爪形刺突	波状口縁	237	457
a2606	深鉢	大8~9	T18 掘削土一拵	口縁部	-	-	0.45	沈線・穿孔		237	457
a2607	深鉢	大3	T18 掘削土一拵	胴部	-	-	0.7	単軸絡糸体4類? /	スス	237	457
a2608	深鉢	大8b	地点不明	口縁部	-	-	0.95	LR→隆沈線		237	457
a2609	深鉢	大6	地点不明	胴部	-	-	0.6	単軸絡糸体1A類 R →貼付・沈線		237	457
a2610	深鉢	大6~7a	地点不明	口~胴部	-	-	0.55	LR→貼付	ススコグ、内外面磨耗	237	457
a2611	深鉢	大5	地点不明	口縁部	-	-	0.7	LR・口縁部押圧による花弁状整形	ススコグ	237	457
a2612	蓋?	不明	II A 8 x II層	口縁部	[2.9]	-	4.3	ナデ/ナデ	胎土粗い、底径=つまみ部の径	237	457
a2613	深鉢	大8b新	I号鍛冶炉	口縁部	-	-	0.65	橋状突起、原体不明→隆沈線	波状口縁?	237	457

第 11 表 縄文土器 (赤彩) 観察表 (1)

掲載 No.	器種	時期	出土遺構・地点・層位	残存部位	付着面	厚さ (cm)	重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.
r1	深鉢	大 8b 新	A43 号 壱穴建物 堆積土下位	口縁部	内外	0.5	39.5	RL → 隆状突起・隆沈線		238
r2	深鉢	大 8b 新	A43 号 壱穴建物 ベルト南側 堆積土下位	胴部	外	0.8	31.1	RL → 隆沈線		238
r3	蓋?	不明	A54・55 号 壱穴建物 堆積土	胴部	内	0.4	14.6	ナデ/ナデ	外側から力を加えた焼成後穿孔1個	238
r4	深鉢	大 8b	A55 号 壱穴建物 堆積土中位	胴部	外	0.8	27.5	LR → 隆沈線		238
r5	深鉢	大 8a	A58 号 壱穴建物 堆積土中位	口縁部	内外	0.8	40.5	LR → 隆状突起 → 隆沈線		238
r6	深鉢	大 9	A85 号 壱穴建物 西区 堆積土	胴部	外	0.8	16.1	沈線		238
r7	深鉢	大 8b	A126 号 壱穴建物 暗褐色土	口縁部	外	0.6	25.6	隆状突起 → 隆沈線 → 短沈線		238
r8	深鉢	大 8b	A126 号 壱穴建物 暗褐色土	胴部	内外	0.3	47.8	隆状突起 → 隆沈線 → 短沈線		238
r9	深鉢	大 8b 新	A132 号 壱穴建物 堆積土下位	口縁部	内外	0.9	228.5	隆状突起 → 隆沈線 → 短沈線	赤彩微弱、内外面摩耗	238
r10	深鉢	不明	A151 号 壱穴建物 堆積土	底部	内	0.7	21.2	不明/ナデ		238
r11	深鉢	大 8b ~ 9	A157 号 壱穴建物 堆積土	口縁部	内外	0.9	35.1	単軸条体 1 類 R → 隆沈線	波状口縁、隆帯剥落、r25 と同一個体か	238
r12	壺	不明	A167 号 壱穴建物 堆積土	胴部	外	0.8	15.1	ナデ/ナデ		238
r13	深鉢	不明	A170 号 壱穴建物 堆積土	底部	内	0.7	9.2	ナデ		238
r14	深鉢	大 8b ~ 9	A179 号 壱穴建物 堆積土	口縁部	外	0.6	9.3	ナデ・隆沈線	波状口縁?	238
r15	深鉢	大 8b	A207 号 壱穴建物 堆積土	胴部	外	0.6	26.2	隆状突起 → ナデ		238
r16	深鉢	大 6	59 号 土坑 堆積土	口縁部	外	0.7	71.3	隆帯	内外面摩耗、赤彩被熱により黒色化	238
r17	深鉢	大 8b	62 号 土坑 堆積土中 ~ 下位	胴部	外	0.6	25.6	ナデ → 隆沈線		239
r18	注口土器	中間	P9030	胴部	外	0.6	7.0	ナデ	注口部破片	239
r19	深鉢	大 8b ~ 9	II A 5 v II 層	口縁部	内外	0.7	71.8	隆状突起 → RL → 隆沈線	外面摩耗、内面の赤彩被熱により黒色化	239
r20	深鉢	大 8b 新	II A 6 w II a 層	胴部	外	0.85	29.7	RL? → 隆沈線 → ナデ		239
r21	浅鉢	大 8	II A 6 w II a 層	胴部	内	0.8	21.36	隆沈線 → ナデ/ナデ		239
r22	深鉢	大 8b 新	II A 6 x II 層	口縁部	内外	0.6	30.1	RL (0 段) → 隆沈線	波状口縁	239
r23	深鉢	不明	II A 6 x II a 層	口縁部	内	0.6	9.4	不明/ナデ	外面剥落、厚さは残存部	239
r24	深鉢	大 9	II A10x 北区 II a 層	口縁部	外	0.5	48.4	隆状突起 → ナデ		239
r25	深鉢	大 8b ~ 9	II A10y II a 層	口縁部	内外	0.85	20.9	単軸条体 1 類 R → 隆沈線	波状口縁、隆帯剥落、r11 と同一個体か	239
r26	深鉢	大 8b 新	II A11v II a 層	胴部	外	0.5	5.5	RL → 隆沈線		239
r27	深鉢	不明	II A11x II a 層	口縁部	内	0.55	12.0	貼付剥落		239
r28	壺	不明	II B10a II a 層	胴部	内	0.9	19.0	ナデ/ナデ		239
r29	深鉢	大 8b	II B10b 南北中央トレンチ	口縁部	外	0.45	43.1	隆状突起 → LR? → 隆沈線 → 短沈線	内外面摩耗、コケ	239
r30	深鉢	不明	II B13j II a 層	胴部	内外	1.1	214.2	隆状突起 → 隆沈線		239
r31	深鉢	大 9	II B14g 東西ベルト東側 III 層	底部	内外	0.6	29.2	隆状突起 → 隆沈線		240
r32	深鉢	大 8b 新	II B14g III 層	胴部	内外	0.6	23.7	隆帯・隆沈線	外面摩耗	240
r33	深鉢	大 8b 新	II B14g 東側サブトレ III 層	胴部	内外	0.5	57.0	隆帯 → RLR → 隆沈線・短沈線		240
r34	深鉢	大 8b	II B15e II 層	口縁部	外	0.7	22.7	隆状突起 → 隆沈線	剥落多い	240
r35	蓋?	不明	II B15f II a 層	胴部	内	0.55	33.1	細文?・ナデ	古代の強の可能性もあり	240
r36	壺	不明	II B15g III 層	胴部	内外	1.0	43.7	ナデ → 沈線		240
r37	壺	不明	II B15g III 層	胴部	内	0.9	34.1	隆状突起 → 隆沈線	外面剥落	240
r38	深鉢	大 8b	II B15h II 層	胴部	内外	0.5	105.1	隆状突起 → 隆沈線	スス	240
r39	深鉢	大 9	II B15i II 層	胴部	外	0.6	18.2	LR (0 段) → 隆沈線	赤彩被熱により黒色化	240
r40	深鉢	大 8b	II B15j II 層	胴部	内	0.35	8.2	隆状突起 → 隆沈線	小頸土器か	240
r41	深鉢	大 8	II B17a 南西区 II 層	胴部	外	0.75	46.8	隆状突起	内面剥落多い	240
r42	深鉢	大 8b ~ 9	T 5 - 6 面遺物包含層 5 層	口縁部	外	0.65	51.9	隆沈線		240
r43	深鉢	不明	T 5 - 6 面遺物包含層 2 層	底部	内	0.4	44.1	隆沈線		240
r44	深鉢	大 8b	T 5 - 6 面遺物包含層 2 層	胴部	内外	0.55	27.0	隆状突起 → RLR → 隆沈線		240
r45	深鉢	大 8b 新	II A114 号 壱穴建物 堆積土	胴部	外	0.65	594.5	隆状突起 6 箇所	赤彩	241
r46	深鉢	大 8b 新	II A11w II a 層	口縁部	外	0.4	406.0	隆沈線・隆状突起	赤彩若干付着	241
r47	深鉢	大 8b 新	A116 号 壱穴建物 堆積土	口縁部	外	0.8	842.0	隆状突起 → 隆沈線/ナデ → 隆沈線	突起付近に赤彩残存	241
r48	深鉢	大 9 新	A132 号 壱穴建物 2 層	胴部	外	0.4	115.0	隆状突起 → 隆沈線・隆沈線/ナデ → 隆沈線	外面赤彩	241
r49	浅鉢	大 8b	II B 4・5 a・b 遺物包含層 II B 5 a 2 層	口縁部	内	0.7	179.4	LR → 隆沈線	隆状突起、内面に赤彩が被熱で黒化した部分あり	241
r50	深鉢	大 9 古	中央調査区南西 遺物包含層 II 層	胴部	外	0.6	40.8	隆沈線 → 剥落	赤彩	242
r51	浅鉢	大 8b 古	B16 号 壱穴建物 調査区南西 堆積土	口縁部	内	0.8	1.946.0	隆沈線/ナデ → 隆沈線/ナデ	赤彩	242
r52	深鉢	大 8b 新	II A 6 y II 層	口縁部	外	0.85	396.8	隆沈線・口縁部隆状の張り出し → 上面に隆沈線	赤彩?	242
r53	浅鉢	大 7?	II B14e・f・15f	口縁部	内外	0.6	816.3	ナデ	赤彩	243

第 11 表 縄文土器 (赤彩) 観察表 (2)

掲載 No.	器種	時期	出土遺構・地点・層位	残存部位	付着面	厚さ (cm)	重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	備考	図版 No.
r54	深鉢	大 8	II B14f Ⅲ層	破片	内	0.7	268.2	RL→隆沈線→交互刷突	赤彩・隆帯刷落	243
r55	深鉢	大 8b 新	II a 腐	口→胴部	外	0.8	113.7	LR→隆沈線	桶状突起、赤彩	243
r56	深鉢	大 8b 新	II B23i 北西区 Ⅲ層	口縁部	外	0.75	93.2	胴体不明→隆沈線・桶状突起	外面赤彩	243
r57	深鉢	大 8b	T 6 東区 Ⅰ層	口縁部	外	0.55	36.9	隆帯・桶状突起	外面はほぼ全面に薄く赤彩残る	243

第 12 表 土師器・須恵器観察表 (1)

掲載 No.	器種	時期	分類	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)		重量 (g)	文様・調整 (外面/内面/底筋)	備考	図版 No.	写図 No.	
						口径	底径						
b1	土師器	縄	I	B1 号壑穴建物 堆積土	口→胴	-	-	122.9	横ナデ・ナデ/横ナデ・ナデ		244	457	
b2	土師器	環	II b	B2 号壑穴建物 堆積土	口→胴	-	-	11.7	横ナデ・ミガキ・黒色処理/ミガキ・黒色処理		244	457	
b3	土師器	甕	I	B2 号壑穴建物 取り上げ No. 2	口→底	16.6	8.5	27.4	横ナデ・ハケ/横ナデ・ハケ→ミガキのようナデ/木葉痕	ススコケ	244	457	
b4	土師器	甕	I	B2 号壑穴建物 取り上げ No. 1	口→胴	19.2	-	[20.6]	横ナデ・ハケ/横ナデ・ナデ	ススコケ	244	457	
b5	土師器	環	II b	B3 号壑穴建物 堆積土	口→胴	-	-	11.0	ミガキ/ミガキ・黒色処理	外面赤彩	244	457	
b6	土師器	甕	I	B3 号壑穴建物 堆積土	口→胴	-	-	102.4	横ナデ・ハケ/横ナデ・ナデ		244	458	
b7	土師器	甕	I	B4 号壑穴建物 カマド	口→胴	-	-	34.8	横ナデ・ハケ/横ナデ・ナデ		244	458	
b8	土師器	甕	I	B4 号壑穴建物 堆積土	口→胴	-	-	43.4	横ナデ・ハケ/横ナデ・ナデ	器表面粗い	244	458	
b9	土師器	甕	I	B4 号壑穴建物 堆積土	胴部	-	-	62.4	ナデ/ナデ	コケ	244	458	
b10	土師器	甕	I	B4 号壑穴建物 堆積土	胴→底	-	(9.5)	33.9	ナデ/ハケ/木葉痕		244	458	
b11	土師器	甕	I	B4 号壑穴建物 カマド周辺 堆積土	胴部	-	-	399.0	ナデ・ケズリ/ハケ/ハケ		245	458	
b12	土師器	甕	I	B5 号壑穴建物 カマド周辺 堆積土	胴部	-	-	218.1	横ナデ・ナデ/ハケ/ハケ		245	458	
b13	土師器	環	II b	B7 号壑穴建物 北西区 堆積土上位	胴部	-	-	4.9	ミガキ・黒色処理/ミガキ・黒色処理		245	458	
b14	須恵器	甕	I	B7 号壑穴建物 7層直上 土器 No. 1	口→底	-	[6.1]	63.8	横ナデ/横ナデ		245	458	
b15	土師器	環	II a	B8 号壑穴建物 カマド	口→底	14.7	6.3	7.0	159.9	横ナデ/ミガキ・黒色処理/横ナデ	黒色処理の色飛んでいる	245	458
b16	土師器	環	II a	B8 号壑穴建物 土坑 1付近・堆積土	口→底	12.9	5.3	5.8	130.6	横ナデ/ミガキ・黒色処理/横ナデ	黒色処理の色飛んでいる	245	458
b17	土師器	環	II a	B8 号壑穴建物 取り上げ No. 1	口径	12.7	6.2	5.4	145.4	横ナデ/ミガキ・黒色処理/横ナデ	黒色処理の色飛んでいる	245	458
b18	土師器	環	II a	B8 号壑穴建物 土坑 1	口→底	(11.5)	5.3	5.0	83.1	横ナデ/ミガキ・黒色処理/横ナデ		245	458
b19	須恵器	環	-	B8 号壑穴建物 取り上げ No. 5	口径	13.6	5.8	4.6	167.2	横ナデ/横ナデ/横ナデ		246	458
b20	須恵器	環	-	B8 号壑穴建物 取り上げ No. 5	口径	13.0	6.0	5.1	197.2	横ナデ/横ナデ/横ナデ		246	458
b21	須恵器	環	-	B8 号壑穴建物 取り上げ No. 4	口径	13.3	6.0	4.7	172.4	横ナデ/横ナデ/横ナデ		246	458
b22	須恵器	環	-	B8 号壑穴建物 取り上げ No. 4	口径	13.1	5.7	5.0	161.7	横ナデ/横ナデ/横ナデ		246	458
b23	須恵器	環	-	B8 号壑穴建物 取り上げ No. 4	口径	13.9	6.7	5.2	224.5	横ナデ/横ナデ/横ナデ	胴部外面筒書き「×」	246	458
b24	須恵器	環	-	B8 号壑穴建物 カマド軸	口径	14.7	6.2	5.2	211.8	横ナデ/横ナデ/横ナデ		246	458
b25	須恵器	環	-	B8 号壑穴建物 取り上げ No. 9	口径	13.2	6.2	5.2	198	横ナデ/横ナデ/横ナデ		246	458
b26	土師器	甕	II	B8 号壑穴建物 取り上げ No.11	口→底	16.0	-	19.8	横ナデ→ケズリ/横ナデ/横ナデ	胴部により不明	246	458	
b27	土師器	甕	II	B8 号壑穴建物 北東区・南東区 堆積土一拵	口→胴	(14.6)	-	[9.2]	99.3	横ナデ/横ナデ	ススコケ	246	458
b28	土師器	甕	I	B8 号壑穴建物 カマド軸	口→胴	-	-	51.30	横ナデ/横ナデ→ケズリ/横ナデ→ナデ	器形の変み顕著	246	458	
b29	土師器	甕	I	B8 号壑穴建物 取り上げ No.10	胴→底	-	7.6	[9.2]	259.4	横ナデ/横ナデ/横ナデ		246	459
b30	土師器	甕	I	B8 号壑穴建物 取り上げ No.11	口→胴	-	-	31.30	横ナデ・ナデ/横ナデ・ナデ		246	459	
b31	土師器	甕	I	B8 号壑穴建物 カマド東軸	口→胴	-	-	58.2	横ナデ・ナデ/横ナデ・ナデ		246	459	
b32	土師器	甕	I	B8 号壑穴建物 北西区 堆積土一拵	胴→底	-	8.0	[4.8]	196.4	ナデ/ナデ/木葉痕		246	459
b33	土師器	甕	I	B8 号壑穴建物 カマド	口→胴	-	-	252.3	横ナデ・ケズリ/横ナデ・ハケ		247	459	
b34	土師器	甕	I	B8 号壑穴建物 取り上げ No.11	胴→底	-	7.6	[6.8]	151.3	ケズリ/ハケ/ナデ/ナデ		247	459
b35	須恵器	甕	I	B8 号壑穴建物 土坑 1	口→底	(20.2)	-	[9.0]	155.1	横ナデ/コテによる押圧	b36 と同一個体か	247	459
b36	須恵器	甕	I	B8 号壑穴建物 取り上げ No. 8	胴→底	(9.6)	20.6	805.8	横ナデ→ケズリ/横ナデ→ハケ様調整/ケズリ	b35 と同一個体か、底部付近にタタキの痕跡	247	459	
b37	須恵器	短頸甕	-	B8 号壑穴建物 取り上げ No. 2	口→底	(10.6)	8.2	14.6	784.3	横ナデ/横ナデ/横ナデ	短頸、内外自然釉	247	459
b38	須恵器	甕	-	B8 号壑穴建物 取り上げ No. 7	口→底	-	6.2	[9.7]	432.5	横ナデ→ケズリ/横ナデ	短頸、内外自然釉	247	459
b39	須恵器	短頸甕	I	B8 号壑穴建物 北東区カマド東軸 堆積土	胴部	-	-	[8.9]	214.4	横ナデ→ハケ/横ナデ→ナデ→ハケ	リング状凸帯	248	459
b40	須恵器	甕	-	B8 号壑穴建物 北東区カマド東軸 堆積土	口→胴	12.0	-	[11.9]	597.6	横ナデ/横ナデ/ハケ	短頸	248	459
b41	須恵器	甕	-	B8 号壑穴建物 取り上げ No. 3・6	胴→底	-	8.3	256.6	1783.7	横ナデ/横ナデ/横ナデ	リング状凸帯、内外自然釉	248	459
b42	土師器	環	II a	B9 号壑穴建物 カマド北袖積土・堆積土上位	口→底	(15.2)	-	[3.7]	20.9	横ナデ/ミガキ	ススコケ	248	459
b43	土師器	甕	I	B9 号壑穴建物 カマド燃焼部直上・北袖積土・天井崩落土	口→底	(19.2)	(10.0)	22.9	547.0	横ナデ・ナデ/横ナデ・ナデ/木葉痕		248	460
b44	土師器	甕	I	B9 号壑穴建物 カマド燃焼部直上・北袖積土・天井崩落土	口→胴	(15.4)	-	[10.0]	134.1	横ナデ・ナデ/横ナデ・ナデ	頸部に補修孔 2 個あり	248	460
b45	土師器	甕	I	B9 号壑穴建物 カマド燃焼部直上・堆積土上位	口→胴	(21.6)	-	[12.0]	216.0	横ナデ・ナデ/横ナデ・ナデ	ススコケ	248	460
b46	土師器	甕	I	B9 号壑穴建物 床面直上 埋設土器	口→胴	20.0	-	[16.3]	937.0	横ナデ・ナデ/横ナデ・ナデ	輪積み痕顕著、口縁部変形	248	460

第 12 表 土師器・須恵器観察表 (2)

掲載 No.	器種	時期	分類	遺構・地点・層位	残存部位	計測値 (cm)	重量 (g)	文様・調整 (外面/内面/底部)	備考	図版 No.	写真 No.
b47	須恵器	瓶	-	B9 号壱穴建物 カマド直下 床面構築土	頸~底	口径 - 7.7 底径 - 16.41 器高 - 15.21	989.7	回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り→高台取付		249	249
b48	須恵器	瓶	-	B9 号壱穴建物 南東区 堆積土中位	肩部	-	632	回転ナデ→ナデ/回転ナデ/回転ナデ		249	460
b49	土師器	環	II b	B10 号壱穴建物 堆積土	口~胴	-	61	ミガキ・黒色処理/ミガキ・黒色処理/ナデ/ナデ/ナデ		249	460
b50	土師器	甕	II a	B10 号壱穴建物 堆積土	胴~底	(7.0)	22.3	回転ナデ/ミガキ・黒色処理/ミガキ・黒色処理		249	460
b51	土師器	甕	II a	B11 号壱穴建物 南東区 堆積土	口~胴	-	6.2	回転ナデ/ミガキ・黒色処理		249	460
b52	土師器	甕	I	B11 号壱穴建物 北東区 堆積土	口~胴	-	6.5	横ナデ/横ナデ		249	460
b53	土師器	甕	I	B11 号壱穴建物 北東区 堆積土	口~胴	-	40.4	横ナデ/ハケ/横ナデ/ハケ		249	460
b54	土師器	壺	-	B11 号壱穴建物 南西区 堆積土中~下位	口~胴 (17.8)	-	164.1	横ナデ・ナデ/横ナデ・ナデ		249	460
b55	土師器	甕	I	B11 号壱穴建物 北東区 堆積土	口~胴	-	78.1	横ナデ→ナデ/横ナデ・ナデ		249	460
b56	土師器	甕	I	B11 号壱穴建物 南西区 堆積土中~下位	口縁部	-	4.8	横ナデ/横ナデ		249	460
b57	土師器	甕	I	B11 号壱穴建物 取り口 No. 1	胴~底	11.9 (14.5)	562.2	ナデ・ケズリ/ナデ/木葉痕×2		249	460
b58	土師器	甕	I	B11 号壱穴建物 南西区 堆積土中~下位	胴~底	(8.4)	66.3	ナデ/ナデ/木葉痕		249	460
b59	土師器	環	I a	B11 号壱穴建物 北東区 堆積土	胴~底	-	93.9	ナデ/ミガキ/ナデ	胴部内面に段	249	460
b60	土師器	環	I a	B12 号壱穴建物 西ベルト 堆積土	胴~底	-	12.4	横ナデ/ミガキ・黒色処理/ケズリ	胴部内面に段	249	460
b61	土師器	甕	I	B12 号壱穴建物 ベルト 堆積土	口縁部	-	13.9	横ナデ→ナデ/横ナデ	横文土器?	249	460
b62	土師器	甕	I	B12 号壱穴建物 北東区 堆積土	頸~胴	-	26.6	横ナデ・ナデ/横ナデ・ナデ		249	460
b63	土師器	環	I a	B12 号壱穴建物 東区 堆積土	口~胴	-	14.0	横ナデ・ナデ/ミガキ・黒色処理		250	460
b64	土師器	甕	I	B13 号壱穴建物 床面直上 堆積土	胴~底	7.4	215.0	ミガキ/ナデ/木葉痕		250	460
b65	土師器	鉢	II a	B13 号壱穴建物 ベルト 堆積土	口~胴	-	3.6	横ナデ・ナデ/ハケ		250	460
b66	土師器	環	II a	B14 号壱穴建物 堆積土	口~胴	(16.4)	48.1	回転ナデ/ミガキ・黒色処理		250	460
b67	土師器	環	II a	B14 号壱穴建物 南東区 3 層	口~胴	-	18.3	回転ナデ/ミガキ・黒色処理		250	460
b68	土師器	環	II a	B14 号壱穴建物 北西区 3 層	口~胴	(13.6)	54.7	ミガキ・ミガキ・黒色処理		250	460
b69	土師器	環	II a	B14 号壱穴建物 南西区 3 層	胴~底	6.2	34.4	回転ナデ/ミガキ・黒色処理	内黒、底部筒書き「×」	250	460
b70	土師器	環	II a	B15 号壱穴建物 南西区 堆積土	口~胴	(14.4)	8.0	回転ナデ→ミガキ/ミガキ・黒色処理		250	460
b71	土師器	環	II a	B15 号壱穴建物 南西区 堆積土	口~胴	-	2.6	回転ナデ/ミガキ・黒色処理		250	460
b72	土師器	甕	I	B15 号壱穴建物 南東区 堆積土	胴部	-	19.2	ハケ/ハケ		250	460
b73	土師器	甕	I	B17 号壱穴建物 カマド東側構築土	胴部	-	10.4	ナデ (一部ミガキ) /ナデ	外面赤彩	250	460
b74	土師器	甕	I	B17 号壱穴建物 南西区 堆積土	胴部	-	19.4	ナデ (一部ミガキ) /ナデ	外面赤彩	250	460
b75	須恵器	瓶	-	B23 号壱穴建物 南西区 堆積土	口~胴	4.4	34.7	回転ナデ/回転ナデ	小型	250	461
b76	須恵器	甕	-	B23 号壱穴建物 1 層	口~胴	(15.4)	96.9	ミガキ/ミガキ	小型	250	461
b77	須恵器	甕	I	I42 号土坑 堆積土中~下位	口~胴	(15.6)	89.8	回転ナデ→ケズリ/ナデ/ナデ	器面の歪み顕著	250	461
b78	須恵器	甕	II	B12d II 層	胴~底	-	27.4	タタキ/当て具痕		250	461
b79	須恵器	高坏	-	II B16d II 層	胴~脚	(7.5)	3.1	65.2 横ナデ/ミガキ・黒色処理	脚踏痕かし孔あり	250	461
b80	土師器	甕	I	II B10b II 層	口縁部	-	3.0	5.5 ミガキ/横ナデ	外面赤彩	250	461
b81	土師器	甕	I	II B11w II 層	口~胴	-	3.6	14.7 横ナデ→ケズリ/ミガキ		250	461
b82	土師器	鉢	-	II A11w II 層	胴~底	(18.6)	47.5	ナデ・ケズリ/ミガキ・黒色処理/ケズリ	非軸轆成形	250	461
b83	土師器	鉢	-	II A11w II 層	口~胴	-	16.0	ハケ→横ナデ/ハケ・ナデ	ススコケ	251	461
b84	土師器	甕	I	II A11w II 層	胴部	-	4.1	42.7 回転ナデ/回転ナデ		251	461
b85	須恵器	瓶	-	II A11w II 層	口~胴	-	4.0	24.9 横ナデ・ナデ (ケズリ) /ミガキ・黒色処理		251	461
b86	土師器	環	I a	中央調査区 I 層	口~胴	(10.4)	21.4	横ナデ→ミガキ・ナデ/ミガキ・黒色処理		251	461
b87	土師器	環	I a	II B 9 e I~II 層上面	口~胴	(15.2)	4.4	横ナデ→ナデ/ミガキ・黒色処理	胴部外面に細い隆帯状の段	251	461
b88	土師器	環	I a	II A19y I~II 層上面	口~胴	-	4.7	31.0 横ナデ→ナデ/ミガキ・黒色処理		251	461
b89	土師器	環	I a	中央調査区 I~II 層上面	口~底	(13.7)	6.4	110.3 回転ナデ/ミガキ・黒色処理/回転糸切り		251	461
b90	土師器	環	II a	II B10e I~II 層上面	胴~底	(7.2)	3.6	69.6 回転ナデ/ミガキ・黒色処理/回転糸切り		251	461
b91	土師器	環	II a	II A 9y II 層	胴~底	(5.4)	4.7	69.4 回転ナデ/ミガキ/回転糸切り→ナデ		251	461
b92	須恵器	環	-	II A 7y I~II 層上面	胴~底	5.5	2.4	65.9 回転ナデ/回転ナデ/回転糸切り		251	461
b93	土師器	甕	I	中央調査区南西 II 層	口~胴	-	9.1	107.7 横ナデ・ナデ/横ナデ・ナデ	コダ	251	461
b94	土師器	甕	I	II B 5 b II 層	口~胴	-	7.2	74.6 横ナデ・ナデ/横ナデ・ナデ	ススコケ	251	461
b95	土師器	甕	I	II B 4 b I~II 層上面	胴~底	(7.8)	9.6	106.4 ハケ→ナデ/ハケ・ナデ/木葉痕	ハケの痕跡残る	252	461
b96	土師器	甕	I	II A15r II 層	胴~底	(8.2)	7.1	125.0 ミガキ→ナデ/ハケ・ナデ/木葉痕	ミガキとした調整は細いハナナデか	252	461
b97	土師器	甕	I	II B 7 e II 層	胴~底	(8.8)	4.1	131.0 回転ナデ/回転ナデ		252	461
b98	須恵器	甕	I	中央調査区南西 II 層	口縁部	-	3.6	43.1 胴部外面にタタキの痕跡		252	461
b99	須恵器	甕	I	中央調査区 I~II 層上面	胴部	-	7.2	71.1 72.1 タタキ/当て具痕		252	461
b100	須恵器	甕	II	II A 7 x I~II 層上面	胴部	-	31.8	ナデ/ナデ	外面赤彩	252	461
b101	土師器	甕	I	中央調査区南西 II 層	胴部	-	13.5	ナデ/ナデ	外面赤彩	252	461
b102	土師器	甕	I	中央調査区南西 II 層	口縁部	-	10.4	ナデ/ナデ	内外面赤彩	252	461
b103	土師器	甕	-	II B14g II 層	口縁部	-	67.3	ナデ/ナデ	内外面赤彩、複合口縁部	252	461

第 13 表 石鏃・尖頭器觀察表 (1)

掲載 No.	器種分類	残存	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
				長	幅						
c1	①	完形	A 4号竪穴建物 北西区 堆積土	1.7	1.5	0.4	頁岩	北上山地、古生代		253	462
c2	①	完形	A36号竪穴建物 北西区 灰褐色土	1.3	1.4	0.4	頁岩	北上山地、古生代		253	462
c3	①	完形	A70号竪穴建物 堆積土	2.5	1.6	0.4	頁岩	北上山地、古生代		253	462
c4	①	完形	A70号竪穴建物 堆積土	3.1	1.5	0.5	頁岩	北上山地、古生代		253	462
c5	①	完形	A70号竪穴建物 堆積土中位	3.2	2.0	0.7	頁岩	北上山地、古生代		253	462
c6	①	完形	B 8号竪穴建物 堆積土	2.6	1.8	0.8	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c7	①	完形	B 9号竪穴建物 北西区 堆積土中位	2.1	2.5	0.6	頁岩	北上山地、古生代	未成品	253	462
c8	①	完形	B14号竪穴建物 南東区 堆積土一括	2.6	1.8	0.7	頁岩	北上山地、古生代		253	462
c9	①	完形	A109号竪穴建物 堆積土	2.0	1.5	0.6	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c10	①	完形	A111号竪穴建物 堆積土	2.9	2.1	0.5	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c11	①	完形	A112号竪穴建物 堆積土下位	1.8	2.0	0.5	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c12	①	完形	A116号竪穴建物 西区 堆積土	1.2	0.9	0.3	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c13	①	完形	A116号竪穴建物 堆積土	1.2	1.1	0.3	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c14	①	完形	A126号竪穴建物 1層	2.0	2.1	0.6	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c15	①	完形	A122号竪穴建物 堆積土	1.3	1.4	0.4	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c16	①	完形	A124号竪穴建物 南西区 床面直上	1.6	1.5	0.3	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c17	①	完形	A124号竪穴建物 北西区 黒色土	1.3	1.4	0.4	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c18	①	完形	A126号竪穴建物 堆積土下位	1.7	2.3	0.5	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c19	①	完形	A128号竪穴建物 堆積土	1.9	1.4	0.5	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c20	①	完形	A127号竪穴建物 堆積土	2.3	1.7	0.5	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c21	①	完形	A135号竪穴建物 堆積土下位	3.3	2.1	0.5	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c22	①	完形	A136号竪穴建物 堆積土	1.2	1.4	0.4	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c23	①	完形	A139号竪穴建物 堆積土上位	1.8	1.7	0.4	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c24	①	完形	A140号竪穴建物 ベルト 1~3層	1.6	1.6	0.4	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c25	①	完形	A141号竪穴建物 堆積土	2.9	2.1	0.5	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c26	①	欠損	A144号竪穴建物 堆積土	1.6	1.7	0.7	石英	北上山地、中生代(白亜紀)	分析試料(第V章第7節)	253	462
c27	①	完形	A145号竪穴建物 暗褐色土	1.7	1.4	0.5	頁岩	北上山地、中生代		253	462
c28	①	完形	A153号竪穴建物 黄褐色土	3.3	1.9	0.9	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c29	①	完形	A146号竪穴建物 堆積土	1.5	1.1	0.3	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c30	①	欠損	A146号竪穴建物 堆積土	2.2	1.5	0.6	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c31	①	完形	A146号竪穴建物 堆積土	2.6	1.8	0.4	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c32	①	完形	A146号竪穴建物 堆積土下位~床面直上	3.1	1.5	0.5	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c33	①	完形	A162号竪穴建物 堆積土	4.3	2.1	0.6	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c34	①	完形	A162号竪穴建物 暗褐色土	3.1	1.8	0.5	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c35	①	完形	A164号竪穴建物 堆積土	2.6	1.9	0.6	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c36	①	完形	A175号竪穴建物 東ベルト 上位暗褐色土	1.3	1.4	0.3	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c37	①	完形	A179号竪穴建物 堆積土	3.3	1.9	0.4	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c38	①	完形	A179号竪穴建物 堆積土	2.5	1.9	0.5	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c39	①	完形	A179号竪穴建物 堆積土	1.7	2.0	0.5	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c40	①	完形	A179号竪穴建物 堆積土	1.9	1.6	0.4	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c41	①	完形	A187号竪穴建物	1.4	1.2	0.4	石英	北上山地、中生代		254	462
c42	①	完形	A188号竪穴建物	3.3	2.0	1.1	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c43	①	完形	A188号竪穴建物	1.9	1.8	0.4	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c44	①	完形	A188号竪穴建物	1.9	1.4	0.3	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c45	①	完形	A188号竪穴建物	1.6	1.6	0.5	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c46	①	完形	A188号竪穴建物	2.2	1.6	0.5	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c47	①	完形	A188号竪穴建物	1.8	1.9	0.4	頁岩	北上山地、中生代		254	462
c48	①	完形	A207号竪穴建物 堆積土	2.0	1.8	0.8	頁岩	北上山地、古生代		254	462
c49	①	完形	A231号竪穴建物 堆積土	2.8	1.5	0.4	頁岩	北上山地、古生代		254	463

第 13 表 石鏃・尖頭器觀察表 (2)

掲載 No.	器種分類	残存	出土遺構・地点・層位		計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅	厚							
c50	①	完形	55号土坑	堆積土	1.9	1.4	0.4	0.9	頁岩	北上山地、中生代	254	463
c51	①	完形	271号土坑		2.7	1.9	0.5	1.8	頁岩	北上山地、古生代	254	463
c52	①	完形	3号土器埋藏遺構	堆積土	2.1	1.6	0.5	1.4	頁岩	北上山地、中生代	254	463
c53	①	完形	II A 5x		2.8	2.2	0.7	3.5	頁岩	北上山地、中生代	254	463
c54	①	欠損	II A 5v	II層	2.0	1.8	0.6	1.6	頁岩	北上山地、中生代	254	463
c55	①	完形	II A 6w	II a層	3.0	1.4	0.7	2.7	頁岩	北上山地、中生代	254	463
c56	①	完形	II A 6x	II層	2.5	1.5	0.4	1.6	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c57	①	完形	II A 6x	II a層	2.7	1.6	0.4	1.4	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c58	①	完形	II A 6y	II a層	1.5	1.4	0.3	0.7	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c59	①	完形	II A 6y	II a層	1.4	1.8	0.5	1.0	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c60	①	完形	II A 7v	II a層	2.7	1.8	0.4	1.5	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c61	①	完形	II A 7x	II a層	1.1	1.1	0.3	0.2	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c62	①	完形	II A 7x	II a層	1.5	1.6	0.2	0.6	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c63	①	完形	II A 7x	II層	2.5	1.7	0.6	2.0	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c64	①	完形	II A 8w	II a層	1.3	1.8	0.4	0.9	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c65	①	完形	II A 8w	II層	2.3	1.7	0.6	2.3	石英	北上山地、中生代	255	463
c66	①	完形	II A 8w	II a層	2.4	1.3	0.5	1.4	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c67	①	完形	II A 8x	II a層	1.6	1.6	0.4	1.1	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c68	①	完形	II A 8x	II a層	2.1	1.6	0.4	1.1	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c69	①	欠損	II A 8x	II a層	3.0	1.9	0.9	4.5	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c70	①	完形	II A 8y	I ~ II層上面	2.8	1.3	0.5	1.3	頁岩	北上山地、古生代	255	463
c71	①	完形	II A 8y	北トレンチ (II A 8y) II b層直上赤褐色土	3.5	2.0	0.7	3.7	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c72	①	完形	II A 8y	北トレンチ II層	1.4	1.5	0.4	0.7	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c73	①	完形	II A 8y	III層	2.5	1.4	0.5	1.2	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c74	①	完形	II A 9v	I ~ III層	3.3	2.2	0.5	2.6	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c75	①	完形	II A 9x	II a層	1.0	0.9	0.3	0.2	黒曜石	小赤沢系	255	463
c76	①	完形	II A 9x	II b ~ III層	1.2	1.4	0.2	0.4	玉髓	北上山地、中生代	255	463
c77	①	完形	II A10u	II a層	1.6	1.4	0.4	1.0	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c78	①	完形	II A10x	II層	2.1	1.6	0.5	1.2	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c79	①	完形	II A12y	下位黒褐色土	3.5	2.5	0.6	2.8	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c80	①	完形	II B 4a	南西区 II層	1.5	1.5	0.4	0.6	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c81	①	完形	II B 4b	II層	2.6	1.7	0.5	1.9	頁岩	北上山地、古生代	255	463
c82	①	完形	II B 4b	南西区 II層	1.6	1.5	0.5	0.7	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c83	①	完形	II B 4c	II b ~ III層	1.2	1.0	0.3	0.2	凝灰岩	北上山地、中生代	255	463
c84	①	完形	II B 4c	西区 II a層	3.4	1.9	0.5	2.3	頁岩	北上山地、中生代	255	463
c85	①	完形	II B 5a	トレンチ II層	2.4	1.7	0.4	1.8	頁岩	北上山地、中生代	256	463
c86	①	完形	II B 5b	北東区 II層	1.3	1.7	0.3	0.4	頁岩	北上山地、中生代	256	463
c87	①	完形	II B 5b	南側東部ベルト II層	1.4	1.5	0.3	0.4	頁岩	北上山地、中生代	256	463
c88	①	欠損	II B 5・6a	南北トレンチ II a層	3.3	1.8	0.8	4.4	頁岩	北上山地、中生代	256	463
c89	①	完形	II B 6b	ベルト 下位暗褐色土	1.0	1.1	0.3	0.3	黒曜石	小赤沢系	256	463
c90	①	欠損	II B 6a	南北ベルト東トレンチ 下位暗褐色土	0.9	0.9	0.3	0.2	頁岩	北上山地、中生代	256	463
c91	①	欠損	II B 6a	南北ベルト東トレンチ 下位暗褐色土	1.2	1.4	0.6	0.5	凝灰岩	北上山地、中生代	256	463
c92	①	完形	II B 7a	II a層	1.7	1.6	0.4	0.9	黒曜石	小赤沢系	256	463
c93	①	完形	II B 7a	II a層	1.5	1.2	0.3	0.4	頁岩	北上山地、中生代	256	463
c94	①	完形	II B 7a	II a層	1.5	0.9	0.3	0.3	頁岩	北上山地、中生代	256	463
c95	①	完形	II B 7a	トレンチ II a層	2.4	1.6	0.5	1.4	頁岩	北上山地、中生代	256	463
c96	①	完形	II B 7a	下位暗褐色土	2.1	1.5	0.5	1.4	頁岩	北上山地、中生代	256	464
c97	①	完形	II B 7a	下位暗褐色土	2.3	1.6	0.7	2.5	頁岩	北上山地、中生代	256	464
c98	①	完形	II B 8a	トレンチ II層	2.0	2.1	0.4	1.3	頁岩	北上山地、中生代	256	464

第 13 表 石 鍬・尖頭器觀察表 (3)

掲載 No.	器種分類	残存	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.	
				長	幅							
c99	①	完形	II B 8a II a層	3.0	0.6	2.0	頁岩	北上山地、中生代		256	464	
c100	①	完形	II B 8b 下位暗褐色土	2.4	1.9	0.5	2.1	頁岩	北上山地、中生代		256	464
c101	①	完形	II B 8b 壁面 II a層	2.8	1.4	0.4	1.5	頁岩	北上山地、中生代		256	464
c102	①	完形	II B 8b 下位暗褐色土	2.6	1.8	0.6	1.9	頁岩	北上山地、中生代		256	464
c103	①	完形	B トレンチ (II B 9a) II層	2.8	1.6	0.5	1.7	頁岩	北上山地、中生代		256	464
c104	①	完形	B トレンチ (II B 9a) II a層	2.3	1.7	0.6	1.9	頁岩	北上山地、中生代		256	464
c105	①	完形	II B 9a II a層	1.9	1.6	0.3	0.7	頁岩	北上山地、中生代		256	464
c106	①	完形	II B 9b 北西区 II a層	2.6	1.8	0.5	2.0	頁岩	北上山地、中生代		256	464
c107	①	完形	II B 9b II a層	1.7	1.9	0.5	1.5	頁岩	北上山地、中生代		256	464
c108	①	完形	II B 9b II a層	1.8	1.4	0.4	0.8	頁岩	北上山地、中生代		256	464
c109	①	欠損	II B 9b II a層	4.3	2.1	0.9	8.1	頁岩	北上山地、中生代	未成品	256	464
c110	①	完形	A126 穿壁穴建物 9層	0.9	0.2	0.2	0.2	頁岩	北上山地、中生代		256	464
c111	①	完形	A126 穿壁穴建物 9層	1.5	1.4	0.3	0.5	頁岩	北上山地、中生代		256	464
c112	①	完形	II B10a II ~ III層	2.6	1.9	0.4	1.5	頁岩	北上山地、中生代		256	464
c113	①	完形	II B10a II ~ III層	2.0	1.4	0.4	0.8	頁岩	北上山地、中生代		256	464
c114	①	完形	II B11a 西区南北トレンチ II a層下位	1.9	1.3	0.4	1.0	黒曜石	不明		257	464
c115	①	完形	II B13 III層	3.3	1.8	0.5	2.1	頁岩	北上山地、中生代		257	464
c116	①	完形	II B14d II層	1.9	1.6	0.3	0.8	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c117	①	完形	II B14 西区 III層	2.5	1.1	0.2	0.6	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c118	①	完形	II B15e II層	1.8	1.4	0.4	0.7	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c119	①	完形	II B15 茶褐色土	2.2	1.0	0.5	1.0	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c120	①	完形	II B16d 南西区 II層	1.6	1.5	0.3	0.6	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c121	①	完形	II B16f II層	1.5	1.6	0.4	0.6	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c122	①	完形	II B16k 南東区 II層	1.5	1.3	0.3	0.4	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c123	①	完形	II B18a 北東区 II層	2.0	1.6	0.5	1.3	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c124	①	完形	II B18a 北西区 I ~ II層上面	2.0	1.7	0.4	1.2	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c125	①	完形	II B18j 南東区 II層	1.8	1.1	0.4	0.4	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c126	①	完形	II A18y 北東区 II a層	1.0	1.4	0.2	0.3	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c127	①	完形	II B19c 南西区 II a層	2.9	1.8	0.5	2.1	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c128	①	完形	II B20k 南東区 西ベルト	2.7	1.4	0.6	1.9	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c129	①	完形	II B20l 南東区 III層	1.2	1.2	0.2	0.3	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c130	①	完形	II B21K 北東区 II層	1.7	1.7	0.5	1.0	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c131	①	完形	II B21I 北東区 III層	2.5	2.0	0.5	2.1	凝灰岩	北上山地、古生代		257	464
c132	①	欠損	II B21I 北東区 III層	0.6	0.8	0.1	0.1	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c133	①	完形	II B21I 北西区 III層	1.5	1.6	0.3	0.8	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c134	①	完形	II A21y 北東区 II a層	1.4	1.4	0.3	0.5	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c135	①	完形	II A21y 北東区 II a層	1.2	1.1	0.1	0.3	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c136	①	完形	II B22k 北西区 III層	2.0	1.5	0.4	1.0	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c137	①	完形	II B22k 南東区 III層	1.3	1.2	0.3	0.4	黒曜石	月山系		257	464
c138	①	完形	II B22I 北東区 III層	1.1	1.0	0.3	0.3	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c139	①	完形	II B23k 南西区 北ベルト II層	2.0	1.3	0.4	0.7	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c140	①	完形	II B22I 南東区 II層下位	1.6	1.4	0.3	0.5	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c141	①	完形	II B23k 南東区 北ベルト II層	1.6	1.4	0.3	0.5	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c142	①	完形	T 3	3.1	1.6	0.6	2.0	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c143	①	完形	II B21I (L+E2) 3層	1.4	1.4	0.4	0.6	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c144	①	完形	T 1 - 3間 I ~ II層上面	2.5	1.4	0.5	1.5	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c145	①	完形	中央緩斜面 I ~ II層上面	2.5	2.1	0.6	2.3	頁岩	北上山地、古生代		257	464
c146	①	完形	中央調査区 北西端 II a層	1.4	1.2	0.3	0.5	頁岩	北上山地、古生代		258	465
c147	①	完形	中段田区 東端 II a層	2.4	1.6	0.4	1.4	頁岩	北上山地、古生代		258	465

第13表 石鏃・尖頭器観察表(4)

掲載 No.	器種分類	残存	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
				長	幅						
c148	①	完形	中段田区 東端 II a層	1.8	2.0	0.4	1.2	頁岩	北上山地、古生代	258	465
c149	①	完形	下段田区	1.3	1.9	0.4	1.3	頁岩	北上山地、古生代	258	465
c150	①	完形	下段田区	0.7	1.0	0.2	0.2	頁岩	北上山地、古生代	258	465
c151	②	完形	A40号竪穴建物 床面上	2.5	1.3	0.4	1.3	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c152	②	欠損	A67号竪穴建物 P06 堆積土	3.7	1.6	0.5	2.6	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c153	②	完形	A87・88・89号竪穴建物 西区 堆積土	2.5	1.9	0.7	2.7	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c154	②	完形	A87・88・89号竪穴建物 西区 堆積土	1.6	1.4	0.5	1.0	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c155	②	完形	A109号竪穴建物 堆積土	4.4	2.4	1.1	9.9	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c156	②	欠損	A114号竪穴建物 堆積土	2.5	1.2	0.5	0.9	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c157	②	完形	A126号竪穴建物 堆積土	2.2	2.0	0.8	3.5	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c158	②	完形	A136号竪穴建物 堆積土	2.5	1.9	0.4	1.2	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c159	②	完形	A139号竪穴建物 炉 暗褐色土	2.4	0.9	0.4	0.7	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c160	②	完形	II B 7 b II ~ III層	2.2	1.5	0.3	1.0	赤色頁岩	北上山地、中生代	258	465
c161	②	完形	A151・152号竪穴建物 東西トレンチ	2.9	2.1	0.6	3.2	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c162	②	欠損	A157号竪穴建物 堆積土	2.9	2.4	0.9	6.1	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c163	②	完形	A158号竪穴建物 堆積土	2.8	1.7	0.4	1.7	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c164	②	欠損	A162号竪穴建物 暗褐色土	3.1	2.1	0.8	5.0	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c165	②	完形	A162号竪穴建物 17層相当	2.5	1.8	0.5	1.4	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c166	②	完形	A170号竪穴建物 堆積土	2.9	1.4	0.3	1.2	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c167	②	欠損	A172号竪穴建物 堆積土	2.8	2.5	0.7	4.7	赤色頁岩	北上山地、中生代	258	465
c168	②	完形	A188号竪穴建物	2.0	1.7	0.5	1.6	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c169	②	完形	A196号竪穴建物 黒褐色土	3.4	2.3	0.8	6.1	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c170	②	完形	218号土坑 堆積土	2.4	1.8	0.4	1.7	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c171	②	完形	P9439	1.5	1.2	0.3	0.4	頁岩	北上山地、古生代	258	465
c172	②	完形	II A 5 y II層	1.8	1.5	0.3	0.7	頁岩	北上山地、中生代	258	465
c173	②	完形	II A 6 x II a層	3.1	1.5	0.3	1.5	頁岩	北上山地、中生代	259	465
c174	②	欠損	II A 8 x II層	2.7	2.1	0.5	2.8	頁岩	北上山地、中生代	259	465
c175	②	完形	Bトレンチ (II A 9 y) II a層下位黄褐色土	3.1	2.2	0.8	4.1	頁岩	北上山地、中生代	259	465
c176	②	完形	II A10 x II a層	2.3	2.0	0.8	3.6	頁岩	北上山地、中生代	259	465
c177	②	完形	II A10 y 南区 II a層	2.8	1.5	0.6	2.4	頁岩	北上山地、中生代	259	465
c178	②	完形	II B 6 a II層	3.6	2.3	1.1	8.1	頁岩	北上山地、中生代	259	465
c179	②	完形	II B 6 b トレンチ II層	3.1	1.6	0.4	1.8	頁岩	北上山地、中生代	259	465
c180	②	完形	II B 6 b 南北トレンチ II a層	3.3	1.9	1.1	6.5	頁岩	北上山地、中生代	259	465
c181	②	欠損	II B 6 b ベルト II a層	3.2	1.5	0.4	2.4	頁岩	北上山地、中生代	259	465
c182	②	完形	II B 8 d II a層	1.3	1.1	0.2	0.2	頁岩	北上山地、中生代	259	465
c183	②	完形	II B 9 a II a層	3.1	1.7	0.6	2.8	頁岩	北上山地、中生代	259	465
c184	②	完形	II B 9 a II a層	2.3	1.9	0.9	3.1	頁岩	北上山地、中生代	259	465
c185	②	完形	II B 9 a II a層	2.9	2.0	0.9	4.7	頁岩	北上山地、中生代	259	465
c186	②	完形	II B10 b 北西区 II a層	2.4	1.8	0.3	1.2	頁岩	北上山地、中生代	259	465
c187	②	完形	II B10 b 南西区 II a層	4.3	2.5	1.0	9.7	頁岩	北上山地、中生代	259	466
c188	②	完形	II B22 北東区 III層	1.5	1.1	0.4	0.5	頁岩	北上山地、古生代	259	465
c189	②	完形	II B21 (LE12) 2層	1.6	1.3	0.4	0.6	頁岩	北上山地、古生代	259	465
c190	②	完形	T18	3.5	2.5	0.7	6.2	頁岩	北上山地、古生代	259	466
c191	②	完形	T 1 - 3間 I ~ II層上面	2.7	1.7	0.4	1.6	頁岩	北上山地、古生代	259	466
c192	②	欠損	T 3 II b層	3.7	1.3	0.4	2.1	頁岩	北上山地、中生代	259	466
c193	②	完形	上段田区	4.4	3.1	0.6	8.0	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c194	③	完形	A82号竪穴建物 南東区 堆積土	4.9	1.6	0.7	4.8	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c195	③	完形	A141・146号竪穴建物 ベルト 清掃中	4.7	0.8	0.5	2.0	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c196	③	完形	A162号竪穴建物 ベルト 下位暗褐色土	4.2	1.3	1.1	5.1	頁岩	北上山地、中生代	260	466

第 13 表 石鏃・尖頭器觀察表 (5)

掲載 No.	器種分類	残存	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
				長	幅						
c197	③	完形	A172 号竪穴建物 堆積土	4.7	1.4	0.8	頁岩	北上山地、中生代		260	466
c198	③	完形	A182 号竪穴建物 北区 暗褐色土	2.9	0.8	0.5	1.1	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c199	③	完形	II A11w II 層	3.6	1.1	0.5	1.9	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c200	③	完形	II B 6a 南北ベルト III 層	5.0	1.1	0.6	3.1	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c201	③	完形	II B 6b 南東区 II a 層	3.8	1.2	0.4	1.7	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c202	③	完形	II B 7a II a 層 (炭混じり)	3.7	1.6	0.8	4.0	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c203	③	完形	II B 8a トレンチ II 層	4.8	1.3	1.1	5.4	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c204	④	完形	A116 号竪穴建物 東区 堆積土	3.4	1.0	0.4	1.3	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c205	④	完形	A127 号竪穴建物 薄 I 堆積土	3.2	1.8	0.6	2.4	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c206	④	完形	A137 号竪穴建物 床面直上	4.1	1.5	0.8	3.4	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c207	④	完形	A153 号竪穴建物 炬間辺 暗褐色土	4.0	1.8	0.6	2.8	赤色頁岩	北上山地、中生代	260	466
c208	④	完形	II A 6y 南北ベルト II a 層	3.3	1.3	0.6	2.3	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c209	④	完形	II A 9x 東区 II a 層	3.0	1.4	0.7	2.3	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c210	④	欠損	A161 号竪穴建物 暗褐色土	3.9	1.4	1.0	4.2	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c211	④	欠損	II B 7c II a 層	4.4	1.4	0.9	4.6	頁岩	北上山地、中生代	260	466
c212	④	欠損	II B 8a II 層	2.2	1.6	0.4	1.3	頁岩	北上山地、中生代	261	466
c213	④	完形	II B 9a B トレンチ II a 層	3.5	1.4	0.5	2.2	頁岩	北上山地、中生代	261	466
c214	④	欠損	II B 9b II a 層	5.4	1.5	0.7	4.1	頁岩	北上山地、中生代	261	466
c215	④	完形	II B2f 北西区 III 層	2.9	1.2	0.3	0.8	頁岩	北上山地、中生代	261	466
c216	④	欠損	II B2m 北西区 III 層	2.0	1.0	0.4	0.6	頁岩	北上山地、中生代	261	466
c217	④	完形	中央調査区 北西区 I 層	2.7	1.1	0.4	0.9	頁岩	北上山地、中生代	261	466
c218	④	完形	中段田区	2.8	1.1	0.3	0.8	頁岩	北上山地、中生代	261	466
c219	④	欠損	下段田区 西区 I ~ II 層上面	2.7	1.4	0.5	0.6	頁岩	北上山地、古生代	261	466
c220	⑤	完形	A70 号竪穴建物 堆積土中位	8.0	2.3	1.0	19.5	頁岩	北上山地、古生代	261	466
c221	⑤	完形	A75 号竪穴建物 堆積土	7.9	1.7	1.0	14.4	頁岩	北上山地、中生代	261	466
c222	⑤	欠損	A136 号竪穴建物 暗褐色土	7.1	2.7	1.8	33.1	頁岩	北上山地、中生代	261	466
c223	⑤	完形	A188 号竪穴建物	6.8	2.3	1.1	15.8	頁岩	北上山地、中生代	261	467
c224	⑤	欠損	A248 号竪穴建物 炬間辺 2 層	3.3	2.2	0.8	5.9	頁岩	北上山地、古生代	261	467
c225	⑤	完形	II A 7y II 層	8.9	2.7	1.4	32.0	頁岩	北上山地、中生代	261	467
c226	⑤	完形	II A 8x II a 層	9.1	2.2	1.1	21.3	頁岩	北上山地、中生代	261	467
c227	⑤	完形	II A 8x II a 層	6.2	2.4	1.3	16.4	頁岩	北上山地、中生代	262	467
c228	⑤	欠損	II A 9u B トレンチ II a 層	5.6	1.9	1.1	14.1	頁岩	北上山地、中生代	262	467
c229	⑤	欠損	II A19v I ~ II 層上面	4.6	2.6	1.0	12.2	頁岩	北上山地、古生代	262	467
c230	⑤	完形	II B 6b III 層・下位暗褐色土	7.6	2.4	1.2	21.0	頁岩	北上山地、中生代	262	467
c231	⑤	欠損	II B 9b II a 層	6.2	2.5	1.5	19.1	頁岩	北上山地、中生代	262	467
c232	⑤	欠損	T 6	2.9	2.1	1.0	5.6	頁岩	北上山地、古生代	262	467

第 14 表 石錐観察表

掲載 No.	残存	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	厚						
c233	完形	A68 号竪穴建物 堆積土中～下位	[4.2]	1.3	6.1	頁岩	北上山地、古生代		262	467
c234	完形	A79 号竪穴建物 堆積土	4.8	1.6	1.9	頁岩	北上山地、中生代		262	467
c235	完形	A116 号竪穴建物 堆積土	4.9	1.5	2.9	頁岩	北上山地、中生代		262	467
c236	完形	A145 号竪穴建物	4.6	0.8	2.0	頁岩	北上山地、中生代		262	467
c237	完形	A152 号竪穴建物 取り上げ No.S2	4.6	1.1	2.4	頁岩	北上山地、中生代		262	467
c238	完形	A175 号竪穴建物 上位暗褐色土	4.1	1.2	2.0	頁岩	北上山地、中生代		262	467
c239	完形	A188 号竪穴建物	4.3	1.4	3.0	頁岩	北上山地、中生代		262	467
c240	完形	A228 号竪穴建物 堆積土上位	3.8	2.0	4.3	頁岩	北上山地、中生代		262	467
c241	完形	B14 号竪穴建物 南東区 黒褐色土	4.2	2.3	7.1	頁岩	北上山地、中生代		263	467
c242	完形	II A14s 西区 攪乱	[4.3]	2.6	1.1	頁岩	北上山地、古生代		263	467
c243	完形	II A 6y II 層	2.7	2.0	2.8	頁岩	北上山地、中生代		263	467
c244	完形	II A 9v B トレンチ II a 層	3.8	1.3	0.6	頁岩	北上山地、中生代		263	467
c245	完形	II B 4b II 層	2.9	1.8	3.0	頁岩	北上山地、中生代		263	467
c246	完形	A162 号竪穴建物 堆積土	3.2	1.9	1.8	頁岩	北上山地、中生代		263	467
c247	完形	II B 8b III 層・下位暗褐色土	5.8	1.3	3.5	頁岩	北上山地、中生代	未成品	263	468
c248	完形	II B 8b II a 層	4.0	1.6	5.3	頁岩	北上山地、中生代		263	467
c249	完形	II B18e 南東区 II 層	[3.3]	1.3	0.8	頁岩	北上山地、古生代		263	467
c250	完形	II A18y 南西区 II a 層	[4.8]	1.0	0.5	頁岩	北上山地、古生代		263	468

第 15 表 石錐観察表 (1)

掲載 No.	器種分類	残存	出土遺構・地点・層位		計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅	長	厚						
c251	①	完形	A129 号竪穴建物	4.9	1.3	0.8	3.9	頁岩	北上山地、中生代		263	468
c252	①	完形	A151・152 号竪穴建物 東西トレンチ	5.3	2.3	0.9	11.1	頁岩	北上山地、中生代	未成品	263	468
c253	①	完形	A153 号竪穴建物 和直上	7.3	2.4	0.8	14.7	頁岩	北上山地、中生代		263	468
c254	①	完形	A158 号竪穴建物 堆積土	8.2	2.0	1.0	15.2	頁岩	北上山地、中生代		264	468
c255	①	完形	A167 号竪穴建物 暗褐色土	9.2	4.8	1.3	47.3	頁岩	北上山地、中生代		264	468
c256	①	完形	A167 号竪穴建物 堆積土	6.3	1.9	0.7	9.0	頁岩	北上山地、中生代		264	468
c257	①	完形	237 号土坑 堆積土	5.4	2.2	0.8	9.6	頁岩	北上山地、古生代		264	468
c258	①	完形	237 号土坑 堆積土	6.3	2.2	0.5	5.8	頁岩	北上山地、中生代		264	468
c259	①	欠損	II A 7v II 層	3.8	1.5	0.7	4.6	頁岩	北上山地、中生代		264	468
c260	①	完形	II A 7w II 層	7.3	2.5	0.8	15.8	頁岩	北上山地、中生代		264	468
c261	①	完形	II A 8w II a 層	5.0	2.8	0.6	8.1	頁岩	北上山地、中生代		264	468
c262	①	完形	II A 8x II 層	5.4	4.1	0.9	12.7	頁岩	北上山地、中生代		265	468
c263	①	完形	A トレンチ (II A9y) II 層	3.7	1.3	0.6	2.2	頁岩	北上山地、中生代		265	468
c264	①	完形	II A10y 南区 II a 層	5.3	2.3	1.0	11.3	頁岩	北上山地、中生代		265	468
c265	①	完形	II B 4b II 層	7.3	2.0	1.1	12.4	頁岩	北上山地、中生代		265	468
c266	①	完形	II B 8b 下位暗褐色土	6.4	2.5	1.1	16.1	頁岩	北上山地、中生代		265	468
c267	①	完形	II B 9a 西区 II a 層	4.1	2.6	0.4	3.3	頁岩	北上山地、中生代		265	468
c268	①	完形	II B 9a II a 層	5.1	1.9	0.6	5.8	頁岩	北上山地、中生代		265	469
c269	①	完形	II B14b 東区 III 層	8.9	3.1	0.8	14.9	頁岩	北上山地、古生代		265	469
c270	①	完形	II B16e I～II 層上面	5.7	2.5	0.8	8.6	頁岩	北上山地、古生代		265	468
c271	①	完形	II B16g I～II 層上面	3.8	1.4	0.8	3.2	頁岩	北上山地、古生代		266	469
c272	①	完形	II B19a 南西区 II 層	7.2	4.3	0.8	27.5	頁岩	北上山地、古生代	未成品	266	469
c273	①	完形	II B19a 南西区 II 層	8.1	3.9	0.7	24.4	頁岩	北上山地、古生代	未成品	266	469
c274	①	完形	II B24j 南東区 III 層	7.0	3.6	1.0	19.5	頁岩	北上山地、古生代		266	469

第15表 石匙観察表(2)

掲載 No.	器種 分類	残存	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	写真 No.	図版 No.
				長	幅						
c275	①	完形	中央調査区北西端 I層	7.3	2.1	0.8	頁岩	北上山地・古生代		469	266
c276	①	完形	中央線斜面 I～II層上面	5.8	3.0	0.8	赤色頁岩	北上山地・古生代		469	266
c277	①	完形	T15	4.7	2.2	0.7	頁岩	北上山地・古生代		469	266
c278	②	完形	A1号竪穴建物 堆積土	5.0	5.5	1.0	頁岩	北上山地・古生代		469	267
c279	②	完形	A2号竪穴建物 堆積土	2.2	3.7	0.5	頁岩	北上山地・中生代		469	267
c280	②	完形	A141号竪穴建物 茶褐色土	4.3	3.4	0.9	頁岩	北上山地・中生代		469	267
c281	②	完形	A162号竪穴建物 堆積土	3.5	5.5	1.2	頁岩	北上山地・中生代		469	267
c282	②	完形	A162号竪穴建物 堆積土	5.0	6.1	1.4	頁岩	北上山地・中生代		469	267
c283	②	完形	A162号竪穴建物 黒色土	5.1	4.1	0.9	頁岩	北上山地・中生代		470	267
c284	②	完形	A188号竪穴建物	3.2	6.1	1.0	頁岩	北上山地・中生代		469	267
c285	②	完形	A188号竪穴建物	3.2	4.7	0.9	頁岩	北上山地・中生代		469	268
c286	②	完形	B7号竪穴建物 欄道トレンチ	2.7	0.5	3.5	赤色頁岩	北上山地・中生代		470	268
c287	②	完形	B14号竪穴建物 南東区 堆積土	3.5	3.9	0.7	頁岩	北上山地・古生代		470	267
c288	②	完形	119号土坑 堆積土	3.5	5.7	1.1	頁岩	北上山地・中生代		470	268
c289	②	完形	II A 6 x II a層	1.9	1.5	0.5	頁岩	北上山地・中生代		470	268
c290	②	完形	II A 6 y II a層	3.1	3.8	1.0	頁岩	北上山地・中生代		470	268
c291	②	完形	II A 7 w II層	3.3	4.8	0.9	頁岩	北上山地・中生代		470	269
c292	②	完形	II A 8 w II a層	4.9	5.9	1.8	頁岩	北上山地・中生代		470	268
c293	②	完形	II A11 y II a層	3.9	6.0	0.9	黒曜石	小赤沢系	分析資料(第VI章第7節)	470	268
c294	②	完形	II B 8 a III層変色層(赤褐色)	3.1	2.7	0.7	頁岩	北上山地・中生代		470	268
c295	②	完形	II B 8 d 茶褐色土	5.4	3.8	1.1	頁岩	北上山地・中生代	未成品	470	269
c296	②	完形	II B14 e III層	3.3	4.8	0.6	頁岩	北上山地・古生代		470	269
c297	②	完形	II B20 k 南東区 西ベルト	3.9	4.3	0.8	頁岩	北上山地・古生代		470	269
c298	②	完形	II B221 南西区 III層	3.3	3.8	1.1	頁岩	北上山地・古生代		470	269
c299	②	完形	T 1 - 3 間 I～II層上面	3.4	4.1	0.9	頁岩	北上山地・古生代		470	269
c300	②	完形	中央線斜面 I～II層上面	2.8	4.4	0.6	頁岩	北上山地・古生代		470	269
c301	③	完形	A96号竪穴建物 堆積土	3.4	2.2	0.5	頁岩	北上山地・中生代		470	269
c302	③	完形	A106号竪穴建物 東ベルト 5層	5.1	2.3	0.5	凝灰岩	北上山地・中生代		470	269
c303	③	完形	A109号竪穴建物 暗褐色土	6.5	3.2	0.9	頁岩	北上山地・中生代		471	269
c304	③	完形	A113号竪穴建物 堆積土	7.3	1.8	0.9	頁岩	北上山地・中生代		471	270
c305	③	完形	II A 8 w II a層	8.0	5.4	2.0	頁岩	北上山地・中生代		471	270
c306	③	完形	II A 8 x II層	3.4	2.2	0.7	頁岩	北上山地・中生代		470	270
c307	③	完形	II A 9 y II a層	8.7	1.7	1.1	頁岩	北上山地・中生代		471	270
c308	③	完形	II A10 v II b層	6.6	2.9	1.0	頁岩	北上山地・古生代		471	270
c309	③	完形	II A12 y 下位黒褐色土	8.0	3.5	1.3	頁岩	北上山地・中生代		471	270
c310	③	完形	II B 3 b I層	6.7	2.1	0.9	頁岩	北上山地・中生代		471	270
c311	③	完形	II B 4 b II層	4.3	2.9	0.9	頁岩	北上山地・中生代		471	271
c312	③	完形	II B15 e トレンチ II層	4.2	2.2	0.4	頁岩	北上山地・古生代		471	270
c313	③	完形	上段田区東端部 I～II層上面	3.0	3.9	0.6	頁岩	北上山地・古生代		471	271
c314	④	完形	II B11 b II～III層	5.3	1.1	0.5	頁岩	北上山地・中生代		471	271
c315	④	完形	II B 9 b II a層	9.8	2.8	1.1	頁岩	北上山地・中生代		471	271

第 16 表 甌状石器観察表

掲載 No.	残存	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅						
c316	完形	A73 号竪穴建物 堆積土下位	7.6	3.1	402	頁岩	北上山地、中生代		271	471
c317	完形	A122 号竪穴建物 堆積土	3.1	1.3	0.6	2.1	頁岩	北上山地、中生代	271	471
c318	完形	A153 号竪穴建物 知直上堆積土	6.1	2.5	1.7	26.0	頁岩	北上山地、中生代	271	471
c319	完形	A153 号竪穴建物 知直上堆積土	7.4	3.0	1.6	32.4	頁岩	北上山地、中生代	272	472
c320	完形	A163 号竪穴建物 暗褐色土	7.2	2.8	1.8	36.6	頁岩	北上山地、中生代	272	472
c321	完形	B14 号竪穴建物 薄 1 暗褐色土	4.5	2.1	0.9	8.6	頁岩	北上山地、中生代	271	472
c322	完形	II A 6 y II 層	5.0	2.5	1.4	18.3	頁岩	北上山地、中生代		472
c323	完形	II A 7 x II a 層	4.8	3.1	1.1	18.7	頁岩	北上山地、中生代	272	472
c324	完形	II B 4 b 南区 II a 層	7.3	3.6	2.0	51.4	頁岩	北上山地、中生代	272	472
c325	完形	II B 9 a 南西区 II b 層	6.5	3.1	1.1	21.3	頁岩	北上山地、中生代	272	472
c326	完形	ボトレンチ (II B9a) II 層	5.8	2.3	1.2	15.8	頁岩	北上山地、中生代	273	472

第 17 表 削器観察表

掲載 No.	残存	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅						
c327	完形	A113 号竪穴建物	6.5	2.5	1.1	14.8	頁岩	北上山地、中生代		472
c328	完形	A184 号竪穴建物 堆積土	4.3	5.4	1.5	31.3	頁岩	北上山地、中生代	アスファルト付着?	273
c329	完形	II A 6 x II a 層	3.7	3.6	1.1	15.3	頁岩	北上山地、中生代		273
c330	完形	II A 8 w II a 層	3.2	3.4	1.8	16.3	頁岩	北上山地、中生代	未成品	472
c331	完形	II A15s I 層	5.7	4.8	1.3	30.7	頁岩	北上山地、中生代		273
c332	完形	II B 6 a 西区 II b 層	4.2	4.3	1.7	24.8	頁岩	北上山地、中生代		273
c333	完形	II B 9 b II a 層	5.6	4.1	1.4	32.8	頁岩	北上山地、中生代		273
c334	完形	II B15m 洗跡内 黒色・黄褐色砂礫層	3.6	3.8	1.2	15.7	頁岩	北上山地、中生代		274
c335	完形	中央調査区南西 遺物包含層 北区 II 層	5.8	4.7	2.6	56.4	頁岩	北上山地、中生代		473
c336	完形	中央調査区南西 遺物包含層 北区 II 層	5.7	3.6	1.5	26.6	頁岩	北上山地、中生代		274

第 18 表 異形石器観察表

掲載 No.	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
		長	幅						
c378	3 号土器埋設遺構	3.4	5.7	1.5	23.1	頁岩	北上山地、中生代		476
c379	II B 5 b III 層	4.9	9.1	2.1	64.7	頁岩	北上山地、中生代		476

第 19 表 石核観察表

掲載 No.	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
		長	幅						
c380	A87・88・89 号竪穴建物 東区 堆積土	5.6	7.8	4.7	247.2	頁岩	北上山地、古生代	279	475
c381	78 号土坑 堆積土	5.4	5.6	6.3	208.2	頁岩	北上山地、中生代	280	476
c382	II A10y 南区 II 層	6.9	8.5	4.6	380.8	頁岩	北上山地、中生代	280	476
c383	II A20y 北東区 II a 層	4.7	9.4	2.9	152.4	頁岩	北上山地、中生代	279	476
c384	II B 4 c II a 層	6.4	7.7	6.0	326.5	頁岩	北上山地、中生代	281	476
c385	II B 6 a II 層	2.6	6.4	3.2	65.6	頁岩	北上山地、中生代	281	475
c386	A120 号竪穴建物 炭化物層	6.8	11.4	10.2	927.0	頁岩	北上山地、中生代	282	475
c387	II B16k 南西区 II 層	6.7	7.4	6.3	362.5	チャート	北上山地、中生代	282	476
c388	II B20 ~ 22b III 層	5.8	4.3	4.6	138.7	頁岩	北上山地、古生代	283	475
c389	II B21j 南東区 III 層	5.5	7.5	6.1	271.7	頁岩	北上山地、古生代	283	475

第20表 細部加工剥片観察表

掲載 No.	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
		長	幅						
c337	A12号竪穴建物 褐色土	4.8	7.9	1.2	32.5	頁岩	北上山地、古生代	274	473
c338	A32号竪穴建物 灰褐色土	3.2	2.2	0.6	4.1	頁岩	北上山地、中生代	274	473
c339	A32号竪穴建物 灰褐色土	4.4	1.8	0.8	8.0	頁岩	北上山地、古生代	274	473
c340	A72号竪穴建物 堆積土下位	5.2	3.9	1.4	18.4	流紋岩	浄土ヶ浜・松山・立丸峠、新生代古第三紀	274	473
c341	A125号竪穴建物 床面直上	6.7	3.9	1.0	17.1	頁岩	北上山地、中生代	275	473
c342	A142号竪穴建物 ベルト 堆積土	6.1	2.5	1.5	16.1	頁岩	北上山地、中生代	275	473
c343	A176号竪穴建物 堆積土	4.8	2.6	1.1	13.0	頁岩	北上山地、中生代	274	473
c344	A160号竪穴建物 北区 堆積土	5.2	2.5	1.5	15.5	赤色頁岩	北上山地、中生代	275	473
c345	A188号竪穴建物 西区 堆積土	1.9	1.6	1.3	3.1	瑪瑙	北上山地、中生代	274	473
c346	A87・88・89号竪穴建物 西区 堆積土	2.2	1.9	0.8	3.0	頁岩	北上山地、中生代	275	473
c347	II B14f II b層	4.4	2.2	0.6	6.4	赤色頁岩	北上山地、古生代	275	473
c348	II B15 西区 II層	4.3	4.1	1.1	21.3	赤色頁岩	北上山地、古生代	275	473
c349	II B16d I ~ II層 上面	3.6	6.2	1.3	22.7	頁岩	北上山地、古生代	275	473
c350	II B16e 北東区 II層	4.1	5.0	1.1	16.7	赤色頁岩	北上山地、古生代	275	473
c351	II B16 擾乱	6.8	4.6	1.5	41.8	頁岩	北上山地、古生代	276	474
c352	II A20 ~ 22x	3.3	3.0	1.5	13.1	頁岩	北上山地、古生代	276	473
c353	II A20 ~ 22y	5.2	4.5	1.2	28.7	頁岩	北上山地、古生代	276	474
c354	II B21k 南東区 III層	6.5	2.4	1.5	23.2	赤色頁岩	北上山地、古生代	275	474
c355	II B21l 北西区 北バルト	6.0	3.0	1.1	23.4	頁岩	北上山地、古生代	275	474
c356	II B21m 低位部 II b層	10.9	5.6	1.9	83.8	頁岩	北上山地、古生代	275	474
c357	II A 6x	4.0	2.4	0.7	6.2	頁岩	北上山地、中生代	275	474
c358	II A 6x II層	6.8	2.6	1.9	30.6	頁岩	北上山地、中生代	275	474
c359	II A 6y II a層	4.5	2.4	1.2	14.9	頁岩	北上山地、中生代	277	474
c360	II A 8x II a層	5.5	3.1	1.5	17.9	頁岩	北上山地、中生代	277	474
c361	II A 8y 東西トレンチ II層	6.0	1.7	1.1	8.2	珪質頁岩	北上山地、中生代	277	474
c362	II A 9x II層	4.0	2.5	1.5	14.2	頁岩	北上山地、中生代	277	474
c363	II A10w II ~ III層	3.4	2.0	0.6	4.3	頁岩	北上山地、中生代	277	474
c364	II A11v II a層	3.5	2.4	1.2	11.8	頁岩	北上山地、中生代	277	474
c365	II A11y II層	3.1	4.8	1.2	10.6	頁岩	北上山地、中生代	277	474
c366	II A11y II a層	4.7	3.9	0.9	18.5	頁岩	北上山地、中生代	277	474
c367	II B 5a 東区 II層	5.4	2.0	0.9	12.2	頁岩	北上山地、中生代	277	474
c368	II B 6a II a層	3.3	3.4	1.4	15.2	頁岩	北上山地、中生代	277	475
c369	II B 8a 下位階褐色土	3.9	1.4	0.8	4.1	頁岩	北上山地、中生代	277	475
c370	II B 8b 下位階褐色土	8.2	4.3	1.2	39.3	頁岩	北上山地、中生代	278	475
c371	Bトレンチ (II B 9a) II層	1.8	3.1	0.4	1.7	頁岩	北上山地、中生代	278	475
c372	Bトレンチ (II B 9a) II層	2.1	3.8	1.2	5.7	凝灰岩	北上山地、中生代	277	475
c373	Bトレンチ (II B 9a) II層	3.9	2.7	1.2	14.9	頁岩	北上山地、中生代	278	475
c374	II B11a 南北中央トレンチ II a層上位	5.4	1.3	0.6	4.4	頁岩	北上山地、中生代	278	475
c375	II B12p 沈跡? II a層	5.9	3.4	1.3	16.9	頁岩	北上山地、中生代	278	476
c376	中段田区 II層	5.7	2.1	1.2	13.8	頁岩	北上山地、中生代	278	476
c377	T 6	3.7	5.0	0.9	13.9	頁岩	北上山地、中生代	278	475

第21表 石斧観察表

掲載 No.	分類	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.	
			長	幅							
c1001	I A1号竪穴建物 堆積土		3.5	2.6	200	頁岩	北上山地、古生代		284	477	
c1002	I A1号竪穴建物 床面直上		4.9	2.9	283	細粒閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		284	477	
c1003	I A44号竪穴建物 堆積土下位		8.2	4.3	1237	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		284	477	
c1004	I A75号竪穴建物 堆積土		8.3	6.3	2907	珩岩	北上山地、中生代白亜紀		284	477	
c1005	I A109号竪穴建物 堆積土		10.9	4.8	2224	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		284	477	
c1006	I A113号竪穴建物 堆積土		6.7	3.4	533	細粒閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		284	477	
c1007	I A127号竪穴建物 東西断面 5層		8.8	4.5	1184	砂岩	北上山地、中生代		285	477	
c1008	I A135号竪穴建物 堆積土		8.5	6.6	2028	頁岩	北上山地、中生代		285	477	
c1009	I A136号竪穴建物 暗褐色土		10.4	4.9	2091	珩岩	北上山地、中生代白亜紀		285	477	
c1010	I A137号竪穴建物 堆積土		5.9	1.5	134	頁岩	北上山地、中生代	小型	284	477	
c1011	I A204号竪穴建物 堆積土上位		11.1	4.7	25	2181	細粒閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	285	477	
c1012	I A208号竪穴建物 堆積土		9.8	5.3	28	2400	細粒閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	285	477	
c1013	I A210号竪穴建物 堆積土		4.6	5.3	24	897	蛇紋岩	早池峰山周辺、古生代オルドビス紀	285	477	
c1014	I I1号土坑 堆積土中位		6.3	5.1	2.3	1401	蛇紋岩	早池峰山周辺、古生代オルドビス紀	285	477	
c1015	I 252号土坑 堆積土		4.7	2.2	0.7	11.8	頁岩	北上山地、中生代	小型完形	286	477
c1016	I P1405 堆積土		13.7	5.9	34	4370	細粒閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	286	478	
c1017	I P5121		10.8	5.0	25	2391	細粒閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	286	478	
c1018	I II A 6 w II a層		6.0	3.3	1.2	424	頁岩	北上山地、中生代	286	478	
c1019	I II A 7 x II層		0.9	4.6	2.2	1387	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	286	478	
c1020	I II A 9 v II a層		12.0	5.5	2.3	2748	絹雲		286	478	
c1021	I II A 9 x II a層		5.0	2.0	1.0	164	頁岩	北上山地、中生代	286	478	
c1022	I II A10x II a層		8.8	4.5	2.6	1645	デイサイト	北上山地、中生代白亜紀	287	478	
c1023	I II A11w II層		7.2	4.8	2.6	1388	頁岩	北上山地、中生代	287	478	
c1024	I II A18s II層		8.8	2.4	1.1	47.4	頁岩	北上山地、古生代	287	478	
c1025	I II A19s I～II層上面		11.5	4.8	2.8	2590	細粒閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	287	478	
c1026	I II B 6 b II a層		11.5	5.9	3.6	3909	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	287	478	
c1027	I II B 8 f I層		8.9	5.6	3.7	297.6	珩岩	北上山地、中生代白亜紀	288	478	
c1028	I II B14i 西区 II層		5.8	4.4	1.6	785	細粒閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	287	478	
c1029	I II B16c 北東区 II層		3.1	2.2	1.1	137	頁岩	北上山地、古生代	287	479	
c1030	I II B18b 南東区 II層		6.4	2.1	1.1	24.8	頁岩	北上山地、古生代	288	479	
c1031	I II B20a 北東区 I～II層上面		8.3	3.6	1.3	43.1	頁岩	北上山地、古生代	288	479	
c1032	I II B20k 南西区 II層		2.8	3.8	1.3	200	頁岩	北上山地、古生代	288	479	
c1033	I II B21k 北東区 II層		2.7	1.3	0.7	5.1	蛇紋岩	早池峰山周辺、古生代オルドビス紀	288	479	
c1034	I II B22k 北東区 II層		8.6	5.0	2.3	1560	頁岩	北上山地、中生代	288	479	
c1035	I 中央調査区南西 T 5・8 間 2層		13.2	5.5	3.5	386.2	砂岩	北上山地、中生代	288	479	
c1036	I 中央調査区南西 T 5・8 間 5層		10.9	4.9	2.4	210.7	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	289	479	
c1037	I 中央区南西 湿地エリア 黒色土		7.3	4.9	1.6	830	蛇紋岩	早池峰山周辺、古生代オルドビス紀	289	479	
c1038	I 中央区南西 湿地エリア 黒色土		11.8	5.0	3.0	267.5	頁岩	北上山地、古生代	289	479	
c1039	I T 3 II層		8.5	3.7	2.2	120.9	砂岩	北上山地、中生代	289	480	
c1040	I 中段田区 II層		8.1	4.1	2.1	123.4	頁岩	北上山地、古生代	289	480	
c1041	I 中段田区		5.6	3.6	1.3	49.2	頁岩	北上山地、古生代	288	480	
c1042	II A19a II層		[10.6]	5.4	2.9	269.2	珩岩	北上山地、中生代白亜紀	289	480	
c1043	II 中央調査区南西 遺物包含層 2層		[8.7]	4.4	3.1	179.2	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	290	480	
c1044	III A124号竪穴建物 暗褐色土		12.6	6.5	2.9	310.1	頁岩	北上山地、中生代	未成品	290	479
c1045	III A160号竪穴建物 茶褐色土		14.5	5.3	4.2	516.2	デイサイト	原地山層、中生代白亜紀	290	480	
c1046	III 4号溝 堆積土		112.5	6.2	3.1	382.6	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	291	480	
c1047	III A 9 x II a層		19.9	10.4	4.7	1622.1	砂岩	北上山地、中生代	291	480	
c1048	III A17i II b層		13.5	4.1	1.7	122.0	ホルンフェルス	北上山地、古生代 (変成は中生代白亜紀)	290	480	

第22表 石皿・台石類観察表(1)

掲載 No.	出土遺構・地点・層位	計測値(cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.	
		長	幅							
c1049	A34号竪穴建物 灰褐色土	7.2	8.6	144.8	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	縁有	292	481	
c1050	A34号竪穴建物 堆積土	26.3	14.1	2700.1	テサイト	北上山地、中生代白亜紀		292	481	
c1051	A40号竪穴建物 床面直上	16.5	10.9	910.4	砂岩	北上山地、中生代		292	481	
c1052	A42号竪穴建物 堆積土上位	17.2	13.2	1802.3	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	縁有	292	481	
c1053	A42号竪穴建物 堆積土下位	15.5	16.5	2320.3	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		293	481	
c1054	A42号竪穴建物 堆積土上位	25.0	18.5	11200.0	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		292	481	
c1055	A42号竪穴建物 堆積土下位	31.2	14.8	8200.0	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		293	481	
c1056	A42号竪穴建物 堆積土上位	11.8	8.5	290.3	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	縁有	293	481	
c1057	A44号竪穴建物 東区 堆積土中位	9.8	7.0	504.7	砂岩	北上山地、中生代		293	481	
c1058	A44号竪穴建物 西区 堆積土中位	9.3	10.5	359.0	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	縁有	293	481	
c1059	A44号竪穴建物 東区 堆積土中位	33.7	14.3	12400.0	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		293	481	
c1060	A44・45号竪穴建物 堆積土上～中位	20.5	22.2	59	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	縁有	294	482	
c1061	A44・51号竪穴建物 堆積土上～中位	10.1	9.4	3.8	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	縁有	293	482	
c1062	A47号竪穴建物 灰褐色土	14.3	18.9	5.6	2313.8	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	294	482	
c1063	A49号竪穴建物 北東区 堆積土	9.3	7.1	1116.1	ヒン岩	北上山地、中生代白亜紀		293	482	
c1064	A49号竪穴建物 東西断面 3層	27.8	17.2	936.3	安山岩	奥羽山脈、新生代第四紀 岩手山?	縁有	294	482	
c1065	A55号竪穴建物 1層	14.4	15.3	6.4	2542.3	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	295	482	
c1066	A59号竪穴建物	51.6	16.6	15.4	25600.0	ベグマタイト(花崗岩)	北上山地、中生代白亜紀	295	482	
c1067	A59号竪穴建物 堆積土中位	37.8	15.7	13.0	15800.0	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	295	483	
c1068	A87・88・89号竪穴建物 ベルト 堆積土	20.4	13.3	852.7	安山岩	奥羽山脈、新生代第四紀 岩手山?	縁有	296	482	
c1069	A90号竪穴建物 東区 堆積土	10.1	6.2	3.3	193.3	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	294	483	
c1070	A97号竪穴建物 東区 堆積土	10.4	7.6	4.3	203.6	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	295	483	
c1071	A97号竪穴建物 東区 堆積土	9.6	8.5	5.0	679.8	ヒン岩	北上山地、中生代白亜紀	296	483	
c1072	A105号竪穴建物 堆積土中位	26.4	20.3	4.2	3671.1	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	296	483	
c1073	A108号竪穴建物 北東区 堆積土上位	16.9	14.7	9.7	4005.6	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	296	483	
c1074	A110号竪穴建物 床面直上	13.5	14.3	7.5	2306.2	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	297	483	
c1075	A111号竪穴建物 床面直上	17.4	11.2	8.3	2274.1	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	297	483	
c1076	A112号竪穴建物 炉石	29.0	15.3	5.3	3396.1	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	297	483	
c1077	A114号竪穴建物 炉内	42.5	11.6	10.8	9203.9	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	297	484	
c1078	A114号竪穴建物 暗褐色土	22.8	16.1	5.6	2648.5	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	298	484	
c1079	A117号竪穴建物 取り上げNo.S1	27.3	15.3	7.0	2374.1	砂岩	北上山地、中生代	298	483	
c1080	A124号竪穴建物 南西区 黒色土	17.2	17.8	8.8	2716.5	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	298	484	
c1081	A124号竪穴建物 炉石	13.5	7.1	3.9	609.2	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	298	484	
c1082	A126号竪穴建物 堆積土	22.2	12.3	5.1	2447.6	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	299	484	
c1083	A135号竪穴建物 炉内	22.7	27.6	6.5	5392.1	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	299	484	
c1084	A137号竪穴建物 炉石	17.5	12.6	5.0	1417.8	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	300	484	
c1085	A139号竪穴建物 炉石 No. 2	27.6	14.7	6.6	4655.0	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	300	485	
c1086	A146号竪穴建物 炉石 No. 2	24.8	15.2	4.8	3175.1	砂岩	北上山地、中生代	300	485	
c1087	A146号竪穴建物 炉石 No. 3	23.0	18.8	5.8	3860.4	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	301	485	
c1088	A148号竪穴建物 炉石	19.9	20.2	4.1	2408.0	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	299	485	
c1089	A151号竪穴建物 炉内	14.1	15.8	8.9	3417.3	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	301	485	
c1090	A153号竪穴建物 炉石	29.9	20.2	5.1	4089.1	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	301	486	
c1091	A154号竪穴建物 炉内	20.5	15.2	8.1	3218.6	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	302	485	
c1092	A157号竪穴建物 炉内	20.7	14.9	8.2	3562.7	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	302	485	
c1093	A158号竪穴建物 堆積土	21.3	12.7	5.7	1145.6	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	縁有	302	485
c1094	A158号竪穴建物 炉内	17.6	12.6	4.9	1718.5	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	303	486	
c1095	A161号竪穴建物 炉内	14.9	18.3	8.0	2349.0	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	303	486	
c1096	A167号竪穴建物 炉内	26.3	14.6	4.7	2500.1	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	303	486	
c1097	A170号竪穴建物 炉石	13.4	8.4	5.7	1195.9	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	303	485	

第22表 石皿・台石類観察表(2)

掲載 No.	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
		長	幅						
c1098	A170号竪穴建物 炉石	230	13.7	5.7	26821	花崗斑岩	北上山地、中生代白亜紀	304	487
c1099	A187号竪穴建物 炉石	297	24.6	5.0	59904	花崗斑岩	北上山地、中生代白亜紀	304	486
c1100	A188号竪穴建物 暗褐色土	178	23.4	9.1	51492	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	304	486
c1101	A209号竪穴建物 8層下位	156	6.9	2.8	2426	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀	304	487
c1102	A218号竪穴建物 炉石	172	12.5	4.5	13726	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	305	487
c1103	A218号竪穴建物 炉石	139	18.5	8.8	41279	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	305	487
c1104	A219号竪穴建物 堆積土	138	13.2	7.4	22703	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	305	487
c1105	A220号竪穴建物 堆積土	140	13.6	4.7	12968	砂岩	北上山地、中生代	306	487
c1106	A221号竪穴建物 北東区 堆積土	164	14.4	6.7	8876	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	306	487
c1107	A225号竪穴建物 南東区 堆積土	108	12.8	4.9	5121	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	306	487
c1108	B7号竪穴建物 顔出し	178	14.9	7.0	32120	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	306	487
c1109	B8号竪穴建物 取り上げNo.13	147	11.3	5.3	10722	砂岩	北上山地、中生代	306	487
c1110	B11号竪穴建物 カマド 1層	236	12.0	12.5	68000	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	307	487
c1111	B12号竪穴建物 床面直上	165	9.7	6.2	13659	砂岩	北上山地、中生代	307	488
c1112	36号土坑 東区 堆積土	77	6.6	3.5	1014	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	307	488
c1113	36号土坑 西区 堆積土下位	129	21.4	6.2	28364	砂岩	北上山地、中生代	307	488
c1114	53号土坑 底面直上	482	31.9	11.8	258000	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	308	488
c1115	74号土坑 底面直上	233	19.5	8.7	60412	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	309	488
c1116	75号土坑 底面直上	434	32.9	14.2	230000	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	308	488
c1117	112号土坑 堆積土	109	21.2	5.1	19783	ヒン岩	北上山地、中生代白亜紀	307	488
c1118	130号土坑 堆積土上位	178	11.5	3.8	15736	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	309	489
c1119	144号土坑 堆積土上→中位	108	10.0	4.7	2178	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	309	488
c1120	226号土坑 堆積土中位	236	21.1	5.1	34442	アイサイト	北上山地、中生代白亜紀	309	488
c1121	241号土坑 堆積土	161	10.9	5.3	15948	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	309	488
c1122	135号土坑	409	35.8	19.0	410000	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	310	490
c1123	4号溝 堆積土	7.6	7.4	2.7	1557	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	310	489
c1124	10号炉 炉石	123	10.0	3.8	6734	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	310	489
c1125	20号炉 炉石	235	16.3	7.6	38351	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	310	489
c1126	P2024 堆積土	195	22.5	10.4	74000	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	311	489
c1127	P2042・2057 堆積土	436	18.3	14.1	172000	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	311	489
c1128	P2038 堆積土上位	24.4	19.9	3.7	34248	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	311	490
c1129	P3114 堆積土	27.2	32.2	8.4	108000	砂岩	北上山地、中生代	312	491
c1130	II A 6 y II層	236	21.2	6.7	48650	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	312	491
c1131	II A 7 w II~III層	28.1	17.9	5.6	37429	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	312	490
c1132	II A 7 y II a層	153	23.5	6.8	53036	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	313	491
c1133	II A 9 y II a層	19.7	14.3	6.4	27759	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	313	490
c1134	II A 9 x II層	14.4	14.2	8.2	5525	安山岩	奥羽山脈、新生代第四紀 岩手山?	313	490
c1135	II A10 w II~III層	178	12.8	5.5	21337	花崗斑岩	北上山地、中生代白亜紀	313	490
c1136	II A10 y II a層	53.1	29.6	25.2	600000	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	314	491
c1137	II A15 w 柱穴?	22.1	11.8	4.5	19223	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	314	490
c1138	II A15 s II層	16.1	19.4	5.6	15295	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	314	492
c1139	II A17 v II a層	14.3	10.5	4.5	3253	安山岩	奥羽山脈、新生代第四紀	315	491
c1140	II B 4 b II層	189	16.2	5.5	11037	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	315	492
c1141	II B 4 b II層	183	12.5	6.2	24300	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	315	492
c1142	II B 5 a II層	27.4	12.0	6.1	27082	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀	315	492
c1143	II B 5 a 北東区 II層	15.4	29.9	6.8	47343	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	316	492
c1144	II B 6 b ヘルト 下位暗褐色土	192	18.0	8.1	39224	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	316	492
c1145	II B 8 b 下位暗褐色土	447.4	20.4	7.3	116000	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀	316	492
c1146	II B10 a 南東区 II a層	9.7	6.5	1.4	1393	凝灰岩	北上山地、中生代	315	492

第22表 石皿・台石類観察表 (3)

掲載 No.	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
		長	幅						
c1147	II B18a 北東区 II a 層 II B13c II 層	167	20.5	49	3,056.5	北上山地・中生代白亜紀		315	492
c1148	II B14d 東区 III 層	270	22.6	59	4,786.6	北上山地、中生代		317	493
c1149	II B14e 茶褐色土	231	15.1	9.9	4,926.4	北上山地、中生代白亜紀		317	493
c1150	II B14f II b 層	136	13.6	7.3	431.6	奥羽山脈・新生代新第四紀		317	493
c1151	II B14i III 層	22.6	16.1	5.2	2,485.8	北上山地・中生代白亜紀		318	493
c1152	II B15e II 層	12.4	10.8	4.6	337.0	奥羽山脈・新生代新第三紀		318	493
c1153	II B15f II a 層	31.7	21.9	4.9	4,592.1	北上山地、中生代白亜紀		318	493
c1154	II B15g III 層	18.5	9.6	5.4	611.4	奥羽山脈・新生代新第三紀	縁有	318	493
c1155	II B16e II a 層	13.1	11.1	3.8	640.2	北上山地・中生代白亜紀		318	493
c1156	II B16h ベルト II b 層	17.8	10.9	5.8	651.9	奥羽山脈・新生代新第三紀		318	494
c1157	TI 8	16.1	20.9	4.0	1,013.0	奥羽山脈・新生代新第三紀		317	494

第23表 敲磨器類観察表 (1)

掲載 No.	分類	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)			重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅	厚						
c1158	1	A 4 号磨穴建物 堆積土	11.8	8.5	5.4	855.2	花崗斑岩	北上山地、中生代白亜紀		319	494
c1159	1	A 4 号磨穴建物 堆積土下位	13.2	8.1	5.2	891.8	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		319	494
c1160	1	A16 号磨穴建物 床面直上	10.8	9.0	5.1	800.9	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		319	494
c1161	3	A18 号磨穴建物 北壁際 堆積土	14.3	5.5	3.0	367.0	細粒閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		319	493
c1162	1	A18 号磨穴建物 底面直上	12.3	8.9	6.1	955.0	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		319	494
c1163	1	A19 号磨穴建物 堆積土	13.1	8.7	5.6	1,012.3	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		319	494
c1164	1	A19 号磨穴建物 堆積土	12.7	8.9	6.2	1,042.9	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		320	494
c1165	2	A26 号磨穴建物 ベルト 1 層	10.0	8.5	6.2	827.9	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		320	494
c1166	3	A42 号磨穴建物 堆積土上～中位	15.1	8.3	7.7	1,254.6	砂岩	北上山地、中生代		320	494
c1167	1	A42 号磨穴建物 堆積土下位	10.0	9.0	5.3	710.0	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		320	495
c1168	1	A42 号磨穴建物 ベルト 下位	13.1	7.2	7.0	1,113.2	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		320	495
c1169	3	A44 号磨穴建物 堆積土下位	17.9	7.8	6.1	971.0	アモサイト	原地山層、中生代白亜紀		321	495
c1170	3	A44 号磨穴建物 西区 堆積土中位	14.0	5.9	5.3	740.7	花崗斑岩	北上山地、中生代白亜紀		321	495
c1171	3	A44 号磨穴建物 東区 堆積土中位	11.3	7.6	6.7	666.1	花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		321	495
c1172	1	A44 号磨穴建物 東区 堆積土上～中位	13.5	10.2	6.3	1,376.0	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		321	495
c1173	4	A44 号磨穴建物 堆積土下位	21.5	12.2	9.7	3,984.8	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		322	495
c1174	1	A44・45 号磨穴建物 ベルト 堆積土上～中位	8.2	8.3	5.5	580.6	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		321	495
c1175	4	A44・51 号磨穴建物 ベルト北側 堆積土上～中位	15.4	7.8	6.5	1,619.9	細粒花崗閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		322	495
c1176	1	A45 号磨穴建物 床面直上	11.2	8.3	6.3	891.4	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		322	495
c1177	1	A47 号磨穴建物 灰褐色土	11.2	9.4	6.4	1,017.9	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		323	496
c1178	1	A55 号磨穴建物 ベルト 1・3 層	11.4	9.8	6.2	1,092.4	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		323	496
c1179	1	A55 号磨穴建物 炉石	17.0	8.5	7.7	1,729.5	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		323	495
c1180	4	A57 号磨穴建物 床面直上	10.3	7.6	3.1	351.1	ホルンフェルス	北上山地、中生代 (彦成は中生代白亜紀)		323	496
c1181	1	A60 号磨穴建物 床面直上	7.1	5.0	4.3	220.6	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		323	495
c1182	1	A69 号磨穴建物 堆積土下位	7.4	7.2	4.6	379.3	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		323	496
c1183	1	A76 号磨穴建物 堆積土上～中位	11.8	7.8	4.2	612.0	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		324	496
c1184	1	A87・88・89 号磨穴建物 西区 堆積土	7.4	4.0	2.7	113.5	花崗斑岩	北上山地、中生代白亜紀		323	495
c1185	1	A87・88・89 号磨穴建物 西区 堆積土	10.7	7.9	5.0	675.4	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		324	496
c1186	1	A93 号磨穴建物 床面直上 取り上げNo.S1	32.1	16.4	15.4	12,000.0	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		324	496
c1187	1	A93 号磨穴建物 東区 床面直上	11.9	6.6	4.9	699.4	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		324	496
c1188	1	A102 号磨穴建物 堆積土	13.8	8.1	5.7	1,056.0	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		324	496
c1189	3	A102 号磨穴建物 堆積土	11.8	5.1	5.0	365.5	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		324	496
c1190	1	A105 号磨穴建物 堆積土	10	8.9	5.4	761.1	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		325	496
c1191	3	A105 号磨穴建物 中央ベルト 2 層	10.9	7.3	6.0	632.8	アモサイト	北上山地、中生代白亜紀		324	496
c1192	1	A105 号磨穴建物 南ベルト 3 層	15.4	7.0	6.1	1,201.3	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		325	496

第23表 敲磨器類觀察表(2)

掲載 No.	分類	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅						
c1193	1	A109号竪穴建物 暗褐色土	14.8	8.8	1,039.8	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		325	496
c1194	1	A109号竪穴建物 堆積土	12.0	8.6	953.9	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		326	496
c1195	2	A110号竪穴建物 床面直上	9.3	5.5	827.6	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		326	497
c1196	4	A111号竪穴建物 堆積土	14.5	7.2	528.8	アイサイト	原地山層、中生代白亜紀		326	497
c1197	1	A114号竪穴建物 堆積土中位	12.3	5.9	228.7	アイサイト	原地山層、中生代白亜紀		325	497
c1198	3	A116号竪穴建物 西区 堆積土	11.1	6.1	534.7	細粒花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		325	497
c1199	1	A116号竪穴建物 東区 堆積土	7.2	5.8	246.3	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		326	497
c1200	1	A116号竪穴建物 南北ベルト 堆積土下位	16.7	8.9	1,303.6	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		326	497
c1201	4	A122号竪穴建物 ベルト 堆積土下位	17.4	6.8	734.0	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		327	497
c1202	4	A123号竪穴建物 中内区 堆積土上~中位	5.1	2.3	44.4	アイサイト	北上山地、中生代白亜紀		327	497
c1203	1	A127号竪穴建物 堆積土	13.4	7.6	269.7	アイサイト	原地山層、中生代白亜紀		327	497
c1204	1	A130号竪穴建物 堆積土下位	10.1	7.9	547.1	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		327	497
c1205	1	A135号竪穴建物 暗褐色土	12.1	8.1	858.6	滑結凝灰岩	原地山層、中生代白亜紀		327	497
c1206	3	A137号竪穴建物 堆積土	13.0	5.0	477.6	アイサイト	原地山層、中生代白亜紀		327	497
c1207	1	A140号竪穴建物 西区 堆積土下位	12.6	9.4	885.6	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		327	497
c1208	3	A140号竪穴建物 西区 堆積土	16.4	7.7	812.3	砂岩	北上山地、中生代		328	497
c1209	1	A150号竪穴建物 調査区際 堆積土	10.5	7.0	509.7	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		328	497
c1210	3	A150号竪穴建物 堆積土	17.3	10.8	1,627.1	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		328	498
c1212	3	A151号竪穴建物 堆積土	11.9	6.7	586.0	細粒花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		328	498
c1213	1	A151号竪穴建物 堆積土	11.7	7.7	737.2	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		329	497
c1214	1	A151号竪穴建物 堆積土	9.1	5.9	318.7	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		329	498
c1215	1	A152号竪穴建物 堆積土	10.8	7.1	570.3	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		329	498
c1216	3	A154号竪穴建物 堆積土	13.5	10.0	661.8	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		329	498
c1217	1	A162号竪穴建物 暗褐色土	11.3	6.1	426.3	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		329	498
c1218	1	A162号竪穴建物 ベルト 下位暗褐色土	12.3	9.4	851.7	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		329	498
c1219	1	A162号竪穴建物 ベルト 下位暗褐色土	11.8	11.0	1,434.8	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		330	498
c1220	2	A163号竪穴建物 暗褐色土	7.5	5.6	298.8	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		330	498
c1221	1	A163号竪穴建物 暗褐色土	14.2	7.9	596.3	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		330	498
c1222	1	A166号竪穴建物 堆積土	10.7	8.7	732.9	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		330	498
c1223	4	A167号竪穴建物 堆積土	13.5	6.6	588.9	アイサイト	原地山層、中生代白亜紀		330	498
c1224	1	A170号竪穴建物 堆積土	10.9	7.8	612.4	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		330	498
c1225	4	A170号竪穴建物 堆積土	20.9	10.3	1,621.9	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		331	499
c1226	1	A176号竪穴建物 堆積土	13.6	10.5	391.1	鉄生産物遺物	北上山地、中生代白亜紀		331	499
c1227	3	A178号竪穴建物 堆積土	17.6	7.4	1,308.8	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		331	499
c1228	1	A179号竪穴建物 堆積土	11.2	8.4	782.8	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		332	498
c1229	1	A181号竪穴建物 堆積土	15.5	9.6	1,164.5	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		332	499
c1230	1	A185号竪穴建物	11.8	10.0	1,136.4	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		332	499
c1231	1	A186号竪穴建物 黒色土	14.3	7.1	2.5	344.2	細粒閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀	332	499
c1232	1	A206号竪穴建物 堆積土	10.3	8.5	783.4	花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		333	499
c1233	1	A207号竪穴建物 堆積土	12.6	9.2	990.2	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		333	499
c1234	1	A207号竪穴建物 堆積土	10.8	8.2	833.7	花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		333	499
c1235	4	A207号竪穴建物 堆積土	9.4	7.8	110.0	安山岩	奥羽山脈、新生代第四紀	岩手山?	333	500
c1236	1	A209号竪穴建物 西区 堆積土	12.9	9.0	1,122.1	花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		333	500
c1237	4	A209号竪穴建物 炉 1 炉石	19.1	6.5	656.1	頁岩	北上山地、中生代		333	499
c1238	1	A218号竪穴建物 炉石	14.4	7.5	48	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		334	500
c1239	3	A221号竪穴建物 北西区 堆積土	17.6	7.0	1,168.7	砂岩	北上山地、中生代		334	500
c1240	1	A221号竪穴建物 南西区 堆積土	12.6	8.4	1,059.1	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		334	500
c1241	1	A225号竪穴建物 北西区 堆積土	8.2	6.7	330.9	細粒花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		334	500
c1242	1	A235号竪穴建物	12.2	9.2	856.3	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		334	500
c1243	4	A235号竪穴建物	9.7	7.5	256.2	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		334	500
c1244	1	A238号竪穴建物	11.2	7.4	596.7	花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		335	500
c1245	1	B17号竪穴建物 北西区 堆積土	7.9	6.1	410.3	花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		335	500

第23表 敲磨器類観察表 (3)

掲載 No.	分類	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.	
			長	幅							
c1246	1	B 7号壁穴建物 北東区 堆積土	154	7.4	999.5	アイサイト	原地山層、中生代白亜紀		335	500	
c1247	4	B 8号壁穴建物 3層	141	5.3	339.3	凝灰岩	北上山地、中生代白亜紀	原地山層	335	500	
c1248	1	11号土坑 堆積土中位	11.8	9.8	984.9	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		335	500	
c1249	1	16号土坑 堆積土下位	12.3	7.7	734.1	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		336	500	
c1250	1	36号土坑 東区 9層	9.4	5.8	378.2	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		336	500	
c1251	1	50号土坑 堆積土	13.6	10.3	1,442.4	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		336	500	
c1252	3	58号土坑 堆積土	15.3	6.0	588.3	砂岩	北上山地、中生代		336	501	
c1253	1	75号土坑 堆積土	12.1	7.3	749.0	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		336	501	
c1254	2	75号土坑 堆積土	8.8	7.8	622.1	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		337	501	
c1255	1	75号土坑 堆積土	9.1	7.7	4.8	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		337	501	
c1256	4	75号土坑 堆積土	15.1	9.8	872.2	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		337	501	
c1257	2	78号土坑 堆積土	6.6	6.2	290.9	アズライト	北上山地、中生代白亜紀		337	501	
c1258	3	111号土坑 東区 堆積土	14.8	7.1	915.2	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		337	501	
c1259	1	132号土坑 1層	12.2	8.3	910.7	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		337	501	
c1260	1	144号土坑 底面直上	11.4	9.7	980.7	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		338	501	
c1261	1	144号土坑 堆積土上~中位	6.8	3.1	2.7	89.8	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		338	501
c1262	1	167号土坑 堆積土上~中位	11.3	11.0	5.7	1,066.4	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		338	501
c1263	4	172号土坑 堆積土下位	12.1	11.1	5.4	742.8	砂岩	北上山地、中生代		338	501
c1264	4	175号土坑 堆積土下位	15.0	6.5	5.4	952.9	細紋花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		338	502
c1265	1	13号溝 堆積土	13.6	8.6	4.5	945.9	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		338	502
c1266	1	P4009 堆積土	13.2	7.3	547.2	花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		339	501	
c1267	4	P3259 陽 II層	23.7	8.7	5.4	1,495.1	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		339	502
c1268	4	P2065 堆積土	18.6	10.8	8.1	2,315.0	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		339	502
c1269	1	P5086	11.1	10.2	6.5	1,141.0	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		339	501
c1270	2	P5533	11.6	9.5	6.7	1,149.8	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		340	502
c1271	1	P5545	12.4	8.9	6.2	1,079.5	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		340	502
c1272	1	P5554	11.7	7.9	5.6	793.7	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		340	502
c1273	1	II A 5y トレンチ II層	5.5	2.4	2.1	42.1	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		340	502
c1274	1	II A 6w II層	13.2	8.6	4.3	853.4	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		340	502
c1275	3	II A 6x II層	18.2	6.9	5.5	960.6	細紋花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		340	502
c1276	1	II A 6y II層	14.6	9.9	7.9	1,779.3	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		341	502
c1277	4	II A 7w II層	8.8	6.1	5.5	406.0	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		341	502
c1278	1	II A 7x II a層	12.5	9.2	6.9	1,250.8	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		341	503
c1279	1	II A 7x II a層	9.9	6.7	4.3	455.2	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		341	503
c1280	1	II A 7x II b層	12.9	5.7	4.1	354.5	アイサイト	原地山層、中生代白亜紀		341	503
c1281	1	II A 7y 西区 II a層	12.1	9.1	5.6	966.9	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		342	503
c1282	1	II A 7y 西区 II a層	14.0	10.9	6.6	1,617.9	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		342	503
c1283	1	II A 8w II a層	14.6	7.0	4.7	683.8	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		342	503
c1284	2	II A 8w II a層	7.8	6.7	5.3	390.9	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		342	503
c1285	1	II A 8x II a層	13.0	8.4	4.7	855.9	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		343	503
c1286	1	II A 9x II層	11.4	8.9	5.1	863.9	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		343	503
c1287	1	II A 10w II ~ III層	8.3	6.6	4.6	315.2	アイサイト	原地山層、中生代白亜紀		343	503
c1288	1	II A 10x II a層	15.0	7.7	2.3	430.4	アイサイト	原地山層、中生代白亜紀		343	503
c1289	1	II A 10x 南区 II a層	13.2	8.9	5.6	1,078.2	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		343	503
c1290	1	II A 11v II a層	13.2	8.0	6.5	1,039.2	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		344	503
c1291	1	II A 11y II a層	12.9	8.5	6.8	1,184.7	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		344	503
c1292	1	II A 11y II a層	15.7	8.5	3.6	729.6	砂岩	北上山地、中生代		344	504
c1293	4	II A 11y II層	13.6	8.4	5.7	886.5	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		344	504
c1294	1	II A 12w II a層	11.8	8.8	5.6	846.1	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		344	503
c1295	1	II A 12x II a層	12.5	8.8	6.0	980.6	滑結凝灰岩	原地山層、中生代白亜紀		345	504
c1296	1	II A 16s II層	19.0	5.6	3.3	502.6	アイサイト	北上山地、中生代白亜紀		345	504
c1297	1	II A 18w 北東区 II b層	11.3	7.1	5.6	808.8	花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		345	504
c1298	1	II B 4 a 北西区 II層	6.1	8.7	2.6	1,225.8	安山岩	奥羽山脈、新生代第四紀 岩手山?		345	503

第23表 敲磨器類觀察表(4)

掲載 No.	分類	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅						
c1299	4	II B 4 a 南区 II 層	11.3	5.8	683.5	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		345	504
c1300	3	II B 4 b 西区 II 層	15.7	6.7	697.9	安山岩	北上山地、中生代白亜紀		345	504
c1301	1	II B 4 b 西区 II 層	14.2	6.1	456.7	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		346	504
c1302	1	II B 4・5a・b 遺物包含層 2b 層	11.0	7.9	665.1	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		346	504
c1303	1	II B 4 b 西側 II 層	11.0	6.9	630.0	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		346	504
c1304	1	II B 4 b 西側 II 層	12.9	9.1	1,197.4	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		346	504
c1305	4	II B 5 a 北東区 II 層	12.6	8.0	548.8	細粒花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		346	504
c1306	4	II B 5 a 北東区 II 層	16.2	6.3	785.5	アイサイト	原地山層、中生代白亜紀		347	505
c1307	4	II B 5 a 北東区 II 層	16.6	6.9	645.4	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		347	504
c1308	1	II B 5 a 南区 II 層	9.7	7.7	653.6	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		347	504
c1309	1	II B 5 b 北東区 II 層	8.4	7.4	341.4	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		347	505
c1310	1	II B 5 b II 層	11.8	8.9	55	滑結凝灰岩	原地山層、中生代白亜紀		347	505
c1311	4	II B 4・5a・b 遺物包含層 D 断面東 2a 層	12.2	7.5	392.8	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		347	505
c1312	4	II B 7 a II b 層	9.4	13.3	291.5	流紋岩	浄土ヶ浜・松山・立丸峠、新生代古第三紀		348	505
c1313	1	II B 7 a 下位暗褐色土	12.7	10.0	83	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		348	505
c1314	4	II B 8 a II a 層	20.7	7.4	1,357.3	アイサイト	原地山層、中生代白亜紀		348	505
c1315	1	II B 8 a・b II a 層	11.6	8.1	844.3	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		348	505
c1316	1	II B 9 a 南西区 II b 層 (ニ・ス、黄褐色泥)	12.1	7.5	608.8	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		349	505
c1317	1	II B 9 b II 層	11.2	8.8	781.9	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		349	505
c1318	1	II B 9 b 南西区 II b 層 (褐～白色土泥)	9.9	8.1	549.9	滑結凝灰岩	原地山層、中生代白亜紀		349	505
c1319	1	II B10a 南東区 II a 層	15.1	6.4	607.1	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		349	505
c1320	1	II B13 <スト> II b 層	10.9	8.3	46	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		349	505
c1321	1	II B13 II 層	13.1	8.7	60	滑結凝灰岩	原地山層、中生代白亜紀		349	506
c1322	1	II B13 II 層	12.9	9.2	1,202.3	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		350	506
c1323	1	II B13・k II a 層	12.1	8.0	48	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		350	505
c1324	1	II B14c 茶褐色土	9.3	6.9	359.1	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		350	506
c1325	1	II B14f II b 層	8.7	4.7	112.3	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		350	506
c1326	1	II B14f II 層	16.9	8.1	42	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		350	506
c1327	1	II B14f II b 層	10.0	9.0	52	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		350	506
c1328	4	II B14g 東区 II 層	16.1	11.7	95	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		351	506
c1329	1	II B14 東区 灰白色土	13.4	8.6	742.4	玄武岩	北上山地、中生代白亜紀		351	506
c1330	4	II B14 西区 II 層	18.7	8.6	1,376.7	花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		351	506
c1331	4	II B15g 西区 II 層	44.9	10.8	6,736.7	流紋岩	浄土ヶ浜・松山・立丸峠、新生代古第三紀		352	507
c1332	1	II B14j 西区 II b～III 層	11.5	9.7	923.2	半花崗岩 (アブライト)	北上山地、中生代白亜紀		352	506
c1333	1	II B14m 沢跡内 黒褐色・黄褐色砂礫層	12.3	8.0	39	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		351	506
c1334	1	II B14m 沢跡内 黒褐色・黄褐色砂礫層	10.3	7.3	309.6	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		351	506
c1335	1	II B15d II 層	11.9	6.8	780.9	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		353	506
c1336	1	II B15e 西区 茶褐色土	16.2	6.4	55	細粒花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		353	507
c1337	1	II B15f II a 層	18.1	8.2	1,567.6	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		353	507
c1338	1	II B15g III 層	12.3	9.5	54	閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		353	507
c1339	1	II B15g III 層	13.3	7.5	41	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		354	507
c1340	1	II B15g III 層	8.3	6.0	258.1	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		354	506
c1341	1	II B15g III 層	7.4	5.0	185.4	花崗岩	北上山地、中生代白亜紀		354	507
c1342	4	II b15i 茶褐色土	12.8	9.0	36	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		354	507
c1343	1	II B15m 沢跡内 黒褐色・黄褐色砂礫層	9.6	6.3	1.2	凝灰岩	北上山地、中生代白亜紀原地山層		354	507
c1344	3	II B16d I～II 層上面	7.5	6.9	4.6	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀		354	507
c1345	1	II B17g II 層	11.7	6.1	619.6	花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀		354	507
c1346	3	II B18c 南西区 II a 層	14.9	5.8	5.1	782.5	細粒閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀	354	507
c1347	1	II B19m 低位部 II b 層	12.7	4.6	320.1	花崗凝灰岩	北上山地、中生代白亜紀		355	507
c1348	4	II B21j 北東区 III 層	10.4	3.7	1,29.3	流紋岩	浄土ヶ浜・松山・立丸峠、新生代古第三紀		355	508
c1349	4	II B21k 南西区 II 層	18.4	8.6	6.5	1,507.6	花崗閃綠岩	北上山地、中生代白亜紀	355	508

第23表 敲磨器類観察表(5)

掲載No.	分類	出土遺構・地点・層位		計測値(cm)		重量(g)	石質	産地	備考	図版No.	写真No.
		長	幅	厚							
c1350	1	II B21k	南西区 III層	71	34	95.7	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		355	507
c1351	4	II B21l	南東区 III層	63	7.4	166.4	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		355	508
c1352	4	II B22k	北東区 III層	11.6	11.6	1.381.0	砂岩	北上山地、古生代		355	508
c1353	4	II B22l	南東区 北ベルト	18.0	8.6	536.2	頁岩	宮古層群、中生代白亜紀		356	508
c1354	4	II B22l	南東区 北ベルト	9.7	13.2	1.213.0	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		356	508
c1355	1	A トレンチ (II A 9y)	II a層	17.1	7.2	464.7	テイトイ	原地山層、中生代白亜紀		356	508
c1356	1	A トレンチ (II B 6a)	II 層	17.0	8.0	28	砂岩	北上山地、中生代		356	508
c1357	1	A トレンチ (II B 6a)	II 層	9.3	9.2	620.0	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		356	508
c1358	1	B トレンチ (II A 9v)	II a層	12.3	6.8	644.7	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		356	508
c1359	1	T 5	中央調査区南西 T 5 - 6間 2層	10.9	5.1	206.3	頁岩	北上山地、中生代		357	508
c1360	1	中央調査区南西 T 5 - 6間 2層		9.3	6.9	472.6	アフライト	北上山地、中生代白亜紀		357	508
c1361	1	中央調査区南西 T 5 - 6間 2層		7.0	7.3	306.1	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		357	508
c1362	4	中央調査区南西 T 5 - 6間 4層		14.3	6.1	475.9	砂岩	北上山地、中生代		357	508
c1363	1	中央調査区南西 T 5 - 6間 4層		7.3	5.3	211.7	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		357	509
c1364	4	中央調査区南西 T 5 - 6間 5層		15.4	6.6	533.7	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀		357	509
c1365	4	中央緩斜面 1 ~ II層上面		8.5	6.5	1300	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		357	509

第24表 円盤状石器観察表

掲載No.	分類	細分	出土遺構・地点・層位		計測値(cm)		重量(g)	石質	産地	備考	図版No.	写真No.
			長	幅	厚							
c1366	1	B A 1号竪穴建物	5層以下	53	5.5	1.2	51.0	ホルンフェルス	北上山地・古生代(變成は中生代白亜紀)		358	509
c1367	1	A A85号竪穴建物	東区 堆積土	9.9	8.4	3.0	275.8	頁岩	北上山地・古生代		358	509
c1368	1	A 25号土坑	堆積土	9.2	8.5	2.3	213.0	頁岩	北上山地・古生代		358	509
c1369	2	A II B10a	北東区 II a層	6.7	3.8	2.0	87.5	砂岩	北上山地、中生代		358	509
c1370	2	A II B14b	西区 III層	7.7	5.3	1.5	89.5	ホルンフェルス	北上山地・古生代(變成は中生代白亜紀)		358	509
c1371	1	B II B15g	東区 III層	10.9	9.8	1.5	251.5	頁岩	北上山地・古生代		358	509
c1372	2	A II B17c	南西区 II a層	7.5	10.3	2.0	229.3	ホルンフェルス	北上山地・古生代(變成は中生代白亜紀)		358	509
c1373	1	B II B17c	北西区 II a層	4.2	4.5	1.3	34.5	ホルンフェルス	北上山地・古生代(變成は中生代白亜紀)		358	509
c1374	1	A II A19v	南西区 II b層	10.7	10.5	3.2	501.4	ホルンフェルス	北上山地・古生代(變成は中生代白亜紀)		358	509
c1375	2	A II B21k	北東区 III層	13.8	10.6	2.5	383.3	頁岩	北上山地・古生代		358	509
c1376	2	A II B22l	北西区 III層	7.5	5.7	1.8	106.1	頁岩	北上山地・古生代		358	509
c1377	1	A II B23j	北東区 III層	10.0	8.4	1.3	148.5	ホルンフェルス	北上山地・古生代(變成は中生代白亜紀)		358	509
c1378	1	B II B24k	南西区 III層	13.0	12.0	1.8	420.6	ホルンフェルス	北上山地・古生代(變成は中生代白亜紀)		358	509
c1379	1	A T 3	II b層	5.9	6.2	1.4	59.5	ホルンフェルス	北上山地・古生代(變成は中生代白亜紀)		358	509
c1380	1	A II B18j	付近	6.5	7.6	1.8	120.7	ホルンフェルス	北上山地・古生代(變成は中生代白亜紀)		358	509

第25表 石製品観察表(1)

掲載No.	器種	出土遺構・地点・層位		計測値(cm)		重量(g)	石質	産地	備考	図版No.	写真No.
		長	幅	厚							
d1	有孔垂飾具	中央調査区南		39.5	35.0	15.2	29.0	滑石	早池峰山周辺、古生代オルドビス紀	359	510
d2	有孔垂飾具	II A21x	北東区	21.4	15.4	9.9	4.2	絹霽	新富原赤魚川、古生代前期	359	510
d3	有孔垂飾具	II B20k	南西区 III層	32.8	28.6	13.2	16.3	絹霽	新富原赤魚川、古生代前期	359	510
d4	有孔垂飾具	II B18c	南西区 I ~ II層上面	31.1	30.6	13.6	15.0	滑石	早池峰山周辺、古生代オルドビス紀	359	510
d5	有孔垂飾具	B15号竪穴建物	北西区 堆積土	26.4	21.8	8.9	38.9	燧灰岩	北上山地(野田付近?)、新生代古第三紀	359	510
d6	有孔垂飾具	II B15f	II層	36.1	28.6	25.5	63.1	滑石	早池峰山周辺、古生代	359	510
d7	有孔垂飾具	中央区北(補6付近)		87.7	27.9	17.9	58.3	頁岩	北上山地、古生代	359	510
d8	有孔垂飾具	下段田区 西部 I ~ II層上面		142.6	25.9	14.6	58.3	頁岩	北上山地、古生代	359	510
d9	有孔垂飾具	中央緩斜面 T 8付近		42.6	20.9	6.7	8.2	ホルンフェルス	北上山地・古生代(變成は中生代白亜紀)	359	510
d10	有孔垂飾具	P5333		2.3	5.1	0.75	11.5	流紋岩	湧土ヶ浜・松山・立丸峠、新生代古第三紀	359	510
d11	有孔垂飾具	II A 5x	II層	1.5	1.8	0.9	2.6	流紋岩	湧土ヶ浜・松山・立丸峠、新生代古第三紀	359	510

第25表 石製品観察表 (2)

掲載 No.	器種	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅						
d12	有孔垂飾具	II A 6 x II a 層	22	1.6	2.7	流紋岩	浄土ヶ浜・松山・立丸峠、新生代古第三紀		359	510
d13	有孔垂飾具	II A10y II a 層	21	3.0	3.4	頁岩	北上山地、中生代		359	510
d14	有孔垂飾具	II B 6 a 下位暗褐色土	6.3	2.4	12.8	頁岩	北上山地、中生代		359	510
d15	有孔垂飾具	II B 8 b II a 層	4.0	2.6	0.3	頁岩	北上山地、中生代		359	510
d16	有孔垂飾具	II B 8 b II a 層	2.3	1.6	0.35	頁岩	北上山地、中生代		359	510
d17	有孔垂飾具	A158 号壱穴建物 周溝・堆積土	2.6	5.2	0.6	滑石	早池峰山周辺、古生代オルドビス紀		359	510
d18	有孔垂飾具	A151 号壱穴建物 II a 層下位	5.4	2.2	0.6	頁岩	北上山地、中生代	扶状	359	510
d19	有孔垂飾具	II B 7 a トレンチ II b 層	2.7	2.6	0.55	滑石	早池峰山周辺、古生代オルドビス紀	扶状	359	510
d20	有孔垂飾具	II B 6 a 南北トレンチ II b 層	3.5	3.1	0.5	滑石	早池峰山周辺、古生代オルドビス紀	扶状	359	510
d21	有孔垂飾具	A141 号壱穴建物 堆積土中位	4.0	2.4	0.55	頁岩	北上山地、中生代	扶状	359	510
d22	有孔垂飾具	II B 9 b II a 層	10.2	1.7	0.6	流紋岩	早池峰山周辺、古生代オルドビス紀		359	510
d23	有孔垂飾具	II B 4 b II 層	10.6	3.0	1.2	流紋岩	早池峰山周辺、古生代オルドビス紀		359	510
d24	有孔垂飾具?	II B14 層	2.0	2.0	0.7	滑石	早池峰山周辺、古生代オルドビス紀		359	510
d25	有孔垂飾具	II A16 ~ 20q ~ u・II B12 ~ 15a ~ c 排土	3.6	3.4	0.8	流紋岩	北上山地、中生代		359	510
d26	三角磨形石製品	B16 号壱穴建物 II a 層	5.2	10.1	6.1	流紋岩	浄土ヶ浜・松山・立丸峠、新生代古第三紀		360	510
d27	三角磨形石製品	A166 号壱穴建物 堆積土	5.1	8.6	4.9	流紋岩	浄土ヶ浜・松山・立丸峠、新生代古第三紀		360	510
d28	三角磨形石製品	3号土器埋設遺構 堆積土	6.3	7.8	5.0	流紋岩	浄土ヶ浜・松山・立丸峠、新生代古第三紀		360	511
d29	石棒石刀類	II B13c II b ~ III 層	5.0	2.3	1.0	頁岩	北上山地、中生代		361	511
d30	石棒石刀類	II B22k 南西区 III 層	4.6	2.0	1.2	頁岩	北上山地、中生代		361	511
d31	石棒石刀類	II B21k 南西区 III 層	11.0	2.6	0.9	頁岩	北上山地、中生代		361	511
d32	石棒石刀類	II B19k II a 層	8.4	2.3	1.0	頁岩	北上山地、中生代		361	511
d33	石棒石刀類	中央調査区南西 湿地エリア T 2 黒色土	22.7	3.5	1.8	頁岩	北上山地、中生代		361	511
d34	石棒石刀類	A トレンチ (II A 8 y) II a 層	20.9	3.0	1.5	頁岩	北上山地、中生代		361	511
d35	石棒石刀類	B トレンチ (II B 9 a) II a 層	7.8	2.3	1.5	頁岩	北上山地、中生代		361	511
d36	石棒石刀類	II A 8 x II a 層	17.7	2.8	2.4	ホルンフェルス	北上山地、中生代 (変成は中生代白亜紀)		361	511
d37	石棒石刀類	II B 4・5 a・b 遺物包含層 D 断面東 2b ~ c 層	12.1	2.7	1.5	粘板岩	北上山地、中生代		361	511
d38	石棒石刀類	下段田区 西半部 I ~ II 層上面	7.3	8.2	4.6	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		361	511
d39	石棒石刀類	II A21y 南西区 II a 層	5.0	6.6	3.6	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		361	511
d40	石棒石刀類	II B20k 南西区 II 層	8.6	7.3	5.7	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		361	511
d41	石棒石刀類	II B21・22 1 (LE13) 4 層	16.9	10.0	9.4	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		361	511
d42	石棒石刀類	A44 号壱穴建物 西区 堆積土中位	9.6	7.4	7.2	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		362	512
d43	大形石棒	A38 号壱穴建物 西区 堆積土	15.4	9.4	9.2	砂岩	北上山地、中生代		362	512
d44	大形石棒	A44 号壱穴建物 堆積土下位	9.8	7.6	7.0	砂岩	北上山地、中生代		362	512
d45	大形石棒	48号土坑 堆積土	14.8	9.3	8.7	砂岩	北上山地、中生代		362	512
d46	石棒石刀類	A44号壱穴建物 堆積土下位	15.4	8.4	7.0	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		362	512
d47	石棒石刀類	A44・51号壱穴建物 ベルト 堆積土上~中位	18.7	10.4	9.0	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		362	512
d48	石棒石刀類	II B14e 茶褐色土	23.0	9.8	8.7	砂岩	北上山地、中生代白亜紀		362	512
d49	石棒石刀類	中央調査区南西 T 5・8 間 2層	9.8	6.1	3.3	砂岩	原地山層、中生代白亜紀	大型石棒の未成品か	362	512
d50	石棒石刀類	P5496	18.0	11.2	9.4	デイサイト	北上山地、中生代白亜紀		362	512
d51	石棒石刀類	P5496	12.3	9.7	8.0	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀	d52 と同一個体か接合せず	362	512
d52	石棒石刀類	P5496	12.8	9.7	9.1	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀	d51 と同一個体か接合せず	362	512
d53	石棒石刀類	II B14 層	15.6	12.5	9.2	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		362	512
d54	大形石棒	II B14 層	32.7	11.4	9.6	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		361	512
d55	大形石棒	II B15f II 層	19.3	10.3	9.4	砂岩	宮古層群、中生代白亜紀		361	513
d56	大形石棒	A44号壱穴建物 堆積土下位	32.6	11.5	11.1	砂岩	北上山地、中生代		362	513
d57	大形石棒	A44号壱穴建物 堆積土下位	22.1	11.5	9.9	砂岩	北上山地、中生代		362	513
d58	大形石棒	II B14e 茶褐色土	17.6	8.3	9.6	砂岩	北上山地、中生代	砥石に転用	363	513
d59	大形石棒	II A 7 y II a 層	25.7	9.7	8.5	デイサイト	北上山地、中生代白亜紀		363	513
d60	棒状礫	A116 号壱穴建物 東区 堆積土	36.5	5.9	3.2	頁岩	北上山地、中生代	大型棒状礫	363	513
d61	棒状礫	A120 号壱穴建物 取り上げ No.S2	37.9	8.1	3.1	頁岩	北上山地、中生代	大型棒状礫	363	513
d62	棒状礫	II A 7 x II a 層	27.5	4.8	2.7	頁岩	北上山地、中生代	大型棒状礫	363	513
d63	棒状礫	B8 号壱穴建物 カマド内袖 芯材	35.4	6.1	5.5	デイサイト	原地山層、中生代白亜紀		364	514
d64	有孔磨石製品	A40 号壱穴建物 砥石	14.5	8.1	2.0	頁岩	北上山地、中生代		365	514

第25表 石製品観察表 (3)

掲載 No.	器種	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅						
d65	有孔磨石製品 A44号磨石製品	堆積土下位	8.4	6.8	41.0	軽石	千和田火山、新生代新第四紀		365	514
d66	有孔磨石製品 A67号磨石製品	P04 堆積土	7.9	5.4	75.1	軽石	千和田火山、新生代新第四紀		365	514
d67	有孔磨石製品 A96号磨石製品	西区 堆積土	8.7	12.1	101.9	軽石	千和田火山、新生代新第四紀		364	514
d68	有孔磨石製品 A139号磨石製品	堆積土	5.0	3.8	8.2	軽石	千和田火山、新生代新第四紀		364	514
d69	有孔磨石製品 I1号土坑	堆積土中～下位	9.4	6.2	57.9	軽石	千和田火山、新生代新第四紀		364	514
d70	有孔磨石製品 II A10y	II a層	5.9	5.3	20	8.0	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	366	514
d71	有孔磨石製品 II A19b	I～II層上面	8.6	7.8	4.2	32.1	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	366	515
d72	有孔磨石製品 II B18b	南東区 II層	2.7	3.0	1.4	1.7	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	367	515
d73	有孔磨石製品 II B18b	南西区 II層	6.9	7.3	2.6	88.8	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	367	515
d74	有孔磨石製品 II B22k	南西区 北ベルト	11.4	8.9	5.1	108.2	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	366	515
d75	有孔磨石製品 A116号磨石製品	西区 堆積土	10.3	4.7	2.3	22.4	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	366	515
d76	有孔磨石製品 A135号磨石製品	堆積土	10.7	7.9	4.4	51.0	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	367	515
d77	有孔磨石製品 II A 7w	II a層	11.0	7.8	2.1	19.3	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	367	515
d78	有孔磨石製品 II A 9y	II a層	10.0	6.3	6.2	55.0	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	368	515
d79	有孔磨石製品 II A 9y	II a層	8.5	3.9	4.6	18.7	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	368	515
d80	有孔磨石製品 II B16d	II a層	6.2	5.1	1.7	9.9	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	368	516
d81	有孔磨石製品 II B16d	南東区南北トレンチ II a層	4.5	6.0	2.3	38.7	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	368	517
d82	軽石製品 A116号磨石製品	西区 堆積土	12.3	5.4	6.4	9.0	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	368	516
d83	軽石製品 A137号磨石製品	II a層	7.1	3.8	0.9	67.3	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	369	516
d84	軽石製品 A211号磨石製品	堆積土	6.1	5.4	1.9	4.5	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	369	516
d85	軽石製品 II B 4b	サプトレ II b層	8.0	8.8	1.8	106.6	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	369	517
d86	軽石製品 II B 6a	II b層 (黄褐色土直上)	13.6	10.8	8.1	68.9	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	369	516
d87	軽石製品 Aトレンチ (II A 8y) W層		11.7	12.3	9.2	11.5	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	369	516
d88	軽石製品 II B14f	III層	9.6	4.4	2.4	116.2	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	370	516
d89	軽石製品 II B14f	III層	8.0	5.1	2.1	145.7	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	371	516
d90	軽石製品 II B15e	西区 茶褐色土	5.7	7.8	1.8	14.2	軽石	千和田火山、新生代新第四紀	371	517
d91	不明石製品 II B21k	北東区	7.2	4.6	2.1	67.7	凝灰岩	北上山地 (野田付近?)、新生代古第三紀	371	517
d92	不明石製品 II B14j	西区 II層	5.2	7.8	1.9	72.1	凝灰岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	370	517
d93	不明石製品 II B14j	西区 III層	7.2	5.0	1.7	69.0	凝灰岩	北上山地 (野田付近?)、新生代古第三紀	370	517
d94	不明石製品 II B22k	南西区 III層	3.4	4.1	0.8	6.5	頁岩	北上山地、中生代	370	517
d95	玉石	B8号磨石製品 堆積土	1.6	1.8	1.0	3.4	頁岩	北上山地、中生代	370	517
d96	玉石	B8号磨石製品 堆積土	1.7	2.0	1.0	4.4	花崗斑岩	北上山地、中生代白亜紀	370	517
d97	玉石	B8号磨石製品 堆積土	1.9	2.3	1.0	6.1	花崗斑岩	北上山地、中生代白亜紀	370	517
d98	玉石	B8号磨石製品 堆積土	1.7	2.0	0.8	3.7	ひん岩	北上山地、中生代白亜紀	370	517
d99	玉石	B8号磨石製品 堆積土	1.7	1.3	1.4	4.4	玉髓	北上山地、中生代	-	517
d100	玉石	B8号磨石製品 堆積土	1.7	1.5	1.2	4.2	ひん岩	北上山地、中生代白亜紀	-	517
d101	玉石	B8号磨石製品 堆積土	1.8	1.3	1.0	2.9	玉髓	北上山地、中生代	-	517
d102	玉石	B8号磨石製品 堆積土	1.5	1.2	1.0	2.4	玉髓	北上山地、中生代	-	517
d103	玉石	B8号磨石製品 土坑1付近	1.2	1.7	0.7	2.1	頁岩	北上山地、中生代	370	517
d104	玉石	B8号磨石製品 土坑1付近	1.6	2.0	0.8	3.3	頁岩	北上山地、中生代	370	517
d105	玉石	B8号磨石製品 土坑1付近	1.4	1.7	1.1	3.4	ひん岩	北上山地、中生代白亜紀	370	517
d106	玉石	B8号磨石製品 土坑1付近	1.7	1.9	0.9	3.5	ひん岩	北上山地、中生代白亜紀	370	517
d107	玉石	B8号磨石製品 土坑1付近	1.9	1.9	0.9	4.5	ひん岩	北上山地、中生代白亜紀	-	517
d108	玉石	B8号磨石製品 土坑1付近	1.6	1.4	0.9	2.9	ひん岩	北上山地、中生代白亜紀	-	517
d109	玉石	B8号磨石製品 土坑1付近	1.9	1.4	0.9	3.4	頁岩	北上山地、中生代	-	517
d110	玉石	B8号磨石製品 土坑1付近	1.9	1.5	1.2	4.6	玉髓	北上山地、中生代	-	517
d111	玉石	B8号磨石製品 土坑1付近	1.7	1.4	1.1	3.8	玉髓	北上山地、中生代	-	517
d112	玉石	B8号磨石製品 土坑1付近	2.0	1.3	1.4	5.0	玉髓	北上山地、中生代	-	517
d113	玉石	B8号磨石製品 土坑1付近	1.8	1.8	1.1	5.2	玉髓	北上山地、中生代	-	517
d114	玉石	B8号磨石製品 土坑1付近	1.7	1.5	1.1	3.8	玉髓	北上山地、中生代	-	517
d115	玉石	B8号磨石製品 土坑1付近	1.8	1.4	1.0	3.4	玉髓	北上山地、中生代	-	517
d116	玉石	A44号磨石製品 堆積土中位	2.1	1.4	1.4	6.7	閃緑岩	北上山地、中生代白亜紀	-	517
d117	玉石	A59号磨石製品 炬石	2.3	1.8	0.7	4.0	花崗斑岩	北上山地、中生代白亜紀	-	517

第26表 土製品観察表(1)

掲載 No.	器種	出土遺構・地点・層位	計測値(cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅						
e1-1	土偶	A162号竪穴建物 ベルト 17層相当層下黒褐色土 II B 6b ベルト 下位階褐色土 Bトレンチ (II B 9b) II a層	[22.7]	16.7	810.1	欠損	沈線 (押し引き)、表面中央に溝を表現した円形突起	372	518	
e1-2	土偶	A162号竪穴建物 ベルト 17相当層下黒褐色土	[8.0]	[6.4]	534	欠損	沈線、穿孔1個	372	518	
e2	土偶	II B14m 沈跡内 黒色・黄褐色砂礫層	[8.9]	8.1	1328	欠損	沈線、穿孔1個	373	518	
e3	土偶	II A 6w II a層	[3.6]	[3.9]	14.8	欠損	ナデ	373	518	
e4	土偶	II A 7v II a層	[4.1]	[4.6]	31.3	欠損	RL	373	518	
e5	土偶	II B 8b 下位階褐色土	[5.5]	[5.5]	44.2	欠損	沈線 (押し引き)、穿孔1個	373	518	
e6	土偶	II B23k 北東区 III層	[4.0]	[2.8]	18.1	欠損	ナデ	373	518	
e7	動物形	227号土坑 堆積土	7.0	[2.1]	27.2	欠損		373	518	
e8	キノコ形	A27号竪穴建物 灰褐色土	[3.5]	4.0	15.4	欠損	軸部欠損	373	518	
e9	キノコ形	A47号竪穴建物 灰褐色土	[3.6]	4.6	21.6	欠損	軸部欠損	373	518	
e10	キノコ形	A89号竪穴建物 堆積土	3.4	3.4	6.9	欠損	軸部欠損	373	518	
e11	キノコ形	II A15s II層	6.5	6.8	4.7	欠損		373	518	
e12	キノコ形	II A16x	[3.4]	5.1	18.1	欠損	軸部欠損	373	518	
e13	キノコ形	II A18y 北西区 II層	[4.7]	5.7	31.4	欠損	軸部欠損	373	518	
e14	キノコ形	II B21k 南東区 III層	[4.8]	5.3	14.9	欠損	軸部欠損	373	518	
e15	斧形	A34号竪穴建物 南区 2層 A44号竪穴建物 堆積土中位	[11.5]	3.9	2.1	104.6	LR	2点接合	374	519
e16	斧形	A170号竪穴建物 堆積土	[7.6]	3.1	1.4	35.7	RLR		374	519
e17	斧形	B8号竪穴建物 東区 堆積土下位	[5.3]	3.8	2.0	44.8	欠損	先端部	374	519
e18	斧形	II A 8y I~II層上面	[4.0]	[3.7]	1.9	24.7	欠損	先端部	374	519
e19	斧形	II A11y 東端トレンチ II a層	[7.2]	3.6	1.6	52.2	欠損	LR→沈線	374	519
e20	斧形	II A15t II層	15.3	4.4	2.5	190.7	欠損	LR、穿孔	374	519
e21	斧形	II B11b 西区 II a層上位	[4.6]	3.9	1.9	30.2	欠損	LR	374	519
e22	斧形	II B14f III層	[2.5]	[4.3]	1.9	17.5	欠損	穿孔	374	519
e23	斧形	II B15f II b層	5.6	3.6	1.6	33.4	欠損	RL	374	519
e24	斧形	II B15h III層	4.2	3.7	1.7	32.1	欠損	LR	374	519
e25	斧形	II B17k 南東区 II層	[4.3]	2.9	1.4	17.0	欠損	RLR、穿孔	374	519
e26	斧形	II B18c 南東区 II a層	5.4	3.8	2.1	51.6	欠損	LR + 磨削、穿孔	374	519
e27	斧形	II B20~22e II a層下位	[5.6]	4.1	1.7	37.8	欠損	ナデ	374	519
e28	斧形	II B21k 北東区 III層	[4.2]	2.8	0.9	10.4	欠損	小型	374	519
e29	斧形	II B21m II層	6.9	2.7	1.1	25.9	欠損	RL	374	519
e30	斧形	II B22k 北東区 III層	[4.3]	3.8	2.0	32.3	欠損	LR→磨沈線、穿孔	375	519
e31	斧形	II B22m 南西区	[5.8]	4.3	2.2	63.7	欠損	ナデ	375	519
e32	斧形	II B23j 南東区 III層	[4.7]	3.4	1.9	27.8	欠損	LR→沈線	375	519
e33	斧形	II B23k 北東区	[3.4]	3.0	1.5	16.0	欠損	LR?→沈線	375	519
e34	駒形	下段田区西端部 I層	5.3	4.0	4.0	47.5	欠損	穿孔	375	519
e35	三角錐形	II A10x・y 南区 II a層	[6.7]	6.6	5.5	147.4	欠損	沈線・刺突	375	519
e36	三角錐形	II B 9x II a層	[5.0]	[5.7]	[3.2]	75.2	欠損	LR→原体押圧	375	519
e37	管玉	II B21j 南東区 III層	2.7	1.7	[1.3]	6.5	欠損	半分残存	375	519
e38	垂飾具	A214号竪穴建物 堆積土	[3.2]	1.8	2.1	4.3	欠損	穿孔有	375	519
e39	耳環	A122号竪穴建物 東ベルト 1~2層	4.1	3.2	2.2	38.4	欠損	穿孔	375	520
e40	耳環?	II B14f III層	[1.9]	2.4	2.0	7.6	欠損	鼓状	375	520
e41	耳環	II B16d II a層	2.1	2.1	0.8	3.7	欠損	沈線、穿孔2個	375	520
e42	耳環	II B 5a II層	5.5	5.5	1.3	34.9	欠損	沈線2条	375	520
e43	耳環?	中段田区東端	[4.3]	[3.4]	3.2	21.8	欠損		376	520
e44	土玉	A85号竪穴建物 堆積土	2.4	2.6	2.0	8.8	欠損	算盤玉状	376	520
e45	土玉	A85号竪穴建物 堆積土	2.4	2.4	2.0	7.9	欠損	算盤玉状	376	520
e46	土玉	II B22j 南東区 III層	2.2	2.3	2.0	8.9	欠損	算盤玉状	376	520
e47	土玉	II B24k 北東区	3.3	3.4	3.0	31.8	欠損	穿孔	376	520

第26表 土製品観察表(2)

掲載 No.	器種	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)			重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅	厚						
e48	不明	II B21a 北東区 I~II層上面	[33]	3.7	2.1	16.1	略完形			凹錐形、穿孔有	376 520
e49	土玉	A126 号竪穴建物 P05 堆積土	1.1	1.1	1.1	1.2	完形			穿孔有	376 520
e50	土玉	A126 号竪穴建物 P05 堆積土	1.1	1.1	1.1	1.1	完形			穿孔有	376 520
e51	土玉	II B10a 東区 II a層下位	1.3	1.2	0.8	1.3	完形			算盤玉状	376 520
e52	土玉	II B14h 西区 III層	1.5	1.4	0.8	1.8	完形				376 520
e53	土玉	II B14f 黄褐色土	1.3	1.3	0.7	1.3	完形				376 520
e54	土玉	II B 7 a II a層	1.2	1.2	0.8	1.0	完形			算盤玉状	376 520
e55	有孔円盤	A136 号竪穴建物 暗褐色土	1.3	1.2	0.6	1.2	完形			扁平、穿孔有	376 520
e56	有孔円盤	A151 号竪穴建物 堆積土	2.7	2.7	0.6	4.3	完形				376 520
e57	有孔円盤	A188 号竪穴建物	1.6	1.5	0.4	1.0	完形				376 520
e58	有孔円盤	II B14f III層	1.4	1.4	0.3	0.8	完形				376 520
e59	有孔円盤	下段田区東端部 I~II層上面	1.2	1.2	0.4	0.5	完形			沈線	376 520
e60	土錐	A4 号竪穴建物 堆積土	3.8	1.2	1.2	4.4	完形				376 520
e61	飾り玉	II B16h 西区 II b~III層	2.7	2.7	1.6	10.9	完形			刺突8	376 520
e62	飾り玉	TI7	[45]	[24]	1.1	11.7	欠損			竹筒による刺突10個	376 520
e63	飾り玉?	中央調査区南西 TI II層	1.4	3.3	1.0	4.6	完形			刺突9個	376 520
e64	円錐状	II A 8 y I~II層上面	[23]	[26]	0.6	4.0	略完形				376 520
e65	円錐状	II B 8 a II a層	[15]	[26]	0.5	2.2	欠損				376 520
e66	環状	74号土坑 堆積土	[57]	[25]	1.1	9.6	欠損				376 520
e67	環状	II B20k 南西区 III層	[32]	1.4	2.2	9.2	欠損			環状か	376 520
e68	環状	II B22l 北西区 III層	[43]	1.1	1.2	6.2	欠損				376 520
e69	環状	中段田区 II層	[35]	[20]	1.7	8.1	欠損				376 520
e70	棒状	II B18b 南東区 II層	4.1	2.2	2.2	10.6	欠損			尖底土器の底部か	376 520
e71	棒状	II B22a 南東区 I~II層上面	[54]	2.0	1.9	24.0	欠損				376 520
e72	棒状	II B22l 北西区 III層	[36]	1.35	1.2	6.7	欠損				376 520
e73	棒状	II B24f 南東区 III層	[39]	1.2	1.0	4.8	欠損				376 520
e74	円錐形	A139 号竪穴建物 暗褐色土	[32]	2.3	2.0	13.6	欠損			単軸緒条体?	376 520
e75	不明	A97 号竪穴建物 堆積土	5.7	3.1	1.2	13.2	略完形				376 520
e76	不明	A161 号竪穴建物 堆積土	[85]	[89]	2.2	129.5	欠損			尖底土器の底部か	376 520
e77	不明	A218 号竪穴建物 北東区 堆積土	[51]	[57]	2.1	47.3	欠損			大型土器の口縁部か	376 520
e78	不明	II B21l 北西区 III層	[21]	[53]	1.5	30.4	欠損			大型土器の口縁部か	376 520
e79	不明	II B21l 南西区 III層	[38]	[57]	1.8	38.6	欠損			大型土器の口縁部か	376 520
e80	不明	II A 6 x II層	[56]	[44]	1.5	43.3	欠損			外面にタール状の黒色付着物	376 520
e81	不明	A113 号竪穴建物 堆積土	[22]	[30]	[17]	6.4	欠損				376 520
e82	不明	II B 8 a 東トレンチ II a層	2.8	1.3	1.1	3.7	完形				376 520
e83	不明	A170 号竪穴建物 堆積土	[20]	1.9	1.6	4.1	欠損			ナテ+指押え	376 520
e84	不明	II B 6 a 下位暗褐色土	[20]	1.7	1.7	4.6	欠損			原体押圧(RL)	376 520
e85	不明	II B13b 東区 III層	[37]	[45]	1.9	41.6	欠損			ナテ	376 520
e86	ミニチュア土器	A172 号竪穴建物 堆積土	2.6	1.9	1.0	28.9	完形			ナテ/ナテ	377 520
e87	ミニチュア土器	A36 号竪穴建物 北東区 灰褐色土	4.7	6.4	2.2	0.5	完形			ナテ/ナテ	377 520
e88	ミニチュア土器	A37 号竪穴建物 灰褐色土	4.7	(44)	3.3	0.5	完形			ナテ/ナテ	377 520
e89	ミニチュア土器	A40 号竪穴建物 灰褐色土	3.4	3.8	0.4	39.7	略完形			ナテ/ナテ	377 520
e90	ミニチュア土器	A57 号竪穴建物 堆積土	6.7	4.3	0.35	94.6	欠損			隆沈線・橋状突起/ナテ	377 520
e91	ミニチュア土器	A75 号竪穴建物 堆積土	[19]	3.4	0.7	19.4	欠損				377 521
e92	ミニチュア土器	A82 号竪穴建物 北西区 堆積土	[66]	-	4.0	0.5	欠損			LR→沈線/ナテ	377 521
e93	ミニチュア土器	A89 号竪穴建物 東区 堆積土	[18]	4.1	-	0.9	欠損			底面ナテ	377 521
e94	ミニチュア土器	A160 号竪穴建物 茶褐色土	[41]	4.2	0.4	41.1	欠損			ナテ/ナテ	377 521
e95	ミニチュア土器	A170 号竪穴建物 堆積土	6.2	4.0	0.4	83.6	完形			ナテ/ナテ	377 521
e96	ミニチュア土器	A187 号竪穴建物	[49]	4.2	0.4	25.5	欠損			ナテ/ナテ	377 521
e97	ミニチュア土器	A190 号竪穴建物 堆積土	[50]	4.0	0.3	50.6	欠損			LR→隆沈線/ナテ	377 521
e98	ミニチュア土器	A225 号竪穴建物 東西ベルト 2層	7.3	5.6	(4.8)	0.4	完形			2単位波状口縁、底部ナテ	377 521

第26表 土製品観察表 (3)

掲載No.	器種	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅						
e99	ミニチュア土器	123号土坑 堆積土下位	11.0	3.5	105.5	略完形	RL→沈線・磨消→凹形削突	2単位波状口縁、スス	377	521
e100	ミニチュア土器	144号土坑 西壁際 床面直上	9.1	4.8	213.8	略完形	RL/	底部細代車→ナデ	377	521
e101	ミニチュア土器	B21号壁穴建物 堆積土	[14]	-	0.4	欠損	ナデ/	コゲ	377	521
e102	ミニチュア土器	II A 6y II層	[48]	4.8	8.1	欠損	ナデ→隆沈線	内面赤色顔料付着	377	521
e103	ミニチュア土器	II A 7v II a層	[22]	4.3	16.0	欠損	ナデ/ナデ	脚部破片	377	521
e104	ミニチュア土器	II A11w II a層	8.7	5.0	111.2	欠損	RL/	ススコゲ	377	521
e105	ミニチュア土器	II A15s II層	[22]	3.6	25.7	欠損	単軸絡糸体1A類R→沈線	コゲ	377	521
e106	ミニチュア土器	II A15s II層	[15]	3.8	26.1	欠損	ナデ/		377	521
e107	ミニチュア土器	II A20~21u	4.5	(3.2)	30.1	完形	RL→沈線・磨消	小波状口縁	377	521
e108	ミニチュア土器	II B 4・5 a・b 包含層 A 断面南 2b~c層	10.3	5.2	116.3	欠損	ナデ→隆帯	2単位波状口縁だが180°対称ではない、ススコゲ	377	521
e109	ミニチュア土器	II B 4・5 a・b 包含層 A 断面南 2c層、北東区 II a層	9.4	5.2	175.9	略完形	LR・ナデ→隆帯	内外面隆帯、スス	377	521
e110	ミニチュア土器	II B10a 南東区 II a層	[73]	-	30.6	欠損	櫛状工具による沈線		377	521
e111	ミニチュア土器	II B10a 北西区 II b層	5.4	(5.3)	40.3	欠損	ナデ/		377	521
e112	ミニチュア土器	II B10a 東区 II a層下位	[31]	2.6	15.7	欠損	ナデ		378	521
e113	ミニチュア土器	II B13 II a層	-	-	21.7	欠損	RL/		378	521
e114	ミニチュア土器	II B14f II層	[21]	-	14.8	欠損	RL/		378	521
e115	ミニチュア土器	II B14f II層	[36]	-	23.2	欠損	RL/	スス	378	521
e116	ミニチュア土器	II B14g 南西ベルト III層	[15]	3.0	0.4	7.4	ナデ		378	522
e117	ミニチュア土器	II B14g 南西ベルト III層	5.5	4.4	136.5	略完形	ナデ・隆沈線	スス	378	522
e118	ミニチュア土器	II B14h・I III層	10.1	(4.6)	132.2	完形	LR→沈線・磨消	ススコゲ	378	522
e119	ミニチュア土器	II B14h III層	[62]	5.3	115.7	欠損	LR→沈線→削突、櫛状突起	外面隆帯	378	522
e120	ミニチュア土器	II B15f II b層	[67]	(7.3)	125.9	欠損	RL/	4単位波状口縁だが対角のものが直交しない	378	522
e121	ミニチュア土器	II B15g III層	5.5	(7.8)	45.0	欠損	ナデ/		378	522
e122	ミニチュア土器	II B15g II b層	[41]	-	46.2	欠損	ナデ/		378	522
e123	ミニチュア土器	II B15 北区 III層	6.9	3.7	76.1	欠損	LR?→沈線・磨消	胴部に穿孔13個	378	522
e124	ミニチュア土器	II B16g 北東区 II層	[44]	4.2	57.5	欠損	LR→沈線	ススコゲ	378	522
e125	ミニチュア土器	II B16g 東区 III層	2.8	2.2	30.5	完形			378	522
e126	ミニチュア土器	II B16g 北東区 II層	[13]	3.1	10.5	欠損			378	522
e127	ミニチュア土器	II B18c 北東区 II a層	[12]	3.0	13.3	欠損			378	522
e128	ミニチュア土器	II B19f II a層	[15]	3.7	0.4	14.9	LR		378	522
e129	ミニチュア土器	II B20m 低位部 II層	[29]	3.7	26.9	欠損	LR→沈線		378	522
e130	ミニチュア土器	II B21k 南西区 II層	[81]	4.3	74.6	完形	RL/		378	522
e131	ミニチュア土器	II B21 南東区 III層	7.5	4.1	69.5	完形	RLR→隆沈線	2単位波状口縁	378	522
e132	ミニチュア土器	II B21 南西区 II~III層	7.1	3.8	89.9	欠損	ナデ/	4単位波状口縁、変形	378	522
e133	ミニチュア土器	II B21 南西区ベルト	4.2	4.2	45.2	欠損	櫛状工具による上下方向の不規則な細沈線	底部楕円形	378	522
e134	ミニチュア土器	II B22k 南東区 III層	7.5	5.0	168.9	略完形	LR→沈線・磨消	大木10式	378	522
e135	ミニチュア土器	II B22m 南西区 III層	[23]	(1.6)	5.7	欠損	LR?→磨り消し		378	522
e136	ミニチュア土器	II B23 北西区 III層	[11]	3.2	12.4	欠損	RL/		378	522
e137	ミニチュア土器	II B24f 北東区 III層	[27]	3.2	19.8	欠損	ナデ		378	522
e138	ミニチュア土器	Aトレンチ (II A 9y) II a層	7.0	5.5	103.3	欠損	LR/	ススコゲ	378	522
e139	ミニチュア土器	下段田区東端部 I~II層上面	[08]	2.2	4.0	欠損	ナデ		378	522
e140	ミニチュア土器	中央調査区南西 T 5・8間 5層	[45]	4.0	31.2	欠損	RL?→沈線		378	522
e141	ミニチュア土器	中央調査区南西 T 2 黒色土	10.0	4.8	164.1	略完形	RLR→沈線→削突	2単位波状口縁、コゲ	378	522

※1. 計測値欄の[]は残存値、()は復元値を表す
 ※2. 状態欄の完形は完全~9割程度、略完形は7~8割程度、欠損はそれ以下の残存状態を示す

第27表 土器片円盤観察表 (1)

掲載 No.	器種	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	部位	残存	文様・調整	穿孔	側面 加工	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅									
g1	土器片円盤	A1号竪穴建物 3~4層	3.1	0.9	8.2	胴部	完形	LR	○			381	524
g2	土器片円盤	A1号竪穴建物 3~4層	3.1	1.1	13.6	胴部	一部欠	ナテ	○			381	524
g3	土器片円盤	A1号竪穴建物 堆積土中焼土上面	3.9	4.0	1.0	15.6	胴部	完形	LR	○		381	524
g4	土器片円盤	A1号竪穴建物 堆積土中焼土内	4.9	5.0	1.1	23.3	胴部	完形	LR	○		381	524
g5	土器片円盤	A1号竪穴建物 堆積土中焼土内下位	2.9	2.9	0.8	6.9	胴部	完形	LR	○		381	524
g6	土器片円盤	A1号竪穴建物	3.5	3.6	1.1	13.0	胴部	完形	LR	○		381	524
g7	土器片円盤	A1号竪穴建物 5層以下	5.4	5.7	1.2	38.0	胴部	一部欠	RL	○	剥落	381	524
g8	土器片円盤	A1号竪穴建物	3.7	3.9	0.9	13.0	胴部	完形	RL	○	穿孔途中複数	381	524
g9	土器片円盤	A1号竪穴建物 堆積土中焼土より下位	2.5	2.6	0.6	3.8	胴部	欠損	ナテ	○		381	524
g10	土器片円盤	A1号竪穴建物 堆積土中焼土より下位	4.7	2.6	0.9	10.1	胴部	欠損	隆帯+RL	○		381	524
g11	土器片円盤	A9号竪穴建物 ベルト	3.4	3.6	0.9	12.2	胴部	完形	LR	○		381	524
g12	土器片円盤	A19号竪穴建物 堆積土	2.5	2.9	0.8	7.7	胴部	完形	隆沈線	○		381	524
g13	土器片円盤	A27号竪穴建物 灰褐色土	3.2	2.8	1.0	9.6	胴部	完形	ナテ	○	摩耗	381	524
g14	土器片円盤	A28号竪穴建物 3層	3.7	3.7	1.0	17.0	胴部	一部欠	LR?	○		381	524
g15	土器片円盤	A28号竪穴建物 1層	3.6	3.6	0.9	11.7	胴部	完形	LR	○	摩耗	381	524
g16	土器片円盤	A28号竪穴建物 1層	2.4	2.5	0.9	4.8	胴部	完形	LR?	○		381	524
g17	土器片円盤	A33号竪穴建物 1層	3.5	3.4	1.0	12.8	胴部	完形	ナテ	○		381	524
g18	土器片円盤	A36号竪穴建物 南西区 暗褐色土	3.3	3.3	0.8	9.9	胴部	完形	LR	○		381	524
g19	土器片円盤	A36号竪穴建物 南西区 暗褐色土	3.3	3.2	0.6	5.3	胴部	完形	LR	○	平面方形	381	524
g20	土器片円盤	A37号竪穴建物 ベルト 堆積土下位	4.2	3.6	0.8	13.4	胴部	完形	LR	○		381	524
g21	土器片円盤	A38号竪穴建物 北区 堆積土	4.4	3.8	0.7	17.0	胴部	完形	隆沈線+RL	○	摩耗	381	524
g22	土器片円盤	A43号竪穴建物 堆積土上位	2.7	3.5	1.0	13.8	胴部	完形	ナテ	○		381	524
g23	土器片円盤	A44号竪穴建物 堆積土下位	3.3	3.2	0.8	6.0	胴部	欠損	隆沈線	○		381	524
g24	土器片円盤	A47号竪穴建物 灰褐色土	3.7	3.4	0.7	10.6	胴部	一部欠	RL	○		381	524
g25	土器片円盤	A72号竪穴建物 堆積土	3.2	3.2	0.7	8.1	胴部	完形	隆沈線?	○	摩耗	381	524
g26	土器片円盤	A93号竪穴建物 堆積土	3.7	2.9	0.8	9.5	胴部	欠損	LR	○	摩耗	381	524
g27	土器片円盤	A97号竪穴建物 堆積土	3.2	2.9	0.8	8.8	胴部	完形	LR?	○	摩耗	381	524
g28	土器片円盤	A105号竪穴建物 炉 2層	3.3	4.9	1.1	17.9	底部	完形	ナテ	○		381	524
g29	土器片円盤	A110号竪穴建物 堆積土	3.7	3.5	1.0	16.3	胴部	完形	LR	○		381	524
g30	土器片円盤	A111号竪穴建物 堆積土	3.6	3.3	1.0	15.3	胴部	完形	LR	○		381	524
g31	土器片円盤	A113号竪穴建物 堆積土	4.7	4.5	0.8	20.7	底部	完形	ナテ	○		381	524
g32	土器片円盤	A113号竪穴建物 堆積土	3.9	4.1	0.8	15.4	胴部	完形	隆沈線+RL	○		381	524
g33	土器片円盤	A114号竪穴建物 堆積土	3.1	3.2	0.8	8.1	胴部	完形	LR	○		381	524
g34	土器片円盤	A114号竪穴建物 堆積土	4.0	4.3	0.8	15.3	胴部	完形	LR	○	平面方形	381	524
g35	土器片円盤	A116号竪穴建物 南北ベルト 堆積土下位	9.2	5.4	1.1	40.0	胴部	完形	車輪跡条体L	○		382	524
g36	土器片円盤	A117号竪穴建物 東西トレンチ 暗褐色土	3.7	3.6	0.7	10.6	胴部	完形	磨消+LR	○		382	524
g37	土器片円盤	A123号竪穴建物 堆積土中~下位	2.5	2.7	0.9	6.6	底部	完形	ナテ	○		382	524
g38	土器片円盤	A125号竪穴建物 床面直上	4.8	5.7	0.8	27.2	胴部	完形	隆沈線+RL	○		382	524
g39	土器片円盤	A127号竪穴建物 堆積土	3.7	4.0	0.5	11.1	胴部	完形	隆沈線	○		382	524
g40	土器片円盤	A151号竪穴建物	3.3	2.7	0.8	8.2	胴部	完形	RL	○		382	524
g41	土器片円盤	A151号竪穴建物	4.2	3.8	1.1	21.8	胴部	完形	LR	○		382	524
g42	土器片円盤	A153号竪穴建物 黄褐色土	2.6	2.5	1.0	8.2	底部	完形	ナテ	○		382	524
g43	土器片円盤	A157号竪穴建物 堆積土	3.3	2.9	0.7	7.3	胴部	欠損	RL	○	平面三角形	382	524
g44	土器片円盤	A158号竪穴建物 堆積土	3.9	4.0	0.9	16.4	胴部	一部欠	RL	○		382	524
g45	土器片円盤	A162号竪穴建物 堆積土	3.9	4.3	0.7	14.5	胴部	完形	爪形脚突?+RL	○		382	524
g46	土器片円盤	A167号竪穴建物 堆積土	3.4	3.4	0.8	10.9	胴部	完形	LR?	○		382	524
g47	土器片円盤	A201号竪穴建物 堆積土中位	3.9	2.8	1.0	7.3	胴部	欠損	RL	○	剥落	382	524
g48	土器片円盤	A221号竪穴建物 東側トレンチ 堆積土	3.7	3.9	0.9	14.5	胴部	完形	車輪跡条体R	○		382	524
g49	土器片円盤	A231号竪穴建物 東側グリッドベルト 2層	3.4	2.8	0.7	6.0	胴部	欠損	RLR	○	平面方形	382	524
g50	土器片円盤	A231号竪穴建物 東側グリッドベルト 2層	3.0	3.0	0.8	8.5	胴部	完形	隆沈線+RL	○		382	524
g51	土器片円盤	A235号竪穴建物 堆積土	4.3	2.4	0.9	8.7	胴部	欠損	RLR?	○		382	524
g52	土器片円盤	A235号竪穴建物 上面 暗褐色土	3.7	3.3	1.0	14.5	胴部	完形	LR	○		382	524

第27表 土器片円盤観察表(2)

掲載 No.	器種	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	部位	残存	文様・調整	穿孔	側面加工	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅									
g53	土器片円盤	A235号竪穴建物 上面 暗褐色土	4.1	3.9	19.4	胴部	完形	RLR	○	平面方形		382	524
g54	土器片円盤	A235号竪穴建物 上面 暗褐色土	3.8	4.1	12.3	胴部	完形	ナテ	○	磨耗		382	524
g55	土器片円盤	A239号竪穴建物	2.1	4.1	10.7	胴部	欠損	LR	○			382	524
g56	土器片円盤	A251号竪穴建物 和脇	3.6	3.9	13.5	胴部	完形	LR	○	平面方形		382	525
g57	土器片円盤	3号土坑 堆積土中位	2.8	2.7	7.7	胴部	完形	RL	○			382	525
g58	土器片円盤	11号土坑 2層	4.7	4.7	1.0	29.6	一部欠	磨消+LR	○			382	525
g59	土器片円盤	95号土坑 堆積土	3.5	3.1	11.1	15.2	胴部	完形	RL	○	平面方形	382	525
g60	土器片円盤	139号土坑 ベルト 堆積土	2.7	4.7	0.8	14.3	胴部	欠損	○			382	525
g61	土器片円盤	270号土坑	3.8	3.6	0.8	13.0	胴部	完形	○			382	525
g62	土器片円盤	1号盛土修地	3.2	3.7	0.6	8.8	口縁部	車軸跡条体L	○			382	525
g63	土器片円盤	中央調査区南西 T 5-8間 2層	4.0	3.7	0.7	15.1	胴部	完形	ナテ	○	土師器赤彩?	382	528
g64	土器片円盤	B14号竪穴建物 暗褐色土	3.5	3.5	0.8	12.6	胴部	完形	○			382	528
g65	土器片円盤	II A 8 y II層	11.6	11.8	1.2	199.1	胴部	完形	○			383	525
g66	土器片円盤	II A 6 x II層	23.5	27.5	1.2	809.0	胴部	一部欠	○			383	525
g67	土器片円盤	II A 8 w	3.4	3.5	0.8	11.8	胴部	完形	△			383	525
g68	土器片円盤	II A 9 x トレンチ II層	4.3	3.3	0.8	12.2	胴部	欠損	○			383	525
g69	土器片円盤	II A 9 y II a層	3.1	3.1	0.9	10.5	胴部	完形	○			383	525
g70	土器片円盤	II A10 w II層	8.4	9.8	1.0	110.4	胴部	完形	○			383	525
g71	土器片円盤	II A10 x	5.0	5.1	0.6	16.7	胴部	完形	○			383	525
g72	土器片円盤	II A10 x II a層	3.3	3.4	1.0	15.6	胴部	完形	○			383	525
g73	土器片円盤	II A10 x 北区 II a層	4.0	4.0	0.9	18.2	胴部	完形	○			383	525
g74	土器片円盤	II A11 v II a層	5.1	6.8	0.6	23.1	底部	完形	○			383	525
g75	土器片円盤	II A11 w II a層	4.0	3.6	0.7	12.5	胴部	完形	○			383	525
g76	土器片円盤	II A15 x y	4.5	4.1	0.7	19.1	胴部	完形	△			383	525
g77	土器片円盤	II A16 v II a層	4.1	3.6	0.6	9.5	胴部	完形	○	平面方形		383	525
g78	土器片円盤	II A17 v I ~ II層上面	5.0	5.3	0.8	18.2	口縁部	一部欠	○			383	525
g79	土器片円盤	II A17 y I ~ II層上面	5.1	5.1	0.8	24.6	胴部	一部欠	○			383	525
g80	土器片円盤	II A19 x 北区 黒色土	5.1	5.1	1.1	32.4	胴部	完形	○			383	526
g81	土器片円盤	II B 5 b II層	4.8	4.9	1.0	25.3	胴部	欠損	○			384	526
g82	土器片円盤	II B 6 a ベルト③ 下位黒褐色土	4.8	4.7	0.9	21.7	胴部	完形	○			384	526
g83	土器片円盤	II B 6 b (A140号竪穴建物直下) 下位暗褐色土	7.2	7.8	0.8	61.1	胴部	完形	○			384	526
g84	土器片円盤	II B 8 a (A146号竪穴建物直下) 下位暗褐色土	3.4	3.6	0.9	14.9	胴部	完形	○			384	526
g85	土器片円盤	II B 8 a 西トレンチ 下位暗褐色土	7.2	6.4	0.8	47.0	胴部	完形	○			384	526
g86	土器片円盤	II B 8 b 下位赤褐色~黒褐色土	8.3	9.0	1.0	99.2	胴部	完形	○			384	526
g87	土器片円盤	II B 8 b 下位暗褐色土	7.6	7.2	1.1	68.0	胴部	完形	○			384	526
g88	土器片円盤	II B 8 c II a層	5.8	5.7	1.0	37.1	胴部	欠損	○			384	526
g89	土器片円盤	II B10 a II a層	4.7	6.3	0.9	29.9	底部	完形	○			384	526
g90	土器片円盤	II B11 b II a層上位	6.1	5.8	0.9	24.2	胴部	欠損	○			384	526
g91	土器片円盤	II B13 b におい貴褐色土	4.6	4.5	0.9	23.3	胴部	完形	○			384	526
g92	土器片円盤	II B14 d II層	3.7	3.9	0.9	13.9	胴部	完形	○			384	526
g93	土器片円盤	II B14 d II層	3.3	2.8	0.6	7.4	胴部	完形	○			384	526
g94	土器片円盤	II B14 e III層	4.1	4.4	1.0	23.0	胴部	完形	○			384	526
g95	土器片円盤	II B14 e II層	2.2	3.1	0.5	3.3	胴部	一部欠	○			384	526
g96	土器片円盤	II B14 e II層	3.5	4.0	0.7	12.6	胴部	完形	○			384	526
g97	土器片円盤	II B14 f II b層	3.5	3.7	1.0	15.9	胴部	完形	○			384	526
g98	土器片円盤	II B14 g II層	3.1	3.5	1.0	10.6	口縁部	完形	△			384	526
g99	土器片円盤	II B14 h 東区 III層	3.1	2.9	0.8	8.7	胴部	完形	○			384	526
g100	土器片円盤	II B14 i 東区 II b ~ III層	5.0	5.1	0.8	21.2	胴部	完形	○			384	526
g101	土器片円盤	II B14 j 東区 II b ~ III層	3.6	3.3	1.1	15.2	胴部	完形	○			384	526
g102	土器片円盤	II B14 k 東区 赤褐色土	2.8	3.0	1.1	10.6	胴部	完形	○			384	526
g103	土器片円盤	II B14 l 西区 II b ~ III層	3.3	3.5	0.8	11.1	胴部	完形	○			384	526
g104	土器片円盤	II B14 l 西区 III層	3.0	3.0	1.0	9.4	胴部	完形	○			384	526

第27表 土器片円盤観察表(3)

掲載 No.	器種	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	部位	残存	文様・調整	穿孔	側面 加工	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅									
g105	土器片円盤	II B14b 西区 III層	3.8	3.7	14.1	胴部	完形	RL (別の繊維束で縛り止め)	○			384	526
g106	土器片円盤	II B14b 西区 III層	3.1	3.5	9.4	胴部	完形	ナデ	○			385	526
g107	土器片円盤	II B14c II層	4.1	4.1	18.6	胴部	完形	隆沈線+L	○			385	526
g108	土器片円盤	II B15f II b層	2.7	3.1	7.7	胴部	完形	LR	○			385	526
g109	土器片円盤	II B15h 東区 III層	3.6	4.0	13.8	胴部	完形	LR	○			385	526
g110	土器片円盤	II B15h 西区 II b層	3.1	3.0	7.3	胴部	完形	LR	○			385	526
g111	土器片円盤	II B15h 西区 III層	3.7	4.0	15.6	底部	完形	ナデ	○			385	526
g112	土器片円盤	II B15f III層	3.6	3.4	13.0	胴部	一部欠	RL	○			385	526
g113	土器片円盤	II B15j II b層	2.3	1.9	3.9	胴部	完形	ナデ	○			385	526
g114	土器片円盤	II B15j II b層	3.0	3.6	9.2	胴部	完形	隆帯	○			385	526
g115	土器片円盤	II B15k 西区 II b層	3.0	2.7	9.3	胴部	完形	不明	○			385	526
g116	土器片円盤	II B15m 沢内内 黒色・黄褐色砂礫層	3.7	3.6	1.0	胴部	完形	隆沈線+RL	○			385	526
g117	土器片円盤	II B16c II a層	3.2	3.3	6.3	胴部	完形	隆沈線+RL	○			385	526
g118	土器片円盤	II B16d II a層	2.4	2.8	6.0	胴部	完形	隆沈線+RL	○			385	526
g119	土器片円盤	II B16d II a層	3.3	3.6	12.2	胴部	一部欠	隆沈線+RL	○			385	526
g120	土器片円盤	II B16e II a層	3.8	3.7	17.4	胴部	一部欠	RLR?	○			385	526
g121	土器片円盤	II B16e 北西区 II a層	2.7	2.6	8.1	胴部	完形	RLR?	○			385	526
g122	土器片円盤	II B16f II a層	2.8	3.0	8.7	胴部	完形	LR	○			385	526
g123	土器片円盤	II B16g 南東区 II層	3.7	3.0	8.7	胴部	欠損	車軸跡条体R	○			385	527
g124	土器片円盤	II B16h 北区 II層	4.1	4.0	15.5	胴部	完形	隆沈線	○			385	527
g125	土器片円盤	II B16h 北西区 II層	4.5	5.0	22.4	胴部	完形	磨消+LR	○			385	527
g126	土器片円盤	II B16h 西区 II b層	3.1	3.0	8.2	胴部	完形	LR	○			385	527
g127	土器片円盤	II B16i 北東区 II層	3.2	3.1	11.0	胴部	完形	沈線+RL	○			385	527
g128	土器片円盤	II B17c 北西区 II a層	4.1	4.2	20.3	胴部	完形	RL	○			385	527
g129	土器片円盤	II B17c 北西区 II a層	4.0	3.9	21.6	胴部	完形	沈線+RL	○			385	527
g130	土器片円盤	II B17e II a層	5.0	5.0	28.0	胴部	完形	隆沈線+RL	○			385	527
g131	土器片円盤	II B17e 北東区 II層	5.0	5.5	19.7	胴部	欠損	隆沈線+RL	○		平面台形	385	527
g132	土器片円盤	II B17g II層	4.5	4.2	24.9	胴部	完形	RLR?	○			385	527
g133	土器片円盤	II B17k 北東区 II層	3.1	3.3	11.6	胴部	完形	RL	○			385	527
g134	土器片円盤	II B17k 北東区 II層	3.5	3.9	1.1	胴部	完形	RL	○			385	527
g135	土器片円盤	II B17k 南東区 II層	4.2	4.2	15.6	胴部	完形	LR	○			385	527
g136	土器片円盤	II B17k 南西区	3.9	4.1	13.7	胴部	完形	結節LR	○		磨耗	385	527
g137	土器片円盤	II B18a 北東区 II層	5.4	5.4	22.3	口縁部	完形	隆帯+RL	○			385	527
g138	土器片円盤	II B18b 北東区 II層	4.0	4.5	17.1	胴部	一部欠	隆帯+RL	○			385	527
g139	土器片円盤	II B19d 北東区 II層	4.6	4.2	17.1	胴部	欠損	RL	○			385	527
g140	土器片円盤	II B19j	4.7	4.5	17.5	胴部	完形	磨消+LR	○			385	527
g141	土器片円盤	II B20b 南東区 I~II層上面	2.5	2.8	7.4	胴部	完形	RL	○			385	527
g142	土器片円盤	II B20e II a層下位	2.2	2.5	3.6	胴部	完形	RL	○			385	527
g143	土器片円盤	II B20m 低位部 II層	4.1	5.0	1.1	口縁部	完形	隆帯+RL	○			386	527
g144	土器片円盤	II B21f 北東区 III層	3.4	3.7	13.0	胴部	完形	RL	○		平面台形	386	527
g145	土器片円盤	II B21f 北東区 III層	5.7	5.3	28.3	胴部	完形	RL	○			386	527
g146	土器片円盤	II B21j 北東区 III層	5.3	4.9	24.4	胴部	完形	隆沈線+RL	△			386	527
g147	土器片円盤	II B21j 北東区 III層	3.2	3.4	8.9	胴部	完形	車軸跡条体?	○			386	527
g148	土器片円盤	II B21j 北東区 III層	2.6	3.1	6.6	胴部	一部欠	RL	△			386	527
g149	土器片円盤	II B21j 南東区 III層	5.4	5.2	29.1	胴部	完形	車軸跡条体L	○			386	527
g150	土器片円盤	II B21j 南東区 III層	3.5	3.7	11.2	胴部	完形	RL	○			386	527
g151	土器片円盤	II B21k 北東区 III層	5.4	6.0	25.2	胴部	欠損	隆帯+RL	○		平面不整形	386	527
g152	土器片円盤	II B21k 北東区 III層	4.2	4.3	26.4	胴部	欠損	沈線+RL?	○			386	527
g153	土器片円盤	II B21k 北東区 III層	4.7	4.6	19.6	胴部	一部欠	磨消+RL	○			386	527
g154	土器片円盤	II B21k 南東区 III層	3.6	3.7	1.4	胴部	完形	RL	○			386	527
g155	土器片円盤	II B21k 南東区 III層	3.6	3.5	9.3	胴部	完形	隆沈線+RL?	△		平面三角形	386	527
g156	土器片円盤	II B21k 南西区 III層	3.8	4.1	24.9	胴部	完形	LR	○			386	527

第27表 土器片円盤観察表 (4)

掲載 No.	器種	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)			重量 (g)	部位	残存	文様・調整	穿孔	側面加工	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅	厚									
g157	土器片円盤	II B21k 南西区 III層	39	39	1.1	17.4	胴部	完形	沈澱 + 車軸絡糸体 R	○		386	527	
g158	土器片円盤	II B21k 南西区 III層	2.4	2.8	0.7	5.2	口縁部	完形	沈澱	△	×	386	527	
g159	土器片円盤	II B21 北西区 II層	3.8	3.0	0.6	9.4	口縁部	完形	RL	○		386	527	
g160	土器片円盤	II B21I (LE12) II層	4.4	3.9	1.0	19.6	胴部	一部欠	RL	△		386	527	
g161	土器片円盤	II B21I (LE12) 2層	4.7	4.9	0.9	20.5	胴部	完形	隆沈澱 + 車軸絡糸体 L	○		386	528	
g162	土器片円盤	II B21I (LE12) 4層	5.5	5.2	0.9	28.1	胴部	完形	磨消 + RL	×		386	528	
g163	土器片円盤	II B21I (LE12) 4層	3.5	4.4	0.7	11.5	底部	完形	ナデ	△	×	386	528	
g164	土器片円盤	II B21・22 I (LE13) 1層	4.6	5.0	1.0	27.8	胴部	完形	RL	○		386	528	
g165	土器片円盤	II B21・22 I (LE13) 1層	3.2	2.7	0.8	5.8	胴部	欠損	沈澱 + RL	○	×	386	528	
g166	土器片円盤	II B21・22 I (LE13) 1層	2.4	3.0	0.4	3.3	胴部	完形	RL	○		386	528	
g167	土器片円盤	II B22k 北東区 II層	4.0	3.3	0.6	8.6	胴部	完形	隆帯剥落	×		386	527	
g168	土器片円盤	II B22k 北東区 II層	2.2	2.1	0.6	2.7	胴部	完形	沈澱	○	○	386	527	
g169	土器片円盤	II B22k 北東区 西ベルト	6.7	6.4	0.9	40.5	胴部	完形	RL	○		386	527	
g170	土器片円盤	II B22k 南東区 III層	4.0	3.2	0.8	7.6	胴部	完形	磨消 + RL	○		386	527	
g171	土器片円盤	II B22k 南東区 III層	3.5	3.5	0.8	10.0	胴部	完形	LR	○		386	528	
g172	土器片円盤	II B22k 南東区 III層	3.5	3.3	0.6	7.1	胴部	完形	車軸絡糸体 R	×		386	528	
g173	土器片円盤	II B22k 南東区 III層	4.3	4.3	1.1	23.6	胴部	完形	RL	○		386	528	
g174	土器片円盤	II B22 北東区 II層	4.3	4.4	0.7	15.5	胴部	欠損	磨消 + RL	○		387	528	
g175	土器片円盤	II B22 北東区 II層	2.6	2.7	0.8	6.4	胴部	一部欠	RL	○		387	528	
g176	土器片円盤	II B22 北西区 III層	5.4	4.2	1.1	26.8	胴部	完形	隆帯 + RL	△		387	528	
g177	土器片円盤	II B22 北西区 II層	2.7	2.8	0.5	4.1	胴部	完形	RL	△		387	528	
g178	土器片円盤	II B22 北西区 II層	3.7	4.0	0.8	13.9	胴部	完形	磨消 + RL	○		387	528	
g179	土器片円盤	II B22 南東区 III層	2.4	2.1	0.7	3.9	胴部	欠損	RL	○		387	528	
g180	土器片円盤	II B22 南西区 III層	3.1	3.2	0.5	5.5	胴部	完形	R?	○		387	528	
g181	土器片円盤	II B22m 北西区 III層	2.7	3.0	0.9	8.8	胴部	完形	RL	○		387	528	
g182	土器片円盤	II B23 北東区 III層	3.5	4.0	0.9	14.9	胴部	欠損	RL	×		387	528	
g183	土器片円盤	II B23k 北東区 III層	2.1	2.6	0.5	3.7	口縁部	完形	沈澱 + LR?	○		387	528	
g184	土器片円盤	II B23k 北東区 西ベルト	3.8	4.5	1.6	31.3	胴部	一部欠	LR	○		387	528	
g185	土器片円盤	II B23k 北東区 III層	1.9	2.1	0.6	2.5	胴部	一部欠	車軸絡糸体?	○		387	528	
g186	土器片円盤	II B23k 北西区 III層	2.2	2.1	0.6	3.1	胴部	完形	隆帯 + RL	○	×	387	528	
g187	土器片円盤	II B23k 北西区 III層	2.4	2.9	1.0	8.6	胴部	完形	RL	○		387	528	
g188	土器片円盤	II B23k 南東区 III層	5.3	4.7	0.7	26.0	胴部	一部欠	沈澱 + RL	○		387	528	
g189	土器片円盤	II B23 北西区 西ベルト	4.5	5.4	1.1	27.0	胴部	完形	隆帯 + L	△		387	528	
g190	土器片円盤	II B24 南東区 II層	5.1	5.0	0.9	28.6	胴部	完形	法線 + 車軸絡糸体 L	○		387	528	
g191	土器片円盤	II B24 南東区 II層	3.4	3.5	0.9	9.5	胴部	一部欠	法線 + RL	○		387	528	
g192	土器片円盤	II B24k 北東区 III層	3.4	3.1	1.3	12.8	胴部	一部欠	LR	○		387	528	
g193	土器片円盤	II B24k 南東区 III層	3.9	4.2	0.9	19.4	胴部	完形	LR	○		387	528	
g194	土器片円盤	II B24 南西区 II層	2.7	2.9	0.8	6.0	胴部	完形	ナデ	○		387	528	
g195	土器片円盤	B トレンチ (II B 9b) II a層	2.5	2.3	0.7	5.7	胴部	完形	車軸絡糸体 R	○		387	528	
g196	土器片円盤	T13	2.6	2.5	0.6	4.3	胴部	完形	LR? → 隆沈澱	○		387	528	
g197	土器片円盤	T18	4.8	4.4	1.1	30.6	胴部	一部欠	LR	○		387	528	
g198	土器片円盤	上段田区 東端部 I ~ II層上面	4.4	4.0	0.8	18.6	胴部	完形	車軸絡糸体 R	○		387	528	
g199	土器片円盤	中段田区 II層	3.6	4.3	0.8	16.3	胴部	一部欠	RL	△		387	528	
g200	土器片円盤	中段田区 II層	3.7	3.8	0.9	15.2	胴部	完形	LR	×		387	528	
g201	土器片円盤	下段田区 III ~ IV層上面	2.6	2.7	0.8	6.6	胴部	完形	LR	○		387	528	
g202	土器片円盤	下段田区 東端部 I ~ II層上面	4.4	4.7	1.0	25.3	胴部	完形	車軸絡糸体 1A 類	○		387	528	
g203	土器片円盤	下段田区 東端部 I ~ II層上面	5.4	5.1	1.1	28.2	胴部	完形	隆沈澱 + RL	○		387	528	
g204	土器片円盤	中央緩斜面 I ~ II層上面	3.3	3.5	0.9	13.7	胴部	完形	LR	△		387	528	
g205	土器片円盤	中央調査区 南西端 II層	5.3	4.5	1.1	27.2	底部	完形	網代痕	○		387	528	
g206	土器片円盤	西端区 11区 II層	3.4	4.1	0.6	8.0	口縁部	一部欠	磨消 + RL	○		387	528	

※1.穿孔欄の「○」は貫通しているもの、「△」は未貫通のもの
 ※2.側面加工欄の「◎」は加工範囲50%以上、「○」は50%以下、「×」は加工無しを示す

第28表 台形土器観察表

掲載 No.	器種	分類	遺構・地点・層位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	穿孔	備考	図版 No.	写真 No.
				器高	口径	厚						
1	台形土器	3	A44号竪穴建物 ベルト南側 堆積土下位	-	-	-	51.4		スス	379	523	
2	台形土器	3	A44号竪穴建物 灰褐色土	-	-	1.8	132.3	RL/ナテ	スス	379	523	
3	台形土器	2	A116号竪穴建物 堆積土上位	-	-	0.7	114.5	ミガキ/ミガキ	スス	379	523	
4	台形土器	2	A132号竪穴建物 4層	7.1	14.5	16.2	803.3	ナテ/ナテ	○	379	523	
5	台形土器	4	A235号竪穴建物 堆積土上位	-	-	-	136.2	RL2/ナテ	スス	379	523	
6	台形土器	1	II A 9x II a層	[2.3]	-	[4.1]	0.7	ナテ/ナテ	○	379	523	
7	台形土器	2	II A19a II層	-	-	-	228.4	ナテ/ナテ		379	523	
8	台形土器	2	II B 6b 西区 II b層	6.1	-	(20.4)	-	ミガキ/ミガキ	○	379	523	
9	台形土器	3	II B13b II a層	-	-	-	153.6	RL/ナテ		379	523	
10	台形土器	1	II B15b 西区 II b層	-	-	-	71.6	ナテ/ナテ	○	379	523	
11	台形土器	2	II B21 北東区 III層	-	-	-	71.7	ナテ/ナテ	○	379	523	
12	台形土器	1	II B21 北東区 III層	-	-	-	53.7	ナテ/ナテ	○	379	523	
13	台形土器	1	II B21k 北東区 III層	-	-	-	64.6	RL/ナテ	○	379	523	
14	台形土器	1	II B22k 南東区 北バルト	5.8	6.8	(10.8)	1.0	RL?→隆沈線/ナテ	○	380	523	
15	台形土器	3	II B22k 北東区 III層	-	-	-	2.5	LR/ナテ		380	523	
16	台形土器	不明	II B22 北東区 III層	-	-	-	15.0	ナテ/ナテ		380	523	
17	台形土器	1	II B22 北東区 III層	-	-	-	62.6	RL/ナテ		380	523	
18	台形土器	1	II B24 南東区 III層	-	-	-	80.2	ナテ/ナテ	○	380	523	
19	台形土器	1	II B24 南東区 III層	-	-	-	125.7	ナテ/ナテ	○	380	523	
20	台形土器	1	II B24 南東区 III層	-	-	-	41.0	ナテ/ナテ	○	380	523	
21	台形土器	2	II B21・22 I (LE13) 3層	5.8	(14.0)	(16.0)	1.1	ナテ・ミガキ/ナテ	○	380	523	
22	台形土器	2	II A20y 北東区 II b層	[4.9]	-	11.8	1.2	ナテ→沈線・磨消/	ススコケ	380	523	

※計測値のうち厚さは全部を計測

第29表 金属製品観察表

掲載 No.	器種	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)			重量 (g)	文様・調整 (外面/内面)	穿孔	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅	厚						
11	刀子	B4号竪穴建物 堆積土上位	15.2	1.0	0.4			破片3点、両角圓	388	529	
12	刀子	B4号竪穴建物 堆積土	[5.0]	1.0	0.3			柄部破片	388	529	
13	鈔幣金具	B8号竪穴建物 床面直上 鉄製品 No. 1	[3.0]	[3.0]	0.2			悉方、布? (繊維質) 付着	388	529	
14	刀子?	B8号竪穴建物 床面直上 鉄製品 No. 2	[3.8]	0.6	0.2				388	529	
15	刀子	B8号竪穴建物 床面直上 T-2	[9.4]	1.1	0.35			鉋め片圓	388	529	
16	馬具	B8号竪穴建物 南東区 堆積土上位	12.0	0.9 ~ 3.7	0.8			引手	388	529	
17	鏃	B8号竪穴建物 床面直上 T-2	11.8	1.0	0.4 ~ 0.8			柄部の木質炭化	388	529	
18	鏃	B8号竪穴建物 床面直上 T-2	12.2	1.0	0.4 ~ 0.6			柄部の木質炭化	388	529	
19	刀子	B8号竪穴建物 床面直上 T-2	[8.8]	1.2	0.5			柄部の木質炭化、鉋め片圓	388	529	
110	鈎	B9号竪穴建物 床面直上 鉄製品 No. 1	12.6	7.5	0.45 ~ 0.9				388	529	
111	刀子	B9号竪穴建物 北東区 床面直上	[5.7]	1.2	0.3			刃部破片	388	529	
112	刀子	B9号竪穴建物 PV5 堆積土	[9.2]	1.5	0.3			刃部破片	388	529	
113	馬具	B15号竪穴建物 北東区 床面直上	8.7	2.5	0.2 ~ 0.7			木芯金属張三角維形蓋蓋の甲金具	388	529	
114	不明	B20号竪穴建物 堆積土	10.4	1.85	1.5				389	529	
115	釘?	4号溝 堆積土上位	[8.2]	1.0	0.35				389	529	
116	鏃	出土地点不明	[14.0]	2.8	0.3			先端部欠損	389	529	
117	釘?	II A13s III層	[2.9]	[3.1]	0.5				389	529	
118	布釘	中央緩斜面 1 ~ II層上面	10.6	1.0	0.4				389	529	
119	鏃	II B15k	[2.8]	[5.8]	0.2			口縁部付近	389	529	
120	煙管	II A 9x II b ~ III層	4.5	1.1	0.8				389	529	
121	銭貨	II B21k	2.2	2.0	0.2			寛永通宝	389	530	
122	銭貨	II B23k 北東区 III層	2.4	2.4	0.2			寛永通宝	389	530	
123	銭貨	中段田区 II a層	[1.9]	[1.4]	0.2			寛永通宝、1/2次損	389	530	
124	銭貨	中段田区	2.3	2.2	0.2			洪武通宝 (初脚年1368年)	389	530	

※計測値欄の[]は残存値を表す

第30表 鉄生産関連遺物観察表

掲載 No.	器種	分類	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)			重量 (g)	備考	図版 No.	写真 No.	登録 No.
				長	口径	内径					
j1	羽口	-	B5号竪穴建物 カマド支脚	[12.1]	8.3	3.3	5796		389	530	M40
j2	羽口	-	B8号竪穴建物 カマド	15.1	5.4	3.7	6690		389	530	M1
j3	羽口	-	B9号竪穴建物 カマド支脚	[10.5]	8.7	3.2	4276		389	530	M42
j4	羽口	-	B9号竪穴建物 土坑Ⅰ 堆積土	[9.0]	6.3	3.3	6699		390	530	M2
j5	羽口	-	4号溝 堆積土	[16.5]	-	(3.8)	9434		390	530	M13
j6	羽口	-	4号溝 堆積土	[17.0]	12.8	3.8	9588		390	530	M14
j7	羽口	-	II A 7 w I ~ II層上面	[11.5]	-	3.4	7167	焼成不良、軟質	390	530	M3
j8	羽口	-	II B 9 h I層	[4.6]	(5.2)	(2.5)	1.8	40.6	390	530	M6
j9	羽口	-	II B11 ~ 13 I ~ n I ~ II層上面	[11.1]	10.4	4.1	2.4	6995	390	530	M41
j10	羽口	-	II B15m 沢跡内 黒色・黄褐色砂礫層	[5.1]	-	2.2	58.3		390	530	M7
j11	羽口	-	II B15m 沢跡内 黒色・黄褐色砂礫層	[4.1]	-	(3.1)	2.0	26.7	390	530	M8
j12	羽口	-	中段田区 II層	[9.6]	-	(3.0)	2.2	63.6	390	530	M4
j13	羽口	-	中段田区 東区 遺物集中	[7.3]	-	(3.3)	(2.5)	136.7	390	530	M5
j14	鉄滓	1	B4号竪穴建物 床面直上	-	-	-	-	1071.7	-	530	M18
j15	鉄滓	2	B4号竪穴建物 床面直上	-	-	-	-	502.6	-	530	M19
j16	鉄滓	2	B7号竪穴建物 カマド 堆積土一括	-	-	-	-	19.2	-	531	M20
j17	鉄滓	2	B7号竪穴建物 北区 堆積土上位	-	-	-	-	602.5	-	531	M21
j18	鉄滓	2	B3号竪穴建物 堆積土	-	-	-	-	99.8	-	531	M22
j19	鉄滓	1	B14号竪穴建物 北東区 堆積土一括	-	-	-	-	20.6	-	531	M23
j20	鉄滓	2	B14号竪穴建物 北西区 堆積土一括	-	-	-	-	446.3	-	531	M24
j21	鉄滓	2	B19号竪穴建物 堆積土	-	-	-	-	40.4	-	531	M25
j22	鉄滓	3	B19号竪穴建物 堆積土	-	-	-	-	55.4	-	531	M26
j23	鉄滓	1	B20号竪穴建物 堆積土	-	-	-	-	60.5	-	531	M27
j24	鉄滓	2	B20号竪穴建物 堆積土	-	-	-	-	26.6	-	531	M28
j25	鉄滓	2	B20号竪穴建物 堆積土	-	-	-	-	212.2	-	531	M29
j26	鉄滓	1	1号土坑	-	-	-	-	123.3	-	531	M30
j27	鉄滓	1	92号土坑 西区 堆積土一括	-	-	-	-	172.6	-	531	M31
j28	鉄滓	2	4号溝	-	-	-	-	482.6	-	531	M33
j29	鉄滓	2	4号溝	-	-	-	-	411.2	-	531	M34
j30	鉄滓	1	4号溝	-	-	-	-	397.2	-	531	M35
j31	鉄滓	1	4号溝	-	-	-	-	178.1	試料 No. 3 (第VI章第8節)	531	M36
j32	鉄滓	1	4号溝	-	-	-	-	826.8	-	531	M37
j33	鉄滓	2	4号溝	-	-	-	-	466.3	試料 No. 4 (第VI章第8節)	531	M38
j34	鉄滓	2	11号溝	-	-	-	-	471.8	-	532	M32
j35	炉壁	-	4号溝 東区 堆積土	-	-	-	-	221.4	-	532	M11
j36	炉壁	-	4号溝 東区 堆積土	-	-	-	-	132.1	-	532	M12
j37	炉壁	-	4号溝 堆積土	-	-	-	-	249.0	-	532	M15
j38	炉壁	-	4号溝 堆積土	-	-	-	-	191.3	-	532	M16
j39	炉壁	-	4号溝 堆積土	-	-	-	-	172.9	-	532	M17
j40	炉壁	-	4号溝	-	-	-	-	181.7	-	532	M39

第31表 土製支脚観察表

掲載 No.	器種	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	外面調整	備考	図版 No.	写真 No.	登録 No.
			長	径						
h1	土製支脚	B 3号竪穴建物 カマド支脚	17.8	6.7	850.2	指ナゲ		380	529	G1
h2	土製支脚	II B14e III層	[3.8]	-	36.1	指ナゲ		380	529	G2

第32表 陶磁器・ガラス製品観察表

掲載 No.	器種	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	残存部位	産地	釉薬	備考	図版 No.	写真 No.	登録 No.
			長 (器高)	幅 (底径)								
k1	灰釉陶器 碗	II B22 北東区 III層	[2.4]	8.6	34.9	底部	猿投	灰釉	黒笹 90号窯式古段階	391	-	C1
k2	陶器 片口鉢	中段田区 II層	-	-	50.5	口縁部	常骨	無釉	12世紀代	391	-	C2
k3	陶器 片口鉢	B19号竈穴建物 堆積土	-	-	27.5	体部	常骨	無釉	12世紀代	391	-	C25
k4	陶器 甕?	II A10x I層	-	-	3.3	体部	中国	青磁		391	-	C26
k5	陶器 碗	1号土坑	[2.0]	3.8	35.3	底部	大堀相馬	灰釉		391	-	C5
k6	陶器 碗	中央緩斜面 I層	-	-	5.4	体部	瀬戸	灰釉	刷毛目碗	391	-	C20
k7	陶器 腰筒	II B21k 北東区 I層	[3.8]	-	26.3	口縁部	瀬戸	鉄釉+灰釉	口径 (9.4) cm	391	-	C12
k8	陶器 腰筒	下段田区 東端 I層	-	-	4.6	口縁部	瀬戸	鉄釉+灰釉		391	-	C17
k9	陶器 腰筒	2号竈地遺構 堆積土上位	-	(3.8)	0.55	体~底部	大堀相馬	鉄釉+灰釉		391	-	C7・8
k10	陶器 腰筒	1号土坑付近 I層	[3.7]	4.4	0.45	体部~底部	大堀相馬	鉄釉+灰釉		391	-	C18
k11	陶器 筒形碗	出土地点不明	-	-	4.5	口縁部	瀬戸	鉄釉+灰釉		391	-	C21
k12	磁器 碗	II B21i 南東区 取り上げ No.P01	4.3	4.3	0.55	口縁~底部	肥前	透明釉	口径 11.1cm, 大堀Y期	391	-	C13
k13	磁器 碗	中段田区 東端	[4.3]	-	0.45	口縁部	肥前	透明釉	口径 (10.3) cm, 草花文	391	-	C15
k14	磁器 皿	1号土坑	-	-	0.75	体部	肥前	透明釉	草花文	391	-	C6
k15	磁器 碗	II A21x	[2.7]	(5.0)	0.3	底部	肥前	透明釉	二重網目文 大堀Y期	391	-	C10
k16	磁器 皿	II A10w・x II b層	2.5	6.6	16.6	口縁~底部	肥前	透明釉	口径 12.0cm, 福寿+草花文	392	-	C9
k17	陶器 甕	1号土坑	[11.6]	-	0.6	口縁~体部	不明	和釉	口径 19.0cm	392	-	C3
k18	陶器 甕	中央調査区 西端 I層	-	-	1.25	体部	不明	鉄釉		392	-	C19
k19	陶器 摺鉢	II B21j 北東区 III層	-	-	0.7	口縁部	不明	無釉		392	-	C11
k20	陶器 鉢	1号土坑	-	-	0.6	口縁部	不明	灰釉		392	-	C4
k21	陶器 香炉	中段田区 東端	-	-	30.5	体部	瀬戸	緑釉	竹筒状	392	-	C16
k22	陶器 風炉?	T18	-	-	1.27	不明	相馬?	灰釉	穿孔5箇所	392	-	C14
k23	ガラス 瓶	T18	12.3	5.0	0.5	完形	不明		口径 2.3cm, ヲズラ群の瓶	392	-	C23
k24	ガラス 瓶	T18	6.9	3.0	0.5	完形	不明		口径 3.1cm, ヲズルトの瓶	392	-	C22
k25	ガラス 不明	中央緩斜面 I層	4.4	4.2	1.0	完形	不明		おはじき 「神風」	392	-	C24

報告書抄録

ふりがな	まぎど1いせきはつくつちょうさほうこくしよ							
書名	間木戸 I 遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 723 集							
編著者名	村田 淳・村上 拓・北村忠昭・北田 勲・佐藤あゆみ・中村隼人・高橋静歩・酒井野々子							
編集機関	(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡第 11 地割 185 番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2021 年 3 月 12 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
まぎど 間木戸 I 遺跡	いわてけんしもへい 岩手県下閉伊 ぐんやまだ まちやまだ 郡山田町山田 第 3 地割ほか	03482	LG94- 0005	39度 29分 00秒	141度 57分 09秒	2013.11.05 ～ 2013.11.28	1,600㎡	三陸沿岸道 路建設事業 (各年度の 調査範囲は 重複部分を 含み、総調 査面積は 9,800㎡)
						2014.04.08 ～ 2014.12.19		
						2015.04.17 ～ 2015.08.07	2,140㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
間木戸 I 遺跡	狩猟場 集落 生産遺跡	縄文	竪穴建物 253 軒 土坑 294 基 炉 23 基、焼土 18 基 溝 10 条 配石遺構 1 箇所 土器埋設遺構 7 基 遺物包含層 2 箇所	土器(早期後葉～後期前葉) 石器(鏃・錐・匙・石斧・ 敲磨器類等) 石製品(垂飾具・三角罫形・ 石棒石刀類等) 土製品(板状土偶・三角罫 形・ミニチュア土器等) 台形土器、土器片円盤、動 物遺存体		板状土偶は前期 末～中期初頭		
		古代	竪穴建物 23 軒 土坑 5 基 鉄生産関連炉 1 基 溝 3 条	土師器・須恵器 灰釉陶器、常滑窯産陶器 金属製品(銚帯金具・馬具・ 鏃・刀子・鈎等)		灰釉陶器は 9 世 紀、常滑窯産陶器 は 12 世紀代		
		近世以降 ・時期不明	土坑 13 基、焼土 1 基 溝 6 条、整地 3 箇所 性格不明遺構 1 基 柱穴 2805 個	陶磁器 鉄生産関連遺物 金属製品(釘・鍋・煙管) 銭貨				
要約	<p>間木戸 I 遺跡は、山田湾に向かって南東方向に張り出した丘陵尾根の先端部に立地する縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。縄文時代の竪穴建物は前期末葉～中期末葉に属し、尾根頂部を除いて同一地点で繰り返し建てられており重複が著しい。土坑は貯蔵穴が多数を占め、尾根の南側斜面に集中して掘削されている。遺物は遺構内・外共に多量に出土しており、前期末～中期後葉のものが主体となる。古代の遺構は平安時代前半のものが主体で、尾根頂部及び北端区に分布する。遺物は主に竪穴建物から出土しており、銅製銚帯金具(巡方)や馬具(引手・鍔吊金具)等が出土している。近世の遺構では排滓場として使用された溝などがあり、炉は検出されていないが鉄滓を主体とする鉄生産関連遺物が多量に出土している。</p>							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 723 集

間木戸 I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査
(第 1 分冊 本文・遺構図版・自然科学分析・総括編)

印刷 令和 3 年 3 月 1 日

発行 令和 3 年 3 月 12 日

編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地
電話 (019) 638-9001

発行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
〒 027-0029 岩手県宮古市藤の川町 4 番 1 号
電話 (0193) 62-1711

(公財)岩手県文化振興事業団
〒 020-0023 岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号
電話 (019) 654-2235

印刷 (株)杜陵印刷
〒 020-0122 岩手県盛岡市みたけ二丁目 22 番地 50 号
電話 (019) 641-8000

